森原下ノ原遺跡
１～３区

２．縄文～古墳時代編

2022

島根県教育委員会

森原下ノ原遺跡

１～３区

２．縄文～古墳時代編

2022

島根県教育委員会

1　令和２年度調査２区遠景（南東から）

2　令和２年度調査２区完掘状況（南東から）

1　遺構 1277 竪穴建物？粘土被覆合わせ口土器調査状況（西から）

2　土器溜 3 検出状況（西から）

1　遺構 2199 竪穴建物出土の外来系土器

2　弥生～古墳時代の焼粘土塊

1　弥生時代後期の被熱痕をもつ台石

2　縄文時代後期包含層（11 層）出土の磨製石斧製作関連遺物

序

本書は、島根県教育委員会が国土交通省中国地方整備局浜田河川国道事務所から委託を受けて、令和元（2019）年度から令和２（2020）年度に実施した一級河川江の川直轄河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果の一部をまとめたものです。

本書で報告する森原下ノ原遺跡では、縄文時代から現代までの膨大な遺構・遺物が発見され、5,000 年以上にわたる人々の生活の様子が明らかとなりました。

調査では縄文時代から古墳時代にかけての集落が見つかり、同じ場所で長期にわたって生活が続けられてきたことがわかりました。縄文時代から弥生時代初めにかけては、遺跡近くで採集できる石材を使って斧を製作していたことが明らかとなり、当時の社会を考える上で重要な発見といえます。また、弥生時代のガラス玉や古墳時代の絵画土器などの貴重な品も出土し、交易や祭祀の場所として重要な場所であったこともわかりました。本書が、この地域の歴史を解明していくための基礎資料として広く活用されることを願っております。

最後になりましたが、発掘調査および本書の作成にあたりご協力をいただきました江津市、森原地区の方々、国土交通省中国地方整備局浜田河川国道事務所並びに関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

令和４年７月

島根県教育委員会

教育長　野津　建二

例　言

1．本書は国土交通省中国地方整備局浜田河川国道事務所から委託を受けて、島根県教育委員会が令和元年度から同２年度にかけて実施した一級河川江の川直轄河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果のうち、森原下ノ原遺跡１～３区の縄文時代から古墳時代までの遺構、縄文時代から弥生時代前期までの遺物包含層についてとりまとめたものである。なお、古代から近世までの遺構、弥生時代中期以降の遺物包含層については、『森原下ノ原遺跡１～３区 1. 古代～近世編』で報告している。

2．本報告書の発掘調査対象遺跡および事業年度は下記のとおりである。

令和元年度　発掘調査　森原下ノ原遺跡１・３区（江津市松川町八神（やかみ）247 外）3,600㎡

令和２年度　発掘調査　森原下ノ原遺跡１・２区（江津市松川町八神 249 外）2,580㎡

整理等作業　森原下ノ原遺跡１区

令和３年度　整理等作業・報告書作成　森原下ノ原遺跡１～３区

3．発掘調査は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターが実施し、１区を東森晋、２区を真木大空、３区を宮本正保・真木が担当した。

4．発掘調査作業（安全管理、発掘作業員の雇用、機械による掘削、測量など）については、次の機関に委託した。

令和元年度　株式会社堀工務店（大田市波根町）

令和２年度　大畑建設株式会社（益田市大谷町）

5．発掘調査および報告書作成にあたっては、次の方々から御指導をいただいた。（五十音順、肩書は当時）

岩本　崇（島根大学法文学部准教授）、会下和宏（島根大学総合博物館教授）、高野紗奈江（京都大学文学研究科非常勤講師）、田中義昭（元島根県文化財保護審議会委員）、田畑直彦（山口大学埋蔵文化財資料館助教授）、千葉　豊（京都大学文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センター准教授）、中村唯史（島根県立三瓶自然館企画情報課調整監）、幡中光輔（出雲市文化財課主事）

6．発掘調査および報告書作成に際しては、次の方々、関係機関から御協力、御助言をいただいた（順不同、肩書は当時）。

佐藤由紀男（岩手大学教育学部教授）、平郡達哉（島根大学法文学部准教授）、矢野健一（立命館大学文学部教授）、持田直人（江津市教育委員会社会教育課主事）、川上昭一（松江市まちづくり文化財課埋蔵文化財調査室長）、永野智朗（同学芸員）、濵田竜彦（鳥取県とっとり弥生の王国推進課課長補佐）、森岡秀人（関西大学非常勤講師）、松田順一郎（同非常勤講師）、松平地域コミュニティ交流センター、江津市建設政策課

7．本調査にともなう自然科学分析は、次の方々、機関に委託または依頼し、その成果は第４章に掲載する。

鍛冶関連遺物分析　日鉄テクノロジー株式会社九州事業所

鉄製品 X 線 CT 撮影　島根県産業技術センター

ガラス玉分析　独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所

残存デンプン粒分析　株式会社パレオ・ラボ

8．出土鉄器の保存処理は次の機関に委託した。

令和元・２年度　（一財）大阪市文化財協会

9．本書に掲載した遺構の写真は東森・真木・柳浦俊一・松山智弘が撮影し、遺物の写真は真木・林健亮・今福拓哉が撮影した。また、掲載した遺構図・遺物実測図の作成・浄書は、各調査員などがおこなったほか、遺物の分類・鑑定などは埋蔵文化財調査センター職員の協力を得た。

10. 本書の執筆は第３章第３節４～７、第５章第２節の縄文時代の遺物については柳浦と真木、第４章は各分析者、その他の部分は真木がおこない、第４章については文頭に執筆者を明記した。編集は真木が担当した。

11. 本書に掲載した遺物および実測図・写真などの資料は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センター（島根県松江市打出町 33 番地）にて保管している。

12. 本書の編集にあたっては、DTP 方式を採用した。

凡　例

１．本書で示す方位は、座標北を使用し、座標値は世界測地系（平面直角座標第Ⅲ系）にもとづく。

２．本書で示す標高値はメートル表記である。標高値は東京湾平均海面（T.P.）値を使用した。

３．本書で使用した第３・４・９図は国土交通省浜田河川国道事務所が作成した計画平面図 1/1,000、第５図は国土調査５万分の１都道府県土地分類基本調査地形分類図（温泉津、江津・浜田、川本・大朝）を、第８図は国土地理院の 1/25,000 地図（江津、浅利、都野津、川戸）を使用して作成したものである。

４．本書に記載する土層は『新版　標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所　色票監修）にしたがって記載した。

５．本書で使用した挿図の縮尺は基本的に以下の縮尺としている。

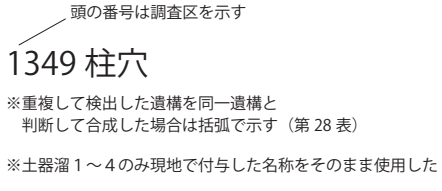
遺構配置図　1/200・1/250・1/500

遺構実測図　建物：1/60・1/80、土坑：1/30、ピット：1/30

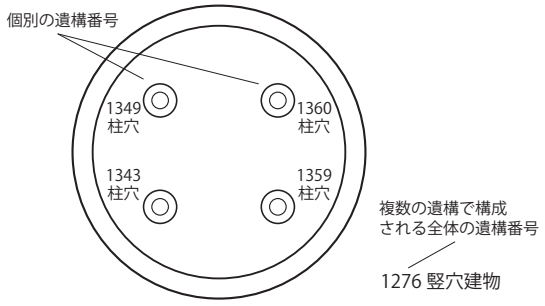
遺物実測図　土器：1/3・1/4、土製品：1/3、石器：1/1・1/3・1/6、玉類：1/1、
金属器：1/2

６．本書で示した遺構番号は、現地で付与したものを基本的に使用し、以下のように表記する。

《遺構の表記方法》



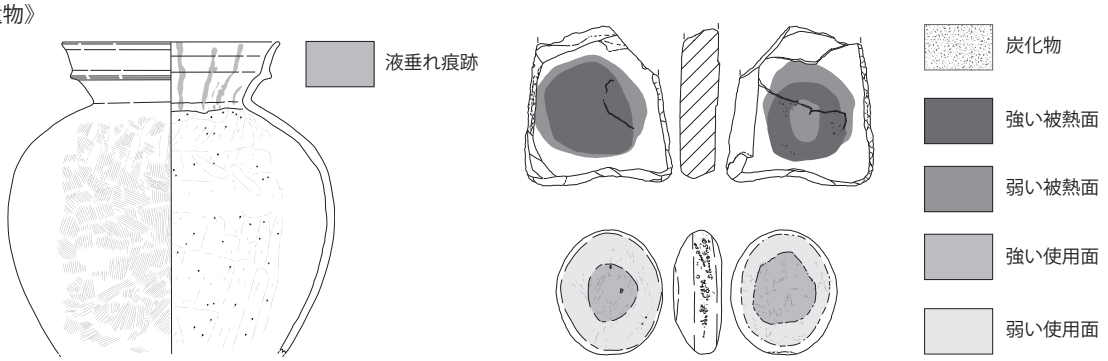
《竪穴建物などの表記方法》



7．本書で使用した遺構・遺物の表現は下記のとおり。

《遺構》

《遺物》



8．本書で用いた土器の分類および編年は、下記の論文・報告書に依拠している。

（1）縄文土器

小林達雄編　『総覧縄文土器』　アム・プロモーション　2008

柳浦俊一　「山陰における縄文後期土器の概要」『山陰地方における縄文文化の研究』雄山閣　2017

柳浦俊一　「島根県中・東部の突帯文土器－古屋敷遺跡を中心に－」『山陰弥生文化の形成過程』島根県古代文化センター研究論集第 25 集　島根県古代文化センター　2021

（2）弥生土器

松本岩雄　「出雲・隠岐地域」『弥生土器の様式と編年』山陽・山陰編　木耳社　1992a

松本岩雄　「石見地域」『弥生土器の様式と編年』山陽・山陰編　木耳社　1992b

（3）土師器

東山信治　「益田平野の古墳時代の土器について」『久城東遺跡・若葉台遺跡・久城西Ⅰ遺跡・久城西Ⅱ遺跡・原浜遺跡』一般国道９号（益田道路）建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書６　島根県教育委員会　2010

松山智弘　「山陰」『前期古墳編年を再考するⅡ－古墳出土土器をめぐって－』中国四国前方後円墳研究会第 18 回研究集会　中国四国前方後円墳研究会　2015

松山智弘　「島根県」『中期古墳研究の現状と課題Ⅴ～古墳時代中期の土師器･須恵器をめぐって～』中国四国前方後円墳研究会第 24 回研究集会　中国四国前方後円墳研究会　2021

9．註は各章ごとに連番を振り、章末に配置した。

本文目次

第１章　調査に至る経緯と経過 ……1
　第１節　調査に至る経緯 ……1
　　１．事業計画の概要 ……1
　　２．埋蔵文化財保護部局への照会と調整 ……1
　　３．遺跡の名称について ……2
　第２節　発掘作業と整理作業の経過 ……2
　　１．試掘確認調査 ……2
　　２．発掘作業 ……3
　　３．整理作業等 ……6
第２章　遺跡の位置と環境 ……7
　第１節　地理的環境 ……7
　第２節　歴史的環境 ……9
第３章　調査の方法と成果 …… 12
　第１節　調査の方法 …… 12
　第２節　基本層序 …… 17
　第３節　調査の成果 …… 26
　　１．６層、８・９層上面の遺構 …… 26
　　２．６・７層の遺物 …… 70
　　３．８～ 10 層の遺物 …… 84
　　４．11 層、12 層上面の遺構 …… 88
　　５．11 －１･２層の出土遺物 …… 119
　　６．11 －３層の出土遺物 …… 163
　　７．12 層の出土遺物 …… 164
第４章　自然科学分析 …… 187
　第１節　森原下ノ原遺跡（１、３区）発掘調査に伴う自然科学分析 …… 187
　第２節　森原下ノ原遺跡出土鍛治関連遺物の調査…… 204
　第３節　島根県江津市森原下ノ原遺跡出土ガラス玉の自然科学的調査…… 219
　第４節　森原下ノ原遺跡（１区）出土縄文土器に付着した赤色顔料の蛍光
　　X 線分析…… 220
　第５節　森原下ノ原遺跡から出土した石器の残存デンプン粒分析…… 230
第５章　総　括 …… 233
　第１節　縄文～古墳時代の遺構変遷…… 233
　第２節　縄文～古墳時代の土器について…… 236
　第３節　縄文時代後期と弥生時代前期における磨製石斧製作…… 246
　第４節　弥生～古墳時代の焼粘土塊…… 252
　第５節　弥生時代後期の台石とその用途…… 253
　第６節　まとめ－森原下ノ原遺跡の変遷と位置づけ－…… 255

挿図目次

第 1 図　森原下ノ原遺跡の位置 …… 1
第 2 図　江の川水系河川整備計画に基づく事業箇所（平成 28 年 2 月時点の計画段階） 2
第 3 図　試掘トレンチ配置と遺跡範囲・調査対象範囲 …… 4
第 4 図　グリッド・調査区配置 …… 5
第 5 図　遺跡周辺の地形分類 …… 7
第 6 図　森原下ノ原遺跡周辺の地形 …… 8
第 7 図　遺跡周辺の東西断面模式図 …… 9
第 8 図　森原下ノ原遺跡と周辺の遺跡 …… 10
第 9 図　森原下ノ原遺跡の調査区配置 …… 12
第 10 図　グリッド・調査区・全遺構配置 …… 13
第 11 図　森原下ノ原遺跡の土層堆積模式図 …… 14
第 12 図　４ライン土層図 …… 15
第 13 図　７ライン土層図 …… 16
第 14 図　３区北壁土層図 …… 17
第 15 図　Ｆライン土層図 …… 18
第 16 図　２区東壁土層図 …… 19
第 17 図　３区東壁土層図 …… 20
第 18 図　１区西壁土層図 …… 21
第 19 図　２区西壁土層図 …… 22
第 20 図　森原下ノ原遺跡土層注記（東西） …… 23
第 21 図　森原下ノ原遺跡土層注記（南北） …… 24
第 22 図　森原下ノ原遺跡の層別遺物出土数 …… 25
第 23 図　弥生時代前期～古墳時代中期の遺構配置（6 層､8・9 層上面） …… 27
第 24 図　弥生時代前期～古墳時代中期の遺構配置（１区部分） …… 28
第 25 図　弥生時代前期～古墳時代中期の遺構配置（２・３区部分） …… 29
第 26 図　遺構 2217 竪穴建物 …… 30
第 27 図　遺構 2217 竪穴建物出土遺物（１） …… 32
第 28 図　遺構 2217 竪穴建物出土遺物（２） …… 33
第 29 図　遺構 2217 竪穴建物出土台石類例 …… 34
第 30 図　遺構 2165 竪穴建物、遺構 2166 土坑 …… 35
第 31 図　遺構 2165 竪穴建物出土遺物（１） …… 36
第 32 図　遺構 2165 竪穴建物出土遺物（２）、遺構 2166 土坑出土遺物…… 37
第 33 図　遺構 2199 竪穴建物 …… 39
第 34 図　遺構 2199 竪穴建物出土遺物 …… 40
第 35 図　遺構 1276 竪穴建物 …… 41
第 36 図　遺構 1276 竪穴建物出土遺物（１） …… 42
第 37 図　遺構 1276 竪穴建物出土遺物（２） …… 43

第 38 図　遺構 1277 竪穴建物？ …… 45
第 39 図　遺構 1277 竪穴建物？出土遺物 …… 46
第 40 図　土器溜 4 出土遺物（１） …… 47
第 41 図　土器溜 4 出土遺物（２） …… 48
第 42 図　土器溜 1 出土遺物 …… 49
第 43 図　遺構 1454 竪穴建物および出土遺物 …… 50
第 44 図　土器溜 3 出土遺物（１） …… 52
第 45 図　土器溜 3 出土遺物（２） …… 53
第 46 図　土器溜 3 出土遺物（３） …… 54
第 47 図　土器溜 3 出土遺物（４） …… 55
第 48 図　土器溜 3 出土遺物（５） …… 56
第 49 図　土器溜 2 出土遺物（１） …… 57
第 50 図　土器溜 2 出土遺物（２） …… 58
第 51 図　遺構 1247 集石土坑および出土遺物 …… 59
第 52 図　遺構 2164 土坑および出土遺物 …… 60
第 53 図　遺構 2210 土坑および出土遺物 …… 61
第 54 図　遺構 2240 土坑 …… 62
第 55 図　遺構 2240 土坑出土遺物（１） …… 63
第 56 図　遺構 2240 土坑出土遺物（２） …… 64
第 57 図　弥生～古墳時代の土坑・ピット …… 65
第 58 図　弥生～古墳時代の土坑・ピット出土遺物 …… 66
第 59 図　弥生～古墳時代のピット …… 67
第 60 図　弥生～古墳時代のピット出土遺物 …… 68
第 61 図　６層出土遺物分布図 …… 69
第 62 図　６・７層出土遺物（１） …… 70
第 63 図　６・７層出土遺物（２） …… 71
第 64 図　６・７層出土遺物（３） …… 72
第 65 図　６・７層出土遺物（４） …… 73
第 66 図　６・７層出土遺物（５） …… 74
第 67 図　６・７層出土遺物（６） …… 75
第 68 図　６・７層出土遺物（７） …… 76
第 69 図　６・７層出土遺物（８） …… 77
第 70 図　６・７層出土遺物（９） …… 78
第 71 図　６・７層出土遺物（10） …… 79
第 72 図　６・７層出土遺物（11） …… 80
第 73 図　６・７層出土遺物（12） …… 81
第 74 図　６・７層出土遺物（13） …… 82
第 75 図　６・７層出土遺物（14） …… 83
第 76 図　６・７層出土遺物（15） …… 84

第 77 図　8 ～ 10 層出土遺物（１）…… 85
第 78 図　8 ～ 10 層出土遺物（２）…… 86
第 79 図　縄文時代の遺構配置（11・12 層上面）…… 87
第 80 図　縄文時代の遺構配置（１区部分）…… 88
第 81 図　縄文時代の遺構配置（２区部分）…… 89
第 82 図　遺構 1473 集石 …… 91
第 83 図　遺構 1473 集石出土遺物（１）…… 92
第 84 図　遺構 1473 集石出土遺物（２）…… 93
第 85 図　遺構 1437 集石および出土遺物 …… 94
第 86 図　遺構 1448 集石および出土遺物（１）…… 95
第 87 図　遺構 1448 集石出土遺物（２）…… 96
第 88 図　遺構 1438 集石および出土遺物（１）…… 97
第 89 図　遺構 1438 集石出土遺物（２）…… 98
第 90 図　遺構 1248 土坑および出土遺物 …… 99
第 91 図　遺構 1307 土坑および出土遺物 …… 99
第 92 図　遺構 1316 土坑および出土遺物 …… 99
第 93 図　遺構 1317 土坑および出土遺物 …… 99
第 94 図　遺構 1318 土坑および出土遺物 …… 99
第 95 図　遺構 1327 土坑および出土遺物 …… 100
第 96 図　遺構 1379 土坑および出土遺物 …… 100
第 97 図　遺構 1426 土坑および出土遺物 …… 100
第 98 図　遺構 1427 土坑 …… 101
第 99 図　遺構 1428 土坑および出土遺物 …… 101
第 100 図　遺構 1430 土坑および出土遺物 …… 101
第 101 図　遺構 1431 土坑および出土遺物 …… 101
第 102 図　遺構 1433 土坑および出土遺物 …… 102
第 103 図　遺構 1439 土坑および出土遺物 …… 102
第 104 図　遺構 1468 土坑および出土遺物 …… 103
第 105 図　遺構 1469 土坑および出土遺物 …… 103
第 106 図　遺構 1425 土坑および出土遺物（１）…… 104
第 107 図　遺構 1425 土坑出土遺物（２）…… 105
第 108 図　遺構 1424 土坑および出土遺物（１）…… 106
第 109 図　遺構 1424 土坑出土遺物（２）…… 107
第 110 図　遺構 2370 土坑 …… 107
第 111 図　遺構 1352 焼土溜および出土遺物 …… 108
第 112 図　遺構 1356 焼土溜および出土遺物 …… 108
第 113 図　遺構 1369 焼土溜および出土遺物 …… 108
第 114 図　遺構 1370 焼土溜および出土遺物 …… 108
第 115 図　遺構 1382 焼土溜および出土遺物 …… 109

第 116 図　遺構 1402 焼土溜および出土遺物 …… 109
第 117 図　遺構 1354 焼土面および出土遺物 …… 109
第 118 図　遺構 1361 焼土面および出土遺物 …… 110
第 119 図　遺構 1397 焼土面および出土遺物 …… 110
第 120 図　遺構 1398 焼土面および出土遺物 …… 111
第 121 図　遺構 1399 土器溜 …… 111
第 122 図　遺構 1399 土器溜出土遺物 …… 112
第 123 図　遺構 1419 硬化面 …… 115
第 124 図　遺構 1419 硬化面出土遺物（１）…… 116
第 125 図　遺構 1419 硬化面出土遺物（２）…… 117
第 126 図　遺構 1419 硬化面出土遺物（３）…… 118
第 127 図　遺構 1419 硬化面出土遺物（４）…… 119
第 128 図　遺構 2373 風倒木痕 …… 120
第 129 図　11・12 層土器出土状況（平面）…… 122
第 130 図　11・12 層土器出土状況（断面）…… 123
第 131 図　11・12 層石器出土状況（平面）…… 124
第 132 図　11・12 層石器出土状況（断面）…… 125
第 133 図　11 － 3 層遺物出土状況…… 126
第 134 図　11 － 1・2 層出土遺物（１） …… 127
第 135 図　11 － 1・2 層出土遺物（２） …… 129
第 136 図　11 － 1・2 層出土遺物（３） …… 130
第 137 図　11 － 1・2 層出土遺物（４） …… 132
第 138 図　11 － 1・2 層出土遺物（５） …… 133
第 139 図　11 － 1・2 層出土遺物（６） …… 134
第 140 図　11 － 1・2 層出土遺物（７） …… 135
第 141 図　11 － 1・2 層出土遺物（８） …… 136
第 142 図　11 － 1・2 層出土遺物（９） …… 137
第 143 図　11 － 1・2 層出土遺物（10） …… 138
第 144 図　11 － 1・2 層出土遺物（11） …… 139
第 145 図　11 － 1・2 層出土遺物（12） …… 140
第 146 図　11 － 1・2 層出土遺物（13） …… 141
第 147 図　11 － 1・2 層出土遺物（14） …… 142
第 148 図　11 － 1・2 層出土遺物（15） …… 144
第 149 図　11 － 1・2 層出土遺物（16） …… 145
第 150 図　11 － 1・2 層出土遺物（17） …… 146
第 151 図　11 － 1・2 層出土遺物（18） …… 147
第 152 図　11 － 1・2 層出土遺物（19） …… 148
第 153 図　11 － 1・2 層出土遺物（20） …… 149
第 154 図　11 － 1・2 層出土遺物（21） …… 150

第 155 図　11 － 1・2 層出土遺物（22）……151
第 156 図　11 － 1・2 層出土遺物（23）……152
第 157 図　11 － 1・2 層出土遺物（24）……153
第 158 図　11 － 1・2 層出土遺物（25）……155
第 159 図　11 － 1・2 層出土遺物（26）……156
第 160 図　11 － 1・2 層出土遺物（27）……157
第 161 図　11 － 1・2 層出土遺物（28）……158
第 162 図　11 － 1・2 層出土遺物（29）……159
第 163 図　11 － 1・2 層出土遺物（30）……160
第 164 図　11 － 1・2 層出土遺物（31）……161
第 165 図　11 － 1・2 層出土遺物（32）……162
第 166 図　11 － 1・2 層出土遺物（33）……163
第 167 図　11 － 1・2 層出土遺物（34）……164
第 168 図　11 － 3 層出土遺物……165
第 169 図　12 層出土遺物（ 1 ）……167
第 170 図　12 層出土遺物（ 2 ）……168
第 171 図　12 層出土遺物（ 3 ）……169
第 172 図　12 層出土遺物（ 4 ）……170
第 173 図　12 層出土遺物（ 5 ）……171
第 174 図　12 層出土遺物（ 6 ）……172
第 175 図　12 層出土遺物（ 7 ）……174
第 176 図　12 層出土遺物（ 8 ）……175
第 177 図　12 層出土遺物（ 9 ）……176
第 178 図　12 層出土遺物（10）……178
第 179 図　12 層出土遺物（11）……179
第 180 図　12 層出土遺物（12）……180
第 181 図　12 層出土遺物（13）……181
第 182 図　12 層出土遺物（14）……182
第 183 図　12 層出土遺物（15）……183
第 184 図　12 層出土遺物（16）……184
第 185 図　12 層出土遺物（17）……185
第 186 図　調査区平面図（試料採取地点）……187
第 187 図　試料採取地点 (1 区西壁）……187
第 188 図　試料採取地点 (1 区 4 ライン東側)……188
第 189 図　試料採取地点 (1 区 4 ライン西側)……188
第 190 図　試料採取地点 (3 区)……188
第 191 図　花粉ダイアグラム（ 1 区西壁）……190
第 192 図　花粉ダイアグラム（ 1 区 4 ライン東側）……190
第 193 図　花粉ダイアグラム（ 3 区№ 1 地点）……191

第 194 図　植物珪酸体ダイアグラム（１区西壁）……192
第 195 図　植物珪酸体ダイアグラム（１区４ライン）……192
第 196 図　植物珪酸体ダイアグラム（３区№１地点）……193
第 197 図　植物珪酸体ダイアグラム（３区№２地点）……193
第 198 図　１区西壁試料Ａ軟Ｘ線写真観察結果 ……196
第 199 図　１区西壁試料Ｂ軟Ｘ線写真観察結果 ……196
第 200 図　３区№１地点試料Ｃ軟Ｘ線写真観察結果 ……197
第 201 図　３区№３地点試料Ｄ軟Ｘ線写真観察結果 ……198
第 202 図　粒度分析ダイアグラム ……198
第 203 図　椀形鍛冶滓（含鉄）の顕微鏡組織・EPMA 調査結果 ……212
第 204 図　椀形鍛冶滓・鉄塊系遺物の顕微鏡組織 ……213
第 205 図　鉄塊系遺物の顕微鏡組織 ……214
第 206 図　椀形鍛冶滓・鉄塊系遺物の顕微鏡組織 ……215
第 207 図　椀形鍛冶滓の顕微鏡組織 ……216
第 208 図　鉄塊系遺物の顕微鏡組織 ……217
第 209 図　鉄塊系遺物の顕微鏡組織 ……218
第 210 図　森原下ノ原遺跡出土玉類の顕微鏡写真 ……219
第 211 図　カリガラスの細分 ……220
第 212 図　蛍光Ｘ線分析スペクトル（１） ……223
第 213 図　蛍光Ｘ線分析スペクトル（２） ……224
第 214 図　蛍光Ｘ線分析スペクトル（３） ……225
第 215 図　蛍光Ｘ線分析スペクトル（４） ……226
第 216 図　蛍光Ｘ線分析スペクトル（５） ……227
第 217 図　蛍光Ｘ線分析スペクトル（６） ……228
第 218 図　蛍光Ｘ線分析スペクトル（７） ……229
第 219 図　森原下ノ原遺跡の分析対象とした石器 ……232
第 220 図　縄文時代の土器 ……238
第 221 図　６層における弥生前期甕（左）・壺（右）の文様構成 ……241
第 222 図　弥生時代前期の土器 ……242
第 223 図　竪穴建物出土の土器 ……245
第 224 図　縄文時代後期（左）と弥生時代前期（右）の磨製石斧製作工程別出土量 ……246
第 225 図　露頭確認箇所と森原下ノ原遺跡 ……247
第 226 図　縄文時代後期と弥生時代前期の石斧製作工程 ……248
第 227 図　磨製石斧分類模式図 ……250
第 228 図　弥生時代磨製石斧の法量 ……251
第 229 図　焼粘土塊の層別出土量 ……252
第 230 図　森原下ノ原遺跡出土の焼粘土塊 ……253
第 231 図　島根県内出土の台石類例 ……254
第 232 図　森原下ノ原遺跡１～３区総括図（縄文～古墳時代）……256
第 233 図　森原下ノ原遺跡１～３区総括図（古代～近世）……258

表目次

第 1 表　文化財保護法にもとづく提出書類 …… 3
第 2 表　縄文時代遺構出土の石器集計表 …… 90
第 3 表　遺構 1419 硬化面出土の石器集計表 …… 114
第 4 表　11 層出土土器の時期別集計表 …… 121
第 5 表　11 層出土後期土器の器種別集計表 …… 128
第 6 表　11 層出土の無文深鉢集計表 …… 131
第 7 表　11 層出土無文深鉢の器面調整集計表 …… 131
第 8 表　11 層出土の有文・無文浅鉢集計表 …… 143
第 9 表　11 層出土の剥片石器集計表 …… 154
第 10 表　12 層出土中期土器の縄文原体集計表 …… 166
第 11 表　12 層出土の剥片石器集計表 …… 177
第 12 表　植物珪酸体同定対象分類群 …… 189
第 13 表　微化石概査結果 …… 189
第 14 表　花粉化石組成表 …… 190
第 15 表　植物珪酸体化石組成表 …… 194
第 16 表　粒度分析結果 …… 199
第 17 表　供試材の履歴と調査項目 …… 211
第 18 表　供試材の化学組成 …… 211
第 19 表　蛍光 X 線分析結果 …… 220
第 20 表　森原下ノ原遺跡（1 区）出土縄文土器付着赤色顔料の蛍光 X 線分析結果 …… 222
第 21 表　分析した石器と残存デンプン粒検出個数（IS：第 1 次サンプリング） …… 231
第 22 表　石器残存デンプン粒の候補となる植物とその評価 …… 231
第 23 表　縄文～古墳時代の遺構消長 …… 233
第 24 表　江津市および江の川下流域の弥生～古墳時代の集落 …… 234
第 25 表　弥生時代前期の編年と併行関係 …… 243
第 26 表　弥生時代前期の磨製石斧製作遺跡 …… 249
第 27 表　縄文時代後期（左）と弥生時代前期（右）の工程別形態分類集計表 …… 251
第 28 表　遺構計測表（縄文～古墳時代） …… 266
第 29 表　縄文時代遺構・11 層・12 層出土の石器 · 土製品の器種構成 …… 271
第 30 表　遺物観察表（弥生・古墳時代遺構出土遺物） …… 272
第 31 表　遺物観察表（6 ・ 7 層出土遺物） …… 279
第 32 表　遺物観察表（8 ～ 10 層出土遺物） …… 283
第 33 表　遺物観察表（縄文時代遺構出土遺物） …… 284
第 34 表　遺物観察表（11 － 1・2 層出土遺物） …… 289
第 35 表　遺物観察表（11 － 3 層出土遺物） …… 301
第 36 表　遺物観察表（12 層出土遺物） …… 302
第 37 表　11 層出土の磨製石斧関連資料集計表 …… 308
第 38 表　12 層出土の磨製石斧関連資料集計表 …… 308

写真目次

巻頭図版1　1　令和2年度調査2区遠景(南東から)
　　2　令和2年度調査2区完掘状況(南東から)
巻頭図版2　1　遺構1277竪穴建物？粘土被覆合わせ口土器調査状況(西から)
　　2　土器溜3検出状況(西から)
巻頭図版3　1　遺構2199竪穴建物出土の外来系土器
　　2　弥生～古墳時代の焼粘土塊
巻頭図版4　1　弥生時代後期の被熱痕をもつ台石
　　2　縄文時代後期包含層(11層)出土の磨製石斧製作関連遺物
図版1　1　令和2年度調査2区遠景(南東から)
　　2　令和2年度調査2区完掘状況(南東から)
図版2　1　遺構2217竪穴建物完掘状況(南から)
　　2　遺構2203中央土坑調査状況(東から)
　　3　遺構2264特殊土坑半截状況(東から)
　　4　遺構2264特殊土坑と台石(西から)
　　5　遺構2217竪穴建物土器出土状況(西から)
図版3　1　遺構2165竪穴建物調査状況(北西から)
　　2　遺構2165竪穴建物土層堆積状況(南から)
　　3　遺構2200中央土坑調査状況(北西から)
　　4　遺構2258排水溝完掘状況(南から)
図版4　1　遺構2166土坑土層堆積状況(北から)
　　2　遺構2199竪穴建物検出状況(南から)
　　3　遺構2199竪穴建物土器出土状況(南から)
　　4　遺構2199竪穴建物調査状況(北東から)
　　5　遺構2199竪穴建物完掘状況(西から)
図版5　1　遺構1276竪穴建物床面調査状況(西から)
　　2　遺構1276竪穴建物柱穴調査状況(北から)
　　3　遺構1276竪穴建物床面遺物出土状況(東から)
　　4　遺構1276竪穴建物遺物出土状況①(東から)
　　5　遺構1276竪穴建物遺物出土状況②(西から)
図版6　1　遺構1277竪穴建物？完掘状況(東から)
　　2　遺構1277竪穴建物？粘土検出状況(南から)
　　3　遺構1277竪穴建物？粘土調査状況(西から)
　　4　遺構1277竪穴建物？合わせ口土器出土状況(西から)
図版7　1　土器溜4検出状況(北から)
　　2　土器溜1検出状況①(南から)
　　3　土器溜1検出状況②(南から)
　　4　遺構1276・1277竪穴建物調査状況(北東から)
図版8　1　遺構1454竪穴建物調査状況(北から)
　　2　遺構1454竪穴建物遺物出土状況(西から)
　　3　遺構1454竪穴建物炭溜検出状況(南から)
　　4　土器溜3検出状況(西から)
図版9　1　土器溜2検出状況①(東から)
　　2　土器溜2検出状況②(北から)
　　3　土器溜2検出状況③(北から)
　　4　土器溜2検出状況④(北から)
　　5　遺構1247半截状況(北西から)
　　6　遺構2164土層堆積状況(北から)
　　7　遺構2210土層堆積状況(南西から)
　　8　遺構2240土層堆積状況(南東から)
図版10　1　遺構2269遺物出土状況(南西から)
　　2　遺構2209完掘状況(西から)
　　3　遺構2277半截状況(西から)
　　4　遺構2195半截状況(南東から)
　　5　遺構2218半截状況(東から)
　　6　遺構2303半截状況(東から)
　　7　遺構2239土坑半截状況(東から)
　　8　遺構2314完掘状況(東から)
図版11　1　遺構2332～2335完掘状況(南から)
　　2　遺構2196完掘状況(北から)
　　3　遺構2353・2354半截状況(北から)
　　4　遺構2213半截状況(東から)
　　5　遺構3008半截状況(西から)
　　6　遺構3010半截状況(西から)
　　7　遺構3029半截状況(西から)
　　8　遺構2163半截状況(北から)
図版12　1　遺構1473集石検出状況(東から)
　　2　遺構1437集石検出状況(東から)
　　3　遺構1440土坑半截状況(北から)
　　4　遺構1448集石検出状況(東から)
　　5　遺構1448土坑完掘状況(北から)
　　6　遺構1438集石検出状況(北から)
　　7　遺構1447土坑完掘状況(南から)
　　8　遺構1248土坑半截状況(西から)
図版13　1　遺構1307土坑？半截状況(北から)
　　2　遺構1316土坑半截状況(北から)
　　3　遺構1317土坑完掘状況(東から)
　　4　遺構1318土坑半截状況(東から)

	5	遺構1327土坑完掘状況(南から)
	6	遺構1379土坑半截状況(西から)
	7	遺構1426土坑半截状況(南から)
	8	遺構1427土坑完掘状況(西から)
図版14	1	遺構1428土坑半截状況(西から)
	2	遺構1430土坑完掘状況(北から)
	3	遺構1431土坑半截状況(東から)
	4	遺構1433土坑断割状況(西から)
	5	遺構1439土坑半截状況(北西から)
	6	遺構1468土坑土層堆積状況(北から)
	7	遺構1469土坑半截状況(西から)
	8	遺構1425土坑完掘状況(南から)
図版15	1	遺構1424土坑半截状況(西から)
	2	遺構2370土坑半截状況(南から)
	3	遺構1352焼土溜半截状況(西から)
	4	遺構1356焼土溜半截状況(西から)
	5	遺構1369焼土溜半截状況(東から)
	6	遺構1370焼土溜検出状況(北から)
	7	遺構1382焼土溜半截状況(南から)
	8	遺構1402焼土溜半截状況(北から)
図版16	1	遺構1354焼土面検出状況(北から)
	2	遺構1361焼土面検出状況(北から)
	3	遺構1397焼土面検出状況(北から)
	4	遺構1398焼土面検出状況(北から)
	5	遺構1399土器溜検出状況(南東から)
図版17	1	遺構2373風倒木痕1層掘削状況(北から)
	2	遺構2373風倒木痕半截状況(西から)
	3	遺構2373風倒木痕完掘状況(北から)
	4	遺構1419硬化面検出状況(南から)
図版18	1	遺構1400集石検出状況(西から)
	2	遺構1378土坑半截状況(南から)
	3	遺構1405土坑完掘状況(南から)
	4	遺構1372焼土溜半截状況(東から)
	5	遺構1379焼土溜半截状況(西から)
	6	遺構1381焼土溜半截状況(西から)
	7	遺構1392焼土溜半截状況(北から)
	8	遺構1406焼土面検出状況(南から)
図版19	1	令和元年度調査1区縄文時代包含層堆積状況(北から)
	2	11－1・2層遺物出土状況①(北から)
	3	11－1・2層遺物出土状況②(東から)
	4	12層遺物出土状況(南から)
	5	13層上面遺物出土状況(北から)
図版20	1	弥生・古墳時代遺構出土遺物(1)
	2	弥生・古墳時代遺構出土遺物(2)
図版21	1	弥生・古墳時代遺構出土遺物(3)
	2	弥生・古墳時代遺構出土遺物(4)
図版22	1	弥生・古墳時代遺構出土遺物(5)
	2	弥生・古墳時代遺構出土遺物(6)
図版23	1	弥生・古墳時代遺構出土遺物(7)
	2	弥生・古墳時代遺構出土遺物(8)
図版24	1	弥生・古墳時代遺構出土遺物(9)
	2	弥生・古墳時代遺構出土遺物(10)
図版25	1	弥生・古墳時代遺構出土遺物(11)
	2	弥生・古墳時代遺構出土遺物(12)
図版26	1	弥生・古墳時代遺構出土遺物(13)
	2	弥生・古墳時代遺構出土遺物(14)
図版27	1	弥生・古墳時代遺構出土遺物(15)
	2	弥生・古墳時代遺構出土遺物(16)
図版28	1	弥生・古墳時代遺構出土遺物(17)
	2	弥生・古墳時代遺構出土遺物(18)
図版29	1	弥生・古墳時代遺構出土遺物(19)
	2	弥生・古墳時代遺構出土遺物(20)
図版30	1	弥生・古墳時代遺構出土遺物(21)
	2	弥生・古墳時代遺構出土遺物(22)
図版31	1	弥生・古墳時代遺構出土遺物(23)
	2	弥生・古墳時代遺構出土遺物(24)
図版32	1	弥生・古墳時代遺構出土遺物(25)
	2	弥生・古墳時代遺構出土遺物(26)
図版33	1	弥生・古墳時代遺構出土遺物(27)
	2	弥生・古墳時代遺構出土遺物(28)
図版34	1	弥生・古墳時代遺構出土遺物(29)
	2	弥生・古墳時代遺構出土遺物(30)
図版35	1	弥生・古墳時代遺構出土遺物(31)
	2	弥生・古墳時代遺構出土遺物(32)
図版36	1	弥生・古墳時代遺構出土遺物(33)
	2	弥生・古墳時代遺構出土遺物(34)
図版37	1	弥生・古墳時代遺構出土遺物(35)
	2	弥生・古墳時代遺構出土遺物(36)
図版38	1	弥生・古墳時代遺構出土遺物(37)
	2	弥生・古墳時代遺構出土遺物(38)
図版39	1	弥生・古墳時代遺構出土遺物(39)
	2	弥生・古墳時代遺構出土遺物(40)
図版40	1	弥生・古墳時代遺構出土遺物(41)
	2	弥生・古墳時代遺構出土遺物(42)
図版41	1	弥生・古墳時代遺構出土遺物(43)
	2	弥生・古墳時代遺構出土遺物(44)
図版42	1	弥生・古墳時代遺構出土遺物(45)
	2	弥生・古墳時代遺構出土遺物(46)
図版43	1	弥生・古墳時代遺構出土遺物(47)
	2	弥生・古墳時代遺構出土遺物(48)
図版44	1	弥生・古墳時代遺構出土遺物(49)
	2	弥生・古墳時代遺構出土遺物(50)
図版45	1	弥生・古墳時代遺構出土遺物(51)
	2	6・7層出土土師器・弥生土器
図版46	1	6・7層出土弥生土器
	2	6・7層出土弥生土器
図版47	1	6・7層出土弥生土器
	2	6・7層出土弥生土器

図版48　1　6・7層出土弥生土器
　　2　6・7層出土弥生土器
図版49　1　6・7層出土弥生土器
　　2　6・7層出土弥生土器
図版50　1　6・7層出土弥生土器
　　2　6・7層出土縄文土器・土製品
図版51　1　6・7層出土玉類・石器
　　2　6・7層出土石器
図版52　1　6・7層出土石器
　　2　6・7層出土石器
図版53　1　6・7層出土石器
　　2　6・7層出土石器・鉄製品
図版54　1　8～10層出土弥生土器・縄文土器
　　2　8～10層出土石器
図版55　1　縄文時代遺構出土遺物（1）
　　2　縄文時代遺構出土遺物（2）
図版56　1　縄文時代遺構出土遺物（3）
　　2　縄文時代遺構出土遺物（4）
図版57　1　縄文時代遺構出土遺物（5）
　　2　縄文時代遺構出土遺物（6）
図版58　1　縄文時代遺構出土遺物（7）
　　2　縄文時代遺構出土遺物（8）
図版59　1　縄文時代遺構出土遺物（9）
　　2　縄文時代遺構出土遺物(10)
図版60　1　縄文時代遺構出土遺物(11)
　　2　縄文時代遺構出土遺物(12)
図版61　1　縄文時代遺構出土遺物(13)
　　2　縄文時代遺構出土遺物(14)
図版62　1　縄文時代遺構出土遺物(15)
　　2　縄文時代遺構出土遺物(16)
図版63　1　縄文時代遺構出土遺物(17)
　　2　縄文時代遺構出土遺物(18)
図版64　1　縄文時代遺構出土遺物(19)
　　2　縄文時代遺構出土遺物(20)
図版65　1　縄文時代遺構出土遺物(21)
　　2　縄文時代遺構出土遺物(22)
図版66　1　縄文時代遺構出土遺物(23)
　　2　縄文時代遺構出土遺物(24)
図版67　1　縄文時代遺構出土遺物(25)
　　2　11－1・2層出土縄文土器
図版68　1　11－1・2層出土縄文土器
　　2　11－1・2層出土縄文土器
図版69　1　11－1・2層出土縄文土器
　　2　11－1・2層出土縄文土器
図版70　1　11－1・2層出土縄文土器
　　2　11－1・2層出土縄文土器
図版71　1　11－1・2層出土縄文土器
　　2　11－1・2層出土縄文土器
図版72　1　11－1・2層出土縄文土器
　　2　11－1・2層出土縄文土器
図版73　1　11－1・2層出土縄文土器
　　2　11－1・2層出土縄文土器
図版74　1　11－1・2層出土縄文土器
　　2　11－1・2層出土縄文土器
図版75　1　11－1・2層出土縄文土器
　　2　11－1・2層出土縄文土器
図版76　1　11－1・2層出土縄文土器
　　2　11－1・2層出土縄文土器
図版77　1　11－1・2層出土縄文土器
　　2　11－1・2層出土縄文土器
図版78　1　11－1・2層出土縄文土器
　　2　11－1・2層出土縄文土器
図版79　1　11－1・2層出土縄文土器
　　2　11－1・2層出土縄文土器
図版80　1　11－1・2層出土縄文土器
　　2　11－1・2層出土縄文土器
図版81　1　11－1・2層出土縄文土器
　　2　11－1・2層出土縄文土器
図版82　1　11－1・2層出土縄文土器
　　2　11－1・2層出土縄文土器
図版83　1　11－1・2層出土縄文土器
　　2　11－1・2層出土縄文土器
図版84　1　11－1・2層出土縄文土器
　　2　11－1・2層出土縄文土器
図版85　1　11－1・2層出土縄文土器
　　2　11－1・2層出土縄文土器
図版86　1　11－1・2層出土縄文土器
　　2　11－1・2層出土縄文土器
図版87　1　11－1・2層出土縄文土器
　　2　11－1・2層出土縄文土器
図版88　1　11－1・2層出土縄文土器
　　2　11－1・2層出土縄文土器
図版89　1　11－1・2層出土縄文土器
　　2　11－1・2層出土縄文土器
図版90　1　11－1・2層出土縄文土器
　　2　11－1・2層出土縄文土器
図版91　1　11－1・2層出土縄文土器
　　2　11－1・2層出土縄文土器
図版92　1　11－1・2層出土縄文土器
　　2　11－1・2層出土石器
図版93　1　11－1・2層出土石器
　　2　11－1・2層出土石器
図版94　1　11－1・2層出土石器
　　2　11－1・2層出土石器
図版95　1　11－1・2層出土石器
　　2　11－1・2層出土石器
図版96　1　11－1・2層出土石器
　　2　11－1・2層出土石器
図版97　1　11－1・2層出土石器
　　2　11－1・2層出土石器

図版98　1　11－1・2層出土石器・ミニチュア土器
　　2　11－1・2層出土土製品・ミニチュア土器
図版99　1　11－3層出土縄文土器
　　2　11－3層出土縄文土器
図版100　1　12層出土縄文土器
　　2　12層出土縄文土器
図版101　1　12層出土縄文土器
　　2　12層出土縄文土器
図版102　1　12層出土縄文土器
　　2　12層出土縄文土器
図版103　1　12層出土縄文土器
　　2　12層出土縄文土器
図版104　1　12層出土縄文土器
　　2　12層出土縄文土器
図版105　1　12層出土縄文土器
　　2　12層出土縄文土器
図版106　1　12層出土縄文土器
　　2　12層出土縄文土器
図版107　1　12層出土縄文土器
　　2　12層出土縄文土器
図版108　1　12層出土縄文土器
　　2　12層出土縄文土器
図版109　1　12層出土縄文土器
　　2　12層出土縄文土器・石器
図版110　1　12層出土石器
　　2　12層出土石器
図版111　1　12層出土石器
　　2　12層出土石器
図版112　1　12層出土石器
　　2　12層出土石器
図版113　1　12層出土石器
　　2　12層出土石器
図版114　1　12層出土石器
　　2　12層出土石器

第１章　調査に至る経緯と経過

第１節　調査に至る経緯

１．事業計画の概要

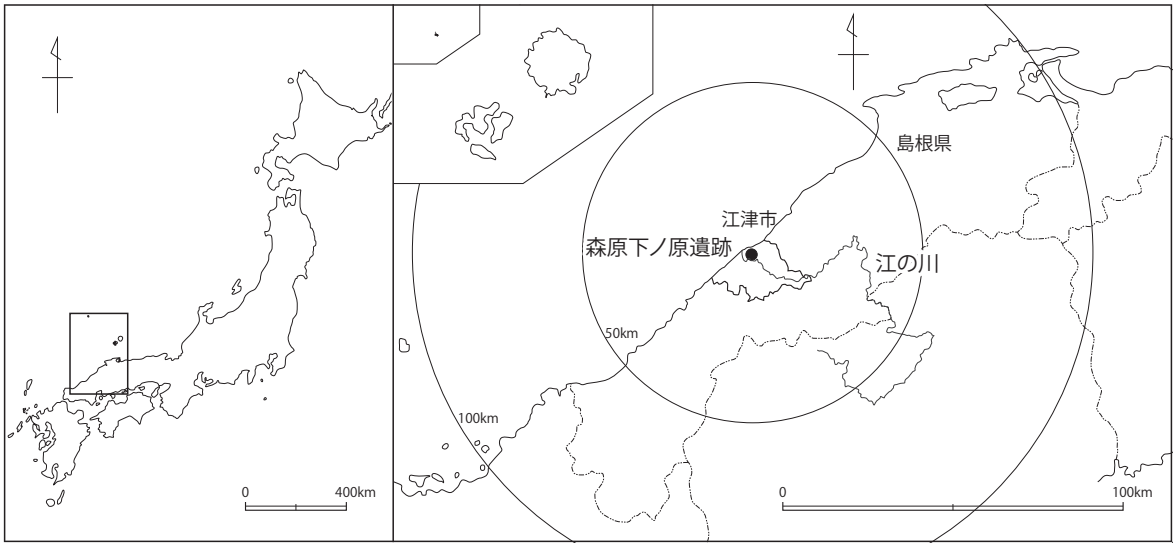
広島県北広島町の阿佐山（標高 1,218 m）に端を発し、中国山地を縦断して島根県江津市で日本海に注ぐ一級河川・江の川は、その地形的特徴から上流域では増水時に急激な水位上昇が起こる一方、山間の狭隘部を流れる中・下流域では水位が一気に跳ね上がるなど常に洪水の危険をはらんでいる。これまでも幾度とない洪水が記録され、流域では多くの被害を受けてきた。

こうした状況から昭和 28（1953）年を端緒に水害防止策が図られてきた。平成 19（2007）年には「江の川水系河川整備基本方針」が策定され、平成 28（2016）年には向こう 20 ～ 30 年間の治水事業計画として「江の川水系河川整備計画」が整備された。これらの計画にもとづき水防災事業が進められてきたが、平成 30（2018）年と令和２（2020）年に立て続けに江の川が氾濫したことから、江の川流域治水推進室を新たに設け、計画を前倒しして対策事業が進められることとなった。遺跡の所在する江津市松川町八神地区は江の川下流にあたり、現堤防高の不足を解消し、洪水による氾濫防止を目的とした堤防整備が計画されている（第２図）。

２．埋蔵文化財保護部局への照会と調整

八神地区は平成 26（2014）年７月に照会および調整が開始され、国土交通省中国地方整備局浜田河川国道事務所（以下、国土交通省）や江津市教育委員会と協議を重ねながら調査・調整が進められた。文化財保護法に基づく提出書類は第１表にまとめている。

平成 26 年度から平成 27 年度にかけて市教育委員会により試掘確認調査が実施され、八神上流工区で八神上ノ原遺跡（県営農地環境整備事業）と八神上ノ原Ⅱ遺跡、八神下流工区で森原神田川遺跡と森原下ノ原遺跡の４遺跡が発見された。森原下ノ原遺跡は調査対象面積が約 10,000㎡と広く、用地買収などの条件が不揃いであったため、遺跡北側から順次調査を開始し、令和元（2019）年度に１・３区、令和２年度に１・２区の発掘調査を県埋蔵文化財調査センターが実施した。１区は想



第１図　森原下ノ原遺跡の位置

定を超える遺物・遺構量を検出したことから、２年にわたって調査をおこなった。

３．遺跡の名称について

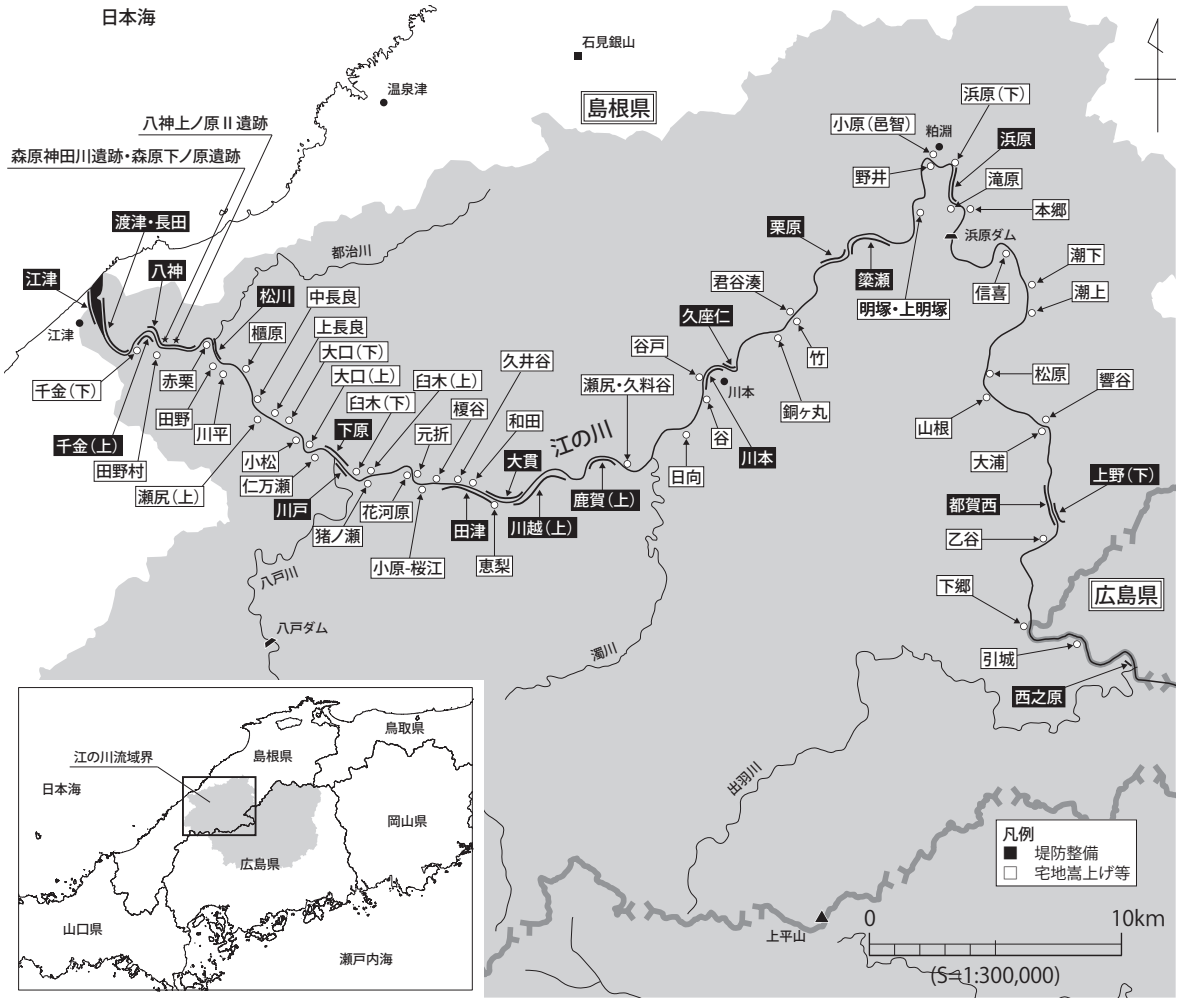
森原下ノ原遺跡は、発見当初「森原上ノ原遺跡」として周知の埋蔵文化財包蔵地に登録された。しかし、明治 22 年の地籍図から字名が「下ノ原」と考えられたことから、地域の歴史や実態をより正確に反映するため、国土交通省や江津市教育委員会と協議した上で令和２年２月に遺跡名を変更した。したがって、本書では第１表の文書類を除き、すべて「森原下ノ原遺跡」として記述する。

第２節　発掘作業と整理作業の経過

１．試掘確認調査

森原下ノ原遺跡は江津市教育委員会が平成 26 年度から 27 年度に実施した試掘確認調査で発見され、試掘調査範囲の中央やや南側に位置する水路を基準として北側が森原神田川遺跡、南側が森原下ノ原遺跡の範囲とされた（第３・４図）。森原下ノ原遺跡の面積は約 25,000㎡で、うち事業予定地内の調査対象面積は約 10,000㎡である。

また、平成 30 年度には島根県埋蔵文化財調査センターもより深い部分の遺構・遺物の確認や土層堆積状況などの詳細を把握することを目的として試掘確認調査をおこなっている。



第２図　江の川水系河川整備計画に基づく事業箇所（平成 28 年２月時点の計画段階）

第1表　文化財保護法にもとづく提出書類

遺跡の発見に関する通知と勧告（法第97条第1項）

文書番号 日付	種類	所在地	発見 年月日	発見の事情	届出者	参考事項	勧告文書番号 日付	主な指示事項
第578号 H27.3.27	集落跡	江津市松川町 八神248番地1外	H27.3.26	農地環境整備事業に伴う試掘調査	江津市教育委員会教育長	森原上ノ原遺跡	島教文財第41号の30 H27.3.27	保存への配慮を 土地所有者へ伝達

埋蔵文化財発掘の通知と勧告（法第94条）

文書番号 日付	種類および名称	所在地	土地所有者	面積（㎡）	原因	届出者	期間	勧告文書番号 日付	主な指示事項
国中整浜河管 第83号 H30.3.9	散布地 森原上ノ原遺跡	江津市松川町 八神地先	国土交通省	10,000	河川改修	国土交通省 浜田河川国道事務所	H32.4.1～ H36.3.31	島教文財 第49号の131 H30.3.26	発掘調査

埋蔵文化財発掘調査の報告（法第99条）

文書番号 日付	種類および名称	所在地	面積（㎡）	原因	報告者	担当者	期間
島教埋第13号 H31.4.5	散布地 森原上ノ原遺跡（1区）	江津市松川町八神247外	2,140	河川改修	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター所長	東森　晋	H31.5.20～ H31.12.20
島教埋第219号 R1.7.24	散布地 森原上ノ原遺跡（3区）	江津市松川町八神252-3外	1,460	河川改修	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター所長	宮本正保	R1.8.1～ R1.12.20
島教埋第26号 R2.4.7	集落跡 森原下ノ原遺跡（2区）	江津市松川町八神247外	2,580	河川改修	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター所長	真木大空	R2.5.11～ R2.12.25

埋蔵文化財の発見通知（法第100条第2項）

文書番号 日付	物件名	出土地	発見者	土地所有者	現保管場所
島教文財第274号の17 R2.3.7	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、石器、鉄器、青銅製品、土製品、石製品、動物遺存体　計149箱	江津市松川町八神252-2外	島根県教育員会教育長 新田英夫	国土交通省	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
島教文財第114号の18 R2.12.28	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、石器、鉄器、青銅製品、土製品、石製品、ガラス製品　計192箱	江津市松川町八神252-2外	島根県教育員会教育長 新田英夫	国土交通省	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター

終了報告

文書番号 日付	遺跡名	調査期間	面積（㎡）	提出者	提出先
島教文財第954号 R2.2.25	森原上ノ原遺跡（1区・3区）	R1.6.3～R2.2.7	3,600	島根県教育委員会教育長 新田英夫	国土交通省浜田河川国道事務所長
島教文財第694号 R2.7.1	森原下ノ原遺跡（1区）	R2.5.11～R2.6.29	500	島根県教育委員会教育長 新田英夫	国土交通省浜田河川国道事務所長
島教文財第805号 R3.1.7	森原下ノ原遺跡（2区）	R2.5.22～R2.12.16	1,500	島根県教育委員会教育長 新田英夫	国土交通省浜田河川国道事務所長

2．発掘作業

発掘調査は、令和元年度に1・3区、令和2年度に1区延長部分と2区を実施した。以下、調査年度ごとに発掘作業の経過を記載する。

（1）令和元年度

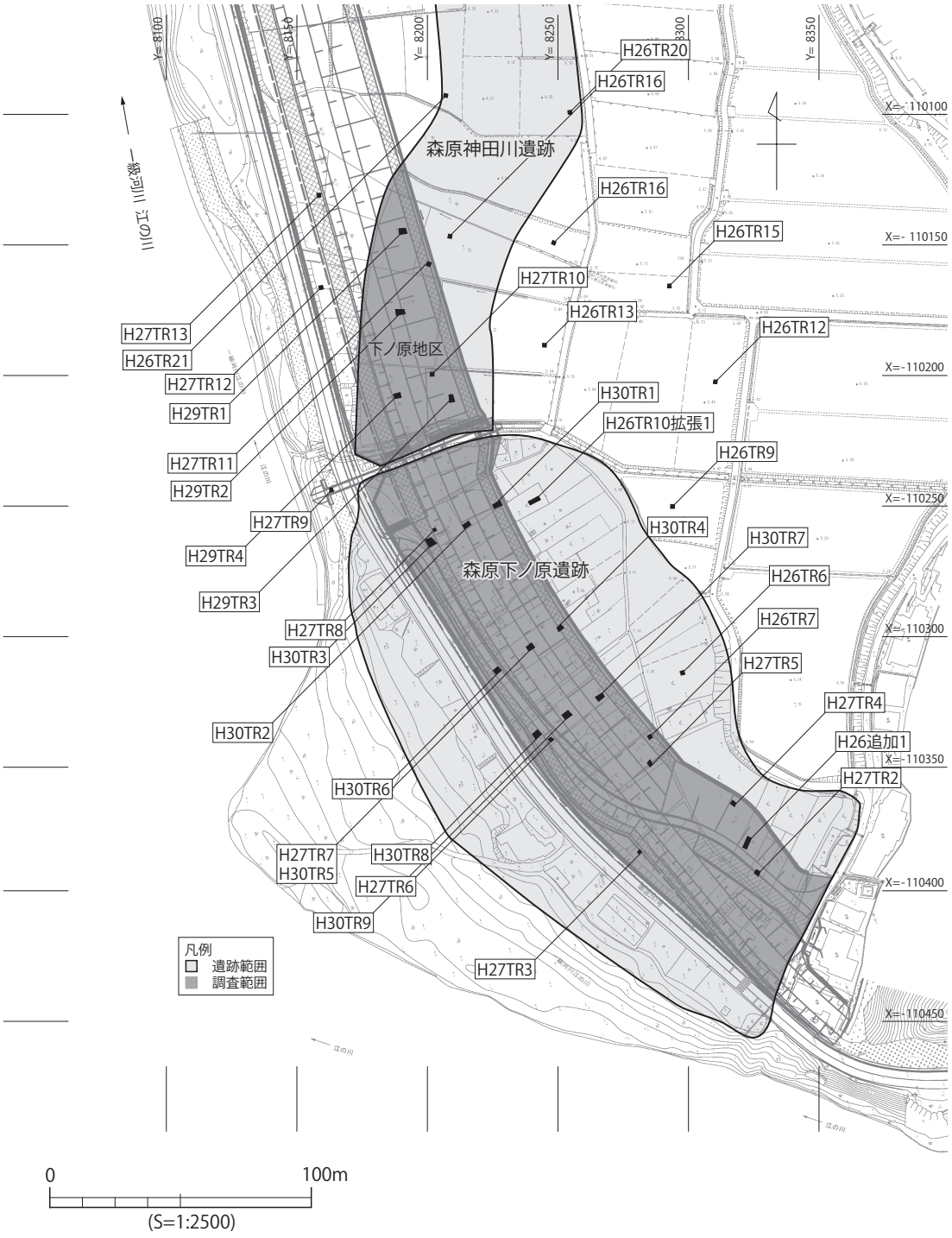
1区　令和元年度は、用地買収などの条件が整った1区から着手することとなり、5月28日に起工測量、6月6日に重機掘削を開始した。上層の包含層および中･近世の遺構の調査は10月頃までに終了した。10月6日には現地説明会を実施し、地元を中心に約30名の参加があった。

その後、地山の検出を目的としたトレンチにより、東側に弥生・古墳時代の包含層と、試掘調査で判明していなかった縄文時代の包含層、遺構面が存在することがわかった。11月27日には古墳時代前期の土器溜を確認し、その後古墳時代前期の竪穴建物を2棟検出した。12月19日には岩本崇氏に7月17日に出土していた青銅鏡について、1月20日には田中義昭氏と会下和宏氏に遺跡全体の評価について調査指導を受けた。1月26日には第2回現地説明会を実施し、約50名の参加があった。

調査の終了期間が迫るなか、想定を超える縄文時代の包含層・遺構面が存在したことから、国土交通省と協議をおこない、調査区西半と北端部のみを完掘し、残りは令和2年度に延長することを決定した。1月29日に空中写真撮影、2月7日に現地作業を終了した。この間、遺跡の形成過程などを分析するため、文化財調査コンサルタント株式会社に委託して調査区西壁と中央の土層観察用畦から土壌サンプルの採取をおこなった。2月28日には調査終了部分の埋め戻しが完了し、引き渡しをおこなった。

3区　3区は用地買収や進入路の確保のために開始が遅れ、7月25日に起工測量、8月1日に重機

掘削を開始した。しかし、調査を進める中で３区は平安時代頃の江の川による浸食が広範囲にわたっており、古い時期の包含層・遺構面がほとんど残存していないことが判明した。10月から調査区東側にわずかに残った弥生・古墳時代の包含層の調査を開始し、11月19日には弥生時代後期のピットを約30基検出した。その後、重機によりさらに下層を確認したが、１区のような縄文時代の包含層は確認できず、調査を終了した。11月26日には中村唯史氏の調査指導を受けた。12月４日に空中写真撮影、12月６日に現地作業を終了した。その後、３区調査班は１区に合流した。この間、分析のため１区と同様に調査区北壁から土壌サンプルの採取をおこなった。２月28日には埋め戻しが完了し、引き渡しをおこなった。



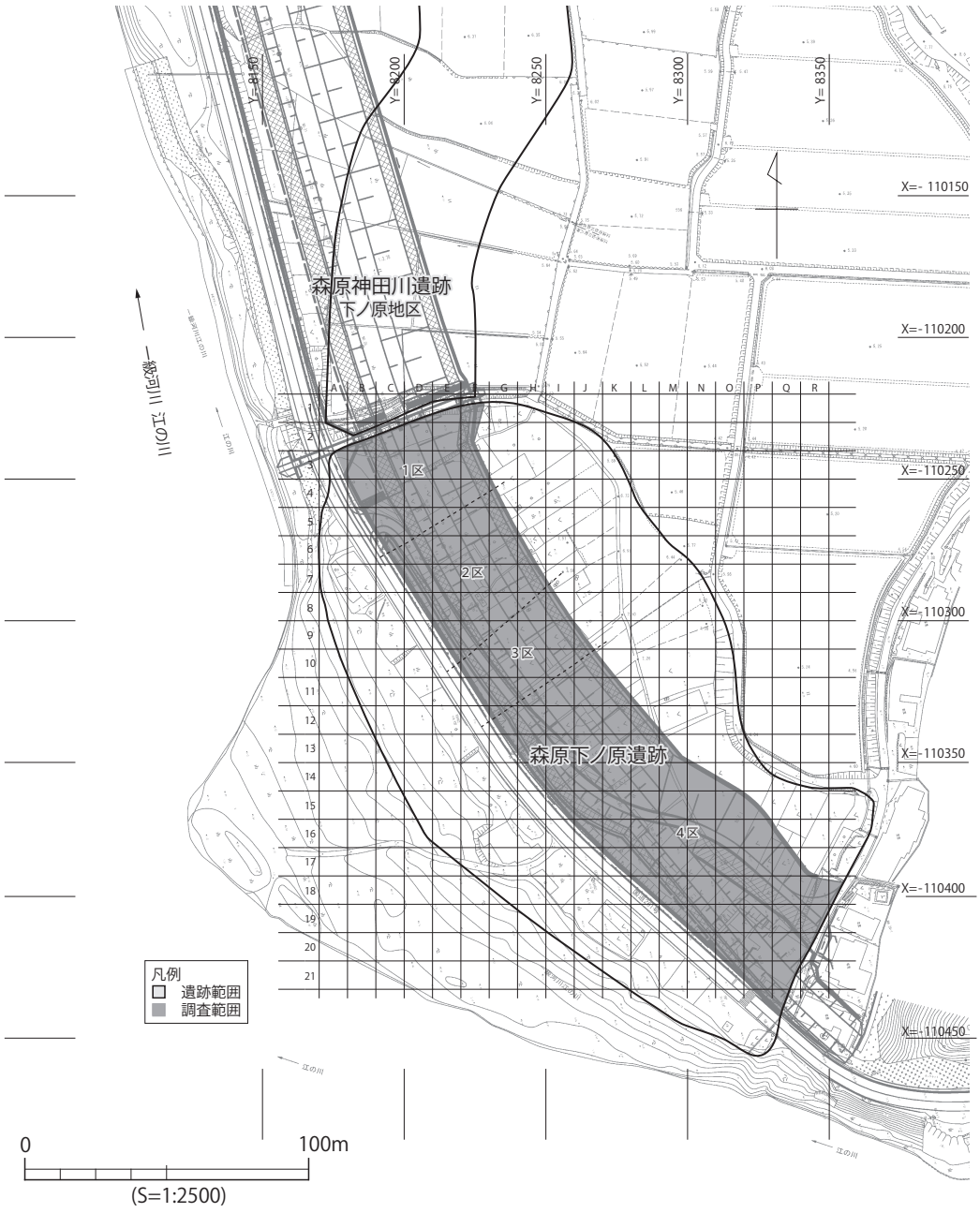
第３図　試掘トレンチ配置と遺跡範囲・調査対象範囲

（２）令和２年度

令和２年度は新型コロナウイルスの影響により、従来とは異なる調査体制でおこなうことが求められた。朝・昼２回の体温測定をはじめ、休憩所の消毒、作業中以外はマスクを着用した。

１区　令和２年度は前年度残した１区部分の調査にまず着手し、５月11日に起工測量をおこなった。調査は主に縄文時代後期以前の包含層・遺構面が対象で、縄文時代後期と中期の地床炉や土坑などを検出し、大量の土器が出土した。なお、６月14日に梅雨前線の影響による大雨で調査区東壁および南壁が崩壊したことにより、調査区東壁の土層断面図は作成できていない。６月16日に中村氏に縄文時代包含層の堆積状況などについて、６月23日に幡中光輔氏に縄文時代の遺構と土器について調査指導を受けた。６月29日には現地作業を終了した。

２区　２区はやや遅れて着手し、５月21日に起工測量、５月22日に重機掘削を開始した。中・近世の遺構が想定以上に少なく、８月末には調査区東側に残る古墳時代以前の包含層・遺構面の調査



第４図　グリッド・調査区配置

に着手した。8月11日には松田順一郎氏が来訪し、遺跡内の堆積構造について教示を得た。9月末には地山の検出を目的としたトレンチ掘削をおこなった。その結果、1区と同様に縄文時代後期と中期の包含層を確認したものの、堆積が薄く遺物量も著しく少なかったため、1区とは大きく異なる状況が想定された。

2区では1区と比較して弥生時代の遺構・遺物が多く検出され、竪穴建物3棟のほか、多くの土坑・ピットを確認した。10月15日に1回目の空中写真撮影、10月17日には現地説明会を実施し、約80名の参加があった。新型コロナウイルス感染対策を徹底し、参加者全員のマスク着用、受付での消毒、検温、連絡先の記入などを実施した。

10月22日には田中氏と会下氏に遺跡全体の評価について調査指導を受け、江の川流域の典型的な弥生集落といえ、江の川との関わりがわかる重要な遺跡との評価を得た。また、10月29日には松田氏が再度来訪した。その後は縄文時代後期と中期の調査を進め、柱穴や土坑などの遺構約90基を検出したが、やはり1区と比較して遺物が極端に少なかった。12月8日には調査区全体で地山まで掘削が終了、12月12日に2回目の空中写真撮影をおこなった。また、中村氏に遺跡の形成過程などについて再度調査指導を受け、12月15日には現地作業を終了した。1月29日には埋め戻しが完了し、引き渡しをおこなった。

3．整理作業等

令和元年度は、発掘調査と並行して現場事務所で遺物の洗浄をおこなった。出土量が膨大で注記、分類、接合などの作業はほとんど進まず、調査期間内で洗浄を終えることができなかった。調査が終了した2月以降も埋蔵文化財調査センターで洗浄をおこない、洗浄が終了したのは翌年度の4月であった。そのほか、2～3月にかけて遺構図面・写真の整理と金属製品の実測をおこなった。

令和2年度は、真木が2区の発掘調査、東森が1・3区の整理作業を担当した。現場では発掘調査と並行して現場事務所で遺物の洗浄をおこなったが、2区も出土量が膨大であったことから洗浄が終了したものから埋蔵文化財調査センターに搬入して注記作業をおこなった。現場では前年度同様に調査期間内で遺物の洗浄を終えることができず、調査が終了した12月以降も埋蔵文化財調査センターで洗浄をおこない、3月に終了した。そのほか、1～3月にかけて2区の遺構図面・写真の整理などをおこなった。

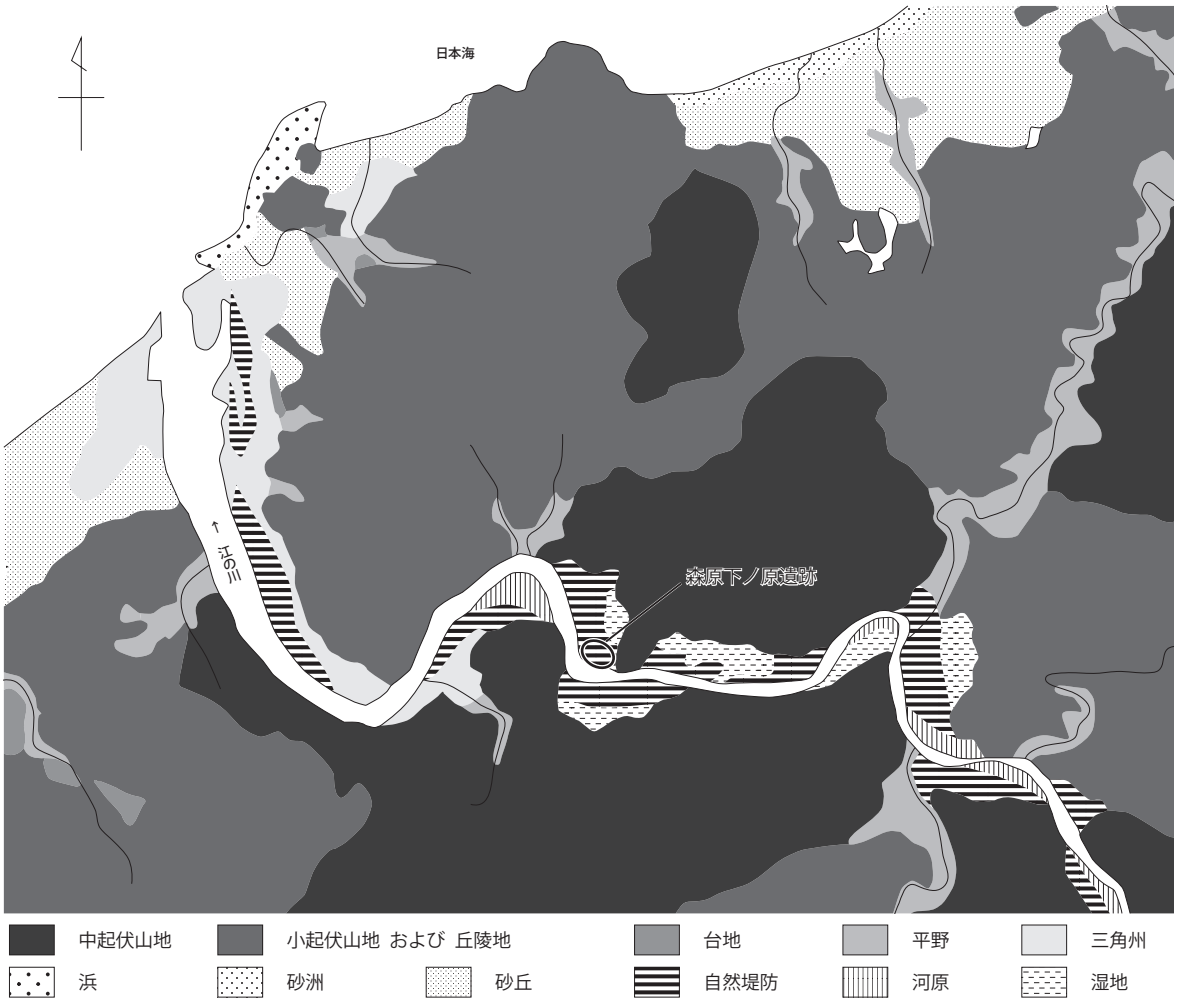
令和3年度は、真木が1～3区の報告書作成担当となった。遺物・遺構量ともに膨大であったため、分冊により報告書を作成することとなった。まず『古代～近世編』の作業を優先し、12月に概ねの作業を終了した。その間、『縄文～古墳時代編』では9月から柳浦が縄文時代の遺物整理および執筆を担当することとなった。弥生・古墳時代については、8月まで遺物の注記、分類、接合作業に追われ、並行して実測作業を進めた。実測がすべて終了したのは10月であった。8月には松江市、10月には江津市の協力を得て焼土塊について資料調査をおこなった。10月末には佐藤由紀男氏が弥生時代前期の石斧未成品の資料調査に訪れ、矢野健一氏に縄文時代中期の土器について教示を得た。11月には田畑直彦氏に弥生時代前期の土器と古墳時代初頭の土器について、12月には千葉豊氏と高野紗奈江氏に縄文時代の土器について調査指導を受けた。縄文時代の遺物は1月にトレースが終了し、10月に写真撮影をおこなった。弥生～古墳時代の遺物は1月にトレースを終了し、2月に写真撮影をおこなった。

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

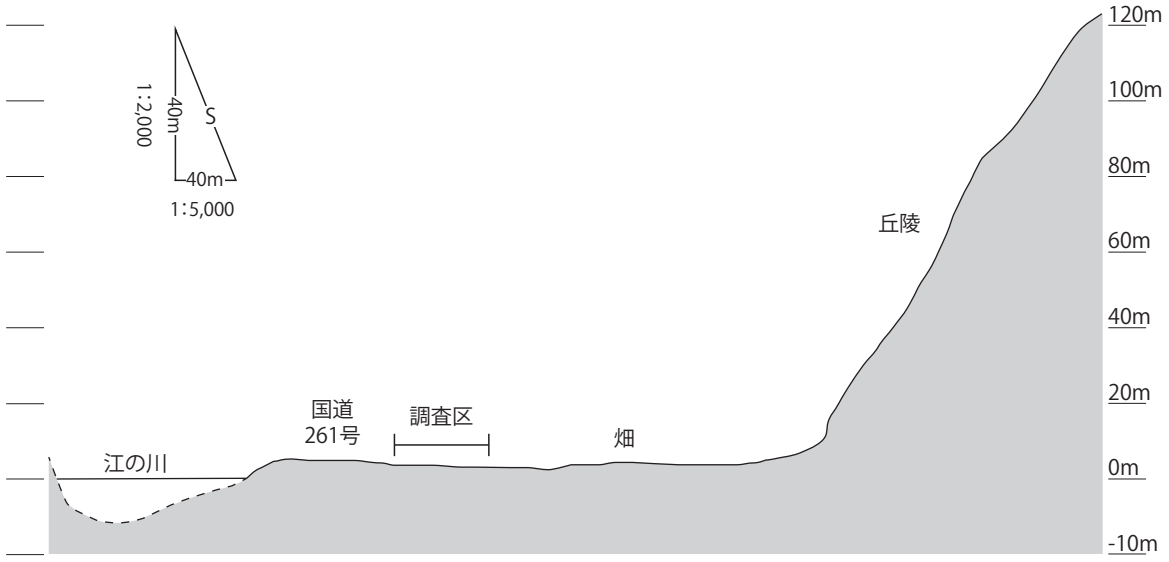
森原下ノ原遺跡は、島根県江津市松川町八神（やかみ）に所在する。中国地方最大の河川である江の川の河口から約５km 遡った右岸に位置し、周囲を急峻な山塊に囲まれた約 16ha の沖積平野に形成された自然堤防とその後背低地に立地する（第５～７図）。現状で自然堤防上は国道や竹林となっており、後背低地は水田あるいは畑地として利用され、集落は山際に展開している。自然堤防は江の川の流路に平行して発達しているが、標高は高い所で８m程度であり、集中豪雨の際には自然堤防を越流し低地に河川堆積物が流れ込むことがうかがえる。

江の川は、広島県北広島町の阿佐山に源を発し、三次市、邑南町、江津市などを経て日本海に注ぐ一級河川である。幹川流路延長 194km、流域面積 3,900㎢を誇り、全国的にも珍しい先行河川という特徴をもつ。新生代第三紀末葉に起こった地盤隆起によって現在の中国山地が形成された際、江の川は隆起よりも速いスピードで下刻浸食を続けたため、結果として中国山地を断ち切って日本海へと流れ出る長大な水系が誕生した。流域の大部分が山間の狭隘部にあたり、上流の西城川や馬洗川などが合流する三次盆地付近を除き、広大な平野は存在しない。



第 5 図　遺跡周辺の地形分類

第６図　森原下ノ原遺跡周辺の地形



第７図　遺跡周辺の東西断面模式図

第２節　歴史的環境

江の川は広島県北部の中国山地に源を発し、三次盆地を経て中国山地脊梁部を貫流して日本海に注ぐ。上流域にあたる広島県側では支流河川が合流する三次盆地が形成され、低丘陵上に集落や大規模な古墳群など数多くの遺跡が密集する。一方、中・下流域では、山間の峡谷化した流域の両岸に形成された小規模な河岸段丘や自然堤防上に遺跡が孤立的に点在するところに特徴があり、現状で大規模な集落や古墳は知られていない。後世の氾濫などにより消滅してしまった遺跡も多く存在すると考えられる。したがって、江の川沿岸部の遺跡の様相は不明瞭な点が多いが、ここでは日本海沿岸部も含めた江の川下流域における遺跡の変遷や概要を述べる。

１．旧石器・縄文時代

江の川流域において、旧石器時代の遺跡は現在のところ確認されていない。縄文時代の遺跡は海浜部に多く、後期以降は内陸部にもみられるようになる。波子遺跡（60）では縄文時代中期の土器がまとまって出土しており、いわゆる「波子式」の標式遺跡となっている。中流域の沖丈遺跡、簗瀬遺跡、都橋遺跡などでは、縄文時代後期から晩期の土器が多く出土しており、この時期に江の川流域の人口が増加した可能性が考えられる。とくに沖丈遺跡では多くの磨製石斧未成品が出土し、中国地方ではじめて縄文時代の磨製石斧製作地であることが明らかとなった。

２．弥生時代

弥生時代前期は、埋築遺跡（99）、沖丈遺跡で遺構が確認されているが、その他の遺跡ではいずれも包含層からわずかに土器が出土する程度である。埋築遺跡でも溝状遺構が検出されているにとどまり、遺物はほとんどが包含層からの出土で、出土量も少ない。一方、沖丈遺跡では配石墓群が確認され、緑色凝灰岩製管玉の出土などがある。中期になると、古八幡付近遺跡（55）で環濠をともなう明確な集落が形成され、広島県備後北部地域の塩町式土器や瀬戸内地方で出土の多い分銅形土製品が出土しており、江の川を介した交流の一端を示している。また、波来浜遺跡（107）では、

1 森原下ノ原遺跡　2 森原神田川遺跡　3 八神餌跡　4 八神上ノ原Ⅱ遺跡　5 八神上ノ原遺跡　6 値谷餌跡　7 下河戸餌跡　8 堂床遺跡　9 堂ヶバナ遺跡　10 川止館跡　11 松山城跡　12 殿畑館跡　13 櫃城跡　14 田渕遺跡
15 恵口餌跡　16 平山城跡　17 雌雄城跡　18 四つ地蔵城跡　19 千本崎城　20 千本崎地蔵堂層塔　21花田窯跡　22 桜谷餌跡　23 大和田城跡　24 蟹ヶ迫城跡　25 長田餌跡　26 長田遺跡　27亀山城跡　28 勝地餌跡
29 月出城跡　30 椎の木谷餌跡　31 島の星山遺跡　32 久保川遺跡　33 久保川口餌跡　34 上井蔵遺跡　35 嘉久志遺跡　36 久本奥窯跡　37 鹿伏山遺跡　38 二又平古墳　39 棚橋押込遺跡　40 羽代前田遺跡　41行者山古墳
42 稲荷山遺跡　43 半田浜遺跡　44 天ヶ峠古墳　45 半田浜西遺跡　46 宮倉遺跡　47 二宮C遺跡　48 青山遺跡　49 青山Ⅱ遺跡（青山古墳）　50 神主城跡　51 恵良遺跡　52 高神遺跡　53 飯田C遺跡　54 室崎商店裏遺跡
55 古八幡付近遺跡　56 古八幡遺跡　57 横路古墓　58 殿峰城跡　59 尾上城跡　60 波子遺跡　61 二宮古墳群　62 高野火塚　63 イノキ廻古墳群　64 二本松古墳群　65 野地古墳群　66 神村城跡　67 伝仏古墳群
68 土居西屋古墳群　69 森口古墳群　70 高野山古墳群　71 川上氏宅裏経塚　72 餌ヶ谷餌跡　73 城山城跡　74 桜井城跡　75 鳴石城跡　76 番の木餌跡　77 森ノ小城跡　78 鳥居ノ本遺跡　79 平野丸城跡　80 大石城跡
81 亀渕餌跡　82 亀渕遺跡　83 柏屋餌跡　84 古城跡・岩根城跡・押手城跡　85 鍛冶屋遺跡　86 長戸路餌跡　87 林城跡　88 二川遺跡　89 研谷城跡　90 本郷遺跡　91 神田遺跡　92 利光城跡　93 二川餌跡　94 永井城跡
95 高津遺跡　96 田中城跡　97 森城跡　98 宇野碁吉氏宅付近遺跡　99 埋築遺跡　100 高畑城跡　101 半蔵城跡　102 今井城跡　103 佐賀里松城跡　104 農協裏遺跡　105 佐古ヶ岡横穴墓　106 下和田遺跡
107 波来浜遺跡　108 高丸遺跡　109 尾浜古墳　110 尾浜遺跡　111 大堀遺跡　112 藪遺跡　113 鎌満城跡　114 寺段経塚

第8図　森原下ノ原遺跡と周辺の遺跡

貼石をもつ墳丘墓が確認され、中期後半以降に中国山地から山陰地方に展開する四隅突出型墳丘墓につながるものではないかとの指摘もある。後期になると遺構・遺物ともに増加し、高津遺跡（95）、宮倉遺跡（46）、半田浜西遺跡（45）、二宮Ｃ遺跡（47）、沖丈遺跡などで竪穴建物や掘立柱建物が検出され、各地で集落が形成されたことがわかる。とくに沖丈遺跡では多くの竪穴建物とともに鉄製品が出土し、鉄器製作がおこなわれていたことが指摘されている。その他、八神上ノ原Ⅱ遺跡（４）でもこの時期の土器が多く出土し、付近に集落が存在した可能性が考えられる。

３．古墳時代

古墳時代前期は、高津遺跡（95）や八神上ノ原Ⅱ遺跡（4）で比較的多くの土器が出土しているものの、明確な集落の検出例はない。中期になると、高津遺跡や二宮Ｃ遺跡（47）で竪穴建物や掘立柱建物が検出され、後期にも高津遺跡や半田浜西遺跡（45）、堂庭遺跡などで集落や畑が確認されている。高津遺跡では水場と大溝と呼ばれる祭祀遺構が確認され、弥生時代終末期から古墳時代後期にかけて断続的に祭祀がおこなわれていたと考えられる。また、森原神田川遺跡（２）でも古墳時代後期を中心とする祭祀がおこなわれていた可能性が指摘されている。

墳墓としては、明確な前・中期の古墳は確認されておらず、行者山古墳（41）が前期から中期にかけての箱式石棺をもつ墳墓と考えられている程度である。一方で、後期以降は 30 基ほどの群集墳である高野山古墳群（70）や圭頭大刀や牛歯などが出土した青山古墳（49）、古八幡付近遺跡（55）などで横穴式石室をもつ古墳があり、佐古ヶ岡横穴墓（105）などの横穴墓も確認されている。

【参考文献】

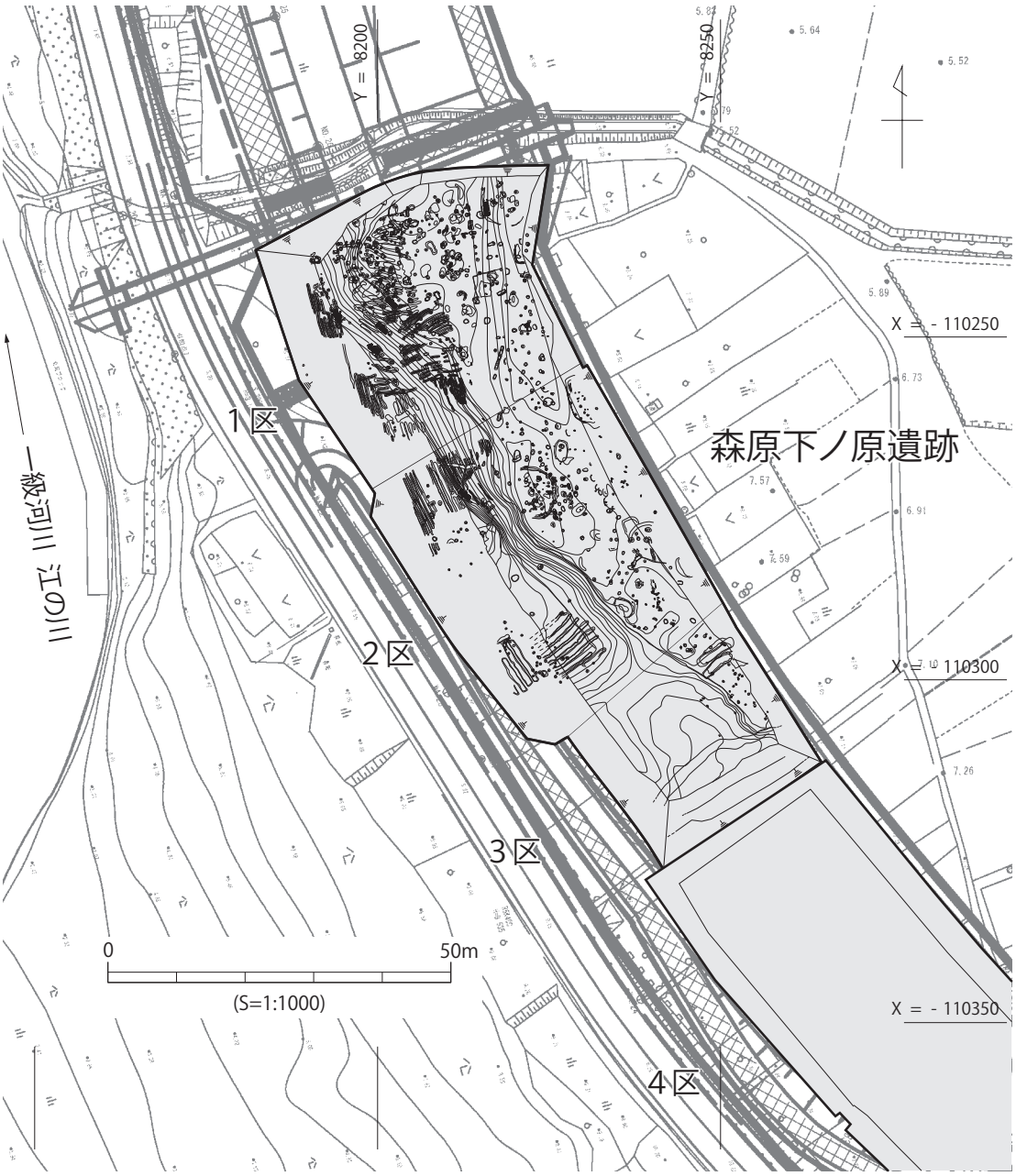
邑智町教育委員会　『沖丈遺跡』　2001
江津市　『波来浜遺跡発掘調査報告書』　1973
江津市教育委員会　『宮倉遺跡』　1993
江津市教育委員会　『埋築遺跡』　2002
江津市教育委員会　『青山古墳』　2003
江津市教育委員会　『堂庭遺跡』　2004
江津市教育委員会　『高津遺跡』　2005
江津市教育委員会　『カミヤ遺跡・羽代前田遺跡』　2008
江津市教育委員会　『八神上ノ原遺跡・森原上ノ原遺跡』　2018a
江津市教育委員会　『八神上ノ原Ⅱ遺跡』　2018b
江津市教育委員会・浜田市教育委員会　『大平山遺跡群調査報告書』　1988
島根県教育委員会　『一般国道９号江津道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ（鹿伏山・半田浜西遺跡・二宮Ｃ遺跡・久本奥窯跡）』　1995
島根県教育委員会　『嘉久志遺跡・飯田Ｃ遺跡・古八幡付近遺跡』　1997
島根県教育委員会　『神主城跡・室崎商店裏遺跡・古八幡付近遺跡・横路古墓』　2000
島根県教育委員会　『恵良遺跡・堂々炭窯跡・上条遺跡・水戸（三戸）神社跡（上条古墳）・立女遺跡』　2001
島根県教育委員会　『森原神田川遺跡大津地区』　2020
島根県教育委員会　『森原神田川遺跡下ノ原地区』　2021
柳浦俊一　「石見における群衆墳の一例－江津市千田町高野山古墳群の分布調査－」『島根考古学会誌』第１集　島根考古学会　1984

第３章　調査の方法と成果

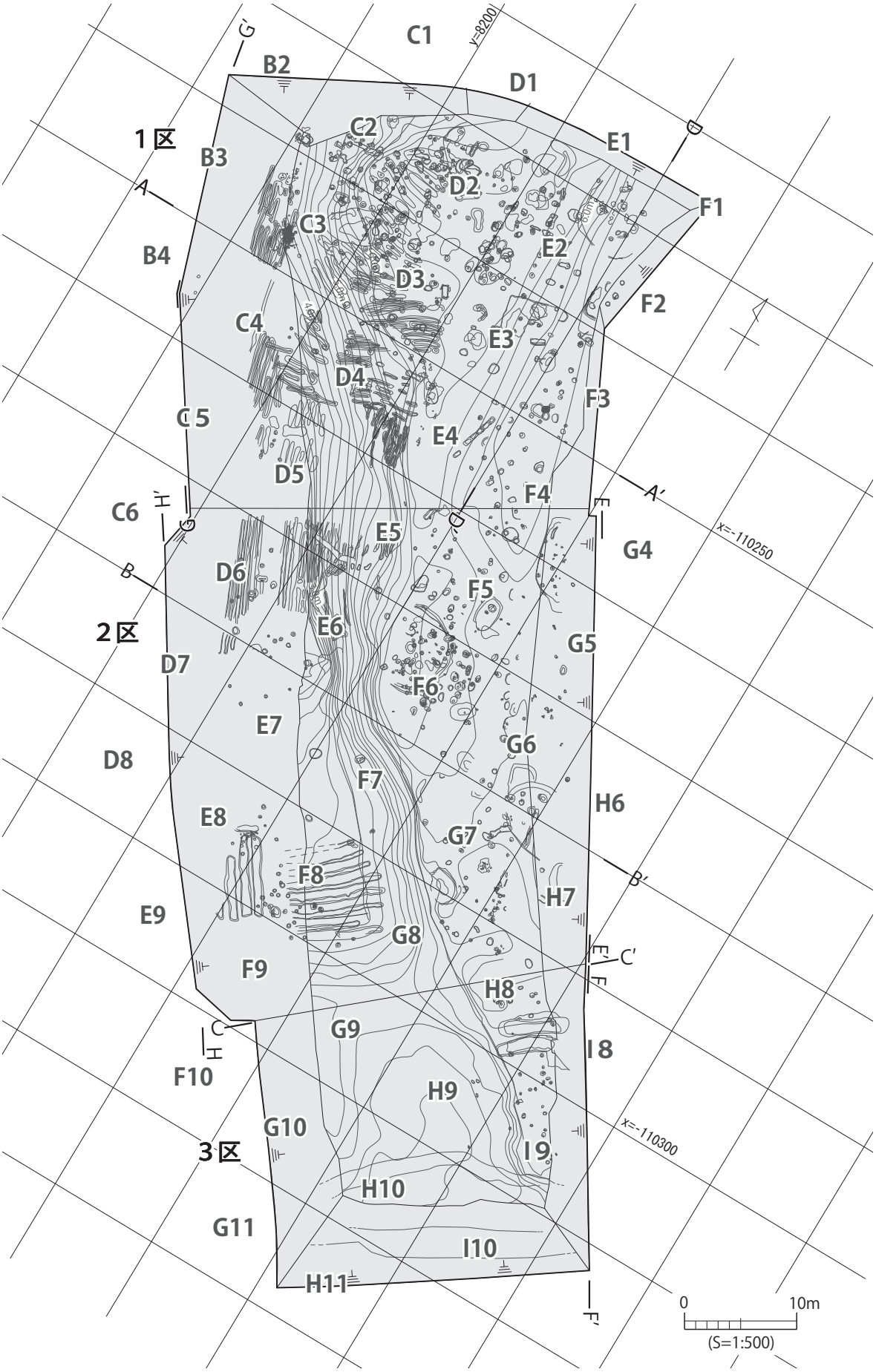
第１節　調査の方法

１．発掘調査区とグリッドの設定

本調査にあたっては、森原下ノ原遺跡の調査対象範囲全体で共通のグリッドを使用するため、座標系に基づく座標軸を合わせた10ｍ四方のグリッドを設定した（第10図）。グリッドは北西角を基準とし、東に向けアルファベットを、南に向けアラビア数字を振り各交点の北西角をもってグリッド名称とした。調査区は遺跡北側から１～４区を設定し、１区が約2,000㎡、２区が約1,500㎡、３区が約1,500㎡となり、残りを４区とした。



第９図　森原下ノ原遺跡の調査区配置



第 10 図　グリッド・調査区・全遺構配置

２．表土・包含層掘削と遺構検出

調査対象地は、江の川右岸に開けた小規模な平野部の南西隅に位置する。遺跡を構成する砂の粒径が大きく、掘削深度がかなり深くなることが予想されたことから、調査区壁は十分な勾配を確保し、一定深度ごとにステップを設けて壁面の崩壊防止に努めた。

表土掘削は重機によりおこない、その後包含層掘削・遺構検出を繰り返しおこなった。包含層の掘削時は主としてスコップ、ジョレンを使用し、出土する遺物の粗密に応じて草削りや移植ゴテを適宜使用した。遺構検出はジョレン、草削り、移植ゴテを使用した。

３．遺構掘削

遺構の埋土掘削は、土層観察用ベルトを設定するか半截し、土層観察をおこないつつ掘り下げた。土層断面については、分層が可能なものは写真撮影後に断面図を作成し、単層のものについては土色を記録したうえで掘削した。遺構から出土した遺物は、適宜出土状況を記録し取り上げた。

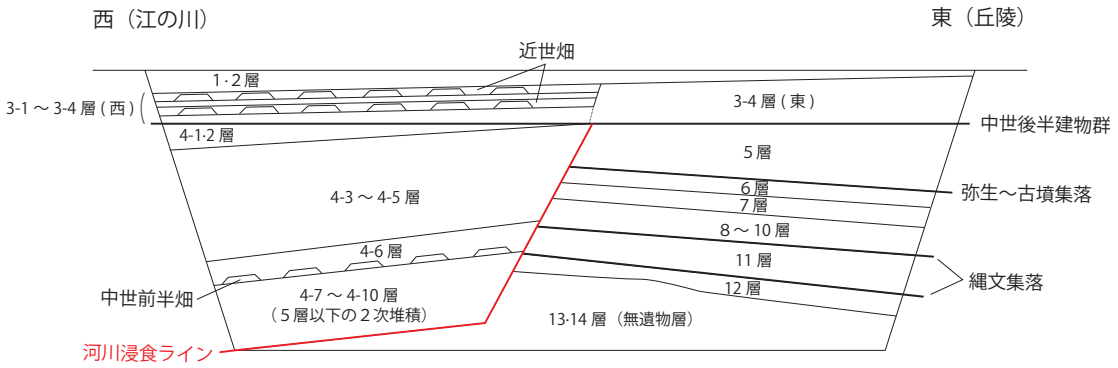
なお、縄文時代後期の地床炉では動物骨や炭化種子、弥生時代前期の土坑では石器製作にともなう微細剥片、弥生時代後期の竪穴建物ではガラス玉や鍛造剥片などの微細遺物が残存している可能性が考えられたため、埋土を土嚢袋に入れて持ち帰り、水洗をおこなった。

４．記録の作成

遺物の出土位置は基本的にグリッド単位で取り上げ、必要に応じて遺跡調査システム「遺構くん」を用いて座標を記録した。遺構の平面図は遺跡調査システムを用いて測量し、出力後補正をおこなうことを基本とした。令和２年度には必要に応じて写真撮影による３Ｄ記録システムを併用した。断面図はオートレベルを用いて測量をおこない、高低差のある壁面については平面図と同様に遺跡調査システムによる記録作成をおこなった。遺構などの写真撮影はデジタルカメラを使用し、必要に応じて６×７版フィルム（モノクロネガ・カラーポジフィルム）カメラによる撮影をおこなった。

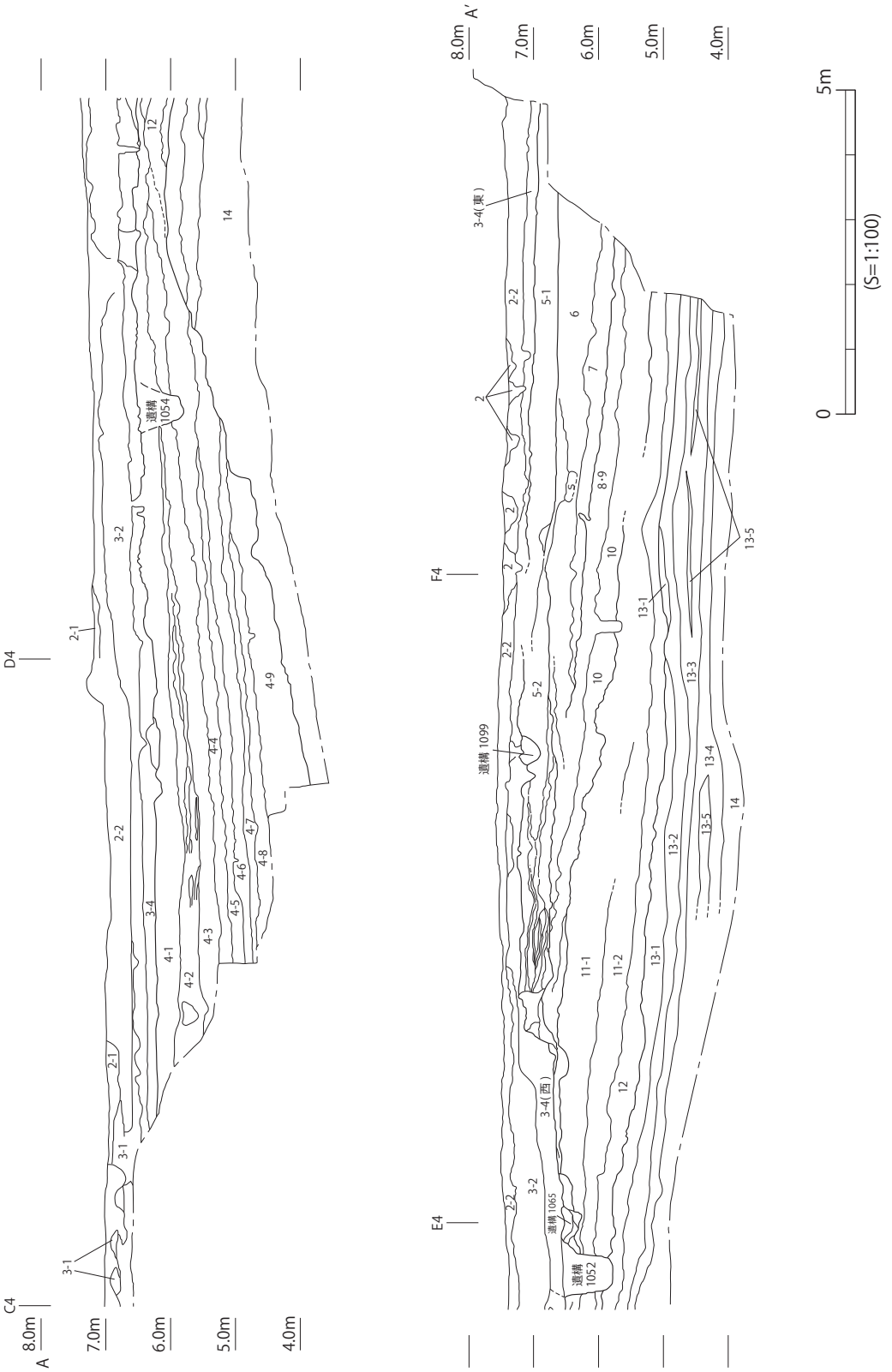
５．整理作業

遺構番号は、遺構の種別に関わらず検出した順に番号を付与することを基本方針とした。本来は、同一遺跡の中ですべて通し番号にすることが理想だったが、同時並行で複数の調査区を調査したことや１区を次年度に延長したことにより、部分的に重複が発生した。そのため報告での記載は巻頭の凡例のように整理した。

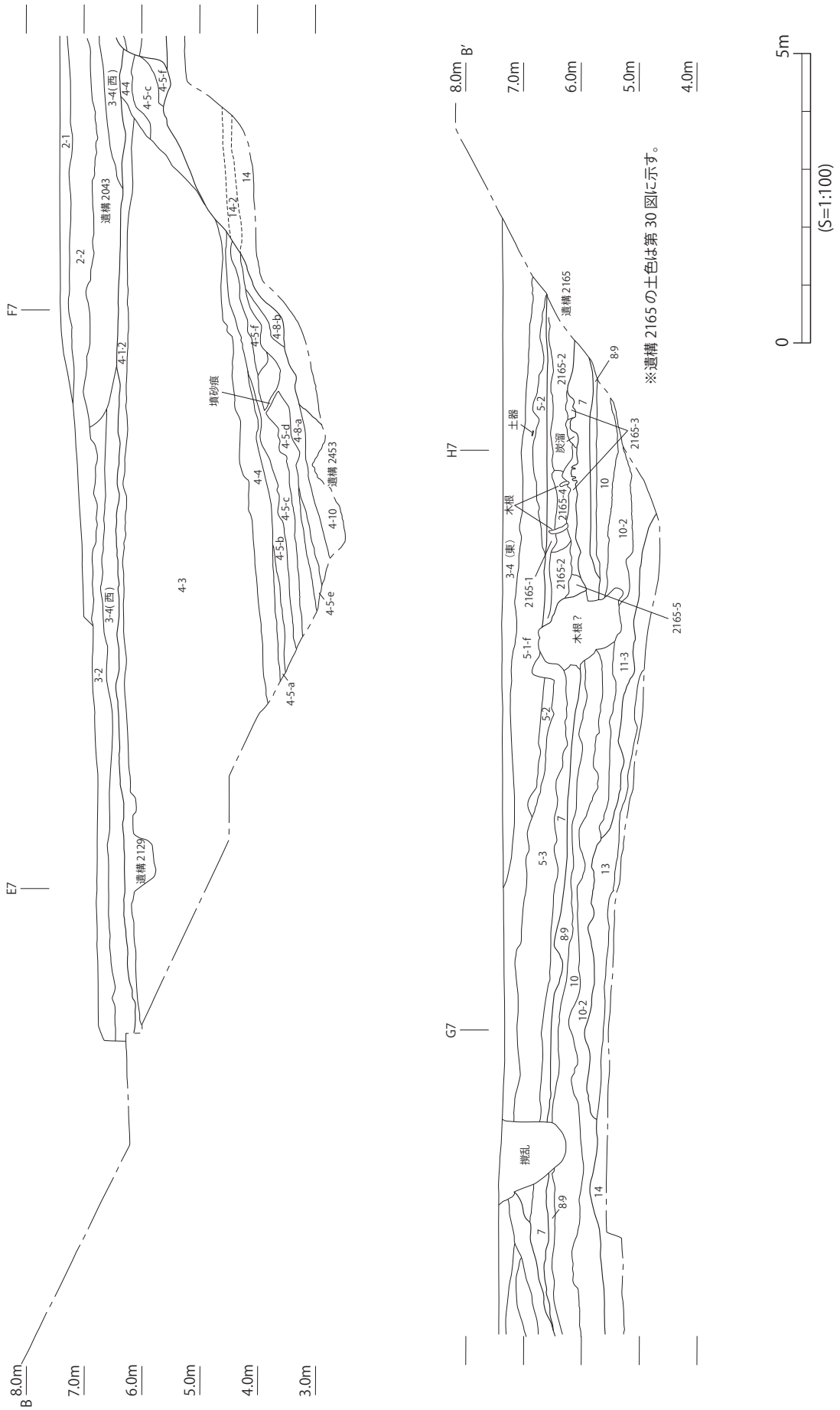


第 11 図　森原下ノ原遺跡の土層堆積模式図

出土遺物の整理は、以下のようにした。森原下ノ原遺跡は、複数の遺構面と包含層が確認され、堆積物のほとんどが江の川の河川活動に由来する。そのため各層に包含される遺物は時期幅をもっている場合が多いが、各層の堆積時期は概ね想定可能であった。そこで、層位を超えて出土遺物を時代でまとめる方法は採らず、層ごとに出土遺物を整理し、報告することとした。出土遺物を出土層位に分けたうえで分類し、遺構出土の遺物と各層の代表的な遺物を実測・撮影した。非掲載遺物



第 12 図　4 ライン土層図



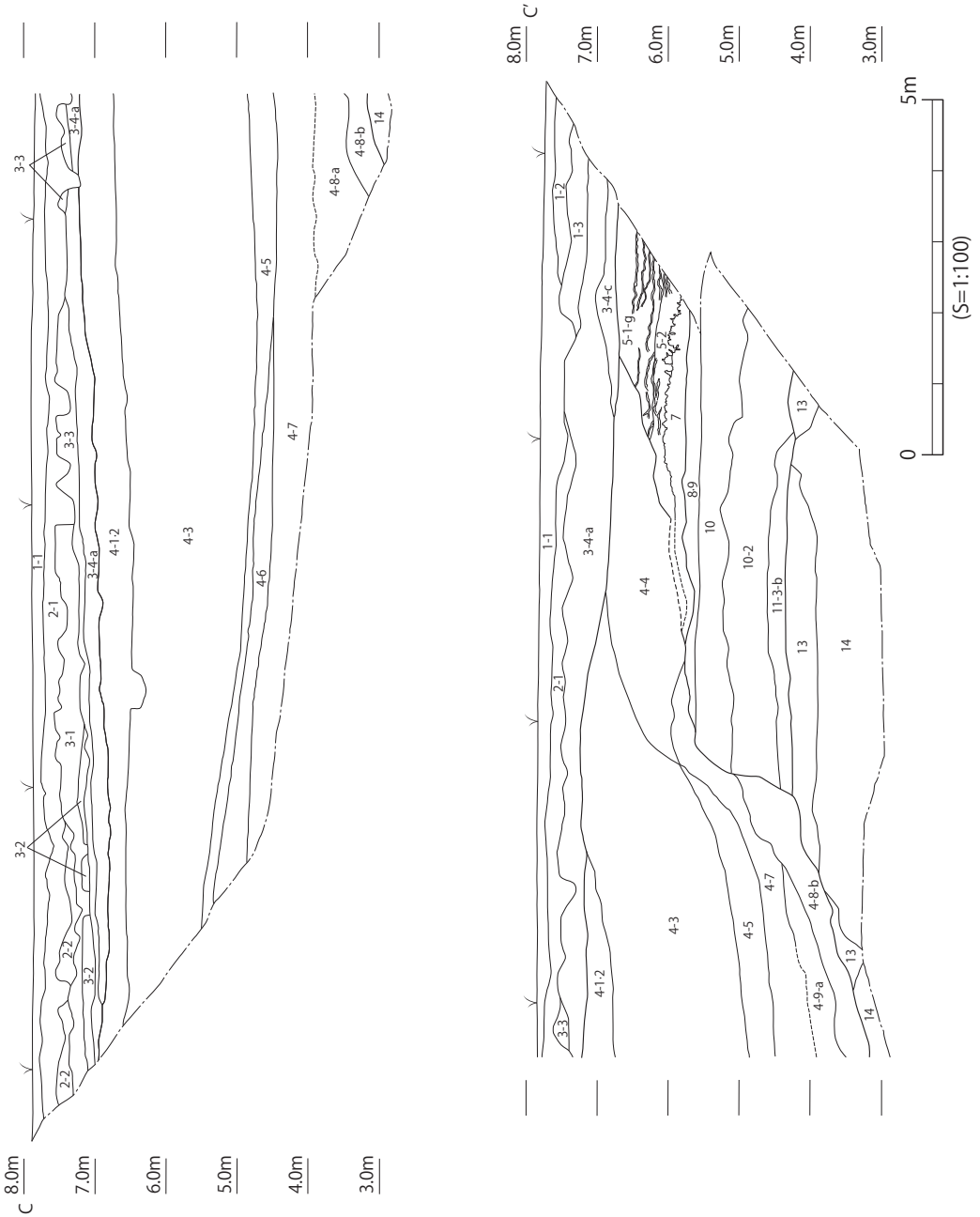
第 13 図　7 ライン土層図

については、層ごとの遺物量をコンテナ箱数によって算出した。さらに各層の中で特徴的なまとまりのある時期の遺物については必要に応じてさらに細かな分類・分析をおこなった。

報告書作成はDTP方式を採用し、遺物・遺構の図面をデジタルトレースしたうえでレイアウトをおこなった。デジタルトレースや図の加工はAdobe社のIllustratorCC、PhotoshopCCを用いた。遺構・遺物写真はデジタルカメラで撮影した後、PhotoshopCCを用いて階調、コントラストの調整をおこない掲載した。最終的な原稿執筆、編集作業はIndesignCCを用いておこなった。

第２節　基本層序

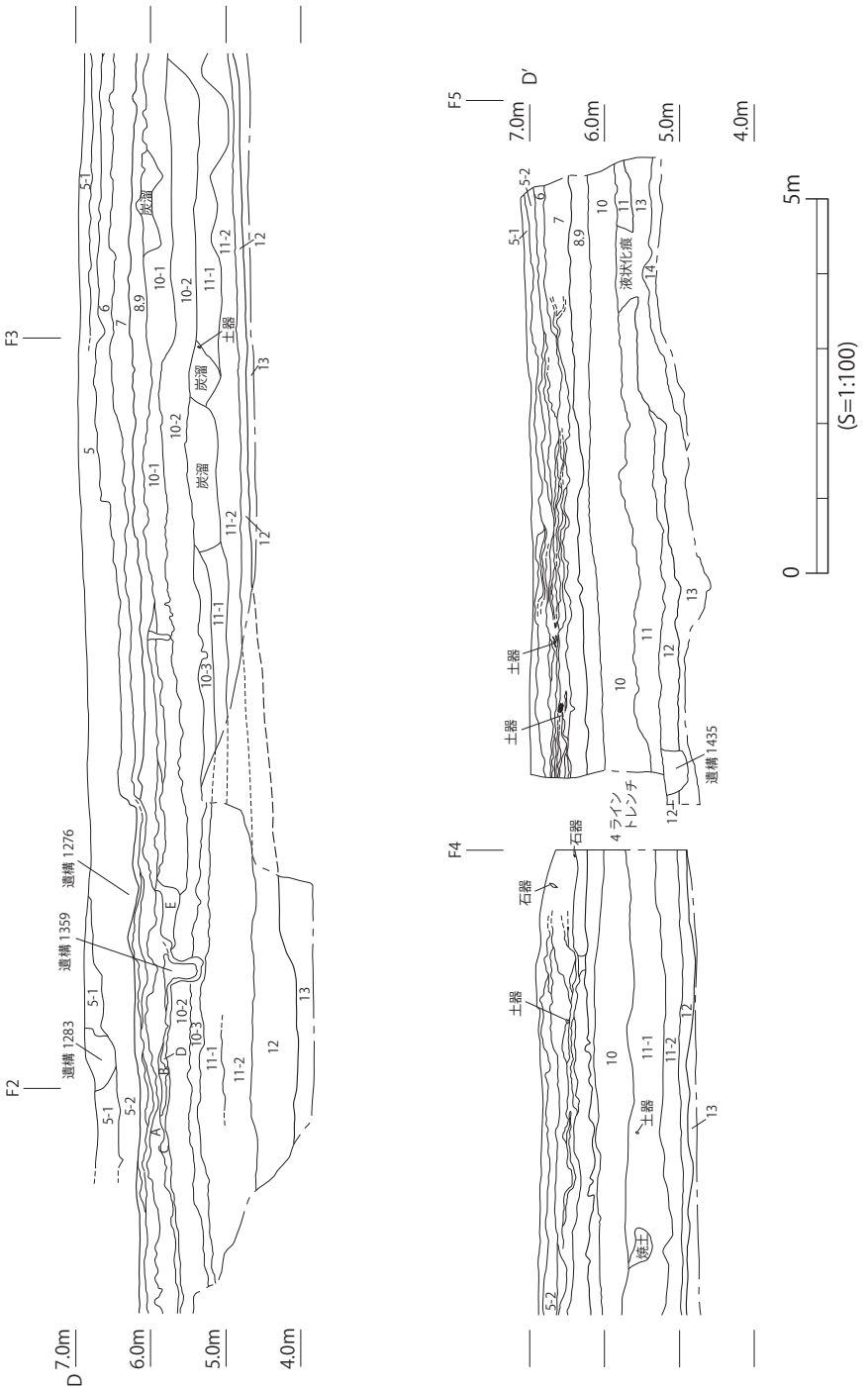
土層観察は、各調査区の東西南北の壁、およびグリッドラインに合わせて設定した土層観察用ベルトでおこなった。１区では４ラインで東西方向、Ｆラインで南北方向、２区では７ラインで東西方向、Ｆラインで南北方向の土層観察をおこなった。なお、今回報告する１～３区では基本的に一



第 14 図　３区北壁土層図

連の層序・堆積が確認できたため、全体で層番号を統一している。基本層序は1～14層までに分けられ、その中での細分できる場合は枝番号を付与した。基本層序に当てはまらない層は大文字のアルファベットで表記している。

森原下ノ原遺跡は縄文時代中期から近世までの遺構・遺物が重層的に発見された複合遺跡である。縄文時代から古墳時代中期までは比較的安定した環境であったようで、それぞれの遺構面で集落に関わる遺構が検出されている。しかし、その後平安時代頃に当時の江の川の河川活動（大規模な洪水もしくは流路の変更など）の影響で調査区の西側が大きく削られており、その範囲は1区がもっとも狭く、3区にかけて広くなる。これによって西低東高の地形が形成され、比較的短時間で再び流水のない環境に戻ったようである。その後、中世前半は耕作などの人の活動や小規模な氾濫による再



第15図　Fライン土層図

※遺構 2199 の土色は第 33 図、遺構 2165 の土色は第 30 図に示す。

第 16 図　２区東壁土層図

堆積によりこの地形が次第に埋没し、室町時代頃に再びほぼ元の地形に近い状態に戻ったと考えられる。この段階で複数の建物が並ぶ遺構面を検出している。近世以降は基本的に耕作地や鍛冶作業の場として利用されたようだが、氾濫による埋没を複数回受けており、現代までそれが続いたようである。以上のような遺跡の変遷をもとに、森原下ノ原遺跡の基本層序を示す（第11図）。

【森原下ノ原遺跡の基本層序】

1層　表土　　2層　近世から近現代の耕作土　　3層　近世の耕作土と氾濫堆積

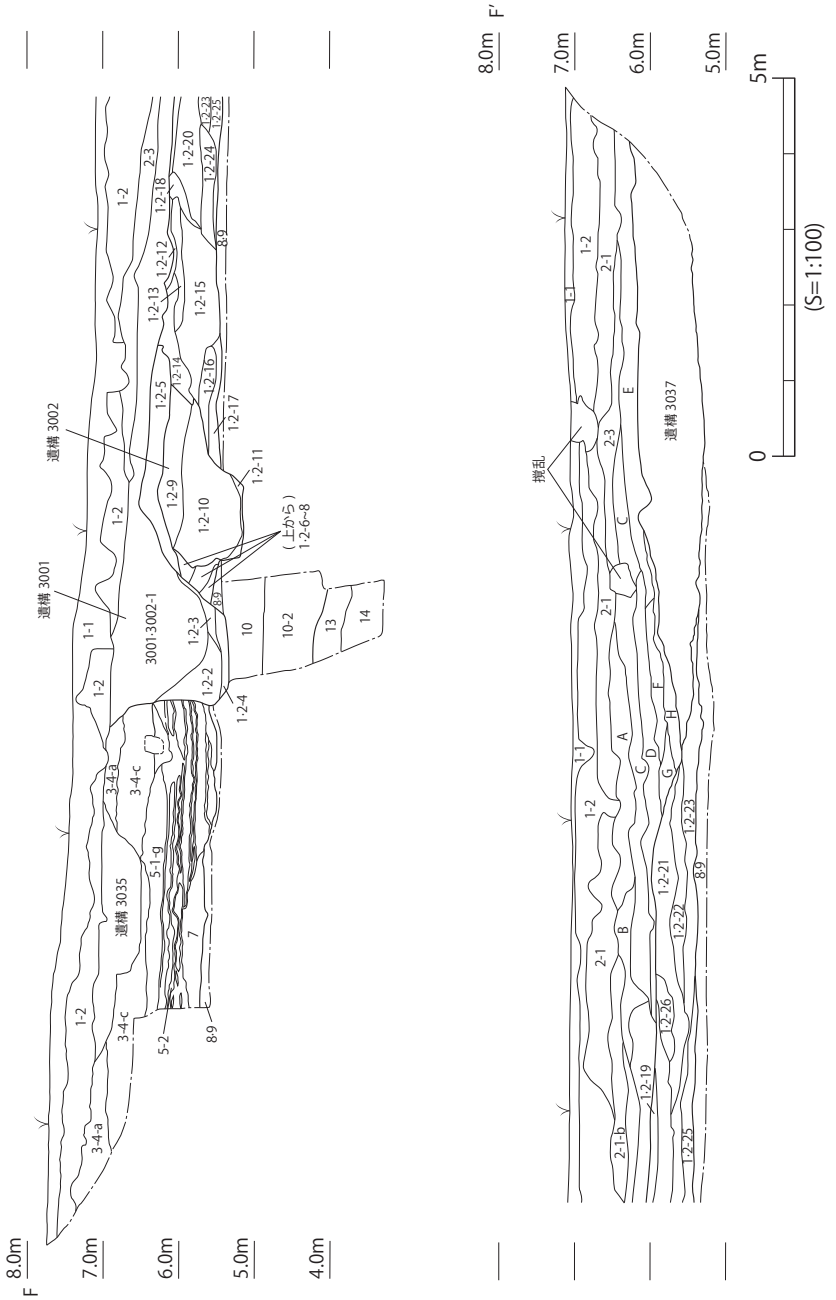
4層　平安時代頃の河川活動による浸食後の再堆積

5層　弥生時代中期から古墳時代中期を中心とする包含層

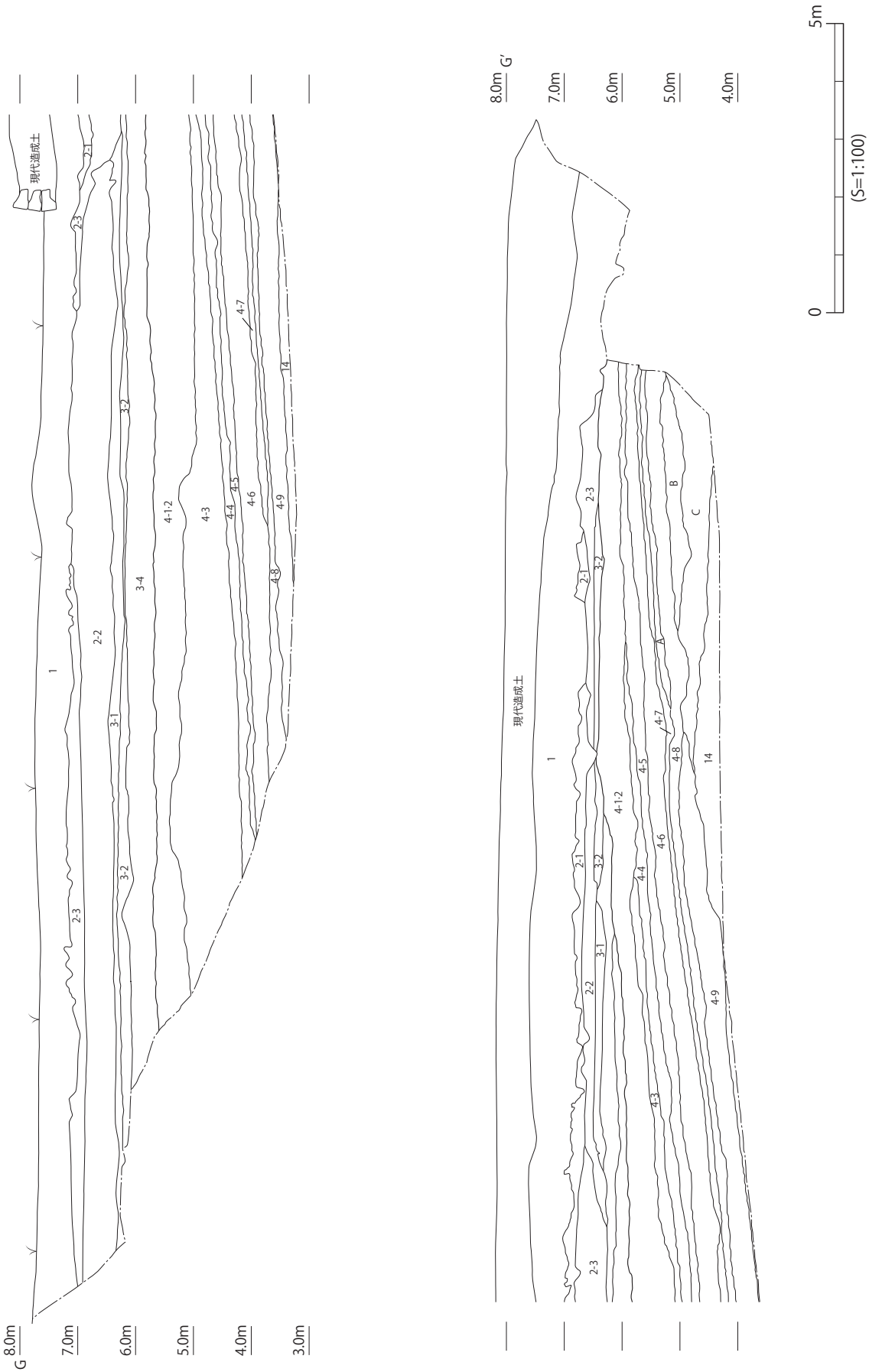
6層　弥生時代前期の包含層　　7層　弥生時代晩期から弥生時代前期の氾濫堆積

8～10層　縄文時代晩期の湿地状堆積　　11層　縄文時代後期の包含層

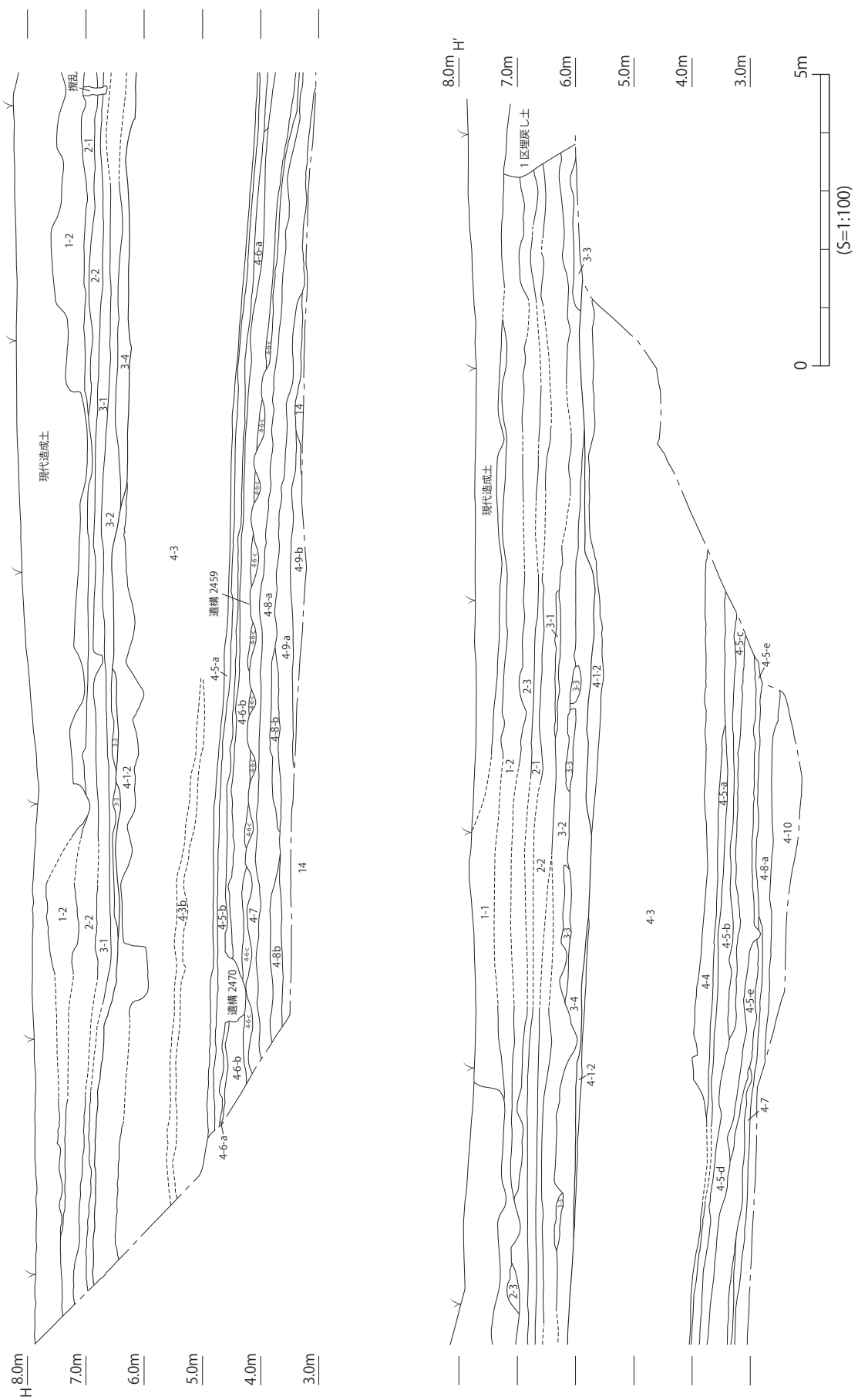
12層　縄文時代中期の包含層　　13・14層　無遺物層



第 17 図　3区東壁土層図



第 18 図　１区西壁土層図



第 19 図　2区西壁土層図

○７ライン
2-1. 褐色砂質土（10YR4/4）キメが細かく滑らか。
2-2. 褐色砂質土（10YR4/4）耕作土。
3-2. にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）径 2cm の礫や 3mm 程度の砂礫を含む。
地震による細い帯状液状化痕跡がみられる。近世の畑を形成する。
3-4(西). にぶい黄褐色砂（10YR5/4）3-2 層より粒が細かく、色調が明るい。
3-4(東). にぶい黄褐色砂（10YR5/4）分級が悪くしまり弱い。氾濫堆積層。
4-1·2. 暗褐色砂質土（10YR3/4）２区では１区よりも厚みがなくしまりも弱い。
この傾向は北側から南側へ向かって顕著になる。中世後半の遺構面。
4-3. にぶい黄褐色砂（10YR5/4）非常に粒子の粗い氾濫堆積層。
4-4. 暗オリーブ褐色シルト（2.5Y3/3）炭片含む。
4-5-a. 黒褐色砂質土（10YR3/2）しまり強い、粘性強い。4-5-b 層の土壌化。炭を含む。
4-5-b. にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）しまり強い、粘性強い。炭を少し含む。
4-5-c. にぶい黄褐色シルト（10YR4/3）しまり強い、粘性強い。
２区北側の深く落ち込んだ部分にのみ堆積。
4-5-d. 細粒砂混じりにぶい黄褐色シルト（10YR5/4）しまり強い、粘性強い。上下層との漸移層。
4-5-e. にぶい黄褐色砂（10YR5/4）しまり弱い、粘性弱い。
２区北側の深く落ち込んだ部分にのみ堆積。
4-5-f. 褐色砂質土（10YR4/4）炭を含む。
4-8-a. にぶい黄褐色砂質土（10YR5/3）しまり弱い、粘性弱い。耕作土の一部か。
4-8-b. にぶい黄褐色砂質土（10YR5/3）しまり弱い、粘性弱い。部分的な堆積。
4-10. にぶい黄褐色砂（10YR6/4）しまり弱い、粘性弱い。
２区北側の深く落ち込んだ部分にのみ堆積。均質で混じり気のないきれいな砂
5-1-f. 暗褐色砂質土（10YR3/4）しまり強い、粘性やや弱い。
5-2. 黒褐色砂質土（10YR3/2）しまりやや強い、粘性やや弱い。炭を含む。
本遺跡で最も多くの土器が出土した包含層。
5-3. 褐色細・中礫混じり砂（10YR4/4）しまりが弱く崩れやすい。
２区のみでみられる。
7. 褐色砂（10YR4/4）しまり弱い。逆級化構造を確認、氾濫堆積層。
8·9. 極細粒砂混じり暗褐色シルト～粘土（10YR3/3）しまり非常に強い、粘性非常に強い。
安定自然堆積。
10. にぶい黄褐色シルト～粘土（10YR4/3）しまり非常に強い、粘性非常に強い。
安定自然堆積。
10-2. 暗褐色砂質土（10YR3/4）10 層に比べ、しまりと粘性が弱い。安定自然堆積。
11-3. にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）12 層と似るが、しまりと粘性が強い。
13. にぶい黄褐色砂（10YR4/3）しまり弱い。層内に脈状の薄層が挟まる。無遺物。
14. にぶい黄褐色砂（10YR5/4）しまり弱い、粘性弱い。無遺物。
14-2. 褐色砂（10YR4/4）しまり弱い、粘性弱い。無遺物。

○４ライン
2-1. 暗褐色砂質土（10YR3/3）しまり強く草木の根を多く含む、耕作土。
2-2. にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）耕作土か。
3-1. 黄褐色砂（2.5Y5/3）しまり非常に弱い、氾濫堆積。
3-2. 暗褐色砂質土（10YR3/4）しまり・粘性やや強い、近世の遺構面１。
3-4. にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）しまり・粘性弱い、近世の遺構面２。
4-1. 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）炭粒・焼土粒を含む。中世後半の遺構面。
4-2. 黒褐色砂質土 (10YR3/2) しまり非常に強い、炭粒を含む。
4-3. にぶい黄褐色砂（10YR5/4）しまり非常に弱い、氾濫堆積。
4-4. にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）しまり強い、炭を含む。
4-5. にぶい黄褐色砂（10YR5/4）しまり弱い、氾濫堆積。
4-6. にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）しまり弱い、粘性弱い。
4-7. 黒褐色砂質土（10YR3/4）しまり強い、炭を含む。
4-8. にぶい黄褐色粘質土～粘土（10YR4/3）しまり非常に強い、西方ほどしまり強い。
4-9. 暗褐色砂質土（10YR3/3）若干炭を含む。
5-1. 黒褐色砂質土（10YR5/2）しまり強い、ブロック状に色調が異なる。
5-2. 褐灰色砂質土（10YR4/1）しまり強い、ブロック状に色調が異なる。
6. 褐灰色粘質土（10YR4/1）しまり非常に強い、焼土・炭粒を含む。弥生時代～古墳時代の遺構面。
7. 浅黄色砂（2.5Y7/4）しまり非常に弱い、逆級化構造あり、氾濫堆積。
8·9. 暗褐色粘質土～粘土（10YR3/3）しまり・粘性非常に強い、自然安定堆積。
10. にぶい橙色粘質土～粘土（10YR5/4）しまり・粘性非常に強い、粘土ブロック・炭粒を含む。自然安定堆積。
11-1. にぶい黄橙色砂（10YR6/4）しまり・粘性弱い、縄文時代遺構面。
11-2. にぶい黄橙色砂（10YR6/4）しまり・粘性弱い、平面では 11-1 層と区別困難。
12. 明黄褐色粘質土（10YR7/6）しまり強い、縄文時代遺構面。
13. 淡黄色砂～粘質土（2.5Y8/3）しまり・粘性弱い、無遺物層、流水により砂（13-1・3・5）と粘質土（13-2・4）が互層状に堆積
14. 灰オリーブ砂（5Y5/2）無遺物層、約 1,9000 年前の三瓶山噴出物である軽石粒を多く含む。

○３区北壁
1. にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）しまり強い、粘性弱い。炭含む。表土。
1-2. にぶい黄褐色砂質土（10YR5/3）しまり強い、粘性弱い。炭含む。
1-3. にぶい黄褐色砂質土（10YR5/4）しまり強い、粘性弱い。炭含む。
2-1. にぶい黄褐色砂質土（10YR5/4）しまり強い、粘性弱い。耕作土。
2-2. にぶい黄褐色砂質土（10YR5/3）しまり弱い、粘性弱い。
3-1. 黄褐色砂（2.5Y5/3）しまり非常に弱い、氾濫堆積。
3-2. 暗褐色砂質土（10YR3/4）しまり・粘性やや強い、近世の遺構面１。
3-3. 巨礫混じりにぶい黄褐色砂（10YR5/4）巨礫は丸みを帯びた川原石。氾濫堆積層。
3-4-a. にぶい黄褐色砂（10YR5/4）しまり弱い、粘性弱い。
3-4-c. にぶい黄褐色砂（10YR5/3）しまり非常に弱い、粘性非常に弱い。
4-1·2. 暗褐色砂質土（10YR3/4）１区では厚く堆積するが、２区では非常に薄い。中世後半の遺構面。
4-3. にぶい黄褐色砂（10YR5/4）１区では薄いが、２・３区では厚く堆積する。大規模な氾濫堆積層。
4-4. にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）しまりやや強い、粘性弱い。
4-5. 暗褐色砂質土～シルト（10YR3/4）しまり強い、粘性やや強い。
4-6. にぶい黄褐色砂（10YR5/3）しまり弱い、粘性弱い。氾濫堆積層。
4-7. にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）しまりやや強い、粘性やや強い。
4-8-a. にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）しまり弱い、粘性強い。炭をわずかに含む。
4-8-b. 暗褐色粘質土（10YR3/4）しまり弱い、粘性強い。炭を含む。
5-1-g. 暗褐色砂質土（10YR3/4）しまりやや強い、粘性やや弱い。明瞭な脈状堆積あり。
5-2. 黒褐色砂質土（10YR3/2）しまりやや強い、粘性やや弱い。炭含む。明瞭な脈状堆積あり。
7. 褐色砂（10YR4/4）しまり弱い、粘性弱い。逆級化構造を確認。氾濫堆積層。
8·9. にぶい黄褐色粘土（10YR4/3）しまり非常に強い、粘性非常に強い。安定自然堆積。
10. 暗褐色粘土（10YR3/3）しまり非常に強い、粘性非常に強い。安定自然堆積。
10-2. にぶい黄褐色粘土（10YR4/3）しまり強い、粘性強い。
11-3-b. 褐色砂質土～シルト（10YR4/4）しまり強い、粘性強い。
13. 褐色砂質土（10YR4/4）無遺物。
14. 灰オリーブ砂（5Y5/2）非常に均一な砂。無遺物。

第 21 図　森原下ノ原遺跡土層注記（南北）

○西壁

1-1. 細礫混じり黒褐色砂質土（2.5Y3/2）しまり非常に強い。表土。
1-2. 暗褐色砂質土（10YR3/4）しまり弱い。表土。
2-1. にぶい黄褐色砂（10YR5/4）しまり弱い。乾燥すると白色化する。氾濫堆積層。
2-2. にぶい黄褐色砂質土（10YR5/4）細い脈状堆積あり。耕作土。
2-3. にぶい黄褐色砂（10YR6/3）氾濫堆積層。
3-1. にぶい黄褐色砂（10YR5/4）氾濫堆積層。
3-2. 中礫混じり褐色砂質土（10YR4/4）しまり・粘性やや強い、近世の遺構面１。
3-3. 巨礫混じりにぶい黄褐色砂（10YR5/4）巨礫は丸みを帯びた川原石。氾濫堆積層。
3-4. にぶい黄褐色砂質土（10YR3/4）しまり・粘性弱い、近世の遺構面２。
4-1-2. 暗褐色砂質土（10YR3/4）１区では厚く堆積するが、２区では非常に薄い。中世後半の遺構面。
4-3. にぶい黄褐色砂（10YR5/4）１区では薄いが、２・３区では厚く堆積する。大規模な氾濫堆積層。
4-3-b. にぶい黄褐色砂（10YR5/4）4-3 層中の間層。途中で追えなくなる。
4-4. にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）しまりやや強い、粘性弱い。２区の北側以北に堆積。
4-5. にぶい黄褐色砂（10YR5/4）しまり弱い、氾濫堆積。
4-5-a. 黒褐色砂質土（10YR3/2）しまり強い、粘性弱い、炭を少し含む。
4-5-b. にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）しまり強い、粘性強い。炭を少し含む。
4-5-c. にぶい黄褐色粘質土（10YR4/3）しまり強い、粘性強い。２区北側に部分的に堆積。
4-5-d. 細粒砂混じりにぶい黄褐色粘質土（10YR5/4）しまり強い、粘性強い。上下層との漸移層。
4-5-e. にぶい黄褐色砂質土（10YR5/4）しまり弱い、粘性弱い。２区北側に部分的に堆積。
4-6. にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）しまり弱い、粘性弱い。
4-6-a. にぶい黄褐色砂（10YR5/4）しまり弱い、粘性弱い。上下層との漸移層。
4-6-b. にぶい黄褐色砂（10YR6/4）しまり弱い、粘性弱い。逆級化構造あり。氾濫堆積層。
4-6-c. にぶい黄褐色砂（10YR5/4）4-6-b 層と一体の氾濫堆積層。
4-7. にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）しまりやや強い、粘性やや強い。遺構 2459 畑を形成する耕作土。
4-8. にぶい黄褐色粘質土～粘土（10YR4/3）しまり非常に強い、西方ほどしまり強い。
4-8-a. にぶい黄褐色砂質土（10YR5/3）しまり弱い、粘性弱い。
4-8-b. にぶい黄褐色砂（10YR5/3）しまり弱い、粘性弱い。
4-9. 暗褐色砂質土（10YR3/3）若干炭を含む。
4-9-a. 細礫混じり砂（10YR4/3）しまり弱い、粘性弱い。14 層と類似、河川堆積か。
4-9-b. 細礫・粗粒砂混じり灰黄褐色粘質土（10YR5/2）しまり弱い、粘性弱い。14 層が削られたものか。
4-10. にぶい黄褐色砂（10YR6/4）しまり弱い、粘性弱い。２区北側に部分的に堆積。
14. 灰オリーブ砂（5Y5/2）無遺物層、約 1,9000 年前の三瓶山噴出物である軽石粒を多く含む。

A. にぶい黄褐色粘質土（10YR4/3）しまり強い。粘土ブロックを含む。
B. にぶい黄褐色砂（10YR5/3）しまり弱い、粘性弱い。氾濫堆積層か。
C. にぶい黄褐色砂質土（10YR5/4）しまり弱い。

○F ライン

5-1. 黒褐色砂質土（10YR5/2）しまり強い、ブロック状に色調が異なる。
5-2. 褐灰色砂質土（10YR4/1）しまり強い、ブロック状に色調が異なる。
6. 褐灰色砂質土（10YR4/1）しまり非常に強い。焼土・炭粒を含む。弥生時代～古墳時代の遺構面。
7. 浅黄色砂（2.5Y7/4）しまり非常に弱い。逆級化構造あり、氾濫堆積。
8-9. 暗褐色シルト～粘土（10YR3/3）しまり・粘性非常に強い、自然安定堆積。
10. にぶい橙色シルト～粘土（10YR5/4）しまり・粘性非常に強い。粘土ブロック・炭粒を含む。自然安定堆積。
10-1. 褐色粘土（10YR4/4）しまり・粘性非常に強い。
10-2. にぶい黄褐色粘土（10YR4/3）10-1 よりもやや暗い。
10-3. 褐色粘土混じり細粒砂（10YR4/4）10 層から 11 層にかけての漸移層。
11-1. にぶい黄橙色砂（10YR6/4）しまり・粘性弱い。縄文時代遺構面。
11-2. にぶい黄橙色砂（10YR6/4）しまり・粘性弱い。平面では 11-1 層と区別困難。
12. 明黄褐色シルト（10YR7/6）しまり強い、縄文時代遺構面。
13. 淡黄色砂～シルト（2.5Y8/3）しまり・粘性弱い、無遺物層。
流水により砂（13-1・3・5）とシルト（13-2・4）が互層状に堆積
14. 灰オリーブ砂（5Y5/2）無遺物層。約 1,9000 年前の三瓶山噴出物である軽石粒を多く含む。

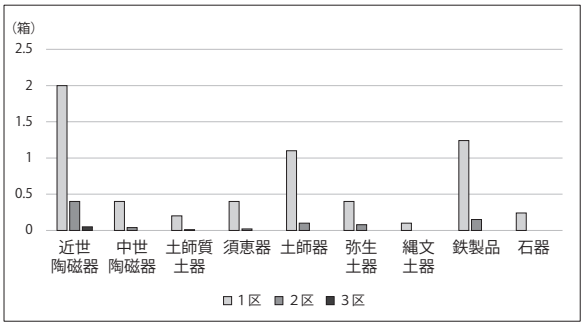
A. 灰黄色砂質土（2.5Y6/2）
B. 黄灰色砂質土（2.5Y4/1）しまり強く硬質。炭化物多く含む。
C. 明黄褐色砂～粘土（2.5Y7/6）しまり非常に強い。
D. にぶい黄色砂質土（2.5Y6/4）基本層序 10 層が風化したような層。
E. にぶい黄褐色砂質土（10YR7/4）しまり非常に弱い。

○東壁

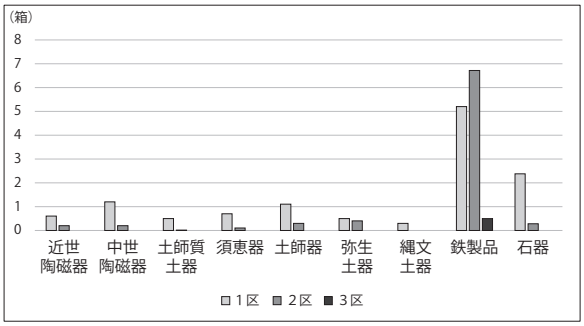
1. にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）しまり強い、粘性弱い。炭含む。表土。
1-2. にぶい黄褐色砂質土（10YR5/3）しまり強い、粘性弱い。炭含む。
1-3. にぶい黄褐色砂質土（10YR5/4）しまり強い、粘性弱い。炭含む。
2-1. にぶい黄褐色砂質土（10YR5/4）しまり強い、粘性弱い。耕作土。
2-1-B. にぶい黄褐色砂質土（10YR5/4）しまりやや弱い、粘性弱い。2-2 層との漸移層。
2-2. にぶい黄褐色砂質土（10YR5/3）しまり弱い、粘性弱い。
3-4-a. にぶい黄褐色砂（10YR5/4）しまり弱い、粘性弱い。2-1 層との漸移層。
3-4-b. にぶい黄褐色砂（10YR4/3）しまりやや弱い、粘性弱い。５層などとの漸移層。
3-4-c. にぶい黄褐色砂（10YR5/3）しまり非常に弱い、粘性非常に弱い。3-4 層（東）と対応。
5-1-a. にぶい黄褐色～暗褐色砂質土（10YR3.5/3）しまりやや弱い、粘性やや弱い。3-4-c 層と 5-2 層との漸移層。
5-1-b. にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）しまりやや弱い、粘性やや弱い。5-2 層との漸移層。明瞭な脈状堆積あり。
5-1-c. にぶい黄褐色砂質土（10YR4.5/3）しまり弱い、粘性弱い。
5-1-d. にぶい黄褐色粘質土（10YR5/4）しまり強い、粘性やや強い。
5-1-e. にぶい黄褐色砂質土（10YR4.5/3）しまりやや弱い、粘性やや弱い。
5-1-f. 暗褐色砂質土（10YR3/4）しまり強い、粘性やや弱い。
5-1-g. にぶい黄褐色～暗褐色砂質土（10YR3.5/3）しまりやや強い、粘性やや弱い。明瞭な脈状堆積あり。
5-2. 黒褐色砂質土（10YR3/2）しまりやや強い、粘性やや弱い。炭含む。明瞭な脈状堆積あり。
5-2-b. 黒褐色砂質土（10YR2/3）しまり非常に強い、粘性やや弱い。焼土・炭を含む。
6. 暗褐色粘質土（10YR3/3）しまり強い、粘性やや強い。
7. 褐色砂（10YR4/4）しまり弱い。逆級化構造を確認、氾濫堆積層。
8-9. 極細粒砂混じり暗褐色シルト～粘土（10YR3/3）しまり非常に強い、粘性非常に強い。
安定自然堆積。
10. にぶい黄褐色シルト～粘土（10YR4/3）しまり非常に強い、粘性非常に強い。
安定自然堆積。
10-2. 暗褐色砂質土（10YR3/4）10 層に比べ、しまりと粘性が弱い。安定自然堆積。
11-2. にぶい黄褐色砂質土（10YR3.5/3）
11-3-a. にぶい黄褐色粘質土（10YR4.5/3）しまり強い、粘性強い。炭・白色の風化岩片含む。12 層に類似。
２区北側に部分的に堆積。
11-3-b. にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）しまり強い、粘性強い。
11-3-c. にぶい黄褐色砂（10YR4/3）しまり弱い、粘性弱い。14 層との漸移層か。
14. 灰オリーブ砂（5Y5/2）無遺物層、約 1,9000 年前の三瓶山噴出物である軽石粒を多く含む。

A. にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）しまり非常に強い。炭を含む。
B. 中粒砂混じり砂質土（10YR4/3）しまり弱い。炭を含む。耕作土か。
C. 褐色砂質土（10YR4/4）しまり弱い。炭を含む。崩れやすい。氾濫堆積層。
D. 中粒砂混じりにぶい黄褐色砂質土（10YR4）
E. 細粒砂混じりにぶい黄褐色シルト（10YR4/3）しまりやや弱い。
F. 細粒砂混じり褐色砂質土（10YR4/4）しまり非常に弱い。崩れやすい。氾濫堆積層。
G. 褐色砂質土（10YR4/4）炭を含む。
H. 粗粒砂混じり細粒砂（10YR4/3）遺構 3037 の埋土が土壌化した層。

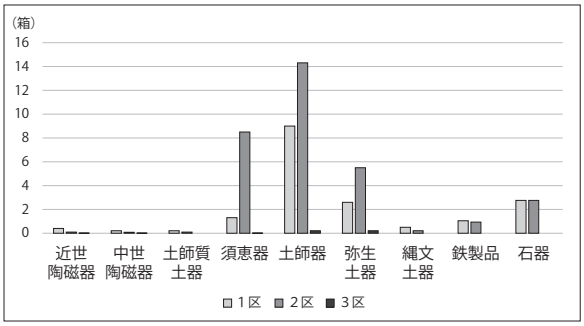
※算用数字は基本層序関連層、アルファベットは局所的な層



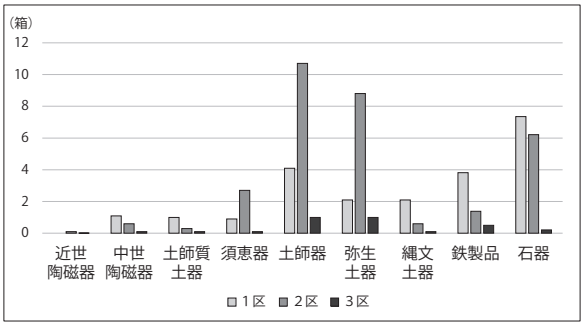
２層



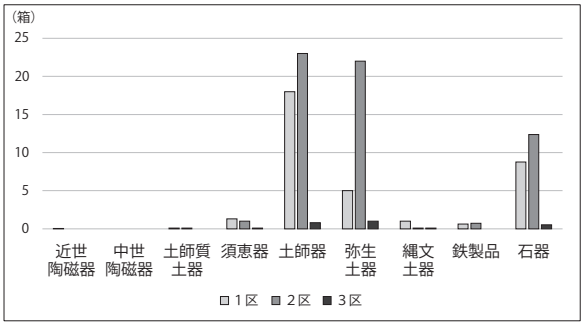
3-1 ～ 3-4 層（西側）



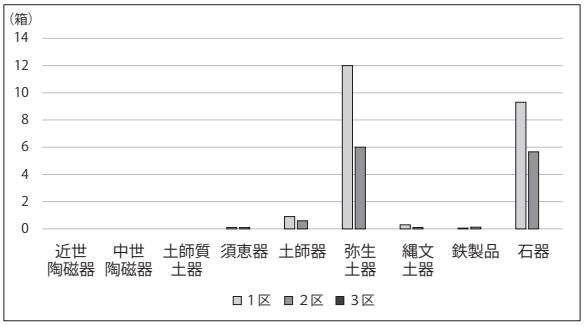
3-4 層（東側）



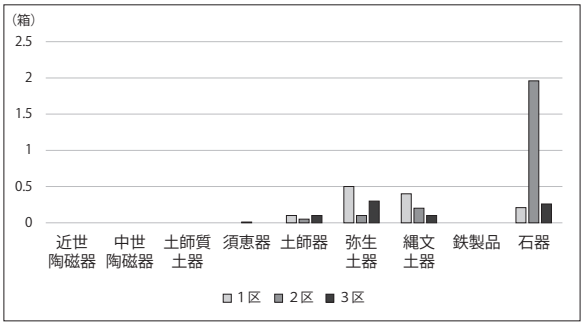
4,4-1 ～ 4-10 層



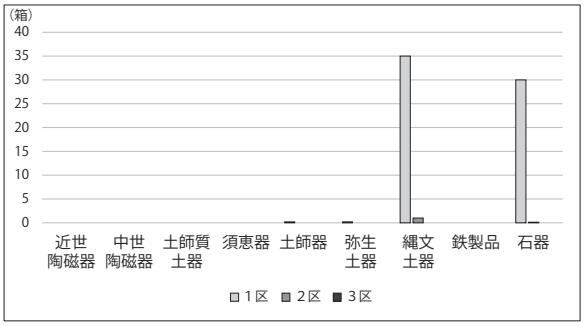
５層



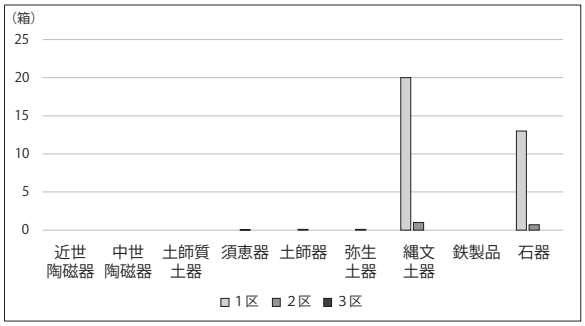
６·７層



８～ 10 層



11 層



12 層

第 22 図　森原下ノ原遺跡の層別遺物出土数

４層は河川活動によって削られた西側にのみみられ、中世後半の遺構はこの４層上面および東側の５層上面にまたがって検出した。３層は中世後半の遺構の上に堆積したもので、３－１層から３－４層に細分でき、耕作と氾濫堆積が繰り返されたことが判明した。ただ、これは調査区の西側でしか検出できておらず、東側では３－４層のみが堆積していた。５層はやや幅のある時期の包含層で、これを掘削した６層の上面で弥生時代後期から古墳時代中期の竪穴建物などの遺構を検出した。６層は平面的に調査区北側のみで限定的に確認された。新しい時期の遺物を若干含みつつ基本的には弥生時代前期の遺物で占められ、まとまりのある時期の包含層と考えられる。７層は１～３区の全体で確認でき、粒径が大きく逆級化構造が確認できたこと、遺物量が少ないことから短期間で堆積した氾濫堆積層である。８～10層は他の層に比べ粒径が小さくシルト質で、非常に固く締まっていた。厚い部分では１m以上の堆積がみられ、遺物量も少ないことから長期にわたって湿地状の環境が広がっていた可能性が高い。11層は縄文時代後期初頭・前葉の遺物を大量に包含しており、土層断面では２層に細分できたが、平面では違いを認識できなかった。粒径が大きく、堆積自体は流水の作用によるものと考えられるが、遺構も比較的多く検出しており、人の活動があった可能性が高い。12層は11層に比べると粒径が小さく締まりも良く、比較的容易に区別できた。遺物は小さな破片が多いものの、時期的なまとまりがみられた。２区では12層でも若干質の異なる層を確認し、当初12－２層としていたが、整理作業の中で縄文時代中期末の包含層であることが判明したため11－３層と改称した。これら縄文時代の包含層も６層と同様に調査区北側のみに限定されていた。13・14層は無遺物層であり、これより下層では人の活動痕跡は認められないと判断した。14層は灰オリーブ色を呈する粒径の大きい砂で識別は容易である。約１万９千年前に噴火した三瓶山の浮布軽石の粒状片を大量に含んでおり、上記の層序とも時期的な矛盾はない。

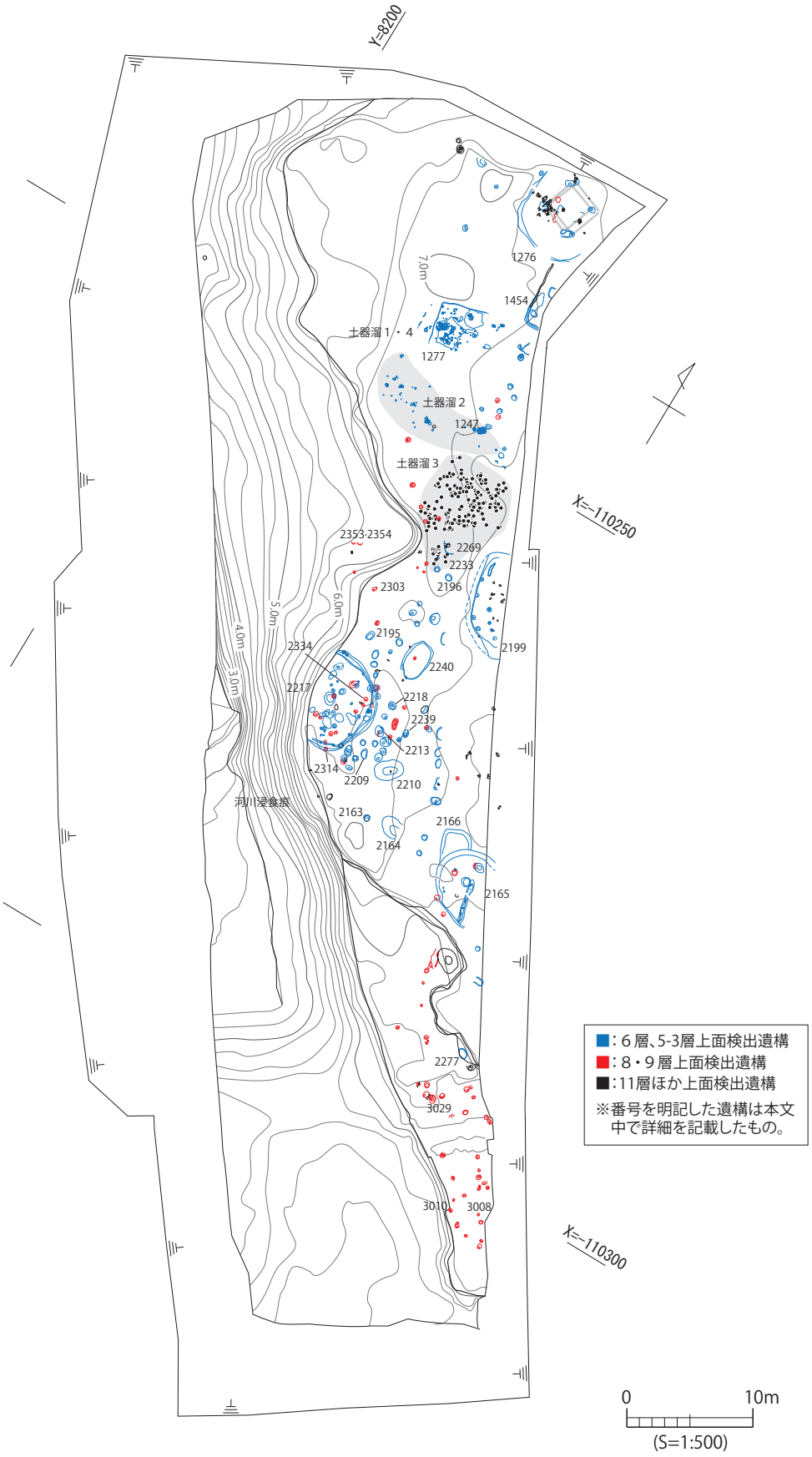
第３節　調査の成果

森原下ノ原遺跡では１～３区で基本的に一連の層序・堆積が確認でき、全体が一連の遺跡であると判断した。したがって、本報告では基本的に調査区の境界を取り払い、層ごとの出土遺物、各層の上面で検出した遺構を上から順番に報告する。一方で、遺構や遺物の分布および量が調査区で明瞭に分かれる場合があり、便宜的に調査区名を使用して説明することもある。

まず、遺跡全体における層ごとの遺物出土数をコンテナ箱（長さ58.5cm、幅38.5cm、深さ15.5cm）の数で示す（第22図）。全体として３区の遺物出土量が極めて少ない。これは後述の遺構の濃淡にも対応しており、河川浸食が３区の広い範囲に及んでいたことが主な原因であるが、そもそも３区付近には遺構や包含層が希薄であった可能性もある。２～５層は『古代～近世編』で報告している。６・７層は弥生土器と石器にほぼ限られ、多くが弥生前期の土器と磨製石斧の未成品である。８～10層は全体的な遺物出土量自体が極端に減る。この層の堆積時期には周辺で人間の活動がほとんどなかったことを示す。11層と12層は縄文土器と石器にほぼ限られ、11層が縄文時代後期、12層が縄文時代中期を中心とする。11層では磨製石斧の未成品が大量に出土している。

１．６層、８・９層上面の遺構

『古代～近世編』で報告した５層では弥生時代中期から古墳時代中期を中心とする土器が大量に出土したが、これを掘削した６層上面、およびさらに下層の８・９層上面で検出した遺構群である。

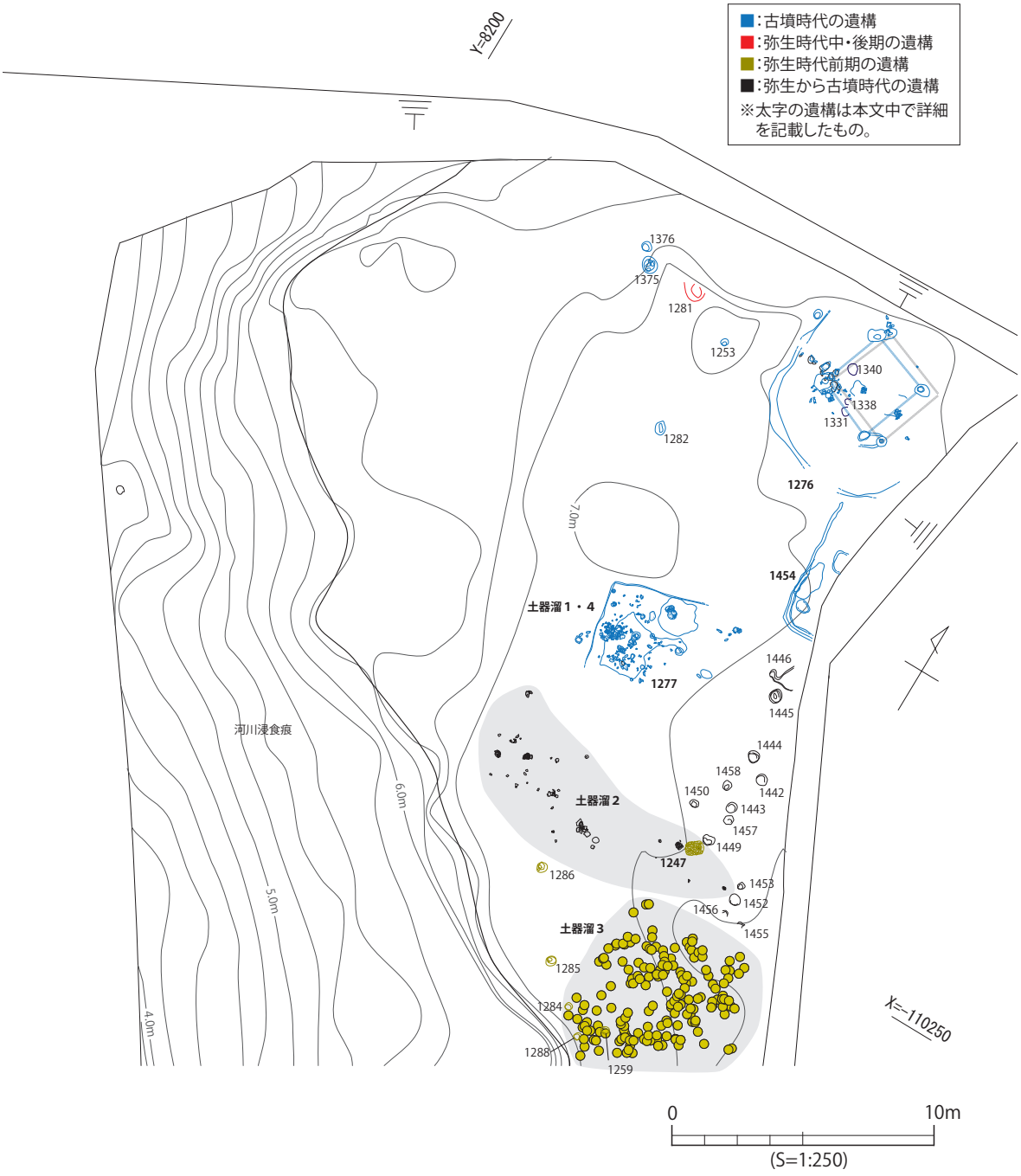


第 23 図　弥生時代前期～古墳時代中期の遺構配置（6 層、8・9 層上面）

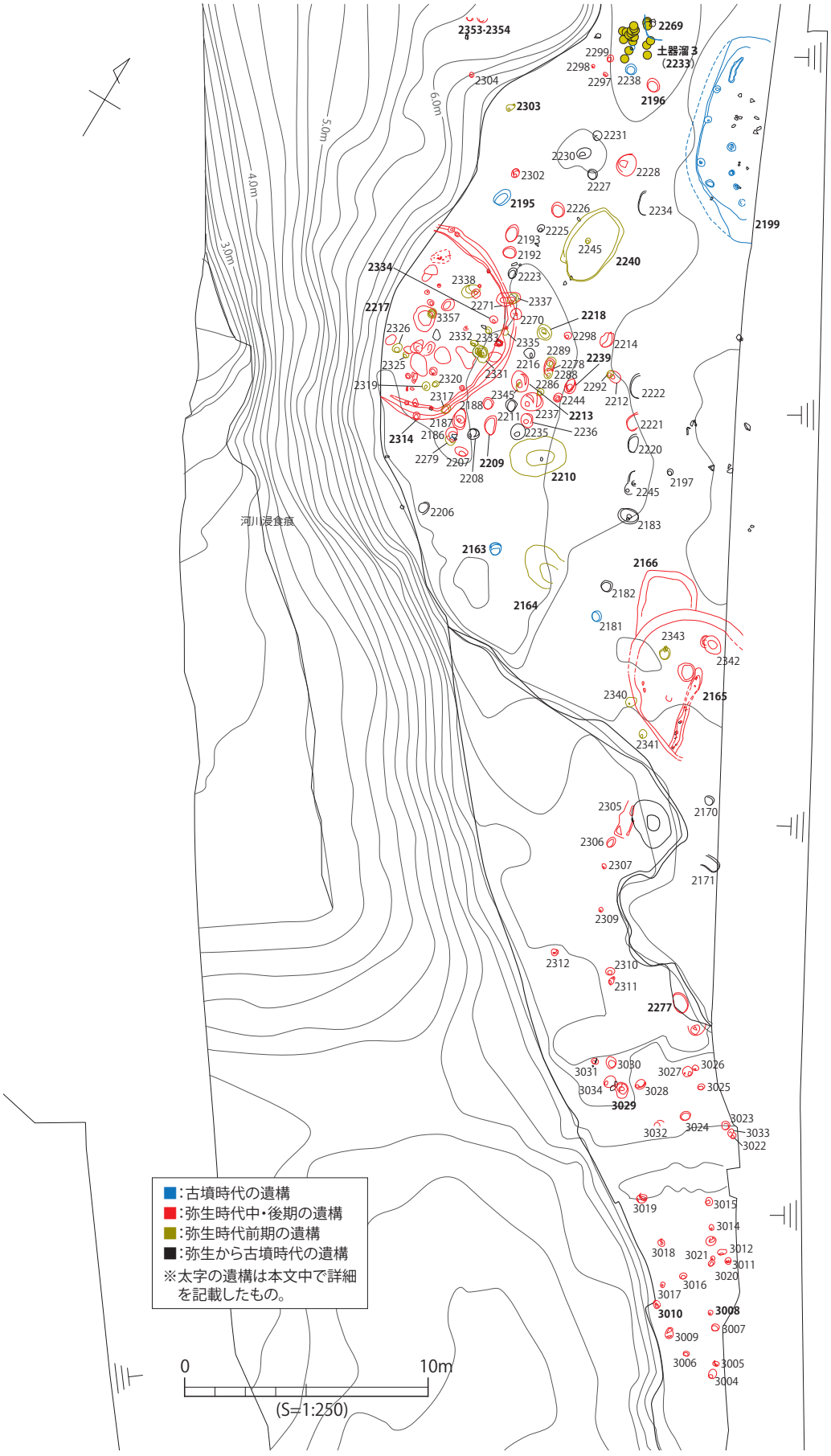
これらの遺構は弥生時代前期から古墳時代中期までの時期幅をもつが、同一面で時期の異なる遺構を検出したこと、地点によって当時の地形などの影響も含めて検出面と遺構の時期の対応関係がとれないこと、すべての遺構から遺物が出土しているわけではなく時期の判断ができないことなどの理由からまとめて遺構配置を示した（第23 ～ 25図）。法量など、詳細は第28表に掲載した。

遺構 2217 竪穴建物（第 26 ～ 28 図、図版２・20 ～ 22）

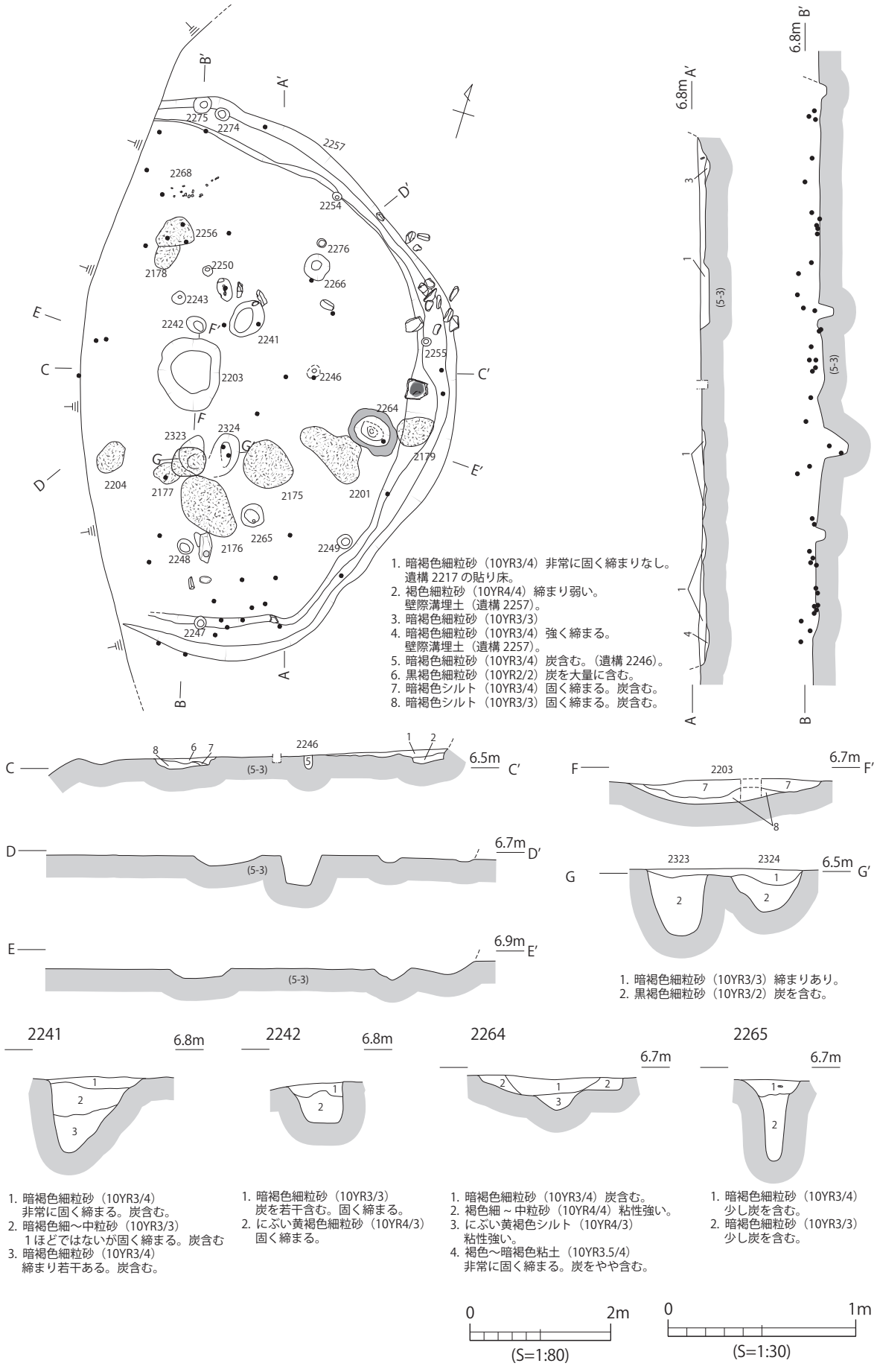
自然堤防の高まり部分で検出した。遺構の存在に気付く前から、この一帯だけ土層がやや暗く炭混じりであり、周囲に比べて古い遺物が出土することから遺物を他と区別して取り上げていた。そ



第 24 図　弥生時代前期～古墳時代中期の遺構配置（１区部分）



第 25 図　弥生時代前期～古墳時代中期の遺構配置（２・３区部分）



第 26 図　遺構 2217 竪穴建物

の後竪穴建物のプランを確認したため、おそらくこの段階で埋土を掘削してしまっていたものと思われる。本遺構は平安時代頃の河川浸食によって西側約３分の１が削られている。形態はややいびつな円形もしくは多角形で、南北の直径は約８ｍである。上記のとおり床面近くで検出したため深さはほとんどない。検出前に取り上げた遺物の高さを参考にすれば、30cmほどは掘り込みが残っていた可能性がある。なお、遺構2175 ～ 2179炭溜はこの埋土と思われる土層を掘削中に検出したものであり、床面からは浮いている。

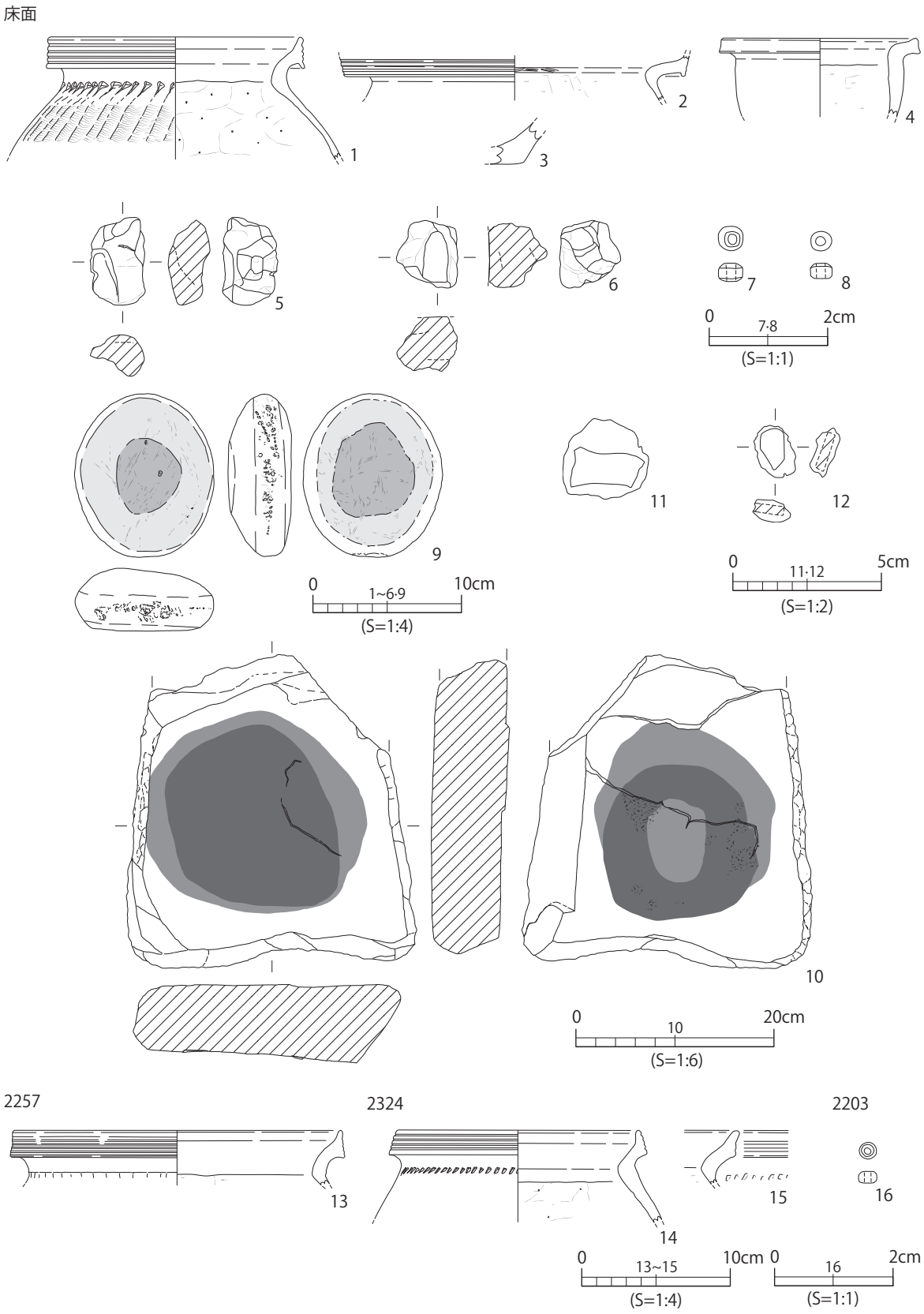
床面では中央土坑（遺構2203）、特殊土坑（遺構2264）、壁際溝（遺構2257）、炭溜（遺構2201・2204・2256）、焼粘土溜（遺構2268）、柱穴などを検出した。主柱穴は、深さ約40cmで比較的しっかりしたものが遺構2241・2323であるが、中央土坑に近く主柱穴の配置は不明である。その他、小型の柱穴が壁際溝に沿って配置されている。中央土坑は浅い皿形で、炭を多く含んでいた。埋土からガラス小玉が１点出土した。一方、中央土坑から約2.5ｍ東の壁際溝近くで粘性の強い土で壁を形成する特殊な土坑を検出した。そしてこの土坑の北東側で表裏に円形の顕著な使用痕を残す台石が出土した。原位置をとどめている可能性が高い。この土坑と台石はおそらくセット関係にあると思われ、火を使用した何らかの作業がおこなわれていたと考えられる。埋土を水洗したが、鍛造剥片などの微細遺物は確認していない。壁際溝は全周に確認でき、幅20 ～ 50cm、深さ約10cmである。

出土遺物は、埋土として取り上げたものを除けばそれほど多くない。遺物の組成は甕15点、壺２点、鉢１点と土製品２点、石器３点、鉄器６点、ガラス製品３点である。遺物は出土地点別に掲載する（第27・28図）。第27図１～ 12は床面で出土した。１～４は弥生土器である。１・２は甕である。１は口縁部が直立して上下に拡張する。外面には凹線文を施す。肩部には２段に及ぶ文様帯があり、上が刺突文、下が連続刺突文である。３は甕の底部である。４は小型の鉢である。全体的に器壁が厚く、口縁部の拡張は弱い。５・６は焼粘土塊である。同様の土塊は包含層から数多く出土した。遺構から出土したのはこれが唯一だが、量も少ないことから流れ込みと考えられる。７・８はカリガラス製のガラス小玉である。中央土坑で出土した16と合わせて0.5mmずつ径が異なる。９・10は石器である。９は敲・磨石である。表裏面に研磨痕、側面に打痕がみられる。10は花崗岩製の台石である。図面左側を上面として出土した。表裏面の中央に円形の被熱痕が確認でき、裏面にはさらに炭化物が付着している。被熱痕は極暗褐色を呈する、程度の大きい部分と赤褐色を呈するやや弱い部分があり、被熱を受けた部分はやや脆く崩れやすくなっている。11・12は鉄製品で、ともに不定形の鉄片である。

13は壁際溝、14・15は柱穴、16は中央土坑から出土した。13 ～ 15は弥生土器の甕である。口縁の拡張方向は様々だが、いずれも外面に凹線文が施され、肩部には刺突文がみられる。16はカリガラス製のガラス小玉である。

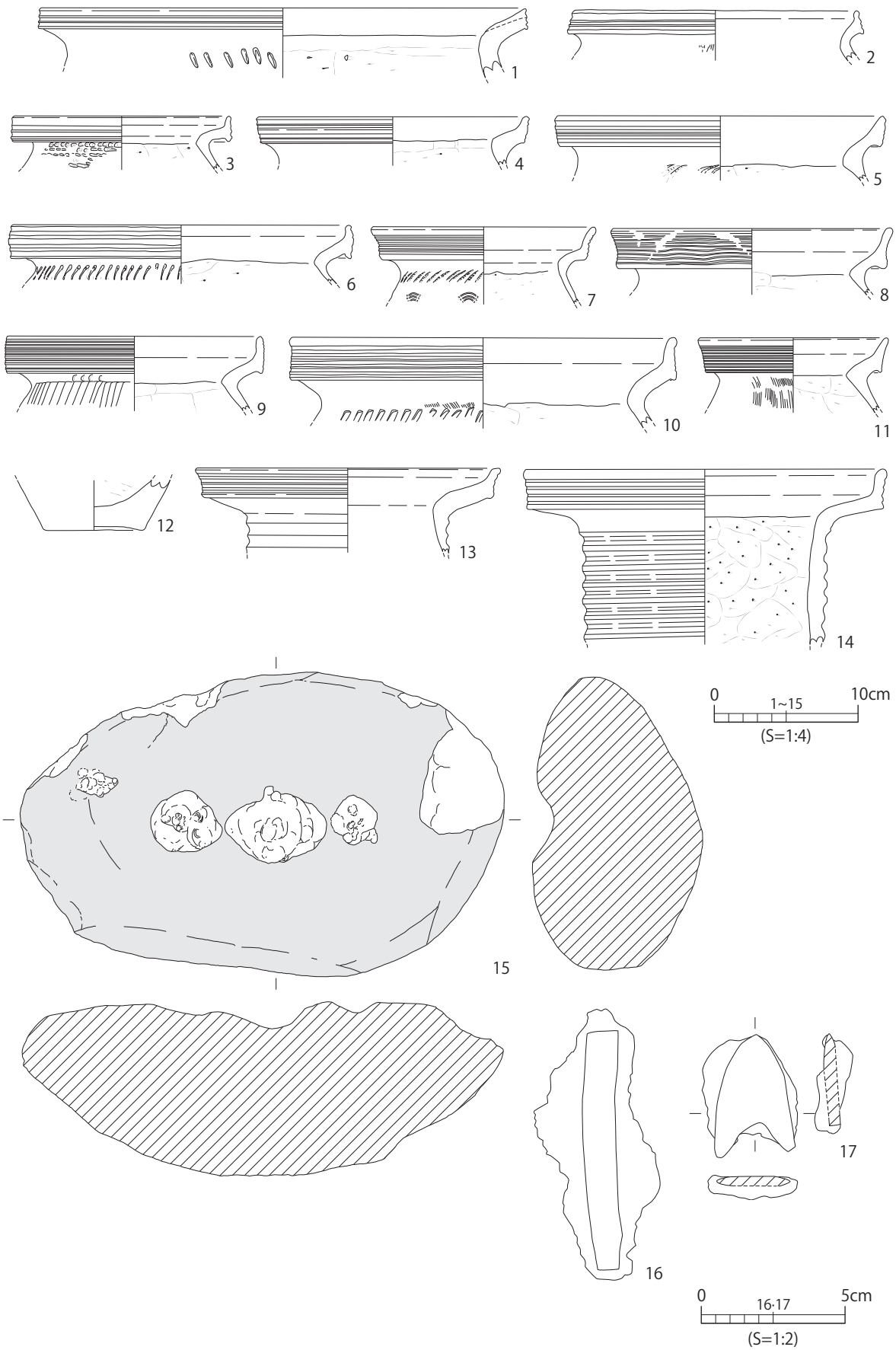
第28図１～ 17はプラン検出前に取り上げていたもので、埋土出土の可能性がある。１～ 12は甕である。１は口径がかなり大きく、長胴になる可能性がある。２～６は口縁部外面に凹線文が施されるもので、頸部直下には刺突文が施されている。７～ 11は口縁部が大きく上方に拡張され、外面に擬凹線文が施されるものである。13・14は壺である。いずれも直立する頸部に太い凹線文が施されるもので、14の方が口縁部の拡張度が高い。15はデイサイト製の台石とした。中央に横並びの坏状の窪みが３ヵ所みられる。上面は使用によるためか非常に滑らかである。16・17は鉄製品である。16は不明棒状鉄製品である。17は無茎三角形状の鉄鏃で、穿孔はみられない。

土器は第28図7～11のように石見Ｖ－２様式以降のものもあるが、床面や遺構内から出土した土器はいずれも石見Ｖ－１様式と考えられ、遺構の時期としては後期前葉であろう。

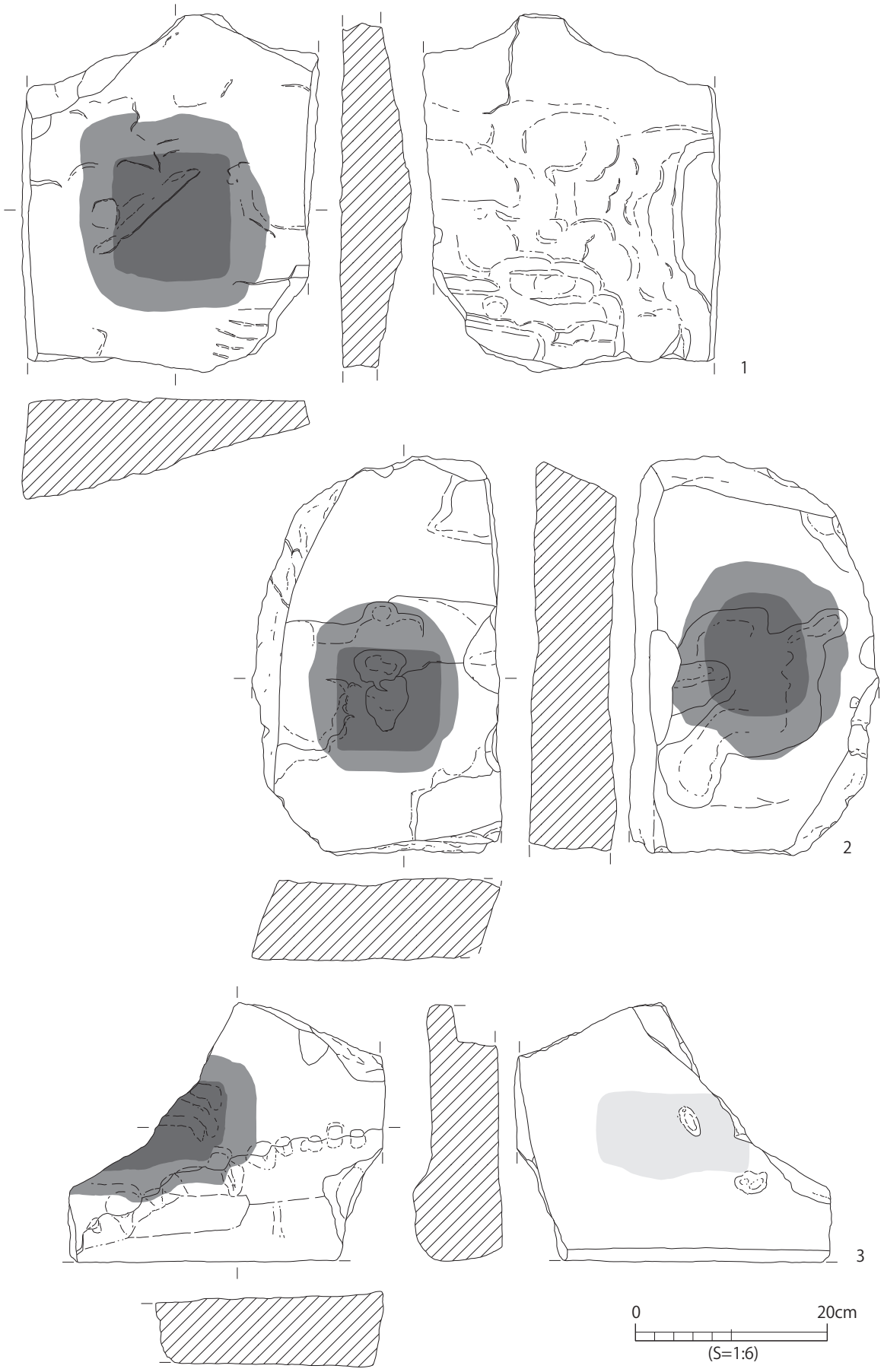


第 27 図　遺構 2217 竪穴建物出土遺物（１）

埋土？



第 28 図　遺構 2217 竪穴建物出土遺物（２）



第 29 図　遺構 2217 竪穴建物出土台石類例

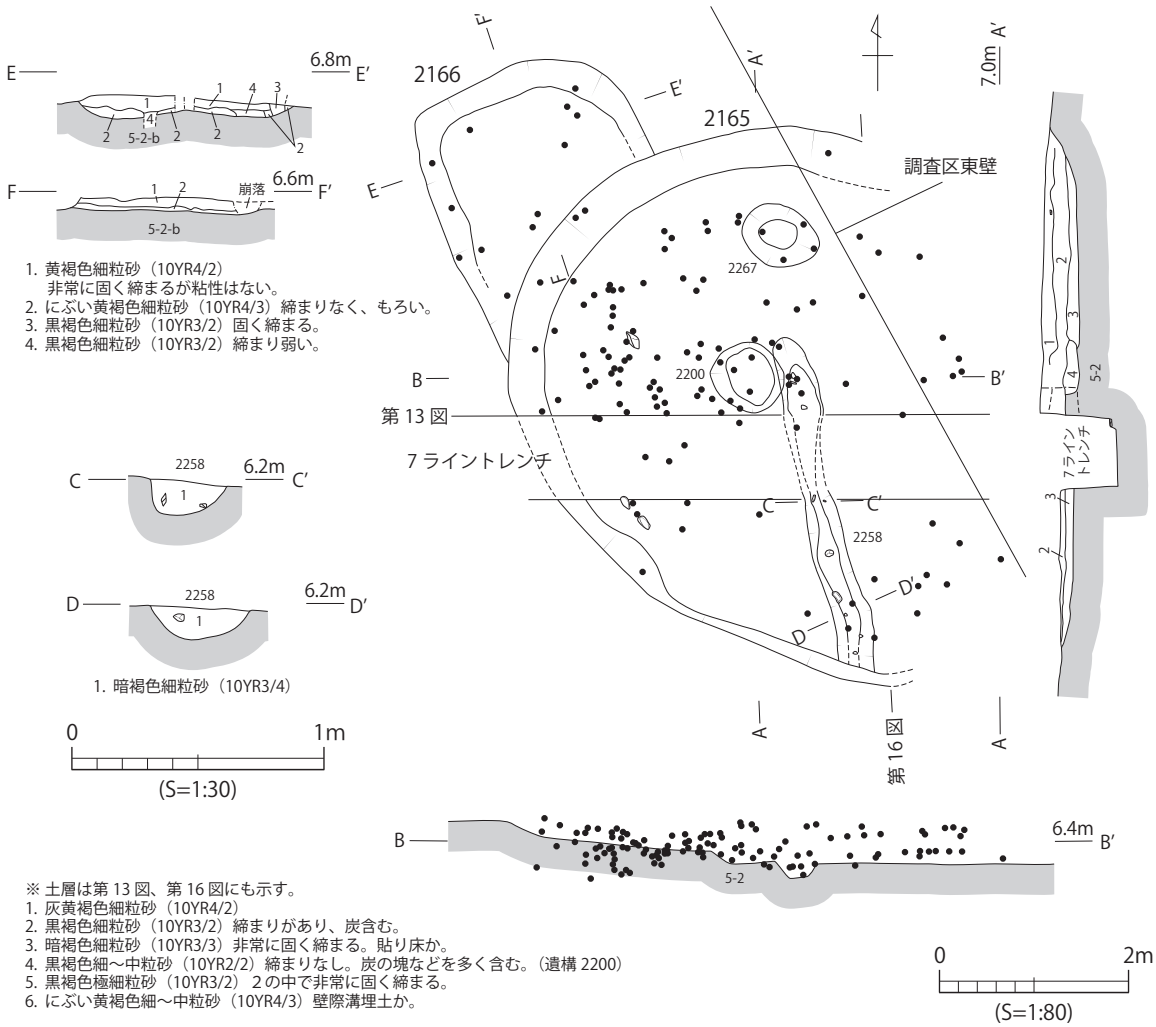
遺構外出土の台石類例（第 29 図、図版 22）

本遺跡では遺構2217の床面で出土した台石の類例が遺構外でも出土しており、合わせてここで掲載する（第29図）。１～３はいずれも花崗岩製で、図面左側を上面として出土した。これらも同様に強弱の程度差がある被熱痕が中央にあり、２は両面で確認できた。被熱痕が円形ではなく、正方形もしくは長方形を呈している点が特徴である。火のあたる部分が何らかの方法で限定されていた可能性が高い。

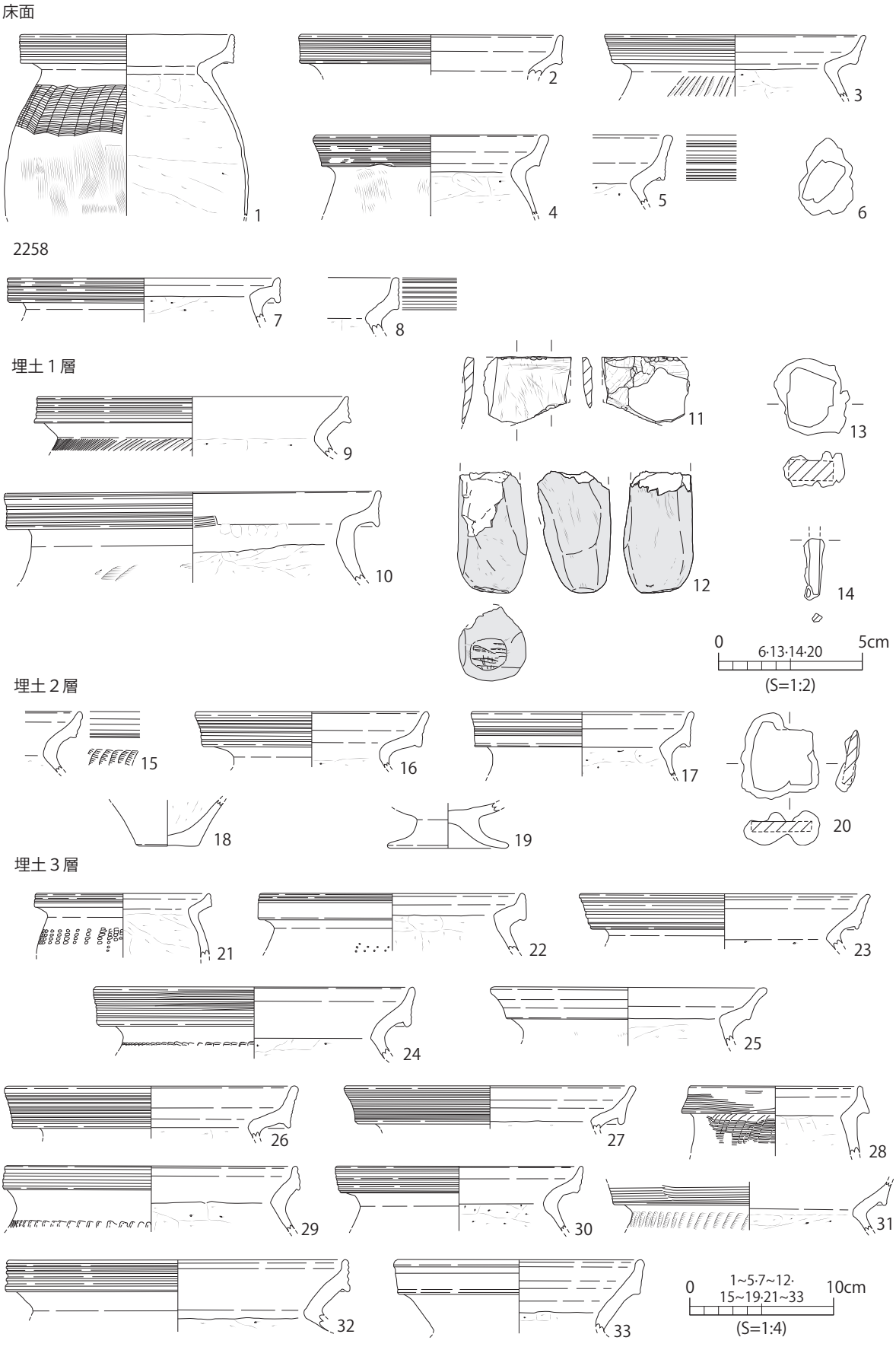
遺構 2165 竪穴建物（第 30 ～ 32 図、図版３・23・24）

調査区東壁際で検出した。円形の竪穴建物だが、正円ではなく南側がやや間延びしている。規模は東側２分の１～３分の１が調査区外に続いているため正確な数値は不明だが、南北径は約5.9ｍである。深さは北側で約20cm、中央付近で約60cm、南側ではわずか10cm程度しか残っていなかった。遺存状態の悪さが平面形にも影響している可能性もある。東西方向の土層は第13図、調査区東壁にかかる部分の土層は第16図に示す。

床面では中央土坑（遺構2200）、床下では排水溝（遺構2258）と土坑（遺構2267）を検出した。遺構2267は非常に浅く径も大きいため柱穴とは考えられない。したがって、本遺構では柱穴を検出できなかった。おそらく崩れやすく水を通しやすい砂に遺構を掘り込んでいるため、埋没過程の中で崩壊や浸食が起こり認識できなかったと考えられる。中央土坑は皿形で、埋土には炭片が多く含ま



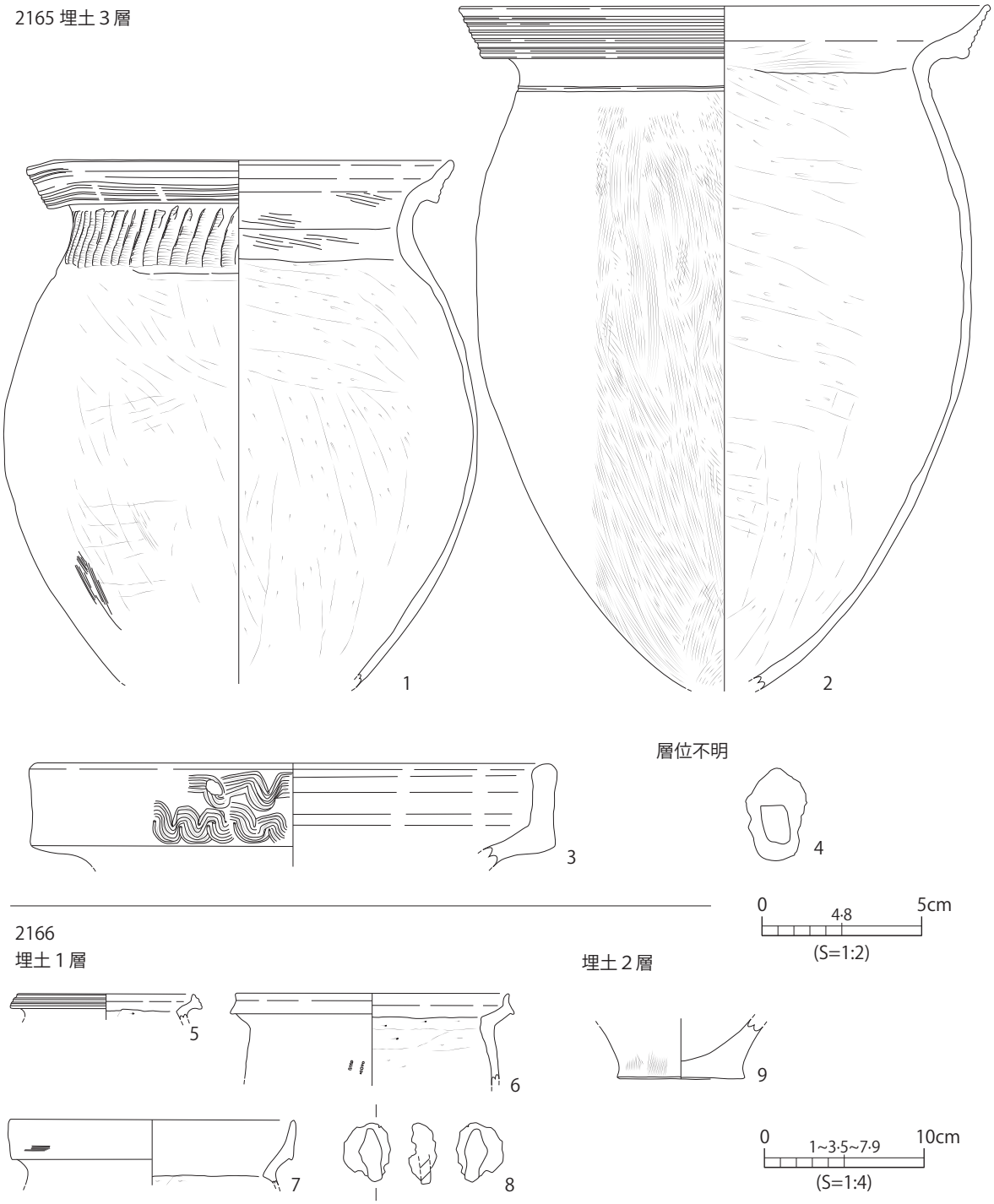
第 30 図　遺構 2165 竪穴建物、遺構 2166 土坑



第 31 図　遺構 2165 竪穴建物出土遺物（１）

れていた。排水溝は長さ3.6m以上、幅約40cm、深さ10～15cmを呈する。中央土坑の下位、やや重複する位置から南へ向かって伸びており、そのまま掘方外に続いていたが先端を確認することはできなかった。

遺物は検出面、埋土、床面などから大量に出土した。遺物の組成は甕27点、壺1点、低脚坏1点と石器2点、鉄器5点である。遺物は出土地点別に掲載する（第31・32図）。第31図1～6は床面で出土した。1～5は弥生土器の甕である。いずれも口縁部が上方に拡張され、外面には1・2が凹線文、3・4は擬凹線文が施される。6は板状の不明鉄片である。7・8は排水溝で出土した弥生土器の甕である。



第32図　遺構2165竪穴建物出土遺物（2）、遺構2166土坑出土遺物

９～14は埋土１層で出土した。９・10は弥生土器の甕である。口縁部が直立し、外面に９は凹線文、10は擬凹線文が施される。11は粘板岩製の石庖丁と考えられる。一辺が擦切りにより直線的になり、片面が研磨により平滑に仕上げられている。穿孔は確認できない。12は石材不明の敲石とした。遺存する端部には打痕のようなものがある。13・14は鉄製品である。13が板状の不明鉄片、14は細い棒状を呈する。15～20は埋土２層で出土した。15～17は弥生土器の甕である。口縁部外面には15が凹線文、16・17は擬凹線文が施される。19は低脚坏で、脚部がしっかりと開く。20は板状の不明鉄片である。21～33は埋土３層で出土した。いずれも弥生土器の甕である。口縁部は直立もしくは外傾するものが多い。28は壺のような形態だが甕のように口縁部直下に連続刺突文が施されている。第32図１～３も埋土３層から出土したものである。１は壺もしくは甕である。頸部がやや間延びしながら屈曲し、連続刺突文を施している。胴部は明瞭な工具痕跡がなく、なでたような痕跡のみが残る。２は大型の甕である。胴部が長胴で、底部に向かって急激にすぼまる。外面は全体的に縦ハケで調整され、頸部には沈線が１条のみみられる。３は壺である。直立する口縁部外面には２段にわたる波状文が施されるが、折り返しが非常に力強く施文されている。外面が赤彩され、胎土には大量の粗粒砂を含んでいる。江の川上流部からの搬入品の可能性がある。４は層位不明の鉄片である。

土器は石見Ⅴ－１～４様式まで幅があるが、床面出土品や遺存率の高いものをみるとⅤ－２～３様式が多いことから、遺構の時期は弥生時代後期中葉～後葉と考えられる。

遺構 2166 土坑（第 30・32 図、図版４・25）

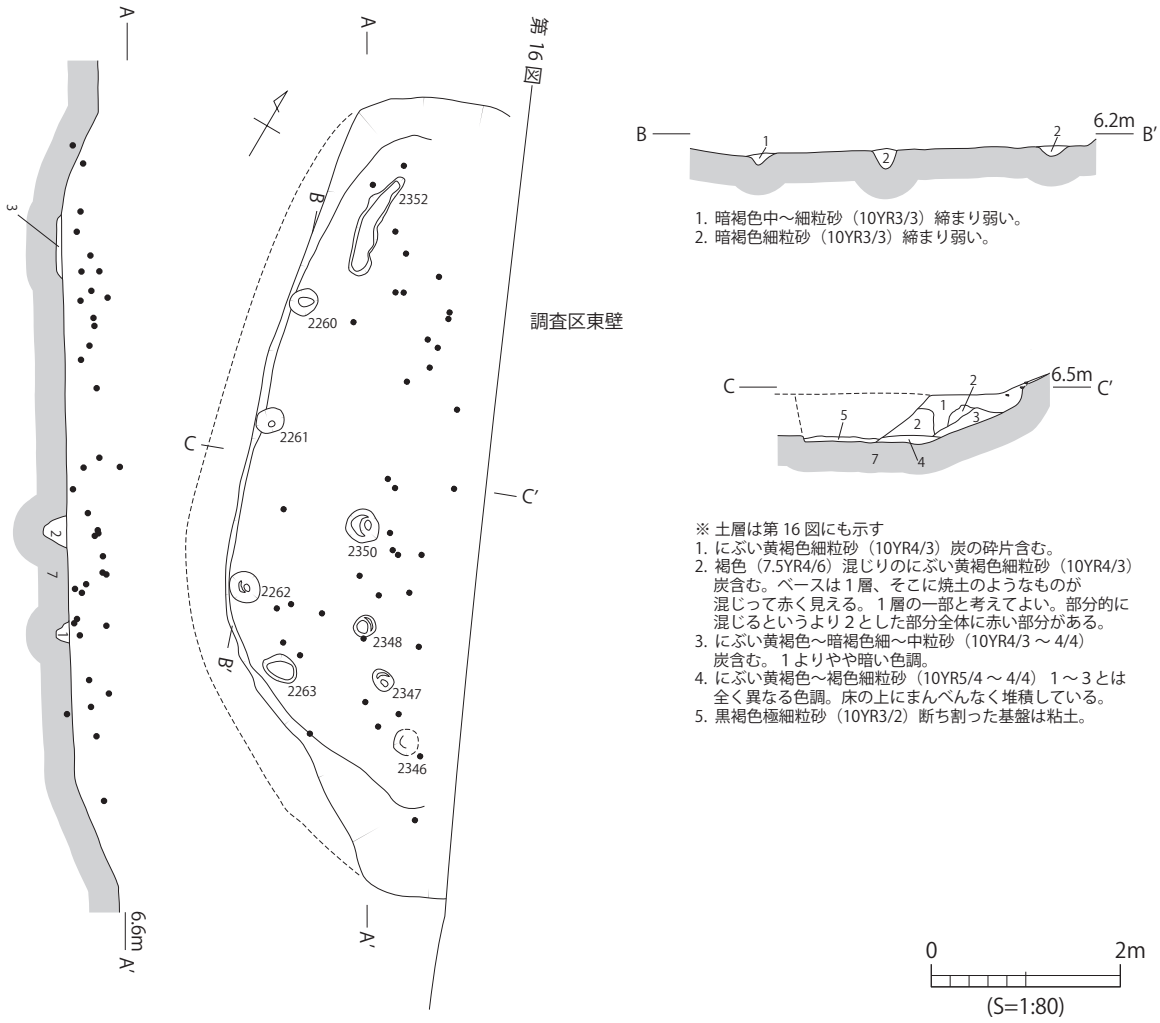
隅丸方形の土坑である。遺構2165竪穴建物に切られており、用途などは不明である。遺物は出土地点別に掲載する（第32図）。５～８は埋土１層で出土した。５～７は弥生土器の甕である。口縁部の拡張具合や方向が異なり、７は大きく拡張し外面は無文である。８は棒状の鉄製品である。９は埋土２層で出土した弥生土器の甕である。

土器の時期は９が石見Ⅰ様式、７が石見Ⅴ－４様式と時期幅がある。全体としては石見Ⅴ－１様式が多く、遺構の時期は弥生時代後期前葉と考えられる。

遺構 2199 竪穴建物（第 33・34 図、図版４・25～27）

調査区東壁際の７層上面で検出した。下層確認のためのトレンチ掘削中に検出したため、一部はすでに床面近くまで掘削してしまっていた。そのため、検出面での平面形を捉えることができず、点線により想定の上端ラインを示している。平面形は円形もしくは多角形であったと考えられる。規模は東側約３分の２が調査区外に続いているため正確な数値は不明だが、南北は約8.5ｍである。柱穴は西壁際と南よりに４基ずつ検出しているが、いずれも深さ10～20cmと浅く、配置も不明瞭であるため主柱穴と考えられるものは未確認である。また、北側では溝を検出し（遺構2352）、壁際溝かと思われたが全周しない。埋土の堆積状況は第33図と第16図に示した。全体的に炭や焼土が混じっており、褐色に見える部分が多かった。また、南北の土層では縦方向ににぶい黄褐色の堆積が見え、被熱による変色の可能性がある。床の直上には他の埋土と全く異なる細粒砂がまんべんなく堆積しており、基本層序７層の質に類似している。

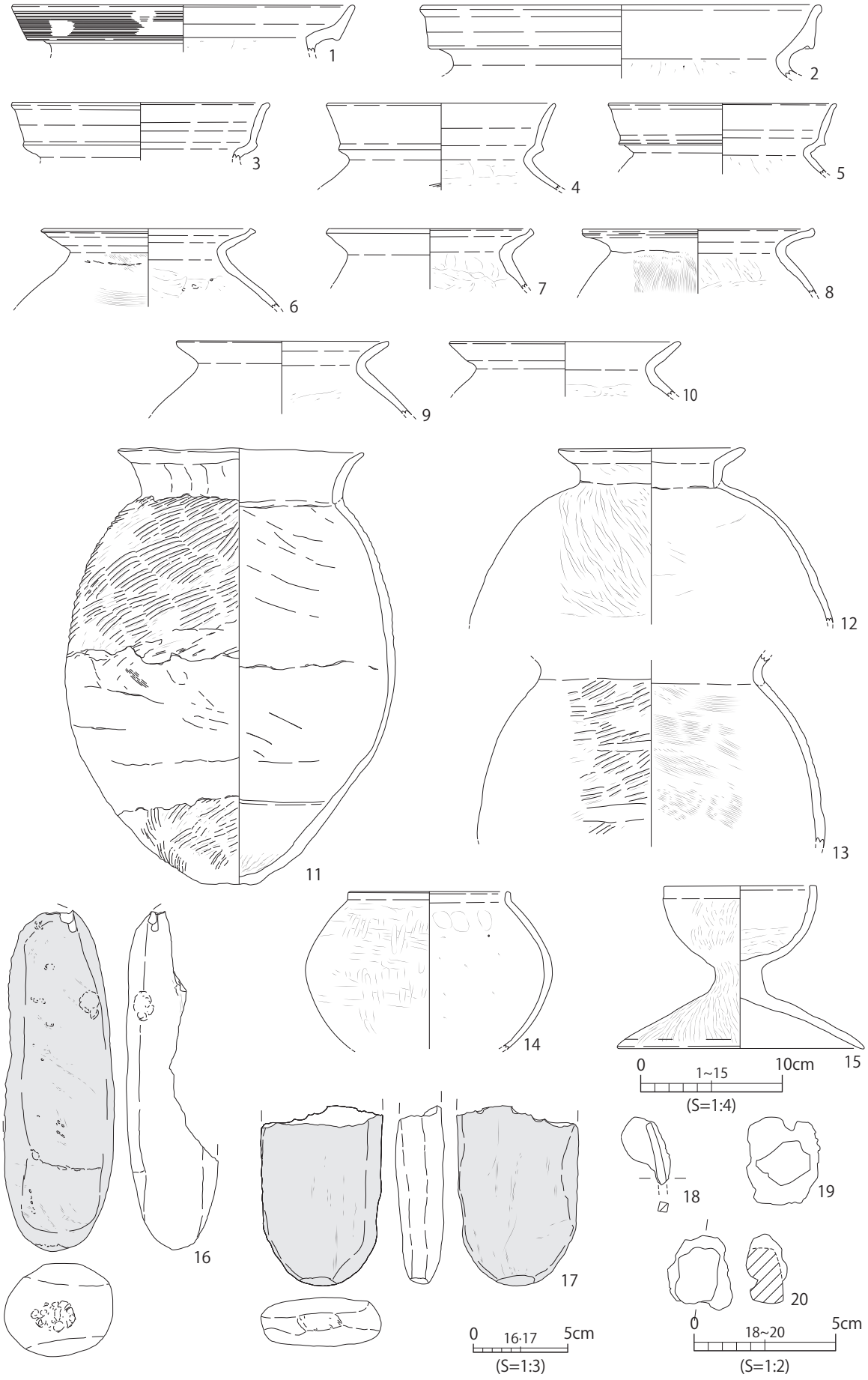
遺物は埋土の全体から遺物が出土しているが、床面で全形が把握できる土器が出土した。遺物の組成は甕13点、壺１点、鉢１点、高坏１点と石器２点、鉄器３点である（第34図）。１～15は弥生土器および土師器である。１～５は複合口縁の甕である。１・２は口縁部に厚みがあり、１には擬



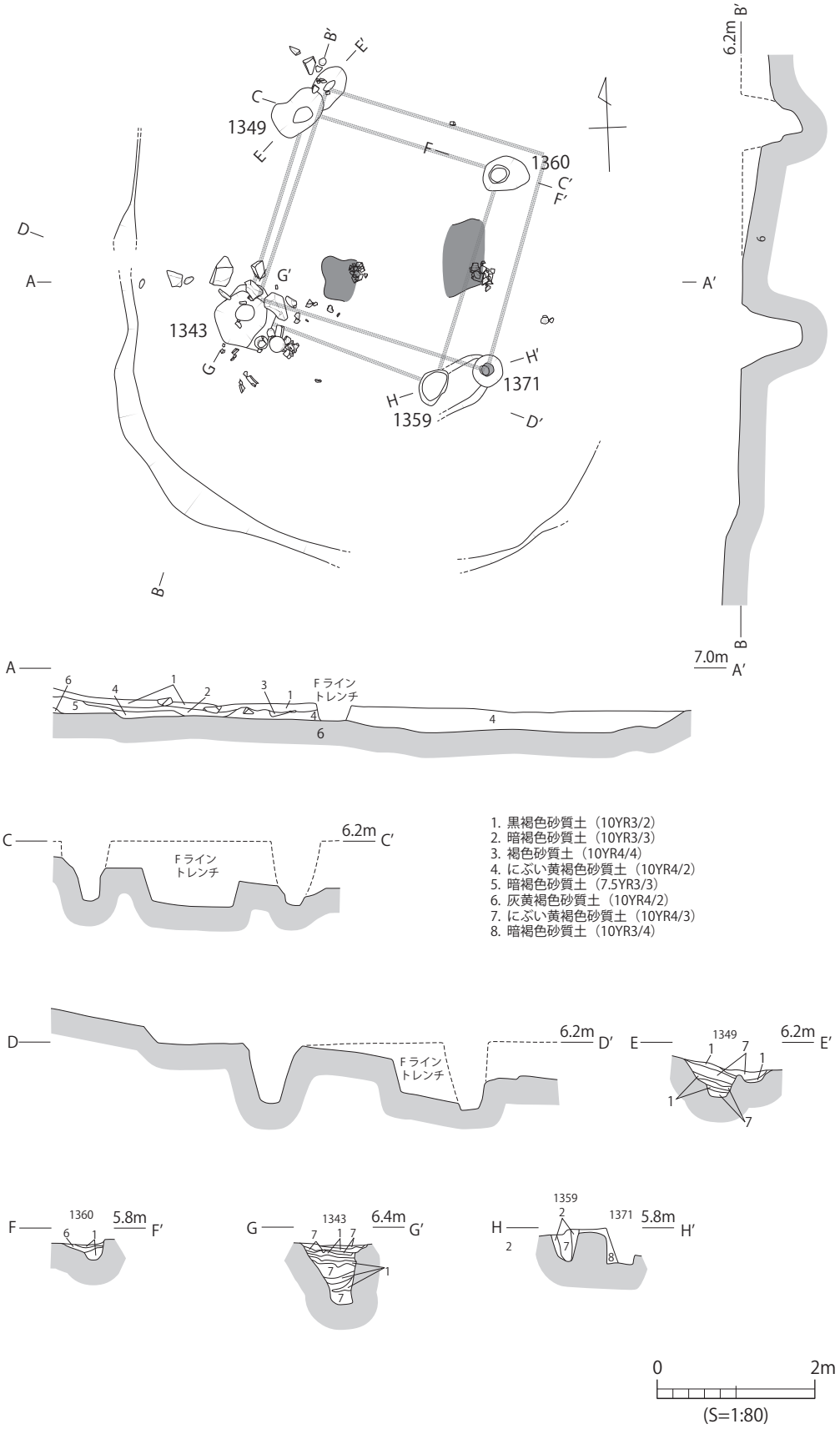
第 33 図　遺構 2199 竪穴建物

凹線文が施される。3～5は口縁端部が先細りしており、やや折り曲げるものもある。6～10は布留系甕である。口縁端部をつまみ上げるものや丸くおさめるものがある。11～13は単純口縁で外面調整が特徴的な甕である。11は完形に復元できた。胴部は長胴形で口縁部が長く伸びる。胴部の2ヵ所に接合痕があり、大きく3つのパーツから成形されている。そのうち外面にタタキ調整がみられるのは上部と下部で、中部はなでたように滑らかである。内面は明確な調整痕が見えない。胎土は2mm以下の砂粒を多く含み、色調は橙色で在地の土器とは明らかに異なる。長門・周防系と考えられる[1]。12は口縁部が強く屈曲しており、複合口縁の二次口縁が剥離した可能性もある。胴部は肩が張り、外面を縦ミガキで調整している。13は11と同様にタタキ調整の甕であるが、内面をハケ調整している点が異なる。14はワイングラス形の坏部をもつ高坏と考えられる。口縁端部はつまみ上げるように屈曲する。15は椀形の坏部をもつ高坏で、ほぼ完形に復元できた。坏部内面はケズリ調整している。16・17は石器である。16は石材不明の敲石である。片方の端部に打痕がみられる。17はデイサイト製の磨石とした。使用によるためか全体的に滑らかである。18～20は鉄製品である。不明品ばかりであるが、この時期のものである可能性を考えすべて掲載した。

複合口縁の土器は石見Ⅴ－3様式から大木式まで幅があるが、布留系甕や単純口縁甕の様相から遺構の時期は古墳時代初頭と考えられる。タタキ調整の甕は搬入品の可能性が高く、ほかの土器をみても長門・周防方面からの移住があった可能性もある。



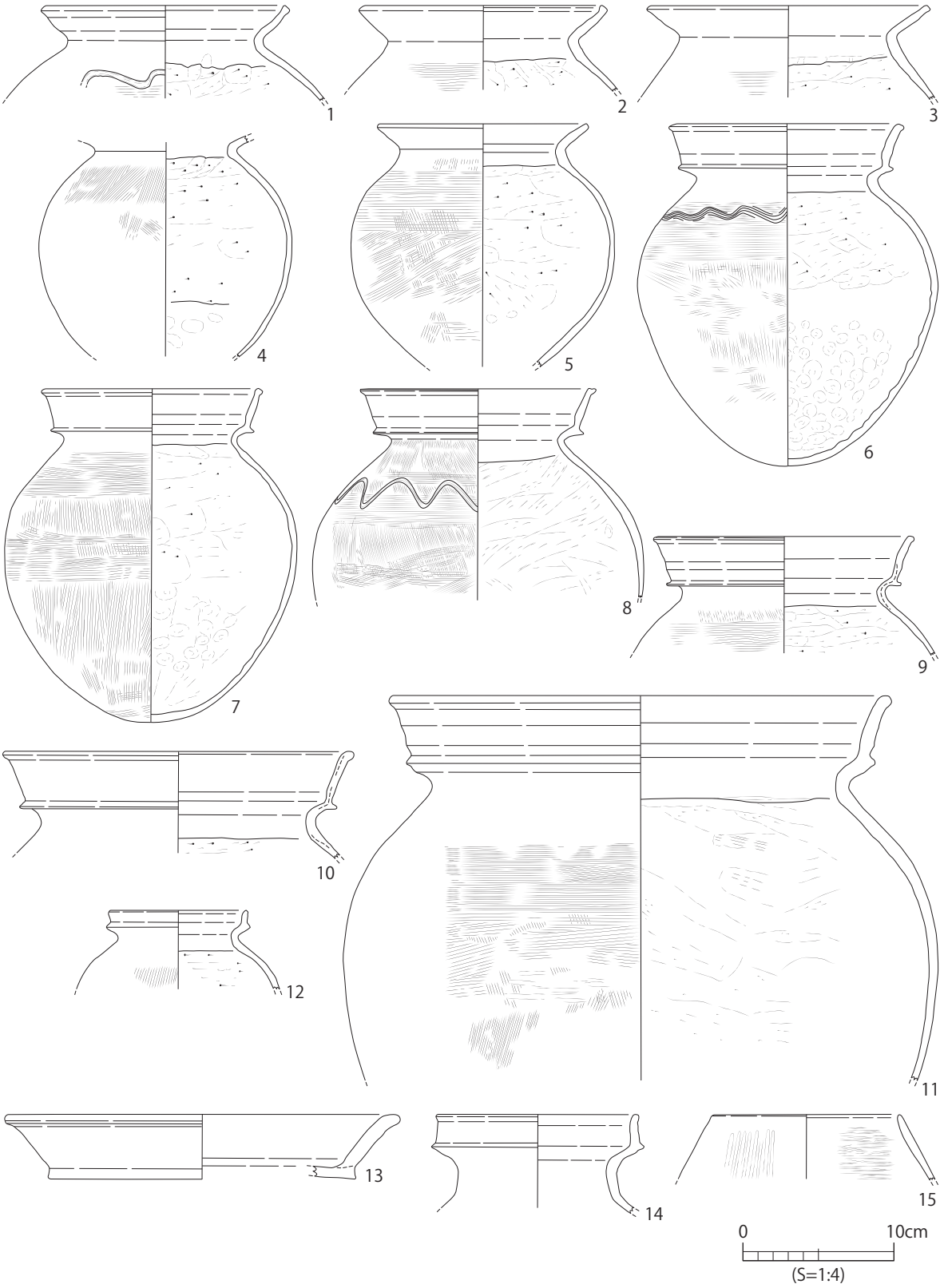
第 34 図　遺構 2199 竪穴建物出土遺物



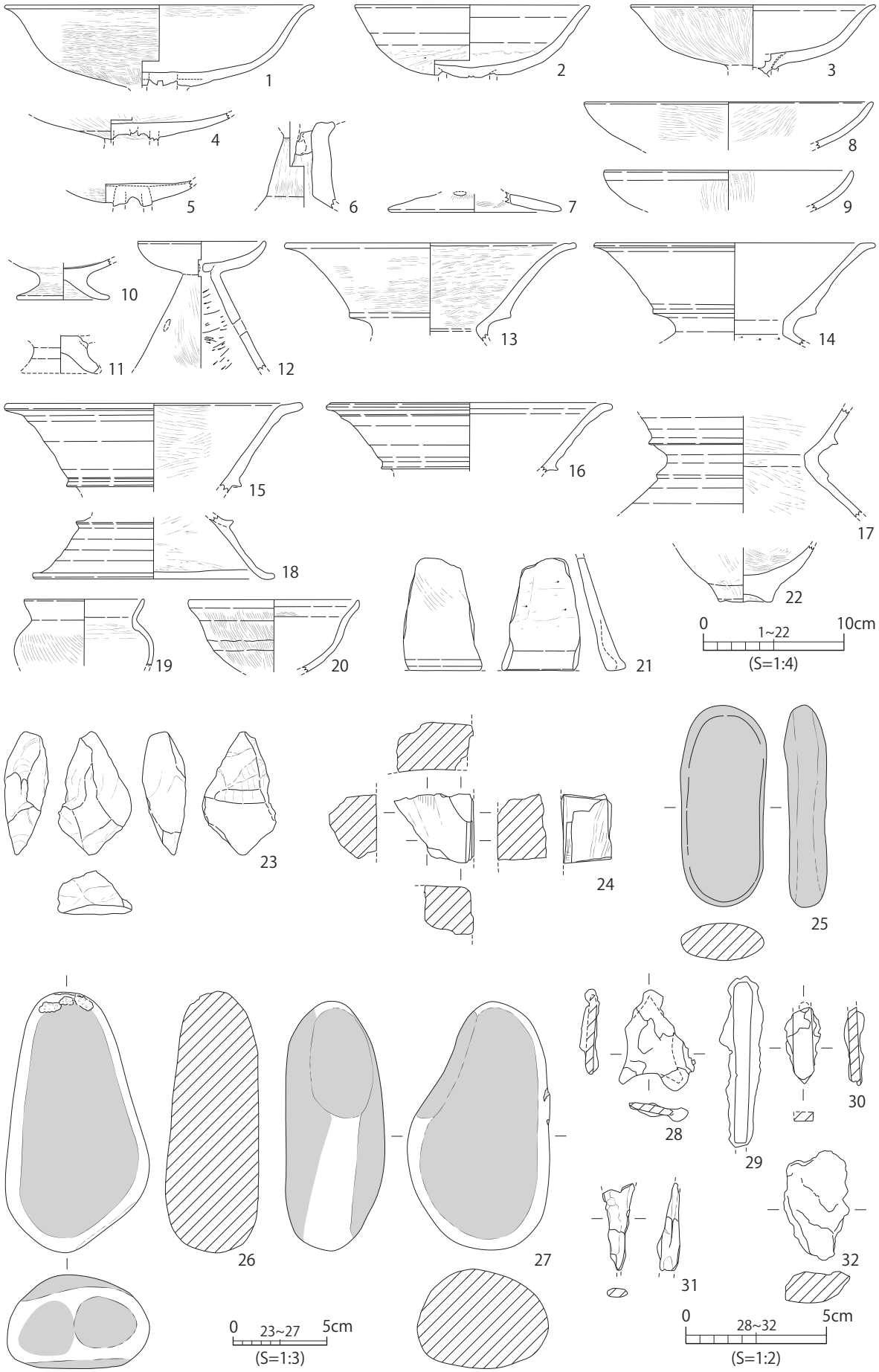
第 35 図　遺構 1276 竪穴建物

遺構 1276 竪穴建物（第 35 ～ 37 図、図版 5 ・ 27 ～ 31）

調査区の北東隅で検出した。後世の削平により壁がほとんど残っておらず、東側はプランを検出できなかった。現状での壁と柱穴との配置から反転復元すると、長径約８ｍ、短径約6.8ｍの隅丸長方形のプランになるが確証はない。柱穴配置は４本柱であり、部分的に建て替えがおこなわれて



第 36 図　遺構 1276 竪穴建物出土遺物（１）



第 37 図　遺構 1276 竪穴建物出土遺物（２）

いる。しかし、これら柱穴を検出したのは床面を取り除いたさらに下層であり、本来のプランを検出することはできなかった。そのため、断面図では床面の高さに合わせて柱穴を復元している。深さ80cm程度であり、底面の高さはそろっている。壁際溝は確認できなかった。

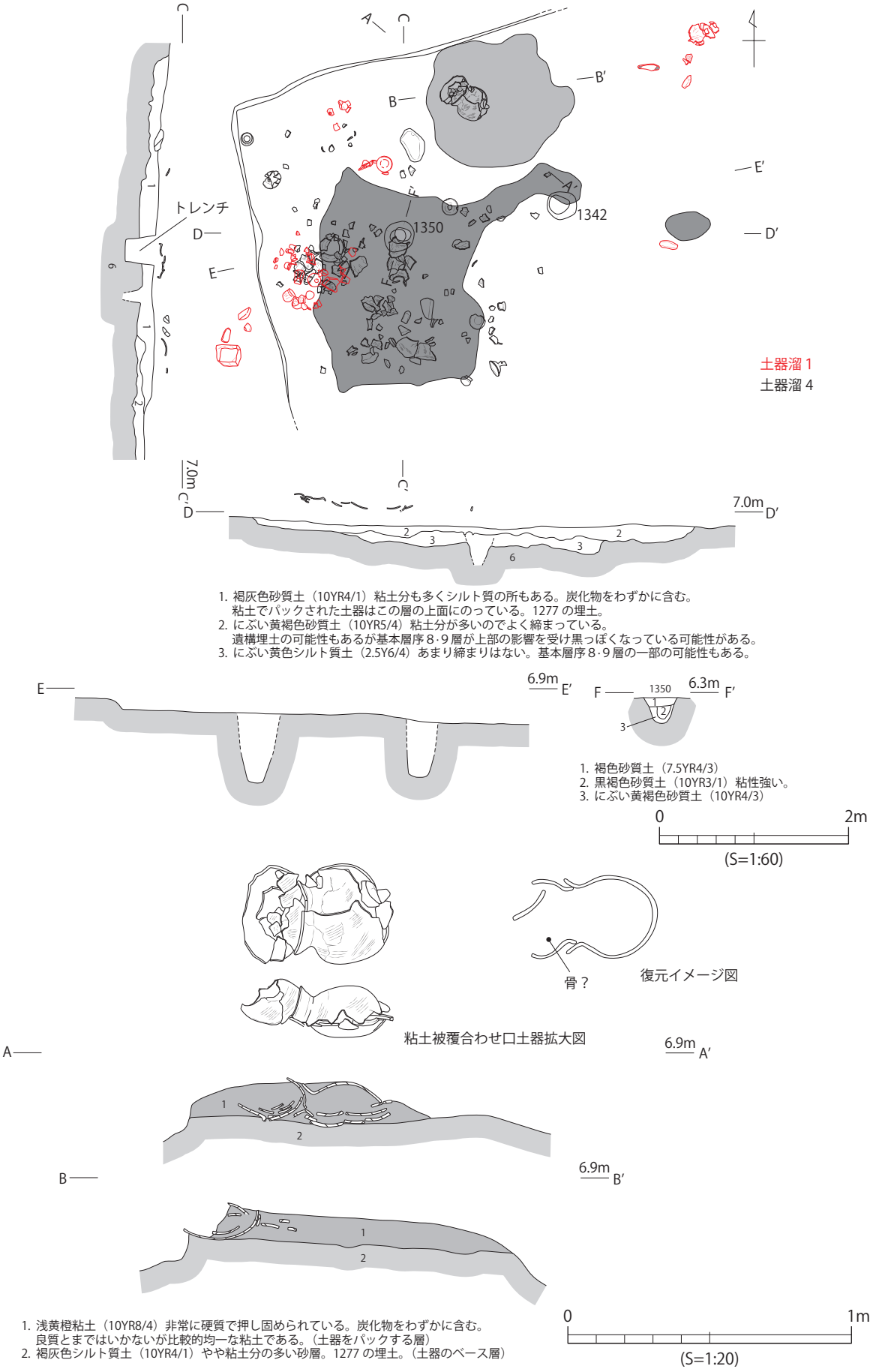
出土遺物は多く、床面では完形近くまで復元できる土器がまとまって出土した。小片でも可能な限り掲載したが、その数は土師器の甕12点、壺３点、高坏７点、低脚坏４点、鼓形器台６点、小型壺１点、鉢１点、小型器台１点、甑１点、不明品１点と石器６点、鉄器５点である（第36・37図）。また、遺構にともなうものかは不明であるが、大型の自然角礫も出土した。第36図１～15、第37図１～22は土師器である。第36図１～５は布留系甕である。端部をつまみ上げるものや平坦面をもつものがある。４の肩部は縦方向のハケで調整される。６～11は複合口縁の甕である。６・７はほぼ完形に復元できた。形態も非常に類似しているが、７が全面的に橙色を呈する点が特徴である。両者ともに倒卵形の胴部で底部は丸底である。６は波長の広い波状文がみられる。８は口縁端部を外側に強くつまみ出している。11は大型の個体である。全体的に器壁が厚い。12は逆に小型の甕である。口縁部が短く上方へ立ち上がる点や肩部のハケが縦方向である点は吉備型甕に類似する。13～15は壺である。13･14は複合口縁をもち、15は無頸壺と考えられる。第37図１～７は高坏である。１～３はいずれも無稜外反形で脚部との接合方法は円盤充填である。１・２・４は充填した円盤に軸痕がみられる。８～11は低脚坏である。10は脚部であるが、坏底部内面に黒褐色から黒色の薄い膜状の付着物がある。12は小型器台である。13～18は鼓形器台である。受部は口縁端部が大きく外反して開く点で共通する。19は小型壺である。20は鉢と思われる。口縁端部が短く上方へ立ち上がり、外側に面をもたせる。21は甑と考えられる。22は器種不明の土器で、底部状に接地している部分は破面の可能性もある。23～27は石器である。23は泥岩の石核と考えられるが、石器を製作した痕跡はみられなかった。24は砥石である。右側面の角は面取りしているように見え、板状に成形してあった可能性もある。25～27は磨石である。25は全面的に研磨がされている。26は上面、下面および小口側の両端面が研磨されている。28～32は鉄製品である。28は鉄鏃である。無茎の五角形状を呈する。29・30は棒状鉄製品である。31は不明品で、上方へ向かって幅が広くなる。32は鉄塊系遺物と考えられるが、流れ込みであろう。

土器は小谷１～２式に完形に近いものが多いが、小谷３～４式のものも多く含まれ、遺構の時期は限定しがたい。

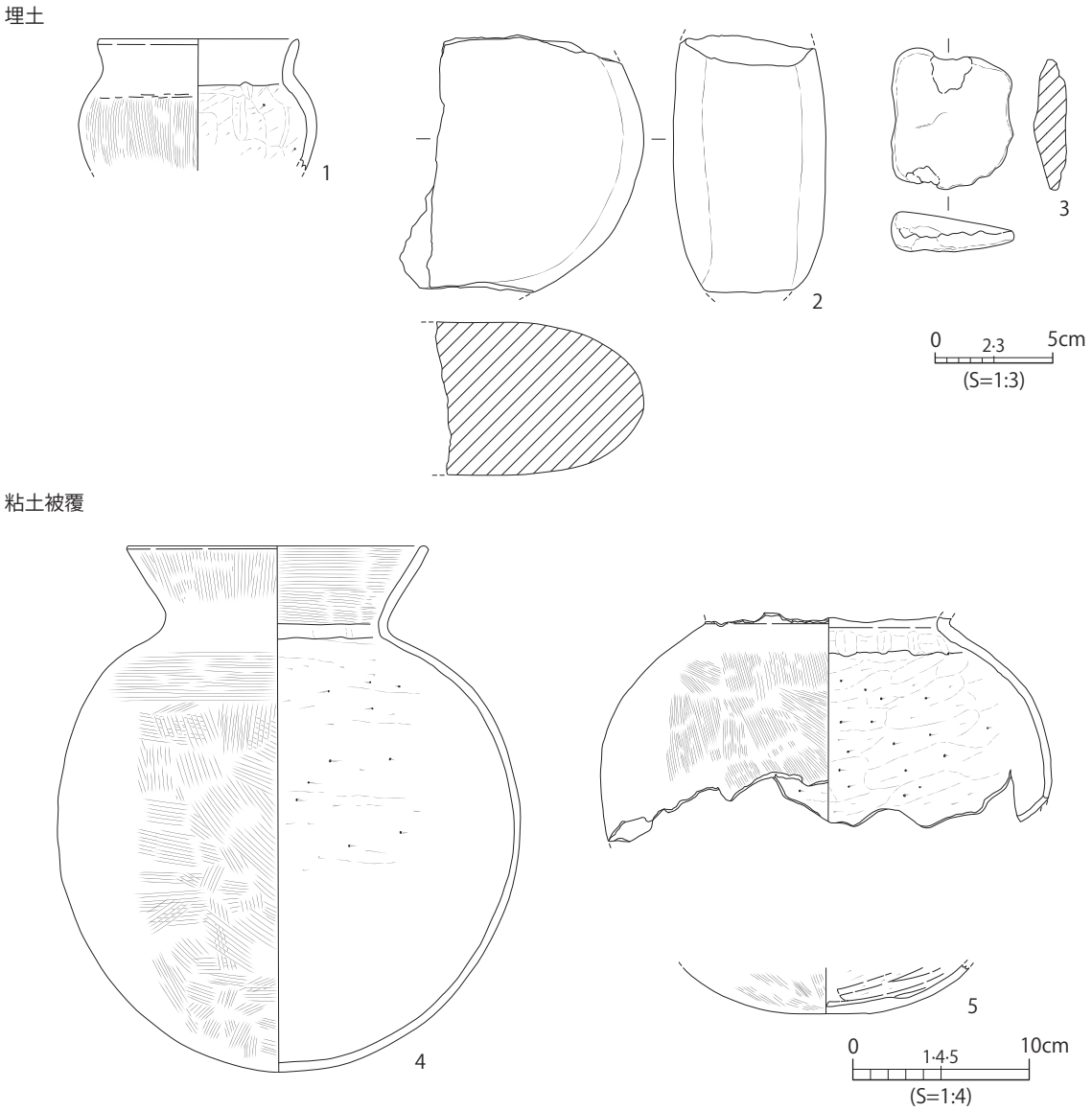
遺構 1277 竪穴建物？（第 38 ～ 42 図、図版６・７・31 ～ 36）

遺構1276竪穴建物の南側約12.5ｍの地点で検出した。本遺構はまず、上位の包含層を掘削中に古墳時代中期を中心とする土器溜１を検出した。その後、この下位で古墳時代前期末から中期前半の土器溜４を検出し、その記録中に方形のプランを確認した。両土器溜同士で接合する資料もあったことから連続した土器廃棄がおこなわれたと考えられる。方形プランは、当初段状遺構として調査していたが、床面よりも下層で２本の柱穴を確認したため竪穴建物の可能性を考えた。ただ、後述のように床面で特殊な遺構を検出したことから竪穴建物と断定するには疑問が残る。

本遺構は後世の削平により壁がほとんど残っておらず、東側および南側はプランを検出できなかった。現状での壁と柱穴との配置から反転復元すると、長軸約4.9ｍ、短軸約3.7ｍの長方形プランとなる。柱穴配置は２本柱であるが、これら柱穴を検出したのは床面を取り除いた下層であり、本来のプランを検出することはできなかった。そのため、断面図では床面の高さに合わせて柱穴を



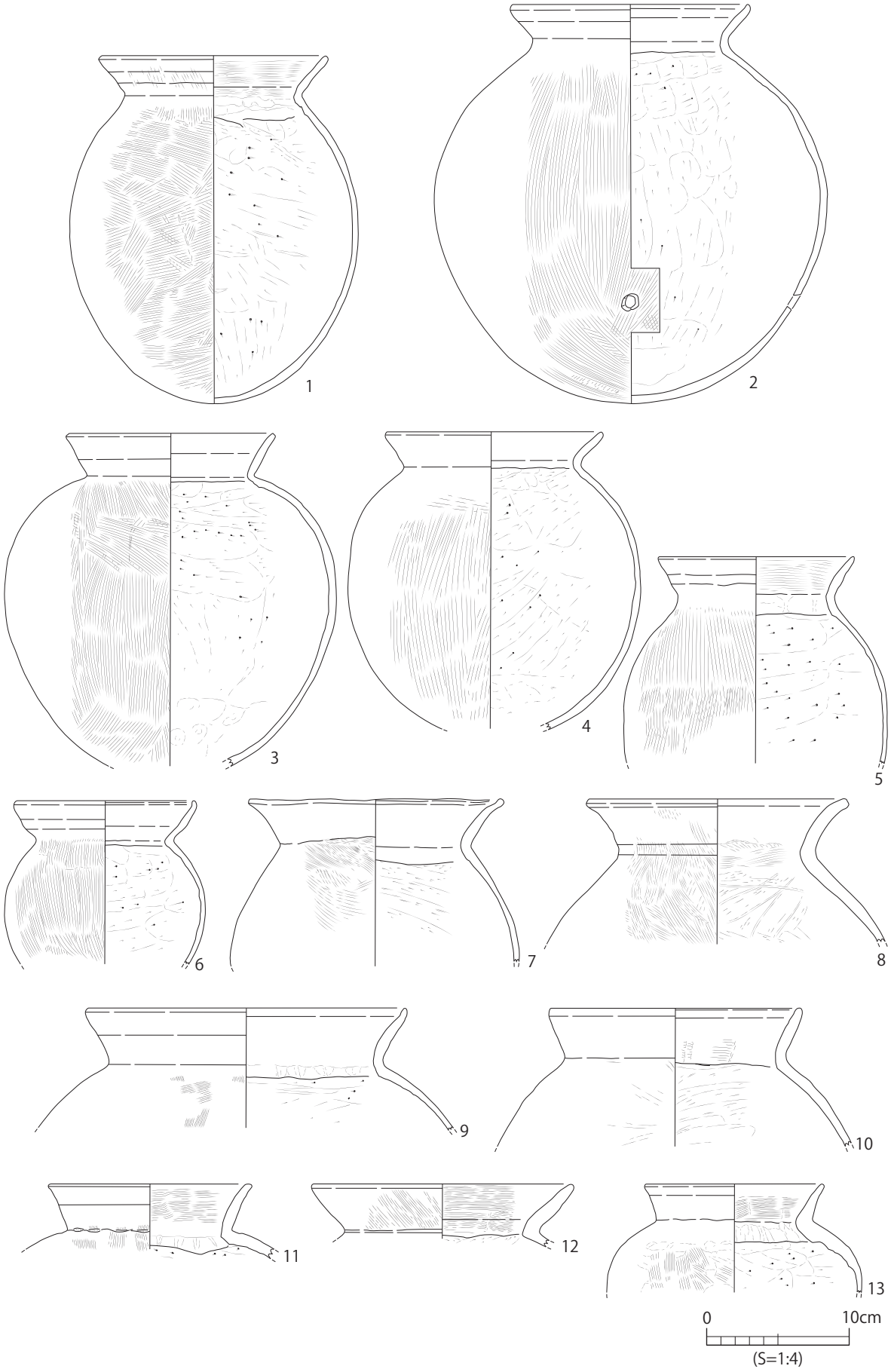
第 38 図　遺構 1277 竪穴建物？



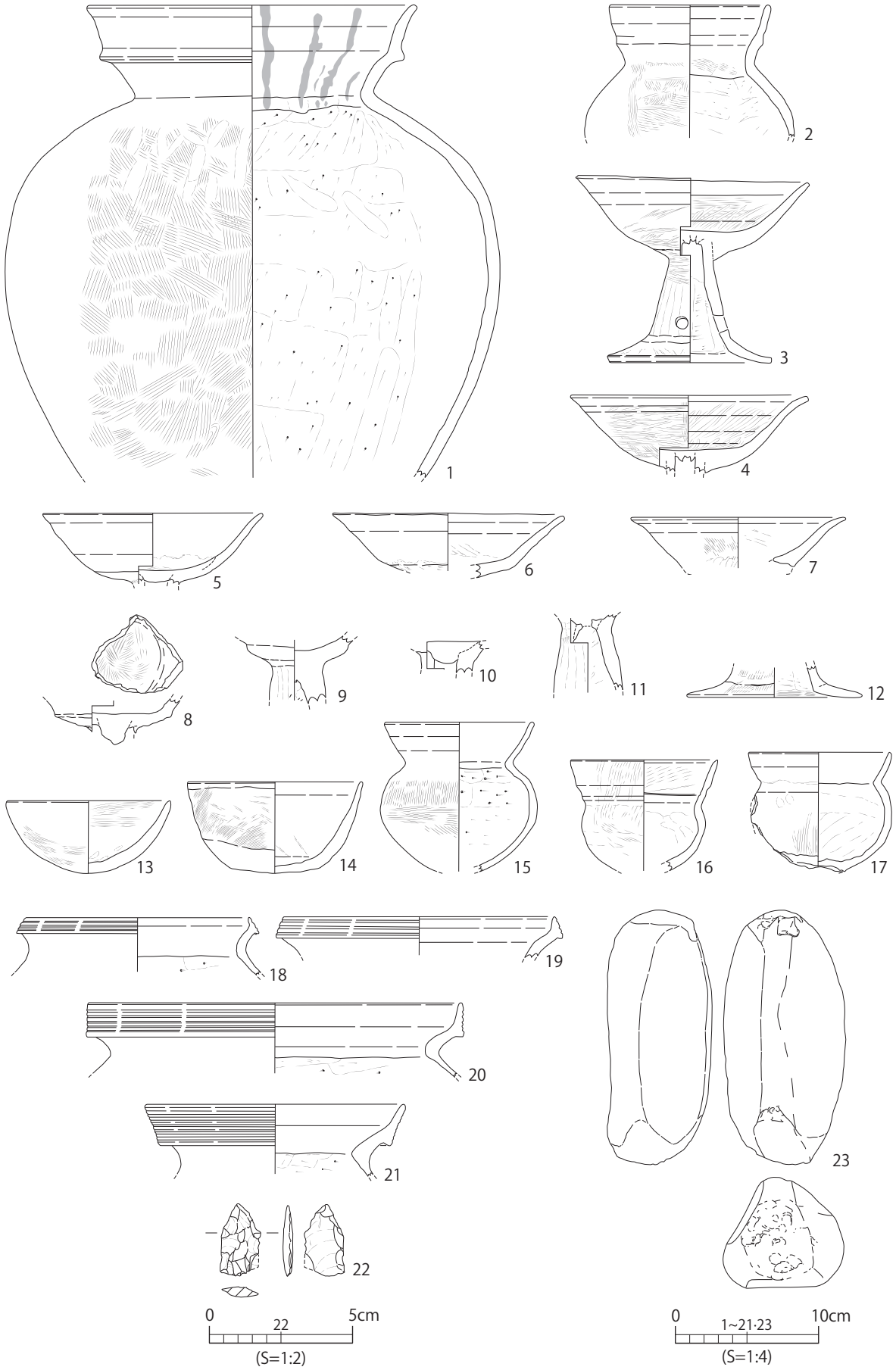
第 39 図　遺構 1277 竪穴建物？出土遺物

復元している。深さは60 ～ 70cmであり、底面の高さには若干の差がある。壁際溝は確認できなかった。床面の主に西側には炭を多く含む土が広がっていた。そして、本遺構で特徴的なのが床面で検出した粘土被覆合わせ口土器である。まず北壁に近い地点で長径1.5ｍ、短径1.3ｍ、高さ30cmの粘土塊を検出し、半截したところ中から合わせ口の土器がつぶれた状態で出土した。１点は完形に復元できたが（第39図４）、もう１点は頸部から胴部最大径部までと底部のみが出土した（第39図５）。意図的に打ち欠いた可能性が高い。底部は外面が土器の内側を向くように落ち込んでいたことから、下からも底部で蓋をしていた可能性がある。土器の中からは炭の小片のほか、骨と思われる小片も出土した。合わせ口土器の性格としてまず土器棺が想定されるものの、同様の出土状況をもつ類例が少なく詳細は不明である[2]。なお、３－４層で出土した後漢製の青銅鏡片（『古代～近世編』第77図１）はこの合わせ口土器の上方約40cmの重複する位置で出土している。両者の関係は定かではないが、注意を払う必要がある。

本遺構で出土した遺物は、合わせ口土器２点のほかに竪穴の埋土内で土師器の小型甕１点、石器２点が出土し、それ以外は検出面およびその上層で確認した土器溜１・４である。土器溜がこの遺構に確実にともなうかは不明だが、ここで合わせて報告する。土器溜１は土師器の甕３点、高坏６



第 40 図　土器溜 4 出土遺物（1）

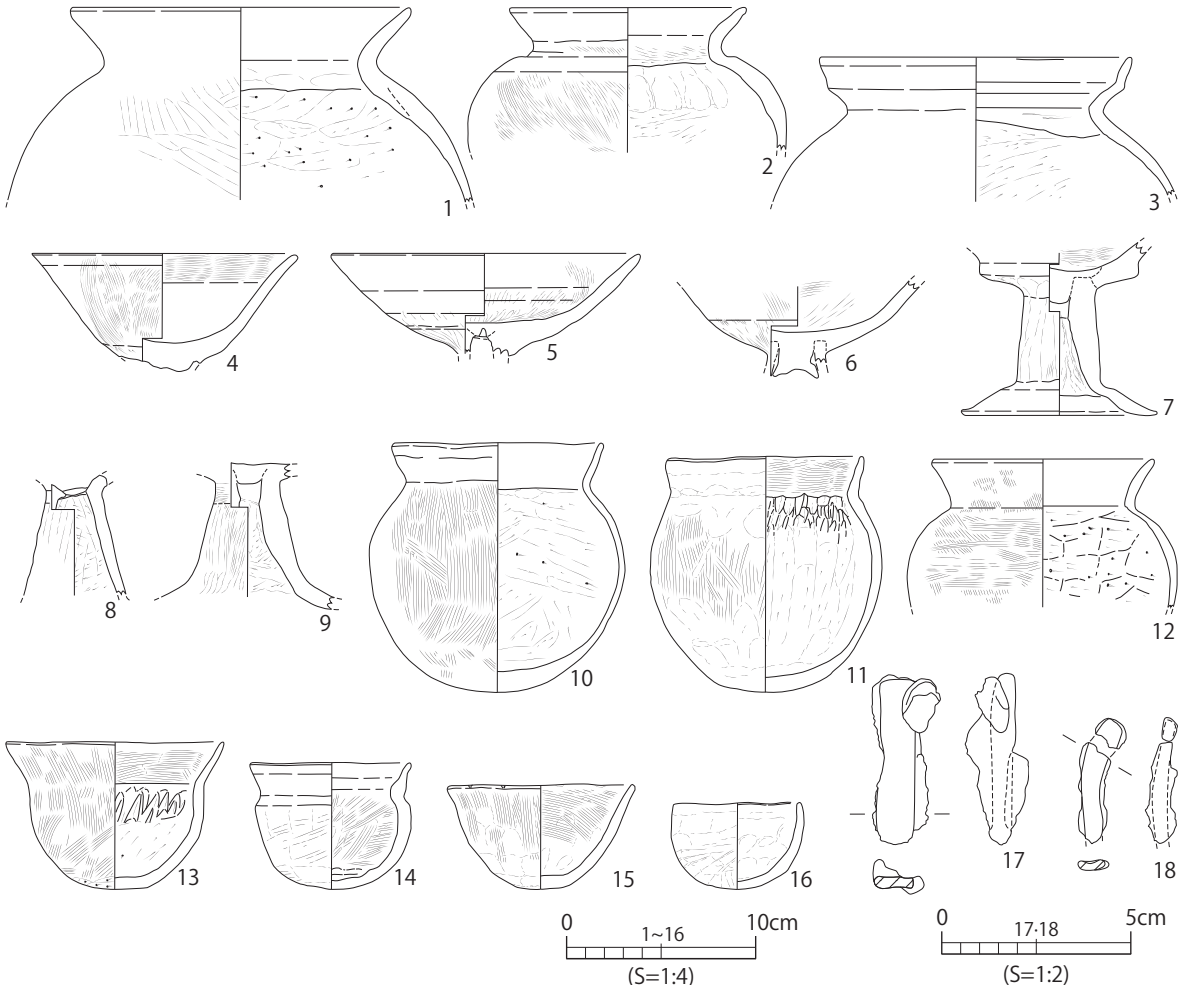


第 41 図　土器溜４出土遺物（２）

点、小型壺５点、鉢２点、鉄器２点である。土器溜４は甕13点、壺２点、高坏10点、鉢２点、小型壺３点、弥生土器の甕４点、石器２点である。

遺物は出土地点別に掲載する（第39～42図）。第39図１～３は遺構1277の埋土、４・５は粘土内から出土した。１は土師器の小型の甕で、全体的に器壁が厚い。２・３は石器である。２は磨石である。全体的に滑らかで、一部被熱痕がある。３は石錘である。わずかだが端部に窪みが成形されている。４は単純口縁の直口壺である。胴部は球形で丸底である。器壁は口縁部から底部まで均一で比較的薄く作られている。外面には煤が付着している。５は蓋の役割をしていた土器で、頸部から胴部最大径部までと底部が遺存していた。おそらく意図的に打ち欠かれている。合わせ口の土器は小谷４式、古墳時代前期末頃と考えられる。

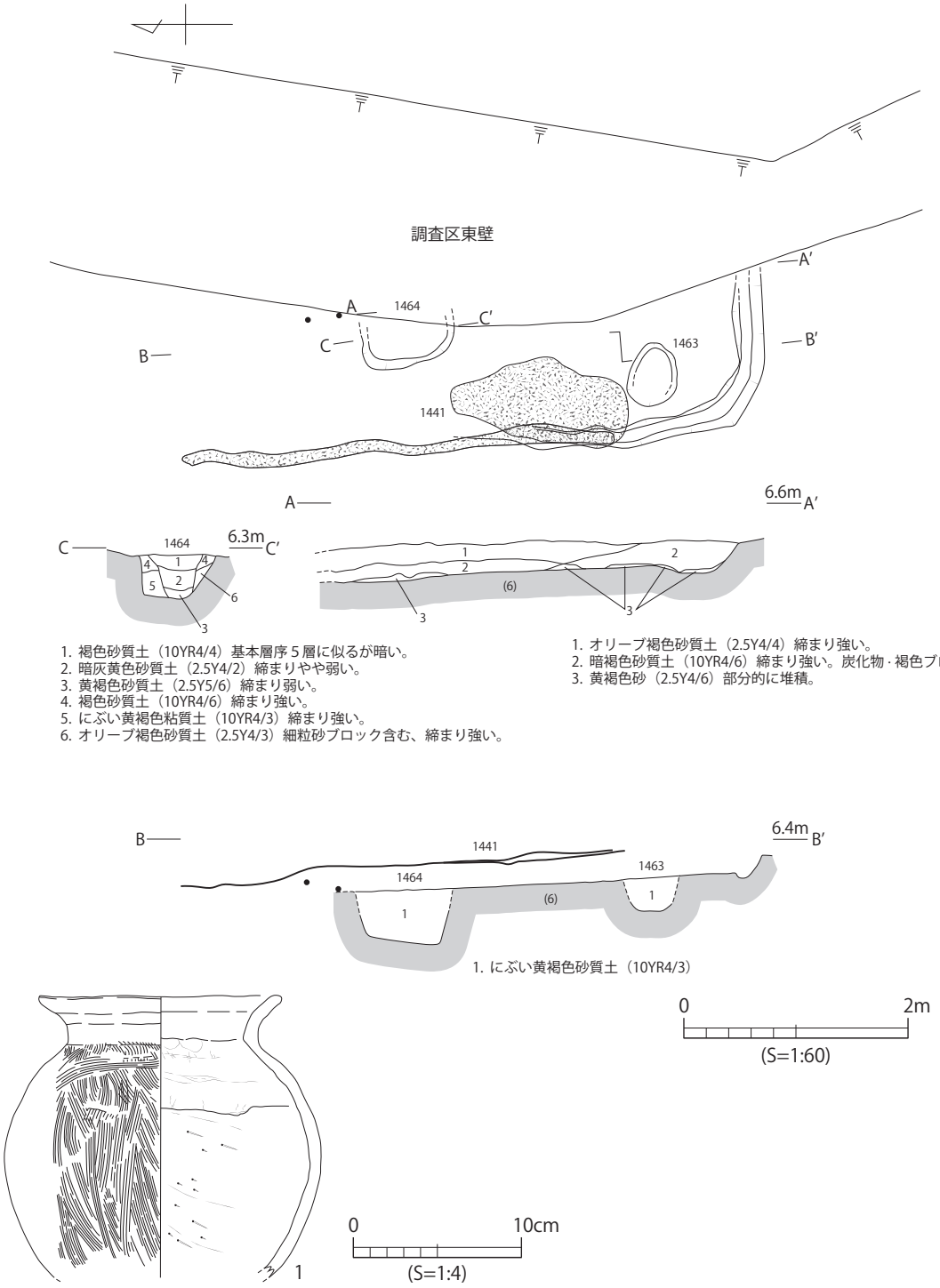
第40・41図は土器溜４から出土した。第40図１～13は土師器の甕で、すべて単純口縁のものである。１は胴部があまり張らず長胴形である。２～４は胴部が球形で、２は胴部下位に焼成後穿孔が施されている。５は頸部の屈曲がやや弱く、長胴形になると思われる。６は小型品で、口縁端部がつまみ上げられている。７・８は口縁部がやや長く外反が強い。７は土器溜１の資料と接合した。11～13はやや器壁が厚いものである。第41図１・２は土師器の壺である。１は大型の複合口縁壺である。頸部の屈曲が強く、一次口縁の突出はあまい。胴部下位外面には煤が付着し、口縁部内面には黒色の液体が垂れた痕跡が明瞭に残る。２は直口口縁のもので、複合口縁が形骸化した段がみられる。３～12は高坏である。坏部形態がわかるものは無段外反形もしくは有稜外反形で



第 42 図　土器溜１出土遺物

ある。脚部は12のように明瞭に屈曲するものがある。13・14は坏である。14は深さがあり底部も平底に近い。15 ～ 17は小型壺である。17は外表面が剥離しており、焼成時に剥離した可能性がある。18 ～ 21は弥生土器の甕で、混ざり込みの可能性が高い。22・23は石器である。22は安山岩製の石鏃で基部の右側をやや欠損する。23は槌石と考えられる。小口側の片側端面に打痕が残る。土師器の甕や高坏の形態から小谷４式から大東１式、古墳時代前期末から中期初頭を中心として一部それ以降に下るものも含まれると考えられる。遺構1277との位置関係に矛盾はない。

第42図は土器溜１から出土した。１～16は土師器である。１・２は単純口縁の甕である。いず



第 43 図　遺構 1454 竪穴建物および出土遺物

れも器壁がやや厚い。3の甕は複合口縁の形骸化が進んでいる。4～9は高坏である。坏部形態は様々であるが、7は明瞭な段をもつ。10～14は小型壺で、10～12はややサイズが大きい。15は小型の坏である。16は手捏ねによって成形したミニチュア土器である。17・18は鉄製品である。両者とも棒状で、断面長方形板状を呈する。土師器甕の器壁に厚みがあり、大東2～3式と考えられる。土器溜4よりも後出する一群であろう。

遺構1277、土器溜4・1は古墳時代前期末から中期の時期幅があり、粘土被覆合わせ口土器が埋没した後連続した土器廃棄がおこなわれたと考えられる。

遺構 1454 竪穴建物（第 43 図、図版 8・36）

遺構1276竪穴建物の南約7.5mの地点で検出した。調査区の東壁際に位置しているため大部分は調査区外である。本遺構はまず、プランを検出する前に長径1.6m、短径0.7mの炭を多く含む土の範囲を検出し、これと重複するように長さ約3.8mの北へ延びる棒状の炭を含む土を検出していた。その後、下位で方形のプランを検出した。結果として、この棒状の炭は建物に関わる部材が炭化したものの可能性がある。

本遺構は後世の削平により壁がほとんど残っておらず、北側はプランを検出できなかった。現状での柱穴と出土遺物の位置から判断すると、南北辺が4m以上あると考えられる。プランを確認できた部分では壁際溝も検出した。柱穴は2基検出したものの、配置は定かでなく、遺構1463は主柱穴とは考えにくい。おそらく調査区外に柱穴があるものと考えられる。これら柱穴を検出したのは床面を取り除いたさらに下層であり、本来のプランを検出することはできなかった。そのため、断面図では床面の高さに合わせて柱穴を復元している。遺構1464の深さは約50cmである。

遺物は床面で土師器の甕1点が出土したのみである（第43図）。1は土師器の甕である。口縁部はやや長く、外反しながら開く。頸部の屈曲が弱く、全体的に器壁が厚い。大東3式と考えられ、遺構の時期は古墳時代中期後半と考えられる。

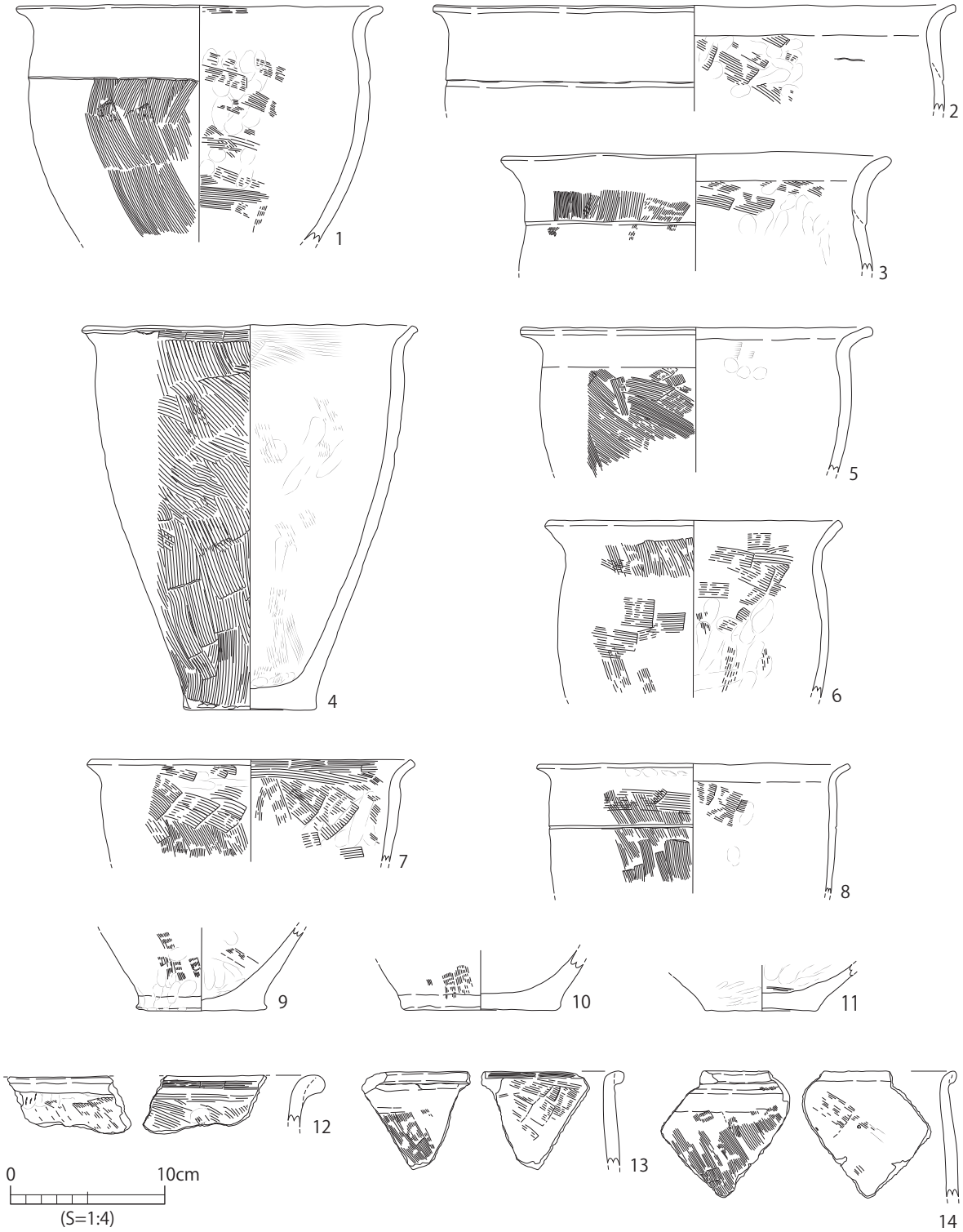
土器溜 3（第 24・25、44～48 図、図版 8・36～39）

令和元年度に1区で弥生時代前期の包含層である6層を掘削中、F4グリッドで土器と石斧未成品が面的に出土し、翌年に2区でもその続きと考えられる土器溜を検出した。土器は破片資料が多く、廃棄の状況をそのまま残しているとは考えにくい。この土器溜では、土器よりも石器（磨製石斧未成品）が目立った。6層自体からも多くの未成品が出土しており、本遺跡で弥生時代前期に磨製石斧を製作していたことが明らかとなった。

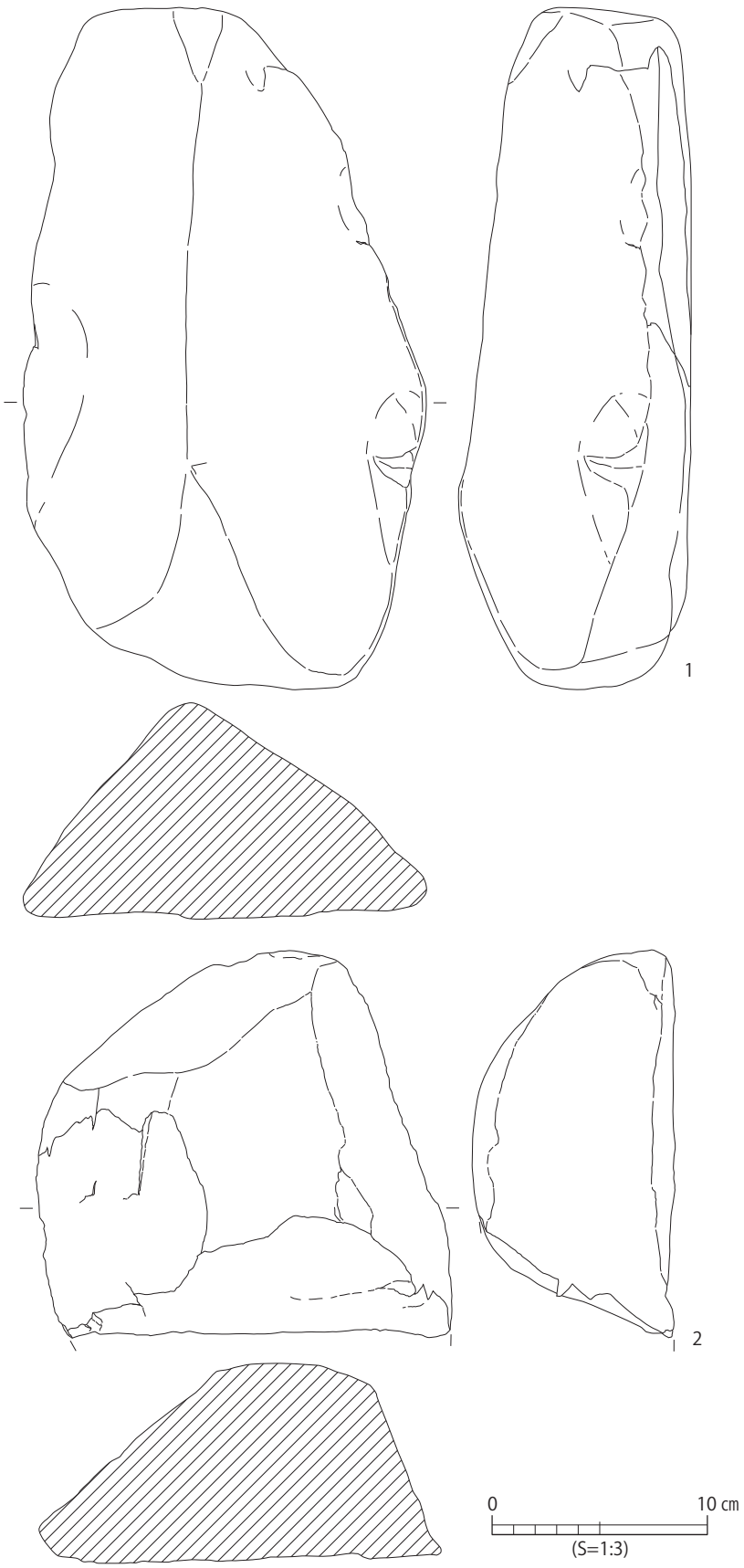
掲載遺物の内訳は弥生前期の甕13点、壺1点、石器31点である（第44～48図）。第44図1～10は弥生土器の甕である。1～3は胴部に段をもつものである。いずれも粘土紐の接合部を利用して段を形成し、1はハケ調整で段を強調している。4～7は無文のものである。8は胴部に沈線文1条が施されている。9・10は甕の底部、11は壺の底部と考えられる。12～14は無文土器系と考えられる。13は円形の粘土帯を口縁部外面に張り付ける一方、12・14は口縁端部を外側に折り返すことによって円形粘土帯を形成している。これらは石見Ⅰ－1～2様式と考えられる。

第45～48図は石器で、ほとんどが磨製石斧の未成品である。石材は塩基性片岩と呼ばれる変成岩である。第45図1・2、第46図1は素材となる原石と考えられる。第45図1は全体的に風化・円磨が進んだ転石である。2と第46図1は外面の風化が進んでおらず、割り取られた素材の可能性もある。2～8、第47図1・2は原石から大まかな剥離のみを加えた素材剥片もしくは剥離により

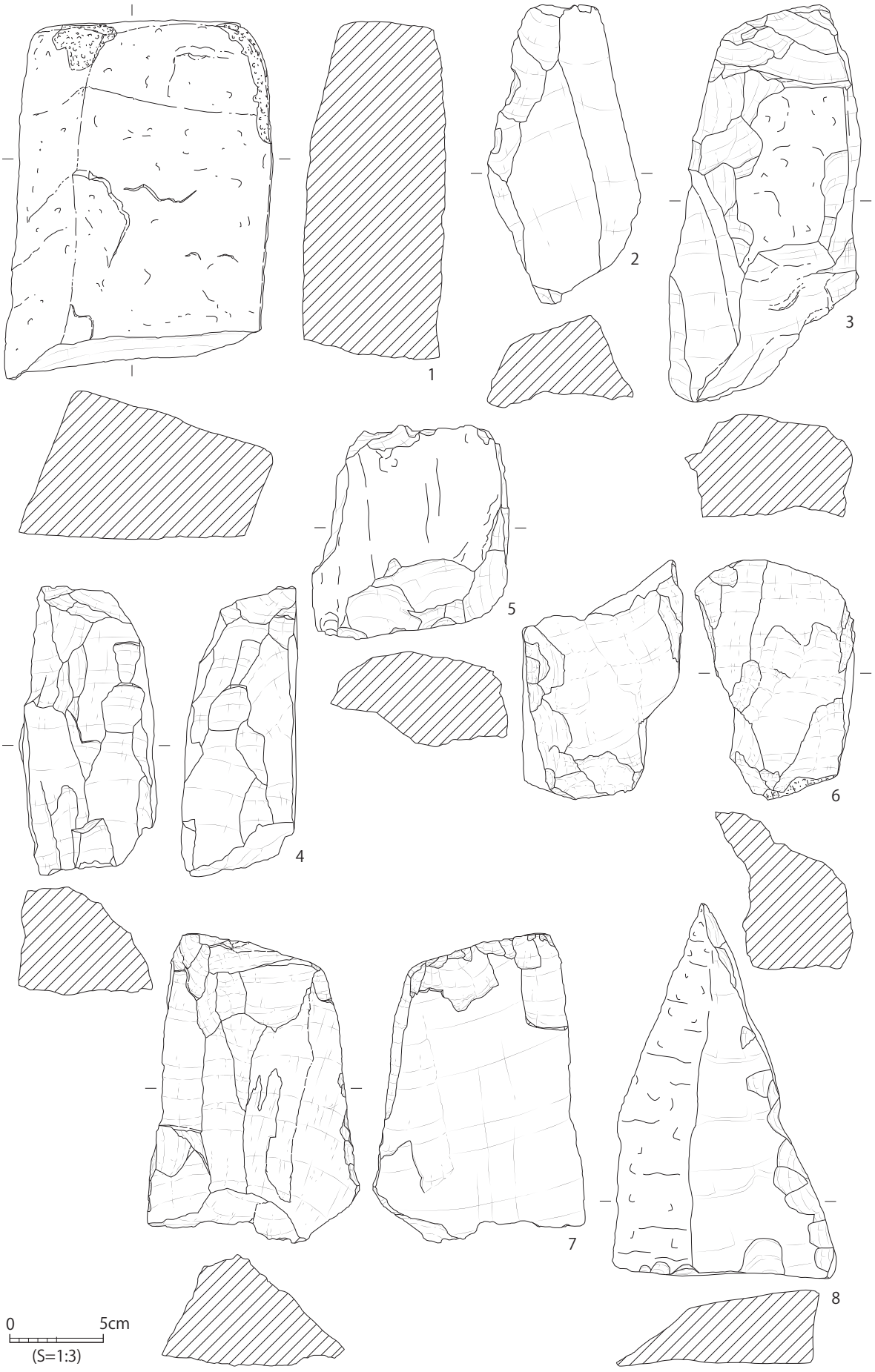
ある程度成形した剥離段階の未成品である。いずれもある程度完成品の大きさをイメージして成形されているが、細かな剥離は少ない。３～９、第48図１～９は敲打段階の未成品である。第47図３は採取した転石に直接敲打を加えている。いずれも剥離段階から大きく形を変化させており、製作工程の中で敲打の役割がかなり大きかったと考えられる。この段階でも外面に自然面が残るものがある。形態は基部の幅が狭く、乳棒状を呈するものが多い。10はデイサイト製の磨石である。両面ともよく使用されている。



第 44 図　土器溜３出土遺物（１）



第 45 図　土器溜 3 出土遺物（2）



第 46 図　土器溜 3 出土遺物（3）

土器溜２（第 24・49・50 図、図版９・40 ～ 42）

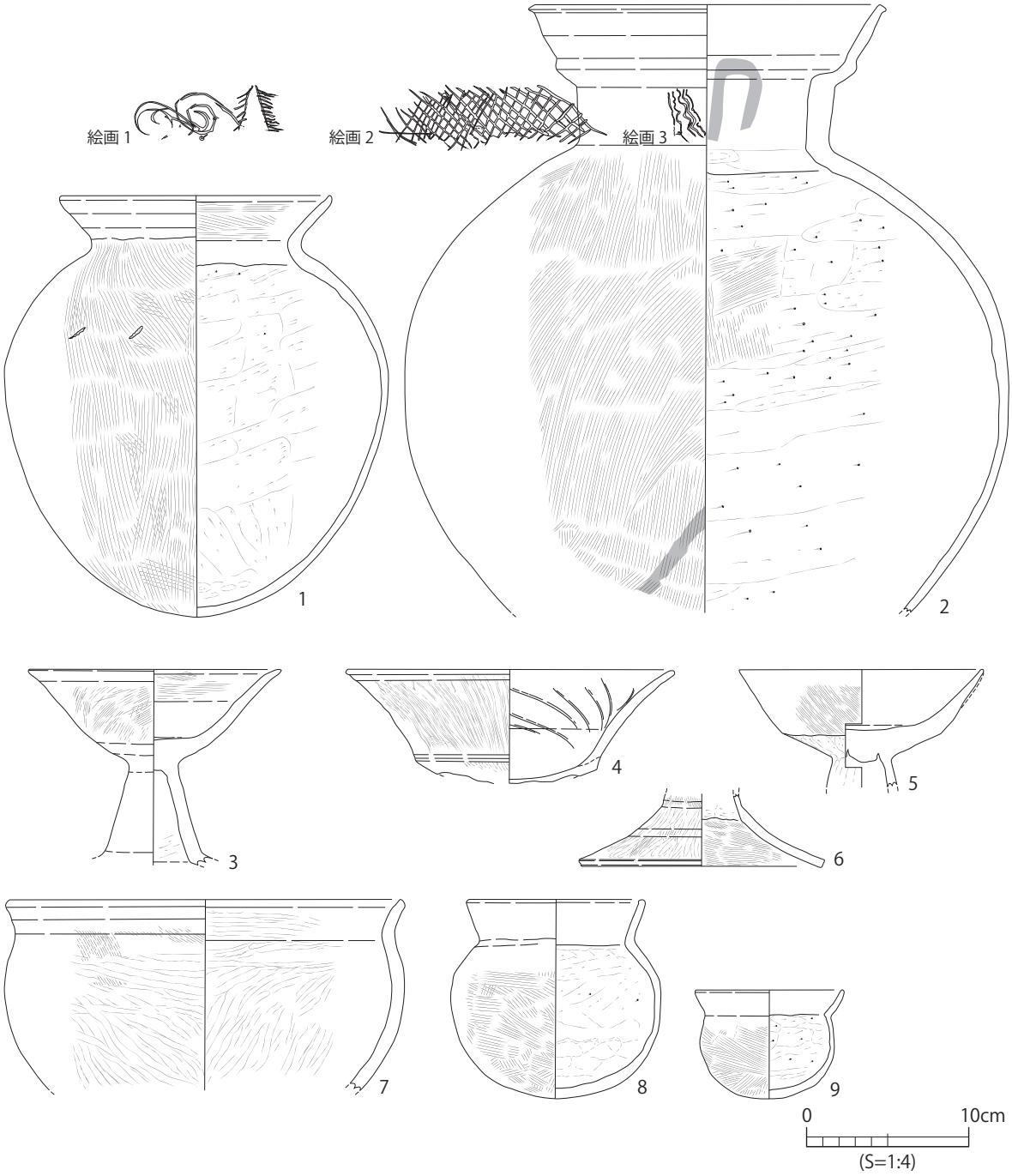
遺構1277竪穴建物？の南側で検出した。本遺構は５層の包含層掘削中にやや遺存状態の良い土器が帯状に出土したことから土器溜として記録をとった。しかし、結果としては弥生時代後期から古墳時代中期の遺物を含んでおり、このまとまりにどれほどの意味があるのかは不明である。一方で、古墳時代の絵画土器など特徴的な遺物が出土し、遺構1277に関わる遺物と時期が近いことから、一部はこれらと関係した遺物の可能性がある。

第 47 図　土器溜３出土遺物（４）

遺物は土師器の甕１点、壺１点、高坏４点、大型鉢１点、小型壺２点、弥生土器の甕１点、壺２点、石器１点である（第49・50図）。第49図１～９は土師器である。１は単純口縁の甕である。胴部は球形に近い倒卵形で、全体的に器壁が薄い。肩部には刺突文がみられるが全周しない。２は複

第 48 図　土器溜３出土遺物（５）

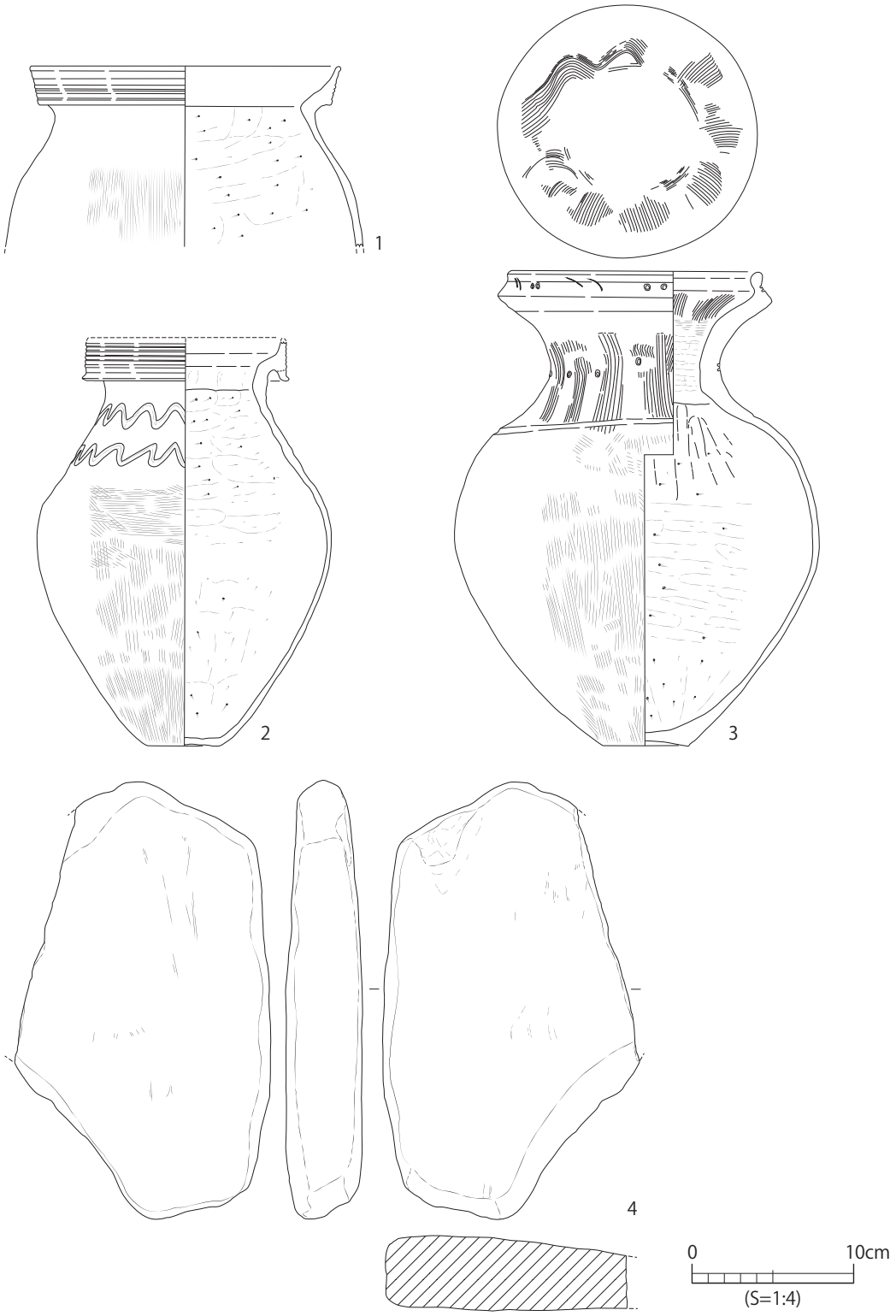
合口縁の壺である。胴部は球形に近く、最大径の部分がかなり張る。頸部は直線的に立ち上がり、胴部境の屈曲が強い[3]。頸部内面には煤が付着しており、一部リング状になっている。外面には液体が垂れたような痕跡があるが、断面にまで及んでいるため廃棄後に付着したものと思われる。そして、頸部には一周するように３ヵ所にわたって線刻絵画が描かれている。ここでは便宜上、図のように絵画１～３とする。絵画１は２つの渦巻きと山形のものが並ぶ。渦巻き状絵画はいずれも右下が視点となる左回りの渦である。ただ、向かって左側の線刻は非常に薄く、痕跡程度に確認できる。山形絵画は山形に描かれた２条の線刻のそれぞれの外側に斜線が描かれる。渦巻きは龍を記号化したものであろうか。山形の線刻は類例がなく不明であるが、雷を表現したものの可能性がある。絵画２は斜格子状の線刻で、通常の土器文様にも存在するが、一部分にのみ描かれることから絵画と



第 49 図　土器溜２出土遺物（１）

判断した。絵画３は縦方向の波状線刻が５条並ぶ。これも雷が記号化したものかと思われる[4]。３～６は高坏である。坏部・脚部の形態はバリエーションがある。４は有稜外反形で深さがあり、内面に暗文状のミガキ調整がみられる。５は一部に赤彩が残る。７は大型の鉢である。内外面をミガキによって調整している。８・９は小型壺としたがサイズが異なる。土師器は小谷３式から大東１式の幅があるように思われるが、遺構1277や土器溜４・１と重複する時期のものが多い。

第50図１～３は弥生土器である。１は甕で、上方に拡張した外面には擬凹線文が施されている。



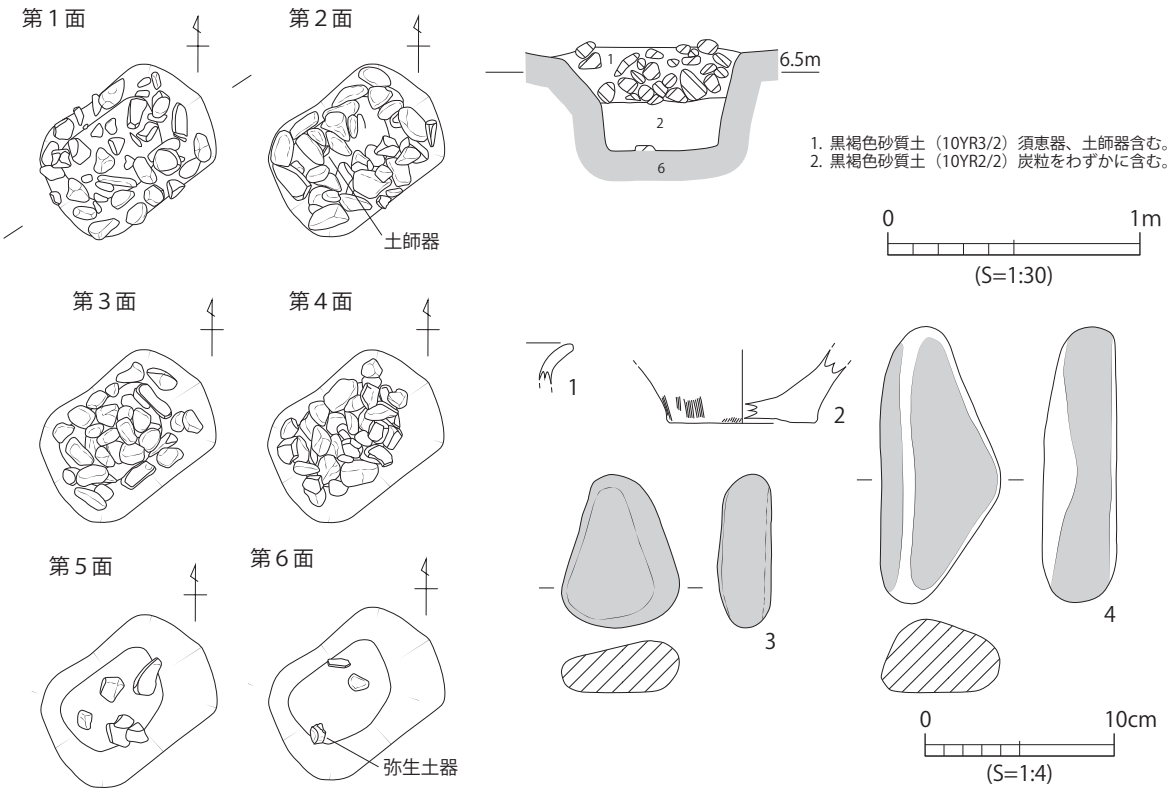
第 50 図　土器溜２出土遺物（２）

２・３は壺である。２は口縁部を上下に大きく拡張し、外面には擬凹線文が施される。頸部には太いヘラ状工具による波状文が２本施される。胴部はそれほど張らず、底部はわずかに上げ底である。３は口縁部が短く内側に立ち上がる。口縁部の外面にはそれぞれ２個セットの爪形文と竹管文が交互に施され、頸部には竹管文とハケ状工具による暗文が交互に施される。また、口縁部の内面にもハケ状工具による暗文がみられる。口縁部から頸部にかけての内外面に赤彩された痕跡が残る。胴部はやや張る一方で、底部は小さく上げ底である。胴部の外面には煤が付着しており、煮炊きをおこなった可能性が高い。弥生土器は石見Ⅴ－２～３様式と考えられるが、２・３の壺は西部瀬戸内地域の影響を受けていると考えられる。４は石皿の可能性がある。ただ、上面および下面にわずかな擦痕があるのみで、触感も自然の状態に近いことからほとんど使われていないと考えられる。

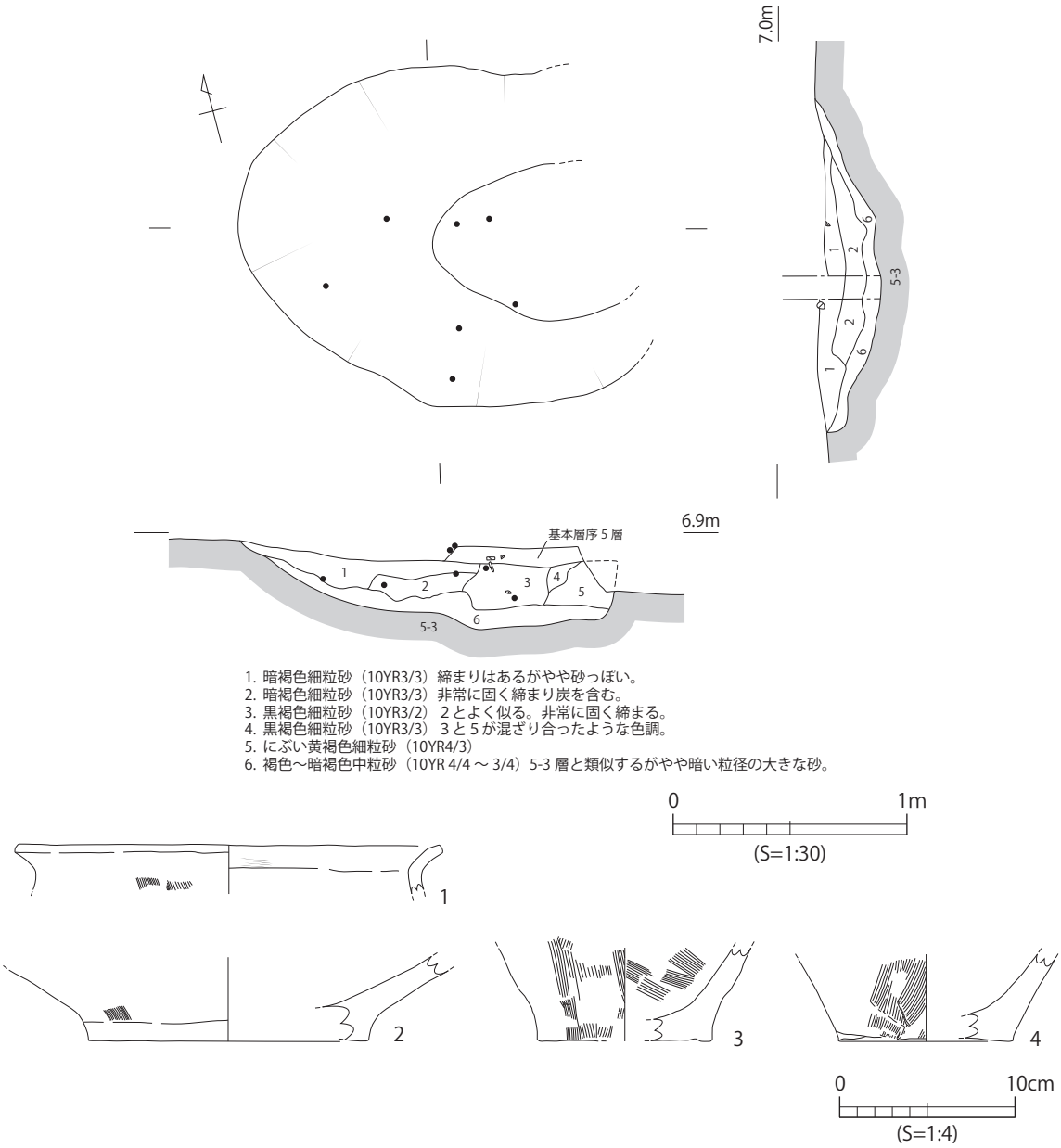
遺構 1247 集石土坑（第 51 図、図版９・42）

土器溜３の北側で検出した。当初は長軸約60cm、短軸約50cmの長方形の範囲に集石がみられ、その後石を除去しながら掘り下げたところ掘方を確認した。石はほぼすべて丸みを帯びた川原石で、深さ約20cmにわたって約140個がぎっしりと詰められていたため、便宜的に５面に分けて記録を取った。その下層には一切石を含まない黒褐色砂質土が約20cm堆積しており、底面で弥生前期の土器片などが出土した（第51図）。

１・２は底面から出土した弥生土器である。１は甕の口縁部である。２は甕底部である。３・４は石器である。３は底面で出土した磨石である。全面が研磨され、一部に被熱痕がみられる。４は石第２面の南側に交じって出土した砥石で、上面と側面が研磨により滑らかになっている。土器の様相からは弥生時代前期の遺構と考えられるが、性格は不明である。



第 51 図　遺構 1247 集石土坑および出土遺物



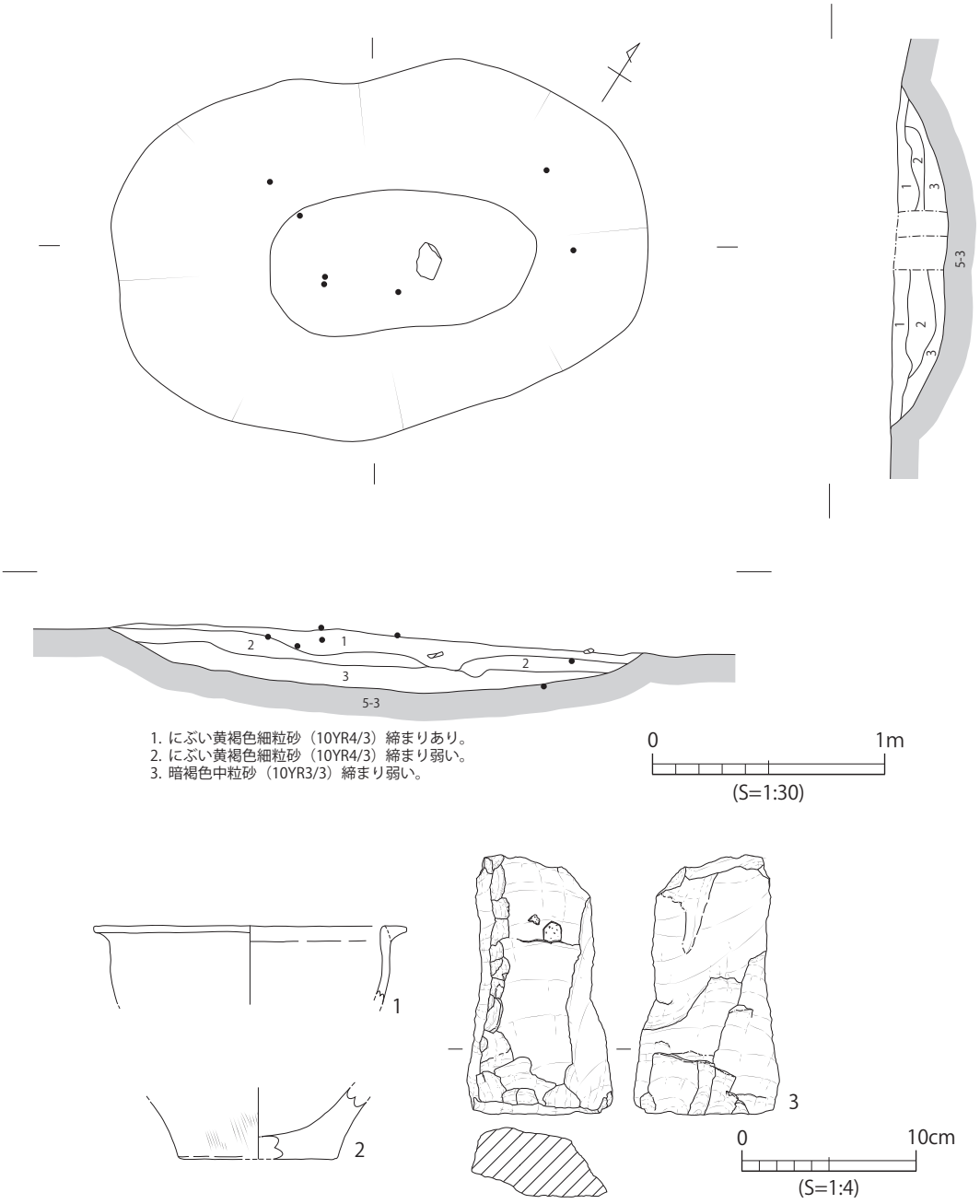
第 52 図　遺構 2164 土坑および出土遺物

遺構 2164 土坑（第 52 図、図版 9・43）

５－３層上面で検出した大型の土坑である。検出が遅れ、東側約３分の１の様相は不明である。埋土は６層に分層でき、２・３層が固く締まっていた。遺物はいずれも浮いた状態で出土した（第52図）。１～４は弥生土器である。１は甕の口縁部、３・４は底部である。２は壺の底部である。出土土器は小破片が多いが、いずれも石見Ⅰ様式で、遺構の時期は弥生時代前期と考えられる。

遺構 2210 土坑（第 53 図、図版 9・43）

５－３層上面で検出した大型の土坑である。埋土は３層に分かれ、すべての層から弥生土器が出土したが、いずれも破片であった（第53図）。１・２は弥生土器の甕である。１は口縁部で、口縁端部に水平方向の断面二等辺三角形状の突帯を巡らせる。２は底部である。１は石見Ⅰ－３様式と考えられる。３は石器で、塩基性片岩製の磨製石斧未成品である。剥離段階のもので、長軸に沿って大きな剥離を加えて成形し、刃部や側縁部に細かな剥離を加えている。

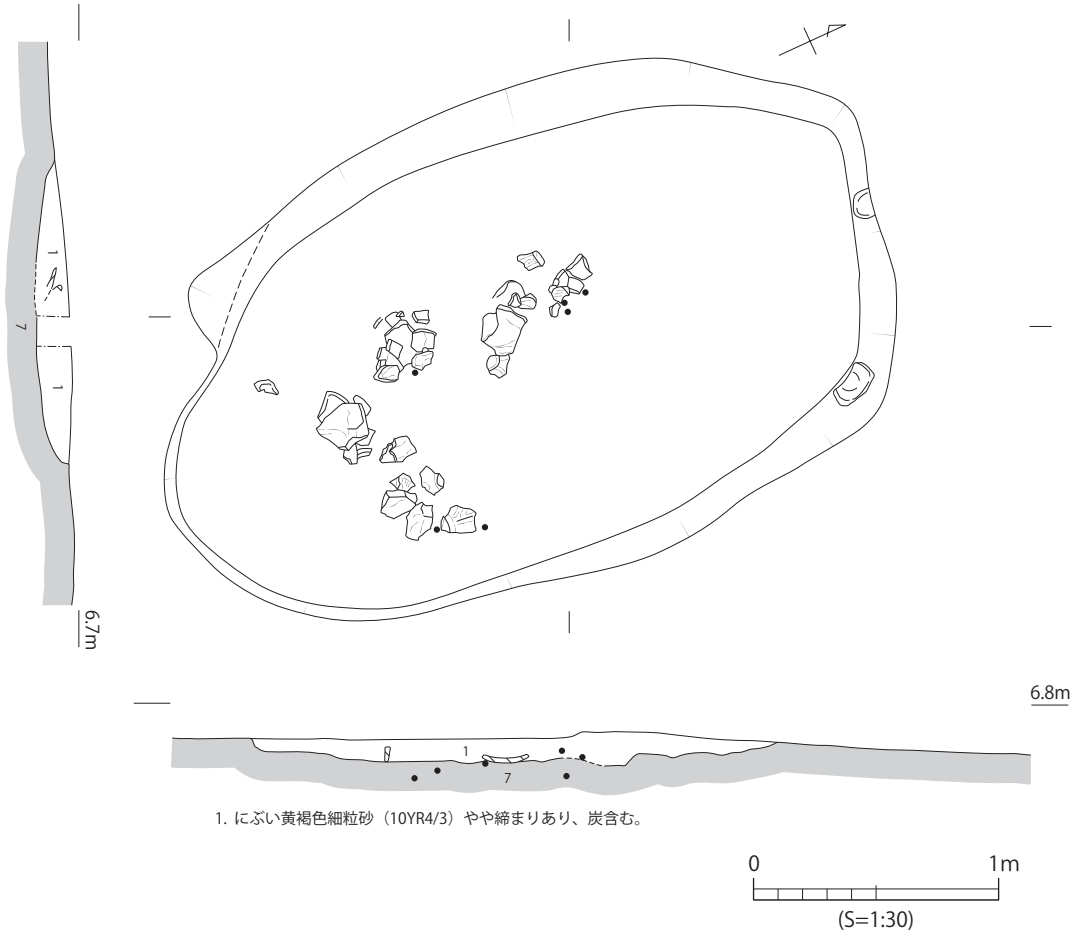


第 53 図　遺構 2210 土坑および出土遺物

遺構 2240 土坑（第 54 ～ 56 図、図版 9・43・44）

7 層上面で検出した浅い土坑である。埋土内からは弥生時代前期の土器や石器が出土し、土器は大きな破片も多くみられた（第55・56図）。直上の包含層で取り上げていた土器と接合したものもあったため、本来はもう少し上から掘り込まれていたものと考えられる。図示はしていないが、埋土からは数mm程度の緑色凝灰岩・瑪瑙のチップも出土しており、廃棄土坑と考えられる。

第55図1～5は弥生土器である。1・2は甕である。1は口縁端部に面をもち、頸部がやや強く屈曲してそのままほとんど張ることなく底部につながる。頸部下には沈線文を1条施す。3～5は壺である。3は大型品であり、器高は50cm以上になると考えられる。頸部と肩部には段がみられるが、胴部は無文である。4は接合しないが同一個体として復元した。頸部と肩部は沈線で区画している。これも現状では文様が確認できない。5も無文で、肩部にも段や沈線は確認できない。壺



第 54 図　遺構 2240 土坑

でありながら外面には多くの煤が付着している。これらは石見Ⅰ－１～２様式と考えられる。第56図１～３は石器である。１・２は塩基性片岩で、磨製石斧の製作に関係するものと考えられる。１は原石に剥離を加えて素材剥片を割り取った石核ではないかと考えられる。２は素材剥片である。敲打の痕跡はみられない。３は石皿である。中央が使用により大きく窪んでおり、この部分は非常に滑らかである。

遺構 2269 土坑（第 57・58 図、図版 10・44）

６層上面で検出した方形の浅い土坑である。トレンチによって東側および北側のプランを検出できなかった。ほぼ中央から自然角礫２点が出土したほか、弥生時代前期の土器片や石斧未成品が出土した（第58図１～６）。１～４は弥生土器である。１は甕の口縁部でわずかに段が確認でき、ハケ調整によって段を成形している。２・３は甕の底部、４は壺の底部である。１は石見Ⅰ－１様式と考えられる。５・６は塩基性片岩製の石斧未成品である。５は剥離段階、６は敲打段階である。

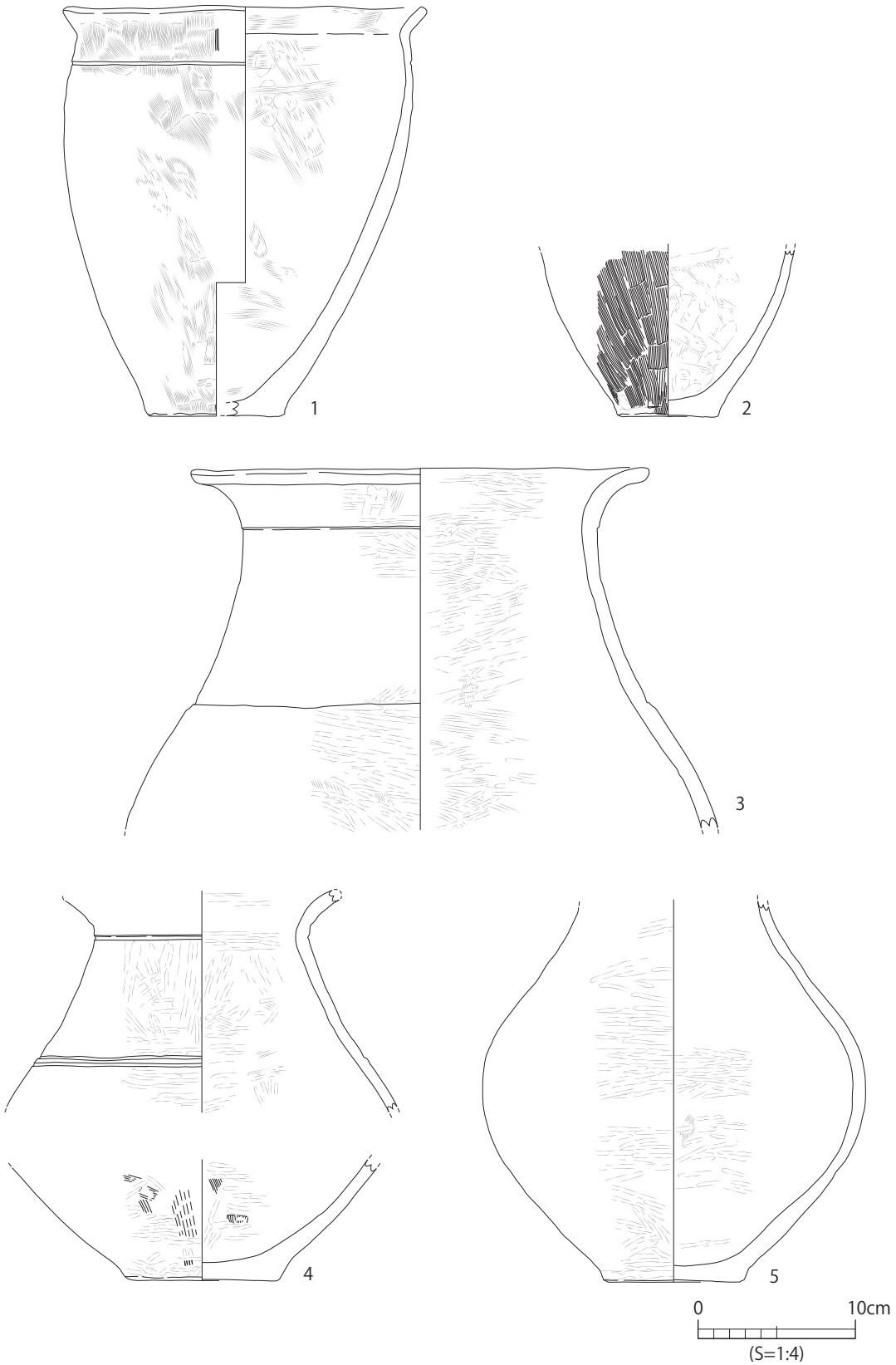
遺構 2209 土坑（第 57・58 図、図版 10・45）

５－３層上面で検出した。埋土は２層に分かれ、各層から１点ずつ弥生土器が出土した（第58図７・８）。７・８は弥生土器の甕である。７が１層、８が２層から出土した。７は器壁が厚く口縁部の拡張も弱い。８は口縁部が上下に大きく拡張される。いずれも石見Ⅴ－１様式と考えられる。

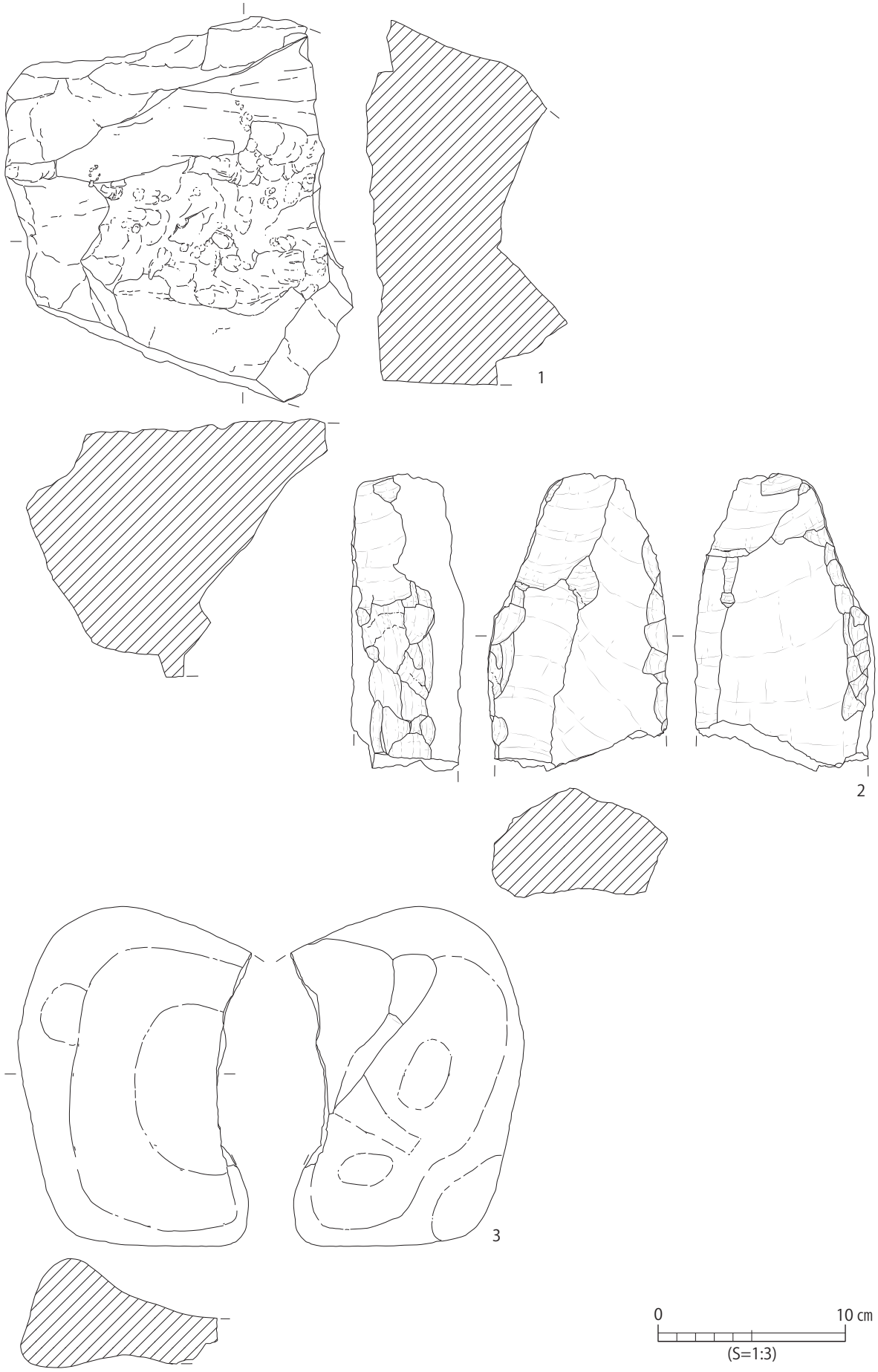
遺構 2277 土坑（第 57・58 図、図版 10・45）

７層上面で検出した浅い土坑である。位置は弥生時代後期の竪穴建物などが集中するエリアからやや南に外れている。出土土器の時期からみるとこれ以南の３区で検出されたピット群との関係が

考えられる。第58図9～12は弥生土器である。9・10は甕の口縁部である。ともに口縁部が内傾しながら上方に拡張され、外面に凹線文が施される。11は壺の底部と思われる。12は鉢である。口縁部は上方に拡張し、外面に凹線文が施される。いずれも石見Ⅴ－1様式と考えられる。



第 55 図　遺構 2240 土坑出土遺物（1）



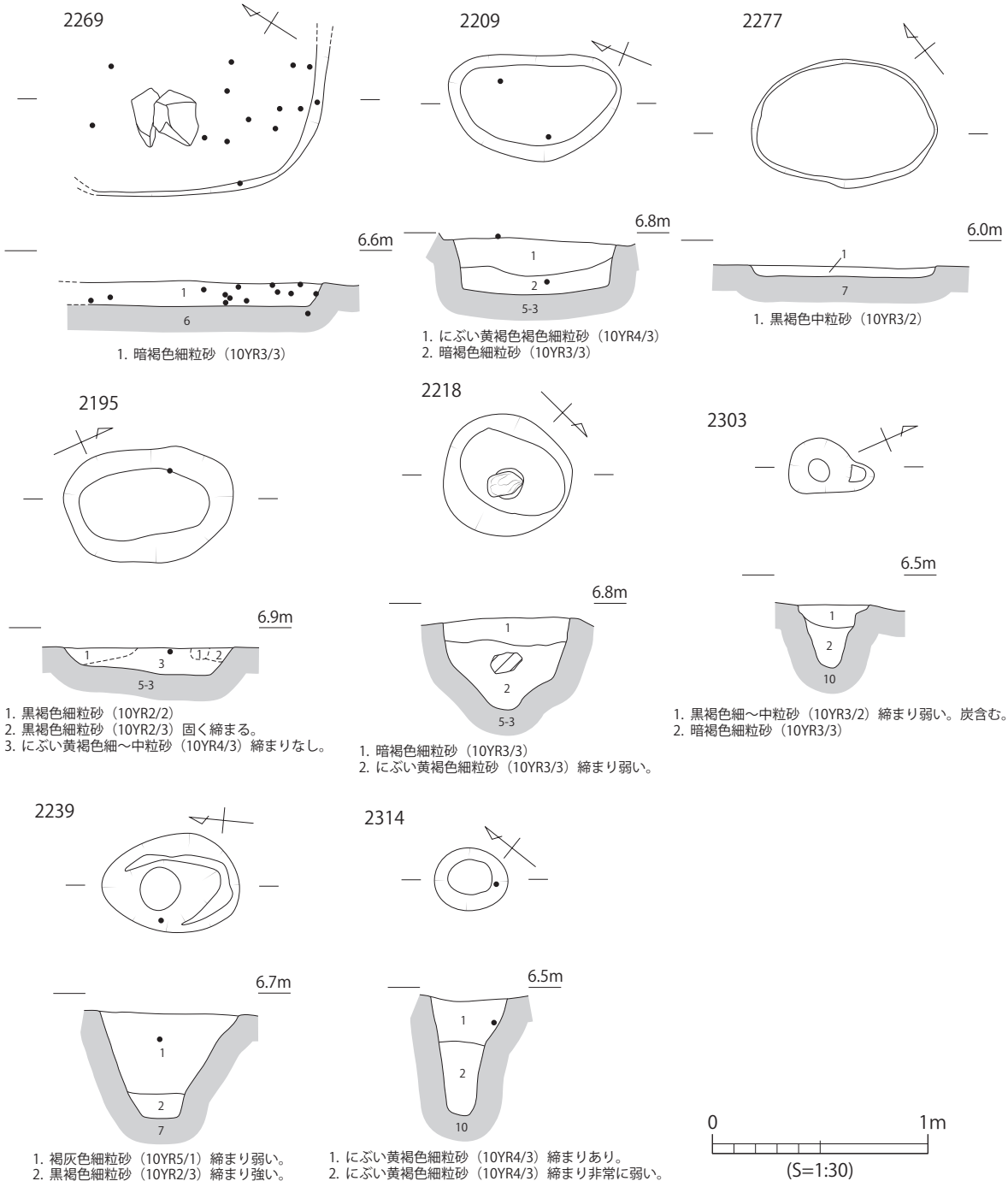
第 56 図　遺構 2240 土坑出土遺物（２）

遺構 2195 土坑（第 57・58 図、図版 10・45）

5－3層上面で検出した浅い土坑である。埋土は3層に分かれるが境界が不明瞭であった。埋土から土師器が2点出土した（第58図13・14）。13・14は土師器である。13は甕で、口縁部が外反しながら大きく開く。14は坏で、口縁部が外傾しつつまっすぐ立ち上がり、比較的深さがある。いずれも大東1～3式と考えられる。

遺構 2218 ピット（第 57・58 図、図版 10・45）

5－3層上面で検出した。埋土2層から円礫が1点出土したほか、弥生土器が1点出土した（第58図15）。15は弥生土器の甕である。如意形口縁で端部は丸みを帯びる。石見Ⅰ－2～3様式と考えられる。



第 57 図　弥生～古墳時代の土坑・ピット

遺構 2303 ピット（第 57・58 図、図版 10・45）

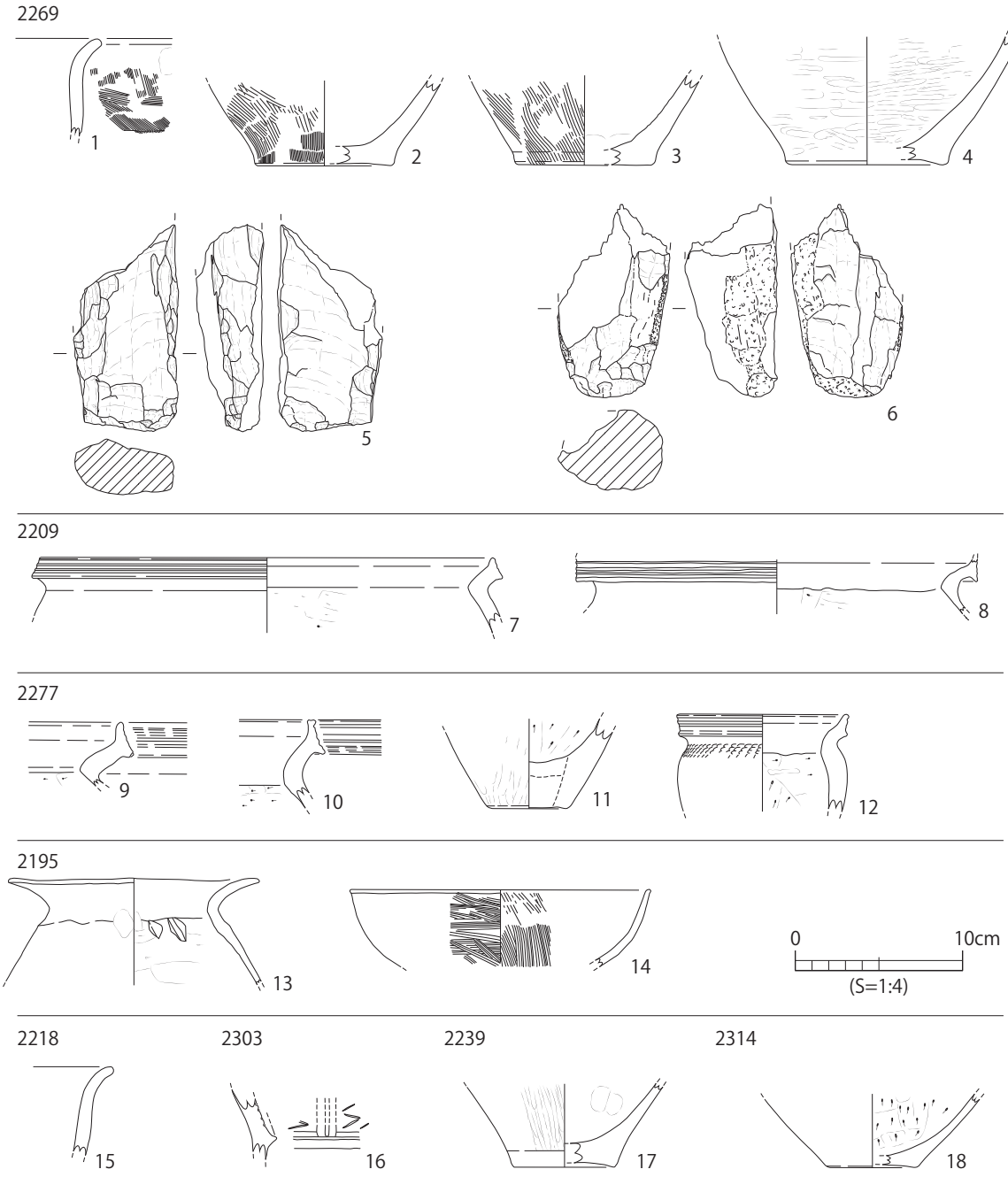
10層上面で検出した。北側に浅い段がある。埋土から弥生土器の小片が出土した（第58図16）。16は弥生土器の壺である。最大径部に横位の突帯が貼り付けられ、それに直交するように縦位の突帯がみられる。突帯の左右両側にはヘラ状工具による羽状文が複数段施される。文様構成から石見Ⅰ－3様式と考えられる。

遺構 2239 ピット（第 57・58 図、図版 10・45）

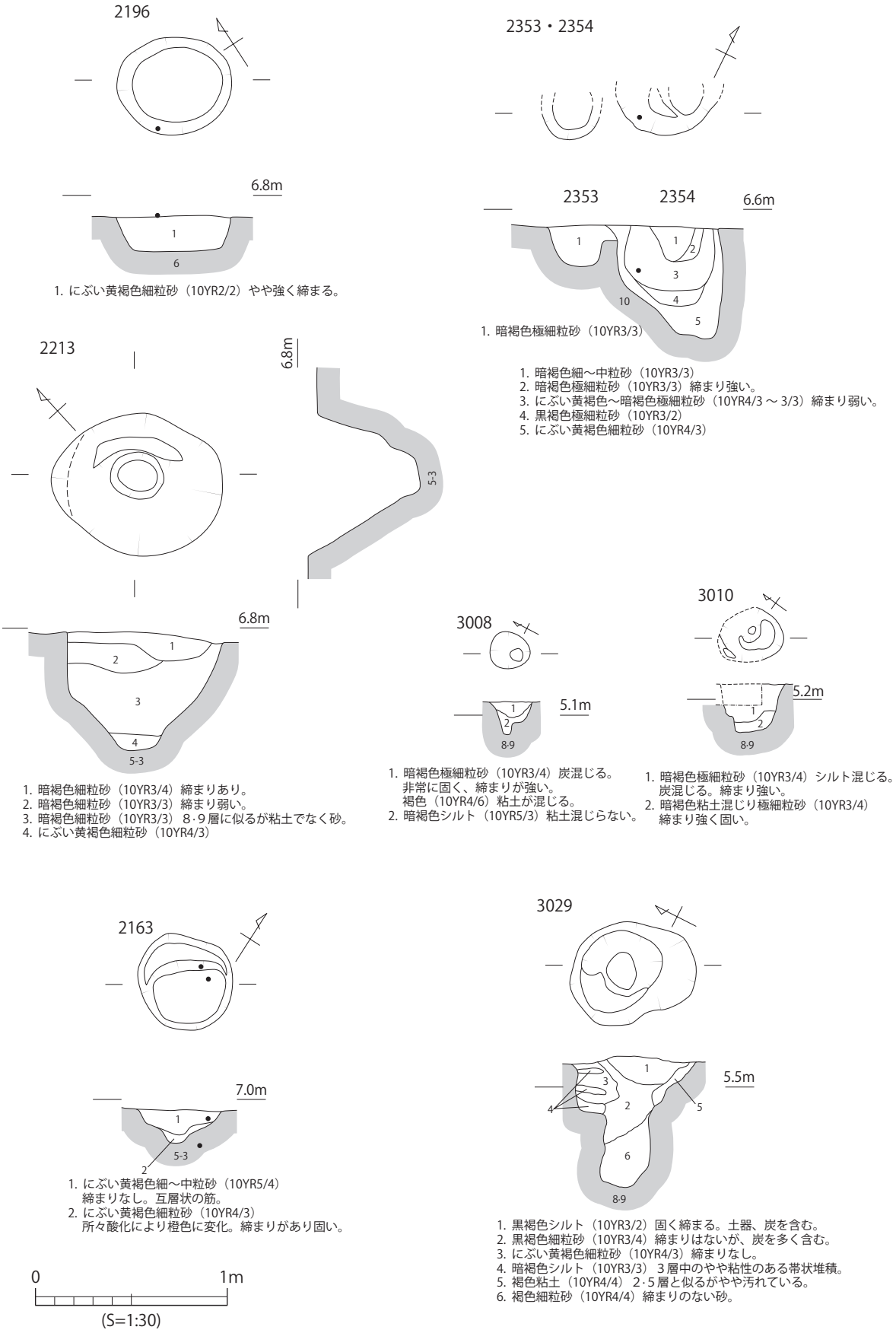
7層上面で検出した。埋土から弥生土器が1点出土した（第58図17）。17は弥生土器の壺底部である。詳細な時期は不明だが、石見Ⅲ～Ⅳ様式と考えられる。

遺構 2314 ピット（第 57・58 図、図版 10・45）

10層上面で検出した。位置的には遺構2217竪穴建物と重複するものの、検出層位と出土遺物か



第 58 図　弥生～古墳時代の土坑・ピット出土遺物



第 59 図　弥生～古墳時代のピット

ら建物以前の遺構と判断した。やや深さのあるピットである。埋土から弥生土器が１点出土した（第58図18）。18は甕の底部である。内面にはヘラケズリがみられる。器壁が薄く丁寧な仕上がりであることから石見Ⅲ～Ⅳ様式と考えられる。

遺構 2196 ピット（第 59・60 図、図版 11・45）

６層上面で検出した。埋土から弥生土器が１点出土した（第60図１）。１は弥生土器の甕である。肩部には貝殻腹縁による刺突列点文が施される。石見Ⅴ－１様式と考えられる。

遺構 2353・2354 ピット（第 59・60 図、図版 11・45）

令和元年度に１区を調査中、調査区南壁で断面を確認し、翌年２区の調査でプランを検出した２基のピットである。ともに10層上面で検出し、遺構2354が遺構2353を切っている。埋土は５層に分けられたが、各層が水滴状に重なっており、通常の遺構の堆積とは異なることから植生痕跡の可能性もある。埋土から弥生土器が出土した（第60図２）。２は弥生土器の甕口縁部である。端部はあまり拡張せず、外面に凹線文が施される。石見Ⅴ－１様式であろう。

遺構 2213 ピット（第 59・60 図、図版 11・45）

５－３層上面で検出した。深さが約60cmある。周辺には同様の比較的深さのあるピットを複数検出したが、掘立柱建物は復元できなかった。埋土から弥生土器が１点出土した（第60図３）。３は弥生土器の甕である。口縁部は外傾しながら立ち上がり、外面に文様は確認できない。石見Ⅴ－２様式と考えられる。

遺構 3008 ピット（第 59・60 図、図版 11・45）

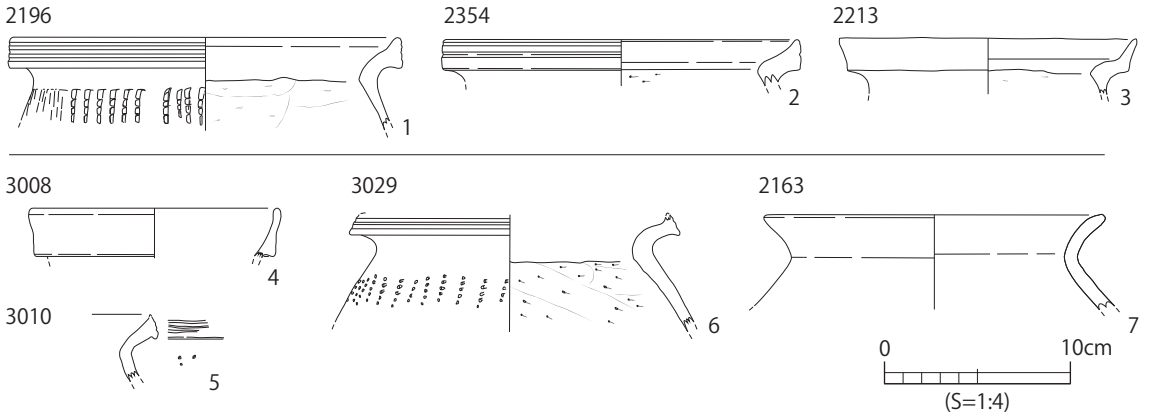
８・９層上面で検出した。周辺にもピットを複数検出したが、掘立柱建物は復元できなかった。埋土から弥生土器が１点出土した（第60図４）。４は弥生土器の甕である。口縁部は大きく拡張し、外面に文様はみられない。石見Ⅴ－３様式と考えられる。

遺構 3010 ピット（第 59・60 図、図版 11・45）

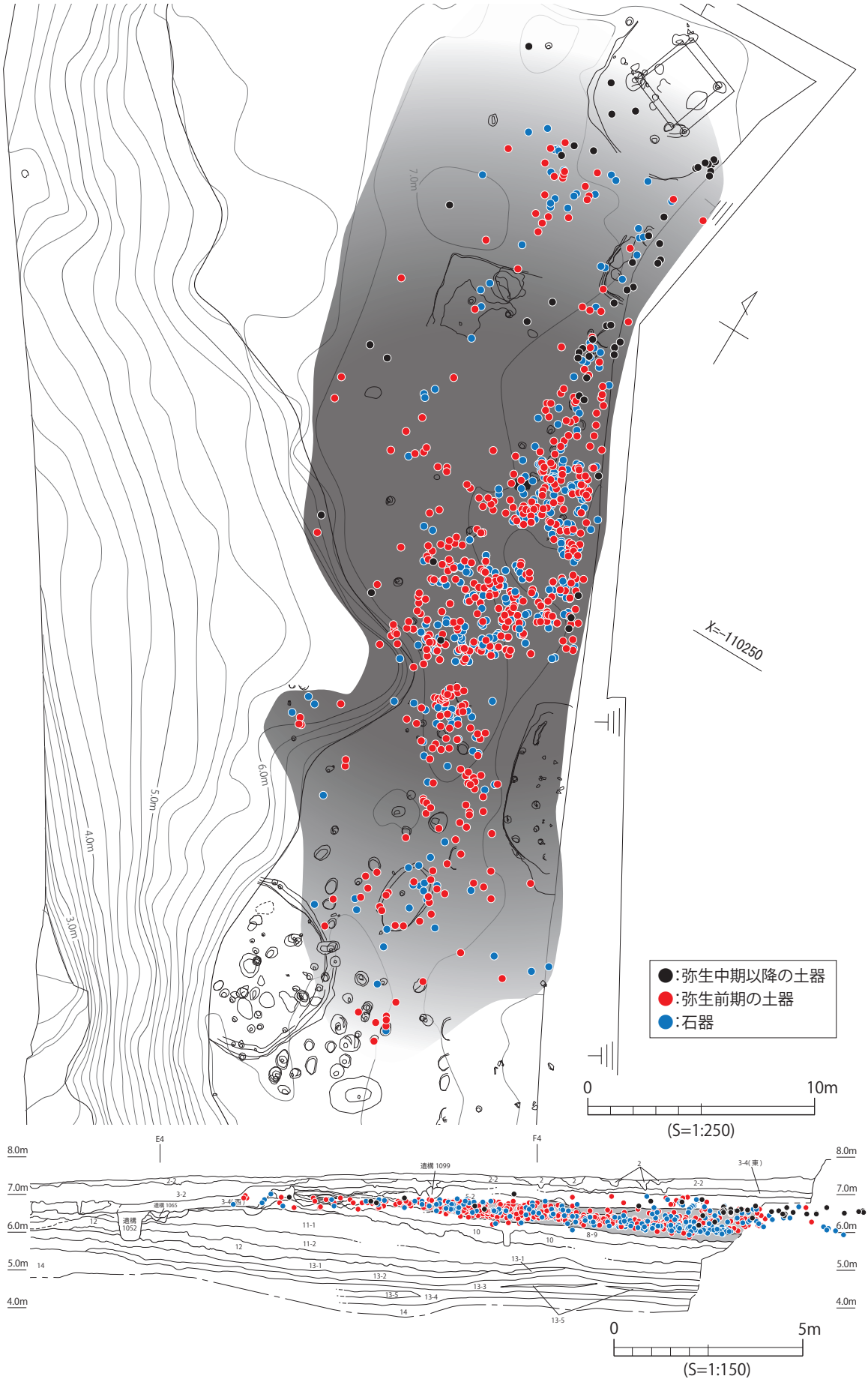
８・９層上面で検出し、遺構3008とも近い。埋土から弥生土器が出土した（第60図５）。５は弥生土器の甕である。石見Ⅴ－１様式と考えられる。

遺構 3029 ピット（第 59・60 図、図版 11・45）

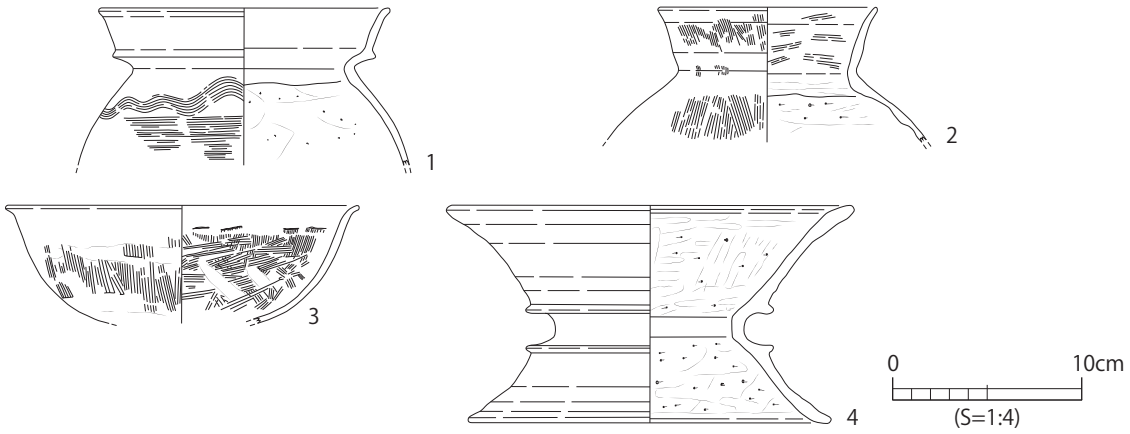
８・９層上面で検出した。周辺にもピットを複数検出したが、掘立柱建物は復元できなかった。埋土から弥生土器が１点出土した（第60図６）。６は弥生土器の甕である。石見Ⅴ－１様式と考えられる。



第 60 図　弥生～古墳時代のピット出土遺物



第 61 図　6 層出土遺物分布図



第 62 図　６・７層出土遺物（１）

遺構 2163 ピット（第 59・60 図、図版 11・45）

５－３層の上面で検出した。北西側が三日月形に浅い二段掘りのようになっている。埋土から土師器が出土した（第60図７）。７は土師器の甕である。口縁部は若干外反しながら開く。全体的に摩滅しており調整は不明瞭である。大東１～３式と考えられる。

２．６・７層の遺物

６層は調査区北側にのみ限定的に確認された。上層との層境や自然堤防の高まり部分で層が収れんする地点から新しい時期の遺物が出土したものの、それ以外は弥生時代前期の遺物で占められるため、ある程度まとまりのある時期の包含層と考えられる（第61図）。７層は１～３区の全体で確認でき、粒径が大きく逆級化構造が確認できたこと、遺物量が少ないことから短期間で堆積した氾濫堆積層と考えられる。

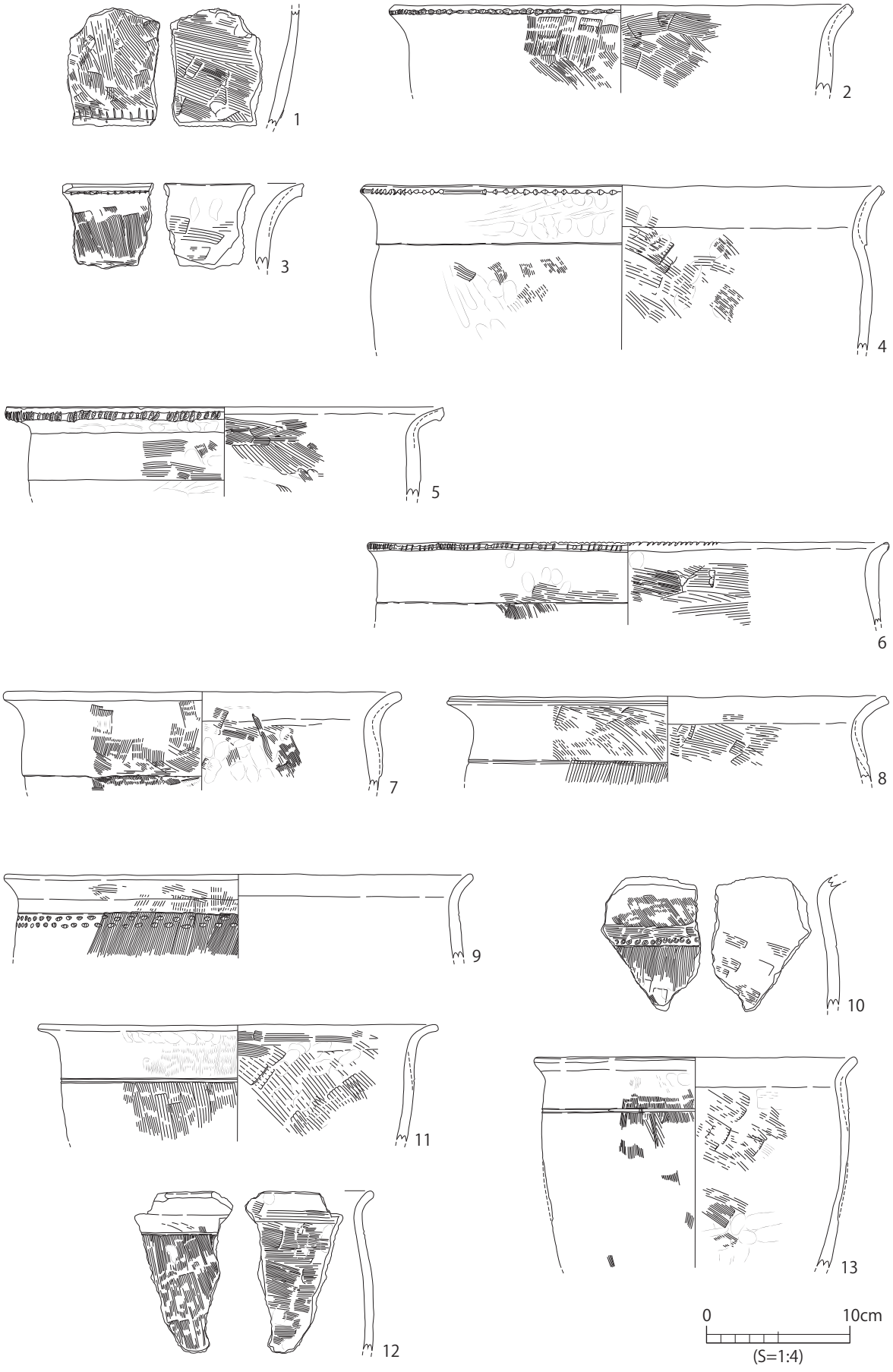
土師器（第 62 図、図版 45）

第62図１～４は土師器である。１は複合口縁の甕である。口縁端部は外側にややつまみ出される。２は直口壺である。３は高坏と考えられる。無稜外反形の深い坏部である。４は鼓形器台である。脚高がやや低く、筒部径の縮小が進んでいる。１は草田６期、２は大東１式、３は草田６期～小谷２式、４は小谷２式～３式古段階と考えられる。

弥生土器（第 63 ～ 67 図、図版 45 ～ 50）

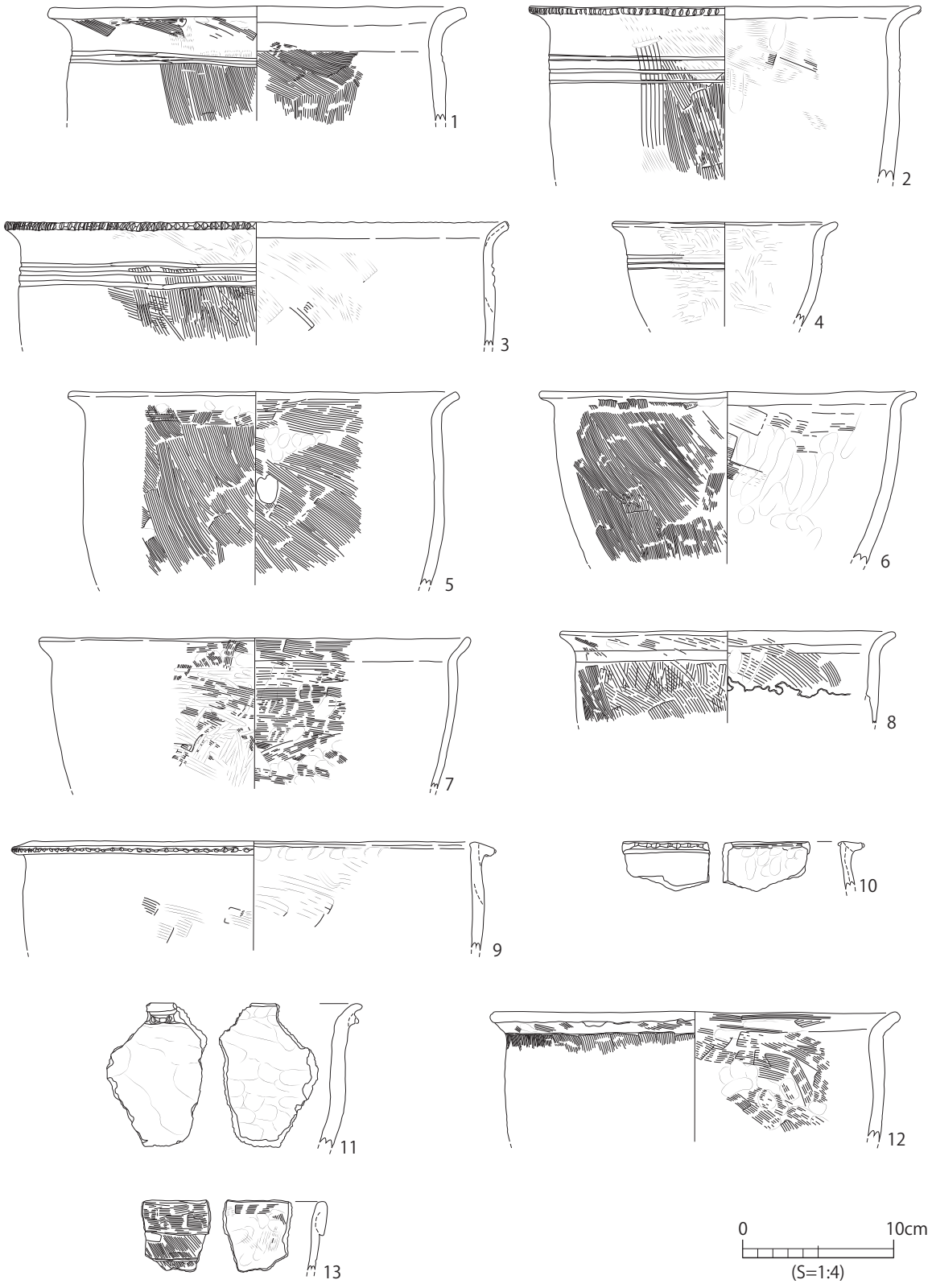
第63～66図は石見Ⅰ様式のものである。第63図１～13は甕である。１～10は胴部に段をもつ、もしくは段の可能性があるものである。段は粘土紐の接合部を利用して成形するものが多い。１は段の位置がかなり低く、段部に刻みがある。２～６は段に加えて口縁部下端に刻みを入れるものである。３は口縁端部が強いナデにより窪んでいる。４は口縁部の刻みが途切れる部分がみられる。５は頸部の屈曲が強く、口縁部が伸長する。６は口縁部が丸みを帯びている。７～10は段をもち口縁部に刻みをもたないものである。これらはハケ調整によって段を強調している。９は段以下に刺突文が施され、原体は巻貝の殻頂の可能性がある。10は段の直上に円形の刺突文が施される。11～13は胴部に沈線文が１条施されるものである。これらはいずれも石見Ⅰ－１様式と考えられる。

第64図も引きつづき甕である。１～４は胴部に沈線文が複数条施されるものである。２・３は口縁部全体に刻みを入れている。４は小型品である。５～８は胴部無文のものである。７は外面を一



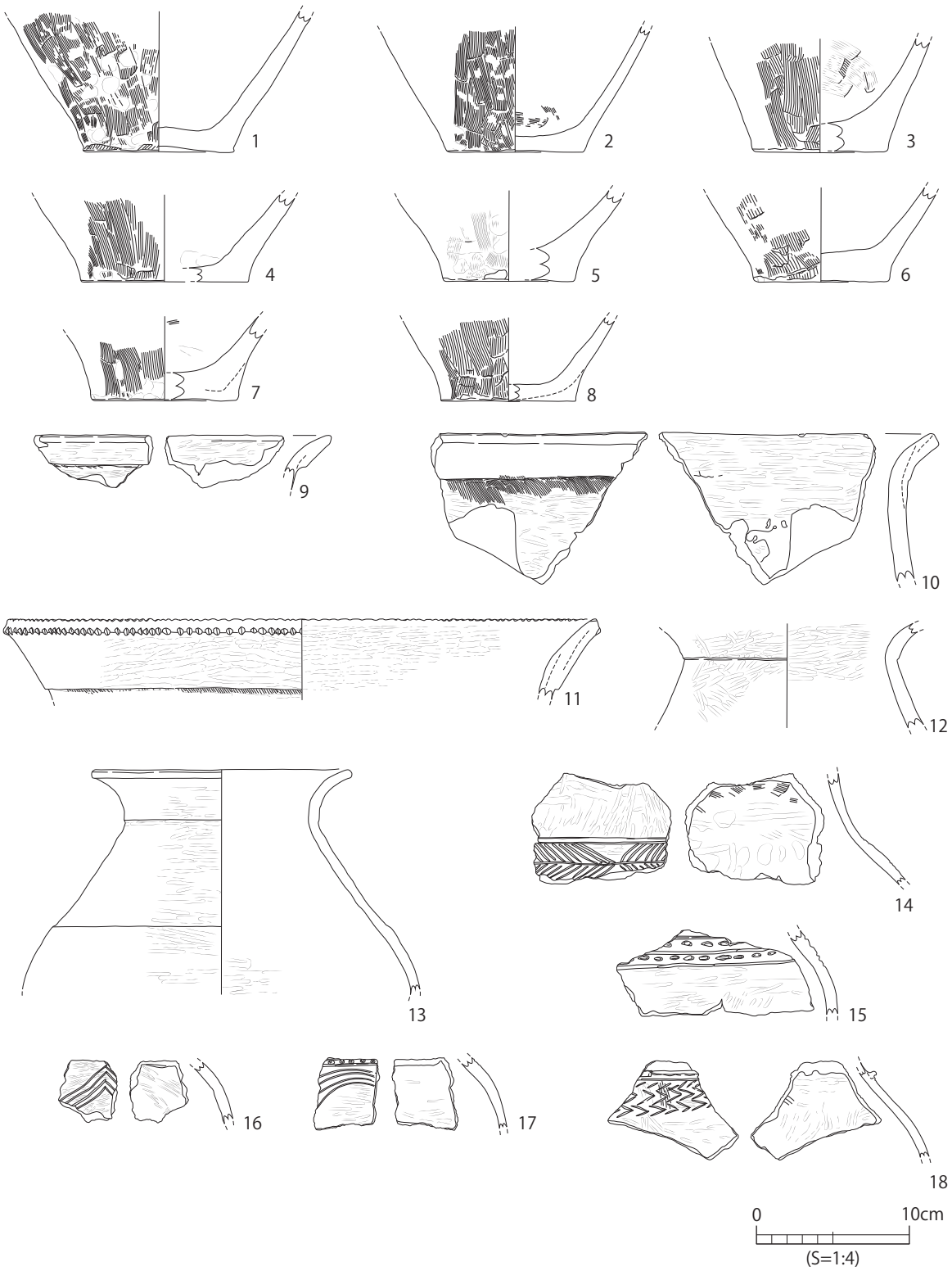
第 63 図　６・７層出土遺物（２）

部ミガキで仕上げており、鉢の可能性もある。８は粘土紐の接合部に沿って剥離しており、外傾接合であることがわかる。９・10は口縁端部外面に断面三角形の突帯を張り付けており、いわゆる瀬戸内型甕と考えた。両者とも端部を刻んでいる。11は突帯文土器と遠賀川系土器の折衷個体である。胎土は弥生土器的だが、口縁部直下に刻目突帯文を施し、内傾接合による成形にみえる。調整

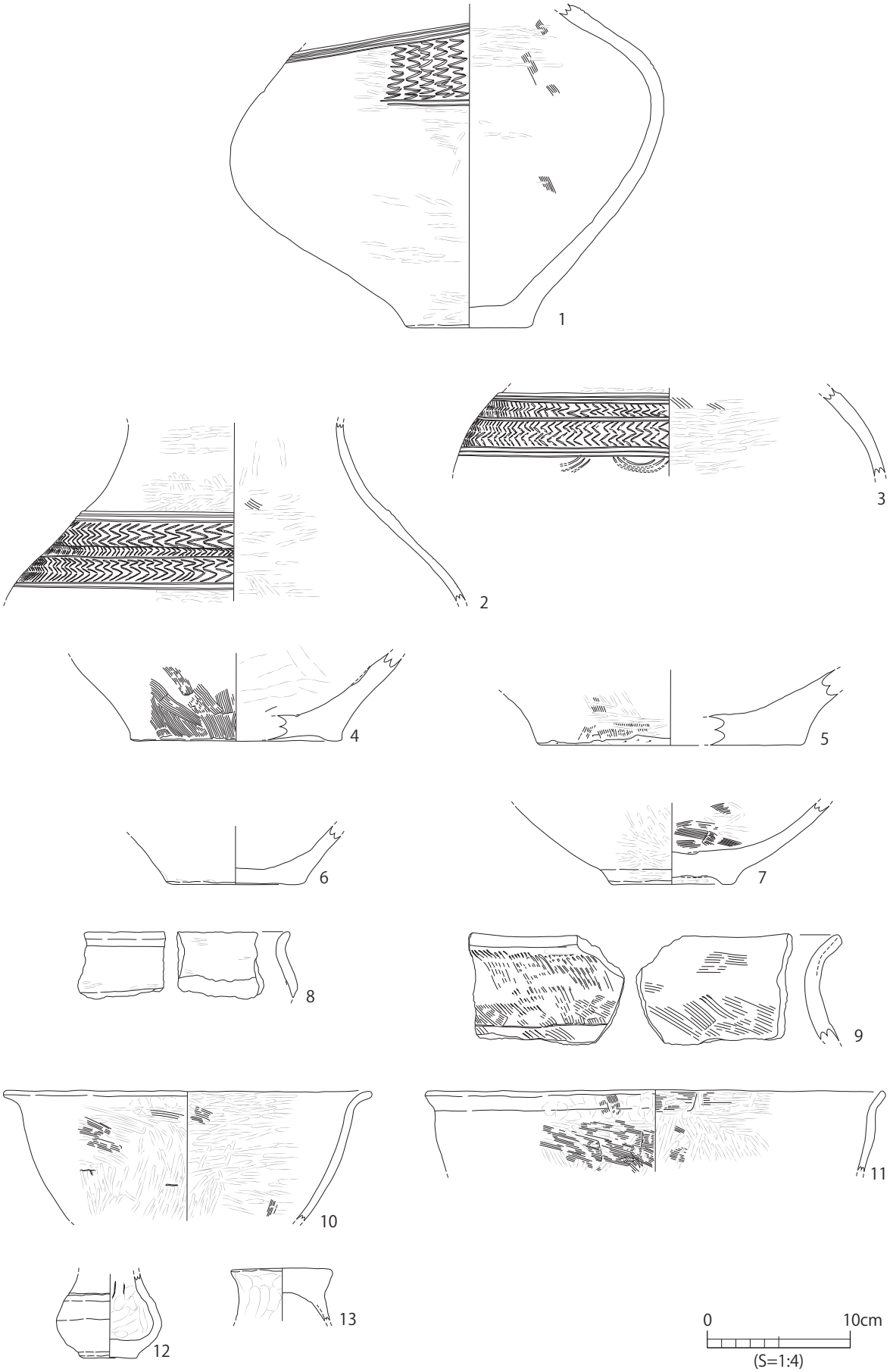


第64図　６・７層出土遺物（３）

は不明瞭で、明確なハケの痕跡はみられない。12は無文土器系の可能性がある。口縁部が短く頸部をハケ調整によって強調している点が無文土器的だが、変容がかなり進んでいる。13も無文土器系の可能性がある。口縁端部を高さ2.2cmにわたって折り返しており、断面は方形を呈する。その下には沈線文が１条施される。１～８は石見Ⅰ－１～２様式、９・10は石見Ⅰ－３様式と考えられる。



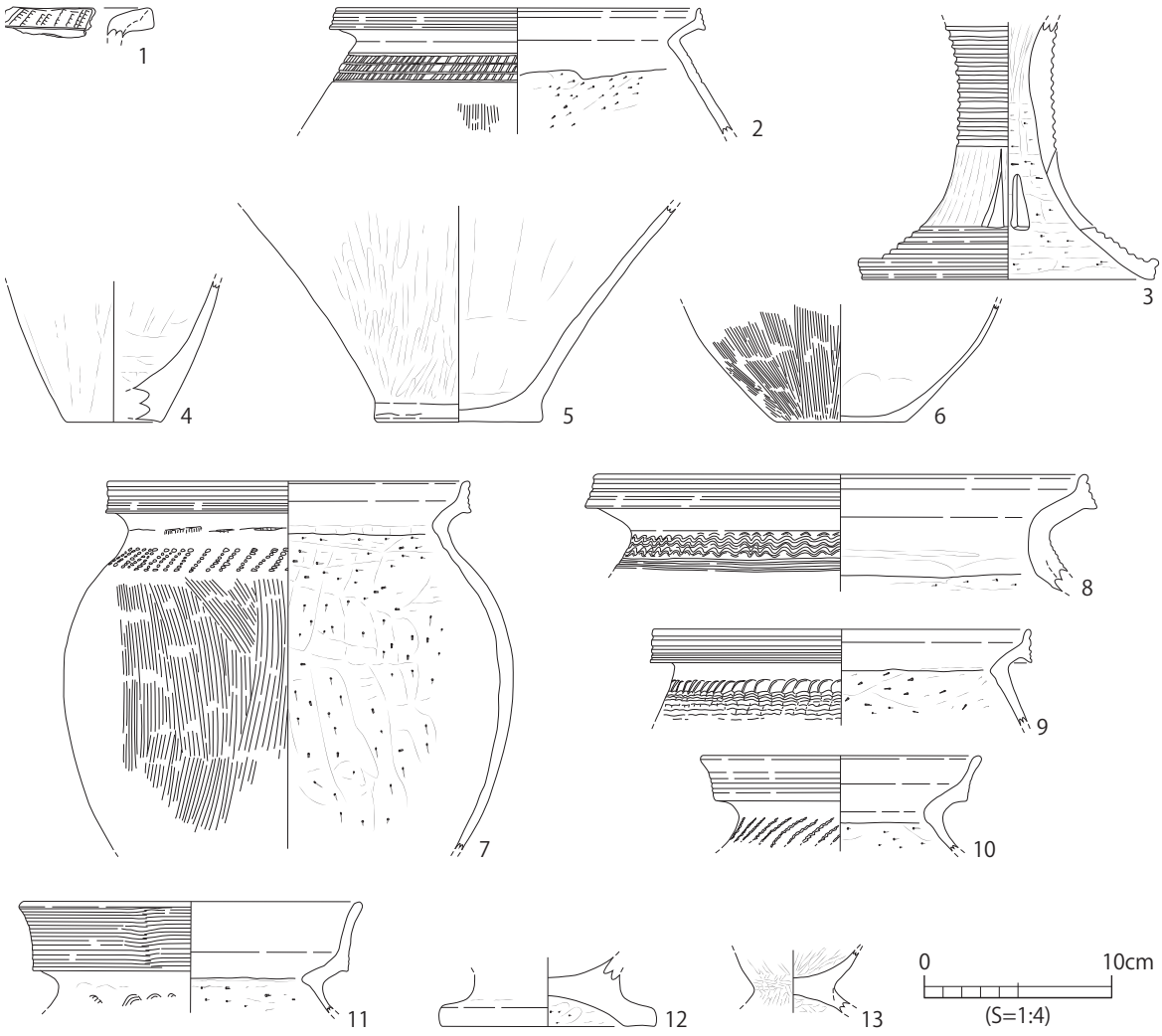
第65図　６・７層出土遺物（４）



第 66 図　6・7 層出土遺物（5）

第65図１～８は甕の底部である。３・７は底部外面に種子圧痕がみられる。９～ 18は壺である。９は直線的に伸びる口縁部で、端部を折り返して段を作っている。外面は赤彩され、北部九州地域からの搬入品の可能性もある。10は口縁部の屈曲が弱い大型の壺である。内外面ともに赤彩しており、胎土から第66図４の底部と同一個体の可能性がある。11も大型品である。口縁端部は上・下端ともに刻みを入れ、段はハケにより強調している。12・13は無文のもの、14 ～ 18は有文のものである。14は向かい合う有軸羽状文が施される。15は沈線文の間に粒状の列点文が施されるもので、甕の文様を写した可能性がある。16は４条の沈線からなる山形文、17は重弧文、18は突帯の下に無軸羽状文が施される。９～ 18は石見Ⅰ－１様式が中心であり、９は県内における最古段階の時期のものと考えられる。

第66図１～３は引きつづき有文の壺である。１は無軸羽状文が施されるが、全周せずに部分的に無文帯が設けられている。外面には煤が付着している。２は複段の無軸羽状文が施され、タマキガイ科の二枚貝腹縁によって施文されている。３は複段の無軸羽状文の下に副文様帯として重弧文が施される。４～７は壺の底部である。４は第65図10と同一個体の可能性があり、外面が赤彩されている。７は顕著な上げ底であり、胴部下位が丸みを帯びる点が特徴である。８～ 11は鉢である。８は小型品で、胴部に屈曲部をもつ。９は大型品で、これも胴部に屈曲部をもつ。10・11は器壁



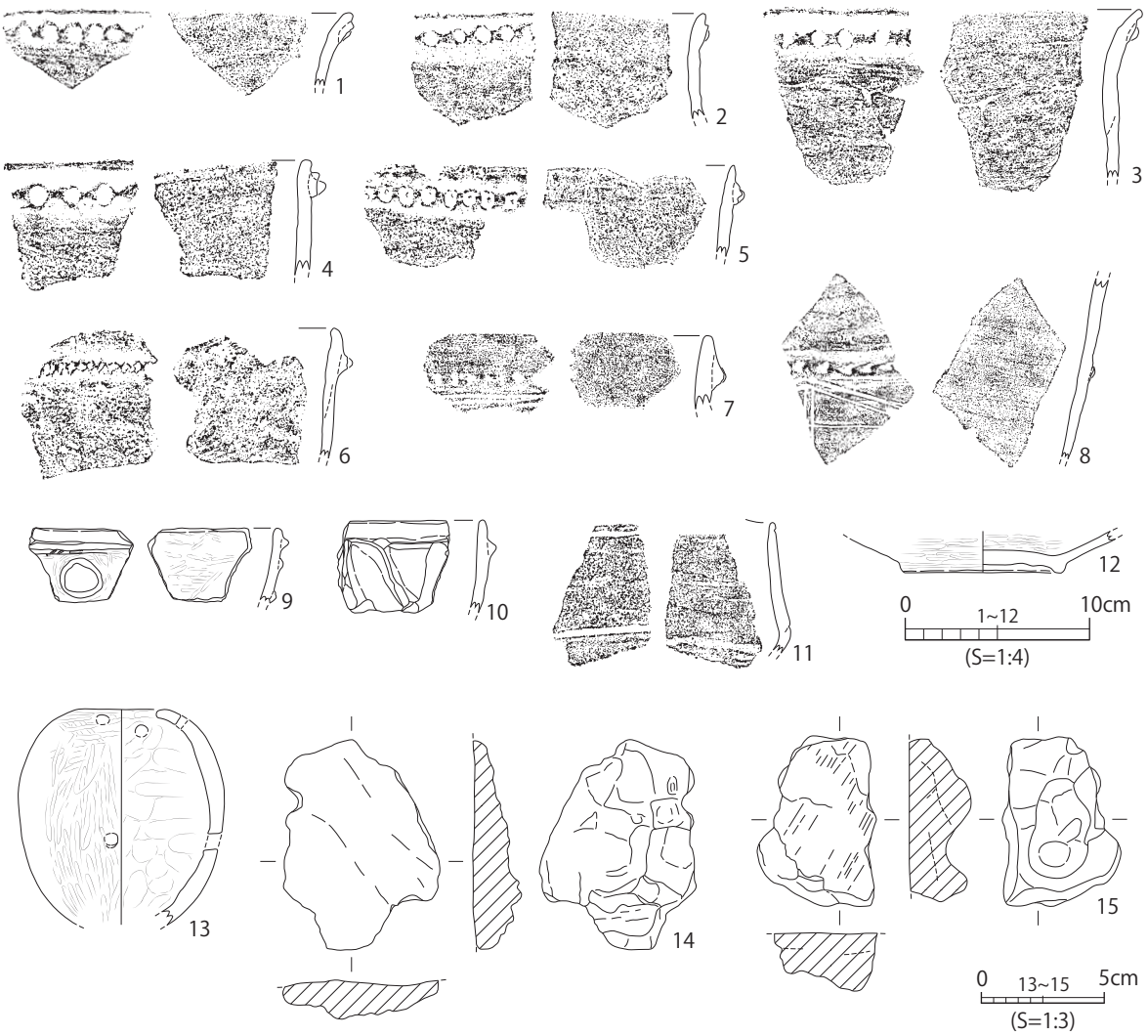
第 67 図　６・７層出土遺物（６）

が薄く、外面がミガキで仕上げられている。12はミニチュアの壺である。胴部の段など細かく表現されている。13は蓋と考えられる。本遺跡では蓋の出土は非常に少ない。１～３は石見Ⅰ－１～２様式、８～ 11は石見Ⅰ－１様式と考えられる。

第67図は石見Ⅲ様式以降のものである。１～６は石見Ⅲ・Ⅳ様式と考えた。１は甕で、面をもつ口縁端部にハケ状の列点文が施される。２は肩部に重層刻目文をもつ塩町式の甕である。３は高坏で、脚柱部の凹線文は１条の幅が広い。４・５は甕、６は壺の底部である。７～ 13は石見Ⅴ様式のものである。７～ 11は甕である。７～９は口縁部外面に凹線文を施すものである。10・11は擬凹線文を施すもので、口縁部の拡張が大きい。12は内面がドーム状を呈する脚台である。壺もしくは鉢が載ると考えられる。13も脚台と考えられるが、詳細は不明である。１は石見Ⅲ－２様式、２・３は石見Ⅳ－２様式、７～９・12は石見Ⅴ－１様式、８は石見Ⅴ－２様式、９は石見Ⅴ－３様式と考えられる。

縄文土器（第 68 図１～ 12、図版 50）

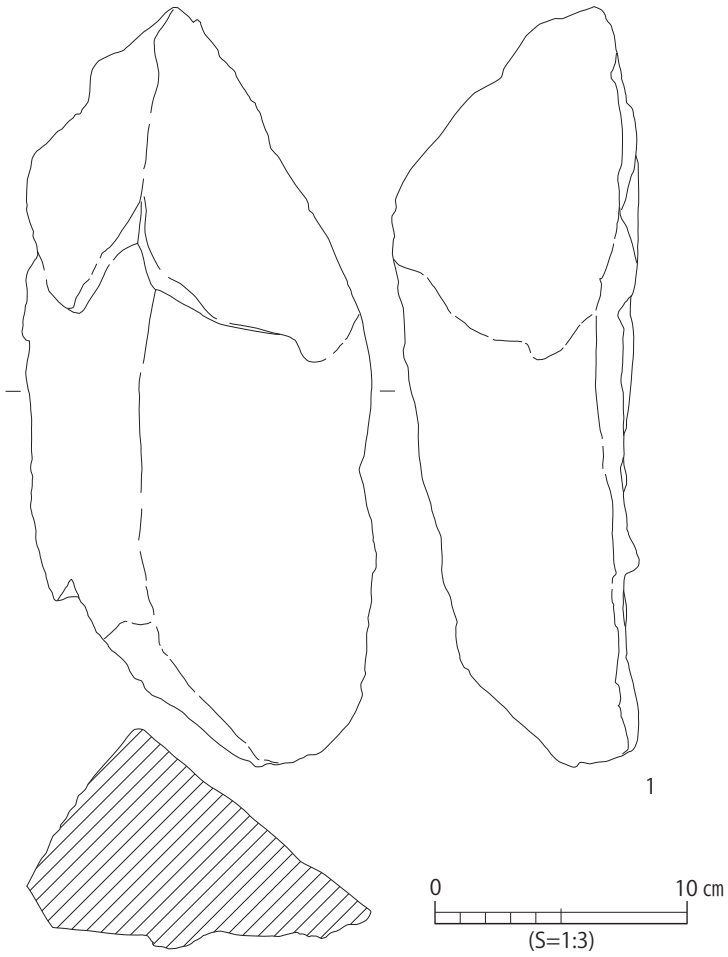
１～ 10は深鉢である。いずれも突帯文系のものと考えられる。突帯の位置は中位が多く、端部に接するものはみられない。刻目の形状は１～３がO字もしくは特殊O字、４がO字、５が竹管、



第 68 図　６・７層出土遺物（７）

６がＶ字である。７・８は突帯の下に沈線文がみえ、中山Ｂ式と考えられる。８は胎土・焼成が広島県中山貝塚のものに類似している。９は突帯の下に輪状の突帯があり、外面に一部赤彩が残っている。10は全体像が不明だが横方向の突帯に加え、縦・斜位の突帯が施されている。11・12は浅鉢である。11は柳浦Ｃ類と考えた。

第69図　６・７層出土遺物（８）



第 70 図　６・７層出土遺物（９）

土製品（第 68 図 13 ～ 15、図版 50）

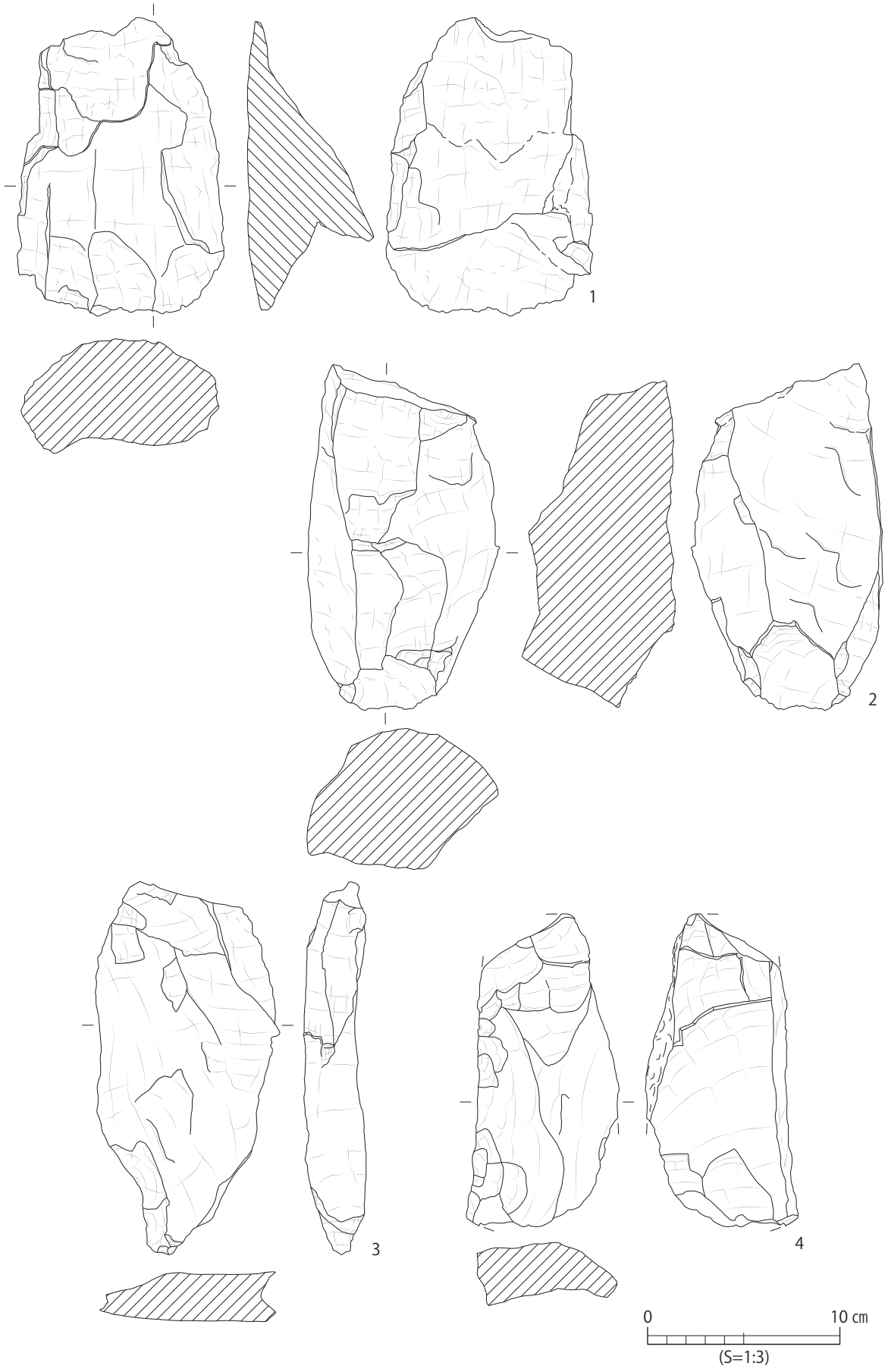
13は土笛である。約２分の１が遺存しており、穿孔は破面でわずかに３ヵ所確認できた。口縁部径が小さく、外面全体をミガキで仕上げている。石見地域では初の出土である。14・15は焼粘土塊である。胎土が非常に精良で、片面に平坦面をもつ。土器焼成に関わるものと考えられる。

石器・玉類

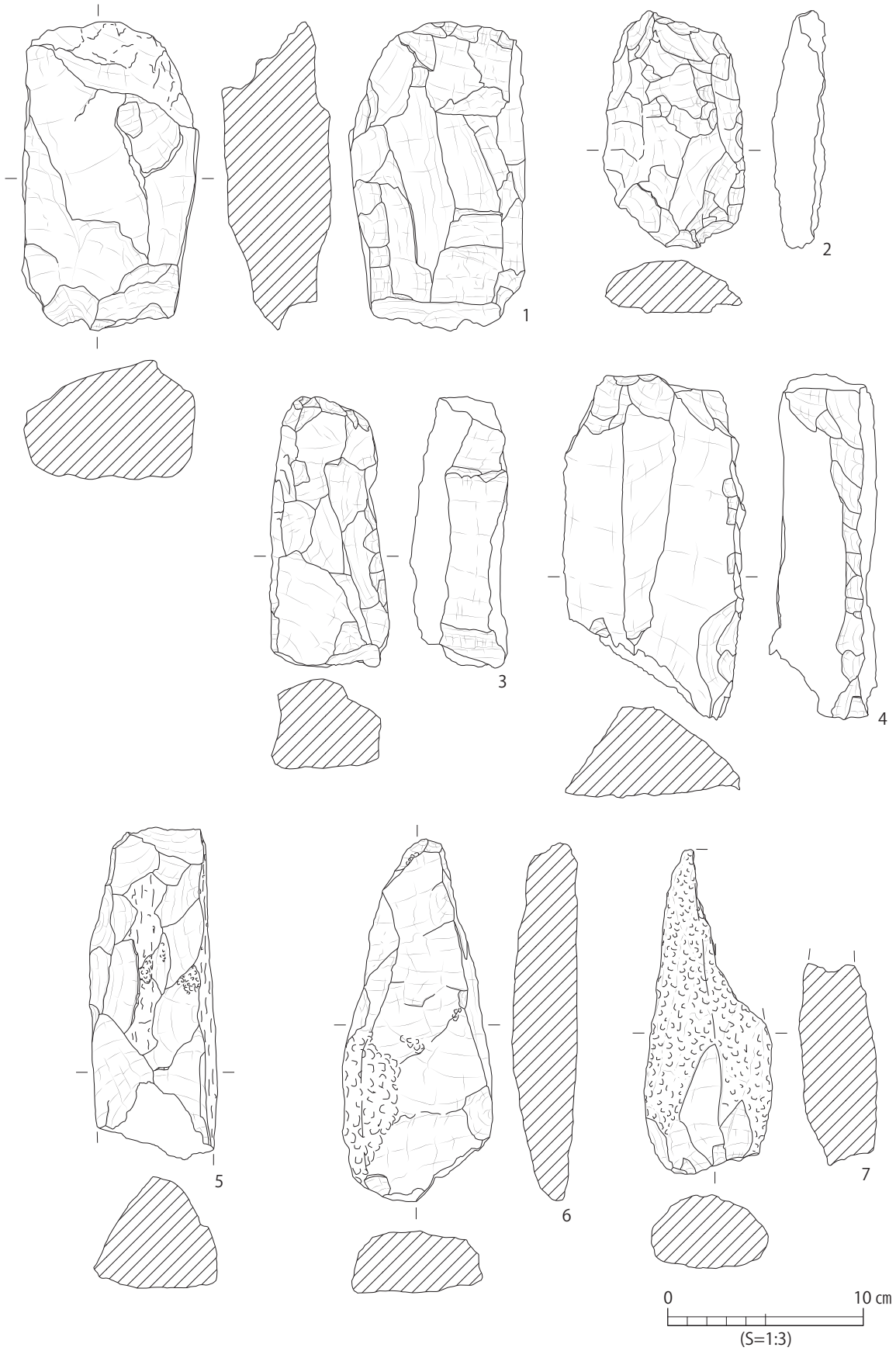
（第 69 ～ 76 図、図版 51 ～ 53）

第69図１・２は玉類である。１は７層から単独で出土した碧玉製の管玉である。色調からいわゆる未定Ｃ群の碧玉と考えられる。断面はＸ線写真で確認し、石製工具による両面穿孔であった。２は黒色を呈する石材不明の臼玉である。よく研磨され光沢をもつ。穿孔は両面穿孔と考えられ、内面に回転擦痕が確認できる。３～８は石鏃で、３～６は安山岩製、７・８は黒曜石製である。９～ 11は楔形石器である。９が安山岩製、10が緑色凝灰岩製、11が瑪瑙製である。12 ～ 16は石核である。12・13が安山岩製、14・15が黒曜石製、16が緑色凝灰岩製である。16はほぼ原石に近い。Ｆ４グリッド出土で、Ｆ３グリッドで出土した剥片と接合した。17は安山岩製の二次加工のある剥片である。周縁から内側に向かって細かな剥離が加えられる。18は安山岩製のスクレイパーである。断面が弧を描き、刃部が作られている。19は安山岩製の石錐である。断面がやや扁平である。20は石錐の未成品の可能性がある。

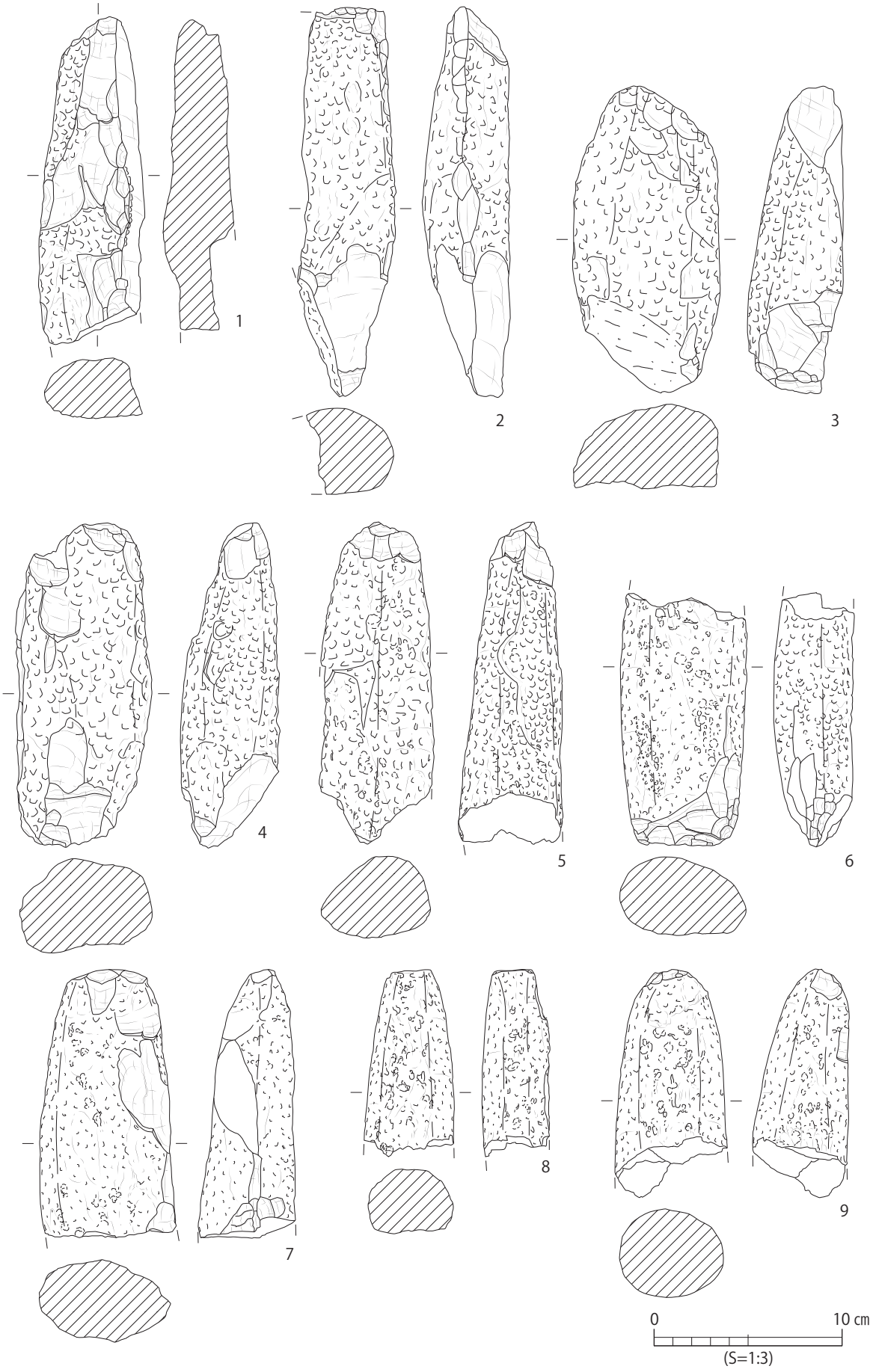
第70図１は塩基性片岩の転石である。風化・円磨が進んだ転石と考えられ、加工はほとんどない。磨製石斧の石材の可能性がある。第71 ～ 74図６は磨製石斧および未成品である。完成品は第74図６のみで、それ以外は未成品である。石材はすべて塩基性片岩と考えられる。第71図１～４は原石から大まかに割り取った、もしくは原石をそのまま荒割りした素材剥片と考えられる。第72図１～４は剥離により完成形に近い大きさまで成形した剥離段階の未成品である。全体的に稜が目立ち、細かな剥離は加えられていない。第72図５～７、第73図１～９、第74図１～５は敲打段階の未成品である。第72図５・６は敲打の初期段階で破損しており、まず大きな稜線や側縁部に敲打を加えたことがわかる。７はある程度全体に敲打が及ぶものである。第73図１は側縁部に敲打が加えられ、一部自然面が残っている。２は大きく欠損しているが、側縁部を中心に敲打痕が残る。３は部分的に自然面が残っており、敲打の必要のない部分は素材の面をそのまま利用していたことが



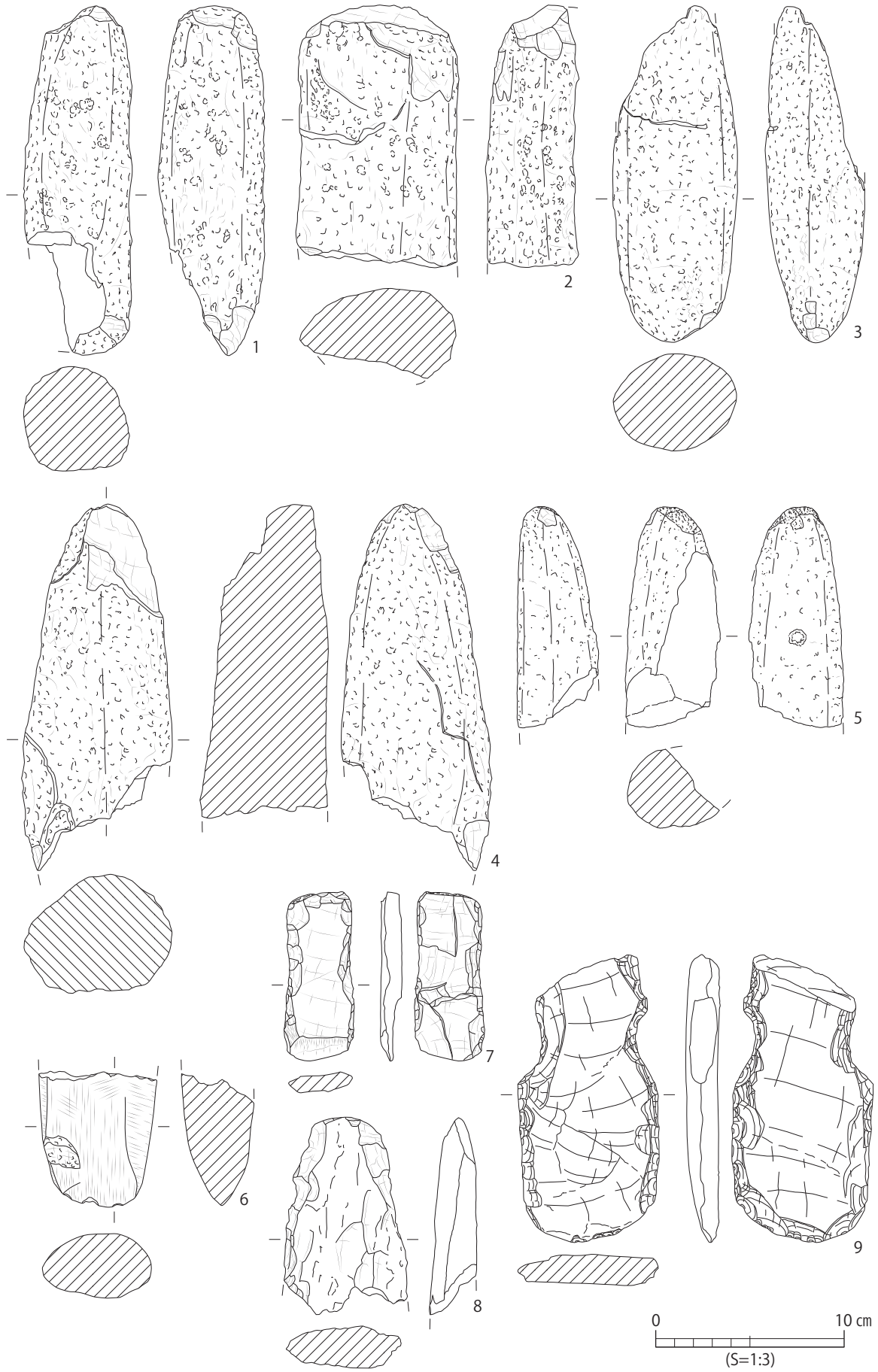
第 71 図　６・７層出土遺物（10）



第 72 図　6・7 層出土遺物（11）

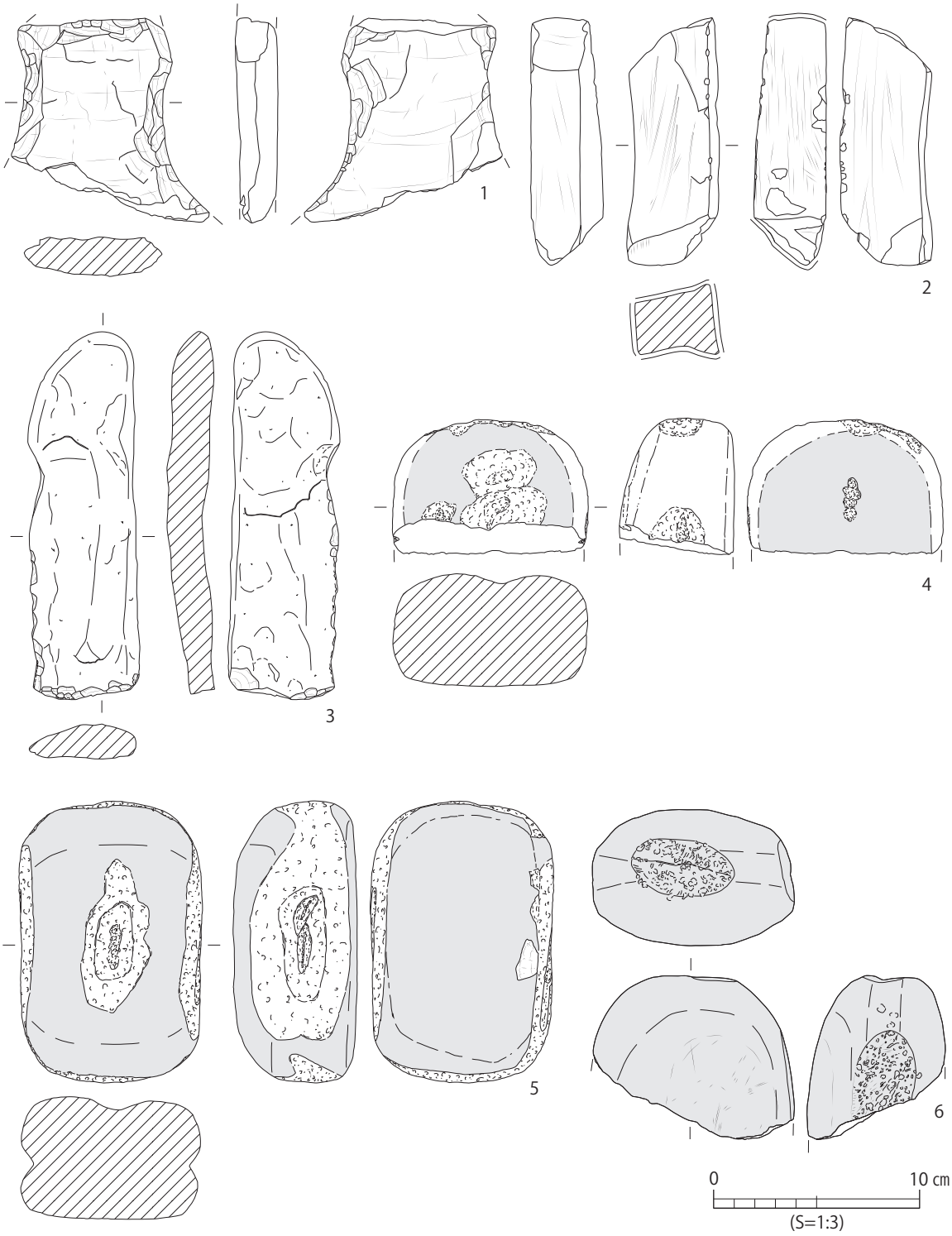


第 73 図　6・7層出土遺物（12）

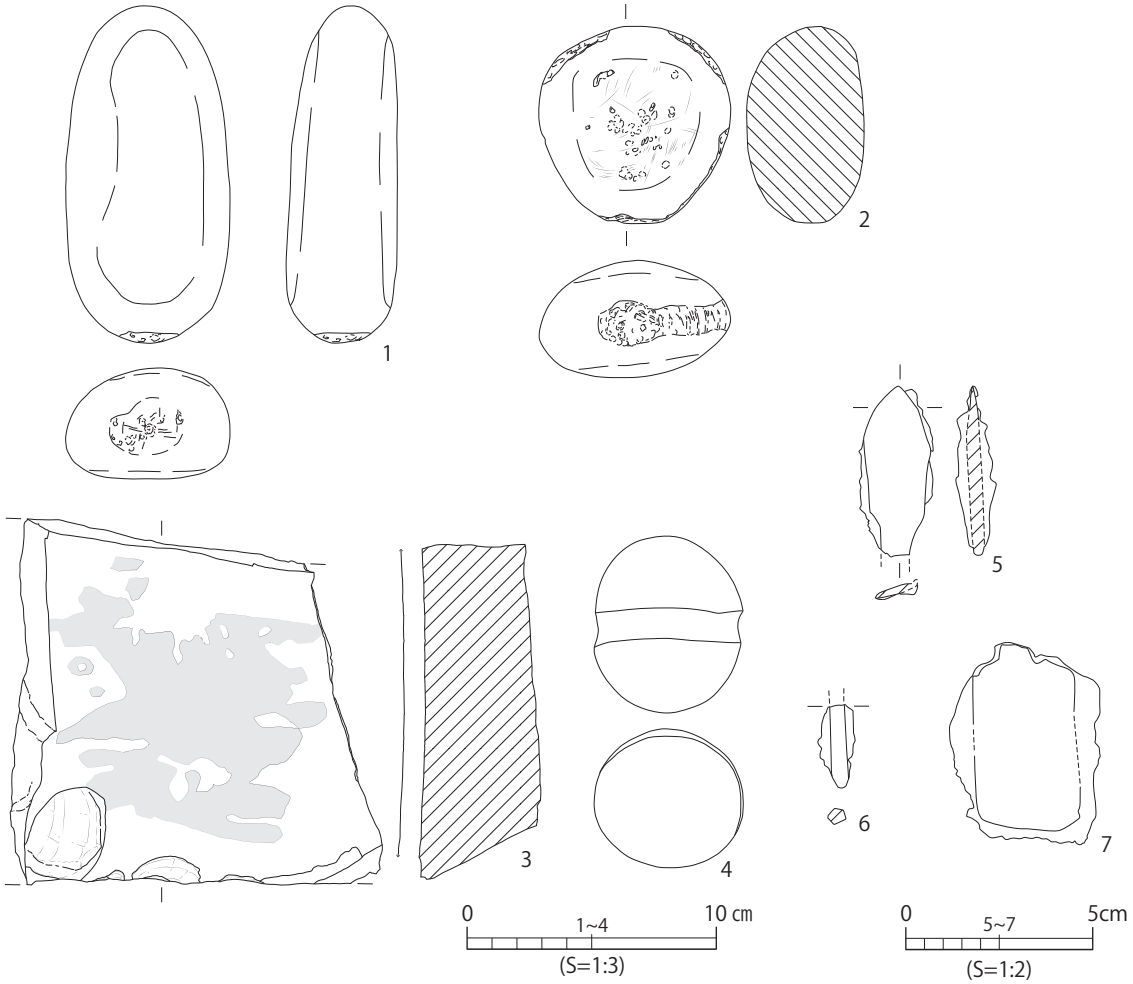


第 74 図　6・7 層出土遺物（13）

わかる。４も側縁部に敲打痕が集中しており、小口側は未加工に近い。５～９、第74図１～５は敲打がかなり進行し、平面・断面形ともに完成品とほぼ同じ状態にまでなっている。第74図６は磨製石斧の刃部である。全体に研磨が及び非常に滑らかである。研磨段階の未成品は非常に限られており、本遺跡では敲打段階までの作業がおこなわれていたか、刃部にのみ研磨を加えて完成品としていた可能性がある。７は小型の石斧である。刃部の一部のみ研磨により非常に滑らかで、それ以外の部分は細かな剥離により整形されているものの、敲打・研磨の痕跡は全くみられない。大きさからみても欠損した磨製石斧を再加工した可能性がある。８・９は打製石斧と考えられ、断面が扁平



第 75 図　６・７層出土遺物（14）



第 76 図　6・7 層出土遺物（15）

である。8は塩基性片岩と考えられるが、被熱により黒く変色している。9は側縁部に玦りをもつ。

第75図1は側縁部が外側に反る異形の石斧である。これも塩基性片岩製である。2は完形の砥石である。3は塩基性片岩製の敲石とした。成形痕はほとんどなく、自然石をそのまま利用している。4は花崗岩製の磨・敲石である。上面と側面の一部に打痕がある。5は花崗岩製の磨・凹石である。上面と長側面に凹みがあり、平坦面は研磨により非常に滑らかである。6は石材不明の磨石である。上面と側面の一部が使用により滑らかである。第76図1・2も磨石で、石材は不明である。3は石材不明の台石とした。一面のみ使用されている。全体が使用されているが、トーン部分がとくに顕著である。4は石材不明の有溝石錘である。短軸に沿って溝があり、溝の中は使用によるためか非常に滑らかである。

鉄製品（第 76 図 5 ～ 7、図版 53）

5は柳葉形の鉄鏃、6は棒状不明品、7は不明鉄塊である。いずれも混入品と考えられる。

3．8 ～ 10 層の遺物

8～10層の堆積時には遺跡周辺は湿地状の環境であったと考えられ、包含された遺物は小片が多く数も極端に少ないことから人の活動はほとんどおこなわれていなかった可能性が高い。

弥生土器（第 77 図 1 ～ 5、図版 54）

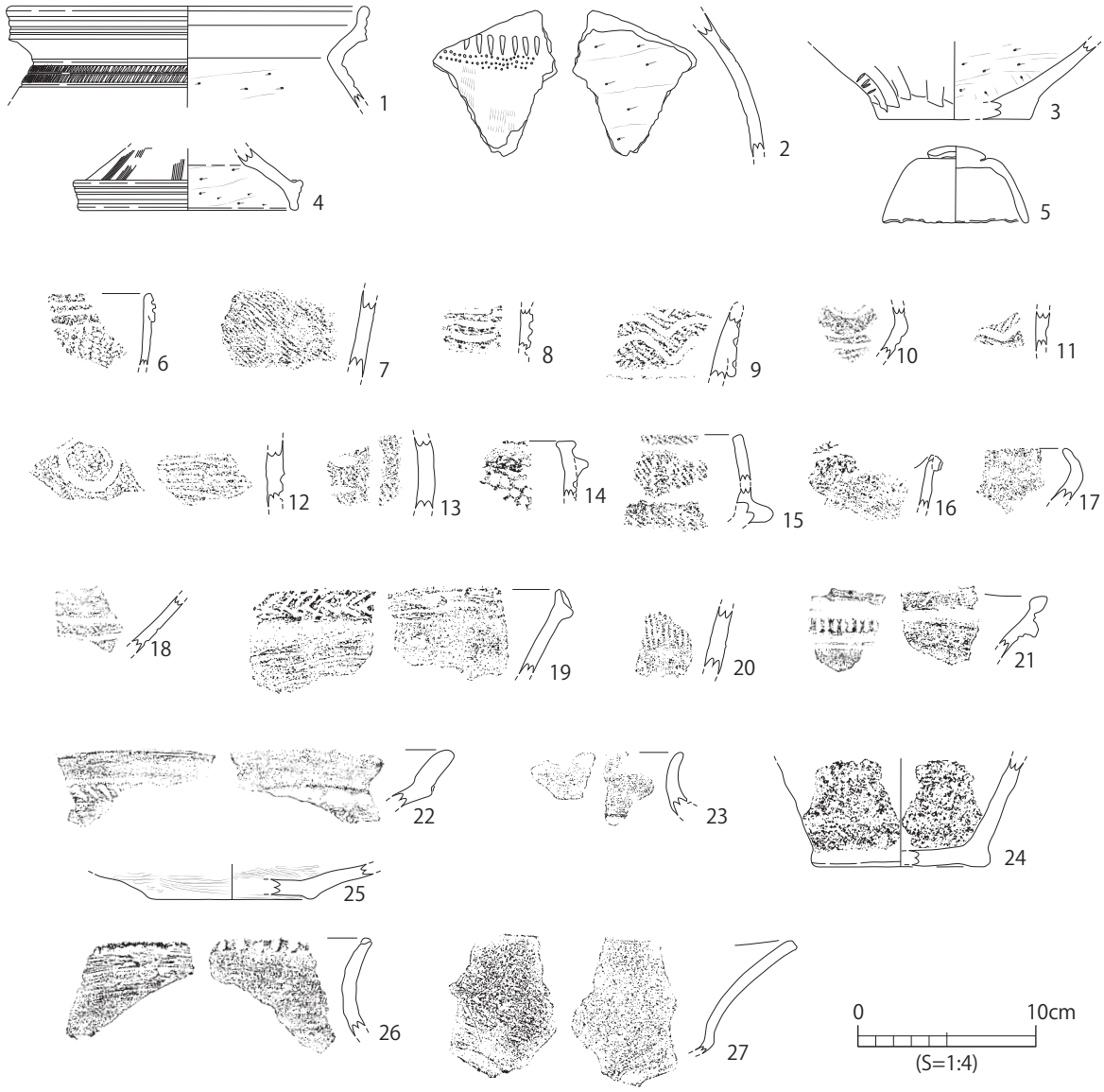
1・2は甕である。1は肩部に重層刻目文が施される。2は肩部に2段にわたる列点文が施され、

細かな櫛歯状工具を刺突している。３は壺の底部である。４は高坏で、外面に縦方向の櫛歯状工具による直線文があることから吉備系と考えられる。５は蓋と思われるが、詳細は不明である。１～４はいずれも石見Ｖ－１様式で、３区で出土した。３区は８・９層上面で多くの同時期のピットを検出しており、遺構面形成時には８・９層が露出していた可能性もある。

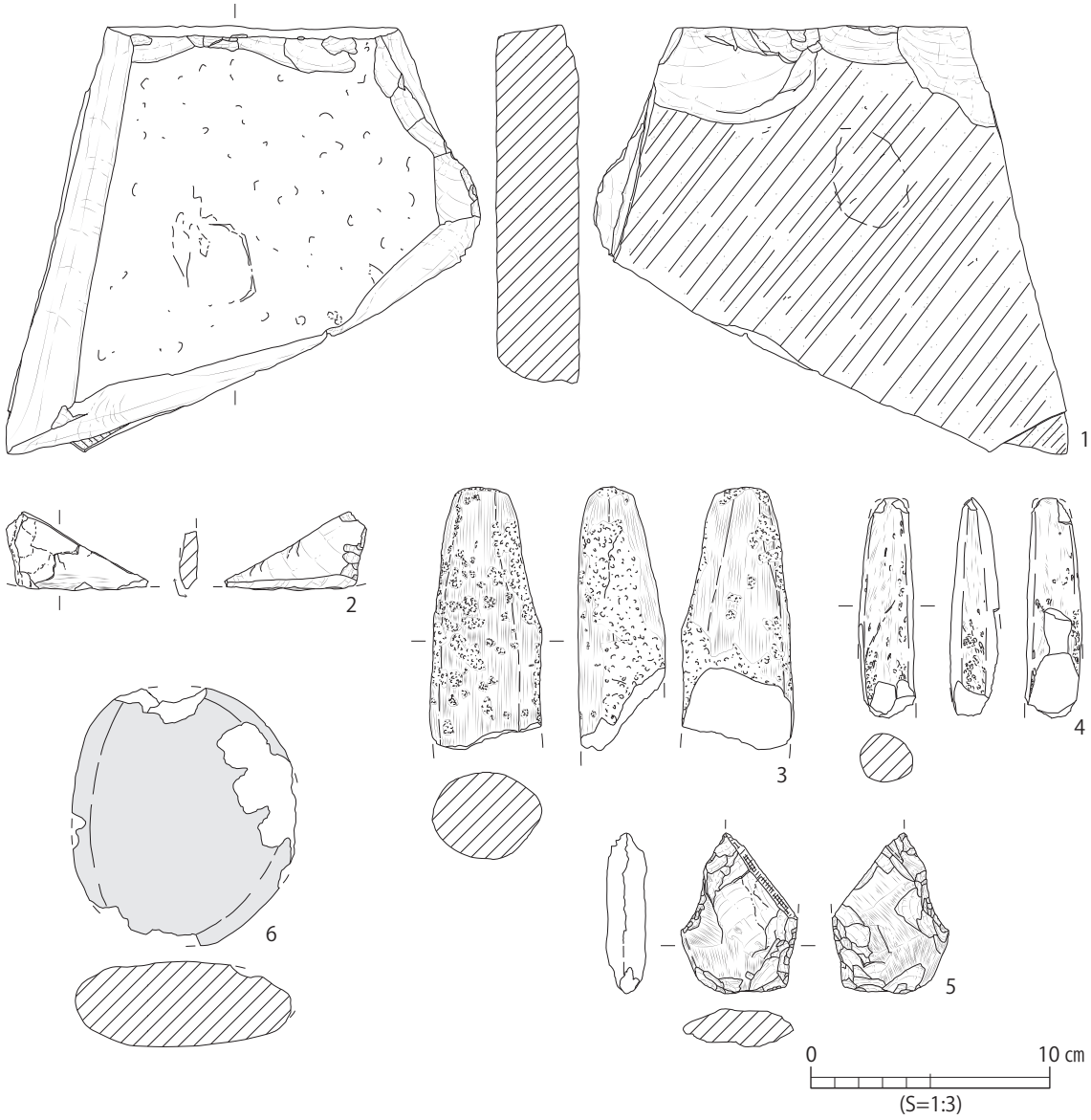
縄文土器（第 77 図６～ 27、図版 54）

６～ 17は中期と考えられ、いずれも深鉢もしくは鉢である。６は波子式である。折返し口縁上に沈線文が施される。７は里木Ⅱ式の可能性がある。撚糸文の地文をもつ。８～ 12は中期末の矢部奥田式類似土器もしくはその可能性があるものである。地文に縄文をもち、８・９は連弧状の沈線文、10は重弧文と思われる。13 ～ 17は型式不明だが中期末と考えられる。13は磨消縄文、14は隆帯文の下に刺突文が施される。15は口縁部に二枚貝腹縁刺突文が施され、口縁部下に高い隆帯文をもつ。隆帯文の上面観は花弁状を呈すると思われる。16は口縁部に刻目隆帯文、口唇部に刻目文を施す。17は鉢である。

18 ～ 25は後期と考えられる。18は暮地式の浅鉢である。19･20は布勢式併行期の深鉢である。



第 77 図　８～ 10 層出土遺物（１）



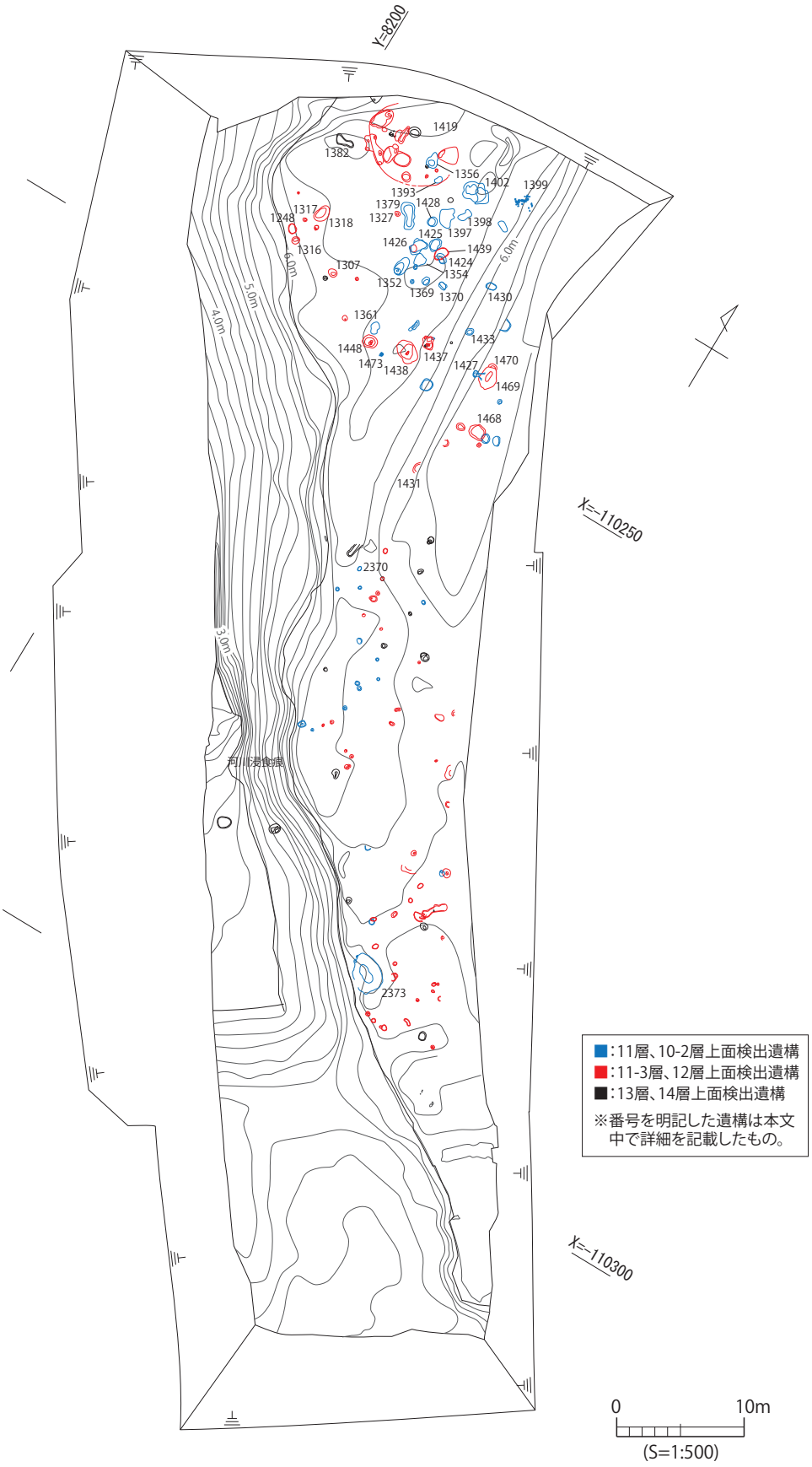
第 78 図　8～ 10 層出土遺物（２）

19は口縁部が肥厚し、羽状の沈線文を施す。21は布勢式併行期の浅鉢である。胴部左端に弧状の沈線文がみえる。22 ～ 25は暮地式または布勢式併行期と考えられる。22は屈曲形、23はボウル形の浅鉢、24は深鉢の底部、25は浅鉢の底部である。

26・27は晩期中葉と考えられる。26は口縁部内面に刺突をもつ原田式の深鉢、27は同型式の方形浅鉢である。

石器（第 78 図１～６、図版 54）

１は安山岩の盤状石核である。石材として搬入されたものであろう。２は石鋸の可能性がある。刃部にあたる下辺は使用のためか非常に滑らかである。３・４は塩基性片岩製の磨製石斧である。３は側縁を除き広く研磨が及んでいる。４も全体に研磨が及んでいるが、非常に小型で細身であり、伐採斧ではないと考えられる。５は緑色凝灰岩製の不明品である。広い範囲に研磨が及び、形態的には磨製石斧のように見えるが、詳細は不明である。６はデイサイト製の軽石加工品である。全面が研磨されている。

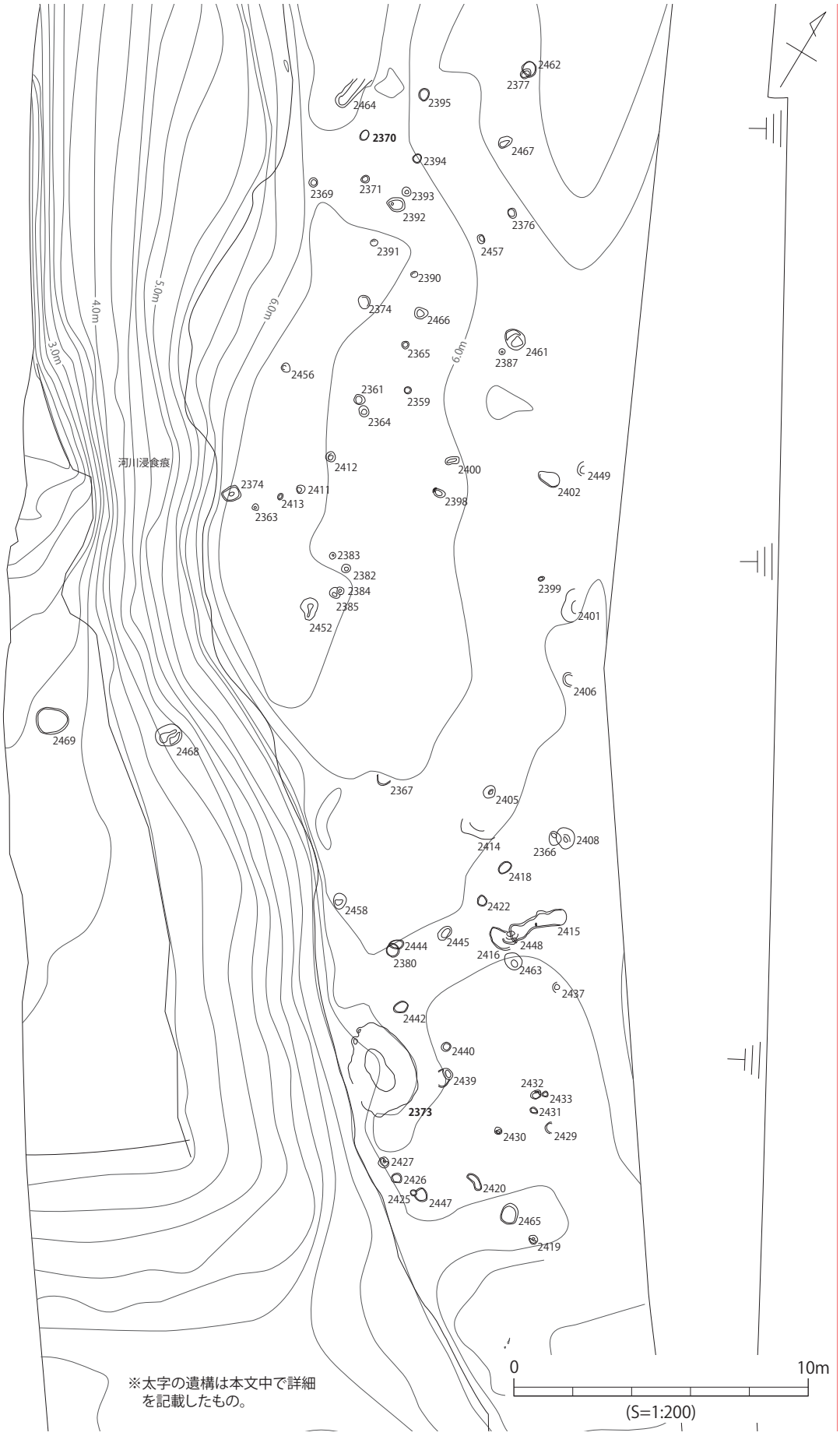


第 79 図　縄文時代の遺構配置（11・12 層上面）

4．11 層、12 層上面の遺構

縄文時代の包含層である11・12層では、各層の上面、また11層掘削中に遺構を検出した（第79～81図）。複数の段階にわたって遺構面が形成されたと考えられるが、同一時期の遺構のまとまりを捉えられなかったことからここではまとめて報告する。法量など、詳細は第28表に掲載した。遺構は硬化面、大型の土坑、焼土などが1区に偏在しており、2区は小規模なピット・土坑のみで、3区では遺構を確認できなかった。遺物がともない時期が判明した遺構もほとんど1区に限られて

第 80 図　縄文時代の遺構配置（ 1 区部分）



第 81 図　縄文時代の遺構配置（２区部分）

第2表　縄文時代遺構出土の石器集計表

	石材	塩基性片岩						サヌカイト				その他	
遺構	種類	素材	剥離 敲打	研磨	剥片大 (4cm 以上)	剥片中 (2 ～4cm)	剥片小 (2cm 以下)	盤状石核	剥片	石鏃	石匙	磨石	その他
1473	個数	5											
	重量(g)	約10470											
1437	個数		3										
	重量(g)		1920.06										
1448	個数							2				1	石錘1
	重量(g)							3605.98				165.58	79.06
1438	個数	2			1	4	17		9	1		1	石錘1 軽石2
	重量(g)	約3920			27.13	15.26	22.55		11.06	1.16		114.81	295.62
1248	個数					1							
	重量(g)					13.34							
1307	個数									1			
	重量(g)									0.44			
1316	個数					1							
	重量(g)					5.16							
1318	個数					5				1			石錘1
	重量(g)					27.51				0.39			35.88
1327	個数					1	1						
	重量(g)					7.62	0.63						
1379	個数					1	13						
	重量(g)					29.57	30.73						
1426	個数					4	11		10				
	重量(g)					34.13	11.34		7.25				
1428	個数				1	4	15						
	重量(g)				95.28	42.31	25.71						
1430	個数					2	3		1				
	重量(g)					24.27	3.62		3.39				
1431	個数	1	2						1				
	重量(g)	708.26	180.05						3.59				
1439	個数	1	1						1				
	重量(g)	235.47	100.54						1.1				
1469	個数				1	2	1						
	重量(g)				190.83	22.03	0.68						
1425	個数	1	1		16	17	47		2				
	重量(g)	103.55	453.74		703.53	123.66	76.73		4.28				
1424	個数	1			3	9					1		
	重量(g)	453.74			215.35	110.58					5.83		
1352	個数					1	1		2				
	重量(g)					11.26	2.55		4.10				
1356	個数					3							
	重量(g)					39.65							
1369	個数				1	1							
	重量(g)				12.22	2.42							
1402	個数					2							
	重量(g)					14.41							
1354	個数				1	2	3						槌具1
	重量(g)				45.30	18.84	15.53						393.68
1361	個数					6	5		1				
	重量(g)					36.45	7.41		0.74				
1399	個数		1		1	7	3		1				土器内小礫 196
	重量(g)		109.21		51.32	69.99	6.95		2.89				600.93

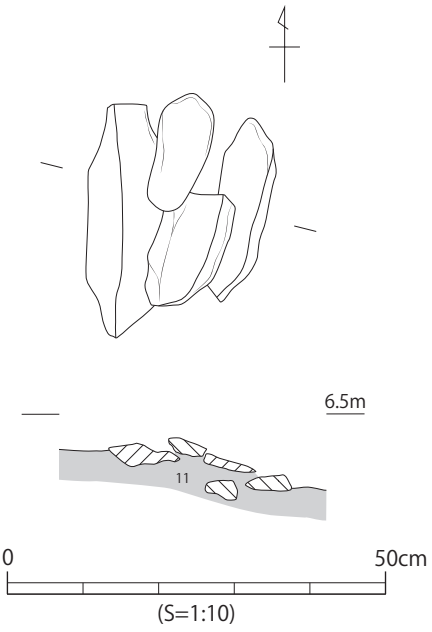
いる。後述の遺物分布も1区に偏在しており、人の活動場所をある程度限定することができる。

遺構 1473 集石（第 82 ～ 84 図、図版 12・55）

11層掘削中に検出した集石である。この集石にともなう土坑は検出できていない。塩基性片岩5個で構成され、すべて磨製石斧の未成品である。磨製石斧製作用に打ち割った素材片を意図的に集

めたものと思われる。

第83図１・２および第84図２・３は接合資料で、さらに大きな素材を２分割したことがわかる（接合状態は第83図３・第84図４）。いずれも表面には分割後の剥離がみられる。接合状態では、第83図３が長方形、第84図４が円形で、ともに比較的整った平面形をしていることから、分割前の素材もある程度整形されていた可能性がある。第84図１は厚みのある素材である。分割面に剥離がみられる。



第 82 図　遺構 1473 集石

遺構 1437 集石（第 85 図、図版 12・55）

11－２層掘削中に集石（遺構1437）を確認し、その後約20cm下の12層上面で土坑（遺構1440）を検出した。当初は別遺構と考えたが、本来の土坑の掘り込み位置はさらに上であったと考え、両者を一体のものと判断した。集石は塩基性片岩製の磨製石斧未成品４個からなり、製作工程の異なる個体が集められている。

集石に加え、土坑からは土器も少量出土した。第85図１は深鉢小片である。沈線文で円形文が描かれるが、縄文は施されていない。暮地式または布勢式併行と考えられる。２～５は塩基性片岩製の磨製石斧未成品である。２は表面に研磨痕が観察され、製品の可能性もある。３～５は剥離・敲打によって整形されたもので、４は敲打が進んでいる。３・５は中央に大きな剥離面を残し、縁辺には３が敲打による小さな剥離、５は調整剥離がみられる。

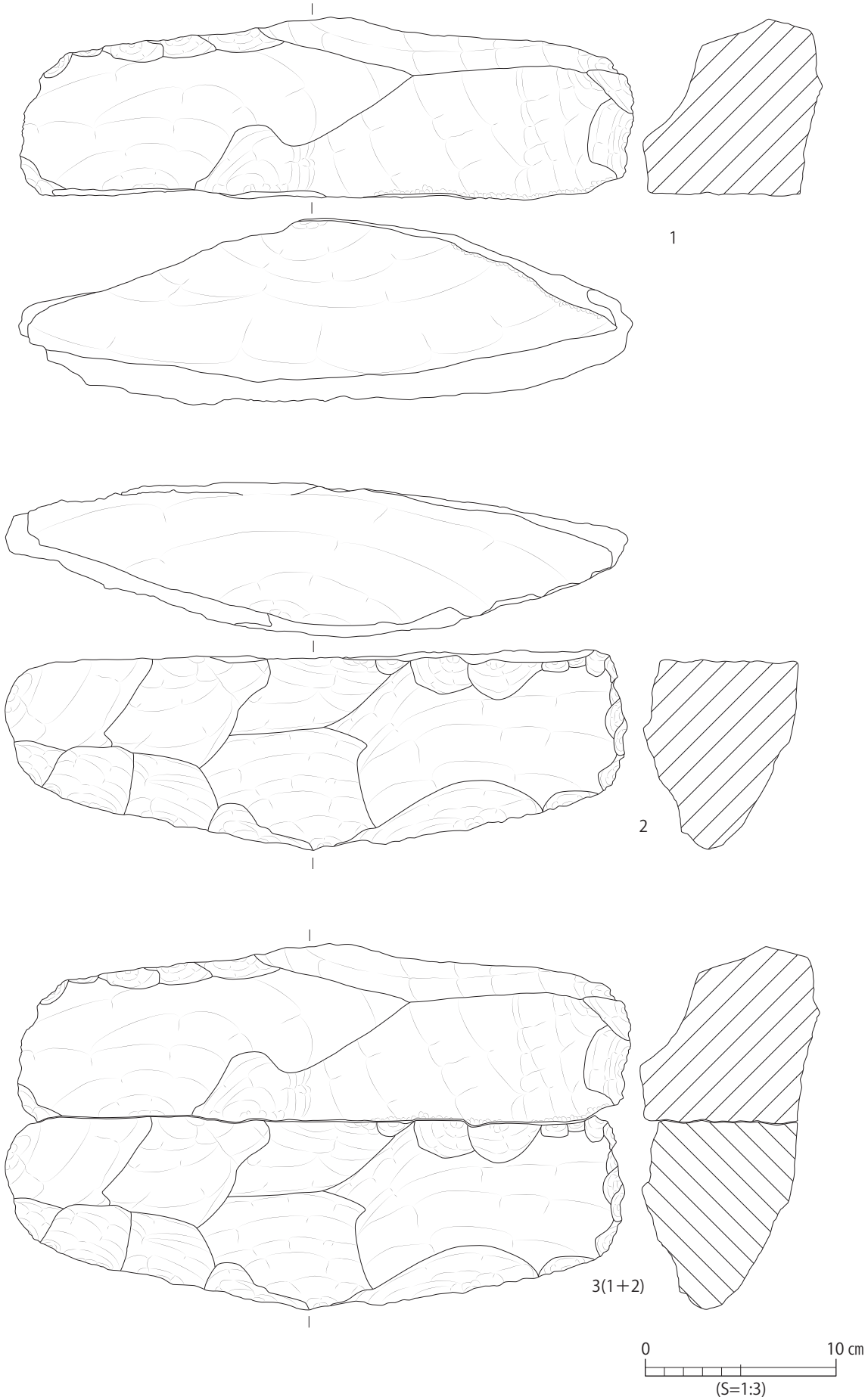
遺構 1448 集石（第 86・87 図、図版 12・56）

12層上面で集石を確認し、その後約10cm下で土坑を検出した。本来の土坑の掘り込み位置はさらに上であったと考え、両者を一体のものと判断した。集石はサヌカイトの大型盤状石核２個であり、横並びの状態で出土した。

集石に加え、土坑から多くの土器が出土した。第86図１・２は外面に縄文が施文される中期前半の船元式あるいは波子式である。３・４は口縁部下端に段が付き刻目をもつ。中期末の矢部奥田式に類似すると考えた。５は外面に二枚貝条痕が施される。条痕は斜格子状に観察できるが、文様をなすかどうかは不明である。時期は中期末か。７は磨石で、全面平滑だが使用痕は観察できなかった。形状が整っていることから磨石と判断した。８は打欠石錘で、打欠部に摩滅がみられ、使用痕と思われる。第87図１・２は20cmを超えるサヌカイト製盤状石核である。ともに側面に礫面を残し、２の左面表面は大部分が礫面である。１右図の上辺、２右図の右辺には剥片剥離がみられる。

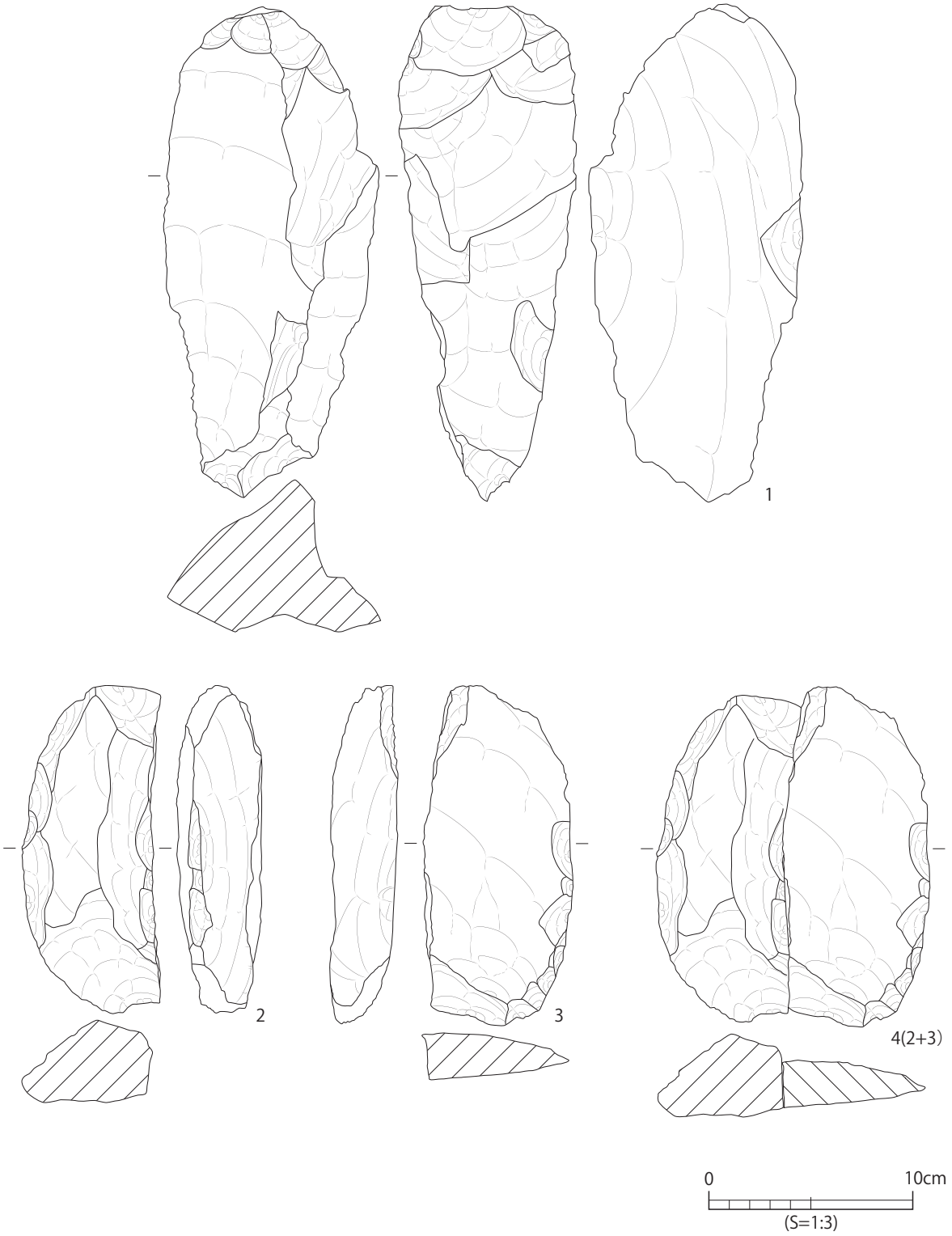
遺構 1438 集石（第 88・89 図、図版 12・56 ～ 58）

11－２層掘削中に集石を確認し、その後約50cm下の12層上面で土坑（遺構1447）を検出した。当初は別遺構と考えたが、本来の土坑の掘り込み位置はさらに上であったと考え、両者を一体のものと判断した。集石は塩基性片岩製の大型素材剥片２個からなり、おそらく磨製石斧製作用に打ち割った素材片を意図的に集めたものと思われる。土坑は長軸が２m近くにもなる大型のもので、調査時には墓坑の可能性も考えた。断定はできないが、もし墓坑であれば集石は標石の役割をもっていたとも考えられる。



第 83 図　遺構 1473 集石出土遺物（１）

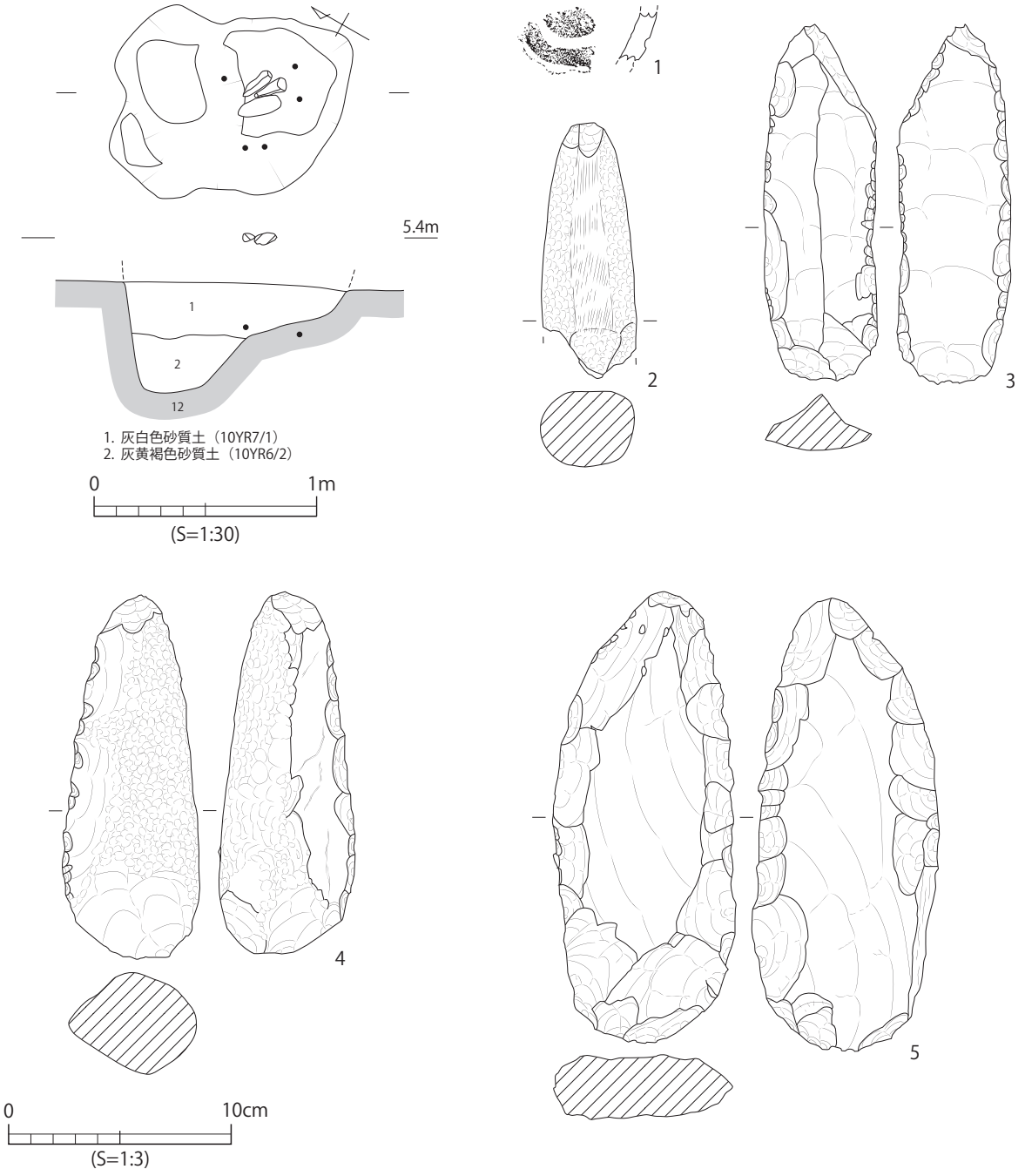
集石に加え、土坑からは多くの土器が出土した。第88図１～５は、中期前葉の土器である。１は半截竹管状工具による２個一対の刺突文を２段以上に配しており、地文はみられない。２は縄文を地文とし、口縁部に刺突文を配す。１～３は、船元式に近いものと考えた。４・５は外面に２段の折返し口縁をもつ波子式である。第88図６～10、第89図６～８は後期前葉の土器である。第88図６・７は磨消縄文で意匠が描かれた暮地式の浅鉢、８は口縁部が拡張した布勢式併行の深鉢である。第88図10、第89図７は寸胴器形の無文深鉢Ⅱ類、第89図８は頸部がややくびれる無文深鉢



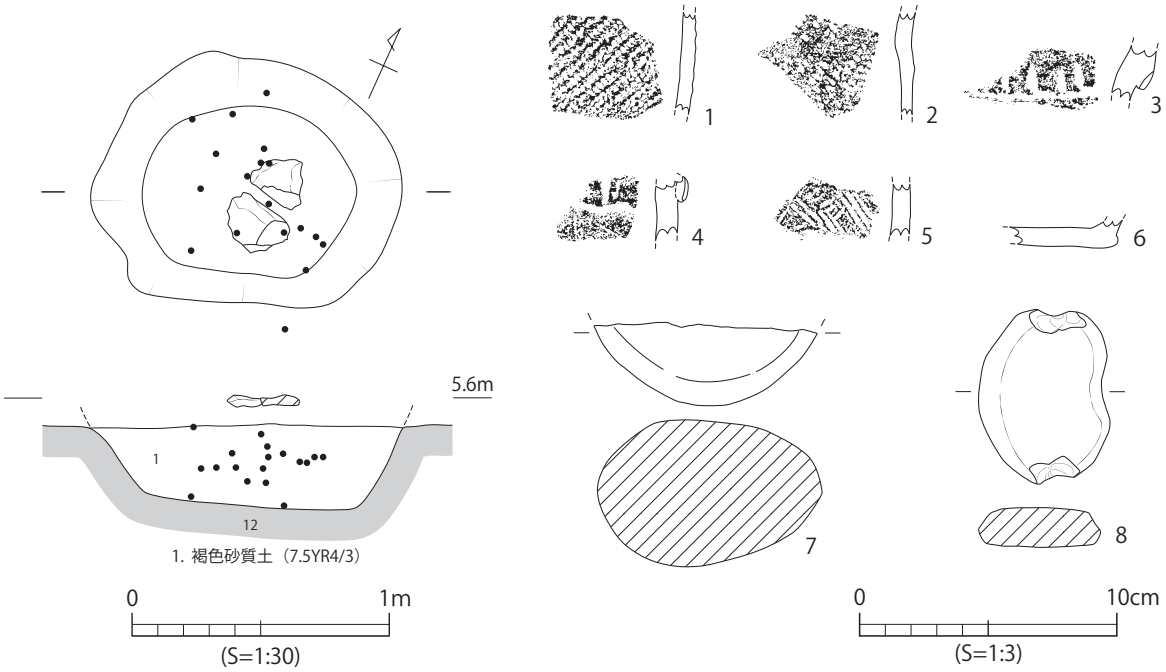
第 84 図　遺構 1473 集石出土遺物（２）

Ⅰ類である。第88図9、第89図6は高台状を呈す深鉢底部Ⅰ類である。第88図10は匙面条痕（外面）[5]と二枚貝条痕（内面）が併用された土器である。

第89図1は打欠石錘で、打欠部には摩滅がみられる。2は磨石で、前面に擦り痕がみられ、上下両端にわずかに敲打痕が観察される。3・4は三瓶山起源の軽石である。明瞭な加工痕は観察できないが、形状が比較的整っていることから12層出土の軽石加工品に類似するものと考えた。5はサヌカイト製の石鏃である。裏面は調整剥離が施されていない。9・10は、集積された塩基性片岩製の大型剥片である。磨製石斧の素材と考えた。上下に若干の調整剥離がみられるものの、大部分は大きな剥離面が残っている。



第 85 図　遺構 1437 集石および出土遺物



第 86 図　遺構 1448 集石および出土遺物（１）

遺構 1248 土坑（第 90 図、図版 12・57）

河川浸食痕との境界部近く、13層上面で検出した。深さ約15cmと浅い土坑である。検出面近くで遺物が出土した。第90図１は暮地式の浅鉢Ⅲ類で、磨消縄文帯が刻み目で加飾される。２は寸胴器形の後期無文深鉢Ⅱ類である。

遺構 1307 土坑（第 91 図、図版 13・57・58）

自然堤防の高まりが西に向かってやや低く傾斜する部分、12層上面で検出した。埋土は周囲と比較して締まりがあった。少量の遺物が出土し、骨片も１点含まれる。第91図１～３は縄文を地文とする土器で、いずれも船元式あるいは波子式の破片である。４はサヌカイト製の石鏃で、裏面に大きな剥離面を残す。

遺構 1316 土坑（第 92 図、図版 13・57）

河川浸食痕との境界部近く、12層上面で検出した。東側はピット状に深いが、これは掘りすぎである（図版13－２）。埋土から土器や石器が少量出土した。第92図１は中期・船元式または波子式の底部で、平底（底部Ⅲ類）である。胴部外面に縄文が施されている。

遺構 1317 土坑（第 93 図、図版 13・57）

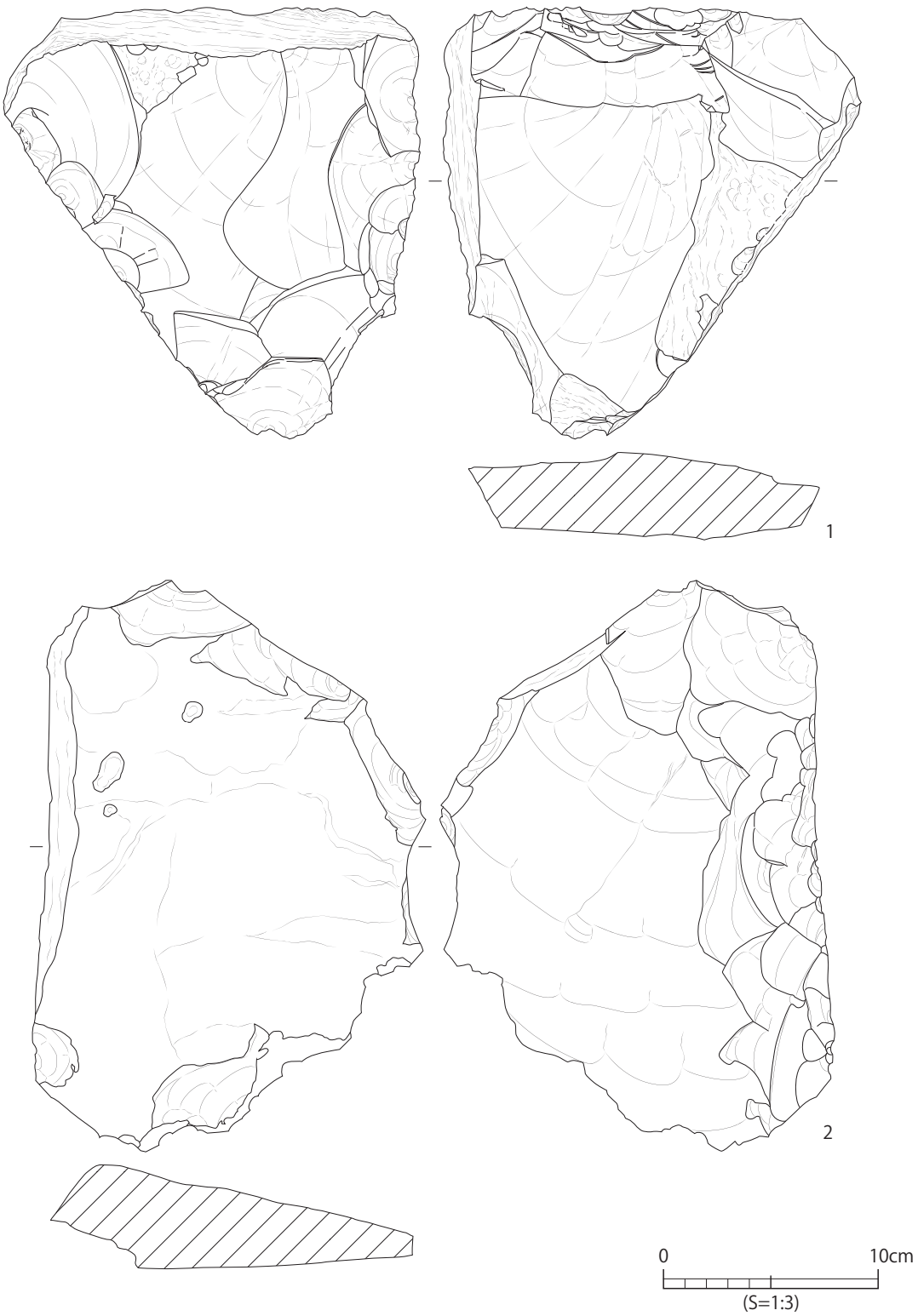
河川浸食痕との境界部近くで検出した。埋土から土器片が少量出土した。第93図１は外面に縄文を地文とする口縁部である。内湾する器形と思われ、船元式と考えられる。

遺構 1318 土坑（第 94 図、図版 13・58）

自然堤防の高まりが西に向かってやや低く傾斜する部分、12層上面で検出した。埋土は締まりがあり、遺構1307に似る。遺物は石器のみが出土した。第94図１はサヌカイト製の石鏃で、両面に調整剥離が施されている。

遺構 1327 土坑（第 95 図、図版 13・58）

自然堤防の高まり部分、12層上面で検出した小土坑である。すぐ東側に遺構1379があるが、両者の関係は不明である。縄文土器･石器が数点出土した。第95図１は打欠石錘である。打欠部に使



第 87 図　遺構 1448 集石出土遺物（２）

用痕と考えられる摩滅は観察できなかった。

遺構 1379 土坑（第 96 図、図版 13・57）

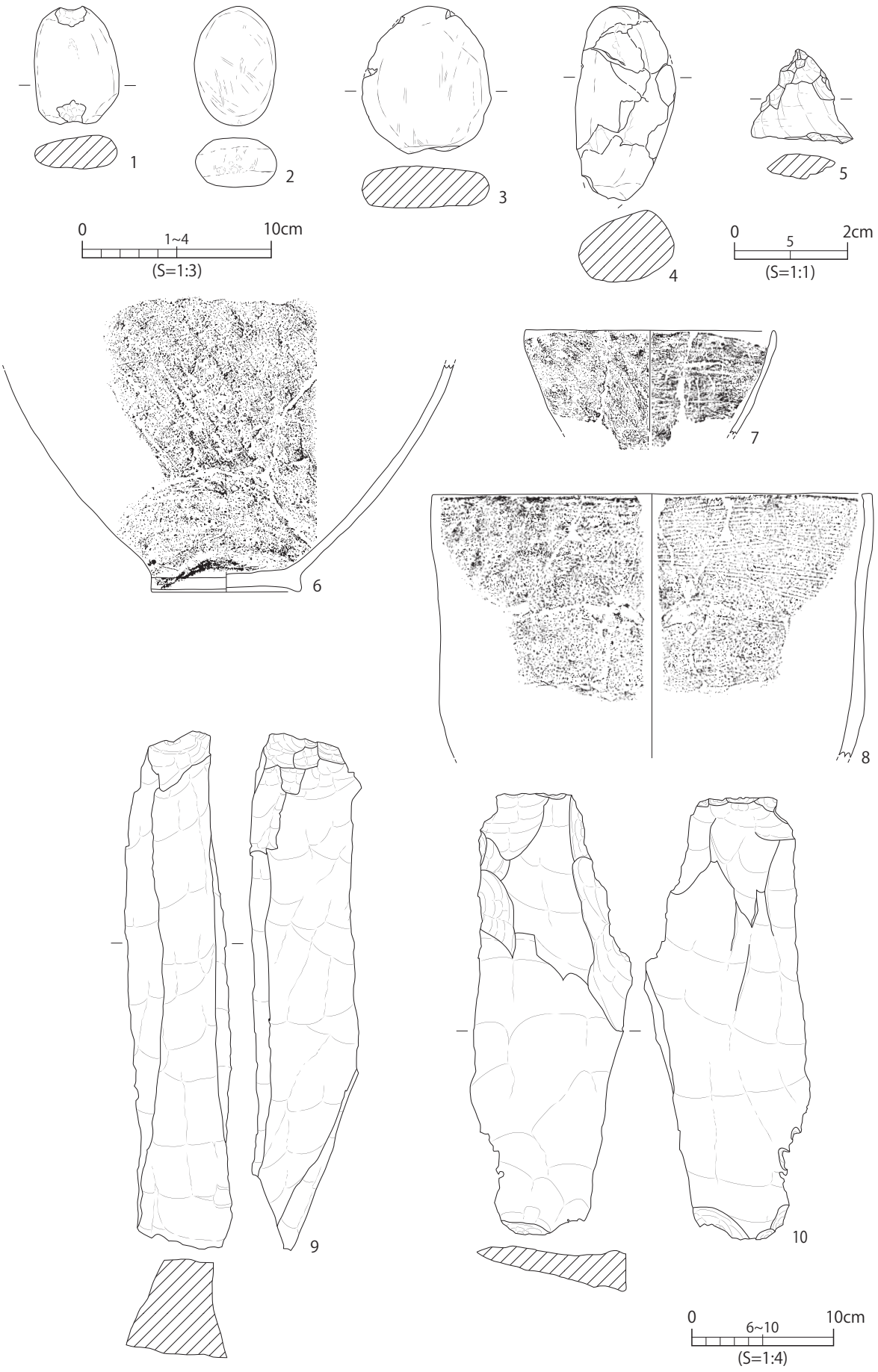
自然堤防の高まり部分で検出した長径が２mを超える土坑である。埋土１層には炭化物を多く含んでおり、同２層との境界は漸移的であった。埋土からは後期を中心とする土器が多く出土した。第96図１は、縄文を地文として半截竹管状工具内側を押捺した刺突文が横走する。同様な刺突文は中期・船元Ⅱ式にみられる。２・３は後期である。２は肩部に段をもつ鉢または壺、３は寸胴器形

の無文深鉢Ⅱ類と考えた。4は平底の底部で、小型の器種か。側面には縄文らしい圧痕がうかがえるが、不明瞭である。

遺構 1426 土坑（第 97 図、図版 13・57・61）

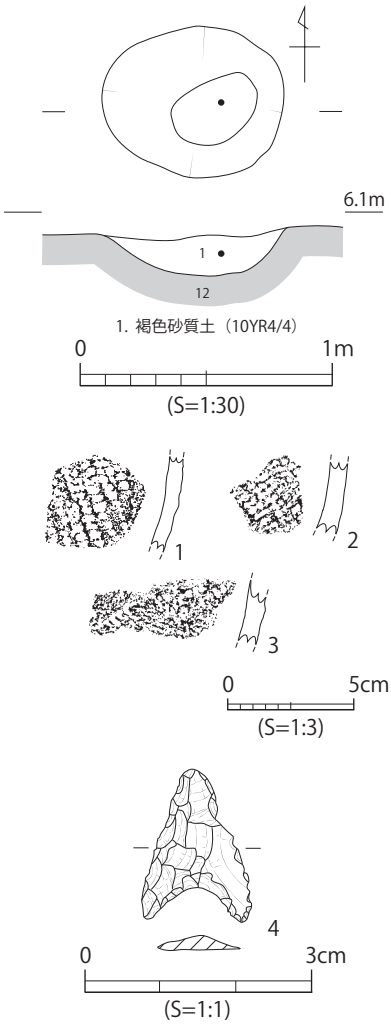
自然堤防の高まり部分、11層上面で検出した不整形の土坑である。周辺には土坑や焼土溜が集中している。埋土には炭化物を多く含み、後期の土器がまとまって出土した。第97図1～4はいずれも寸胴器形で、後期の無文深鉢Ⅱ類である。3の外面には巻貝条痕が顕著に施されている。5は肩

第 88 図　遺構 1438 集石および出土遺物（1）

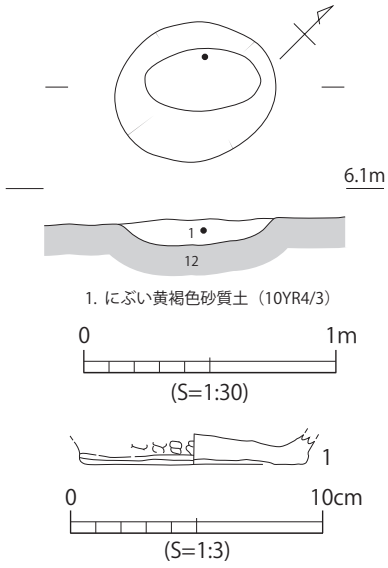


第 89 図　遺構 1438 集石出土遺物（２）

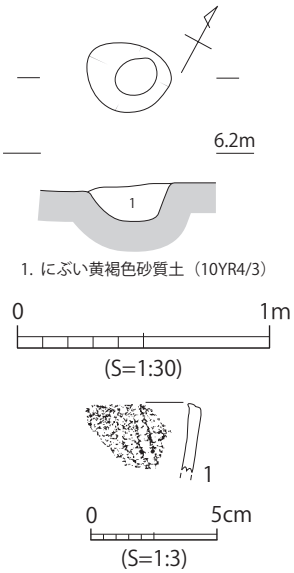
第 90 図　遺構 1248 土坑および出土遺物



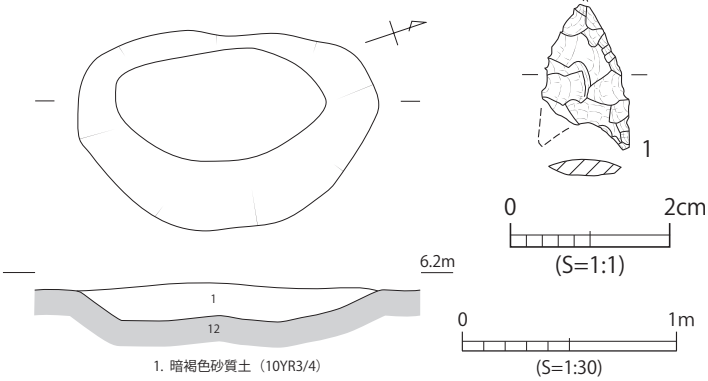
第 91 図　遺構 1307 土坑および出土遺物



第 92 図　遺構 1316 土坑および出土遺物



第 93 図　遺構 1317 土坑および出土遺物

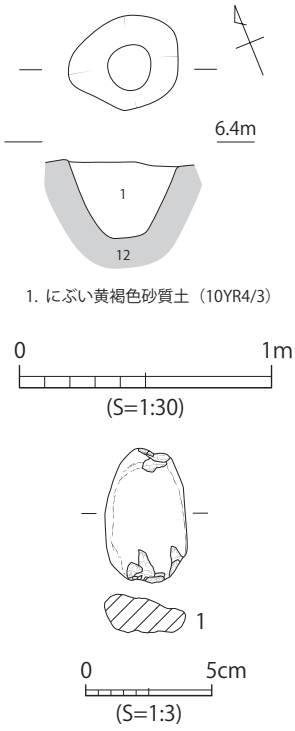


第 94 図　遺構 1318 土坑および出土遺物

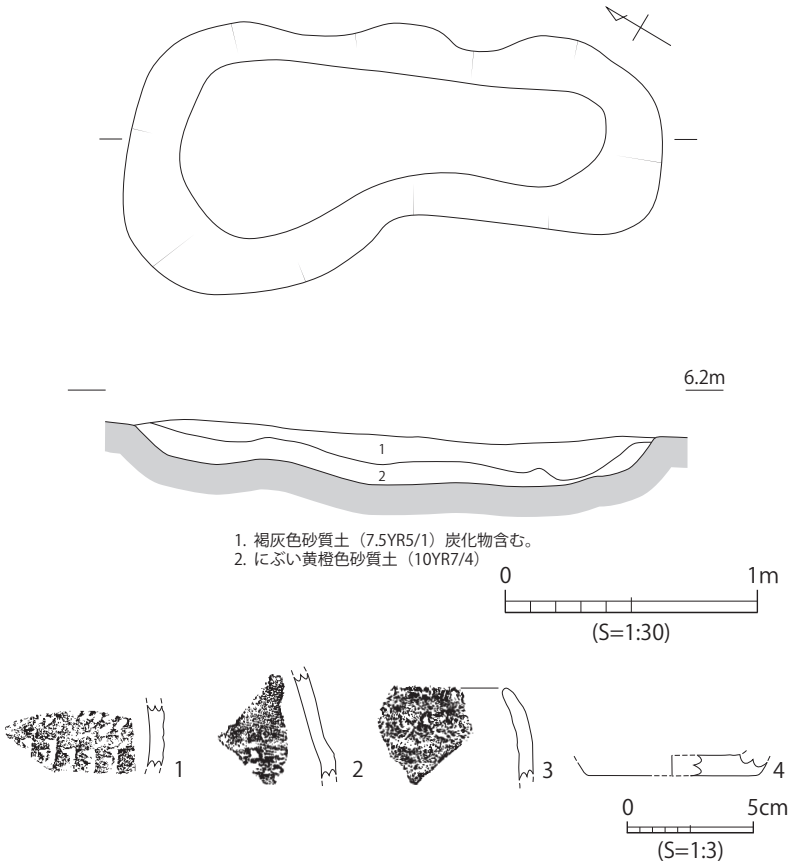
部に段をもつ土器で、口頸部が内傾していることから壺と判断したが、口径が大きいため浅鉢の可能性もある。布勢式併行から崎ヶ鼻 1 式にかけてのものと思われる。

遺構 1427 土坑（第 98 図、図版 13）

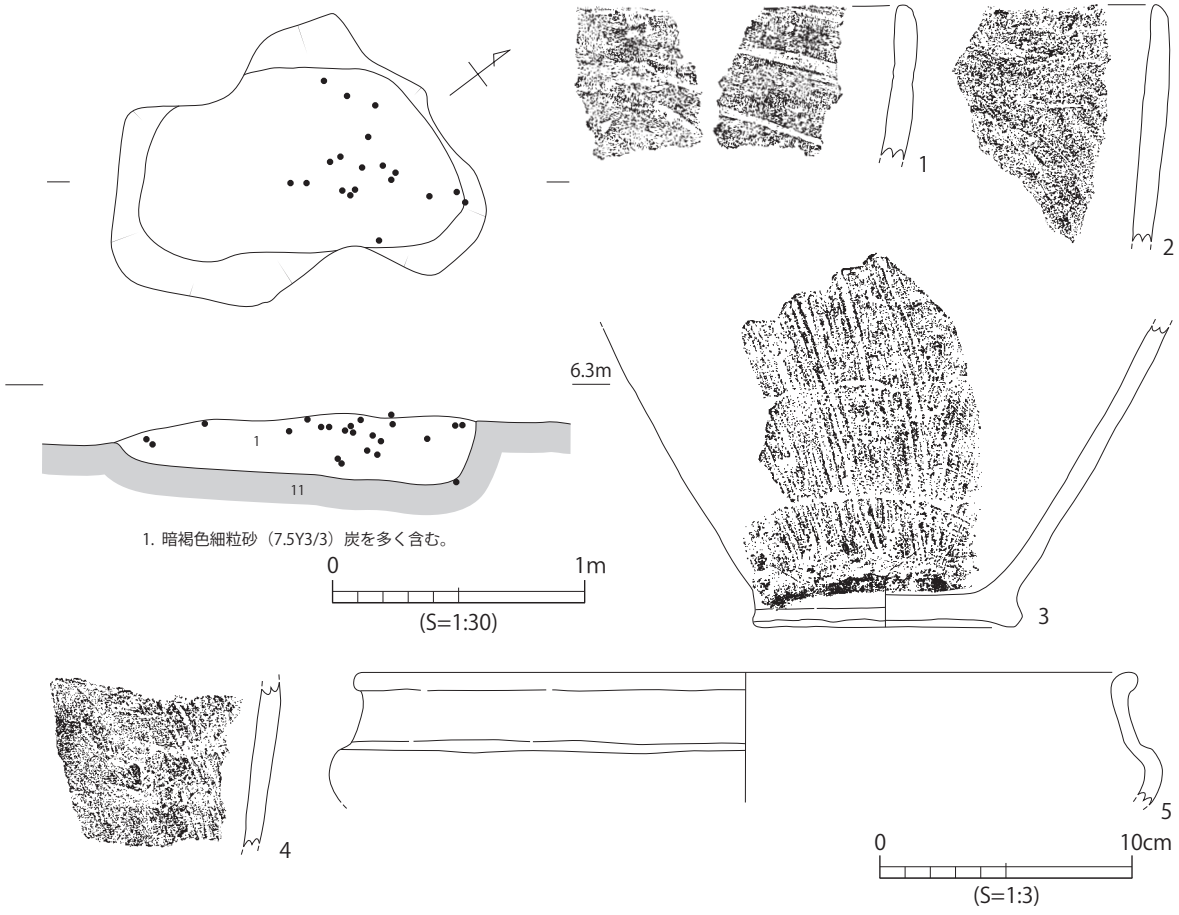
自然堤防が低く傾斜した調査区東壁近くで検出した。東端を検出できなかったが、中央がくびれる特徴的な形態を呈する。



第 95 図　遺構 1327 土坑
および出土遺物



第 96 図　遺構 1379 土坑および出土遺物



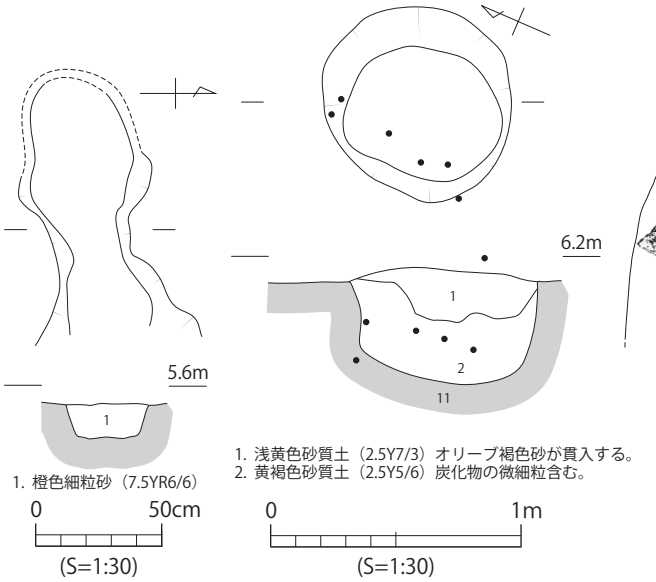
第 97 図　遺構 1426 土坑および出土遺物

遺構 1428 土坑（第 99 図、図版 14・59）

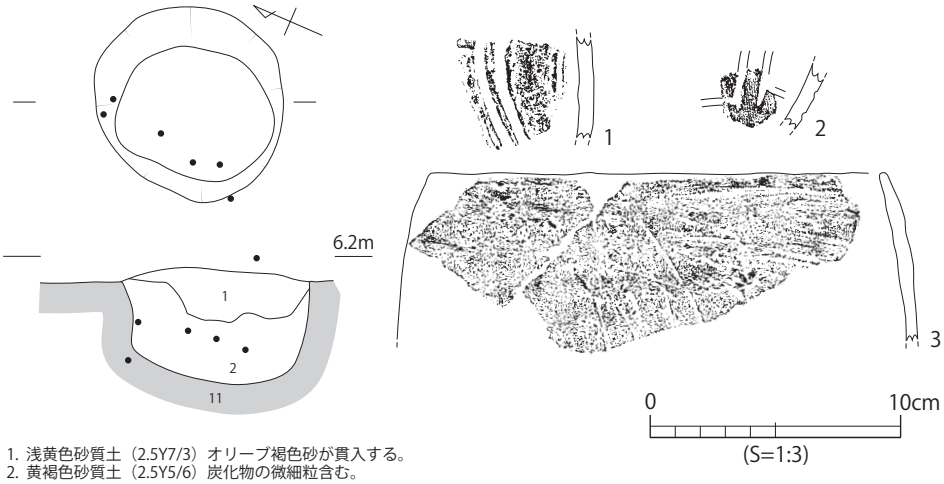
自然堤防の高まり部分、11層上面で検出した。埋土の境界線は漸移的である。後期を中心とする土器が多く出土した。第99図１は曲線的に垂下する沈線文が描かれており、第142図11と同一個体の可能性がある。２は縦長の方形区画文が描かれる浅鉢である。１・２は布勢式併行と考えられる。３は寸胴器形の深鉢で、後期の無文深鉢Ⅱ類である。

遺構 1430 土坑（第 100 図、図版 14・59）

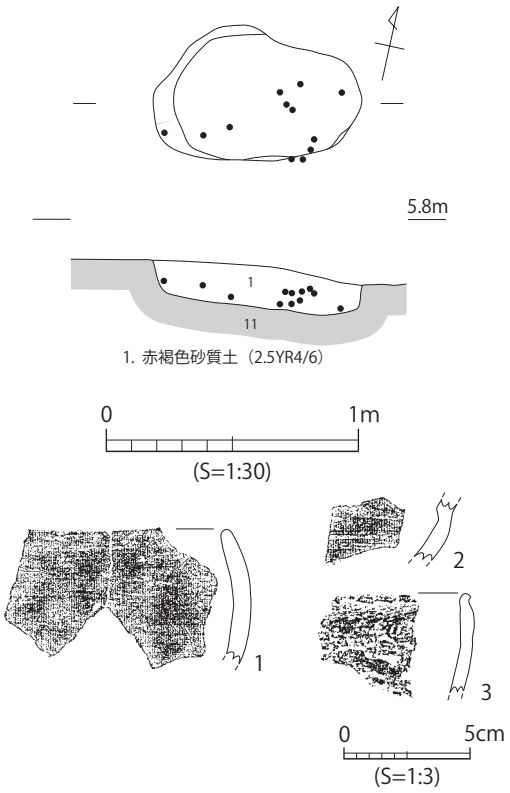
自然堤防が東に向かってやや低く傾斜する部分、11層上面で検出した。深さ約20cmと浅い土坑で、埋土は赤褐色を呈しており被熱している可能性もある。埋土からは後期の土器や石器が出土し



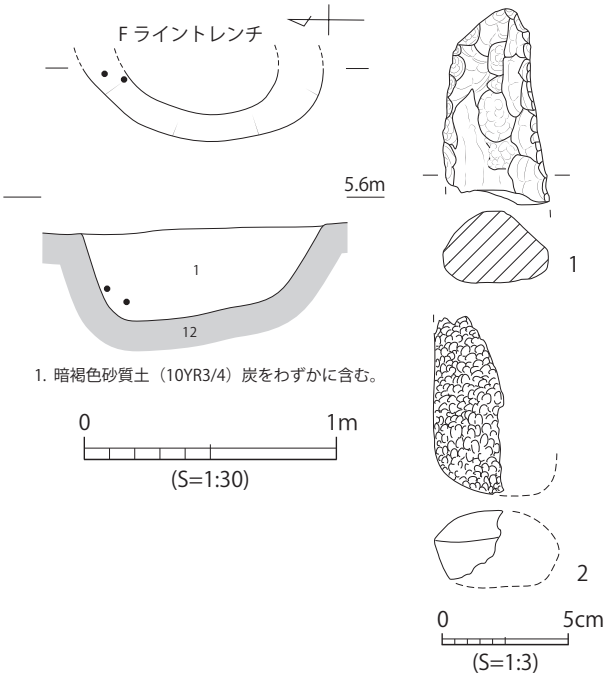
第 98 図　遺構 1427 土坑



第 99 図　遺構 1428 土坑および出土遺物



第 100 図　遺構 1430 土坑および出土遺物



第 101 図　遺構 1431 土坑および出土遺物

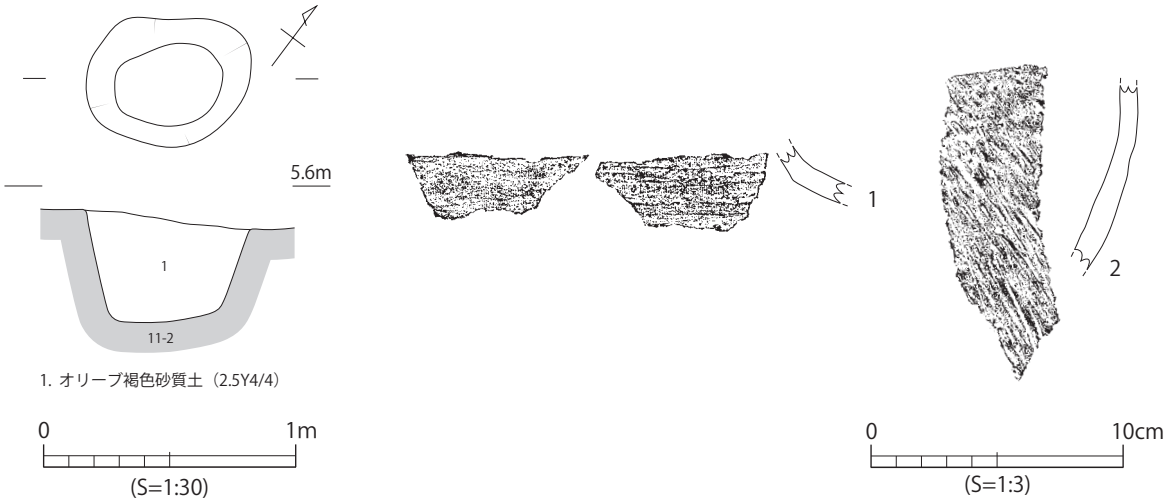
たが、多くが小片であった。第100図1～3はいずれも後期の無文土器で、1が浅鉢Ⅱb類、2が浅鉢Ⅲ類、3が無文深鉢Ⅱ類である。2は内面に段が付く浅鉢で、暮地式に特徴的な浅鉢である。

遺構 1431 土坑（第 101 図、図版 14・58）

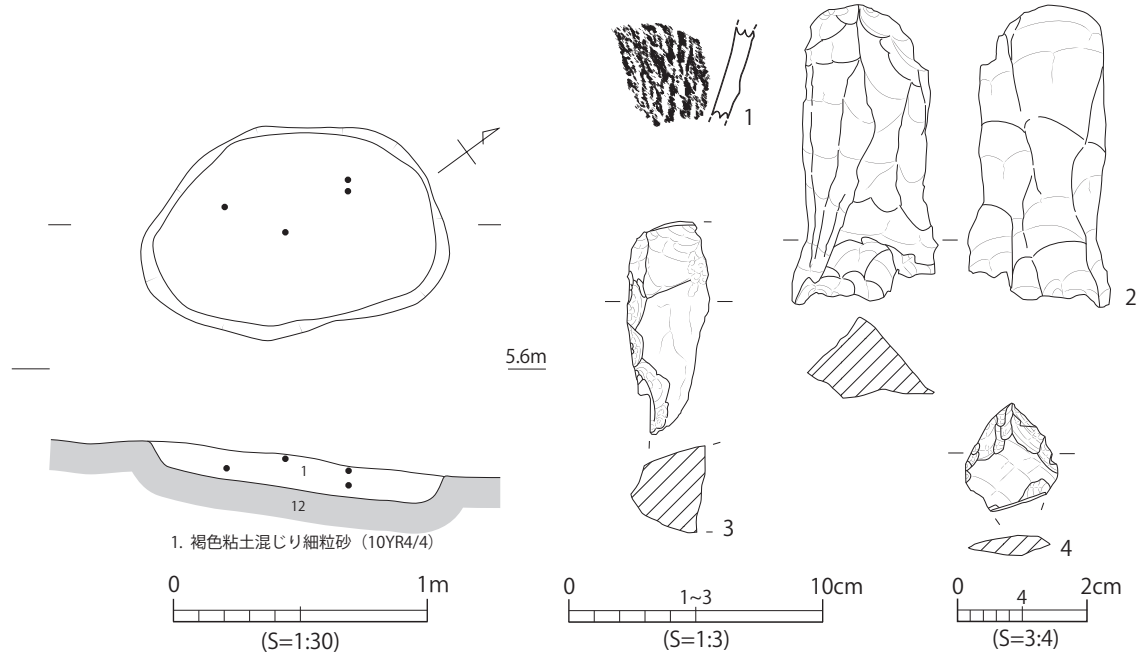
自然堤防の高まりが東に向かってやや低く傾斜する部分で検出した。Fライン沿いに設定したトレンチ壁で検出したため、東側半分を検出できなかった。12層上面で検出したが、埋土も12層と類似していた。遺物は石器が出土した。第101図1・2は塩基性片岩製磨製石斧の未成品である。1は側縁と中央部に敲打痕がみられ、敲打開始時のものと思われる。2は全面に丁寧な敲打痕があり、研磨直前のものと考えられる。

遺構 1433 土坑（第 102 図、図版 14・59）

自然堤防の高まりが東に向かってやや低く傾斜する部分で検出したピット状の土坑である。半截した際に断ち割りをおこない、断面で土坑壁面の立ち上がりを確認した。土器が少量出土した。第102図1は頸部が内傾する器形で、壺と思われる。2は無文土器で、外面に巻貝条痕が施される。ともに後期に属する。



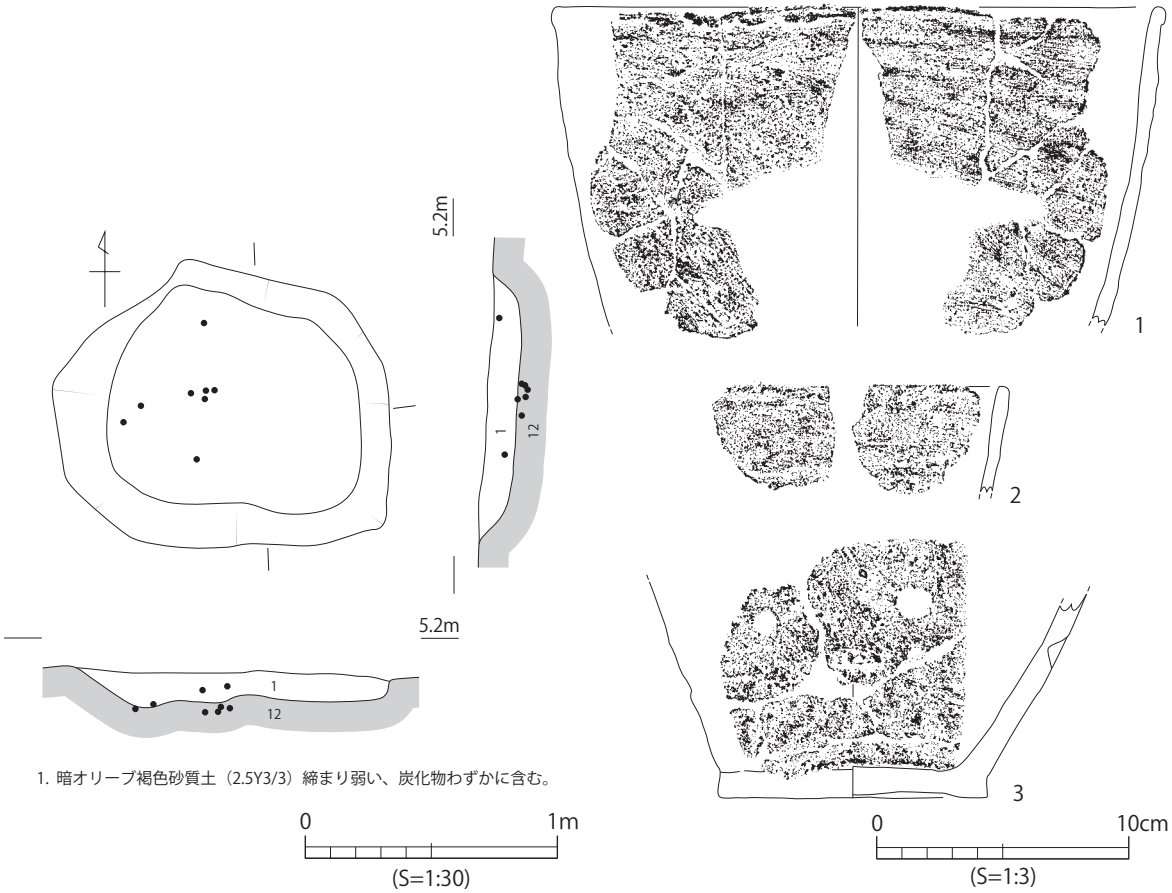
第 102 図　遺構 1433 土坑および出土遺物



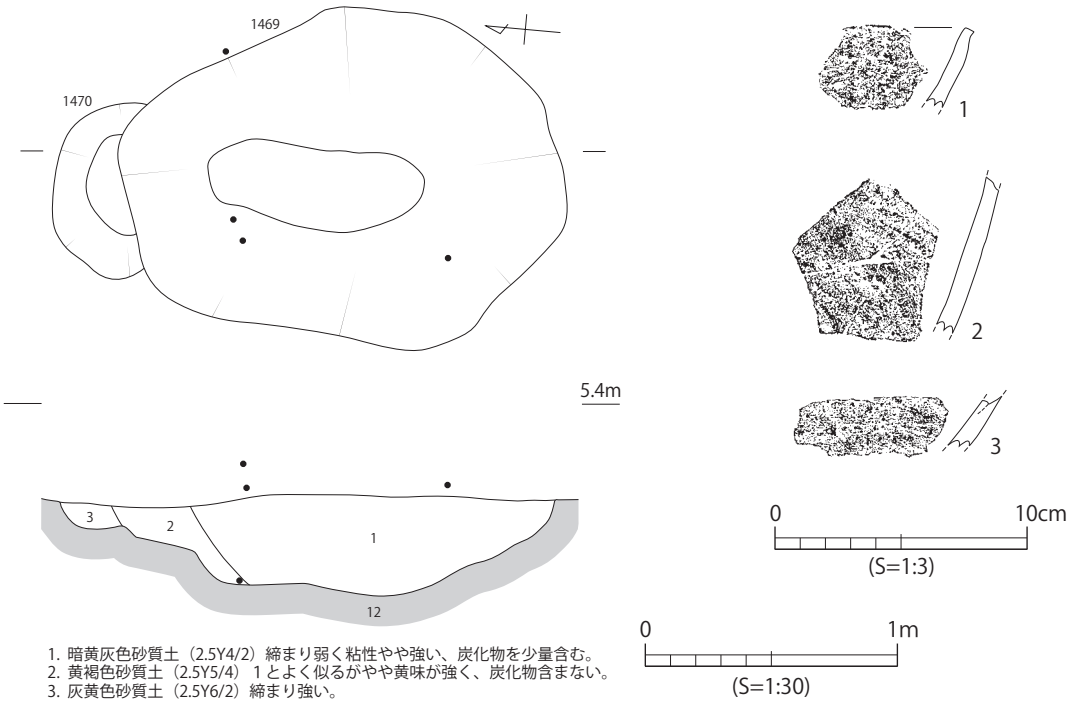
第 103 図　遺構 1439 土坑および出土遺物

遺構 1439 土坑（第 103 図、図版 14・58・59）

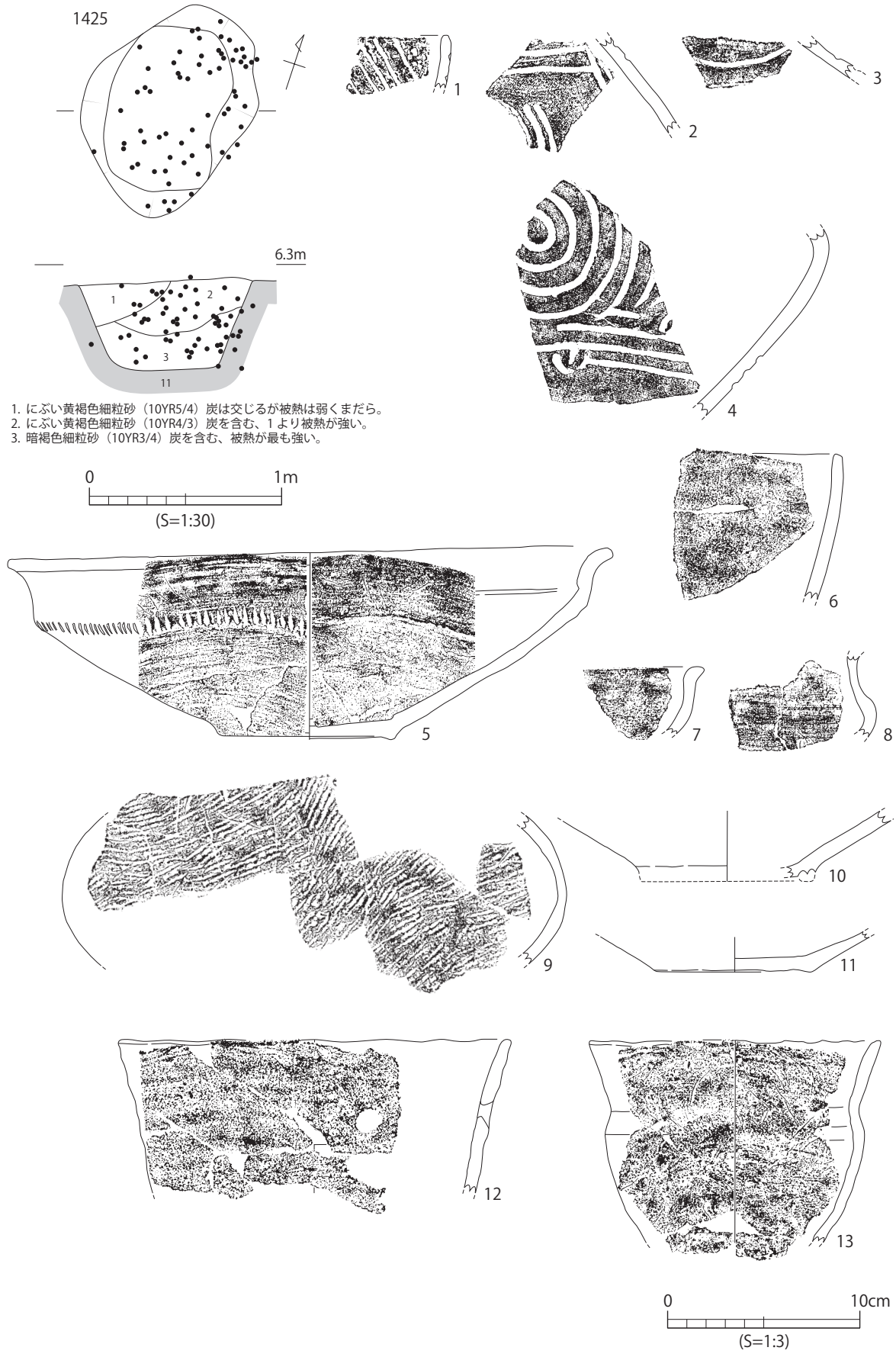
12層が東へ向かって低く傾斜する部分で検出した浅い土坑である。遺物は土器と石斧未成品が出土した。第103図1は縄文を地文とする土器で、船元式または波子式の胴部片である。２・３は



第 104 図　遺構 1468 土坑および出土遺物



第 105 図　遺構 1469 土坑および出土遺物

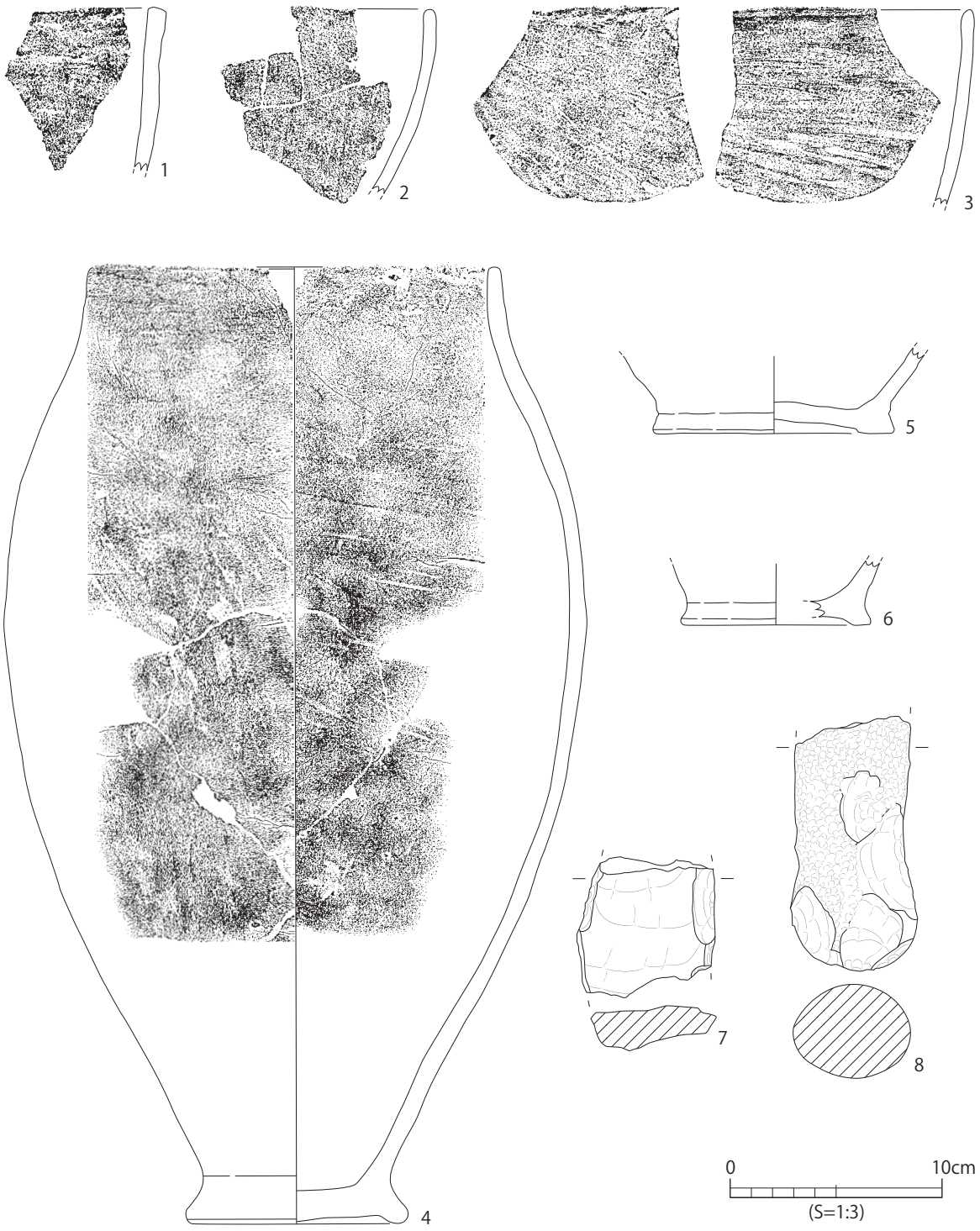


第 106 図　遺構 1425 土坑および出土遺物（1）

塩基性片岩製の磨製石斧未成品である。２は三面とも大きな剥離面が残り、素材と思われる。３は上端と中央に礫面を残すものの、側縁に敲打痕がみられる未成品である。４はサヌカイト製の石鏃未成品で、上部に調整剥離がみられる。

遺構 1468 土坑（第 104 図、図版 14・59）

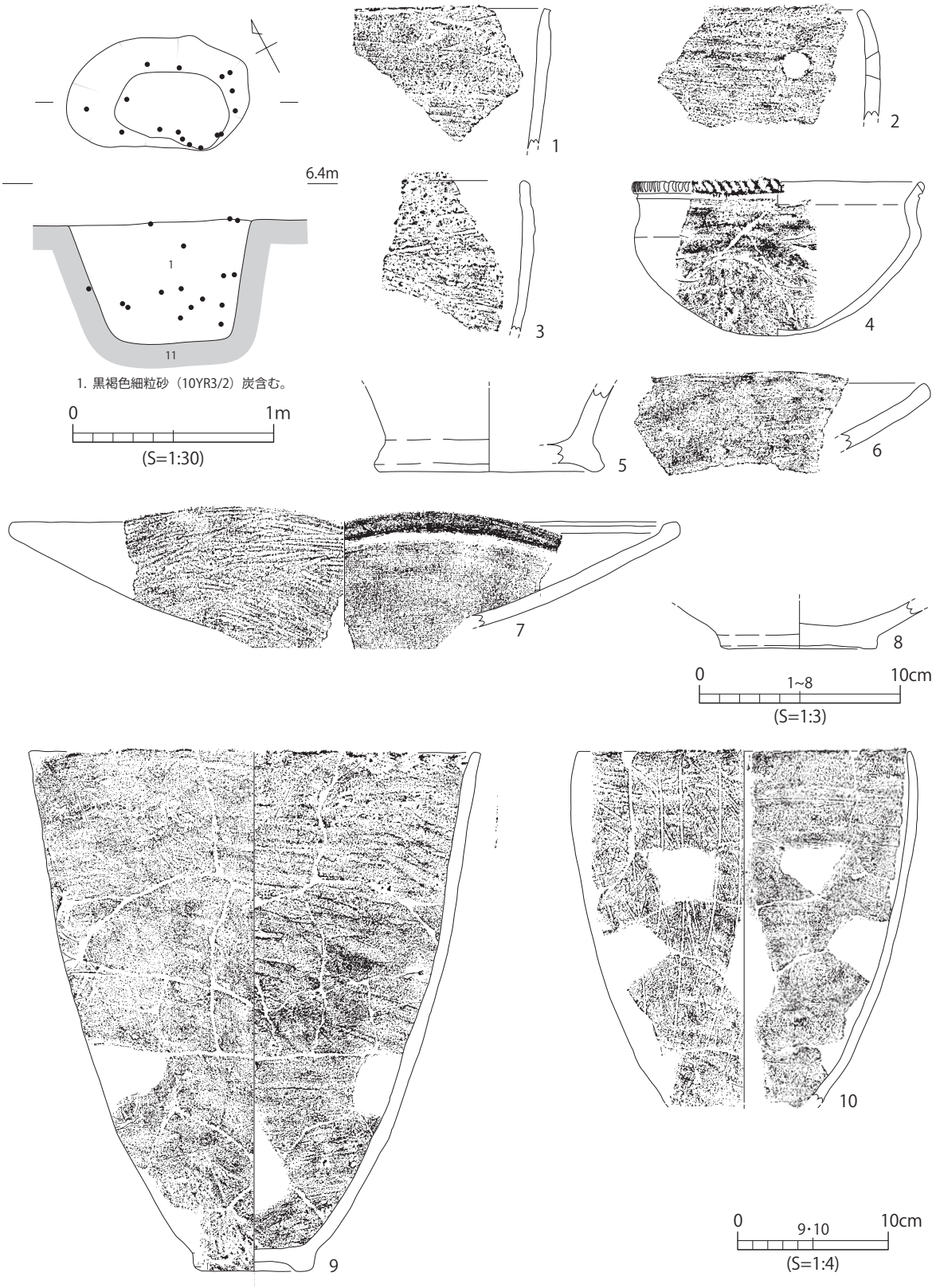
12層が低く傾斜した調査区東壁近くで検出した皿状の土坑である。埋土は11層に類似する。土器が一定量出土した。第104図１・２は寸胴器形の無文深鉢Ⅱ類で、１の内外面には巻貝条痕が顕著である。３は無文土器の底部Ⅱ類で、平底に近い。いずれも後期に属する。



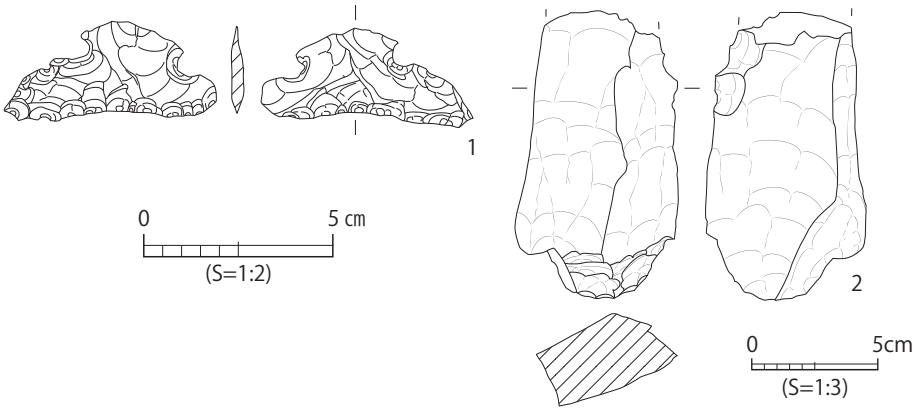
第 107 図　遺構 1425 土坑出土遺物（２）

遺構 1469 土坑（第 105 図、図版 14・59）

12層が低く傾斜した調査区東壁近くで検出した大型の土坑である。北側に接して掘り込まれた遺構1470を切っている。埋土は11層に類似し、炭化物を含んでいた。土器が少量出土した。第105図1・3は無文浅鉢、2は無文深鉢である。いずれも後期に属する。



第 108 図　遺構 1424 土坑および出土遺物（1）



第 109 図　遺構 1424 土坑出土遺物（２）

遺構 1425 土坑（第 106・107 図、図版 14・58 ～ 61）

自然堤防の高まり部分で検出した。埋土には炭化物を多く含んでおり、後期を中心とする土器や石器が多く出土した。また、磨製石斧製作時に出る剥片が80点出土した。石斧製作の作業場に近い可能性がある。第106図１は斜行沈線文が施された深鉢である。後期と思われるが、中期末に属する可能性も否定できない。２～５は浅鉢で、２・４がボウル形の浅鉢Ⅱａ類、５・７は屈曲形の浅鉢Ⅲ類、６は無文の浅鉢Ⅳ類である。10・11は浅鉢の底部で、10が底部Ⅱ類、11が底部Ⅲ類である。いずれも内外面にミガキ調整が施されている。８は肩部が屈曲する器形で、頸部が内傾する壺と考えた。やはり内外面にミガキ調整が施されている。９は全面に縄文が施される球形の胴部で、壺または大型の鉢と思われる。13は頸部が明瞭にくびれる土器で、無文・粗製の鉢と考えた。12、第107図１～３は無文深鉢Ⅱ類である。第107図４は口頸部がくびれる無文深鉢Ⅰ類である。５・６は深鉢底部で、ともに高台状の底部Ⅰ類である。これらは布勢式併行のまとまりであろう。７・８は塩基性片岩製の磨製石斧未成品で、７は素材、８は敲打がかなり進んだ段階のものである。

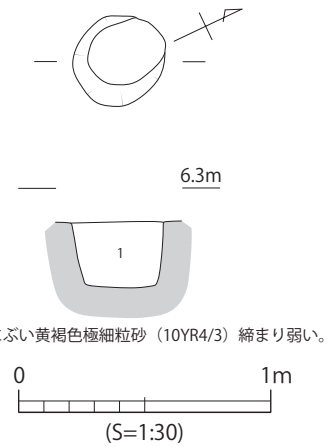
遺構 1424 土坑（第 108・109 図、図版 15・60・61）

自然堤防の高まり部分で検出した。法量や埋土の様相、出土遺物の傾向などが遺構1425に類似しており、検出位置も近いことから同様の性格をもった土坑の可能性がある。多くの土器や石器が出土した。第108図１～３・９は寸胴器形の無文深鉢Ⅱ類である。９は内面に匙面条痕（柳浦2021）が顕著である。10は垂下沈線文が間隔をあけて施された寸胴器形の深鉢である。地文は巻貝条痕が良く残る。５は深鉢底部である。４は鉢で、胴部以下に巻貝条痕をよく残すやや粗雑な土器である。６・７は浅鉢Ⅰａ類で、６は口縁部内面が段状に肥厚している。８は浅鉢底部Ⅱ類である。これらは暮地式あるいは布勢式併行期のまとまりと考えてよいと思われる。

第109図１はサヌカイト製石匙である。両面ともに刃部に調整剥離が集中している。２は塩基性片岩製の磨製石斧未成品である。一部に調整剥離がみられるが、素材をあまり加工していない段階である。

遺構 2370 土坑（第 110 図、図版 15）

２区では縄文時代の遺構を約90基検出した。しかし、大半が小型の土坑であり、掲載可能な遺物が出土したものはなかった。この

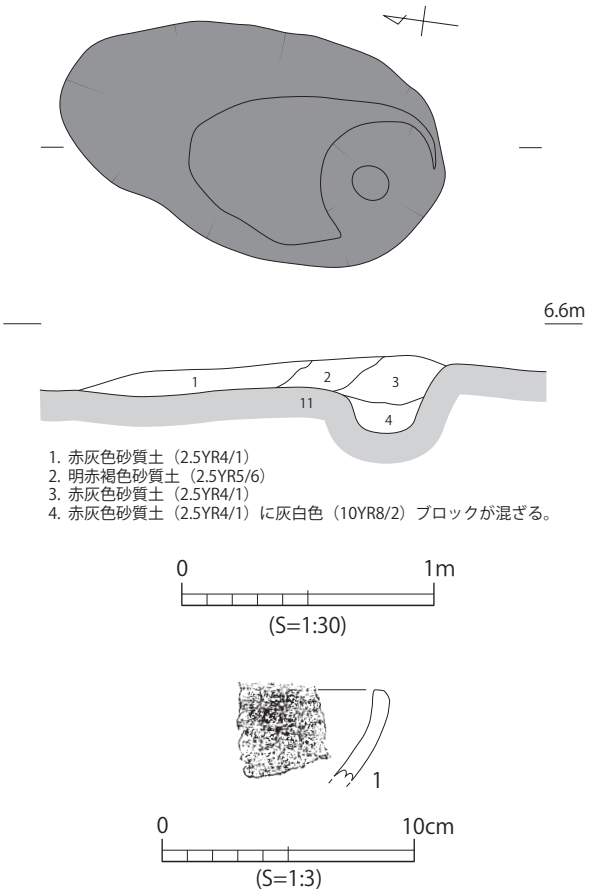


第 110 図　遺構 2370 土坑

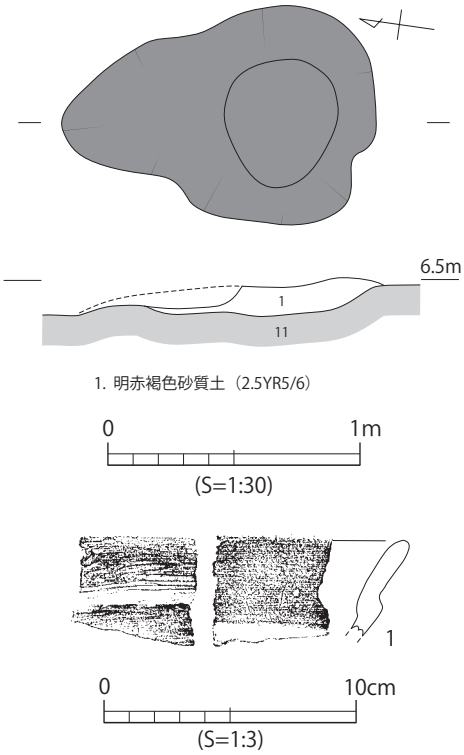
土坑も1区に近く、自然堤防の高まり部分に立地する。

遺構 1352 焼土溜（第 111 図、図版 15・61）

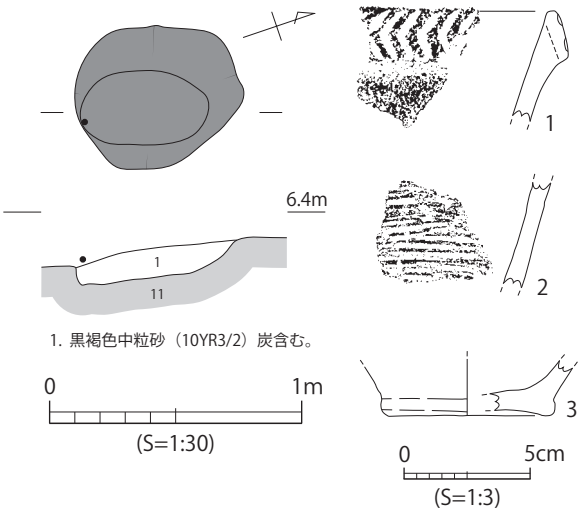
自然堤防の高まり部分で検出した。焼土遺構は、土坑状にある程度深さをもつものを焼土溜、ほとんど深さをもたないものを焼土面として記録した。遺構1352は南側がピット状にやや深くなる。埋土はやや暗く、床面が被熱により明赤褐色に変色していた。埋土からは土器や石器に加え、骨片がわずかに出土した。第111図1は無文浅鉢Ⅳ類である。内外面にミガキ調整が施されている。



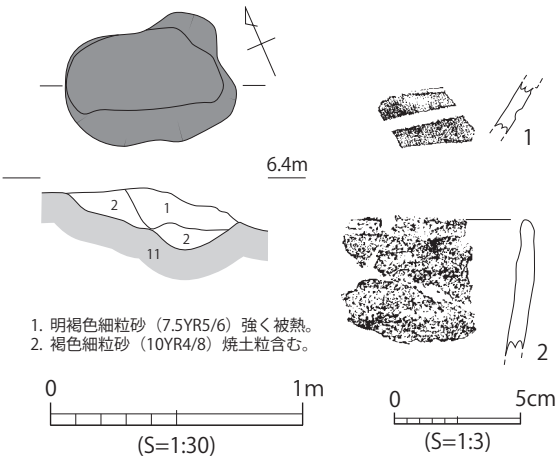
第 111 図　遺構 1352 焼土溜および出土遺物



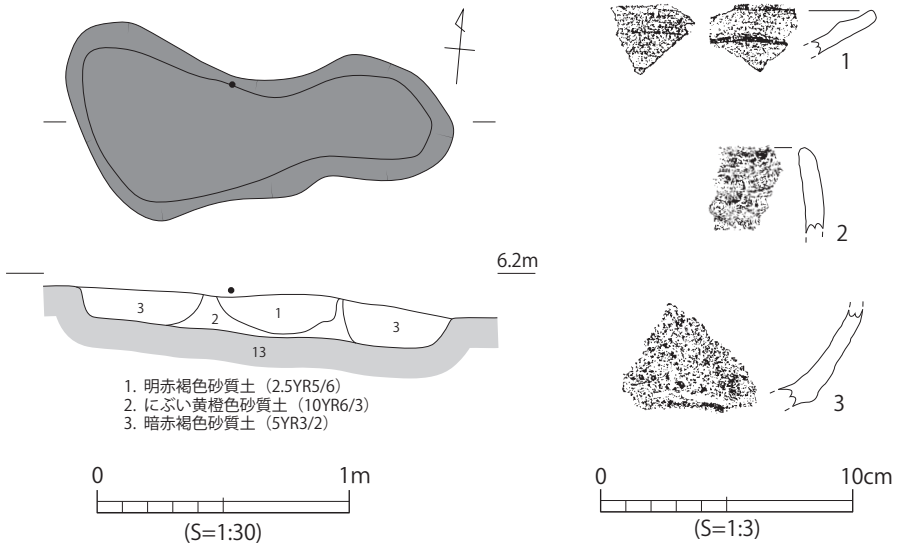
第 112 図　遺構 1356 焼土溜および出土遺物



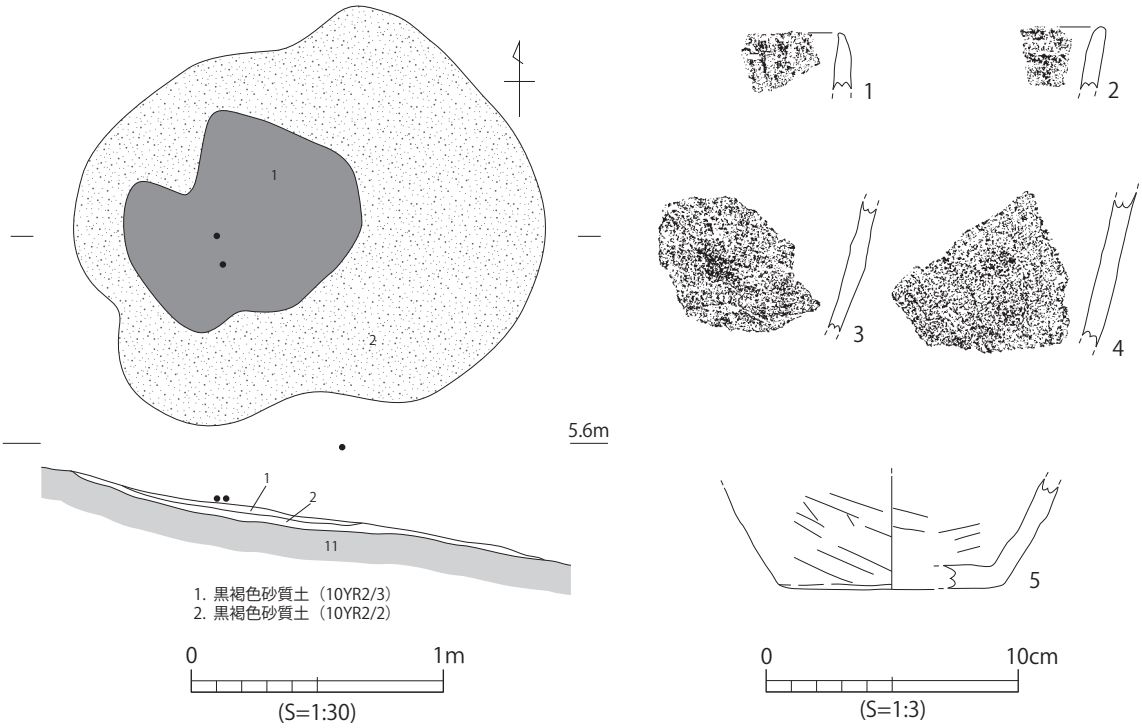
第 113 図　遺構 1369 焼土溜および出土遺物



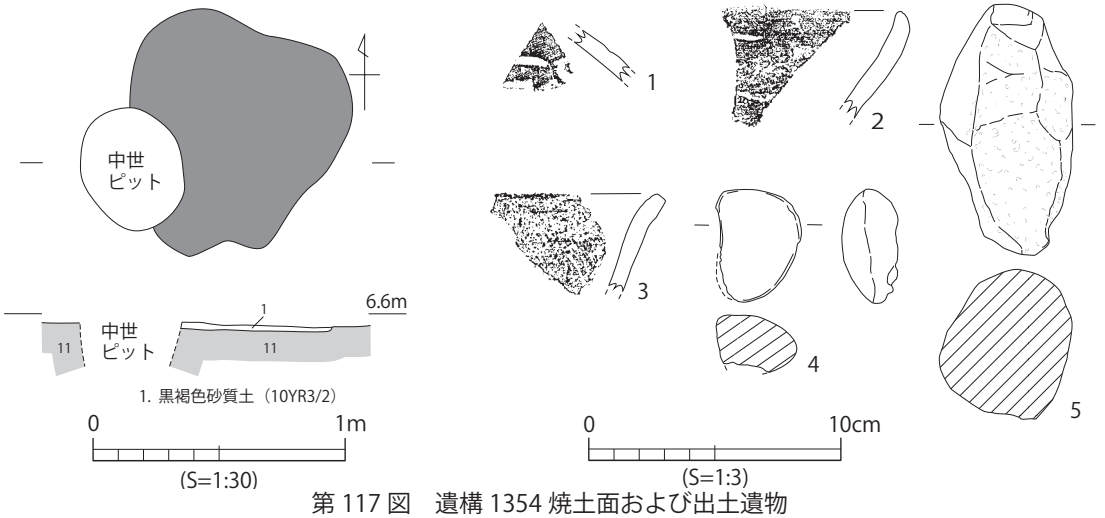
第 114 図　遺構 1370 焼土溜および出土遺物



第 115 図　遺構 1382 焼土溜および出土遺物



第 116 図　遺構 1402 焼土溜および出土遺物



第 117 図　遺構 1354 焼土面および出土遺物

遺構 1356 焼土溜（第 112 図、図版 15・61）

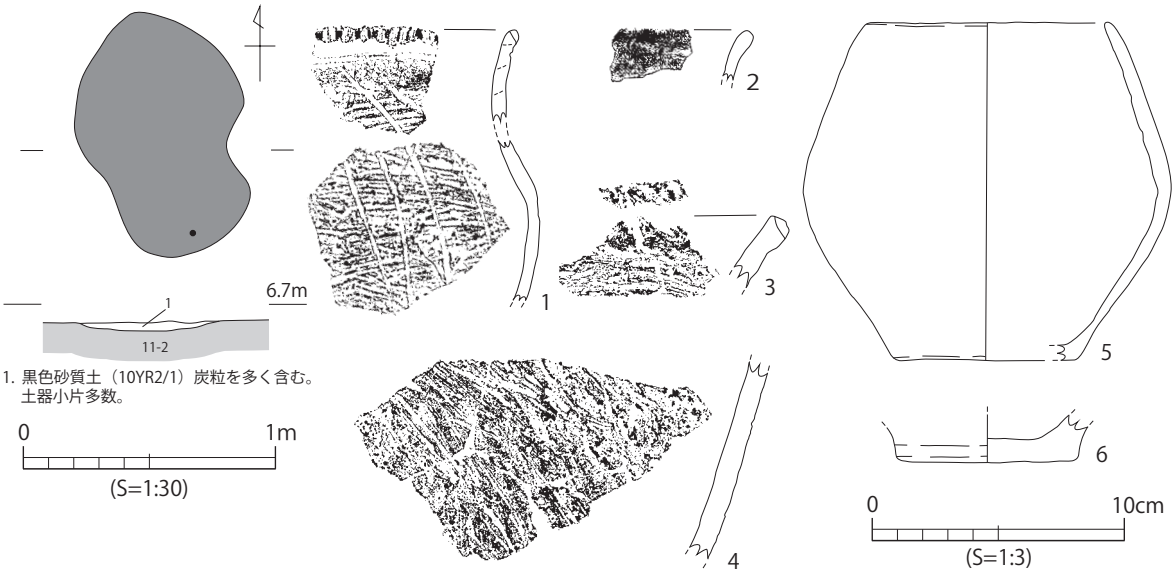
遺構1419硬化面の上位で検出した。検出の段階で明らかに被熱によって変色していることが認識できた。埋土からは土器や石器、骨片が少量出土した。第112図1は肩部が屈曲する浅鉢Ⅲ類である。内外面にミガキ調整が施される。

遺構 1369 焼土溜（第 113 図、図版 15・61）

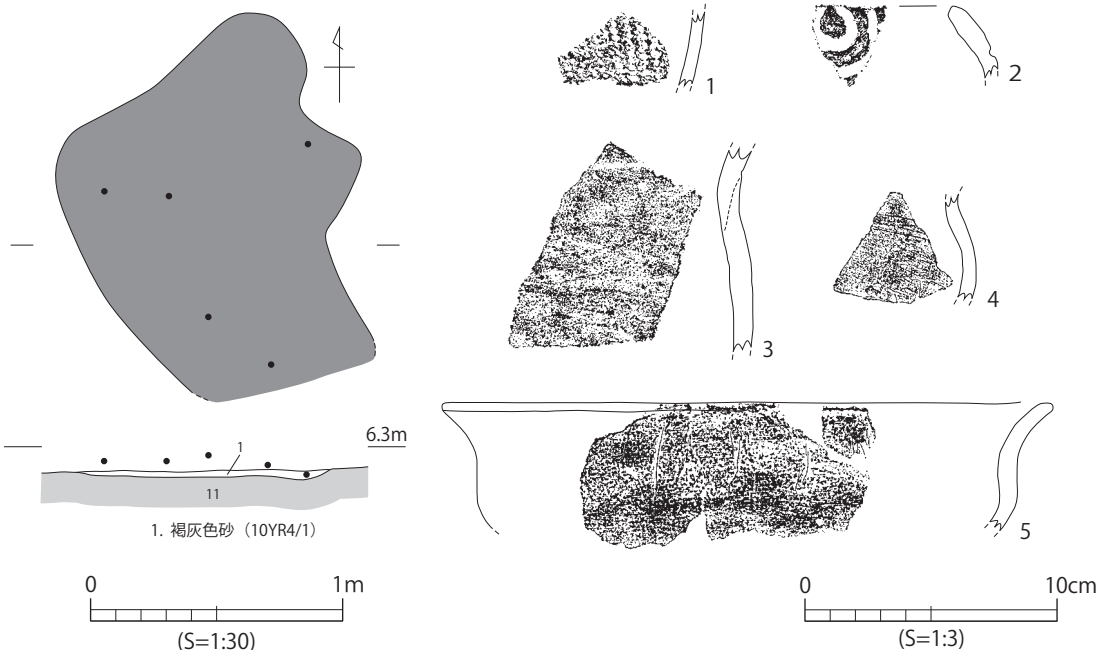
自然堤防の高まり部分で検出した。埋土は炭化物を多く含んでおり、褐色系の変色はみられなかった。土器や石器がわずかに出土した。第113図1は口縁部が肥厚する有文深鉢である。口縁部には縄文を地文として羽状の短沈線文が描かれている。布勢式併行と思われる。2は二枚貝条痕が顕著な深鉢胴部片、3は底面がやや凹む底部Ⅱ類である。ともに後期と考えられる。

遺構 1370 焼土溜（第 114 図、図版 15・62）

自然堤防が東へ向かって低く傾斜する部分で検出した浅い土坑である。2層に分層したが、層境

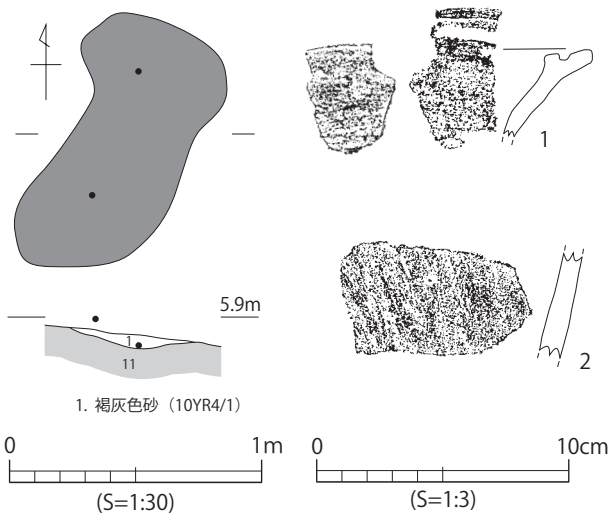


第 118 図　遺構 1361 焼土面および出土遺物



第 119 図　遺構 1397 焼土面および出土遺物

界は漸移的で、被熱度合による色調の変化を示している可能性がある。遺物は土器が少量出土した。第114図1は2条の沈線文が横走した土器で、内外面が磨かれていることから浅鉢と考えられる。布勢式併行であろうか。2は後期の無文深鉢Ⅱ類である。



第120図　遺構1398焼土面および出土遺物

遺構 1382 焼土溜（第 115 図、図版 15・62）

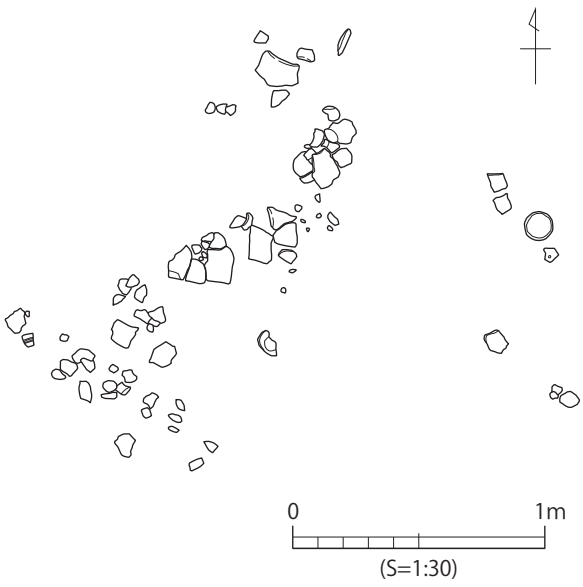
自然堤防のもっとも高い部分で検出した。埋土の様相から別々に形成された3基の遺構の可能性もある。中央に被熱による変色があり（埋土1層）、その両端にやや暗い被熱層がみられる（埋土3層）。遺物は土器が少量出土した。第115図1は内面に段を有する浅鉢である。暮地式に属すると思われる。2は寸胴形の無文深鉢Ⅱ類、3は深鉢底部である。ともに後期の土器と思われる。

遺構 1402 焼土溜（第 116 図、図版 15・62）

自然堤防の高まり部分で検出した。深さはほとんどない。全体的に黒褐色を呈し、周縁（埋土2層）がやや炭を含むことから分層した。遺物は少ない。第116図1～5はいずれも後期無文深鉢である。1の口唇部は先細りになる無文深鉢Ⅳ類である。5は深鉢底部Ⅲ類で、内外とも巻貝条痕がみられる。

遺構 1354 焼土面（第 117 図、図版 16・62）

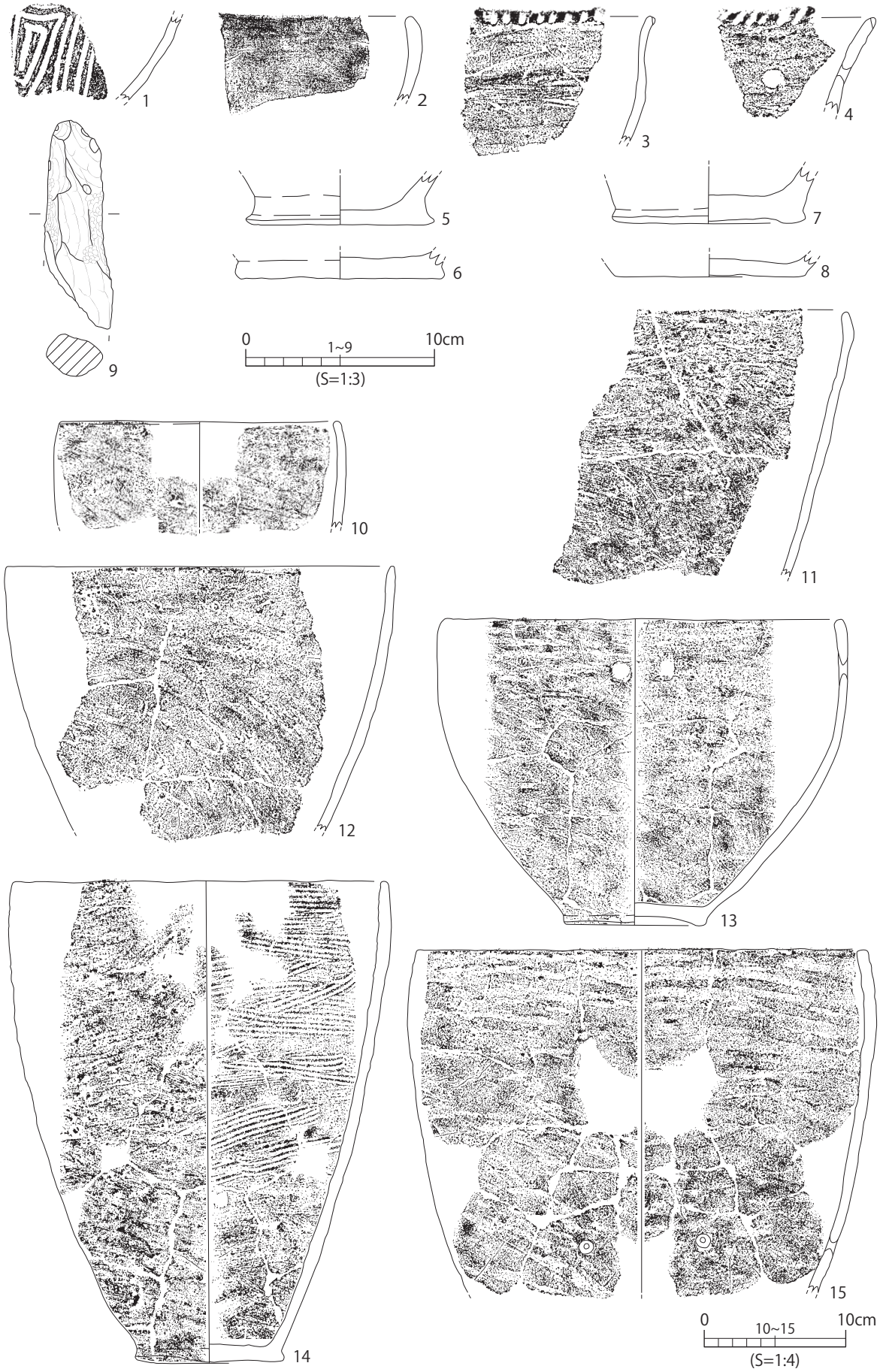
11層内で検出した深さのない焼土面で、中世のピットに一部切られる。褐色系の変色はない。土器や石器が出土した。第117図1は内外面ミガキ調整の沈線文土器で、布勢式併行の浅鉢と思われる。2は無文の浅鉢Ⅳ類、3は後期の無文深鉢である。4は平面形半円形を呈する土製品である。厚みがあり、表面は丁寧なナデ調整が施されている。ほぼ完形と思われるが、器種・用途は不明である。5は側面と裏面に密に敲打痕が観察される石器である。磨製石斧と同じ塩基性片岩製であるが、形状からは磨製石斧未成品とは考えにくい。敲打痕が一方に偏っていることから、敲打工具として使用された可能性を考えたい。



第121図　遺構1399土器溜

遺構 1361 焼土面（第 118 図、図版 16・62）

自然堤防の高まり部分で11－2層掘削中に検出した。炭化物を多く含む黒褐色土に大量の土器小片が含まれていた。褐色系の変色はみられない。第118図1・2は鉢である。1は地文に巻貝条痕、口縁下に横走沈線、頸胴部に垂下沈線文が施されている。2は内外面ミガキ調整が施される精製の土器である。5は算盤玉状の器形をした土器で、調整が比較的丁寧なことから壺と考えた。3・4は無文深鉢で、3は口縁



第 122 図　遺構 1399 土器溜出土遺物

部がやや外反する器形である。６は深鉢底部で、平底である。これらはいずれも後期に属す。

遺構 1397 焼土面（第 119 図、図版 16・62）

自然堤防の高まり部分で検出した不整形の焼土面である。色調は遺構1361と類似するが、土器の出土量は少ない。第119図１は地文に縄文が施される土器で、船元式あるいは波子式の胴部片と考えられる。２は沈線文で円形文が描かれ、布勢式併行のボウル形浅鉢Ⅱ類と考えられる。３は頸部がくびれる無文深鉢Ⅰ類である。５は肩部が屈曲する浅鉢、４は鉢または壺である。２～５はいずれも後期と考えられる。

遺構 1398 焼土面（第 120 図、図版 16・62）

自然堤防の高まり部分で検出した。遺構1397と位置が近く、色調や遺物の出土状況などが類似している。遺物は土器が少量出土した。第120図１は口縁部が肥厚する上面施文の有文深鉢で、布勢式併行の土器である。２は後期の無文深鉢である。

遺構 1399 土器溜（第 121・122 図、図版 16・62 ～ 64）

11層掘削中に検出した。土器が含まれる部分の包含層は黒褐色でやや炭を含んでいた。約２ｍにわたって遺物がまとまって出土し、土器とともに径２～３cmほどの川原石が多く出土した。第122図１は長方形意匠を沈線で描く浅鉢、２は無文の浅鉢で、ともに浅鉢Ⅱ類である。１は布勢式併行。３は鉢であるが、頸胴部の屈曲が弱い。４・10 ～ 15は後期の無文深鉢である。４が口縁部外反するⅠ類のほかは、寸胴器形のⅡ類である。13は口径に対して器高が低い。14は外面に巻貝条痕、内面に二枚貝条痕が施されている。15の外面は匙面条痕が顕著である。５～７は深鉢底部で、５・６が平底（底部Ⅲ類）、７がやや凹む底部Ⅱ類である。８は浅鉢底部で、平底（底部Ⅲ類）である。９は塩基性片岩製の磨製石斧未成品である。側縁に敲打痕が多くみられ、断面形を丸くしようとした意図がうかがえる。敲打の工程に入って間もない段階と思われる。

遺構 1419 硬化面（第 123 ～ 127 図、図版 17・18・64 ～ 67）

調査区の北端、自然堤防がもっとも高くなるＤ２グリッドで検出した。現地ではまず焼土面や焼土溜の集中地点として認識し、その後径６～ 7.5ｍの不整円形を呈する硬化面を検出した。遺構・遺物が集中することや県内の調査事例[6]から住居の可能性を考えた。柱穴は可能性のあるピットを２基確認したが（遺構1394･1395）、柱配置は不明である。中央西よりでは集石を確認し（遺構1400）、ここから塩基性片岩を主体とする小破片・チップがまとまって出土した。剥片類は被熱しており、石器製作をおこなっていた可能性が高い。南縁沿いでは径約70cmの土坑を検出し（遺構1378）、黒褐色の炭層である埋土４層（第123図Ｈ－Ｈ'）には大量の土器小破片を含んでいた。ほとんど同一個体と思われたが接合する破片は少なかった。

第124図１～ 14は縄文を地文とする中期前葉の土器である。１・２は内面折返し口縁で、ともに折返し部は無文である。また、１･５の口縁部外面には半截竹管状工具による爪形文が施される。３は外面折返し口縁で、口縁部には垂下短沈線文が、口縁内面には縄文が施される。４は口縁部に横走する沈線文が１条付される。１～５の口縁部は縄文が施されていない。６～ 13はこれらの胴部で、13の内面には二枚貝条痕がみられる。14は底部で、底面にも縄文が施文される。１～ 14は波子式と考えられる。15は口縁部が強く内湾する器形で、器面の凹凸が著しい。時期の決め手に欠けるが、このような器形が後期無文土器にないことから、中期と考えたい。

第124図16 ～第125図16は後期土器である。第124図16 ～ 18は磨消縄文をもつ暮地式、19

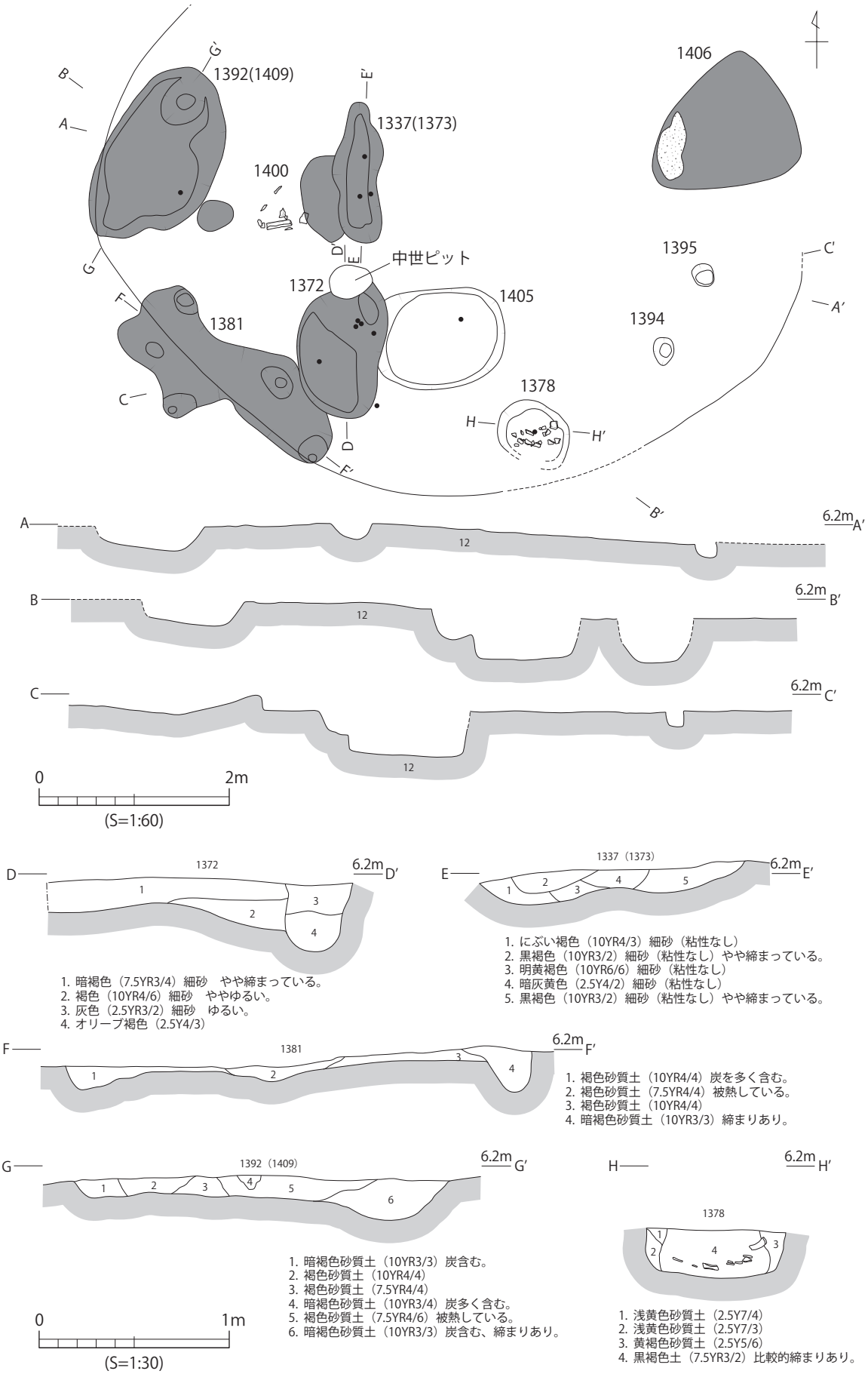
第3表　遺構1419硬化面出土の石器集計表

		塩基性片岩						サヌカイト				安山岩	その他			
遺構		素材	剥離敲打	剥片大(4cm以上)	剥片中(2～4cm)	剥片小(2cm以下)	不明石器	剥片小	石鏃	石匙	刺突具	刺突具	磨石	石皿	石錘	軽石加工品
1372	個数	1	2		14	1		3					1			
	重量(g)	187.57	516.40		45.54	0.45		2.86					1005.61			
1373	個数			5	1	32		1					1			
	重量(g)			364.67	3.45	221.41		4.69					115.84			
1378	個数				2	3		1								
	重量(g)				39.87	4.17		3.45								
1379	個数															
	重量(g)															
1381	個数		1			7		1								
	重量(g)		170.05			16.6		2.65								
1392	個数			1	4	14										
	重量(g)			67.15	22.23	12.39										
1400	個数	1		12	58	717			1	1			1	1		
	重量(g)	425.89		782.7	338.07	458.29			0.37	39.01			567.68	1160		
1419(全体)	個数	1	1	11	10	11	1	6	2		1	1			2	14
	重量(g)	291.77	191.2	302.55	115.92	35.00	63.55	10.85	1.33		11.3	85.29			128.89	2670

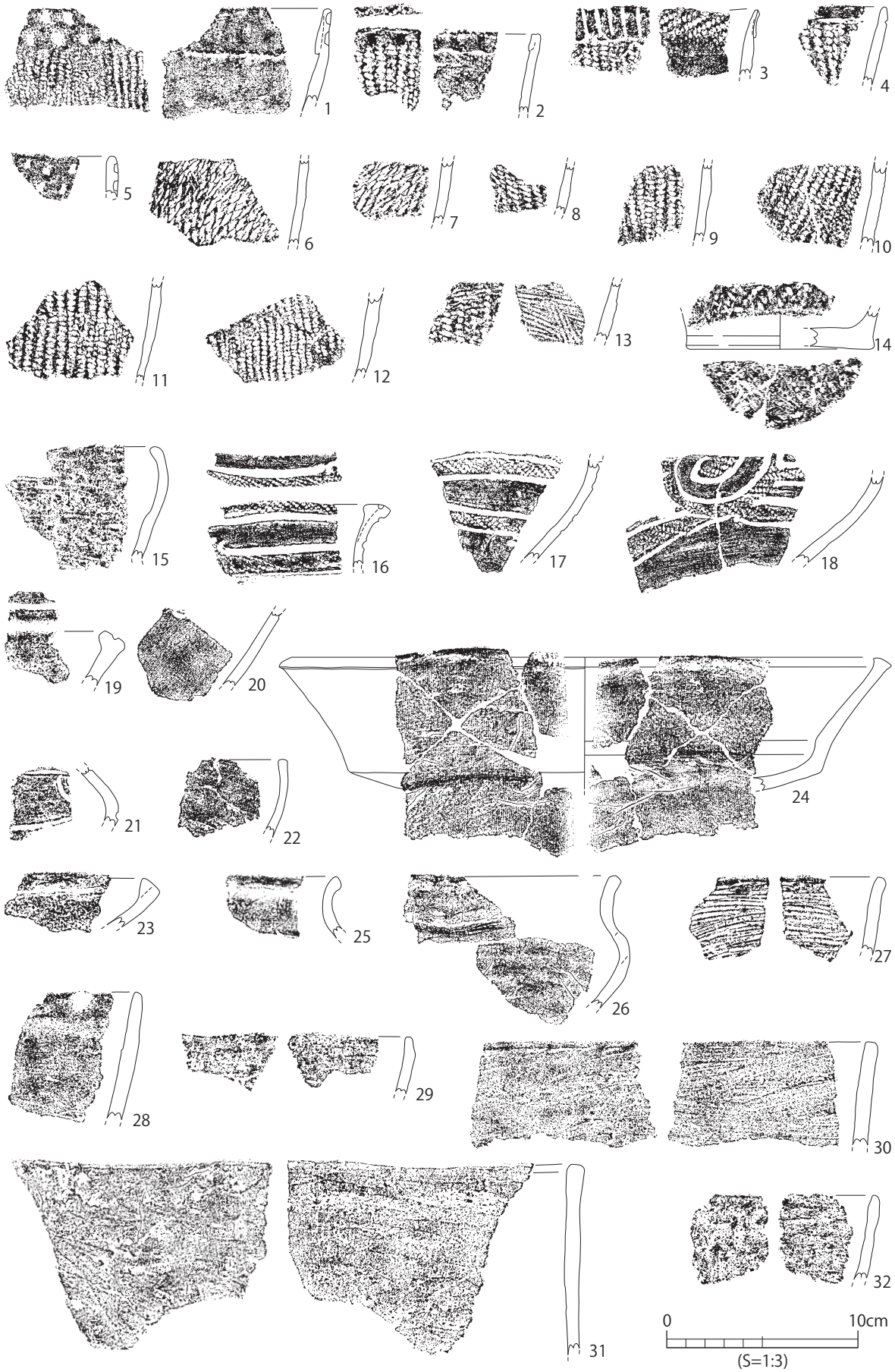
は布勢式併行と思われる。20・21は縄文をもたない沈線文土器で、暮地式の可能性がある。16・19が鉢、17・18がボウル形の浅鉢Ⅱ類、20が浅鉢小片である。第124図22～第125図16は無文土器で、暮地式・布勢式併行のいずれか決めがたい。22が浅鉢Ⅳ類、24が浅鉢Ⅲ類、26・第125図1が鉢、第124図27～32が無文深鉢Ⅱ類である。第125図3～10は無文深鉢の胴部片で、巻貝条痕が顕著である。11～16は深鉢底部で、11・14～16が底部Ⅱ類、12・13が底部Ⅲ類である。11は小型の土器で、12は底面に網代痕が薄く観察できる。

第125図17は円柱形の土製品小片である。やや湾曲しているように観察されたことから、本来の器形は弧状あるいは環状かもしれない。18～21はサヌカイト製の剥片石器である。18・19は石鏃で、18は両面、19は裏面の中央に大きな剥離面が残る。20は使用痕のある剥片で、左辺から上辺左側にかけて微細剥離が観察される。21は剥片で、二次剥離や使用痕は認められない。

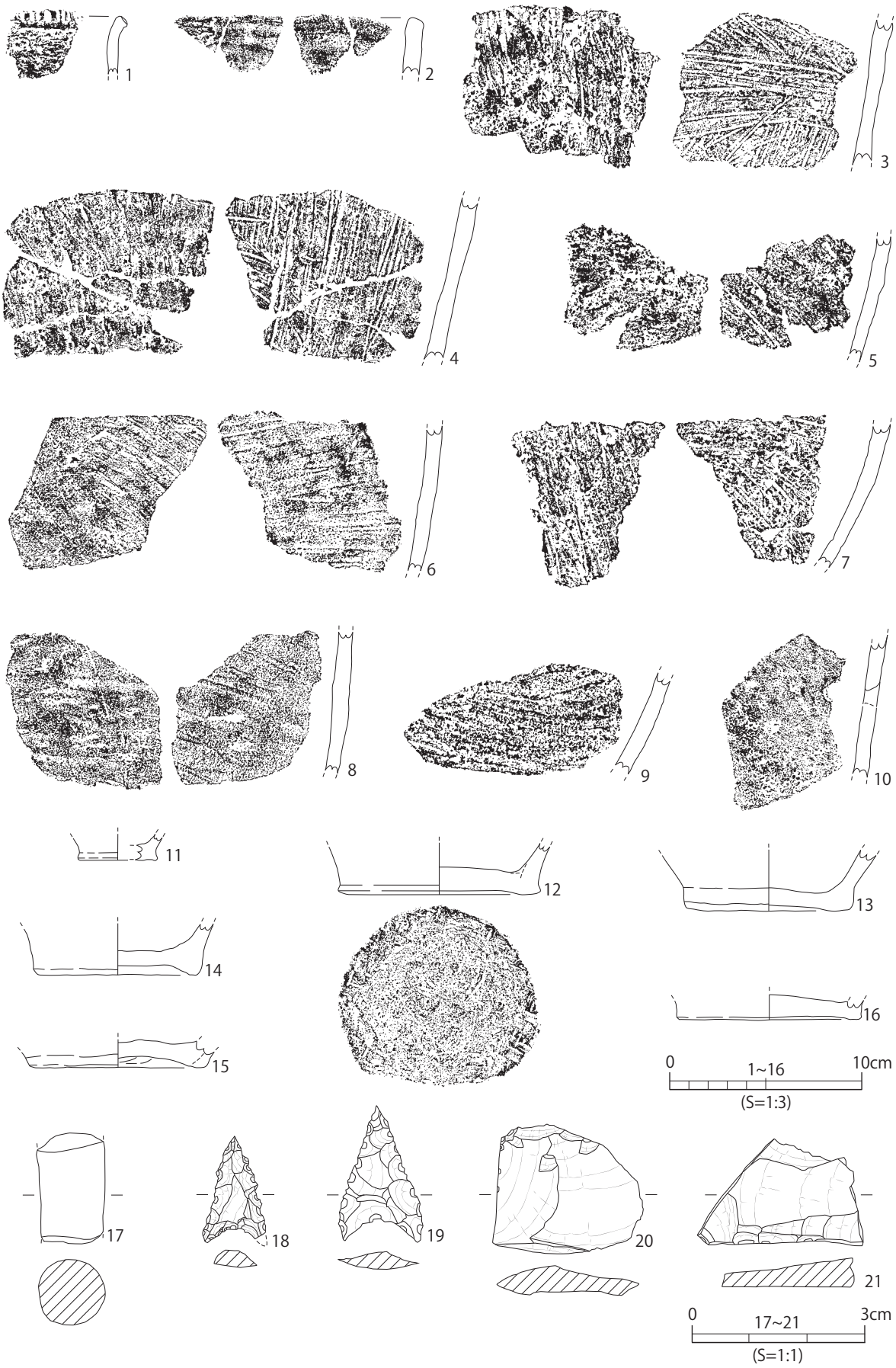
第126図1はサヌカイト製石匙である。刃部は剥離調整後に軽く研磨されている。裏面は礫面が大きく残り、刃部には若干研磨が施されている。2・3は刺突具で、2が泥岩製？、3がサヌカイト製である。2は整った形状ではないが、上部縁辺を中心に小さな剥離が施されていることから刺突具と考えた。3は小片だが、断面形が比較的整った紡錘形であること、側縁の剥離が比較的丁寧であることから刺突具とした。4は全面に研磨痕が観察できる塩基性片岩製の石器である。縁辺は丸く厚みがあり、刃部を作成しようとする意図がうかがえないことから、現状が完成形と思われる。器種は不明。5・6・9は塩基性片岩製の磨製石斧未成品である。いずれも側縁を中心にわずかに敲打痕がみられ、整形直後のものと思われる。5は各面に摩滅した礫面が残り、素材を河川礫とした可能性が高い。7・8は打欠石錘である。打欠部分が摩滅しており、使用痕と思われる。10～12は磨石・敲石である。ともに河川礫を利用しており、10の左端は素材採集以前の欠けである。表面に擦り痕らしい痕跡がうかがえるが、自然礫の可能性もある。11は表面に擦り痕、中央と側面に打痕がうかがえる。12は両面とも非常に平滑である。13～15は三瓶山起源の軽石を整形・研磨した加工品である。いずれも側縁が平坦に加工されていることから、楕円形に整形したものと思われ



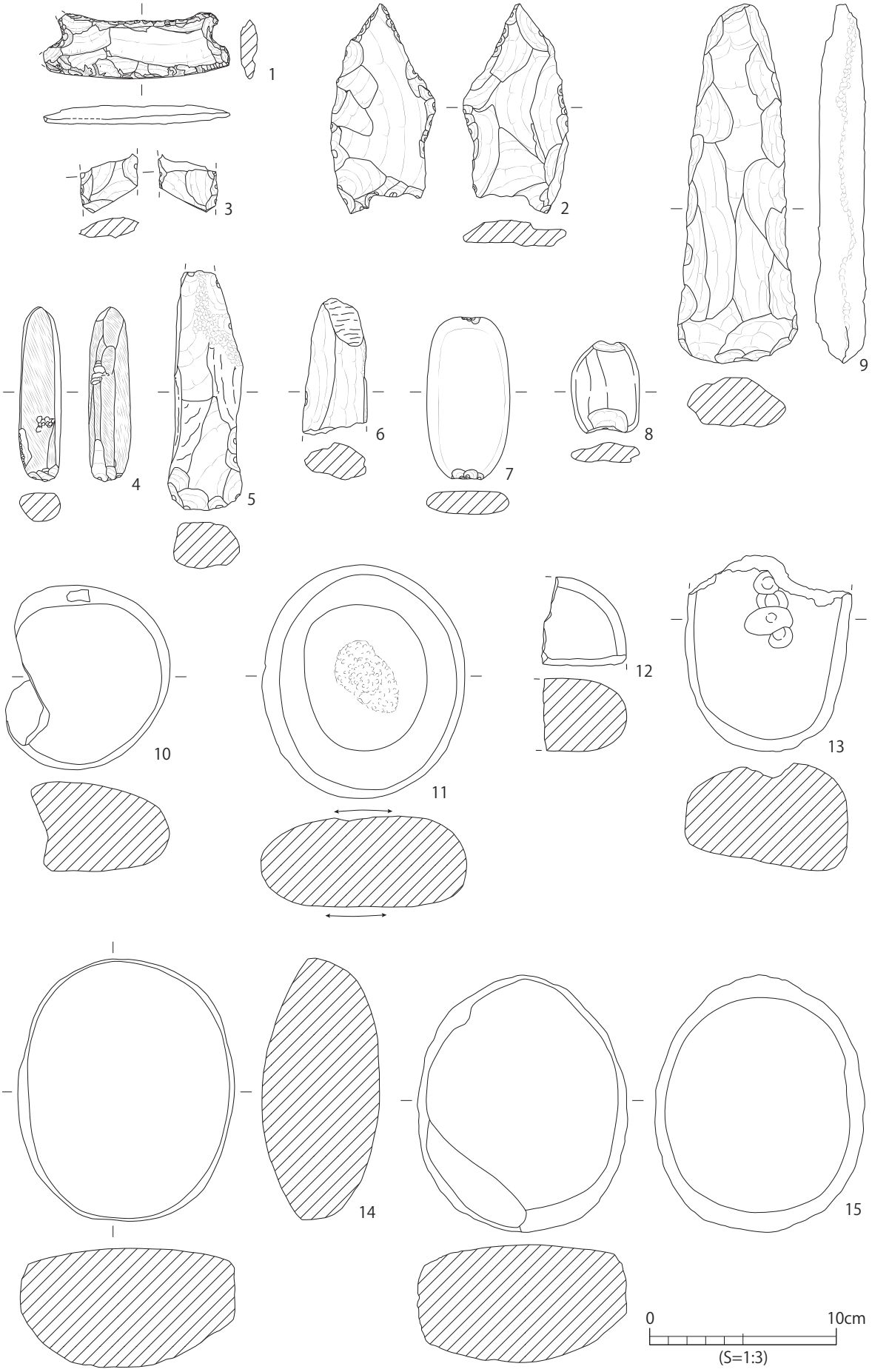
第 123 図　遺構 1419 硬化面



第 124 図　遺構 1419 硬化面出土遺物（１）



第 125 図　遺構 1419 硬化面出土遺物（２）



第 126 図　遺構 1419 硬化面出土遺物（３）

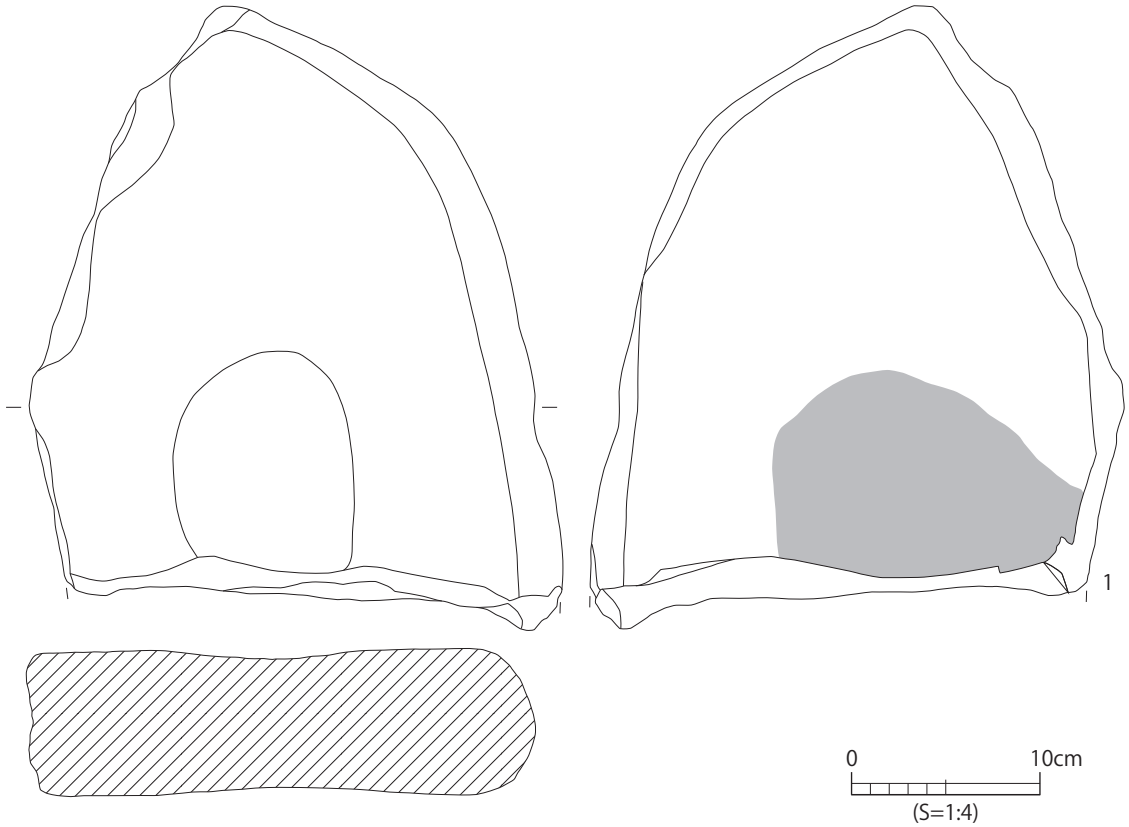
る。13の表面には複数の凹みが、14・15の一面は非常に平滑に研磨されている。第127図1は石皿である。砂岩製か。両面ともに中央部がやや凹み、表面は平滑である。

遺構 2373 風倒木痕（第 128 図、図版 17）

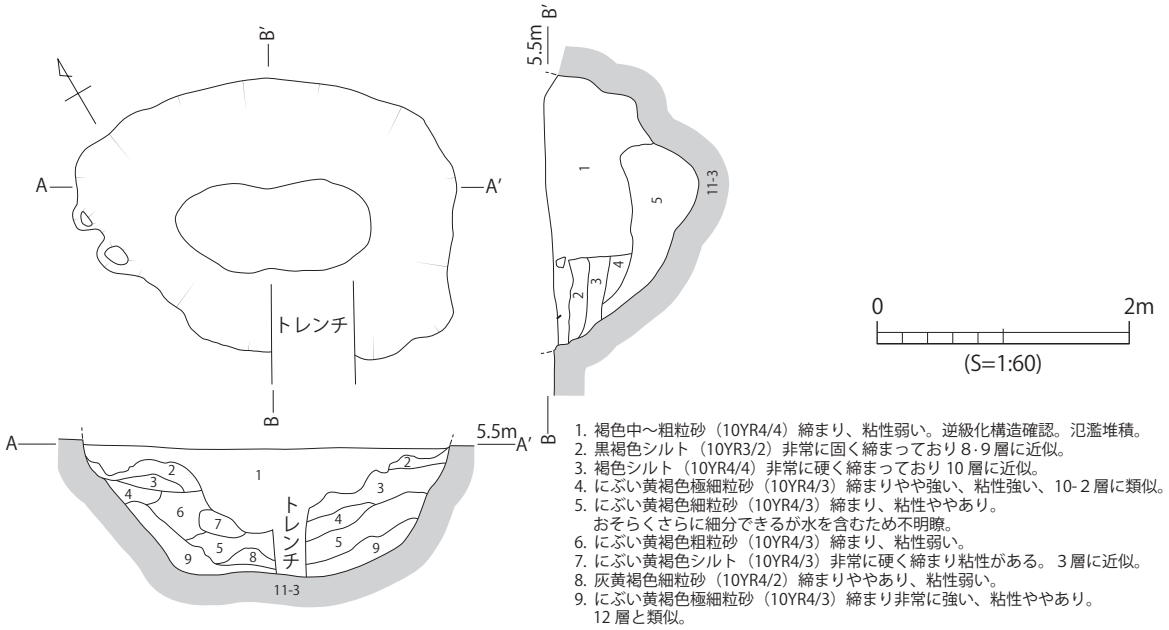
遺構2150 ～ 2156集石(『古代～近世編』)を検出したテラス状地形の先端部で検出した。固くしまりのある基本層序11－3層の上面を精査中に長径約3ｍ、短径約2ｍのしまりのない褐色砂の楕円形プランを検出した。11－3層は縄文時代の堆積層であるにも関わらず、褐色砂の上面では土師器が出土しており、当初は土器焼成遺構、井戸などの可能性を想定して調査した。褐色砂を取ると、汚れた粘土状の土が現れ、凹凸の激しい複雑な形状を呈していた。当初この面を底面と考えたが、断ち割りの結果、この粘土はまだ埋土の一部であり、下方には深さ約1ｍにわたって基本層序の8・9層～ 11－3層に似た土質の埋土がそのままの順序でレンズ状に堆積していることが判明した。また、少量ながら底面付近まで土師器が出土した。このことから、埋土は自然堆積であり、周辺の堆積が進む中で徐々に埋没し、最後に褐色砂が氾濫などの際に一気に流れ込んだものと考えた。形成時期自体は縄文時代まで遡ると考えられる。

5．11 － 1･2層の出土遺物

11層は調査区の北側のみに確認できた層で、11－1・2層が1区、11－3層が2区部分に堆積していた。11－1・2層は土層断面では分層ができたが、平面では認識が困難で、取り上げ時には単に11層と記載したものが多い(以下、11層と記載)。遺物の出土量は膨大で、中期・後期・晩期の土器のほか、磨製石斧未成品をはじめとした石器類、玦状耳飾や耳栓などの装飾品も出土した。



第 127 図　遺構 1419 硬化面出土遺物（4）



第 128 図　遺構 2373 風倒木痕

（1）縄文土器

土器の時期は中期初頭から前葉、後期初頭から前葉、晩期中葉から後葉で、時期ごとの割合は中期土器9.2％、後期土器90.5％、晩期土器0.3％で、後期土器が大部分を占める（第4・6表）。晩期土器は第6～10層で主に出土し、中期土器は12層で主体的に出土していることから、これらは各層からの混入と考えられる。後期土器は、初期の中津式・五明田式や、前葉でも崎ヶ鼻2式以降は出土していない。型式がわかるものでは暮地式32.7％、布勢式併行65.8％、崎ヶ鼻1式1.5％で、布勢式併行が多くを占めている。このことから、11層は布勢式併行期が主体といってよい。

各型式の分布状況は、平面的な偏りはない（第129図）。断面でも11層の広い範囲で暮地式と布勢式が混在しており、明確な上下の関係にはなっておらず、型式と層序の有機的な関係を確かめることはできていない（第130図）。

中期土器（第 134 図 1～52）

11層からは、鷹島式、船元式、波子式、里木Ⅱ式、中期末が出土している。外面に縄文が施されている胴部片は、船元式、波子式のいずれかと考えた。これらは総じて縄文の節が大きい。このほか外来系の土器として、九州系の深浦式と春日式が少数出土している。

鷹島式（第134図39、図版68）　多角形底1点が出土した。外面と底面に縄文が施される。

船元式・波子式（第134図3～31・41～48、図版67・68）　3～11は単純口縁の土器で、地文に縄文が施されている。5は口縁部に弧状の押引文が、9～11は沈線文が加えられる。8は楕円形の、14は横走する隆帯文が貼り付けられる。8・14は船元Ⅱ式か。3～7は縄文以外に文様がなく、詳細な時期は不明である。12は内面折返し口縁、13～29・31は波子式に特徴的な外面折返し口縁である。折返し口縁は15が2段、そのほかは1段である。口縁部には刺突文（18・21・23～25・27・31）、斜行沈線＋横走沈線（28・29）、縄文（17・20）が施されるが、15・19の口縁部は無文である。底部は高台状を呈するもの（41・43　底部Ⅰ類）、底面がやや凹むもの（44・45　底部Ⅱ類）、平底（42・46～48　底部Ⅲ類）がある。42・44の底面には網代痕が、48底面には平行する圧痕（原体不明）が観察できる。

第4表　11層出土土器の時期別集計表

中期	中期	中期末	暮地式		布勢式			不明	晩期	
	（九州系）		磨消縄文	磨消縄文小片	沈線＋縄文	沈線・刺突	沈線細片	磨消縄文細片	屈曲浅鉢	突帯文
103	2	6	43	45	22	144	13	2	2	2
			暮地計	88			布勢計	181		
計	中期　111		後期　269						晩期　4	

里木Ⅱ式（第134図1・2・32・33、図版67・68）　2に交互刺突文と半截竹管による平行沈線文が施されるが、1・32・33は撚糸文が付されるだけである。

中期末（第134図34～38・40・49、図版68）　34～37・40・49は磨消縄文で文様を描く。38の屈曲部には刺突文が、それ以上には縄文が施されている。

九州系土器（第134図50・51、図版68）　51が西北九州に主に分布する深浦式（前期末～中期前葉）、50が南九州に主に分布する春日式（中期後半）である。後者には滑石が多量に混入されている。

時期・型式不明（第134図52、図版68）　内外面ナデで仕上げられた無文土器である。後期土器とは趣が異なることから中期と考えた。

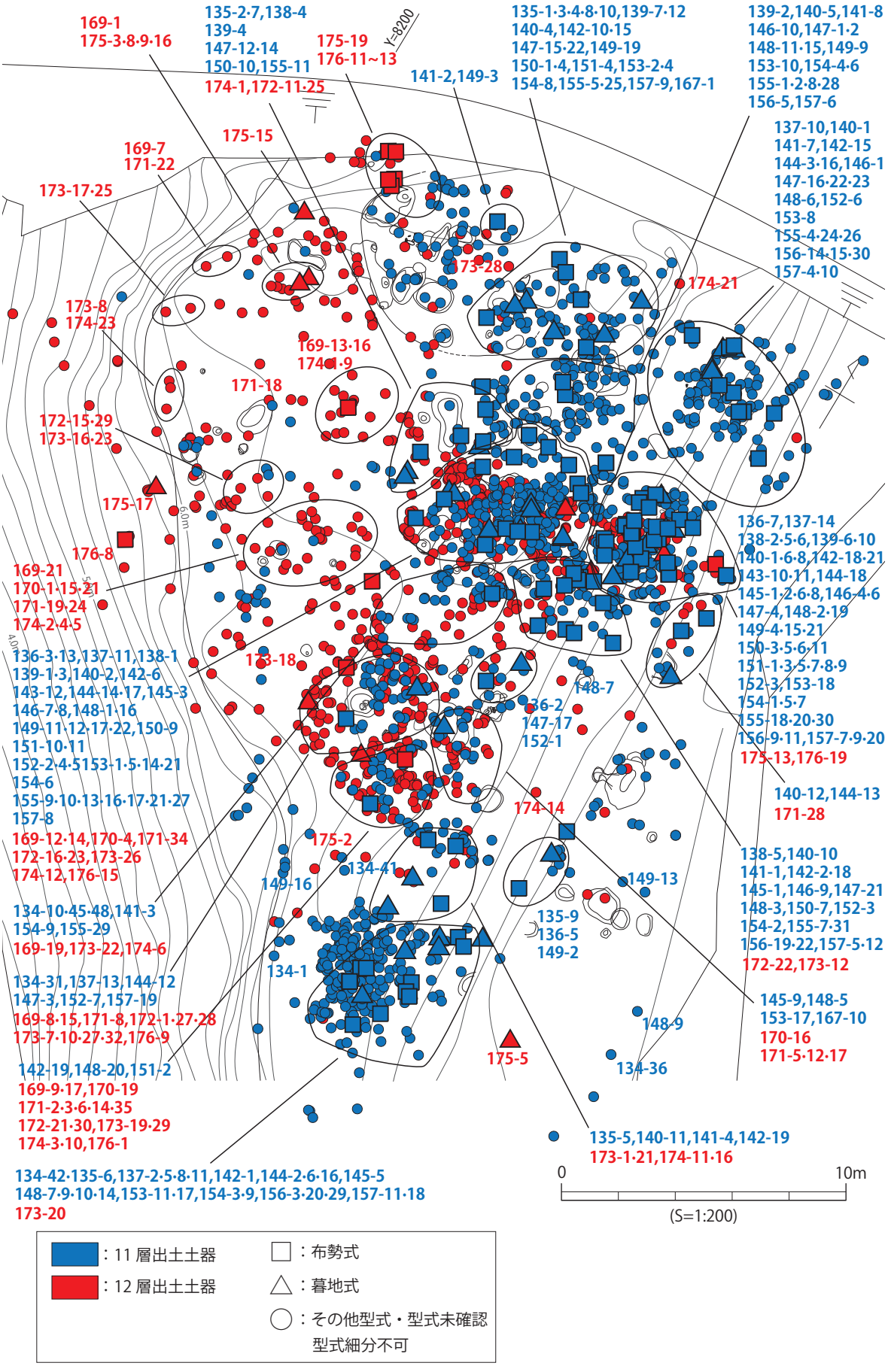
後期土器（第135図1～第157図20）

型式を特定できるものは、暮地式・布勢式併行がほとんどであった。有文深鉢・有文浅鉢・鉢・壺・注口などのいわゆる精製土器は23.9%、無文深鉢・無文浅鉢は76.1％の比率である（第5表）。有文土器は小片まで含めたのに対し、無文土器は口縁部・底部のみであるため正確な比率ではないが、無文粗製土器が多い傾向は他の後期遺跡と矛盾しない。一方、深鉢と浅鉢は、深鉢64.5％に対して浅鉢25.9％の比率である。これは有文・無文を合算した土器全体に対する比率である。鉢2.4％、壺0.7％、鉢または壺6.4％と、これらの器種は粗製率が低い。

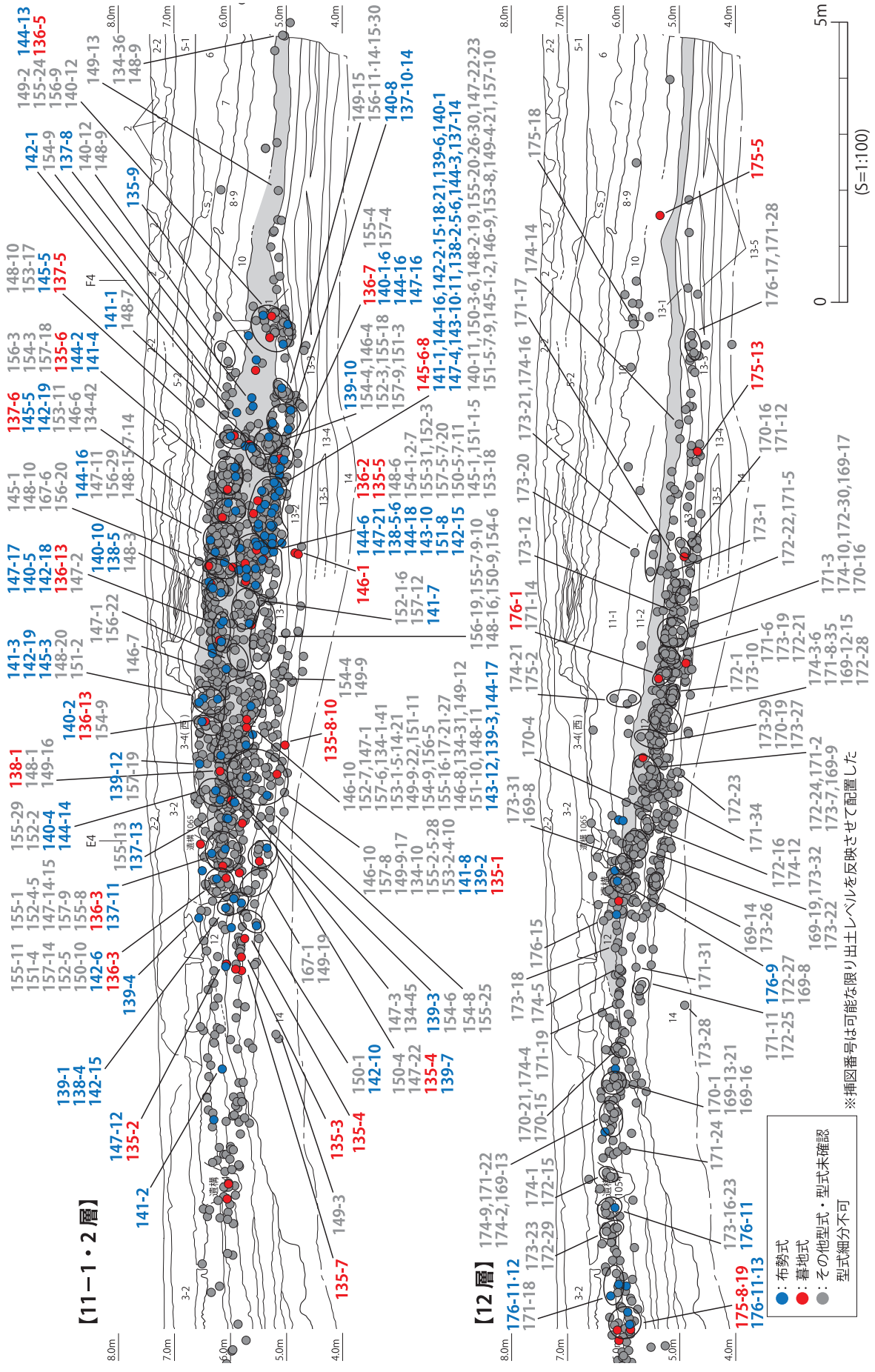
暮地式（第135図～第137図6・13、第138図1～3、第141図12・13、第144図11・12、第145図6～第146図1・2、図版68～71・73・75～77・88）　第135図1～第137図6は整った磨消縄文土器である。第135図1～4が深鉢、5～10・第136図1・第137図1～6が浅鉢、第136図2～14が壺である。第135図8～10、第136図1、第137図1～6はボウル形の浅鉢である。これらは布勢式併行期に多い器形であるが、二本沈線間に縄文を充填するという後期初頭の磨消縄文の基本を守っていることから、暮地式と考えた。第137図5は縄文帯が浮線状に盛り上がっており、6は底部接地面に縄文帯が施文されている。第136図2～6は双耳壺である。耳部は2～5が縦位に穿孔され、6が縦位に加えて横位にも穿孔されている。7～14は丁寧に磨かれていることから、双耳壺または壺の一部と考えた。7は肩部に把手が付されている。8・10の頸部縄文帯がレリーフ状に盛り上がっている。

第137図13、第138図1～3は磨消縄文がみられない深鉢である。布勢式に近い様相をもつが、頸部に文様が残ること、頸部と胴部の文様が分断されていないことから暮地式と考えた。第144図11・12、第145図6～第146図1・2は口縁部内面に段をもつ浅鉢である。浅鉢内面の段は布勢式期まで残らないと思われたため、暮地式とした。第144図11・12は大波状口縁のいわゆる「王冠」形の浅鉢である。

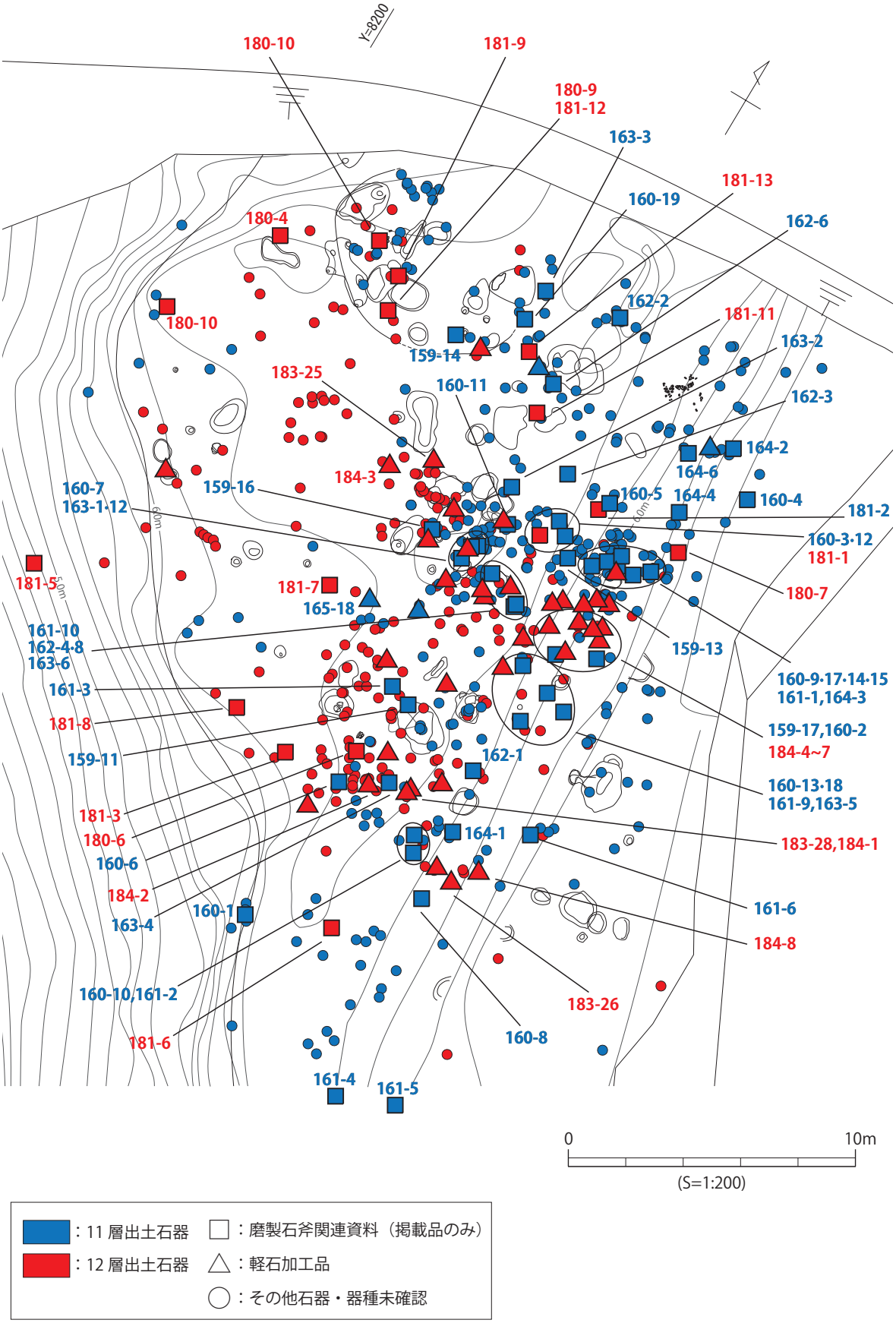
布勢式併行（第137図7～12・14、第138図4～第139図7、第139図10～第140図11、第140図13～第141図11、第142図～第144図10、第144図13～第145図5、第147図4・8～23、図版70～78・88・89）　第137図10～12・14は頸部に細密条痕がみられる。口縁部の形状は、第137図9～第139図7、



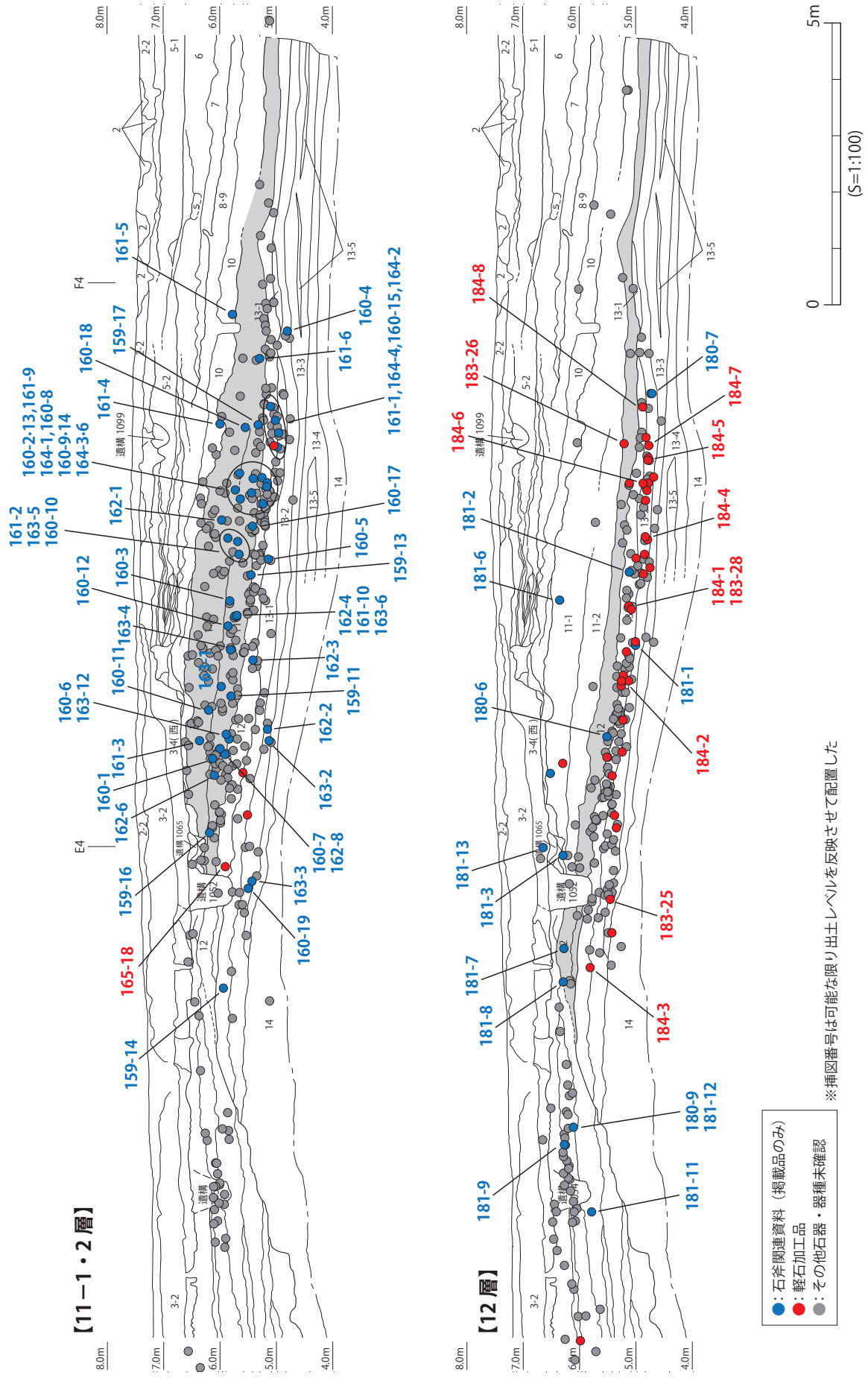
第 129 図　11・12 層土器出土状況（平面）



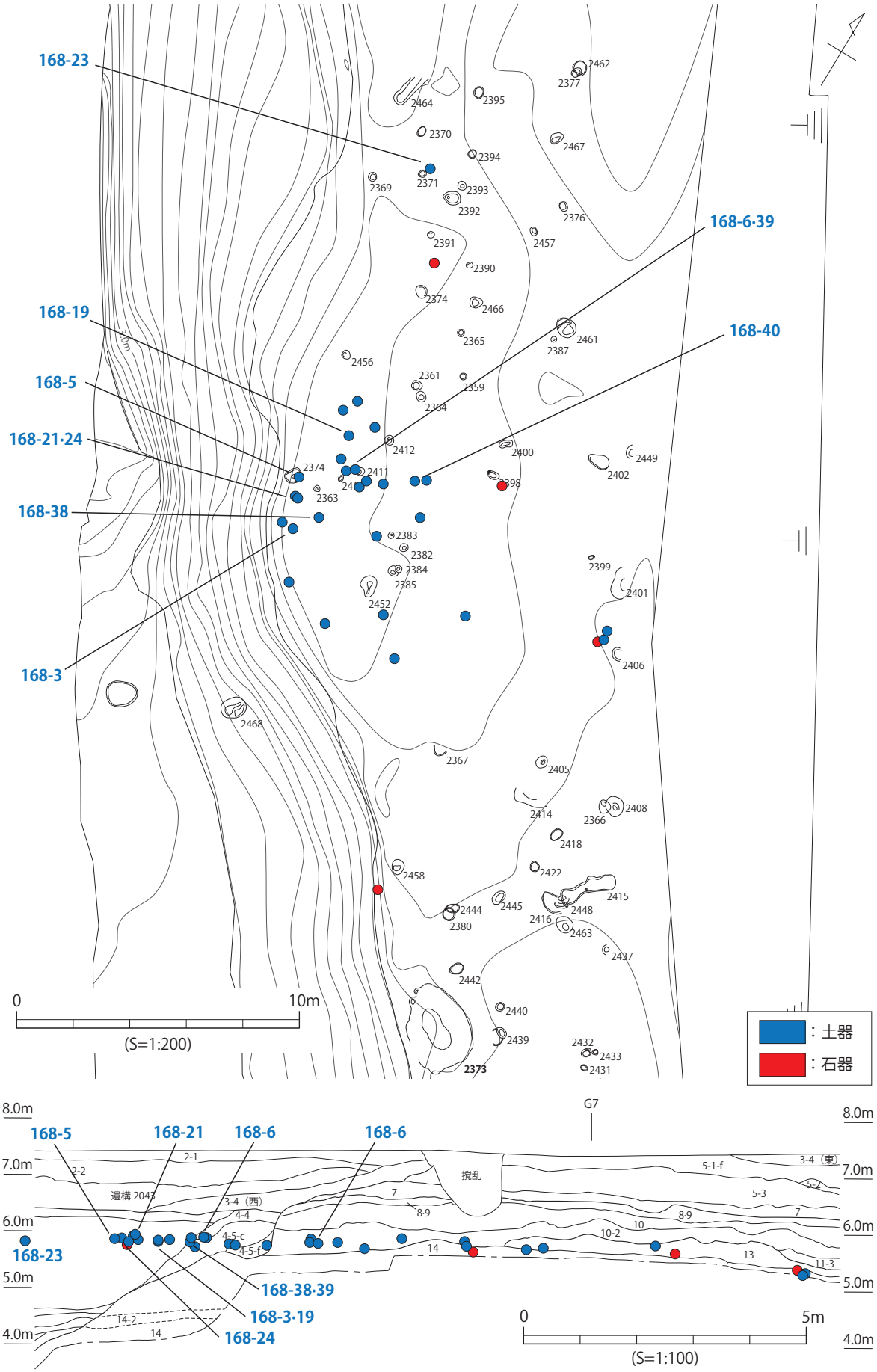
第 130 図　11・12 層土器出土状況（断面）



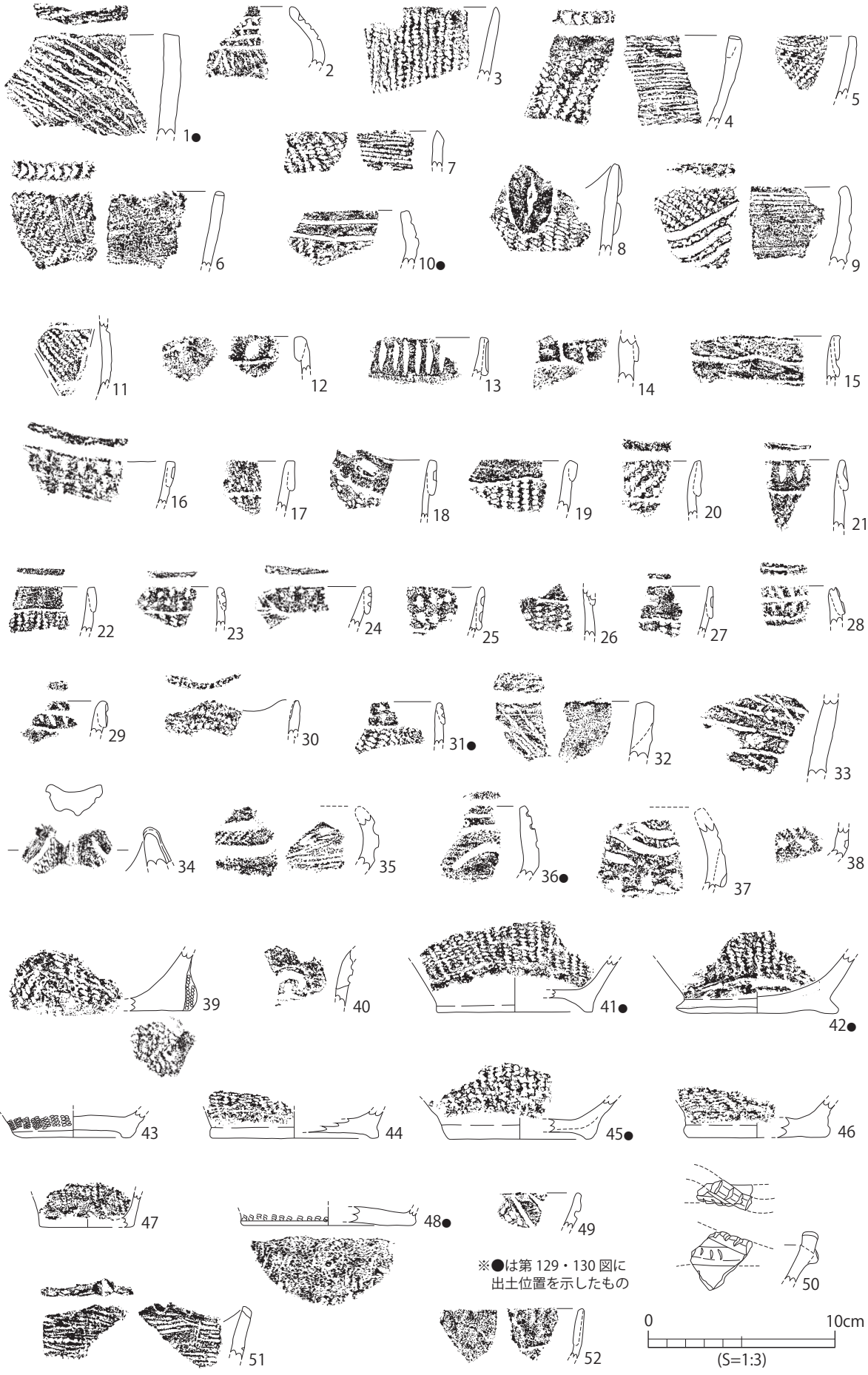
第 131 図　11・12 層石器出土状況（平面）



第 132 図　11・12 層石器出土状況（断面）



第 133 図　11 ― 3 層遺物出土状況



第 134 図　11 － 1・2 層出土遺物（ 1 ）

第5表　11層出土後期土器の器種別集計表

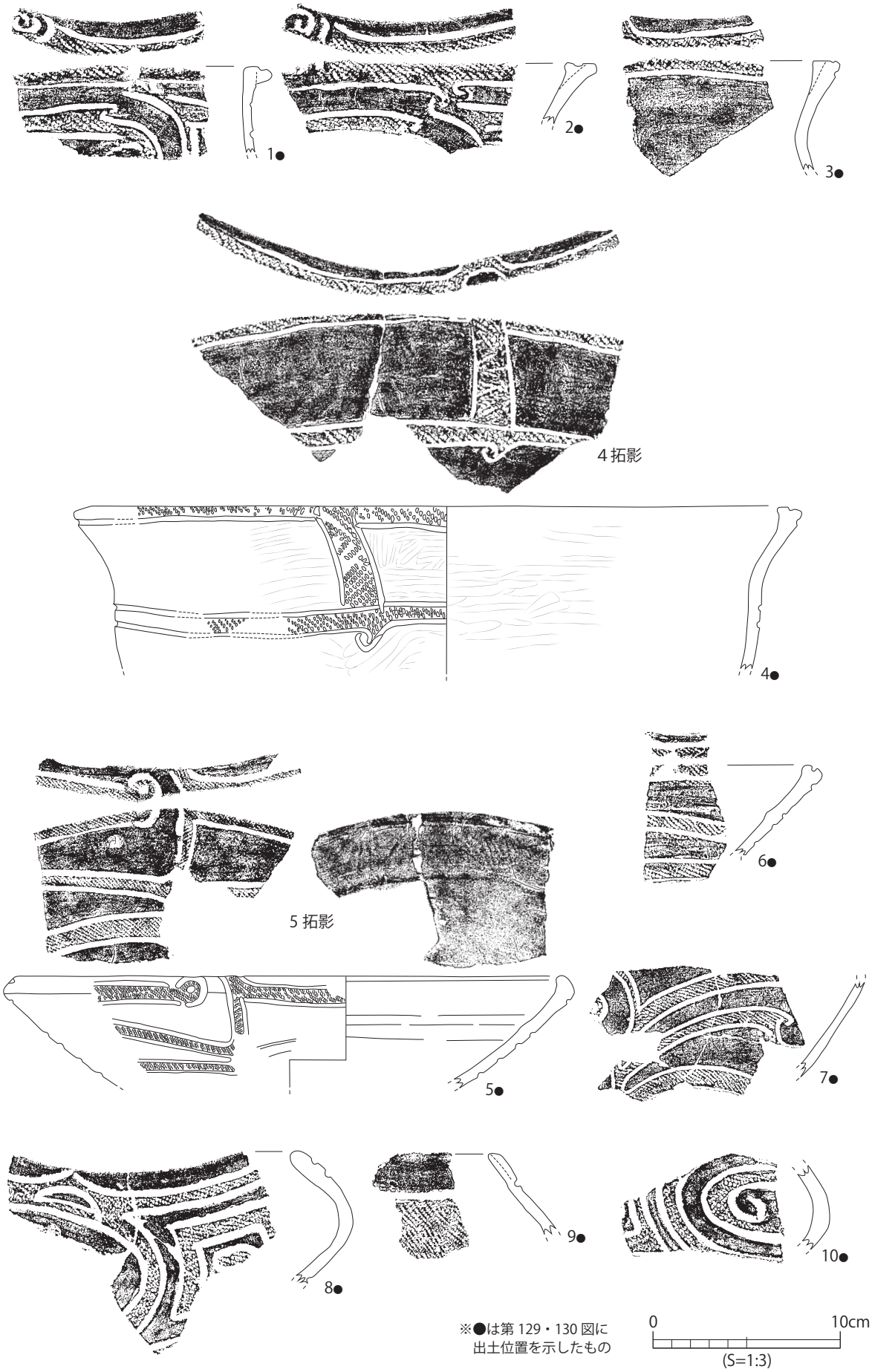
	深鉢		浅鉢		鉢	壺	鉢or 壺	注口	計
破片数	有文深鉢	無文深鉢	有文浅鉢	無文浅鉢					
	88	794	108	246	33	10	87	1	
	深鉢計	882	浅鉢計	354					
計				1236				131	1367

	有文深鉢	無文深鉢	有文浅鉢	無文浅鉢	その他
構成比率	6.4%	58.1%	7.9%	18.0%	9.6%
	精製	無文			
	23.9%	76.1%			

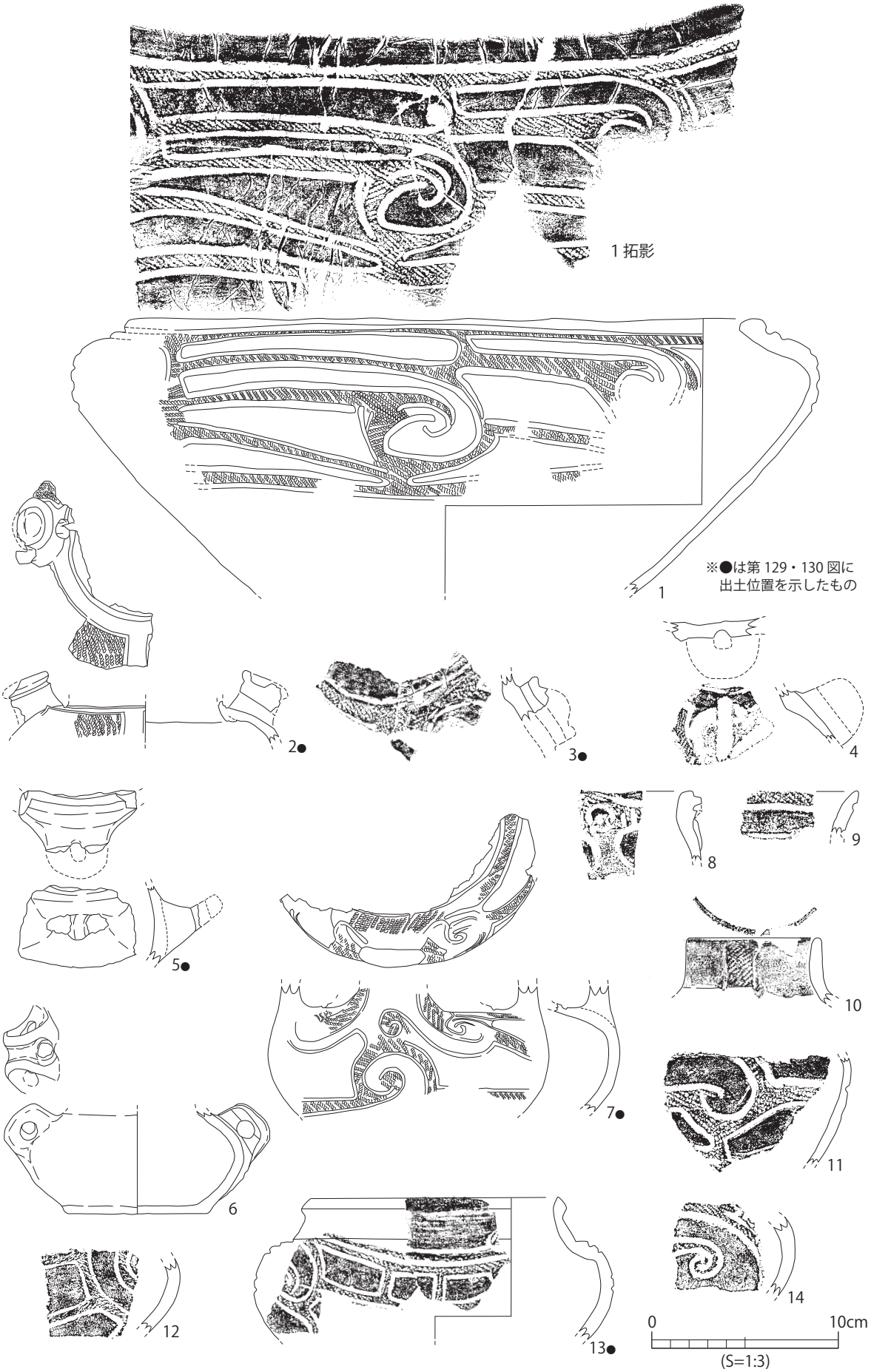
第139図10～第140図8・13～15・第141図1が上面施文型、第140図7・9～11・第141図2～11は外面施文型である。全体に胴部文様は低調で、第137図14に楕円形の磨消縄文、第138図5に垂下沈線文、第138図6に小さな円形・方形の意匠が描かれる程度である。口縁部の突起は発達し、山形（第138図4など）、二山（3）、環状（6）、耳状（第141図1）、円盤状（第142図1）、螺旋状（2）、非対称な山形を呈すもの（3）など多様である。突起正面に透かしを入れるものが多く、円形（第137図14など）のほか、三角形（第139図3）などがある。口縁部は1～2条の沈線文が施されるものが多く、さらに斜行短沈線が加えられるもの（第140図1など）がある。また、沈線文の代わりに太い凹線文（第140図8・15など）が施されるものもある。第140図2は口縁部から橋状把手が垂下する深鉢と考えた。第142図7～14は深鉢胴部と思われるが、8・9は暮地式の可能性もある。13・14は細沈線文で文様が描かれる土器で、布勢式併行とするにはやや違和感がある。

第142図15～第145図2はボウル形浅鉢である。有文土器は沈線文で意匠が描かれるものがほとんどで、縄文が施されているのは第143図8、第144図2・9だけである。第144図19～第145図2は無文のボウル形浅鉢で、型式の特定は困難だがボウル形浅鉢は布勢式併行期に多いとされるためこの時期と考えた。第143図10は同図1のような浅鉢を2段重ねにした浅鉢である。特異な形状ではあるが、文様から布勢式併行の土器と考えられる。第144図3・4は文様が下位まで展開する深身の浅鉢で、第145図2のような器形かもしれない。第145図3～5は口縁部が緩く内湾する浅鉢である。3・5の口唇部沈線文を上面施文と捉えたい。3・4は波状口縁で、波頂部内面の透かしを中心に太い沈線文で勾玉状の形を描く。第147図4は口縁部が屈曲する浅鉢である。

第147図8～20、22・23は壺である。口縁端部がやや肥厚する、肩部に段を有すなど鉢によく似るが、非常に丁寧に磨かれている、頸部が長く内傾する特徴から壺と考えた。口縁部はやや外反する単純口縁（10・11・14など）のほかに、8・9・15・22・23のように肥厚するものがある。17は肥厚した口縁部に台形の突起を付す。調整は雑だが、口径が小さいことから壺と考えた。9・12の肩部には沈線文、15の胴部全面には節の細かい縄文が施されている。18・20は磨消縄文土器だが、沈線が多重化している。9・12の肩部には沈線文、15の胴部には節の細かい縄文、19には縄文＋沈線文が施されているが、いずれも磨消縄文にはなっていない。その他は文様がみられない。同様の器形が暮地式には確認できないこと、いずれも磨消縄文による文様をもたないことからこの時期と考えた。第147図21は注口で、上部と基部に沈線文が施される。16と非常によく似た土器で、同一個体の可能性がある。



第 135 図　11 － 1・2 層出土遺物（２）



第 136 図　11 － 1・2 層出土遺物（３）

第6表　11層出土の無文深鉢集計表

器形				Ⅰ・Ⅱ類口縁		口唇刻目			底部		
Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類（布勢口縁）	Ⅳ類	a（直口・外反）	b（内湾）	Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅰ・Ⅱ類口縁	Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類
57	164	90	26	66	150	22	14	26	92	45	70

※底部は器形分類を含むため重複あり　　口縁部数　615　　底部数　207

【器形分類案】
Ⅰ類：頸部がくびれるもの（第150図９など）。直口・外反口縁をａ類、内湾口縁をｂ類とした。
Ⅱ類：頸部にくびれがなく、寸胴のもの（第152図４など）。直口・外反口縁をａ類、内湾口縁をｂ類とした。
Ⅲ類：口縁部が肥厚するもの（第153図14など）。有文深鉢の口縁部を無文深鉢に写したものと考えられる。
Ⅳ類：口唇部が薄く、先細りになるもの（第153図11など）。Ⅳ類は後期後半の無文深鉢に多くなる印象があったため分類した。

【口唇刻目分類案】
Ⅰ類：口唇部の外側を刻むもの。
Ⅱ類：口唇部の上面を刻むもの。

【底部分類案】
Ⅰ類：高台状を呈するもの（第155図10など）。
Ⅱ類：やや凹むもの（第155図21など）。Ⅰ類との違いが明瞭でないものもある。
Ⅲ類：平底（第155図30）。

第7表　11層出土無文深鉢の器面調整集計表

	器形				Ⅰ・Ⅱ類口縁		計	比率
調整	Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類（布勢口縁）	Ⅳ類	a（直口・外反）	b（内湾）		
ナデ	40	74	5	11	59	75	264	44.1%
二枚貝条痕	4	10	1		2	8	25	4.2%
巻貝条痕	16	45	4	8	23	30	126	21.1%
匙面条痕	20	62	5	8	28	33	156	26.1%
ミガキ	1	4				12	17	2.8%
ケズリ	1	6	1		2		10	1.7%
計	82	201	16	27	114	158	598	

暮地式・布勢式併行精製土器（第137図15、第139図８・９、第146図３～第147図２・６・７、第148図１～18・20、図版70・72・76～79・89・90）　暮地式から布勢式併行にかけての土器と思われるが型式を特定しがたい精製土器をまとめた。

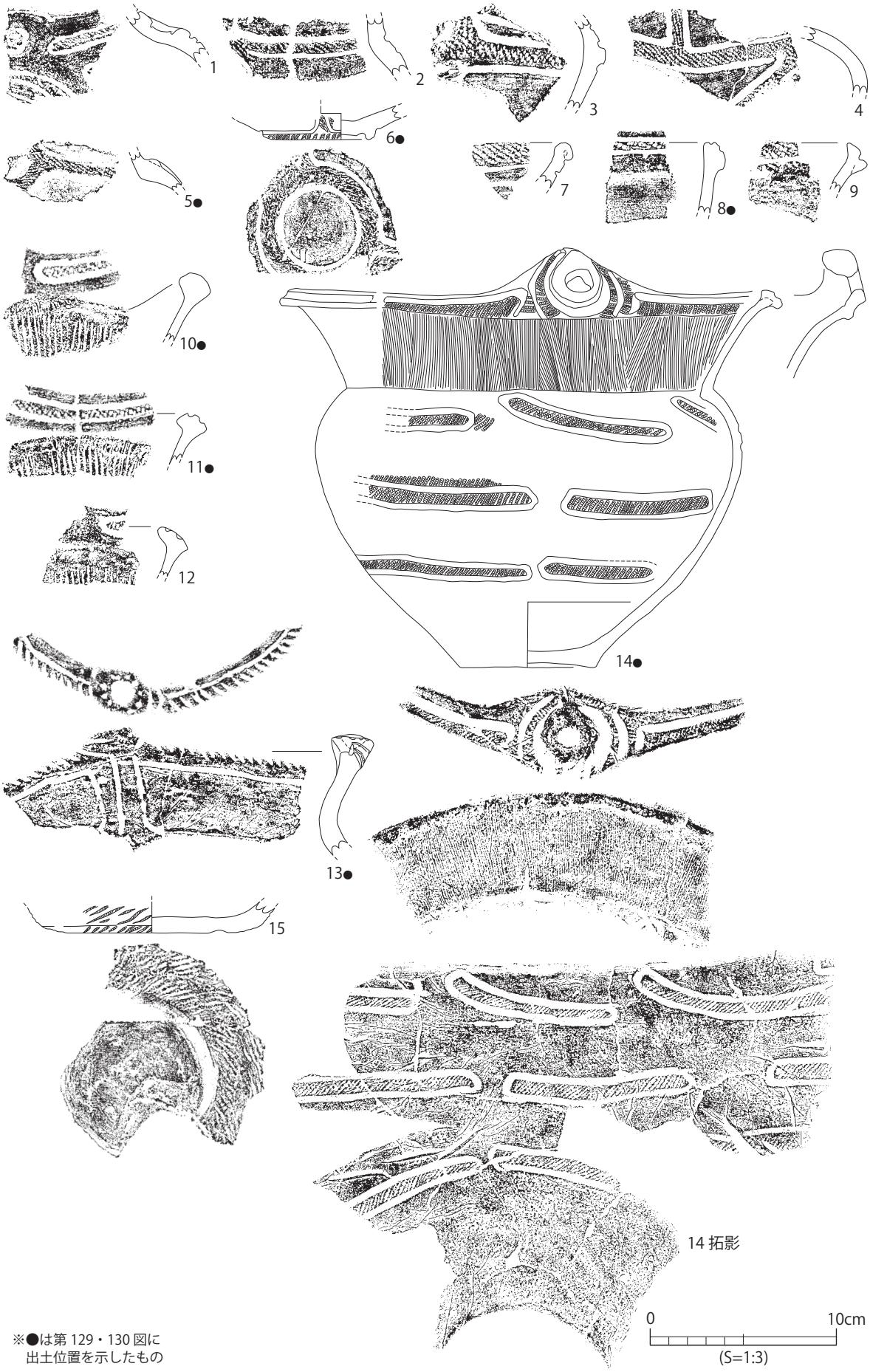
第146図３～第147図２、第147図６・７は浅鉢である。第146図４・８・10、第147図１・２は肩部の屈曲が緩く、第146図５～７・９は肩部の屈曲が強い。第146図３には沈線文が施されるが、多くは口縁部（第146図10・第147図１・２）、肩部（第146図６・７）に刻みを入れる程度である。

第139図８・９、第148図１～17は鉢である。第148図１～３は口縁部が肥厚し、３・５・８・10は肩部に段をもつ。口縁部と胴部には縄文が施文されるものが多く、４・６などはこの種の口縁部と思われる。１は口縁直下に刺突文列、胴部に短沈線文が施されている。15～17は口頸部が緩く外反し、頸胴部境界が不明瞭な鉢である。15・17は口縁部に刻目をもち、15は頸部から胴部にかけて斜行沈線文が施されている。第139図８・９も同様な鉢と思われる。なお、第148図15・17は地文に明瞭な条痕を残す粗製土器である。

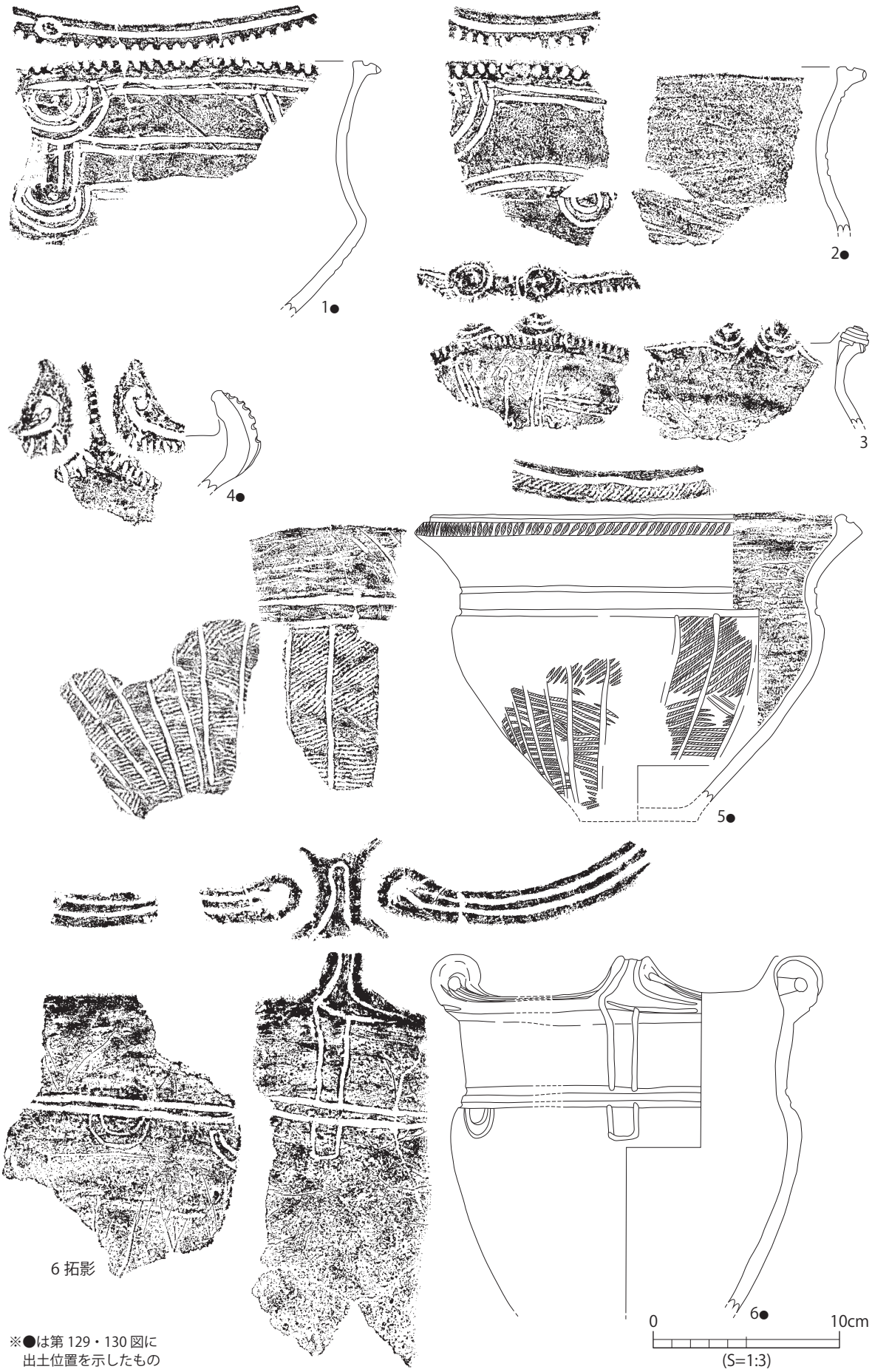
第148図20は脚である。外面は丁寧に磨かれ、内面はケズリがみられる。円孔が４～６ヵ所に穿たれているようだが、正確な配置は不明である。精製土器の脚と思われるが、当地の暮地式、布勢式併行期の脚付土器はほとんど類例を知らない。

崎ヶ鼻１式併行（第140図12、第147図３・５、図版72・77）　第140図12は深鉢、第147図３・５は浅鉢である。第142図12、第147図３は津雲Ａ式によく似ている。今回の調査で確認された布勢式併行以後の後期土器は、この３点のみである。

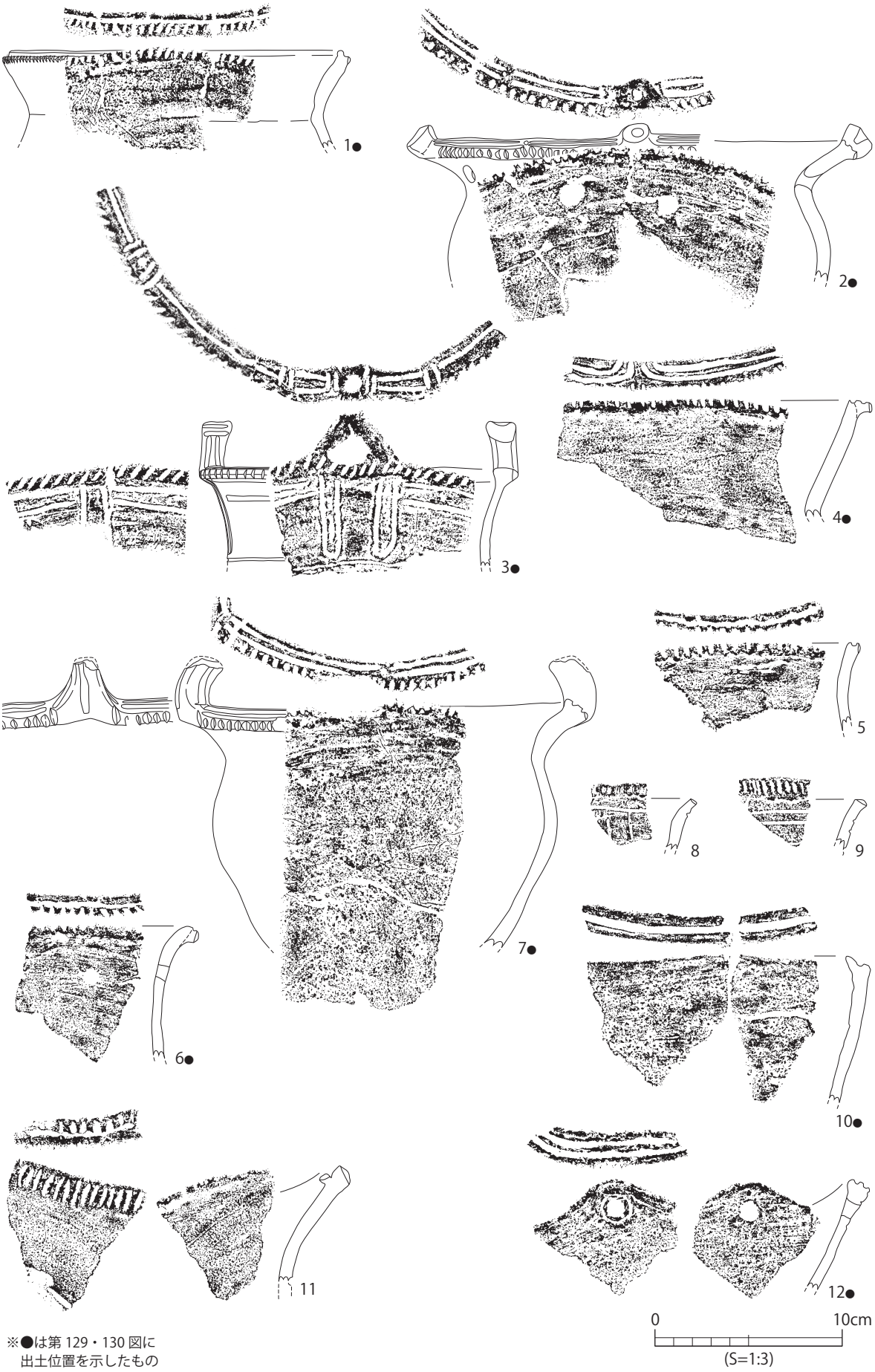
無文深鉢（第148図19、第149～155図、図版78～85・90～92）　暮地式・布勢式併行にともなうと思われるが、型式を特定できない。分類と口縁部・底部の破片数の集計を第６表に示す。第148図



第 137 図　11 － 1・2 層出土遺物（４）

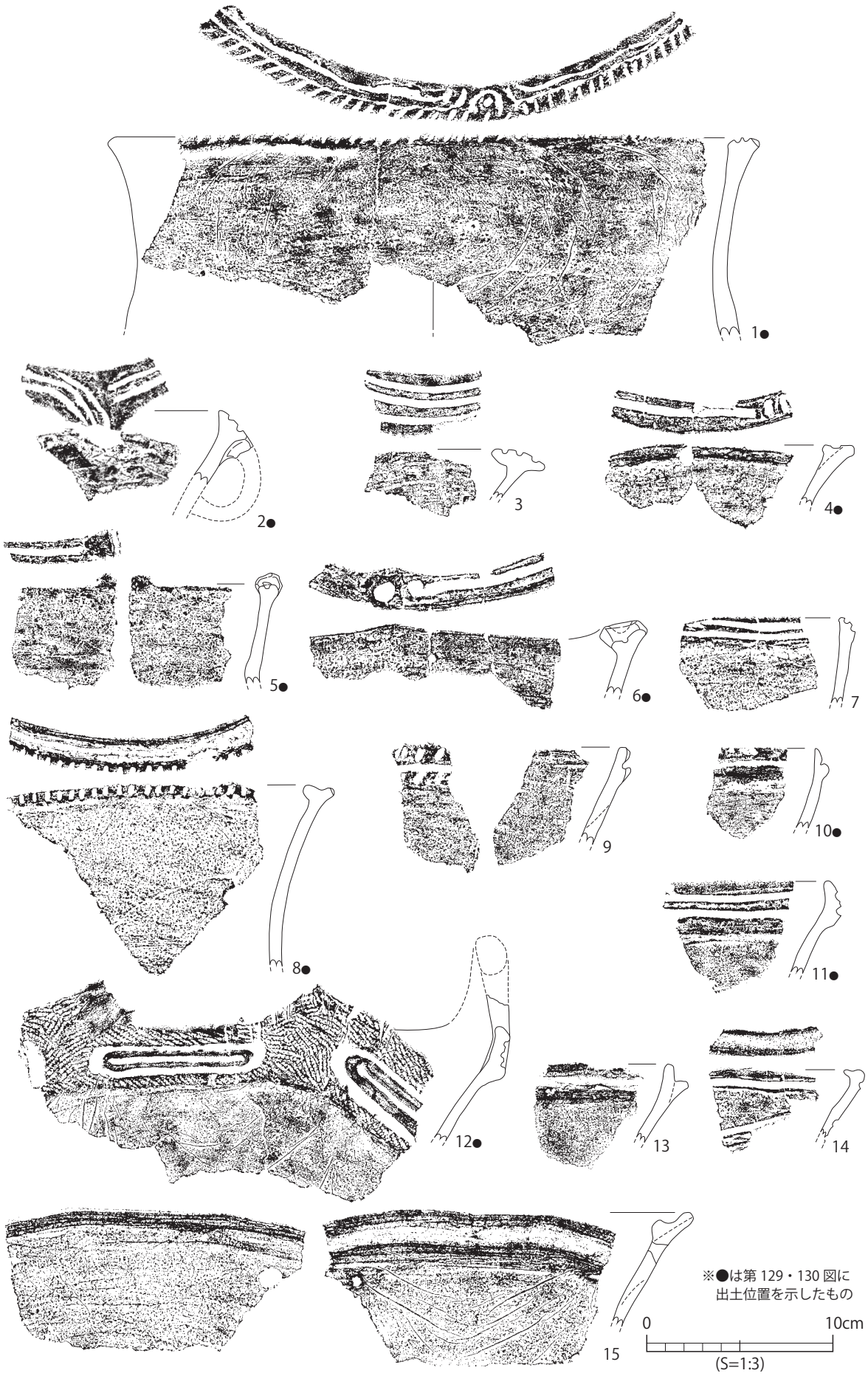


第 138 図　11 － 1・2 層出土遺物（５）

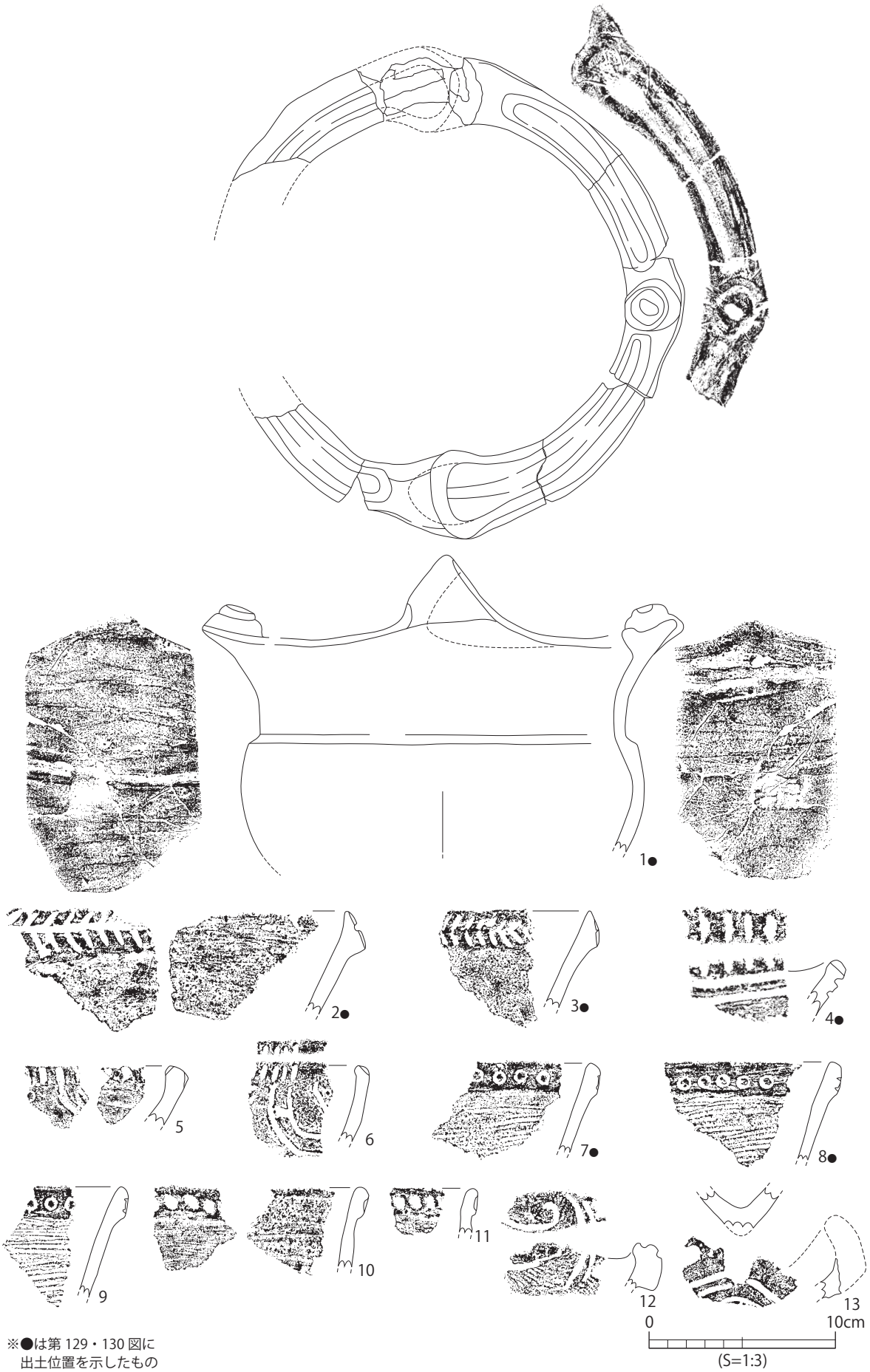


※●は第 129・130 図に
出土位置を示したもの

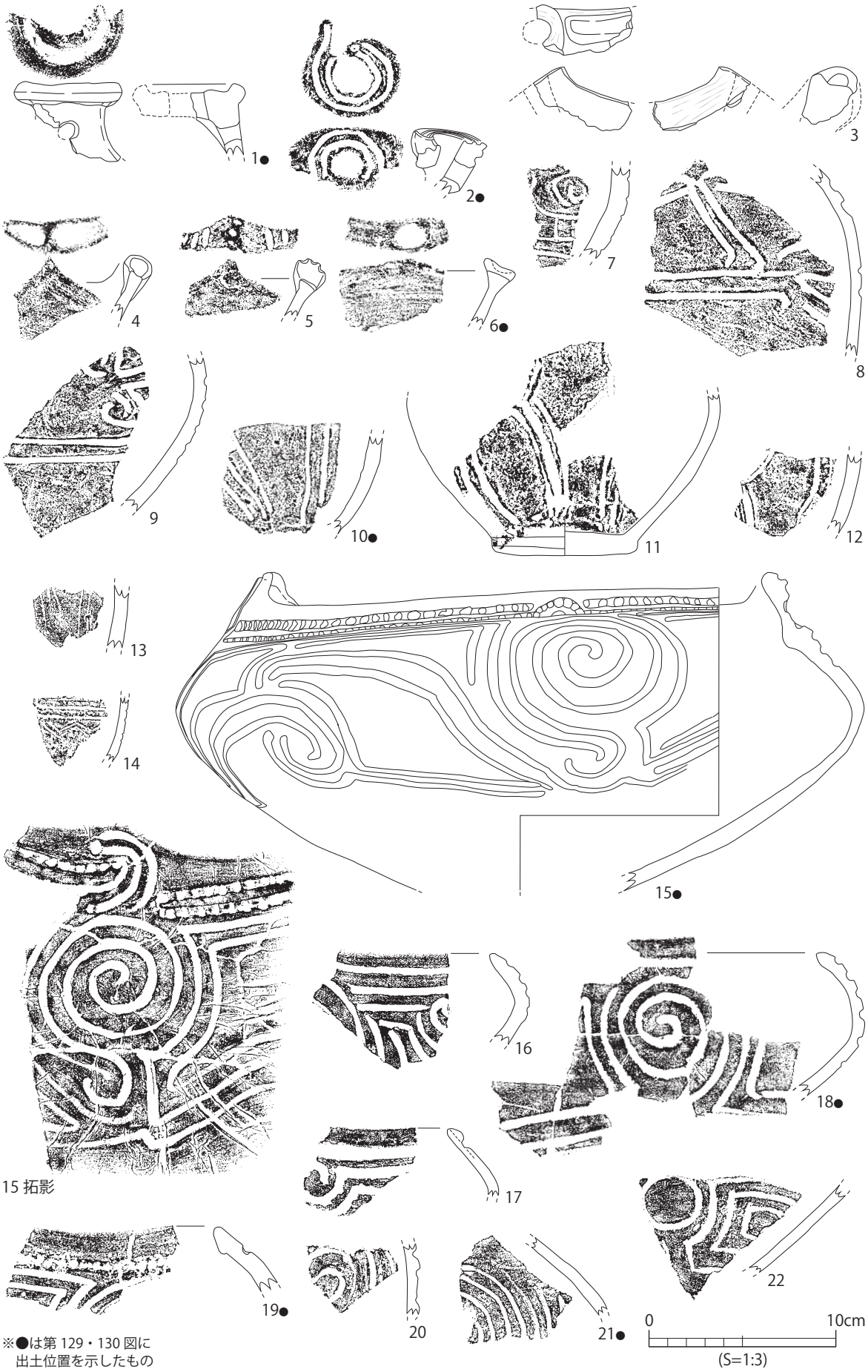
第 139 図　11 － 1・2 層出土遺物（６）



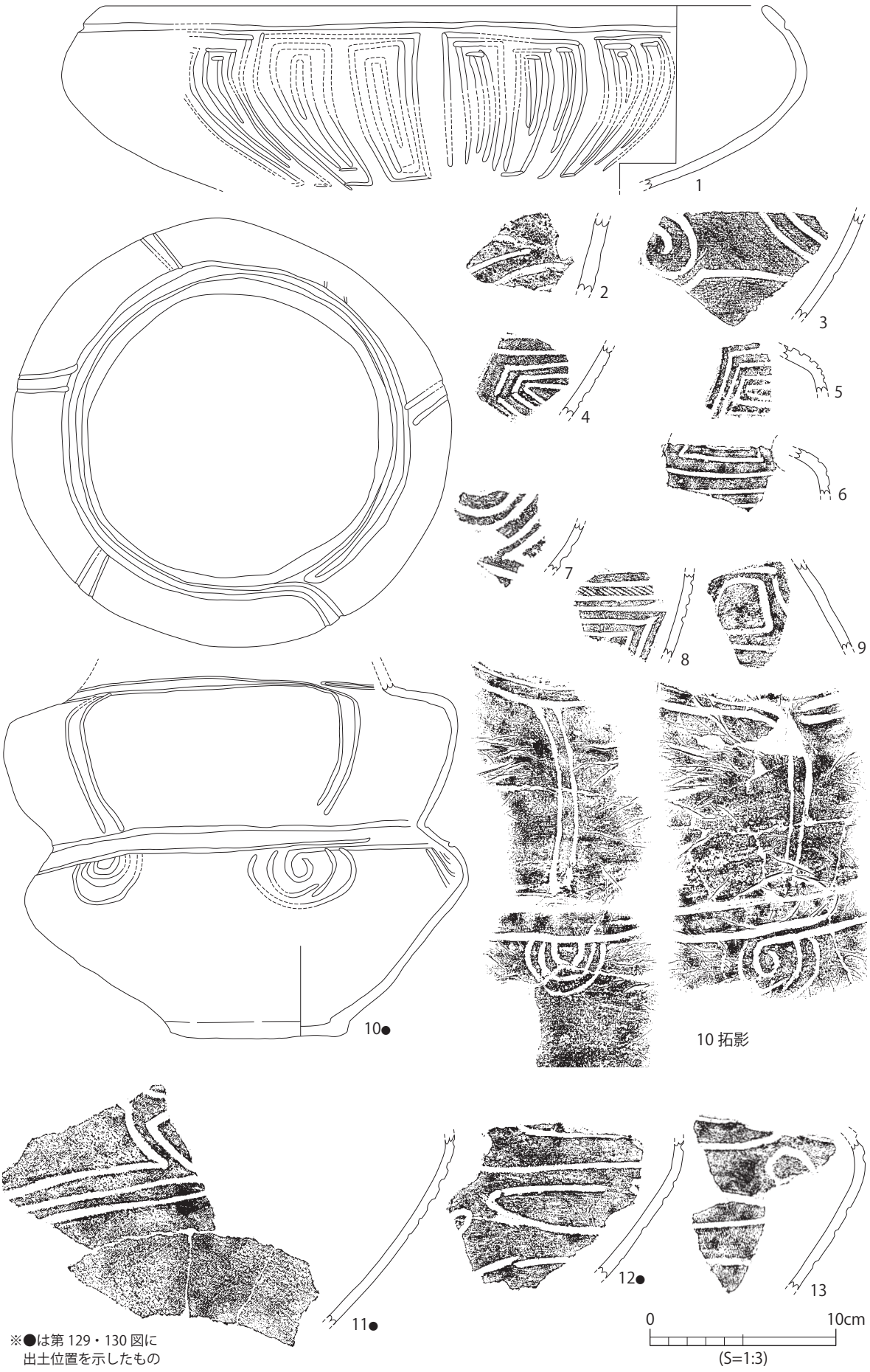
第 140 図　11 － 1・2 層出土遺物（７）



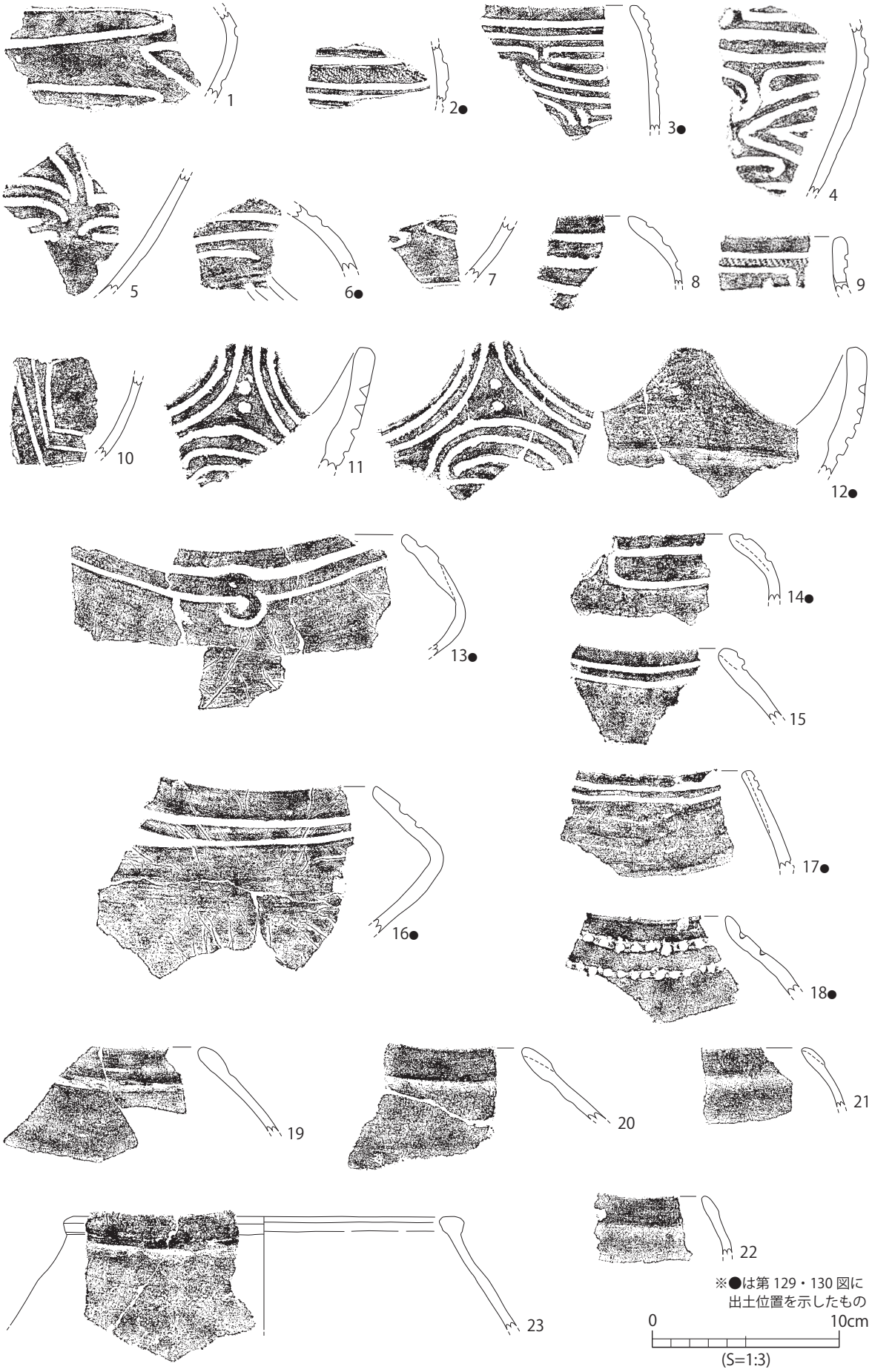
第 141 図　11 － 1・2 層出土遺物（８）



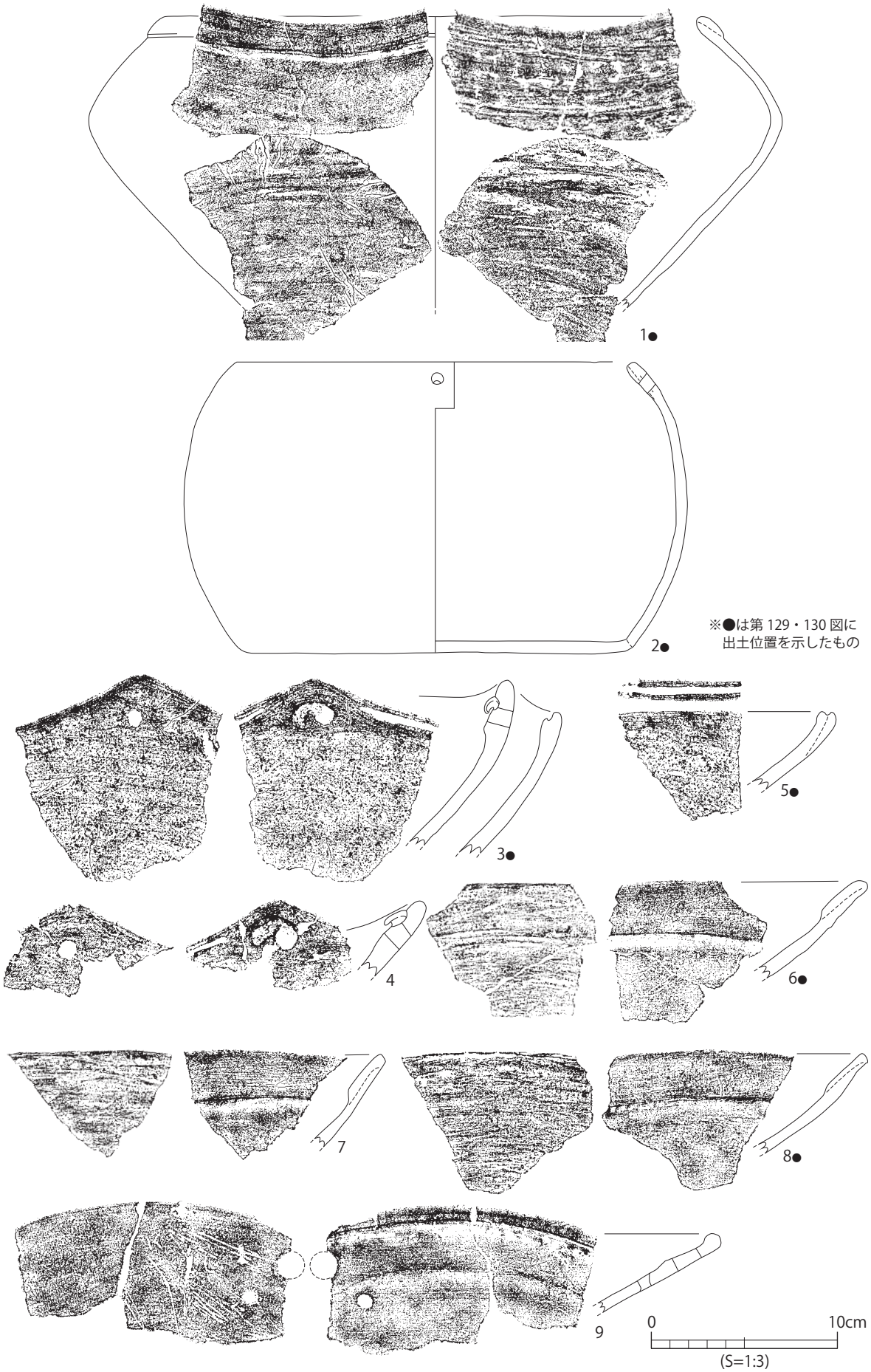
第 142 図　11 － 1・2 層出土遺物（９）



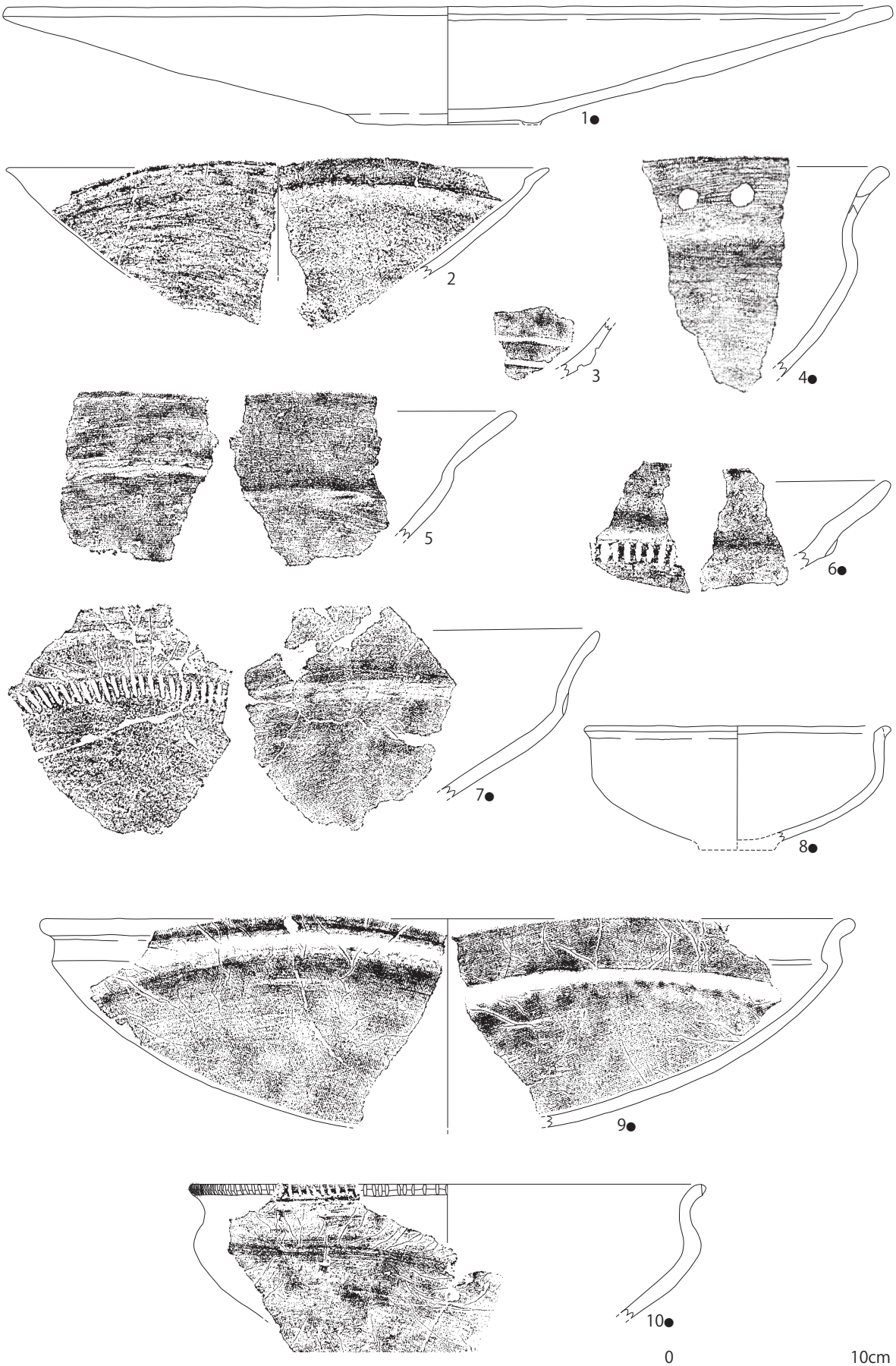
第 143 図　11 － 1・2 層出土遺物（10）



第 144 図　11 － 1・2 層出土遺物（11）

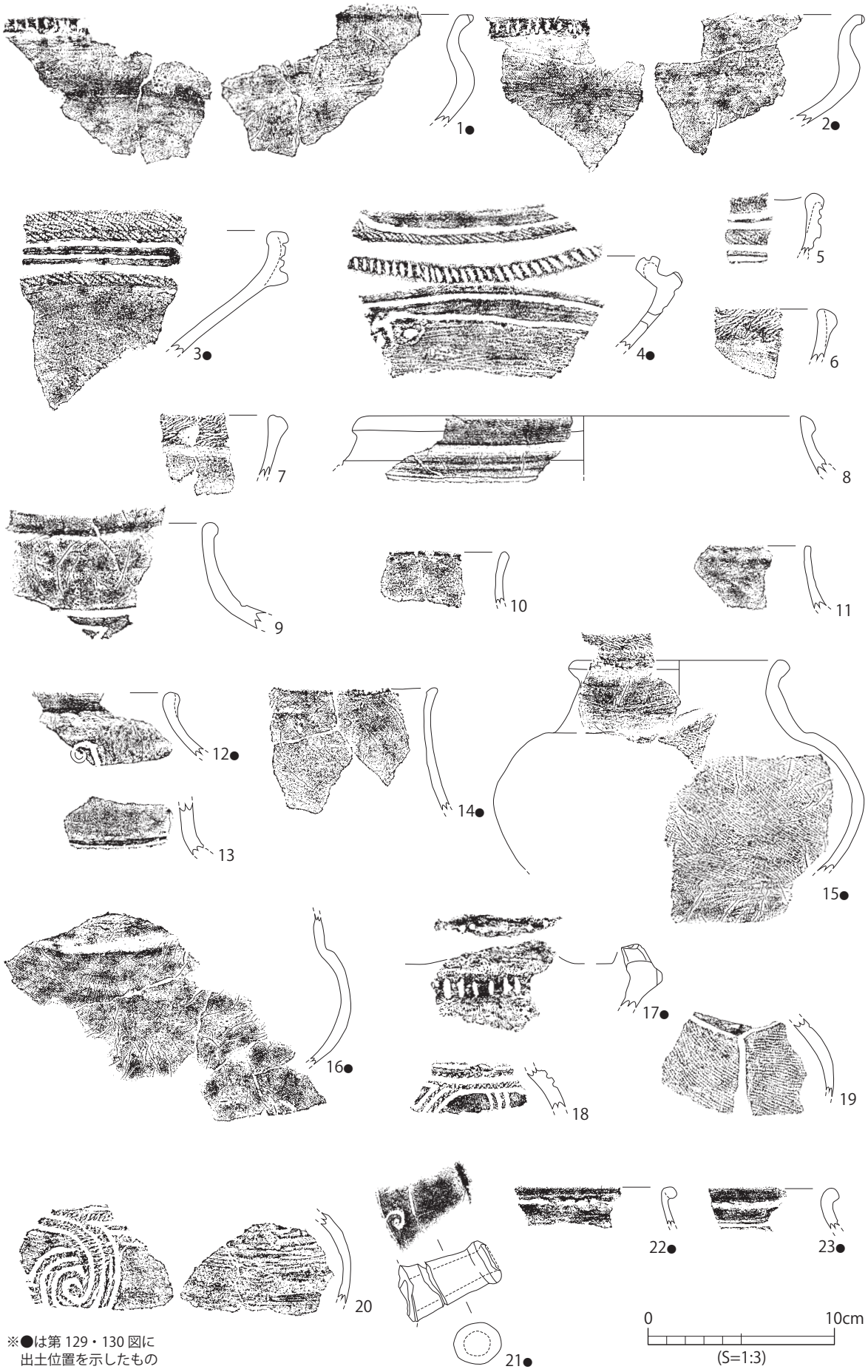


第 145 図　11 － 1・2 層出土遺物（12）



※●は第 129・130 図に
出土位置を示したもの

第 146 図　11 － 1・2 層出土遺物（13）



第 147 図　11 － 1・2 層出土遺物（14）

第8表　11層出土の有文・無文浅鉢集計表

	口縁形態							底部		
	Ⅰa	Ⅰb	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲ	Ⅳ	口縁細片	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
破片数	4	11	47	43	42	83	27	24	35	26
計	Ⅰ類　15		Ⅱ類　90		Ⅲ類　42	Ⅳ類　128				
比率	5.5%		32.7%		15.3%	46.5%				

【口縁分類案】
Ⅰ類：口縁部が大きく開く皿形で、内面に段をもたないものをａ類、有段のもの（第146図1など）をｂ類とする。
Ⅱ類：口縁部が内湾するボウル形の器形で、口縁部が強く湾曲するものをａ類（第142図15など）、口縁部の湾曲がａ類ほど強くない深みの器形をｂ類とする（第145図2など）。
Ⅲ類：肩部が屈曲して口縁部が外反するもの（第146図7など）。
Ⅳ類：口縁部が緩く内湾するもの（第156図22など）。
【底部分類案】
Ⅰ類：高台状を呈するもの。
Ⅱ類：やや凹むもの。Ⅰ類との違いが明瞭でないものもある。
Ⅲ類：平底。

19、第149図1～第150図7、第150図9・12がⅠ類、第150図8・10・11、第150図13～第151図11、第152図1～第153図9がⅡ類、第153図10、第153図12～第154図8がⅢ類、第151図12、第153図11がⅣ類である。Ⅰ類とⅡ類はほぼ1：3の割合でⅡ類が優勢である。Ⅰ類とⅡ類の判定が困難な破片は「Ⅰ・Ⅱ類口縁」とし、ａ類とｂ類に細分した。文様は口唇部に刻目が施される程度で、施文箇所によってⅠ類とⅡ類に分類した。刻目を施文する土器は少なく、全口縁の1割程度である。

底部は第155図1～14など高台状を呈するものをⅠ類、22～31などの平底をⅢ類、両者の中間的なもの（15～20など）をⅡ類とした。底部は基本的に円盤状の底部を胴部内側に挟み込むように作られている。底部Ⅱ類がもっとも多く、底部Ⅱ類とⅢ類の比率は1：1に近い。

無文深鉢の調整は、ナデ、二枚貝条痕、巻貝条痕、匙面条痕、ミガキ、ケズリを確認した（第7表）。このうち巻貝条痕としたものは、ヘタナリなどのように細い殻頂部を用いた細い沈線状の擦痕（第152図7など）も含んでいる。また、匙面条痕のように凹凸の著しい調整の凹面に筋が確認されたものは巻貝条痕に含めた。この筋は明瞭ではなく、従来復元実験に使用されたヘタナリやウミニナとは違う原体かもしれない。凹凸が著しく、凹面に痕跡がないものを匙面条痕とした（柳浦2021第153図4など）。羅肋が発達しない巻貝、ハマグリなど放射肋のない二枚貝殻頂部、川原石が原体の候補に挙げられるが、特定できない。前述の巻貝条痕とは凹面に筋があるか否かの違いであり、あるいは同じ原体を使用している可能性もある。調整はナデがもっとも多く（44.1％）、匙面条痕（26.1％）、巻貝条痕（21.1％）と続き、二枚貝条痕（第152図6など）は4.2％を占めるに過ぎない。暮地式・布勢式併行期には二枚貝条痕の使用は低調だったと思われる。

無文浅鉢（第156図、第157図1～20、図版85・86・88・92）　内面を丁寧に磨くが、外面の仕上げは有文浅鉢に比べてやや雑である。ボウル形を呈すもの（Ⅱ類　第156図1～7）とやや浅いバケツ形を呈すもの（Ⅳ類　同15～30）がある。1・2は口縁部の湾曲が強い浅身のⅡａ類、3は深身のⅡｂ類である。有文・精製を含めた浅鉢全体では、Ⅳ類（バケツ形）が46.5％と半数近くを占め、Ⅱ類（ボウル形）が32.7％、Ⅲ類（屈曲形）が15.3％と続き、Ⅰ類（皿形）は5.5％と少ない（第8表）。

底部は、高台状を呈すもの（浅鉢底部Ⅰ類　第157図3～10）、凹み底（同Ⅱ類　同図11）、平底（同Ⅲ類　同図13～20）があり、Ⅱ類が最も多いものの、3者に大きな差はない。

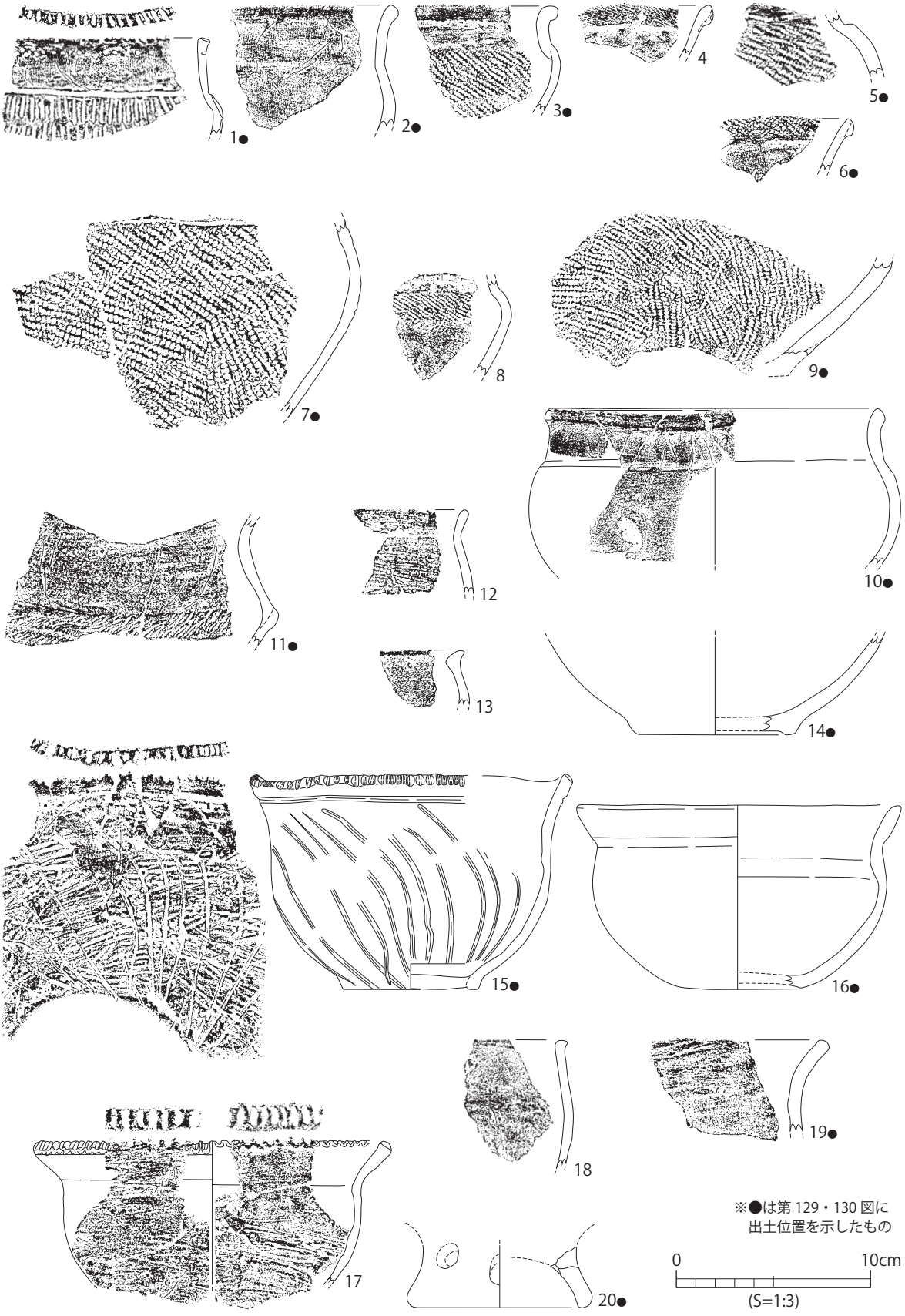
晩期土器（第157図21・22、図版88）

21は晩期中葉の方形浅鉢で、口縁部内面に段が付く。22は突帯文土器で、口唇、突帯ともに刻

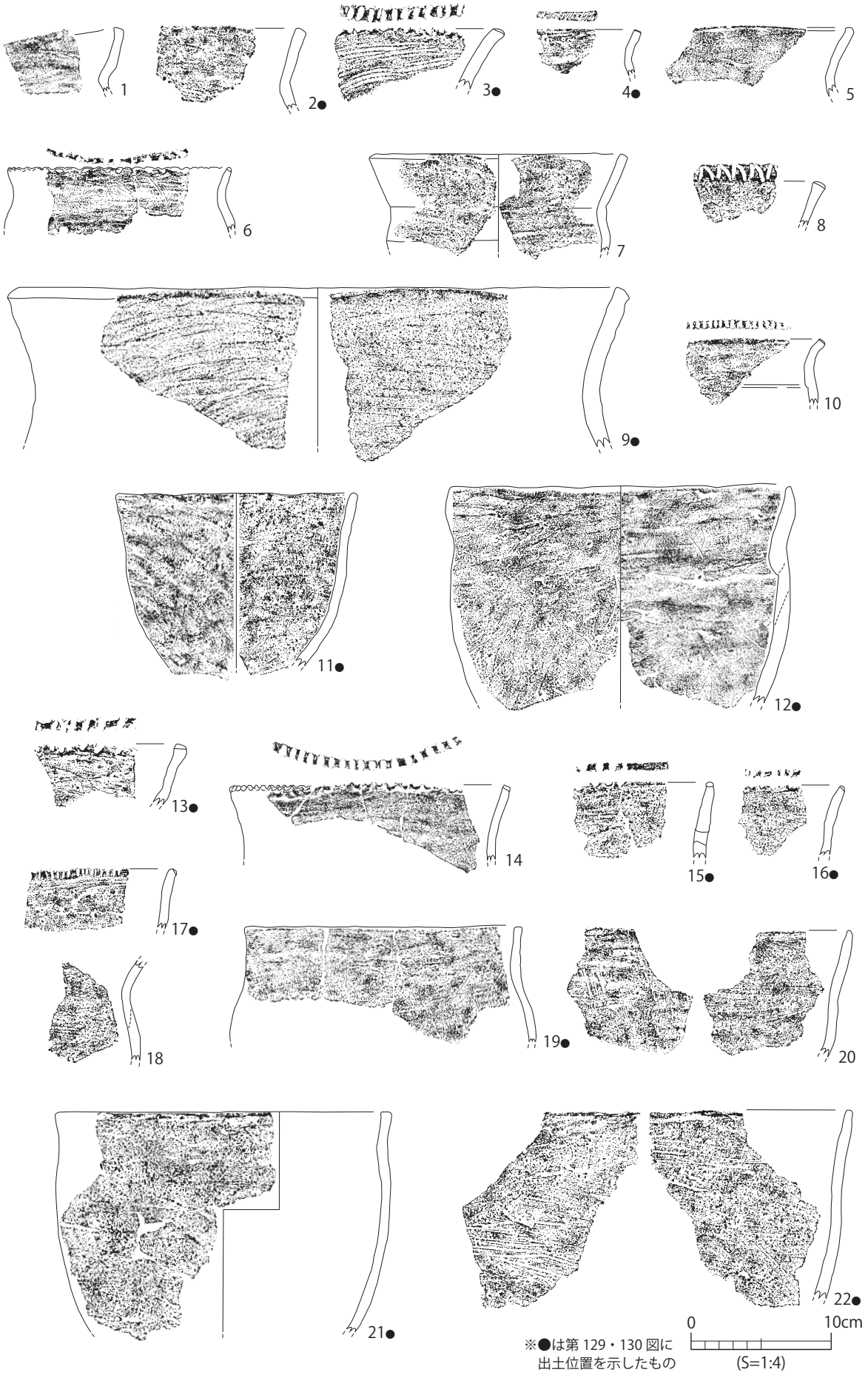
目がない。突帯はかなり上昇している。

（2）石器

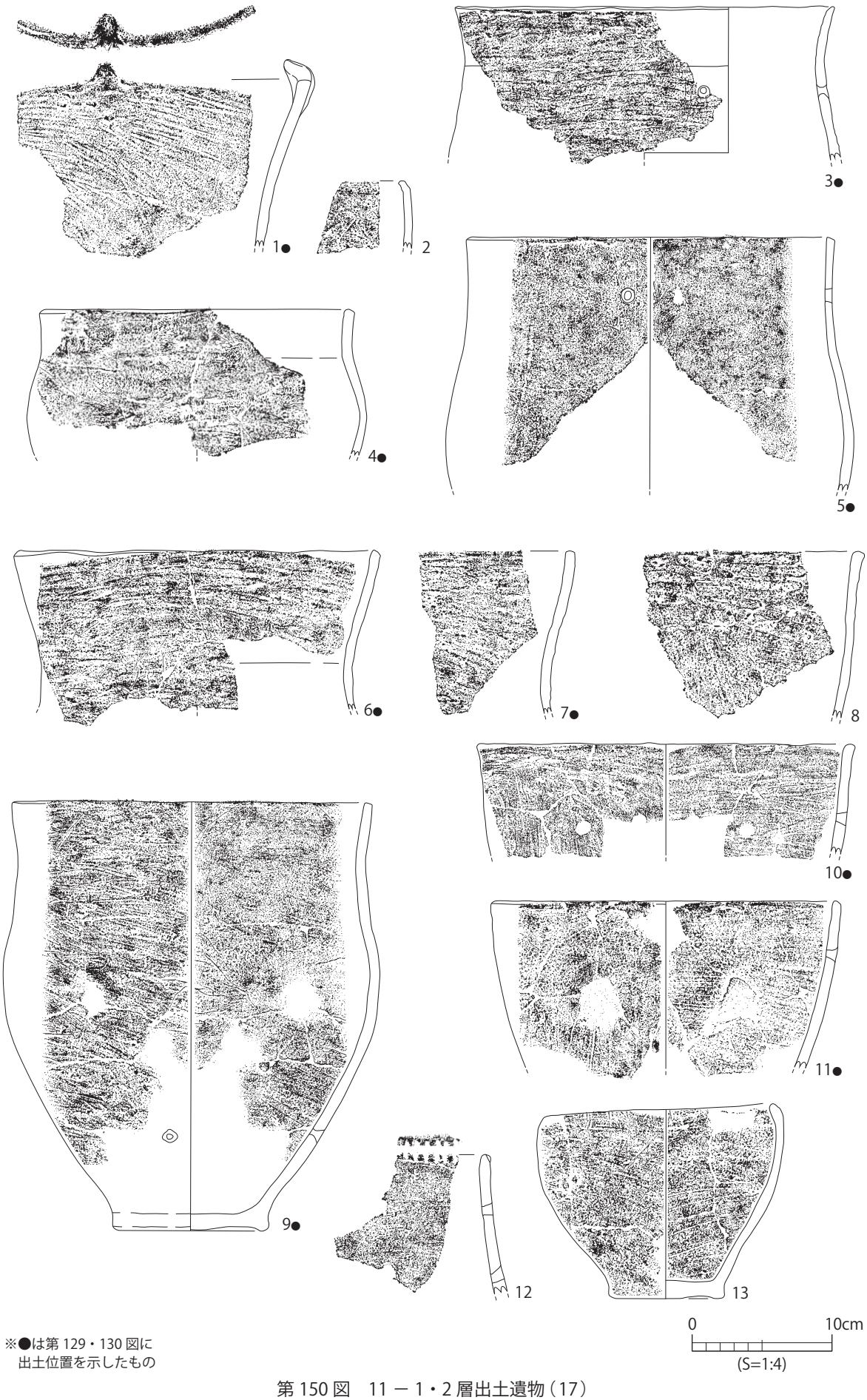
11層からは石鏃、石匙、刃器、刺突具などの剥片石器のほか、打製・磨製の石斧類、磨石・石皿



第 148 図　11 － 1・2 層出土遺物（15）

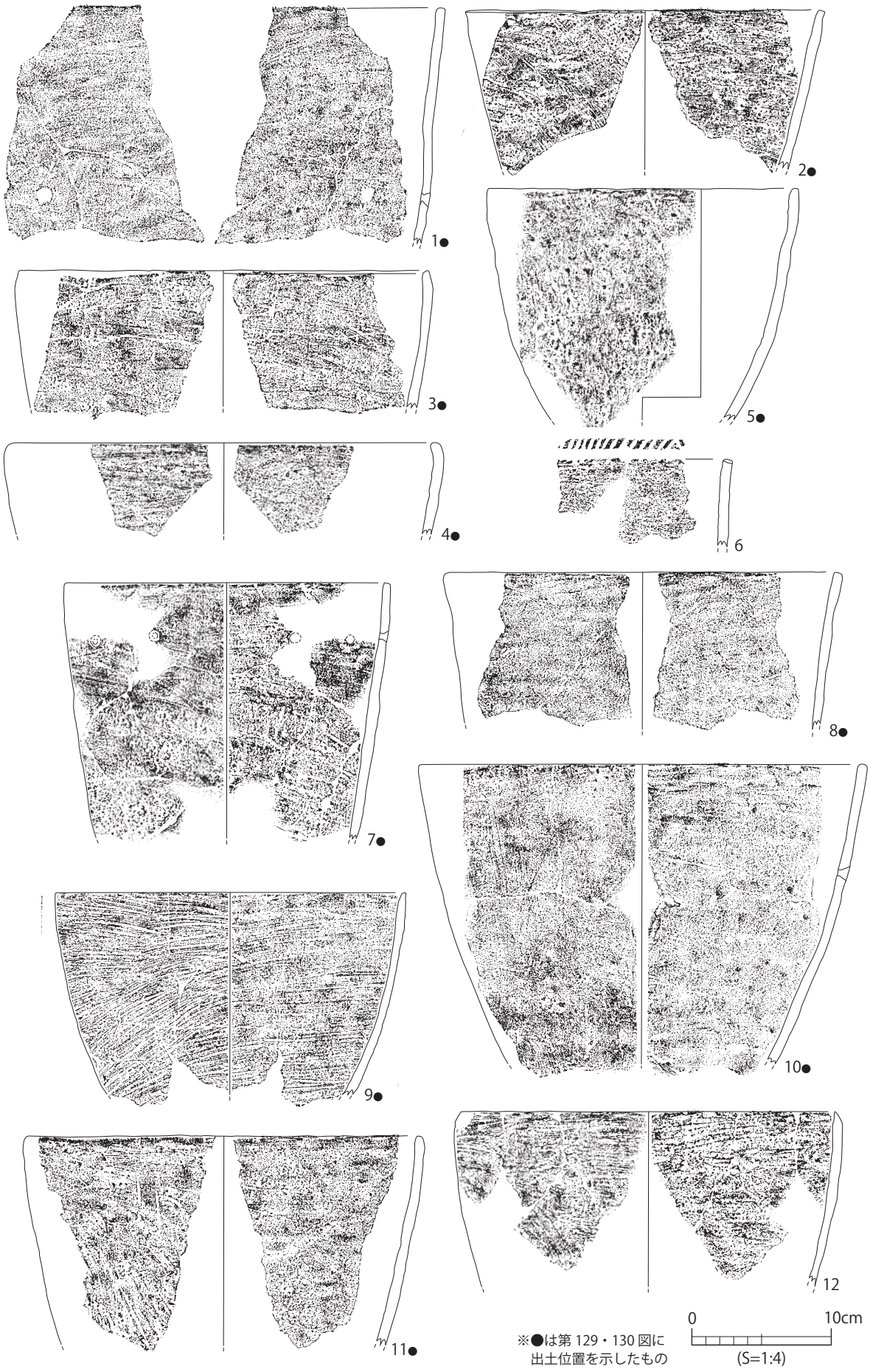


第 149 図　11 － 1・2 層出土遺物（16）

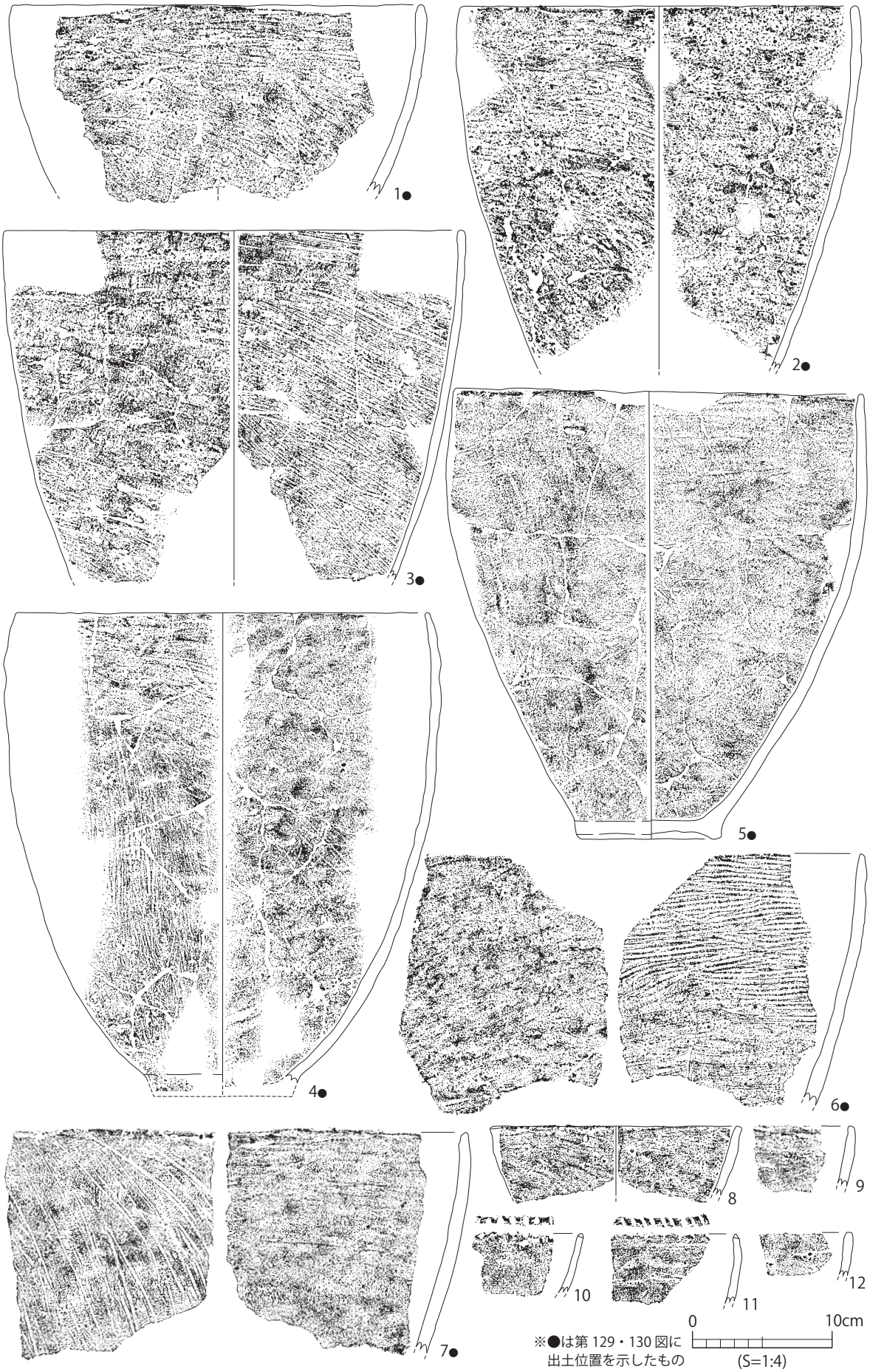


※●は第 129・130 図に
出土位置を示したもの

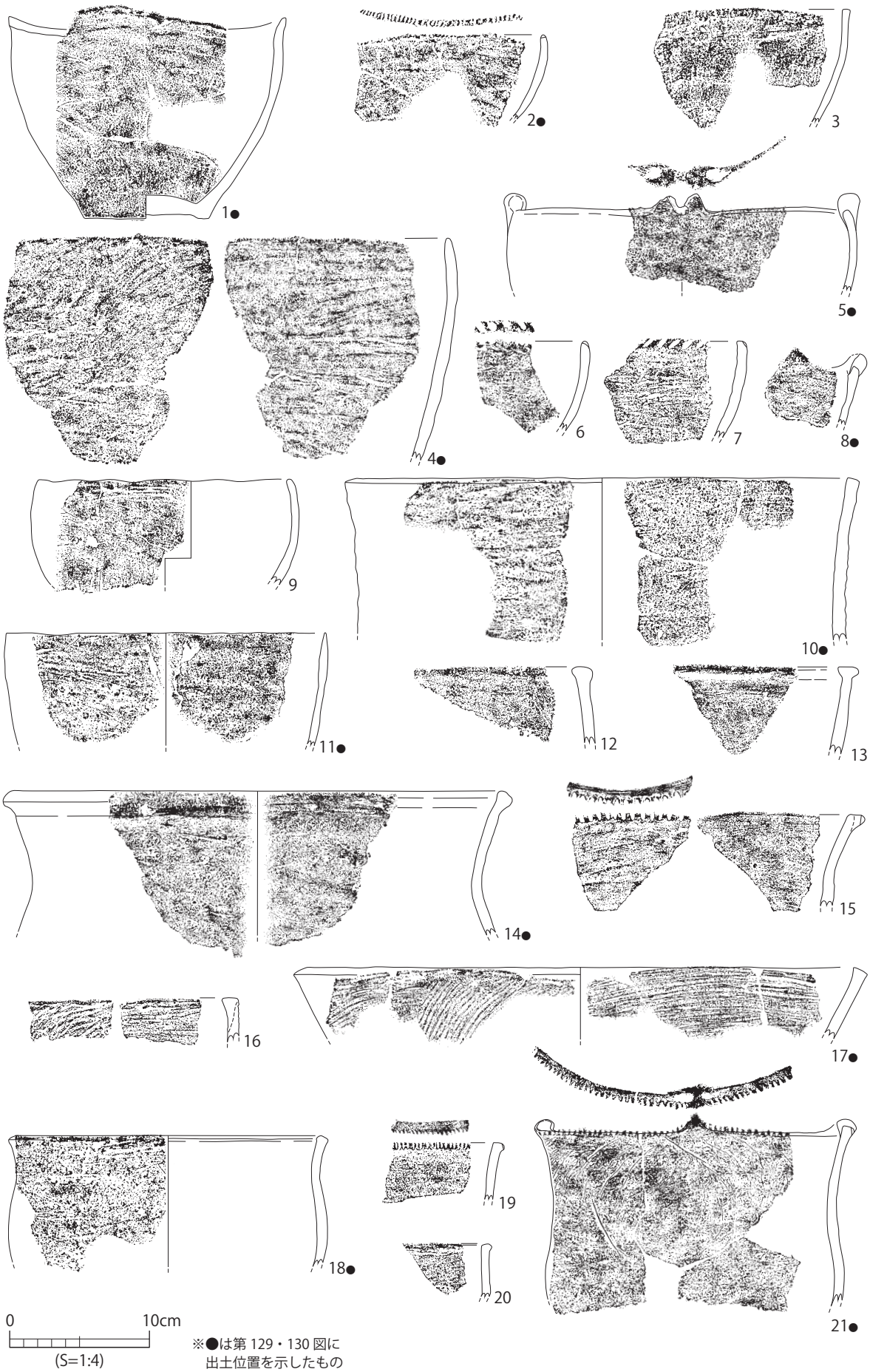
第 150 図　11 － 1・2 層出土遺物（17）



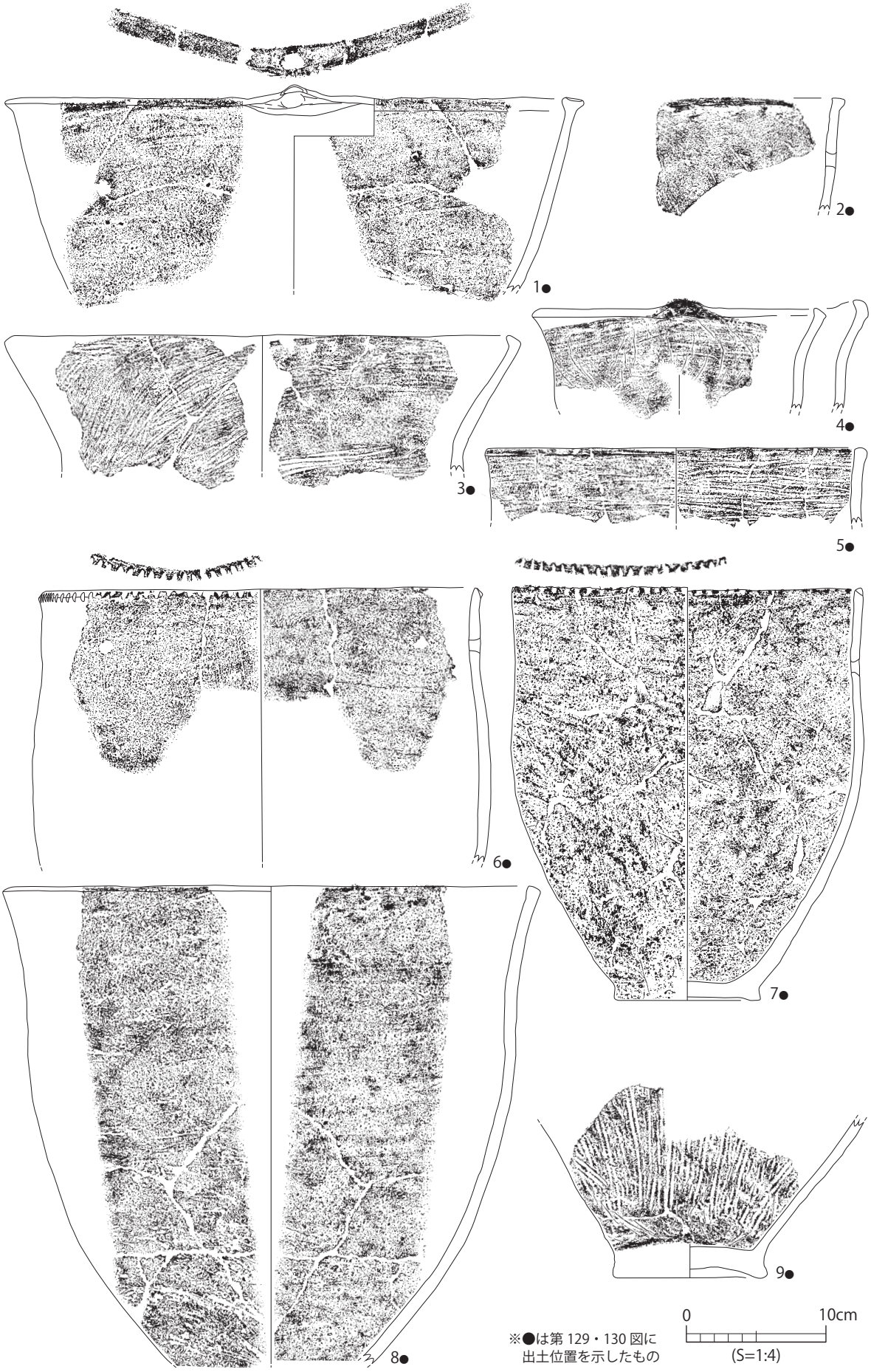
第 151 図　11 － 1・2 層出土遺物（18）



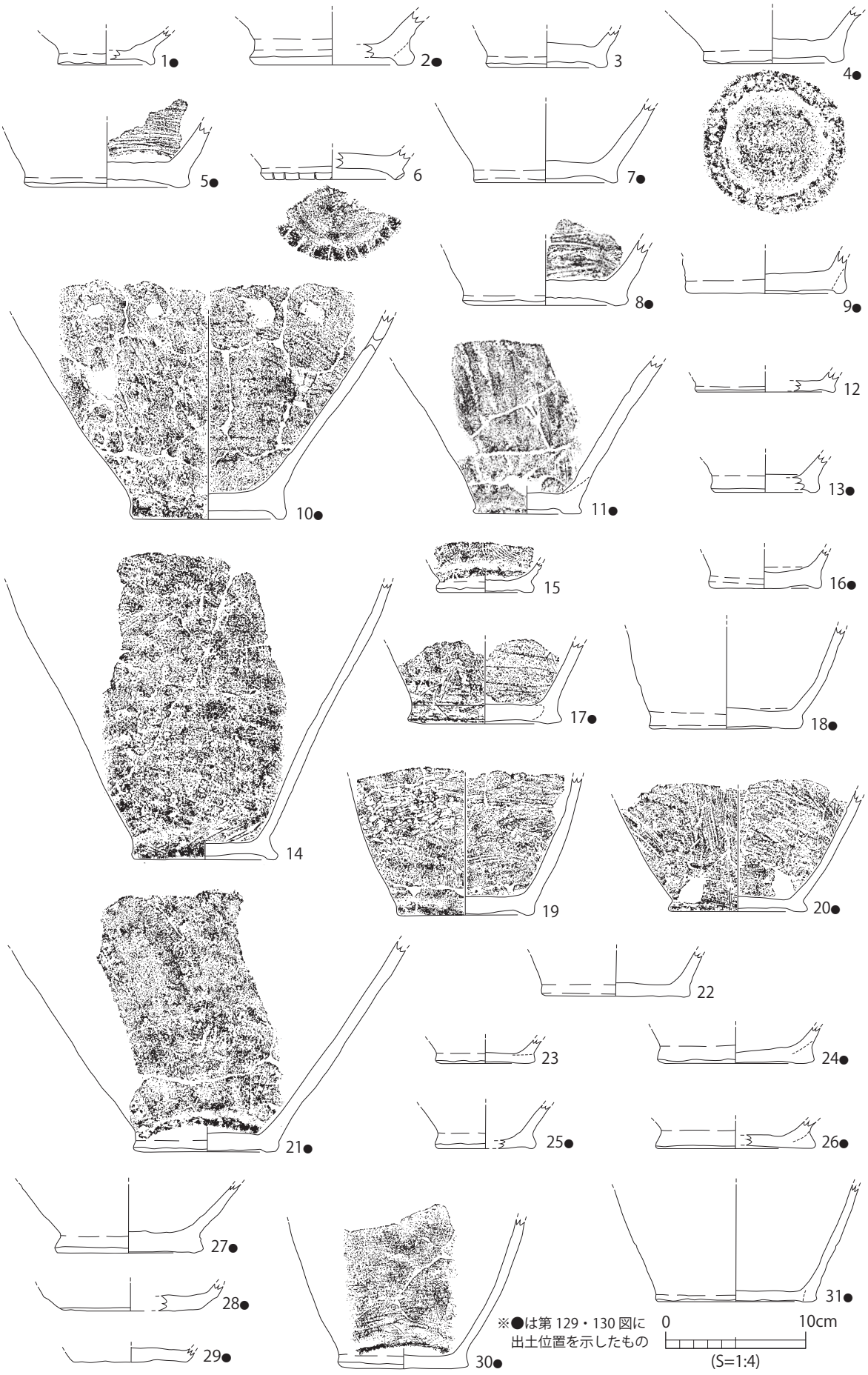
第 152 図　11 － 1・2 層出土遺物（19）



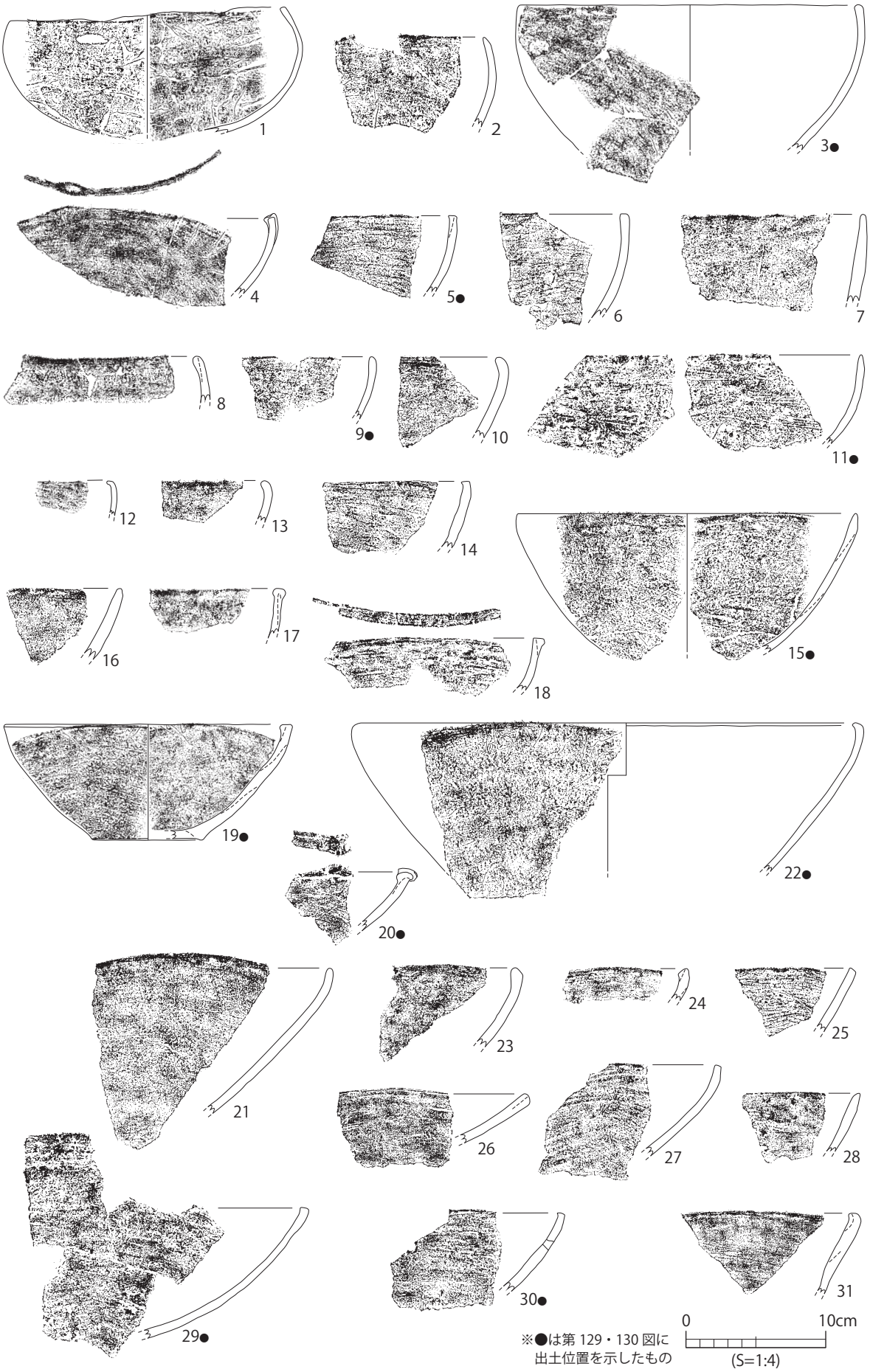
第 153 図　11 － 1・2 層出土遺物（20）



第 154 図　11 － 1・2 層出土遺物（21）



第 155 図　11 － 1・2 層出土遺物（22）



第 156 図　11 － 1・2 層出土遺物（23）

などの調理具、漁労具（石錘）、用途不明の軽石加工品などが出土している。その構成は第29表（271頁）に示した。特に塩基性片岩製の磨製石斧未成品が190点と非常に多く出土しており、11層のもっとも大きな特徴である。製作にともなう剥片も大量に出土していることから、本遺跡で磨製石斧製作がおこなわれたと考えられる。各製作工程の未成品数や形態分類は第５章第27表（251頁）や集計表第37表（308頁）に示す。剥片石器はサヌカイトを主な石材とし、ほかに黒曜石が少数出土している（第９表）。サヌカイトと黒曜石の石材比は重量でサヌカイト133：黒曜石１の比率である。

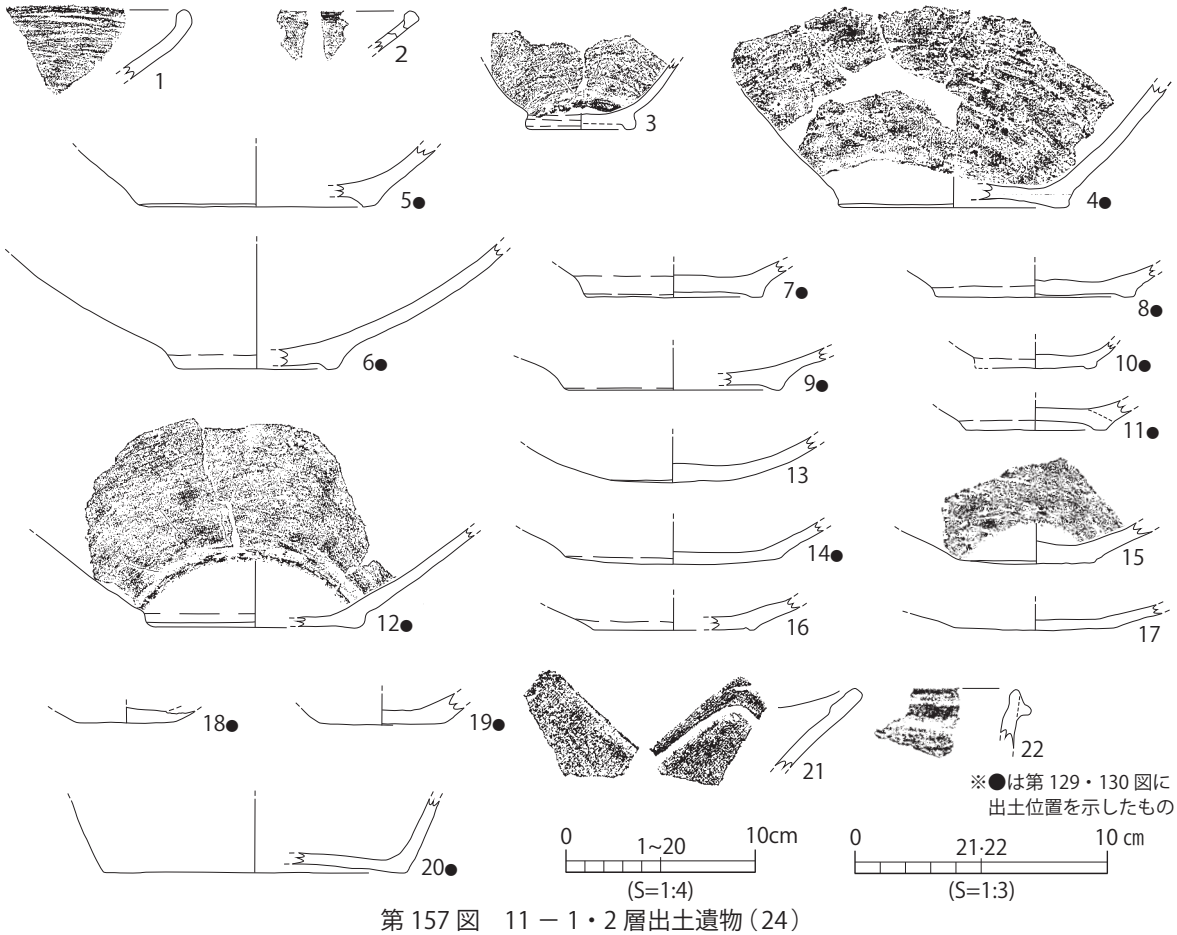
出土状況は磨製石斧関連資料と軽石加工品のみドットを変えて示した（第131・132図）。平面では石器全体が土器と出土位置が重複している。磨製石斧関連資料は掲載品のみ分布を示したが、11層に集中していることがわかる。なお、製作工程によって分布状況が異なるなどの状況はみられなかった。

石鏃（第158図１～５、図版92）　12点出土し、そのうち５点を図示した。いずれもサヌカイト製で、１・２・４が製品、３は未成品である。５も未成品か。

剥片（第158図６・７・10、第159図１・２、図版92・93）　サヌカイト製剥片は88点（335.63g）を数え、うち22点が二次加工のある剥片RF、17点が使用痕のある剥片UFである。第158図７、第159図１・２が二次加工のある剥片、第158図６・10が使用痕のある剥片である。

楔形石器（第158図８、図版92）　サヌカイト製で、楔形石器と考えられたのはこの１点のみであった。上下につぶれがみられる。

刃器（第158図９・11、図版92）　ともにサヌカイト製で、刃部に小さな剥離がみられる。９の上辺には背潰し的な剥離がみられる。11下辺は使用痕かもしれない。



第 157 図　11 － 1・2 層出土遺物（24）

第9表　11層出土の剥片石器集計表

器種	石材	黒曜石	サヌカイト	その他	計
石鏃	点数		5		5
	重量(g)		3.38		3.38
楔形石器	点数		1		1
	重量(g)		8.68		8.68
刺突具	点数		1		3
	重量(g)		23.94		0
石匙	点数		4	3	7
	重量(g)		39.91	111.12	151.03
刃器	点数		2		2
	重量(g)		20.37		20.37
石核	点数				
	重量(g)				
剥片(RF)	点数		22		22
	重量(g)		105.78		105.78
剥片(UF)	点数		17		17
	重量(g)		71.76		71.76
剥片チップ	点数	4	49		53
	重量(g)	3.25	158.09		161.34
	数計	4	101	3	108
	重量計	3.25	431.91	11.12	546.28

石匙（第159図3～9、図版93）　6は頁岩製、8は安山岩製で、それ以外はサヌカイト製である。いずれも刃部以外は比較的簡単な調整剥離で、中央に大きな剥離面を残している。6右面、8左面は刃部以外には礫面が大きく残っている。7は縦型で、8も同様か。

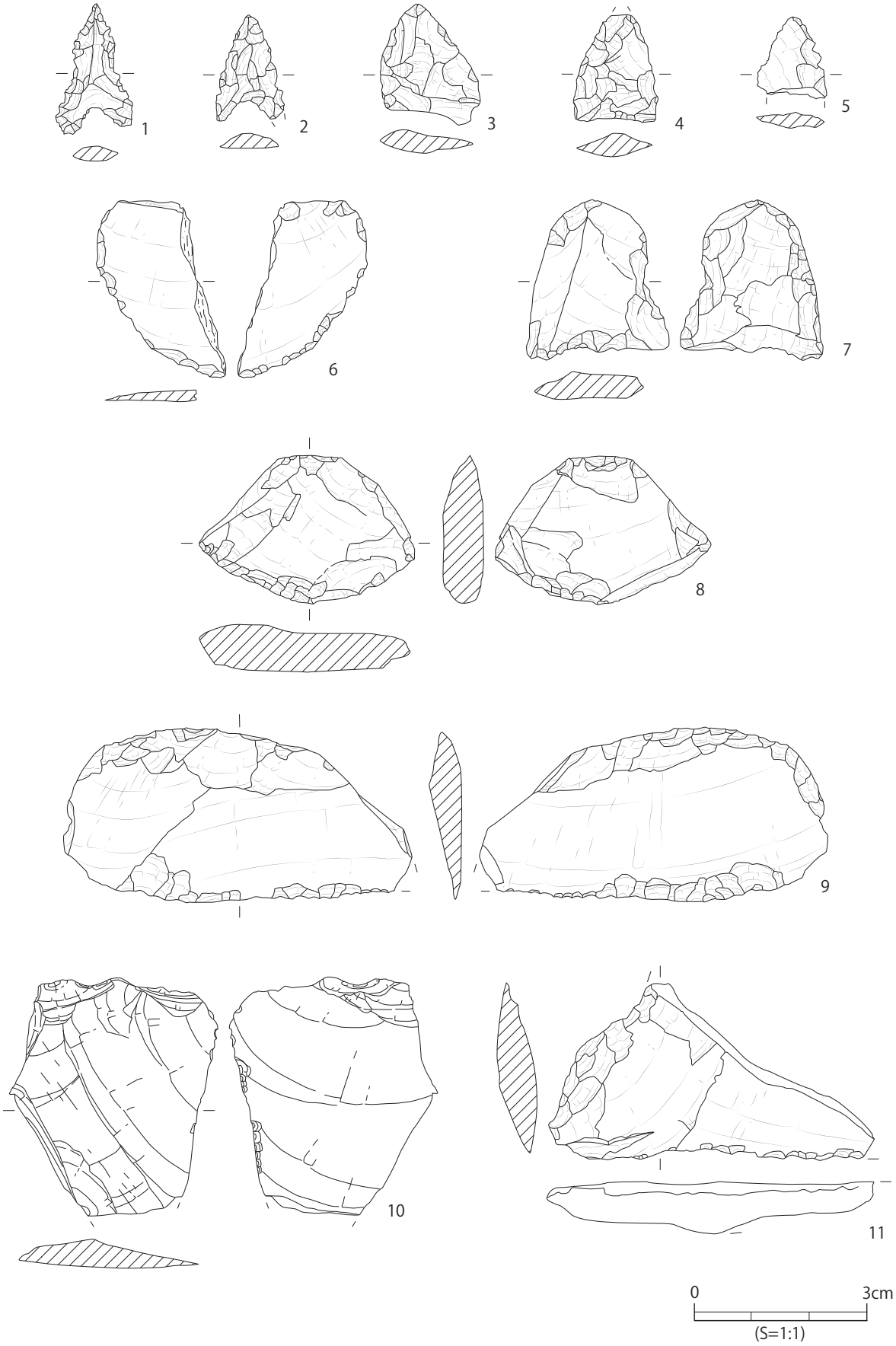
刺突具（第159図10、図版93）　サヌカイト製で、左面には丁寧な調整剥離が施されるが、右面は右側辺に小さな剥離がみられる程度である。

磨製石斧（第159図11～第164図4、第164図6、図版93～97）　塩基性片岩製の磨製石斧もしくはその未成品である。未成品は敲打段階の未成品が多く（129点）、剥離段階のもの（47点）が次ぐ。完成品を含めた研磨段階は14点と少ない（第27表）。剥離段階の未成品は、打製石斧と同じ形状である。しかし、本遺跡の打製石斧は塩基性片岩製ではないことから、塩基性片岩製の石斧はすべて磨製石斧未成品と考えた。素材と考えられる剥片は54点を確認した。後述する形態分類をもとに、各類の製作が可能な大きさであれば素材として取り上げている。明らかに磨製石斧製作用として搬入された原石は抽出できなかった。これは、度重なる江の川の氾濫で、包含層内に江の川の河川礫が多く混在していたため、自然堆積物なのか、人為的に搬入されたものか判断できなかったことによる。第164図6に塩基性片岩原石を図示したが、これも自然堆積物の可能性は否定しがたく、参考として図示したにとどまる。

第159図11～17は、研磨痕が観察される。11～13は全面を、14は側面を中心に丁寧に研磨しているため、完成品と考えられる。15は一面に礫面を残し、16・17は刃部のみが研磨されており、未成品の可能性がある。ただし、16・17の刃部端には使用痕とも思われる刃毀れがあり、この状態で使用されたのかもしれない。15は適当な形状をした河川礫を使用したことがわかる資料である。研磨痕以外の加工痕はみられない。素材の形状が目的の形状に近く、敲打工程を経ずに研磨工程に入ったことをうかがわせる。

第160図は敲打がかなり進んだ状態の未成品である。とくに3・6～8・11・16・18・19は研磨直前といってよいほど整った形状である。第161・162図は、部分的に敲打痕が認められるものを図示した。第161図に示したものがより敲打工程が進んだもの、第162図がより敲打開始直後に近い段階と思われる。いずれも両面に大きな剥離痕を残している。敲打痕は主に側面が顕著で、平面的な整形をするとともに丸味をもたせるための作業が初期におこなわれたと思われる。丸味をもたせようとする意図は、第162図2のように剥離の稜線を潰すような敲打痕からもうかがえる。

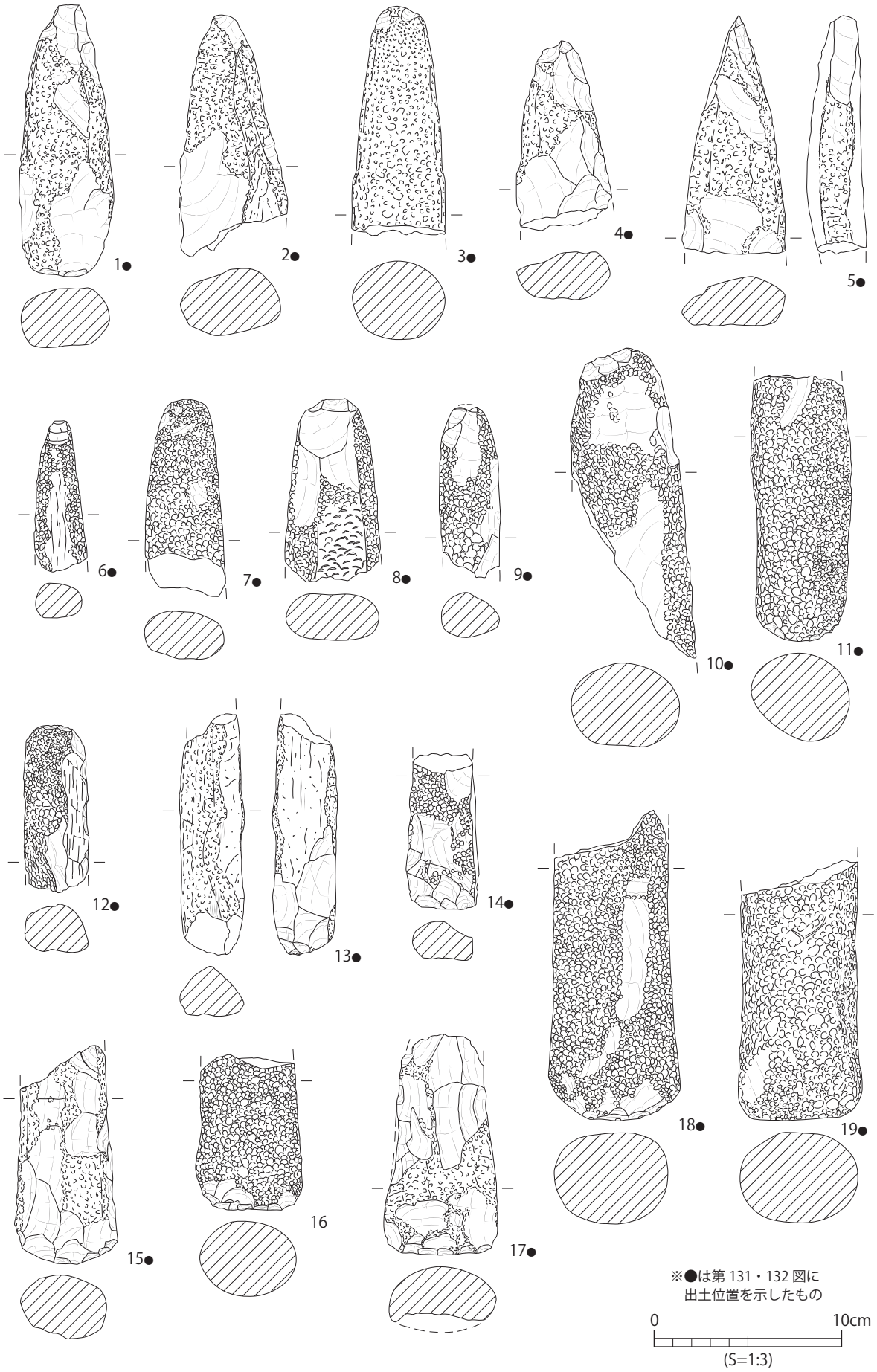
第163図1～10は、剥離段階の未成品である。若干敲打痕があるものも含めている。側縁には調整剥離と思われる剥離がみられる。第163図11～第164図4は素材と考えた。第163図11～13、第164図3などは石斧1個体の適度な大きさであるが、第164図1・2・4などはさらに分割しなければ石斧として適正な大きさにはならない。なお、素材の良好な資料は遺構1473（第83･84



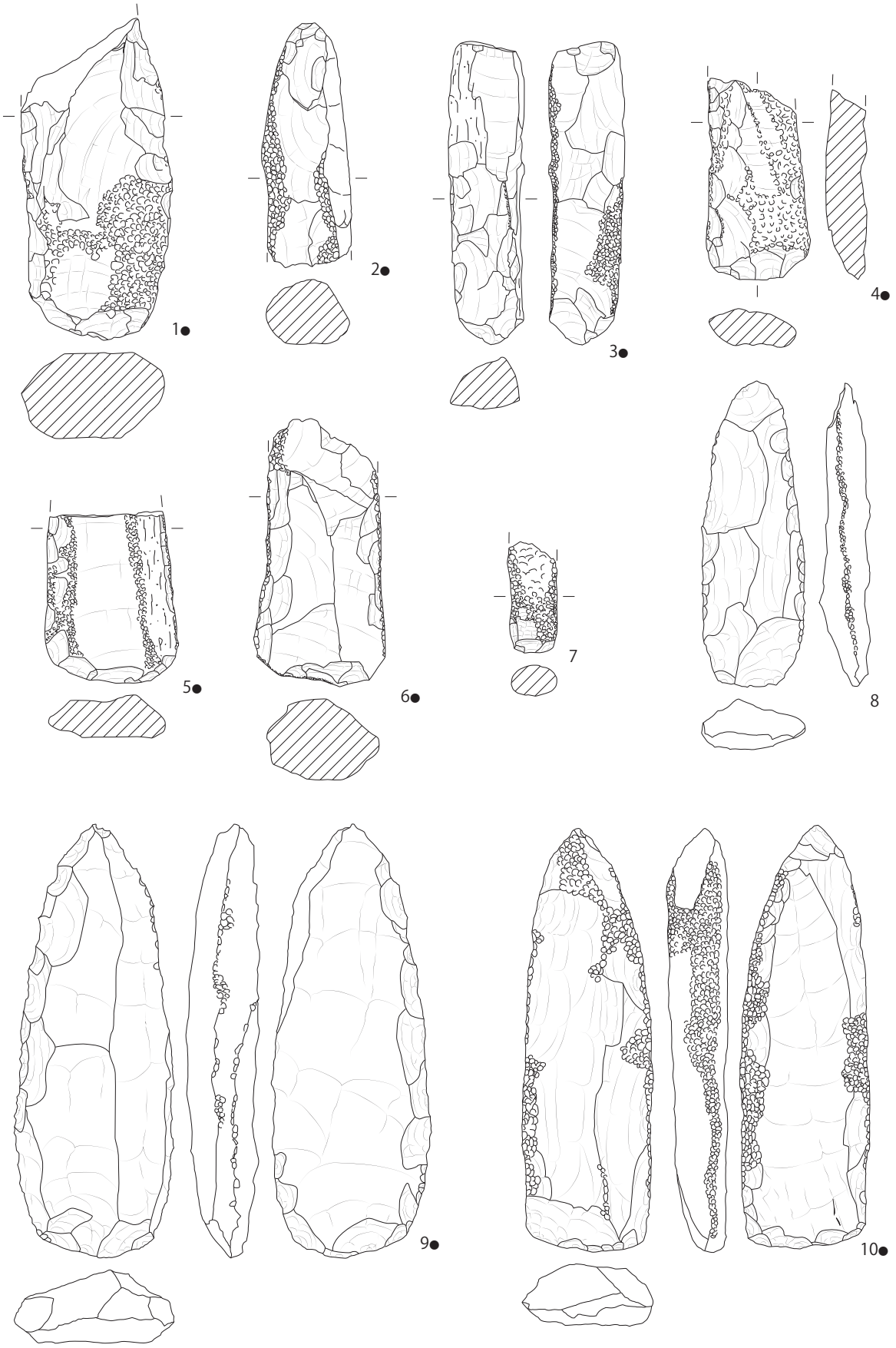
第 158 図　11 － 1・2 層出土遺物（25）

※●は第 131・132 図に
出土位置を示したもの

第 159 図　11 － 1・2 層出土遺物（26）

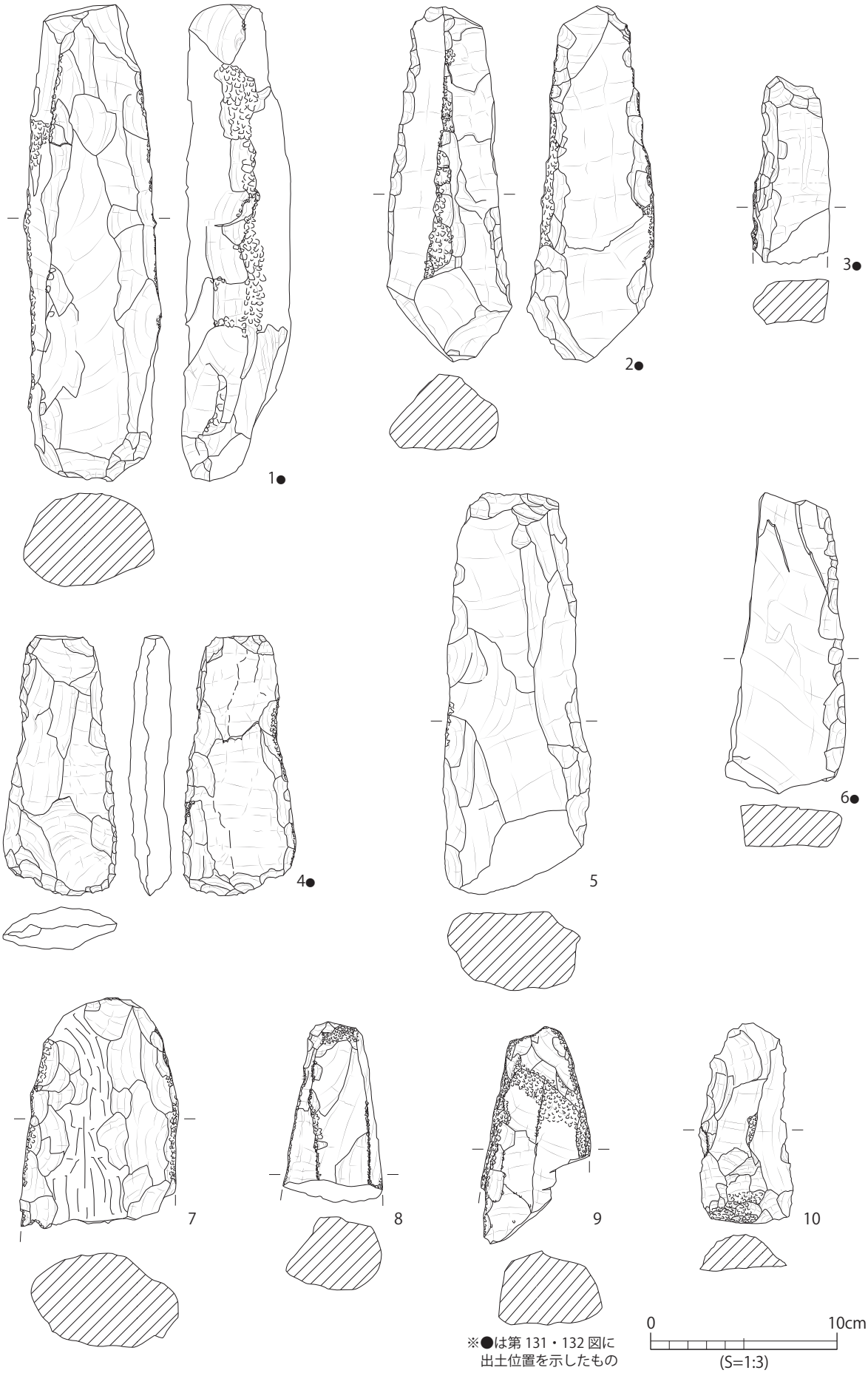


第 160 図　11 － 1・2 層出土遺物（27）

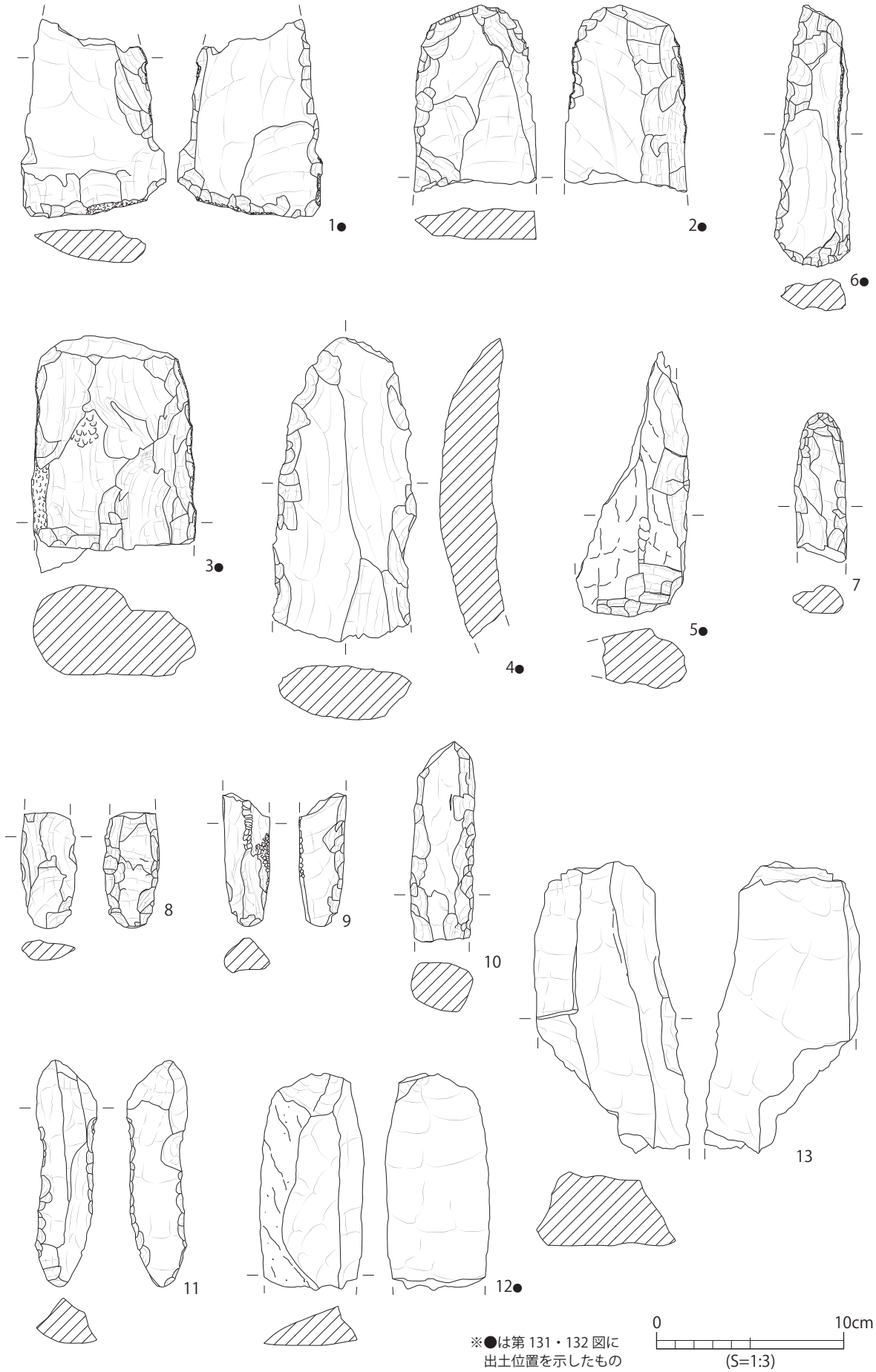


※●は第 131・132 図に
出土位置を示したもの

第 161 図　11 － 1・2 層出土遺物（28）



第 162 図　11 － 1・2 層出土遺物（29）

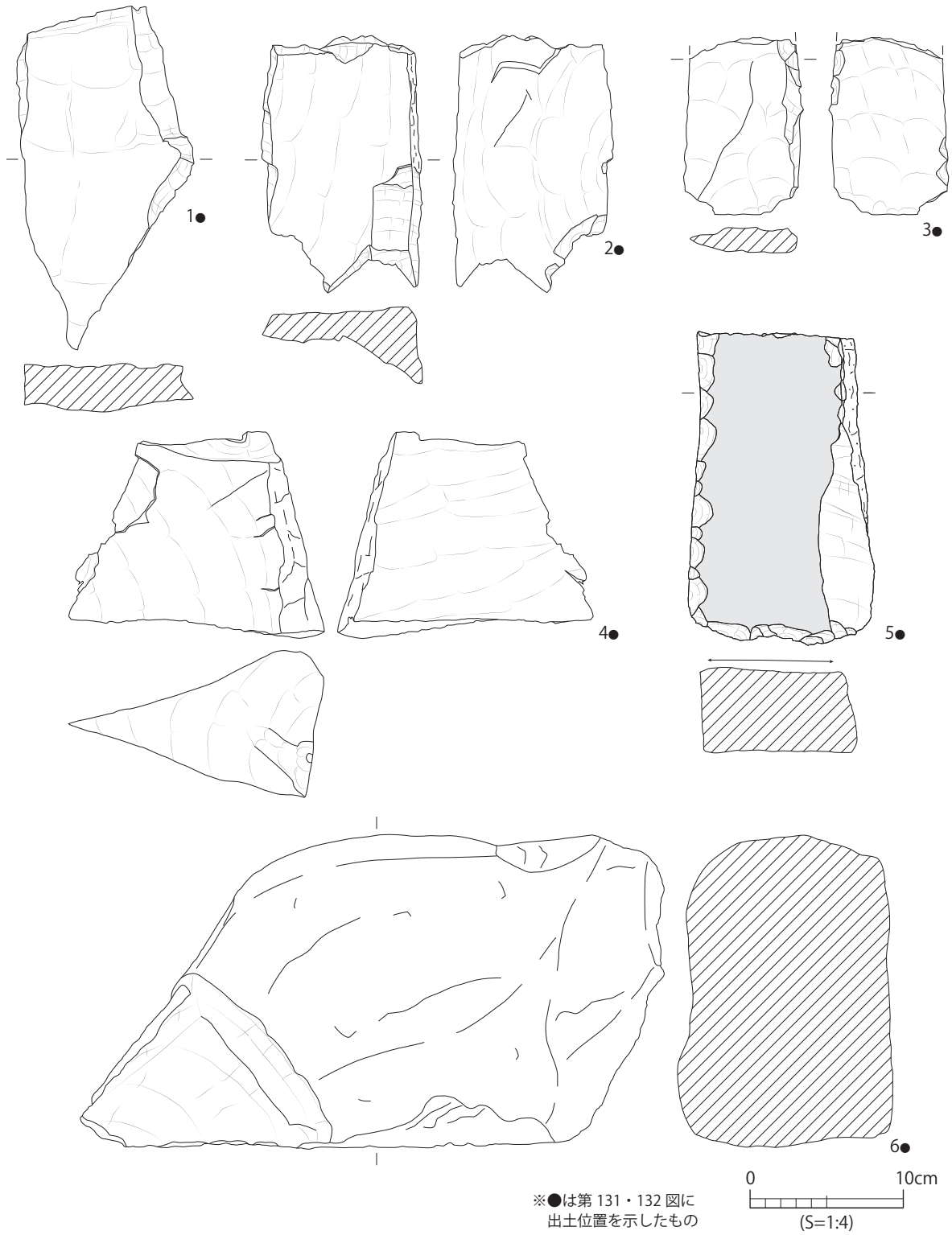


第 163 図　11 － 1・2 層出土遺物（30）

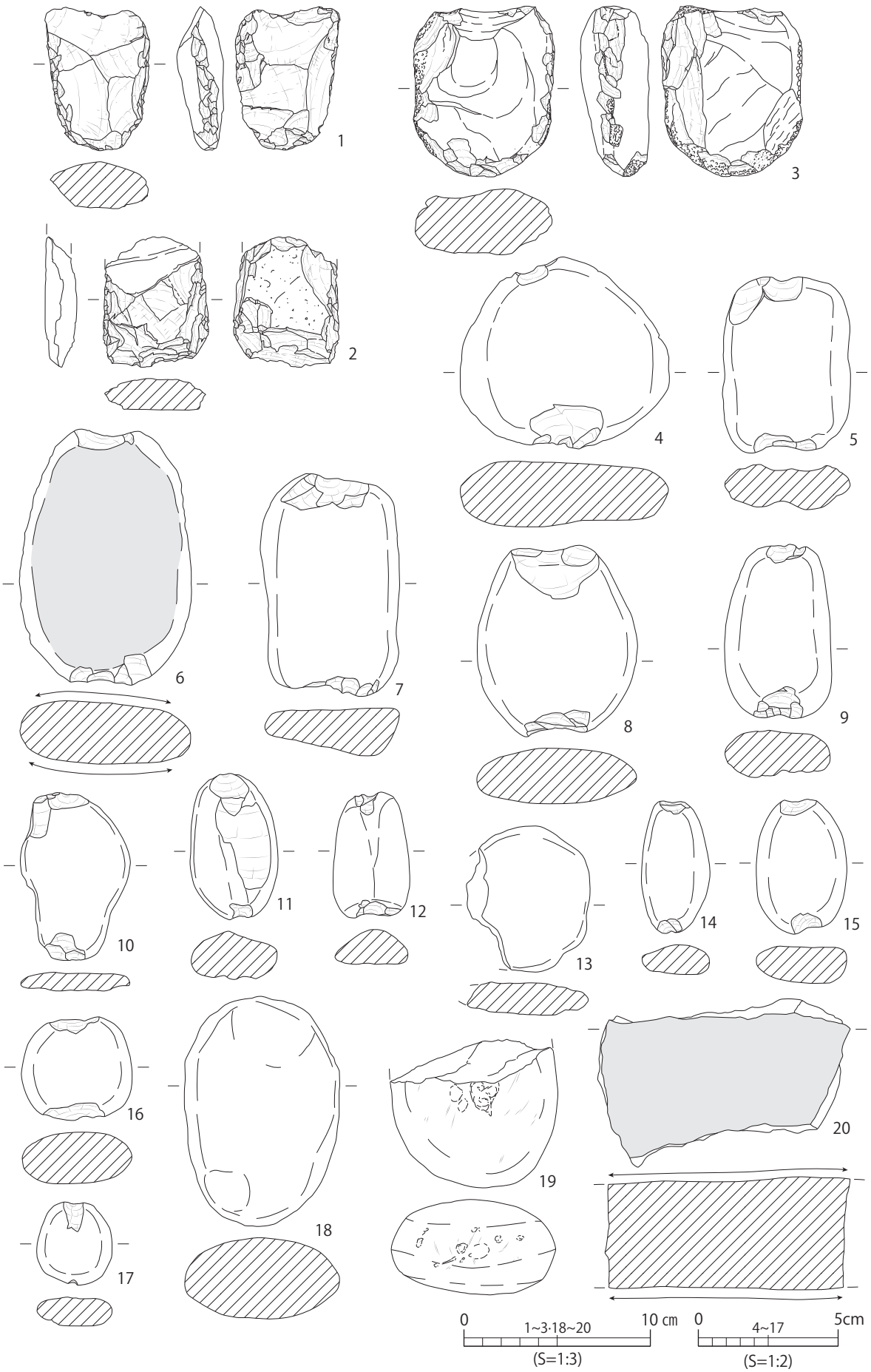
図）・1438（第89図）で出土している。第164図6は塩基性片岩の河川礫である。重量約19㎏の比較的大きな礫で、表面は摩滅している。河川堆積物の可能性があるが、参考として掲載した。

打製石斧（第165図1・2、図版96）　安山岩製の打製石斧と思われる。1は欠損後に上部を加工し、転用しようとしている。1・2ともに刃部は鋭く、使用による摩滅は認められない。

工具（第165図3、図版96）　塩基性片岩製の河川礫を素材としている。側縁に敲打によるつぶれ状



第 164 図　11 － 1・2 層出土遺物（31）

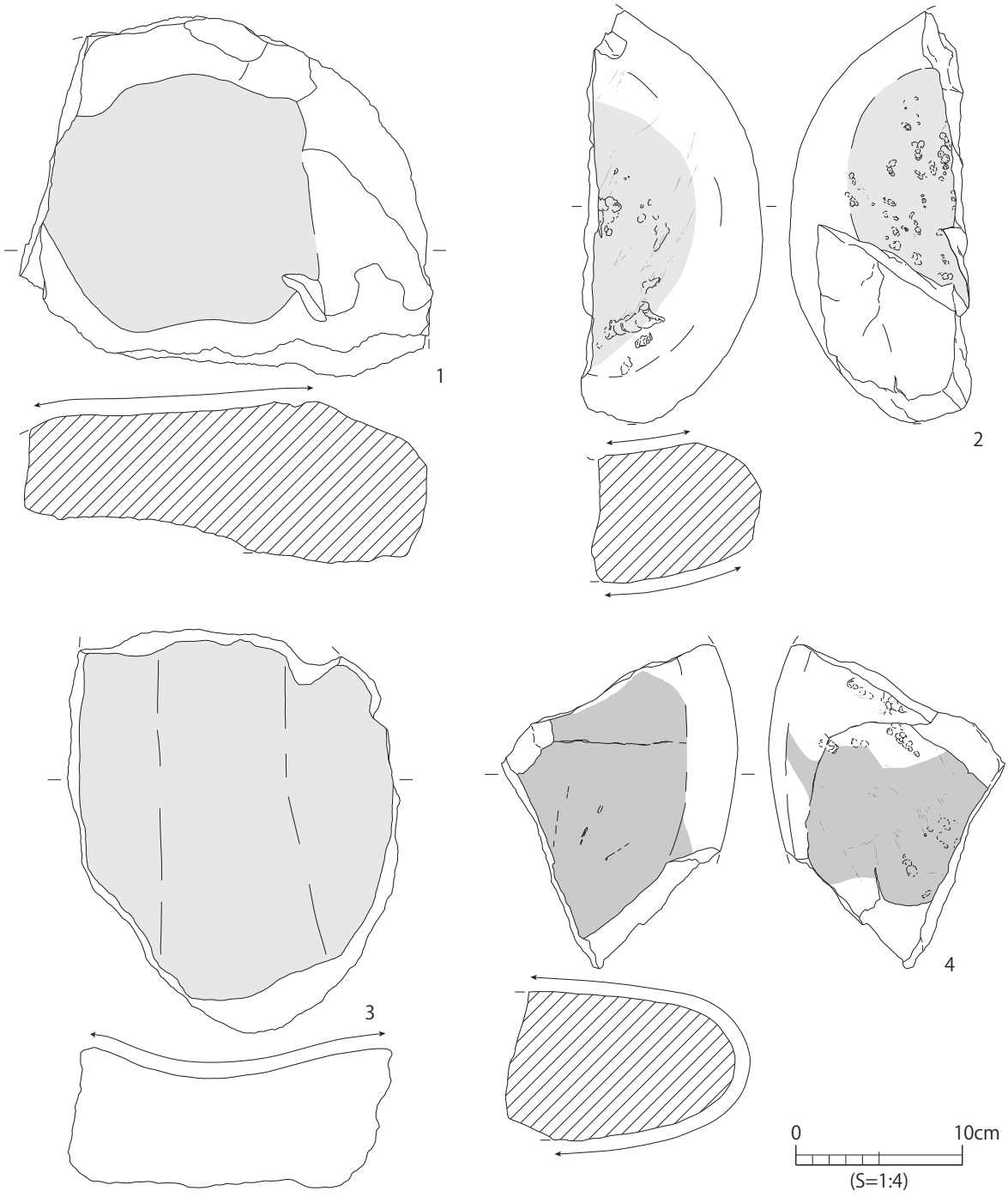


第 165 図　11 － 1・2 層出土遺物（32）

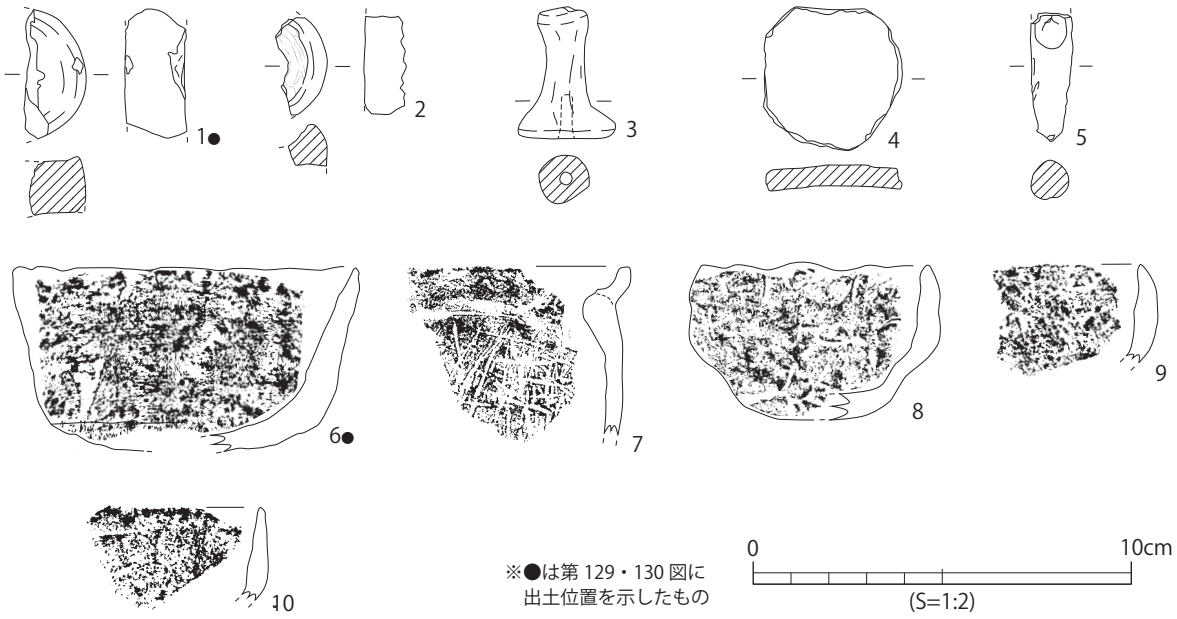
の剥離がみられ、表面には礫面が残る。

石錘（第165図4～17、図版96・97） いずれも河川小礫の両端を打ち欠いた打欠石錘である。最大は長さ9.2㎝、最小は長さ2.5㎝、もっとも重いもので重量203.0ｇ、もっとも軽いもので11.0ｇである。4・6～8は98.90ｇを超える大型、5・9～17は65.19ｇ以下の小型で、両者の重量に大きな開きがある。打欠部に摩滅がみられるものが多く、使用痕と思われる。6は表面に擦り痕がみられることから、磨石の転用かもしれない。

軽石加工品（第165図18、図版97） 三瓶山起源と思われる軽石製で、表面に擦り痕がある。軽石加工品は12層で多く出土し、残存状態も12層出土品が良いことから、18も12層に由来すると思われる。



第166図　11－1・2層出土遺物（33）



第 167 図　11 － 1・2 層出土遺物（34）

磨石（第165図19、図版97）　花崗岩製と思われ、中央と側縁部に打痕がみられる。

石皿（第164図5、第165図20、第166図、図版97・98）　いずれも花崗岩製と思われ、第166図2・4はやや軟質である。4は被熱している。第164図5、第166図1・3は一面に、第165図20、第166図2は二面に、第166図4は全面に使用痕が認められる。第166図3の使用面は凹面をなす。

（3）土製品・ミニチュア土器

耳栓（第167図1～3、図版98）　1・2は欠損品と考えた。2は上面中央が凹むように作られている。3は上下非対称で、耳栓ではない可能性もある。下面に未貫通の小孔がある。

土製円板（第167図4、図版98）　土器片の周囲を打ち欠いて作られている。後期と思われるが、文様がないため詳細は不明である。

不明土製品（第167図5、図版98）　長さ3.4㎝と小型棒状の不明土製品である。全体は円柱形で、上端がへら状に薄くなっている。比較的整った形状だが、焼粘土塊の可能性もある。

ミニチュア土器（第167図6～10、図版98）　手捏ねによる小型土器で、6は直口・平底、7は頸部がくびれる器形、8は椀形丸底の器形である。

6．11 －3層の出土遺物

11－3層は2区部分でのみ確認できた。遺物出土量は少ないものの、時期的には少数の里木Ⅱ式、暮地式を除いて中期末の土器でまとまっている。型式不詳としたものも、多くは中期末と思われる。文様は沈線文で描かれ、口縁下に段をもつものがあるなど、瀬戸内地方の矢部奥田式に類似するものが多い。出土位置を第133図に示す。

里木Ⅱ式（第168図1～4、図版99）　1・2は地文に撚糸文をもち、左右端に直線的あるいは弧状の沈線文が観察できる。3・4は撚糸文以外に文様はみられない。

中期末（第168図5～26・29・30、図版99）　隆帯を付すもの（5・6）、口縁部下に段が付くもの（7～13）、口縁部が屈曲するもの（14～17）、口縁部が内湾するもの（18・20）などがある。18・21～23・25・29は地文縄文、17・24・26は充填縄文で、そのほかは縄文が施されていない。7は

第 168 図　11 － 3 層出土遺物

第10表　12層出土中期土器の縄文原体集計表

		無文	二枚貝条痕	LR	RL	無節L	無節R	撚糸L	撚糸R	計
内面折返口縁		6	0	15	1	2	0	0	0	24
外面折返口縁	1段	10	2	80	4	2	1	0	0	99
	2段	2	0	2	0	0	0	0	0	4
単純口縁	沈線文	2	0	9	2	0	0	0	0	13
	隆帯文・浮文	2	0	8	1	0	0	0	0	11
	刺突文	10	0	4	1	0	0	0	0	15
	文様無し	7	0	83	10	3	1	1	0	105
胴部片		96	31	1659	131	9	23	5	2	1956
底部	Ⅰ	4	0	34	1	0	0	0	0	39
	Ⅱ	4	0	17	1	0	0	0	0	22
	Ⅲ	4	2	17	4	0	0	0	0	27
計		147	35	1928	156	16	25	6	2	2315
比率		6.3%	1.5%	83.3%	6.7%	0.7%	1.1%	0.3%	0.1%	
各撚り点数／縄文施文総数				90.4%	7.3%	0.8%	1.2%	0.3%	0.1%	

【底部分類案】
Ⅰ類：高台状を呈するもの。
Ⅱ類：やや凹むもの。Ⅰ類との違いが明瞭でないものもある。
Ⅲ類：平底。

放射肋のない二枚貝腹縁刺突文が横位に施され、20は押引刺突文で区画された内部に竹管状刺突文が施されている。

後期（第168図32 ～ 35、図版99）　32・33は暮地式である。34・35はこれにともなうもので、34が壺、35が浅鉢である。

型式不詳（第168図27・28・31・36 ～ 40、図版99）　27は短沈線が横位に、28は細沈線で斜格子文が描かれる。31は撚り戻しの縄文である。36 ～ 39は二枚貝腹縁を横位に刺突した土器である。放射肋が顕著な大きな二枚貝が使用されている。40は口縁下に隆帯文を付す土器で、隆帯以外に文様が施されておらず、中期・後期ともに類例の少ない土器である。

7．12 層の出土遺物

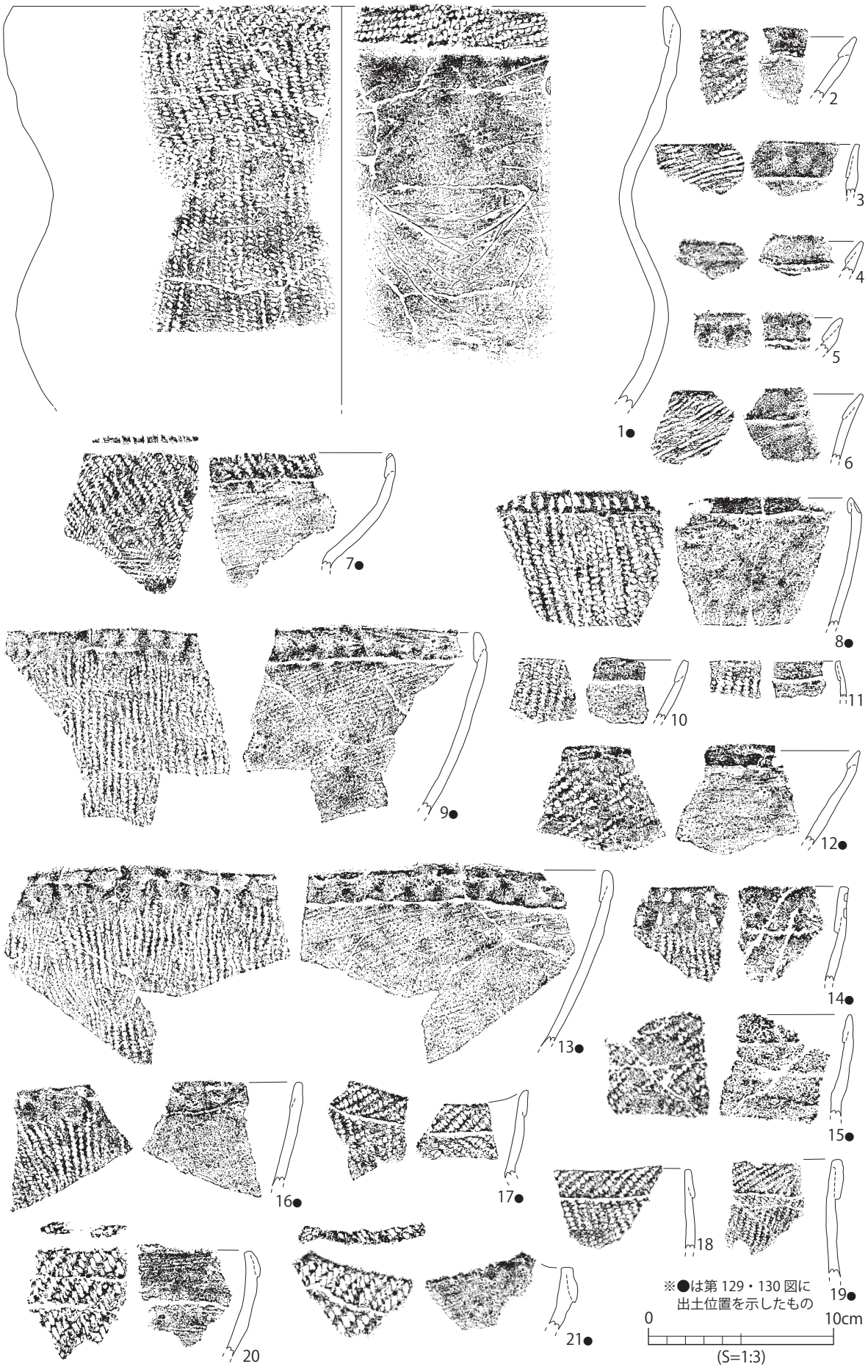
12層は11層とほぼ重複する範囲に堆積しており、土質の違いから区別は容易であった。遺物は11層と比較すれば少なく、小破片が多かった。

（1）縄文土器

主に中期の船元式・波子式が出土している。出土位置を第129・130図に示す。多くは船元式や波子式とされる土器であるが、船元式に類する土器はほとんど文様がみられないため、細分型式を言及することはできない。また縄文の形状は船元式・波子式は同等で、破片では両者の区別もできない。そのため、ここでは「船元式･波子式」として一括で扱う。そのほか、中期後葉の撚糸文、中期末、後期の土器なども出土しているが、これらは後世の河川浸食の影響を受けた混入品と考えられる。また、外来系の土器として九州地方の深浦式（第174図20・23、第175図3・4）、春日式（第175図1・2）がわずかに出土している。

鷹島式を含めた中期の縄文の組成を第10表に示す。LRが90.4%と圧倒的に多く、RLは7.3％に過ぎない。無節縄文はRが1.2%、Lが0.8％である。無節縄文は全体の2％にとどまる。調整はほとんどがナデ調整で、二枚貝条痕は35点（1.5％）確認できた。

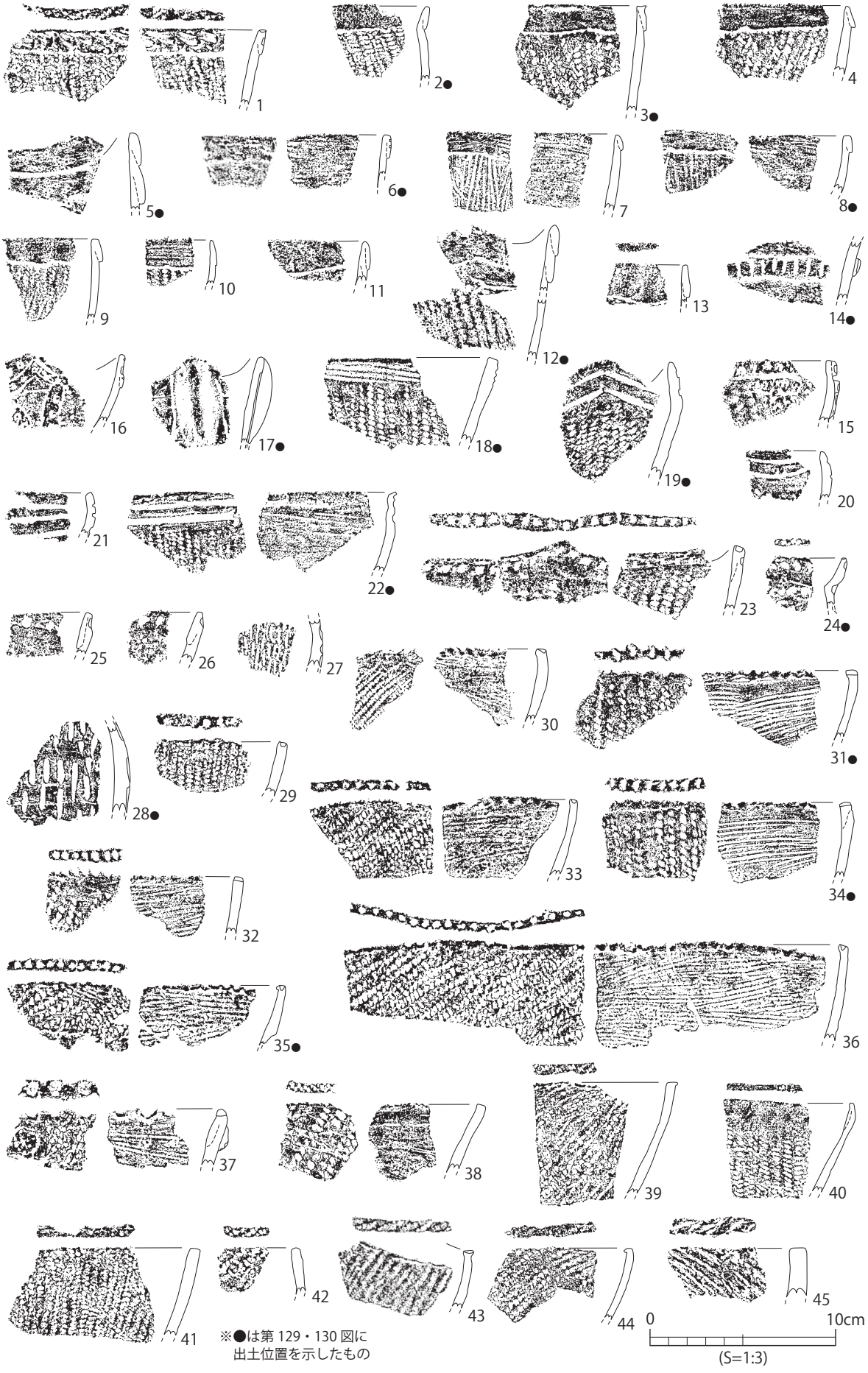
鷹島式（第173図17、図版105）　五角形の底部が1点出土している。これ以外に鷹島式と判断できる



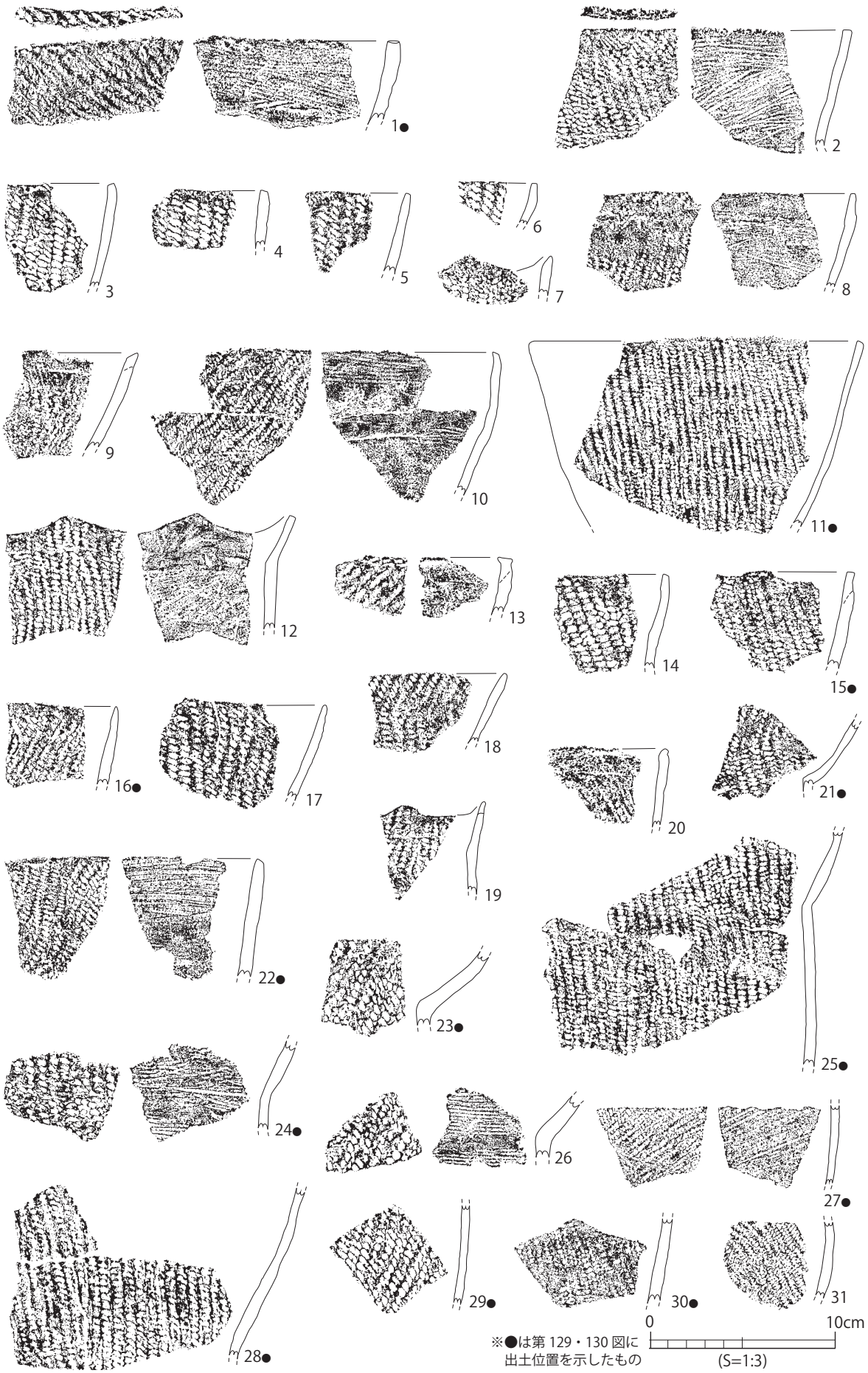
第 169 図　12 層出土遺物（１）

※●は第 129・130 図に
出土位置を示したもの

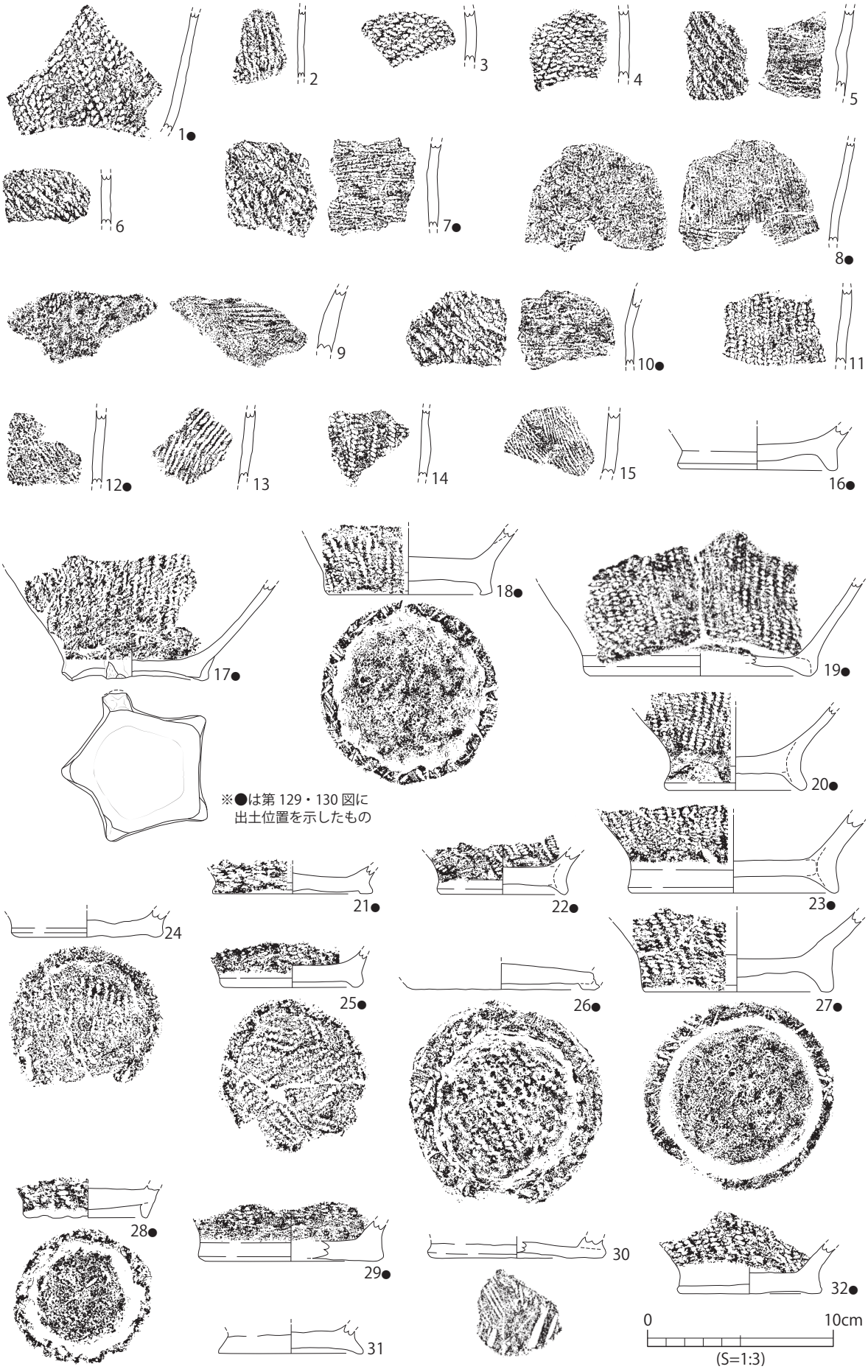
第 170 図　12 層出土遺物（２）



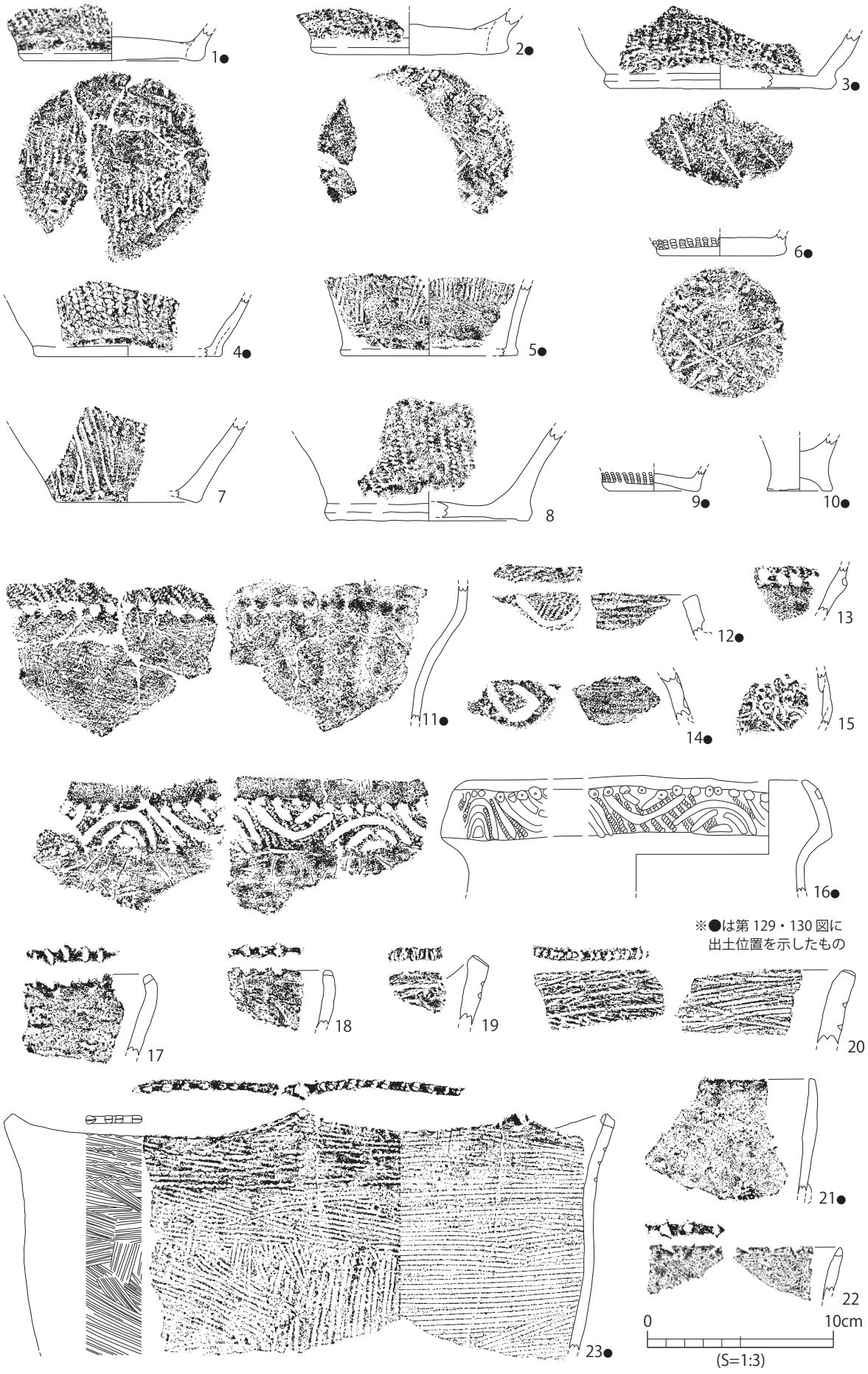
第 171 図　12 層出土遺物（３）



第 172 図　12 層出土遺物（４）



第 173 図　12 層出土遺物（５）



第 174 図　12 層出土遺物（６）

ものは出土していない。

船元式・波子式（第169図１～第173図16、第173図18～第174図９、図版100～106・109） 第169図１～16は内面折返し口縁である。外面には節の大きな縄文が縦走するものが目立つ。縄文以外の文様は８や14のような刺突文が少数ある。内面の折返し部分には少数に縄文が施される（１・７）もののほとんどは無文である。９・13の口縁部には指押圧痕が顕著である。

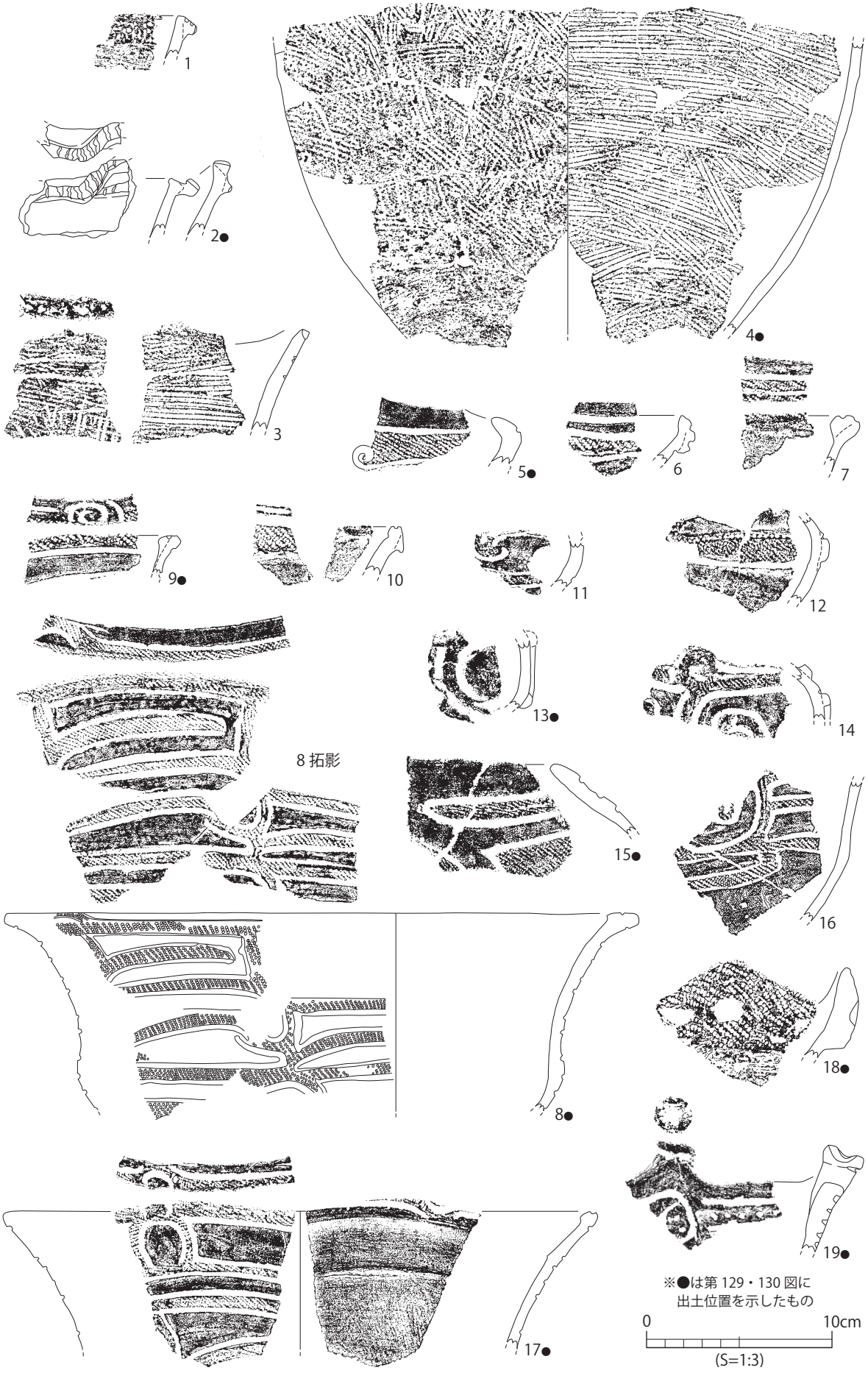
第169図17～第171図13は、外面折返し口縁である。第169図17～第170図７は地文の縄文以外に文様をもたない。このうち第169図17～19は折返し口縁とそれ以下で縄文の施文方向を変えている。それに対して、第169図20～第170図５・７は折返し口縁と胴部は連続して縄文が施文されている。第170図４は折返し口縁がＶ字状となっている。第170図６・８～第171図１は、折返し口縁に文様が施される土器である。これらは折返し口縁部分には縄文をもたない。

第170図６・８～20は折返し口縁に１～３条の沈線文が横走している。８・９は波状の沈線文、11・20は横走沈線文に加えて直交する短沈線が引かれている。また、18は突起部分にＶ字状の低隆帯文が付加され、隆帯の形状に沿って沈線文が施されている。21・22は折返し口縁上に垂下する短沈線文が描かれている。22は折返し口縁が幅広のため、沈線文は21に比べて長くなっている。第170図23～第171図１・６は折返し口縁上に刺突文が施される土器である。円形または楕円形の刺突文が多く、第170図28、第171図１は長方形の押引に近い刺突文、第171図６は叉状工具による押引刺突文である。第171図２～５・７～13は折返し口縁が無文の土器である。５・12は折返し口縁が２段に付されている。10の折返し口縁部には二枚貝条痕が横位に施されており、これが地文かもしれない。７・８の胴部は縄文がみられず、二枚貝条痕が縦位に施されている。

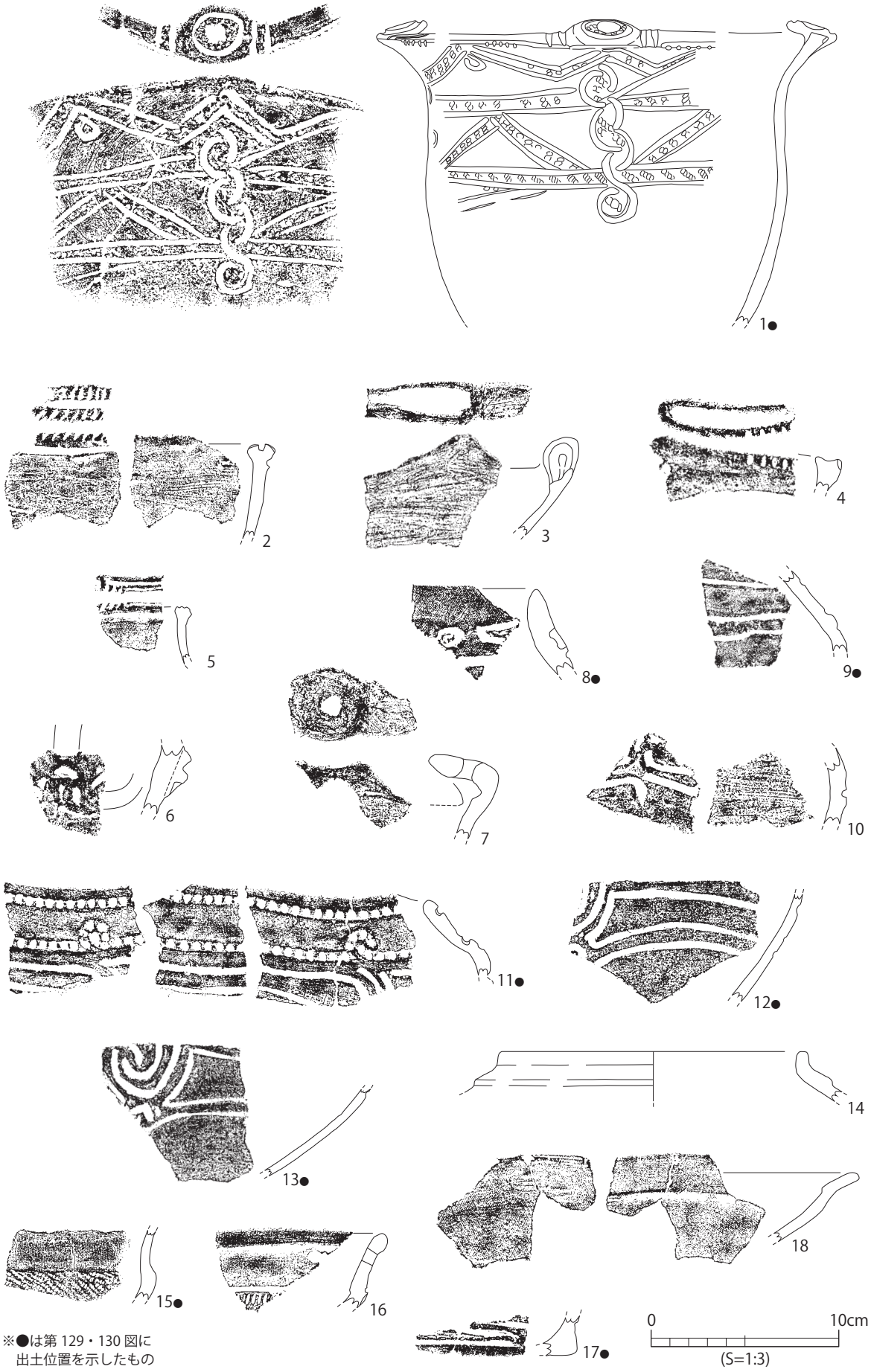
第171図14～17は隆帯文が付された土器である。16は菱形に隆帯文が貼り付けられ、その上に円形刺突文が施される。17は垂下する短い隆帯文の両脇に沈線文がみられる。18～24は折返し口縁や隆帯をもたない単純口縁、25・26は内面折返し口縁で、ともに外面に文様が施されている。18は口縁部に二枚貝条痕を横位に施す。他の部位に二枚貝条痕は観察できないことから、この条痕は文様として施文されたと思われる。19～22は沈線文土器、23～26は刺突文土器である。27・28は胴部に刺突状の短沈線文が施される胴部片である。

第171図29～第172図26は、縄文施文の単純口縁と頸部片を集めた。全形は、第172図11のような寸胴器形と、12・19・21・23～25のような頸部がくびれる器形がある。後者はくびれが強いもの（23・25など）と弱いもの（12・19など）がある。口縁端部は、第171図30～37に刺突文が、第171図38～第172図２に縄文が施されている。なお、第171図37はコブ状の浮文が付されている。

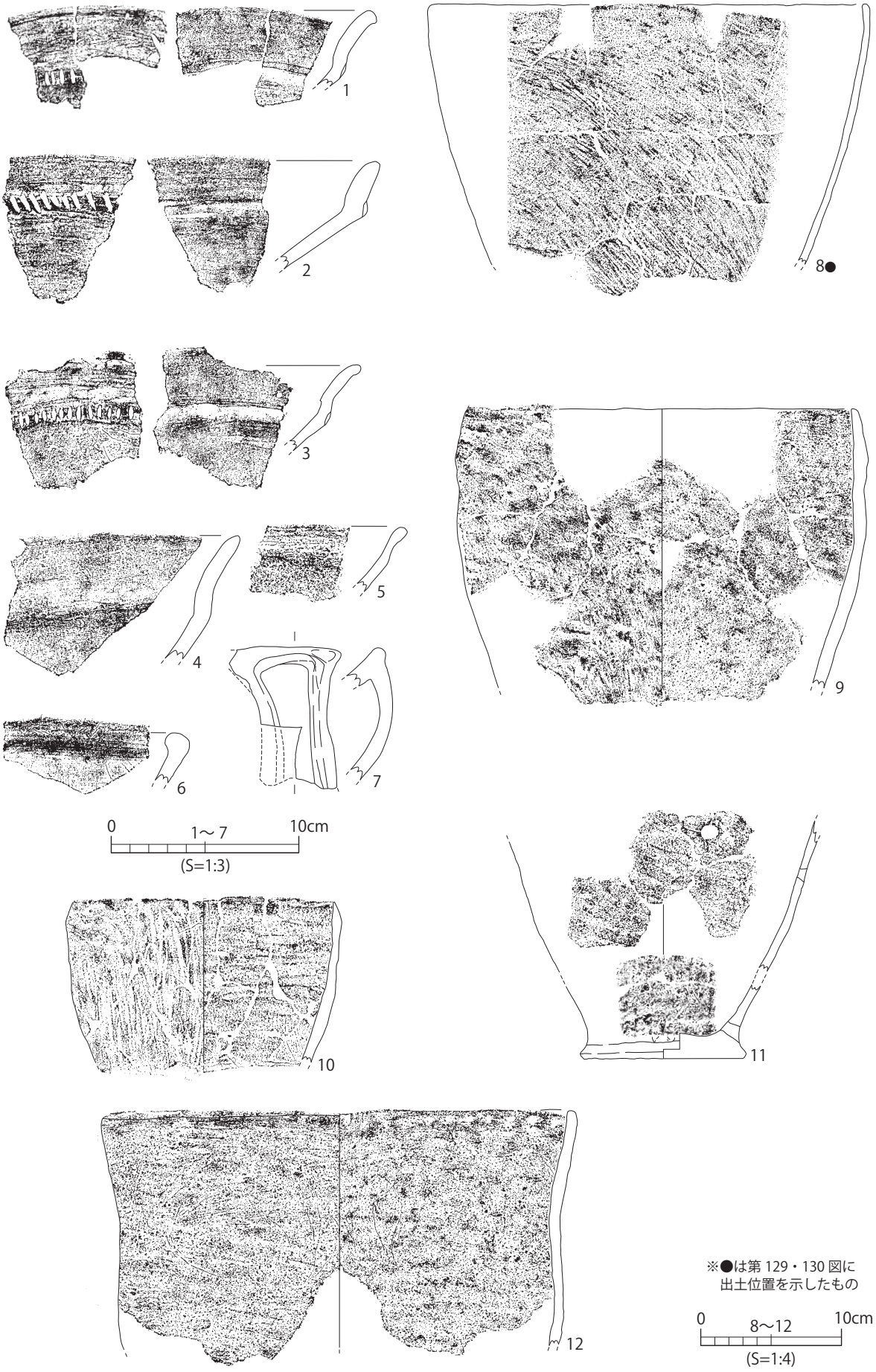
第173図16・18～第174図10は、船元式・波子式の底部である。底部は高台状を呈すもの（Ⅰ類　第173図16・18～28）、やや凹むもの（Ⅱ類　第174図９・10）、平底（Ⅲ類　第173図29～第174図８）がある。胴部には縄文が施されているものがほとんどだが、第173図16は無文である。縄文は施文されないものの、凹凸があるなど後期土器の底部と様相が違うため、中期と考えた。第174図10も無文で、非常に小型である。後期の可能性もある。第173図24～26、第174図１は底面にも縄文が施されている。また、第173図18・26の接地面、第174図２の底面には網代痕、第173図32には線状の圧痕、第174図６には木葉痕らしい圧痕がある。第173図30、第174図３の周縁にも線状の痕跡がみられるが、これは圧痕ではなく工具で引いたものと思われた。



第 175 図　12 層出土遺物（7）



第 176 図　12 層出土遺物（８）



第 177 図　12 層出土遺物（９）

中期末（第174図11 ～ 16、図版106） 11・13・16は口縁部が屈曲する器形である。11・13は口縁部に縄文、屈曲部に刺突文が施されている。16は地文に縄文、口縁部直下に刺突文、その下に対向する半円形文を交互に配している。12･14は地文に縄文を施し、沈線文が描かれている。

後期（第174図17 ～ 19・21・22、第175図５～第177図12、図版106 ～ 109） 第175図５～ 17、第176図18は暮地式の浅鉢、第175図19、第176図１は同深鉢である。第175図13は沈線間に充填縄文はなく、５～ 12、14 ～ 17は２本沈線磨消縄文で意匠が描かれている。８は磨消縄文帯に赤彩が塗布されている。15はボウル形、８・17はバケツ形である。第176図18は内面に段をもつ。

第176図２～ 13は布勢式併行の土器である。これらは沈線間に縄文を充填する磨消縄文だが、その他は沈線間に縄文はみられない。第176図２・４・６・７・10は深鉢で、４には小型の耳状突起、７には円板状突起が付されている。第176図３･10 ～ 13は浅鉢で、３がバケツ形、８～ 13はボウル形である。

第176図14 ～ 17、第177図１～７は、暮地式から布勢式併行にかけてのものと思われるが、型式を特定することができない。第176図14は壺で、肩部に段が付く。15は鉢で、肩部に段が付き、胴部に縄文が施される。17は底部まで沈線文が施される。第176図16、第177図１～５は肩部が屈曲する浅鉢、６は口縁部が内側に肥厚する浅鉢である。７は橋状把手で、把手上部が口縁部に接している無頸の器形を想定した。

第177図８～ 12は無文深鉢である。12は頸部がくびれる器形（Ⅰ類）、８～ 10は口縁部がやや内湾する寸胴器形（Ⅱ類）である。８・10の外面は巻貝条痕、10の内面は匙面条痕が顕著である。12の口縁部内面には指押圧痕がみられる。11は無文土器の下半で、平底（底部Ⅲ類）である。

第11表　12層出土の剥片石器集計表

器種	石材	黒曜石	サヌカイト	その他	計
石鏃	点数		12		12
	重量(g)		8.39		8.39
楔形石器	点数		2		2
	重量(g)		14.3		14.3
刺突具	点数	1			1
	重量(g)	2.31			2.31
石匙	点数		5		5
	重量(g)		100.67		100.67
刃器	点数		3		3
	重量(g)		82.43		82.43
石核	点数	1	1		2
	重量(g)	32.64	10.37		43.01
剥片(RF)	点数	2	24		26
	重量(g)	3.02	86.36		89.38
剥片(UF)	点数	1	6		7
	重量(g)	1.46	27.13		28.59
剥片チップ	点数	6	46		52
	重量(g)	17.85	115.99		133.84
	数計	11	199	0	110
	重量計	57.28	445.64	0	502.92

（2）石器

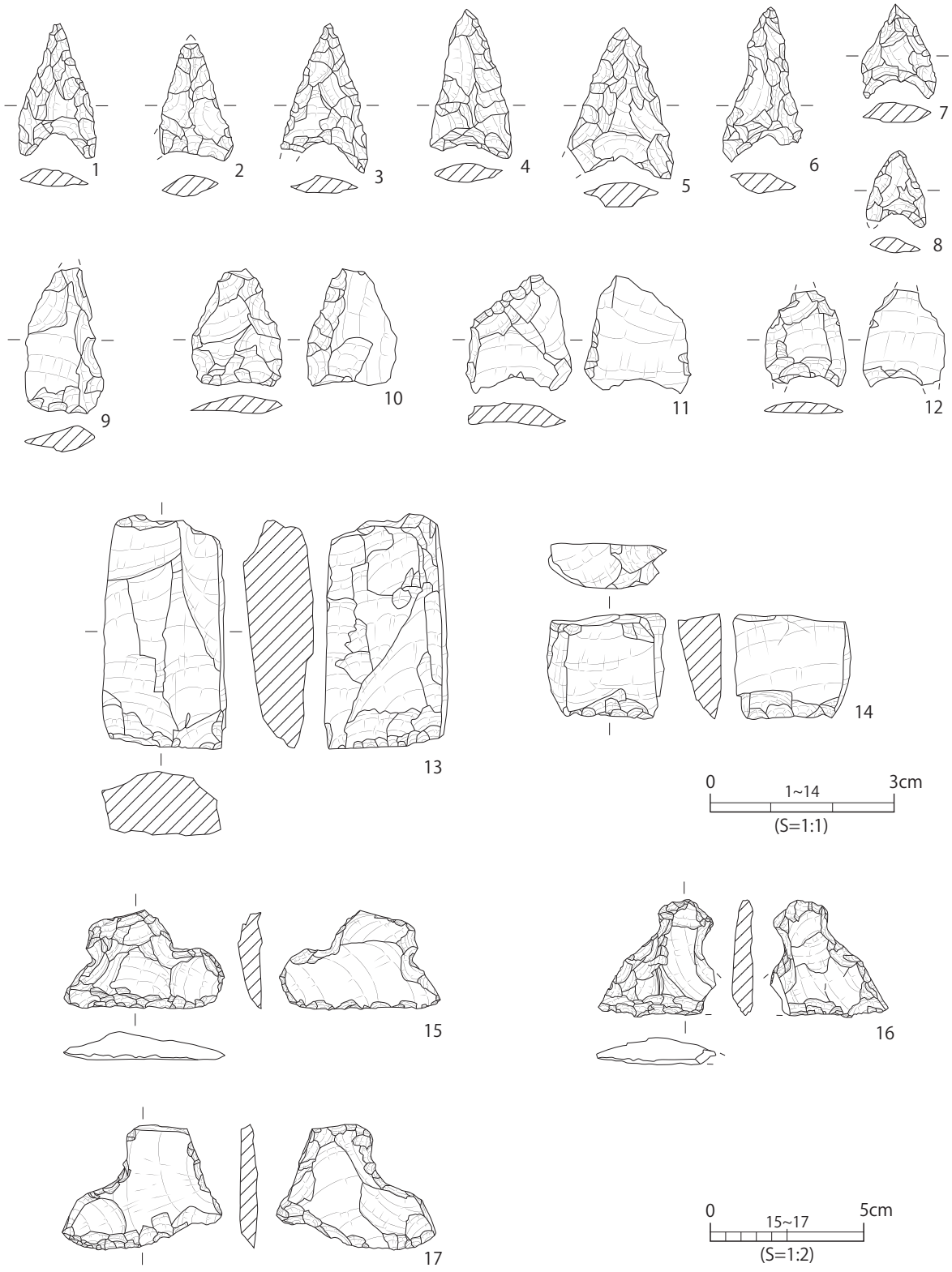
石鏃、楔形石器、刺突具、石匙、刃器二次加工のある剥片、使用痕のある剥片などの剥片石器、磨製石斧（製品・未成品）、打製石斧、磨石・叩石、石皿、石錘のほか、軽石加工品などが出土した（第29表、271頁）。目立つものとしては石錘と軽石加工品が挙げられる。石錘は41点、軽石加工品は30点と、ともに11層の２倍以上出土している（第131・132図）。磨製石斧未成品も45点出土しているが、11層に比べると４分の１以下である。工程ごとの点数および重量を第38表（308頁）に示す。出土位置も上位のものが多く、本来は11層に帰属するものと思われる（第132図）。剥片石器の石材は、サヌカイトと黒曜石である（第11表）。黒曜石11点57.28gに対してサヌカイト199点445.64gと、サヌカイトの使用率が高い。

石鏃（第178図１～ 12、図版110） 図示しなかったものを含めすべてサヌカイト製である。１～８が製品、９～ 12が未成品である。２・７の一部に礫面が残っている。

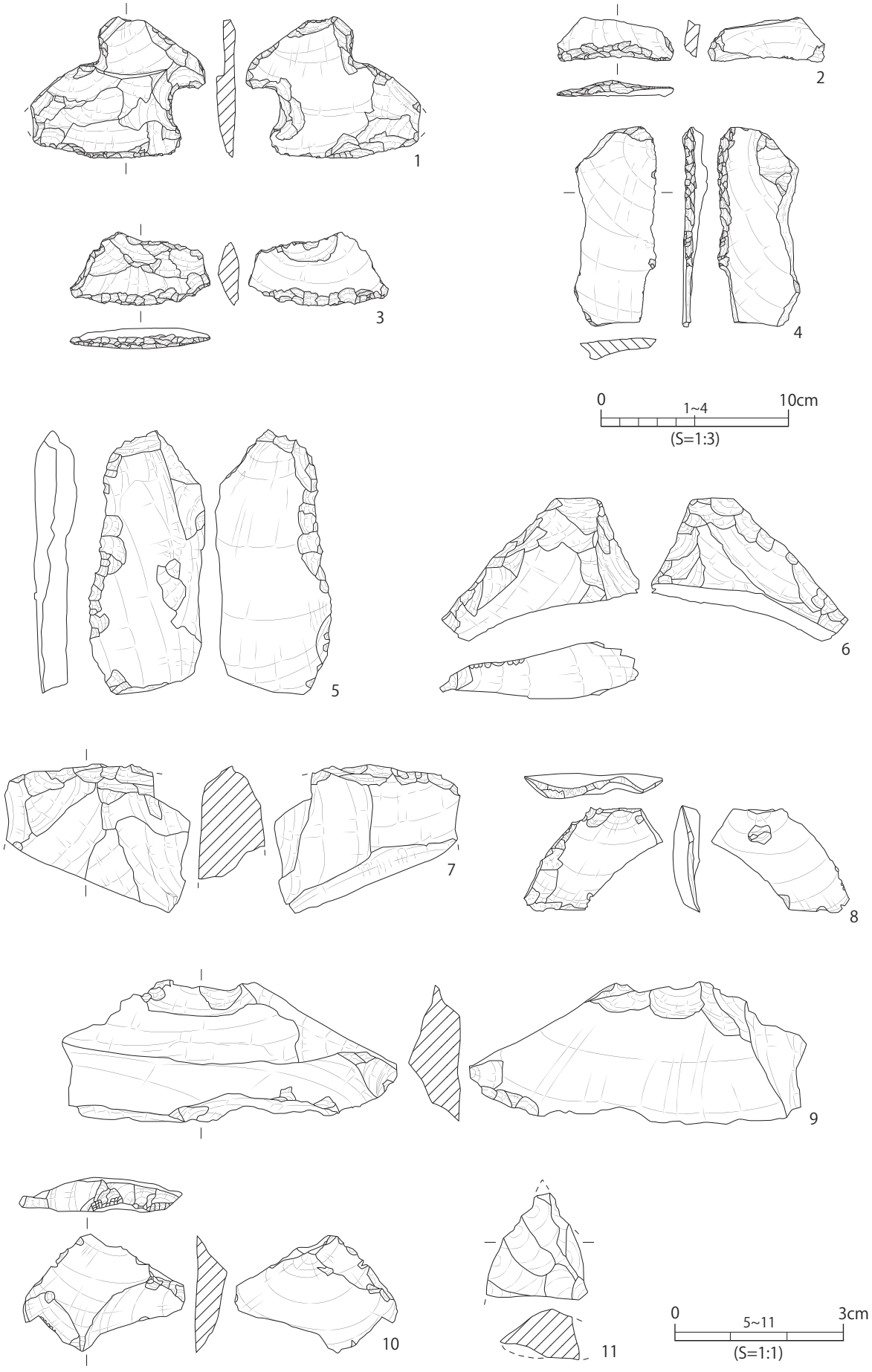
楔形石器（第178図13・14、図版110）　サヌカイト製が２点出土した。13は上下に、14は下端につぶれがみられる。14の上辺と左図右辺は分割したように思われる。

石匙（第178図15～第179図１、図版110）　サヌカイト製で、図示しなかったものを含めて５点出土した。いずれも頭部が大きく、刃部を再加工したと思われる。

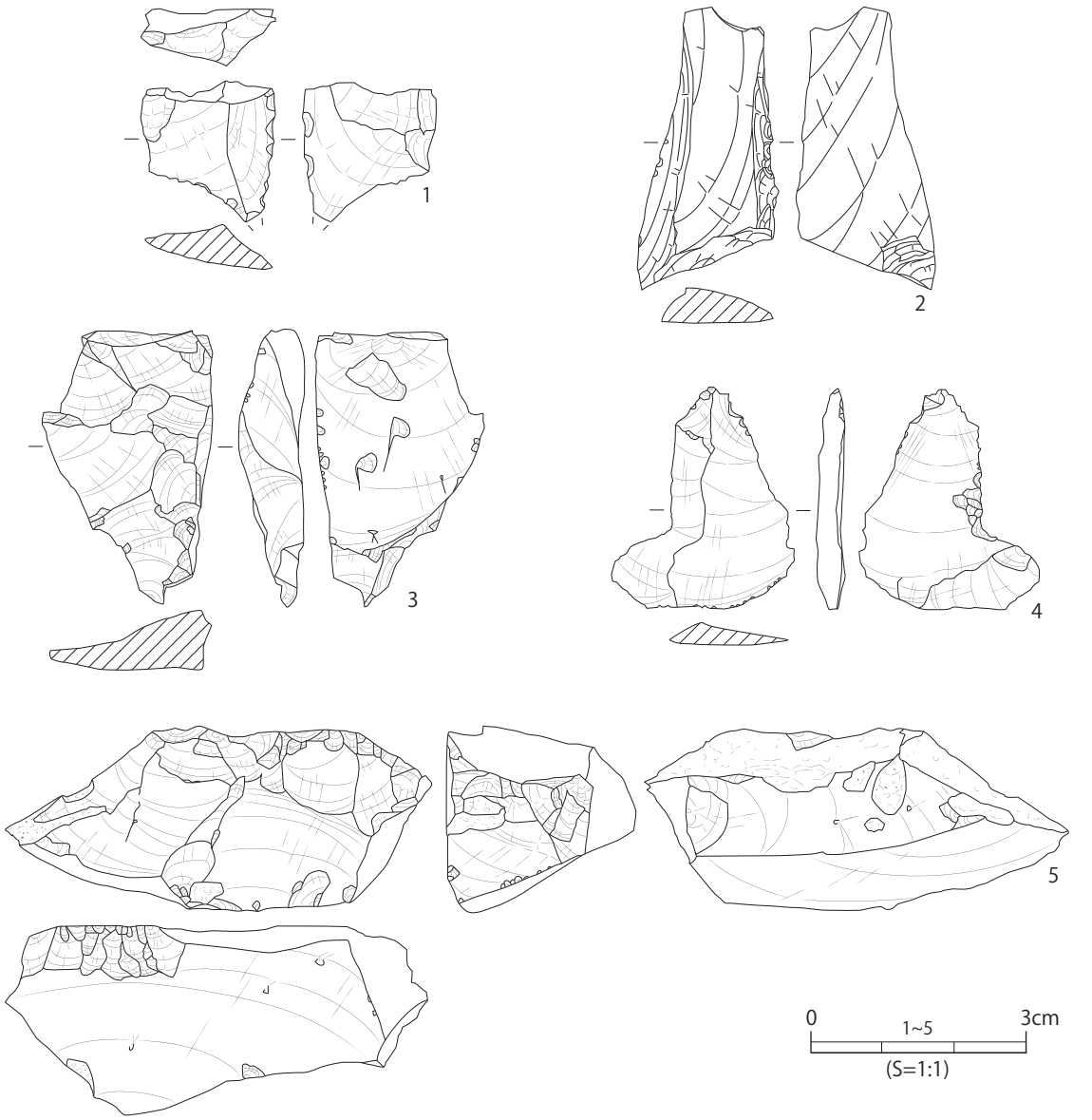
刃器（第179図２～４、図版110）　いずれもサヌカイト製である。２は上部が欠損しており、石匙の



第 178 図　12 層出土遺物（10）

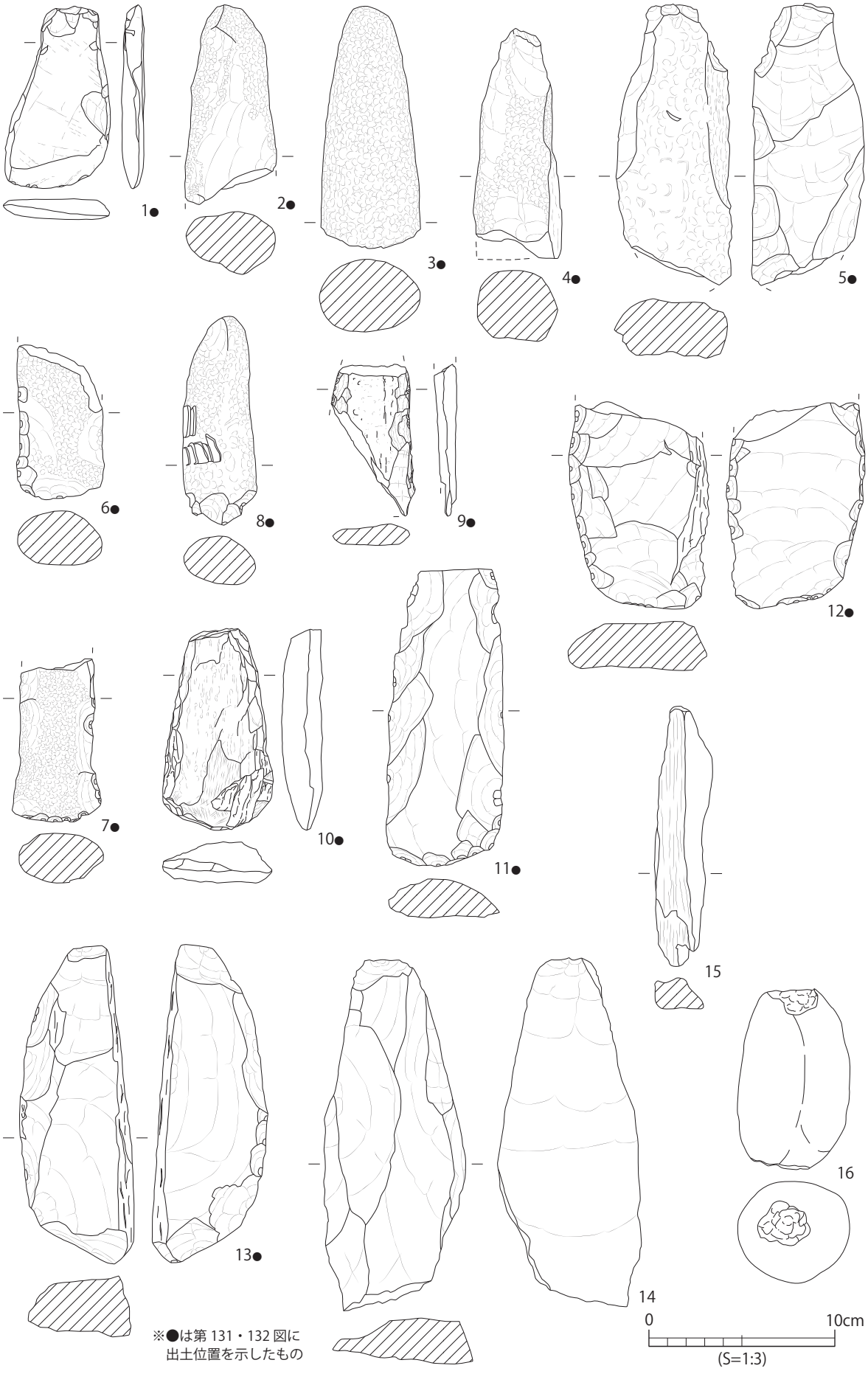


第 179 図　12 層出土遺物（11）

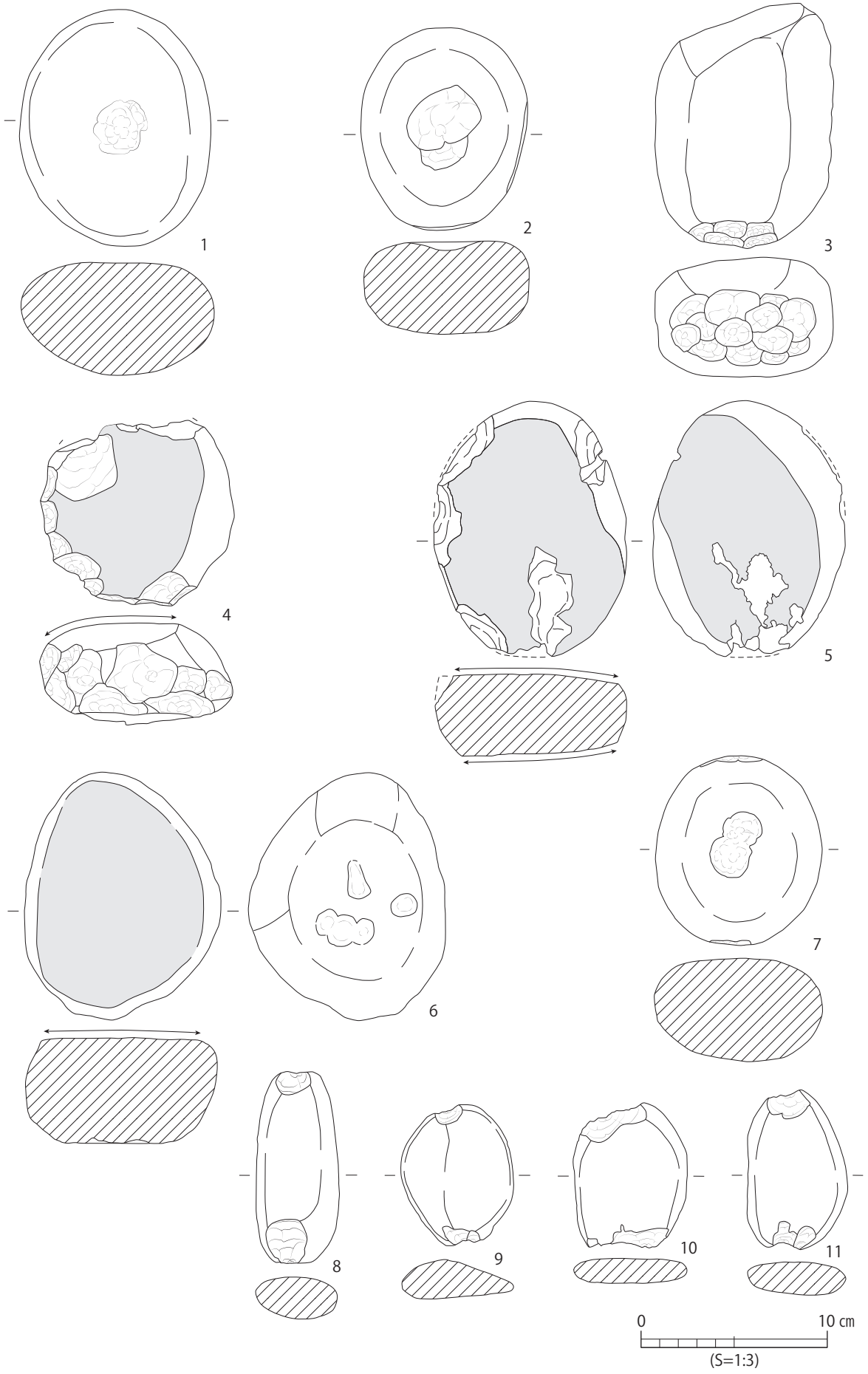


※●は第 131・132 図に
出土位置を示したもの

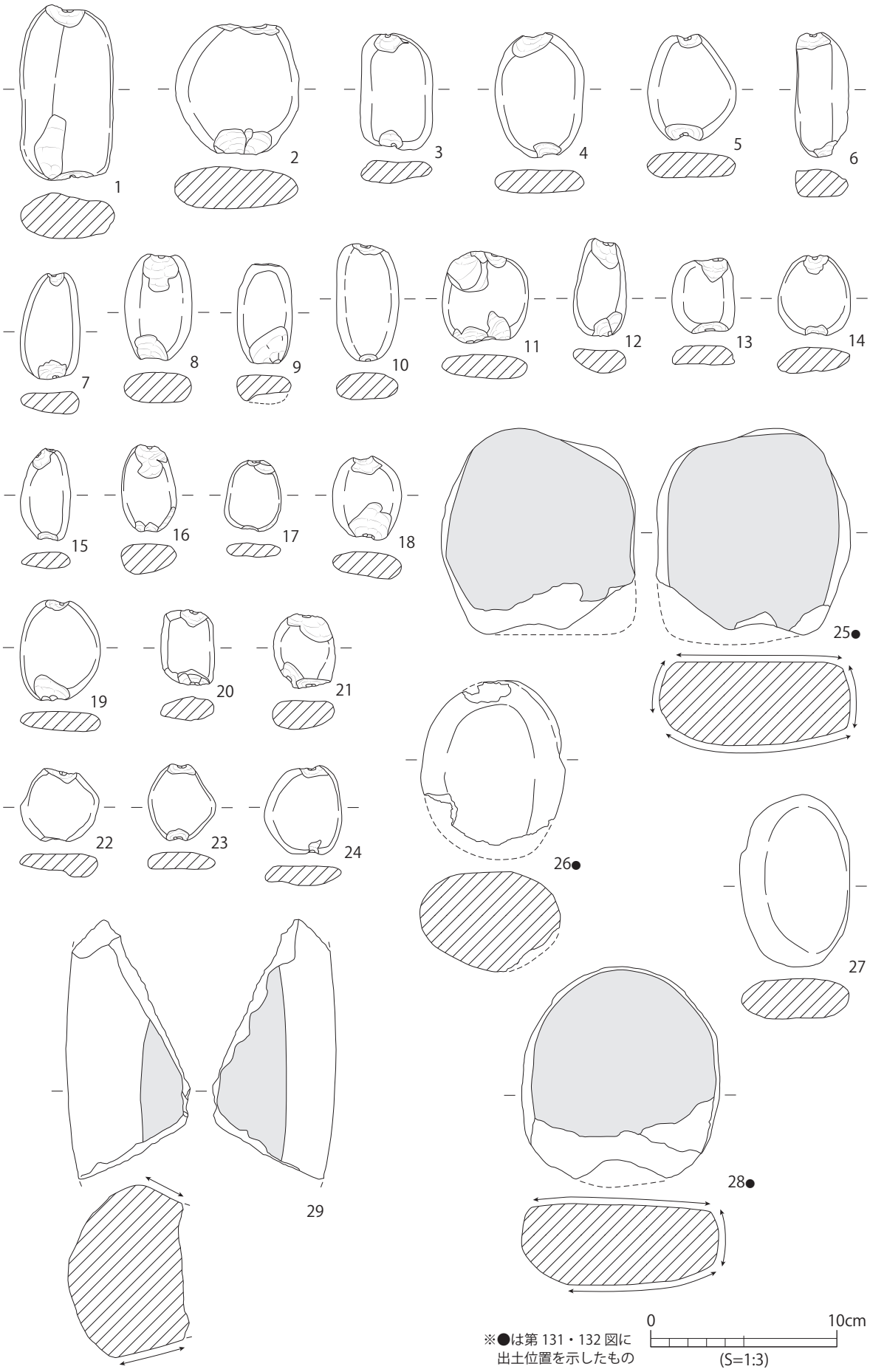
第 180 図　12 層出土遺物（12）



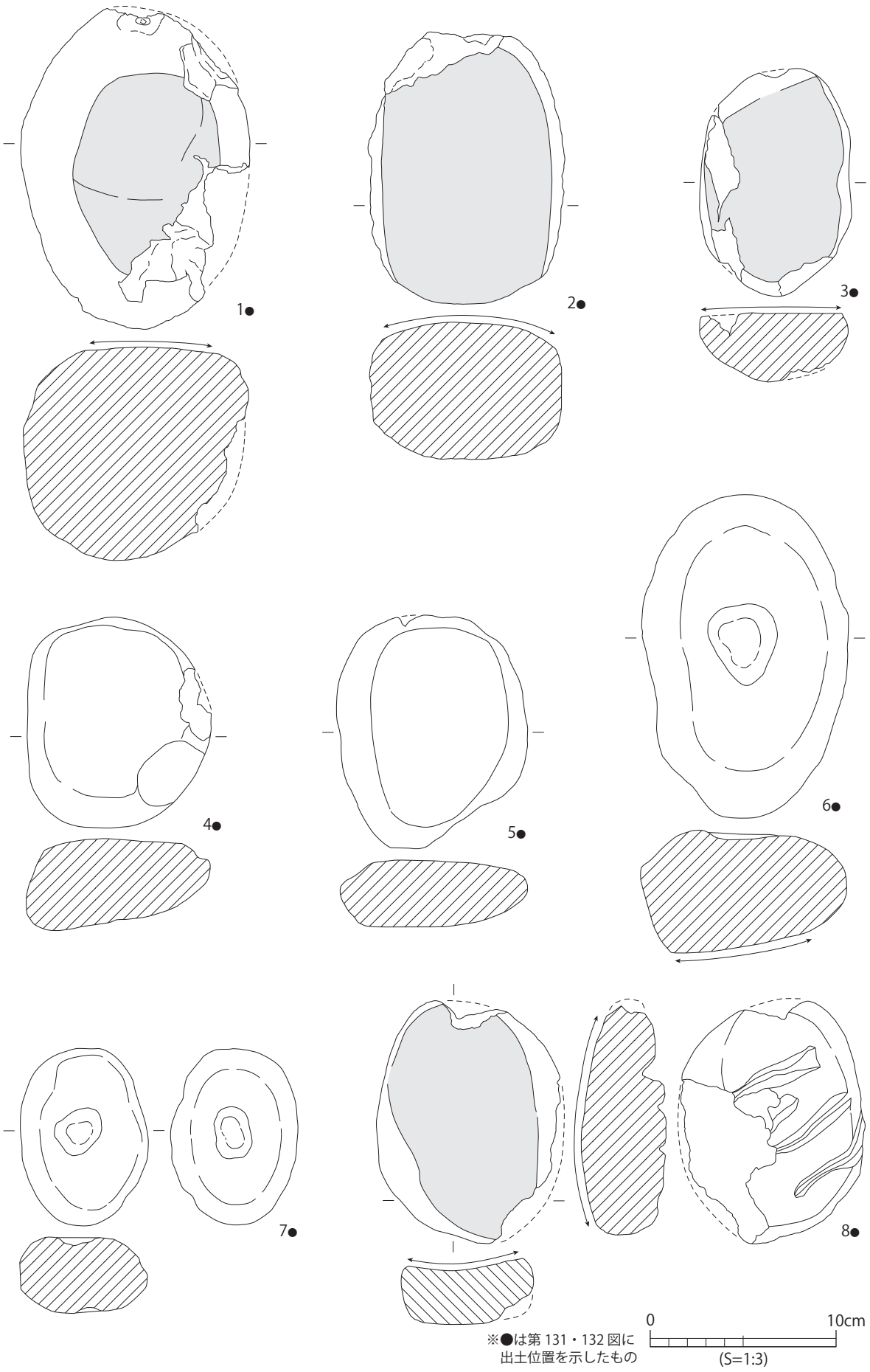
第 181 図　12 層出土遺物（13）



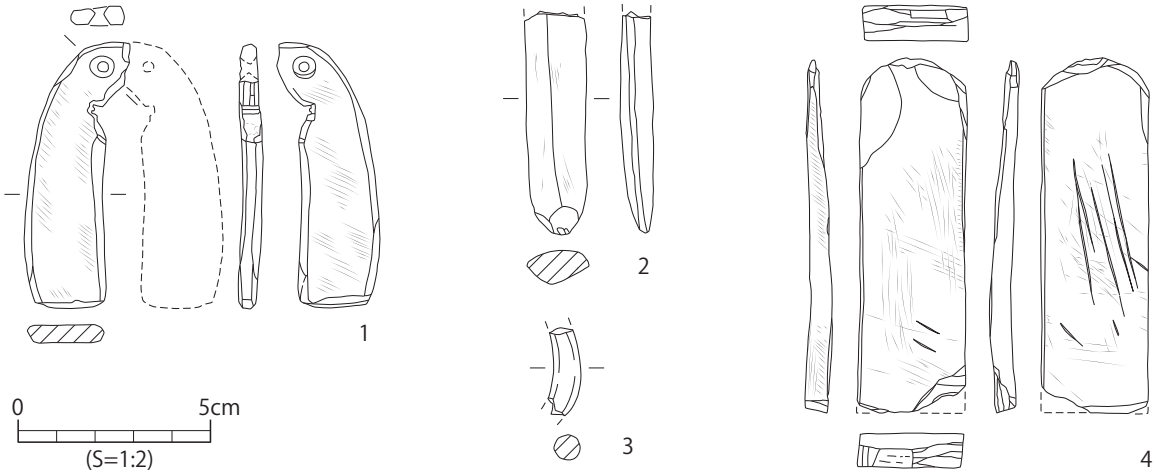
第 182 図　12 層出土遺物（14）



第 183 図　12 層出土遺物（15）



第 184 図　12 層出土遺物（16）



第 185 図　12 層出土遺物（17）

可能性もある。２は横長剥片の下端に、４は縦長剥片の側縁に刃部が作られている。

剥片（第179図５～10、第180図１～４、図版110）　第179図５～10は二次加工のある剥片で、図示しなかったものを含めて26点が出土している。石材はサヌカイト24点（86.36g）、黒曜石２点（3.02g）である。第180図１～４は使用痕のある剥片で、石材はサヌカイト６点（27.13g）、黒曜石２点（1.46g）である。

刺突具（第179図11、図版110）　黒曜石製である。大きく欠損しており、先端部分がわずかに残る。調整剥離は比較的丁寧である。

残核（第180図５、図版110）　黒曜石製である。上面は全面に礫面が残り、左図・中図上辺と下図上辺には小さな剥離がみられる。剥片剥離は左図にみられる。

磨製石斧（第180図６～第181図15、図版110～112）　塩基性片岩製の磨製石斧もしくはその未成品である。第180図７・８は全面、第180図６・第181図１は刃部に研磨が施され、完成品と思われる。第180図６は刃部以外には敲打痕・剥離面が残るが、刃部の研磨が丁寧であることから、刃部再生時の欠損と考えた。第181図１は刃部のみの研磨だが、他に欠損部がなく完形と思われる。塩基性片岩製ではないかもしれない。第180図９・10、第181図２～15は未成品である。第180図10・第181図10は研磨段階である。両者は刃部に研磨が施されるが刃部を形成するには至っていない。第180図10は敲打痕がみられず、敲打を経ずに研磨が開始された事例である。第180図９、第181図２～９は敲打段階である。第180図９、第181図２・３・６・８は敲打がほぼ終了した段階である一方、第181図４・５は剥離面が大きく残っている。同図11・12は剥離段階である。側面に敲打痕がみられるものの、大部分に剥離面が残る。13～15は素材と考えた。13は厚く、14は薄い。15は小型品である。

磨石・敲石（第181図16～第182図４、第182図７、図版112）　第181図16は硬質の軽石、ほかは花崗岩製で、いずれも河川礫を利用している。第182図１・２・７は表面中央に凹みがあり、４の表面は非常に滑らかになっている。３・４の側縁は打痕が顕著である。

石錘（第182図８～第183図24、図版112・113）　いずれも河川礫の両端を打ち欠いた打欠石錘で、最小が重量11.0g、最大が重量203.0gである。12層では20～59gの重量が52個と最も多く、70ｇ以上は少数出土するにとどまる。打欠部に摩滅がみられるものが多くあり、使用痕と思われる。図中では、第182図９・10、第183図１以外に摩滅が観察される。

石皿（第183図29、図版109）　残欠だが、上下面が平滑な使用面となっており、大きく凹む様子がうかがえる。側面もやや滑らかであるが、これが加工によるものか素材の形状なのかは不明である。

軽石加工品（第182図５・６、第183図25 ～ 28、第184図、図版112 ～ 114）　軟質の三瓶山起源の軽石を加工している。加工は主に表面の研磨で、第182図５・６、第183図25・26・28、第184図２・３・８の表面は特に平滑に研磨されている。また、それとは別に中央に孔を凹ませたもの（第184図６・７）、溝状に表面が掘られたもの（８）などがある。第182図５、第183図25には側面にも明らかな研磨痕があり、第184図２の側縁には打ち欠いた痕跡がみられる。これは軽石原石をそのまま使用したのではなく、整形の工程を経て使用されたことをうかがわせる。

（３）石製品・土製品

玦状耳飾（第185図１、図版114）　半楕円形を呈す頁岩製玦状耳飾で、1/2が欠損している。スリットは上部にまで及んでおり、スリット上部の孔は不整形である。頭部の孔は補修孔と思われる。全面、非常に丁寧に研磨されている。

不明石製品（第185図２、図版114）　鑿状の形状をした石製品で、全面研磨が施されているものの、研磨は不徹底である。一見、河川小礫にも見える。図示しなかった面では中央に明瞭な稜線（剥離稜線か）が残っている。

不明土製品（第185図３、図版114）　径約５mmの円柱状の土製品である。調整は比較的丁寧で、粘土焼塊などのように無作為に作られたものではないように思われる。やや弧状を呈しているため、環状の形態が想定できる。

砥石（第185図４、図版114）　両面ともに非常に平滑で、右面には深い研ぎ傷がみられる。形状から板石硯の可能性がある。縄文時代のものとは考えられず、層が収斂する自然堤防の高まり部分で出土したことから混込品の可能性が高い。

【註】

1　類例を探すと、山口県山口市吉永遺跡Ⅲの東地区 SB6（竪穴建物）に類例がある（山口県教育財団 1999）。全体的なプロポーションや口縁部形態、調整方法が類似しており、田畑直彦氏はこれを布留０式併行期に位置付けている（田畑2015）。

2　出雲市青木遺跡の12号墓周辺で古墳時代前期の合わせ口土器が出土している。この２個体は完形の土器が用いられているが、片方の壺の口縁部が打ち欠かれ逆位に被せていたようである。土器棺の可能性が指摘されているが、森原下ノ原遺跡例と同様に外面に煤が付着し、煮炊きでの使用がみとめられる（島根県教委 2006）。また、飯石郡飯南町の板屋Ⅲ遺跡の12号竪穴住居跡でも出雲Ⅴ－４様式の甕４個体分が口縁部と底部を連結させるように出土し、口縁部や底部を打ち欠いたものもあった。これも埋葬施設の可能性が指摘されているが、内部埋土の土壌分析では埋葬の痕跡を確認することができていない（島根県教委 1998）。

3　頸部と胴部の境が強く屈曲する特徴は一般的な山陰系の壺とは異なる特徴で、広島県安芸太田町の横路小谷１号墳などに類例がみられる（広島県教委 1982）。

4　2020年度の古墳出現期土器研究会において、森岡秀人氏に本例の絵画についてコメントをいただき、確証はないもののドラゴンと稲光の記号化したものではないかとの解釈をされている（市村 2020）。

5　匙面条痕とは、濵田竜彦氏が「擦痕」と呼んだものと同じで（濵田 2008）、起伏の激しい調整痕を残す。幅１cm 程度の幅広な調整痕で、断面形が凹面をなすことを特徴とする。原体は、肋条のない二枚貝の殻頂部、羅肋のない巻貝、小円礫などが考えられるが、詳細は不明である（柳浦 2021）。

6　原田遺跡２区 SI02（島根県教委 2006）や林原遺跡の土器溜まり３・７・８（島根県教委 2007b）などを例に、硬化面が住居跡認定の有力な根拠の一つとして捉えられている（柳浦 2017）。

第４章　自然科学分析

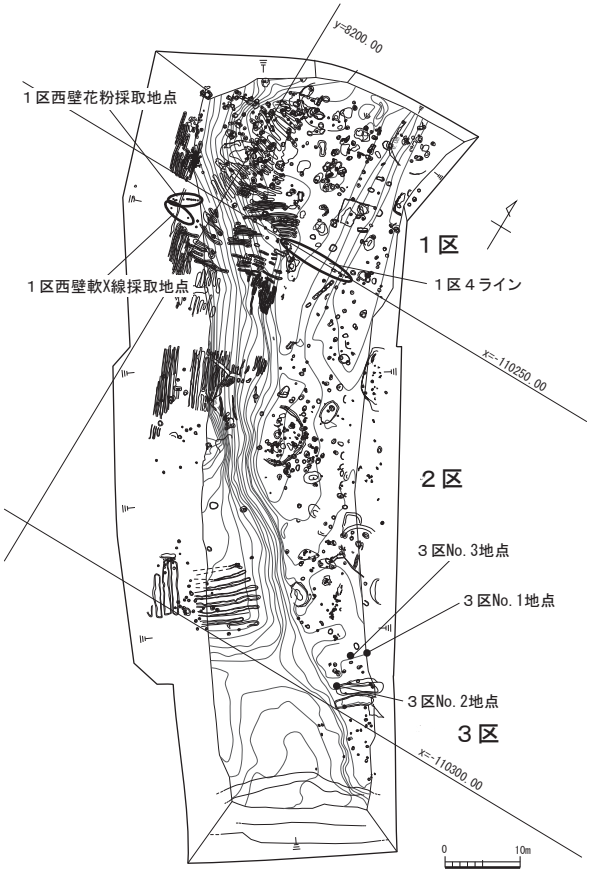
第１節　森原下ノ原遺跡(１、３区)発掘調査に伴う自然科学分析

渡辺正巳：文化財調査コンサルタント(株)

1.　はじめに

本報は文化財調査コンサルタント株式会社が、島根県教育庁埋蔵文化財センターからの委託を受け、遺跡内及び近辺での農耕を含む植生復元、地震痕跡及び生痕化石についての記載を目的として、令和元、２年度に森原下ノ原遺跡（１、３区）で実施・報告した花粉分析、植物珪酸体分析、軟Ｘ線写真観察、粒度分析に関する報告書を再編したものである。

森原下ノ原遺跡は、島根県西部、江津市松川町八神地内に位置し、1級河川江の川右岸(北岸)の河岸段丘上に立地する。



第 186 図　調査区平面図（試料採取地点）

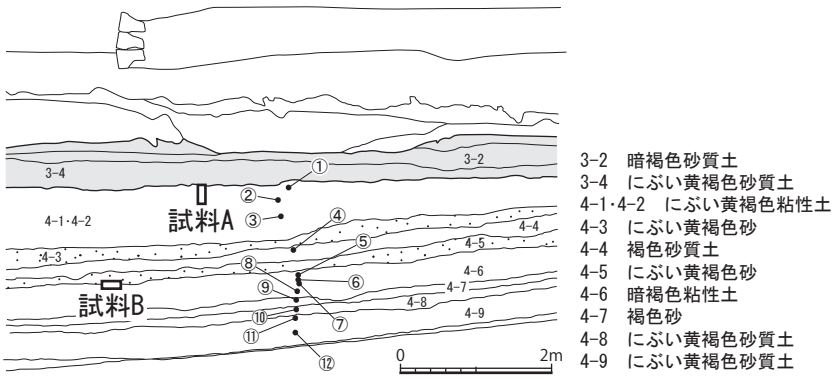
2.　分析試料について

調査区平面図（第186図）内に試料採取地点を示し、各地点の断面図（第187 ～ 190図）中に試料採取位置の詳細を示した。第187 ～ 190図中の①～（引き出し線先端の「・」）は花粉及び植物珪酸体分析用試料の採取位置、試料Ａ～Ｄの□は軟Ｘ線写真観察用試料のブロック試料採取位置、Ｓ１、２（引き出し線先端の「・」）は粒度分析用試料の採取位置を示す。分析試料は全て、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターとの協議の上、文化財調査コンサルタント(株)が採取した。使用した平面図及び断面図は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターより御提供を受けた原図をもとに、作成した。

3.　分析方法

（1）微化石概査方法

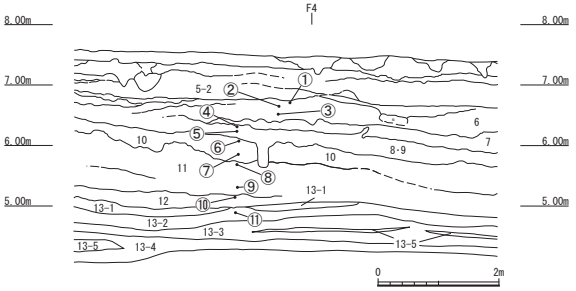
花粉分析用プレパラート及び花粉分析処理残渣を顕微鏡下で観察し、花粉（胞子）、植物片、微粒炭、珪藻、植物珪酸体、火山ガラスの含有状況を５段階で示した。



第 187 図　試料採取地点（１区西壁）

（2）花粉分析方法

渡辺（2010）に従って実施した。花粉化石の観察・同定は、光学顕微鏡により通常400倍で、必要に応じ600倍あるいは1000倍を用いて実施した。原則的に木本花粉総数が200粒以上になるまで同定を行い、同時に検出される草本・胞子化石の同定も行った。また中村（1974）に従ってイネ科花粉を、イネを含む可能性が高い大型のイネ科（40ミクロン以上）と、イネを含む可能性が低い小型のイネ科（40ミクロン未満）に細分した。

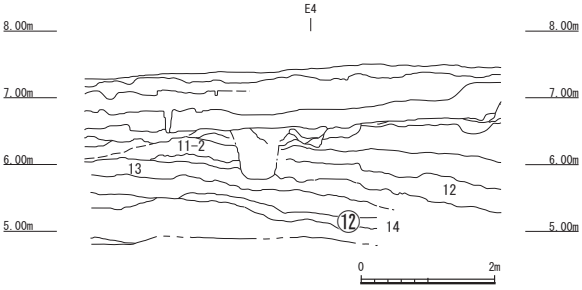


5-2 褐灰色砂質土（10YR4/1）しまり強い、ブロック状に色調が異なる。
6 褐灰色粘質土（10YR4/1）しまり非常に強い、焼土・炭粒を含む。弥生時代～古墳時代の遺構面。
7 淡黄色砂（2.5Y7/4）しまり非常に弱い、逆級化現象あり、氾濫堆積。
8-9 暗褐色粘質土～粘土（10YR3/3）しまり・粘性非常に強い、自然安定堆積。
10 にぶい橙色粘質土～粘土（10YR5/4）しまり・粘性非常に強い、粘土ブロック・炭粒を含む。自然安定堆積。
11 にぶい黄色橙色砂（10YR6/4）しまり弱い。
12 明黄褐色粘質土（10YR7/6）しまり強い、縄文時代遺構面。
13. 淡黄色砂～粘質土（2.5Y8/3）しまり・粘性弱い、無遺物層、流水により砂（13-1・3・5）と粘質土（13-2・4）が互層状に堆積

第188図　試料採取地点（１区４ライン東側）

（3）植物珪酸体分析方法

藤原（1976）のグラスビーズ法に従って実施した。プレパラートの観察・同定は、光学顕微鏡により通常400倍で、必要に応じ600倍あるいは1000倍を用いて実施した。同定に際して、母植物との対応が明らかな、イネ亜科の機動細胞を中心とした分類群（第12表）を対象とした。また、植物珪酸体と同時に計数したグラスビーズの個数が300を超えるまで、計数を行った。

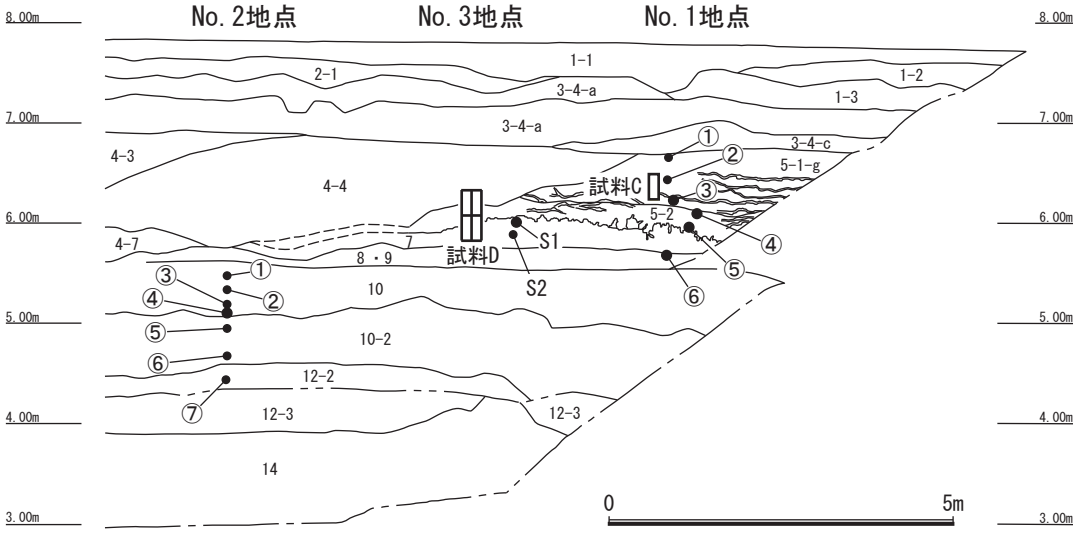


11-2 にぶい黄橙色砂（10YR6/4）しまり・粘性弱い、平面では 11-1 層と区別困難。
12 明黄褐色粘質土（10YR7/6）しまり強い、縄文時代遺構面。
13 淡黄色砂～粘質土（2.5Y8/3）しまり・粘性弱い、無遺物層、流水により砂（13-1・3・5）と粘質土（13-2・4）が互層状に堆積
14 灰オリーブ砂（5Y5/2）無遺物層、約 1,6000 年前の三瓶山噴出物である軽石粒を多く含む。

第189図　試料採取地点（１区４ライン西側）

（4）軟 X 線写真観察方法

渡辺（2020）に従って、軟X線写真撮影・観察及び記載を行った。記載に際して「土壌薄片記載ハ



1-1 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）しまり強い、粘性弱い。炭含む。表土。
1-2 にぶい黄褐色砂質土（10YR5/3）しまり強い、粘性弱い。炭含む。
1-3 にぶい黄褐色砂質土（10YR5/4）しまり強い、粘性弱い。炭含む。
2-1 にぶい黄褐色砂質土（10YR5/4）しまり強い、粘性弱い。耕作土。
3-4-a にぶい黄褐色砂（10YR5/4）しまり弱い、粘性弱い。
3-4-c にぶい黄褐色砂（10YR5/3）しまり非常に弱い、粘性非常に弱い。
4-3 にぶい黄褐色砂（10YR5/4）１区では薄いが、２・３区では厚く堆積する。大規模な氾濫堆積層。
4-4 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）しまりやや強い、粘性弱い。
4-7 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）しまりやや強い、粘性やや強い。
5-1-g 暗褐色砂質土（10YR3/4）しまりやや強い、粘性やや弱い。明瞭な脈状堆積あり。
5-2 黒褐色砂質土（10YR3/2）しまりやや強い、粘性やや弱い。炭含む。明瞭な脈状堆積あり。
7 褐色砂（10YR4/4）しまり弱い、粘性弱い。逆級化現象を確認。氾濫堆積層。
8·9 にぶい黄褐色粘土（10YR4/3）しまり非常に強い、粘性非常に強い。安定自然堆積。
10 暗褐色粘土（10YR3/3）しまり非常に強い、粘性非常に強い。安定自然堆積。
10-2 にぶい黄褐色粘土（10YR4/3）しまり強い、粘性強い。
12-2 褐色細粒砂混じりシルト
12-3 褐色細粒砂 灰オリーブ細粒砂
14 灰オリーブ砂（5Y5/2）非常に均一な砂。無遺物。

第190図　試料採取地点（３区）

ンドブック（久馬・八木，1989）」を参考にした。

（5）粒度分析方法

渡辺（2018a）に従って処理を行い、湿式ふるいで7つの粒度階級（礫以上（＞－１φ）・極粗粒砂（－１～０φ）・粗粒砂（０～１φ）・中粒砂（１～２φ）、細粒砂（２～３φ）・極細粒砂（３～４φ）・シルト以下（＜４φ））に分けた。その後乾燥試料全量に対する重量比を計算し、グラフを作成した。

第12表　植物珪酸体同定対象分類群

同定レベル	コード	分類群	対応する栽培植物
栽培植物との対応が明らかな分類群	1	イネ	イネ
	3	イネ籾殻（穎の表皮細胞）	イネ
	21	ムギ類（穎の表皮細胞）	コムギ・オオムギ
	41	オヒシバ属（シコクビエ型）	シコクビエ
	61	キビ族型	ヒエ・アワ・キビ
	62	キビ属型	キビ
	64	ヒエ属型	ヒエ
	66	エノコログサ属型	アワ
	84	ウシクサ族Ｂ	サトウキビ
	91	モロコシ属型	モロコシ
	93	ジュズダマ属型	ハトムギ
母植物との対応が明らかな分類群	11	サヤヌカグサ属	サヤヌカグサ・アシカキ
	13	マコモ属	マコモ
	31	ヨシ属	ヨシ
	33	ダンチク属	ダンチク
	35	ヌマガヤ属型	ヌマガヤ
	51	シバ属型	シバ属
	71	トダシバ属	トダシバ属
	81	ススキ属型	ススキ属
	83	ウシクサ族Ａ	チガヤ属など
	201	メダケ節型	メダケ節
	203	ネザサ節型	ネザサ節
	205	チマキザサ節型	チマキザサ節・チシマザサ節
	207	ミヤコザサ節型	ミヤコザサ節
	209	マダケ属型	マダケ属
	350	カヤツリグサ科（スゲ属など）	スゲ属
	390	シダ類	シダ類
	501	ブナ科（シイ属）	シイ類
	503	ブナ科（アカガシ亜属）	カシ類
	510	クスノキ科	バリバリノキなど（クスノキ以外）
	520	マンサク科（イスノキ属）	イスノキ属
	530	アワブキ科	アワブキ科
	540	モクレン属型	モクレン属
	570	マツ科型	マツ科
	580	マツ属型	マツ属

4.　分析結果

（1）微化石概査結果

微化石概査結果を第13表に示す。

１区では、微粒炭、植物珪酸体、火山ガラスの検出量はほとんどの試料で多かったものの、4ライン11-1層より下位では少ない傾向にあった。一方、花粉、植物片はいずれの試料でも検出できるが、検出量は極めて少なかった。珪藻はほとんどの試料で検出できなかったが、西壁4-8層では検出量がやや多かった。

３区では、いずれの試料でも微粒炭が多量に検出量できたほか、植物珪酸体、火山ガラスも試料によって多量に検出された。一方、花粉、植物片は１区と同様に、いずれの試料でも検出できるが、検出量は極めて少なかった。また、珪藻はほとんどの試料で検出できなかった。

（2）花粉分析結果

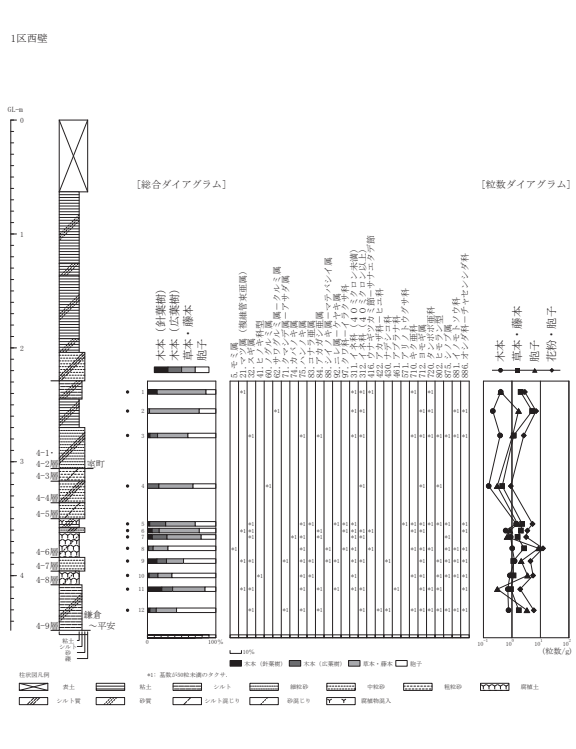
分析結果を花粉化石組成表（第14表）と花粉ダイアグラム（第191～193図）に示す。花粉ダイアグラムでは、分類ごとに百分率（百分率の算出では、木本花粉総数を基数にしている。）を算出し、分類群ごとに異なるハッチのスペクトルで表している。また左端に、分類群ごとの割合を示す「総合ダイアグラム」を、右端に分類群ごとに含有量（湿潤試料1g中の粒数）の変化を示す「粒数ダイアグラム」を配置している。

全ての試料で花粉・胞子化石含有量がやや少なく、草本花粉、胞子の割合が高く、木本花粉の割合が低い傾向にあった。このため、

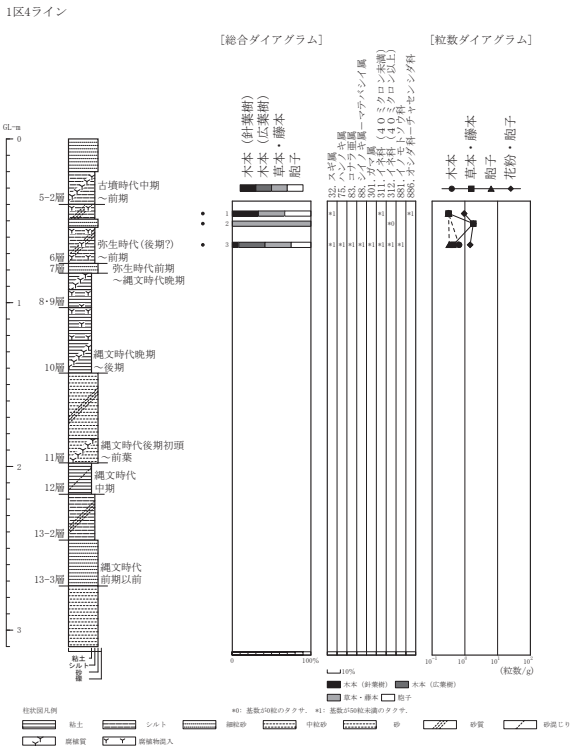
第13表　微化石概査結果

地区	地点		試料No.	地層名	花粉	微粒炭	植物片	珪藻	植物珪酸体	火山ガラス
1区	西壁		1	4-1･4-2層	△×	◎	△×	×	○	△
			2		△×	◎	△×	×	○	△
			3		△×	◎	△×	△×	○	○
			4	4-4層	△×	◎	△×	×	○	○
			5	4-6層	△×	◎	△	△×	○	○
			6		△×	◎	△	×	△	△
			7		△×	◎	△×	×	○	△
			8		△×	◎	△×	△×	◎	△
			9	4-7層	△	◎	△	△×	○	○
			10	4-8層	△×	◎	△×	○	◎	○
			11	4-9層	△×	◎	△×	×	◎	◎
			12		△×	◎	△×	×	○	○
	4ライン	東側	1	6層	△×	◎	△×	×	○	○
			2		△×	◎	△×	×	△	○
			3		△×	◎	△×	×	△	△
			4	8･9層	△×	◎	△×	×	○	△
			5		△×	◎	△×	×	△	△
			6	10層	△×	◎	△	×	◎	○
			7		△×	◎	△	×	△	△
			8	11層	△	○	△	×	△	○
			9		△×	△	△×	×	△	○
			10	12層	△×	△	△×	×	△	○
			11	13-2層	△	△	△×	×	△	○
		西側	1	14層	△×	△	△×	×	△	○
3区	No.1		1	5-1-g層	△×	◎	△×	△×	◎	◎
			2		△×	◎	△×	×	○	○
			3		△×	◎	△×	×	○	△
			4	5-2層	△×	◎	△×	×	◎	△
			5		△×	◎	△×	×	○	○
			6	8･9層	△	◎	△	×	○	○
	No.2		1	10層	△	◎	△	×	△	△
			2		△	◎	△	×	△	△
			3		△	◎	△	×	○	○
			4		△	◎	△	×	○	◎
			5	10-2層	△×	○	△×	×	◎	○
			6		△×	○	△×	×	△	○
			7	12-2層	△	○	△	×	○	◎

凡例 ◎：十分な数量が検出できる　○：少ないが検出できる　△：非常に少ない
△×：極めてまれに検出できる　×：検出できない



第 191 図　花粉ダイアグラム（１区西壁）



第 192 図　花粉ダイアグラム（１区４ライン東側）

統計処理に十分な量の木本花粉を検出することができなかった。

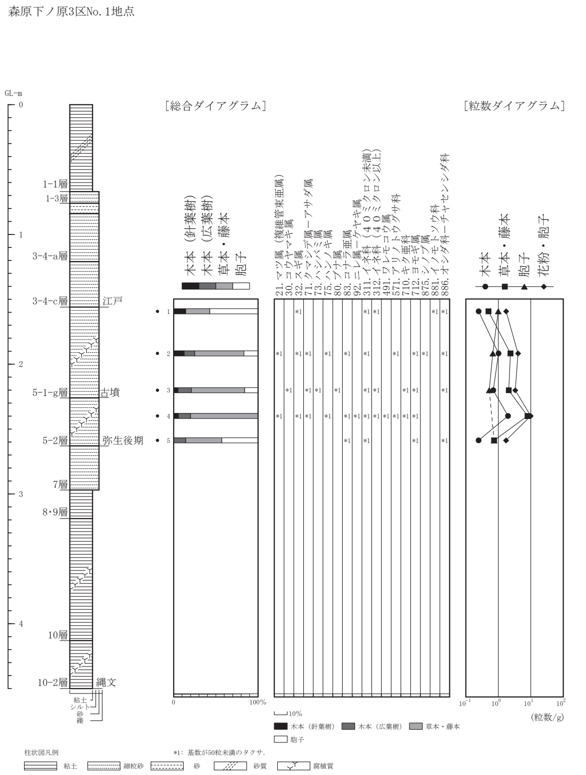
また、木本花粉ではスギ属、ハンノキ属が多くの試料から検出された。草本花粉ではイネ科（40ミクロン以上）、イネ科（40ミクロン未満）が多くの試料から検出された。胞子では、オシダ科-チャセンシダ科、イノモトソウ科の検出量が多かった。

（3）植物珪酸体分析結果

第12表に示した35分類群（栽培植物との対応が明らかな分類群）について同定・計数を行った。この結果、14分類群が検出され、計数を行った。植物珪酸体分析の結果を、第194 ～ 197図の植物

第14表－１　花粉化石組成表

調査区		1区															
調査地点		西壁															
試料No.		1		2		3		4		5		6		7		8	
		4-1・4-2層						4-4層				4-6層					
5 *Abies*	モミ属															1	20.0%
21 *Pinus*（*Diploxylon*）	マツ属（複維管束亜属）	2	100.0%									1	20.0%				
30 *Sciadopitys*	コウヤマキ属																
32 *Cryptomeria*	スギ属					1	25.0%			1	12.5%	1	20.0%	1	25.0%		
41 Cupressaceae type	ヒノキ科型																
60 *Platycarya*	ノグルミ属							1	100.0%								
62 *Pterocarya-Juglans*	サワグルミ属－クルミ属			1	100.0%												
71 *Carpinus-Ostrya*	クマシデ属－アサダ属																
73 *Corylus*	ハシバミ属																
74 *Betula*	カバノキ属													1	25.0%		
75 *Alnus*	ハンノキ属					1	25.0%			4	50.0%			1	25.0%	2	40.0%
80 *Fagus*	ブナ属																
83 *Quercus*	コナラ亜属					2	50.0%			1	12.5%						
84 *Cyclobalanopsis*	アカガシ亜属											1	20.0%	1	25.0%		
88 *Castanopsis-Pasania*	シイノキ属－マテバシイ属															1	20.0%
92 *Ulmus-Zelkova*	ニレ属－ケヤキ属									1	12.5%						
97 Moraceae-Urticaceae	クワ科－イラクサ科									1	12.5%	2	40.0%			1	20.0%
301 *Typha*	ガマ属																
311 Gramineae(<40)	イネ科（40ミクロン未満）	3	150.0%	15	1500.0%	3	75.0%			5	62.5%	7	140.0%	2	50.0%	6	120.0%
312 Gramineae(>40)	イネ科（40ミクロン以上）	4	200.0%	1	100.0%	1	25.0%	2	200.0%			5	100.0%	5	125.0%		
416 *Echinocaulon-Persicaria*	ウナギツカミ節－サナエタデ節	1	50.0%									1	20.0%			1	20.0%
422 Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科－ヒユ科																
430 Caryophyllaceae	ナデシコ科																
461 Cruciferae	アブラナ科																
491 *Sanguisorba*	ワレモコウ属																
571 Haloragaceae	アリノトウグサ科									1	12.5%						
710 Carduoideae	キク亜科	1	50.0%			2	50.0%			1	12.5%	1	20.0%			1	20.0%
712 *Artemisia*	ヨモギ属			1	100.0%	5	125.0%	1	100.0%	2	25.0%	3	60.0%			4	80.0%
720 Cichorioideae	タンポポ亜科	1	50.0%	7	700.0%	1	25.0%			4	50.0%					1	20.0%
802 *Urostachys sieboldii* type	ヒモラン型					1	25.0%	1	100.0%	2	25.0%						
875 *Davallia*	シノブ属					1	25.0%			2	25.0%			1	25.0%	3	60.0%
881 Pteridaceae	イノモトソウ科			2	200.0%	1	25.0%									4	80.0%
886 Aspid.-Asple.	オシダ科－チャセンシダ科			3	300.0%	5	125.0%			2	25.0%	2	40.0%			19	380.0%
898 MONOLATE-TYPE-SPORE	単条溝胞子	1	50.0%	2	200.0%			1	100.0%	2	25.0%			1	25.0%	12	240.0%
899 TRILATE-TYPE-SPORE	三条溝胞子	1	50.0%	1	100.0%	3	75.0%			1	12.5%	5	100.0%	1	25.0%	4	80.0%
木本（針葉樹）		2	14.3%			1	3.7%			1	3.3%	2	6.9%	1	7.1%	1	1.7%
木本（広葉樹）				1	3.0%	3	11.1%	1	16.7%	7	23.3%	3	10.3%	3	21.4%	4	6.7%
草本・藤本		10	71.4%	24	72.7%	12	44.4%	3	50.0%	13	43.3%	17	58.6%	7	50.0%	13	21.7%
胞子		2	14.3%	8	24.2%	11	40.7%	2	33.3%	9	30.0%	7	24.1%	3	21.4%	42	70.0%
総数		14		33		27		6		30		29		14		60	
含有量(粒数/g)		3		7		3		1		5		3		3		12	



第193図　花粉ダイアグラム（３区No.１地点）

珪酸体ダイアグラムと第15表の植物珪酸体分析組成表に示す。

植物珪酸体ダイアグラムでは、検出密度を分類群ごとにスペクトルで表している（イネ科（機動細胞）は黒、樹木起源は白のスペクトルで表した）。また、寒暖の指標である「メダケ率」と、関東地方での積雪量の指標である「チマキザサ節型／ミヤコザサ節型グラフ」を示した。

以下に、植物珪酸体（プラント・オパール）化石群集の特徴を、地点毎に示す。

①１区西壁

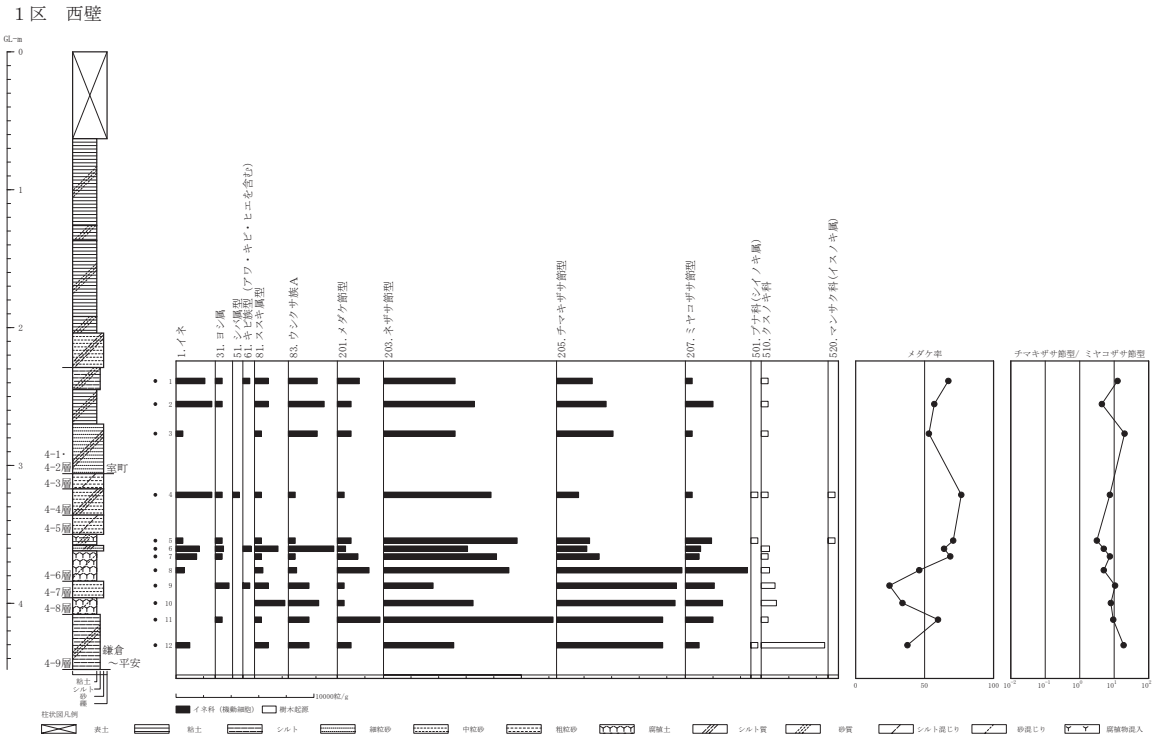
全体にササ類の検出量が多い。４-９層（試料№.12）～4-6層下部（試料№.8）ではネザサ節型とチマキザサ節型が拮抗し、チマキザサ節型の検出量がやや多い。一方4-6層上部（試料№.7）から上位ではチマキザサ節型の検出量が少なくなる。また、乾性のススキ属型、ウシクサ族Ａが下位から連続して、湿性のヨシ属が断続的に検出される。イネが多くの試料で検出されるが、栽培の目安とされる5000粒/gを超える試料はなかった。

木本では、最下位の4-9層下部（試料№.12）でクスノキ科が多量に検出されるものの、その他の試料では検出量が低い。シイノキ属は下部から中部で断続的に検出され、イスノキ属が中部で僅かに検出される。

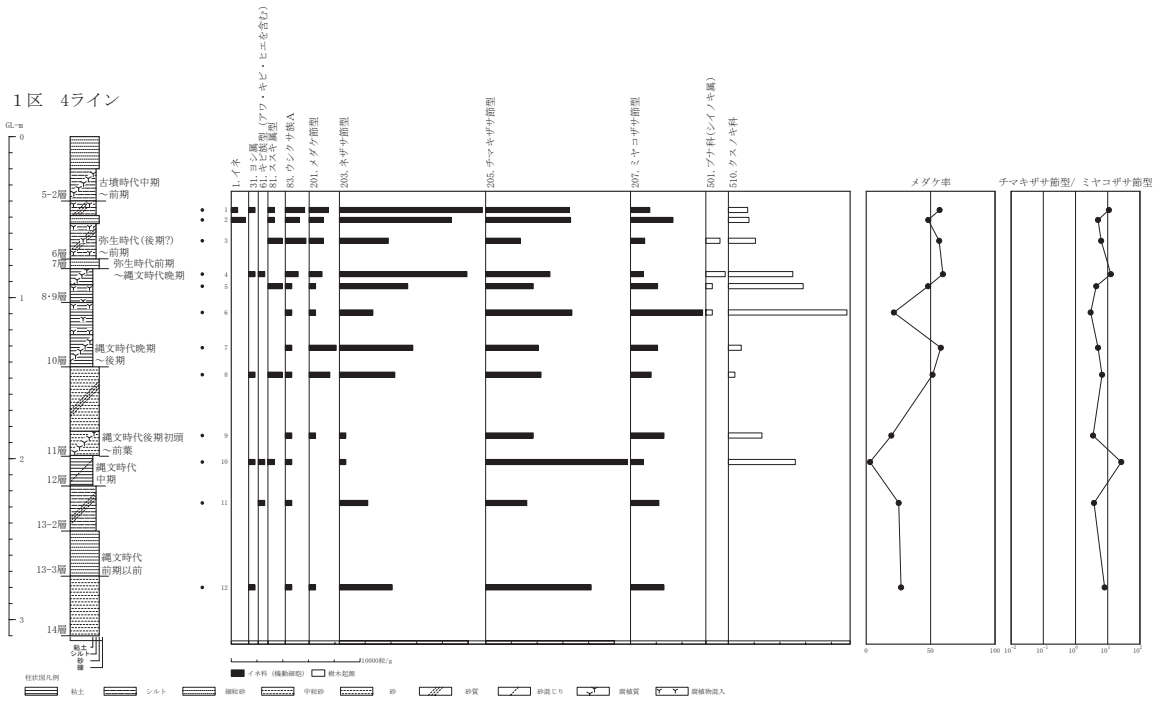
第14表－２　花粉化石組成表

							3区				
				4ライン			No.1地点				
9	10	11	12	1	2	3	1	2	3	4	5
4-7層	4-8層	4-9層		6層			5-1-g層			5-2層	
3 30.0%		2 28.6%						2 33.3%		1 14.3%	
									1 25.0%		
2 20.0%		2 28.6%	2 28.6%	3 100.0%		1 20.0%	1 100.0%	1 16.7%		1 14.3%	
	1 16.7%										
1 10.0%			1 14.3%					1 16.7%	1 25.0%	2 28.6%	
									1 25.0%		
1 10.0%	3 50.0%	1 14.3%	2 28.6%			1 20.0%		1 16.7%		1 14.3%	
									1 25.0%		
1 10.0%	2 33.3%					1 20.0%		1 16.7%		1 14.3%	1 100.0%
		1 14.3%	2 28.6%								
1 10.0%						2 40.0%					
1 10.0%		1 14.3%								1 14.3%	
						1 20.0%					
6 60.0%	1 16.7%	4 57.1%		3 100.0%		2 40.0%	1 100.0%	9 150.0%	8 200.0%	18 257.1%	1 100.0%
1 10.0%		2 28.6%	1 14.3%		1 –	1 20.0%	1 100.0%		2 50.0%	1 14.3%	
			3 42.9%								
1 10.0%			1 14.3%								
		1 14.3%									
										2 28.6%	
								1 16.7%		3 42.9%	
	1 16.7%		1 14.3%						1 25.0%	1 14.3%	
1 10.0%	6 100.0%	1 14.3%	5 71.4%					4 66.7%	1 25.0%	3 42.9%	2 200.0%
		1 14.3%	5 71.4%								
1 10.0%	4 66.7%	1 14.3%	3 42.9%								
2 20.0%	2 33.3%		3 42.9%					1 16.7%			
3 30.0%	4 66.7%		2 28.6%			1 20.0%	1 100.0%				
1 10.0%	9 150.0%	2 28.6%	10 142.9%	2 66.7%			2 200.0%	3 50.0%	3 75.0%		1 100.0%
4 40.0%	3 50.0%		5 71.4%	1 33.3%							2 200.0%
6 60.0%	3 50.0%		8 114.3%			2 40.0%	1 100.0%				
5 13.9%	1 2.6%	4 21.1%	2 3.7%	3 33.3%		1 8.3%	1 14.3%	3 12.5%	1 5.3%	2 5.7%	
5 13.9%	5 12.8%	3 15.8%	5 9.3%			4 33.3%		3 12.5%	3 15.8%	5 14.3%	1 14.3%
9 25.0%	8 20.5%	9 47.4%	16 29.6%	3 33.3%	1 100.0%	4 33.3%	2 28.6%	14 58.3%	12 63.2%	28 80.0%	3 42.9%
17 47.2%	25 64.1%	3 15.8%	31 57.4%	3 33.3%		3 25.0%	4 57.1%	4 16.7%	3 15.8%		3 42.9%
36	39	19	54	9	1	12	7	24	19	35	7
4	6	2	6	1	2	1	2	4	3	10	2

左よりカウント粒数、百分率



第 194 図　植物珪酸体ダイアグラム（１区西壁）

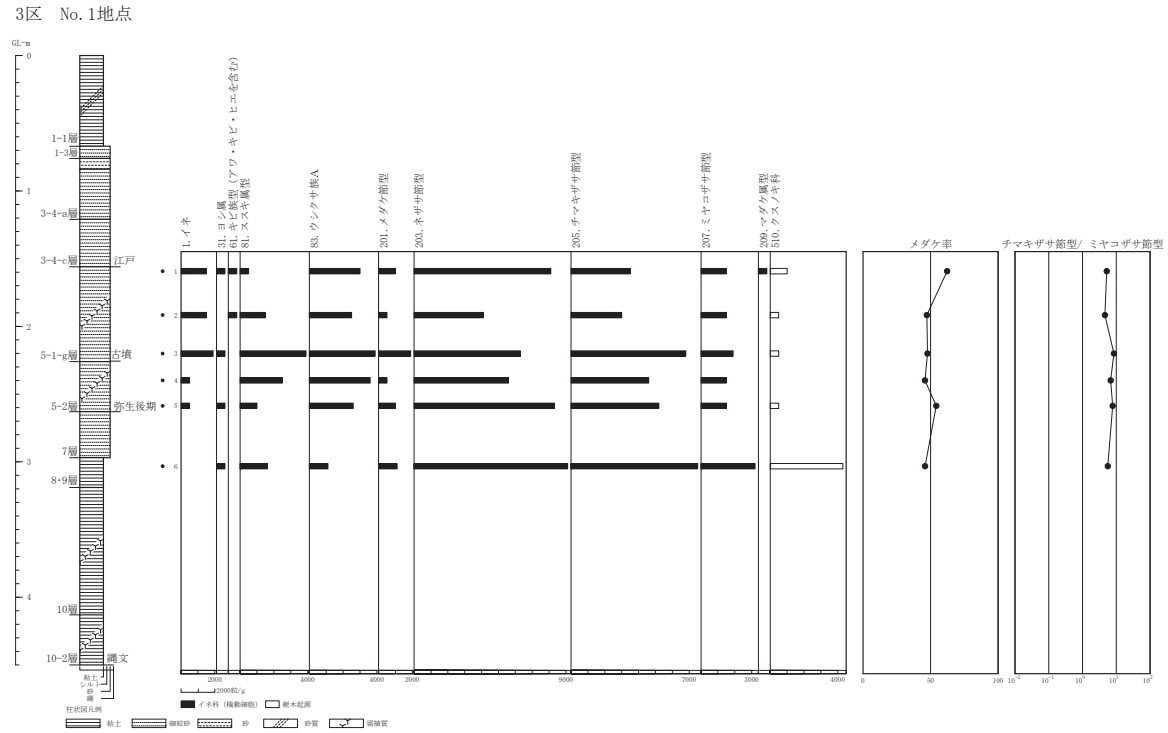


第 195 図　植物珪酸体ダイアグラム（１区４ライン）

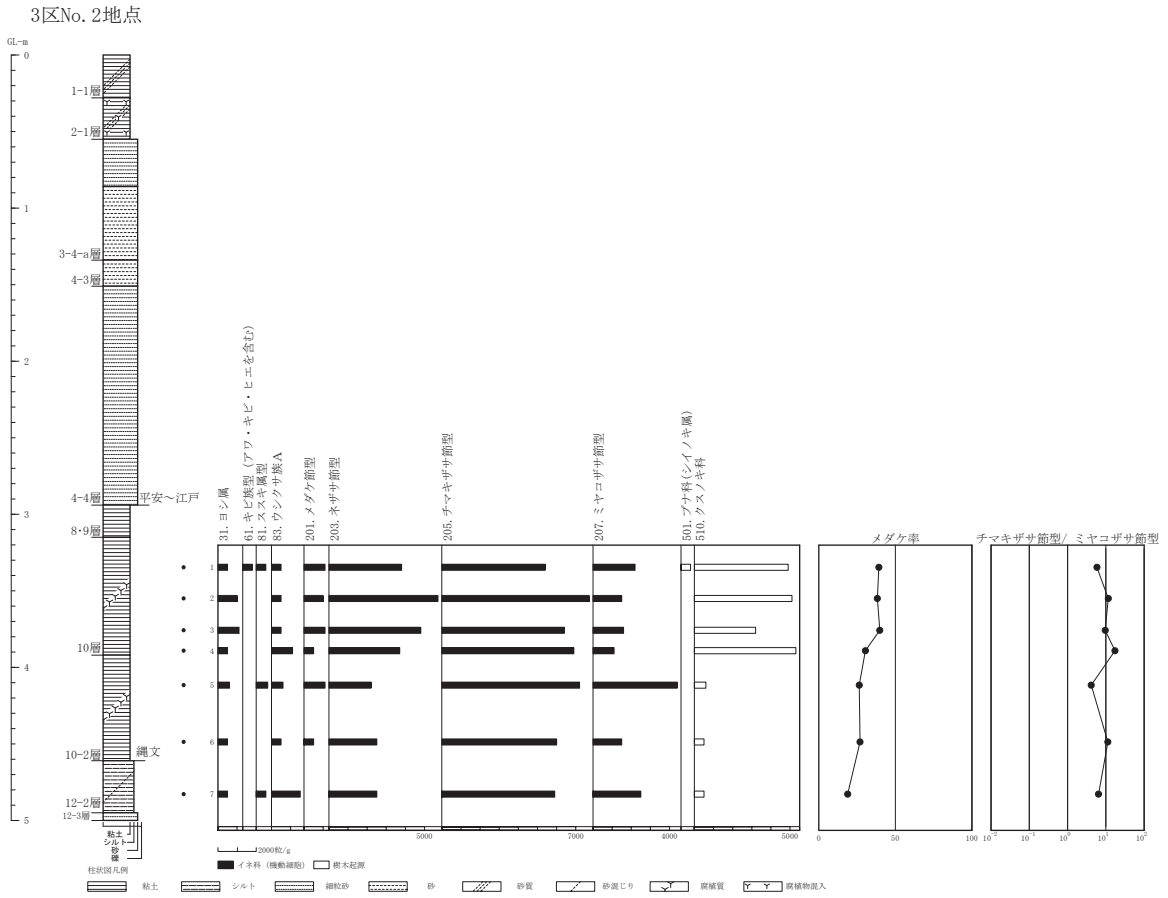
②１区４ライン

全体にササ類の検出量が多く、特にチマキザサ節型の検出量が多い。一方11層上部（試料№8）から上位ではネザサ節型が増加傾向を示し、チマキザサ節型より検出量が多くなる。また、湿性のヨシ属や乾性のススキ属型、ウシクサ族Ａが下位から断続的に検出され、６層上部（試料№2、1）では検出量は低いもののイネが検出される。

木本では、12層（試料№10）から上位でクスノキ科が、10層上部（試料№6）～６層下部（試料№3）でシイノキ属が検出された。



第 196 図　植物珪酸体ダイアグラム（３区No.１地点）



第 197 図　植物珪酸体ダイアグラム（３区No.２地点）

③３区No.２地点

３区ではNo.１地点がNo.２地点の上位に位置することから、下位から上位に向け特徴を示し、植物珪酸体化石群集の時間的な変遷を示す。

第15表－1　植物珪酸体化石組成表

調査地区		1区																	
調査地点		西壁												4号					
試料No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	No.1					
		4-1・4-2層			4-4層	4-6層				4-7層	4-8層	4-9層		6層			8・9層		10層
1	イネ	4	5	1	5	1	3	3	1	–	–	–	2	1	2	–	–	–	–
		21	26	5	26	5	17	15	6	–	–	–	10	5	11	–	–	–	–
		0.61	0.75	0.15	0.76	0.14	0.49	0.45	0.17	–	–	–	0.30	0.15	0.32	–	–	–	–
31	ヨシ属	1	1	–	1	1	1	1	–	2	–	1	–	1	–	–	1	–	–
		5	5	–	5	5	6	5	–	10	–	5	–	5	–	–	5	–	–
		0.33	0.32	–	0.33	0.31	0.35	0.32	–	0.65	–	0.32	–	0.32	–	–	0.31	–	–
51	シバ属型	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
		–	–	–	5	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
		–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
61	キビ族型	1	–	–	–	–	1	–	–	1	–	–	–	–	–	–	1	–	–
		5	–	–	–	–	6	–	–	5	–	–	–	–	–	–	5	–	–
		–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
81	ススキ属型	2	2	1	1	1	3	1	1	2	4	1	2	1	1	2	–	2	–
		10	10	5	5	5	17	5	6	10	22	5	10	5	5	11	–	11	–
		0.13	0.13	0.06	0.06	0.06	0.20	0.06	0.07	0.13	0.27	0.06	0.13	0.06	0.07	0.13	–	0.13	–
83	ウシクサ族A	4	5	4	1	1	6	1	1	3	4	3	3	3	2	3	2	1	1
		21	26	21	5	5	33	5	6	15	22	15	15	15	11	16	10	5	5
		–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
201	メダケ節型	3	2	2	1	2	1	3	4	1	1	6	2	3	2	2	2	1	1
		16	10	10	5	10	6	15	23	5	5	31	10	15	11	11	10	5	5
		0.18	0.12	0.12	0.06	0.11	0.06	0.18	0.26	0.06	0.06	0.36	0.12	0.17	0.13	0.12	0.12	0.06	0.06
203	ネザサ節型	10	13	10	15	20	11	16	16	7	12	24	10	22	16	7	20	10	5
		52	66	52	78	97	61	82	91	36	65	123	51	111	87	38	99	53	26
		0.25	0.32	0.25	0.37	0.47	0.29	0.39	0.44	0.17	0.31	0.59	0.25	0.53	0.42	0.18	0.48	0.25	0.12
205	チマキザサ節型	5	7	8	3	5	4	6	16	17	16	15	15	13	12	5	10	7	13
		26	36	41	16	24	22	31	91	87	86	77	77	65	66	27	50	37	67
		0.19	0.27	0.31	0.12	0.18	0.17	0.23	0.68	0.65	0.65	0.58	0.58	0.49	0.49	0.20	0.37	0.28	0.50
207	ミヤコザサ節型	1	4	1	1	4	2	2	8	4	5	4	2	10	19	6	16	10	20
		5	20	5	5	19	11	10	45	21	27	20	10	15	33	11	10	21	56
		0.016	0.061	0.015	0.016	0.058	0.033	0.031	0.136	0.062	0.081	0.061	0.031	0.045	0.098	0.032	0.030	0.063	0.169
209	マダケ属型	1							–	–	–	–	–	–					
		5							–	–	–	–	–	–					
		–							–	–	–	–	–						
209	マダケ属型	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
		–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
		–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
501	ブナ科(シイノキ属)	–	–	–	1	1	–	–	–	–	–	–	1	–	–	2	3	1	1
		–	–	–	5	5	–	–	–	–	–	–	5	–	–	11	15	5	5
		–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
510	クスノキ科	1	1	1	1	–	1	1	1	2	2	1	9	3	3	4	10	11	18
		5	5	5	5	–	6	5	6	10	11	5	46	15	16	21	50	58	92
		–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
520	マンサク科(イスノキ属)	–	–	–	1	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
		–	–	–	5	5	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
		–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
プラント・オパール総数		222	271	201	207	283	237	255	414	272	312	343	292	317	349	193	367	327	415
カウントガラスビーズ数		461	472	467	470	490	463	465	458	469	468	462	464	469	466	469	490	464	477
カウント総数		683	743	668	677	773	700	720	872	741	780	805	756	786	815	662	857	791	892
試料重量(×0.0001g)		8960	8970	8810	8750	8990	8570	8960	8860	8800	8520	8960	8980	8950	8330	8530	8970	8730	8790
ガラスビーズ重量(×0.0001g)		234	237	232	233	235	239	233	252	232	235	232	234	231	232	235	239	234	235
メダケ率(%)		67.2	57.0	53.1	76.6	70.7	64.1	68.6	46.1	24.5	33.9	59.7	37.5	56.9	48.1	56.6	59.5	48.0	21.4
チマキザサ節型/ミヤコザサ節型		12.50	4.38	20.00	7.50	3.13	5.00	7.50	5.00	10.63	8.00	9.38	18.75	10.83	5.00	6.25	12.50	4.38	2.95

上段　検出粒数
中段　検出密度(単位:×100粒/g)
下段　推定生産量(単位:kg/㎡・cm)

ササ類の検出量が多く、特にチマキザサ節型の検出量が多かったが、上位に向かいネザサ節型の検出量が多くなる傾向が認められた。

ヨシ属、ウシクサ族Aが全試料から検出されたほか。キビ族型(キビ、アワ、ヒエを含む)、ススキ属型が僅かに検出された。

木本では全試料でクスノキ科が検出され、特に10層(試料№4～1)で高い検出量を示し、シイノキ属も10層上部(試料№1)から検出された。

④3区№1地点

ササ類の検出量が多いが、ササ類の組成に変化が認められた。下位の№2地点で検出量の多かったチマキザサ節型は減少傾向を示し、ネザサ節型の検出量が多くなる。

イネが5-2層(試料№5)より上位で連続して検出され、5-1-g層(試料№3、2)では1500～1900粒/gとなる。ススキ属型、ウシクサ族Aは連続して検出され、下位に比べ高い検出量を示す。キビ族型の検出量は少ないが、5-1-g層上部(試料№2)より上位では連続して検出された。また、ヨシ属は断続的に検出された。

木本花粉ではクスノキ科が8・9層(試料№6)で高い検出量を示すが、5-2層(試料№5)より上位では急減する。

(4)軟X線写真観察結果

第198～201図に、軟X線写真観察結果を示す。以下では、試料ごとに観察結果を記載する。

①試料A(1区西壁):第198図

上端に僅かに3-4層を含み、多くは4-1・4-2層である。4-1・4-2層では層相変化が激しく。4-1・

第15表－２　植物珪酸体化石組成表

						3区												
イン 地点					No.2地点	No.1地点						No.2地点						
7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	7
	11層		12層	13-2層	14層	5-1-g層			5-2層		8·9層	10層				10-2層		12-2層
–	–	–	–	–	–	3	3	4	1	1	–	–	–	–	–	–	–	–
–	–	–	–	–	–	15	15	19	5	5	–	–	–	–	–	–	–	–
–	–	–	–	–	–	0.45	0.45	0.57	0.15	0.15	–	–	–	–	–	–	–	–
–	1	–	1	–	1	1	–	1	–	1	1	1	2	2	1	1	1	1
–	5	–	5	–	5	5	–	5	–	5	5	5	10	11	5	6	5	5
–	0.34	–	0.33	–	0.32	0.32	–	0.31	–	0.33	0.34	0.34	0.65	0.68	0.34	0.35	0.32	0.31
–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
–	–	–	1	1	–	1	1	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–
–	–	–	5	5	–	5	5	–	–	–	–	5	–	–	–	–	–	–
–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
–	2	–	1	–	–	1	3	8	5	2	3	1	–	–	–	1	–	1
–	11	–	5	–	–	5	15	39	25	10	16	5	–	–	–	6	–	5
–	0.13	–	0.06	–	–	0.06	0.19	0.48	0.32	0.13	0.20	0.07	–	–	–	0.07	–	0.06
1	1	1	1	1	1	6	5	8	7	5	2	1	1	1	2	1	1	3
5	5	5	5	5	5	30	25	39	36	26	11	5	5	5	11	6	5	15
–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
4	3	1	–	–	1	2	1	4	1	2	2	2	2	2	1	2	1	–
21	16	5	–	–	5	10	5	19	5	10	11	11	10	11	5	11	5	–
0.24	0.19	0.06	–	–	0.06	0.12	0.06	0.22	0.06	0.12	0.12	0.13	0.12	0.12	0.06	0.13	0.06	–
11	8	1	1	4	8	16	8	13	11	16	17	7	11	9	7	4	5	5
57	43	5	5	22	41	81	41	63	56	83	91	38	57	48	37	22	25	25
0.27	0.21	0.03	0.03	0.10	0.20	0.39	0.19	0.30	0.27	0.4	0.44	0.18	0.27	0.23	0.18	0.11	0.12	0.12
8	8	7	21	6	16	7	6	14	9	10	14	10	15	12	13	13	12	12
41	43	37	110	32	82	35	30	68	46	52	75	54	77	64	69	72	60	59
0.31	0.32	0.28	0.82	0.24	0.61	0.26	0.23	0.51	0.34	0.39	0.56	0.41	0.58	0.48	0.52	0.54	0.45	0.45
16	21	8	7	2	9	3	3	4	3	3	6	4	3	3	2	8	3	5
21	16	26	10	22	26	15	15	19	15	15	32	22	15	16	11	44	15	25
0.062	0.048	0.079	0.031	0.065	0.077	0.05	0.05	0.06	0.05	0.05	0.1	0.07	0.05	0.05	0.03	0.13	0.04	0.07
–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
–	–	–	–	–	–	5	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
–	–	–	–	–	–	5	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–
–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	5	–	–	–	–	–	–
–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
2	1	5	10	–	–	2	1	1	–	1	8	9	10	6	10	1	1	1
10	5	26	52	–	–	10	5	5	–	5	43	49	51	32	53	6	5	5
–	–	–	–	–	–	–	–	–		–	–	–	–	–	–	–	–	–
–	–	–	–	–	–	–	–	–		–	–	–	–	–	–	–	–	–
–	–	–	–	–	–	–	–	–		–	–	–	–	–	–	–	–	–
–	–	–	–	–	–	–	–	–		–	–	–	–	–	–	–	–	–
243	268	196	272	114	215	328	234	411	305	310	457	320	344	289	276	265	205	213
476	459	453	493	463	478	490	480	510	490	494	472	461	481	460	469	461	477	491
719	727	649	765	577	693	818	714	921	795	804	929	781	825	749	745	726	682	704
8730	8860	8940	8320	8640	8700	8790	8770	8740	8610	8420	850	8500	8650	8830	8540	8510	8970	8790
235	239	235	235	237	233	238	234	236	235	235	236	233	234	238	233	237	234	234
57.9	51.5	19.5	2.9	25.2	27.0	62.2	47.2	47.7	45.8	54.2	45.9	39.2	38.2	39.8	30.4	26.4	26.9	18.8
5.00	6.67	3.50	26.25	3.75	8.00	5.20	4.60	8.50	6.80	7.80	5.60	5.86	11.60	9.60	17.33	4.15	11.25	6.43

4-2層上部は下部に比べやや細粒である。

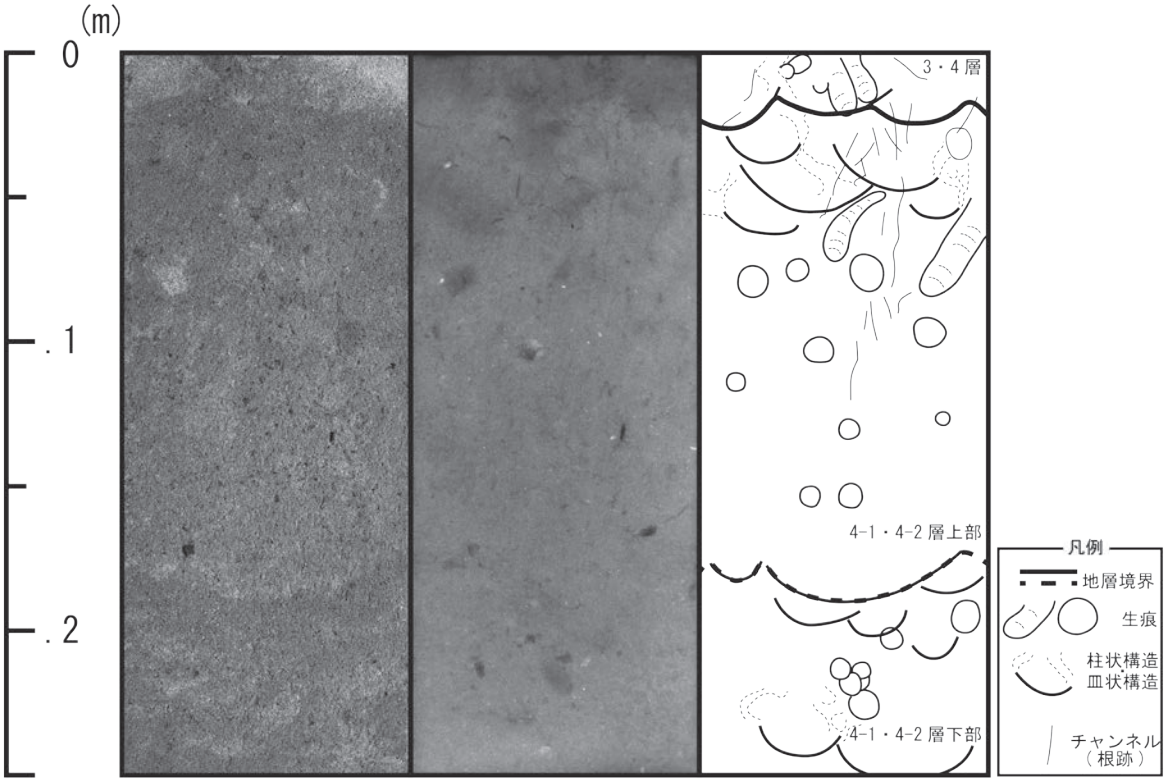
4-1・4-2層は、上下に２分できる。4-1・4-2層の下部は砂質シルトで、上部に比べ色調が暗い。皿状構造と柱状構造(「皿状構造」と「柱状構造」は､「Dish(皿) and Pillar(柱) Structures(構造)」と称される液状化(脱水過程)に起因する構造と類似する｡)が、特に上部との境界で顕著に認められる。また、生痕と考えられる同心円状のペドフィーチャー(ファブリックフィーチャー)が多く認められる。4-1・4-2層の上部は下部に比べやや細粒になる。下方では生痕と考えられる同心円状のペドフューチャーが多く認められる。上方では皿状構造と柱状構造が、特に上部との境界で顕著に認められる。また、生痕(巣穴、あるいは土壌内でのはい跡)と考えられる同心円状のペドフィーチャー(ファブリックフィーチャー)や、通路状フィーチャーが認められる。

3-4層は細砂で、下位の4-1･4-2層境界には皿状構造が顕著に認められる。また、生痕(巣穴、あるいは土壌内でのはい跡)と考えられる同心円状のペドフィーチャー(ファブリックフィーチャー)や、通路状フィーチャーが認められる。

② 試料B(1区西壁)：第199図

上部が4-5層、下部が4-6層である。

4-6層は細砂質シルトで、色調は暗い。皿状構造が顕著に認められる。また左側に、上位の4-5層から伸びる生痕(巣穴、あるいは土壌内でのはい跡：通路状フィーチャー)が認められる。全体に細砂が不定形の小ブロックで混在する。これらの小ブロックは、上位の4-5層からの生物擾乱に起因するものと考えられる。4-5層は細～中粒砂で、不定形で暗色の小ブロックが混在する。皿状構造と柱状構造のほか、生痕(巣穴、あるいは土壌内でのはい跡)と考えられる同心円状のペドフィーチャー(ファブリックフィーチャー)や、通路状フィーチャーも多数認められる。不定形で暗色の小ブロック

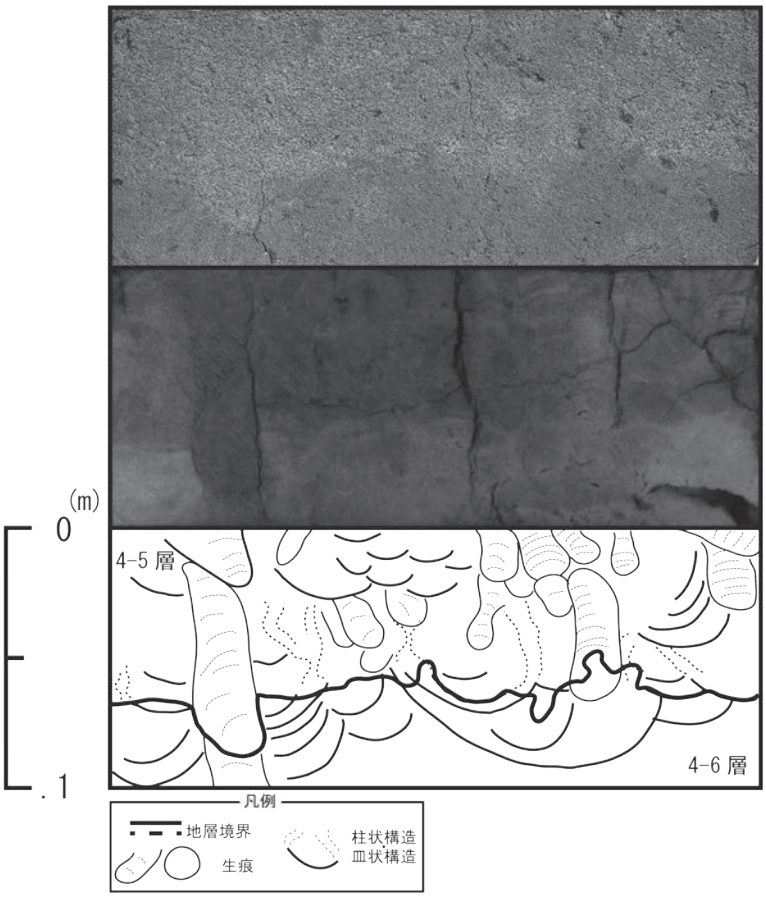


第198図　1区西壁試料A軟X線写真観察結果

は、柱状構造や生物擾乱に伴い下位の4-6層から巻き上がったものと考えられる。

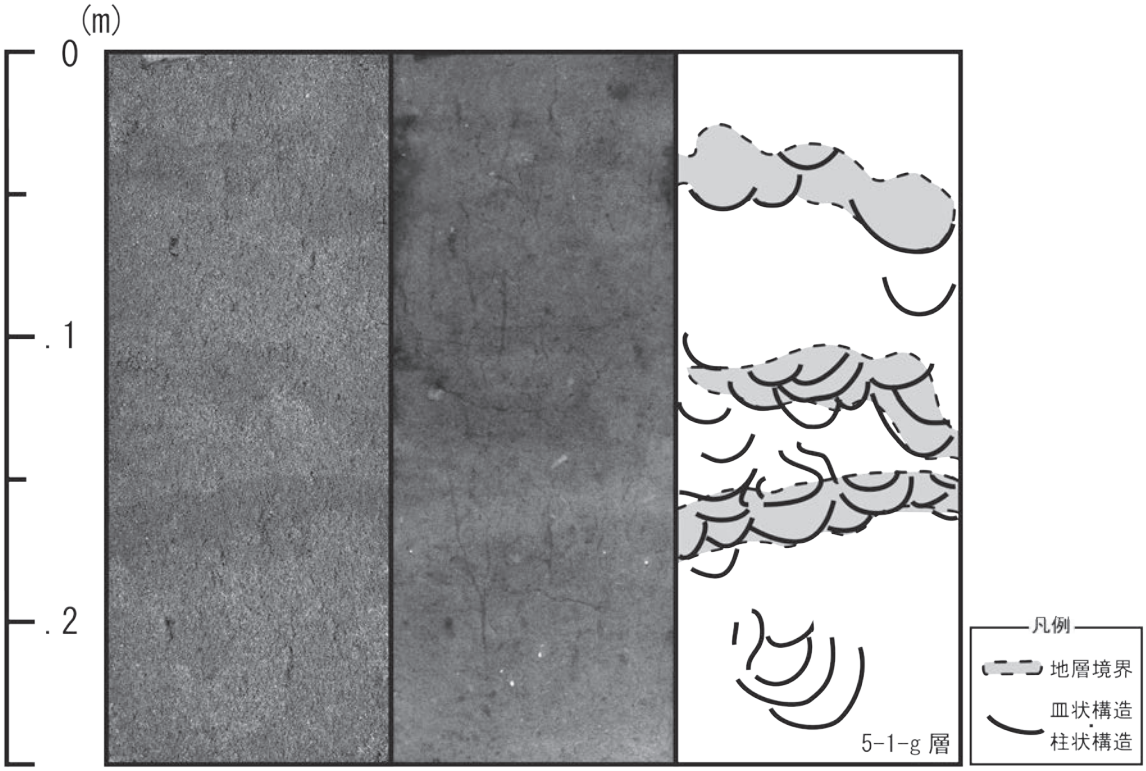
③ 試料C（3区№1地点）：第200図

試料全体が5-1-g層である。現地観察（第190図）には「5-1-g層：暗褐色砂質土・・・明瞭な脈状堆積あり」とあり、多数の脈状堆積（ラミナ?）が描かれている。実視写真では3本の「泥質の帯(ラミナ?)」が認められる。これらは5-1-g層内に描かれた脈状堆積（ラミナ?）に対応し、下位の5-2層の記載にある「・・・明瞭な脈状堆積あり」とも同質のものと考えられる。



第199図　1区西壁試料B軟X線写真観察結果

軟X線写真で「泥質の帯(ラミナ?)」を観察すると、砂質部分に比べ明色を呈していることが分かる。このことは、軟X線写真では粘土質部分は暗色に、砂質部分は明色に写ることと反しており、粘土が緻密に堆積していることものと考えられる。また軟X線写真を詳細に観察すると、下凸の「皿



第 200 図　3 区№ 1 地点試料Ｃ軟Ｘ線写真観察結果

状構造」構造が認められるほか、所により上方向に伸びる「柱状構造」も認められる。さらに、砂層部分でも僅かに皿状構造が認められる。液状化を念頭に置くと、砂層内を泥流が突き抜けた(脱水した)ことにより泥分が砂粒間を埋めて（あるいは移動して）密になり、泥質部分が明色を呈すことになった可能性が指摘できる。「泥質の帯(ラミナ?)」は（現地観察通りに）ラミナ（堆積物）である可能性があるが、地震動によって液状化・脱水過程で泥分が再配列した可能性が指摘できる。

④ 試料Ｄ（3区№3地点）：第201図

現地観察（第190図）には「5-2層：・・・明瞭な脈状堆積あり」とある。一方で、試料Ｄに認められる「泥質の帯（ラミナ？）」は断続的で下凸の「皿状構造」を示し、所により「柱状構造」が上位の4-4層に突き抜け、上下方向に伸びる。また、5-2層ほど顕著ではないが、下位の７層にも同様の構造が認められる。これらの特徴は、前述の試料Ｃより顕著である。更に軟Ｘ線写真では試料Ｃ同様に泥質部分が砂質部分に比べ明色を呈している。

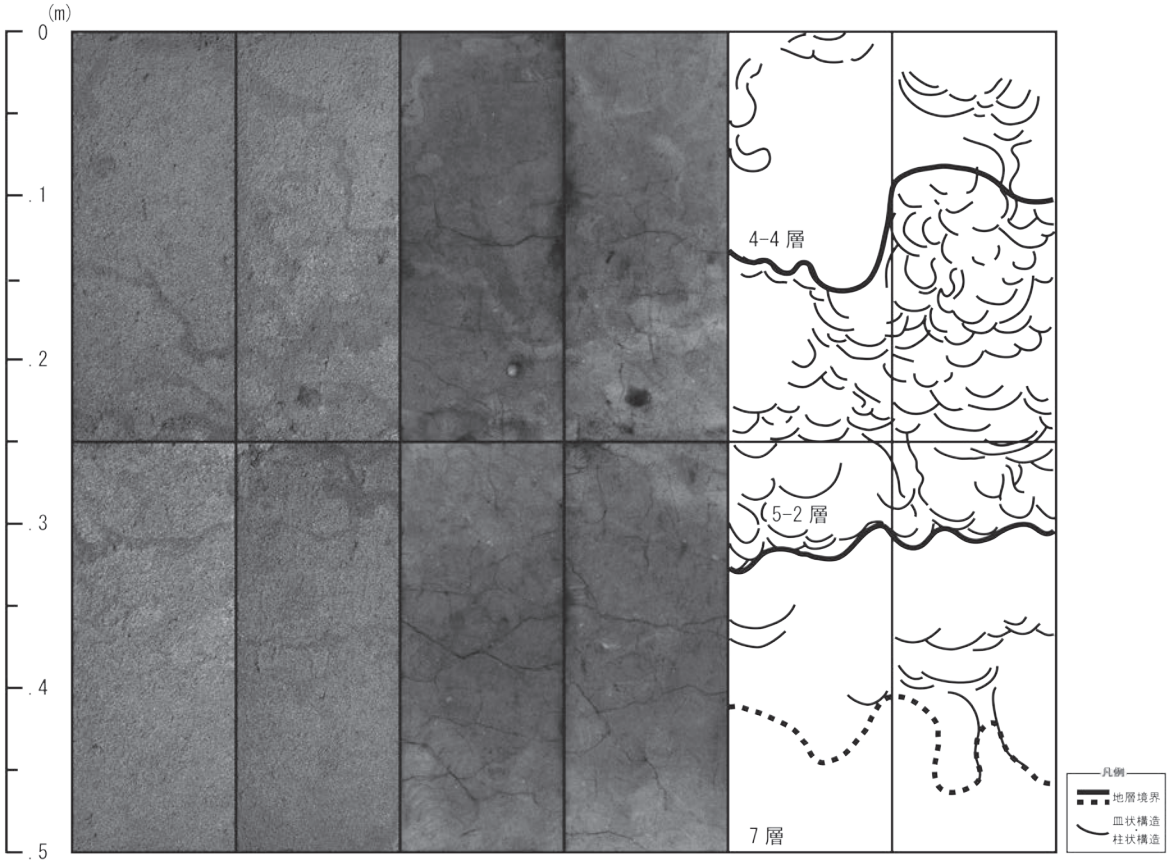
以上の事柄から、試料Ｄで認められる「皿状構造」と「柱状構造」は、液状化(脱水過程)に起因する構造である可能性が極めて高い。また泥質部分が明色を呈する原因として、試料Ｃ同様に液状化により砂層内を泥流が突き抜けた(脱水した)ことによって砂粒間を泥分が埋め密になり、泥質部分が明色を呈すことになったものと考えられる。

ただし、5-2層中に認められる「明瞭な脈状堆積」の全てが、液状化に由来するものとは限らない。

また、７層下部に実視では確認することができない縞状でうねるような構造が、軟Ｘ線写真では顕著に認められた。この構造には、生痕(巣穴、あるいは土壌内でのはい跡)と考えられる同心円状のペドフィーチャー（ファブリックフィーチャー）や、通路状フィーチャーである可能性も指摘できる。

（５）粒度分析結果

粒度分析結果を、第202図及び第16表に示す。



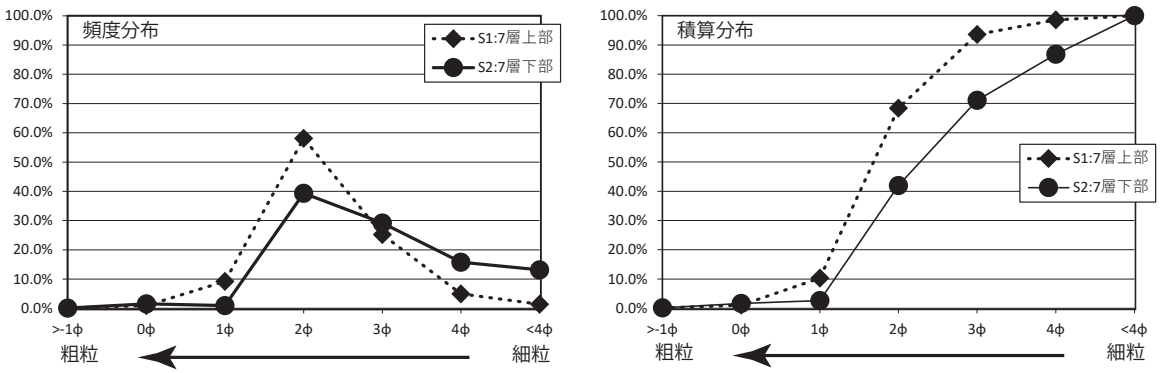
第 201 図　３区№３地点試料Ｄ軟Ｘ線写真観察結果

S1（７層上部）、S2(７層下部)共に２φにピークを持つが、S1（７層上部）は正規分布に近く、S2（７層下部）は細粒方向に偏る。S1（７層上部）の粒度がS2(７層下部)に比べ粗粒分が多く、上方粗粒化の傾向が顕著に認められていることが分かる。上方粗粒化の現象は、洪水氾濫堆積物の特徴とされており、現地の状況から江の川の越流（あるいは破堤）による堆積物と考えられる。

5.　花粉化石が含まれなかった原因について

花粉分析の結果、ほとんどの試料で花粉・胞子化石含有量が数粒/g程度と極めて少ないことが明らかになった。花粉化石処理の残渣を観察する微化石概査(第13表)によると、花粉以外の微化石では植物片、珪藻につい同様の傾向が認められるが、微粒炭、植物珪酸体は豊富に含まれていた。

花粉化石の含有量が少ない原因について、一般には以下のようなことが考えられており、今回の



第 202 図　粒度分析ダイアグラム

微化石検出傾向と比べると、以下のようになる。

第16表　粒度分析結果

	S1:7 層上部		S2:7 層下部	
	重量(g)		重量(g)	
>-1 φ	0.139	0.2%	0.084	0.1%
0 φ	0.845	0.9%	1.250	1.5%
1 φ	8.388	9.2%	0.772	1.0%
2 φ	52.956	58.1%	31.821	39.3%
3 φ	22.955	25.2%	23.578	29.1%
4 φ	4.527	5.0%	12.766	15.8%
<4 φ	1.291	1.4%	10.635	13.1%
合計	91.1	100.0%	80.9	100.0%
含水率	0.902		0.801	
処理重量(g)	101		101	

1. 堆積物の特性（粒度・比重）と花粉化石の平均的な粒径、比重が著しく異なり、堆積物中に花粉化石が含まれない。

   今回の分析層準（試料）では砂層（シルト質砂、砂質シルトなど）も分析対象としており、花粉化石と動態の似た粘土～シルト層の含有量が少ない試料が多かった。

2. 堆積速度が速いために、堆積物中に花粉化石の含有量が少ない。

   花粉の生産量が毎年ほぼ一定であると仮定すると、堆積速度が速いほど花粉化石の含有量は少なく、遅いほど含有量は多くなる。また、花粉化石に限らず、堆積中に付加される微化石の量は、堆積速度が遅いほど多くなる。１区４ライン下部では微粒炭や植物珪酸体の含有量も少なく、堆積速度が速かったと考えられる。

3.「土壌生成作用」の及ぶ期間が短く、花粉の付加量が少なかった。

   「土壌生成作用」に伴って花粉粒が、炭片、植物片などの有機物とともに、堆積面から地中に取り込まれる場合もある。年間「付加量」が一定と仮定すると、「土壌生成作用」を受けた期間の長短によって、含有量の多少が決まる。今回は花粉化石、植物片の含有量は少なかったものの、微粒炭、植物珪酸体の含有量が多かったことから、土壌化を受けた期間が短かったとは考えにくい。

4. 堆積の過程で、花粉粒が紫外線により消滅した。

   一般に、花粉化石は紫外線によって劣化･消滅する。花粉粒は地表面に落下した直後から、紫外線の影響下に置かれる（例えば畑作環境）が、水中で堆積した場合（例えば水田環境）、紫外線が遮断され、影響は軽減される。花粉分析結果ではコウヤマキ属、アブラナ科やキク科の諸分類群の外、胞子などが、選択的に高率を示す傾向にある。また、後述の「堆積後の化学変化による劣化・消滅」との区別は困難である。

   今回の花粉分析を実施した試料では胞子の割合が高く、キク科の諸分類群なども比較的多く検出されるなど、紫外線（あるいは堆積後の化学変化）による影響を示唆する結果が得られている。さらに、紫外線の影響を受けにくい炭片の含有量も多く、紫外線の影響で花粉粒が劣化･消滅した可能性が指摘できる。

5. 花粉化石が本来含まれていたが、堆積後の化学変化により花粉化石が消滅した。

   花粉粒や植物片などの有機物、珪藻や植物珪酸体など鉱物質のものも、グライ化などの化学変化に伴い（程度に差があるものの）分解してしまう（堆積後の化学変化は酸化鉄や酸化マンガンの沈着として現れ、多くは水田耕作における灌漑によるグライ化（鉄、マンガンの還元作用）と落水による鉄、マンガンの酸化作用の結果と考えられる。）。一方微粒炭は化学的に安定しており、堆積後に消滅することがない。花粉分析結果ではコウヤマキ属、アブラナ科やキク科の諸分類群の外、胞子などが、選択的に高率を示す傾向にある。また、前述のように「紫外線による劣化・消滅」との区別は困難である。

今回の分析層準（試料）は全体に褐色を帯びているが、酸化鉄や酸化マンガンの顕著な生成は認められなかった。一方、花粉分析結果では胞子の割合が高く、キク科の諸分類群なども比較的多く検出されるなど、堆積後の化学変化（あるいは紫外線）による影響を示唆する結果も得られている。さらに、化学変化に安定な炭片の含有量も多く、堆積後の化学変化の影響で花粉粒が劣化・消滅した可能性も僅かながらある。

6. 有機物に極めて富む堆積物で、花粉以外の有機物（炭片、植物片など）が多く、希釈効果により花粉化石が回収できなかった。
   炭片、植物珪酸体などの含有量が多かった。一方、数粒/gと含有量の極めて少ない試料がほとんどであった。炭片や植物片が多量に含まれていたことによって花粉粒の濃縮が進まない希釈効果が推定される場合、含有量は数100粒/gを示すこともあることから、希釈効果が現れたとは考えにくい。
7. 近辺に森林がなく（疎林？）、堆積物中に付加される花粉粒の絶対量が少なかった。
   特定の地域では、伐採などの森林破壊によって疎林、ハゲ山が広がった時期があることが知られている。調査地の周囲から木本花粉の給源である森林そのものが消滅したために、空中飛散する花粉粒が激減し、堆積物中に取り込まれなかったと考えられる事象がある。
   今回の調査地である江の川流域では中世以降たたら製鉄が盛んに行われていたことが知られている。この影響で江戸時代にはハゲ山が広がっていた記録がある（佐竹2009）。

以上のことを整理すると、一部の試料では堆積速度が速かったことが原因と考えられるが、主として粗粒堆積物であったこと、堆積時の紫外線及び堆積後の化学変化によって堆積時及び堆積後に花粉粒（有機物:植物片）が少なからず消滅したことが原因であると考えられる。また遠因として、周囲の丘陵が「ハゲ山」化しており、木本花粉粒の付加量が極端に少なかった可能性もある。

6.　遺跡内及び近辺での耕作

作物由来の花粉粒を検出することができなかった。ただし、栽培種の「イネ」を含むイネ科（40ミクロン以上）花粉の検出傾向とイネ珪酸体の検出密度に一定の関係が認められた。このことから、遺跡内外での稲作について検討を行った。

（1）1区（第191・192図、第194・195図）

① 弥生時代（4ライン6層：第192図、第195図）

弥生時代前期以前の7層から下位ではイネ珪酸体は検出されなかったが、弥生時代（6層）では僅かに検出できた。花粉分析では6層のみ分析対象としており、イネ科（40ミクロン以上）花粉は2試料から、含有量は極めて低いものの検出された。試料採取地で耕作が行われていた可能性は低いものの、遺跡内別地点、遺跡周辺での耕作までも否定されるものではない。

② 平安〜鎌倉時代（西壁4-9 〜 4-4層：第191・194図）

イネ珪酸体が断続的に検出されるが、稲作の判断基準とされる5000粒/gに比べ、検出密度の高い試料（4-4層:試料№4）でも1/2程である。イネ科（40ミクロン以上）花粉の検出量も幾つかの試料で多いが、含有量では1粒/g程である。試料採取地で耕作が行われていた可能性は低いものの、極近くで稲作が行われていた可能性が指摘できる。一方花粉分析では、この時期以前の4-9層から4-6層下部（試料№7）まで、ハンノキ属が連続して検出される。調査地近辺の湿地が開墾され、水田へと

変わっていった可能性がある。

③ 室町時代（西壁4-1・4-2層：第191・194図）

有機質に富む細砂質シルトと、層相から捉えると水田作土の可能性が指摘される。イネ珪酸体は連続して検出され、上部の２試料では2000粒/gを超える検出密度を示す。イネ珪酸体の検出密度が低いものの実際の水田でも示し得る値である。一方、検出されるイネ科（40ミクロン以上）花粉の量が少ないことから、試料採取地が水田であった可能性があるものの、断定には至らなかった。また、遺跡内別地点、遺跡周辺での耕作に起因する可能性もある。

（２）３区（第 193 図、第 196・197 図）

① 弥生時代後期以前（8・9層、５- ２層）

植物珪酸体分析ではイネの検出密度が低く、弥生時代後期以前には、試料採取地での稲作については否定的な結果が得られていた。これらの層準ではイネ科（40ミクロン以上）花粉もほとんど検出されておらず、試料採取地で耕作が行われていた可能性は低い。ただし、遺跡内別地点、遺跡周辺での耕作までも否定されるものではない。

② 古墳時代（5-1-g層：第193・196図）

植物珪酸体分析ではイネの検出密度が下位の5-2層に比べやや高くなるが、2000粒/gと稲作の判断基準とされる5000粒/gに比べると低い。イネ科（40ミクロン以上）花粉の検出量も5-2層に比べ増加するものの、花粉粒全体の検出量が少なく意味付けが難しい。また、５- １- g層の現地観察結果及び軟Ｘ線写真観察結果からは、５- １- g層が水田耕土であったとは考えにくい。しかし、植物珪酸体、花粉ともにイネが増加することから、弥生時代後期以前に比べ耕作地が試料採取地に迫ったことは確かである。

7.　古環境変遷

以下では、植物珪酸体分析を基に古環境（古気候と古植生：耕作を除く）について考察する。

（１）縄文時代前期以前～弥生時代前期頃

① 気候

メダケ率が徐々に上昇し、温暖化傾向にあったと考えられる。ただし、中期と後期～晩期にかけての時期にメダケ率の低下が認められ、数度の気温低下期があったことが分かる。一方、ミヤコザサ節型に対するチマキザサ節型の比は高く、多雪傾向であったことが分かる。

② 植生

水辺にはヨシ類が生育し、乾燥地ではチガヤ類が生育していたほか、ススキ類も僅かに生育していたものと考えられる。また、林縁にはササ類が生育していたと考えられる。

クスノキ科が縄文時代中期以降に検出され、更にシイノキ属も縄文時代後期以降検出されるなど、調査地に照葉樹林が迫っていた可能性が指摘できる。

（２）弥生時代後期頃

① 気候

メダケ率は50%程度と、縄文時代晩期～弥生時代前期頃と同程度を示し、大きな気温の変化は認められない。一方、ミヤコザサ節型に対するチマキザサ節型の比も引き続き高く、多雪傾向であったことが分かる。

② 植生

僅かにイネが検出されるが、前述の様に試料採取地点ではなく、遺跡内別地点、あるいは遺跡周辺で稲作が行われたいたものと考えられる。水辺などにはヨシ類が生育していたと考えられ、乾燥地ではチガヤ類のほかススキ類も生育していたと考えられる。また、林縁にはササ類が生育していたと考えられる。一方クスノキ科は減少し、シイノキ属も検出されなくなるなど、調査地近辺の森林植生に変化があったことが分かる。

（3）古墳時代

① 気候

メダケ率は更に高くなり、温暖化傾向を示すと考えられる。一方、ミヤコザサ節型に対するチマキザサ節型の比は低下傾向にあり、降雪量が減る傾向にあったと考えられる。

② 植生

イネの検出密度が増加するが、前述の様に試料採取地点で耕作が行われていたものではなく、遺跡内別地点、あるいは遺跡周辺で稲作が行われ、試料採取地点により迫ったと考えられる。水辺には前時期同様にヨシ類が生育していたと考えられ、乾燥地ではチガヤ類のほかススキ類も生育していたと考えられる。また、林縁にはササ類が生育していたと考えられる。クスノキ科は僅かに検出され、調査地近辺の森林に混淆していたものと考えられる。

（4）平安時代～鎌倉時代：前半

① 気候

4-9層下部（試料№11）でメダケ率が一旦高くなるが、多くの試料では前の時期に比べ低く、気温がやや低下した可能性がある。ただし、ミヤコザサ節型に対するチマキザサ節型の比にはほとんど変化がなく、降雪量は変わらなかったと考えられる。

② 植生

イネが4-9層下部（試料№11）で検出されるが検出密度は低く、4-9層が水田耕土とは考えにくい。稲作は、遺跡内別地点、あるいは遺跡周辺で行われていたと考えられる。また、水辺には前時期同様にヨシ類が生育していたと考えられ、乾燥地ではチガヤ類のほかススキ類も生育していたと考えられる。また、林縁にはササ類が生育していたと考えられる。

最下部でクスノキ科の検出密度が高く、シイノキ属も検出されるが、クスノキ科は急減し、シイノキ属も検出されなくなる。調査地近辺の森林植生に変動が大きかったことが分かる。

（5）平安時代～鎌倉時代：後半

① 気候

前の時期に比べメダケ率が高くなり、気温がやや上昇した可能性がある。ただし、ミヤコザサ節型に対するチマキザサ節型の比にはほとんど変化がなく、降雪量は変わらなかったと考えられる。

② 植生

前述の様にイネが検出されるものの、栽培の基準とされる5000粒/gには至らなかったことから、調査地で稲作が行われていた可能性は低い。調査地近辺で稲作が行われたものと考えられる。また、前述の様に水辺にはヨシ類が生育していたと考えられ、乾燥地ではチガヤ類のほかススキ類も生育していたと考えられる。また、林縁にはササ類が生育していたと考えられる。

クスノキ科の検出密度は低いものの検出され、シイノキ属、イスノキ属も検出されるなど、調査

地周囲の丘陵上に分布していたことが分かる。

（６）室町時代

① 気候

前の時期に比べメダケ率が若干低くなるが、気温変動への影響は定かでない。また、ミヤコザサ節型に対するチマキザサ節型の比にはほとんど変化がなく、降雪量は変わらなかったと考えられる。

② 植生

前述の様に栽培の基準とされる5000粒/gには至らなかったが、調査地で稲作が行われていた可能性はある。前述の様に水辺にはヨシ類が生育していたと考えられ、乾燥地ではチガヤ類のほかススキ類も生育していたと考えられる。また、林縁にはササ類が生育していたと考えられる。

クスノキ科の検出密度は低いものの検出されるが、シイノキ属、イスノキ属は検出されなくなる。田淵遺跡では、花粉・胞子化石の含有量が少なかったことや江の川流域でのたたら操業などを踏まえ、中世以降の疎林化を推定している（渡辺2018b）。周辺の丘陵上に分布していた照葉樹林が伐採され、ハゲ山（あるいは疎林）が広がった影響と考えられる。

8.　まとめ

森原下ノ原遺跡において花粉分析、植物珪酸体分析、軟Ｘ線写真観察及び粒度分析を実施した結果、以下のことが明らかになった。

1）軟Ｘ線写真観察の結果、地震動による変形構造と考えられる「Dish(皿) and Pillar(柱) Structures(構造)」が認められたほか、多量の生痕が認められた。

2）粒度分析を行い、越流堆積と考えられる洪水堆積物の記載を行った。

3）花粉分析の結果、花粉化石含有量が極めて少なかった。紫外線や堆積物中での劣化・消滅が主因と考えられるが、堆積速度、周辺地域の植生に影響を受けた可能性も指摘できる。

4）遺跡周辺で弥生時代後期以降に稲作が行われ、古墳時代や平安時代～鎌倉時代（後半）には遺跡近辺で稲作が行われていたと考えられる。また室町時代には、調査地で稲作が行われていた可能性も指摘できる。

5）植物珪酸体分析の結果、縄文時代～弥生時代前期頃、弥生時代後期頃、平安時代～鎌倉時代（前・後半）、室町時代の気候、植生について考察した。

【引用文献】

久馬一剛・八木久義訳監修（1989）土壌薄片記載ハンドブック．p.176，博友社．

佐竹　昭 (2009) 石見銀山猟における猪被害とたたら製鉄．広島大学総合博物館研究報告，1，77-84．

中村　純（1974）イネ科花粉について、特にイネを中心として．第四紀研究，13,187-197．

藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究 (1) －数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法－．考古学と自然科学，9，15-29

渡辺正巳 (2010) 花粉分析法．必携 考古資料の自然科学調査法．174 ～ 177．ニュー・サイエンス社，東京．

渡邉正巳（2018a）松江城下町遺跡（母衣町 115 地点）で検出された砂層の検討．山陰電力所設置工事のうち付属建物新築工事に伴う埋蔵文化財調査報告書 松江城下町遺跡（母衣町 115），松江市文化財調査報告書，182，45-50，松江市教育委員会・（公財）松江市スポーツ・文化振興財団，島根．

渡辺正巳 (2018b) 田渕遺跡周辺地域における古植生などの古環境変遷について．田渕遺跡，一級河川江の川直轄河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書，1，48-56．国土交通省中国地方整備局浜田河川国道事務所・島根県教育委員会．

第２節　森原下ノ原遺跡出土鍛治関連遺物の調査

日鉄テクノロジー株式会社　九州事業所
鈴木瑞穂

1.　調査対象

島根県江津市松川町に所在する森原下ノ原遺跡から出土した、中世～近世の鍛治関連遺物計10点（第17表）を調査した。

2.　調査方法

（1）外観観察

目視での調査前の所見を記載した。

（2）マクロ組織

遺物から試料を切り出して樹脂に埋め込み、断面をエメリー研磨紙の#150、#320、#600、#1000、およびダイヤモンド粒子の３μｍと１μｍで順を追って研磨後、全体像を撮影した。

（3）顕微鏡組織

金属反射顕微鏡を用い断面を観察した後、特徴的・代表的な視野を選択して、写真を撮影した。また金属鉄の組織観察には、腐食液に3%ナイタール（硝酸アルコール）液を用いた

（4）ビッカース断面硬度

ビッカース断面硬度計（Vickers Hardness Tester）を用いて硬度を測定した。ビッカース硬度は測定箇所に圧子（136°の頂角をもったダイヤモンド）を押し込んだ時の荷重と、それにより残された窪み（圧痕）の対角線長さから求めた表面積から算出される。試料は顕微鏡用を併用し、荷重は鉄滓中の結晶は50gf、金属鉄部は200gfで測定した。

（5）EPMA 調査

EPMA（日本電子製㈱ JXA-8230）を用いて、鉄滓の鉱物組成を調査した。測定条件は以下の通りである。加速電圧：15kV、照射電流（分析電流）：2.00E-8A。

（6）化学組成分析

出土遺物の定量分析を実施した。

全鉄分（Total Fe）、金属鉄（Metallic Fe）、酸化第一鉄（FeO）：容量法。

炭素（C）：燃焼容量法、硫黄（S）：燃焼赤外吸収法。

二酸化硅素（SiO_2）、酸化アルミニウム（Al_2O_3）、酸化カルシウム（CaO）、酸化マグネシウム（MgO）、酸化カリウム（K_2O）、酸化ナトリウム（Na_2O）、酸化マンガン（MnO）、二酸化チタン（TiO_2）、酸化クロム（Cr_2O_3）、五酸化燐（P_2O_5）、バナジウム（V）、銅（Cu）、二酸化ジルコニウム（ZrO_2）：ICP（Inductively Coupled Plasma Emission Spectrometer）：誘導結合プラズマ発光分光分析法。

3.　調査結果

MRH －１：椀形鍛治滓（含鉄）

（１）外観観察：やや小形の椀形鍛治滓（182g）である。表面は広い範囲で黄褐色の土砂や茶褐色の鉄錆化物で厚く覆われる。金属探知機反応があり、内部に金属鉄が含まれると推定される。そ

の一方で、側面から下面にかけては鍛冶滓が確認される。滓の地の色調は暗灰色で、微細な木炭痕による凹凸が著しい。一部には木炭破片も付着する。滓中の気孔は少なく緻密である。

（２）マクロ組織：第203図①に示す。素地部分は鍛冶滓であった。滓中には左右に２箇所、10㎜弱の鉄粒が確認される。鉄部は錆化が進んでいるが、内部に金属鉄が少量残存している。また中央の黒色部は木炭の破片である。

（３）顕微鏡組織：第203図②③に示す。②は錆化鉄部の拡大である。内部に針状セメンタイト（Cementite：Fe_3C）の痕跡が残存しており、過共析（C＞0.77%）組織であったと判断される。また③中央は残存金属鉄部の拡大である。素地はパーライト（Pearlite）で、表層側に白色のフェライト（Ferrire：α鉄）が析出する亜共析（C＜0.77%）組織であった。

（４）ビッカース断面硬度：第203図③の金属鉄部の硬度を測定した。フェライトが析出する箇所の硬度値は122Hv、素地のパーライト部分の硬度値は177Hvであった。炭素量の低い箇所がより軟質であり、組織に見合った値である。

（５）EMPA調査：第203図④に不定形黒色の鉄中非金属介在物の反射電子像（COMP）を示す。定量分析値は62.4%SiO_2－9.9%Al_2O_3－10.3%CaO－2.1%MgO－4.3%K_2O－5.0%FeO（分析点1）であった。非晶質珪酸塩である。

さらに鍛冶滓の組成も調査した。第203図⑤に反射電子像（COMP）を示す。白色粒状結晶の定量分析値は94.2%FeO（分析点2）であった。ウスタイト（Wustite：FeO）と推定される。淡灰色結晶の定量分析値は66.3%FeO－1.0%CaO－1.0%MgO－29.7%SiO_2（分析点3）であった。ファヤライト（Fayalite：2FeO･SiO_2）で、ライム（CaO）、マグネシア（MgO）を少量固溶する。また素地部分の定量分析値は36.9%SiO_2－14.1%Al_2O_3－11.1%CaO－3.8%K_2O－1.6%P_2O_5－26.5%FeO（分析点4）であった。非晶質珪酸塩である。

当試料の滓部は、ウスタイト・ファヤライト組成で、製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起原の鉄チタン酸化物はみられない。鍛錬鍛冶滓の晶癖といえる。また滓中には２箇所、10㎜弱の鉄粒が確認された。組織の特徴から、炭素量は0.4～1.2%程度の鋼と推定される。また非金属介在物は不定形で鍛打加工を受けた痕跡はなく、加工のごく初期段階で鍛冶炉内に取り残されたと推測される。

MRH－2：椀形鍛冶滓

（１）外観観察：小形の椀形鍛冶滓の破片（46g）と推定される。表面には土砂や鉄錆化物が薄く付着するが、まとまった鉄部はみられない。滓の地の色調は暗灰色で、弱い着磁性がある。気孔は少なく比較的緻密な滓である。上面には微細な木炭痕がみられる。

（２）顕微鏡組織：第204図①～③に示す。①上側の暗灰色部はガラス質滓で、②はその拡大である。滓中には熱影響を受けた石英などの砂粒が混在する。羽口粘土の溶融物と推測される。また①の中央は微細な木炭破片である。内部に発達した導管が分布しており、広葉樹の散孔材の黒炭と推定される。また素地の明灰色部は鍛冶滓で③はその拡大である。滓中には白色樹枝状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。

（３）ビッカース断面硬度：第204図③の白色樹枝状の硬度を測定した。硬度値は488Hvであった。ウスタイトの文献硬度値の範囲内であり、ウスタイトと推定される。また淡灰色柱状結晶の硬度値は696Hvであった。ファヤライトの文献硬度値の範囲内であり、ファヤライトと推定される[1]。

（４）化学組成分析：第18表に示す。全鉄分（Total Fe）38.23%に対して、金属鉄（Metallic Fe）は0.07%、酸化第１鉄（FeO）が42.96%、酸化第２鉄（Fe_2O_3）6.816%の割合であった。造滓成分（SiO_2＋Al_2O_3＋CaO＋MgO＋K_2O＋Na_2O）の割合は46.99%と高めであるが、このうち塩基性成分（CaO＋MgO）3.69%と低めであった。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO_2）は0.60%、バナジウム（V）が0.02%と低値であった。また酸化マンガン（MnO）は0.15%、銅（Cu）も＜0.01%と低値であった。

当鉄滓は主に鉄酸化物（FeO）と炉材粘土の溶融物（SiO_2主成分）からなり、製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起原の脈石成分は（TiO_2、V、MnO）は低値であった。この特徴から、熱間での鍛打加工に伴う鍛錬鍛冶滓と推定される。

MRH－３：鉄塊系遺物

（１）外観観察：ごく小形で粒状の鉄塊系遺物（9g）と推定される。表面全体が黄褐色の土砂で厚く覆われる。目視では明瞭な滓部は確認されず、鉄主体の遺物と考えられる。金属探知機反応もあり、内部に金属鉄が残存すると推定される。

（２）マクロ組織：第204図④に示す。小形でまとまりの良い鋳鉄粒であった。また表層にごく薄く滓が付着する。周囲の土砂中には微細な鍛造剥片が混在している。

（３）顕微鏡組織：第204図⑤⑥に示す。⑤は表層に付着した滓の拡大である。滓中には淡灰色柱状結晶ファヤライト（Fayalite：2FeO･SiO_2）が晶出する。一方、⑥は金属鉄部の拡大で、亜共晶組成白鋳鉄組織（C＜4.26）が確認された。

（４）ビッカース断面硬度：第204図⑤の淡灰色柱状結晶の硬度を測定した。硬度値は642、683Hvであった。ファヤライトの文献硬度値の範囲内で、ファヤライトと推定される。さらに図版２⑥の金属鉄部の硬度を測定した。蜂の巣状のレデブライト（Ledeburite）の硬度値は592Hvと硬質であった。一方、パーライト（Pearlite）の硬度値は224Hvであった。それぞれ組織に見合った値である。

当試料はごく小形の鋳鉄粒であったことが確認された。鍛冶作業前の原料鉄もしくは炭素量を下げて鍛打加工可能な鉄素材を作る「卸し鉄」作業で、脱炭せずに取り残されたものと推測される。

MRH－４：鉄塊系遺物

（１）外観観察：やや細長い塊状の鉄塊系遺物（25g）と推定される。全体が茶褐色の鉄錆化物で覆われる。また表面には鍛造剥片が複数付着している。金属探知機反応があり、鉄主体の遺物と考えられる。

（２）マクロ組織：第205図①に示す。写真左側に長径10㎜程の金属鉄粒が確認された。また、素地の明灰色部は鍛冶滓である。

（３）顕微鏡組織：第205図②～⑦に示す。②③は表層に付着した鍛造剥片の拡大である。当試料が出土した炉跡（遺構1137鍛冶炉）周辺で、鉄材を熱間で鍛打加工したことを示す遺物といえる。④および⑤の下側、⑥⑦の左側は金属鉄部の拡大である。④はパーライト素地に白色針状のセメンタイトが析出する過共析（C＞0.77%）組織、⑤は全面パーライトの共析（C:0.77%）組織であった。また⑥⑦の左側の微小金属鉄部は、素地が白色のフェライトで、少量パーライトが析出する亜共析（C＜0.77%）組織であった。

これに対して、⑤の上側および⑥⑦の素地部分は鍛冶滓である。滓中には白色樹枝状結晶ウ

スタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。鍛錬鍛冶滓に最も一般的な晶癖といえる。

（４）ビッカース断面硬度：第205図④⑤の金属鉄部の硬度を測定した。④の過共析組織部分の硬度値は263 ～ 276Hv、⑤の共析組織部分の硬度値は234Hvであった。炭素量の高い箇所がより硬質で、組織に見合った値である。

当試料の滓部はウスタイト・ファヤライト組成で、製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起原の鉄チタン酸化物はみられない。鍛冶作業中に取り残された小鉄塊と判断される。

鉄中の炭素量は部位によりばらつきが大きい。滓中の微細な金属鉄部には、炭素量が0.1%未満の箇所（⑥⑦左側）もみられる。ただし、比較的まとまりの良い箇所（④⑤）のは約0.8 ～ 1.5%程度の高炭素鋼と推定される。

MRH － 5：椀形鍛冶滓

（１）外観観察：やや偏平な椀形鍛冶滓（166g）と推定される。側面の一部は破片である。滓の地の色調は黒灰色で、上面側に細かい気孔が散在するが重量感のある滓である。上下面とも微細な木炭痕による凹凸が顕著で、木炭破片も少量付着する。また特に下面側に土砂や鉄錆化物が付着するが、金属探知機反応はなく、まとまった鉄部はみられない。土砂中には鍛造剥片が少量混在する。

（２）顕微鏡組織：第206図①～③に示す。滓中には微細な白色樹枝状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。また②中央の青灰色粒は錆化鉄である。内部に黒鉛（Graphite：C）が残存しており、ねずみ鋳鉄であったと推定される。

（３）ビッカース断面硬度：第206図③の淡灰色柱状結晶の硬度を測定した。硬度値は665、671Hvであった。ファヤライトの文献硬度値の範囲内であり、ファヤライトと推定される。

（４）化学組成分析：第18表に示す。全鉄分（Total Fe）43.17%に対して、金属鉄（Metallic Fe）は0.10%、酸化第１鉄（FeO）が41.64%、酸化第２鉄（Fe_2O_3）15.30%の割合であった。造滓成分（SiO_2＋Al_2O_3＋CaO＋MgO＋K_2O＋Na_2O）38.98%で、このうち塩基性成分（CaO＋MgO）は2.73%であった。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO_2）は0.32%、バナジウム（V）が＜0.01%と低値であった。また酸化マンガン（MnO）は0.14%、銅（Cu）＜0.01%と低値である。

当鉄滓は主に鉄酸化物（FeO）と炉材粘土の溶融物（SiO_2主成分）からなり、製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起原の脈石成分は（TiO_2、V、MnO）は低値であった。この特徴から、熱間での鍛打加工に伴う鍛錬鍛冶滓と推定される。

MRH － 6：鉄塊系遺物

（１）外観観察：ごく小形の鉄塊系遺物（20g）である。全体が茶褐色の鉄錆化物で覆われる。また表面には微細な木炭破片や鍛造剥片が複数付着している。金属探知機反応があり、鉄主体の遺物と考えられる。

（２）マクロ組織：第206図④に示す。小形でまとまりの良い鋳鉄粒であった。表層には薄く鍛冶滓が付着する。

（３）顕微鏡組織：第206図⑤⑥に示す。⑤は金属鉄部の拡大である。亜共晶組成白鋳鉄組織（C＜4.26％）が確認された。また⑥は鍛冶滓部分の拡大である。滓中には淡灰色柱状結晶ファヤラ

イトが晶出する。

（4）ビッカース断面硬度：第206図⑤の金属鉄部の硬度を測定した。蜂の巣状のレデブライト（Ledeburite）の硬度値は589Hvと硬質であった。一方、パーライト（Pearlite）の硬度値は169Hvであった。それぞれ組織に見合った値である。

さらに図版2⑥の淡灰色柱状結晶の硬度を測定した。硬度値は677Hvであった。ファヤライトの文献硬度値の範囲内で、ファヤライトと推定される。

当試料は鉄塊系遺物（MRH－3）と同じく、ごく小形の鋳鉄粒であった。鍛治作業前の原料鉄もしくは炭素量を下げて鍛打加工可能な鉄素材を作る「卸し鉄」作業で、脱炭せずに取り残されたものと推測される。

MRH－7：椀形鍛治滓

（1）外観観察：やや大形で厚手の椀形鍛治滓（402g）である。表面は広い範囲で黄褐色の土砂や茶褐色の鉄錆化物で厚く覆われる。部分的に弱い金属探知機反応があるが、まとまった鉄部を含む可能性は低いと考えられる。滓の地の色調は暗灰色で、上下面とも細かい木炭痕による凹凸が著しい。下面表層には部分的に砂質の鍛治炉床土が付着する。

（2）顕微鏡組織：第207図①～③に示す。表層側に微細な木炭破片や鍛造剥片が複数混在する。②はその拡大である。また滓中には、白色樹枝状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。

（3）ビッカース断面硬度：第207図③の白色樹枝状結晶の硬度を測定した。硬度値は497Hvであった。ウスタイトの文献硬度値の範囲内で、ウスタイトと推定される。また淡灰色柱状結晶の定量分析値は680Hvであった。ファヤライトの文献硬度値の範囲内であり、ファヤライトと推定される。

（4）化学組成分析：第18表に示す。全鉄分（Total Fe）45.10%に対して、金属鉄（Metallic Fe）は0.14%、酸化第1鉄（FeO）が41.10%、酸化第2鉄（Fe_2O_3）18.61%の割合であった。造滓成分（SiO_2＋Al_2O_3＋CaO＋MgO＋K_2O＋Na_2O）36.01%で、このうち塩基性成分（CaO＋MgO）は2.59%であった。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO_2）は0.44%、バナジウム（V）が0.01%と低値であった。また酸化マンガン（MnO）は0.08%、銅（Cu）＜0.01%と低値であった。

当鉄滓は主に鉄酸化物（FeO）と炉材粘土の溶融物（SiO_2主成分）からなり、製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起原の脈石成分は（TiO_2、V、MnO）は低値であった。この特徴から、熱間での鍛打加工に伴う鍛錬鍛冶滓と推定される。

MRH－8：鉄塊系遺物

（1）外観観察：やや小形の鉄塊系遺物（62g）である。表面は茶褐色の土砂で厚く覆われる。土砂中には、微細な鍛造剥片が複数混在する。金属探知機反応があり、鉄主体の遺物と考えられる。

（2）マクロ組織：第208図①に示す。表層部に鉄滓がほとんど付着していない。まとまりの良い鉄塊であった。

（3）顕微鏡組織：第208図②～⑦に示す。②③は鉄塊内側の高炭素域の拡大である。共析（C：0.77%）組織～亜共晶組成白鋳鉄組織（C＜4.26%）組織が確認された。これに対して、④⑤は表層寄りの低炭素域の拡大で、亜共析（C＜0.77%）組織を呈する。これらの組織の特徴から、最も炭素

量の低い箇所は0.1%前後と推測される。⑥の暗灰色部は表層僅かに付着するガラス質滓である。また⑦は土砂中の鍛造剥片の拡大である。

（４）ビッカース断面硬度：第208図②および④の金属鉄部の硬度を測定した。②上側の亜共晶組成白鋳鉄組織（レデブライト）硬度値は659、668Hvであった。一方②の下側の共析～過共析組織部分の硬度値は、針状セメンタイトが析出する箇所が365Hv、素地のパーライトの硬度値は305、330Hvであった。また④の亜共析組織部分の定量分析値は128、137Hvであった。炭素量の高い箇所ほど硬質で、組織に見合った値である。

当鉄塊は内側に炭素量の高い白鋳鉄組織、表層側に炭素量のやや低い亜共析～過共析組織が確認された。炭素量を下げて鍛打加工可能な鉄素材を作る「卸し鉄」作業で、脱炭し切らずに取り残された可能性が考えられる。

MRH － 9：鉄塊系遺物

（１）外観観察：やや小形で椀状の鉄塊系遺物である（42g）。全体か黄褐色の土砂に覆われる。下面には長さ10㎜程の木炭破片が1箇所付着する。また表面には錆化に伴う放射割れが生じている。金属探知機反応もあり、内部に金属鉄が残存すると推定される。

（２）マクロ組織：第209図①に示す。内部にまとまりの良い金属鉄部が確認された。また端部に鍛冶滓（写真左側明灰色部）が付着する。

（３）顕微鏡組織：第209図②～⑦に示す。②③は鍛冶滓部分の拡大である。白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。また④～⑦は金属鉄部の拡大である。④⑤は亜共晶組成白鋳鉄組織、⑥⑦は過共析組織が確認された。

（４）ビッカース断面硬度：第209図③の白色樹枝状結晶の硬度を測定した。硬度値は482、498Hvであった。ウスタイトの文献硬度値の範囲内で、ウスタイトと推定される。

さらに金属鉄部も硬度測定をした。⑤の亜共晶組成白鋳鉄部分では、レデブライトの硬度値が567Hv、パーライトの硬度値は249Hvであった。また⑥の過共析組織部分では、針状セメンタイトが析出する箇所の硬度値は328Hv、パーライトが249Hvであった。炭素量の高い箇所ほど硬質で、組織に見合った値である。

当試料は過共析組織～亜共晶組成白鋳鉄組織の鉄塊であった。鉄塊系遺物（MRH－8）と同様に、炭素量を下げて鍛打加工可能な鉄素材を作る「卸し鉄」作業で脱炭し切らず、鍛冶炉内に取り残された可能性が考えられる。

MRH － 10：椀形鍛冶滓

（１）外観観察：大形で完形の椀形鍛冶滓（925g）である。広い範囲に土砂や鉄錆化物が付着するが、金属探知機反応はなく、まとまった鉄部はみられない。滓の地の色調は暗灰色で、着磁性がある。上面は中央が窪んでおり、下面は細かい木炭痕による凹凸が著しい。表面の気孔は少なく、重量感がある滓である。

（２）顕微鏡組織：第207図④～⑥に示す。素地部分は鍛冶滓で、白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。さらに⑤のように、微細な灰褐色多角形結晶マグネタイト（Magnetite：$FeO \cdot Fe_2O_3$）が部分的に確認された。また滓中の微細な明白色部は金属鉄、不定形の明灰色～青灰色部は錆化鉄である。

（３）ビッカース断面硬度：第207図⑥の白色粒状結晶の硬度を測定した。硬度値は479、510、

519Hvであった。ウスタイトとしては若干硬質の値であり、マグネタイトとの混晶の可能性も考えられる。また淡灰色柱状結晶の硬度値は664Hvであった。ファヤライトの文献硬度値の範囲で、ファヤライトと推定される。

（４）化学組成分析：第18表に示す。全鉄分（Total Fe）42.72%に対して、金属鉄（Metallic Fe）は0.20%、酸化第１鉄（FeO）は23.87%、酸化第２鉄（Fe_2O_3）が34.27%の割合であった。造滓成分（SiO_2＋Al_2O_3＋CaO＋MgO＋K_2O＋Na_2O）33.22%で、このうち塩基性成分（CaO＋MgO）は2.31%であった。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO_2）は0.67%、バナジウム（V）が0.02%と低値であった。また酸化マンガン（MnO）は0.18%、銅（Cu）も＜0.01%と低値であった。

当鉄滓は主に鉄酸化物（FeO）と炉材粘土の溶融物（SiO_2主成分）からなり、製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起原の脈石成分は（TiO_2、V、MnO）は低値であった。この特徴から、熱間での鍛打加工に伴う鍛錬鍛冶滓と推定される。

4.　まとめ

森原下ノ原遺跡から出土した中世～近世の鍛冶関連遺物を調査した結果、以下の点が明らかとなった。

（１）椀形鍛冶滓４点（MRH－2、5、7、10）は、いずれも鍛錬鍛冶滓と推定される。主に鉄酸化物（FeO）と炉材粘土の溶融物（SiO_2主成分）からなり、製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起原の脈石成分は（TiO_2、V、MnO）は低値であった。また多くの鉄滓や鉄塊系遺物の表層に鍛造剥片が付着している。さらに、顕微鏡試料面で鍛造剥片の断面が観察できたものも複数（MRH－3、4、7、8）存在する。

これらの遺物群から、当遺跡では主に鉄材を熱間で鍛打加工して、鍛造鉄器を製作していたと推測される。

（２）椀形鍛冶滓（含鉄）・鉄塊系遺物６点のうち、２点（MRH－3、6）は小形の鋳鉄塊であった。さらに２点（MRH－8、9）も、内部に白鋳鉄組織が確認されている。残る２点（MRH－1、4）は部位による炭素量のばらつきが大きい鋼であった。

この結果から、当遺跡では銑（鋳鉄）が一定量は鍛冶原料となっており、炭素量を下げて鍛打加工可能な鉄素材を作る「卸し鉄」が行われていたと推定される。また椀形鍛冶滓中の鉄部や鉄塊の中で明瞭な鍛打加工の痕跡があるものはみられなかった。「卸し鉄」の作業、または鍛打加工のごく初期段階で、鍛冶炉内に取り残された可能性が考えられる。

【註】

１．日刊工業新聞社 1968『焼結鉱組織写真および識別法』

ウスタイトは約 450 ～ 500Hv、マグネタイトは約 500 ～ 600Hv、ファイヤライトは約 600 ～ 700Hvの範囲が提示されている。ウルボスピネル（Ulvöspinel：2FeO･TiO_2）の硬度値範囲の明記はないが、マグネタイト（Magnetite：FeO･Fe_2O_3）と同じスピネル類の化合物で、チタニアを固溶するためマグネタイトよりも硬質である。ウルボスピネル組成であれば通常 600Hv 以上の値を示す。ヘルシナイト（Hercynite：FeO･Al_2O_3）はさらに硬質で 1000Hvを超える。

第17表　供試材の履歴と調査項目

符号※	出土位置	遺物名称	推定年代	計測値		金属探知器反応	調査項目				
				大きさ(mm)	重量(g)		マクロ組織	顕微鏡組織	ﾋﾞｯｶｰｽ断面硬度	EPMA	化学分析
MRH-1 (31-17)	D5gr,2-2 層	椀形鍛冶滓（含鉄）	近世	61 ×58 ×32	182	特L（☆）	○	○	○	○	
MRH-2 (37-4)	遺構1004 鍛冶炉	椀形鍛冶滓		45 ×41 ×30	46	なし		○	○		○
MRH-3 (97-6)	遺構1051 炭溜	鉄塊系遺物	中世	21 ×23 ×18	9	L（●）	○	○	○		
MRH-4 (97-4)	遺構1137 鍛冶炉	鉄塊系遺物		27 ×36 ×15	25	L（●）	○	○	○		
MRH-5 (97-3)	遺構1345 鍛冶炉	椀形鍛冶滓		92 ×82 ×27	166	なし		○	○		○
MRH-6 (97-5)		鉄塊系遺物		24 ×37 ×18	20	L（●）	○	○	○		
MRH-7 (97-1)	遺構1072 鍛冶炉	椀形鍛冶滓		100 ×100 ×33	402	H（○）		○	○		○
MRH-8 (97-8)	遺構1135 鍛冶炉	鉄塊系遺物		32 ×53 ×28	62	L（●）	○	○	○		
MRH-9 (138-5)	C4gr,4-2 層	鉄塊系遺物		36 ×42 ×25	42	L（●）	○	○	○		
MRH-10 (134-17)	E3gr,4 層	椀形鍛冶滓		138 ×171 ×65	925	なし		○	○		○

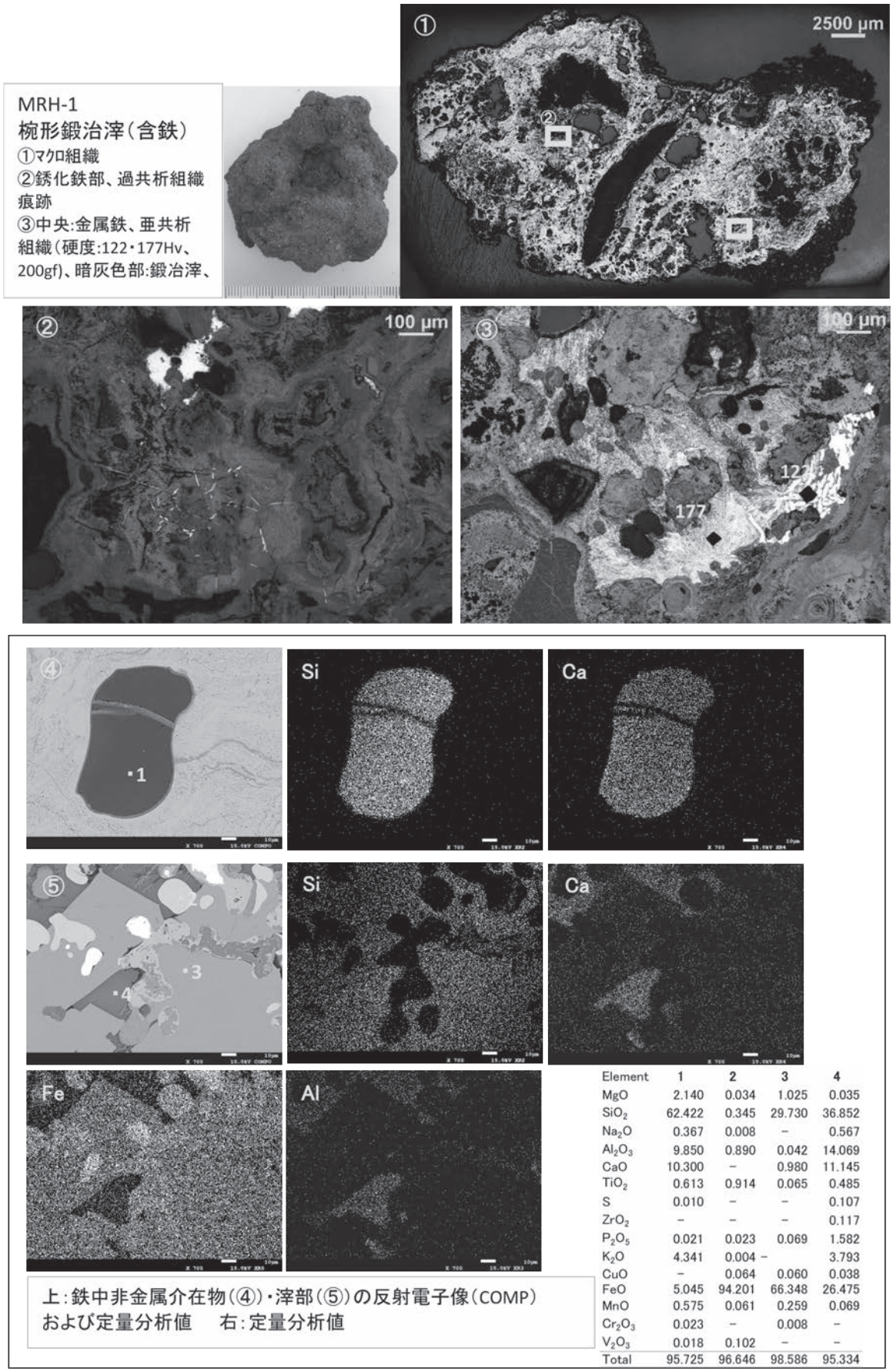
※符号（　）内の挿図番号はすべて『古代～近世編』に対応

第18表　供試材の化学組成

符号※	出土位置	遺物名称	推定年代	全鉄分 (Total Fe)	金属鉄 (Metallic Fe)	酸化第１鉄 (FeO)	酸化第２鉄 (Fe_2O_3)	二酸化珪素＊ (SiO_2)	酸化ｱﾙﾐﾆｳﾑ＊ (Al_2O_3)	酸化ｶﾙｼｳﾑ＊ (CaO)	酸化ﾏｸﾞﾈｼｳﾑ＊ (MgO)	酸化ｶﾘｳﾑ＊ (K_2O)	酸化ﾅﾄﾘｳﾑ＊ (Na_2O)	酸化ﾏﾝｶﾞﾝ (MnO)
MRH-2 (37-4)	遺構1004 鍛冶炉	椀形鍛冶滓	近世	38.23	0.07	42.96	6.816	33.64	6.86	2.84	0.85	2.04	0.76	0.15
MRH-5 (97-3)	遺構1345 鍛冶炉	椀形鍛冶滓	中世	43.17	0.10	41.64	15.30	29.93	4.82	1.82	0.91	1.11	0.39	0.14
MRH-7 (97-1)	遺構1072 鍛冶炉	椀形鍛冶滓		45.10	0.14	41.10	18.61	26.29	5.21	1.98	0.61	1.30	0.62	0.08
MRH-10 (134-17)	E3gr,4 層	椀形鍛冶滓		42.72	0.20	23.87	34.27	24.66	4.68	1.82	0.49	0.99	0.58	0.18

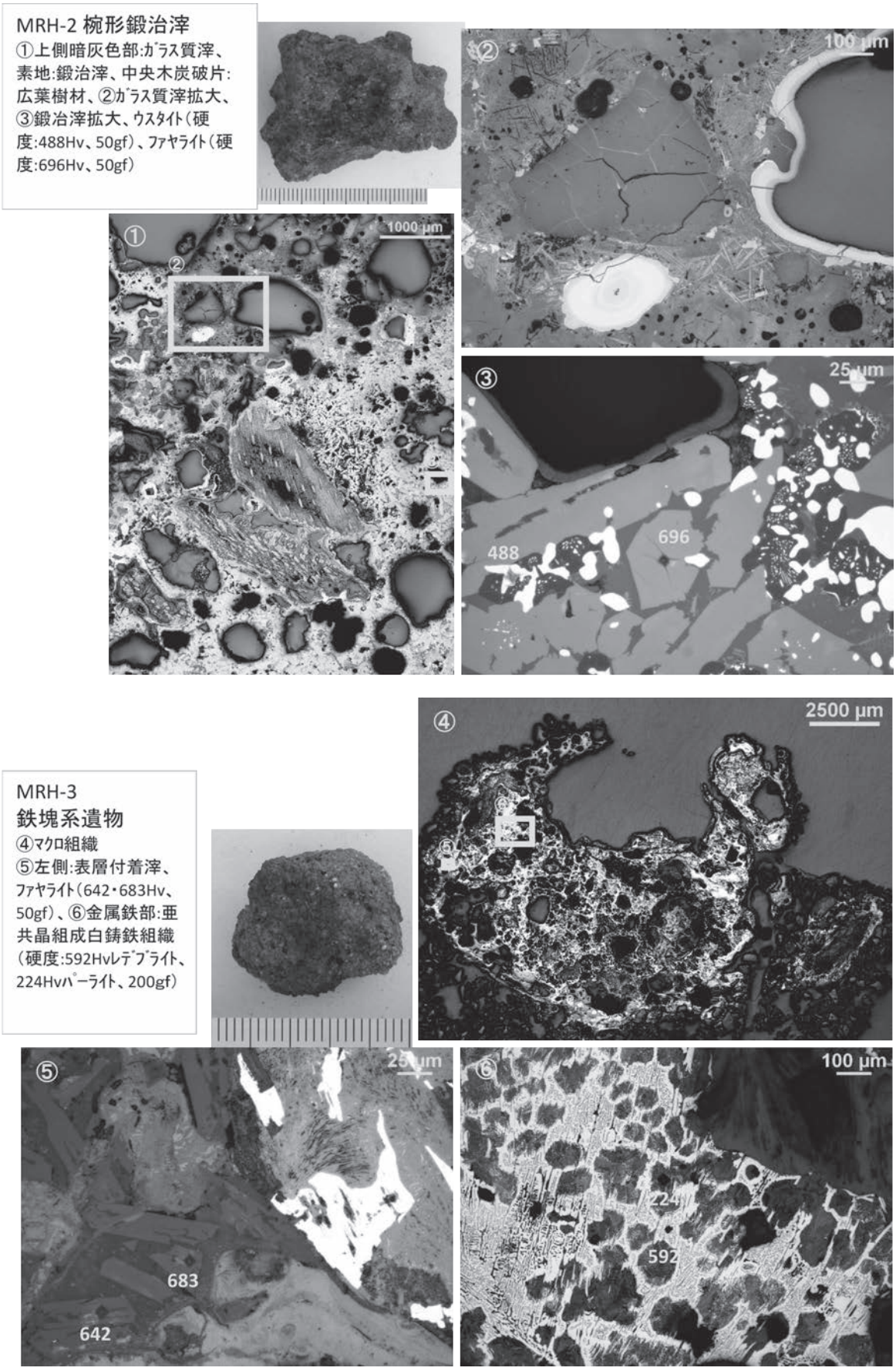
※符号（　）内の挿図番号はすべて『古代～近世編』に対応

二酸化ﾁﾀﾝ (TiO_2)	酸化ｸﾛﾑ (Cr_2O_3)	硫黄 (S)	五酸化燐 (P_2O_5)	炭素 (C)	ﾊﾞﾅｼﾞｳﾑ (V)	銅 (Cu)	二酸化ｼﾞﾙｺﾆｳﾑ (ZrO_2)	造滓成分Σ＊	造滓成分 (Total Fe)	TiO_2 (Total Fe)
0.60	0.03	0.02	0.43	0.20	0.02	<0.01	0.02	46.99	1.2291	0.0157
0.32	0.01	0.02	0.26	0.29	<0.01	<0.01	<0.01	38.98	0.9029	0.0074
0.44	0.01	0.01	0.35	0.39	0.01	<0.01	<0.01	36.01	0.7984	0.0098
0.67	0.02	0.02	0.30	0.46	0.02	<0.01	0.03	33.22	0.7776	0.0157

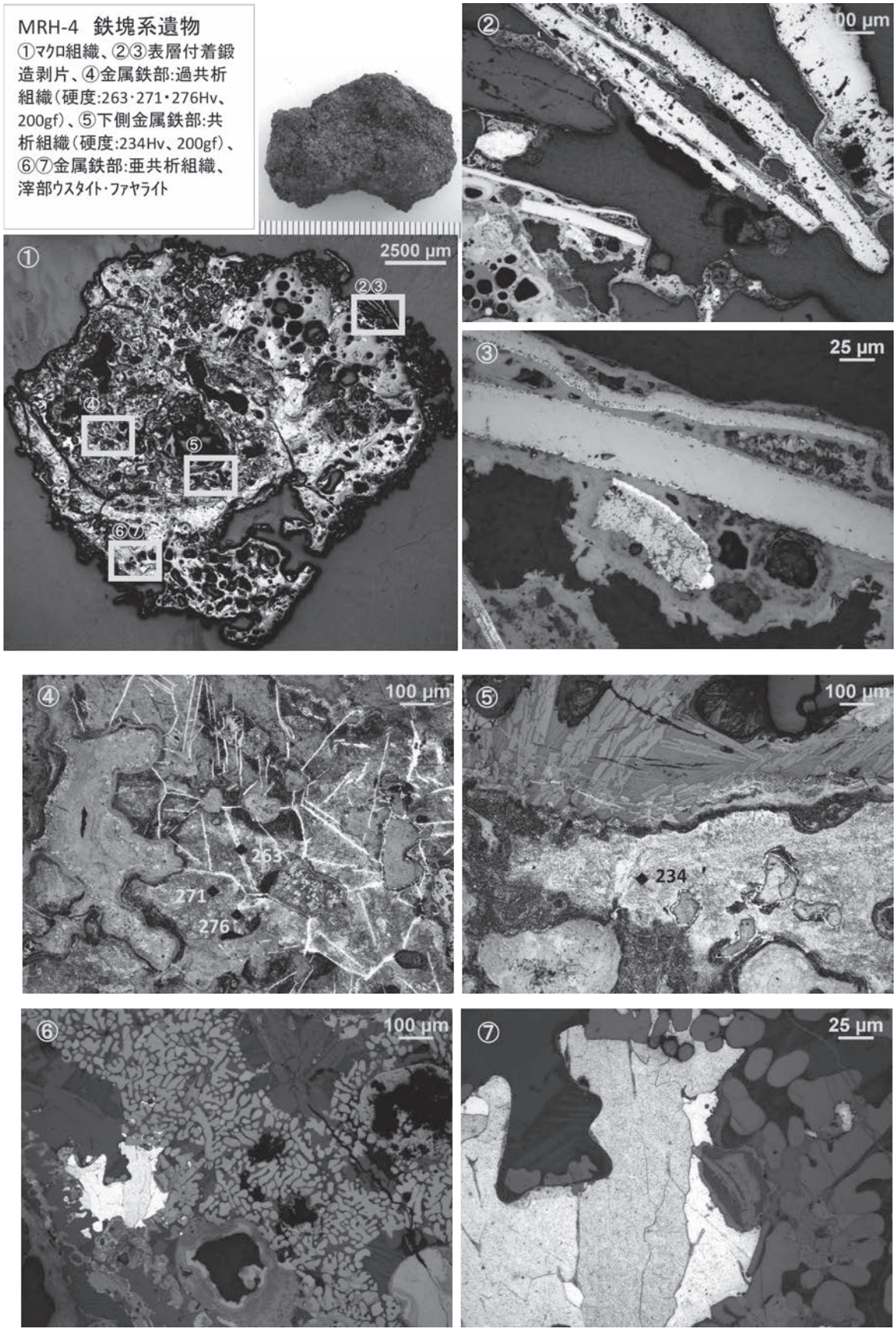


Element	1	2	3	4
MgO	2.140	0.034	1.025	0.035
SiO_2	62.422	0.345	29.730	36.852
Na_2O	0.367	0.008	–	0.567
Al_2O_3	9.850	0.890	0.042	14.069
CaO	10.300	–	0.980	11.145
TiO_2	0.613	0.914	0.065	0.485
S	0.010	–	–	0.107
ZrO_2	–	–	–	0.117
P_2O_5	0.021	0.023	0.069	1.582
K_2O	4.341	0.004	–	3.793
CuO	–	0.064	0.060	0.038
FeO	5.045	94.201	66.348	26.475
MnO	0.575	0.061	0.259	0.069
Cr_2O_3	0.023	–	0.008	–
V_2O_3	0.018	0.102	–	–
Total	95.725	96.646	98.586	95.334

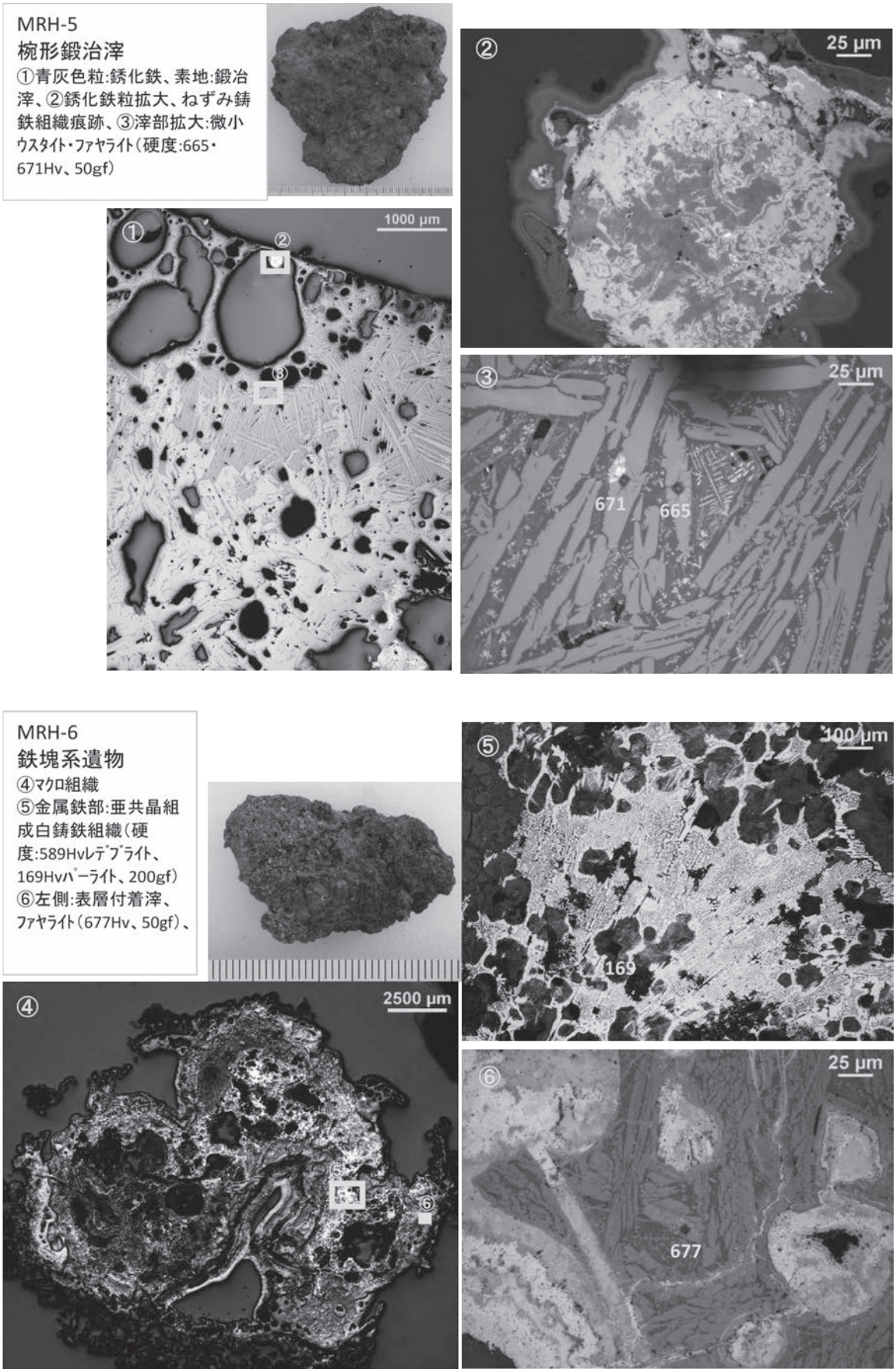
第 203 図　椀形鍛冶滓（含鉄）の顕微鏡組織・EPMA 調査結果



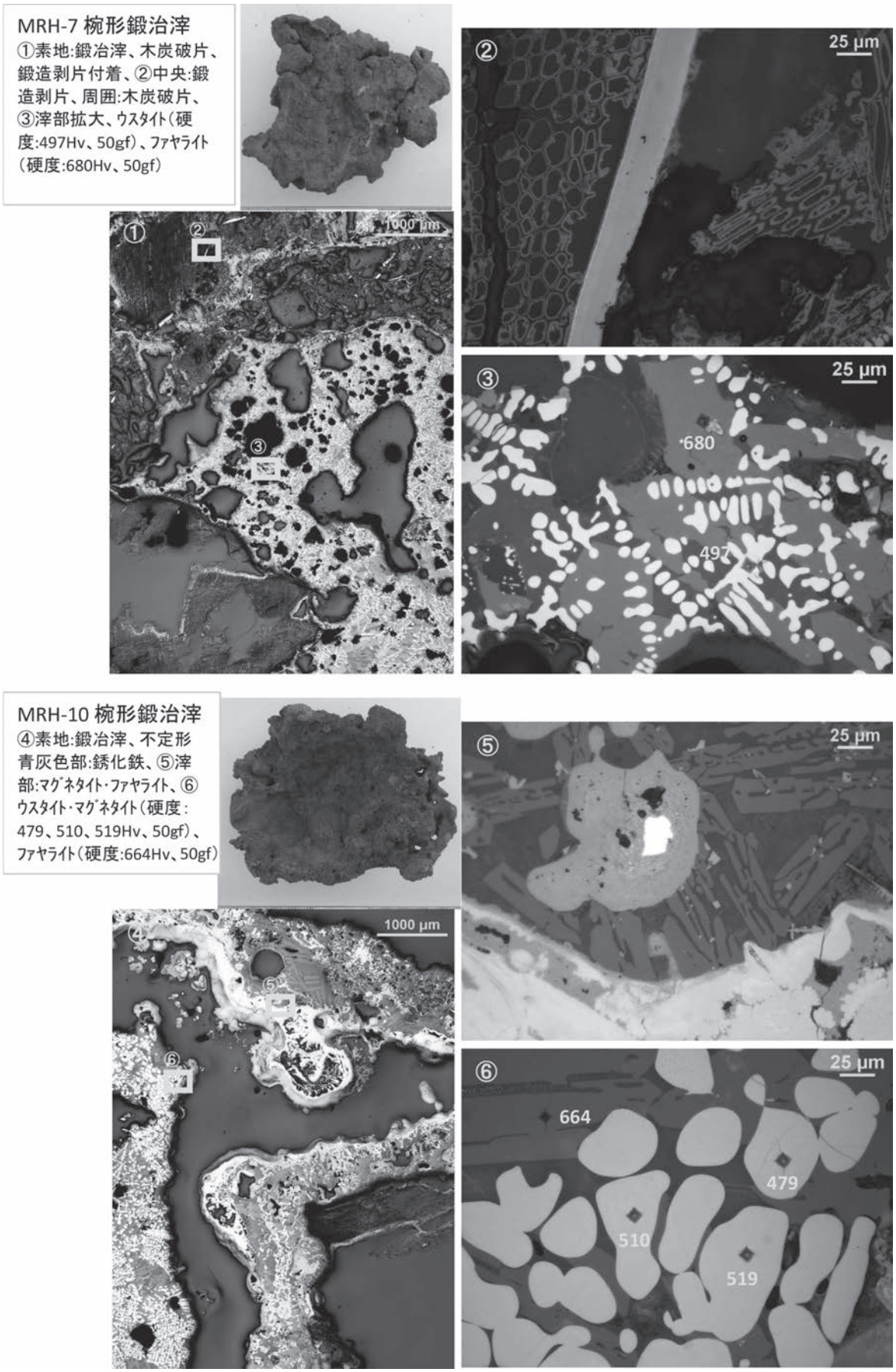
第 204 図　椀形鍛冶滓・鉄塊系遺物の顕微鏡組織



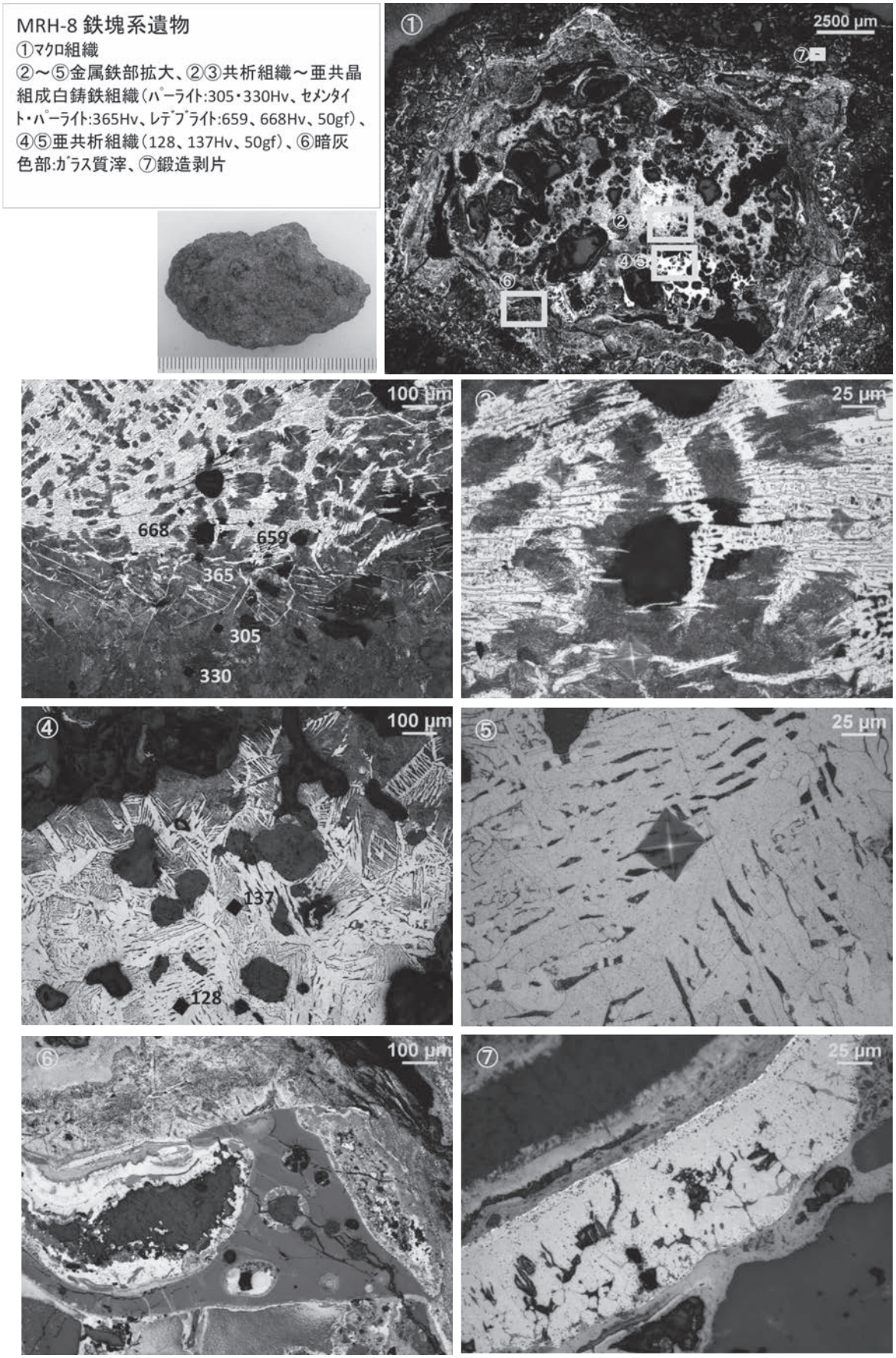
第 205 図　鉄塊系遺物の顕微鏡組織



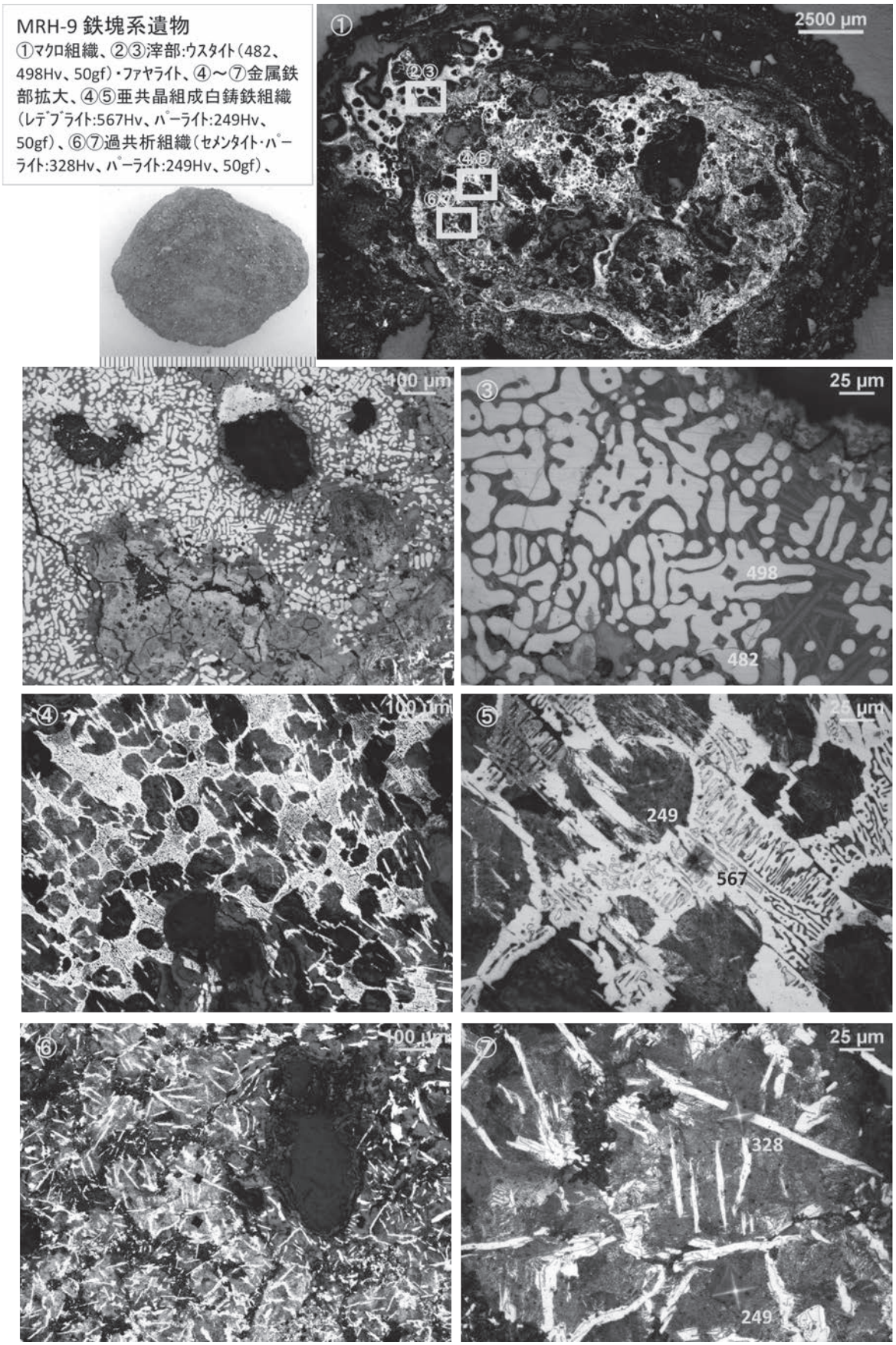
第 206 図　椀形鍛冶滓・鉄塊系遺物の顕微鏡組織



第 207 図　椀形鍛冶滓の顕微鏡組織



第 208 図　鉄塊系遺物の顕微鏡組織



第 209 図　鉄塊系遺物の顕微鏡組織

第３節　島根県江津市森原下ノ原遺跡出土ガラス玉の自然科学的調査

田村　朋美（奈良文化財研究所）

1.　はじめに

島根県江津市森原下ノ原遺跡から出土したガラス小玉について、製作技法を推定し、化学組成から基礎ガラスの種類および着色材の特徴を把握することを目的として自然科学的調査を実施した。以下、その結果について報告する。

2.　資料と方法

調査対象とした資料は、森原下ノ原遺跡から出土したガラス小玉４点である（分析No. 1 ～ No. 4 ）。いずれも淡青色透明を呈する。保存状態は比較的良好であり、ガラス光沢が認められる（第210図）。

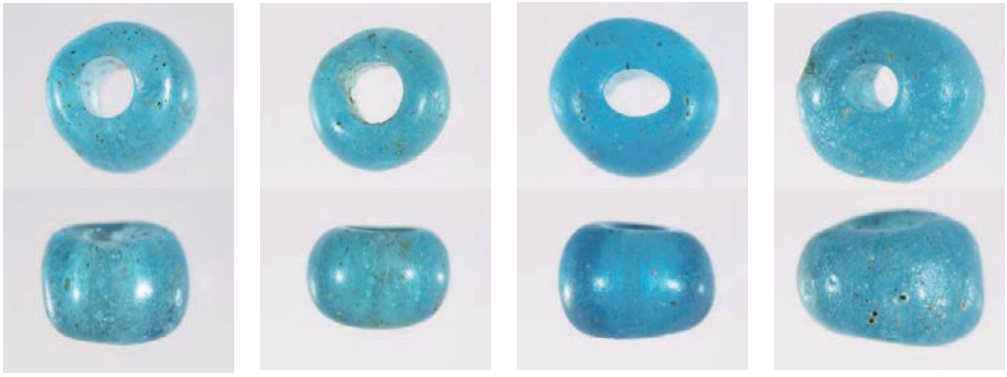
これらのガラス小玉について、顕微鏡観察による製作技法の推定と、蛍光Ｘ線分析による化学組成の調査を実施した。蛍光Ｘ線分析にあたっては、顕微鏡下で風化の影響ができるだけ少ない場所を測定箇所に選定し、超音波およびエチルアルコールを用いて洗浄したうえで実施した。測定結果は、測定試料と近似する濃度既知のガラス標準試料(Corning A、SG5、SG7、SGT5、NIST620)を用いて補正した理論補正法（Fundamental Parameter Method：FP法）により、検出した元素の酸化物の合計が100％になるように規格化した。

測定に用いた装置は、エネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置（エダックス社製EAGLE Ⅲ）である。励起用Ｘ線源はロジウム（Rh）管球、管電圧は、FP法を用いた定量分析では20 kVに設定し、必要に応じて20 keV以上のスペクトルを検出するため、45 kVに設定した。管電流は200 μA、Ｘ線照射径は50 μm、計数時間は300 秒とし、真空中で測定した。

3.　結果と考察

（1）製作技法

製作技法については、すべて引き伸ばし法で製作されたと推定される。引き伸ばし法は、軟化したガラスを引き伸ばしてガラス管を作り、それを分割して小玉を製作する方法で、孔と平行に並ぶ気泡列が認められるのが特徴である。



分析No.1（27-16）　分析No.2（27-8）　分析No.3（27-7）　分析No.4（46-11）

第 210 図　森原下ノ原遺跡出土玉類の顕微鏡写真

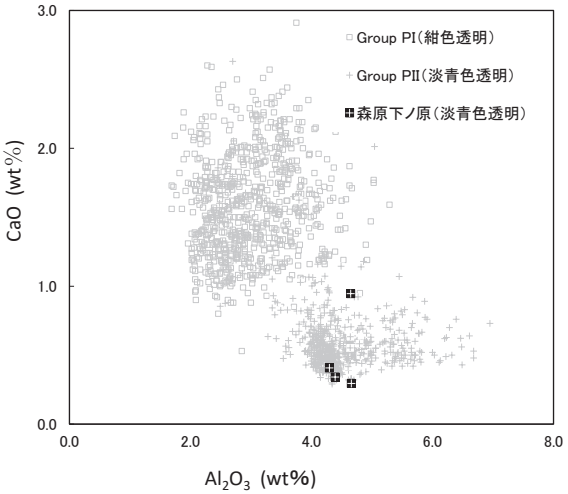
第19表　蛍光Ｘ線分析結果

分析No.	資料番号	色調	基礎ガラス			着色剤	重量濃度 (%)																	※1
			大別	細分	Group		Na_2O	MgO	Al_2O_3	SiO_2	P_2O_5	K_2O	CaO	TiO_2	Cr_2O_3	MnO	Fe_2O_3	CoO	CuO	ZnO	PbO	Rb_2O	SrO	ZrO_2	SnO_2
1	27-16	淡青色透明	カリ	高アルミナ	PII	銅	1.2	0.9	4.4	77.6	0.1	13.7	0.3	0.10	0.02	0.02	0.40	0.01	0.93	0.02	0.19	0.04	0.03	0.09	0.22
2	27-8	淡青色透明	カリ	高アルミナ	PII	銅	1.6	1.1	4.6	76.7	0.1	13.1	0.9	0.12	0.02	0.03	0.38	0.01	0.89	0.02	0.18	0.03	0.02	0.07	0.18
3	27-7	淡青色透明	カリ	高アルミナ	PII	銅	1.6	1.1	4.3	75.7	0.0	14.7	0.4	0.10	0.02	0.02	0.45	0.00	1.24	0.02	0.11	0.05	0.02	0.08	0.48
4 ※2	46-11	淡青色透明	カリ	高アルミナ	PII	銅	1.9	0.9	4.7	78.3	0.1	11.6	0.3	0.13	0.02	0.01	0.39	0.01	1.27	0.02	0.22	0.04	0.02	0.11	0.26

※1：SnO_2 は管電圧45kV で測定、Sn のK α線を用いてスタンダードレスのFP 法で算出した値。
※2：分析番号４は『古代～近世編』で掲載。資料番号もこれに準ずる。

（２）蛍光Ｘ線分析

蛍光Ｘ線分析の結果、森原下ノ原遺跡出土のガラス小玉は、K_2Oを11.6-14.7％含有することから、すべてカリガラスであった（第19表）。着色に関与する成分については、CuOの含有量が多く（0.89-1.27％）、銅イオンが主要な着色要因である。いずれも微量のPbOとSnO_2を含有しており、着色剤として青銅が利用された可能性が示唆される。既往研究において、日本列島で出土するカリガラスは、CaOとAl_2O_3の含有量から二種類（Group PIおよびGroup PII）に大別され、Group PIはコバルト着色の紺色カリガラスに、Group PIIは銅着色の淡青色カリガラスに対応することが明らかとなっている[1]。本調査の結果、森原下ノ原遺跡出土のガラス小玉については、No. ２のみ他の３点に比べてややCaOが多いものの、基礎ガラスの種類と着色剤の関係から、Al_2O_3含有量が多くCaO含有量が少ないタイプのカリガラス（Group PII）に相当すると判断された（第211図）。



第 211 図　カリガラスの細分

【註】

1．Oga, K., Tamura, T. 2013. Ancient Japan and the Indian Ocean Interaction Sphere: Chemical Compositions, Chronologies, Provenances and Trade Routes of Imported Glass Beads in Yayoi-Kofun Period (3rd Century BCE-7th Century CE). Journal of Indian Ocean Archaeology, 9, pp.34-60.

第４節　森原下ノ原遺跡（１区）出土縄文土器に付着した赤色顔料の蛍光Ｘ線分析

島根県教育庁埋蔵文化財調査センター　上山　晶子

1.　はじめに

森原下ノ原遺跡（１区）から出土した縄文土器に赤色顔料が付着しているものがあることが確認された。当該時期の土器などに付着している赤色顔料の種類としては水銀朱（硫化第二水銀；HgS）、ベンガラ（酸化第二鉄；Fe_2O_3）が想定され（市毛1998など）、肉眼観察のみでその成分を特定することは難しい。したがって肉眼観察と顕微鏡観察によって赤色顔料の付着状況を確認し、蛍光Ｘ線分析による元素定性分析を実施した。

2.　対象資料（試料）

森原下ノ原遺跡（１区）から出土した赤色顔料が付着しているとみられる縄文土器27点である（第20表）。

3.　分析の方法

蛍光Ｘ線分析による元素定性分析を非破壊で実施した。

使用機器は島根県古代文化センター所有・島根県埋蔵文化財調査センター設置　「エスアイアイ・ナノテクノロジー社（現;日立ハイテクサイエンス）製SEA1200VX卓上型ケイ光Ｘ線分析計（エネルギー分散型）」である。測定条件は以下のとおりである。試料室雰囲気は大気、管電圧は50kV、管電流は管電圧の設定による自動設定（1000μA）、測定時間は100秒（測定可能な有効時間は79 ～ 92秒）、コリメータ（測定範囲）は直径8.0mm、ピーキングタイムは1.0usec.、Ｘ線管球はRh（ロジウム）、検出器はマルチカソードSi半導体検出器、一次フィルタとしてPbフィルタを設定している。なお、装置の仕様上Chemplex社製マイラーフィルムを使用している。

測定箇所は肉眼、あるいは顕微鏡観察（10 ～ 40倍）によって赤色顔料の付着が確認された箇所と、赤色顔料の付着が見られない箇所（非赤色部分;土器破断面や内面の胎土部分）を比較対照試料として設定した。このうち、水銀（Hg）や硫黄（S）の蛍光Ｘ線スペクトルピーク（以下、ピーク）を高く検出したものを水銀朱、鉄（Fe）のピークを高く検出し、水銀や硫黄のピークを検出しなかったものは、肉眼・顕微鏡観察の結果や非赤色部分との検出ピークの比較などからベンガラ（ここでは酸化鉄を多く含む「広義のベンガラ」（市毛1998））であると判断した。

4.　結果

第20表と蛍光Ｘ線スペクトルデータ（第212 ～ 218図）に示す。蛍光Ｘ線スペクトルデータのうち、Ａは赤色顔料付着部分の測定結果を、Ｂは非赤色部分の測定結果を示す。

このうち、第135図-2と第135図-6は、肉眼・顕微鏡観察の結果、赤色顔料の付着が確認できなかったため、蛍光Ｘ線分析は実施していない。

そのほかの赤色顔料付着土器では、全ての赤色顔料付着箇所から鉄（Fe）の高いピークを検出した。赤色顔料の付着状況の観察結果や非赤色部分のピークの比較等から、赤色顔料の種類としてはベンガラであると推測される。パイプ状ベンガラか否かについては今回の分析方法では判断できない。なお、非赤色部分からも鉄（Fe）のピークは検出されるが、赤色顔料の付着がみられないことから、胎土成分に由来、もしくは埋蔵環境下における鉄分の二次的な付着などによるものと考えられる。

また、第136図-11では、土器内面が橙色に発色しており、蛍光Ｘ線分析の結果、鉄（Fe）の高いピークを検出した。土器胎土に含まれる鉄分の発色ともとらえられるが、肉眼・顕微鏡観察の結果、塗膜状に塗ったような痕跡もみられることから、「広義のベンガラ」もしくは「鉄分を多く含む赤土のようなもの」を土器内面に塗った可能性も考えられる。

引用文献・参考文献

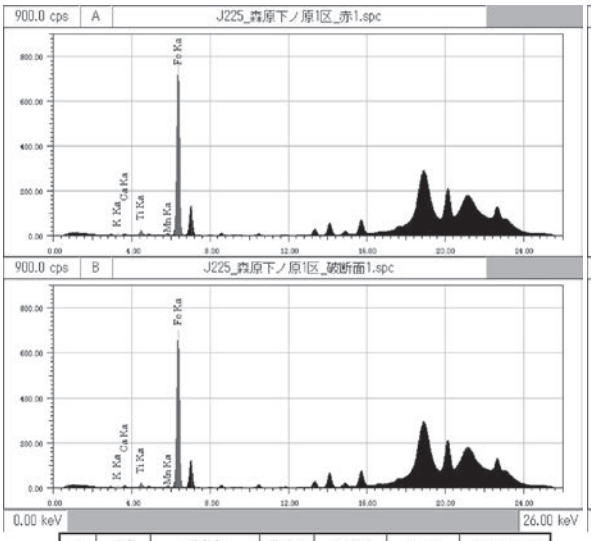
市毛勲 1998『新版 朱の考古学』雄山閣

第20表　森原下ノ原遺跡（1区）出土縄文土器付着赤色顔料の蛍光X線分析結果

挿図№	種別	器種	測定箇所	検出元素			推測される顔料	備考
				Hg	S	Fe		
136-14	縄文土器	浅鉢	外面	-	-	++	ベンガラ	内面は試料形状により測定できない. 内面・胎土に赤色顔料の付着はみられないが胎土からFeの高いピークを検出.
			内面	×	×	×	-	
			破断面(胎土)	-	-	++	-	
135-8	縄文土器	浅鉢	外面	-	-	++	ベンガラ	内面は試料形状により測定できない. 内面・胎土に赤色顔料の付着はみられないが胎土からFeの高いピークを検出.
			内面	×	×	×	-	
			破断面(胎土)	-	-	++	-	
135-10	縄文土器	浅鉢	外面	-	-	++	ベンガラ	内面は試料形状により測定できない. 内面・胎土に赤色顔料の付着はみられないが胎土からFeの高いピークを検出.
			内面	×	×	×	-	
			破断面(胎土)	-	-	++	-	
136-11	縄文土器	浅鉢	外面	-	-	++	ベンガラ	内面は赤色を呈する. 胎土に赤色顔料の付着はみられないがFeのピークを検出.
			内面	-	-	++	ベンガラか？	
			破断面(胎土)	-	-	+	-	
137-4	縄文土器	壺	外面	-	-	++	ベンガラ	内面は試料形状により測定できない. 内面・胎土に赤色顔料の付着はみられないが胎土からFeのピークを検出.
			内面	×	×	×	-	
			破断面(胎土)	-	-	+	-	
137-3	縄文土器	浅鉢	外面	-	-	++	ベンガラ	内面・胎土に赤色顔料の付着はみられないが胎土からFeのピークを検出.
			内面	×	×	×	-	
			破断面(胎土)	-	-	+	-	
144-13	縄文土器	浅鉢	外面	-	-	++	ベンガラ	内面は試料形状により測定できない. 内面・胎土に赤色顔料の付着はみられないが胎土からFeのピークを検出.
			内面	×	×	×	-	
			破断面(胎土)	-	-	+	-	
142-22	縄文土器	浅鉢	外面	-	-	++	ベンガラ	内面は試料形状により測定できない. 内面・胎土に赤色顔料の付着はみられないが胎土からFeのピークを検出.
			内面	×	×	×	-	
			破断面(胎土)	-	-	+	-	
143-3	縄文土器	浅鉢	外面	-	-	++	ベンガラ	内面・胎土に赤色顔料の付着はみられないが胎土からFeのピークを検出.
			内面	×	×	×	-	
			破断面(胎土)	-	-	+	-	
143-6	縄文土器	浅鉢	外面	-	-	++	ベンガラ	内面は試料形状により測定できない. 内面・胎土に赤色顔料の付着はみられないが胎土からFeの高いピークを検出.
			内面	×	×	×	-	
			破断面(胎土)	-	-	++	-	
175-8	縄文土器	浅鉢	外面	-	-	++	ベンガラ	内面は試料形状により測定できない. 内面・胎土に赤色顔料の付着はみられないが胎土からFeのピークを検出.
			内面	×	×	×	-	
			破断面(胎土)	-	-	+	-	
175-17	縄文土器	浅鉢	外面	-	-	++	ベンガラ	内面は試料形状により測定できない. 内面・胎土に赤色顔料の付着はみられないが胎土からFeのピークを検出.
			内面	×	×	×	-	
			破断面(胎土)	-	-	+	-	
135-4	縄文土器	深鉢	外面	-	-	++	ベンガラ	内面は試料形状により測定できない. 内面・胎土に赤色顔料の付着はみられないが胎土からFeのピークを検出.
			内面	×	×	×	-	
			破断面(胎土)	-	-	+	-	
135-2	縄文土器	深鉢	外面	×	×	×	-	内外面ともに赤色顔料の付着がみられない.
			内面	×	×	×	-	
			破断面(胎土)	×	×	×	-	
135-3	縄文土器	深鉢	外面	-	-	++	ベンガラ	内面・胎土に赤色顔料の付着はみられないが胎土からFeのピークを検出.
			内面	×	×	×	-	
			破断面(胎土)	-	-	+	-	
135-6	縄文土器	浅鉢	外面	×	×	×	-	内外面ともに赤色顔料の付着がみられない.
			内面	×	×	×	-	
			破断面(胎土)	×	×	×	-	
135-7	縄文土器	浅鉢	外面	-	-	++	ベンガラ	内面・胎土に赤色顔料の付着はみられないが胎土からFeのピークを検出.
			内面	×	×	×	-	
			破断面(胎土)	-	-	+	-	
140-10	縄文土器	深鉢	外面	-	-	++	ベンガラ	内面・胎土に赤色顔料の付着はみられないが, 胎土は全体的に赤色を呈しており,Feの高いピークを検出.
			内面	×	×	×	-	
			破断面(胎土)	-	-	++	-	
137-1	縄文土器	浅鉢	外面	-	-	++	ベンガラ	内面・胎土に赤色顔料の付着はみられないが胎土からFeのピークを検出.
			内面	×	×	×	-	
			破断面(胎土)	-	-	+	-	

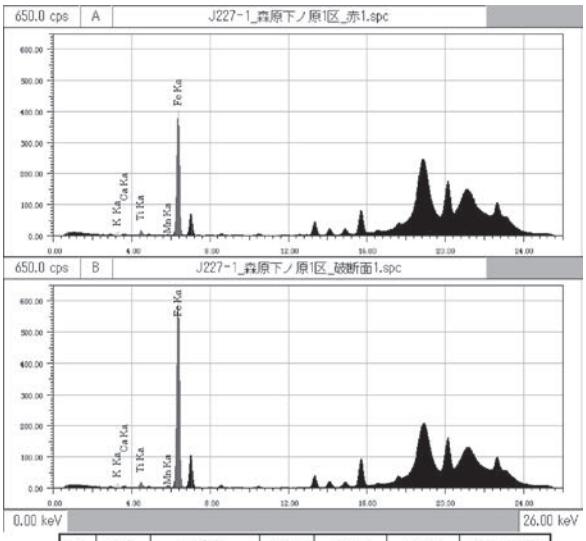
挿図No.	種別	器種	測定箇所	検出元素			推測される顔料	備考
				Hg	S	Fe		
143-7	縄文土器	浅鉢	外面	-	-	++	ベンガラ	内面・胎土に赤色顔料の付着はみられないが胎土は全体的に赤色を呈しておりFe の高いピークを検出.
			内面	×	×	×	-	
			破断面(胎土)	-	-	++	-	
68-9	縄文土器	深鉢	外面	-	-	++	ベンガラ	内面・胎土に赤色顔料の付着はみられないが胎土からFe のピークを検出.
			内面	×	×	×	-	
			破断面(胎土)	-	-	+	-	
非掲載1	縄文土器	破片	外面	-	-	++	ベンガラ	内面・胎土に赤色顔料の付着はみられないが胎土からFe のピークを検出.
			内面	×	×	×	-	
			破断面(胎土)	-	-	+	-	
非掲載2	縄文土器	破片	外面	-	-	++	ベンガラ	内面・胎土に赤色顔料の付着はみられないが胎土からFe の高いピークを検出.
			内面	×	×	×	-	
			破断面(胎土)	-	-	++	-	
非掲載3	縄文土器	破片	外面	-	-	++	ベンガラ	破断面は試料形状により測定できない. 内面・胎土に赤色顔料の付着はみられないが内面の胎土からFe の高いピークを検出.
			内面(胎土)	-	-	++	-	
			破断面(胎土)	×	×	×	-	
非掲載4	縄文土器	破片	外面	-	-	++	ベンガラ	内面・胎土に赤色顔料の付着はみられないが胎土からFe のピークを検出.
			内面	×	×	×	-	
			破断面(胎土)	-	-	+	-	
非掲載5	縄文土器	破片	外面	-	-	++	ベンガラ	内面・胎土に赤色顔料の付着はみられないが胎土からFe のピークを検出.
			内面	×	×	×	-	
			破断面(胎土)	-	-	+	-	
非掲載6	縄文土器	破片	外面	-	-	++	ベンガラ	内面・胎土に赤色顔料の付着はみられないが胎土からFe のピークを検出.
			内面	×	×	×	-	
			破断面(胎土)	-	-	+	-	

※検出元素凡例：
＋＋…スペクトルピークを高く検出　＋…検出　－…検出せず
×…測定データなし（赤色顔料の付着がみられない・試料形状により測定不可など）



Z	元素	元素名	ライン	A(cps)	B(cps)	R O I (keV)
19	K	カリウム	K α	118.579	103.945	3.16- 3.46
20	Ca	カルシウム	K α	93.725	105.010	3.54- 3.84
22	Ti	チタン	K α	219.983	212.113	4.35- 4.67
25	Mn	マンガン	K α	104.880	101.797	5.73- 6.07
26	Fe	鉄	K α	6609.685	5961.908	6.23- 6.57

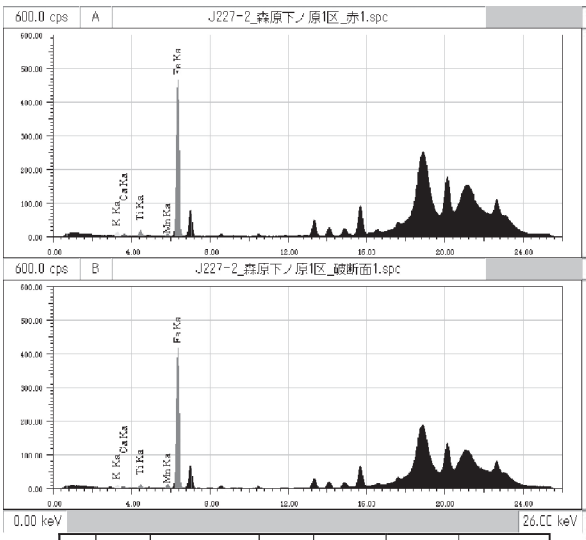
第 136 図 -14



Z	元素	元素名	ライン	A(cps)	B(cps)	R O I (keV)
19	K	カリウム	K α	115.539	122.281	3.16- 3.46
20	Ca	カルシウム	K α	65.799	73.284	3.54- 3.84
22	Ti	チタン	K α	152.854	162.532	4.35- 4.67
25	Mn	マンガン	K α	63.430	86.474	5.73- 6.07
26	Fe	鉄	K α	3427.790	5279.091	6.23- 6.57

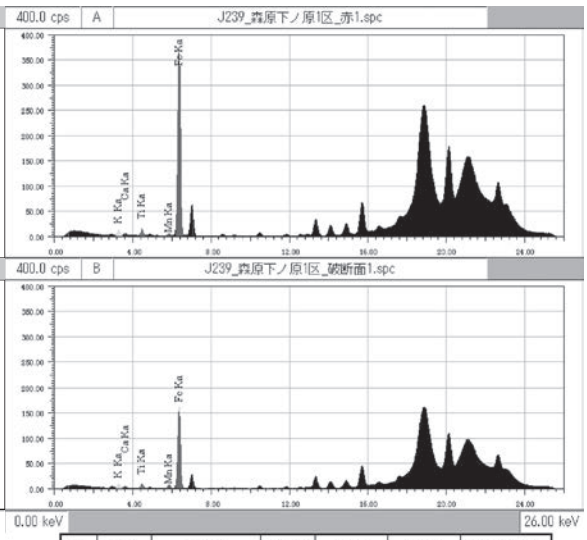
第 135 図 -8

第 212 図　蛍光 X 線分析スペクトル（ 1 ）



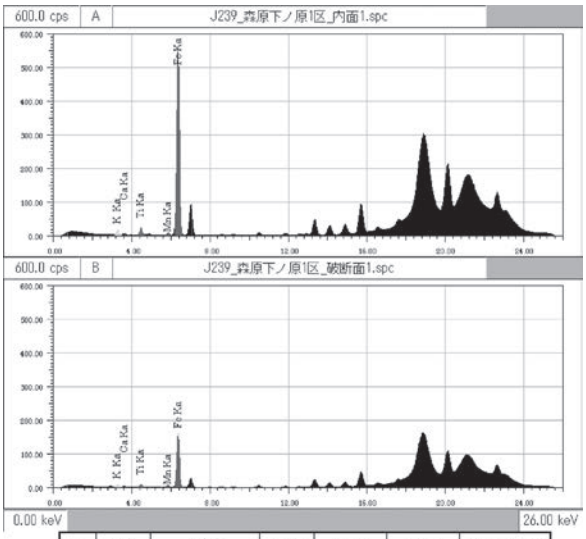
Z	元素	元素名	ライン	A(cps)	B(cps)	ROI(keV)
19	K	カリウム	Kα	134.041	85.250	3.16-3.46
20	Ca	カルシウム	Kα	75.959	56.506	3.54-3.84
22	Ti	チタン	Kα	183.931	115.728	4.35-4.67
25	Mn	マンガン	Kα	75.239	108.319	5.73-6.07
26	Fe	鉄	Kα	3989.526	3519.366	6.23-6.57

第 135 図 10



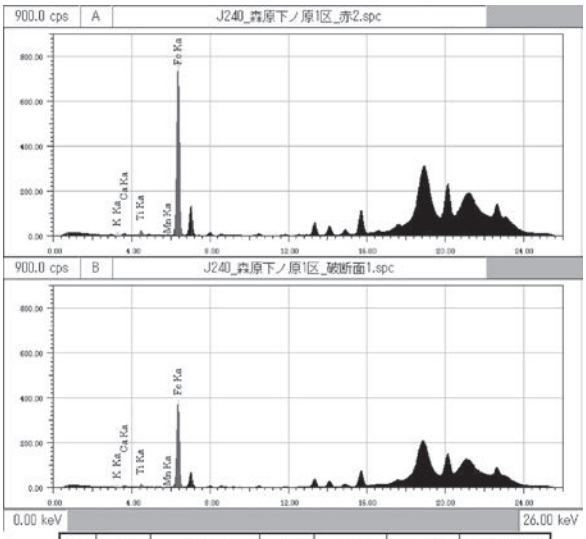
Z	元素	元素名	ライン	A(cps)	B(cps)	ROI(keV)
19	K	カリウム	Kα	122.113	84.441	3.16-3.46
20	Ca	カルシウム	Kα	71.254	47.389	3.54-3.84
22	Ti	チタン	Kα	140.470	90.416	4.35-4.67
25	Mn	マンガン	Kα	70.084	74.190	5.73-6.07
26	Fe	鉄	Kα	3298.093	1383.927	6.23-6.57

第 136 図 11（外面赤彩）



Z	元素	元素名	ライン	A(cps)	B(cps)	ROI(keV)
19	K	カリウム	Kα	161.892	84.441	3.16-3.46
20	Ca	カルシウム	Kα	85.486	47.389	3.54-3.84
22	Ti	チタン	Kα	218.875	90.416	4.35-4.67
25	Mn	マンガン	Kα	92.677	74.190	5.73-6.07
26	Fe	鉄	Kα	4932.301	1383.927	6.23-6.57

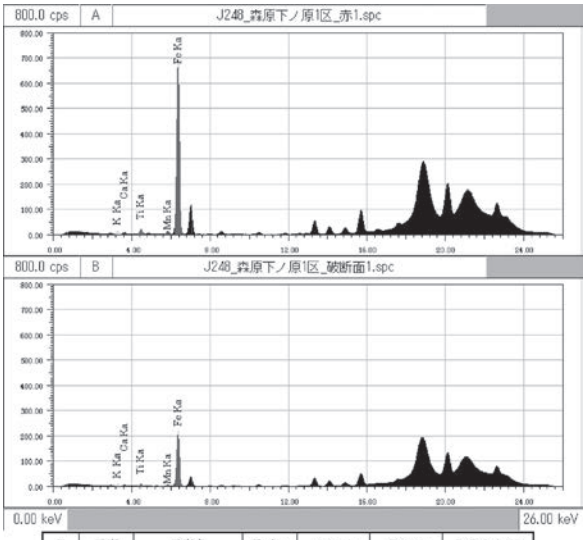
第 136 図 11（内面赤彩）



Z	元素	元素名	ライン	A(cps)	B(cps)	ROI(keV)
19	K	カリウム	Kα	164.366	108.530	3.16-3.46
20	Ca	カルシウム	Kα	120.484	79.850	3.54-3.84
22	Ti	チタン	Kα	222.557	126.674	4.35-4.67
25	Mn	マンガン	Kα	82.721	49.013	5.73-6.07
26	Fe	鉄	Kα	6553.142	3284.796	6.23-6.57

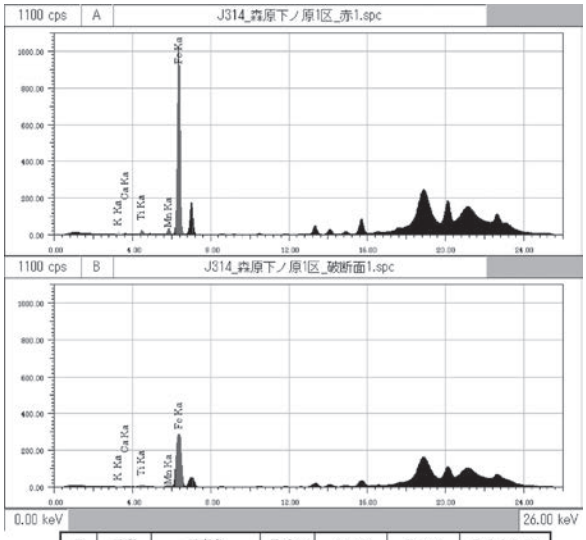
第 137 図 4

第 213 図　蛍光 X 線分析スペクトル（２）



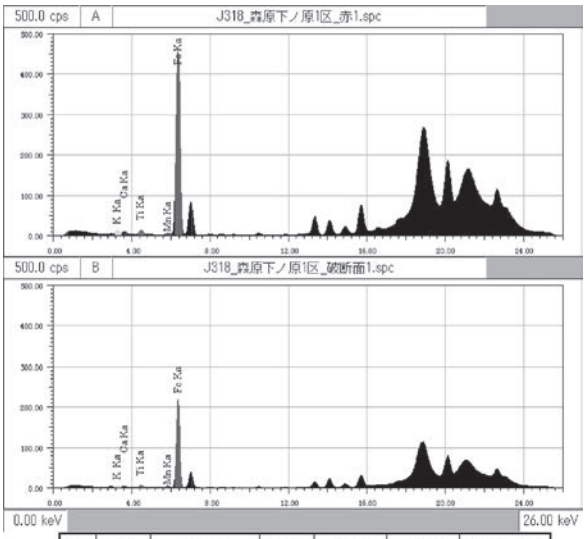
Z	元素	元素名	ライン	A(cps)	B(cps)	R O I (keV)
19	K	カリウム	K α	146.629	77.472	3.16- 3.46
20	Ca	カルシウム	K α	102.195	57.897	3.54- 3.84
22	Ti	チタン	K α	205.409	89.274	4.35- 4.67
25	Mn	マンガン	K α	141.250	64.622	5.73- 6.07
26	Fe	鉄	K α	5870.180	1857.795	6.23- 6.57

第 137 図 3



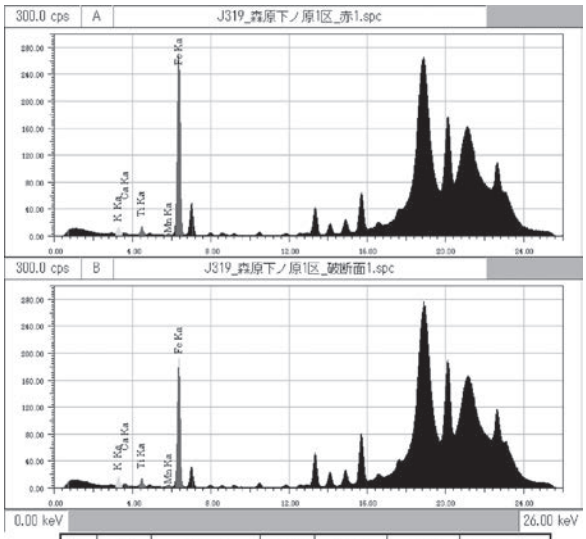
Z	元素	元素名	ライン	A(cps)	B(cps)	R O I (keV)
19	K	カリウム	K α	155.726	84.368	3.16- 3.46
20	Ca	カルシウム	K α	83.605	52.108	3.54- 3.84
22	Ti	チタン	K α	233.110	120.765	4.35- 4.67
25	Mn	マンガン	K α	307.499	137.978	5.73- 6.07
26	Fe	鉄	K α	9148.486	4091.692	6.23- 6.57

第 144 図 13



Z	元素	元素名	ライン	A(cps)	B(cps)	R O I (keV)
19	K	カリウム	K α	176.565	55.252	3.16- 3.46
20	Ca	カルシウム	K α	125.283	50.612	3.54- 3.84
22	Ti	チタン	K α	173.643	72.218	4.35- 4.67
25	Mn	マンガン	K α	96.258	60.322	5.73- 6.07
26	Fe	鉄	K α	5647.856	2281.775	6.23- 6.57

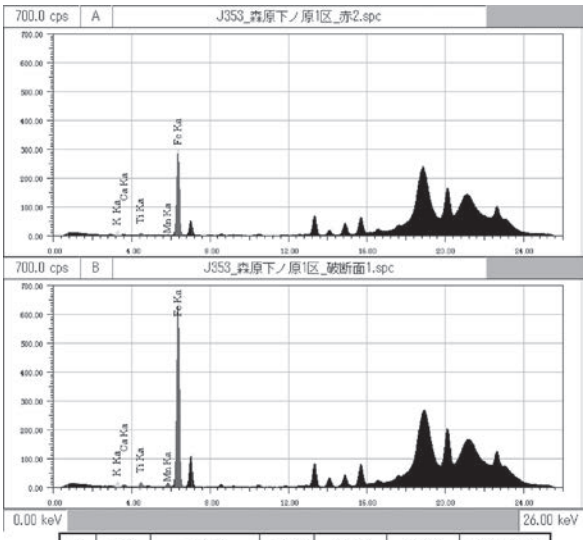
第 142 図 22



Z	元素	元素名	ライン	A(cps)	B(cps)	R O I (keV)
19	K	カリウム	K α	126.315	144.920	3.16- 3.46
20	Ca	カルシウム	K α	60.834	70.733	3.54- 3.84
22	Ti	チタン	K α	133.981	137.145	4.35- 4.67
25	Mn	マンガン	K α	45.266	51.284	5.73- 6.07
26	Fe	鉄	K α	2583.727	1647.892	6.23- 6.57

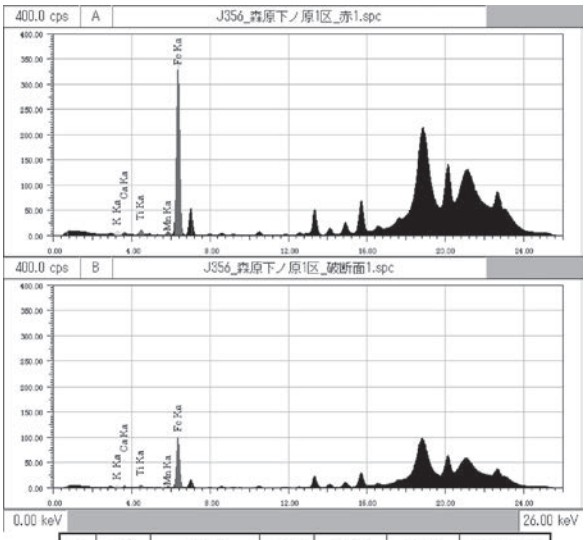
第 143 図 3

第 214 図　蛍光 X 線分析スペクトル（3）



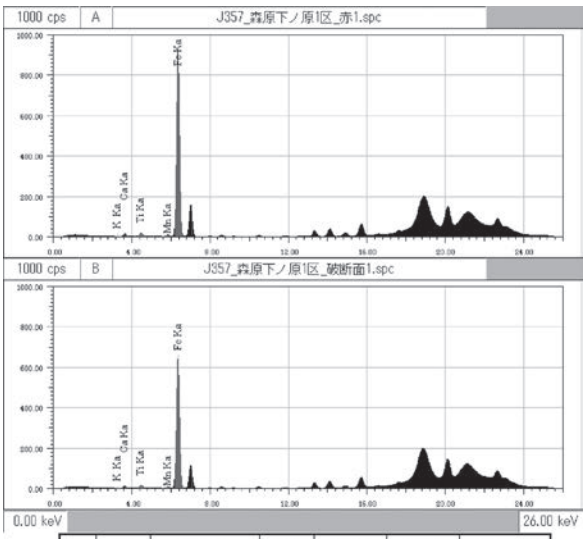
Z	元素	元素名	ライン	A(cps)	B(cps)	R O I (keV)
19	K	カリウム	K α	143.419	171.298	3.16- 3.46
20	Ca	カルシウム	K α	66.516	105.234	3.54- 3.84
22	Ti	チタン	K α	100.206	168.267	4.35- 4.67
25	Mn	マンガン	K α	54.890	151.690	5.73- 6.07
26	Fe	鉄	K α	2579.158	5596.559	6.23- 6.57

第 143 図 6



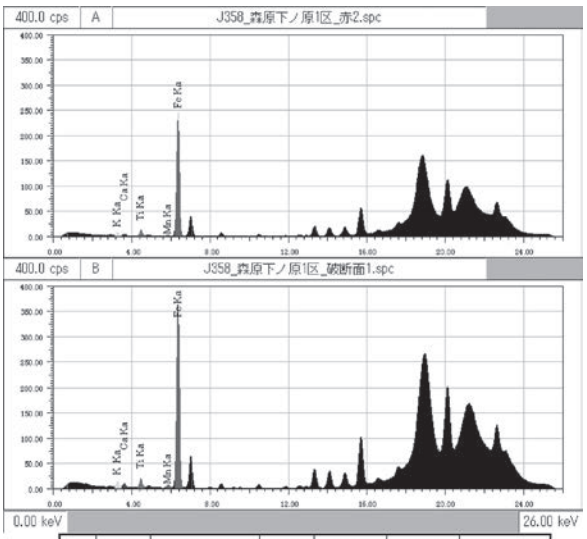
Z	元素	元素名	ライン	A(cps)	B(cps)	R O I (keV)
19	K	カリウム	K α	105.172	46.204	3.16- 3.46
20	Ca	カルシウム	K α	75.699	37.145	3.54- 3.84
22	Ti	チタン	K α	122.952	50.242	4.35- 4.67
25	Mn	マンガン	K α	92.282	39.081	5.73- 6.07
26	Fe	鉄	K α	3281.819	917.952	6.23- 6.57

第 175 図 8



Z	元素	元素名	ライン	A(cps)	B(cps)	R O I (keV)
19	K	カリウム	K α	93.957	91.449	3.16- 3.46
20	Ca	カルシウム	K α	142.464	125.723	3.54- 3.84
22	Ti	チタン	K α	188.589	156.780	4.35- 4.67
25	Mn	マンガン	K α	121.520	102.929	5.73- 6.07
26	Fe	鉄	K α	8315.511	6018.862	6.23- 6.57

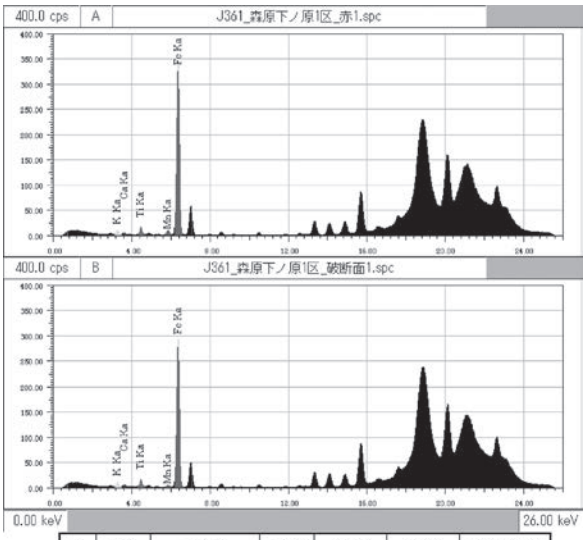
第 175 図 17



Z	元素	元素名	ライン	A(cps)	B(cps)	R O I (keV)
19	K	カリウム	K α	75.538	145.449	3.16- 3.46
20	Ca	カルシウム	K α	56.204	103.710	3.54- 3.84
22	Ti	チタン	K α	118.859	193.644	4.35- 4.67
25	Mn	マンガン	K α	38.849	82.279	5.73- 6.07
26	Fe	鉄	K α	2114.964	3274.381	6.23- 6.57

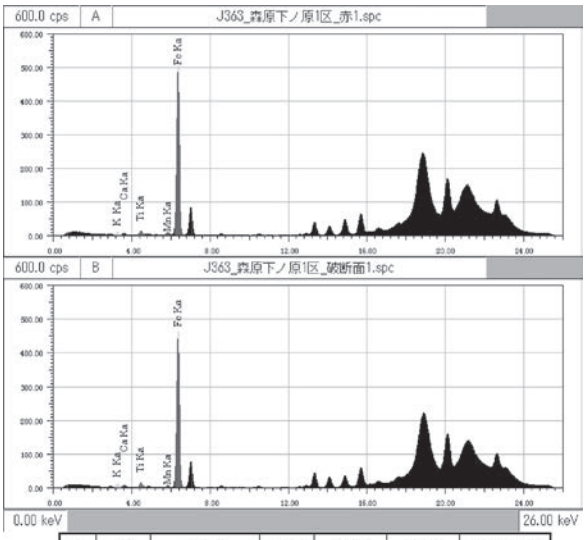
第 135 図 4

第 215 図　蛍光 X 線分析スペクトル（4）



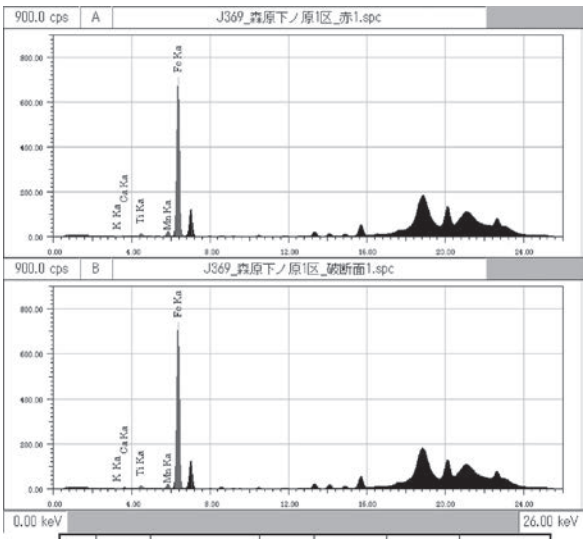
Z	元素	元素名	ライン	A(cps)	B(cps)	ＲＯＩ(keV)
19	K	カリウム	Ｋα	105.339	106.793	3.16- 3.46
20	Ca	カルシウム	Ｋα	63.292	71.459	3.54- 3.84
22	Ti	チタン	Ｋα	153.817	154.833	4.35- 4.67
25	Mn	マンガン	Ｋα	111.225	67.254	5.73- 6.07
26	Fe	鉄	Ｋα	2960.987	2529.703	6.23- 6.57

第 135 図 3



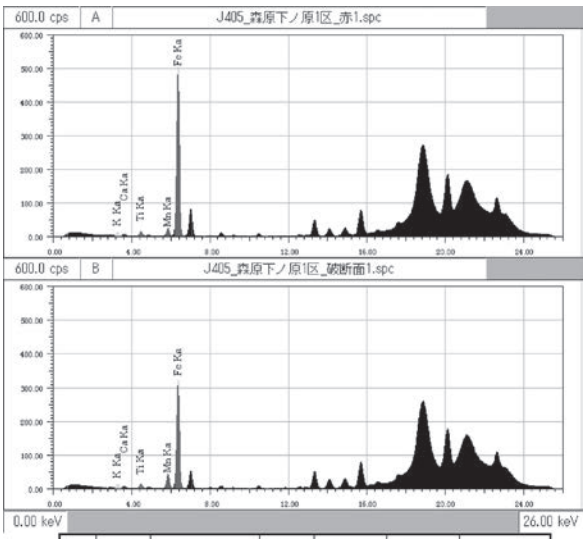
Z	元素	元素名	ライン	A(cps)	B(cps)	ＲＯＩ(keV)
19	K	カリウム	Ｋα	111.056	119.029	3.16- 3.46
20	Ca	カルシウム	Ｋα	81.490	79.274	3.54- 3.84
22	Ti	チタン	Ｋα	147.503	148.801	4.35- 4.67
25	Mn	マンガン	Ｋα	106.104	71.255	5.73- 6.07
26	Fe	鉄	Ｋα	4371.340	3998.743	6.23- 6.57

第 135 図 7



Z	元素	元素名	ライン	A(cps)	B(cps)	ＲＯＩ(keV)
19	K	カリウム	Ｋα	72.666	77.219	3.16- 3.46
20	Ca	カルシウム	Ｋα	51.814	65.386	3.54- 3.84
22	Ti	チタン	Ｋα	145.846	140.947	4.35- 4.67
25	Mn	マンガン	Ｋα	232.131	196.377	5.73- 6.07
26	Fe	鉄	Ｋα	6111.817	6403.605	6.23- 6.57

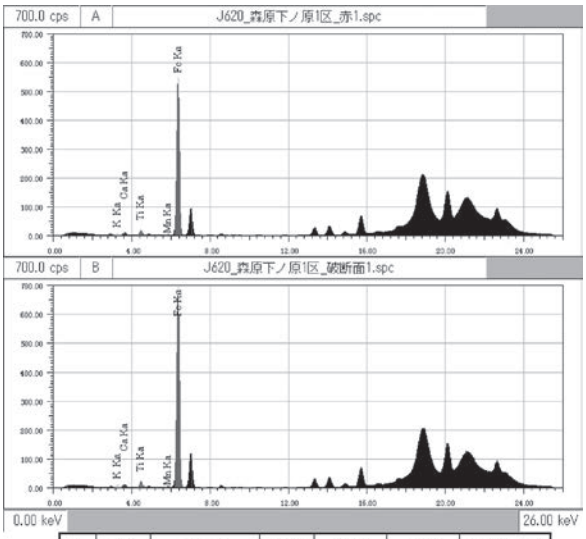
第 140 図 10



Z	元素	元素名	ライン	A(cps)	B(cps)	ＲＯＩ(keV)
19	K	カリウム	Ｋα	123.922	132.906	3.16- 3.46
20	Ca	カルシウム	Ｋα	80.891	82.466	3.54- 3.84
22	Ti	チタン	Ｋα	156.115	138.462	4.35- 4.67
25	Mn	マンガン	Ｋα	234.784	386.701	5.73- 6.07
26	Fe	鉄	Ｋα	4363.637	2812.488	6.23- 6.57

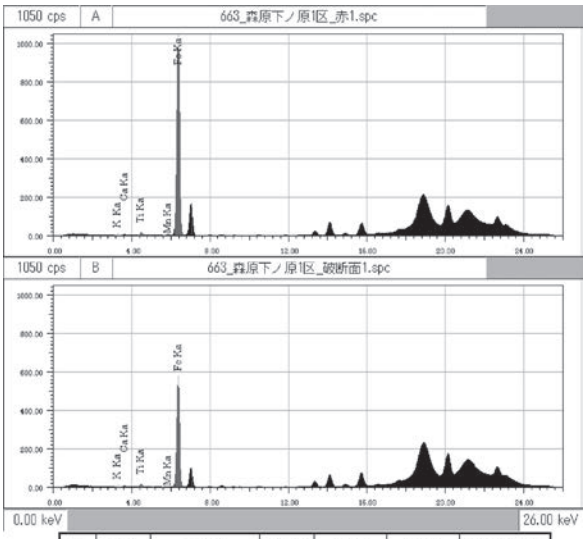
第 137 図 1

第 216 図　蛍光Ｘ線分析スペクトル（５）



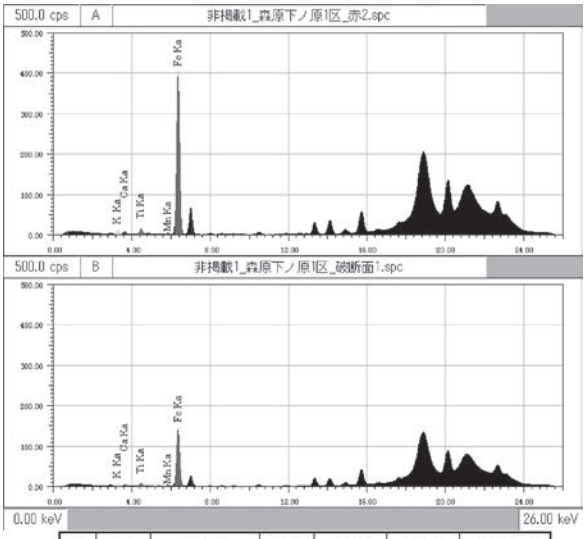
Z	元素	元素名	ライン	A(cps)	B(cps)	R O I (keV)
19	K	カリウム	K α	89.219	102.238	3.16- 3.46
20	Ca	カルシウム	K α	96.898	112.294	3.54- 3.84
22	Ti	チタン	K α	172.000	205.327	4.35- 4.67
25	Mn	マンガン	K α	58.019	67.942	5.73- 6.07
26	Fe	鉄	K α	4729.623	5953.557	6.23- 6.57

第 143 図 7



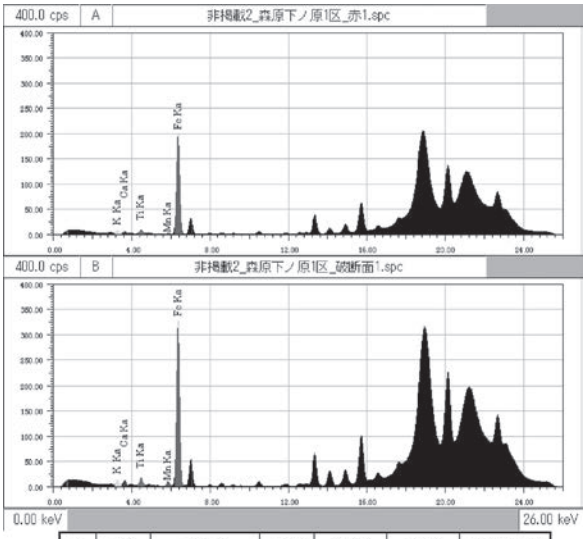
Z	元素	元素名	ライン	A(cps)	B(cps)	R O I (keV)
19	K	カリウム	K α	101.759	117.886	3.16- 3.46
20	Ca	カルシウム	K α	84.774	91.075	3.54- 3.84
22	Ti	チタン	K α	155.101	152.843	4.35- 4.67
25	Mn	マンガン	K α	85.416	61.836	5.73- 6.07
26	Fe	鉄	K α	9235.936	4974.079	6.23- 6.57

第 68 図 9



Z	元素	元素名	ライン	A(cps)	B(cps)	R O I (keV)
19	K	カリウム	K α	114.721	64.970	3.16- 3.46
20	Ca	カルシウム	K α	78.364	44.423	3.54- 3.84
22	Ti	チタン	K α	142.008	73.891	4.35- 4.67
25	Mn	マンガン	K α	56.497	41.920	5.73- 6.07
26	Fe	鉄	K α	3628.146	1336.550	6.23- 6.57

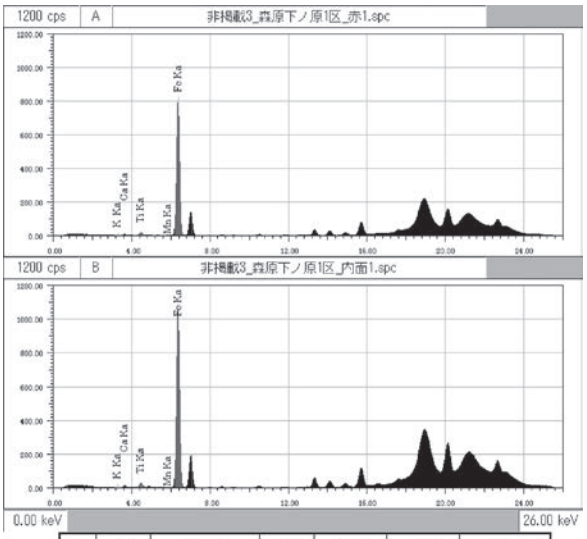
非掲載 1



Z	元素	元素名	ライン	A(cps)	B(cps)	R O I (keV)
19	K	カリウム	K α	85.867	134.008	3.16- 3.46
20	Ca	カルシウム	K α	64.695	125.491	3.54- 3.84
22	Ti	チタン	K α	99.922	172.645	4.35- 4.67
25	Mn	マンガン	K α	44.605	108.718	5.73- 6.07
26	Fe	鉄	K α	1865.503	2935.109	6.23- 6.57

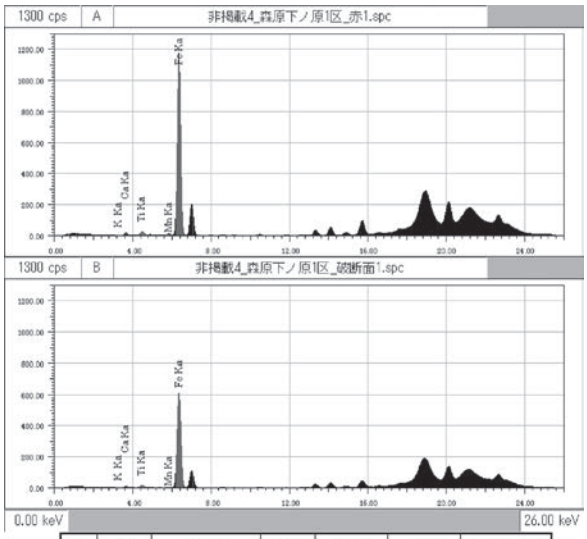
非掲載 2

第 217 図　蛍光 X 線分析スペクトル（6）



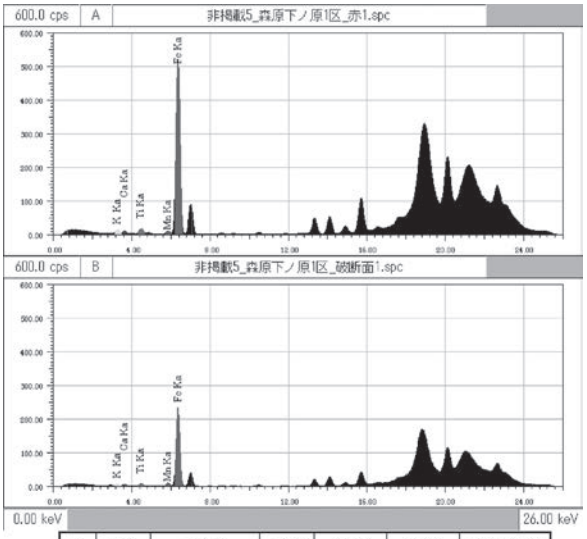
Z	元素	元素名	ライン	A(cps)	B(cps)	ＲＯＩ(keV)
19	K	カリウム	Ｋα	118.022	183.068	3.16- 3.46
20	Ca	カルシウム	Ｋα	94.399	138.152	3.54- 3.84
22	Ti	チタン	Ｋα	187.375	282.374	4.35- 4.67
25	Mn	マンガン	Ｋα	51.455	69.657	5.73- 6.07
26	Fe	鉄	Ｋα	7250.470	9642.852	6.23- 6.57

非掲載３



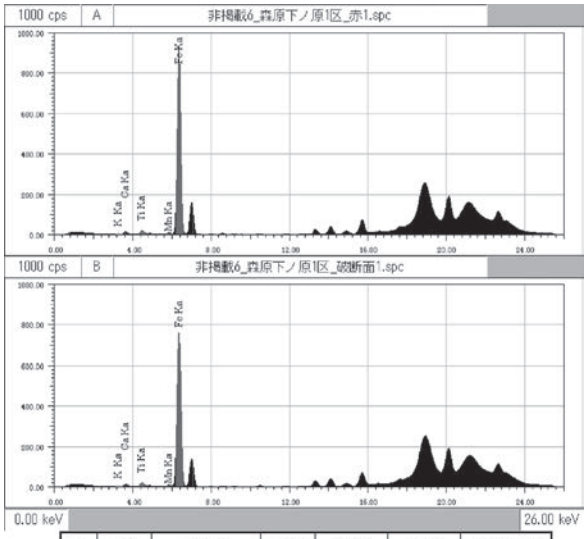
Z	元素	元素名	ライン	A(cps)	B(cps)	ＲＯＩ(keV)
19	K	カリウム	Ｋα	136.489	93.106	3.16- 3.46
20	Ca	カルシウム	Ｋα	197.290	131.055	3.54- 3.84
22	Ti	チタン	Ｋα	288.412	182.617	4.35- 4.67
25	Mn	マンガン	Ｋα	159.235	92.512	5.73- 6.07
26	Fe	鉄	Ｋα	11789.347	6830.799	6.23- 6.57

非掲載４



Z	元素	元素名	ライン	A(cps)	B(cps)	ＲＯＩ(keV)
19	K	カリウム	Ｋα	183.539	77.340	3.16- 3.46
20	Ca	カルシウム	Ｋα	135.308	71.429	3.54- 3.84
22	Ti	チタン	Ｋα	228.870	98.873	4.35- 4.67
25	Mn	マンガン	Ｋα	153.681	128.538	5.73- 6.07
26	Fe	鉄	Ｋα	6261.824	2577.116	6.23- 6.57

非掲載５



Z	元素	元素名	ライン	A(cps)	B(cps)	ＲＯＩ(keV)
19	K	カリウム	Ｋα	115.834	120.533	3.16- 3.46
20	Ca	カルシウム	Ｋα	168.833	166.032	3.54- 3.84
22	Ti	チタン	Ｋα	239.829	241.475	4.35- 4.67
25	Mn	マンガン	Ｋα	154.357	139.355	5.73- 6.07
26	Fe	鉄	Ｋα	9819.130	8928.503	6.23- 6.57

非掲載６

第 218 図　蛍光Ｘ線分析スペクトル（７）

第５節　森原下ノ原遺跡から出土した石器の残存デンプン粒分析

渋谷　綾子（東京大学史料編纂所）

1.　はじめに

残存デンプン粒分析は遺跡の土壌や遺物の表面から植物の生産物であるデンプン粒を見つけ出し，過去の植生や人間の植物利用を解明する研究手法である。日本では旧石器時代から弥生時代までの遺跡において，石器や土器の付着物から残存デンプン粒の検出が報告されている（渋谷ほか2015）。今回，島根県江津市松川町に所在する森原下ノ原遺跡より出土した縄文時代後期の石器４点に対し，残存デンプン粒分析を実施した。ここでは，分析結果を報告する。

2.　対象とした資料と分析の方法

今回の分析対象は石皿２点，磨石１点，敲石１点である。遺構から取り上げられた後に未水洗のまま保管された。石器の観察と分析試料の採取，ならびにプレパラートの作製と顕微鏡観察は，東京大学総合研究博物館の地下控室で行った。試料の採取時は異物の混入を避けるため，石器ごとの手洗い等採取条件に留意した。

試料採取では，使用痕の確認された部位を主に選択するとともに，使用痕の外側の面，確認されなかった部位の試料も採取し，残存デンプン粒の有無と検出量を検討した。試料はフラガー（2006）が提案した方法を参照し，３～５箇所を選択した（第219図）。マイクロピペットにチップをはめて精製水を吸入し，採取する対象に注入，洗浄しながら試料が16μl以上（複数枚のプレパラートを作製する必要量）になるまで吸引した。未水洗であったため，表面に付着した土を少量採取し，遺跡土壌に含まれたデンプン粒のコンタミネーションを確認する試料とした。

採取した試料はすべて，現生デンプン粒標本の作製（渋谷2006・2010）と同じ方法でプレパラートを作製し，試料を遠心後（13000rpm・1分），８μlをスライド封入剤（グリセロール・ゼラチン）８μlで封入し，１試料につき２枚作製した。このとき，スライドグラスやカバーガラス，スライド封入剤の汚染の有無を確認するため，試料を入れないブランクスライドを作製した。次に，光学顕微鏡（Olympus BX53-33Z，簡易偏光装置付）を用いて，接眼レンズを10倍，対物レンズを10～40倍，総合倍率100～400倍の視野条件で観察し，写真記録（Wraycam NF500）を行った。

3.　分析結果

分析の結果，残存デンプン粒はいずれの石器からも検出されなかった（第21・22表）。土試料にも含まれていなかった。植物繊維や細胞組織の微細な断片等の植物性物質は一部確認できたが，全体的に植物性物質の含有が極めて少なかった。

4.　考察

今回は残存デンプン粒が検出されなかった。残存デンプン粒の検出が見られなかった理由としては，(1) 石器製作など植物の加工以外の目的で使用された可能性，(2) 植物加工に使用されたが，使用頻度が少なかったためデンプン粒が遺存しなかった可能性，という２通りの解釈が提示できる。これまで報告された分析事例においても，敲打痕や磨面のある石器から残存デンプン粒が検出され

なかった事例は存在する。同じ遺跡から出土している他の石器ではデンプン粒が検出されるかどうか，検討することが必要である。

5. まとめ

分析の結果，森原下ノ原遺跡の石器４点から残存デンプン粒が検出されなかった。ただし，この結果をもって，植物の加工が行われなかったと断定することは難しい。他の石器の分析とあわせてさまざまな角度から検討する必要がある。

引用文献

Fullagar, R. 2006. Starch on artifacts. Ancient starch research (Torrence, R. & Barton, H. eds.). 177-203. Left Coast Press, INC., Walnut Creek.

渋谷綾子（2006）日本の現存植物を用いた参照デンプン標本 . 新潟県立歴史博物館研究紀要 7. 7-16.

渋谷綾子（2010）日本列島における現生デンプン粒標本と日本考古学研究への応用―残存デンプン粒の形態分類をめざして . 植生史研究 18 (1). 13-27.

渋谷綾子・青野友哉・永谷幸人（2015）残存デンプン粒分析におけるコンタミネーションの検討―北海道伊達市北黄金貝塚を中心として―. 国立歴史民俗博物館研究報告 195. 79-110.

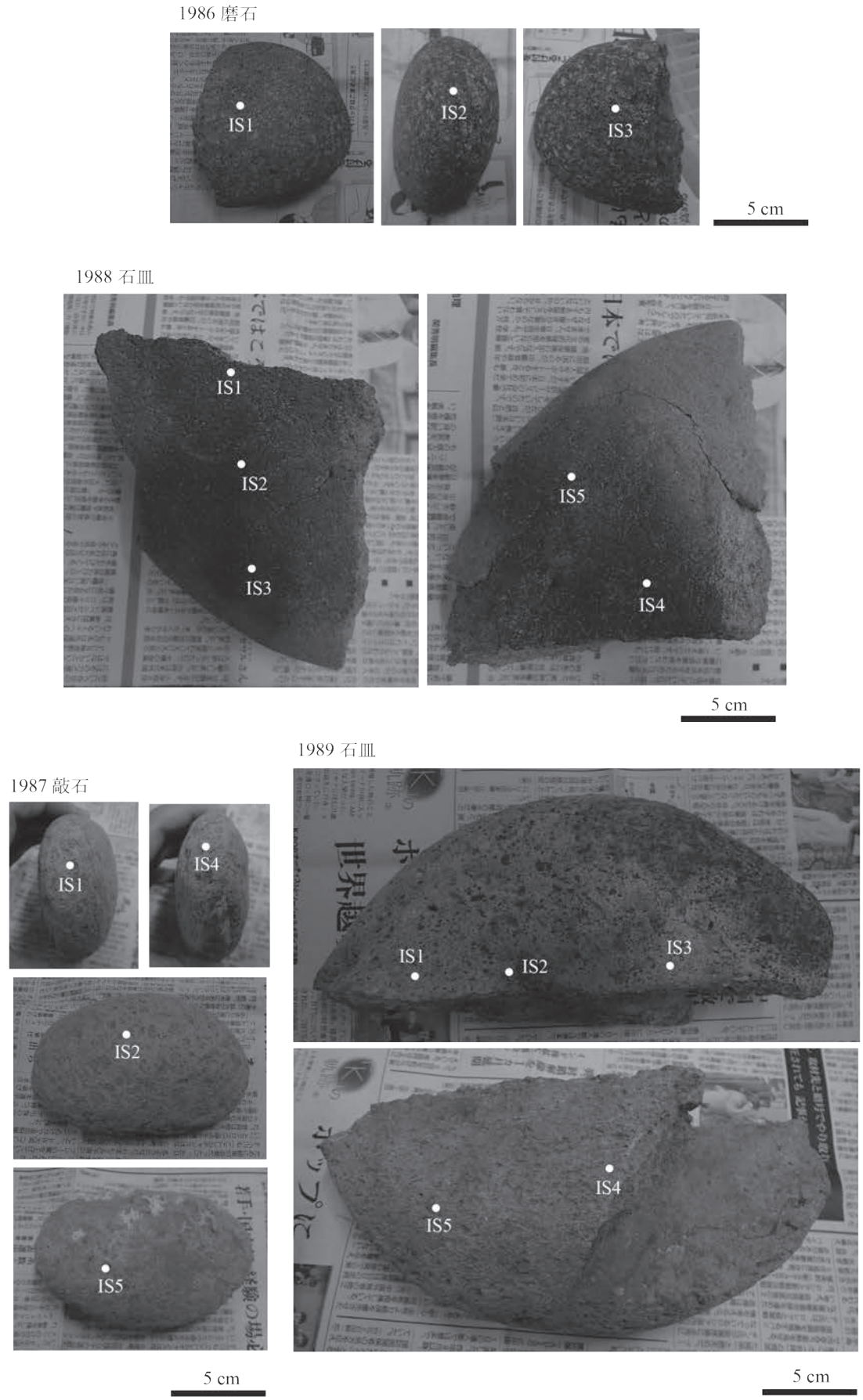
第21表　分析した石器と残存デンプン粒検出個数（IS：第１次サンプリング）

分析番号	器種	グリッド	層位	時期	水洗	採取部位	使用痕の種類	検出個数	土試料	検出個数
1986 (165-19)	磨石	E3	11-2 層	縄文時代後期	未	IS1	磨面	0	有	0
						IS2	磨面	0		
						IS3	使用痕無	0		
1987 (165-18)	敲石	D3	11-2 層	縄文時代後期	未	IS1	敲打痕	0	有	0
						IS2	使用痕無	0		
						IS3	使用痕無	0		
						IS4	使用痕無	0		
1988 (166-4)	石皿	E3	11-2 層	縄文時代後期	未	IS1	磨面	0	有	0
						IS2	磨面	0		
						IS3	磨面	0		
						IS4	使用痕無	0		
						IS5	使用痕無	0		
1989 (166-2)	石皿	E2	11-2 層	縄文時代後期	未	IS1	磨面	0	有	0
						IS2	磨面	0		
						IS3	磨面	0		
						IS4	使用痕無	0		
						IS5	使用痕無	0		

第22表　石器残存デンプン粒の候補となる植物とその評価

分析番号	器種	検出部位			デンプン粒の種類					評価	候補となる植物
		試料	使用痕	有無	形態	外形	縦径（μm）	横径（μm）	偏光十字		
1986 (165-19)	磨石	IS1	磨面	×							
		IS2	磨面	×							
		IS3	使用痕無	×							
1987 (165-18)	敲石	IS1	敲打痕	×							
		IS2	使用痕無	×							
		IS3	使用痕無	×							
		IS4	使用痕無	×							
1988 (166-4)	石皿	IS1	磨面	×							
		IS2	磨面	×							
		IS3	磨面	×							
		IS4	使用痕無	×							
		IS5	使用痕無	×							
1989 (166-4)	石皿	IS1	磨面	×							
		IS2	磨面	×							
		IS3	磨面	×							
		IS4	使用痕無	×							
		IS5	使用痕無	×							

※IS：第1 次試料. 残存デンプン粒の形態は, A：円形・いびつな円形・楕円形, B：半円形・三角形・四角形, C：多角形, D：分解し原形が識別困難なもの, I：10 μm 未満, II：10 ～20 μm, III：20 μm 以上, という項目で分類. (2) 残存デンプン粒の評価は, a：植物加工の痕跡と考えられるもの, b：植物加工の痕跡とコンタミネーションの可能性の両方が考えられ, 特定できないもの, c：コンタミネーションの可能性が高いもの, という項目で評価.



第 219 図　森原下ノ原遺跡の分析対象とした石器

第5章　総　括

第１節　縄文～古墳時代の遺構変遷

森原下ノ原遺跡では、縄文時代から古墳時代までの遺構を複数面にわたって検出し、断続的に集落が営まれていたことが判明した。すべての遺構の時期を把握することはできなかったが、包含層を含めた出土土器から遺構の消長を推定し、第23表に示した。

土器自体は12層から縄文時代中期初頭の鷹島式がわずかに出土しており、北側に接する森原神田川遺跡（島根県教委2021）では前期末の大歳山式が出土している。この時期から当地で人の活動が始まったと考えられる。12層や11－3層では中期前半の船元式・波子式、中期末の矢部奥田式併行の土器がまとまって出土しており、遺構は不明瞭であるものの、生活の痕跡がうかがえる。遺構の様相が捉えられるようになるのは11層の後期初頭・前葉の暮地式・布勢式併行期である。大量の土器が出土し、遺構の数・種類ともに豊富である。また、塩基性片岩を使用した磨製石斧を製作していたことが特徴である。

その後、８～10層の縄文時代後期後半から晩期にかけては遺物・遺構量が極端に減少し、人の活動痕跡はみられない。６層の弥生時代前期前半になると遺物量が増加し、再び磨製石斧の製作拠点として機能したことが明らかとなった。一方、遺構は土器溜や土坑、ピットなどであり、生活の痕跡を把握することはできなかった。その後再び断絶があり、５層において弥生時代中期後半から遺物がみられ始める。遺構の様相が明確になるのは後期からで、その後古墳時代中期まで短い断絶を挟みながら継続的な集落形成がおこなわれた。古墳時代中期は遺物量が多いものの、遺構は調査区壁際で竪穴建物を検出した程度であり、集落の中心域ではなかった可能性が高い。古墳時代後期になると遺物・遺構ともにほとんどみられなくなる一方で、森原神田川遺跡では大規模な祭祀の痕跡が確認されており、時期によって活動場所の中心が移動していた可能性が考えられる。

１．縄文時代後期の遺構

縄文時代の遺構は一部中期に遡るものもあるが、大半は後期と考えられ、検出面からすればある程度の時期幅をもつ。遺構は硬化面、焼土面・焼土溜、土器溜、集石、土坑、ピットなどがあり、遺構構成から集落遺跡としての性格が考えられる。

硬化面　硬化面（遺構1419）は調査区内でもっとも標高の高い北端部で検出された。内部に焼土や

第23表　縄文～古墳時代の遺構消長

時期	縄文時代								弥生時代								古墳時代					
	中期			後期				晩期	前期		中期		後期				前期			中期		後期
	前半	後半	末	初頭	前葉	中葉	後葉		前半	後半	前半	後半	前葉	中葉	後葉	終末	初頭	前半	後半	前半	後半	
包含層	12		11-3	11-1･2				8～10	6			5										
竪穴建物				■	■								■	■	■		■	■	■		■	
掘立柱建物																						
土器溜					■				■					■	■				■	■		
集石				■	■																	
焼土				■	■								■									
土坑	■		■	■	■				■				■	■	■	■		■	■	■		
ピット	■		■	■	■				■			■	■	■	■	■		■	■	■		

※■：遺構数多　■：遺構数少
遺構数は各遺構間における相対的な多寡、遺構の時期は包含層も含めた出土土器からの推定。

第24表－1　江津市および江の川下流域の弥生～古墳時代の集落

遺跡				遺跡の消長																	
				弥生前期			弥生中期			弥生後期				古墳前期			古墳中期		古墳
名称	所在地	立地		前葉	中葉	後葉	前葉	中葉	後葉	前葉	中葉	後葉	終末	初頭	前半	後半	前半	後半	後期
森原下ノ原遺跡	松川町	微高地	遺構	■	■	■				■	■	■	■	■	■	■	■	■	
			遺物	■	■	■		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
森原神田川遺跡（下ノ原地区）	松川町	微高地	遺構																■
			遺物	■	■	■			■										
八神上ノ原遺跡	松川町	丘陵裾	遺構																■
			遺物						■	■									■
八神上ノ原Ⅱ遺跡	松川町	微高地	遺構																
			遺物			■		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
高津遺跡	都治町	丘陵裾	遺構							■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
			遺物							■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
埋築遺跡	都治町	丘陵裾	遺構	■	■	■													
			遺物			■		■		■	■	■	■						
波来浜遺跡	後地町	砂丘	遺構					■		■									
			遺物		■	■			■	■	■	■							
半田浜西遺跡	二宮町	丘陵裾	遺構										■				■	■	■
			遺物							■		■	■						■
宮倉遺跡	二宮町	丘陵裾	遺構							■									
			遺物							■	■	■							■
二宮Ｃ遺跡	二宮町	丘陵裾	遺構														■	■	
			遺物							■	■	■					■	■	
飯田Ｃ遺跡	二宮町	丘陵	遺構																
			遺物									■					■	■	■
古八幡付近遺跡	敬川町	丘陵・微高地	遺構					■	■	■	■	■					■	■	■
			遺物		■	■		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
横路古墓	敬川町	丘陵	遺構																■
			遺物				■												
堂庭遺跡	有福温泉町	丘陵・丘陵裾	遺構																■
			遺物									■					■	■	■
（参考）沖丈遺跡	邑智郡美郷町	微高地	遺構	■	■							■	■	■					
			遺物	■	■	■		■	■	■	■	■	■	■					

※遺構：■は時期が明確、■は時期が不明瞭。
遺物：■は量が豊富、■は量が少ない。量の多寡は各遺跡内における相対的な量。

土坑、石器剥片の集積などをともなっており、住居跡の床面の可能性が高い。磨製石斧の製作がこの付近でおこなわれた可能性もある。なお、この硬化面は径が６～7.5ｍで、同時期には径３～４ｍの住居跡が一般的（柳浦2017）なことからすれば大型の住居跡といえる。

焼土　焼土は硬化面内や硬化面の南東側で検出された。深さをほとんどもたないものや土坑状に深さをもつものがある。埋土は明赤褐色に変色しており、炭化物を含むものもあった。また、動物と思われる骨片が出土したものもあり[1]、地床炉と考えられる。

土坑　土坑は焼土より広範囲に分布している。焼土と分布が重複する土坑からは大量の土器が出土する傾向にあった。また、埋土に炭化物を多く含むものもある。

集石　土坑をともなわない集石が１ヵ所（遺構1473）、土坑をともなうものが３ヵ所検出された（遺構1437・1438・1448）。遺構1448がサヌカイトの盤状石核、それ以外は磨製石斧の素材もしくは未成品であった。土坑を埋めてその上に石を置いた可能性がある。いずれにしても石器製作に関わる遺構と考えられる。また、遺構1438にともなう土坑は大型で平面形が隅丸方形を呈しており、墓坑の可能性も考えられた。墓坑であれば集石は標石の役割をしていた可能性もある。

土器溜　土器溜は１ヵ所のみ記録したが（遺構1399）、包含層内でも土器の集中部が散見された。土器溜は住居跡を認識する要素の一つになっているが（柳浦2017）、今回は住居跡の痕跡をうかがわせるような出土状態ではなかった。

遺構配置　遺構は調査区北側の１区部分に集中しており、２区では小規模な土坑・ピットが検出されたのみ、３区では縄文時代の遺構を確認できなかった。土器の出土状況（第129図）を見ても遺構の密度と同傾向にあることから活動場所が比較的限られていた可能性が高い。島根県では生活関連遺構と埋葬関連遺構が一つの集落内で同居する状況が多く（柳浦2017）、遺構1438が墓坑であれば、これまでの調査成果との矛盾はない。また、これらの集石遺構は硬化面から土坑・焼土溜などをはさんで南東に約12ｍ離れた位置にまとまっており、一集落内における場の使い分けの状況を示し

第24表－２　江津市および江の川下流域の弥生～古墳時代の集落

主な遺構・遺物				
居住関係	生産関係	埋葬関係	祭祀関係	特記遺物
竪穴建物・土坑	石斧・鉄器？・土器？	土器棺？	土器溜？	土笛・多量の石斧未成品・分銅形土製品・弥生ガラス玉・弥生玉類・弥生鉄器・弥生台石・後漢鏡・石釧・古墳絵画土器・土製勾玉・滑石製模造品・外来系土器（粘土帯・瀬戸内型甕・塩町・周布系？・西部瀬戸内系・九州系・布留系・吉備型甕）
			土器溜	石斧未成品
竪穴建物				
				外来系土器（塩町・九州系）
竪穴建物			水場・大溝	弥生玉類・弥生鉄器・古墳絵画土器・石製紡錘車・土製勾玉・外来系土器（塩町・九州系？・布留系・烏帽子形土製支脚・須恵器模倣土師器）
溝				
		貼石墓		弥生鉄器・弥生銅鏃
掘立柱建物・溝				古墳時代絵画土器・滑石製模造品
竪穴建物				
竪穴建物				
環濠・竪穴建物・掘立柱建物・溝	水田	横穴式石室		分銅形土製品・弥生～古墳玉類・外来系土器（塩町・統一新羅土器）
竪穴建物？・掘立柱建物				
	畑			
竪穴建物	石斧製作・鉄器製作	配石墓		多量の石斧未成品・弥生鉄器・弥生玉類・外来系土器（布留系）

ている可能性がある。

２．弥生・古墳時代の遺構

弥生・古墳時代の遺構は調査区の広い範囲で検出され、弥生時代前期の遺構は１区南半と２区北半、弥生時代後期が２・３区、古墳時代が１区と２区北半というように時期によって遺構分布が異なる傾向にあった。３区では弥生時代後期前葉と考えられるピットが集中しており、復元はできなかったが掘立柱建物の存在も想定される。竪穴建物は弥生時代後期から古墳時代中期まで時期の異なるものが１棟ずつ検出され、継続的な集落形成がおこなわれたことが明らかとなった。

江津市内および江の川流域では当該時期の集落遺跡がいくつか見つかっており、これらとの比較を通して森原下ノ原遺跡の性格を検討する（第24表）。

まず、弥生時代前期は江津市内において遺構が検出された例が少なく、集落の様相は不明瞭である。ただ、森原下ノ原遺跡ではまとまった量の土器と石斧未成品が出土し、集落が存在した可能性がある。

中期は古八幡付近遺跡で中期中葉から後葉の集落が、波来浜遺跡で貼石墓が見つかっており、比較的標高の高い立地に集落や墓域が展開していたと考えられる。森原下ノ原遺跡でも単なる混ざり込みとは考えにくい量の土器が出土しているものの、遺構の様相は不明瞭である。

集落の様相が広い範囲で明らかになってくるのは弥生時代後期以降である。中期から続く古八幡付近遺跡や波来浜遺跡では後期前葉で居住や造墓活動がみられなくなり、代わりに森原下ノ原遺跡や高津遺跡など丘陵裾もしくは微高地といった周囲との比高差が小さい立地に集落が展開するようになる。高津遺跡は森原下ノ原遺跡から江の川とその支流の都治川を約８km遡った丘陵裾部に位置し、比較的アクセスもしやすく、集落が展開し始める時期が同じ点も興味深い[2]。森原下ノ原遺跡では、この段階で径８ｍと規模が大きく、ガラス玉をもつ建物が存在する点も小規模な集落ではなかったことを想定させる。

その後、後期後葉から終末期にかけて、高津遺跡で遺物量の急増とともに竪穴建物の数が増加し、沖丈遺跡でも突如集落の形成と鉄器の製作が開始される。森原下ノ原遺跡では土器量がそれほど多いわけではないが竪穴建物が継続して存在する。

一方、古墳時代に入ると、多くの遺跡で集落の様相が不明瞭になり、それに対応するように前期古墳も見つかっていない。しかし森原下ノ原遺跡では集落の継続がみられ、さらに石釧や絵画土器など特殊な遺物が出土した。本遺跡は機能を維持し続け、ヤマト政権とのつながりもうかがうことができる。中期に入ると再び周辺地域でも集落が形成されるようになり、後期にかけて継続する。森原下ノ原遺跡では集落の継続とともに、北側に隣接する森原神田川遺跡と合わせて継続的に祭祀がおこなわれていたことが明らかとなった（島根県教委2022）。高津遺跡でも大溝や水場での継続的な祭祀がおこなわれるとともに九州地方からの移入が想定されている。一方、中・後期古墳は江の川以西では見つかっているものの、本遺跡が位置する右岸では不明瞭である。

森原下ノ原遺跡は、長期にわたる集落の継続や外来系遺物の出土など、これまで当該地域で調査された遺跡の中でもかなり特異な内容をもつ遺跡である。出雲平野を中心とした拠点集落の検討では（田中2011ほか）、拠点集落と認定できる要素として、①集落に広がりがあり、内部に２・３の小集団が居住すること、②集落に一定期間の継続性が認められること、③膨大な量の遺物が出土すること、④手工業（土器・石器・木製品・金属製品・漆製品など）の生産拠点であること、⑤交易品が存在すること、⑥リーダーにあたる人物を示す装飾品や威信財・墳墓が存在すること、が挙げられている。①は調査範囲の問題もあり不明瞭だが、調査区外に集落が展開している可能性は高い。②・③については間違いなく周辺地域でもっとも継続性のある集落遺跡といえ、遺物も大量に出土している。④は確実なものとして弥生時代前期の石斧があり、可能性のあるものとして土器が挙げられる。⑤は各時代を通して様々な交易品が出土している。⑥については後漢鏡や石釧が威信財にあたるだろうか。墳墓については、遺構1277内で見つかった粘土被覆合わせ口土器は土器棺の可能性があるが、類例に乏しく位置づけが難しい。以上のように、森原下ノ原遺跡は拠点集落と判断できる要素を多くもっている遺跡といえる。ただ、出雲平野とは地理的条件が全く異なるため、同様の比較はできないと考える。拠点があるのであれば、それ以外の小規模な周辺集落が存在するはずだが、高津遺跡や沖丈遺跡も一般的な集落とは考えにくく、流域沿いに点在する小規模な平地に規模の大きな集落が展開する点が本地域の特徴かもしれない。

第２節　縄文～古墳時代の土器について

森原下ノ原遺跡では、縄文から弥生時代前期にかけては層序と対応するように型式的にまとまった土器が出土し、弥生時代後期以降では竪穴建物や土器溜でまとまりのある資料が出土した。これまで石見地域では各時代を通して良好な土器資料が少なく、今回の成果は時期的変遷や地域性の把握に寄与できるものと考える。

１．縄文時代の土器

（１）縄文時代中期

12層と11－３層を中心に縄文時代中期の土器がまとまって出土した。12層は調査区北側の１区部分にほぼ限定でき、11－３層は２区部分で限定的に確認された。両層ともに土質の違いから上下

の層との区別は容易であり、まとまりのある資料と捉えられる（第220図）。

船元式・波子式　12層から多く出土した折返し口縁の土器は、従来から「波子式」と呼ばれてきたものである。時期は船元Ⅱ式に併行するとされ、「山陰地方の船元Ⅱ式にともなう在地土器」と一般的に理解されてきた[3]（小都1996）。しかし、森原下ノ原遺跡は典型的な船元Ⅱ式がほとんどみられない波子式主体の遺跡であり、単に「船元式に混じる在地土器」と軽視することはできない。波子式が地域の主体的な型式である可能性を再考する必要があろう。

波子式は、全面縄文で外面または内面の折返し口縁が特徴である[4]（第169図1・第170図4）。折返し口縁部には、縄文のほかに刺突文が施されること（第170図23～28など）が指摘されている（宍道1974）が、本遺跡の事例から横走沈線文をもつもの（第170図８～19）や垂下短沈線文をもつもの（第170図20～22）、および無文のもの（第171図２～13）も波子式の特徴として追加される。そのほか、単純口縁も出土し、両者はほぼ1:1の出土数である。これを見る限り、波子式には一定量単純口縁の土器がともなうと考えてよい。なお、胴部片には文様がなく、縄文以外の施文は口縁部に限られる可能性が高い。

波子式の器形は、寸胴形と説明されることが多い。今回の調査では小片が多く全形がわかる資料はないが、第170図４は内湾するキャリパー形の器形である。これにより、波子式には寸胴器形ばかりでなく、キャリパー形口縁に近い器形も存在していることがわかる。底部は、高台状を呈す（底部Ⅰ類）ことが波子式の特徴とされてきた（宍道1980）が、本遺跡では平底（底部Ⅲ類）と、その中間的な形状の底部Ⅱ類が併存する状況である（第10表）。波子式の底部は、従来の理解のようにⅠ類単独ではない可能性がある。

波子式は、全面に縄文が施されることや縄文の形状が似ることなどから、船元式との親縁性は強いと思われ、船元式の山陰中部域での変容したものと理解したい。ただし、サルガ鼻洞窟遺跡（島根県古代文化センターほか2005）、目久美遺跡（米子市教委1986）、陰田遺跡（同1984）、島遺跡（北条町教委1983）などでは鷹島式、船元Ⅰ式、船元Ⅱ式などとともに出土しているため、これを船元Ⅱ式に限定して併行させることは難しいと思われる。現状では、概ね船元Ⅰ・Ⅱ式を中心とした時期と考えられる。

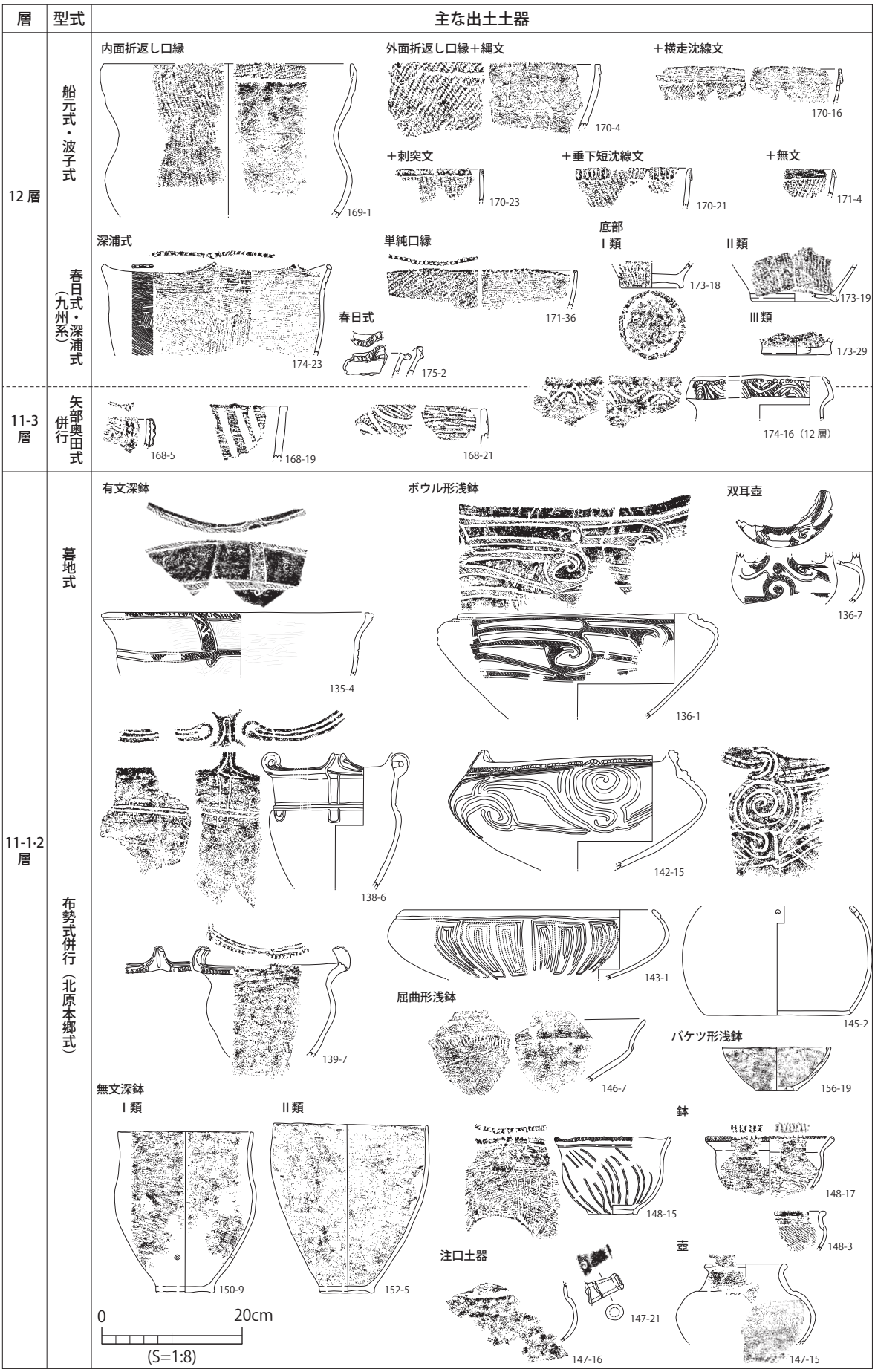
矢部奥田式併行　11－３層の主体となる土器型式で、中期末に位置づけられる。数は少ないが層位的にまとまりをもっていた。山陰地方中部の中期末土器は瀬戸内地方の矢部奥田式に類似する土器が多くを占め、そこに近畿地方の北白川Ｃ式などが客体的に混じることを特徴とし（柳浦2017）、本遺跡でも同様と考えられる。

外来系土器　第174図20・23、第175図３・４は南九州地方の深浦式と考えられる。内外面にはっきりとした二枚貝条痕が施され、口縁部下には横位の二枚貝腹縁刺突文を連ねている。九州では船元Ⅰ式以前の土器と併行するようで（矢野2020）、本州では初めての出土という[5]。第175図１・２は九州地方の春日式もしくはその併行期の土器と考えられる。胎土に多くの滑石を混入させている点を特徴とする。

（２）縄文時代後期

11－１・２層を中心に縄文時代後期に位置づけられる暮地式・布勢式併行期の土器がほぼ１：２の割合で出土した。次段階の崎ヶ鼻１式併行も出土したがわずかである（第220図）。

暮地式　福田K2式新２・３段階（石田2008）に併行し、磨消縄文を特徴とする。有文深鉢は個体数



第 220 図　縄文時代の土器

が少なく、いずれもやや浅い器形で典型的なものはみられない。文様は渦巻き状・鉤状J字文を主文様とするが、変容が進み、帯縄文が目立つ。口縁部にも頸部から連続した文様帯が形成されている。有文浅鉢は皿形やボウル形が主体を占め、皿形の内面には段がつくものが多い。文様は渦巻状Ｊ字文が多いが、こちらも変容が進んでいるように思われる。その他、小型の壺（双耳壺）や鉢が出土した。磨消縄文によって深鉢や浅鉢と同様の文様が施されている。

布勢式併行　縁帯文成立期の土器で、11層の主体となる型式である[6]。稲田陽介によって北原本郷式・林原式の２時期に細分され、前者から後者へ変遷すると指摘された（稲田2012）。

一般的に、布勢式の成立は口縁部・頸部・胴部の各文様帯が分離・独立し、分帯化した段階とされる（千葉2008）。また、有文深鉢では、肥厚した口縁部に縄文・横走沈線文・斜線文（刻目）が施され、北原本郷式では上面施文が、林原式では外面施文が多いという（稲田2012）。本遺跡では上面施文が多く典型的な外面施文が少ないことから、北原本郷式のまとまりと考えてよい。以下では、北原本郷式の特徴に加え、本遺跡11層出土土器の所見を述べる。さらに、北原本郷式で増加するとされた器種構成についてまとめる。

北原本郷式の特徴として、文様が１本沈線による描画が多くなること、磨消縄文の退潮が挙げられる。暮地式では基本的に２本一単位で意匠を描く（第136図1）が、北原本郷式では円形意匠を１本の沈線で渦巻文様を描き（第142図15）、方形意匠では多重の方形文（第143図1）を描く。もはや2本の沈線で一つの意匠を描くという意識は薄いようである。文様は、浅鉢では盛んに描かれるものの、深鉢では頸部・胴部で無文化が進む（第139図7）。胴部文様の無文化は、同時期とされる布勢式（山陰東部・近畿北部）、芥川式（近畿）、松ノ木式（四国）に比べて特異といえよう。縄文施文は、深鉢、浅鉢ともに低調である。山口県田ノ浦遺跡（山口県埋文センター2011）、兵庫県見蔵岡遺跡・小森岡遺跡（竹野町教委1997・1990）などは、比較的縄文施文が少ない。西部瀬戸内から日本海側にかけて、この時期は縄文施文が低調だったのかもしれない。

北原本郷式の主な器種組成（第11表）は、有文深鉢（第138図6）、無文深鉢Ⅰ・Ⅱ類、ボウル形浅鉢（浅鉢Ⅰa・b類　第142図15・第145図2）、屈曲形浅鉢（浅鉢Ⅲ類　第146図7）、バケツ形浅鉢（浅鉢Ⅳ類　第156図19）で、出土数は少ないものの鉢（第148図15）、壺（第147図15）が安定的に組成する。注口土器はこの時期に出現すると思われる。この時期の特徴的な器種として、ボウル形浅鉢（浅鉢Ⅰa類）がある。祖型は中津式にさかのぼると思われ（徳島県教委ほか2003）、森原下ノ原遺跡でも暮地式から登場する（第136図1）が、当地でもっとも目にするのは北原本郷式である。四ツ池遺跡など近畿地方の遺跡からはボウル形浅鉢a類は出土していないようであり（玉田・岡田2010）、四国・中国地方が主な分布かもしれない。屈曲形浅鉢（浅鉢Ⅲ類　第146図7）は、当地の縁帯文期に一般的な器種である。五明田式に祖型が求められる（頓原町教委1991）。五明田式・暮地式では類例が少ないが、北原本郷式から崎ヶ鼻１式にかけてよく出土する。屈曲形浅鉢は、島根県東半部から鳥取県西半部にかけて一般的に出土する器種であるが、他の地域では出土数が限られることから、主な分布範囲は山陰中部域と思われる（稲田2012）。

また、森原下ノ原遺跡では頸部が緩く外反し、口縁部に刻み目を入れる鉢（第148図15～17）が目立つ。これは林原式以後に安定して組成する縄文地の鉢（第148図3）の祖型と考えられる。第148図15・17は、巻貝条痕を明瞭に残しており、粗製土器に近い。無文深鉢Ⅰ類の小型化したものが母体となったのであろうか。同様の土器は松ノ木遺跡でも出土しており、鉢は広範囲に同時に出現

した可能性が考えられる。鉢は肩の段や口縁部の形態、さらに精製化するなど、壺の影響を受けて縄文地鉢が完成したと思われる。今回の調査では壺も比較的多く出土した。これは口縁部が外反し肩部に段をもつもので、縄文地鉢と似た特徴をもつ。しかし、より精製な土器であること、口頸部が内傾する、頸部がやや長いなどから、鉢とは違う器種と考えた。壺は暮地式の双耳壺を母体として成立したと考えられる。注口土器も1点のみ出土した（第147図21）。これは、直接接合しないものの、同図16と同一個体の可能性が高い。16は肩部に段をもち、同図15などの壺と同じ形態である。このことから、注口土器は壺を母体として派生したと思われる。注口土器は北原本郷式には出現しており、その後も沖丈式までは増加しつつあるものの、安定的な器種とはいいがたい。後期中葉・権現山式に至ってようやく安定的に出土するようになるが、これは近畿地方以西の動向（西田2010）と同じである。

無文粗製深鉢　有文土器のあり方からみて暮地式・布勢式併行期のものと考えられるが、区別ができないためまとめて示した[7]。器形は頸部がくびれるもの（Ⅰ類）と寸胴形（Ⅱ類）があり、Ⅰ類がⅡ類の３分の１程度にとどまる。五明田式まではⅠ類＞Ⅱ類の傾向があるように思うが、遅くとも布勢式併行期には逆転するようである。また、暮地式以降に二枚貝条痕が減少する傾向が知られていたが、本遺跡でも暮地式には減少に転じているように考えられる。口唇部は肥厚するⅢ類と先細りするⅣ類に分けたが、Ⅳ類は少なく、口唇部の先細り化は崎ヶ鼻１式以降と考えられる。

無文浅鉢　無文の浅鉢は有文と同様にやや内湾するもの（Ⅳ類）が主体を占め、口唇部を丸くおさめるａ類を主体として肥厚させるｂ類も一定量存在する。次に約33％を占めるⅡ類が多く、湾曲の強いものと弱いものがある。この２形態で約80％を占めており、暮地式・布勢式併行期の主体となる器形といえる。

（3）まとめ

11層では暮地式・布勢式併行期、11－３層では矢部奥田式併行期、12層では船元・波子式が主体を占めており、層序と土器型式の対応関係を概ね把握することができた。後期の土器はこれまで県内で把握されてきた土器様相と整合的で、地域性の把握に寄与する資料を提示することができた。中期の波子式の位置づけについては改めて検討が必要であろう。

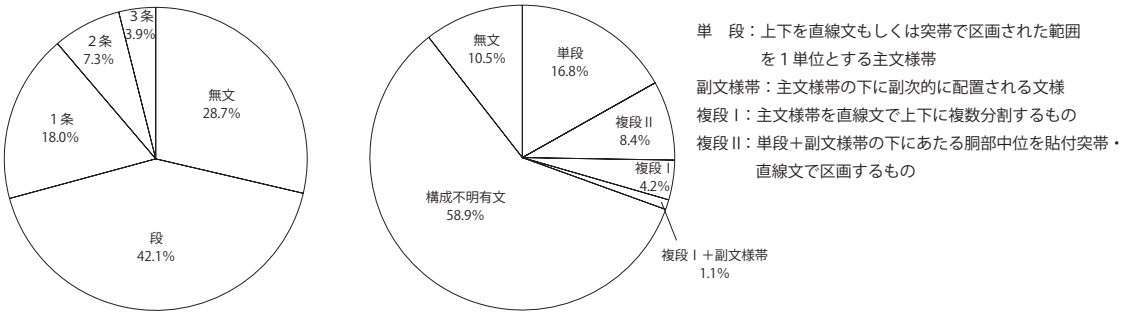
なお、全体として、目視による観察で土器の胎土に三瓶山由来の軽石粒や火山灰が含まれることを確認した[8]。観察表では便宜上「ハイカ」と表記している。「ハイカ」は江の川によって下流まで運ばれ、河川堆積物を混和剤として使用したため胎土に含まれたものであろう。土器の製作地を特定する上で重要な指標であり、今後の観察視点として重要である。

２．弥生時代の土器

（1）弥生時代前期

６層において弥生時代前期の土器と磨製石斧の未成品が多く出土した。６層は比較的まとまった時期の包含層と考えられ、時期的な位置づけが重要となる[9]（第222図）。

甕　甕は時期的な変化を示す属性として、胴部文様、口縁部形態、刻目の位置や有無、胴部の張り具合などが挙げられる。第221図左は６層における甕の胴部文様の比率を示したものである。段をもつものが42.1％ともっとも多く、無文も28.7％と一定量存在する。次に１条沈線が18.0％とつづくが、２条が7.9％、３条はわずか3.9％で、４条以上のものは確認できなかった。段をもつものは



第 221 図　６層における弥生前期甕（左）・壺（右）の文様構成

点数で75点あったが、このうち段に刻目を入れるものが３点確認できた。胴部文様の施文位置が概ね低く、これは関門地域からの影響と考えられる。

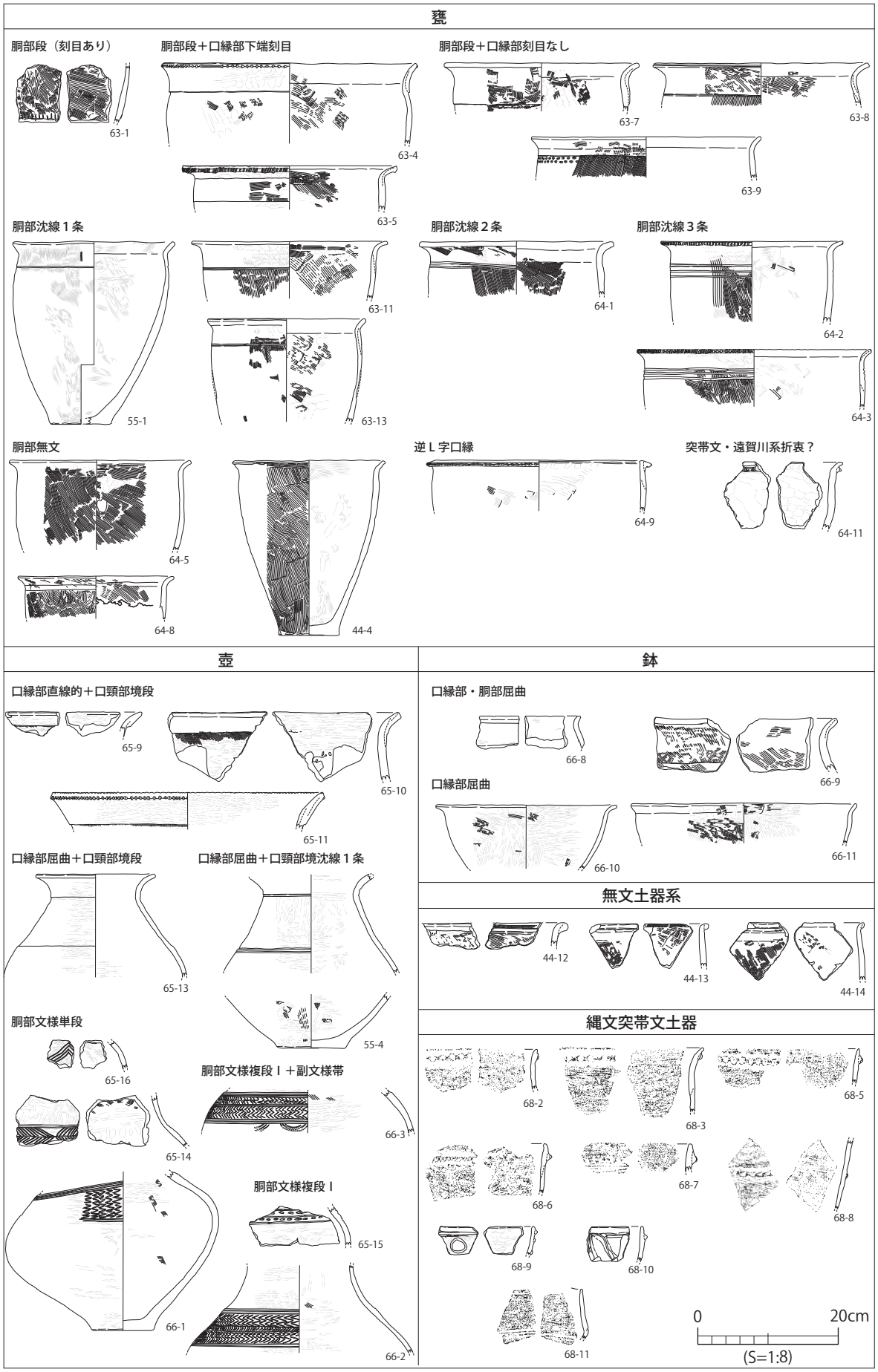
口縁端部について、今回はすべての破片のカウントをおこなっていないため、ここでは時期の指標となるものについて言及する。島根県においてもっとも古い特徴は、「短く外反する口縁の端部が平坦な面をなし、全面に刻目を施す甕」（岩本2021、47頁）とされるが、本遺跡では１点も確認できなかった。一方、次に古いとされる「口縁部下端を突出させて刻目を施す甕」（同、48頁）は17点確認でき、このうち胴部まで遺存しているものはいずれも段をもつものであった。一方、口縁端部が面をもたずに丸みを帯びるもののうち、刻目を入れるものはわずか３点であり、このうちの２点が胴部に沈線３条を施すものであった。口縁端部を刻まないのは山陰地方の特徴とされており（濱田2000）、本遺跡もその特徴に合致する。

壺　壺の時期的な変化を示す属性として、口頸部の文様、口縁部形態、胴部文様、全体のプロポーションなどが挙げられる。第221図右は壺の胴部文様構成の比率を示したものである。文様構成が不明なものが多いものの、単段が16.8％ともっとも多く、その他は10％以下となる。施文原体については、ハマグリやタマキガイ科の貝類を用いたものは少なかった。また、遠賀川式土器の形態が崩れ、いわゆる在地系のものに変容した壺はほとんど認められなかった。こうした特徴は、甕の様相と矛盾がないものと考えられる。なお、第65図９は口縁部がやや直線的に伸び、赤彩されている。この特徴は県内で確認されているもっとも古い壺の特徴と一致し、北部九州からの搬入品の可能性もある。

無文土器系土器　これまで石見地域では無文土器系土器がほとんど出土しておらず、その中心は出雲地域であった（山崎・岩本・原田2021）。それに対し、森原下ノ原遺跡では少なくとも３点の無文土器系土器が出土した（第44図12～14）。いずれも円形の粘土帯を巻き込んでおり、上面に明瞭な面をもっていない。12は粘土帯をなで付けて引き延ばしている。

突帯文土器　突帯文土器は弥生土器に比べ非常に少ない。多くは小破片であり、全形を把握できるものは皆無であった。突帯の位置は概ね下位もしくは中位、刻目の形状はＯ字もしくはＤ字のものが多い。こうした特徴は古いとも考えられるが（柳浦2021）、口縁端部が先細りする形状は新しい様相と考えられ、評価が難しい。出土状況からして上記の遠賀川系土器にともなうのは確実であるため、今後資料数の増加を待ちつつ江の川下流域の様相を把握する必要がある。

報告では様式編年（松本1992b）に従って時期比定をおこなったが、当時は細分が進んでおらず、とくに前半期（石見Ⅰ－１様式）の幅が広く取られている。ここでは、近年検討が進む土器編年との併行関係を示しながら改めて時期的な位置づけをおこなう（第25表）。



第 222 図　弥生時代前期の土器

第25表　弥生時代前期の編年と併行関係

森原下ノ原遺跡	北部九州	綾羅木式	突帯文土器（柳浦 2021）	石見（松本 1992b）	石見基準	出雲（松本 1992a）	出雲（岩本 2021）	出雲基準
	山ノ寺		突帯文１期					
	夜臼Ⅰ							
	夜臼Ⅱ		突帯文２期					
	板付Ⅰａ							
	板付Ⅰｂ		突帯文３期		（大蔭２区 0G･0～ア G 包含層）		前期Ⅰ－１	（原山）（三田谷Ⅰ）（矢野Ｖ層）
	板付Ⅱａ-1	綾羅木Ⅰ	突帯文 4･5 期	Ⅰ－１	五丁 C･D 区 SR05 上層	Ⅰ－１		
	板付Ⅱａ-2	綾羅木Ⅱ			イセ SB2 古屋敷 B 区 SKY09	Ⅰ－２	前期Ⅰ－２古相	矢野 SD2626 北講武氏元東区中･下層
	板付Ⅱｂ	綾羅木Ⅲ A		Ⅰ－２	（古屋敷 B 区 SKY02）	Ⅰ－３	前期Ⅰ－２新相	
	板付Ⅱｃ				古屋敷 B 区 AKY05		前期Ⅱ－１	（西川津鶴場地区 SD10）
		綾羅木Ⅲ B		Ⅰ－３	羽場 2A 区 SX1	Ⅰ－４	前期Ⅱ－２	西川津鶴場地区 SD06･13

甕・壺の検討から、本遺跡における弥生時代前期の土器は大きく３つの段階に区分できる。第１段階は板付Ⅰｂ式併行期である。この段階は現状の山陰地方で見つかっている弥生の最古段階であり、資料数は非常に少ない。本遺跡でも出土はわずかであった。第２段階は板付Ⅱａ－１式併行期である。甕で言えば胴部に段もしくは沈線１条が施される段階であり、約60％を占めている。時期的なまとまりをもった土器群といえよう。第３段階は板付Ⅱａ－２～Ⅱｂ式併行期である。甕で言えば胴部に沈線２～３条が施される段階であり、約11％を占める。綾羅木･高槻系土器の影響を受けた貝殻腹縁による施文土器や無文土器系土器はこの段階にともなうものと考えられる。

以上のように、森原下ノ原遺跡６層から出土した土器群は弥生時代前期前半の比較的まとまった土器様相を示すことが明らかとなった。また、関門地域からの影響やこれまで石見地域での出土例が少なかった無文土器系土器や土笛など、重要な遺物も出土した。弥生時代の開始期直後から江の川下流域に新たな文化をもった集団が定着したことを示す重要な成果と考えられる。

（２）弥生時代後期

後期の竪穴建物は遺構2217･2165の２基を検出した（第223図）。遺構2217は遺物が少ないが、甕の口縁部が内傾もしくは直立ぎみに立ち上がり、端面が丸みを帯びるものが多い。拡張は上方だけでなく、下方に及ぶものもあり、中期的な特徴を残す。こうした点から石見Ｖ－１様式と判断した。包含層出土の甕の肩部文様はノ字刺突文が約60％ともっとも多く、ほとんどが二枚貝腹縁によって施文している点は地域的特徴と考えられる（島根県教委2022）。

遺構2165は埋土から多くの土器が出土したが、型式的なまとまりは見えにくい。口縁部形態から石見Ｖ－２～３様式と判断した。包含層出土の甕ではノ字刺突文と連続刺突文がほぼ同じ割合で卓越するようになり、基本的にＶ－１様式段階で定着した文様をそのまま受け継いでいる。施文の方法なども含めて同時期の出雲地域とは異なる地域的特徴と考えられる（島根県教委2022）。

Ｖ－４様式段階の明確な遺構は確認できなかった。包含層でも約４％にとどまり遺構の状況と整合的である。

弥生時代後期には口縁部の拡張傾向など基本的な変遷の流れは出雲地域と類似するものの、甕肩部の文様に強い地域性をもっており、二枚貝腹縁を用いた大振りで器壁を引きずるように施す文様を継続的に施している点が特徴である。一方、Ｖ－４様式以降は薄作りや無文化などの特徴が顕著となり、これ以前の地域差が解消されて出雲地域と概ね類似した土器様相になると考えられる。

3．古墳時代の土器

古墳時代の竪穴建物は３～４基を検出し、そのうち遺構1277に重複して土器溜を２つ確認した（第223図）。まず、古墳時代初頭に位置づけた遺構2199は他の竪穴建物や包含層出土土器と明らかに様相が異なる。在地の複合口縁をもつ甕が少なく、布留系や長門・周防地域に類例のあるタタキ甕や高坏が出土した。胎土からしても搬入品の可能性が高い。点的な人の移動があった可能性が高いが、包含層ではこの時期の土器は少なく、その具体的な背景などは不明である。

次に遺構1276であるが、床面を中心に多くの土器が出土した。複合口縁の甕は口縁端部に面をもつ。底部は丸底で、若干器壁に厚みがある。高坏は無稜外反形の坏部をもつが、こちらも若干器壁が厚い。鼓形器台は筒部径の縮小が進み、口縁部が大きく伸びている。こうした特徴は概ね小谷２～３式の特徴と考えられた。

遺構1277の床面で検出した粘土被覆合せ口土器は胴部が円形に近く完全な丸底である。一方で肩部に横方向のハケ調整が施され、前期的な特徴を残す。こうした点から古墳時代前期末に位置づけた。この直上で検出した土器溜４には複合口縁の甕がほとんど含まれず、いわゆる外反口縁のものが主体である。胴部は比較的器壁が薄く概ね球形に近い。底部は完全な丸底で胴部外面調整は縦方向のハケ調整が主体となる。高坏は無稜外反形に加えて有稜のものが含まれるようになるが、段をもつものはない。こうした点から古墳時代中期初頭に位置づけた。さらにその上部で検出した土器溜１では外反口縁の甕の器壁が厚くなり、高坏にも有段のものが加わる。こうした点から中期前半に位置づけた。遺構1454では出土土器が少なく不明瞭だが、甕の器壁が厚く、頸部の屈曲が弱いことから中期後半と判断した。包含層では遺構1277が出現する前期末以降土器出土量が増加し、土師器の多くが中期に属するものと考えられる（島根県教委2022）。

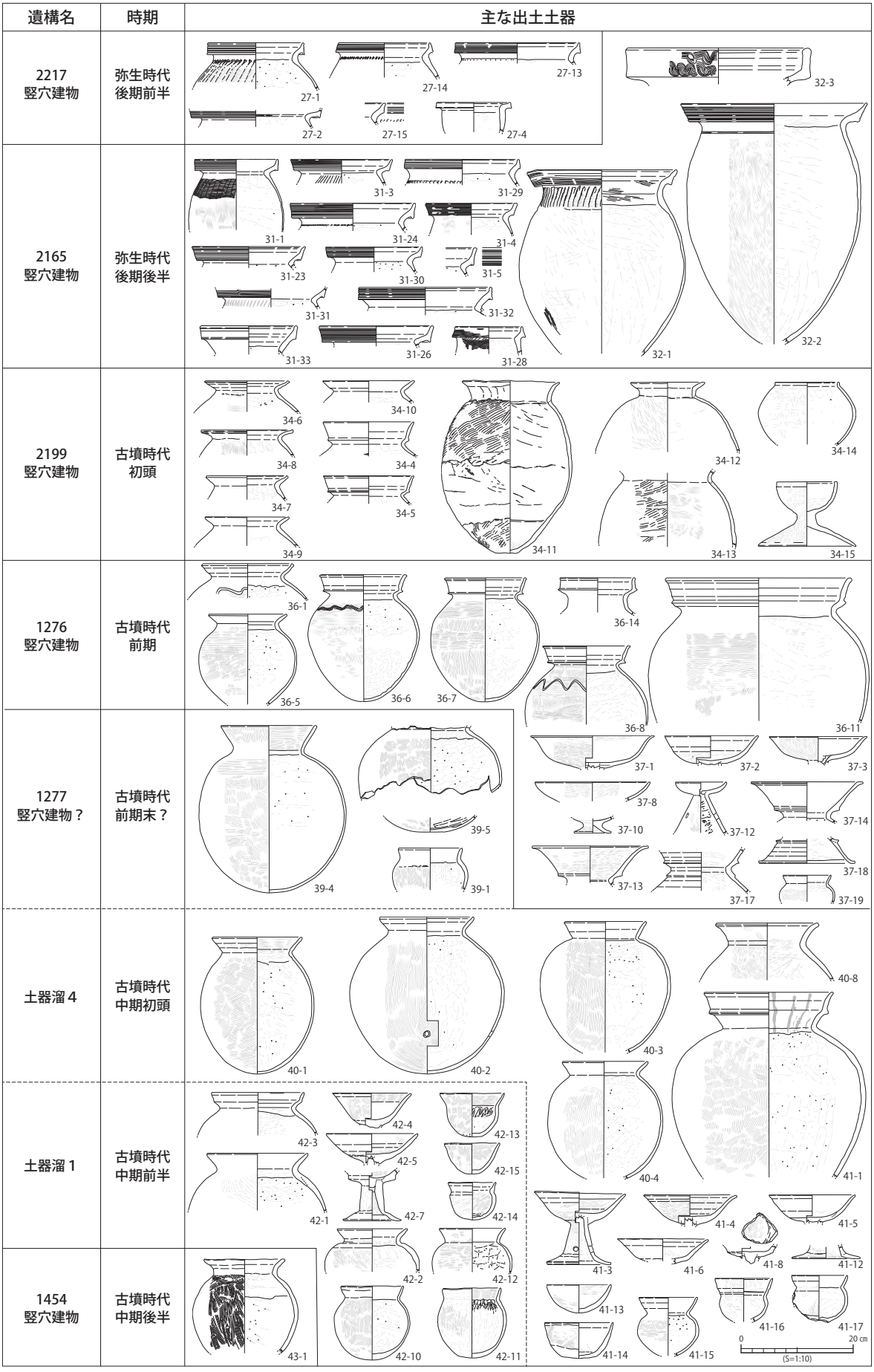
当該地域の土師器は、弥生時代終末期以降、古墳時代前期までは出雲地域と比較的類似した様相を呈するようである。古墳時代中期に入ると外反口縁の甕が大半を占めるようになり、高坏の形態においても椀形高坏や暗文を施す有段高坏を採用せず、脚柱部と脚裾部を別作りする有段高坏が主体を占め続け、より西方の土器様相と類似していくものと考えられる（松山2021）。

3．古墳時代の絵画土器

土器溜２で古墳時代前期後葉の壺形土器が出土し、頸部に３ヵ所の絵画が描かれていた（第49図２）。出土地点は粘土被覆合わせ口土器を検出した遺構1277やその直上で検出した土器溜４に近く、何らかの関係性が考えられる。

森原下ノ原遺跡例の絵画モチーフは、絵画１が龍と雷？、絵画２がモチーフ不明の斜格子、絵画３が雷と考えられた。絵画土器が列島に広くみられるようになるのは弥生時代中期後半からで、後期になるとそれまでの具象的な表現が次第に崩れて記号化したものへと変化する（春成1991）。そして、古墳時代になると絵画土器自体が消滅に向かうようである[10]。

島根県では弥生時代も含めて絵画土器は多くない（橋本2020）。弥生時代中・後期の絵画土器は出雲地域にのみ分布し、古墳時代にはほとんど継続しない。一方で、森原下ノ原遺跡も含め、江の川の河口付近では弥生時代終末期から古墳時代前期の絵画土器がいくつか出土している。格子状の線刻をもつ土器が出土した高津遺跡では、弥生時代後期から古墳時代を通じて祭祀が継続的におこなわれていたようである。森原下ノ原遺跡でも絵画土器が祭祀に用いられた可能性がある。



第 223 図　竪穴建物出土の土器

第３節　縄文時代後期と弥生時代前期における磨製石斧製作

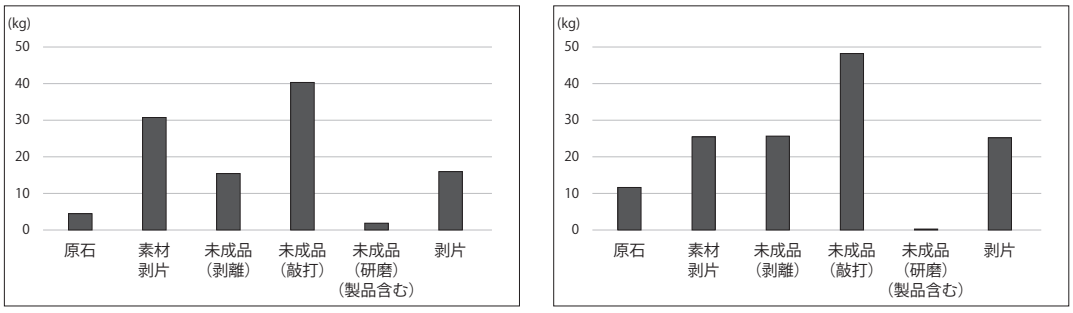
森原下ノ原遺跡では、弥生時代前期の包含層である６層と、縄文時代後期初頭・前葉の包含層である11層を中心として大量の磨製石斧未成品が出土した。両者は、間に厚いシルト堆積（８～10層）を挟むため明確に区別できる。一遺跡内で縄文時代と弥生時代の磨製石斧製作の様相が明らかになった事例は少なく、非常に重要な事例である[11]。

１．製作工程

①原石、②原石から大まかに割り取った素材剥片、③素材剥片を完成品の大きさに粗割した剥離段階、④敲打段階、⑤研磨段階・完成品、⑥剥片に分類した。第224図は各段階の資料を重量（kg）で示したものである。両時期とも敲打段階がもっとも多い。この段階で破損することが多かったと考えられる。そして、研磨段階や完成品が少ないことは、少なくとも調査範囲内での自己消費を目的としたものではないことを示している。以下に石斧未成品の特徴を各段階に分けて整理する（第226図）。

素材獲得　本遺跡から出土した石斧未成品の石材は塩基性片岩と考えられる[12]。青みがかった色調に白い脈状の節理がみられ、以前より「江の川の石」と呼ばれていたようである[13]（巻頭図版４）。石斧にとって石材はもっとも重要な要素であり、密度や均質性が高く、かつ適度な固さと重さ、そして粘りをもつ石材がもっとも適しているとされる。石材の質を判定する方法の一つとして比重の計測がある[14]（佐藤2017）。森原下ノ原遺跡の石斧未成品についても、佐藤氏の協力のもと任意の10点について計測をおこなった。その結果、比重が2.87 ～ 2.98、標準偏差0.034と、比重が重く均一化された石材を用いていることが判明した。遺跡からは原石になり得る円磨の進んだ転石がいくつか出土し、縄文時代後期の集石遺構では長さ30cmを超える大型の剥片を素材としている（第89図９・10）。これらが遺跡内において転石から割り取られたものか、露頭で荒割したものを持ち帰ったものか判断できないが、素材獲得がいくつかの方法でおこなわれていた可能性も考えられる。

近隣の河原を探索すると、同種の石材が多く採集できる。また、江津市清見町から桜江町にかけての山中で類似した石材の露頭を確認した（第225図露頭１・２）。ここが遺跡からもっとも近い露頭かどうかは不明だが、産出地は概ねこの辺りであろう。石川県の八日市地方遺跡や吉崎・次場遺跡では９km以上離れた場所から石材を採取していたようであり（林2009）、本遺跡における石材入手ルートの詳細な復元も将来的に検討する必要がある。



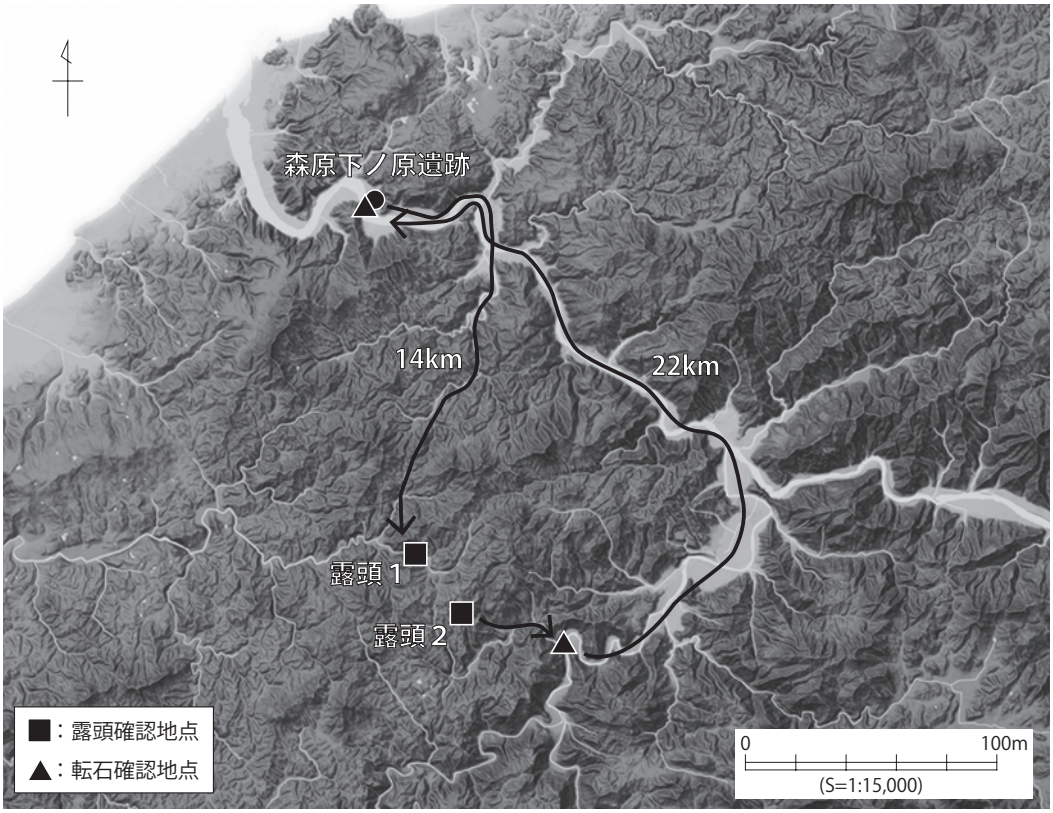
第 224 図　縄文時代後期（左）と弥生時代前期（右）の磨製石斧製作工程別出土量

素材剥片　この段階では想定される石斧の完成形よりもかなり大型のものが多い。ただ、厚みに関してはすでにこれ以降の段階のものとそれほど変わらないものが多く、ある程度完成形を想定して打割されていたと考えられる。自然面を残すものも多い。

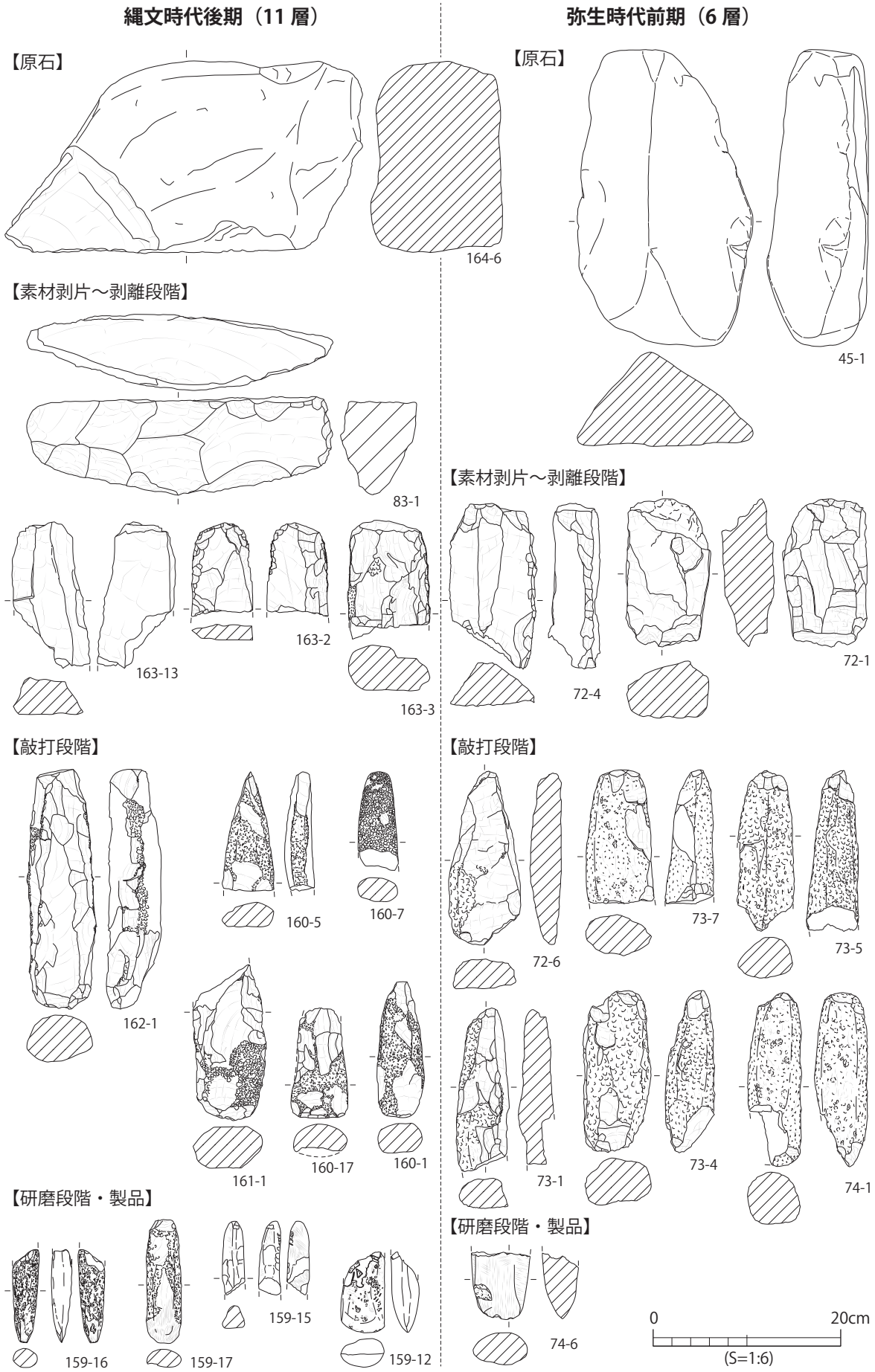
剥離段階　ある程度形が整えられ、完成品に近い形をしつつも敲打が確認できないものをこの段階とした。剥離による稜が残り、断面形態は方形を呈するものが多い。剥離はまず、石斧の長軸に沿った方向に大きな剥離痕を残す傾向にある。縄文時代後期では、そこからさらに刃部や基部、側縁部を中心に細かな調整剥離を加えてから敲打段階に移行するものが多く確認できる。一方、弥生時代前期では特定の部位に調整剥離が施されることはほとんどない。縄文時代と弥生時代では調整剥離の省略という変化が見てとれ、成形において剥離行程の担う役割が変化したことが考えられる。

敲打段階　この段階の資料がもっとも多く、自然面を残すものも少なからず存在する。第47図３のように自然石をそのまま敲打するものもみられた。破損したタイミングにより敲打の範囲や粗密に個体差があり、敲打の工程をある程度把握することができる。縄文時代後期では、まず側縁部などの稜が目立つ部分や細かな調整剥離を加えた部分に優先しておこなわれ、最終的には刃部や基部も含め全体に及んでいる。この段階を経て断面形態が整った楕円形を呈するようになる。一方、弥生時代前期では、敲打を施す順番は類似するものの、刃部には敲打を施さないものが多い。調整剥離を省略したことによって敲打行程が担う役割が大きくなり、破損リスクも高まったことから刃部は研磨で丁寧に仕上げることを志向したのかもしれない。

研磨段階　両時期ともにこの段階の資料は非常に少なく、本遺跡は主に敲打段階までをおこなう場であったと考えられる。完成品との区別は難しいが、刃こぼれなどの使用痕の有無で判断した。縄文時代後期では、研磨が全体に及ぶものと刃部のみを研磨したものがある。いずれも資料数が少なく、全体像の把握は困難だが、研磨を刃部に限定した状態で完成品とする場合も想定できる。また、



第 225 図　露頭確認箇所と森原下ノ原遺跡（川だけ地形地図「平 26 情使第 964 号」を使用）



第 226 図　縄文時代後期と弥生時代前期の石斧製作工程

この段階でもわずかに剥離が残っているものが確認できるため、部分的に敲打を省略して研磨段階に移行したものもあったと考えられる。

剥片　敲打の際に生じたと考えられる微細剥片や、長さ数cmで厚みが１cmに満たないもの、長さ10cmを超える厚みのあるものまで大量に出土している。本遺跡で磨製石斧製作が行われたことを示す証拠である。

第26表　弥生時代前期の磨製石斧製作遺跡

遺跡名	所在地	前期			中期			後期
		前半	後半	末	初頭	前半	後半	初頭
森原下ノ原	島根	■	■	■				
今山	福岡			■	■	■	■	
高槻	福岡			■	■	■	■	
下七見	山口				■	■		
古武士	広島					■	■	
南方	岡山					■	■	
吉崎・次場八日市地方	石川				■	■	■	
宮山・朝日	三重・愛知					■	■	
松原・榎田	長野						■	

２．磨製石斧製作の特徴

ここでは本遺跡から江の川を約36km遡った地点に位置する沖丈遺跡とも比較しながら石斧製作の特徴を整理する。

時期　縄文時代後期の11層で主体となるのは後期前葉の布勢式併行期であり、石斧の製作時期も概ねここに求められる[15]。沖丈遺跡は後・晩期の土器が複数型式にわたり出土しているが、主体となるのは後期中葉以降であり、森原下ノ原遺跡の方が先行する可能性が高い。

弥生時代前期の６層から出土した土器は板付Ⅱａ－１式併行期が主体で、石斧の製作時期は前期前半におさまる。日本列島において、広域流通するような石斧の大量生産が明らかになっている遺跡は福岡県今山遺跡、長野県榎田遺跡などがあるものの（宮島・桑門編2010）、これらはいずれも前期末から中期にかけての遺跡であり（第26表）、本遺跡は時期的に大きく遡る。

製作技法　縄文時代の磨製石斧の製作技法は時期的な変化や地域性などの大まかな傾向は認められるものの、実際は石材の形態・獲得法や機能差などによって多様な製作技術が存在したと考えられている[16]（長田2012）。これまでの研究によれば、本遺跡の磨製石斧は乳棒状磨製石斧に分類される。剥離行程は長軸方向に大きな剥離を加えた後、側縁部や目立つ稜に沿って調整剥離を加えており、この特徴は沖丈遺跡とも類似する。ただ、沖丈遺跡は剥離段階の資料が７点と少ない。敲打・研磨行程も本遺跡と沖丈遺跡で特徴が類似しているが、沖丈遺跡では研磨段階のものが26点と多い。完成品との区別が明瞭でなく、刃部のみに研磨を施して完成品とした例が多く存在するようである。全体として、本遺跡と沖丈遺跡の石斧製作には多くの類似点を見出すことができる。各段階の資料数の比率は異なるものの、製作技術の上ではほぼ同様の方法で石斧製作をおこなっていたといえる。本遺跡が時期的に先行するならば、技術的な系譜関係が追える可能性もある。

次に弥生時代前期であるが、弥生時代に新たに登場する石斧の製作技法として、下條信行氏がＡ技法と呼ぶものがある（下條2008）。これは特定の限定された石材を選択的に利用し、大きな塊石を素材として粗割により整形した後、両側縁から広く深く厚い打裂を全面に加えることによって表面の風化部分を剝ぎ取り、強い芯材の部分だけを使用するものである。この場合、敲打・研磨も全面に及ぶ[17]。一方、弥生時代の石斧製作遺跡の大半では、縄文時代からの伝統を引き継ぐＢ技法と呼ばれる方法を用いたようである。これは素材依拠型と呼ばれるもので、完成品に見合った川原石などを素材として部分的に打裂や敲打を加え、厚さの調整は仕上げの研磨に依拠するため完成に多大な時間を要する。こうして製作された製品は石材に多様性があり規格性に欠け、自然面を多く残すものとなる。基本的に広域流通することはなく、自己消費を目的とした製作であったと考えられる。

森原下ノ原遺跡では、石材は塩基性片岩という比重の重い特徴的な石材を選択的に利用してお

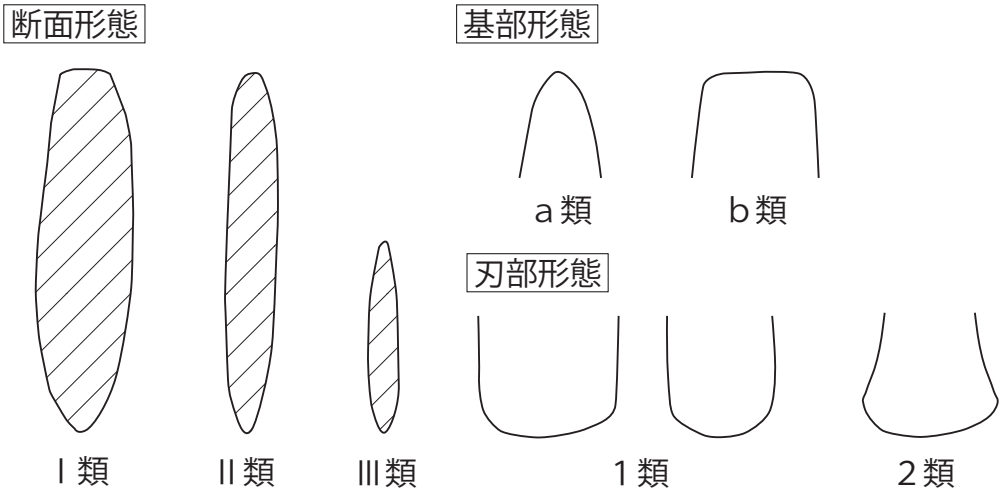
り、A技法に近い。また、素材の形態に依拠している訳ではなく、全面に敲打を施すことによって大きく変形を加えている。その中での特徴として、弥生時代前期の石斧製作では打裂によって細かな調整が施さることはなく、製作における敲打の担う役割が大きい点が挙げられよう。敲打で大きく形を改変する必要があったことからこの段階で破損することが多かったと考えられる。こうした製作技法は、今山遺跡などの火成岩系の石材と森原下ノ原遺跡の変成岩系の石材の違いによるものか、もしくは典型的な縄文的石斧と弥生的石斧の中間的な様相を呈するものと捉えられるのか、今後検討が必要である。

形態　形態は断面、基部・刃部形態で分類した（第227図）。第27表は製作段階ごとの各類型数を示したものである。両時期とも厚さのあるⅠ類が主体を占めるが、薄型のⅡ類や小型のⅢ類も一定量存在する。基部形態では、a類＞b類となる縄文時代から、弥生時代になると比率が逆転しており、縄文的な乳棒状石斧から基部のしっかりした弥生的な石斧への変化がみてとれる。沖丈遺跡でもa類が優勢であり、磨製石斧の形態変化は地域で共通している可能性がある。ただ、両時期においてa類とb類が混在していることから、明確な変化を示すものではなく、その変化は漸移的であったといえよう。刃部形態では、やや外に開く2類が縄文時代にのみ確認できる。

弥生時代では、下條信行氏が形態分類をおこなっている（下條2002）。ここでは横断面形態が楕円形をなすA型を細分する指標として厚斧率（身幅に対する厚さの割合）を用い、厚斧率50％以下のものから60～90％のものに変遷することを明らかにした。厚斧率が高いほど石斧の折損を抑止し、必然的な重量の増加は威力の増大を想定できるため、厚斧率の上昇は発展的な形態変遷と理解できる。森原下ノ原遺跡においても、敲打がある程度進み完成品の幅・厚さに近いと思われる未成品を対象に厚斧率を計測した。41点を計測した結果、最小値39.4、最大値92.0、平均値66.6、標準偏差15.1と非常にばらつきがあることが判明した。平均値をみれば厚斧化しているようにも見えるが、非常にバリエーションがあり規格性は全く感じられない（第228図）。一部厚斧化が進行しつつある一方で、形態は縄文時代的なものも多く残すという中間的な様相を呈していると考えられる。

3．流通の様相

森原下ノ原遺跡では、縄文時代後期、弥生時代前期ともに研磨段階・完成品が非常に少なく、自己消費を目的とした石斧製作ではなかったと考えられる。したがって、本遺跡の製品がどのように



第227図　磨製石斧分類模式図

第27表　縄文時代後期（左）と弥生時代前期（右）の工程別形態分類集計表

分類	Ⅰa1	Ⅰa	Ⅰb1	Ⅰb	Ⅰ1	Ⅰb2	Ⅱ	Ⅲ	破片	計
素材						23	28	3		54
剥離	2	5	6	4	4	3	14	5	4	47
敲打	28	11	1	28	16	7	10	21	7	129
研磨	3		1		5		2	3		14
計	33	16	8	32	25	10	26	29		179

Ⅰa計　49　Ⅰb計　40

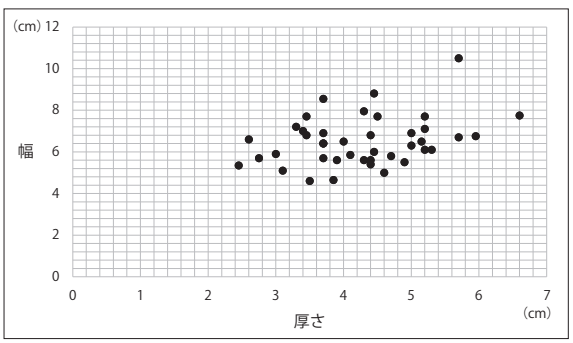
分類	Ⅰa1	Ⅰa	Ⅰb1	Ⅰb	Ⅰ1	Ⅰb2	Ⅱ	Ⅲ	破片	計
素材						14	6			20
剥離	2	1	8	7	4		6	7	7	42
敲打	11	20	19	18	6		13	7	8	102
研磨	1				1					2
計	14	21	27	25	11		19	14		131

Ⅰa計　35　Ⅰb計　52

流通したのかが非常に重要である。

縄文時代の磨製石斧は、同一水系や特定地域など半径50 ～ 100km程度の範囲で流通圏を形成するものが多く（長田2012）、仮に100kmとすれば東は島根県安来市、南は広島県三原市、西は山口県萩市と広大な範囲となる。ここでは島根県の縄文時代遺跡データベース（幡中2014、是田2014）を利用し、島根県内における後期初頭から前葉の磨製石斧分布状況を概観する[18]。まず、益田市匹見町に所在する遺跡では、石材の言及があるものは安山岩や凝灰岩が大半であり、片岩系のものはみられない。この辺りは分布圏外であったのだろうか。その他地域では、飯南町、木次町、奥出雲町の遺跡がある。石材は閃緑岩、安山岩、結晶片岩、緑色岩、塩基性片岩、玄武岩、流紋岩など多様な石材の磨製石斧が報告されているが、塩基性片岩や結晶片岩、緑色岩とされたものは類似した石材と考えられる。飯南町の下山遺跡（島根県教委2002）の第２黒色土では、39点の磨製石斧が報告され、未成品も多く含まれる。石材は多様であるが、未成品とされたものは安山岩、玄武岩、流紋岩などで、緑色岩製は完成品のみであった。集落外で製作された製品を入手している可能性もある。また、木次町の北原本郷遺跡（島根県教委2007a）や奥出雲町の林原遺跡（島根県教委2007b）では塩基性片岩製の磨製石斧が一定数報告されており、距離からすれば森原下ノ原遺跡の製品が流通していた可能性も考えられる。両遺跡で布勢式併行期の類似した土器が大量に出土している点も興味深い。ただ、磨製石斧の製作地と消費地を容易に結びつけることは危険であり、今後広域的な比重の測定や理化学分析などを通して検討を重ねる必要がある。

弥生時代前期では、縄文時代と弥生時代の中間的な様相を呈した石斧製作がおこなわれたことが判明した。これまでの研究を参考にすれば、広域流通品となるようなブランド化は達成されておらず、半径50km程度の流通圏をもつことが想定される（町田2010）。本遺跡の場合、東は大田市と出雲市の市境辺り、南は広島県北広島町、西は益田市までの範囲になろうか。周辺地域では類似する石材を用いた石斧が大田市の仁万平野に広がる遺跡群（仁摩町教委1993・1999、島根県教委2017a・bほか）や浜田市の鰐石遺跡（榊原1999）、伊甘神社脇遺跡などで出土しているが[19]、いずれも少量で時期も縄文時代晩期、弥生時代前期後半から末を中心としており森原下ノ原遺跡と厳密に併行する時期ではない。現状では当該時期の磨製石斧の流通について検討できる基盤は整っていないと考えられる。一方で、上記の遺跡から出土した石斧類は多くが本遺跡と同様の塩基性片岩製もしくはそれに類する石材が使用されている。まだ未発見の石斧製作遺跡の存在も視野に入れつつ流通については将来的に検討が必要である。



第 228 図　弥生時代磨製石斧の法量

第４節　弥生～古墳時代の焼粘土塊

森原下ノ原遺跡では各層から焼けた粘土塊が出土し、総量は約8,200ｇになる。調査当初は土器焼成にともなう覆土、建物の土壁、炉壁、鋳型など様々な可能性を考えた。『古代～近世編』（島根県教委2022）や本書ではその一部を図示したが、実際の出土量はコンテナ箱約２箱分にのぼる。調査区別の各層の出土量を第229図に示す。２・３層では出土量が少なく、これらは河川浸食や耕作によって下層から巻き上げられたものと考えられるため、中世や近世に属するものではない。また、４層の出土量が一定量あるのは古い時代の包含層が河川浸食によって削られ二次堆積していることに起因する。もっとも出土量が多いのは５層であるが、弥生時代前期の包含層である６層からも一定量出土する。出土量は１区が圧倒的に多く、３区では出土していない。各層から出土した焼粘土塊に層による特徴の違いはなく、むしろ全体的にかなり斉一性が高い。特徴は以下のとおりである（第230図、巻頭図版３）。

①胎土は非常に精良で、砂粒などはほとんど含まない。

②表面の一部がにぶい黄褐色を呈し、かつその部分が面をもつものが多い（内面）。

③内面は表面の凹凸が少なく、滑らかな質感である。

④もう片面は凸凹が多く、橙色を呈する（外面）。

⑤大きさは最大で縦横10cm程度、厚さ4.5cmであるが、ほとんどは小片で破損している。

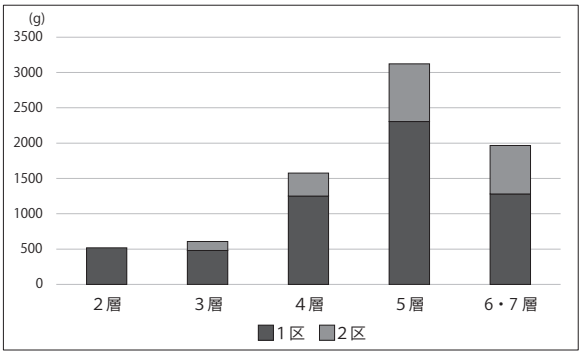
⑥ごくわずかにスサなどの痕跡が残るものがある。

⑦いずれも被熱により焼け固まったものと考えられる。

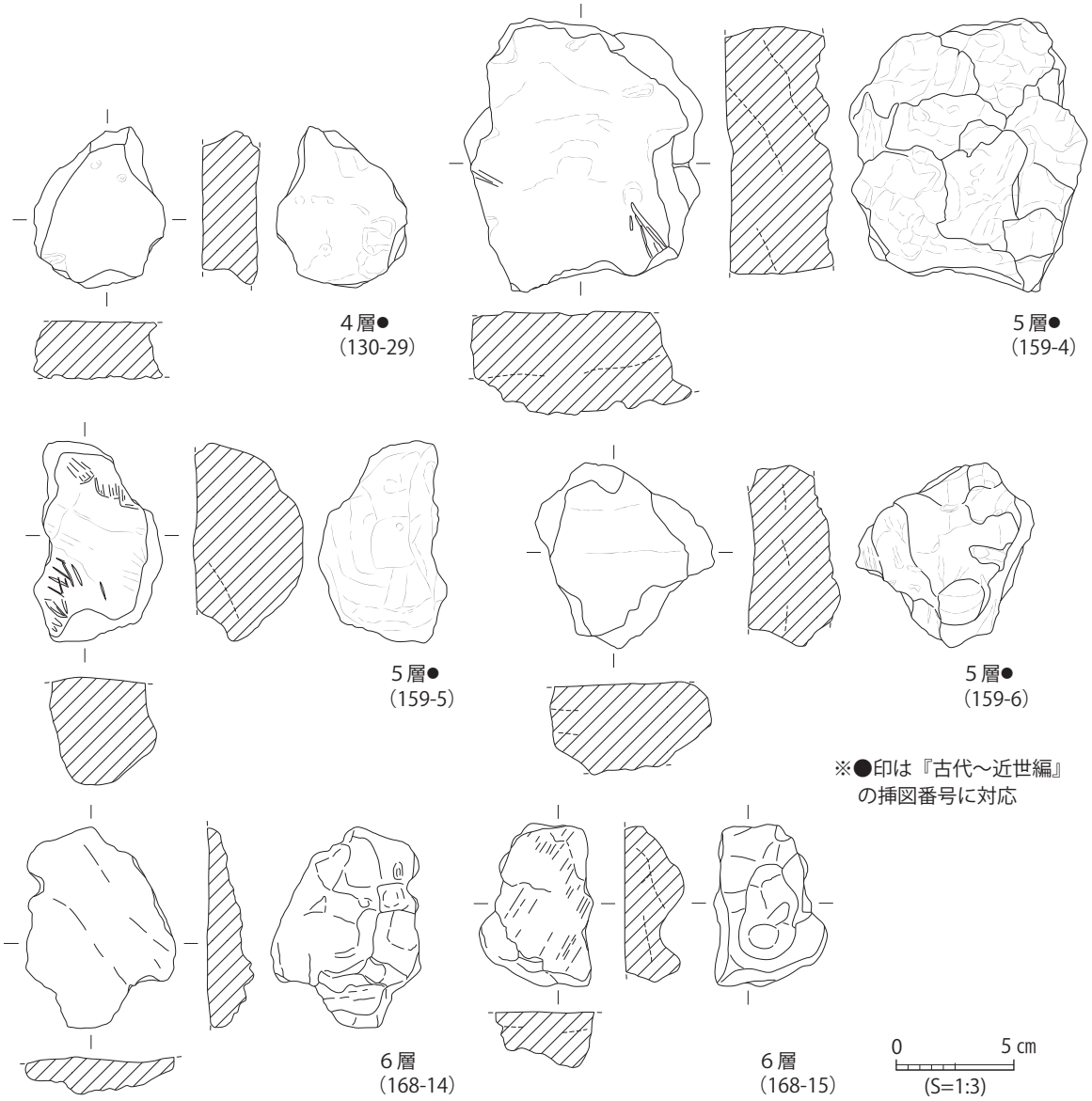
性格を推定するため、松江市後廻遺跡[20]で出土した焼粘土塊を実見し、多くの類似点を得ることができた。類似点は、色調（褐色部分）、質感、重量感、平坦面がある点である。一方、平坦面の色調が変わらない、炭が多く混入する、土器片の混入がある、明確に何らかの工具を刺した痕跡がある、などは森原下ノ原遺跡とは異なる特徴であった。

また、江津市高津遺跡の竪穴建物SI02（古墳時代中期）で出土した焼粘土塊を実見した。この粘土塊は造付竈を形成する粘土が遺存したものである。結果として、森原下ノ原遺跡のものとは全く異なることが判明した。もっとも大きな違いは胎土の精良度合である。SI02の粘土塊は遺跡周辺で採取した粘質土をそのまま塗り固めたような印象で、小礫や植物の根などが大量に混じっており、部分的にグライ化して青灰色を呈していた。精緻な胎土を用意する必要がなかったのであろう[21]。

以上のような検討を経て、すべて破片の状態であり複数回火を受けた痕跡がないこと、片面のみに被熱による変色がみられること、色調からみてそれほど高い温度とは考えられないことなどから土器焼成にともなう焼土塊の可能性がもっとも高いと考えられる[22]。焼成時破損品（田﨑2002）が少ない、胎土が精良で平坦な面をもつことなどやや疑問が残るが、膨大な土器出土量からすれば製作地である可能性も想定でき、かつその時期は弥生時代前期まで遡り得るということを指摘しておく。



第 229 図　焼粘土塊の層別出土量

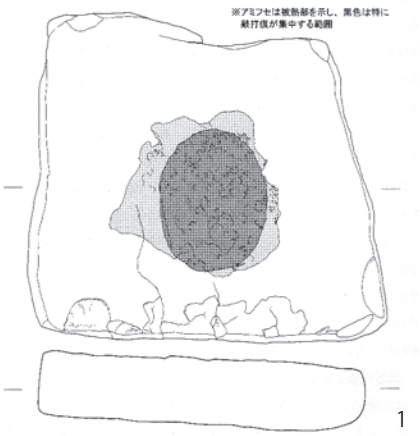


第 230 図　森原下ノ原遺跡出土の焼粘土塊

第５節　弥生時代後期の台石とその用途

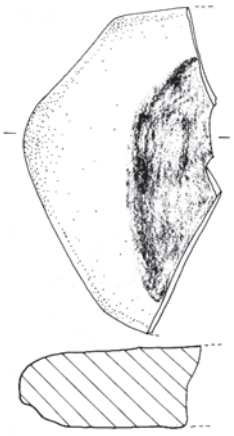
森原下ノ原遺跡では、弥生時代後期前葉の遺構2217竪穴建物床面から台石が出土し、両面に円形の顕著な変色がみられた（第27図10、巻頭図版４）。近くには粘性土で囲まれた特殊な土坑があり、何らかの作業台としての用途が考えられる。また、遺構外から同様の台石が複数出土した（第29図）。県内でも変色部をもつ台石はいくつか出土しており、いずれも弥生時代後期に属する[23]（第231図）。実見により比較した上で台石の性格について検討する。

松江市美保関町の千酌太田遺跡SI01では、森原下ノ原遺跡遺構2217と同様に壁際から台石が出土した（第231図１）。同遺構からは敲石や磨石、砥石が出土している。また、緑色凝灰岩製やガラス製管玉も出土しているが、台石との関係は不明である[24]。松江市東津田町の勝負遺跡SI03では、中央ピットの南側で焼土面を確認し、中央ピットの北西0.6ｍと壁際で台石が出土した（第231図３）。同遺構からは錐状鉄製品やガラス製管玉が出土している。浜田市内田町・熱田町の道休畑遺跡竪穴住居15では、中央ピットの南側で焼土を確認し、鍛冶炉の可能性があるピットも検出された。



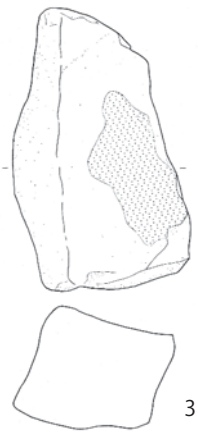
1

【観察所見】
　円形の黒変部とその周りに弱い変色部がある。赤褐色系の変色はない。報告では敲打痕とされるが、触感は周囲と大差なく、それほど顕著な敲打ではない。やや炭化物が付着しており、出土時はさらに量が多かったとされる。



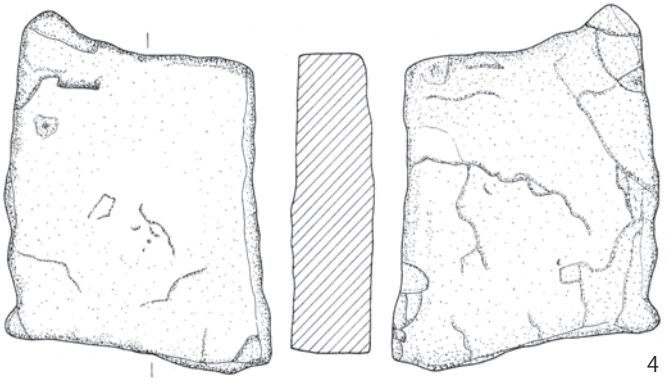
2

【観察所見】
　黒変部の周縁には炭化物が付着している。赤褐色系の変色はない。黒変は一部断面にも浅く及ぶ。上面の触感は全体的に滑らか。裏面にも同形状の黒変部があるが、非常に薄い。裏面の触感はザラザラ。



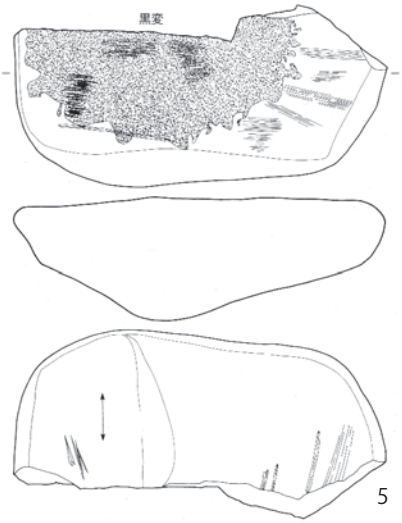
3

【観察所見】
　暗褐灰色の変色があり、炭化物も付着する。断面にも深さ約 1.5cm まで変色が及ぶ。変色部のみ触感が非常に滑らか。



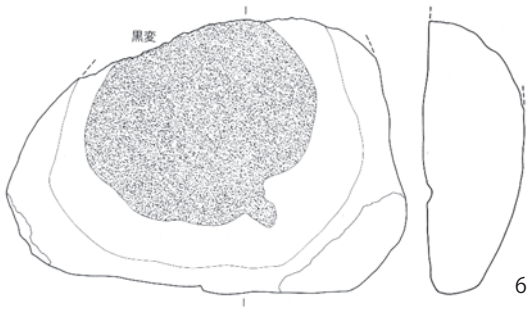
4

【観察所見】
　右面は被熱により赤褐色や黒色の変色が全体にみられる。触感は滑らかだが、これは石材の性質によるもの。左面は中央がやや赤黒く変色し、炭化物も付着する。変色部の形状は円形に近く、中央が黒く、周縁が赤褐色を呈する点は森原下ノ原遺跡例と類似する。



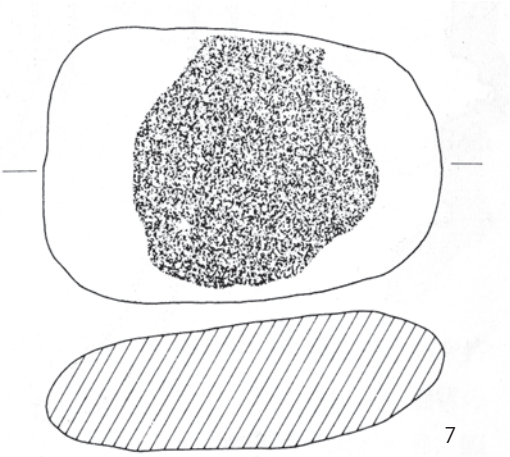
5

【観察所見】
　黒変部は円形に近く、周縁には炭化物が付着する。断面にも深さ約 1cm まで変色が及ぶ。触感は上面のみ滑らかで、黒変部と周囲で大差ない。



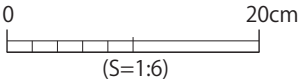
6

【観察所見】
　森原下ノ原遺跡例に酷似する。円形の黒色部の周縁が赤褐色に変色する。断面にも深さ約 1cm まで変色が及ぶ。炭化物の付着はみられない。触感は全体的に滑らかで、黒色部と周囲で大差ない。



7

【観察所見】
　不整円形の黒変部は中央が濃く、周囲が若干薄い。赤褐色系の変色はない。炭化物の付着もない。上面では周囲と比較して黒変部が非常に滑らか。



第 231 図　島根県内出土の台石類例

1：千酌太田遺跡　2：本庄川流域条里遺跡　3：勝負遺跡　4：北原本郷遺跡　5・6：同休畑遺跡　7：前立山遺跡

台石は覆土から出土している（第231図５）。同遺構では敲石が３点と針状鉄器、三角状鉄片が出土している。なお、鍛冶炉と床面埋土の洗浄では鉄片などを確認できなかったようである。同竪穴住居16では、中央ピットを取り囲むように焼土面が検出された。台石は壁際から出土している（第231図６）。今回実見した中でもっとも森原下ノ原遺跡の例に類似している。同遺構では、床面や覆土から敲石や磨石、棒状・針状・不明鉄器、不整形鉄片などが多く出土している。

以上のような類例の中で、台石の用途は大きく２つの可能性が考えられる。一つは鉄器製作にともなう台石である。禰冝田佳男氏は、近畿地方における過去の発掘調査例の中から鉄器製作遺構を「再発掘」する試みのなかで、台石の出土を鉄器製作遺構と認定する条件の一つとして挙げている[25]（禰冝田2020）。しかし、森原下ノ原遺跡やこれに酷似する道休畑遺跡で出土した台石の黒変部は円形や隅丸方形の比較的整った形状をしており、鉄器製作にともなう鍛打ではこうした痕跡が残るとは考えにくい[26]。これら台石のすべてを鉄器製作に関連したものと考える根拠は薄い。

もう一つの可能性は、石の上で直接火を使う作業にともなう台石である。本遺跡例の大きな特徴として、円形や隅丸方形の比較的整った形状の黒変部が挙げられる。何らかの方法で火の当たる範囲が限定され、長時間被熱した結果、こうした形状の被熱痕が残ると考えられる。また、炭化物が付着する例がある点も何かを台石の上で燃やすもしくは焼く行為が考えられよう。被熱範囲を限定する方法は、粘土や土、土器などが考えられるが、これまでの調査でそれを特定できる例はない。いずれにしても、火を使用する機会は日常生活の中で頻繁にあったはずであり、本遺跡では遺構外からも複数個体出土していることからそれほど特別な用途を想定するべきではないかもしれない。

第６節　まとめ－森原下ノ原遺跡の変遷と位置づけ－

ここでは最後に『縄文～古墳時代編』と『古代～近世編』で整理してきた遺跡の変遷をまとめ、遺跡の評価と位置づけをおこなう（第232・233図）。

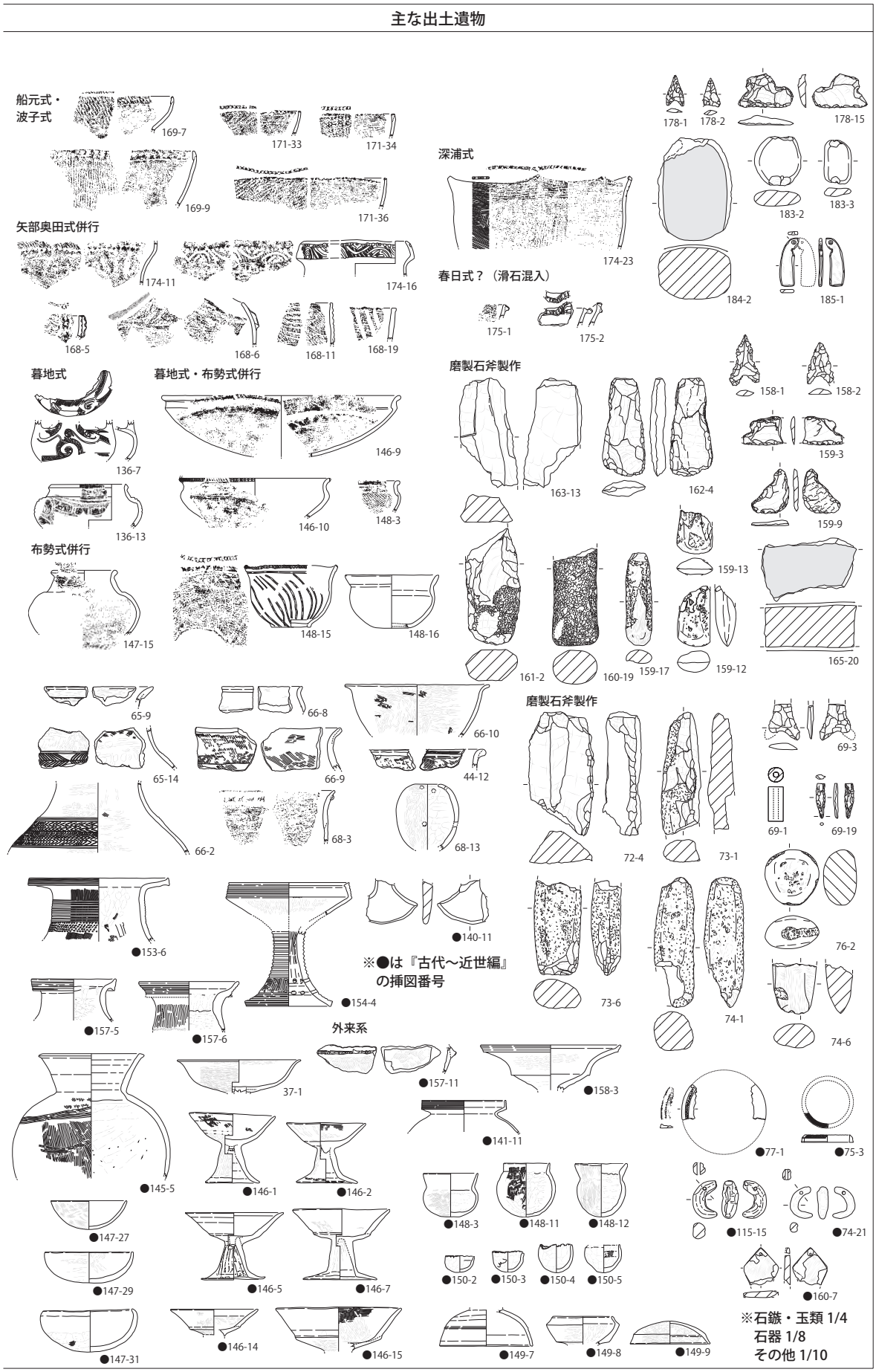
１．縄文時代

本遺跡で明確な人の活動が認められるようになるのは縄文時代中期である。それ以前は13・14層にみえるように江の川によって形成された自然堤防が広がっていた。14層には約１万９千年前に噴火した三瓶山の浮布軽石の粒状片を大量に含んでいた。東西方向の土層堆積をみると、13･14層は調査区長軸の中心線にあたる部分がもっとも高くなっており、そこから東（山側）に向かって低く傾斜している。それに従って縄文時代の包含層である11・12層も傾斜をもって堆積しており、遺構の基盤となる地形も傾斜していた。遺構は概ね後期が多く、住居状硬化面や土坑、焼土面など、集落遺跡として理解できる。包含層出土遺物は12層が中期、11－３層が中期末、11－１・２層が後期と比較的明瞭に分かれており、それぞれ当地域の基準ともなりえる土器様相を把握することができた。他地域系の土器も多く、周辺地域でも中心的な集落であった可能性が高い。また、11層を中心に大量の磨製石斧未成品が出土し、石斧製作遺跡であったことも明らかとなった。

縄文時代後期中頃から晩期にかけて、一時的に人の活動の痕跡が見られなくなる。遺跡には遺物量の極端に少ないシルト層（８～10層）が堆積しており、長期間にわたって湿地状の環境が広がっていたものと考えられる。

時期	層位	環境・概要	遺構	主な出土遺物
縄文時代中期	14層 13層	・自然堤防の形成 ・約1,9000年前に噴火した三瓶浮布軽石の粒状片を含む ・遺物なし		鷹島式　船元式・波子式 170-4　170-15　173-17　170-21　170-7　173-18　173-19　173-29　173-32
	12層	・安定・土壌化 ・船元式・波子式を中心とした包含層 ・遺構は少ない		
縄文時代後期初頭・前葉	11-3層	・矢部奥田式併行を中心とした包含層 ・２区にのみ堆積	遺構1419 硬化面	暮地式 135-1　135-2　135-5　135-8　135-4　145-8
	11-1･2層	・硬化面、石材集積、焼土溜などを検出 ・拠点集落か		
		・暮地式・布勢式併行の包含層	遺構1448 集石	布勢式併行 138-6　138-5　142-18　144-16
		・塩基性片岩製の磨製石斧製作	遺構1437 集石	
縄文時代後期中葉～弥生時代前期	8～10層	・厚いシルト層堆積 ・湿地のような環境 ・遺物が極端に減少		
	7層	・氾濫堆積		
弥生時代前期前半	6層	・弥生時代前期前半の包含層 ・遺構は少ない土坑・ピットなど ・塩基性片岩製の磨製石斧製作		63-4　63-5　63-7　63-11　64-8
弥生時代中期				●152-2　●152-7　●156-1　●155-5　●156-5　●156-8　●156-10　●157-3
弥生時代後期		・安定・土壌化 ・弥生時代後期から古墳時代中期を中心とした包含層	遺構2217 竪穴建物	
古墳時代前期	5層	・複数の竪穴建物、土器溜などを検出	遺構1276 竪穴建物	●142-4　●142-3　●141-1　●141-5
古墳時代中期		・継続的な集落形成祭祀の痕跡あり	遺構1227 竪穴建物？	●142-11　●142-9　●143-2　●144-1　●144-6
			※硬化面・竪穴建物 1/250 集石 1/60	

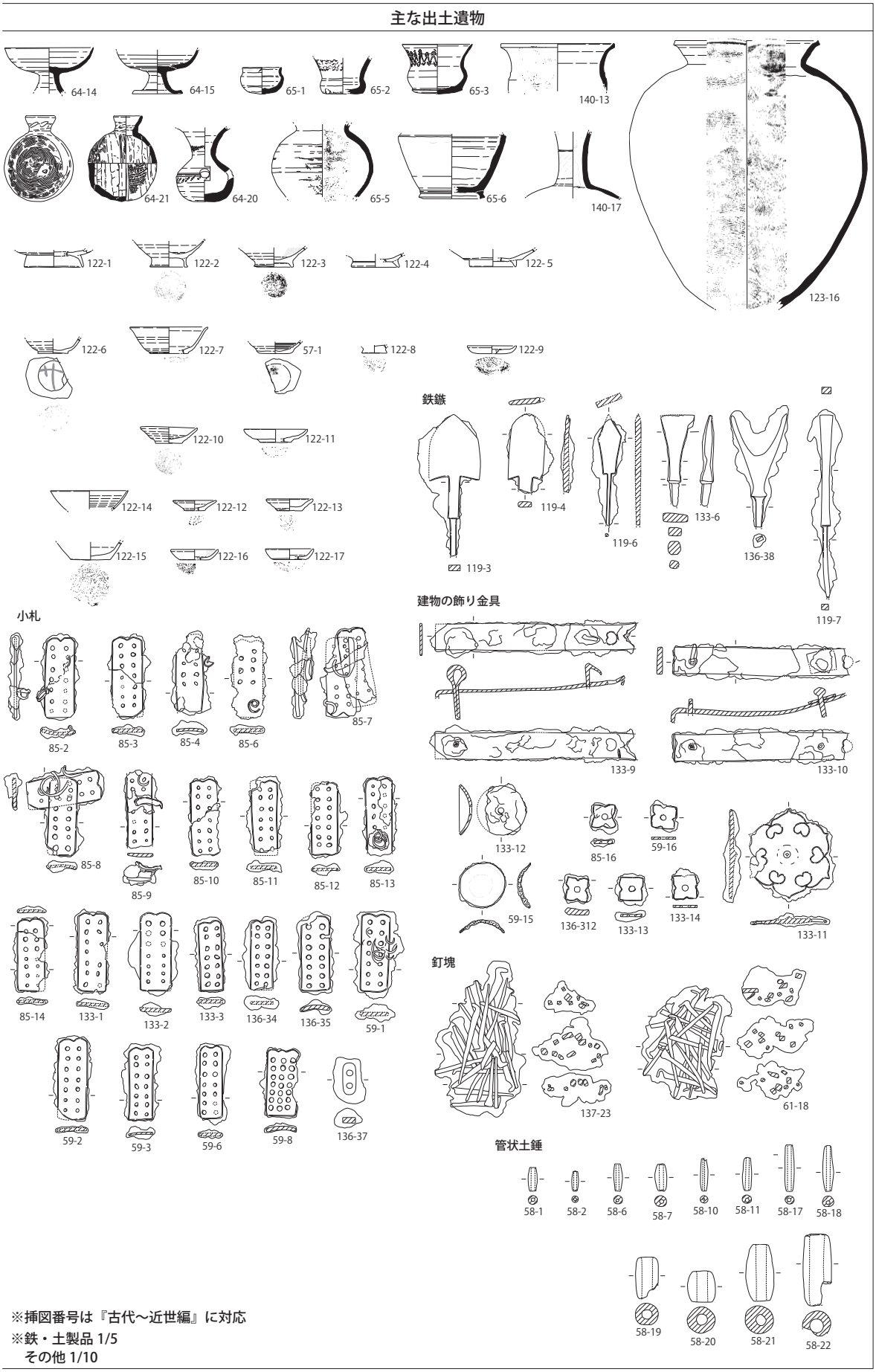
第232図－１　森原下ノ原遺跡１～３区総括図（縄文～古墳時代）



第 232 図－２　森原下ノ原遺跡１～３区総括表（縄文～古墳時代）

時期	層位	環境・概要	遺構	主な遺物
古代		・遺構ほとんどなし ・7～8世紀の須恵器が一定量出土		
		・江の川の河川活動（大規模な洪水または流路の変更）により西側が大きく浸食される（平安時代頃か） ⇒西低東高の地形に	遺構 2459 畑	
中世前半	4-10～4-3層	・浸食部分が耕作や小規模な氾濫によって徐々に埋没	遺構 1044 集石	
		・室町時代頃にほぼ浸食前の地形に戻る ⇒室町～戦国時代にかけての建物・鍛冶炉を中心とする遺構面の形成	遺構 1136 鍛冶炉	
中世後半	4-1·2層	・掘立柱建物から礎石建物への変化 ・希少な陶磁器、甲冑部品（小札・笠鞣）、建物の飾り金具、大量の釘、棒状鉄製品の出土	遺構 1415·1416 掘立柱建物	
	3-4～3-1層		遺構 1064 礎石建物	
近世		・耕作と鍛冶作業の場、複数回の氾濫を受ける	遺構 1004 鍛冶炉	
	2層	・現代まで耕作の場、宅地として利用	※建物・畑 1/250　鍛冶炉 1/60	

第 233 図－1　森原下ノ原遺跡 1～3 区総括図（古代～近世）



第 233 図－２　森原下ノ原遺跡１～３区総括図（古代～近世）

2．弥生時代

８～10層の上面ではいくつか遺構を検出したが、それらは７層とした氾濫堆積層に覆われ、次に人の活動が活発化するのは弥生時代前期である。６層では弥生時代前期前半の遺物が多く出土し、突帯文土器を少量ともなう。また、11層と同じ石材を使用した磨製石斧未成品が大量に出土し、再び石斧製作遺跡として機能したことが明らかとなった。石見地域で初となる土笛が出土したことも注目される。遺構は土坑やピット、土器溜などを検出したのみで、集落の本体は調査区外にあるものと考えられる。

弥生時代前期後半から中期前半は遺物自体がほとんどなく、様相は不明瞭である。中期後半は石見Ⅳ様式を中心とする土器が一定量出土し、江の川を遡った備後北部地域の塩町式土器から影響を受けた土器とともに石見地域では稀少な分銅形土製品も出土した。一方、この時期の遺構は不明瞭で、再び遺構が増えるのは弥生時代後期からである。後期前半と後半の２棟の竪穴建物を検出し、その他土坑やピットも多く検出した。鉄器やガラス玉も保有しており、規模の大きな集落遺跡と考えられる。

3．古墳時代

古墳時代初頭には長門・周防系、布留系の土器が出土した竪穴建物を検出し、移住を含めた人の移動が想定される。その後、古墳時代中期にかけて断続的に竪穴建物が検出され、集落が継続していたと考えられる。前期には絵画土器や粘土に覆われた合わせ口土器、中期には合わせ口土器上層の土器溜、小型壺・ミニチュア土器の大量出土など、祭祀行為が想定できる遺物が多く確認された。また、島根県２例目となる石釧も出土し、弥生時代から引きつづき拠点的な性格をもった集落遺跡であった可能性が考えられた。

古墳時代後期になると遺物量が激減し、遺構も確認できなくなる。その代わりに遺跡北側に隣接する森原神田川遺跡下ノ原地区で後期を中心とする祭祀跡が検出されており（島根県教委2021）、活動の中心が移動した可能性が考えられる。

4．古代

古代も古墳時代後期に引きつづき明確な遺構はほとんど検出されなかった。しかし、７～８世紀にかけての須恵器が一定量出土し、同時期の土師器が少なかったことから一般の集落とは異なる施設の存在が想定できる。本遺跡の付近でも山陰道や駅家である江東駅の存在が想定され、さらに遺跡の約200ｍ北には８世紀初頭に石見国国司に赴任した柿本人麻呂が江の川を渡った場所とされる通称「人麻呂渡し」が存在する。こうした点が遺物の出土状況と関係する可能性がある。

その後、平安時代頃に本遺跡は一つの画期を迎える。江の川の河川活動（大規模な洪水や流路の変更など）により調査区の西側が大きく浸食され、西低東高の地形が形成された。本地域では万寿３年（1026）に大津波が襲ったという伝承があり（石見地方未刊資料刊行会1999）、この真偽は不明だが実際に地形が浸食された痕跡が確認された事例として重要である。

5．中世前半

その後、本調査区内における人の活動は一旦低調となる。ただ、２区で検出された畑遺構（遺構

2459）により、小規模な耕作活動は継続していたことがわかる。この畑は弥生時代の竪穴建物よりも約2.5ｍ低いレベルで検出しており、河川浸食によって形成された西低東高の地形が維持されたまま人の活動が再開されたことが明らかとなった。中世前半はこうした耕作や小規模な氾濫により徐々に地形が埋没していき、概ね15世紀頃に浸食前の状態に近い地形に戻ったと考えられる。

６．中世後半

この段階で15 ～ 16世紀の建物、鍛冶炉、集石などの遺構面を形成しており、遺構はもともと河川浸食の影響が少なかった１区部分に集中していた。鉄製の飾り金具をともなう比較的整った建物が複数棟立ち並び、掘立柱建物から礎石建物への変化を追うことができた。また、建物には甲冑修復用の小札や鉄釘が保管され、建物の周辺では脱炭作業や鍛錬鍛冶をおこなっていたことも明らかとなった。出土した貿易陶磁器には希少品も含まれており、これらから推測できる遺跡の性格は、一般的な集落ではなく、いわゆる館もしくは川湊の一角ではないかと考えられる。

７．近世以降

近世では畑と鍛冶炉を検出し、耕作と鍛冶作業の場として利用されたことが明らかとなった。調査区北側の森原神田川遺跡では、近世の畑や水田、水路が検出されており、幕府直轄地である石見銀山御料に属する当地においておこなわれた新田開発に関わる遺構と考えられている（島根県教委2020・2021）。森原下ノ原遺跡で検出された遺構もこれらと同様の性格が考えられる。

以上のように、森原下ノ原遺跡１～３区では縄文時代中期から現代まで、5,000年以上にわたって連綿と続いてきた人の活動痕跡が明らかとなった。こうした人の活動は遺跡のすぐ側を流れる江の川と不可分の関係にあり、まさに江の川とともに生きた人々の歴史の一端が明らかになったといえる。江の川は歴史上非常に重要な役割を担ってきた河川でありながら、県内における流域の調査例は少なく、今回の調査は地域の歴史を知る上で非常に重要な成果であり、今後の調査・研究に向けた基礎資料を提示できたと考える。

【註】

1　今回は動物骨の鑑定はおこなっていない。

2　石見地域沿岸部では、弥生時代中期末から後期前葉に丘陵部への進出・開発が始まり、その後古墳時代にかけて比高の低い河岸段丘上や丘陵縁辺部に開発が及んだことが指摘されているが（島根県教委 2014）、森原下ノ原遺跡では弥生時代の中で後期前葉の土器がもっとも多く出土しており、低地への進出が早かった可能性がある。

3　波子式の分布は、山陰地方では島根県浜田市・江津市波子大平山遺跡から鳥取県北栄町島遺跡までの沿岸部が主な範囲で、益田市周辺では今のところ確認されていない。山口県田ノ浦遺跡でも数点似た土器が報告されている（田ノ浦遺跡第42図101・102・105　山口県埋文センターほか2011）が、これも客体的なものかもしれない。

4　島根県江津市から大田市にかけての県西部では外面折返し口縁のみがみられ、内面折返し口縁は県東部の飯南町、雲南市、奥出雲町、松江市などに分布している（柳浦 2018）。本遺跡は波子大平山遺跡と近い距離に位置しながら土器様相は県東部に近い。

5　矢野健一氏のご教示による。

6　山陰地方では当該期の土器型式として布勢式が当てはめられているが、布勢式は福田K2式の系譜上で捉えられ、山陰東部を中心に分布している（柳浦 2017、千葉 2014 ほか）。これに対して、山陰中部では五明田式・暮地式の系譜を引く独自の型式が分布しており、北原本郷式・林原式が布勢式を細分するかたちで設定されている（稲田 2012）。稲田氏は山陰

中部に分布する布勢式併行期の土器は、口縁部に刻目が多用される、頸部の細密条痕がない、橋状把手をほとんどもたない、胴部文様が無文もしくは沈線のみ、屈曲形浅鉢が多い、大きく内湾するボウル形浅鉢が組成されるなどの点で山陰東部の布勢式とは明瞭に区別できることを指摘している（稲田 2012）。

7　無文としつつ、口縁部に刻目を入れるものや若干の突起をもつものも含めた。これらは林原遺跡の報告で砲弾形有文深鉢ａとされたものにあたり（島根県教委 2007b）、有文深鉢の要素を取り入れたものと考えられる。

8　整理過程の中で確認し、中村唯史氏に実見の上で同意を得た。

9　島根県内における弥生時代前期の土器様相はこれまで資料数の多い出雲地域を中心に進められ（松本 1992a、濵田 2012・2013、岩本 2021）、遺跡単位での検討も進んでいる（出雲市教委 2010、島根県教委 2013）。一方、石見地域では資料的制約から検討があまり進んでいない（松本 1992b、榊原 2005）。

10　一方、東海、四国、九州などでは古墳時代に入っても龍を中心とした絵画土器が出土しており、近年では古墳時代中期まで下る例もある（大阪府立弥生文化博物館 2009）。また、土器以外でみれば埴輪に線刻絵画が描かれる場合があり、これらは少ないながらも古墳時代後期まで継続する。モチーフは鹿と船がほとんどを占めるようである（春成 1999）。

11　遺物の分類には島根県教委の稲田陽介と伊藤徳広に協力を得、観察には美郷町沖丈遺跡における竹広文明氏の論考（竹広 2001）を参照した。また、岩手大学の佐藤由紀男氏に助言を得た。

12　詳細に観察すれば細かな岩石分類が可能だが、見た目上ほぼ同じ岩石を選択的に利用している。

13　中村唯史氏のご教示による。また、古屋敷遺跡（C·F·H·I 区）の調査でも同様の石材の産出地について江の川中流域が想定されている（島根県教委 2017a）。なお、縄文時代後・晩期の石斧製作遺跡である沖丈遺跡の石材は結晶片岩と鑑定され（邑智町教委 2001）、両遺跡の資料を実見した稲田氏から見た目の特徴は似るがやはり異なる石材との教示を得た。

14　弥生時代を代表する石斧製作遺跡である福岡県今山遺跡において使用された玄武岩は比重が 2.98 ～ 3.04 と非常に重く、標準偏差が 0.014 と極めて均一化した石材を選択していることが明らかにされている。

15　全国的には縄文時代中期以降、明らかに自家消費量を超える石斧未成品が出土する製作遺跡が出現するようで（土谷 2007 ほか）、本遺跡もその一つに数えられる。

16　縄文時代中期から晩期にかけての３万点以上もの磨製石斧未成品が出土した富山県の境 A 遺跡（富山県教委 1990）では、８類型に及ぶ製作技法のパターンが想定されており、これが時期差を示す可能性を残しつつ素材の形態に合わせて製作方法を選択するという多様性が特徴として挙げられている（中島 2007）。

17　この技法で製作された製品は規格性が高く伐採に適した厚い石斧であるためブランド化し、広域流通がなされる。典型的なものは福岡県今山遺跡や長野県榎田遺跡など限られた遺跡でしか確認されていない石斧製作体制である。

18　幡中氏が作成した縄文時代遺跡データベースをもとに、ある程度時期を絞ることができ、かつ 10 点以上の石器が出土した遺跡が集成されている（是田 2014）。今回はこれをもとに各報告書に記載された石材から分布状況を検討した。

19　古屋敷遺跡（C·F·H·I 区）の調査では、石斧類に泥質片岩もしくは塩基性片岩が用いられていることが指摘されているが、小破片やチップ類の少なさから調査区内での製作の可能性は否定されている（島根県教委 2017a）。鰐石遺跡については岩手大学の佐藤由紀男氏が令和３年 10 月 29 日（金）におこなった資料調査に県埋文センターの中川と県古代文化センターの東森が同行し、石材に関する教示を得た。

20　後廻遺跡は弥生時代中期末～後期初頭、弥生時代後期後半、古墳時代前期の集落遺跡で、複数の竪穴建物や掘立柱建物が見つかった（松江市教委 2011）。焼粘土塊は古墳時代前期と考えられる３基の単独柱穴から出土し、総量は 3,097g に上る。報告では、土師器片が挟まるものがある、穿孔がある、焼けた植物が付着する、平坦面が作られるなどが特徴として挙げられ、福岡県小郡市一の口遺跡で出土した焼土塊との比較などから、「土師器の土器焼成にともなう粘土を用いた被覆部、いわゆる壁体の残骸」（47 頁）と判断されている。

21　また、参考までに鳥取県米子市の上淀白鳳の丘展示館に展示されている上淀廃寺の壁土も観察した。胎土は比較的精良であるものの、極細かな礫が多く混じっており、スサの混入も確認できた。また、壁画が描かれた面を除き凹凸が激しく、土が焼け固まったという印象である。壁土のため胎土の精良さは求められていなかったものと考えられる。

22　島根大学法学部の平郡氏に実見いただいた上で教示を得た。

23　島根県外では鳥取県の陰田第６遺跡 SI-2（鳥取県教育文化財団 1996）、妻木晩田遺跡妻木山地区第 80 竪穴住居跡（大山スイス村埋文調査団・鳥取県大山町教委 2000）、同松尾頭地区第 53 竪穴住居跡（鳥取県教委 2008）、広島県の郡山大通院谷遺跡（吉田町地域振興事業団 2003）などで類例が出土している。このうち、妻木晩田遺跡第 53 竪穴住居跡では大小９ヵ所の焼土面を確認し、被熱により赤化した台石、敲石、砥石、鉄器が出土している。

24　現状では若干の炭化物が付着する程度だが、出土当初はさらに多く付着していた、と松江市埋蔵文化財調査室の川上昭一氏にご教示を得た。

25　禰冝田氏は鉄器製作遺構認定の条件として、①床面の焼土面、②台石、敲石・磨石類、砥石などの石製鍛冶具、③さまざ

まな形態の鉄製品あるいは鉄片、④焼粘土塊を挙げた（禰冝田 2020）。

26　安間拓巳氏は弥生時代以降の金床石の特徴を検討し、平滑な面をもつこと、表面に鍛打痕や被熱によって赤変や剥離がみられること、鉄錆や鍛造剥片が付着している場合があることなどを挙げている（安間 2004）。こうした点と比較し、本遺跡例は打撃による表面の破損が進んでいるようには見えず、触感も黒変部と周囲で大差ない。全体的に劣化は進んでいるが、これは石材の性質によるものであろう。

【引用・参考文献】

安達和隆　「土器野焼き実験レポート－覆い式野焼きにおける黒斑と壁体破片生成の過程－」『古代文化研究』第９号　島根県古代文化センター　2001

安間拓巳　「金床石と古代の鍛冶」『考古論集－河瀬正利先生退官記念論文集－』　河瀬正利先生退官記念事業会　2004

石田由紀子　「中津式・福田ＫⅡ式土器」『総覧　縄文土器』　アム・プロモーション　2008

泉　拓良　「鷹島式・船元式・里木Ⅱ式土器」『総覧　縄文土器』　アム・プロモーション　2008

出雲市教育委員会　『白枝荒神遺跡』　1997

出雲市教育委員会　『下古志遺跡』　2001

出雲市教育委員会　『矢野遺跡　遺構編（第１分冊）』出雲市の文化財 10　2010

出雲市教育委員会　『杉沢遺跡・杉沢Ⅱ遺跡・杉沢横穴墓群』　2016

出雲市教育委員会　『白枝荒神遺跡』　2018

稲田陽介　「山陰地方の縁帯文土器－地域性からみた土器編年の再編－」『初期縁帯文土器群の成立と展開』　中四国縄文研究会愛媛大会実行委員会　2012

石見地方未刊資料刊行会　『角鄙経石見八重葎』　1999

岩本真実　「出雲地域平野部における弥生時代前半期の土器様相」『山陰弥生文化の形成過程』島根県古代文化センター研究論集第 25 集　島根県古代文化センター　2021

大阪府立弥生文化博物館　『弥生画帖－弥生人が描いた世界－』大阪府立弥生文化博物館図録 33　2006

大阪府立弥生文化博物館　『倭人がみた龍 龍の絵とかたち』大阪府立弥生文化博物館図録 40　2009

邑南町教育委員会　『沖丈遺跡』　2001

長田友也　「磨製石斧－製作技術の変遷と流通－」『季刊考古学』第 119 号　雄山閣　2012

小都　隆　「波子式土器」『日本土器事典』　雄山閣　1996

鹿島町教育委員会　『南講武地区分布調査報告１』　1987

柏原孝俊　「弥生時代前期の土器づくり－一の口遺跡出土の焼土塊をめぐって－」『みずほ』第 23 号　大和弥生文化の会　1997

幸泉満夫　「四国」『西日本の縄文土器　後期』　真陽社　2010

江津市教育委員会　『高津遺跡』　2005

是田　敦　「島根県主要縄文時代遺跡の石器集成表」『山陰地方の縄文社会』古代文化センター研究論集第 13 集　島根県古代文化センター　2014

榊原博英　「島根県鰐石遺跡出土の大陸系磨製石器類について」『地域に根ざして』　田中義昭先生退官記念事業会　1999

榊原博英　「浜田市鰐石遺跡出土遺物－弥生前期土器を中心に－」『古代文化研究』第 13 号　島根県古代文化センター　2005

佐藤由紀男　「石材の比重からみた弥生系磨製石斧の生産・流通」『岩手大学文化論叢』第９輯　岩手大学　2017

佐藤由紀男　「弥生開始期の生業・交流」『北陸と世界の考古学』　日本考古学協会 2021 年度金沢大会資料集　2021

島根県教育委員会　『中国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』　1980

島根県教育委員会　『森遺跡・板屋Ⅰ遺跡・森脇山城跡・阿丹谷辻堂跡』　1994

島根県教育委員会　『荒船古墳群・荒船遺跡・本庄川流域条里遺跡（２）』　1998

島根県教育委員会　『門生黒谷Ⅰ遺跡・門生黒谷Ⅱ遺跡・門生黒谷Ⅲ遺跡』　1998

島根県教育委員会　『姫原西遺跡』　1999

島根県教育委員会　『上野Ⅱ遺跡－弥生後期集落及び鍛冶関連遺跡の調査－』　2001

島根県教育委員会　『下山遺跡（２）－縄文時代遺構の調査－』　2002

島根県教育委員会　『島根県遺跡地図Ⅰ（出雲・隠岐編）』　2003

島根県教育委員会　『原田遺跡（２）－２区の調査－』　2006

島根県教育委員会　『家の後Ⅱ遺跡２ 北原本郷遺跡２』　2007a

島根県教育委員会　『林原遺跡』　2007b

島根県教育委員会　『南外２号墳・勝負遺跡』　2007
島根県教育委員会　『五丁遺跡 庵寺遺跡 於才迫遺跡』　2009
島根県教育委員会　『道休畑遺跡』　2010
島根県教育委員会　『山持遺跡 Vol.8（６，７区）』　2012
島根県教育委員会　『西川津遺跡・古屋敷Ⅱ遺跡』　2013
島根県教委委員会　『庵寺古墳群Ⅱ・大迫ツリ遺跡・小釜野遺跡』　2014
島根県教育委員会　『古屋敷遺跡（C・F・H・I区）』　2017a
島根県教育委員会　『古屋敷遺跡（D区）』　2017b
島根県教育委員会　『大国地頭所遺跡』　2018
島根県教育委員会　『御堂谷遺跡 諸友大師山横穴Ⅳ群１号穴』　2019
島根県教育委員会　『森原神田川遺跡大津地区』　2020
島根県教育委員会　『森原神田川遺跡下ノ原地区』　2021
島根県教育委員会　『森原下ノ原遺跡１～３区 １．古代～近世編』　2022
島根県教育委員会・島根県古代文化センター　『弥生時代の磨製石器』島根県古代文化センター調査研究報告書 13　2003
島根県教育庁文化財課古代文化センター・島根県埋蔵文化財調査センター　『順庵原１号墓の研究』島根県古代文化センター調査研究報告書 37　2007
島根県古代文化センター・埋蔵文化財調査センター　『崎ヶ鼻洞窟遺跡』　2005
島根大学山陰地域研究総合センター　『出雲市矢野遺跡の発掘調査』　1989
島根大学考古学研究室・出雲弥生の森博物館　『西谷３号墓発掘調査報告書』　2015
下條信行　「北東アジアにおける伐採石斧の展開」『韓半島考古学論叢』　株式会社すずさわ書店　2002
下條信行　『大陸系磨製石器論』　下條信行先生退任記念事業下條信行先生石器論攷集刊行会　2008
下関市立考古博物館　『平成 29 年度特別展 遥かなる音の世界』　下関市立考古博物館　2017
宍道正年　『島根県の縄文土器集成Ⅰ』　報光社　1974
宍道正年　「島根県の縄文土器研究－編年を中心に－」『松江考古』第３号　1980
大山スイス村埋蔵文化財発掘調査団・鳥取県大山町教育委員会　『妻木晩田遺跡発掘調査報告Ⅱ〈妻木山地区〉』大山町埋蔵文化財調査報告書第 17 集　2000
高尾浩司　「妻木晩田遺跡における鉄器生産の一試論」『妻木晩田遺跡発掘調査研究年報 2002』　鳥取県教育委員会　2003
高須　晃・高須佳奈　「江津の青色片岩」『島根の台地みどころガイド』　今井出版　2013
高田健一　「妻木晩田遺跡における鉄器生産に関する覚え書き」『妻木晩田遺跡発掘調査研究年報 2003』　鳥取県教育委員会　2004
竹野町教育委員会　『小森岡遺跡』　1990
竹野町教育委員会　『見蔵岡遺跡　其の二』　1997
竹広文明　「沖丈遺跡出土石器をめぐって」『沖丈遺跡』邑智町教育委員会　2001
田崎博之　「焼成失敗品からみた弥生土器の生産と供給」『環瀬戸内海の考古学』　古代吉備研究会　2002
田中義昭　『弥生時代集落址の研究』　新泉社　2011
田畑直彦　「山陽西部（山口県）」『前期古墳編年を再考するⅡ－古墳出土土器をめぐって－』　中国四国前方後円墳研究会　2015
田畑直彦　「山陰地方における綾羅木・高槻系土器」『山陰弥生文化の形成過程』島根県古代文化センター研究論集第 25 集　島根県古代文化センター　2021
玉田良英・岡田憲一　「近畿」『西日本の縄文土器　後期』　真陽社　2010
千葉　豊　「縁帯文土器」『総覧　縄文土器』　アム・プロモーション　2008
千葉　豊　「縄文後期土器研究の現状と課題－山陰地方の前半期を中心に－」『山陰地方の縄文社会』古代文化センター研究論集第 13 集　古代文化センター　2014
土谷崇夫　「磨製石斧の供給」『ものづくり－道具製作の技術と組織－』縄文時代の考古学６　同成社　2007
鳥取県教育委員会　『史跡妻木晩田遺跡松尾頭地区発掘調査報告書－第 16・19 次発掘調査－』史跡妻木晩田遺跡発掘調査報告書第Ⅲ集　2008
鳥取県教育文化財団　『陰田遺跡群（本文編Ⅰ）陰田第６遺跡 陰田マノカンヤマ遺跡久幸池地区』鳥取県教育文化財団調査報告書 47　1996
富山県教育委員会　『境 A 遺跡－石器編－』　1990
頓原町教育委員会　『五明田遺跡』　1991

中島庄一　「磨製石斧の製作」『ものづくり－道具製作の技術と組織－』縄文時代の考古学６　同成社　2007
永野　仁　「龍絵画土器小考」『弥生文化博物館研究報告』第７集　大阪府立弥生文化博物館　2014
西田泰民　「注口土器」『西日本の縄文土器　後期』　真陽社　2010
仁摩町教育委員会　『川向遺跡発掘調査報告書（１）』　1993
仁摩町教育委員会　『五丁地区遺跡群発掘調査報告書』　1999
禰冝田佳男　「近畿における鉄器製作遺跡の「再発掘」『新・日韓交渉の考古学－弥生時代－（最終報告書　論考編）』「新・日韓交渉の考古学－弥生時代－」研究会　「新・日韓交渉の考古学－青銅器～原三国時代－」研究会　2020
橋本裕行　「弥生時代の造形・文様・絵画」『日本美術全集』第１巻　小学館　2015
橋本裕行　「弥生絵画集成－中国・四国編－」『考古学論攷』第 43 号　橿原考古学研究所　2020
幡中光輔　「島根県の縄文時代遺跡データベース」『山陰地方の縄文社会』古代文化センター研究論集第 13 集　島根県古代文化センター　2014
馬場伸一郎　「磨製石斧の「流通」と「交易」－栗林式土器文化の再考材料として－」『中部の弥生時代研究』　中部の弥生時代研究刊行委員会　2009
濵田竜彦　「中国地方東部の突帯文土器と地域性」『古代文化』Vol.60 －Ⅲ　古代学協会　2008
濵田竜彦　「出雲原山式再考－山陰地方の初期遠賀川式土器－」『菟原Ⅱ』森岡秀人さん還暦記念論文集　菟原刊行会　2012
濵田竜彦　「山陰地方における初期遠賀川式土器の展開と栽培植物」『農耕社会成立期の山陰地方』　第 41 回山陰考古学研究集会事務局　2013
濱田延充　「口縁端部を刻まない甕－山陰地方の遠賀川式土器－」『みずほ』第 34 号　大和弥生文化の会　2000
林　大智　「北陸における弥生時代の生産と流通」『中部の弥生時代研究』　中部の弥生時代研究刊行委員会　2009
春成秀爾　「絵画から記号へ」『国立民俗博物館研究報告』第 35 集　国立科学博物館　1991
春成秀爾　「埴輪の絵」『国立民俗博物館研究報告』第 80 集　国立科学博物館　1999
春成秀爾　「弥生時代の龍」『祭りと呪術の考古学』　塙書房　2011
北条町教育委員会　『島遺跡発掘調査報告書』　1983
穂積裕昌　「伊勢湾岸地域にみる弥生時代の生産と流通」『中部の弥生時代研究』　中部の弥生時代研究刊行委員会　2009
町田勝則　「伐採石斧」『季刊考古学』第 111 号　雄山閣　2010
松江市教育委員会　『千酌条里制遺跡他発掘調査報告書』松江市文化財調査報告書第 133 集　2010
益田市教育委員会　『中小路遺跡・羽場遺跡』　2012
松江市教育委員会　『後廻遺跡』松江市文化財調査報告書第 145 集　2011
松本岩雄　「出雲・隠岐地域」『弥生土器の様式と編年』山陽・山陰編　木耳社　1992a
松本岩雄　「石見地域」『弥生土器の様式と編年』山陽・山陰編　木耳社　1992b
松山智弘　「島根県」『中期古墳研究の現状と課題Ⅴ～古墳時代中期の土師器・須恵器をめぐって～』　中国四国前方後円墳研究会　2021
宮島了誠・桑門智亜紀編　『季刊考古学 石器生産と流通にみる弥生文化』第 111 号　雄山閣　2010
柳浦俊一　『山陰地方における縄文文化の研究』　雄山閣　2017
柳浦俊一　「山陰地方を中心とした中国地方における縄文土器型式の分布」『隠岐産黒曜石の獲得と利用の研究』島根県古代文化センター研究論集第 19 集　島根県古代文化センター　2018
柳浦俊一　「島根県中・東部の突帯文土器」『山陰弥生文化の形成過程』島根県古代文化センター研究論集第 25 集　島根県古代文化センター　2021
矢野健一　「南九州縄文中期前半の土器編年再考」『関西縄文時代研究の泉を拓く』関西縄文論集４　関西縄文文化研究会　2020
山口県教育財団　『吉永遺跡（Ⅲ－東地区）』山口県埋蔵文化財センター調査報告第 10 集　山口県埋蔵文化財センター　1999
山口県埋蔵文化財センター・財団法人山口県人づくり財団　『田ノ浦遺跡Ⅱ』　2011
山崎頼人・岩本真実・原田敏照　「山陰における無文土器系土器－出雲地域を中心として－」『山陰弥生文化の形成過程』島根県古代文化センター研究論集第 25 集　島根県古代文化センター　2021
山本　清　「西山陰の縄文式文化－土器を中心として－」『山陰文化研究所紀要』第１号　島根大学　1961
吉田町地域振興事業団　『郡山大通院谷遺跡（西地点編）』吉田町地域振興事業団調査報告書第９集　2003
米子市教育委員会　『陰田』　1984
米子市教育委員会　『目久美遺跡』　1986

第28表　遺構計測表（縄文～古墳時代）

1区

遺構番号	Gr	掘込層（想定）	種類	時期	法量(cm)			出土遺物	備考
					長径	短径	深さ		
1071	D3	13 層	土坑	縄文	44	42	72	不明土器、縄文土器	
1247	F3	6 層	集石土坑	弥生前期？	72	54	42	土師器、弥生土器、石器	
1248	D3	（13 層）	土坑	縄文	78	54	14	縄文土器（布勢式1・後期1）、石器	
1253	E2	（6 層）	ピット	古墳	28	24	19		
1272	D3	（12 層）	ピット	縄文	41	35	22	縄文土器	
1276	E1・E2・F2	6 層	竪穴建物	古墳前期	(800)	(680)	54	土師器、石器、鉄製品	
1277	E3	6 層	竪穴建物？	古墳前期末～中期	(490)	(370)	33	土師器、石器	
1278	F4		ピット						上端未計測のため欠番
1280	E1	（6 層）	ピット	古墳？	35	33	35	不明土器、弥生土器、石器	
1281	E2	（6 層）	ピット	弥生	(89)	53 ＋	29		
1282	E2	（6 層）	柱穴	古墳？	53	32	19		柱痕あり
1284	F4	10 層	ピット	弥生？	28	28	10	縄文土器	
1285	E4	10 層	ピット	弥生？	42	36	26	不明土器、弥生土器	
1286	E4	10 層	ピット	弥生？	41	37	29	弥生土器	
1287	F4	10 層	ピット	弥生？	34	25	7		
1288	F4	10 層	ピット	弥生？	29	25	12		
1304	D3	12 層	土坑？	縄文？	41	38	31	炭化物	
1307	D3	12 層	土坑	縄文	69	58	19	縄文土器（中期7・後期1）、石器1、骨片1	
1308	D3	12 層	ピット	縄文	29	28	18		
1310	E2	8・9 層	撹乱					土師器1	欠番
1316	D3	12 層	土坑	縄文	60	54	10	縄文土器（中期1・後期4）、石器	
1317	D3	12 層	ピット	縄文	31	28	15	縄文土器（中期2）	
1318	D2・D3	12 層	土坑	縄文	146	97	23	縄文土器（中期8・後期2）、石器1	
1319	C2	12 層	ピット	縄文	22	19	15		
1321	C2	12 層	撹乱					縄文土器（中期1）	欠番
1327	D2	12 層	ピット	縄文	43	36	31	弥生土器、縄文土器（中期1・後期2）、石器1	
1337 (1373)	D2	1419 上面	焼土溜	縄文	146	52	24	縄文土器（後期7）、炭化物	1419 硬化面に伴う
1338	E2	8・9 層	焼土面	弥生？	25	25			
1339	E2	8・9 層	焼土面	弥生？	(36)	(33)			
1340	E1	8・9 層	焼土面	弥生？	44	34			
1342	E3	10 層	柱穴	古墳	34	32	28	縄文土器（中期1・後期）、石器	1277 竪穴建物？の柱穴
1343	E2	10 層	柱穴	古墳	83	77	101	土師器、弥生土器、縄文土器（後期2）、石器	1276 竪穴建物の柱穴
1346	E1	10 層	撹乱						欠番
1348	D4	12 層	撹乱					縄文土器	欠番
1349	E1	10 層	柱穴	古墳	113	41	64	弥生土器、縄文土器（中期1・後期3）、鉄製品	1276 竪穴建物の柱穴
1350	E3	11 層	柱穴	古墳	38	29	33		1277 竪穴建物？の柱穴
1352	D3・D2	11 層	焼土溜	縄文	153	84	36	縄文土器（後期3）、石器、骨片5	
1354	E2	11 層	焼土面	縄文	96	(88)		縄文土器（布勢式1・後期6）、土製品1、石器1	
1355	D2	11 層	ピット	縄文	32	25	15	石器	
1356	D2	11 層	焼土溜	縄文	123	84	22	縄文土器（後期2）、石器、骨片	
1359	E2	10 層	柱穴	古墳	50	33	132	縄文土器（後期1）、石器	1276 竪穴建物の柱穴
1360	F1	10 層	柱穴	古墳	58	43	23		1276 竪穴建物の柱穴
1361	E3	11-2 層	焼土面	縄文	97	64		縄文土器（後期66）、石器	
1365	E2	11 層	ピット	縄文？				石器	座標不明により欠番
1366	E2	11 層	ピット	縄文？					座標不明により欠番
1367	E2・E3	11 層	ピット	縄文	41	31	20	縄文土器（後期1）	
1368	E3	11 層	ピット	縄文	34	30	22		
1369	E3	11 層	焼土溜	縄文	69	57	20	縄文土器（布勢式?1・後期4）、石斧素材1	
1370	E3	11 層	焼土溜	縄文	66	45	31	縄文土器（布勢式1・後期3）、石器	
1371	E2・F2	10 層	柱穴	古墳	87 ＋	57	40	土師器2	1276 竪穴建物の柱穴 柱痕あり
1372	D2	（13 層）	焼土溜	縄文	(139)	88	38	縄文土器（中期2・後期19）、石器	1419 硬化面に伴う
1374	E1	11 層	撹乱						欠番
1375	D1・D2	11 層	土坑	古墳	60	49	46	土師器1、縄文土器（後期3）、石器	埋土内自然礫 5 点
1376	D1	11 層	ピット	古墳	42	35	12	土師器1	
1377	D3	13 層	撹乱						欠番
1378	D2	14 層	土坑	縄文	73	(60)	34(23)	縄文土器（後期10）、石器2、炭化物	1419 硬化面に伴う
1379	D2	（11 層）	土坑	縄文	208	100	27	縄文土器（中期5・後期17）、石器	
1381	D2	（13 層）	焼土溜	縄文	241	86	32	縄文土器（中期8・後期10）、石器	1419 硬化面に伴う
1382	D2	（13 層）	焼土溜	縄文	151	48	29	縄文土器（暮地式?1・後期6）	
1386	D2	11 層	撹乱					縄文土器（後期1）、石器	欠番
1387	C2	13 層	撹乱					縄文土器（中期1・布勢式1・後期3）	欠番
1389	D2	13 層	撹乱						欠番
1390	D2	13 層	撹乱						欠番
1391	D2	13 層	撹乱						欠番
1392 (1409)	D2	13 層	焼土溜	縄文	200	118	55	須恵器1、縄文土器（中期5・後期15）、石器（石斧剥片20・安山岩剥片7）	1419 硬化面に伴う
1393	D2	11 層	焼土面	縄文	60	38			
1394	D2	11 層	ピット	縄文	28	22	19		1419 硬化面に伴う
1395	D2	11 層	ピット	縄文	22	20	19	縄文土器（後期1）	1419 硬化面に伴う
1396	E2	11 層	炭・焼土面	縄文	35	33			
1397	E2	11 層	炭・焼土面	縄文	130 ＋	113		縄文土器（後期3）	
1398	E2	11 層	炭・焼土面	縄文	103	46		縄文土器（布勢式1・後期1）	
1399	E2	11 層	土器溜	縄文	198	198		縄文土器（布勢式1・後期96）、石器1	写真測量で記録
1400	D2	11 層	集石	縄文	55	45		縄文土器（中期5・暮地式?1・後期80）、石器（微細剥片多数）	1419 硬化面に伴う
1401	E2	11 層	焼土面	縄文	118	84			
1402	E2	11 層	炭・焼土溜	縄文	169	150	38	縄文土器（中期1・後期16）、石器	
1403	E2	11 層	炭・焼土面	縄文	64	47			
1404	D2	13 層							座標不明により欠番
1405	D2	12 層	土坑	縄文	142	105	32	縄文土器（中期3・後期1）、土製品	1419 硬化面に伴う
1406	D2	11-2 層	焼土面	縄文	152	123	18		1419 硬化面に伴う
1407	D2	13 層	焼土面	縄文	88	52			1419 硬化面に伴う
1408	D2	13 層	炭面	縄文	37	27			
1411	D2	13 層	土坑	縄文	(81)	37 ＋	19	縄文土器（後期1）	
1412	D2	13 層	炭溜	縄文	96	70	18		

遺構番号	Gr	掘込層(想定)	種類	時期	法量(cm)			出土遺物	備考
					長径	短径	深さ		
1419	D2	(12 層)	硬化面	縄文	(750)	512 +		縄文土器、石器	
1420	E3	11 層	焼土溜	縄文	32	22	13		
1421	E3	11 層	焼土面	縄文	23	13			
1422	E3	11 層	焼土面	縄文	20	19			
1423	E3	11 層	焼土溜	縄文	105	29	12		
1424	E2	11 層	土坑	縄文	89	54	130	縄文土器(暮地〜布勢式1・後期80)、石器15 (製品3・石斧剥片12)	
1425	E2	11 層	土坑	縄文	101	82	105	縄文土器(中期末?1・布勢式6・暮地式〜布勢式3・後期162)、石器68(製品2・石斧剥片62・安山岩剥片4)	
1426	D2・E2	11 層	土坑	縄文	149	98	97	縄文土器(暮地〜布勢式1・後期51)、炭化物	
1427	E3・F3	11 層	土坑	縄文	(38)	30 +	81		
1428	D2・E3	11 層	土坑	縄文	85	76	45	縄文土器(中期3・布勢式2・後期29)、炭化物、骨片	
1429	E2		不明					縄文土器(後期138)、石器58(石斧剥片55・安山岩剥片3)	遺構としては欠番 遺物は11 層扱い
1430	E2	11 層	土坑	縄文	82	58	21	縄文土器(後期20)、石器(石斧剥片3)	
1431	E4	12 層	土坑	縄文	(97)	37 +	50	縄文土器(後期9)、石器3(製品2・石斧剥片1)、鉄製品	
1432	E3	11-2 層	焼土溜	縄文	102	92	80	縄文土器(後期3)	
1433	E3	11-2 層	ピット	縄文	67	54	47	縄文土器(後期7)	
1434	D2	12 層	ピット	縄文	48	48	17		
1435	E4	12 層	土坑	縄文	(60)	(60)	33		
1436	E3	11-2 層	焼土溜	縄文	(130)	98	15		
1437 (1440)	E3	11-2 層 (12 層)	集石土坑	縄文	111	77	57 +	縄文土器(布勢式1・後期1)、石器4	石斧未成品集石
1438 (1447)	F3	11-2 層 (12 層)	集石土坑 (墓?)	縄文	187	138	82 +	縄文土器(中期99・暮地式2・布勢式1・後期47)、石器41(製品7・石斧剥片25・安山岩剥片8・不明剥片1)、炭化物	石斧未成品集石
1439	E2	12 層	土坑	縄文	119	78	122	縄文土器(中期19・後期5)、石器4(製品3・瑪瑙剥片1)	
1441	F2	6 層	炭面	古墳	157	77		土師器8、弥生土器1、縄文土器(後期7)	1454 竪穴建物に伴う
1442	F3	6 層	ピット	弥生〜古墳	43	42	6		
1443	F3	6 層	ピット	弥生〜古墳	45	37	7		
1444	F3	6 層	ピット	弥生〜古墳	46	46	91	石器5(石斧剥片3・安山岩剥片2)	
1445	F3	6 層	ピット	弥生〜古墳	49	42	109		埋土内自然礫 1 点
1446	F3	6 層	焼土溜	弥生〜古墳	92 +	(90)	14		
1448	E3	12 層	集石土坑	縄文	122	96	32 +	縄文土器(中期16・後期5)、石器4	安山岩板状石材集石
1449	F3	(6 層)	ピット	弥生〜古墳	48	38	27		
1450	F3	(6 層)	ピット	弥生〜古墳	37	28	17		
1451			撹乱						欠番
1452	F3	(6 層)	ピット	弥生〜古墳	43	40	32		
1453	F3	(6 層)	ピット	弥生〜古墳	30	28	13		
1454	F2	(6 層)	竪穴建物	古墳中期	261 +	116 +	26	土師器、石器5(石斧剥片5)	
1455	F3・F4	(6 層)	ピット	弥生〜古墳	28	15 +	6		
1456	F3・F4	(6 層)	ピット	弥生〜古墳	(30)	27	6		
1457	F3	(8・9 層)	ピット	弥生〜古墳	41	36	17		
1458	F3	(8・9 層)	ピット	弥生〜古墳	35	34	29		
1459	F3	8・9 層	撹乱						欠番
1460	F2	(8・9 層)	撹乱						欠番
1461	F2	(8・9 層)	撹乱						欠番
1462	F2	(8・9 層)	撹乱						欠番
1463	F2	(8・9 層)	柱穴	古墳	52	46	11		1454 建物の柱穴
1464	F2	(8・9 層)	柱穴	古墳	84	(68)	32		1454 建物の柱穴
1465	F3	11 層	ピット	縄文	73	53	16		
1466	F3	11 層	ピット	縄文	38	34	12		
1467	F3	11 層	ピット	縄文	77	66	15		
1468	F3	12 層	土坑	縄文	140	117	18	縄文土器(後期22)	
1469	E3・F3	12 層	土坑	縄文	179	131	41	縄文土器(後期13)、石器3(石斧素材1・石斧剥片2)	
1470	E3・F3	12 層	ピット	縄文	64	29	11		
1471	E3・F3	12 層	土坑	縄文	71	59	18	縄文土器(後期1)	
1472	F3	12 層	ピット	縄文	37	35	8	縄文土器	
1473	E3	11 層	集石	縄文				石斧素材4	
土器溜 1	E3	(3-4 層内)	土器溜	古墳中期				弥生土器、土師器、石器、鉄製品	1277 竪穴建物に関係?
土器溜 2	E3	(5 層内)	土器溜	弥生〜古墳				弥生土器、土師器、石器	
土器溜 3 (2233)	F4	6 層内	土器溜	弥生前期				弥生土器、石器	
土器溜 4	E3	5 層内	土器溜	古墳前期末〜中期				弥生土器、土師器、石器	1277 竪穴建物に関係?

2 区

遺構番号	Gr	掘込層(想定)	種類	時期	法量(cm)			出土遺物	備考
					長径	短径	深さ		
2148	G7	5-2-b 層	撹乱					弥生土器	欠番
2149	G7	5-2-b 層	撹乱					弥生土器	欠番
2161	F6		集石	弥生?	72	34		弥生土器	2217 竪穴建物に伴う?
2163	F6・G6	(5-3 層)	ピット	古墳	57	53	22	土師器、弥生土器	
2164	G6	(5-3 層)	土坑?	弥生前期	145 +	140	37	弥生土器	
2165	G6・G7・H7	5-2 層	竪穴建物	弥生後期	545 +	521 +	10 〜60	不明土器、須恵器、土師器、弥生土器、石器、鉄製品	
2166	G6	5-2-b 層	土坑	弥生後期	331 +	229	31	弥生土器	
2167	H7	5-2-b 層	撹乱						欠番
2168	H7	5-2-b 層	撹乱						欠番
2169	G7	5-2-b 層	撹乱					弥生土器	欠番
2170	H7	5-2-b 層	ピット	弥生〜古墳	42	40	7		
2171	H7	5-2-b 層	土坑?	弥生〜古墳	77 +	54	20		
2175	F6	遺構2217 内	炭溜	弥生後期	75	69	10	弥生土器	2217 竪穴建物に伴う
2176	F6	遺構2217 内	炭溜	弥生後期	107	65	9		2217 竪穴建物に伴う
2177	F6	遺構2217 内	炭溜	弥生後期	43	30	11		2217 竪穴建物に伴う
2178	F6	遺構2217 内	炭溜	弥生後期	50	31	11		2217 竪穴建物に伴う
2179	F6	遺構2217 内	炭溜	弥生後期	58	38	25	弥生土器	2217 竪穴建物に伴う
2180	F6	5 層内	土器溜	弥生後期				弥生土器	遺構としては欠番 遺物は 5 層扱い
2181	G6	5-3 層	ピット	古墳?	48	46	32	土師器	
2182	G6	5-3 層	ピット	弥生〜古墳	51	49	14		
2183	G6	5-3 層	土坑	弥生〜古墳	90	62	33		
2184	G6	5-3 層	撹乱						欠番
2186	F6	5-3 層	ピット	弥生?	77	57	24	弥生土器	

遺構番号	Gr	掘込層(想定)	種類	時期	法量(cm)			出土遺物	備考
					長径	短径	深さ		
2187 (2318)	F6	5-3 層	ピット	弥生？	90	56	74	不明土器、弥生土器	
2188	F6	5-3 層	ピット	弥生？	52	46	26	弥生土器	
2192	F5	5-3 層	ピット	弥生？	58	50	12	弥生土器	
2193 (2224)	F5	5-3 層	ピット	弥生？	71	48	33	弥生土器	
2194	F5	5-3 層	撹乱						欠番
2195	F5	5-3 層	土坑	古墳中期	79	52	17	土師器、弥生土器、焼土塊	
2196	F4	6 層	ピット	弥生後期	59	55	22	弥生土器	
2197	G6	10 層	ピット	弥生～古墳	30	28	16		
2198	F6	5-3 層	撹乱					土師器、弥生土器	欠番
2199	F4·F5·G5	(6 層)	竪穴建物	古墳初頭	840	248 ＋	58	須恵器、土師器、弥生土器、石器、鉄製品	
2200	G6	遺構2165 内	炉？	弥生後期	73	71	16	弥生土器	2165 竪穴建物の中央土坑
2201 (2002)	F6	遺構2217 内	炭溜	弥生後期	103	55	11	鉄製品	2217 竪穴建物に伴う
2203	F6	遺構2217 内	炉？	弥生後期	107	86	16	弥生土器、ガラス玉	2217 竪穴建物の中央土坑
2204	F6	遺構2217 内	炭溜	弥生後期	50	35			2217 竪穴建物に伴う
2205	F6	遺構2217 内	炭溜	弥生後期	52	48			2217 竪穴建物に伴う
2206	F6	5-3 層	ピット	弥生～古墳	52	28 ＋	8		
2207	F6	5-3 層	ピット	弥生？	57	37	17	弥生土器	
2208 (2280)	F6	5-3 層	ピット	弥生～古墳	51	44	86	不明土器	
2209	F6	5-3 層	土坑？	弥生後期	81	45	24	弥生土器	
2210	F6·G6	5-3 層	土坑	弥生前期	227	148	29	弥生土器、石器	
2211 (2327)	F6	5-3 層	ピット	弥生～古墳	49	47	70		
2212	G6	5-3 層	ピット	弥生？	57	42	26	弥生土器	
2213 (2328)	F6	5-3 層	土坑	弥生後期？	87	71	70	土師器、弥生土器	
2214	F5	5-3 層	土坑	弥生？	70	49	26	弥生土器	
2215	F5	5-3 層	撹乱					弥生土器	欠番
2216 (2329)	F6	5-3 層	ピット	弥生～古墳	43	42	62	不明土器	
2217	F5·F6	(5-3 層)	竪穴建物	弥生後期	788 ＋	550 ＋	18 ＋	土師器、弥生土器、ガラス玉、石器、鉄製品、焼土塊	
2218 (2330)	F6	5-3 層	ピット	弥生前期	66	59	69	弥生土器	
2219	G6	5-3 層	土坑	弥生～古墳	55 ＋	38 ＋	32		
2220	G6	5-3 層	ピット	弥生～古墳	76	35 ＋	23		
2221	G6	5-3 層	土坑	弥生？	82	47 ＋	21	弥生土器	
2222	G6	5-3 層	土坑	弥生～古墳	100	39	22		
2223	F5	(6 層)	ピット	弥生～古墳	45	33	17		
2225	F5	(6 層)	ピット	弥生～古墳	33	27	22		
2226	F5	(6 層)	ピット	弥生？	60	46	18	弥生土器	
2227	F5	(6 層)	ピット	弥生～古墳	45	41	16		
2228	F5	(6 層)	土坑？	弥生？	89	77	14	弥生土器	
2229	F5	(6 層)	撹乱					弥生土器	欠番
2230	F5	(6 層)	ピット	弥生～古墳	59	43	19		
2231	F5	(6 層)	ピット	弥生～古墳	37	36	27		
2232	F5	(6 層)	撹乱						欠番
2234	F5	(6 層)	土坑	弥生～古墳	100	33 ＋	12		
2235 (2281)	F6	5-3 層	ピット	弥生～古墳	65	61	63		
2236 (2282)	F6	(6 層)	ピット	弥生？	62	53	66	弥生土器	
2237	F6	(6 層)	ピット	弥生？	92	76	76	弥生土器	
2238	F4	(6 層)	ピット	弥生～古墳	47	47	36		
2239 (2290)	F6	(6 層)	ピット	弥生中期？	62	46	51	弥生土器	
2240	F5	(6 層)	土坑	弥生前期	311	196	18	弥生土器、石器、焼土塊	
2241	F6	遺構2217 内	柱穴	弥生後期	57	44	45	弥生土器	2217 竪穴建物の柱穴
2242 (2339)	F6	遺構2217 内	柱穴	弥生後期	34	24	50	弥生土器、鉄製品	2217 竪穴建物の柱穴
2243	F6	遺構2217 内	柱穴	弥生後期	23	21	10	不明土器	2217 竪穴建物の柱穴
2244 (2287)	F6	5-3 層	ピット	弥生？	38	35	47	弥生土器	
2245	G6	5-3 層	ピット	弥生～古墳	45	28	40		
2246	F6	遺構2217 内	柱穴	弥生後期	19	15 ＋	19		2217 竪穴建物の柱穴
2247	F6	遺構2217 内	柱穴	弥生後期	20	19	10		2217 竪穴建物の柱穴
2248	F6	遺構2217 内	柱穴	弥生後期	24	22	14		2217 竪穴建物の柱穴
2249	F6	遺構2217 内	柱穴	弥生後期	24	23	19	弥生土器	2217 竪穴建物の柱穴
2250	F6	遺構2217 内	柱穴	弥生後期	18	17	14		2217 竪穴建物の柱穴
2251	F5	遺構2217 内	撹乱						欠番
2252	F5	遺構2217 内	撹乱					不明土器	欠番
2253	F5	遺構2217 内	撹乱						欠番
2254	F5	遺構2217 内	柱穴	弥生後期	18	15	15		2217 竪穴建物の柱穴
2255	F6	遺構2217 内	柱穴	弥生後期	18	15			上端のみ計測 2217 竪穴建物の柱穴
2256	F6	遺構2217 内	炭溜	弥生後期	52	41		焼土塊	2217 竪穴建物に伴う
2257	F6	遺構2217 内	壁際溝	弥生後期		幅30～55	13	弥生土器、焼土塊	2217 竪穴建物の壁際溝
2258	G6·H6·G7·H7	遺構2165 内	排水溝	弥生後期	355 ＋	37	23	弥生土器	2165 竪穴建物の排水溝
2259	G7	遺構2165 内	撹乱						欠番
2260	F4	遺構2199 内	柱穴	古墳初頭	32	30	14		2199 竪穴建物の柱穴
2261	F4	遺構2199 内	柱穴	古墳初頭	29	28	23	弥生土器	2199 竪穴建物の柱穴
2262	F5	遺構2199 内	柱穴	古墳初頭	33	30	20		2199 竪穴建物の柱穴
2263	F5	遺構2199 内	柱穴	古墳初頭	38	28	7		2199 竪穴建物の柱穴
2264	F6	遺構2217 内	特殊土坑	弥生後期	76	58	17	不明土器	周縁に粘性土 2217 竪穴建物の炉？
2265 (2321)	F6	遺構2217 内	柱穴	弥生後期	33	33	43	弥生土器	2217 竪穴建物の柱穴
2266	F6	遺構2217 内	柱穴	弥生後期	37	35	10	弥生土器	2217 竪穴建物の柱穴
2267	G6	遺構2165 内	土坑	弥生後期	80	64	10		2165 竪穴建物に伴う
2268	F6	遺構2217 内	焼粘土溜	弥生後期	70	24		焼土塊	流れ込み？
2269	F4	6 層	土坑	弥生前期	108 ＋	67 ＋	15	弥生土器、石器、焼土塊	
2270 (2336)	F6	(5-3 層)	ピット	弥生後期	45	44	68	弥生土器	

遺構番号	Gr	掘込層(想定)	種類	時期	法量(cm)			出土遺物	備考
					長径	短径	深さ		
2271	F6	(5-3 層)	ピット	弥生後期	100	50	24	弥生土器	
2272	H7	7 層	撹乱						欠番
2273	H7	7 層	撹乱						欠番
2274	F5	遺構2217 内	柱穴	弥生後期	24	18	10		2217 竪穴建物の柱穴
2275	F5	遺構2217 内	柱穴	弥生後期	26	25	12		2217 竪穴建物の柱穴
2276	F6	遺構2217 内	柱穴	弥生後期	17	16	13	弥生土器	2217 竪穴建物の柱穴
2277	H8	(6 層)	土坑	弥生後期	83	58	8	弥生土器	
2278	F6	8·9 層	土坑	弥生前期？	67 ＋	40	26	弥生土器	
2279	F6	(8·9 層)	ピット	弥生前期？	41	31 ＋	29	弥生土器	
2283	G6	(8·9 層)	撹乱						欠番
2284	G6	(8·9 層)	撹乱					弥生土器	欠番
2285	G6	(8·9 層)	撹乱						欠番
2286	F6	(8·9 層)	ピット	弥生？	28	27	9		
2288	F6	(8·9 層)	土坑	弥生？	44	32	27		
2289	F6	(8·9 層)	土坑	弥生？	41	40	15		
2291	F6-G6	(8·9 層)	撹乱					縄文土器	欠番
2292	G6	(8·9 層)	ピット	弥生？	30	26	12		
2293	F6	(8·9 層)	ピット	弥生？	35	30	12		
2294	F5	(8·9 層)	撹乱						欠番
2295	F5	(8·9 層)	ピット	弥生？	23	22	11		
2296	F5	(8·9 層)	撹乱						欠番
2297	F5	(8·9 層)	ピット	弥生？	24	20	16		
2298	F5	(8·9 層)	ピット	弥生？	18	16	7		
2299	F4	(8·9 層)	ピット	弥生？	31	25	16		
2300	F4	(8·9 層)	ピット	弥生？	24	22	15		
2301	F5	(8·9 層)	撹乱						欠番
2302	F5	(8·9 層)	ピット	弥生？	38	31	15		
2303	F5	(8·9 層)	ピット	弥生前期	39	25	31	弥生土器	
2304	E5	(8·9 層)	ピット	弥生？	24	20	16		
2305	H7	(8·9 層)	土坑	弥生？	152 ＋	57 ＋	50	弥生土器	
2306	H7	(8·9 層)	ピット	弥生？	46	30	18		
2307	H7	(8·9 層)	ピット	弥生？	25	22	5		
2308	H7	(8·9 層)	撹乱						欠番
2309	H7	(8·9 層)	ピット	弥生？	24	19	27		
2310	H8	(8·9 層)	ピット	弥生？	36	32	12	弥生土器	
2311	H8	(8·9 層)	ピット	弥生？	36	22	10	弥生土器	
2312	H8	(8·9 層)	ピット	弥生？	30	27	17	不明土器	
2313	F6	(8·9 層)	撹乱						欠番
2314	F6	(8·9 層)	ピット	弥生中期？	35	29	55	弥生土器	
2315	F6	(8·9 層)	ピット	弥生？	31	26	46	弥生土器	
2317	F6	(8·9 層)	ピット	弥生？	44	33	35		
2319 (2355)	F6	(8·9 層)	ピット	弥生？	39	33	69	弥生土器	
2320	F6	(8·9 層)	ピット	弥生？	28	23	32	不明土器	
2322	F6	(8·9 層)	撹乱						欠番
2323	F6	遺構2217 内	柱穴	弥生後期	51	32	35	弥生土器	2217 竪穴建物の柱穴
2324	F6	遺構2217 内	柱穴	弥生後期	61	39	24	弥生土器	2217 竪穴建物の柱穴
2325	F6	(8·9 層)	ピット	弥生？	27	23	50	不明土器	
2326 (2454)	F6	(8·9 層)	ピット	弥生？	45	34	72	弥生土器	
2331	F6	(8·9 層)	ピット	弥生？	47	29	45	弥生土器	
2332	F6	(8·9 層)	ピット	弥生？	31	23	20		
2333	F6	(8·9 層)	ピット	弥生？	27	24	17		
2334 (2404)	F6	(8·9 層)	ピット	弥生中期以降	33	32	70	弥生土器	
2335	F6	(8·9 層)	ピット	弥生？	40	32	14	弥生土器	
2337 (2362)	F6	(8·9 層)	ピット	弥生？	50	39	40	弥生土器	
2338 (2368)	F6	(8·9 層)	土坑	弥生？	75	52	85	不明土器	
2340	G7	(8·9 層)	ピット	弥生？	49	38	31		
2341	G7	(8·9 層)	ピット	弥生？	37	33	32		
2342	G6	(8·9 層)	ピット	弥生？	50	27 ＋	19		
2343	G6	(8·9 層)	ピット	弥生？	49	43	8		
2344	F6	(8·9 層)	撹乱						欠番
2345	F6	(8·9 層)	ピット	弥生？	35 ＋	17 ＋	21		
2346	G5	遺構2199 内	柱穴	古墳初頭	29	17 ＋	7		2199 竪穴建物の柱穴
2347	G5	遺構2199 内	柱穴	古墳初頭	26	22	18		2199 竪穴建物の柱穴
2348	G5	遺構2199 内	柱穴	古墳初頭	26	22	15		2199 竪穴建物の柱穴
2349	F5-G5	遺構2199 内	撹乱						欠番
2350	F5	遺構2199 内	柱穴	古墳初頭	35	33	26		2199 竪穴建物の柱穴
2351	F4	遺構2199 内	撹乱						欠番
2352	F4	遺構2199 内	壁際溝？	古墳初頭	106	24	86		2199 建物の壁際溝？
2353	E5	(8·9 層)	ピット	弥生後期	32	16	19		
2354	E5	(8·9 層)	ピット	弥生後期	51	19 ＋	58	弥生土器	
2356	F6	10-2 層	ピット	縄文？	36	35	22		
2357	F6	(8·9 層)	ピット	弥生？	33	30	19	不明土器、弥生土器	
2358	G6	10-2 層	撹乱						欠番
2359	F5	10-2 層	ピット	縄文？	27	25	18		
2360	F5	10-2 層	撹乱						欠番
2361	F6	10-2 層	ピット	縄文？	37	33	29		
2363	F6	10-2 層	ピット	縄文？	25	23	11		
2364 (2455)	F6	10-2 層	ピット	縄文？	40	33	61	不明土器	
2365	F5	10-2 層	ピット	縄文？	28	25	8		
2366	G6	10-2 層	ピット	縄文？	48	41	30		
2367	G7	10-2 層	ピット	縄文？	27 ＋	54	19		
2369	E5	11or12 層	ピット	縄文？	33	28	14		
2370	E5	11or12 層	ピット	縄文？	37	34	27	不明土器、縄文土器	
2371	E5	11or12 層	ピット	縄文？	31	27	13		
2372									座標不明により欠番

遺構番号	Gr	掘込層(想定)	種類	時期	法量(cm)			出土遺物	備考
					長径	短径	深さ		
2373	G7	10-2 層	風倒木痕	縄文	302	215	110	不明土器、須恵器、土師器、弥生土器、縄文土器	写真測量で記録
2374	F5	10-2 層	ピット	縄文	47	37	12	不明土器、縄文土器	
2375	G7	10-2 層	撹乱						欠番
2376 (2388)	F5	10-2 層	ピット	縄文？	34	28	21		
2377	F4	10-2 層	ピット	縄文？	38	32	18		
2378	G7·G8	10-2 層	撹乱					土師器、弥生土器	欠番
2379	F6	10-2 層	土坑？	縄文？	61	48	163	不明土器	
2380	G7	10-2 層	ピット	縄文？	48	45	26		
2381	F6	11-3 層	撹乱						欠番
2382	F6	11-3 層	ピット	縄文～弥生	33	32	13	弥生土器	
2383	F6	11-3 層	ピット	縄文？	25	23	12		
2384	F6	11-3 層	ピット	縄文？	28	27	7		
2385	F6	11-3 層	ピット	縄文？	38	(37)	18		
2386	F5	11-3 層	撹乱						欠番
2387	F5	11-3 層	ピット	縄文？	25	22	8		
2389 (2451)	G6	11-3 層	撹乱						欠番
2390	F5	12 層	ピット	縄文？	23	23	5		
2391	F5	12 層	ピット	縄文？	28	26	4		
2392	F5	12 層	土坑？	縄文	64	48	12	縄文土器	
2393	F5	12 層	ピット	縄文？	34	30	10	不明土器	
2394	F5	12 層	ピット	縄文？	31	30	10		
2395	E5·F5	12 層	ピット	縄文？	44	37	20		
2396	E5	12 層	撹乱					縄文土器	欠番
2397	F5	11-3 層	撹乱					不明土器、縄文土器	欠番
2398	F6	11-3 層	ピット	縄文	40 ＋	27	14	縄文土器	
2399	G6	11-3 層	ピット	縄文？	25	19	20		
2400	F6	11-3 層	土坑	縄文？	48	25	8		
2401	G6	11-3 層	土坑	縄文？	112	41	27		
2402	G5	11-3 層	土坑	縄文？	77	48	4		
2403	G6	11-3 層	撹乱						欠番
2405	G6	11-3 層	ピット	縄文？	45	38	19		
2406	G6	11-3 層	ピット	縄文？	47	27 ＋	17		
2407	G6	11-3 層	撹乱						欠番
2408	G6	11-3 層	土坑	縄文？	71	62	11		
2409	F6	11-3 層	撹乱						欠番
2410	F6	11-3 層	撹乱						欠番
2411	F6	11-3 層	ピット	縄文？	30	30	52		
2412	F6	11-3 層	ピット	縄文？	27	24	48		
2413	F6	11-3 層	ピット	縄文	25	20	18	縄文土器	
2414	G7	11-3 層	土坑	縄文？	125	33 ＋	23		
2415	G7	11-3 層	溝	縄文～弥生	188	40	26	弥生土器、縄文土器	
2416	G7	11-3 層	土坑？	縄文	79 ＋	62	21	縄文土器	
2417	G7	11-3 層	撹乱						欠番
2418	G7	11-3 層	土坑	縄文？	51	33	18		
2419	H8	11-3 層	ピット	縄文？	33	30	20		
2420	H8	11-3 層	土坑	縄文？	68	26	17		
2421	H7	11-3 層	撹乱						欠番
2422	G7	11-3 層	ピット	縄文？	36	33	22		
2423	G7	11-3 層	撹乱						欠番
2424	G8	11-3 層	撹乱					縄文土器	欠番
2425	G8	11-3 層	ピット	縄文？	23	22	10		
2426	G8	11-3 層	ピット	縄文～弥生	34	33	17	弥生土器	
2427	G8	11-3 層	ピット	縄文？	38	35	16		
2428	G8·H8	11-3 層	撹乱						欠番
2429	H7	11-3 層	ピット	縄文？	20 ＋	38	14		
2430	H7	11-3 層	ピット	縄文？	26	24	19		
2431	H7	11-3 層	ピット	縄文？	27	20	11		
2432	H7	11-3 層	ピット	縄文？	37	29	15		
2433	H7	11-3 層	ピット	縄文？	21	21	10		
2434	H7	11-3 層	撹乱						欠番
2435	H7	11-3 層	撹乱						欠番
2436	H7	11-3 層	撹乱						欠番
2437	G7	11-3 層	ピット	縄文？	40 ＋	12 ＋	14		
2438	G7	11-3 層	撹乱						欠番
2439	G7	11-3 層	ピット	縄文	62	53 ＋	22	縄文土器	
2440	G7	11-3 層	ピット	縄文？	30	30	19		
2441	G7	11-3 層	撹乱						欠番
2442	G7	11-3 層	ピット	縄文？	49	36	13		
2443	G7	11-3 層	撹乱						欠番
2444	G7	11-3 層	土坑	縄文？	48	31	13		
2445	G7	11-3 層	土坑	縄文？	56	36	21		
2446	G7	11-3 層	撹乱						欠番
2447	G8	11-3 層	ピット	縄文？	45	43	15		
2448	G7	11-3 層	ピット	縄文？	52	30 ＋	28		
2449	G5	11-3 層	土坑	縄文？	53	21 ＋	18		
2450	G6	13 層	撹乱						欠番
2452	F6	13 層	土坑	縄文？	77	57	21		
2456	F6	13 層	ピット	縄文？	32	28			上端のみ計測
2457	F5	13 層	ピット	縄文？	31	24	10		
2458	G7	14 層	ピット	縄文？	53	42	34	不明土器	
2460	F5	13 層	撹乱					弥生土器	
2461	F5	13 層	ピット	縄文	75	62	56	縄文土器	
2462	F4	13 層	ピット	縄文？	51	45	18		
2463	G7	13 層	ピット	縄文？	64	55	18		
2464	E5	13 層	溝	縄文？	114 ＋	46	40		
2465	H8	13 層	土坑	縄文？	67	55	16		
2466	F5	13 層	ピット	縄文？	42	40	13		

遺構番号	Gr	掘込層(想定)	種類	時期	法量(cm)			出土遺物	備考
					長径	短径	深さ		
2467	F5	13 層	ピット	縄文？	49	37	35		
2468	F7	14 層	土坑？	縄文？	90	69	63		
2469	E7-F7	14 層	土坑	縄文	101	89	21	土師器、弥生土器、縄文土器	
2471	G4	12 層	ピット	縄文？	44		16		東壁断面で検出
2472	G5	11-3 層	土坑	縄文？	70		12		東壁断面で検出
2473	G5	11-3 層	ピット	縄文？	40		28		東壁断面で検出
2476	G6	11-3 層	ピット	縄文？	64		19		東壁断面で検出
2477	H7	8･9 層	土坑	弥生？	116		46		東壁断面で検出
2478	H7	8･9 層	ピット	弥生？	62		28		東壁断面で検出
2479	H7	8･9 層	ピット	弥生？	38		26		東壁断面で検出
2480	H7	10-2 層	ピット	縄文？	37		9		東壁断面で検出
2481	H7	10-2 層	ピット	縄文？	34		20		東壁断面で検出
2482	H7	11-3 層	土坑	縄文？	150		28		東壁断面で検出
2483	H7	11-3 層	ピット	縄文？	54		18		東壁断面で検出
2484	H7	11-3 層	ピット	縄文？	70		12		東壁断面で検出
2485	H7	11-3 層	ピット	縄文？	50		10		東壁断面で検出
2486	H7	13 層	土坑	縄文？	74		18		東壁断面で検出

3 区

遺構番号	Gr	掘込層(想定)	種類	時期	法量(cm)			出土遺物	備考
					長径	短径	深さ		
3003	H8	7 層	地床炉？	弥生後期？	39＋	36＋	19	弥生土器	
3004	I9	(8･9 層)	ピット	弥生後期	38	31	14	弥生土器	
3005	I9	(8･9 層)	ピット	弥生後期	27	21	20	弥生土器	
3006	I9	(8･9 層)	ピット	弥生後期	26	20	19	弥生土器	
3007	I9	(8･9 層)	ピット	弥生後期	32	27	12		
3008	I9	(8･9 層)	ピット	弥生後期	19	18	29	弥生土器	
3009	I9	(8･9 層)	ピット	弥生後期	45	33	17		
3010	I9	(8･9 層)	ピット	弥生後期	33	28	32	弥生土器	
3011	I8	(8･9 層)	ピット	弥生後期	28	25	19		
3012	I8	(8･9 層)	ピット	弥生後期	38	23	15		
3013	I8	(8･9 層)	ピット	弥生後期	42	37	28	弥生土器	
3014	I8	(8･9 層)	ピット	弥生後期	25	18	13		
3015	I8	(8･9 層)	ピット	弥生後期	34	28	37		
3016	I9	(8･9 層)	ピット	弥生後期	34	24	11		
3017	I9	(8･9 層)	ピット	弥生後期	25	18	22		
3018	I9	(8･9 層)	ピット	弥生後期	30	26	23	弥生土器	
3019	H8	(8･9 層)	ピット	弥生後期	41	36	43	弥生土器	
3020	I8-I9	(8･9 層)	ピット	弥生後期	29	21	18		
3021	I8	(8･9 層)	ピット	弥生後期	20	18	29		
3022	I8	(8･9 層)	ピット	弥生後期	25＋	23	53	弥生土器	
3023	I8	(8･9 層)	ピット	弥生後期	37	34	59		
3024	H8	(8･9 層)	ピット	弥生後期	46	37	41		
3025	H8	(8･9 層)	ピット	弥生後期	28	24	15	弥生土器	
3026	H8	(8･9 層)	ピット	弥生後期	26	23	18	弥生土器	
3027	H8	(8･9 層)	ピット	弥生後期	41	41	57	弥生土器	
3028	H8	(8･9 層)	ピット	弥生後期	44	35	55	弥生土器	
3029	H8	(8･9 層)	ピット	弥生後期	67	50	66	弥生土器	
3030	H8	(8･9 層)	ピット	弥生後期	50	43	30	弥生土器、土製品	
3031	H8	(8･9 層)	ピット	弥生後期	30	24	16	弥生土器	
3032	H8	(8･9 層)	ピット	弥生後期	30＋	12＋	33		
3033	I8	(8･9 層)	ピット	弥生後期	33	23	14	弥生土器	
3034	H8	(8･9 層)	ピット	弥生後期	55	43	56	弥生土器	

第29表　縄文時代遺構･11層･12層出土の石器･土製品の器種構成

	11 層	12 層	遺構1473	遺構1307	遺構1318	遺構1354	遺構1424	遺構1425	遺構1327	遺構1431	遺構1439	遺構1447	遺構1448	遺構1419	計
石鏃	5	12		1	1						1			2	24
楔形石器	1	2													2
刺突具	1	1												2	5
石匙	7	5					1							1	16
刃器	2	3													7
剥片（RF）	22	26												1	48
剥片（UF）	17	7						2						1	26
磨製石斧	6	4												2	8
磨製石斧未成品	190	45	2				1	2		2	2	2		3	246
打製石斧	4	3													7
磨石･敲石	12	19				1						1	1	3	37
石皿	16	7												1	24
石錘	17	41							1			1	1		61
敲打具	1	0													1
軽石加工品	15	30												3	48
玦状耳飾		1													1
不明石器	1	1												1	3
土製耳飾？	3														3
土製円盤	1														1
不明土製品	1	2				1								1	5

第30表　遺物観察表（弥生·古墳時代遺構出土遺物）

弥生·古墳時代遺構　土師器·弥生土器·縄文土器

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	遺構 / 層位	種別	器種	分類	法量 () 内復元 (cm)	胎土	色調	文様·調整その他	備考
27	1	20-2	F6	2217	弥生土器	甕	石見V -1 様式	口径（16.8）	砂粒多く含む	外：にぶい黄褐色 10YR7/2 内：にぶい黄褐色 10YR7/4	外：ヨコナデ、凹線文 4 条 刺突文、連続刺突文 内：ヨコナデ、ケズリ	肩部刺突：貝殻頂？ 連続刺突：ハケ状工具 外面：煤付着
27	2	20-1	F6	2217	弥生土器	甕	石見V -1 様式？		砂粒多く含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/3 内：浅黄橙色 7.5YR8/3	外：ナデ、凹線文 3 条遺存 内：ナデ、ハケ、ケズリ	
27	3	20-1	F6	2217	弥生土器	甕	石見V様式？	底径（16.0）	砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/2 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：摩滅の為不明 内：摩滅の為不明	
27	4	20-1	F6	2217	弥生土器	鉢	石見V -1 様式	口径（13.0）	砂粒多く含む	外：灰白色 7.5YR8/2 内：灰白色 10YR8/1	外：ナデ 内：ナデ、ケズリ	口縁内面：煤付着
27	13	20-1	F5	2217（2257）	弥生土器	甕	石見V -1 様式	口径（22.0）	砂粒多く含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/3 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：ナデ、擬凹線文 5 条 連続刺突文 内：ナデ	肩部施文：板状工具
27	14	20-1	F6	2217（2324）	弥生土器	甕	石見V -1 様式	口径（16.2）	砂粒多く含む	外：灰褐色 7.5YR6/2 内：にぶい黄褐色 10YR7/2	外：ヨコナデ、凹線文 4 条 刺突文 内：ヨコナデ、ケズリ	
27	15	20-1	F6	2217（2324）	弥生土器	甕	石見V -1 様式		砂粒多く含む	外：橙色 5Y6/6 内：橙色 5Y6/6	外：ナデ、凹線文 2 条 刺突文 内：ナデ、ケズリ	
28	1	21-2	F6	2217	弥生土器	甕？	石見V -1 様式	口径（33.6）	砂粒多く含む	外：灰白色 10YR8/2 内：灰黄色 2.5Y7/2	外：ヨコナデ、凹線文 2 ～ 3 条、刺突文 内：ナデ、ケズリ	
28	2	21-2	F6	2217	弥生土器	甕	石見V -1 様式	口径（25.8）	砂粒多く含む	外：灰白色 10YR8/2 内：灰黄色 2.5Y7/2	外：ヨコナデ、凹線文 3 条 ハケ？ 内：ケズリ	
28	3	21-2	F6	2217	弥生土器	甕	石見V -1 様式	口径（15.0）	砂粒少し含む	外：灰黄褐色 10YR5/2 内：灰黄褐色 10YR5/2	外：ナデ、凹線文 3 条 刺突文 内：ナデ、ケズリ	肩部施文：棒状工具 櫛歯状工具
28	4	21-2	F6	2217	弥生土器	甕	石見V -1 様式	口径（18.6）	砂粒多く含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/3 内：灰白色 7.5YR8/2	外：ヨコナデ、凹線文 4 条 内：ヨコナデ、ケズリ	
28	5	21-2	F6	2217	弥生土器	甕	石見V -1 様式	口径（22.6）	砂粒多く含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：浅黄橙色 7.5YR8/3	外：ヨコナデ、凹線文 4 条 刺突文 内：ヨコナデ、ケズリ	肩部施文：二枚貝腹縁 外面：一部煤付着？
28	6	21-2	F6	2217	弥生土器	甕	石見V -1 様式	口径（23.4）	砂粒多く含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/4 内：浅黄橙色 7.5YR8/4	外：ヨコナデ、凹線文 4 条 刺突文 内：ナデ、ケズリ	肩部施文： ヘラ状工具？
28	7	20-2	F6	2217	弥生土器	甕	石見V -2 様式	口径（15.3）	砂粒多く含む	外：灰褐色 7.5YR6/2 内：にぶい黄褐色 10YR7/3	外：ヨコナデ 擬凹線文 6 条 刺突文、波状文？ 内：ヨコナデ、ナデ ケズリ	肩部施文：二枚貝腹縁 外面：煤付着
28	8	21-2	F6	2217	弥生土器	甕	石見V -2 様式	口径（19.2）	砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：ナデ、擬凹線文 9 条 内：ヨコナデ、ケズリ	擬凹線文 4 条一単位 外面：煤付着
28	9	21-2	F6	2217	弥生土器	甕	石見V -2 ～ 3 様式	口径（17.6）	砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/4 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：ヨコナデ 擬凹線文 10 条 C 字状刺突文 連続刺突文 内：ヨコナデ、ケズリ	肩部連続刺突： 二枚貝腹縁
28	10	21-2	F6	2217	弥生土器	甕	石見V -2 ～ 3 様式	口径（27.0）	砂粒多く含む	外：灰白色 10YR8/2 内：灰白色 2.5Y8/2	外：ヨコナデ、凹線文 6 条 刺突文 内：ヨコナデ、ケズリ	
28	11	21-2	F6	2217	弥生土器	甕	石見V -3 様式	口径（13.0）	砂粒少し含む	外：浅黄橙色 10YR8/4 内：灰色 5Y6/1	外：櫛描直線文 10 条 ナデ、ハケ 内：ナデ、ケズリ	
28	12	21-2	F6	2217	弥生土器	甕	石見Ⅲ～Ⅳ様式	底径（6.6）	砂粒多く含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：褐灰色 7.5YR5/1	外：ナデ 内：ケズリ	
28	13	22-1	F6	2217	弥生土器	壺	石見V -1 様式？	口径（21.0）	砂粒多く含む	外：浅黄橙色 10YR8/3 内：浅黄橙色 10YR8/3	外：ナデ、凹線文 4 条、 3 条 内：ナデ	
28	14	22-1	F6	2217	弥生土器	壺	石見V -1 様式	口径（25.0）	砂粒多く含む	外：黄褐色 10YR7/3 内：褐灰色 10YR5/1	外：ヨコナデ 凹線文 4 条、6 条 内：ヨコナデ、ケズリ	
31	1	24-1	G7·H7	2165	弥生土器	甕	石見V -2 様式	口径（14.7）	砂粒多く含む	外：明褐灰色 7.5YR7/2 内：にぶい黄褐色 10YR7/3	外：ナデ、凹線文 5 条 ハケ、連続刺突文 内：ナデ、ケズリ	肩部施文：二枚貝腹縁 外面：煤付着
31	2	23-1	G7	2165	弥生土器	甕	石見V -2 様式	口径（18.0）	砂粒僅かに含む	外：灰白色 7.5YR8/2 内：灰白色 7.5YR8/2	外：ナデ、凹線文 6 条 内：ナデ	
31	3	23-1	H7	2165	弥生土器	甕	石見V -2 様式	口径（18.0）	砂粒多く含む	外：にぶい橙色 5YR7/4 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：凹線文 5 条 連続刺突文 内：ナデ、ケズリ	肩部施文：ハケ状工具
31	4	23-1	G7	2165	弥生土器	甕	石見V -2 様式	口径（16.0）	砂粒少し含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/3 内：灰黄色 2.5Y7/2	外：ナデ、凹線文 9 条 ハケ 内：ナデ、ケズリ	
31	5	23-1	H7	2165	弥生土器	甕	石見V -3 様式		砂粒多く含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/3 内：浅黄橙色 7.5YR8/3	外：ナデ、擬凹線文 8 条 内：ナデ、ケズリ	
31	7	23-1	G7	2165（2258）	弥生土器	甕	石見V -1 様式	口径（18.8）	砂粒多く含む	外：灰白色 2.5Y8/1 内：灰白色 2.5Y8/1	外：ナデ、凹線文 4 条 内：ナデ、ケズリ	
31	8	23-1	G6	2165（2258）	弥生土器	甕	石見V -2 様式		砂粒少し含む	外：灰白色 7.5YR8/2 内：灰白色 7.5YR8/1	外：ナデ、擬凹線文 6 条 内：ナデ、ケズリ	外面：煤付着
31	9	23-1	G6	2165	弥生土器	甕	石見V -1 様式	口径（21.5）	砂粒少し含む	外：浅黄橙色 10YR8/3 内：浅黄橙色 10YR8/3	外：ナデ、凹線文 4 条 刺突文 内：ナデ、ケズリ	肩部施文：板状工具
31	10	23-1	G6	2165	弥生土器	甕	石見V -2 様式	口径（26.0）	砂粒多く含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/3 内：灰白色 10YR8/2	外：ナデ、擬凹線文 6 条 ナデ、連続刺突文 内：ナデ、ハケ、指頭痕 ケズリ	肩部施文：二枚貝腹縁
31	15	23-1	G6	2165	弥生土器	甕	石見V -1 様式？		砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色 7.5YR7/4 内：浅黄橙色 7.5YR8/4	外：ナデ、凹線文 3 条 連続刺突文 内：ナデ、ケズリ	肩部施文：二枚貝腹縁
31	16	23-1	H6	2165	弥生土器	甕	石見V -1 様式	口径（18.6）	砂粒多く含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/3 ～灰褐色 7.5YR6/2 内：浅黄橙色 7.5YR8/3	外：ナデ、擬凹線文 6 条 内：ナデ、ケズリ	
31	17	23-1	G6	2165	弥生土器	甕	石見V -2 様式	口径（15.2）	砂粒多く含む	外：灰白色 7.5YR8/2 内：灰白色 7.5YR8/2	外：ナデ、凹線文 4 条 内：ナデ、ケズリ	
31	18	23-1	G6	2165	弥生土器	壺	石見Ⅳ様式以降	底径（4.0）	砂粒多く含む	外：灰白色 7.5YR8/1 内：灰白色 2.5Y8/1	外：摩滅の為調整不明 内：ケズリ	
31	19	23-1	G6	2165	弥生土器	低脚坏	石見V -4 様式	底径（8.0）	砂粒少し含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：灰黄褐色 10YR5/2	外：摩滅の為調整不明 内：ナデ	
31	21	23-2	G6	2165	弥生土器	甕	石見V -1 様式	口径（12.0）	砂粒少し含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/3 内：浅黄橙色 7.5YR8/3	外：ナデ、凹線文 2 条 刺突文 内：ナデ、ケズリ	肩部施文：櫛歯状工具 外面：煤付着

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	遺構 / 層位	種別	器種	分類	法量 () 内復元 (cm)	胎土	色調	文様・調整その他	備考
31	22	23-2	G6	2165	弥生土器	甕	石見V -1 様式	口径（18.0）	砂粒多く含む	外：灰白色 7.5YR8/1 内：灰白色 7.5YR8/1	外：ナデ、凹線文 2 条 刺突文 内：ナデ、ケズリ	肩部施文：櫛歯状工具 外面：煤付着
31	23	23-2	G6	2165	弥生土器	甕	石見V -2 様式	口径（20.0）	砂粒少し含む	外：灰白色 2.5Y7/1 内：灰白色 10YR8/1	外：ナデ、擬凹線文 5 条 内：ナデ、ケズリ	
31	24	23-2	G6	2165	弥生土器	甕	石見V -2 様式	口径（22.0）	砂粒少し含む	外：灰褐色 7.5YR4/2 ～浅黄橙色 7.5YR8/3 内：黒褐色 7.5YR3/2	外：ナデ、擬凹線文 7 条 連続刺突文 内：ナデ、ケズリ	外面：煤付着
31	25	23-2	G6	2165	弥生土器	甕	石見V -2 様式	口径（18.6）	砂粒多く含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/3 内：浅黄橙色 10YR8/3	外：ナデ、ハケ？ 内：ナデ、ケズリ	
31	26	23-2	G6-G7	2165	弥生土器	甕	石見V -2～3 様式	口径（20.0）	砂粒多く含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/3 内：浅黄橙色 7.5YR8/3	外：ナデ、擬凹線文 9 条 内：ナデ、ケズリ	
31	27	23-2	G6	2165	弥生土器	甕	石見V -2～3 様式	口径（20.0）	砂粒多く含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/3 内：浅黄橙色 7.5YR8/3	外：ナデ、 擬凹線文多条 内：ナデ、ケズリ	
31	28	23-2	G6	2165	弥生土器	甕？	石見V -2 様式？	口径（11.8）	砂粒少し含む	外：褐灰色 10YR6/1 内：灰褐色 7.5YR5/2	外：ナデ 擬凹線文多条 連続刺突文 内：ナデ、ケズリ	肩部施文：二枚貝腹縁
31	29	23-2	G7	2165	弥生土器	甕	石見V -1 様式	口径（20.0）	砂粒多く含む	外：灰白色 10YR8/2 内：灰白色 10YR8/2	外：ナデ、凹線文 3 条 刺突文 内：ナデ、ケズリ	肩部施文：貝殻頂？
31	30	23-2	G7	2165	弥生土器	甕	石見V -1 様式	口径（17.0）	砂粒多く含む	外：橙色 2.5YR6/6 内：橙色 5YR7/6	外：ナデ、凹線文 5 条 内：ナデ、ケズリ	
31	31	23-2	G6	2165	弥生土器	甕	石見V -1 様式？		砂粒少し含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/3 内：浅黄橙色 7.5YR8/3	外：ナデ、 擬凹線文 6 条遺存 刺突文 内：ナデ、ケズリ	肩部施文：二枚貝腹縁
31	32	23-2	G7	2165	弥生土器	甕	石見V -1 様式？	口径（24.0）	砂粒多く含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/4 内：浅黄橙色 7.5YR8/4	外：ナデ、凹線文 4 条 内：ナデ、ケズリ	
31	33	23-2	G7	2165	弥生土器	甕	石見V -2～3 様式	口径（17.0）	砂粒少し含む	外：橙色 5YR6/6 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：ナデ 内：ナデ、ケズリ	
32	1	24-2	G6	2165	弥生土器	甕	石見V -3 様式	口径 26.0 ～ 27.7	砂粒多く含む	外：灰白色 2.5Y8/2 内：灰白色 2.5Y8/2	外：ナデ 擬凹線文 5 ～ 6 条 （ナデ消し） 連続刺突文 内：ヨコナデ、ケズリ	肩部施文・外面調整 ：二枚貝腹縁？ 外面：煤付着
32	2	24-2	G7	2165	弥生土器	甕	石見V -3 様式	口径 33.4	砂粒多く含む	外：淡黄色 2.5Y8/3 内：淡黄色 2.5Y8/3	外：ヨコナデ 擬凹線文 7 条 沈線文 1 条、ハケ 内：ヨコナデ、ハケ ケズリ	外面：煤付着
32	3	23-2	G6	2165	弥生土器	壺	石見V -3 様式？	口径（32.0）	砂粒多く含む	外：明褐色 7.5YR5/6 内：橙色 7.5YR6/6	外：ナデ、波状文 2 段 内：ナデ	内外面：一部赤彩
32	5	25-1	G6	2166	弥生土器	甕	石見V -1 様式	口径（11.0）	砂粒多く含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/3 内：淡橙色 5YR8/3	外：ヨコナデ、凹線文 3 条 内：ヨコナデ、ケズリ	
32	6	25-1	G6	2166	弥生土器	鉢	石見V -1 様式	口径（16.8）	砂粒多く含む	外：灰白色 7.5YR8/1 内：灰白色 7.5YR8/2	外：ヨコナデ、刺突文 内：ヨコナデ、ケズリ	肩部施文：櫛歯状工具
32	7	25-1	G6	2166	弥生土器	甕	石見V -3 様式	口径（17.8）	砂粒多く含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/3 内：浅黄橙色 7.5YR8/3	外：ナデ、擬凹線文 （ナデ消し） 内：ナデ、ケズリ	
32	9	25-1	G6	2166	弥生土器	甕	石見 I 様式	底径（7.6）	砂粒多く含む	外：橙色 5YR7/6 内：にぶい褐色 7.5YR6/3	外：ハケ後ナデ？ 内：ナデ	
34	1	25-2	F5	2199	弥生土器	甕	石見V -3 様式	口径（24.0）	砂粒多く含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/3 内：浅黄橙色 7.5YR8/3	外：ナデ、擬凹線文 8 条以上 内：ナデ、ケズリ	
34	2	25-2	F4	2199	弥生土器	甕	石見V -3 様式	口径（28.0）	砂粒少し含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：ナデ 内：ナデ、ケズリ	外面：一部煤付着
34	3	25-2	F4	2199	弥生土器	甕	石見V -4 様式	口径（18.0）	砂粒少し含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/3 内：浅黄橙色 7.5YR8/3	外：ナデ 内：ナデ	
34	4	25-2	G5	2199	弥生土器	甕	石見V -4 様式	口径（16.0）	砂粒少し含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：ナデ、波状文？ 内：ナデ、ケズリ	
34	5	25-2	F4	2199	土師器	甕	草田 6 期	口径（16.0）	砂粒極僅かに含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：明褐灰色 7.5YR7/2	外：ナデ 内：ナデ、ケズリ	
34	6	25-2	F4	2199	土師器	甕	布留系 草田 6 期？	口径（15.2）	砂粒多く含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/6 内：浅黄橙色 7.5YR8/6	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ	
34	7	25-2	F4	2199	土師器	甕	布留系 小谷 2 式併行？	口径（14.2）	砂粒多く含む	外：明褐灰色 7.5YR7/2 内：にぶい橙色 7.5Y7/3	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ケズリ	
34	8	25-2	F4	2199	土師器	甕	布留系 小谷 2 式併行？	口径 16.4	砂粒多く含む	外：灰白色 10YR8/2 内：灰白色 10YR8/2	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ	外面：煤付着
34	9	25-2	F4	2199	土師器	甕	布留系 草田 6 期？	口径 15.0	砂粒多く含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ケズリ	外面：煤付着
34	10	25-2	F4	2199	土師器	甕	布留系 草田 6 期？	口径（16.0）	砂粒多く含む	外：にぶい橙色 5YR7/3 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：ナデ 内：ナデ、ケズリ	外面：煤付着
34	11	26-2	F4-G5	2199	土師器	甕	周防・長門系 草田 6 期？	口径 17.1 器高 30.8 底径 3.5	砂粒多く含む	外：橙色 5YR7/8 内：浅黄橙色 7.5YR8/3	外：タタキ、ナデ 内：ナデ、ケズリ？	
34	12	26-1	F4	2199	土師器	甕	周防・長門系？ 草田 6 期？	口径（13.2）	砂粒多く含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/3 内：灰白色 10YR8/2	外：ミガキ 内：ナデ or ケズリ？	
34	13	26-1	F4	2199	土師器	甕	周防・長門系？ 草田 6 期？		砂粒多く含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/4 内：浅黄橙色 7.5YR8/4	外：タタキ、ナデ 内：ハケ	
34	14	26-1	F4	2199	弥生土器	高坏	九州系？ 草田 6 期？	口径（11.0）	砂粒多く含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/4 内：橙色 5YR7/6	外：ナデ、ミガキ 内：ナデ、ケズリ	
34	15	27-1	F4	2199	土師器	高坏	外来系 草田 6 期？	口径 10.8 器高 11.5 底径 17.4	砂粒多く含む	外：橙色 5YR7/6 内：橙色 5YR7/6	外：ミガキ 内：ナデ、ケズリ	
36	1	27-2	E2	1276	土師器	甕	布留系 小谷 3～4 式？	口径 15.8	砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/4 内：にぶい黄橙色 10YR7/4	外：ヨコナデ、ハケ 波状文 内：ヨコナデ、ケズリ	
36	2	27-2	E2	1276	土師器	甕	布留系 小谷 3～4 式？	口径 15.8	砂粒多く含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：にぶい黄橙色 10YR7/4	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ナデ ケズリ	
36	3	27-2	E2	1276	土師器	甕	布留系 小谷 3～4 式？	口径 18.2	砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ナデ ケズリ	
36	4	28-2	E1-E2	1276	土師器	甕	小谷 2～3 式？		砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：ヨコナデ、ハケ 内：ナデ、ケズリ 指頭痕	
36	5	27-2	E2	1276	土師器	甕	小谷 3 ～大東 1 式？	口径（13.6）	砂粒多く含む	外：にぶい橙色 7.5YR6/4 内：橙色 7.5YR6/6	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ 指頭痕	外面：煤付着

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	遺構 / 層位	種別	器種	分類	法量 () 内復元 (cm)	胎土	色調	文様・調整その他	備考
36	6	28-2	E2	1276	土師器	甕	小谷1式	口径 14.8 器高 22.7 丸底	砂粒く含む 雲母含む	外：浅黄色 2.5Y7/3 内：浅黄色 2.5Y7/3 暗灰色 N3/	外：ヨコナデ、波状文 ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ 指頭痕	
36	7	28-2	E2	1276	土師器	甕	小谷1式	口径 14.0 器高 22.1 丸底	砂粒非常に多く含む	外：橙色 5YR7/8 内：橙色 5YR7/6	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ 指頭痕＋ナデ	
36	8	27-2	E2	1276	土師器	甕	小谷2式	口径 15.6	砂粒多く含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：ヨコナデ、ハケ ナデ、波状文 内：ヨコナデ、ケズリ	外面：最大径以下 煤付着
36	9	28-1	E1	1276	土師器	甕	小谷2～3式	口径 16.8	砂粒非常に多く含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/4 内：浅黄橙色 7.5YR8/4	外：ヨコナデ、ナデ ハケ後ヨコナデ ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ	
36	10	28-1	F1-E2	1276	土師器	甕	小谷3式	口径 23.0	砂粒 多く含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：にぶい黄橙色 10YR7/4	外：ヨコナデ、 内：ヨコナデ、ナデ ケズリ	
36	11	28-2	F1	1276	土師器	甕	小谷2式	口径 33.0	砂粒 多く含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：にぶい黄橙色 10YR7/4	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ ナデ	外面：口縁煤付着
36	12	28-1	E2	1276	土師器	小型甕	小谷3（新）～4式	口径 9.0	砂粒多く含む	外：にぶい橙色 7.5YR6/4 内：橙色 7.5YR6/6	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ	
36	13	28-1	E2	1276	土師器	壺	小谷3式？	口径 25.8	砂粒多く含む	外：灰白色 10YR8/2 内：灰白色 10YR8/2	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	
36	14	28-1	E1-E2	1276	土師器	壺	小谷3～4式？	口径 13.2	砂粒多く含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：橙色 5YR7/6	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ナデ	
36	15	28-1	E1-E2	1276	土師器	無頸壺	小谷3～4式？	口径 11.2	砂粒多く含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：ヨコナデ、ミガキ 内：ヨコナデ、ミガキ	
37	1	29-1	F1	1276	土師器	高坏	小谷1～2式	口径 21.8	砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/4 内：橙色 7.5YR7/6 褐灰色 10YR7/6	外：ミガキ、ハケ 内：ミガキ	円盤充填 内面：被熱痕
37	2	29-1	E2	1276	土師器	高坏	小谷3～4式？	口径 16.8	砂粒多く含む	外：黄橙色 10YR8/6 内：浅黄橙色 7.5YR8/6	外：ヨコナデ、ケズリ？ 内：ヨコナデ	円盤充填
37	3	29-2	F1	1276	土師器	高坏	小谷式	口径 17.4	砂粒多く含む	外：橙色 5YR7/8 内：橙色 5YR7/8	外：ヨコナデ、ミガキ 内：ヨコナデ	
37	4	29-2	E2	1276	土師器	高坏	小谷式		金雲母含み 砂粒多く含む	外：浅黄橙色 10YR8/3 内：浅黄橙色 10YR8/3	外：ミガキ 内：ミガキ	軸痕中に米粒大の粘土詰める
37	5	29-2	E1-E2	1276	土師器	高坏	小谷式		砂粒多く含む	外：橙色 5Y6/6 内：橙色 5Y6/6	外：ヨコナデ 内：ミガキ	接合方法不明
37	6	29-2	E2	1276	土師器	高坏	大東1～3式？		砂粒少し含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/6 内：浅黄橙色 7.5YR8/6	外：ハケ、面取り 内：絞り痕、ハケ	円盤充填 坏部との接合面にハケ
37	7	29-2		1276	土師器	高坏	小谷式？	底径 12.2	砂粒多く含む	外：橙色 5YR7/8 内：橙色 5YR7/8	外：ハケ、ヨコナデ 内：ハケ、ヨコナデ	円形透かし 1 ヵ所
37	8	29-2	F1	1276	土師器	低脚坏	小谷1・2式	口径 20.6	砂粒多く含む	外：橙色 5YR7/6 内：明黄褐色 10YR7/6	外：ミガキ 内：ミガキ	
37	9	29-2	F1	1276	土師器	低脚坏	小谷1・2式	口径 17.8	砂粒多く含む	外：灰白色 10YR8/2 内：灰白色 10YR8/2	外：ミガキ、ヨコナデ 内：ミガキ、ヨコナデ	
37	10	29-2	E1	1276	土師器	低脚坏	小谷1・2式	底径 6.5	砂粒多く含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：ミガキ、ナデ 内：ミガキ、ナデ	内面：有機物付着
37	11	29-2	E1	1276	土師器	低脚坏	小谷式		砂粒多く含む	外：灰白色 10YR8/2 内：灰白色 10YR8/2	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	
37	12	31-1		1276	土師器	小型器台	小谷式	口径 9.0	砂粒多く含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/6 内：浅黄橙色 7.5YR8/6	外：ヨコナデ、ハケ ミガキ 内：ヨコナデ、ケズリ	透かし残存 2 ヵ所以上 3 方向の可能性？
37	13	30-1	E1	1276	土師器	鼓形器台	小谷式	口径 20.6	砂粒 多く含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：灰褐色 7.5YR5/2	外：ヨコナデ、ミガキ 内：ヨコナデ、ミガキ	
37	14	30-1	E1	1276	土師器	鼓形器台	小谷3式？	口径 19.6	砂粒多く含む	外：灰白色 10YR8/2 内：灰白色 10YR8/2	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ナデ ケズリ	
37	15	30-1	E2	1276	土師器	鼓形器台	小谷3式以降	口径（11.0）	砂粒多く含む	外：浅黄橙色 10YR8/3 内：浅黄橙色 10YR8/3	外：ヨコナデ 内：ミガキ	
37	16	30-1	E1	1276	土師器	鼓形器台	小谷式	口径 20.4	砂粒多く含む	外：灰白色 10YR8/2 内：灰白色 10YR8/2	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	
37	17	30-1	E1	1276	土師器	鼓形器台	小谷3式以降		砂粒多く含む	外：浅黄橙色 10YR8/4 内：浅黄橙色 10YR8/4	外：ヨコナデ 内：ミガキ、ケズリ	
37	18	30-1	E2	1276	土師器	鼓形器台	小谷式	底径 17.1	砂粒多く含む	外：浅黄橙色 10YR8/3 内：浅黄橙色 10YR8/3	外：ヨコナデ 内：ケズリ	外面：赤彩？
37	19	30-1	F2	1276	土師器	小型壺	小谷3～4式？	口径 8.4	微砂粒多く含む	外：橙色 7.5YR6/6 内：橙色 7.5YR6/6	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ナデ	外面：煤付着
37	20	30-1	E2	1276	土師器	小型鉢	不明	口径 12.0	微砂粒多く含む	外：橙色 7.5YR7/6 内：明赤褐色 2.5YR5/6	外：ヨコナデ、ハケ 内：ハケ後ナデ？ ナデ	
37	21	30-1	F1	1276	土師器	甑形土器	小谷式		砂粒 多く含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/3 内：浅黄橙色 7.5YR8/3	外：ヨコナデ、ハケ？ 内：ヨコナデ、ケズリ	
37	22	30-1	E1-E2	1276	土師器	不明	小谷式？		砂粒多く含む	外：浅黄橙色 10YR8/3 内：浅黄橙色 10YR8/3	外：ミガキ？ 内：ハケ、ケズリ	
39	1	31-1	E3	1277	土師器	甕	大東1～3式	口径 11.2	砂粒多く含む	外：灰褐色 7.5Y5/2 内：灰褐色 7.5Y6/2	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ	内面：炭化物付着？
39	4	31-2	E3	1277	土師器	壺	大東1・2式？	口径 16.8 器高 29.8 丸底	砂粒 多く含む	外：にぶい橙色 7.5YR6/4 内：にぶい橙色 7.5YR6/4	外：ハケ 内：ハケ、ケズリ	内面底：炭化物付着
39	5	31-2	E3	1277	土師器	甕	大東1・2式？	底径 5.0	砂粒多く含む	外：橙色 7.5YR7/6 にぶい橙色 7.5YR6/4 内：灰褐色 7.5YR5/2 灰褐色 7.5Y5/2	外：ヨコナデ、ハケ 内：ナデ、ケズリ	外面：一部煤付着 被熱痕？ 意図的な打ち欠き？
40	1	32-1	E1-E3	土器溜 4	土師器	甕	大東1式	口径 15.8 器高 24.4 丸底	砂粒多く含む	外：浅黄橙色 10YR8/4 内：浅黄橙色 10YR8/4	外：ハケ後ヨコナデ ハケ 内：ヨコハケ状のナデ ナデ、ケズリ	
40	2	32-1	E3	土器溜 4	土師器	甕	大東1式	口径 16.6 器高 28.0 丸底	砂粒多く含む	外：にぶい橙色 7.5YR6/4 内：橙色 7.5YR7/6	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ ナデ	焼成後穿孔あり 外面底部：被熱
40	3	32-1	E3	土器溜 4	土師器	甕	小谷4式？	口径 14.2	砂粒多く含む	外：にぶい橙色 7.5YR6/4 内：橙色 7.5YR6/6	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ 指頭痕	外面：煤付着
40	4	32-1	E3	土器溜 4	土師器	甕	大東1式	口径 15.6	砂粒多く含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ	外面：煤付着 被熱痕の為変色
40	5	32-2	E3	土器溜 4	土師器	甕	大東1式	口径 13.6	砂粒多く含み 褐色粒子含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/6 内：橙色 5YR7/6	外：ヨコナデ、ハケ 内：ハケ、ナデ、ケズリ	

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	遺構 / 層位	種別	器種	分類	法量 () 内復元 (cm)	胎土	色調	文様・調整その他	備考
40	6	33-1	E3	土器溜 4	土師器	小型甕	大東 1 式	口径 12.5	砂粒多く含み 褐色粒子含む	外：橙色 7.5YR7/6 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ	
40	7	32-2	E3	土器溜 4	土師器	甕	小谷 4 式？	口径（18.0）	砂粒多く 含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/6 内：橙色 5YR6/6	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ	
40	8	32-2	E3-E4	土器溜 4	土師器	甕	大東 1・2 式	口径（18.0）	砂粒多く 含む	外：浅黄橙色 10YR8/4 内：浅黄橙色 10YR8/4	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ハケ ケズリ	
40	9	32-2	E3	土器溜 4	土師器	甕	大東 1・2 式	口径 22.2	砂粒多く 含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ナデ ケズリ	外面：一部煤付着
40	10	32-2	E3	土器溜 4	土師器	甕	大東 1・2 式	口径 18.8	砂粒多く 含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/6 内：浅黄橙色 10YR8/3	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ハケ ケズリ	
40	11	32-2	E3	土器溜 4	土師器	甕	大東 1～3 式	口径 14.0	砂粒多く 含む	外：橙色 7.5YR7/6 内：橙色 7.5YR7/6	外：ヨコナデ、指頭痕 ハケ 内：ヨコナデ、ハケ ナデ、ケズリ	
40	12	32-2	E3	土器溜 4	土師器	甕	大東 1～3 式	口径（18.4）	砂粒多く 含む	外：橙色 2.5YR6/8 内：橙色 2.5YR6/8	外：ヨコナデ ハケ後ナデ 内：ハケ、ケズリ	
40	13	33-1	E3	土器溜 4	土師器	甕	大東 1～3 式	口径 12.3	微砂粒少し含み 褐色粒子含む	外：浅黄橙色 10YR8/4 内：浅黄橙色 10YR8/4	外：ヨコナデ、ハケ 内：ハケ＋ヨコナデ 絞り痕、ケズリ	外面：一部煤付着
41	1	33-1-2	E3	土器溜 4	土師器	壺	大東 1・2 式	口径 22.8	砂粒多く含み 褐色粒子含む	外：にぶい橙色 7.5YR6/4 内：橙色 7.5YR6/6	外：ヨコナデ、ナデ ハケ 内：ヨコナデ、ナデ ケズリ	外面：一部煤付着 内面：液だれ痕
41	2	34-1	E3	土器溜 4	土師器	壺	大東 1～3 式	口径 11.2	砂粒多く 含む	外：黄橙色 10YR8/6 内：黄橙色 10YR8/6	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ	
41	3	33-1	E3	土器溜 4	土師器	高坏	大東 1 式？	口径 16.2 器高 13.1 底径 11.2	砂粒含む	外：浅黄橙色 10YR8/3 浅黄橙色 7.5YR8/3 内：浅黄橙色 10YR8/3 浅黄橙色 7.5YR8/3	外：ナデ、ミガキ 面取り 内：ナデ、ミガキ ケズリ	円盤充填 透かし 1 ヵ所
41	4	34-1	E3	土器溜 4	土師器	高坏	小谷 4 式？	口径 16.4	砂粒少し 含む	外：橙色 5YR7/8 内：橙色 5YR7/8	外：ヨコナデ、ミガキ 内：ヨコナデ、ミガキ	円盤充填 内面：ミガキ放射状
41	5	34-1	E3	土器溜 4	土師器	高坏	小谷 3 式 ～大東 1 式	口径 15.4	砂粒多く 含む	外：浅黄橙色 10YR8/3 内：浅黄橙色 10YR8/3	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ	円盤充填 内外面：一部煤付着
41	6	34-1	E3	土器溜 4	土師器	高坏	大東 1・2 式	口径 16.2	精緻 砂粒少ない	外：浅黄橙色 7.5YR8/3 内：浅黄橙色 7.5YR8/3	外：ヨコナデ、ケズリ 内：ヨコナデ、ナデ	
41	7	34-1	E3	土器溜 4	土師器	高坏	大東 1・2 式	口径 14.6	砂粒少し 含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/6 内：浅黄橙色 7.5YR8/6	外：ナデ、ハケ 内：ナデ	
41	8	34-1	E3	土器溜 4	土師器	高坏	大東 1～3 式		砂粒少し 含む	外：橙色 5YR7/6 内：灰白色 2.5Y8/2	外：ナデ 内：ハケ、ナデ	円盤充填
41	9	34-1	E3	土器溜 4	土師器	高坏	大東 1～3 式		砂粒多く 含む	外：黄橙色 7.5YR7/8 内：黄橙色 7.5YR7/8	外：ナデ 内：ケズリ	
41	10	34-1	E3	土器溜 4	土師器	高坏	小谷～大東式		砂粒少し 含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/6 内：浅黄橙色 7.5YR8/6		円盤充填 内外面：赤彩
41	11	34-1	E3	土器溜 4	土師器	高坏	小谷～大東式		砂粒少し 含む	外：浅黄橙色 10YR8/4 内：浅黄橙色 10YR8/4	外：ハケ、ナデ 内：ケズリ	円盤充填
41	12	34-1	E3	土器溜 4	土師器	高坏	大東 1～3 式	底径 12.2	砂粒多く 含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/6 内：浅黄橙色 7.5YR8/6	外：ハケ、ヨコナデ 内：ケズリ、ハケ	
41	13	34-1	E3	土器溜 4	土師器	坏	大東 1・2 式	口径 11.4 器高 5.1 丸底	砂粒含む	外：橙色 5YR7/6 内：橙色 5YR7/6	外：ヨコナデ、ハケ 内：ハケ、指頭痕	
41	14	34-1	E3	土器溜 4	土師器	坏	大東 1・2 式	口径 12.2 器高 6.4 底径 6.3	砂粒多く 含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：橙色 5YR7/6	外：ハケ、ナデ 内：ナデ	
41	15	34-2	E3	土器溜 4	土師器	小型壺	小谷 4 式	口径 10.3	砂粒多く 含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/4 内：にぶい黄橙色 10YR7/4	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ	外面胴下半：被熱痕
41	16	34-1	E3	土器溜 4	土師器	小型壺	小谷 3～4 式	口径 10.2	砂粒多く 含む	外：浅黄橙色 10YR8/4 内：浅黄橙色 10YR8/4	外：ヨコナデ、ハケ 内：ハケ、指頭痕	
41	17	34-2	E3	土器溜 4	土師器	小型鉢	大東 1・2 式	口径 10.0	砂粒含む	外：橙色 5YR6/8 内：橙色 5YR6/8	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ	
41	18	34-2	E3	土器溜 4	弥生土器	甕	石見V -1 様式	口径 15.6	砂粒多く 含む	外：灰白色 10YR8/2 内：灰白色 10YR8/2	外：ヨコナデ、凹線文 3 条 内：ヨコナデ、ケズリ	
41	19	34-2	E3	土器溜 4	弥生土器	甕	石見V -1 様式	口径 18.8	砂粒多く 含む	外：灰白色 10YR8/2 内：灰白色 10YR8/2	外：ヨコナデ、凹線文 3 条 内：ヨコナデ	
41	20	34-2	E3	土器溜 4	弥生土器	甕	石見V -2 様式	口径 26.0	砂粒多く 含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/3 内：浅黄橙色 7.5YR8/3	外：ヨコナデ 擬凹線文 5 条 内：ヨコナデ、ケズリ	
41	21	34-2	E3	土器溜 4	弥生土器	甕	石見V -3 様式	口径 18.0	砂粒多く 含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：ヨコナデ 擬凹線文 11 条 内：ヨコナデ、ケズリ	
42	1	35-1	E3	土器溜 1	土師器	甕	大東 3 式？	口径 17.8	砂粒多く 含む	外：橙色 7.5YR7/6 内：橙色 7.5YR7/6	外：ヨコナデ ミガキ状ナデ 内：ヨコナデ、ケズリ	
42	2	35-1	E3	土器溜 1	土師器	甕	大東 1～3 式	口径 12.4	砂粒多く 含む	外：浅黄橙色 10YR8/3 内：浅黄橙色 10YR8/3	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、指頭痕 ケズリ	
42	3	35-1	E3	土器溜 1	土師器	甕	大東 1～3 式	口径（16.4）	砂粒多く 含む	外：浅黄橙色 10YR8/4 内：浅黄橙色 10YR8/4	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ケズリ	
42	4	35-2	E3	土器溜 1	土師器	高坏	小谷 4 式 ～大東 1 式	口径 14.2	砂粒多く 含む	外：浅黄橙色 10YR8/4 内：浅黄橙色 10YR8/4	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ハケ	接合方法不明 外面：赤彩
42	5	35-1	E3	土器溜 1	土師器	高坏	小谷 1・2 式	口径 16.4	砂粒多く 含む	外：橙色 5YR7/8 内：橙色 5YR7/8	外：ヨコナデ ケズリ後ミガキ？ 内：ヨコナデ、ミガキ？	円盤充填
42	6	35-1	E3	土器溜 1	土師器	高坏	小谷式～大東式		砂粒少し 含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/6 内：浅黄橙色 7.5YR8/6	外：ケズリ後ハケ 内：ハケ	円盤充填
42	7	35-2	E3	土器溜 1	土師器	高坏	大東 1～3 式	底径 10.3	砂粒多く 含む	外：橙色 5YR6/8 内：橙色 5YR6/8	外：ハケ、ナデ 面取り 内：絞り痕、ナデ	
42	8	35-1	E3	土器溜 1	土師器	高坏	大東 1～3 式		砂粒多く 含む	外：橙色 5YR7/6 内：浅黄橙色 10YR8/3	外：面取り？ 内：ケズリ	
42	9	35-1	E3	土器溜 1	土師器	高坏	大東 1～3 式		砂粒含む	外：浅黄橙色 10YR8/3 内：浅黄橙色 10YR8/3	外：ヨコナデ ハケ後ミガキ 内：ケズリ、ナデ	
42	10	35-2	E3	土器溜 1	土師器	小型壺	大東 1・2 式	口径 10.8 器高 13.2 丸底	砂粒多く含み 褐色粒含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/6 内：橙色 5YR7/6	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ	外面：一部煤付着

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	遺構 / 層位	種別	器種	分類	法量 () 内復元 (cm)	胎土	色調	文様・調整その他	備考
42	11	35-2	E3	土器溜 1	土師器	小型壺	大東 1 ～ 3 式	口径 10.2 器高 12.5 底径 2.2	微砂粒 多く含む	外：黒色 7.5Y2/1 浅黄橙色 2.5Y7/4 内：黒色 7.5Y2/1	外：ヨコナデ、ハケ 指頭痕、ナデ 内：ハケ、工具痕 ケズリ	意図的に黒色に 焼成した可能性あり
42	12	35-1	E3	土器溜 1	土師器	小型壺	大東 1・2 式	口径 11.6	砂粒多く 含む	外：橙色 2.5YR6/6 内：明赤褐色 2.5YR5/6	外：ハケ後ナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ	
42	13	36-1	E3	土器溜 1	土師器	小型壺	大東 1 ～ 3 式	口径 11.4 器高 7.8 底径 2.4	微砂粒 多く含み 褐色粒を含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：橙色 7.5YR7/6	外：ハケ、ケズリ 内：ハケ、工具痕 ケズリ、ナデ	
42	14	36-1	E3	土器溜 1	土師器	小型壺	大東 1 ～ 3 式	口径 8.4 器高 6.7 丸底	微砂粒 多く含む	外：橙色 5YR6/6 内：橙色 10YR6/6 赤橙色 5YR6/6	外：ヨコナデ、ハケ、ナデ 内：ヨコナデ、ハケ、ナデ	外面：下半に煤付着 被熱痕？
42	15	36-1	E3	土器溜 1	土師器	坏	大東 1 ～ 3 式	口径 9.6 器高 6.6 底径 2.4	微砂粒 多く含む	外：橙色 5YR7/6 内：橙色 5YR6/6	外：ハケ、ナデ 内：ハケ、ナデ	
42	16	36-1	E3	土器溜 1	土師器	ミニチュア土器	大東 1 ～ 3 式	口径 6.6 器高 4.6 丸底	微砂粒 多く含む	外：橙色 5YR6/6 内：明赤褐色 5YR5/6	外：ナデ、線状痕 内：ナデ、指頭痕	
43	1	36-1	E3	1454	土師器	甕	大東 3 式？	口径 14.2	砂粒多く 含む	外：黄橙色 10YR8/6 内：黄橙色 10YR8/6	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ	
44	1	36-2	F4	土器溜 3	弥生土器	甕	石見 I -1 様式	口径（23.2）	砂粒多く 含む	外：赤橙色 10YR6/6 内：黒色 10YR2/1	外：ヨコナデ、ハケ、段 内：ヨコナデ、ハケ ハケ後ナデ+指頭痕	段：接合痕利用 ハケによる強調 内面：一部煤付着？
44	2	36-2	F4	土器溜 3	弥生土器	甕	石見 I -1 様式	口径（33.6）	砂粒多く 含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/4 内：にぶい黄橙色 10YR7/4	外：ヨコナデ、段 内：ヨコナデ ハケ後ナデ+指頭痕	段：接合痕利用
44	3	36-2	F3-F4	土器溜 3	弥生土器	甕	石見 I -1 様式	口径（24.4）	砂粒多く 含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：にぶい黄橙色 10YR7/4	外：ヨコナデ、ハケ ハケ後ナデ、段 内：ヨコナデ ハケ後ナデ+指頭痕	段：接合痕利用
44	4	36-2	F5-E5 F4	土器溜 3	弥生土器	甕	石見 I -1 ～ 2 様式	口径（21.0） 器高 25.0 底径（8.4）	砂粒多く 含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：ナデ、ハケ 内：ハケ、ハケ後ナデ	内面：煤付着
44	5	36-2	F4	土器溜 3	弥生土器	甕	石見 I -1 ～ 2 様式	口径（22.2）	砂粒多く 含む	外：灰褐色 7.5RY6/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/4	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ハケ 指頭痕	
44	6	37-1	F4	土器溜 3	弥生土器	甕	石見 I -1 ～ 2 様式	口径（18.6）	砂粒多く 含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：ヨコナデ？ハケ 内：ハケ、ハケ後ナデ 指頭痕	内面：一部煤付着
44	7	37-1	F3-F4	土器溜 3	弥生土器	甕	石見 I -1 ～ 2 様式	口径（20.3）	砂粒多く 含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/4 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：ナデ、ハケ+ナデ ハケ 内：ハケ、ハケ+ナデ	
44	8	37-1		土器溜 3	弥生土器	甕	石見 I -1 様式	口径（19.8）	砂粒多く 含む	外：赤灰色 2.5YR4/1 内：にぶい橙色 5YR6/4	外：ナデ、指頭痕、ハケ 沈線文 1 条 内：ナデ、ハケ、指頭痕	外面：一部煤付着
44	9	37-1	F4	土器溜 3	弥生土器	甕	石見 I 様式	底径（10.4）	砂粒多く 含む	外：にぶい橙色 5YR7/3 内：浅黄橙色 10YR8/3	外：ハケ後ナデ、ナデ 内：ハケ後ナデ？	
44	10	37-1	F4	土器溜 3	弥生土器	甕	石見 I 様式	底径（9.6）	砂粒多く 含む	外：橙色 2.5YR6/6 内：橙色 5YR7/6	外：ハケ、ナデ 内：ナデ？	
44	11	37-1	F4	土器溜 3	弥生土器	壺	石見 I 様式	底径（7.0）	砂粒多く 含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：浅黄橙色 10YR8/3	外：ミガキ 内：ハケ後ナデ+指頭痕？	
44	12	37-1	F4	土器溜 3	弥生土器	甕	無文系土器		砂粒多く 含む	外：にぶい橙色 7.5YR6/4 内：にぶい橙色 7.5YR6/4	外：ヨコナデ、指頭痕 ハケ後ナデ 内：ヨコナデ、ハケ 指頭痕	口縁折り返し
44	13	37-1	F4	土器溜 3	弥生土器	甕	無文系土器		砂粒多く 含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：灰白色 10YR8/2	外：ナデ、ハケ 内：ハケ	粘土帯貼り付け？
44	14	37-1	F4	土器溜 3	弥生土器	甕	無文系土器		砂粒多く 含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/4 内：褐灰色 10YR6/1	外：ナデ、ヨコナデ ハケ、ハケ後ナデ 内：ナデ、ハケ？	口縁折り返し
49	1	40-1	E3	土器溜 2	土師器	甕	大東 1・2 式	口径 16.6 器高 26.0 丸底	砂粒多く含む 極僅かに 褐色粒含む	外：浅黄橙色 2.5Y7/4 内：にぶい橙色 10YR7/4	外：ヨコナデ、ハケ 内：ハケ状工具のヨコナデ ナデ、ケズリ、指頭痕	外面：一部煤付着
49	2	40-1-2	E3-E4	土器溜 2	土師器	壺	小谷 3 式？	口径 21.2 器高 37.5	砂粒多く 含む	外：橙色 7.5YR7/6 内：橙色 5YR7/6	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ 一部ハケ	外面：被熱痕？液だれ 絵画 3 ヵ所 内面：煤付着
49	3	41-1	E3	土器溜 2	土師器	高坏	大東 1・2 式	口径 17.4	砂粒少し 含む	外：浅黄橙色 10YR8/4 内：浅黄橙色 10YR8/4	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ハケ ケズリ	接合方法不明
49	4	41-1	E3	土器溜 2	土師器	高坏	大東 1・2 式	口径 20.3	砂粒多く 含む	外：浅黄橙色 10YR8/3 内：浅黄橙色 10YR8/3	外：ヨコナデ、ミガキ 内：ミガキ、暗文	外面：赤彩 坏部、脚部別作り
49	5	41-1	E3	土器溜 2	土師器	高坏	大東 1 ～ 3 式	口径 15.0	砂粒多く 含む	外：橙色 5YR7/6 内：橙色 5YR7/6	外：ケズリ、ハケ 内：回転ナデ	外面：赤彩
49	6	41-2	E3	土器溜 2	土師器	高坏	草田 6 期？	底径 15.0	砂粒多く 含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/3 内：灰黄褐色 10YR6/2	外：ハケ後ミガキ 内：ハケ、ケズリ	
49	7	41-2	E3	土器溜 2	土師器	鉢	小谷式？	口径（24.6）	砂粒少し 含む	外：橙色 5YR7/6 内：橙色 5YR7/6	外：タテハケ後ミガキ 後ヨコナデ 内：ミガキ後ヨコナデ	
49	8	41-1	E3	土器溜 2	土師器	小型壺	大東 1・2 式	口径 10.8 器高 12.3 丸底	砂粒多く 含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ	外面：煤付着 外面底：被熱痕
49	9	42-1	E3	土器溜 2	土師器	小型壺	大東 1 ～ 3 式	口径 9.0 器高 7.7 丸底	微砂粒 多く含み 褐色粒含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ ナデ	外面下半：煤付着
50	1	41-2	E4	土器溜 2	弥生土器	甕	石見 V -2 様式	口径（19.0）	砂粒多く 含む	外：灰褐色 7.5YR6/2 内：黒色 10YR2/1	外：ヨコナデ 擬凹線文後ナデ消し ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ	外面：煤付着
50	2	42-1	E3-D3	土器溜 2	弥生土器	壺	安芸・西部瀬戸内系？ 石見 V -2 様式	底径 4.4	砂粒多く含み 褐色粒多く含む	外：浅黄色 2.5Y7/4 内：浅黄色 2.5Y7/3	外：ヨコナデ 擬凹線文 6 条 波状文 2 段、ハケ 内：ヨコナデ、ナデ、 ケズリ	
50	3	42-1	E3	土器溜 2	弥生土器	壺	安芸・西部瀬戸内系？ 石見 V -2 ～ 3 様式	口径 15.2 器高 29.4 底径 5.2	長石、石英 多く含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/2 にぶい褐色 7.5YR5/4 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：ヨコナデ、竹管文 爪形文、ハケ 内：ヨコナデ+ハケ ヘラ状工具のナデ ケズリ	内外面：赤彩、煤付着 被熱 暗文状のハケ
51	1	42-2	F3	1247	弥生土器	甕	石見 I 様式		砂粒多く 含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：浅黄橙色 7.5YR8/4	外：ナデ 内：ナデ	外面：煤付着
51	2	42-2	F3	1247	弥生土器	甕	石見 I 様式	底径（7.8）	砂粒多く 含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：ハケ後ナデ 内：ナデ	
52	1	43-1	G6	2164	弥生土器	甕	石見 I 様式	口径（24.0）	砂粒少し 含む	外：にぶい褐色 7.5YR6/3 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ハケ ケズリ	

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	遺構 / 層位	種別	器種	分類	法量 () 内復元 (cm)	胎土	色調	文様・調整その他	備考
52	2	43-1	G6	2164	弥生土器	壺	石見 I 様式	底径（16.0）	砂粒多く含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：浅黄橙色 7.5YR8/6	外：ハケ、ナデ？ 内：ナデ	
52	3	43-1	G6	2164	弥生土器	甕	石見 I 様式	底径（9.8）	砂粒多く含む	外：明褐灰色 7.5YR7/2 内：明褐灰色 7.5YR7/2	外：ハケ 内：ハケ後ナデ	
52	4	43-1	G6	2164	弥生土器	甕	石見 I 様式	底径（10.0）	砂粒多く含む	外：橙色 2.5YR7/6 内：浅黄橙色 7.5YR8/3	外：ハケ、ナデ 内：ナデ	
53	1	43-1	F6	2210	弥生土器	甕	瀬戸内系 石見 I -3 様式	口径（18.0）	砂粒多く含む	外：褐灰色 5YR4/1 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：ナデ 内：ナデ	内外面：煤付着、 被熱痕
53	2	43-1	F6	2210	弥生土器	甕	石見 I 様式	底径（9.0）	砂粒多く含む	外：淡橙色 5YR8/3 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：ハケ、ナデ 内：ナデ	
55	1	43-2	F4-F5	2240	弥生土器	甕	石見 I -1～2 様式	口径（23.1） 器高 26.1 底径（8.0）	砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/4 内：灰白色 10YR8/2	外：ナデ、沈線文 1 条 ハケ 内：ハケ、ハケ後ナデ 指頭痕	
55	2	43-2	F4	2240	弥生土器	甕	石見 I 様式	底径 6.0	砂粒多く含む	外：にぶい黄色 7.5YR7/4 内：褐灰色 7.5YR5/1	外：ハケ、ナデ 内：ナデ、ハケ後ナデ	外面：吹きこぼれ痕
55	3	43-2	F4-F5	2240	弥生土器	壺	石見 I -1～2 様式	口径（28.6）	砂粒多く含む	外：にぶい褐色 7.5YR5/3 内：明赤褐色 5YR5/6	外：ナデ？ハケ後ミガキ 内：ナデ、ハケ後ミガキ	
55	4	43-2	F4	2240	弥生土器	壺	石見V -1～2 様式	底径 9.4	砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 橙色 5YR6/8 内：明赤褐色 5YR5/6 浅黄橙色 10YR8/3	外：ミガキ、沈線文 2 条 ハケ後ミガキ 内：ミガキ、ハケ後ミガキ	
55	5	43-2	F4	2240	弥生土器	壺	石見 I -1～2 様式	底径（9.0）	砂粒多く含む	外：明赤褐色 2.5YR5/6 内：赤黒色 2.5YR ＊ 1.7/1	外：ミガキ、ナデ 内：ミガキ	内面：煤付着
58	1	44-2	F4	2269	弥生土器	甕	石見 I -2 様式		砂粒多く含む	外：橙色 7.5YR6/6 内：浅黄橙色 7.5YR8/3	外：ハケ、指頭痕 ナデ、段 内：ナデ	段：ハケによる強調
58	2	44-2	F4	2269	弥生土器	甕	石見 I 様式	底径（8.0）	砂粒多く含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：ハケ（2 種あり） ナデ 内：ナデ	
58	3	44-2	F4	2269	弥生土器	甕	石見 I 様式	底径（8.0）	砂粒多く含む	外：橙色 5YR6/6 内：にぶい橙色 10YR6/3	外：ハケ 内：ナデ、指頭痕	内面：煤付着
58	4	44-2	F4	2269	弥生土器	壺	石見 I 様式	底径（9.0）	砂粒多く含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/3 褐灰色 10YR3/1 内：浅黄橙色 7.5YR8/3 黒褐色 10YR3/1	外：ミガキ、ナデ 内：ミガキ	
58	7	45-1	F6	2209	弥生土器	甕	石見V -1 様式	口径（27.0）	砂粒多く含む	外：灰白色 10YR8/2 内：灰白色 10YR8/2	外：ナデ、凹線文 3 条 内：ナデ、ケズリ	
58	8	45-1	F6	2209	弥生土器	甕	石見V -1 様式		砂粒少し含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：にぶい黄橙色 10YR7/4	外：ヨコナデ、 凹線文 4 条以上 内：ヨコナデ、ケズリ	
58	9	45-1	H7	2277	弥生土器	甕	石見V -1 様式		砂粒多く含む	外：灰黄褐色 10YR5/2 内：灰黄褐色 10YR5/2	外：ナデ、凹線文 4 条 内：ナデ、ケズリ	
58	10	45-1	H7	2277	弥生土器	甕	石見V -1 様式		砂粒少し含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/3 内：浅黄橙色 7.5YR8/3	外：ナデ、凹線文 4 条 内：ヨコナデ、ケズリ	
58	11	45-1	H7	2277	弥生土器	壺	石見Ⅳ様式以降	底径 4.4	砂粒多く含む	外：淡橙色 5YR8/3 内：褐灰色 7.35YR6/1	外：ミガキ、ナデ 内：ケズリ	
58	12	45-1	H7	2277	弥生土器	鉢	石見V -1 様式	口径（10.0）	砂粒多く含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：にぶい橙色 5YR7/4	外：ナデ、凹線文 2 条 刺突文 内：ナデ、ケズリ	肩部施文：二枚貝腹縁
58	13	45-1	F5	2195	土師器	甕	大東 1～3 式	口径（14.8）	砂粒多く含む	外：橙色 5YR7/6 内：にぶい黄橙色 10YR7/4	外：ナデ、指頭痕 内：ナデ、工具痕 ケズリ	
58	14	45-1	F5	2195	土師器	坏	大東 1・2 式	口径（17.8）	砂粒多く含む	外：褐灰色 7.5YR6/1 内：褐灰色 7.5YR6/1	外：ナデ、ハケ 内：ナデ、ハケ	
58	15	45-1	F6	2218	弥生土器	甕	石見 I 様式		砂粒多く含む	外：にぶい橙色 7.5YR6/4 内：黄灰色 2.5Y4/1	外：ナデ 内：ナデ	外面：煤付着
58	16	45-1	F5	2303	弥生土器	壺	石見 I -3 様式		砂粒少し含む	外：明褐灰色 7.5YR7/2 内：灰白色 2.5Y8/1	外：ナデ、羽状文 縦横突帯 内：ナデ	
58	17	45-1	F6	2239	弥生土器	壺	石見Ⅳ様式？	底径（6.0）	砂粒多く含む	外：橙色 2.5YR6/6 内：明褐灰色 7.5YR7/2	外：ミガキ、ナデ 内：ナデ、指頭痕	
58	18	45-1	F6	2314	弥生土器	甕	石見Ⅲ～Ⅳ様式	底径（5.0）	砂粒多く含む	外：にぶい橙色 7.5YR6/4 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：摩滅の為調整不明 内：ケズリ	
60	1	45-1	F4	2196	弥生土器	甕	石見V -1 様式	口径（20.6）	砂粒多く含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/3 にぶい褐色 7.5YR6/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/4 灰褐色 7.5YR5/2	外：ヨコナデ、凹線文 3 条 列点文 内：ヨコナデ、ケズリ	肩部施文：二枚貝腹縁 外面：口縁に煤付着
60	2	45-1	E5	2354	弥生土器	甕	石見V -1 様式	口径（19.0）	砂粒少し含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：ナデ、凹線文 2 条 内：ナデ、ケズリ	
60	3	45-1	F6	2213	弥生土器	甕	石見V -2 様式？	口径（15.8）	砂粒多く含む	外：浅黄橙色 10YR8/3 内：浅黄橙色 10YR8/3	外：ナデ？ 内：ナデ、ケズリ	外面：一部煤付着
60	4	45-1	I9	3008	弥生土器	甕？	石見V -3 様式	口径（13.2）	砂粒多く含む	外：灰褐色 7.5YR5/2 内：灰白色 10YR8/2	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	
60	5	45-1	I9	3010	弥生土器	甕	石見V -1 様式		砂粒多く含む	外：灰白色 10YR8/2 内：灰白色 2.5Y8/1	外：ヨコナデ？、 沈線文 3 条、刺突文 内：ヨコナデ？	肩部施文：櫛歯状工具
60	6	45-1	H8	3029	弥生土器	甕	石見V -1 様式		砂粒多く含む	外：灰白色 10YR8/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：ヨコナデ、凹線文 2 条 刺突文 内：ヨコナデ、ケズリ	肩部施文：櫛歯状工具
60	7	45-1	G6	2163	土師器	甕	大東 1・2 式	口径（18.0）	砂粒多く含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：ナデ 内：ナデ、ケズリ	

弥生・古墳時代遺構　土製品

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	遺構	種別	器種	分類	法量 () 内復元値 (cm)	重量 (g)	胎土	色調	備考
27	5	20-1	F6	2217	土製品	焼土塊		長さ 5.9、幅 3.7 厚さ最大 2.8	17.0	砂粒ほとんど含まず、脆い	外：にぶい橙色 5YR7/4 明褐灰色 7.5YR7/2	土器焼成関連遺物？
27	6	20-1	F6	2217	土製品	焼土塊		長さ 4.6、幅 4.1 厚さ最大 3.9	52.99	砂粒ほとんど含まず、脆い	外：にぶい黄橙色 10YR7/4 にぶい橙色 5YR7/4	土器焼成関連遺物？

弥生・古墳時代遺構　石器・玉類

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	遺構	種別	器種	法量 () 遺存 / 内復元値 (cm)	重量 (g)	材質	備考
27	7	21-1	F6	2217	ガラス製品	小玉	長径 0.4、孔径 0.18、厚さ 0.3	0.07	カリガラス	分析 No.3
27	8	21-1	F6 ?	2217	ガラス製品	小玉	長径 0.35、孔径 0.18、厚さ 0.25	0.04	カリガラス	分析 No.2
27	9	21-1	F5	2217	石器	敲石・磨石	長さ 10.9、幅 9.4、厚さ 4.3	675.0	不明	
27	10	20-2	F6	2217	石器	台石	長さ 31.7、幅 24.3、厚さ 7.9	11300.0	花崗岩	表面：炭化物付着 表裏面：円形被熱痕
27	16	21-1	F6	2217 (2203)	ガラス製品	小玉	長径 0.3、孔径 0.1、厚さ 0.2	0.03	カリガラス	分析 No.1
28	15	21-1	F6	2217	石器	台石	長さ 33.5、幅 21.1、厚さ 12.2	6950.05	デイサイト	坪状穴 3 ヵ所
29	1	22-2	G7	2155	石器	台石	長さ 37.4、幅 31.0、厚さ 10.5	1365.0	花崗岩	片面中央に方形被熱痕
29	2	22-2	G7	2154	石器	台石	長さ 41.5、幅 26.0、厚さ 18.35	1835.0	花崗岩	両面に円形、方形被熱痕
29	3	22-2	H7	2151	石器	台石	長さ 33.0、幅 27.1、厚さ 7.0 ～ 11.2	1135.0	花崗岩	表面：方形被熱痕、加工痕 裏面：部分的に滑らか
31	11	24-1	G6	2165	石器	石包丁	長さ（4.7）幅（6.0）厚さ（0.7）	2636.0	粘板岩？	
31	12	24-1	G6	2165	石器	敲石	長さ（8.4）幅 4.8、厚さ 4.7	280.0	不明	
34	16	27-1	G5	2199	石器	敲石	長さ 17.9、幅 5.8、厚さ 4.6	545.0	不明	
34	17	27-1	F4	2199	石器	磨石？	長さ 9.5、幅 6.4、厚さ 2.6	188.0	デイサイト	
37	23	30 - 2	F1-F2	1276	石器	石核？	長さ 6.6、幅 3.9、厚さ 2.3	35.99	泥岩？	
37	24	30-2	E1	1276	石器	砥石	長さ（3.7）、幅（4.2）、厚さ（2.7）	48.43	不明	
37	25	30-2	F1	1276	石器	磨石？	長さ 10.8、幅 4.5、厚さ 2.2	176.07	不明	
37	26	30-2		1276	石器	磨石	長さ 13.9、幅 7.6、厚さ 5.0	763.66	不明	
37	27	30-2	E1	1276	石器	磨石？	長さ 13.3、幅 7.6、厚さ 5.3	780.51	不明	
39	2	31-1	E3	1277	石器	磨石？	長さ 10.9、幅 10.4、厚さ 6.5	1123.66	不明	被熱痕
39	3	31-1	E3	1277	石器	石錘	長さ 5.8、幅 5.2、厚さ 1.4	64.32	不明	
41	22	34-2	E3	土器溜 4	石器	石鏃	長さ 2.5、幅 1.4、厚さ 0.4	1.12	安山岩	
41	23	34-2	E3	土器溜 4	石器	搗石？	長さ 17.8、幅 8.6、厚さ 7.3	1559.96	不明	
45	1	37-2	F4	土器溜 3	石器	転石	長さ 31.6、幅 18.7、厚さ 10.0	7920.0	塩基性片岩	磨製石斧原石？
45	2	37-2	F4	土器溜 3	石器	分割片	長さ 18.0、幅 19.3、厚さ 9.4	4170.0	塩基性片岩	磨製石斧素材？
46	1	38-1	F4	土器溜 3	石器	原石	長さ 19.1、幅 13.7、厚さ 7.9	3750.0	塩基性片岩	磨製石斧原石？
46	2	38-1	F4	土器溜 3	石器	素材剥片	長さ 16.1、幅 8.2、厚さ 4.9	747.88	塩基性片岩	磨製石斧素材？　Ⅰ類
46	3	38-1	F4	土器溜 3	石器	素材剥片	長さ 21.3、幅 10.1、厚さ 5.3	1596.36	塩基性片岩	磨製石斧素材？　Ⅰ類
46	4	38-1	F4	土器溜 3	石器	素材剥片	長さ 15.5、幅 7.3、厚さ 6.0	984.54	塩基性片岩	磨製石斧素材？　Ⅰ類
46	5	38-1	F4	土器溜 3	石器	素材剥片	長さ 11.5、幅 10.5、厚さ 5.1	907.55	塩基性片岩	磨製石斧素材？　Ⅰ類
46	6	38-1	F4	土器溜 3	石器	素材剥片	長さ 12.8、幅 8.0、厚さ 8.4	978.77	塩基性片岩	磨製石斧素材？　Ⅰ類
46	7	38-2	F4	土器溜 3	石器	素材剥片	長さ 16.5、幅 11.2、厚さ 5.9	1400.0	塩基性片岩	磨製石斧素材？　Ⅰ類
46	8	38-2	F4	土器溜 3	石器	素材剥片	長さ 20.0、幅 12.0、厚さ 3.9	1023.31	塩基性片岩	磨製石斧素材？　Ⅱ類
47	1	38-2	F4	土器溜 3	石器	磨製石斧	長さ 14.3、幅 5.3、厚さ 4.4	585.52	塩基性片岩	未成品（剥離段階）Ⅰb類
47	2	38-2	F4	土器溜 3	石器	磨製石斧	長さ 21.8、幅 6.7、厚さ 6.4	802.66	塩基性片岩	未成品（剥離段階）Ⅰb類
47	3	38-2	F4	土器溜 3	石器	磨製石斧	長さ 11.8、幅 5.1、厚さ 3.0	257.98	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅲ類
47	4	38-2	F4	土器溜 3	石器	磨製石斧	長さ 12.4、幅 6.9、厚さ 3.4	412.38	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰb類
47	5	38-2	F4	土器溜 3	石器	磨製石斧	長さ 8.3、幅 6.3、厚さ 2.7	242.23	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅱa類
47	6	38-2	F4	土器溜 3	石器	磨製石斧	長さ 11.8、幅 4.6、厚さ 2.7	199.64	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰa類
47	7	39-1	F4	土器溜 3	石器	磨製石斧	長さ 15.8、幅 5.6、厚さ 4.5	619.81	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰb類
47	8	39-1	F4	土器溜 3	石器	磨製石斧	長さ 19.0、幅 6.3、厚さ 5.4	920.46	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰa類
47	9	39-1	F4	土器溜 3	石器	磨製石斧	長さ 13.1、幅 6.9、厚さ 5.6	643.97	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰb類
48	1	39-1	F4	土器溜 3	石器	磨製石斧	長さ 14.9、幅 6.1、厚さ 2.2	303.29	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰa類
48	2	39-1	F4	土器溜 3	石器	磨製石斧	長さ 14.2、幅 4.1、厚さ 3.8	256.21	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅱ類
48	3	39-1	F4	土器溜 3	石器	磨製石斧	長さ 16.8、幅 4.8、厚さ 3.8	459.84	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰ1類
48	4	39-1	F4	土器溜 3	石器	磨製石斧	長さ 16.3、幅 4.7、厚さ 5.0	562.98	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰb類
48	5	39-1	F4	土器溜 3	石器	磨製石斧	長さ 15.6、幅 6.9、厚さ 4.4	742.08	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰa類
48	6	39-2	F4	土器溜 3	石器	磨製石斧	長さ 13.8、幅 5.6、厚さ 2.5	317.99	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅱ類
48	7	39-2	F4	土器溜 3	石器	磨製石斧	長さ 10.7、幅 5.2、厚さ 3.3	305.55	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰa類
48	8	39-2	F4	土器溜 3	石器	磨製石斧	長さ 14.2、幅 6.7、厚さ 3.5	481.83	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅱ類
48	9	39-2	F4	土器溜 3	石器	磨製石斧	長さ 12.9、幅 7.6、厚さ 7.2	1184.95	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰa類
48	10	39-2	F4	土器溜 3	石器	磨石	長さ（11.8）、幅（8.1）、厚さ（4.35）	292.14	デイサイト	全面研磨、被熱痕
50	4	42-1	E3	土器溜 2	石器	石皿	長さ 27.0、幅 15.8、厚さ 5.1	3040.0	不明	未使用？
51	3	42-2	F3	1247	石器	磨石？	長さ 7.1、幅 6.2、厚さ 2.8	189.80	不明	全面研磨、被熱痕
51	4	42-2	F3	1247	石器	砥石	長さ 14.6、幅 6.4、厚さ 3.9	200.20	不明	上面、側面研磨
53	3	43-1	F6	2210	石器	磨製石斧	長さ 14.8、幅 8.3、厚さ 3.6	665.0	塩基性片岩	未成品（剥離段階）Ⅰb類
56	1	44-1	F5	2240	石器	分割片	長さ 17.5、幅 20.6、厚さ 12.1	5700.0	塩基性片岩	磨製石斧素材？
56	2	44-1	F5	2240	石器	磨製石斧	長さ（15.8）幅 9.5、厚さ 5.6	1250.0	塩基性片岩	未成品（剥離段階）Ⅰa類
56	3	44-1	F5	2240	石器	石皿？	長さ 18.0、幅（11.0）厚さ 6.2	1500.0	不明	
58	5	44-2	F4	2269	石器	磨製石斧	長さ（12.2）、幅（6.1）、厚さ（3.6）	364.0	塩基性片岩	未成品（剥離段階）Ⅱ類
58	6	44-2	F4	2269	石器	磨製石斧	長さ（11.5）、幅（6.2）、厚さ（5.4）	410.0	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰ1類

弥生・古墳時代遺構　金属製品

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	遺構 / 層位	種別	器種	分類	法量 () 遺存 / 内復元値 (cm)	重量 (g)	備考
27	11	21-1	F6	2217	鉄製品	鉄片		長さ 1.3、幅 2.0、厚さ不明	11.48	
27	12	21-1	F6	2217	鉄製品	鉄片		長さ 1.9、幅 0.8、厚さ（0.3）	1.79	
28	16	21-1	F6	2217	鉄製品	棒状		長さ 8.3、幅 1.4、厚さ 0.9	59.36	
28	17	21-1	F6	2217	鉄製品	鉄鏃		長さ（4.3）、幅 3.8、厚さ 0.4	14.16	
31	6	24-1	G7	2165	鉄製品	鉄片		長さ 1.7、幅 1.0、厚さ不明	4.60	
31	13	24-1	H6	2165	鉄製品	鉄片		長さ 2.1、幅 1.7、厚さ（0.7）	10.65	
31	14	24-1	G7	2165	鉄製品	棒状		長さ（2.0）、幅 0.4、厚さ 0.3	0.99	
31	20	24-1	G6	2165	鉄製品	鉄片		長さ 2.4、幅 2.2、厚さ 0.4	7.20	
32	4	24-1	G6-G7	2165	鉄製品	鉄片		長さ 1.2、幅 0.9	5.33	
32	8	25-1	G6	2165	鉄製品	鉄片		長さ 1.7、幅 0.7、厚さ 0.3	1.76	
34	18	27-1	F4-F5	2199	鉄製品	棒状		長さ（2.2）幅 0.3、厚さ 0.3	2.66	
34	19	27-1	G5	2199	鉄製品	鉄片		長さ 1.7、幅 1.3	9.94	
34	20	27-1	F4-F5	2199	鉄製品	鉄塊		長さ 2.0、幅 1.6、厚さ 1.1	8.0	
37	28	31-1	F2	1276	鉄製品	鉄鏃	五角形型	長さ（3.2）幅（2.3）、厚さ 0.3	5.46	
37	29	31-1	E1	1276	鉄製品	棒状		長さ 5.7、幅 0.7	10.09	
37	30	31-1	E2	1276	鉄製品	棒状		長さ（2.7）幅 0.7、厚さ 0.3	1.98	
37	31	31-1		1276	鉄製品	棒状		長さ（3.1）幅（1.1）、厚さ（0.8）	1.74	
37	32	31-1		1276	鉄製品	棒状		長さ 3.9、幅 2.3、厚さ 1.1	8.27	
42	17	36-1	E3	土器溜 1	鉄製品	不明		長さ 4.5、幅 0.8 ？、厚さ 0.5	8.46	
42	18	36-1	E3	土器溜 1	鉄製品	釘？		長さ 3.3、幅 0.6、厚さ 0.4	1.75	

第31表　遺物観察表（6・7層出土遺物）

6･7 層　土師器・弥生土器・縄文土器

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	分類	法量 () 内復元 (cm)	胎土	色調	文様・調整その他	備考
62	1	45-2	E4	6 層	土師器	甕	草田 6 期	口径（15.2）	砂粒多く含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/4 内：浅黄橙色 7.5YR8/4	外：ヨコナデ、波状文、ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ	
62	2	45-2	F4	6 層	土師器	壺	大東 1 式？	口径 11.4	砂粒多く含む 褐色粒含む	外：橙色 7.5YR7/6 内：橙色 7.5YR7/6	外：ハケ後ヨコナデ、ハケ 内：ハケ後ヨコナデ、ケズリ	
62	3	45-2	F4-F5 E5	6 層	土師器	高坏	草田 6 期 ～小谷 2 式	口径 18.6	砂粒多く含む	外：橙色 5YR7/6 内：褐灰色 10YR6/1	外：ハケ後ナデ 内：ハケ、一部ナデ	
62	4	45-2	E5	6 層	土師器	鼓形器台	小谷 2 ～3 式（古）	口径 21.0	砂粒多く含む	外：橙色 2.5YR7/6 内：にぶい橙色 5YR7/4	外：ヨコナデ 内：ケズリ後ミガキ、ケズリ	
63	1	46-1	F4	6 層	弥生土器	甕	石見 I -1 様式		砂粒多く含む	外：褐灰色 7.5YR5/1 内：暗灰色 N3/	外：ハケ、段 内：ハケ	段：接合痕利用 刻目あり 内外面：煤付着
63	2	46-1	F5	6 層	弥生土器	甕	石見 I -1 様式	口径（31.4）	砂粒多く含む	外：にぶい褐色 7.5YR6/3 内：にぶい橙色 5YR6/4	外：ナデ、刻目 ハケ後ヨコナデ 内：ヨコナデ、ハケ	
63	3	46-1	G5	6 層	弥生土器	甕	石見 I -1 様式		砂粒多く含む	外：橙色 5YR6/6 内：橙色 5YR6/6	外：ヨコナデ、ハケ、刻目 内：ヨコナデ、ハケ、指頭痕	外面：煤付着
63	4	46-1	F5	6 層	弥生土器	甕	石見 I -1 様式	口径（25.8）	砂粒多く含む	外：浅黄橙色 10YR8/3 内：浅黄橙色 7.5YR8/3	外：ヨコナデ、刻目 指頭痕＋工具痕 ハケ後ナデ、段 内：ヨコナデ ハケ後ヨコナデ、 ナデ＋指頭痕	段：接合痕利用
63	5	46-1	F3	6 層	弥生土器	甕	石見 I -1 様式	口径（30.4）	砂粒多く含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：橙色 7.5YR6/6	外：ヨコナデ、刻目 ナデ＋指頭痕 ハケ後ナデ、段 内：ヨコナデ、ハケ後ナデ	段：接合痕利用
63	6	46-1	F3	6 層	弥生土器	甕	石見 I -1 様式	口径（36.0）	砂粒多く含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/4 内：暗灰色 N3/	外：ヨコナデ、刻目 ハケ、指頭痕、段 内：ヨコナデ、指頭痕、ハケ	段：接合痕利用 ハケによる強調 口縁端部全周に刻目 口縁端部上面一部刻目
63	7	46-1	F3	6 層	弥生土器	甕	石見 I -1 様式	口径（27.0）	砂粒多く含む	外：淡黄色 5YR8/4 内：浅黄橙色 7.5YR8/4	外：ヨコナデ、ハケ、段 内：ハケ後ヨコナデ＋指頭痕	段：接合痕利用 ハケによる強調
63	8	46-1	F5	6 層	弥生土器	甕	石見 I -1 様式	口径（29.8）	砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：ナデ、凹線文 1 条 ハケ後ヨコナデ、段 内：ハケ後ヨコナデ	段：接合痕利用 ハケによる強調
63	9	46-1	F5	6 層	弥生土器	甕	石見 I -1 様式	口径（32.2）	砂粒多く含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/4 内：浅黄橙色 10YR8/3	外：ヨコナデ ハケ後ヨコナデ 刺突文 2 段、段 内：摩滅の為調整不明	段：ハケによる成形？ 肩部施文：貝殻頂？
63	10	46-1	F4-F5	6 層	弥生土器	甕	石見 I -1 様式		砂粒多く含む	外：橙色 7.5YR6/6 内：橙色 7.5YR7/6	外：ヨコナデ ハケ後ヨコナデ 円形刺突文、段 内：ハケ？	段：ハケによる成形？
63	11	46-1	F4-F5	6 層	弥生土器	甕	石見 I -1 様式	口径（27.4）	砂粒多く含む	外：灰褐色 7.5YR6/2 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：ヨコナデ、指頭痕 ハケ後ヨコナデ 沈線文 1 条 内：ヨコナデ、ハケ後指頭痕	
63	12	46-1	F5-G5	6 層	弥生土器	甕	石見 I -1 様式		砂粒多く含む	外：にぶい橙色 7.5YR6/4 内：にぶい褐色 7.5YR6/3	外：ヨコナデ、ハケ 沈線文 1 条 内：ヨコナデ、ハケ、指頭痕	
63	13	46-1	F4-F5	6 層	弥生土器	甕	石見 I -1 様式	口径（22.2）	砂粒多く含む	外：灰白色 2.5YR8/1 内：にぶい黄橙色 10YR6/4	外：ヨコナデ、沈線文 1 条 ハケ後ヨコナデ ＋指頭痕 内：ヨコナデ ハケ後ナデ＋指頭痕	
64	1	46-2	F3	6 層	弥生土器	甕	石見 I -1～2 様式	口径（27.0）	砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/4	外：ヨコナデ、沈線文 2 条 ハケ後ヨコナデ ＋指頭痕、ハケ 内：ヨコナデ ハケ後ナデ、ハケ	

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	分類	法量 () 内復元 (cm)	胎土	色調	文様・調整その他	備考
64	2	46-2	F5	6 層	弥生土器	甕	石見Ⅰ-2 様式	口径（25.4）	砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/4 内：浅黄橙色 10YR8/4	外：ヨコナデ、刻目 ハケ後ヨコナデ 沈線文 3 条 内：ヨコナデ、ハケ、ナデ？	
64	3	46-2	F5	6 層	弥生土器	甕	石見Ⅰ-2 様式	口径（33.0）	砂粒多く含む	外：にぶい橙色 7.5YR6/4 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：ナデ、刻目 ハケ後ヨコナデ 沈線文 3 条 内：ナデ、ハケ	
64	4	46-2	F4	6 層	弥生土器	甕	石見Ⅰ-2 様式	口径（14.6）	砂粒多く含む	外：明褐色 7.5YR5/6 内：灰白色 5Y8/1	外：ヨコナデ、ミガキ 凹線文 3 条 内：ヨコナデ、ミガキ	
64	5	46-2	F5	6 層	弥生土器	甕	石見Ⅰ-1～2 様式	口径（26.2）	砂粒多く含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：ヨコナデ、指頭痕、ハケ 内：ヨコナデ、ハケ、指頭痕	
64	6	46-2	F4	6 層	弥生土器	甕	石見Ⅰ-2 様式	口径（24.6）	砂粒多く含む	外：橙色 5YR6/6 内：橙色 2.5YR6/8	外：ヨコナデ ハケ後ナデ、ハケ 内：ハケ後ナデ ＋指頭痕	
64	7	46-2	F5-E5	6 層	弥生土器	甕	石見Ⅰ-2 様式？	口径（28.2）	砂粒多く含む	外：褐灰色 7.5YR4/1 内：にぶい橙色 5YR6/4	外：ナデ、ハケ後ナデ ＋指頭痕 ハケ後ミガキ 内：ナデ、ハケ ハケ後指頭痕＋ナデ	
64	8	46-2	F4	6 層	弥生土器	甕	石見Ⅰ-2 様式？	口径（21.4）	砂粒多く含む	外：にぶい褐色 7.5YR6/3 内：にぶい橙色 7.5YR6/4	外：ヨコナデ ハケ後ナデ＋指頭痕 ハケ 内：ヨコナデ、ハケ後ナデ ハケ後指頭痕	
64	9	47-1	F4	6 層	弥生土器	甕	瀬戸内型 石見Ⅰ-3 様式？	口径（29.2）	砂粒多く含む	外：黄橙色 7.5YR7/8 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：ヨコナデ、突帯 刻目、ハケ 内：ヨコナデ、ナデ 指頭痕、ハケ	
64	10	47-1	F4-F5	6 層	弥生土器	甕	瀬戸内型 石見Ⅰ-3 様式		砂粒多く含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：灰褐色 7.5YR5/2	外：ヨコナデ、突帯刻目 内：ヨコナデ、ナデ、指頭痕	
64	11	47-1	E2	6 層	弥生土器	甕	石見Ⅰ-1 ～Ⅰ-2 様式		砂粒多く含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：橙色 7.5YR6/6	外：ナデ、突帯文、刻目 内：ナデ	突帯文系と遠田川系の折衷？
64	12	47-1	E2	6 層	弥生土器	甕	無文土器系？	口径（26.4）	砂粒多く含む	外：橙色 5YR6/6 内：橙色 7.5YR6/6	外：ヨコナデ ハケ後ヨコナデ 内：ヨコナデ ハケ後＋指頭痕	外面：頸部煤付着
64	13	47-1	F2	6 層	弥生土器	甕	無文土器系？		砂粒多く含む	外：黒褐色 7.5YR3/1 内：褐灰色 7.5YR4/1	外：ナデ、ハケ 凹線文 1 条 内：ナデ、ハケ後ナデ 指頭痕	口縁折り返し 内面：炭化物付着
65	1	47-2	F3	6 層	弥生土器	甕	石見Ⅰ様式	底径（9.8）	砂粒多く含む	外：灰褐色 7.5YR5/2 内：橙色 2.5YR7/6	外：ハケ＋指頭痕、ナデ 内：摩滅の為調整不明	
65	2	47-2	F5	6 層	弥生土器	甕	石見Ⅰ様式	底径（8.8）	砂粒多く含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：浅黄橙色 10YR8/3	外：ハケ、ナデ 内：ハケ？	内外面：煤付着
65	3	47-2	F4	6 層	弥生土器	甕	石見Ⅰ様式	底径（8.8）	砂粒多く含む	外：にぶい褐色 7.5YR6/3 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：ハケ、ナデ 内：ハケ	底面：圧痕 1 ？所
65	4	47-2	F5	6 層	弥生土器	甕	石見Ⅰ様式	底径（10.8）	砂粒多く含む	外：橙色 2.5YR6/6 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：ハケ、ナデ 内：ナデ？	
65	5	47-2	F5	6 層	弥生土器	甕	石見Ⅰ様式	底径（8.4）	砂粒多く含む	外：にぶい橙色 7.5YR6/4 内：浅黄橙色 10YR8/4	外：ハケ、指頭痕、ナデ 内：摩滅の為調整不明	
65	6	47-2	F5	6 層	弥生土器	甕	石見Ⅰ様式	底径 8.8	砂粒多く含む	外：橙色 5YR7/6 内：灰黄褐色 10YR6/2	外：ハケ、ナデ 内：摩滅の為調整不明	
65	7	47-2	F4	6 層	弥生土器	甕	石見Ⅰ様式	底径（9.2）	砂粒多く含む	外：明赤褐色 2.5YR5/8 内：橙色 2.5YR6/8	外：ハケ、指頭痕、ナデ 内：ハケ、ナデ？	底面：圧痕 2 ？所
65	8	47-2	F5	6 層	弥生土器	甕	石見Ⅰ様式	底径（8.8）	砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/2 内：灰黄褐色 10YR5/2	外：ハケ、ナデ 内：摩滅の為調整不明	
65	9	48-1	F5-E5	6 層	弥生土器	壺	石見Ⅰ-1 様式		砂粒多く含む	外：明赤褐色 2.5YR5/6 内：にぶい赤褐色 2.5YR4/4	外：ミガキ、工具痕 内：ミガキ	内外面：赤彩
65	10	48-1	F4	6 層	弥生土器	壺	石見Ⅰ-1 様式		砂粒多く含む	外：明赤褐色 2.5YR5/6 内：橙色 2.5YR6/8	外：ヨコナデ、ハケ、ミガキ 内：ヨコナデ、ミガキ	内外面：赤彩 66-4 と同一個体？
65	11	48-1	E2-F4	6 層	弥生土器	壺	石見Ⅰ-1 様式	口径 38.4	砂粒多く含む	外：にぶい橙色 5YR6/4 内：にぶい橙色 7.5YR6/4	外：ミガキ、刻目、段、ハケ 内：ミガキ	段：接合痕利用 ハケによる強調
65	12	48-1	E2	6 層	弥生土器	壺	石見Ⅰ-1～2 様式		砂粒多く含む	外：にぶい赤褐色 5YR5/4 内：にぶい橙色 7.5YR6/4	外：ミガキ、段 内：ミガキ、ナデ	外面：煤付着
65	13	48-1	F5	6 層	弥生土器	壺	石見Ⅰ-2 様式	口径（16.4）	砂粒多く含む	外：橙色 2.5YR6/8 内：橙色 7.5YR7/6	外：ヨコナデ、ミガキ、段 内：ヨコナデ、ミガキ	
65	14	48-1	E2	6 層	弥生土器	壺	石見Ⅰ-1 様式		砂粒多く含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：浅黄橙色 7.5YR8/6	外：ミガキ、沈線文 3 条 有軸羽状文 内：ハケ後ナデ、ナデ	
65	15	48-1	F3	6 層	弥生土器	壺	石見Ⅰ-1～2 様式		砂粒若干含む	外：にぶい橙色 7.5YR6/4 内：にぶい黄橙色 10YR6/4	外：ミガキ、刺突文 2 段 沈線文 3 条？ 内：ナデ	甕の文様を写し？
65	16	48-1	F4	6 層	弥生土器	壺	石見Ⅰ-1 様式		砂粒多く含む	外：にぶい赤褐色 5YR4/4 内：橙色 5YR6/8	外：ミガキ、山形文 4 条 内：ミガキ	
65	17	48-1	F4	6 層	弥生土器	壺	石見Ⅰ-2 様式		砂粒多く含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：褐灰色 10YR4/1	外：沈線文 2 条、刺突文 ミガキ後重孤文 4 条 内：ミガキ	
65	18	48-1	F5	6 層	弥生土器	壺	石見Ⅰ-1～2 様式		砂粒多く含む	外：灰黄褐色 10YR6/2 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：ナデ、ミガキ、突帯 ミガキ、無軸羽状文 内：ナデ後ミガキ	内面：炭化物付着？
66	1	45-2	F5	6 層	弥生土器	壺	石見Ⅰ-1～2 様式	底径（9.2）	砂粒多く含む	外：赤褐色 2.5YR4/6 内：赤褐色 5YR4/6	外：ミガキ 沈線文 3 条、2 条 羽状文、ナデ 内：ハケ後ミガキ、ナデ	外面：文様全周しない 煤付着
66	2	48-2	F4-F5	6 層	弥生土器	壺	石見Ⅰ-2 様式		砂粒多く含む	外：赤褐色 5YR4/6 内：橙色 7.5YR6/6	外：ミガキ 沈線文 2 条、1 条、2 条 羽状文 2 段、1 段、2 段 内：ハケ後ミガキ	
66	3	48-2	F4-F5	6 層	弥生土器	壺	石見Ⅰ-2 様式		砂粒多く含む	外：にぶい橙色 7.5YR6/4 内：橙色 2.5YR6/6	外：ミガキ 沈線文 3 条、2 条、3 条 羽状文 1.5 段、2 段 重孤文 内：ハケ後ミガキ	
66	4	48-2	F4-E4	6 層	弥生土器	壺	石見Ⅰ-1 様式	底径（14.6）	砂粒多く含む	外：明赤褐色 2.5YR5/6 内：橙色 2.5YR6/8	外：ハケ、ナデ 内：ナデ、工具痕	65-10 と同一個体？
66	5	48-2	F3	6 層	弥生土器	壺	石見Ⅰ様式	底径（20.4）	砂粒多く含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：浅黄橙色 7.5YR8/3	外：ハケ後ミガキ、ナデ 内：摩滅の為調整不明	
66	6	48-2	F4	6 層	弥生土器	壺	石見Ⅰ様式	底径（8.8）	砂粒多く含む	外：明赤褐色 5YR5/6 内：にぶい褐色 7.5YR6/3	外：ナデ？ 内：ナデ？	

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	分類	法量 () 内復元 (cm)	胎土	色調	文様・調整その他	備考
66	7	48-2	F4	6 層	弥生土器	壺	石見 I 様式	底径（8.6）	砂粒多く含む	外：にぶい橙色 5YR6/4 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：ミガキ、ナデ 内：ハケ後ミガキ、ミガキ	
66	8	49-1	E2	6 層	弥生土器	鉢	石見 I -1 様式		砂粒多く含む	外：明赤褐色 2.5YR5/6 内：にぶい橙色 7.5YR6/4	外：ナデ、ミガキ 内：ナデ、ミガキ	外面：煤付着 内面：粘土紐剥離
66	9	49-1	F4	6 層	弥生土器	鉢	石見 I -1 様式		砂粒多く含む	外：橙色 7.5YR7/6 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：ヨコナデ ハケ後ナデ、段 内：ハケ	
66	10	49-1	F5-G5	6 層	弥生土器	鉢	石見 I -1 様式	口径（25.4）	砂粒多く含む	外：明赤褐色 2.5YR5/8 内：橙色 5YR6/6	外：ヨコナデ、指頭痕 ハケ後ミガキ 内：ヨコナデ ハケ後ミガキ	
66	11	49-1	F5	6 層	弥生土器	鉢？	石見 I -1 様式	口径（31.6）	砂粒多く含む	外：にぶい褐色 7.5YR6/3 内：明赤褐色 2.5YR5/6	外：ナデ、指頭痕 ハケ後ヨコナデ、ミガキ 内：ナデ、ハケ後ミガキ	
66	12	49-1	F3	6 層	弥生土器	ミニチュア土器	石見 I 様式	底径（7.3）	砂粒多く含む	外：橙色 5YR6/6 内：明赤褐色 10YR7/6	外：ナデ、沈線文 1 条 内：ナデ＋指頭痕	壺形
66	13	49-1	F1	6 層	弥生土器	蓋	石見 I 様式	頂部 6.9	砂粒多く含む	外：橙色 2.5YR6/8 内：橙色 5YR7/6	外：ナデ？ 内：摩滅の為調整不明	
67	1	49-2	E3	6 層	弥生土器	甕	石見III -2 様式		砂粒多く含む	外：にぶい褐色 7.5YR5/4 内：橙色 5YR6/6	外：ナデ、刺突文？ 内：ナデ	
67	2	49-2	F3	6 層	弥生土器	甕	石見IV -2 様式	口径 19.2	砂粒多く含む	外：灰白色 10YR8/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：ヨコナデ、凹線文 3 条 重層刻目文、ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ	
67	3	49-2	F4	6 層	弥生土器	高坏	石見IV -2 様式	底径 15.4	砂粒多く含む	外：にぶい橙色 7.5YR6/4 内：にぶい褐色 7.5YR5/4	外：凹線文多条、7 条、2 条 内：絞り痕、ケズリ	三角形透かし 4 ヵ所
67	4	49-2	F5	6 層	弥生土器	甕	石見IV様式？	底径 5.0	砂粒多く含む	外：にぶい褐色 7.5YR6/3 内：灰褐色 7.5YR6/2	外：ナデ 内：ナデ、工具痕	凹底
67	5	49-2	F3	6 層	弥生土器	甕	石見III～IV様式	底径 8.6	砂粒多く含む	外：灰褐色 7.5YR5/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：ミガキ、ナデ 内：ナデ	外面：一部煤付着
67	6	49-2	F4	6 層	弥生土器	壺？	石見III～IV様式	底径 7.0	砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/4 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：ハケ、ナデ 内：摩滅の為調整不明	
67	7	50-1	H7	7 層	弥生土器	甕	石見V -1 様式	口径 19.2	砂粒多く含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：ヨコナデ、凹線文 4 条 ハケ、刺突文 内：ヨコナデ、ナデ、ケズリ	肩部施文：櫛歯状工具
67	8	50-1	F4	6 層	弥生土器	甕	石見V -1 様式	口径 26.0	砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：ナデ、凹線文 3 条 波状文、沈線文多条 内：ヨコナデ、ナデ、ケズリ	
67	9	50-1	F5	6 層	弥生土器	甕	石見V -1 様式	口径（20.0）	砂粒多く含む	外：にぶい褐色 7.5YR5/3 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：ヨコナデ、凹線文 4 条 連続刺突文 内：ヨコナデ、ケズリ	肩部施文：櫛歯状工具 外面：煤付着
67	10	50-1	F4	6 層	弥生土器	甕	石見V -2 様式	口径 16.8	砂粒多く含む	外：明褐灰色 7.5YR7/2 内：灰白色 10YR8/2	外：ヨコナデ、擬凹線文 刺突文 内：ヨコナデ、ナデ、ケズリ	肩部施文：二枚貝腹縁 外面：煤付着
67	11	50-1	F5	6 層	弥生土器	甕	石見V -3 様式	口径 18.0	砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/4 内：にぶい黄橙色 10YR7/4	外：ヨコナデ 擬凹線文 15 条 ナデ、波状文？ 内：ヨコナデ、ケズリ	
67	12	50-1	F4	6 層	弥生土器	脚台	石見V -1 様式	底径 11.4	砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/4 内：灰褐色 7.5YR6/2	外：ナデ 内：ナデ、ケズリ	
67	13	50-1	F3	6 層	弥生土器	台部	石見V様式？		砂粒多く含む	外：灰黄褐色 10YR5/2 内：褐灰色 10YR5/1	外：ミガキ 内：ミガキ、ナデ	
68	1	50-2	E2	6 層	縄文土器	深鉢	突帯文 4・5 期？		砂粒多く含む	外：灰白色 10YR8/2 内：にぶい黄色 2.5Y6/3	外：ナデ、刻目突帯文 匙面条痕？ 内：ナデ、匙面条痕？	刻目：O 字 or 特殊 D 字
68	2	50-2	E2	7 層	縄文土器	深鉢	突帯文 4・5 期？		砂粒多く含む	外：橙色 2.5YR6/6 内：にぶい黄橙色 10YR7/4	外：ナデ、刻目突帯文 内：摩滅の為調整不明	刻目：O 字 or 特殊 D 字
68	3	50-2	F3	6 層	縄文土器	深鉢	突帯文 4・5 期？		砂粒多く含む	外：橙色 7.5YR7/4 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：ナデ、刻目突帯文 匙面条痕 内：ナデ、匙面条痕	刻目：O 字 or 特殊 D 字
68	4	50-2	F4	7 層	縄文土器	深鉢	突帯文 4・5 期？		砂粒多く含む	外：橙色 5YR6/6 内：橙色 5YR6/6	外：ナデ、刻目突帯文 貝殻条痕 内：ナデ、貝殻条痕	刻目：特殊 O 字？
68	5	50-2	F3	6 層	縄文土器	深鉢	突帯文 4・5 期？		砂粒多く含む	外：褐灰色 10YR5/1 内：褐灰色 10YR5/1	外：ナデ、刻目突帯文 匙面条痕 内：ナデ、匙面条痕	刻目：竹管による O 字
68	6	50-2	F4	6 層	縄文土器	深鉢	突帯文 5 期		砂粒多く含む	外：灰褐色 7.5YR5/2 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：刻目突帯文、ナデ 内：巻貝条痕？	刻目：V 字 外面：煤付着
68	7	50-2	E2	6 層	縄文土器	深鉢	中山 B 式 突帯文 4 期		金雲母 多く含む	外：橙色 7.5YR6/6 内：暗灰色 N3/	外：ナデ、刻目突帯文 沈線文 内：ナデ	
68	8	50-2	F3	6 層	縄文土器	深鉢	中山 B 式 突帯文 4 期		金雲母 多く含む	外：灰黄褐色 10YR5/2 内：暗灰色 N3/	外：ナデ、刻目突帯文 沈線文 内：匙面条痕、ナデ	
68	9	50-2	F4	6 層	縄文土器	深鉢	突帯文期		砂粒多く含む	外：褐灰色 7.5YR5/1 内：暗灰色 N3/	外：円形突帯文、ミガキ 内：ミガキ	外面に赤彩 (分析)
68	10	50-2	F5-G5	6 層	縄文土器	深鉢	突帯文期		砂粒多く含む	外：にぶい褐色 7.5YR6/3 暗灰色 N3/ 内：橙色 5YR6/6	外：ナデ、突帯文 内：ナデ	突帯剥離痕あり
68	11	50-2	F5-E5	6 層	縄文土器	浅鉢	柳浦 C 類		砂粒多く含む	外：褐灰色 10YR4/1 橙色 5YR6/6 内：褐灰色 10YR5/1 黒色 2.5Y2/1	外：ミガキ、沈線文 内：ミガキ	
68	12	50-2	E4	7 層	縄文土器	浅鉢	—		砂粒多く含む	外：橙色 7.5YR6/6 内：黒色 N ＊ 1.5/	外：ミガキ、ナデ 内：ミガキ	

6･7 層　土製品

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	分類	法量 () 内復元値 (cm)	重量 (g)	胎土	色調	備考
68	13	50-2	F3	6 層	土製品	土笛		口径（2.8）	—	砂粒多く含む	外：にぶい橙色 5YR6/4 内：橙色 5YR6/6	外：ナデ、ミガキ 孔 3 ヵ所遺存 内：ナデ、指頭痕
68	14	50-2	F4	6 層	土製品	焼土塊		長さ 8.5、幅 6.4 厚さ 0.6 ～ 2.0	55.95	砂粒多く含む	外：浅黄橙色 10YR8/3 内：にぶい橙色 5YR6/4	土器焼成関連遺物？
68	15	50-2	F5	6 層	土製品	焼土塊		長さ 6.9、幅 4.4 最大厚さ 2.5	52.3	砂粒ほぼ 含まない	外：にぶい橙色 5YR7/4 内：にぶい黄橙色 10YR7/4	土器焼成関連遺物？

6·7 層　石器・玉類

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	法量 () 遺存 / 内復元値 (cm)	重量 (g)	材質	備考
69	1	51-1	F5	7 層	玉類	管玉	直径 0.65、孔径 0.02、長さ 1.55	1.13	碧玉（未定 C 群？）	両面穿孔
69	2	51-1	E2	6·7 層	玉類	臼玉	直径 1.4、孔径 0.5、厚さ 0.9	2.04	不明	両面穿孔
69	3	51-1	F3	7 層	石器	石鏃	長さ 1.6、幅 1.3、厚さ 0.3	0.49	安山岩	
69	4	51-1	F4	6 層	石器	石鏃	長さ 1.6、幅 1.6、厚さ 0.3	0.47	安山岩	
69	5	51-1	E2	6 層	石器	石鏃	長さ 1.6、幅 1.0、厚さ 0.2	0.34	安山岩	
69	6	51-1	F4	6 層	石器	石鏃	長さ 1.6、幅 1.8、厚さ 0.3	0.99	安山岩	
69	7	51-1	F3	6 層	石器	石鏃	長さ 1.4、幅 2.0、厚さ 0.4	0.82	黒曜石	
69	8	51-1	F4	6 層	石器	石鏃	長さ 1.9、幅 1.4、厚さ 0.2	0.49	黒曜石	
69	9	51-1	F3	6 層	石器	楔形石器	長さ 3.1、幅 2.4、厚さ 0.8	6.29	安山岩	
69	10	51-1	F4	6 層	石器	楔形石器	長さ 1.4、幅 1.6、厚さ 0.3	2.05	緑色凝灰岩	
69	11	51-1	F3	6 層	石器	楔形石器	長さ 1.8、幅 2.3、厚さ 0.9	1.67	瑪瑙	
69	12	51-1	F3	6 層	石器	石核	長さ 3.8、幅 3.6、厚さ 1.9	27.95	安山岩	
69	13	51-1	F3	6 層	石器	石核	長さ 2.0、幅 4.8、厚さ 1.5	16.67	安山岩	
69	14	51-1	E2	7 層	石器	石核	長さ 4.4、幅 2.1、厚さ 1.7	14.55	黒曜石	
69	15	51-1	F2	6 層	石器	石核	長さ 3.3、幅 3.2、厚さ 1.7	12.76	黒曜石	
69	16	51-1	F3	6 層	石器	石核	長さ 11.3、幅 7.9、厚さ 6.9	530.0	緑色凝灰岩	
69	17	51-1	E4	7 層	石器	RF	長さ 3.65、幅 2.6、厚さ 0.65	5.7	安山岩	
69	18	51-1	E3	6 層	石器	スクレイパー	長さ 5.0、幅 6.0、厚さ 1.4	32.75	安山岩	
69	19	51-1	F3	6 層	石器	石錐	長さ 5.0、幅 1.4、厚さ 0.6	4.45	安山岩	
69	20	51-1	F3	6 層	石器	石錐	長さ 1.8、幅 1.2、厚さ 0.8	1.40	黒曜石	未成品？
70	1	51-2	F3	6 層	石器	転石	長さ 30.1、幅 13.9、厚さ 9.8	3710.0	塩基性片岩	磨製石斧原石？
71	1	51-2	F2·F3	6 層	石器	素材剥片	長さ 15.5、幅 10.7、厚さ 6.5	1007.77	塩基性片岩	磨製石斧素材Ⅰ類
71	2	51-2	F3	6 層	石器	素材剥片	長さ 18.2、幅 9.9、厚さ 7.3	1777.10	塩基性片岩	磨製石斧素材Ⅱ類
71	3	51-2	F4	6 層	石器	素材剥片	長さ 19.4、幅 9.6、厚さ 2.5	694.5	塩基性片岩	磨製石斧素材Ⅲ類
71	4	51-2	F3	6 層	石器	素材剥片	長さ 16.8、幅 7.6、厚さ 2.6	619.6	塩基性片岩	磨製石斧素材Ⅰ類
72	1	52-1	F3	6 層	石器	磨製石斧	長さ 15.8、幅 9.1、厚さ 6.1	1210.31	塩基性片岩	未成品（剥離段階）Ⅰb類
72	2	52-1	F4	6 層	石器	磨製石斧	長さ 12.2、幅 7.2、厚さ 2.7	303.56	塩基性片岩	未成品（剥離段階）Ⅱ類
72	3	52-1	F3	6 層	石器	磨製石斧	長さ 14.0、幅 6.2、厚さ 5.0	632.32	塩基性片岩	未成品（剥離段階）Ⅰb類
72	4	52-1	F3	6 層	石器	磨製石斧	長さ 17.7、幅 9.4、厚さ 5.5	1076.99	塩基性片岩	未成品（剥離段階）Ⅰb類
72	5	52-1	F3	6 層	石器	磨製石斧	長さ 17.25、幅 6.4、厚さ 5.8	888.06	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰb類
72	6	52-1	E4	6 層	石器	磨製石斧	長さ 18.6、幅 7.8、厚さ 3.3	664.46	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅱ類
72	7	52-1	E2	6 層	石器	磨製石斧	長さ 16.6、幅 6.5、厚さ 3.7	457.34	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰ1類
73	1	52-2	E2	6 層	石器	磨製石斧	長さ 17.5、幅 5.6、厚さ 3.8	478.72	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰa1類
73	2	52-2	E2	6 層	石器	磨製石斧	長さ 20.7、幅 5.2、厚さ 4.6	593.55	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰb類
73	3	52-2	E2	6 層	石器	磨製石斧	長さ 16.2、幅 7.8、厚さ 4.5	834.10	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅱ類
73	4	52-2	F4	6 層	石器	磨製石斧	長さ 17.4、幅 7.2、厚さ 5.0	910.68	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰb1類
73	5	52-2	F3	6 層	石器	磨製石斧	長さ 17.1、幅 6.1、厚さ 5.5	762.10	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰa類
73	6	52-2	F3	6 層	石器	磨製石斧	長さ 13.4、幅 6.8、厚さ 4.2	644.52	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰ1類
73	7	52-2	F3	6 層	石器	磨製石斧	長さ 14.3、幅 7.2、厚さ 5.2	747.19	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰb1類
73	8	52-2	F3	6 層	石器	磨製石斧	長さ 9.0、幅 4.7、厚さ 3.1	276.55	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰb類
73	9	52-2	F3	6 層	石器	磨製石斧	長さ 12.1、幅 6.0、厚さ 5.1	458.19	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰa類
74	1	53-1	F3	6 層	石器	磨製石斧	長さ 18.5、幅 5.7、厚さ 5.7	842.28	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰb1類
74	2	53-1	F3	6 層	石器	磨製石斧	長さ 13.7、幅 8.6、厚さ 4.7	867.76	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰ1類
74	3	53-1	E2	6 層	石器	磨製石斧	長さ 17.8、幅 6.6、厚さ 5.3	750.08	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰa類
74	4	53-1	F3	6 層	石器	磨製石斧	長さ 19.5、幅 8.0、厚さ 6.9	1232.53	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰa類
74	5	53-1	F3	6 層	石器	磨製石斧	長さ（11.7）幅（4.8） 厚さ（4.3）	319.46	塩基性片岩	
74	6	53-1	F4	6 層	石器	磨製石斧	長さ 7.2、幅 6.2、厚さ 3.5	232.31	塩基性片岩	1類
74	7	53-1	F4	6 層	石器	小型石斧	長さ 9.9、幅 4.2、厚さ 1.0	54.11	塩基性片岩	磨製石斧再加工？　Ⅲ類
74	8	53-1	E2·E3	6 層	石器	打製石斧	長さ 10.5、幅 6.6、厚さ 2.2	195.43	塩基性片岩？	
74	9	53-1	F3	6 層	石器	打製石斧	長さ 12.3、幅 7.5、厚さ 1.5	302.44	不明	
75	1	53-2	F3	6 層	石器	打製石斧？	長さ 9.9、幅 9.6、厚さ 2.1	236.13	塩基性片岩	
75	2	53-2	F3	6 層	石器	砥石	長さ 12.0、幅 4.5、厚さ 3.5	259.50	不明	
75	3	53-2	F3	6 層	石器	敲石	長さ 17.9、幅 5.5、厚さ 2.3	325.22	塩基性片岩	
75	4	53-2	F3	6 層	石器	敲石	長さ 6.5、幅 9.5、厚さ 5.4	581.64	花崗岩	両面使用
75	5	53-2	E3	7 層	石器	磨凹石	長さ（6.4）幅 9.4、厚さ 5.5	581.64	花崗岩	両面使用
75	6	53-2	F3	6 層	石器	磨石	長さ 13.6、幅 8.8、厚さ 6.6	583.60	不明	
76	1	53-2	F2	6 層	石器	磨石	長さ 13.6、幅 6.6、厚さ 6.4	580.86	不明	
76	2	53-2	F2	6 層	石器	磨石	長さ 7.9、幅 7.7、厚さ 4.7	382.20	不明	
76	3	53-2	E2	7 層	石器	台石	長さ 14.5、幅（14.7）厚さ 5.0	1950.0	不明	
76	4	53-2	E3	6 ～ 7 層	石器	石錘	長さ 7.1、幅 5.9、厚さ 5.5	322.71	不明	

6·7 層　金属製品

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	分類	法量 () 遺存 / 内復元値 (cm)	重量 (g)	備考
76	5	53-2	F6	6 層	鉄製品	鉄鏃	柳葉形	長さ（4.6）、幅 1.8、厚さ 0.3	8.01	
76	6	53-2	F6	6 層	鉄製品	棒状		長さ（2.2）、幅 0.6、厚さ 0.4	1.36	
76	7	53-2	F6	6 層	鉄製品	不明		長さ 5.0、幅 2.9、厚さ不明	67.03	

第32表　遺物観察表（8 ～ 10層出土遺物）

8 ～ 10 層　弥生土器・縄文土器

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	分類	法量 () 内復元 (cm)	胎土	色調	文様·調整その他	備考
77	1	54-1	H8	8·9 層	弥生土器	甕	石見Ⅴ -1 様式	口径（20.4）	砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：ヨコナデ、凹線文 3 条 重層刻目文 内：ヨコナデ、ケズリ	
77	2	54-1	H8	8·9 層	弥生土器	甕	石見Ⅴ -1 ～ 2 様式		砂粒多く含む	外：灰黄褐色 10YR6/2 内：灰白色 10YR8/2	外：刺突文、ハケ 内：ケズリ	
77	3	54-1	H8	8·9 層	弥生土器	壺	石見Ⅲ・Ⅳ様式？	底径（8.6）	砂粒多く含む	外：灰褐色 7.5YR5/2 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：ナデ、工具押圧痕 内：ケズリ	
77	4	54-1	H8	8·9 層	弥生土器	高坏	吉備系 石見Ⅴ -1 様式	底径（12.4）	砂粒多く含む	外：浅黄橙色 10YR8/3 内：浅黄橙色 10YR8/3	外：ヨコナデ 縦位櫛描直線文 ハケ、凹線文 3 条 内：ケズリ	
77	5	54-1	E2	10 層	弥生土器	蓋？	前期？	口径（8.2） 器高 4.3 摘み径 3.2	砂粒多く含む	外：浅黄色 2.5Y7/3 内：浅黄橙色 10YR8/3	外：調整不明 内：調整不明	
77	6	54-1	G7	10-2 層	縄文土器	深鉢	波子式 中期		砂粒多く含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：にぶい黄橙色 10YR7/4	外：ナデ、沈線文 2 条、LR 内：ナデ	外面折返し口縁
77	7	54-1	F6	10-2 層	縄文土器	深鉢	里木Ⅱ式？ 中期		砂粒多量含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/4 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：撚糸文 内：ナデ	
77	8	54-1	F6	10-2 層	縄文土器	深鉢	矢部奥田式類似 中期末？		砂粒多量含む	外：浅黄橙色 10YR8/3 褐灰色 5YR5/1 内：浅黄橙色 10YR8/3	外：ナデ 連弧状沈線文 3 段 内：ナデ	
77	9	54-1	F6	10-2 層	縄文土器	深鉢	矢部奥田式類似 中期末？		砂粒多量含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/4 灰黄褐色 10YR5/2 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：LR、連弧状沈線文 3 段 内：ナデ	
77	10	54-1	F6	10-2 層	縄文土器	鉢	矢部奥田式類似 中期末？		砂粒多量含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：褐灰色 10YR4/1	外：LR、重孤文？ 内：ナデ	
77	11	54-1	F6	10-2 層	縄文土器	深鉢	矢部奥田式類似 中期末？		砂粒多く含む	外：橙色 5YR6/6 内：にぶい橙色 7.5YR6/4	外：RL、ナデ、沈線文 内：ナデ	
77	12	54-1	F6	10-2 層	縄文土器	深鉢	矢部奥田式類似 中期末？		砂粒多く含む	外：にぶい黄褐色 10YR5/3 内：にぶい褐色 7.5YR5/4	外：RL、円形波状文 沈線文 3 条 内：巻貝条痕？	
77	13	54-1	F6	10-2 層	縄文土器	深鉢	中期末		砂粒多量含む	外：明黄褐色 10YR7/6 内：にぶい黄橙色 10YR6/4	外：RL、磨消縄文 内：ナデ	
77	14	54-1	F5·E5	10-2 層	縄文土器	鉢	中期末		砂粒少量含む	外：黒褐色 10YR3/1 内：黒褐色 10YR3/1	外：ナデ、隆帯文、刺突文 内：ナデ	
77	15	54-1	F6	10-2 層	縄文土器	深鉢	中期末		砂粒多く含む	外：灰白色 10YR8/2 内：灰白色 10YR8/2	外：ナデ、RL、刺突文 隆帯文（花弁状？） 内：ナデ	刺突文：二枚貝腹縁
77	16	54-1	F3	8·9 層	縄文土器	深鉢	中期末		砂粒多く含む	外：黒褐色 7.5YR3/1 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：ナデ、刻目隆帯文 内：ナデ	
77	17	54-1	F5·E5	10-2 層	縄文土器	鉢	中期末		砂粒僅かに含む	外：にぶい橙色 5YR7/4 内：褐灰色 7.5YR4/1	外：ナデ 内：ナデ	
77	18	54-1	G7	10-2 層	縄文土器	浅鉢	暮地式 後期		砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/4 内：にぶい黄橙色 10YR6/4 にぶい橙色 7.5YR6/4	外：ミガキ、RL、磨消縄文 内：ミガキ	
77	19	54-1	F5	10-2 層	縄文土器	深鉢	布勢式併行 後期		砂粒多く含む	外：にぶい褐色 7.5YR5/4 浅黄橙色 7.5YR8/6 内：橙色 5YR6/6	外：匙面条痕、羽状文 内：ナデ？	
77	20	54-1	F6	10-2 層	縄文土器	深鉢	後期		砂粒少量含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：橙色 5YR6/6	外：ナデ、RL 内：ナデ	
77	21	54-1	E3	10 層	縄文土器	浅鉢	布勢式併行 後期		砂粒少量含む	外：褐灰色 10YR5/4 内：にぶい黄褐色 10YR5/4	外：ミガキ、沈線文 2 条 刻目突帯文 内：ミガキ	
77	22	54-1	E4	10 層	縄文土器	屈曲形 浅鉢	暮地式 ～布勢式併行 後期		砂粒少量含む	外：灰黄褐色 10YR5/2 内：灰黄褐色 10UT5/2	外：ミガキ、刻目 内：ミガキ	
77	23	54-1	F5·E5	10-2 層	縄文土器	ボウル形 浅鉢	暮地式 ～布勢式併行 後期		砂粒少量含む	外：黒色 N2/ 内：黒色 N2/	外：ミガキ、沈線文 1 条 内：ミガキ	
77	24	54-1	E4	8 層	縄文土器	深鉢	暮地式 ～布勢式併行 後期	底径（10.0）	砂粒多く含む	外：黄灰色 2.5Y5/1 内：浅黄色 2.5Y7/3	外：ナデ 内：ナデ	
77	25	54-1	F4	10 層	縄文土器	浅鉢	暮地式 ～布勢式併行 後期	底径（9.2）	砂粒多く含む	外：黄灰色 2.5Y4/1 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：ミガキ 内：ミガキ	
77	26	54-1	E3	10 層	縄文土器	深鉢	原田式 晩期中葉		砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/4 内：にぶい黄橙色 10YR6/4	外：巻貝条痕、ナデ 内：ナデ、刻目	
77	27	54-1	E3	8 層	縄文土器	方形浅鉢	原田式 晩期中葉		砂粒多く含む	外：灰黄色 2.5Y6/2 内：灰黄色 2.5Y3/1	外：ミガキ 内：ミガキ	

8 ～ 10 層　石器

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	法量 () 遺存 / 内復元値 (cm)	重量 (g)	材質	備考
78	1	54-2	F6	10 層	石器	盤状石核	長さ 17.8、幅 12.6、厚さ 3.5	1900.0	安山岩	石器素材
78	2	54-2	F2	8·9 層	石器	石鋸？	長さ（3.2）幅（5.5）、厚さ（0.7）	13.9	泥質片岩	
78	3	54-2	F3	10 層	石器	磨製石斧	長さ（11.0）幅（4.5）、厚さ 3.65	274.0	塩基性片岩	Ⅰ a 類
78	4	54-2	E2	8 層	石器	石斧	長さ（9.2）幅 2.3、厚さ 2.0	68.15	塩基性片岩	Ⅲ類
78	5	54-2	F3	10 層	石器	不明	長さ（6.7）幅 4.8、厚さ 1.6	63.32	緑色凝灰岩	
78	6	54-2	F3	10 層	石器	軽石加工品	長さ 10.8、幅（9.4）、厚さ 3.5	290.0	デイサイト	全面研磨

第33表　遺物観察表（縄文時代遺構出土遺物）

縄文時代遺構　縄文土器・土製品

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	遺構	器種	分類	法量 () 内復元 (cm)	胎土	色調	文様·調整その他	備考
85	1	55-2	E3	1440	深鉢？	後期		石英、角閃石含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：沈線文、ナデ 内：ナデ	
86	1	56-1	E3	1448	深鉢	中期		石英、雲母、角閃石 ハイカ含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/4 内：灰黄褐色 10YR5/2	外：縄文 LR 内：ナデ	
86	2	56-1	E3	1448	深鉢	中期		石英、雲母、角閃石 ハイカ含む	外：にぶい黄色 7.5YR7/4 内：浅黄橙色 10YR8/3	外：縄文 LR 内：ナデ	
86	3	56-1	E3	1448	深鉢	中期末		石英、ハイカ 角閃石含む	外：にぶい褐色 7.5YR6/3 にぶい橙色 7.5YR7/4 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：段＋刻目、ナデ 内：ナデ	
86	4	56-1	E3	1448	深鉢	中期末？		石英、ハイカ 角閃石含む	外：にぶい褐色 7.5YR6/3 内：にぶい橙色 7.5YR6/4	外：段 or 隆帯＋刻目、ナデ 内：ナデ	
86	5	56-1	E3	1448	深鉢	中期末？		石英、ハイカ含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：にぶい褐色 7.5YR6/3	外：二枚貝条痕 内：ナデ	
86	6	56-1	E3	1448	深鉢	中期 底部Ⅲ類		石英、ハイカ 角閃石含む	外：明黄褐色 10YR7/6 内：橙色 7.5YR6/6	外：胴部縄文 LR 内：底：ナデ	
88	1	57-1	E3	1447	深鉢	中期		石英、金雲母（多） 含む	外：黒褐色 7.5YR3/1 内：灰褐色 7.5YR5/2	外：半截竹管押引 2 列以上、 刻目、ナデ 内：ナデ	
88	2	57-1	E3	1447	深鉢	中期		石英、角閃石 ハイカ含む	外：灰褐色 7.5YR6/2 内：灰白色 10YR8/2	外：刺突、縄文 LR 内：ナデ	内面折返し口縁
88	3	57-1	E3	1447	深鉢	中期末		石英、角閃石 ハイカ含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：段＋刻目、ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	
88	4	57-1	E3	1447	深鉢	中期		石英、角閃石 ハイカ含む	外：灰褐色 7.5YR6/2 内：明褐灰色 7.5YR7/2	外：縄文 LR、ナデ 内：ナデ	外面折返し口縁２段
88	5	57-1	E3	1447	深鉢	中期		石英、角閃石 ハイカ含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：ナデ 内：ナデ	外面折返し口縁２段
88	6	57-1	E3	1447	浅鉢？	後期		石英、ハイカ 雲母含む	外：にぶい橙色 7.5YR 内：にぶい黄橙色 10YR7/4	外：磨消縄文 RL、ミガキ 内：ミガキ	
88	7	57-1	E3	1447	浅鉢？	後期 底部Ⅰ類	底径（9.0）	石英、雲母 ハイカ含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/4 内：灰白色 10YR7/1	外：磨消縄文 RL（３本沈線）	
88	8	57-1	E3	1447	深鉢	後期		石英、角閃石 ハイカ含む	外：灰白色 10YR8/2 内：灰白色 10YR8/2	外：U 字状浮線（縄文 RL） 沈線文、ナデ 内：ナデ	
88	9	57-1	E3	1447	深鉢	後期 底部Ⅰ類	底径（10.6）		外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：巻貝条痕＋ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	
88	10	57-1	E3	1447	深鉢	後期 無文Ⅱ類		ハイカ、石英 角閃石含む	外：黄橙色 10YR7/6 内：明黄褐色 10YR6/6	外：匙面条痕 内：二枚貝条痕	
89	6	56-2	E3	1447	深鉢	後期 底部Ⅱ類	底径 10.6	石英、ハイカ 角閃石含む	外：灰白色 10YR8/2 内：灰白色 10YR8/1 ～ 8/2	外：ケズリ状 内：ナデ	
89	7	57-1	E3	1447	深鉢	後期 無文Ⅱ類	口径（17.4）	角閃石含む	外：にぶい橙色 5YR7/3 内：にぶい橙色 5YR7/3	外：匙面条痕？＋ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	
89	8	56-2	E3	1447	深鉢	後期 無文Ⅰ類	口径（30.8）	石英、ハイカ 角閃石、金雲母含む	外：灰白色 10YR8/2 内：灰白色 10YR8/2	外：ナデ 内：二枚貝条痕·ナデ	
90	1	57-2	D3	1248	浅鉢	暮地 浅鉢Ⅲ類		石英、雲母含む	外：にぶい赤褐色 5YR5/3 内：にぶい褐色 7.5YR5/3	外：磨消縄文 RL ＋刻目 ミガキ 内：ミガキ	
90	2	57-2	D3	1248	深鉢	後期 無文Ⅱ類		石英、ハイカ 雲母、角閃石含む	外：にぶい褐色 7.5YR6/3 内：灰褐色 7.5YR6/2	外：巻貝条痕、 内：巻貝条痕＋ナデ	
91	1	57-2	D3	1307	深鉢	船元・波子		石英、金雲母含む	外：灰黄褐色 10YR6/2 内：灰黄褐色 10YR6/2	外：縄文 LR 内：ナデ	
91	2	57-2	D3	1307	深鉢	船元・波子		石英、ハイカ 角閃石含む	外：にぶい褐色 7.5YR6/3 内：にぶい褐色 7.5YR6/3	外：縄文 LR 内：ナデ	
91	3	57-2	D3	1307	深鉢	船元・波子		石英、ハイカ 角閃石、雲母含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：縄文 LR 内：ナデ	
92	1	57-2	D3	1316	深鉢	船元・波子 底部Ⅲ類	底径（9.1）	石英、角閃石 ハイカ含む	外：橙色 7.5YR7/6 内：浅黄橙色 10YR8/4	外：縄文 LR ？、ナデ 内：ナデ	
93	1	57-2	D3	1317	深鉢	船元		石英、ハイカ含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：灰黄褐色 10YR6/2	外：縄文 LR 内：ナデ	
96	1	57-2	D2	1379	深鉢	船元		石英、ハイカ含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/3 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：縄文 RL、爪形文 内：ナデ	
96	2	57-2	D2	1379	鉢	後期		石英、ハイカ含む	外：灰黄褐色 10YR5/2 内：灰黄褐色 10YR5/2	外：段、ミガキ 内：ミガキ	
96	3	57-2	D2	1379	深鉢	後期 無文Ⅱ類		石英含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：ナデ 内：ナデ	
96	4	57-2	D2	1379	深鉢	中期 底部Ⅲ類	底径（6.8）	石英、ハイカ含む	外：灰黄褐色 10YR5/2 内：灰黄褐色 10YR5/2	外：側面縄文？、ナデ 内：ナデ	
97	1	57-2	E3	1426	深鉢	後期 無文Ⅱ類		石英、ハイカ 角閃石、金雲母含む	外：灰黄褐色 10YR6/2 内：灰黄褐色 10YR6/2	外：巻貝条痕＋ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	
97	2	57-2	E3	1426	深鉢	後期無文 Ⅱ類		石英、角閃石 ハイカ含む	外：灰黄褐色 10YR6/2 灰白色 10YR8/1 内：にぶい黄橙色 10YR7/2 灰白色 10YR8/1	外：巻貝条痕＋ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	
97	3	61-1	E3	1426	深鉢	後期 底部Ⅱ類	底径 10.1	石英、角閃石 ハイカ含む	外：浅黄橙色 10YR8/3 内：浅黄橙色 10YR8/3	外：巻貝条痕·ナデ 内：巻貝条痕·ナデ	
97	4	57-2	E3	1426	深鉢	後期		石英、角閃石 金雲母含む	外：灰白色 7.5YR8/2 内：浅黄橙色 7.5YR8/3	外：巻貝条痕＋ナデ 内：ナデ	
97	5	57-2	E3	1426	壺	後期		石英、ハイカ 金雲母含む	外：黒色 2.5Y2/1 内：黒色 2.5Y2/1	外：ミガキ 内：ミガキ	
99	1	59-1	D2	1428	深鉢	布勢		石英、ハイカ含む	外：にぶい橙色 5YR7/4 内：褐灰色 5YR5/1	外：沈線文、ナデ 内：ナデ	
99	2	59-1	D2	1428	浅鉢	後期		石英、ハイカ含む	外：灰黄褐色 10YR5/2 内：黒褐色 10YR3/1	外：矩形沈線文、ミガキ 内：ミガキ	
99	3	59-1	D2	1428	深鉢	後期 無文Ⅱ類		石英、金雲母 ハイカ含む	外：灰褐色 7.5YR5/2 内：灰褐色 7.5YR5/2	外：巻貝条痕＋ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	
100	1	59-1	E3	1430	浅鉢	後期 浅鉢Ⅱｂ類		石英、金雲母 ハイカ含む	外：灰黄褐色 10YR4/2 ～ 6/2 内：褐灰色 10YR4/1 ～にぶい黄橙色 10YR6/3	外：ミガキ 内：ミガキ	
100	2	59-1	E3	1430	浅鉢	後期 浅鉢Ⅲ類		石英含む	外：灰褐色 7.5YR5/2 内：黒色 7.5YR2/1	外：ミガキ 内：ミガキ	内面段
100	3	59-1	E2	1430	浅鉢？	後期 浅鉢Ⅱｂ類？		石英含む	外：にぶい橙色 5YR6/4 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：粗いミガキ 内：ナデ	
102	1	59-1	E3	1433	鉢？	後期		石英、金雲母 ハイカ含む	外：明褐灰色 7.5YR7/2 内：明褐灰色 7.5YR7/2	外：ナデ 内：ミガキ	
102	2	59-1	E3	1433	深鉢	後期 無文		石英、金雲母含む	外：灰褐色 7.5YR5/2 内：褐灰色 7.5YR4/1	外：巻貝条痕＋ナデ 内：ナデ	
103	1	59-1	E2	1439	深鉢	船元·波子		石英、ハイカ含む	外：明褐灰色 7.5YR7/2 内：明褐灰色 7.5YR7/2	外：縄文 LR 内：ナデ	

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	遺構	器種	分類	法量 () 内復元 (cm)	胎土	色調	文様・調整その他	備考
104	1	59-2	F3	1468	深鉢	後期 無文Ⅱ類		石英、ハイカ 金雲母含む	外：灰褐色 7.5YR6/2 内：灰褐色 7.5YR6/2	外：巻貝条痕＋ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	
104	2	59-2	F3	1468	深鉢	後期 無文Ⅱ類		石英、ハイカ 金雲母含む	外：明褐灰色 7.5YR7/2 内：明褐灰色 7.5YR7/2	外：ナデ 内：ナデ	
104	3	59-2 61-1	F3	1468	深鉢	後期 底部Ⅱ類	底径 10.7	石英、ハイカ 角閃石含む	外：浅黄橙色 10YR8/3 内：浅黄橙色 10YR8/3	外：巻貝条痕＋ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	
105	1	59-1	F3	1469	浅鉢？	後期 無文		石英、ハイカ含む	外：にぶい褐色 7.5YR5/4 内：にぶい橙色 7.5YR6/4	外：粗いミガキ 内：ナデ	
105	2	59-1	F3	1469	深鉢	後期 無文		金雲母、石英 角閃石含む	外：黄褐色 10YR5/6 内：にぶい黄褐色 10YR5/4	外：匙面条痕＋ナデ 内：ナデ	
105	3	59-1	F3	1469	浅鉢	後期		石英、ハイカ 角閃石含む	外：褐色 10YR4/6 内：褐色 10YR4/6	外：ミガキ 内：ミガキ	
106	1	59-1	E2	1425	深鉢	後期		ハイカ、石英 角閃石含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/3 灰黄褐色 10YR6/2 内：にぶい黄橙色 10YR6/4	外：斜行沈線文、ナデ 内：ナデ	
106	2	59-1	E2	1425	浅鉢	後期 浅鉢Ⅱａ類		ハイカ、石英含む	外：にぶい赤褐色 5YR5/4 内：褐灰色 10YR4/1	外：沈線文、ミガキ 内：ミガキ	
106	3	59-1	E2	1425	浅鉢	後期 浅鉢Ⅱａ類		石英、ハイカ 角閃石、金雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/3 内：褐灰色 10YR4/1	外：沈線文、ミガキ 内：ミガキ	
106	4	59-2	E2	1425	浅鉢	後期 浅鉢Ⅱａ類		石英、ハイカ 角閃石含む	外：明赤褐色 2.5YR5/6 ～にぶい褐色 7.5YR5/3 内：褐色 7.5YR4/3 ～にぶい褐色 7.5YR5/4	外：沈線文、ミガキ 内：ミガキ	
106	5	61-1	E2	1425	浅鉢	後期 浅鉢Ⅲ類	口径 31.5、 器高 10.0、 底径 9.3	石英、ハイカ 金雲母含む	外：褐色 7.5YR4/3 内：灰褐色 7.5YR5/2	外：刻目、ミガキ 内：ミガキ	
106	6	59-1	E2	1425	浅鉢	後期 浅鉢Ⅳ類		石英、ハイカ 角閃石含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/4	外：ミガキ 内：ミガキ	
106	7	59-1	E2	1425	浅鉢	後期 浅鉢Ⅳ類		石英、ハイカ含む	外：にぶい褐色 7.5YR5/4 内：灰褐色 7.5YR4/2	外：ミガキ 内：ミガキ	
106	8	59-1	E2	1425	壺	後期		石英、ハイカ含む	外：灰白色 10YR8/2 ～褐灰色 10YR4/1 内：黒色 2.5Y2/1 暗灰黄色 2.5Y4/2	外：ミガキ 内：ミガキ	
106	9	59-2	E2	1425	壺 or 鉢	後期		石英含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：褐灰色 10YR5/1	外：縄文無節 R 内：巻貝条痕	
106	10	59-2	E2	1425	浅鉢	後期 底部Ⅱ類		石英、ハイカ 金雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：ミガキ 内：ミガキ	
106	11	59-2	E2	1425	浅鉢	後期 底部Ⅲ類	底径（8.2）	石英、ハイカ 角閃石含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/3 内：灰黄褐色 10YR6/2 ～灰白色 10YR8/2	外：ミガキ 内：ミガキ	
106	12	59-2	E2	1425	深鉢	後期 無文Ⅱ類	口径（20.2）	石英、ハイカ 金雲母含む	外：灰赤色 2.5YR5/2 内：赤灰色 2.5YR4/1	外：巻貝条痕＋ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	
106	13	60-1	E2	1425	鉢	後期	口径（15.0）	ハイカ、金雲母含む	外：にぶい橙色 5YR7/4 内：にぶい橙色 7.5YR6/4	外：ナデ 内：匙面条痕＋ナデ	
107	1	60-1	E2	1425	深鉢	後期 無文Ⅱ類		石英、ハイカ含む	外：淡黄色 2.5Y8/3 内：灰白色 10YR8/2	外：ナデ 内：ナデ	
107	2	60-1	E2	1425	深鉢	後期 無文Ⅱ類		石英、ハイカ 角閃石、金雲母含む	外：灰褐色 5YR4/2 ～黒褐色 5YR3/1 内：明赤褐色 2.5YR5/6 にぶい黄色 2.5Y6/3	外：ナデ 内：ナデ	
107	3	60-1	E2	1425	深鉢	後期 無文Ⅱ類		石英、ハイカ 角閃石、金雲母含む	外：灰白色 10YR8/2 ～灰黄褐色 10YR6/2 内：にぶい黄橙色 10YR6/2	外：巻貝条痕＋ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	
107	4	60-2	E3	1425	深鉢	後期 無文Ⅰ類	口径（19.1） 器高 45.1 底径 9.8	石英、ハイカ 角閃石、金雲母含む	外：橙色 5YR6/6 内：浅黄橙色 7.5YR8/4	外：匙面条痕＋ナデ 内：匙面条痕＋ナデ	底部Ⅱ類
107	5	60-1	E2	1425	深鉢	後期 底部Ⅱ類	底径（22.8）	石英、ハイカ 金雲母含む	外：淡黄色 2.5Y8/4 内：灰黄色 2.5Y7/2	外：ナデ、底ケズリ（凹面作出） 内：ナデ	
107	6	60-1	E2	1425	深鉢	後期 底部Ⅰ類	底径（9.0）	石英、ハイカ 金雲母含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：ナデ 内：ナデ	
108	1	60-1	E2	1424	深鉢	後期 無文Ⅱ類		石英、ハイカ含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/4 内：にぶい褐色 7.5YR6/3	外：巻貝条痕＋ナデ 内：ナデ	
108	2	60-1	E2	1424	深鉢	後期 無文Ⅱ類		石英、ハイカ 金雲母含む	外：にぶい褐色 7.5YR6/3 内：にぶい橙色 7.5YR6/4	外：巻貝条痕＋ナデ 内：ナデ	
108	3	60-1	E2	1424	深鉢	後期 無文Ⅱ類		石英、ハイカ 金雲母含む	外：灰白色 7.5YR8/2 内：灰白色 7.5YR8/2	外：巻貝条痕＋ナデ 内：ナデ	
108	4	61-1	E2	1424	鉢	後期	口径（14.2） 器高 7.75	石英、ハイカ 金雲母含む	外：橙色 5YR6/6 内：橙色 10YR6/6	外：刻目、巻貝条痕＋ナデ 内：ナデ	丸底
108	5	60-1	E2	1424	深鉢	後期 底部Ⅰ類	底径（11.4）	石英、ハイカ 金雲母含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：ナデ 内：ナデ	
108	6	61-2	E2	1424	浅鉢	後期 浅鉢Ⅰ類		石英、ハイカ 金雲母、角閃石含む	外：明褐灰色 7.5YR7/2 内：明褐灰色 7.5YR7/2	外：ミガキ 内：ミガキ	
108	7	61-2	E2	1424	浅鉢	後期 浅鉢Ⅰａ類		石英、ハイカ 金雲母含む	外：にぶい橙色 5YR7/4 内：にぶい橙色 7.5YR6/4	外：ミガキ 内：ミガキ	
108	8	61-2	E2	1424	浅鉢	後期 底部Ⅱ類	底径 7.8	石英、ハイカ 金雲母含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：褐灰色 7.5YR4/1	外：ナデ 内：ミガキ	
108	9	60-2	E2	1424	深鉢	後期 無文Ⅰ類	口径（30.1） 底径（8.1）	石英、ハイカ 金雲母含む	外：浅黄橙色 10YR8/3 内：浅黄橙色 10YR8/3	外：匙面条痕＋ナデ 内：匙面条痕＋ナデ	底部Ⅰ類
108	10	60-2	E2	1424	深鉢	後期 無文Ⅰ類	口径（22.0）	石英、角閃石含む	外：橙色 5YR6/6 内：にぶい橙色 5YR6/4	外：垂下沈線文？ 同一方向に巻貝条痕＋ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	
111	1	61-2	D3	1352	浅鉢	後期 浅鉢Ⅳ類		石英、ハイカ含む	外：明赤褐色 5YR5/6 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：ミガキ 内：ミガキ	
112	1	61-2	D2	1356	浅鉢	後期 浅鉢Ⅲ類		石英、ハイカ含む	外：にぶい橙色 7.5YR6/4 内：にぶい橙色 7.5YR6/4	外：ミガキ 内：ミガキ	
113	1	61-2	E3	1369	深鉢	布勢	口径（29.4）	石英、ハイカ（多） 金雲母含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：黒褐色 10YR3/1	外：縄文 RL ＋羽状沈線文 内：ナデ	
113	2	61-2	E3	1369	深鉢	後期 無文		石英、ハイカ含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/4 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：二枚貝条痕 内：ナデ	
113	3	61-2	E3	1369	深鉢	後期 底部Ⅱ類	底径（7.0）	石英、ハイカ含む	外：浅黄橙色 10YR8/3 内：浅黄橙色 10YR8/3	外：ナデ 内：ナデ	
114	1	62-1	E3	1370	浅鉢	布勢		石英、金雲母含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：褐灰色 10YR4/1	外：沈線文、ミガキ 内：ミガキ	
114	2	62-1	E3	1370	深鉢	後期 無文Ⅱ類		石英、ハイカ含む	外：にぶい赤褐色 5YR5/4 内：にぶい橙色 5YR6/4	外：ナデ 内：ナデ	
115	1	62-1	D2	1382	浅鉢	後期 浅鉢Ⅰｂ類		石英、ハイカ含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/4 内：褐灰色 10YR5/1	外：ミガキ 内：ミガキ	
115	2	62-1	D2	1382	深鉢	後期 無文Ⅱ類		石英、ハイカ含む	外：橙色 10YR7/6 内：橙色 7.5YR7/6	外：巻貝条痕＋ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	遺構	器種	分類	法量 () 内復元 (cm)	胎土	色調	文様・調整その他	備考
115	3	62-1	D2	1382	深鉢	後期 底部Ⅲ類？		石英、ハイカ含む	外：にぶい橙色 10YR7/4 内：にぶい橙色 10YR7/4	外：ナデ 内：ナデ	
116	1	62-1	E2	1402	深鉢	後期 無文Ⅱ類		石英、ハイカ含む	外：灰黄褐色 10YR6/2 内：灰黄褐色 10YR4/2	外：ナデ 内：ナデ	
116	2	62-1	E2	1402	深鉢	後期 無文Ⅱ類		石英、ハイカ含む	外：黒褐色 10YR3/1 内：黒褐色 10YR3/2	外：ナデ 内：ナデ	
116	3	62-1	E2	1402	深鉢	後期 無文		石英、ハイカ 角閃石、金雲母含む	外：にぶい橙色 5YR6/4 内：黒褐色 5YR2/1	外：ナデ 内：ナデ	
116	4	62-1	E2	1402	深鉢	後期 無文		石英、ハイカ含む	外：浅黄橙色 10YR8/3 内：灰白色 10YR7/1	外：匙面条痕＋ナデ 内：ナデ	
116	5	62-1	E2	1402	深鉢	後期 底部Ⅲ類	底径（8.9）	石英、ハイカ含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/4 内：褐灰色 10YR5/1	外：匙面条痕？＋ナデ 内：ナデ	
117	1	62-1	E2	1354	浅鉢	布勢		石英、雲母含む	外：灰黄褐色 10YR4/2 内：灰黄褐色 10YR4/2	外：沈線文、ミガキ 内：ミガキ	
117	2	62-1	E2	1354	浅鉢	後期 浅鉢Ⅳ類		石英、ハイカ 金雲母含む	外：にぶい黄色 2.5Y6/3 内：灰黄褐色 10YR6/2	外：ミガキ 内：ミガキ	
117	3	62-1	E2	1354	深鉢	後期 無文Ⅰ類		石英、ハイカ 角閃石、金雲母含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：ナデ 内：ナデ	口縁外反
117	4	62-1	E2	1354	土製品		長 4.5 × 3.5、 厚 2.2	石英、ハイカ 角閃石、金雲母含む	外：暗灰黄色 2.5Y5/2	外：丁寧なナデ 内：丁寧なナデ	平面半円形 厚みがある
118	1	62-1	E3	1361	鉢	後期		ハイカ、石英含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/3 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：刻目、横走・垂下細沈線 巻貝条痕 内：巻貝条痕＋ナデ	
118	2	62-1	E3	1361	浅鉢	後期 浅鉢Ⅲ類？		石英含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：褐灰色 10YR4/1	外：ミガキ 内：ミガキ	口縁肥厚
118	3	62-1	E3	1361	深鉢	後期 無文Ⅰ類		石英、ハイカ 金雲母含む	外：灰褐色 7.5YR4/2 内：灰褐色 7.5YR4/2	外：刻目、巻貝条痕 内：ナデ	口縁肥厚
118	4	62-2	E3	1361	深鉢	後期 無文		石英、ハイカ 金雲母（多）含む	外：にぶい褐色 7.5YR6/3 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：巻貝条痕＋ナデ 内：ナデ	
118	5	62-2	E3	1361	壺	後期	口径（9.4） 器高（13.4） 底径（7.0）	石英、ハイカ含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/2 内：灰黄褐色 10YR5/2	外：ミガキ 内：ミガキ	
118	6	62-1	E3	1361	深鉢	後期 底部Ⅲ類	底径（7.2）	石英、ハイカ含む	外：灰白色 10YR8/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/4	外：ナデ 内：ナデ	
119	1	62-2	E2	1397	深鉢	船元・波子		石英、ハイカ含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/3 内：淡黄色 2.5Y8/3	外：縄文 LR 内：ナデ	
119	2	62-2	E2	1397	浅鉢	布勢 浅鉢Ⅱb類		石英含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/4 内：にぶい黄橙色 10YR7/4	外：沈線文、ミガキ 内：ナデ	
119	3	62-2	E2	1397	深鉢	深鉢 無文Ⅰ類		石英、ハイカ、角閃石 金雲母含む	外：にぶい褐色 7.5YR6/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：匙面条痕＋ナデ 内：匙面条痕＋ナデ	
119	4	62-2	E2	1397	壺 or 鉢	後期		石英、金雲母含む	外：黒褐色 7.5YR3/1 内：黒褐色 7.5YR3/1	外：ミガキ 内：ミガキ	
119	5	62-2	E2	1397	浅鉢	後期 浅鉢Ⅲ類	口径（24.2）	石英、角閃石、 金雲母含む	外：灰黄褐色 10YR4/2 内：灰黄褐色 10YR4/2	外：ミガキ 内：ミガキ	
120	1	62-2	E2	1398	深鉢	布勢		石英、ハイカ、 角閃石、金雲母含む	外：橙色 5YR7/6 内：橙色 5YR7/6	外：ミガキ 内：巻貝条痕＋ナデ	
120	2	62-2	E2	1398	深鉢	後期		石英、ハイカ 雲母含む	外：灰黄色 2.5Y6/2 にぶい橙色 7.5YR7/4 内：灰白色 10YR8/1 灰黄褐色 10YR6/2	外：匙面条痕 内：ナデ	
122	1	62-2	E2	1399	浅鉢	布勢		石英、ハイカ含む	外：にぶい赤褐色 5YR5/4 内：暗赤褐色 5YR3/2	外：沈線文、ミガキ 内：ミガキ	
122	2	63-1	E2	1399	浅鉢	後期 浅鉢Ⅱb類		石英、ハイカ 角閃石含む	外：灰黄褐色 10YR4/2 内：灰黄褐色 10YR4/2	外：ミガキ 内：ミガキ	
122	3	63-1	E2	1399	鉢	後期		石英、ハイカ 金雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/3 内：灰黄褐色 10YR4/2	外：刻目、匙面条痕 内：ナデ	
122	4	63-1	E2	1399	深鉢	後期 無文Ⅰ類		石英、ハイカ含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：にぶい褐色 7.5YR5/3	外：刻目、匙面条痕 内：匙面条痕	
122	5	63-1	E2	1399	浅鉢	後期 底部Ⅲ類	底径（10.0）	石英、金雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：灰色 N4/	外：ナデ 内：ミガキ	
122	6	63-1	E2	1399	深鉢	後期 底部Ⅲ類	底径 11.1	石英、ハイカ、金雲母 土器細片含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/5 内：灰白色 10YR8/2	外：ナデ 内：匙面条痕	
122	7	63-1	E2	1399	深鉢	後期 底部Ⅱ類		石英、ハイカ 土器細片含む	外：橙色 5YR7/6 内：灰白色 7.5YR8/1	外：ナデ 内：ナデ	
122	8	63-1	E2	1399	浅鉢	後期 底部Ⅲ類	底径 10.0	石英、ハイカ、 雲母含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：褐灰色 10YR4/1	外：ミガキ 内：ミガキ	
122	10	63-1	E2	1399	浅鉢	後期 浅鉢Ⅰb類	口径（19.8）	石英、ハイカ、 金雲母含む	外：橙色 2.5YR6/6 内：橙色 2.5YR6/8	外：ミガキ 内：ミガキ	
122	11	63-2	E2	1399	深鉢	後期 無文Ⅱ類		石英、ハイカ、雲母 土器細片含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/5 内：浅黄橙色 7.5YR8/5	外：巻貝条痕 内：巻貝条痕	
122	12	63-2	E2	1399	深鉢	後期 無文Ⅱ類	口径（27.4）		外：浅黄橙色 10YR8/4 内：灰白色 10YR8/2	外：匙面条痕＋ナデ 内：ナデ	
122	13	64-1	E2	1399	深鉢	後期 無文Ⅱ類	口径 28.0 器高 21.75 底径 9.5	石英、ハイカ、雲母 土器細片含む	外：橙色 5YR7/6 内：橙色 5YR7/6	外：巻貝条痕 内：巻貝条痕＋ナデ	補修孔 2 個あり
122	14	64-1	E2	1399	深鉢	後期 無文Ⅱ類	口径（26.4） 器高（34.2） 底径 10.2	石英、ハイカ、 土器細片含む	外：橙色 7.5YR7/6 ～浅黄橙色 7.5YR8/3 内：にぶい黄橙色 10YR6/4 ～浅黄橙色 10YR8/3	外：巻貝条痕 内：二枚貝条痕	
122	15	63-2	E2	1399	深鉢	後期 無文Ⅱ類	口径（32.0）	石英、ハイカ、角閃石 金雲母含む	外：にぶい橙色 7.5YR6/4 内：にぶい黄橙色 10YR7/4	外：匙面条痕＋ナデ 内：匙面条痕＋ナデ	吹きこぼれ痕あり
124	1	64-2	D2	1419	深鉢	波子		石英、ハイカ、 雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：刺突文、縄文 LR、ナデ 内：ナデ	内面折返し口縁
124	2	64-2	D2-E2	1419	深鉢	波子		石英、ハイカ含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/2 内：灰黄褐色 10YR5/2	外：縄文 LR（口唇含む） 内：縄文 LR、ナデ	内面折返し口縁
124	3	64-2	D2	1419 （1378）	深鉢	波子		石英、ハイカ含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：短沈線文、縄文 LR 内：ナデ、口縁縄文 LR	外面折返し口縁
124	4	64-2	D2	1419	深鉢	波子		石英含む	外：灰黄褐色 10YR6/2 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：横走沈線文、縄文 LR 内：ナデ	
124	5	64-2	D2	1419	深鉢	波子		石英、ハイカ含む	外：灰黄褐色 10YR4/2 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：刺突文 2 列以上、ナデ 内：ナデ	
124	6	64-2	D2	1419	深鉢	船元・波子		石英、ハイカ、 角閃石含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/4 内：にぶい黄橙色 10YR7/4	外：縄文 RL 内：ナデ	
124	7	64-2	D2	1419 （1400）	深鉢	船元・波子		石英、ハイカ含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/4 内：にぶい黄橙色 10YR7/4 浅黄橙色 10YR8/4	外：縄文 RL 内：ナデ	
124	8	64-2	D2	1419 （1381）	深鉢	船元・波子		ハイカ含む	外：にぶい橙色 5YR6/4 内：にぶい黄橙色 10YR7/4	外：縄文 LR 内：ナデ	
124	9	64-2	D2	1419 （1400）	深鉢	船元・波子		石英、ハイカ含む	外：灰褐色 7.5YR5/2 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：縄文 LR 内：ナデ	

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	遺構	器種	分類	法量 () 内復元 (cm)	胎土	色調	文様・調整その他	備考
124	10	64-2	D2	1419	深鉢	船元・波子		石英含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/4 内：灰白色 10YR8/2	外：縄文 LR 内：ナデ	
124	11	64-2	E2-D2	1419 (1378)	深鉢	船元・波子		石英、ハイカ、角閃石含む	外：にぶい褐色 7.5YR6/3 内：にぶい褐色 7.5YR6/3	外：縄文 LR 内：ナデ	
124	12	64-2	D2	1419 (1381)	深鉢	船元・波子		石英、ハイカ、金雲母含む	外：灰黄褐色 10YR5/2 内：灰黄褐色 10YR5/2	外：縄文 LR 内：ナデ	
124	13	64-2	D2	1419 (1372)	深鉢	船元・波子		石英、角閃石含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：縄文 LR 内：二枚貝条痕	
124	14	64-2	D2	1419	深鉢	船元・波子 底部Ⅲ類	底径 9.8	石英、ハイカ、角閃石 金雲母含む	外：にぶい褐色 7.5YR6/3 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：縄文 LR（底含む） 内：ナデ	
124	15	64-2	D2	1419	深鉢	中期？		石英、ハイカ含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：灰黄褐色 10YR6/2	外：巻貝条痕＋ナデ 内：ナデ	
124	16	64-2	D2	1419	鉢	暮地		石英、ハイカ含む	外：褐色 7.5YR4/3 内：灰褐色 7.5YR4/2	外：磨消縄文 RL、ミガキ 内：ミガキ	
124	17	64-2	D2	1419	浅鉢	暮地		石英ハイカ含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：褐灰色 7.5YR4/1	外：磨消縄文 RL、ミガキ 内：ミガキ	
124	18	65-1	D2	1419	浅鉢	暮地		石英ハイカ含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/3 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：磨消縄文 RL、ミガキ 内：ミガキ	
124	19	65-1	E2-D2	1419 (1378)	深鉢	布勢		石英含む	外：灰褐色 7.5YR5/2 内：灰褐色 7.5YR5/2	外：沈線文、ナデ 内：ナデ	
124	20	65-1	D2	1419 (1381)	浅鉢	後期		石英、ハイカ、金雲母含む	外：黒色 10YR2/1 内：黒色 10YR2/1	外：沈線文（上端）、ミガキ 内：ミガキ	
124	21	65-1	D2	1419 (1372)	鉢	布勢		石英含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：沈線文、ナデ 内：ナデ	
124	22	65-1	D2	1419 (1400)	浅鉢	後期 浅鉢Ⅳ類		石英、ハイカ含む	外：黒色 2.5Y2/1 内：黒灰色 2.5Y4/1 ～ 6/1	外：ミガキ 内：ミガキ	
124	23	65-1	D2	1419 (1395)	浅鉢	後期 浅鉢Ⅳ類		石英、ハイカ、角閃石含む	外：にぶい橙色 7.5YR6/4 内：灰黄褐色 10YR4/2	外：ミガキ 内：ミガキ	口唇内側に肥厚
124	24	65-2	D2	1419	浅鉢	後期 浅鉢Ⅲ類		石英、ハイカ、角閃石含む	外：にぶい褐色 7.5YR5/3 内：褐灰色 7.5YR5/1	外：ミガキ 内：ミガキ	口唇内側に肥厚
124	25	65-1	D2	1419 (1337)	鉢 or 壺	後期		石英、ハイカ含む	外：黄灰色 2.5Y4/1 内：黄灰色 2.5Y4/1	外：ミガキ 内：ミガキ	口唇肥厚
124	26	65-1	D2	1419	鉢	後期		石英、角閃石含む	外：灰黄褐色 10YR6/2 内：灰黄褐色 10YR6/2	外：ミガキ 内：ナデ	口唇肥厚
124	27	65-1	D2	1419 (1372)	深鉢	後期 無文Ⅱ類		砂粒含む	外：灰黄褐色 10YR6/2 内：灰黄褐色 10YR6/2	外：二枚貝条痕 内：二枚貝条痕	
124	28	65-1	D2	1419	深鉢	後期 無文Ⅱ類		石英、ハイカ、角閃石含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/4 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：ナデ 内：ナデ	
124	29	65-1	D2	1419 (1372)	深鉢	後期 無文Ⅱ類		石英、ハイカ含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/3 内：にぶい褐色 7.5YR5/3	外：ナデ 内：ナデ	
124	30	65-1	D2	1419	深鉢	後期 無文Ⅱ類		ハイカ、金雲母含む	外：にぶい褐色 7.5YR6/3 内：にぶい黄橙色 7.5Y7/3	外：巻貝条痕＋ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	
124	31	65-1	D2	1419 (1372)	深鉢	後期 無文Ⅱ類	口径（34.4）	石英、ハイカ、土器細片含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：ミガキ＋ナデ 内：ミガキ＋ナデ	
124	32	65-1	D2	1419 (1372)	深鉢	後期 無文Ⅱ類		石英、ハイカ含む	外：灰黄褐色 10YR5/2 内：浅黄橙色 10YR8/3	外：ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	
125	1	66-1	D2	1419 (1392)	鉢？	後期		石英、ハイカ含む	外：にぶい褐色 7.5YR6/3 内：橙色 7.5YR7/6	外：刻目 内：ナデ	
125	2	66-1	D2	1419 (1400)	深鉢	後期 無文		石英、ハイカ含む	外：にぶい橙色 5YR6/4 橙色 5YR6/6 内：橙色 5YR6/6 浅黄橙色 10YR8/4	外：匙面条痕 内：匙面条痕	
125	3	65-2	D2	1419 (1378)	深鉢	後期 無文		石英、ハイカ含む	外：橙色 7.5YR6/6 内：にぶい黄橙色 10YR7/4	外：巻貝条痕 内：巻貝条痕	
125	4	65-2	D2	1419	深鉢	後期 無文		ハイカ、土器細片含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/6 内：浅黄橙色 7.5YR8/4	外：巻貝条痕＋ナデ 内：巻貝条痕	
125	5	65-2	D2 炭層	1419 (1378)	深鉢	後期 無文		石英、ハイカ、金雲母含む	外：灰白色 10YR8/2 内：灰白色 7.5YR8/2	外：ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	
125	6	65-2	D2	1419	深鉢	後期 無文		石英、ハイカ、角閃石含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/4 橙色 7.5YR6/4 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：巻貝条痕 内：巻貝条痕	
125	7	65-2	D2 炭層	1419 (1378)	深鉢	後期 無文		石英、ハイカ含む	外：にぶい橙色 7.5YR6/4 内：浅黄橙色 7.5YR8/3	外：巻貝条痕 内：巻貝条痕	
125	8	65-8	D2	1419 (1400)	深鉢	後期 無文		石英、ハイカ、金雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/4	外：匙面条痕＋ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	
125	9	65-2	D2-E2	1419 (1378)	深鉢	後期 無文		石英、ハイカ、角閃石、金雲母含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/4 内：褐灰色 7.5YR5/1	外：巻貝条痕＋ナデ 内：ナデ	
125	10	65-2	D2	1419	深鉢	後期 無文		石英、ハイカ含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/4 内：明黄褐色 10YR7/6	外：ナデ 内：ナデ	補修孔 2 個あり
125	11	66-1	D2	1419	深鉢？	後期 底部Ⅱ類	底径（4.0）	石英、ハイカ含む	外：黄灰色 2.5Y4/1 にぶい橙色 7.5YR6/4 内：にぶい橙色 7.5YR6/4	外：ナデ 内：ナデ	小型の器種
125	12	65-2	D2	1419	深鉢	後期 底部Ⅲ類	底径 10.5	石英、ハイカ、金雲母含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/4	外：ナデ、底外周網代痕 内：ナデ	
125	13	66-1	D2	1419 (1372)	深鉢	後期 底部Ⅲ類	底径（8.4）	石英、ハイカ、金雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/4 内：にぶい黄橙色 10YR7/4	外：ナデ 内：ナデ	
125	14	65-2	D2	1419	深鉢	後期 底部Ⅱ類	底径（8.2）	石英、ハイカ、雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：褐灰色 10YR6/1	外：ナデ 内：ナデ	
125	15	66-1	D2	1419 (1400)	深鉢	後期 底部Ⅱ類	底径 9.2	石英、ハイカ、金雲母含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：にぶい橙色 7.5YR6/4	外：ナデ 内：匙面条痕	
125	16	65-2	D1	1419	深鉢	後期 底部Ⅱ類	底径（9.6）	石英、ハイカ、金雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/4 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：ナデ 内：ナデ	
125	17	64-1		1419 (1405)	土製品	後期？	長さ 2.0 ＋ α、径 1.2	石英、ハイカ含む	外：にぶい橙色 7.5YR6/4	ナデ	器種不明

縄文時代遺構　石器

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	遺構	種別	器種	法量 () 遺存 / 内復元値 (cm)	重量 (g)	材質	備考
83	1	55-1	E3	1473	石器	磨製石斧	長さ 32.1、幅 9.6、厚さ 9.5	約 3900	塩基性片岩	未成品（素材剥片） 両面調整剥離、右側縁分割面
83	2	55-1	E3	1473	石器	磨製石斧	長さ 32.5、幅 10.0、厚さ 8.1	約 3450	塩基性片岩	未成品（素材剥片） 両面調整剥離、左側縁分割面
83	3	55-1	E3	1473	石器	磨製石斧	長さ 32.7、幅 19.1、厚さ 8.5	約 6350	塩基性片岩	1·2 の接合状態
84	1	55-2	E3	1473	石器	磨製石斧	長さ 24.1、幅 10.5、厚さ 7.4	1898.68	塩基性片岩	未成品（素材剥片） 右面大きな剥離
84	2	55-1	E3	1473	石器	磨製石斧	長さ 16.1、幅 6.4、厚さ 4.1	662.97	塩基性片岩	未成品（素材剥片） 右側縁分割面

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	遺構	種別	器種	法量 () 遺存 / 内復元値 (cm)	重量 (g)	材質	備考
84	3	55-1	E3	1473	石器	磨製石斧	長さ 16.6、幅 7.2、厚さ 2.3	562.07	塩基性片岩	未成品（素材剥片） 左側縁分割面
84	4	55-1	E3	1473	石器	磨製石斧	長さ 16.7、幅 13.4、厚さ 4.2	1225.04	塩基性片岩	2-3 の接合状態
85	2	55-2	E3	1437	石器	磨製石斧	長さ（11.5）幅 4.3、厚さ 3.4	220.13	塩基性片岩	未成品？（研磨段階）Ⅰa 類 中央研磨、側縁敲打
85	3	55-2	E3	1437	石器	磨製石斧	長さ 16.2、幅 4.9、厚さ 2.5	302.32	塩基性片岩	未成品（剥離段階）Ⅰa 類 縁辺調整剥離
85	4	55-2	E3	1437	石器	磨製石斧	長さ 16.3、幅 6.1、厚さ 4.6	603.02	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰa 類 剥離残る
85	5	55-2	E3	1437	石器	磨製石斧	長さ 20.4、幅 8.0、厚さ 2.7	794.59	塩基性片岩	未成品（剥離段階）Ⅰa 類 縁辺剥離、一部礫面残る
86	7	56-1	E3	1448	石器	磨石	長さ 3.1、幅 8.7、厚さ 5.7	165.58	花崗岩	全面平滑、形整っている
86	8	56-1	E3	1448	石器	石錘	長さ 6.7、幅 5.1、厚さ 1.6	79.06	川原石	打欠部摩滅
87	1	56-2	E3	1448	石器	盤状石核	最大高 19.2、最大幅 20.05 厚さ 3.8	1711.14	サヌカイト	左右側面礫面
87	2	56-1	E3	1448	石器	盤状石核	長さ 26.6、幅 17.9、厚さ 4.7	1894.84	サヌカイト	左面・上辺礫面
89	1	57-1	E3	1447	石器	石錘	長さ 6.2、幅 4.4、厚さ 1.7	71.50	川原石	打欠部摩滅
89	2	57-1	E3	1447	石器	磨石	長さ 6.3、幅 4.3、厚さ 7.5	114.81	川原石	全面平滑
89	3	57-1	E3	1447	石器	軽石加工品	長さ 7.8、幅 6.8、厚さ 2.2	115.52	三瓶軽石	中央平坦面
89	4	58-1	E3	1447	石器	軽石加工品	長さ（10.3）幅 5.1、厚さ 3.8	108.60	三瓶軽石	加工痕みられない
89	5	58-1	E3	1447	石器	石鏃	長さ 1.6、幅 1.8、厚さ 0.45	1.16	サヌカイト	両面大きな剥離残る
89	9	56-2	E3	1438	石器	磨製石斧	長さ 35.8、幅 7.0、厚さ 6.7	約 2950	塩基性片岩	未成品（素材剥片） 上部に剥離、各面大きな剥離面
89	10	56-2	E3	1438	石器	磨製石斧	長さ 31.3、幅 10.9、厚さ 2.8	973.31	塩基性片岩	未成品（素材剥片） 両面とも大きな剥離面
91	4	58-1	D3	1307	石器	石鏃	長さ 2.1、幅 1.5、厚さ 0.2	0.44	サヌカイト	裏面大きな剥離面
94	1	58-1	D3	1318	石器	石鏃	長さ 1.8、幅 1.1、厚さ 0.25	0.39	サヌカイト	裏面大きな剥離面
95	1	58-1	D2	1327	石器	石錘	長さ 5.3、幅 3.3、厚さ 1.5	35.88	川原石	
101	1	58-1	E4	1431	石器	磨製石斧	長さ（7.9）幅 4.1、厚さ 2.9	128.04	塩基性片岩	未成品（敲打段階） 側縁、中央稜線敲打
101	2	58-1	E4	1431	石器	磨製石斧	長さ（7.1）幅（2.8）、厚さ（2.7）	52.01	塩基性片岩	未成品（敲打段階） 全面敲打、研磨直前
103	2	58-2	E2	1439	石器	磨製石斧	長さ（11.7）幅 5.5、厚さ 3.2	235.47	塩基性片岩	未成品（素材剥片）
103	3	58-2	E2	1439	石器	磨製石斧	長さ（8.3）幅（3.3）、厚さ 3.4	100.54	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰb 類 側縁敲打、中央に礫面
103	4	58-2	E2	1439	石器	石鏃	長さ（1.9）幅 1.6、厚さ 0.35	1.10	サヌカイト	未成品、上部に調整剥離
107	7	58-2	E2	1425	石器	磨製石斧	長さ（6.2）幅 6.5、厚さ 1.5	103.55	塩基性片岩	未成品（剥離段階） Ⅱ類、縁辺に小さな剥離
107	8	58-2	E2	1425	石器	磨製石斧	長さ（12.0）幅 5.4、厚さ 4.5	453.74	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰ2 類 刃部に剥離、敲打完了直近
109	1	61-2	E2	1424	石器	石匙	長さ 2.6、幅 5.6、厚さ 0.3	5.83	サヌカイト	刃部に剥離
109	2	61-2	E2	1424	石器	磨製石斧	長さ（11.4）幅 6.4、厚さ 2.7	269.70	塩基性片岩	未成品（素材剥片） 下部に剥離
117	5	62-1	E2	1354	石器	槌石	長さ 9.9、幅 6.1、厚さ 5.3	393.68	塩基性片岩	右半分敲打
122	9	63-1	E2	1399	石器	磨製石斧	長さ（11.1）幅 3.7、厚さ 2.4	109.21	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅲ類 側縁敲打、表面剥離面
125	18	64-1	D2	1419	石器	石鏃	長さ 1.8、幅 1.1、厚さ 0.3	0.37	サヌカイト	裏面中央に大きな剥離
125	19	64-1	D2	1419	石器	石鏃	長さ 2.35、幅 1.4、厚さ 0.3	0.67	サヌカイト	裏面中央に大きな剥離
125	20	66-1	D2-E2	1419(1378)	石器	使用痕のある剥片	長さ 2.25、幅 2.6、厚さ 0.5	2.81	サヌカイト	左辺に微細剥離
125	21	66-1	D2-E2	1419(1378)	石器	剥片	長さ（1.8）幅（2.8）、厚さ（0.55）	3.13	サヌカイト	
126	1	66-1	D2	1419(1400)	石器	石匙	長さ 10.0、幅 3.6、厚さ 1.0	39.01	サヌカイト	刃部摩滅
126	2	66-2	D2	1419(1378)	石器	刺突具	長さ 11.2、幅 5.6、厚さ 1.4	85.29	安山岩？	縁辺に剥離
126	3	66-1	D2	1419(1378)	石器	刺突具？	長さ（2.1）幅 3.1、厚さ 1.0	11.30	サヌカイト	縁辺に剥離
126	4	66-2	D2	1419(1378)	石器	磨製石器	長さ 9.3、幅 2.2、厚さ 1.5	63.55	塩基性片岩	全面研磨、製品？、器種不明
126	5	66-2	D2	1419(1378)	石器	磨製石斧	長さ 13.0、幅 4.0、厚さ 2.5	191.20	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅲ類 一部敲打、礫面残る
126	6	66-2	D2	1419(1372)	石器	磨製石斧	長さ 7.3，幅 3.5、厚さ 2.0	68.80	塩基性片岩	未成品（剥離段階）Ⅲ類 一部に敲打痕、上部礫面残る
126	7	66-2	D2	1419	石器	石錘	長さ 8.6、幅 4.4、厚さ 1.25	97.25	川原石	打欠部摩滅
126	8	66-1	D2	1419	石器	石錘	長さ 5.0、幅 3.6、厚さ 1.0	29.64	川原石 （塩基性片岩？）	打欠部摩滅
126	9	66-2	D2	1419(1372)	石器	磨製石斧	長さ 19.3、幅 6.5、厚さ 2.7	447.60	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅱ類 全面剥離、一部敲打
126	10	66-2	D2	1419(1400)	石器	磨石？	長さ 10.0、幅 8.8、厚さ 4.8	567.68	川原石	全面平滑、完形
126	11	67-1	D2	1419(1372)	石器	磨石・敲石	長さ 12.6、幅 10.9、厚さ 5.0	1005.61	川原石	両面中央と側面に打痕
126	12	66-2	D2	1419(1373)	石器	磨石	長さ 4.6、幅 4.4、厚さ 3.8	115.84	川原石	全面平滑
126	13	67-1	D2	1419	石器	軽石加工品	長さ 10.5、幅 8.、厚さ 5.5	487.0	三瓶軽石	中央に凹み、側面平坦
126	14	67-1	D2	1419	石器	軽石加工品	長さ 13.3、幅 11.4、厚さ 6.3	925.0	三瓶軽石	一面非常に平滑
126	15	67-1	D2	1419	石器	軽石加工品	長さ 13.7、幅 11.3、厚さ 6.3	1119.0	三瓶軽石	側縁平坦面、一面に研磨痕
127	1	64-1	D2	1419(1400)	石器	石皿	長さ 33.4、幅 28.3、厚さ 7.8	1160.0	砂岩？	両面使用、一面凹面、一面平坦

第34表　遺物観察表（11－1・2層出土遺物）

11-1・2層　縄文土器・土製品

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	器種	分類	法量 ( ) 内復元値 (cm)	胎土	色調	文様・調整その他	備考
134	1	67-2	E4	11 層	深鉢	里木Ⅱ		石英、角閃石含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：撚糸文 R 内：ナデ	
134	2	67-2	E2 北 T	11-2 層	深鉢	里木Ⅱ		石英多く含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：交互刺突、沈線文、撚糸文 R 内：ナデ	
134	3	67-2	E3	11-2 ～ 12 層	深鉢	船元・波子		ハイカ、角閃石含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：灰褐色 7.5YR6/2	外：縄文 LR 内：ナデ	
134	4	67-2	E4	11 層	深鉢	船元・波子		石英、金雲母角閃石含む	外：灰褐色 7.5YR5/2 内：明褐灰色 7.5YR7/2	外：縄文 LR 内：二枚貝条痕	
134	5	67-2	D2	11 層	深鉢	船元・波子		石英、角閃石含む	外：灰黄褐色 10YR4/2 内：灰黄褐色 10YR6/2	外：弧状の押引文、縄文 LR 内：ナデ	
134	6	67-2	4 ライン T	11 層	深鉢	船元・波子		石英、ハイカ角閃石含む	外：灰黄褐色 10YR6/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：縄文 LR、口唇 D 字爪形文 内：ナデ	
134	7	67-2	E4	11-2 層	深鉢	船元・波子		石英、ハイカ角閃石含む	外：灰黄褐色 10YR5/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：縄文 LR 内：二枚貝条痕	
134	8	67-2	4 ライン T	11 層	深鉢	船元・波子		石英、ハイカ角閃石含む	外：褐灰色 7.5YR4/1 内：橙色 7.5YR7/6	外：楕円形浮文、縄文 LR 内：ナデ	
134	9	67-2	E4	11-2 層	深鉢	船元・波子		ハイカ、石英含む	外：灰褐色 7.5YR5/2 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：波状沈線文、縄文 LR 内：二枚貝条痕	
134	10	67-2	E3	11-2 層	深鉢	船元・波子		石英、角閃石含む	外：灰白色 10YR8/1 内：灰白色 10YR8/1	外：平行沈線文、縄文 RL 内：ナデ	
134	11	67-2	E4	11-2 層	深鉢	船元・波子		石英、ハイカ含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：沈線文（逆三角形意匠）、縄文 LR 内：ナデ	両端に沈線文端部
134	12	67-2	D3	11 層	深鉢	船元・波子		石英、ハイカ角閃石含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	内：押圧文	内：折返し口縁
134	13	67-2	E4	11-2 層	深鉢	波子		石英含む	外：明褐灰色 7.5YR7/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：垂下短沈線、ナデ 内：ナデ	外面折返し口縁
134	14	67-2	E3	11-2 層	深鉢	波子		石英、ハイカ角閃石含む	外：にぶい橙色 7.5YR6/4 内：にぶい橙色 7.5YR6/4	外：垂下短沈線、縄文 RL ？ 内：ナデ	外面折返し口縁
134	15	67-2	E3	11-2 層	深鉢	波子		石英、ハイカ含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：無文、ナデ 内：ナデ	外面 2 段折返し口縁
134	16	67-2	E3	11-2 層	深鉢	波子		ハイカ、石英角閃石含む	外：灰白色 10YR8/2 内：にぶい褐色 7.5YR6/3	外：刺突文、口唇縄文 LR ？ 内：ナデ	折返し口縁、波状口縁
134	17	67-2	4 ライン T ？	11-2 層	深鉢	波子		石英、ハイカ角閃石含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/6 内：浅黄橙色 7.5YR8/6	外：縄文 LR 内：ナデ	外面折返し口縁
134	18	67-2	4 ライン T	11-2 層	深鉢	波子		石英含む	外：灰褐色 7.5YR6/2 内：褐灰色 7.5YR4/1	外：刺突文、縄文 LR 内：ナデ	外面折返し口縁
134	19	67-2	E4	11 層	深鉢	波子		石英、ハイカ含む	外：灰黄褐色 10YR6/2 内：灰黄褐色 10YR6/2	外：縄文 LR、口縁無文 内：ナデ	外面折返し口縁
134	20	67-2	E4	11-2 層	深鉢	波子		石英、ハイカ含む	外：明褐灰色 7.5YR7/2 内：灰白色 10YR7/2	外：縄文 LR 内：ナデ	外面折返し口縁
134	21	67-2	D3	11 層	深鉢	波子		石英、ハイカ角閃石含む	外：橙色 7.5YR6/6 内：橙色 7.5YR6/6	外：刺突文、縄文 LR ？ 内：ナデ	外面折返し口縁
134	22	67-2	E3	11-2 層	深鉢	波子		石英、ハイカ角閃石含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：縄文 LR、口縁無文 内：ナデ	外面折返し口縁
134	23	67-2	E3	11-2 層	深鉢	波子		石英、角閃石含む	外：灰白色 10YR8/2 内：灰白色 10YR8/2	外：刺突文 2 列、縄文 LR 内：ナデ	外面折返し口縁
134	24	67-2	D3	11 層	深鉢	波子		石英含む	外：浅黄橙色 10YR8/3 内：浅黄橙色 10YR8/3	外：刺突文 2 列 内：ナデ	突起状、外面折返し口縁
134	25	67-2	4 ライン T	11-2 層	深鉢	波子		石英、ハイカ含む	外：明褐灰色 7.5YR7/2 内：明褐灰色 7.5YR7/2	外：刺突文 2 列 内：ナデ	外面折返し口縁
134	26	67-2	E4	11-2 層	深鉢	波子		石英、金雲母角閃石含む	外：灰褐色 7.5YR6/2 内：灰褐色 7.5YR6/2	外：縄文 RL、口縁無文？ 内：ナデ	外面折返し口縁
134	27	67-2	E3	11-2 層	深鉢	波子		石英含む	外：灰黄褐色 10YR6/2 内：灰黄褐色 10YR6/2	外：口縁刺突文、縄文 LR 内：ナデ	外面折返し口縁
134	28	67-2	E4	11 層	深鉢	波子		石英、金雲母含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/3 内：浅黄橙色 7.5YR8/3	外：垂下沈線＋横走沈線 内：ナデ	外面折返し口縁
134	29	67-2	4 ライン T	11-2 層	深鉢	波子		石英含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/3 内：浅黄橙色 7.5YR8/3	外：垂下沈線＋横走沈線 内：ナデ	外面折返し口縁
134	30	67-2	E3	11-2 層	深鉢	波子		石英、ハイカ角閃石含む	外：浅黄橙色 10YR8/3 内：浅黄橙色 10YR8/3	外：縄文無節 R 内：ナデ	内：折返し口縁？（剥離）
134	31	67-2	E3	11-2 層	深鉢	波子		石英、角閃石含む	外：灰白色 10YR8/2 内：灰白色 10YR8/2	外：口縁刺突文 2 列、縄文 LR 内：ナデ	外面折返し口縁
134	32	68-1	E-F3 ライン	11-2 層	深鉢	里木Ⅱ		石英含む	外：灰黄褐色 10YR6/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：撚糸文 L（口唇も） 内：ナデ	
134	33	67-2	F4	11 層	深鉢	里木Ⅱ		石英、角閃石含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/3 内：褐灰色 7.5YR5/1	外：撚糸文 L 内：ナデ	
134	34	68-1	E2 北 T	11-2 層	深鉢	中期末		石英、角閃石塩基性片岩？含む	外：灰黄褐色 10YR4/2 内：灰黄褐色 10YR4/2	外：沈線・縄文 RL（中央無文）、ナデ 内：ナデ	
134	35	68-1	E4	11-2 層	深鉢	中期末		石英多く含む	外：灰黄褐色 10YR5/2 内：浅黄橙色 7.5YR8/4	外：磨消縄文 LR 内：二枚貝条痕	口縁内湾
134	36	68-1	F4	11 層	深鉢	中期末		石英、角閃石含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：褐灰色 7.5YR4/1	外：磨消縄文 RL（弧状意匠） 内：ナデ	口縁屈曲
134	37	68-1	E4F ライン T	11 層	深鉢	中期末		石英、ハイカ含む	外：黒褐色 10YR3/2 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：磨消縄文 RL（弧状意匠） 内：二枚貝条痕＋ナデ	下端に段
134	38	68-1			深鉢	中期末		石英角閃石含む	外：暗赤褐色 5YR3/3 内：黒褐色 5YR3/1	外：円形刺突文、縄文 RL、ナデ	口縁屈曲
134	39	68-1	E4	11-2 層	底部	鷹島		ハイカ、石英角閃石含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：灰白色 10YR8/2	外：胴・底面縄文 LR 内：ナデ	多角形底
134	40	68-1	E3	11-2 層	壺？	中期末		石英含む	外：にぶい赤褐色 5YR5/4 内：褐灰色 5YR4/1	外：磨消縄文 LR（小渦巻意匠）、ミガキ 内：ナデ	
134	41	68-1	E4	11-2 層	深鉢	船元・波子 底部Ⅰ類	底径 (8.4)	石英、ハイカ角閃石含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：浅黄橙色 7.5YR8/4	外：縄文 LR、ナデ（底含む） 内：ナデ	
134	42	68-1	E4	11-2 層	深鉢	船元・波子 底部Ⅲ類	底径 8.6	石英、ハイカ角閃石、金雲母含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：縄文 LR、底面網代痕＋ナデ 内：ナデ	
134	43	68-1	E3	11-2 層	深鉢	船元・波子 底部Ⅰ類	底径 (6.6)	石英、ハイカ含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：浅黄橙色 10YR8/4	外：縄文 LR ？、ナデ（底含む） 内：ナデ	
134	44	68-1	E4	11-2 層	深鉢	船元・波子 底部Ⅱ類	底径 (9.0)	石英、ハイカ含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：縄文 RL、接地面網代痕、ナデ 内：ナデ	
134	45	68-1	E3	11-2 層	深鉢	船元・波子 底部Ⅱ類	底径 (7.1)	石英、ハイカ角閃石含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/2 内：褐灰色 10YR4/1	外：縄文 LR、ナデ（底含む） 内：ナデ	
134	46	68-1	4 ライン T	11 層	深鉢	船元・波子 底部Ⅲ類	底径 (7.2)	石英、ハイカ角閃石含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：縄文 LR、ナデ（底含む） 内：ナデ	
134	47	68-1	E4	11-2 層	深鉢	船元・波子 底部Ⅲ類	底径 5.0	石英、ハイカ角閃石含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/3 内：浅黄橙色 7.5YR8/3	外：縄文 LR、ナデ（底含む） 内：ナデ	小型の器種

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	器種	分類	法量 ( ) 内復元値 (cm)	胎土	色調	文様・調整その他	備考
134	48	68-1	D3	11-2 層	深鉢	船元・波子底部Ⅲ類	底径 9.0	石英、角閃石ハイカ含む	外：橙色 5YR7/6 内：橙色 5YR7/6	外：縄文 LR ？、底面平行する圧痕 内：ナデ	
134	49	68-1	E2	11 層	深鉢	中期末		石英、ハイカ角閃石含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：磨消縄文 RL（斜行意匠） 内：ナデ	
134	50	68-1	E4	11-2 層	深鉢	九州系春日		滑石多量に含む	外：褐灰色 7.5YR5/1 内：褐灰色 7.5YR5/1	外：刻目隆帯	
134	51	68-1	E2	11-2 層	深鉢	九州系深浦		砂粒少量含む（ハイカ含まず）	外：にぶい橙色 5YR6/4 内：にぶい橙色 5YR6/4	外：二枚貝刺突、波頂部刻 二枚貝条痕 内：二枚貝条痕	
134	52	68-1	E2	11 層	深鉢	不明		石英、ハイカ含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：ナデ 内：ナデ	内：折返し口縁
135	1	68-2	E2	11-2 層	鉢	暮地		角閃石、金雲母、ハイカ、石英含む	外：にぶい橙色 5YR6/4 内：灰黄褐色 10YR6/2	外：磨消縄文 RL（渦巻意匠）、ミガキ 内：ミガキ	
135	2	68-2	E2	11 層	（深）鉢	暮地		角閃石、金雲母、ハイカ、石英含む	外：明黄褐色 10YR6/6 内：褐灰色 10YR4/1	外：磨消縄文 RL、ミガキ 内：ミガキ	縄文帯に赤色顔料 (分析)
135	3	68-2	D2	11-2 層	鉢	暮地		石英含む	外：灰白色 10YR8/2 内：灰白色 10YR7/1	外：磨消縄文 RL（左端に垂下沈線） ミガキ 内：ミガキ	縄文帯に赤色顔料 (分析)
135	4	68-2	D2	11 層	鉢	暮地	口縁 (37.8)	金雲母、石英ハイカ含む	外：にぶい黄色 10YR7/2 内：灰黄褐色 10YR5/2	外：磨消縄文 RL、ミガキ 内：ミガキ	縄文帯に赤色顔料？(分析)
135	5	69-1	E4		浅鉢	暮地 浅鉢Ⅳ類	口径 (30.6)	石英、雲母含む	外：にぶい黄色 2.5Y6/3 内：暗灰黄色 2.5Y4/2	外：磨消縄文 RL、ミガキ 内：ミガキ	内：段
135	6	69-2	E4	11 層	浅鉢	暮地		石英、雲母含む	外：暗灰色 N3/ 内：暗灰色 N3/	外：磨消縄文 RL、ミガキ 内：ミガキ	縄文帯に赤色顔料 (分析)
135	7	69-1	D2 E2-E3	11-12 層	浅鉢	暮地		石英、雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/3 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：磨消縄文 RL（渦巻意匠）、ミガキ 内：ミガキ	縄文帯に赤色顔料 (分析)
135	8	69-1	C2-D2		浅鉢	暮地 浅鉢Ⅱａ類		角閃石、石英含む	外：灰黄褐色 10YR5/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：磨消縄文 RL、ミガキ 内：ミガキ	縄文帯に赤色顔料 (分析)
135	9	69-2	E3	11 層	浅鉢	暮地 浅鉢Ⅱａ類		角閃石、金雲母石英含む	外：にぶい黄褐色 10YR4/3 内：黒褐色 10YR3/1	外：磨消縄文 RL、ミガキ 内：ミガキ	
135	10	69-2	C2-D2		浅鉢	暮地 浅鉢Ⅱａ類		角閃石、石英含む	外：灰黄褐色 10YR5/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：磨消縄文 RL（渦巻意匠）、ミガキ 内：ミガキ	縄文帯に赤色顔料 (分析)
136	1	88-2	E2-E3	11-2 層	浅鉢	暮地 浅鉢Ⅱａ類	口縁 (33.8)	ハイカ、金雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：黒褐色 10YR3/1	外：磨消縄文 RL（渦巻意匠）、ミガキ 内：ミガキ	縄文帯に赤色顔料
136	2	69-2		11-2 層	双耳壺	暮地	頸部径 8.8	石英、ハイカ含む	外：褐色 7.5YR4/6 内：灰褐色 7.5YR5/2	外：磨消縄文 RL、ミガキ 内：ナデ	
136	3	69-2	D2	11 層	双耳壺	暮地		石英、ハイカ金雲母含む	外：灰黄褐色 10YR4/2 内：灰黄褐色 10YR4/2	外：磨消縄文 RL、ミガキ 内：ナデ	
136	4	69-2	E4 4ライン下	11 層	双耳壺	暮地		石英、ハイカ角閃石含む	外：灰黄褐色 10YR4/2 内：灰黄褐色 10YR4/2	外：磨消縄文 RL（方形意匠？） ミガキ 内：ナデ	耳部剥脱
136	5	69-2	E3	11-2 層	双耳壺	後期		石英、ハイカ角閃石含む	外：橙色 2.5YR6/6 内：橙色 5YR6/6	外：ミガキ 内：ナデ	
136	6	88-2	E1 E2	11 層 11-1 層 11-2 層	双耳壺	後期		石英、角閃石金雲母含む	外：にぶい褐色 7.5YR5/3 内：にぶい褐色 7.5YR5/3	外：ミガキ 内：ナデ	耳部縦横に孔
136	7	69-2	E3-E2 北 T	11-2 層	鉢？	暮地		石英、角閃石含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：灰黄褐色 10YR6/2	外：磨消縄文 RL、ミガキ 内：ナデ	橋状把手
136	8	69-2	D2 E2	11 層	壺	暮地		石英、白色砂粒多く含む	外：黒褐色 10YR3/1 内：黒褐色 10YR3/1	外：磨消縄文 RL、楕円文、ミガキ 内：ミガキ	楕円文レリーフ状 一次調整は巻貝？
136	9	69-2	E2	11-1 層	鉢 or 壺？	暮地		石英、角閃石含む	外：にぶい橙色 7.5YR6/4 内：灰黄褐色 10YR5/2	外：磨消縄文 RL、ナデ 内：ナデ	
136	10	69-2	E2	11-2 層	壺	暮地	口径 (7.0)	砂粒非常に細かい	外：褐灰色 10YR5/1 内：褐灰色 10YR5/1	外：縄文帯 RL、ミガキ 内：ミガキ	縄文帯レリーフ状
136	11	69-2	E3	11-2 層	浅鉢	暮地		石英、金雲母含む	外：灰褐色 7.5YR6/2 内：橙色 2.5YR6/6	外：磨消縄文 RL（渦巻意匠）、ミガキ 内：ミガキ	縄文帯に赤色顔料 (分析)
136	12	70-1	E4	11 層	鉢 or 壺	暮地		石英、ハイカ角閃石含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：にぶい橙色 7.5YR6/4	外：磨消縄文反撚 L、ミガキ 内：ミガキ	
136	13	69-2	E2 E3	11 層 11-2 層	壺	暮地		石英、ハイカ含む	外：灰黄褐色 10YR4/2 内：灰黄褐色 10YR4/2	外：磨消縄文 RL、ミガキ 内：ミガキ	
136	14	70-1	E3	11-2 層	浅鉢	暮地		石英、角閃石含む	外：明褐灰色 7.5YR7/2 内：明褐灰色 7.5YR7/2	外：磨消縄文 RL（渦巻意匠）、ミガキ 内：ミガキ	沈線に赤色顔料 (分析)
137	1	70-1	E1-D1	11-2 層	壺？	暮地		石英、角閃石含む	外：黒褐色 10YR3/2 内：褐灰色 10YR5/1	外：磨消縄文 RL、ミガキ 内：巻貝条痕＋ナデ	無文部盛り上がる 縄文帯に赤色顔料 (分析)
137	2	70-1	E4 D2-E4	11 層	壺？	暮地		石英、角閃石金雲母含む	外：褐灰色 7.5YR4/1 内：褐灰色 7.5YR4/1	外：磨消縄文 RL、ミガキ 内：巻貝条痕＋ナデ	右端に沈線文端部（渦巻文？）
137	3	70-1	E3	11-2 層	壺？	暮地		石英、角閃石金雲母含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：褐灰色 10YR4/1	外：磨消縄文 RL、左下端に斜行意匠 ミガキ 内：ミガキ	沈線に赤色顔料 (分析)
137	4	70-1	E3	11-2 層 12 層	壺？	暮地		石英多、角閃石含む	外：黒褐色 7.5YR3/1 内：褐灰色 7.5YR4/1	外：磨消縄文 RL、ミガキ 内：ミガキ	縄文帯に赤色顔料 (分析)
137	5	70-1	D2 北 T	11-2 層	壺	暮地		石英、ハイカ角閃石含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：灰黄褐色 10YR6/2	外：浮線状の縄文帯 RL、ミガキ 内：ミガキ	
137	6	70-1	E4	11 層	鉢 or 壺	暮地 底部Ⅰ類		石英、ハイカ、角閃石含む	外：橙色 7.5YR6/6 内：明赤褐色 5YR5/6	外：磨消縄文反撚 L、ミガキ 内：ミガキ	底面にも磨消縄文
137	7	70-1	E3	11-2 層	深鉢？	布勢		石英、ハイカ含む	外：灰褐色 7.5YR5/2 内：灰褐色 7.5YR5/2	外：磨消縄文 RL、ミガキ 内：ミガキ	口縁玉縁状に肥厚
137	8	70-1	E4	11-2 層	深鉢？	布勢		石英、ハイカ角閃石含む	外：褐灰色 10YR5/1 内：灰白色 10YR8/2	外：磨消縄文 RL、ミガキ 内：ミガキ	口縁肥厚
137	9	70-1	E3	11-2 層	深鉢	布勢		石英、ハイカ金雲母含む	外：黒褐色 10YR3/1 内：褐灰色 10YR4/1	外：縄文 RL ＋沈線、巻貝条痕＋ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	
137	10	70-1	E2	11-2 層	深鉢	布勢		石英、角閃石金雲母含む	外：明赤褐色 5YR5/8 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：磨消縄文 RL、細密条痕 内：ミガキ	11-12 と同一個体？
137	11	70-1	E2	11-2 層	深鉢	布勢		石英、ハイカ角閃石、金雲母含む	外：橙色 7.5YR6/6 内：灰色 10YR4/2	外：磨消縄文 RL、細密条痕 内：ミガキ	10-12 と同一個体？
137	12	70-1	E3	11-2 層	深鉢	布勢		石英、角閃石雲母含む	外：暗赤褐色 5YR3/2 内：にぶい橙色 5YR6/4	外：磨消縄文 RL、細密条痕 内：ミガキ	10-11 と同一個体？
137	13	70-1	D3	12 層	深鉢	布勢		石英、ハイカ角閃石含む	外：にぶい橙色 5YR7/4 内：にぶい黄橙色 10YR6/4	外：沈線文、刻目、巻貝条痕＋ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	筒状突起（上面に刺突）
137	14	88-2	E2	11-2 層	深鉢	布勢		石英、ハイカ角閃石、金雲母含む	外：灰黄褐色 10YR5/2 内：褐灰色 10YR5/1	外：磨消縄文 LR、細密条痕、 ミガキ・ナデ 内：ミガキ・ナデ	突起部円形透かし 底部Ⅲ類
137	15	70-2	E2	11-2 層	浅鉢 or 壺	布勢	底径 (9.2)	石英、金雲母含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：無節 L、底外縁に凹線文、ミガキ ナデ 内：ナデ	
138	1	71-2	E2-E4	11 層 11-2 層	深鉢	暮地		石英、ハイカ、角閃石、金雲母含む	外：にぶい橙色 7.5YR6/4 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：沈線文、刻目、ナデ 内：二枚貝条痕	

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	器種	分類	法量 ( ) 内復元値 (cm)	胎土	色調	文様・調整その他	備考
138	2	70-2	E2	11-2 層	深鉢	暮地		石英、ハイカ、角閃石含む	外：橙色 5YR6/6 内：橙色 5YR6/6	外：沈線文、刻目、ナデ 内：二枚貝条痕	
138	3	71-2	E3	11-2 層	深鉢	布勢		石英、ハイカ、角閃石含む	外：にぶい橙色 5YR7/4 内：にぶい橙色 5YR7/4	外：沈線文、刻目、	二山突起（螺旋状の沈線）
138	4	70-2	D2	11-1 層	深鉢	布勢		石英、ハイカ、角閃石含む	外：褐灰色 7.5YR4/1 内：褐灰色 7.5YR4/1	外：沈線文、刻目、ナデ 内：匙状条痕＋ナデ	蛇を模した突起？
138	5	70-2	E2-E3	11 層	深鉢？	布勢	口径 (21.9)	石英、ハイカ、角閃石、金雲母 (多) 含む	外：赤褐色 2.5YR4/6 内：橙色 2.5YR6/8	外：沈線文、地文縄文（無節 R） ミガキ・ナデ 内：ミガキ・ナデ	
138	6	71-1	E2 北 T	11-2 層	深鉢	布勢	口径 (19.4)	石英、ハイカ含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：灰白色 10YR8/2	外：沈線文、巻貝条痕＋ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	環状突起
139	1	88-2	D2-D3	11 層	深鉢	布勢	口径 (18.6)	石英、ハイカ、角閃石含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：沈線文＋刻目、匙面条痕＋ナデ 内：匙面条痕＋ナデ	
139	2	89-1	E2	11-2 層	深鉢	布勢	口径 23.0	石英、ハイカ、角閃石、金雲母含む	外：にぶい褐色 7.5YR5/4 内：暗褐色 10YR3/3	外：沈線文（末端刺突）＋刻目 匙面条痕＋ナデ 内：匙面条痕＋ナデ	突起（上面刺突） 補修孔 2 個
139	3	89-1	E3	11-2 層	深鉢	布勢	口径 (17.0)	石英、角閃石、金雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：沈線文、刻目、匙面条痕＋ナデ	三角形透かしの突起
139	4	71-2	E2	12 層	深鉢	布勢		石英、ハイカ（多）金雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/3 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：沈線文＋刻目、匙面条痕＋ナデ	
139	5	72-1	E2	11-2 層	深鉢	布勢		石英、角閃石含む	外：灰白色 10YR8/2 内：灰白色 10YR8/2	外：沈線文＋刻目、巻貝条痕＋ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	
139	6	72-1	E2 北 T	11-2 層	深鉢	布勢		石英、ハイカ、金雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：沈線文＋刻目、巻貝条痕＋ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	焼成前穿孔
139	7	72-1	D2	11-2 層	深鉢	布勢	口径 (23.2)	石英、ハイカ、金雲母含む	外：明黄褐色 10YR7/8 内：明黄褐色 10YR7/8	外：沈線文＋刻目、巻貝条痕＋ナデ	突起蛇を模したものか
139	8	72-1	D2-D3	11 層	鉢	暮地・布勢		石英、ハイカ含む	外：浅黄色 2.5Y7/4 内：にぶい黄色 2.5Y6/3	外：刻目、縦横沈線文、ナデ 内：ナデ	
139	9	72-1	D2	11-2 層	鉢	暮地・布勢		石英含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/4 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：刻目、沈線文、ナデ 内：ナデ	下端に段沈線文端部
139	10	72-1	E2	11-2 層	深鉢	布勢		石英、ハイカ、金雲母含む	外：にぶい褐色 7.5YR6/4 内：にぶい褐色 7.5YR6/4	外：沈線文、匙面条痕＋ナデ	
139	11	72-1	E2	11-2 層	深鉢	布勢		石英、角閃石含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：沈線文＋刻目、巻貝条痕＋ナデ	波状口縁 下端に沈線端部
139	12	72-1	E3	11 層	深鉢	布勢		石英、ハイカ、角閃石含む	外：にぶい橙色 7.5YR6/4 内：にぶい橙色 7.5YR6/4	外：沈線文、巻貝条痕＋ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	円形透し 波状口縁
140	1	72-2	E2	11-2 層	深鉢	布勢	口径 (25.0)	石英、金雲母含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/4 内：にぶい黄橙色 10YR7/4	外：沈線文＋刻目、巻貝条痕＋ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	
140	2	72-1	E2	11 層	深鉢	布勢		石英、金雲母含む	外：にぶい黄褐色 10YR5/3 内：にぶい黄橙色 10YR5/3	外：沈線文、巻貝条痕＋ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	橋状把手？
140	3	72-1	E1	11-2 層	深鉢	布勢		石英、ハイカ含む	外：明赤褐色 5YR5/6 内：明赤褐色 5YR5/6	外：沈線文、ミガキ 内：ナデ	口縁拡張大きい
140	4	72-1	E2	11-2 層	鉢	布勢		石英ハイカ含む	外：にぶい褐色 7.5YR6/3 内：にぶい褐色 7.5YR6/3	外：沈線文、ミガキ 内：ミガキ	
140	5	72-1	E2	11 層	深鉢	布勢		石英、ハイカ 角閃石、金雲母含む	外：にぶい橙色 5YR7/4 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：沈線文、匙面条痕 内：巻貝条痕	瘤状突起
140	6	72-2	E2 北 T	11-2 層	深鉢	布勢		石英、ハイカ、角閃石、金雲母含む	外：にぶい褐色 7.5YR6/3 内：にぶい橙色 5YR7/3	外：沈線文（末端刺突）、ミガキ 内：ナデ	低い突起（上面刺突）
140	7	72-2	D2-E2	11 層	深鉢	布勢		石英、ハイカ含む	外：灰黄褐色 10YR6/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：沈線文、匙面条痕 内：巻貝条痕	
140	8	72-2	E2	11-2 層	深鉢	布勢		石英、ハイカ、角閃石、金雲母含む	外：浅黄橙色 10YR8/3 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：凹線文＋刻目、匙面条痕＋ナデ	
140	9	72-2	E2	11 層	深鉢	布勢		石英、ハイカ 角閃石含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/3 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：沈線文＋刻目、匙面条痕＋ナデ 内：匙面条痕＋ナデ	
140	10	72-2	E2	11 層	深鉢	布勢		石英、角閃石含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：にぶい黄橙色 10YR6/4	外：沈線文、ミガキ 内：ミガキ	沈線に赤色顔料 (分析)
140	11	72-2	E4	11 層	深鉢	崎ヶ鼻 1 ？		石英、ハイカ含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：沈線文、ナデ 内：ナデ	
140	12	72-2	E3	11-2 層	深鉢	津雲 A		石英、ハイカ含む	外：灰黄褐色 10YR5/2 内：灰黄褐色 10YR5/2	外：縄文部盛り上がる（RL）、ミガキ 内：ミガキ	楕円？透かしの突起
140	13	72-2	E4	11 層	深鉢？	布勢		石英含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：凹線文、ミガキ 内：ミガキ	
140	14	72-2	E3	11-2 層	深鉢	布勢		石英、ハイカ 角閃石含む	外：にぶい橙色 5YR6/4 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：凹線文、沈線文、巻貝条痕、ナデ	
140	15	73-1	E2	11-2 層	深鉢	布勢		石英、金雲母含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：浅黄橙色 7.5YR8/3	外：凹線文、ミガキ 内：ナデ	補修孔
141	1	89-1	E3	11-2 層	深鉢	布勢	口径 25.0	角閃石、金雲母 ハイカ、石英含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：褐灰色 10YR4/1	外：凹線文、粗いミガキ 内：粗いミガキ	耳状突起、瘤状突起
141	2	73-1	D2	13 層	深鉢	布勢		石英、ハイカ（多）角閃石含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：羽状＋横走沈線 匙面・内巻貝条痕	
141	3	73-1	E3	11 層上面	深鉢	布勢		石英、ハイカ（多）含む	外：灰黄褐色 10YR4/2 内：黒褐色 10YR3/1	外：羽状沈線文、ナデ 内：ナデ	
141	4	73-1	E4	11-2 層	深鉢	布勢		石英、ハイカ 角閃石含む	外：橙色 7.5YR7/6 内：橙色 7.5YR7/6	外：沈線文、刻目、ナデ 内：ナデ	
141	5	73-1	E3	11-2 層	深鉢	布勢		石英、角閃石含む	外：黒褐色 10YR3/1 内：灰白色 10YR7/1	外：沈線文、刻目、ナデ 内：刻目、ナデ	
141	6	73-1	E4	11-2 層	深鉢	布勢		石英、ハイカ 角閃石含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/3 内：浅黄橙色 7.5YR8/3	外：沈線文、刻目、ナデ 内：ナデ	
141	7	73-1	E1	11-1 層	深鉢	布勢		石英、ハイカ 角閃石含む	外：褐灰色 5YR4/1 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：竹管文、二枚貝条痕 内：ナデ	口縁肥厚
141	8	73-1	E2	11-1 層	深鉢	布勢		石英、ハイカ 角閃石、金雲母含む	外：にぶい橙色 7.5YR6/4 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：竹管文、二枚貝条痕 内：二枚貝条痕	口縁肥厚
141	9	73-1	E3	11-2 層	深鉢	布勢		石英、ハイカ 角閃石含む	外：にぶい橙色 7.5YR6/4 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：竹管文、二枚貝条痕 内：二枚貝条痕	口縁肥厚
141	10	73-1	E3	11-2 層	深鉢	布勢		石英、ハイカ（多）含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/4 内：浅黄橙色 7.5YR8/4	外：竹管文、巻貝条痕＋ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	口縁肥厚
141	11	73-1	E3	11-2 層	深鉢	布勢		石英、ハイカ 金雲母含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/4 内：浅黄橙色 7.5YR8/4	外：竹管文、巻貝条痕＋ナデ 内：ナデ	口縁肥厚
141	12	73-1	E2	11-2 層	深鉢	暮地		石英（多）、角閃石含む	外：灰黄褐色 10YR4/2 内：灰黄褐色 10YR4/2	外：磨消縄文（RL） 内：ミガキ	突起
141	13	73-1	E2	11-2 層	突起	暮地？		石英（多）、ハイカ 角閃石含む	外：灰白色 10YR7/1 内：灰白色 10YR7/1	外：沈線文、ナデ 内：ナデ	山形？突起
142	1	73-1	E4	11-2 層	突起	布勢		石英、ハイカ（多）含む	外：橙色 2.5YR6/6 内：橙色 2.5YR6/6	外：上・正面円形透孔、ミガキ 内：ナデ	円盤状突起
142	2	73-1	E2	11-2 層	突起	布勢		石英、ハイカ 角閃石含む	外：にぶい橙色 5YR7/3 内：にぶい橙色 5YR7/3	外：螺旋沈線文、上・正面円形透孔 ナデ	円筒状突起

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	器種	分類	法量 ( ) 内復元値 (cm)	胎土	色調	文様・調整その他	備考
142	3	73-1	E2	11-2 層	突起	布勢		石英、ハイカ含む	外：灰褐色 7.5YR6/2 内：灰褐色 7.5YR6/2	外：凹線文、ミガキ 内：ミガキ	円筒状突起（斜行）
142	4	73-1	E2	11-2 層	突起	布勢		石英、角閃石雲母含む	外：明褐灰色 7.5YR7/2 内：明褐灰色 7.5YR7/2	外：凹線文、ナデ 内：ナデ	山形突起
142	5	73-1	D2	11-2 層	突起	布勢		石英、ハイカ角閃石含む	外：明褐灰色 7.5YR7/2 内：褐灰色 7.5YR4/1	外：刻目、ミガキ 内：ナデ	山形突起
142	6	73-1	D2	11 層	突起	布勢		石英、ハイカ含む	外：灰黄褐色 10YR5/2 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：頂部凹点文、ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	扁平な突起
142	7	73-1	D2 D3	11 層	深鉢	布勢		石英、ハイカ金雲母含む	外：にぶい橙色 5YR7/4 内：灰黄褐色 10YR6/2	外：沈線文、ナデ 内：ナデ	
142	8	73-1	E2	11-2 層	深鉢	布勢		石英、ハイカ金雲母含む	外：にぶい褐色 7.5YR6/3 内：灰黄褐色 10YR5/2	外：沈線文、ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	
142	9	73-2	E2 E3	11-2 層	深鉢	布勢		石英、ハイカ角閃石含む	外：灰白色 10YR5/2 内：灰白色 10YR5/2	外：沈線文、ナデ 内：ナデ	
142	10	73-2	D1	11-2 層	深鉢	布勢		石英、ハイカ含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：沈線文、ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	
142	11	73-2	D2	11-2 層	深鉢	布勢		石英、ハイカ（多）含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/3 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：沈線文、ナデ 内：匙面条痕＋ナデ	
142	12	73-2	D2	11-2 層	深鉢	布勢		石英、ハイカ角閃石含む	外：にぶい橙色 5YR7/4 内：にぶい橙色 5YR7/4	外：沈線文、ナデ 内：匙面条痕＋ナデ	142-11 と同一意匠
142	13	73-2	E2	11-1 層	深鉢？	不明		石英、角閃石含む	外：灰黄褐色 10YR6/2 内：灰黄褐色 10YR4/2	外：細沈線文、ミガキ 内：ナデ	型式不明
142	14	73-2	D2	11-2 層	鉢	不明		石英、ハイカ角閃石含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：細沈線文（ジグザグ意匠）、ナデ 内：ナデ	型式不明
142	15	89-2	E1-E2	11 層 ·12 層	浅鉢	布勢 浅鉢 II a 類		石英、角閃石含む	外：褐灰色 10YR5/1 内：灰黄褐色 10YR4/2	外：沈線文、沈線内刺突、ミガキ 内：ミガキ	山形突起 沈線に赤色顔料
142	16	73-2	E2	11-2 層	浅鉢	布勢 浅鉢 II a 類		石英、角閃石金雲母含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：褐灰色 10YR4/1	外：沈線文、ミガキ 内：ミガキ	
142	17	73-2	E2	11-2 層	浅鉢	布勢 浅鉢 II a 類		石英、雲母含む	外：褐灰色 7.5YR6/1 内：褐灰色 10YR4/1	外：沈線文、ミガキ 内：ミガキ	
142	18	74-1	E2-E3	11 層 11-2 層	浅鉢	布勢 浅鉢 II a 類		石英、金雲母角閃石含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：褐灰色 10YR4/1	外：沈線文、ミガキ 内：ミガキ	
142	19	73-2	E3	11 層	浅鉢	布勢 浅鉢 II a 類		石英、ハイカ金雲母含む	外：灰黄褐色 10YR5/2 内：灰黄褐色 10YR5/2	外：沈線文、押引刺突、ミガキ 内：ミガキ	
142	20	73-2	E2	11-2 層	浅鉢	暮地？		石英、ハイカ角閃石、金雲母含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：褐灰色 10YR4/1	外：沈線文、ミガキ 内：ミガキ	中央浮線上に盛り上がる
142	21	73-2	E2	11-2 層	浅鉢	布勢		石英、金雲母含む	外：にぶい褐色 7.5YR5/3 内：にぶい褐色 7.5YR5/3	外：沈線文、ミガキ 内：ミガキ	
142	22	73-2	E2	11-2 層	浅鉢	暮地？		石英、ハイカ金雲母含む	外：にぶい褐色 7.5YR6/3 内：褐灰色 10YR5/1	外：沈線文、ミガキ 内：ミガキ	沈線に赤色顔料 (分析)
143	1	74-1	D2-E2	11-2 層	浅鉢	布勢	口径 (33.6)	石英（多）、雲母含む	外：黒褐色 10YR3/2 内：にぶい黄褐色 10YR4/3	外：沈線文、ミガキ、一部巻貝条痕 内：ミガキ、一部巻貝条痕	
143	2	74-1	E2	11-2 層	浅鉢	布勢？		石英、ハイカ角閃石、金雲母含む	外：褐灰色 10YR5/1 内：褐灰色 10YR4/1	外：沈線文、ミガキ 内：ミガキ	
143	3	74-1	E2	11-2 層	浅鉢	布勢		石英、ハイカ角閃石、金雲母含む	外：灰黄褐色 10YR4/2 内：灰黄褐色 10YR4/2	外：沈線文、ミガキ 内：ミガキ	沈線に赤色顔料 (分析)
143	4	74-1	E4-F4	11 層	浅鉢	布勢		石英、ハイカ角閃石含む	外：灰色 N4/ 内：灰黄色 2.5Y6/2	外：沈線文、ミガキ 内：ミガキ	
143	5	74-2	E3	11-2 層	浅鉢	布勢		石英、金雲母含む	外：浅黄橙色 10YR5/3 内：浅黄橙色 10YR5/3	外：沈線文、ミガキ 内：ミガキ	
143	6	74-2	D2	11 層	浅鉢	布勢		石英含む	外：灰黄褐色 10YR5/2 内：灰黄褐色 10YR5/2	外：沈線文、ミガキ 内：ミガキ	沈線に赤色顔料 (分析)
143	7	74-2	E2	11 層	浅鉢	布勢		石英含む	外：褐灰色 10YR5/1 内：褐灰色 10YR4/1	外：沈線文、ミガキ 内：ミガキ	沈線に赤色顔料 (分析)
143	8	74-2	E4	11 層	浅鉢	布勢		石英、角閃石金雲母含む	外：橙色 7.5YR6/6 内：橙色 7.5YR6/6	外：一部磨消縄文 RL、ミガキ 内：ミガキ	
143	9	74-2	E2	11-2 層	浅鉢	布勢		石英、ハイカ角閃石、金雲母含む	外：にぶい褐色 7.5YR6/3 内：褐灰色 7.5YR4/1	外：沈線文、ミガキ 内：ミガキ	
143	10	89-2	E2 E3	11-2 層	浅鉢	布勢 浅鉢 II a 類		石英、ハイカ金雲母含む	外：灰黄褐色 10YR6/2 内：灰褐色 10YR4/1	外：沈線（5 分割垂下文あり）、ミガキ 内：ミガキ	浅鉢 II a 類を 2 段重ね 沈線に赤色顔料
143	11	74-2	E2 E3	11-2 層	浅鉢	布勢 浅鉢 II a 類		石英、雲母角閃石ハイカ含む	外：灰黄褐色 10YR4/2 内：灰黄褐色 10YR5/2	外：沈線文、ミガキ 内：ミガキ	
143	12	74-2	E2	11-2 層	浅鉢	布勢 浅鉢 II a 類		石英、金雲母（多）含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：灰黄褐色 10YR4/2	外：沈線文、ミガキ 内：ミガキ	
143	13	74-2	E2	11-2 層	浅鉢	布勢 浅鉢 II a 類		石英、角閃石金雲母含む	外：褐灰色 10YR5/1 内：褐灰色 10YR5/1	外：沈線文、ミガキ、一部巻貝条痕 内：ミガキ、一部巻貝条痕	
144	1	74-2	E2	11-2 層	浅鉢	布勢		石英、ハイカ角閃石、金雲母含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：灰黄褐色 10YR4/2	外：沈線文、ミガキ 内：ミガキ	
144	2	74-2	E4	11-2 層	浅鉢	布勢？		石英、角閃石金雲母含む	外：褐灰色 7.5YR4/1 内：褐灰色 7.5YR4/1	外：磨消縄文 RL、ミガキ 内：ミガキ	
144	3	75-1	E2	11-2 層	浅鉢	布勢		石英、角閃石含む	外：にぶい黄褐色 10YR5/3 内：にぶい黄褐色 10YR5/3	外：沈線文、ミガキ 内：ミガキ	
144	4	75-1	E2 E3	11-2 層	浅鉢	布勢		石英、金雲母含む	外：にぶい橙色 5YR6/4 内：にぶい橙色 5YR6/4	外：沈線文、ミガキ 内：ミガキ	
144	5	75-1	E2	11-2 層	浅鉢	布勢		石英、角閃石金雲母含む	外：灰黄褐色 10YR5/2 内：灰黄褐色 10YR5/2	外：沈線文、ミガキ 内：ミガキ	
144	6	75-1	E4	11-2 層	浅鉢	布勢		石英、角閃石金雲母含む	外：灰黄褐色 10YR5/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：沈線文、ナデ 内：ナデ	右下端に沈線端部
144	7	74-2	E2	11-2 層	浅鉢	布勢		石英多く含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：灰黄褐色 10YR4/2	外：沈線文、ミガキ 内：ミガキ	下端に沈線端部
144	8	75-1	E2	11-2 層	浅鉢	布勢		石英含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：褐灰色 10YR4/1	外：沈線文、ミガキ 内：ミガキ	
144	9	75-1	E2	11-2 層	浅鉢	暮地		石英、金雲母含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：磨消縄文 RL、ミガキ 内：ミガキ	下端中央に補修孔
144	10	75-1	E3	11-2 層	浅鉢	布勢		石英含む	外：にぶい橙色 5YR7/3 内：にぶい橙色 5YR7/3	外：沈線文、ミガキ 内：ミガキ	
144	11	75-1	E2	11-2 層	浅鉢	暮地？		石英、金雲母角閃石含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：褐灰色 10YR4/1	外：沈線文、刺突文、ミガキ 内：ミガキ	大波状口縁 内：段
144	12	75-1	D2	11-2 層	浅鉢	暮地？		石英、金雲母含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：褐灰色 10YR4/1	外：沈線文、刺突文、ミガキ 内：ミガキ	大波状口縁 内：段
144	13	75-1	E2	11-2 層	浅鉢	布勢 浅鉢 II a 類		石英、金雲母（多）含む	外：灰黄褐色 10YR4/1 内：にぶい褐色 7.5YR6/3	外：沈線文、ミガキ 内：ミガキ	沈線に赤色顔料 (分析)
144	14	75-1	E2	11-1 層	浅鉢	布勢 浅鉢 II a 類		石英含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：沈線文、ミガキ 内：ミガキ	

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	器種	分類	法量 ( ) 内復元値 (cm)	胎土	色調	文様・調整その他	備考
144	15	75-1	E4	11-2 層	浅鉢	布勢 浅鉢 II a 類		石英、金雲母（多）含む	外：にぶい褐色 7.5YR6/3 内：にぶい褐色 7.5YR6/3	外：沈線文、ミガキ 内：ミガキ	口縁肥厚
144	16	75-2	D2-E2	11 層	浅鉢	布勢 浅鉢 II a 類		石英、ハイカ、角閃石、金雲母含む	外：黒褐色 10YR3/1 内：黒褐色 10YR3/1	外：沈線文、ミガキ 内：ミガキ	
144	17	75-2	E2	11-2 層	浅鉢	布勢 浅鉢 II a 類		石英、角閃石 金雲母含む	外：明褐灰色 5YR7/2 内：灰褐色 7.5YR6/2	外：沈線文、ミガキ 内：ミガキ	
144	18	75-2	E2 北 T	11-2 層	浅鉢	布勢 浅鉢 II a 類		石英、金雲母含む	外：黒褐色 10YR3/1 内：黒褐色 10YR3/1	外：沈線内刺突、ミガキ 内：ミガキ	
144	19	75-2	D2-E2	11 層	浅鉢	布勢・暮地 浅鉢 II a 類		石英、金雲母含む	外：にぶい褐色 7.5YR5/3 内：にぶい褐色 7.5YR5/3	外：ミガキ 内：ミガキ	口縁肥厚
144	20	75-2	D2-D3	11 層	浅鉢	布勢・暮地 浅鉢 II a 類		石英、金雲母含む	外：橙色 5YR6/6 内：橙色 5YR6/6	外：ミガキ 内：ミガキ	口縁肥厚
144	21	75-2	E2 北 T	11-2 層	浅鉢	布勢・暮地 浅鉢 II a 類		石英含む	外：明赤褐色 2.5YR5/6 内：明赤褐色 2.5YR5/6	外：ミガキ 内：ミガキ	口縁肥厚
144	22	75-2	E3	11-2 層	浅鉢	布勢・暮地 浅鉢 II a 類		石英、角閃石含む	外：にぶい赤褐色 5YR5/4 内：にぶい赤褐色 5YR5/4	外：ミガキ 内：ミガキ	口縁肥厚
144	23	75-2	E3	11-2 層	浅鉢	布勢・暮地 浅鉢 II a 類	口径 (20.4)	石英含む	外：にぶい褐色 7.5YR6/3 内：にぶい褐色 7.5YR6/3	外：ミガキ 内：ミガキ	口縁肥厚
145	1	76-1	E3	11 層	浅鉢	布勢・暮地 浅鉢 II a 類	口径 (28.4)	石英、角閃石 金雲母含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：ミガキ 内：巻貝条痕＋ミガキ	口縁肥厚
145	2	89-2	E2	11-2 層	浅鉢	布勢・暮地 浅鉢 II b 類	口径 (21.4) 器高 15.6 底径 21.5	石英、ハイカ含む	外：黒褐色 7.5YR3/1 内：黒褐色 7.5YR3/1	外：ミガキ 内：ミガキ	焼成前穿孔 3 方に配置
145	3	76-1	E2	11 層	浅鉢	布勢 浅鉢Ⅳ類		石英、ハイカ 金雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：沈線文、勾玉様の凹線文、ミガキ 内：ミガキ	波状口縁
145	4	76-1	E4	11 層	浅鉢	布勢 浅鉢Ⅳ類		石英、ハイカ 金雲母含む	外：灰色 N5/ 内：灰色 N5/	外：沈線文、勾玉様の凹線文、ミガキ 内：ミガキ	波状口縁
145	5	76-1	E4	11-2 層	浅鉢	布勢 浅鉢 I b 類		石英、ハイカ 角閃石含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：沈線文、ミガキ 内：ミガキ	
145	6	76-1	E2	11-2 層	浅鉢	暮地 浅鉢 I b 類		石英、角閃石含む	外：褐灰色 7.5YR5/1 内：灰黄褐色 10YR6/2	外：巻貝条痕＋ミガキ 内：ミガキ	内：段
145	7	76-1	E3	11-2 層	浅鉢	暮地 浅鉢 I b 類		石英含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：巻貝条痕＋ミガキ 内：ミガキ	内：段
145	8	76-1	E2	11-2 層	浅鉢	暮地 浅鉢 I b 類		石英、角閃石含む	外：明褐灰色 7.5YR7/2 内：灰白色 10YR8/2	外：条痕＋ミガキ 内：ミガキ	内：段
145	9	76-2	E3	12 層	浅鉢	暮地 浅鉢 I b 類		石英、角閃石 金雲母含む	外：にぶい褐色 7.5YR5/3 内：にぶい褐色 7.5YR5/3	外：ミガキ 内：ミガキ	内：段
146	1	77-1	E2	11-2 層	浅鉢	暮地 浅鉢 I b 類		石英、ハイカ、 金雲母含む	外：明褐灰色 7.5YR7/2 内：灰白色 10YR8/2	外：ミガキ 内：ミガキ	内：段
146	2	76-2	E3	11-2 層	浅鉢	暮地 浅鉢 I b 類	口径 (28.4)	石英、角閃石 金雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：ミガキ 内：ミガキ	内：段
146	3	76-2	E2	11-2 層	浅鉢	暮地・布勢 浅鉢Ⅲ類		石英、角閃石 金雲母含む	外：黒色 7.5YR2/1 内：黒色 7.5YR2/1	外：沈線文、ミガキ 内：ミガキ	胴部屈曲
146	4	76-2	E2	11-2 層	浅鉢	暮地・布勢 浅鉢Ⅲ類		石英、角閃石 金雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/3 内：灰黄褐色 10YR6/2	外：ミガキ 内：ミガキ	胴部屈曲 補修孔 2 個
146	5	76-2	E3	11-2 層	浅鉢	暮地・布勢 浅鉢Ⅲ類		石英、角閃石 金雲母含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/5 内：にぶい橙色 7.5YR7/5	外：ミガキ 内：ミガキ	胴部屈曲 補修孔 3 個
146	6	77-1	E2	11-2 層	浅鉢	暮地・布勢 浅鉢Ⅲ類		石英、ハイカ 金雲母含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：刻目、ミガキ 内：ミガキ	胴部屈曲
146	7	77-1	E2	11 層	浅鉢	暮地・布勢 浅鉢Ⅲ類		石英、ハイカ 金雲母含む	外：灰褐色 5YR4/2 内：にぶい黒褐色 5YR5/3	外：刻目、ミガキ 内：ミガキ	胴部屈曲
146	8	76-2	E2	11-2 層	浅鉢	暮地・布勢 浅鉢Ⅲ類	口径 (16.0)	石英、ハイカ 金雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR5/3 内：にぶい橙色 7.5YR6/3	外：ミガキ 内：ミガキ	胴、口縁湾曲、鉢？
146	9	77-1	E2	11-2 層	浅鉢	暮地・布勢 浅鉢Ⅲ類	口径 (42.6)	石英、ハイカ 金雲母含む	外：褐灰色 7.5YR4/1 内：褐灰色 7.5YR4/1	外：ミガキ 内：ミガキ	胴部屈曲
146	10	76-2	E2	11-1 層	浅鉢	暮地・布勢 浅鉢Ⅲ類	口径 (27.0)	石英、金雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：浅黄橙色 10YR8/3	外：刻目、ミガキ 内：ミガキ	胴部湾曲、鉢？
147	1	77-2	E2	11-1 層	浅鉢	暮地・布勢 浅鉢Ⅲ類		石英、角閃石 金雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：浅黄橙色 10YR8/4	外：刻目、ミガキ 内：ミガキ	胴部湾曲
147	2	77-2	D2-E2	11 層	浅鉢	暮地・布勢 浅鉢Ⅲ類		石英、ハイカ？、 角閃石含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：刻目、ミガキ 内：ミガキ	胴部湾曲
147	3	77-2	E3	11-2 層	浅鉢	津雲 A ？		石英、ハイカ？ 角閃石、金雲母含む	外：黒褐色 10YR3/1 内：黒褐色 10YR3/1	外：縄文帯（RL）盛り上がる、ミガキ 内：ミガキ	屈曲口縁
147	4	77-2	E2	11-2 層	浅鉢	布勢		石英、ハイカ 角閃石、金雲母（多）含む	外：灰黄褐色 10YR5/2 内：灰黄褐色 10YR5/2	外：磨消縄文 RL ＋刻目、ミガキ 内：ミガキ	補修孔 2
147	5	77-2	E4	11-2 層	浅鉢	崎ヶ鼻 1 ？		石英、金雲母含む	外：灰黄褐色 10YR4/2 内：灰黄褐色 10YR4/2	外：磨消縄文 RL、ミガキ 内：ミガキ	縄文帯盛り上がる
147	6	77-2	E4	11 層	浅鉢	暮地・布勢		石英、角閃石含む	外：にぶい褐色 7.5YR5/4 内：黒褐色 7.5YR3/1	外：縄文反撚 L、ミガキ 内：ミガキ	口縁肥厚
147	7	77-2	D2-E2・ E4	11 層	浅鉢	暮地・布勢		石英、ハイカ 金雲母含む	外：明赤褐色 5YR5/6 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：縄文反撚 L、ミガキ 内：ミガキ	口縁肥厚
147	8	77-2	E2-E3	11-2 層	壺	暮地・布勢	口径 (23.3)	石英、ハイカ 角閃石、金雲母含む	外：灰黄褐色 10YR6/2 内：褐灰色 10YR4/1	外：ミガキ 内：ミガキ	口縁肥厚
147	9	77-2	E3	11-2 層	壺	暮地・布勢	口径 12.7	石英、ハイカ 金雲母含む	外：灰白色 10YR8/2 内：灰白色 10YR8/2	外：沈線文、ミガキ 内：ミガキ	口縁肥厚
147	10	77-2	E2	11-1 層	壺	暮地・布勢		石英、金雲母含む	外：灰黄褐色 10YR5/2 内：灰黄褐色 10YR5/2	外：ミガキ 内：ミガキ	
147	11	77-2	E4-E2	11 層	壺	暮地・布勢		石英、ハイカ？ 金雲母含む	外：にぶい褐色 7.5YR5/3 内：灰褐色 7.5YR5/2	外：ミガキ 内：ミガキ	
147	12	77-2	D2	11 層	壺	布勢	口径 (10.2)	石英、ハイカ（多） 金雲母含む	外：灰黄褐色 10YR4/2 内：灰黄褐色 10YR4/2	外：沈線文、ミガキ 内：ミガキ	
147	13	77-2	E2	11-2 層	壺	暮地・布勢		石英、角閃石含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：下端に沈線文、ミガキ 内：ミガキ	
147	14	77-2	D2-E4	11 層	壺	暮地・布勢	口径 (8.7)	石英、角閃石含む	外：にぶい黄褐色 10YR4/3 内：灰黄褐色 10YR5/2	外：ミガキ 内：ナデ	
147	15	78-1	E1-2・ E3-F2	11 層	壺	暮地・布勢	口径 (10.7)	石英、ハイカ 金雲母含む	外：黒褐色 10YR3/1 内：灰黄褐色 10YR5/2	外：縄文 RL（節細かい）、ミガキ 内：ナデ	口縁肥厚、肩部段
147	16	78-1	E2-E3	11-2 層	壺 or 注口	暮地・布勢		石英含む	外：暗褐色 7.5YR3/3 内：暗褐色 7.5YR3/3	外：肩部段、ミガキ 内：ミガキ	147-21 と同一個体？
147	17	77-2	E3	11 層	壺	布勢		石英、ハイカ 金雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/3 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：口唇刺突、刻目、ナデ 内：ナデ	台形状突起
147	18	77-2	E3	11-2 層	浅鉢 or 鉢	暮地		石英、金雲母含む	外：黒褐色 7.5YR3/1 内：灰黄褐色 10YR6/2	外：磨消縄文 LR、ミガキ 内：ミガキ	3 本沈線
147	19	77-2	E2-E3	11-2 層	壺	布勢		石英含む	外：褐灰色 7.5YR5/1 内：褐灰色 7.5YR6/1	外：磨消縄文 RL、ミガキ 内：ナデ	

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	器種	分類	法量 ( ) 内復元値 (cm)	胎土	色調	文様・調整その他	備考
147	20	77-2	E3	11-2 層	鉢 or 壺	布勢？		石英、角閃石？金雲母含む	外：にぶい赤褐色 5YR5/4 内：にぶい赤褐色 5YR5/4	外：磨消縄文反撚 L ？、ミガキ 内：巻貝条痕	3 本沈線
147	21	78-1	E2	11-2 層	注口	布勢		石英、ハイカ含む	外：暗赤褐色 5YR3/2 内：褐灰色 7.5YR4/1	外：沈線文、ミガキ	端部肥厚 16 と同一個体？
147	22	77-2	E2	11-2 層	壺 or 鉢	暮地・布勢		石英、ハイカ含む	外：橙色 7.5YR6/6 内：橙色 7.5YR6/6	外：ミガキ 内：ミガキ	口縁肥厚
147	23	77-2	E2	11-2 層	壺 or 鉢	暮地・布勢		石英、ハイカ角閃石含む	外：にぶい赤褐色 5YR5/4 内：にぶい赤褐色 5YR5/4	外：ミガキ 内：ミガキ	口縁肥厚
148	1	78-1	E2-E4	11 層	鉢	暮地・布勢		石英、ハイカ含む	外：灰黄褐色 10YR5/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：刻目、刺突文、短沈線、ミガキ 内：ミガキ	肩部段
148	2	78-1	E2	11-2 層	鉢	暮地・布勢		石英、ハイカ金雲母含む	外：橙色 5YR6/6 内：にぶい赤褐色 5YR5/4	外：ミガキ 内：ミガキ	口縁肥厚
148	3	78-1	E2	11 層	鉢	暮地・布勢		石英、金雲母含む	外：にぶい黄褐色 10YR6/3 内：にぶい黄褐色 10YR6/3	外：縄文 RL、ミガキ 内：ミガキ	口縁肥厚
148	4	78-1	E4	11 層	浅鉢	暮地・布勢		石英、ハイカ雲母（多）含む）	外：にぶい褐色 7.5YR6/3 内：灰黄褐色 10YR5/2	外：縄文反撚 R ？、刺突文？、ミガキ 内：ミガキ	口縁肥厚
148	5	78-1	E3	11-2 層	鉢	暮地・布勢		石英含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：縄文 LR、ミガキ 内：ミガキ	肩部段
148	6	78-1	E2	11-1 層	鉢	暮地・布勢		金雲母含む 砂粒少量	外：灰黄褐色 10YR6/2 内：灰黄褐色 10YR6/2	外：縄文 RL、ミガキ 内：ミガキ	口縁肥厚
148	7	78-1	E4-E3	11 層	鉢	暮地・布勢		砂粒少量含む	外：灰黄褐色 10YR6/2 内：灰白色 10YR8/2	外：沈線文、縄文 RL 内：ナデ	
148	8	78-2	D2-E2	11 層	鉢	暮地・布勢		石英、ハイカ？含む	外：灰黄褐色 10YR5/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：縄文 RL、ミガキ 内：ミガキ	肩部段
148	9	78-2	F4-E4	11 層	鉢	暮地・布勢		石英、ハイカ含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/4 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：縄文 RL 内：ミガキ	
148	10	89-2	E4	11 層 13 層	鉢	暮地・布勢	口径 (17.0)	石英、ハイカ金雲母含む	外：橙色 7.5YR7/6 内：橙色 7.5YR7/6	外：ミガキ 内：ミガキ	口縁肥厚、肩部段
148	11	78-2	E2	11-1 層	鉢	暮地・布勢		石英、ハイカ含む	外：灰黄褐色 10YR4/2 内：灰黄褐色 10YR4/2	外：縄文反撚 L、雑なミガキ 内：雑なミガキ	胴肩部稜
148	12	78-2	E2	11-2 層	鉢	暮地・布勢		石英、ハイカ含む	外：灰褐色 7.5YR4/2 内：にぶい褐色 7.5YR5/4	外：雑なミガキ 内：雑なミガキ	
148	13	78-2	E3	11-2 層	鉢	暮地・布勢		石英含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：灰黄褐色 10YR6/2	外：ミガキ 内：ミガキ	口縁短く外反
148	14	78-2	E4	11 層	浅鉢	暮地・布勢	底径（8.4）	石英、ハイカ金雲母含む	外：橙色 7.5YR7/6 内：橙色 7.5YR7/6	外：ミガキ 内：ミガキ	
148	15	90-1	E2	11-2 層	鉢	暮地・布勢	口径 (16.0) 器高 11.1 底径 7.0	石英（多）、ハイカ含む	外：橙色 5YR6/8 にぶい黄橙色 10YR7/3 内：橙色 5YR6/6 ～ にぶい黄橙色 10YR7/3	外：刻目、斜行沈線文、二枚貝条痕 内：ナデ	口縁部下に横走沈線 平底
148	16	78-2	E2	11-2 層	鉢	暮地・布勢	口径 (16.8) 器高 9.4 底径（5.0）	石英、ハイカ角閃石、金雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/2 内：灰黄褐色 10YR5/2	外：ミガキ 内：ミガキ	平底
148	17	79-1	E3	11-2 層	鉢	暮地・布勢	口径 (18.4)	石英、ハイカ含む	外：灰褐色 7.5YR6/2 内：浅黄橙色 7.5YR8/4	外：刻目、巻貝条痕 内：ナデ	
148	18	79-1	E2	11 層	鉢	暮地・布勢		石英、ハイカ？含む	外：灰褐色 7.5YR5/2 内：明褐灰色 7.5YR7/2	外：巻貝条痕＋ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	
148	19	78-2	E2	11-2 層	深鉢	無文Ⅰ類		石英、ハイカ含む	外：にぶい橙色 7.5YR6/4 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：巻貝条痕＋ナデ 内：ナデ	
148	20	78-2	E3	11 層	脚	時期不明	底径（8.4）	石英、金雲母含む	外：明褐色 7.5YR5/6 ～ 明赤褐色 2.5YR5/6 内：にぶい黄褐色 10YR6/4	外：円形透孔 4 方向？、ミガキ 内：ケズリ	精製土器
149	1	79-1	E2	11-2 層	鉢	暮地・布勢		石英、ハイカ？含む	外：にぶい橙色 7.5YR6/4 内：灰褐色 7.5YR5/2 ～ にぶい橙色 7.5YR7/4	外：ナデ 内：ナデ	口頸部境界に稜
149	2	79-1	E3	11 層	深鉢	無文Ⅰ類		石英、角閃石金雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/4 ～灰白色 10YR8/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/4	外：匙面条痕 内：ナデ	
149	3	79-1	D2	11-2 層	深鉢	無文Ⅰ類		石英、ハイカ？金雲母含む	外：浅黄橙色 10YR8/3 内：浅黄色 2.5Y7/3	外：刻目、二枚貝条痕 内：ナデ	
149	4	79-1	E2	11-2 層	鉢	暮地・布勢		石英、ハイカ含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：刻目、二枚貝条痕＋ナデ 内：二枚貝条痕＋ナデ	
149	5	79-1	E2 北 T	11-2 層	鉢	暮地・布勢		石英、ハイカ？含む	外：橙色 2.5YR6/6 ～ にぶい橙色 7.5YR7/3 内：にぶい褐色 7.5YR6/3	外：ナデ 内：ナデ	
149	6	79-1	E2 北 T	11-2 層	鉢	暮地・布勢	口径 (16.0)	石英、ハイカ？含む	外：灰白色 2.5Y8/2 ～ 浅黄橙色 7.5YR8/4 内：浅黄橙色 7.5YR8/4	外：刻目、二枚貝条痕＋ナデ 内：二枚貝条痕＋ナデ	
149	7	79-2	E3 E4	11-2 層 12 層	鉢	暮地・布勢	口径 (18.4)	石英、ハイカ？含む	外：にぶい赤褐色 5YR5/4 内：にぶい赤褐色 5YR5/3	外：ナデ 内：ナデ	
149	8	79-2	E2	11-2 層	鉢	無文Ⅰ類		石英、ハイカ角閃石含む	外：淡黄色 2.5Y8/3 内：淡黄色 2.5Y7/3	外：刻目、二枚貝条痕？＋ナデ 内：ナデ	
149	9	79-2	E2	11-1 層 11-2 層	深鉢	無文Ⅰ類	口径 (42.6)	石英、ハイカ含む	外：にぶい赤褐色 5YR5/3 内：浅黄橙色 7.5YR8/3	外：匙面条痕 内：匙面条痕＋ナデ	口唇面取り
149	10	79-1	D2-E2	11 層	鉢	暮地・布勢		石英、金雲母含む	外：にぶい橙色 5YR6/4 内：にぶい橙色 2.5YR6/4	外：刻目 内：ナデ	
149	11	80-1	E2	11-2 層	小型深鉢	無文Ⅰ類	口径 (16.8)	石英、ハイカ角閃石、金雲母含む	外：にぶい赤褐色 5YR5/4 内：にぶい褐色 7.5YR5/3	外：巻貝条痕＋ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	
149	12	80-1	E2	11-2 層	深鉢	無文Ⅰ類	口径 (24.2)	金雲母多、ハイカ含む。砂粒微砂粒多い。	外：橙色 7.5YR6/6 内：にぶい橙色 7.5YR6/4	外：匙面条痕 内：匙面条痕	口縁やや内湾
149	13	79-1	F3	11 層	鉢	暮地・布勢		石英、ハイカ含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/4	外：刻目、匙面条痕 内：匙面条痕	
149	14	79-2	E3-E2	11-2 層	深鉢	無文Ⅰ類	口径 (20.0)	ハイカ？金雲母含む	外：にぶい橙色 5YR7/4 内：灰褐色 7.5YR5/1	外：刻目、ナデ 内：ナデ	
149	15	79-1	E2	11-2 層	深鉢	無文Ⅱ類		石英、ハイカ角閃石含む	外：にぶい橙色 5YR7/4 内：明黄褐色 10YR7/6	外：部分的に刻目、匙面条痕＋ナデ 内：匙面条痕＋ナデ	
149	16	79-1	E4	11 層	鉢	暮地・布勢		砂粒少量含む	外：浅黄色 2.5Y7/4 内：浅黄色 2.5Y7/4	外：刻目、ナデ 内：ナデ	
149	17	79-1	E2	11-2 層	深鉢	無文Ⅰ類		石英、ハイカ含む	外：灰白色 10YR8/2 内：灰白色 10YR8/2	外：刻目、巻貝条痕＋ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	
149	18	79-1	E4	11-2 層	深鉢	無文Ⅰ類		石英、ハイカ金雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/4 内：橙色 5YR7/6 ～灰白色 10YR8/2	外：巻貝条痕＋ナデ 内：ナデ	
149	19	79-2	E2	11-2 層	深鉢	無文Ⅰ類	口径 (19.8)	石英、ハイカ？含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/4 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：ナデ 内：ナデ	
149	20	80-2	E3	11-2 層	深鉢	無文Ⅰ類		石英、ハイカ？金雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/3 内：灰黄褐色 10YR5/2	外：巻貝条痕＋ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	
149	21	79-2	E2	11-2 層	深鉢	無文Ⅰ類	口径 (22.8)	石英、ハイカ金雲母含む	外：にぶい赤褐色 5YR5/4 内：灰白色 10YR8/1	外：巻貝条痕＋ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	器種	分類	法量 ( ) 内復元値 (cm)	胎土	色調	文様・調整その他	備考
149	22	80-2	E2	11-2 層	深鉢	無文Ⅰ類		石英、ハイカ、金雲母含む	外：灰褐色 7.5YR6/2 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：巻貝条痕 内：巻貝条痕	
150	1	80-2	D2	11-2 層	深鉢	無文Ⅰ類		石英、ハイカ角閃石、金雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/4 内：浅黄橙色 10YR8/4	外：巻貝条痕＋ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	突起
150	2	80-1	E2	11-1 層	深鉢	無文Ⅰ類		石英、ハイカ角閃石、金雲母含む	外：橙色 5YR7/6 内：淡橙色 5YR8/4	外：ナデ 内：ナデ	口縁屈曲
150	3	80-2	E2	11-2 層	深鉢	無文Ⅰ類	口径 (27.1)	石英、ハイカ金雲母含む	外：にぶい橙色 5YR7/4 内：にぶい橙色 5YR7/4	外：匙面条痕 内：匙面条痕	補修孔 1 個
150	4	80-2	D2	11-2 層	深鉢	無文Ⅰ類	口径 (21.6)	石英、ハイカ金雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/4 内：にぶい黄橙色 10YR7/4	外：ナデ 内：ナデ	
150	5	90-1	E2 北 T	11-2 層	深鉢	無文Ⅰ類	口径 (25.6)	石英、ハイカ金雲母含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：巻貝条痕＋ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	補修孔 1 個
150	6	80-2	E2 北 T	11-2 層	深鉢	無文Ⅰ類	口径 (25.4)	石英、ハイカ？金雲母含む	外：にぶい褐色 7.5YR6/3 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：匙面条痕 内：ナデ	
150	7	80-1	E3	11-2 層	深鉢	無文Ⅰ類		石英、ハイカ金雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/4 内：にぶい黄橙色 10YR6/4	外：匙面条痕 内：ナデ	
150	8	80-2	E2	11 層	深鉢	無文Ⅱ類		土器細片混入 石英、ハイカ含む	外：にぶい橙色 7.5YR6/4 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：匙面条痕＋ナデ 内：ナデ	
150	9	90-1	E3	11-2 層	深鉢	無文Ⅰ類	口径 (24.8) 器高 30.6 底径 10.9	石英、ハイカ角閃石、金雲母含む	外：灰白色 10YR8/2 内：灰白色 10YR8/2	外：巻貝条痕＋ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	補修孔 1 個
150	10	90-1	E2	11 層	深鉢	無文Ⅱ類	口径 (27.0)	ハイカ含む	外：明褐灰色 7.5YR7/2 内：にぶい褐色 7.5YR6/3	外：巻貝条痕 内：巻貝条痕	
150	11	90-2	E2 E2 北 T	11-2 層	深鉢	無文Ⅱ類	口径 (24.0)	石英、ハイカ含む	外：灰白色 10YR5/2 内：灰白色 10YR5/2	外：巻貝条痕＋ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	
150	12	80-1	E3	11-2 層	深鉢	無文Ⅰ類		土器細片混入 石英、ハイカ含む	外：明黄褐色 10YR7/6 内：浅黄橙色 7.5YR8/4	外：刻目、巻貝条痕＋ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	補修孔 2 個
150	13	90-2	E2	11 層	深鉢	無文Ⅱ類	口径 (16.0) 器高 14.0 底径 7.5	石英、ハイカ金雲母含む	外：にぶい橙色 5YR6/4 内：灰褐色 7.5YR5/2	外：匙面条痕 内：巻貝条痕＋ナデ	
151	1	81-1	E2	11-2 層	深鉢	無文Ⅱ類		石英、ハイカ金雲母含む	外：橙色 5YR6/6 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：匙面条痕＋ナデ 内：匙面条痕＋ナデ	補修孔 1 個
151	2	81-1	E3	11 層	深鉢	無文Ⅱ類	口径 (25.0)	石英、ハイカ（多）金雲母含む	外：褐灰色 10YR6/1 内：褐灰色 10YR6/1	外：巻貝条痕＋ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	
151	3	81-1	E2	11-2 層	深鉢	無文Ⅱ類	口径 (29.2)	石英、金雲母含む	外：にぶい褐色 7.5YR6/3 内：にぶい褐色 7.5YR7/3	外：巻貝条痕＋ナデ	
151	4	81-1	D2	11 層	深鉢	無文Ⅱ類	口径 30.0	石英、ハイカ角閃石、金雲母含む	外：灰黄褐色 10YR5/2 内：灰黄褐色 10YR5/2	外：匙面条痕 内：ナデ	
151	5	90-2	E2-E2 北 T	11-2 層	深鉢	無文Ⅱ類	口径 22.2	石英、ハイカ（多）金雲母含む	外：明赤褐色 2.5YR5/6 内：にぶい褐色 7.5YR6/3	外：巻貝条痕＋ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	
151	6	81-1	D2	11-2 層	深鉢	無文Ⅱ類		石英、ハイカ（多）金雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/4 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：刻目、ナデ 内：ナデ	
151	7	81-2	E2 炭 集中部	11-2 層	深鉢	無文Ⅱ類	口径 (23.0)	石英、金雲母含む	外：にぶい橙色 5YR6/4 内：にぶい橙色 5YR6/4	外：巻貝条痕＋ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	補修孔 2 個
151	8	81-2	E2	11-2 層	深鉢	無文Ⅱ類	口径 (28.6)	石英、ハイカ、金雲母含む	外：にぶい橙色 5YR6/4 内：灰白色 7.5YR8/1	外：匙面条痕＋ナデ 内：匙面条痕＋ナデ	
151	9	81-1	E2	11-2 層	深鉢	無文Ⅱ類	口径 (25.6)	石英、ハイカ金雲母含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：褐灰色 10YR5/1	外：巻貝条痕 内：巻貝条痕	
151	10	82-1	E2 北 T	11-2 層	深鉢	無文Ⅱ類	口径 (31.4)	石英、ハイカ金雲母（多）、土器片含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：ナデ 内：ナデ・ケズリ	補修孔 1 個
151	11	81-1	E3	11-2 層	深鉢	無文Ⅱ類	口径 (27.6)	石英、ハイカ金雲母含む	外：灰黄褐色 10YR6/2 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：巻貝条痕 内：ナデ	
151	12	81-2	E3	11-2 層	深鉢	無文Ⅱ類	口径 (26.7)	石英、ハイカ金雲母含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：灰褐色 7.5YR6/2	外：二枚貝条痕 内：二枚貝条痕、ナデ	
152	1	81-2	E3	11-2 層	深鉢	無文Ⅱ類	口径 29.0	石英、ハイカ（多）金雲母含む	外：にぶい黄褐色 10YR5/3 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：巻貝条痕 内：ナデ	
152	2	82-1	E3	11-2 層	深鉢	無文Ⅱ類	口径 28.0	石英、ハイカ雲母（多）含む）	外：浅黄橙色 10YR8/3 内：浅黄橙色 10YR8/3	外：巻貝条痕＋ナデ 内：ナデ	
152	3	82-2	E2 E3	11-2 層	深鉢	無文Ⅱ類	口径 (32.6)	石英、ハイカ金雲母含む	外：灰黄褐色 10YR6/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：ケズリ 内：巻貝条痕	
152	4	83-1	E2 E4	11 層	深鉢	無文Ⅱ類	口径 (29.7)	石英、ハイカ金雲母（多）含む	外：にぶい褐色 7.5YR5/3 内：にぶい褐色 7.5YR5/3	外：上半巻貝・下半二枚貝条痕 内：ナデ	
152	5	90-2	D3	11 層	深鉢	無文Ⅱ類	口径 29.2 器高 32.3 底径 10.4	石英、ハイカ土器片含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：匙面条痕 内：巻貝条痕＋ナデ	
152	6	81-2	E2	11-1 層	深鉢	無文Ⅱ類		石英、ハイカ、雲母土器片含む	外：浅黄橙色 10YR8/3 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：匙面条痕 内：二枚貝条痕	
152	7	82-2	E3	11 層	深鉢	無文Ⅱ類		石英、ハイカ角閃石、雲母、土器片？含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/4 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：巻貝条痕 内：匙面条痕	
152	8	81-2	E2	11 層	深鉢	無文Ⅱ類	口径 (18.0)	石英、ハイカ含む	外：明褐灰色 7.5YR7/2 内：灰白色 7.5YR8/2	外：匙面条痕＋ナデ 内：ナデ	
152	9	81-2	E2	11 層	深鉢	無文Ⅱ類		石英、ハイカ含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：ナデ 内：ナデ	
152	10	81-2	E2	11 層	深鉢	無文Ⅱ類		石英、ハイカ含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：灰黄褐色 10YR6/2	外：ナデ 内：ナデ	口唇部刻目
152	11	81-2	E2	11 層	深鉢	無文Ⅱ類		石英、ハイカ角閃石、雲母含む	外：にぶい橙色 5YR6/3 内：にぶい橙色 5YR6/3	外：刻目、巻貝条痕＋ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	口唇部刻目
152	12	81-2	E2	11 層	深鉢	無文Ⅱ類		石英、角閃石含む	外：にぶい橙色 5YR7/4 内：浅黄橙色 10YR8/3	外：ナデ 内：ナデ	
153	1	91-1	E2 E3	11-2 層	深鉢	無文Ⅱ類	口径 (19.8) 器高 14.4 底径 (8.9)	石英、ハイカ雲母含む	外：にぶい橙色 5YR7/4 内：にぶい橙色 5YR7/3	外：ナデ 内：ナデ	小型
153	2	83-2	E1 D1 E2	11-2 層	深鉢	無文Ⅱ類		石英、ハイカ含む	外：にぶい黄橙色 YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR6/4 にぶい黄橙色 10YR7/3	外：刻目、匙面条痕＋ナデ 内：匙面条痕＋ナデ	小型
153	3	82-2	E2 北 T	11-2 層	深鉢	無文Ⅱ類		石英、ハイカ角閃石、雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/4 内：にぶい黄橙色 10YR7/4 褐灰色 10YR6/1 ～灰白色 10YR7/1	外：ナデ 内：ナデ	小型
153	4	83-2	E2	11-2 層	深鉢	無文Ⅱ類		石英、ハイカ、金雲母含む	外：にぶい橙色 7.5YR6/4 内：にぶい橙色 7.5YR6/4	外：匙面条痕 内：匙面条痕	

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	器種	分類	法量 ( ) 内復元値 (cm)	胎土	色調	文様・調整その他	備考
153	5	82-2	E2 北T	11-2 層	深鉢	無文Ⅱ類	口径 (23.7)	石英、ハイカ 角閃石、金雲母 含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/4 ～にぶい橙色 7.5YR6/4 内：浅黄橙色 7.5YR8/3 ～灰黄褐色 10YR6/2	外：ナデ 内：ナデ	二山突起
153	6	83-2	E3	11-2 層	深鉢	無文Ⅱ類		石英、ハイカ 金雲母含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：灰白色 10YR8/2	外：刻目、二枚貝条痕＋ナデ 内：ナデ	
153	7	83-2	E2 炭 集中部	11-2 層	深鉢	無文Ⅱ類		石英、ハイカ含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/4 内：にぶい黄橙色 10YR7/4	外：刻目、巻貝条痕＋ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	
153	8	83-2	E2	11-2 層	深鉢	無文Ⅱ類		石英、雲母含む	外：暗褐色 10YR3/3 内：灰褐色 7.5YR4/2	外：ナデ 内：ナデ	山形突起
153	9	82-2	E3	11-2 層	深鉢	無文Ⅱ類	口径 (18.0)	石英、ハイカ 角閃石含む	外：にぶい赤褐色 5YR5/4 内：橙色 5YR6/6	外：粗いミガキ 内：粗いミガキ	小型
153	10	82-2	E2	11-2 層	深鉢	無文Ⅱ類	口径 (30.8)	石英、ハイカ 角閃石、金雲母 含む	外：灰白色 7.5YR8/2 内：灰白色 10YR8/2	外：匙面条痕 内：巻貝条痕＋ナデ	
153	11	91-1	D2 E2	11 層	深鉢	無文Ⅳ類	口径 22.8	石英、ハイカ 金雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/2 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：匙面条痕＋ナデ 内：ナデ	口唇先細り
153	12	83-2	E2 北T	11-2 層	深鉢	無文Ⅲ類		石英、ハイカ？ 金雲母含む	外：にぶい橙色 5YR6/4 内：橙色 5YR6/6	外：ナデ 内：ナデ	口縁肥厚
153	13	83-2	E2 北T	11-2 層	深鉢	無文Ⅲ類		石英、ハイカ 金雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/4 内：にぶい黄橙色 10YR7/4	外：ナデ 内：ナデ	口縁肥厚
153	14	84-1	E2 北T	11-2 層	深鉢	無文Ⅲ類	口径 (35.0)	石英、雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/4	外：ケズリ＋ナデ 内：ナデ	口縁肥厚
153	15	83-2	E3	11-2 層	深鉢	無文Ⅲ類		石英、金雲母含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：褐灰色 7.5YR4/1	外：刻目、匙面条痕 内：巻貝条痕	口縁肥厚
153	16	83-2	E4	11-2 層	深鉢	無文Ⅲ類		石英、ハイカ含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：巻貝条痕＋ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	口縁肥厚
153	17	84-1	E3 E4	11 層 11-2 層	深鉢	無文Ⅲ類	口径 (41.0)	石英、ハイカ 角閃石？含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：二枚貝条痕 内：二枚貝条痕	口縁肥厚
153	18	82-2	E2	11-2 層	深鉢	無文Ⅲ類	口径 (21.8)	石英、ハイカ含む	外：にぶい橙色 5YR7/4 内：灰白色 10YR8/1	外：巻貝条痕＋ナデ 内：ナデ	口縁肥厚
153	19	83-2	E2	11-2 層	深鉢	無文Ⅲ類		石英、ハイカ含む	外：灰褐色 7.5YR5/2 内：灰褐色 7.5YR5/2	外：刻目、匙面条痕＋ナデ 内：ナデ	口縁肥厚
153	20	83-2	E2		深鉢？	無文Ⅲ類		石英含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：ナデ 内：ナデ	口縁肥厚
153	21	84-2	E2 北T	11-2 層	深鉢	無文Ⅲ類	口径 (23.0)	石英、金雲母含む	外：にぶい橙色 7.5YR6/4 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：刻目、匙面条痕＋ナデ 内：匙面条痕＋ナデ	口縁肥厚 山形突起
154	1	91-1	E2 北T E2T1	11-2 層	深鉢	無文Ⅲ類	口径 (41.5)	石英、ハイカ 雲母含む	外：明赤褐色 2.5YR5/6 内：橙色 2.5YR6/6	外：巻貝条痕＋ナデ 内：ナデ	口縁肥厚 山形突起
154	2	84-1	E2	11-2 層	深鉢	無文Ⅲ類		石英、雲母、 土器片含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/4 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	口縁肥厚
154	3	84-1	E4	11 層 11-2 層	深鉢	無文Ⅲ類	口径 (37.0)	石英、ハイカ 含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：二枚貝条痕 内：二枚貝条痕＋ナデ	口縁短く内折
154	4	84-2	E2	11-2 層	深鉢	無文Ⅲ類	口径 (21.0)	石英、ハイカ？ 金雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/4	外：二枚貝条痕＋ナデ 内：ナデ	口縁短く内折
154	5	84-2	E2	11-2 層	深鉢	無文Ⅲ類	口径 (26.8)	石英、ハイカ？ 含む	外：浅黄色 2.5YR7/3 内：浅黄色 2.5YR7/3	外：二枚貝条痕 内：二枚貝条痕	口縁肥厚
154	6	91-1	E2	11-1 層 11-2 層	深鉢	無文Ⅲ類	口径 (31.8)	石英、金雲母含む	外：浅黄橙色 10YR8/3 内：浅黄橙色 10YR8/3	外：刻目、匙面条痕＋ナデ 内：ナデ	口唇平坦
154	7	91-2	E2 E3	11-2 層	深鉢	無文Ⅲ類 底部Ⅱ類	口径 (25.0) 器高 29.6 底径 (10.0)	ハイカ、石英 金雲母含む	外：灰白色 10YR8/2 内：灰白色 10YR7/1	外：刻目、匙面条痕＋ナデ 内：ナデ	口唇平坦
154	8	83-1	E2	11-2 層	深鉢	無文Ⅲ類	口径 (35.6)	石英、ハイカ 雲母含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/3 内：浅黄橙色 7.5YR8/3	外：巻貝条痕＋ナデ、下半ケズリ 内：巻貝条痕＋ナデ	口唇平坦
154	9	91-2	E3	11 層 11-2 層	深鉢	底部Ⅰ類	底径 11.0	石英、金雲母含む	外：明黄褐色 10YR7/6 内：浅黄色 2.5Y7/4	外：二枚貝条痕 内：ナデ	
155	1	84-2	D2	11 層	深鉢	底部Ⅰ類	底径 (6.3)	石英、ハイカ含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/3 内：にぶい褐色 7.5YR6/3	外：ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	
155	2	84-2	E2	11-2 層	深鉢	底部Ⅰ類	底径 (10.7)	石英、ハイカ含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：ナデ 内：ナデ	
155	3	84-2	E2 北T	11-2 層	深鉢	底部Ⅰ類	底径 8.7	石英、ハイカ 金雲母含む	外：橙色 5YR7/6 内：橙色 5YR7/6	外：ナデ 内：ナデ	
155	4	85-1	E2	11-2 層	深鉢	底部Ⅰ類	底径 9.4	石英、雲母含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：褐灰色 10YR5/1	外：ナデ 内：ナデ	接地面凹凸顕著
155	5	84-2	E2	11-2 層	深鉢	底部Ⅰ類	底径 10.0	石英含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	
155	6	84-2	E3	11-2 層	深鉢	底部Ⅰ類	底径 (9.4)	石英含む	外：浅黄橙色 10YR8/4 内：灰白色 10YR8/2	外：ナデ 内：ナデ	接地面刻目
155	7	85-1	E2	11-2 層	深鉢	底部Ⅰ類	底径 10.3	石英、ハイカ 金雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/2 内：灰白色 10YR8/2	外：ナデ 内：ナデ	
155	8	85-1	E2	11-1 層	深鉢	底部Ⅱ類	底径 (11.8)	石英、ハイカ含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/2 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	
155	9	85-1	E2	11-2 層	深鉢	底部Ⅱ類	底径 10.8	石英、ハイカ、 金雲母含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：灰白色 10YR7/1	外：匙面条痕 内：ナデ	
155	10	91-2	E2	11-2 層	深鉢	底部Ⅰ類	底径 11.2	石英、ハイカ、 金雲母含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/4 内：浅黄橙色 10YR8/3	外：匙面条痕＋ナデ： 内：匙面条痕＋ナデ	
155	11	85-1	D2･E2 E3	11 層 11-2 層	深鉢	底部Ⅰ類	底径 7.8	石英、ハイカ、 金雲母含む	外：浅黄橙色 10YR8/3 内：褐灰色 10YR6/1	外：粗いミガキ 内：巻貝条痕＋ナデ	
155	12	84-2	E4	11 層	底部	底部Ⅱ類	底径 (10.0)	石英、ハイカ、 角閃石含む	外：にぶい橙色 5YR6/4 内：明赤褐色 2.5YR5/6	外：ナデ 内：ナデ	
155	13	85-1	E2	11 層	深鉢	底部Ⅱ類	底径 (7.8)	石英、ハイカ含む	外：淡黄橙色 7.5YR8/3 内：明黄褐色 10YR7/6	外：ナデ 内：ナデ	
155	14	91-2	D2	14 層	深鉢	底部Ⅱ類	底径 10.0	石英、ハイカ 角閃石含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：匙面条痕＋ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	
155	15	84-2	E2 炭 集中部	11-2 層	深鉢	底部Ⅱ類	底径 (7.0)	石英、ハイカ？ 含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/6 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：二枚貝条痕＋ナデ 内：ナデ	
155	16	85-1	E2 北T	11-2 層	深鉢	底部Ⅱ類	底径 8.1	石英、ハイカ 金雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/4 内：灰白色 10YR8/1	外：匙面条痕＋ナデ 内：ナデ	
155	17	85-1	E2 北T	11-2 層	深鉢	底部Ⅱ類	底径 11.0	石英、ハイカ 金雲母含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：灰白色 10YR8/2	外：匙面条痕＋ナデ 内：匙面条痕＋ナデ	
155	18	92-1	E2 炭 集中部	11-2 層	深鉢	底部Ⅲ類	底径 10.5	石英、ハイカ 角閃石、金雲母 含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：巻貝条痕＋ナデ 内：ナデ	
155	19	85-1	E2	11-2 層	深鉢	底部Ⅱ類	底径 9.4	石英含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/2 内：浅黄橙色 10YR8/3	外：匙面条痕＋ナデ	

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	器種	分類	法量 ( ) 内復元値 (cm)	胎土	色調	文様・調整その他	備考
155	20	85-2	E2 北T	11-2 層	深鉢	底部Ⅱ類	底径 9.8	石英、ハイカ 金雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：巻貝条痕 内：巻貝条痕＋ナデ	
155	21	92-1	E2 北T	11-2 層	深鉢	底部Ⅲ類	底径 9.9	石英、ハイカ 角閃石、金雲母 含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：匙面条痕＋ナデ 内：ナデ	
155	22	85-1	E3	11-2 層	深鉢	底部Ⅲ類	底径 8.0	石英、ハイカ含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：ナデ 内：ナデ	
155	23	85-1	E3	11 層	深鉢	底部Ⅲ類	底径 (6.8)	石英、ハイカ含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/2 内：灰白色 10YR7/1	外：ナデ 内：ナデ	
155	24	85-1	E2	11 層	深鉢	底部Ⅲ類	底径 (10.0)	石英、ハイカ 角閃石、金雲母 含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/9 内：にぶい黄橙色 10YR6/9	外：ナデ 内：ナデ	
155	25	85-2	E2	11-2 層	深鉢	底部Ⅱ類	底径 (6.8)	石英、ハイカ？ 含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/4 内：灰色 N4/	外：ナデ 内：ナデ	
155	26	85-2	E2	11-2 層	深鉢	底部Ⅲ類	底径 9.0	石英、ハイカ含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：ナデ 内：ナデ	
155	27	85-2	E2	11-2 層	深鉢	底部Ⅲ類	底径 10.0	ハイカ、石英 金雲母含む	外：明黄褐色 10YR7/6 淡赤橙色 2.5YR7/4 内：にぶい黄橙色 10YR7/2 黄灰色 2.5Y5/1	外：ナデ 内：ナデ	
155	28	85-2	E2	11-2 層	深鉢	底部Ⅲ類	底径 5.0	石英、ハイカ含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：浅黄橙色 7.5YR8/3	外：匙面条痕＋ナデ 内：ナデ	平丸底
155	29	85-2	E3	11 層	深鉢	底部Ⅲ類	底径 8.4	石英、ハイカ 角閃石含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/4	外：ナデ 内：ナデ	
155	30	92-1	E2	11-2 層	鉢	底部Ⅲ類	底径 9.4	石英含む	外：にぶい橙色 5YR7/4 内：にぶい橙色 5YR7/4	外：ミガキ 内：ミガキ	鉢？
155	31	85-2	E2 E3	11-2 層	深鉢	底部Ⅲ類	底径 (11.4)	石英、ハイカ 金雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：巻貝条痕 内：巻貝条痕＋ナデ	
156	1	92-1	E2 E3	11-2 層	浅鉢	浅鉢Ⅱａ類	口径 (19.7) 器高 (9.0) 底径 (10.0)	石英、ハイカ含む	外：灰黄褐色 10YR6/2 内：灰黄褐色 10YR6/2	外：ミガキ 内：ミガキ	
156	2	85-2	E2	11-2 層	浅鉢	浅鉢Ⅱｂ類		石英、ハイカ 金雲母含む	外：にぶい橙色 5YR6/4 内：にぶい橙色 5YR6/4	調整雑 外：ナデ 内：ナデ	
156	3	85-2	E2	11-1 層 11-2 層	浅鉢	浅鉢Ⅱｂ類	口径 (24.0)	石英、ハイカ 金雲母含む	外：褐灰色 5YR5/1 内：褐灰色 5YR5/1	外：ミガキ 内：ミガキ	
156	4	85-2	E3	11-2 層	浅鉢	浅鉢Ⅱｂ類		石英、ハイカ 金雲母	外：橙色 5YR6/6 内：橙色 5YR6/6	外：突起頂部に凹点、ミガキ 内：ミガキ	扁平な突起
156	5	85-2	E2	11-1 層	浅鉢	浅鉢Ⅱｂ類		石英、ハイカ 雲母含む	外：褐灰色 7.5YR4/1 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：ミガキ 内：ミガキ	
156	6	85-2	E2 北T	11-2 層	浅鉢	浅鉢Ⅱｂ類		石英、雲母含む	外：褐灰色 7.5YR6/1 内：灰褐色 7.5YR6/2	外：ミガキ 内：ミガキ	
156	7	85-2	E2	11-2 層	浅鉢	浅鉢Ⅳ類		石英、ハイカ 金雲母含む	外：灰褐色 7.5YR5/2 内：灰褐色 7.5YR4/2	外：ミガキ 内：ミガキ	
156	8	85-2	E2 北T	11-2 層	浅鉢	浅鉢Ⅱ類		石英、ハイカ 金雲母含む	外：灰黄褐色 10YR4/2 内：褐灰色 10YR4/1	外：ミガキ 内：ミガキ	
156	9	85-2	E2 Fライン T	11 層	浅鉢	浅鉢Ⅱ類		ハイカ、石英 角閃石、金雲母 含む	外：灰色 N4/ 内：灰色 N4/	外：ミガキ 内：ミガキ	
156	10	85-2	E2 北T	11-2 層	浅鉢	浅鉢Ⅳ類		石英、ハイカ含む	外：灰黄褐色 10YR5/2 内：褐灰色 10YR4/1	外：ミガキ 内：ミガキ	
156	11	86-1	E2 E3	11-2 層	浅鉢	浅鉢Ⅱｂ類		石英、ハイカ 角閃石含む	外：灰白色 10YR8/2 内：灰褐色 7.5YR5/2	外：巻貝条痕＋ナデ、雑な調整 内：巻貝条痕＋ナデ、雑な調整	
156	12	86-1	E2 北T	11-2 層	浅鉢	浅鉢Ⅱｂ類		石英含む	外：にぶい橙色 5YR6/4 内：灰褐色 7.5YR6/2	外：ミガキ 内：ミガキ	口縁内折
156	13	86-1	E3	11 層	浅鉢	浅鉢Ⅳ類？		石英、ハイカ含む	外：灰黄褐色 10YR5/2 内：灰黄褐色 10YR5/2	外：ミガキ 内：ミガキ	
156	14	86-1	E2	11-2 層	浅鉢	浅鉢Ⅳ類		石英、ハイカ？ 含む	外：灰黄褐色 10YR6/2 内：灰褐色 7.5YR6/2	外：粗いミガキ 内：ミガキ	
156	15	86-1	E2	11-2 層	浅鉢	浅鉢Ⅳ類		石英、ハイカ含む	外：橙色 5YR6/6 内：橙色 5YR6/6	外：やや雑なミガキ 内：やや雑なミガキ	
156	16	86-1	E2 北T	11-2 層	浅鉢	浅鉢Ⅳ類		石英、ハイカ（多） 含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：ミガキ 内：ミガキ	
156	17	86-1	E2	11-2 層	浅鉢	浅鉢Ⅳ類		石英、金雲母含む	外：灰黄褐色 10YR4/2 内：灰黄褐色 10YR4/2	外：ミガキ 内：ミガキ	口縁肥厚
156	18	86-1	E2 北T 炭 集中部	11-2 層	浅鉢	浅鉢Ⅳ類		石英、ハイカ 金雲母含む	外：褐灰色 7.5YR5/1 内：褐灰色 7.5YR5/1	外：ミガキ（雑な調整） 内：ミガキ	口縁肥厚
156	19	86-2	E3	11-2 層	浅鉢	浅鉢Ⅳ類	口径 (20.4) 器高 8.3 底径 (8.0)	石英、ハイカ 金雲母含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：橙色 5YR6/6	外：ミガキ、一次調整二枚貝条痕 内：ミガキ、一次調整二枚貝条痕	口縁平坦、 底部低い高台状
156	20	86-1	E4	11-2 層	浅鉢	浅鉢Ⅳ類		石英、ハイカ 金雲母含む	外：灰白色 10YR7/1 内：灰白色 10YR7/1	外：突起に刻目、ミガキ 内：ミガキ	口縁平坦、二山？突起
156	21	86-2	E3	11-2 層	浅鉢	浅鉢Ⅳ類		石英、ハイカ（多）、 金雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：ミガキ 内：ミガキ	
156	22	86-2	E3	11-2 層	浅鉢	浅鉢Ⅳ類	口径 (35.4)	石英、ハイカ（多） 角閃石、雲母含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：灰黄褐色 10YR6/2	外：ミガキ 内：ミガキ	
156	23	86-2	E3	11-2 層	浅鉢	浅鉢Ⅳ類		石英、ハイカ含む	外：灰黄褐色 10YR5/2 内：灰黄褐色 10YR4/2	外：ミガキ 内：ミガキ	
156	24	86-1	E2 北T	11-2 層	浅鉢	浅鉢Ⅳ類		石英、ハイカ 金雲母含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：灰白色 7.5YR8/1	外：ミガキ 内：ミガキ	口縁肥厚
156	25	86-2	E2 北T	11-2 層	浅鉢	浅鉢Ⅳ類		石英、ハイカ 金雲母含む	外：灰白色 7.5YR8/2 内：灰白色 7.5YR5/1	外：ミガキ 内：ミガキ	
156	26	86-2	E3	11-2 層	浅鉢	浅鉢Ⅰ類		石英、ハイカ 金雲母、角閃石含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：ミガキ 内：ミガキ	
156	27	86-2	E3	11-2 層	浅鉢	浅鉢Ⅳ類		石英、ハイカ 金雲母含む	外：にぶい褐色 7.5YR6/3 内：灰黄褐色 10YR6/2	外：ナデ 内：ミガキ	
156	28	86-1	E3	11-2 層	浅鉢	浅鉢Ⅳ類		石英、ハイカ？ 含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：褐灰色 10YR4/1	外：ミガキ 内：ミガキ	
156	29	87-1	E4	11 層	浅鉢	浅鉢Ⅳ類		石英、ハイカ 金雲母含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：灰黄褐色 10YR6/2	外：ミガキ 内：ミガキ	
156	30	86-2	E2	11-2 層	浅鉢	浅鉢Ⅳ類		石英含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：灰黄褐色 10YR6/2	外：条痕＋ミガキ 内：粗いミガキ	
156	31	86-2	E2 北T	11-2 層	浅鉢	浅鉢Ⅳ類		石英、角閃石 金雲母含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：にぶい褐色 7.5YR5/3	外：ミガキ 内：ミガキ	

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	器種	分類	法量 () 内復元値 (cm)	胎土	色調	文様・調整その他	備考
157	1	87-1	E3	11-2 層	浅鉢	浅鉢Ⅳ類		石英、雲母含む	外：にぶい橙色 7.5YR6/4 内：にぶい橙色 7.5YR6/4	外：二枚貝条痕 内：ミガキ	
157	2	87-1	E-F 3ライン	11-2 層	浅鉢	浅鉢Ⅳ類		石英含む	外：灰黄褐色 10YR5/2 内：褐灰色 10YR4/1	外：ミガキ 内：ミガキ	口縁内側に肥厚、補修孔
157	3	87-1	E3	11-2 層	浅鉢	底部Ⅰ類	底径 (5.6)	石英、ハイカ 角閃石含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：にぶい橙色 5YR7/3	外：ミガキ 内：ミガキ	
157	4	87-1	E2	11-2 層	浅鉢	底部Ⅱ類	底径 (12.2)	石英、金雲母含む	外：灰白色 10YR8/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：巻貝条痕＋ナデ 内：ミガキ	
157	5	87-1	E2	11-2 層	浅鉢	底部Ⅰ類	底径 (12.4)	石英、金雲母含む	外：灰黄褐色 10YR4/4 内：灰黄褐色 10YR5/2	外：ミガキ、ナデ（底面） 内：ミガキ	
157	6	87-2	E1 E2	11-1 層	浅鉢	底部Ⅱ類	底径 (8.0)	ハイカ、石英 角閃石、金雲母含む	外：にぶい橙色 7.5YR6/4 内：灰黄褐色 10YR5/2	外：ミガキ 内：ミガキ	
157	7	87-1	E2	11-2 層	浅鉢	底部Ⅰ類	底径 (9.4)	石英、ハイカ 角閃石、雲母含む	外：にぶい褐色 7.5YR5/4 内：にぶい橙色 5YR6/4	外：ミガキ 内：ミガキ	
157	8	87-1	E3	11-2 層	浅鉢	底部Ⅱ類	底径 (10.5)	石英、ハイカ？ 金雲母含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：褐灰色 10YR4/1	外：ミガキ 内：ミガキ	
157	9	87-1	E2 北T	11-1 層 11-2 層	浅鉢	底部Ⅱ類	底径 (11.4)	石英、ハイカ 金雲母含む	外：橙色 5YR6/6 内：灰黄褐色 10YR5/2	外：ミガキ 内：ミガキ	
157	10	87-2	E1	11 層	浅鉢	底部Ⅰ類	底径 6.4	石英、ハイカ（多）含む	外：灰黄褐色 10YR6/2 内：灰黄褐色 10YR5/2	外：ミガキ 内：ミガキ	小型の器種
157	11	87-2	E4	13 層	浅鉢	底部Ⅰ類	底径 (7.4)	石英、ハイカ含む	外：黒褐色 2.5Y3/1 内：褐灰色 10YR6/1	外：ミガキ 内：ミガキ	
157	12	87-2	E2	11-2 層	浅鉢	底部Ⅱ類	底径 11.0	石英、ハイカ？ 金雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR5/3 内：にぶい黄橙色 10YR5/3	外：ミガキ 内：ミガキ	
157	13	87-2	E3	11-2 層	浅鉢	底部Ⅲ類	底径 6.2	石英、ハイカ含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/4 内：浅黄橙色 7.5YR8/4	外：ミガキ 内：ミガキ	平丸底
157	14	88-1	D3	12 層	浅鉢	底部Ⅲ類	底径 11.2	石英、ハイカ 金雲母含む	外：灰黄褐色 10YR6/2 内：灰黄褐色 10YR6/2	外：ミガキ 内：ミガキ	
157	15	88-1	E2 北T	11-2 層	浅鉢	底部Ⅲ類	底径 7.1	石英、ハイカ 金雲母、角閃石含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/4 内：橙色 5YR6/6	外：ケズリ＋ナデ 内：ミガキ	
157	16	88-1	E2 北T	11-2 層	浅鉢	底部Ⅰ類	底径 (8.4)	石英、金雲母含む	外：黒褐色 10YR2/2 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：ミガキ 内：ミガキ	
157	17	87-2	E3	11-2 層	浅鉢	底部Ⅲ類	底径 (8.5)	石英、金雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：ミガキ 内：ミガキ	
157	18	88-1	E4	11 層	浅鉢	底部Ⅲ類	底径 5.2	石英、ハイカ 金雲母含む	外：橙色 7.5YR7/6 内：橙色 7.5YR7/6	外：ミガキ 内：ミガキ	小型の器種
157	19	88-1	E3	11 層上面	浅鉢	底部Ⅲ類	底径 6.6	石英、ハイカ含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/3 内：黒褐色 10YR3/1	外：ミガキ 内：ミガキ	小型の器種
157	20	88-1	E2	11-2 層	浅鉢	底部Ⅲ類	底径 (16.0)	石英、金雲母の微砂粒含む	外：褐灰色 7.5YR4/1 内：灰褐色 7.5YR5/2	外：ミガキ 内：ミガキ	
157	21	88-1	E4	11 層	方形浅鉢	晩期		石英、金雲母の微砂粒含む	外：黒褐色 10YR3/1 明赤褐色 2.5YR5/8 内：黒褐色 10YR3/1 明赤褐色 2.5YR5/8	外：ミガキ 内：口縁内面に段、ミガキ	
157	22	88-1	E3	11-2 層	突帯文	晩期		ハイカ含む	外：橙色 7.5YR6/6 黒褐色 7.5YR3/1 内：にぶい橙色 7.5YR6/4	外：ナデ 内：ナデ	無刻目
167	1	98-2	E2	11-2 層	耳栓？		厚さ 1.6 ～ 1.4	石英、ハイカ 角閃石含む	外：にぶい黄色 2.5Y6/3 ～黄灰色 2.5Y5/1	外：ナデ	
167	2	98-2	E3	11-2 層	耳栓？		厚さ 1.1 ＋α	ハイカ含む	外：にぶい橙色 7.5YR6/4	外：ナデ、ミガキ	厚みあり
167	3	98-2	E2	11 層	耳栓？		長さ 3.5 下端径 2.6　上端径 0.96	石英、ハイカ 角閃石含む	外：灰白色 2.5Y8/2 ～橙色 7.5YR7/6	外：ナデ	完形、下端に未貫通の孔
167	4	98-2	D2	11-2 層	土製円盤		縦 3.8、横 3.65 厚さ 0.6 ～ 0.55	石英、ハイカ 角閃石含む	表：黒褐色 5YR3/1 ～橙色 2.5Y6/6 内：にぶい橙色 7.5YR6/4 ～灰白色 2.5Y8/2	外：ナデ 内：ナデ	縁辺打ち欠き 後期土器利用
167	5	98-2	E3	11-2 層	不明 土製品		残存長さ (3.4) 幅 1.1、厚さ 1.1	石英、ハイカ 角閃石含む	外：橙色 5YR6/6	外：ナデ、指押圧	完形？
167	6	98-1	E3	11 層	ミニチュア土器		口径 (9.0) 器高 (4.85) 底径 (7.0)	石英、ハイカ含む	外：橙色 5YR6/6 ～灰褐色 7.5YR4/2 内：橙色 5YR6/6	外：ナデ	
167	7	98-2	E2 E3	11-2 層	ミニチュア土器			石英含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/4 ～灰黄褐色 10YR4/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/4 ～灰黄褐色 10YR4/2	外：細沈線？、ナデ、指押圧 内：ナデ、指押圧	
167	8	98-1	E2	11-2 層	ミニチュア土器		口径 (6.0) 器高 4.1	石英、金雲母含む	外：にぶい褐色 7.5YR6/3 ～褐灰色 7.5YR4/1 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：指押圧	平丸底
167	9	98-2	E3	11-2 層	ミニチュア土器			石英、ハイカ 金雲母含む	外：灰黄色 2.5Y6/2 ～黄灰色 2.5Y5/1 内：にぶい橙色 7.5YR6/4	外：ナデ、指押圧	
167	10	98-2	E3	11-2 層	ミニチュア土器			石英、角閃石含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/4 にぶい橙色 7.5YR6/4 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：ナデ、指押圧	

11-1・2 層　石器

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	器種	法量 () 内遺存 / 復元値 (cm)	重量 (g)	材質	備考
158	1	92-2	E2	11-2 層	石鏃	長さ 2.3、幅 1.3、厚さ 0.3	0.53	サヌカイト	両面とも調整剥離
158	2	92-2	E3	11-2 層	石鏃	長さ 1.8、幅 1.2、厚さ 0.25	0.39	サヌカイト	裏面に大きな剥離
158	3	92-2	F4	11 層	石鏃	長さ 2.1、幅 1.7、厚さ 0.4	1.07	サヌカイト	未成品、両面とも調整剥離
158	4	92-2	D2	11-2 層	石鏃	長さ（1.85）幅 1.5、厚さ 0.45	0.99	サヌカイト	両面とも調整剥離
158	5	92-2	E3	11-2 層	石鏃？	長さ 1.4、幅 1.2、厚さ 0.25	0.4	サヌカイト	両面大きな剥離残る
158	6	92-2	D2-E2	11 層	使用痕のある剥片	長さ 3.1、幅 1.7、厚さ 0.25	1.87	サヌカイト	微細剥離、一端礫面
158	7	92-2	E3	11-2 層	二次加工剥片	長さ 2.8、幅 2.4、厚さ 0.45	3.51	サヌカイト	縁辺に調成剥離
158	8	92-2	D2	11 層	楔形石器？	長さ 2.6、幅 3.7、厚さ 0.9	8.68	サヌカイト	上下につぶれ
158	9	92-2	E4	11-2 層	刃器	長さ 0.3、幅 6.05、厚さ 0.6	10.38	サヌカイト	上下に二次加工

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	器種	法量 () 内遺存 / 復元値 (cm)	重量 (g)	材質	備考
158	10	92-2	D2-E2	11 層	使用痕のある剥片	長さ（4.1）幅 3.4、厚さ 0.6	7.15	サヌカイト	側辺に微細剥離
158	11	92-2	D2	11-2 層	刃器	長さ（3.1）幅（5.5）厚さ 0.8	9.99	サヌカイト	石匙の可能性あり
159	1	92-2	D2	11-1 層	二次加工剥片	長さ 4.5、幅 7.8、厚さ 0.95	30.54	サヌカイト	下端に剥離
159	2	93-1	E3	11-2 層	二次加工剥片	長さ 3.3、幅 3.6、厚さ 0.55	6.43	サヌカイト	上下に剥離
159	3	93-1	E2	11-2 層	石匙	長さ 4.1、幅（5.5）厚さ 0.8	18.64	サヌカイト	中央で折れる
159	4	93-1	D2-D3	11 層	石匙	長さ 2.7、幅 4.3、厚さ 0.5	5.37	サヌカイト	両面縁辺を剥離
159	5	93-1	E2	11-2 層	石匙	長さ 2.6、幅 4.5、厚さ 0.5	7.78	サヌカイト	右図下端は剥離なし
159	6	93-1	E2	11-2 層	石匙	長さ 8.45、幅 6.6、厚さ 1.1	55.28	頁岩？	右図は礫面
159	7	93-1	D2	11-2 層	石匙	長さ（4.8）幅 2.6、厚さ 0.55	8.12	サヌカイト	下部は欠損
159	8	93-1	E2 北T	11-2 層	石匙	長さ 6.9、幅 5.6、厚さ 0.8	32.34	安山岩	左図中央は礫面
159	9	93-1	E2	11-2 層	石匙	長さ 6.3、幅 5.1、厚さ 0.7	23.50	塩基性片岩	刃部湾曲
159	10	93-1	E2	11-2 層	刺突具	長さ（7.5）幅 2.2、厚さ 1.1	23.94	サヌカイト	左面は丁寧な調整剥離
159	11	93-2	E3	11-2 層	磨製石斧	長さ（12.2）幅 4.2、厚さ 3.0	197.51	塩基性片岩	Ⅰ b 類 全面研磨痕、一部敲打痕残す
159	12	93-1	E3	11-2 層	磨製石斧	長さ（8.6）幅 4.6、厚さ 3.1	162.42	塩基性片岩	Ⅰ 1 類 全面研磨痕、一部敲打痕残す、刃部刃毀れ
159	13	93-1	E2	11-2 層	磨製石斧	長さ 5.9、幅 5.1、厚さ 2.2	80.58	塩基性片岩	Ⅰ 1 類 全面研磨痕、側面敲打痕残す
159	14	93-1	E2	11-1 層	磨製石斧	長さ（6.4）幅 4.3、厚さ 1.3	56.03	塩基性片岩	Ⅱ類 両面中央に大きな剥離面
159	15	93-2	E2 北T	11-2 層	磨製石斧	長さ（7.9）幅 2.3、厚さ 2.4	85.40	塩基性片岩	製品 or 未成品（研磨段階）Ⅲ類 全面研磨、一部礫面・剥離面
159	16	93-2	E3	11-2 層	磨製石斧	長さ（9.8）幅 2.8、厚さ 2.2	85.41	塩基性片岩	製品 or 未成品（研磨段階）Ⅲ類 刃部研磨、他は敲打
159	17	93-2	E3	11-2 層	磨製石斧	長さ 13.2、幅 3.7、厚さ 1.9	157.15	塩基性片岩	製品 or 未成品（研磨段階）Ⅱ類 刃部研磨、他は敲打
160	1	93-2	E4	11 層	磨製石斧	長さ 14.5、幅 5.0、厚さ 3.1	340.48	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰ a1 類 刃部・基部以外敲打
160	2	93-2	E2	11-2 層	磨製石斧	長さ（13.0）幅 5.7、厚さ 3.5	337.07	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰ a 類 大部分敲打
160	3	93-2	E2	11-2 層	磨製石斧	長さ（12.2）幅 5.0、厚さ 4.2	376.25	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰ a 類 全面敲打、研磨直前
160	4	94-1	E2	11-2 層	磨製石斧	長さ（10.1）幅 5.1、厚さ 2.5	172.79	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰ a 類 側面敲打、主に剥離残る
160	5	94-1	E2 北T	11-2 層	磨製石斧	長さ（12.8）幅 5.5、厚さ 2.6	288.40	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰ a 類 剥離残る
160	6	93-2	E3	11-2 層	磨製石斧	長さ（8.1）幅 1.8、厚さ 1.9	61.14	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅲ類 全面敲打、一部剥離面
160	7	94-1	E2	11-2 層	磨製石斧	長さ（11.5）幅 4.3、厚さ 2.5	163.01	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰ b 類 全面敲打、研磨直前
160	8	93-2	E4	11-2 層	磨製石斧	長さ（10.8）幅 5.0、厚さ 2.5	174.89	安山岩？	未成品（敲打段階）Ⅰ b 類 全面敲打、一部剥離面
160	9	94-2	E2	11-2 層	磨製石斧	長さ（9.1）幅 3.0、厚さ 2.4	105.38	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅲ類 全面敲打、一部剥離面
160	10	94-1	E3	11-2 層	磨製石斧	長さ（16.5）幅 5.9、厚さ 4.4	630.28	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰ b 類 全面敲打、裏大きな剥離面
160	11	94-1	E2	11 層	磨製石斧	長さ（14.3）幅 5.4、厚さ 4.7	582.37	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰ b1 類 全面敲打、研磨直前
160	12	94-1	E2	11-2 層	磨製石斧	長さ（8.9）幅 3.5、厚さ 2.55	143.37	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰ b1 類 一部剥離面残る、裏面中央に礫面
160	13	94-1	E3	11-2 層	磨製石斧	長さ（12.9）幅 3.4、厚さ 2.65	181.60	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰ b1 類 一部剥離面・礫面
160	14	93-2	E2	11-2 層	磨製石斧	長さ（8.3）幅 3.9、厚さ 1.9	104.02	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅱ類 裏面剥離面
160	15	94-1	E2	11-2 層	磨製石斧	長さ（11.7）幅 5.3、厚さ 3.4	323.66	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰ 1 類 側面・表面一部敲打
160	16	93-2	E3	11-2 層	磨製石斧	長さ（6.3）幅 5.3、厚さ 4.0	282.41	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰ 1 類 全面敲打、研磨直前
160	17	94-2	E2	11-2 層	磨製石斧	長さ（11.8）幅 6.0、厚さ（2.6）	272.96	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰ 2 類 表面一部・側面敲打
160	18	94-2	E3	11-2 層	磨製石斧	長さ（16.5）幅 7.0、厚さ 4.9	816.67	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰ 2 類 全面敲打、研磨直前
160	19	94-2	D2	11-2 層	磨製石斧	長さ（13.7）幅 5.7、厚さ 4.8	755.98	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰ 2 類 全面敲打、研磨直前
161	1	94-2	E2	11-2 層	磨製石斧	長さ（16.5）幅 7.4、厚さ 4.4	912.12	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰ 1 類 一部敲打
161	2	95-1	E4	11 層	磨製石斧	長さ（12.6）幅 4.5、厚さ 3.35	283.26	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰ a 類 表面一部・左側面敲打、右側面礫面
161	3	95-1	E3	11 層	磨製石斧	長さ 15.6、幅 3.9、厚さ 2.7	293.10	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅲ類 一部敲打、一部礫面残る
161	4	94-2	E4	11 層	磨製石斧	長さ（10.4）幅 4.5、厚さ 1.9	169.99	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅱ類 稜線部分敲打、長軸方向に湾曲
161	5	94-2	E4	11 層上面	磨製石斧	長さ（9.4）幅 6.9、厚さ 2.2	224.72	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅱ類 稜線部分敲打
161	6	95-1	E3	11-2 層	磨製石斧	長さ（13.8）幅 6.7、厚さ 4.0	503.22	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰ 2 類 稜線部分、表面一部敲打
161	7	94-2	E2	11 層	磨製石斧	長さ（5.7）幅 2.6、厚さ 1.7	38.19	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅲ類 全面敲打、一部剥離面残る
161	8	95-1	E3	11-2 層	磨製石斧	長さ 15.7、幅 5.4、厚さ 2.4	234.51	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅱ類 一部調整剥離？
161	9	95-1	E3	11-2 層	磨製石斧	長さ 23.3、幅 8.1、厚さ 3.6	916.11	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅱ類 稜線一部敲打痕
161	10	95-1	E3	11-2 層	磨製石斧	長さ 23.8、幅 6.8、厚さ 3.1	720.99	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅱ類 一部敲打痕
162	1	95-2	E3	11-2 層	磨製石斧	長さ 25.5、幅 7.0、厚さ 4.9	1536.88	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰ b1 類 側面敲打、一部礫面残る
162	2	95-2	E2	11-2 層	磨製石斧	長さ 19.0、幅 6.7、厚さ 4.1	703.63	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅰ b1 類 稜線敲打、各面大きく礫面
162	3	95-2	E2	11-2 層	磨製石斧	長さ（10.0）幅 4.2、厚さ 2.4	134.37	塩基性片岩	未成品（敲打段階）Ⅱ類 稜線敲打、右側面礫面

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	器種	法量 () 内遺存 / 復元値 (cm)	重量 (g)	材質	備考
162	4	95-2	E3	11-2 層	磨製石斧	長さ 13.9、幅 6.0、厚さ 2.2	236.87	塩基性片岩	未成品（敲打段階）II 類 全面剥離面、側縁稜線敲打
162	5	95-2	E3	11-2 層	磨製石斧	長さ 21.6、幅 7.8、厚さ 4.2	1026.05	塩基性片岩	未成品（敲打段階）I b1 類 全面剥離面、側縁稜線敲打
162	6	95-2	E2	11-1 層	磨製石斧	長さ（16.2）幅 6.2、厚さ 2.2	342.41	塩基性片岩	未成品（敲打段階）II 類 縁辺剥離、表裏面礫面
162	7	95-2	E3	11-2 層	磨製石斧	長さ（12.1）幅 8.2、厚さ 5.0	703.53	塩基性片岩	未成品（敲打段階）I b 類 側縁敲打、中央に礫面
162	8	95-2	E3	11-2 層	磨製石斧	長さ（9.7）幅 5.3、厚さ 3.9	247.39	塩基性片岩	未成品（敲打段階）I b 類 稜線敲打、各面大きな剥離
162	9	96-1	E3	11-2 層	磨製石斧	長さ（10.4）幅 5.4、厚さ 4.0	282.59	塩基性片岩	未成品（敲打段階）I b 類 側面敲打、中央大きな剥離
162	10	96-1	E3 ？	11-2 層	磨製石斧	長さ 10.7、幅 4.9、厚さ 1.8	128.-01	塩基性片岩	未成品（敲打段階）II 類 全面剥離、裏面大きな剥離
163	1	96-1	E3	11-2 層	磨製石斧	長さ（10.6）幅 7.6、厚さ 1.7	185.92	塩基性片岩	未成品（剥離段階）II 類 各面大きな剥離面
163	2	96-1	E2	11-2 層	磨製石斧	長さ（10.0）幅 6.5、厚さ 1.6	211.17	塩基性片岩	未成品（剥離段階）II 類 一側縁礫面
163	3	96-1	D2	11-2 層	磨製石斧	長さ（12.7）幅 9.8、厚さ 4.8	806.91	塩基性片岩	未成品（剥離段階）I b 類 一部に二次剥離
163	4	96-1	E3	11-2 層	磨製石斧	長さ 16.2、幅 7.2、厚さ 2.7	527.0	塩基性片岩	未成品（剥離段階）II 類 長軸方向に大きく反る、一側縁礫面
163	5	96-1	E3	11-2 層	磨製石斧	長さ 14.3、幅 5.7、厚さ 3.1	275.46	塩基性片岩	未成品（剥離段階）II 類 縁辺剥離
163	6	96-1	E3	11-2 層	磨製石斧	長さ 14.0、幅 4.0、厚さ 1.6	122.0	塩基性片岩	未成品（剥離段階）II 類 縁辺調整剥離、敲打痕なし
163	7	96-1	E2	11 層	磨製石斧	長さ（8.0）、幅 2.7、厚さ 1.5	48.83	塩基性片岩	未成品（剥離段階）III 類 若干敲打？、全面剥離面、研磨直前？
163	8	96-1	D2-D3	11-2 層	磨製石斧	長さ（6.2）、幅 3.0、厚さ 1.0	30.60	塩基性片岩	未成品（剥離段階）III 類 整形ほぼ完了、敲打痕なし
163	9	96-1	D2-E2	11 層	磨製石斧	長さ（5.1）、幅 2.5、厚さ 1.9	30.59	塩基性片岩	未成品（敲打段階）III 類 側面・稜線敲打痕、研磨直前？
163	10	96-1	E2	11 層	磨製石斧	長さ（10.7）幅 3.3、厚さ 2.5	147.74	塩基性片岩	未成品（剥離段階）III 類 側面敲打痕、各面に礫面残る
163	11	96-1	E2	11-1 層	磨製石斧	長さ 12.0、幅 3.2、厚さ 2.4	102.10	塩基性片岩	磨製石斧素材？　III 類 側面に敲打痕
163	12	96-1	E2	11-2 層	磨製石斧	長さ（11.5）幅 5.4、厚さ 2.0	184.43	塩基性片岩	磨製石斧素材？　II 類 各面大きな剥離面
163	13	96-1	4 ライン T	不明	磨製石斧	長さ（15.6）幅 7.5、厚さ 3.8	634.64	塩基性片岩	磨製石斧素材？　I 類 各面大きな剥離面
164	1	96-2	E3	11 層	磨製石斧	長さ 22.5、幅 11.2、厚さ 3.1	1064.06	塩基性片岩	磨製石斧素材？　II 類 各面大きな剥離面
164	2	96-2	E2	不明	磨製石斧	長さ 16.7、幅 10.4、厚さ 5.1	934.85	塩基性片岩	磨製石斧素材？　II 類 一側縁礫面
164	3	96-2	E2	11-2 層	磨製石斧	長さ（11.6）幅 7.8、厚さ 1.6	214.66	塩基性片岩	磨製石斧素材？　II 類 一部に二次剥離
164	4	97-2	E2	11-2 層	磨製石斧	長さ 13.3、幅 16.6、厚さ 9.5	1874.72	塩基性片岩	磨製石斧素材？　I 類 側縁礫面
164	5	97-2	E3	11-2 層	石皿	長さ 20.1、幅 12.2、厚さ 5.5	2319.0	花崗岩？	縁辺剥離
164	6	97-2	E2	11-2 層	磨製石斧原石？	長さ 38.15、幅 20.5、厚さ 14.0	1880	塩基性片岩	自然石（河川転石）
165	1	96-2	E2	11-2 層	打製石斧	長さ 8.1、幅 5.4、厚さ 2.45	118.60	安山岩？	刃部・縁辺鋭利、上部欠損後再加工
165	2	96-2	E2	11-2 層	打製石斧	長さ 7.1、幅 5.6、厚さ 1.7	87.58	安山岩？	刃部・縁辺鋭利
165	3	96-2	E2	11-2 層	工具	長さ 9.1、幅 7.5、厚さ 3.65	387.91	川原石	側縁に小さな剥離・つぶれ、中央礫面
165	4	96-2	E2	11-2 層	石錘	長さ 6.8、幅 7.5、厚さ 2.35	135.0	川原石	打欠部摩滅？
165	5	96-2	E4	11-2 層	石錘	長さ 6.3、幅 4.6、厚さ 1.7	63.7	川原石	
165	6	96-2	E3	11-2 層	石錘	長さ 9.2、幅 6.1、厚さ 2.3	203.0	川原石	表面研磨（磨石転用か）
165	7	96-2	E3	11 層	石錘	長さ 8.1、幅 5.0、厚さ 1.7	98.90	川原石	下端わずかに摩滅
165	8	96-2	E3	11-2 層	石錘	長さ 6.9、幅 5.7、厚さ 2.0	108.0	川原石	
165	9	97-1	E4	11 層	石錘	長さ 6.4、幅 3.9、厚さ 1.7	65.19	川原石	打欠部摩滅
165	10	97-1	E4	11-2 層	石錘	長さ 6.1、幅 4.0、厚さ 0.8	23.29	川原石	打欠部摩滅
165	11	97-1	E1 北 T	11-1 層	石錘	長さ 5.3、幅 3.2、厚さ 1.7	35.77	川原石	打欠部摩滅
165	12	97-1	E3	11 層	石錘	長さ 4.5、幅 2.8、厚さ 1.3	18.90	川原石	打欠部摩滅
165	13	97-1	E1	11-2 層	石錘	長さ 5.3、幅 4.4、厚さ 1.2	21.30	三瓶軽石	若干側面加工？石錘ではない？
165	14	97-1	E3	11-2 層	石錘	長さ 4.3、幅 2.5、厚さ 1.1	20.29	川原石	打欠部摩滅、塩基性片岩
165	15	97-1	E3	11-2 層	石錘	長さ 4.8、幅 3.2、厚さ 1.8	33.38	川原石	
165	16	97-1	E3	11-2 層	石錘	長さ 3.7、幅 3.95、厚さ 1.85	41.0	川原石	打欠部摩滅
165	17	97-1	E3	11-2 層	石錘	長さ 3.0、幅 2.7、厚さ 1.05	11.0	川原石	
165	18	97-1	D3	11-2 層	軽石加工品	長さ 12.4、幅 8.3、厚さ 4.3	351.97	軽石	全面擦り痕？ 分析番号 1987
165	19	97-1	E3	11-2 層	磨石	長さ（7.8）幅 8.9、厚さ 5.1	456.07	花崗岩？	中央凹み。全面擦痕？ 分析番号 1986
165	20	97-1	D2-E2	11 層	石皿	長さ（13.0）幅（8.0）厚さ 5.7	1192.21	花崗岩	両面に使用痕
166	1	97-2	E2	11-2 層	石皿	長さ 20.8、幅 24.5、厚さ 9.7	6675.0	花崗岩	一面に使用痕
166	2	97-2	E2 北 T	11-2 層	石皿	長さ（24.8）幅（10.8）、厚さ 8.2	220	花崗岩？	両面に使用痕 分析番号 1989
166	3	98-1	E3	11-2 層	石皿	長さ（24.3）幅 20.0、厚さ 8.4	4800.0	砂岩	大きく凹む
166	4	98-1	E3	11-2 層	石皿	長さ（19.4）幅（14.2）厚さ 9.0	2510	花崗岩？	両面に使用痕 分析番号 1988

第35表　遺物観察表（11－3層出土遺物）

11-3層　縄文土器

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	器種	分類	法量 () 内復元値 (cm)	胎土	色調	文様・調整その他	備考
168	1	99-1	F6	11-3 層	深鉢	里木 II		石英、ハイカ含む	外 :にぶい橙色7.5YR7/4 内 :にぶい橙色7.5YR7/4	外 :左右両端に沈線文、撚糸文L 内 :ナデ	
168	2	99-1	F6	11-3 層	深鉢	里木 II		石英、ハイカ含む	外 :橙色5YR7/6 内 :にぶい橙色7.5YR7/3	外 :沈線文、撚糸文L 内 :ナデ	
168	3	99-1	F6	11-3 層	深鉢	里木 II		石英、ハイカ、雲母含む	外 :褐灰色10YR4/1 内 :灰黄褐色10YR6/2	外 :撚糸文L 内 :ナデ	
168	4	99-1	F4	12 層	深鉢	里木 II		石英、ハイカ含む	外 :にぶい橙色7.5YR7/3 内 :にぶい橙色7.5YR7/3	外 :撚糸文L ？ 内 :ナデ	
168	5	99-1	F6	11-3 層	深鉢	中期末		石英、ハイカ含む	外 :灰黄褐色10YR5/2 内 :灰黄褐色10YR5/2	外 :垂下隆帯文、波状沈線文 ナデ 内 :ナデ	屈曲口縁
168	6	99-1	F6	11-3 層	深鉢	中期末		石英、ハイカ、 角閃石含む	外 :にぶい褐色7.5YR5/3 内 :橙色5YR7/6	外 :隆帯文（縄文LR） 二枚貝条痕 内 :二枚貝条痕	波状口縁
168	7	99-1	F6	12 層	深鉢	中期末		石英、ハイカ、 角閃石含む	外 :灰黄褐色10YR6/2 内 :灰黄褐色10YR6/2	外 :二枚貝腹縁刺突文 内 :二枚貝条痕	外面折返し口縁
168	8	99-1	E5	12 層	深鉢	中期末		石英、ハイカ、 角閃石含む	外 :褐灰色10YR5/1 内 :褐灰色10YR4/1	外 :段＋刺突、二枚貝条痕 内 :ナデ	
168	9	99-1	G7	11-3 層	深鉢	中期末		石英、ハイカ、 角閃石含む	外 :灰褐色7.5YR5/2 内 :にぶい褐色7.5YR6/3	外 :縄文RL、沈線文 内 :二枚貝条痕＋ナデ	下端に段
168	10	99-1	F6	11-3 層	深鉢	中期末		石英、ハイカ、 金雲母含む	外 :にぶい褐色7.5YR6/3 内 :にぶい橙色7.5YR7/3	外 :縄文LR、縦横の沈線文、刺突 内 :ナデ	下部に段
168	11	99-1	F5	12 層	深鉢	中期末		石英、ハイカ、角閃石、 金雲母含む	外 :にぶい褐色7.5YR5/3 内 :にぶい褐色7.5YR5/3	外 :沈線文、縄文RL 内 :二枚貝条痕＋ナデ	下端に段
168	12	99-1	E5-F5	12 層	深鉢	中期末		石英含む	外 :にぶい橙色7.5YR7/3 内 :にぶい黄橙色10YR7/3	外 :斜行沈線文、二枚貝条痕 内 :二枚貝条痕	下端に段
168	13	99-1	F5	11-3 層	深鉢	中期末		石英、ハイカ、 角閃石含む	外 :灰褐色7.5YR6/2 内 :明褐灰色7.5YR7/2	外 :段＋凹点 内 :二枚貝条痕	中央に段
168	14	99-1	F6	11-3 層	深鉢	中期末		石英、ハイカ含む	外 :褐灰色7.5YR4/1 内 :にぶい黄橙色10YR6/3	外 :縄文RL、刻目 内 :二枚貝条痕	屈曲口縁
168	15	99-1	F4	11 層	深鉢	中期末		石英、ハイカ？含む	外 :にぶい橙色7.5YR7/4 内 :にぶい橙色7.5YR7/4	外 :隆帯＋刺突文、ナデ 内 :ナデ	屈曲口縁
168	16	99-1	F6	11-3 層	深鉢	中期末		石英、金雲母含む	外 :にぶい黄橙色10YR6/3 内 :灰黄褐色10YR5/2	外 :沈線文、ナデ 内 :ナデ	屈曲口縁
168	17	99-2	E5	11-3 層	深鉢	中期末		石英、ハイカ、角閃石、 金雲母含む	外 :にぶい褐色7.5YR5/4 内 :にぶい褐色7.5YR5/4	外 :磨消縄文LR 内 :ナデ	屈曲口縁
168	18	99-2	F6	11-3 層	深鉢	中期末		石英、ハイカ含む	外 :にぶい褐色7.5YR6/3 内 :にぶい褐色7.5YR6/3	外 :弧状沈線文、縄文LR 内 :ナデ	内湾口縁
168	19	99-2	F6	11-3 層	深鉢	中期末		石英、ハイカ、 角閃石含む	外 :灰黄褐色10YR6/2 内 :にぶい黄橙色10YR7/3	外 :斜行沈線文、二枚貝条痕 内 :ナデ	
168	20	99-2	F6	11-3 層	深鉢	中期末		石英、ハイカ？含む	外 :褐灰色10YR4/1 内 :褐灰色10YR5/1	外 :押引文、竹管文、ナデ 内 :ナデ	
168	21	99-2	F6	11-3 層	深鉢	中期末		石英、ハイカ？含む	外 :灰黄褐色10YR5/3 内 :にぶい褐色7.5YR6/3	外 :沈線文、縄文RL 内 :二枚貝条痕	
168	22	99-2	E5	11-3 層	深鉢	中期末		石英、ハイカ、 角閃石含む	外 :灰黄褐色10YR4/2 内 :にぶい橙色7.5YR7/4	外 :沈線文、凹点文 内 :ナデ	
168	23	99-2	E5	12 層	深鉢	中期末		石英、ハイカ、 角閃石含む	外 :にぶい赤褐色5YR5/4 内 :褐灰色7.5YR4/1	外 :沈線文、縄文無節L	
168	24	99-2	F6	13 層 上面	深鉢	中期末		石英、角閃石、 金雲母含む	外 :橙色2.5YR6/6 内 :にぶい橙色5YR6/4	外 :磨消縄文LR、二枚貝条痕 内 :ナデ	
168	25	99-2	F6	11-3 層	深鉢	中期末		石英、角閃石含む	外 :にぶい褐色7.5YR6/3 内 :にぶい褐色7.5YR5/3	外 :沈線文、巻貝疑似縄文 内 :ナデ	
168	26	99-2	F5	11-3 層	深鉢	中期末		石英含む	外 :にぶい黄橙色10YR6/3 内 :にぶい黄橙色10YR6/3	外 :沈線文、縄文RL 内 :ナデ	
168	27	99-2	F6	11-3 層	深鉢	中期末？		石英、角閃石含む	外 :にぶい橙色7.5YR7/3 内 :にぶい橙色7.5YR7/3	外 :横位沈線？、二枚貝条痕 内 :ナデ	
168	28	99-2	F6	11-3 層	深鉢	中期末？		石英、角閃石含む	外 :にぶい褐色7.5YR5/4 内 :にぶい褐色7.5YR5/4	外 :斜格子状沈線文、ナデ 内 :ナデ	
168	29	99-2	E5	12 層 (12-4 層)	深鉢	中期末		石英、ハイカ含む	外 :にぶい橙色7.5YR7/3 内 :にぶい黄橙色10YR6/3	外 :垂下沈線文、縄文RL	
168	30	99-2	F6	11-3 層	深鉢	中期末		石英含む	外 :にぶい橙色7.5YR6/4 内 :にぶい橙色7.5YR6/4	外 :沈線文、ナデ 内 :二枚貝条痕	
168	31	99-2	F5	12 層	深鉢	中期末？		石英、ハイカ含む	外 :褐灰色10YR6/1 内 :にぶい黄橙色10YR7/4	外 :口唇縄文反撚R 内 :ナデ	
168	32	99-2	F4	11 層	鉢	暮地		石英、ハイカ、 金雲母含む	外 :にぶい黄橙色10YR7/3 内 :灰黄褐色10YR4/2 ～6/2	外 :磨消縄文RL、ミガキ 内 :ミガキ	
168	33	99-2	G7	11-3 層	浅鉢	暮地		石英、ハイカ、 金雲母含む	外 :にぶい橙色7.5YR7/3 内 :にぶい橙色7.5YR7/3	外 :磨消縄文RL、ミガキ 内 :ミガキ	内面段
168	34	99-2	F4	11 層	壺	後期		石英、ハイカ、角閃石、 金雲母含む	外 :灰褐色7.5YR4/2 内 :黒色N2/	外 :ミガキ 内 :ミガキ	
168	35	99-2	D1	13 層	浅鉢	後期 浅鉢Ⅳ類		石英、ハイカ、 角閃石含む	外 :にぶい黄褐色10YR4/3 内 :褐灰色10YR4/1	外 :ミガキ 内 :ミガキ	口唇肥厚
168	36	99-2	F6	11-3 層	深鉢	中期末？		石英多く含む	外 :にぶい橙色7.5YR7/3 内 :にぶい橙色7.5YR7/3	外 :二枚貝腹縁刺突、縄文LR 内 :ナデ	
168	37	99-2	F6	11-3 層	深鉢	中期末？		石英、ハイカ含む	外 :にぶい橙色7.5YR7/4 内 :にぶい橙色7.5YR7/4	外 :二枚貝腹縁刺突 内 :二枚貝条痕＋ナデ	波状口縁？
168	38	99-2	F7	11-3 層	深鉢	中期末？		石英、ハイカ含む	外 :浅黄橙色7.5YR8/3 内 :浅黄橙色7.5YR8/3	外 :二枚貝腹縁刺突 内 :巻貝条痕？	
168	39	99-2	F6	11-3 層	深鉢	中期末？		石英、ハイカ含む	外 :浅黄橙色7.5YR8/4 内 :浅黄橙色7.5YR8/4	外 :二枚貝腹縁刺突 内 :巻貝条痕？	下端に段＋刺突
168	40	99-2	G6	11-3 層	深鉢	中期末？		石英、ハイカ含む	外 :橙色5YR6/6 内 :にぶい橙色7.5YR7/4	外 :隆帯文、ナデ 内 :二枚貝条痕＋ナデ	型式不明

第36表　遺物観察表（12層出土遺物）

12層　縄文土器

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	器種	分類	法量 () 内復元値 (cm)	胎土	色調	文様・調整その他	備考
169	1	109-2	D2	13 層	深鉢	船元・波子	口縁（32.5）	石英、ハイカ 角閃石、金雲母含む	外：黒褐色 10YR3/1 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：縄文 LR 内：ケズリ	内面折返し口縁
169	2	100-1	D3	12 層	深鉢	船元・波子	—	石英、ハイカ含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/3 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：縄文 LR 内：ナデ	内面折返し口縁
169	3	100-1	D3	12 層	深鉢	船元・波子	—	石英、ハイカ 角閃石、雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/4 内：にぶい黄橙色 10YR7/4	外：縄文無節 L 内：ナデ	内面折返し口縁
169	4	100-1	D3	12 層	深鉢	船元・波子	—	石英、ハイカ 雲母含む	外：灰白色 10YR8/2 内：灰黄褐色 10YR6/2	外：ナデ 内：ナデ	内面折返し口縁
169	5	100-1	D3	12 層	深鉢	船元・波子	—	石英、ハイカ 含む	外：灰白色 10YR8/2 内：灰白色 10YR8/2	外：ナデ、下部に縄文 LR ？ 内：ナデ	内面折返し口縁
169	6	100-1	D3	12 層	深鉢	船元・波子	—	石英、角閃石 雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：縄文無節 L 内：ナデ	内面折返し口縁
169	7	100-1	C2	12 層	深鉢	船元・波子	—	石英、ハイカ 金雲母含む	外：褐灰色 7.5YR4/1 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：縄文 RL、刻目 内：二枚貝条痕＋ナデ	内面折返し口縁
169	8	100-1	D3	12 層	深鉢	船元・波子	—	石英、ハイカ？ 金雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：爪形刺突文、縄文 LR 内：条痕＋ナデ	内面折返し口縁
169	9	100-2	E3	12 層	深鉢	船元・波子	—	石英、ハイカ 金雲母含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：灰褐色 7.5YR6/2	外：縄文 LR、口縁内面指押圧 内：二枚貝条痕＋ナデ	内面折返し口縁
169	10	100-1	D2	13 層	深鉢	船元・波子	—	石英ハイカ？ 含む	外：灰黄褐色 10YR3/2 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：縄文 LR 内：ナデ	内面折返し口縁
169	11	100-2	C2	13 層	深鉢	船元・波子	—	石英、ハイカ 雲母含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：縄文 LR 内：ナデ	内面折返し口縁
169	12	100-1	E2	12 層	深鉢	船元・波子	—	石英、ハイカ 角閃石含む	外：灰黄褐色 10YR6/2 内：明褐灰色 7.5YR7/2	外：縄文 LR 内：巻貝条痕？＋ナデ	内面折返し口縁
169	13	100-2	D3 D2	12 層	深鉢	船元・波子	—	石英、ハイカ 角閃石含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：灰褐色 7.5YR6/2	外：縄文 LR、口縁内面指押圧 内：二枚貝条痕＋ナデ	内面折返し口縁
169	14	100-2	D2	12 層	深鉢	船元・波子	—	石英、ハイカ 角閃石、雲母含む	外：褐灰色 10YR6/1 内：灰白色 10YR8/1	外：刺突 2 列、縄文 LR 内：ナデ	内面折返し口縁
169	15	101-1	E3	12 層	深鉢	船元・波子	—	石英、ハイカ 角閃石含む	外：にぶい褐色 7.5YR7/4 内：にぶい褐色 7.5YR7/3	外：縄文 LR 内：ナデ	内面折返し口縁
169	16	101-1	D2	12 層	深鉢	船元・波子	—	石英、ハイカ 角閃石含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：縄文 LR 内：ナデ	内面折返し口縁
169	17	100-2	E3	12 層	深鉢	波子	—	石英、ハイカ 角閃石、金雲母含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：縄文 LR（異方向施文） 内：ナデ	外面折返し口縁
169	18	100-1	E3	12 層	深鉢	波子	—	石英、角閃石含む	外：灰褐色 10YR6/2 内：灰褐色 10YR6/2	外：縄文 LR（異方向施文） 内：ナデ	外面折返し口縁
169	19	100-2	D3	12 層	深鉢	波子	—	石英、角閃石含む	外：浅黄橙色 10YR8/3 内：浅黄橙色 10YR8/4	外：縄文 LR（異方向施文） 内：ナデ	外面折返し口縁
169	20	100-2	D2	12 層	深鉢	波子	—	石英、ハイカ 角閃石含む	外：明褐灰色 7.5YR7/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：縄文 LR 内：二枚貝条痕＋ナデ	外面折返し口縁
169	21	100-2	D3	12 層	深鉢	波子	—	石英、角閃石含む	外：浅黄橙色 10YR8/3 内：浅黄橙色 10YR8/3	外：縄文 LR 内：条痕＋ナデ	外面折返し口縁、 波状口縁
170	1	101-1	D3	12 層	深鉢	波子	—	石英、金雲母 角閃石含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/3 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：縄文 LR 内：ナデ	外面折返し口縁
170	2	101-1	D3	12 層	深鉢	波子	—	石英、角閃石含む	外：明褐灰色 7.5YR7/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：縄文 RL 内：二枚貝条痕＋ナデ	外面折返し口縁
170	3	101-1	E3	12 層	深鉢	波子	—	石英、ハイカ 雲母含む	外：灰褐色 5YR6/2 内：浅黄橙色 7.5YR8/4	外：縄文 LR 内：ナデ	外面折返し口縁
170	4	101-1	E2	12 層	深鉢	波子	—	石英、ハイカ 角閃石含む	外：灰白色 10YR8/1 内：灰白色 10YR8/1	外：縄文 LR 内：二枚貝条痕	外面折返し口縁 （一部 V 字）
170	5	101-1	D3	12 層	深鉢	波子	—	石英、ハイカ 角閃石含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：黄橙色 10YR7/3	外：縄文 LR 内：二枚貝条痕＋ナデ	外面折返し口縁、 波状口縁
170	6	101-1	E3	12 層	深鉢	波子	—	石英、雲母 角閃石含む	外：灰白色 10YR8/2 内：灰白色 10YR8/2	外：沈線文・ナデ 内：二枚貝条痕＋ナデ	外面折返し口縁
170	7	101-2	D2 北 T	12 層	深鉢	波子	—	石英、ハイカ 角閃石、金雲母含む	外：灰白色 10YR8/1 内：灰白色 10YR8/1	外：縄文 LR 内：二枚貝条痕	外面折返し口縁、 突起
170	8	101-1	C2 D2	12 層	深鉢	波子	—	石英、ハイカ 角閃石含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：灰黄褐色 10YR6/2	外：鋸歯文？・縄文無節 R 内：ナデ	外面折返し口縁
170	9	101-1	D2	12 層	深鉢	波子	—	石英、ハイカ含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/3 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：波状文・縄文 LR	外面折返し口縁
170	10	101-1	D3	12 層	深鉢	波子	—	石英、ハイカ含む	外：褐灰色 10YR5/1 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：波状文・縄文 LR	外面折返し口縁
170	11	101-1	E3	12 層	深鉢	波子	—	石英、ハイカ 角閃石含む	外：明褐灰色 7.5YR7/2 内：灰黄褐色 10YR6/2	外：沈線文（横走＋垂下） 縄文無節 L 内：ナデ	外面折返し口縁
170	12	101-1	E3	12 層	深鉢	波子	—	石英、ハイカ含む	外：灰黄褐色 10YR5/2 内：灰黄褐色 10YR5/2	外：沈線文・縄文 LR 内：二枚貝条痕＋ナデ	外面折返し口縁
170	13	101-1	D3	12 層	深鉢	波子	—	石英、ハイカ 角閃石含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：褐灰色 10YR4/1	外：沈線文・縄文 LR、刻目 内：ナデ	外面折返し口縁
170	14	101-2	E3	12 層	深鉢	波子	—	石英、ハイカ含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：にぶい橙色 7.5YYR7/3	外：沈線文・縄文 LR 内：ナデ	外面折返し口縁
170	15	101-2	D3	12 層	深鉢	波子	—	石英、ハイカ 雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：沈線文・縄文 LR 内：巻貝条痕＋ナデ	外面折返し口縁
170	16	101-2	E3	12 層	深鉢	波子	—	石英、ハイカ 角閃石含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：褐灰色 10YR4/1	外：沈線文、縄文 LR 内：巻貝条痕＋ナデ	外面折返し口縁、 補修孔
170	17	101-2	E3	12 層	深鉢	波子	—	石英、ハイカ含む	外：浅黄橙色 10YR8/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：沈線文、ナデ 内：ナデ	外面折返し口縁
170	18	101-2	E3	12 層	深鉢	波子	—	石英、ハイカ 角閃石含む	外：明褐灰色 7.5YR7/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：V 字隆帯＋沈線文、縄文 LR 内：ナデ	外面折返し口縁
170	19	102-1	E3	12 層	深鉢	波子	—	石英、ハイカ 角閃石、金雲母含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：褐灰色 10YR4/1	外：沈線文、縄文 LR 内：条痕＋ナデ	外面折返し口縁
170	20	101-2	D3	12 層	深鉢	波子	—	石英、ハイカ 角閃石、金雲母含む	外：にぶい橙色 5YR7/4 内：にぶい橙色 5YR7/4	外：沈線文（横走＋垂下） 縄文 LR、刻目 内：ナデ	外面折返し口縁
170	21	101-2	D3	12 層	深鉢	波子	—	石英、金雲母含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：灰黄褐色 10YR6/2	外：垂下沈線文、縄文 LR 内：二枚貝条痕＋ナデ	外面折返し口縁
170	22	101-2	C2 D2	12 層	深鉢	波子	—	石英、ハイカ含む	外：灰黄褐色 10YR4/2 内：灰黄褐色 10YR4/2	外：垂下沈線文、ナデ 内：ナデ	外面折返し口縁
170	23	102-1	D3 E3	12 層	深鉢	波子	—	ハイカ、石英、 金雲母含む	外：灰褐色 7.5YR6/2 内：にぶい褐色 7.5YR6/3	外：刺突文、縄文 LR 内：ナデ	外面折返し口縁
170	24	101-2	D3	12 層	深鉢	波子	—	石英、ハイカ含む	外：褐灰色 10YR5/1 内：灰黄褐色 10YR5/2	外：刺突文、縄文 LR 内：ナデ	外面折返し口縁
170	25	101-2	D3	12 層	深鉢	波子	—	石英含む	外：灰白色 10YR8/2 内：灰白色 10YR8/2	外：刺突文 2 列、縄文 LR 内：ナデ	外面折返し口縁

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	器種	分類	法量 () 内復元値 (cm)	胎土	色調	文様・調整その他	備考
170	26	102-1	C2-D2 D3	12 層	深鉢	波子	—	石英、ハイカ含む	外：灰黄褐色 10YR5/2 内：灰黄褐色 10YR6/2	外：刺突文、縄文 LR 内：ナデ	外面折返し口縁
170	27	101-2	E3	12 層	深鉢	波子	—	石英、ハイカ、 角閃石含む	外：浅黄橙色 10YR8/3 内：橙色 7.5YR7/6	外：刺突文、縄文 LR 内：ナデ	外面折返し口縁
170	28	102-1	E3	12 層	深鉢	波子	—	石英、角閃石含む	外：にぶい橙色 5YR6/3 内：灰褐色 5YR4/2	外：刺突文、縄文 LR 内：ナデ	外面折返し口縁
171	1	102-1	D3	12 層	深鉢	波子	—	石英、ハイカ含む	外：灰黄褐色 10YR5/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：刺突文、縄文 LR 内：ナデ	外面折返し口縁
171	2	102-1	E3	12 層	深鉢	波子	—	石英、ハイカ 角閃石含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：縄文 LR 内：ナデ	外面折返し口縁、 口縁屈曲
171	3	102-1	E3	12 層	深鉢	波子	—	石英、ハイカ？ 角閃石含む	外：明褐灰色 7.5YR7/2 内：黒褐色 7.5YR3/1	外：縄文 RL 内：ナデ	外面折返し口縁
171	4	102-1	C3	12 層	深鉢	波子	—	石英、ハイカ、角閃石、 雲母含む	外：灰黄褐色 10YR5/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：縄文無節 L 内：ナデ	外面折返し口縁
171	5	102-1	E3	12 層	深鉢	波子	—	石英、ハイカ 角閃石含む	外：灰白色 7.5YR8/2 内：灰白色 7.5YR8/2	外：ナデ 内：ナデ	外面折返し口縁 （2 段）
171	6	102-1	E3	12 層	深鉢	波子	—	石英、ハイカ、角閃石 雲母含む	外：にぶい褐色 7.5YR6/3 内：灰黄褐色 10YR4/2	外：半截竹管内側の押引 内：二枚貝条痕	外面折返し口縁
171	7	102-1	E3	12 層	深鉢	波子	—	石英、ハイカ 角閃石、金雲母含む	外：灰白色 7.5YR8/2 内：灰白色 7.5YR8/1	外：二枚貝条痕 内：二枚貝条痕＋ナデ	外面折返し口縁
171	8	102-1	E3	12 層	深鉢	波子	—	石英、ハイカ 角閃石、金雲母含む	外：褐灰色 7.5YR4/1 内：褐灰色 7.5YR4/1	外：二枚貝条痕 内：二枚貝条痕	外面折返し口縁
171	9	102-1	C3	12 層	深鉢	波子	—	石英、ハイカ 角閃石含む	外：にぶい褐色 7.5YR6/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：縄文 LR 内：ナデ	外面折返し口縁
171	10	102-1	D3	12 層	深鉢	波子	—	石英、ハイカ含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：口縁二枚貝条痕＋ナデ 縄文 LR、ナデ	外面折返し口縁
171	11	102-1	C2 D2	12 層	深鉢	波子	—	石英、ハイカ含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：口縁指押圧、二枚貝条痕 内：ナデ	外面折返し口縁
171	12	102-1	E3	12 層	深鉢	波子	—	石英、ハイカ 雲母含む	外：灰白色 7.5YR8/2 内：浅黄橙色 7.5YR8/3	外：縄文 LR 内：ナデ	外面折返し口縁 （2 段）
171	13	102-1	C2 D2	12 層	深鉢	波子	—	石英、雲母含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：縄文 LR、口縁指押圧 内：ナデ	外面折返し口縁
171	14	102-1	E3	12 層	深鉢	船元Ⅱ？	—	石英、ハイカ 角閃石含む	外：にぶい橙色 7.5YR6/4 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：刻目隆帯、縄文 LR 内：ナデ	
171	15	102-1	D2	12 層	深鉢	船元Ⅱ？	—	石英、ハイカ 角閃石、金雲母含む	外：灰白色 7.5YR8/2 内：灰褐色 7.5YR5/2	外：隆帯＋刺突、縄文 LR 内：ナデ	
171	16	102-1	E3	12 層	深鉢	船元Ⅱ？	—	石英、ハイカ、 角閃石含む	外：にぶい褐色 7.5YR6/3 内：にぶい褐色 7.5YR6/3	外：隆帯＋刺突、縄文 RL 内：ナデ	波状口縁
171	17	102-2	E3	12 層	深鉢	船元Ⅱ？	—	石英、ハイカ、角閃石、 雲母含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：垂下隆帯、ナデ 内：ナデ	突起
171	18	102-2	D3	12 層	深鉢	船元	—	石英、ハイカ 金雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にうび黄橙色 10YR7/3	外：多条沈線文、縄文 LR 内：ナデ	
171	19	102-2	D3	12 層	深鉢	船元	—	石英含む	外：明褐灰色 7.5YR7/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：沈線文、縄文 RL 内：ナデ	波状口縁
171	20	102-1	D2	12 層	深鉢	船元	—	石英、ハイカ含む	外：褐灰色 7.5YR4/1 内：褐灰色 7.5YR4/1	外：沈線文、ナデ 内：ナデ	
171	21	102-2	C2 D2	12 層	深鉢	船元	—	雲母（多）含む	外：灰黄褐色 10YR5/2 内：灰黄褐色 10YR5/2	外：沈線文、ナデ 内：ナデ	
171	22	102-2	D3	12 層	深鉢	船元	—	石英、ハイカ 角閃石、雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：沈線文、縄文 LR 内：ナデ	
171	23	102-2	C2-D2 D3	12 層	深鉢	船元	—	石英、ハイカ（多） 雲母含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：褐灰色 10YR4/1	外：押引、口唇刺突、縄文 LR 内：ナデ	波状口縁
171	24	102-2	D3	12 層	深鉢	船元	—	石英、ハイカ含む	外：にぶい褐色 7.5YR6/3 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：刺突文 3 列 二枚貝条痕＋ナデ 内：二枚貝条痕＋ナデ	内面に稜
171	25	102-2	E3	12 層	深鉢	船元	—	石英、ハイカ 角閃石含む	外：灰白色 10YR8/2 内：灰白色 10YR8/2	外：刺突、ナデ 内：ナデ	内面折返し口縁
171	26	102-2	D3	12 層	深鉢	船元	—	石英、ハイカ含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/3 内：明褐灰色 7.5YR7/2	外：刺突、縄文（撚り不明） 内：ナデ	内面段
171	27	102-2	D3	12 層	深鉢	船元	—	石英、ハイカ、 角閃石含む	外：灰白色 10YR8/2 内：灰黄褐色 10YR6/2	外：垂下短沈線文 内：ナデ	
171	28	102-2	E2	12 層	深鉢	船元	—	石英、角閃石 雲母含む	外：にぶい橙色 5YR7/4 内：褐灰色 5YR4/1	外：垂下短沈線文 内：ナデ	
171	29	102-2	E3	12 層	深鉢	船元	—	石英、ハイカ 角閃石含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：浅黄橙色 7.5YR8/4	外：口唇刺突、縄文 LR 内：ナデ	
171	30	102-2	E3	12 層	深鉢	船元	—	石英、ハイカ 角閃石含む	外：明褐灰色 7.5YR7/2 内：浅黄橙色 10YR8/3	外：刺突、縄文 LR 内：二枚貝条痕＋ナデ	
171	31	102-2	D2	12 層	深鉢	船元	—	石英、ハイカ 角閃石、雲母含む	外：褐灰色 10YR5/1 内：灰黄褐色 10YR5/2	外：口唇刺突、縄文 LR 内：二枚貝条痕	
171	32	102-2	D3	12 層	深鉢	船元	—	石英、ハイカ 角閃石含む	外：にぶい橙色 5YR6/4 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：口唇刺突、縄文 LR 内：二枚貝条痕	
171	33	103-1	D3	13 層	深鉢	船元	—	石英、ハイカ 角閃石含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：灰黄褐色 10YR5/2	外：口唇刺突、縄文 LR 内：二枚貝条痕＋ナデ	
171	34	103-1	E2	12 層	深鉢	船元	—	石英、ハイカ 角閃石、雲母含む	外：灰白色 10YR8/2 内：灰黄褐色 10YR4/2	外：口唇刺突、縄文 LR 内：二枚貝条痕	
171	35	103-1	E3	12 層	深鉢	船元	—	石英、ハイカ 角閃石含む	外：橙色 5YR7/6 内：橙色 5YR6/8	外：口唇刺突、縄文 LR 内：二枚貝条痕＋ナデ	
171	36	103-1	D2 D3	12 層	深鉢	船元	—	石英、ハイカ 角閃石含む	外：淡黄色 2.5Y8/4 内：浅黄橙色 10YR8/3	外：口唇刺突、縄文 LR 内：二枚貝条痕＋ナデ	
171	37	102-2	E4	12 層	深鉢	船元	—	石英、ハイカ含む	外：褐灰色 10YR5/1 内：にぶい橙色 10YR7/3	外：円形浮文＋刺突 縄文 LR、内二枚貝条痕	
171	38	103-1	D3	12 層	深鉢	船元	—	石英、ハイカ 角閃石、雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：灰黄褐色 10YR6/2	外：口唇・外面縄文 LR 内：条痕＋ナデ	
171	39	103-1	D3	12 層	深鉢	船元	—	石英、ハイカ 角閃石、雲母含む	外：黒褐色 10YR3/1 内：褐灰色 10YR4/1	外：口唇・外面縄文 LR 内：ナデ	
171	40	102-2	D3	12 層	深鉢	船元	—	石英、ハイカ 角閃石、雲母含む	外：褐灰色 10YR5/1 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：口唇・外面縄文 LR 内：ナデ	
171	41	103-1	E3	12 層	深鉢	船元	—	石英、ハイカ 角閃石、雲母含む	外：明褐灰色 7.5YR7/2 内：明褐灰色 7.5YR7/2	外：口唇・外面縄文 RL ？ 内：ナデ	
171	42	102-2	D3	12 層	深鉢	船元	—	石英、ハイカ 角閃石含む	外：灰黄褐色 10YR6/2 内：灰黄褐色 10YR6/2	外：口唇・外面縄文 RL 内：ナデ	
171	43	102-2	D2	13 層	深鉢	船元	—	石英、ハイカ含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：灰黄褐色 10YR6/2	外：口唇・外面縄文無節 L 内：ナデ	
171	44	102-2	D3	12 層	深鉢	船元	—	石英、ハイカ含む	外：黒褐色 10YR3/1 内：褐灰色 10YR4/1	外：口唇・外面縄文 LR 内：ナデ	
171	45	102-2	E3	12 層	深鉢	船元	—	石英、ハイカ 角閃石含む	外：灰白色 10YR8/2 内：灰白色 10YR8/2	外：口唇・外面縄文撚糸 L ？ 内：ナデ	

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	器種	分類	法量 () 内復元値 (cm)	胎土	色調	文様・調整その他	備考
172	1	103-2	E3	12 層	深鉢	船元	—	ハイカ、石英 雲母含む	外：灰黄褐色 10YR5/2 内：浅黄色 2.5Y7/3	外：胴・口唇縄文無節 R 内：二枚貝条痕＋ナデ	
172	2	103-1	C2 D2	12 層	深鉢	船元	—	石英、ハイカ 角閃石含む	外：灰黄褐色 10YR5/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：胴・口唇縄文無節 R 内：二枚貝条痕	
172	3	103-2	C2 D2	12 層	深鉢	船元	—	微砂粒含むが 鉱物特定できない	外：灰黄褐色 10YR5/2 内：灰黄褐色 10YR5/2	外：縄文 LR 内：ナデ	
172	4	103-1	C2 D2	12 層	深鉢	船元	—	石英、角閃石、 金雲母含む	外：浅黄橙色 10YR8/3 内：褐灰色 10YR6/1	外：縄文 LR 内：ナデ	
172	5	103-1	D2	12 層	深鉢	船元	—	ハイカ、金雲母 角閃石含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：縄文 LR 内：ナデ	
172	6	103-1	不明	12 層	深鉢	船元	—	微砂粒含むが 鉱物特定できない	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：縄文 LR 内：ナデ	
172	7	103-2	E3	12 層	深鉢	船元	—	石英、ハイカ 角閃石含む	外：橙色 7.5YR7/6 内：橙色 7.5YR7/6	外：縄文 LR 内：ナデ	
172	8	103-2	C2 D2	12 層	深鉢	船元	—	石英、ハイカ 角閃石含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：縄文 LR 内：ナデ	
172	9	103-2	D3	12 層	深鉢	船元	—	石英、ハイカ 角閃石含む	外：灰黄褐色 10YR5/2 内：浅黄色 2.5Y7/3	外：縄文 LR 内：ナデ	
172	10	103-2	D2 D3	13 層	深鉢	船元	—	石英、角閃石含む	外：褐灰色 7.5YR4/1 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：縄文 LR 内：二枚貝条痕＋ナデ	
172	11	103-2	D2 北 T	12 層	深鉢	船元	—	石英、ハイカ 金雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/4	外：縄文 LR 内：ナデ	
172	12	104-1	C2 D2	12 層	深鉢	船元	—	石英、ハイカ 角閃石含む	外：褐灰色 10YR5/1 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：縄文 LR 内：巻貝条痕？	
172	13	104-1	D3	12 層	深鉢	船元	—	石英、ハイカ 角閃石含む	外：黒褐色 10YR3/1 内：黒褐色 10YR3/1	外：縄文無節 L 内：ナデ	
172	14	103-2	D3	12 層	深鉢	船元	—	石英、ハイカ 角閃石、雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/3 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：縄文 LR 内：ナデ	
172	15	104-1	D3	12 層	深鉢	船元	—	石英、ハイカ 雲母含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：縄文 LR 内：二枚貝条痕＋ナデ	
172	16	104-1	E3	12 層	深鉢	船元	—	ハイカ、雲母含む	外：灰黄褐色 10YR6/2 内：褐灰色 10YR5/1	外：縄文 LR 内：ナデ	
172	17	104-1	C2 D2	12 層	深鉢	船元	—	石英、ハイカ 雲母含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：縄文 LR 内：ナデ	
172	18	104-1	E3	12 層	深鉢	船元	—	石英、角閃石含む	外：灰白色 10YR8/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：縄文 LR（異方向施文） 内：ナデ	
172	19	104-1	D2	12 層	深鉢	船元	—	石英、ハイカ 金雲母含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：褐灰色 10YR4/1	外：縄文 LR（異方向施文） 内：条痕＋ナデ	
172	20	103-2	C2 D2	12 層	深鉢	船元	—	石英、ハイカ 角閃石含む	外：灰黄褐色 10YR6/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：縄文 RL 内：ナデ	
172	21	104-1	E3	12 層	深鉢	船元	—	石英、角閃石 雲母含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：縄文 LR（異方向施文） 内：ナデ	
172	22	104-1	E3	12 層	深鉢	船元	—	石英、ハイカ 金雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：縄文 LR 内：二枚貝条痕・ナデ	
172	23	104-1	E2 北 T	12 層	深鉢	船元・波子	—	石英、ハイカ 角閃石含む	外：灰白色 7.5YR8/1 内：灰白色 10YR8/2	外：縄文 LR 内：ナデ	
172	24	104-1	E3	12 層	深鉢	船元・波子	—	石英、ハイカ 角閃石、雲母含む	外：灰褐色 7.5YR5/2 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：縄文 LR 内：二枚貝条痕	
172	25	104-2	D2 北 T	12 層	深鉢	船元・波子	—	石英、ハイカ 角閃石、雲母含む	外：灰黄褐色 10YR4/2 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：縄文 LR 内：二枚貝条痕＋ナデ	
172	26	104-2	E2	12 層	深鉢	船元・波子	—	石英、ハイカ 角閃石含む	外：灰白色 7.5YR8/1 内：灰白色 10YR8/2	外：縄文 LR 内：二枚貝条痕＋ナデ	
172	27	104-2	D3	12 層	深鉢	船元・波子	—	石英、ハイカ 角閃石含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：浅黄橙色 7.5YR8/3	外：縄文 LR 内：二枚貝条痕＋ナデ	
172	28	104-2	E3	12 層	深鉢	船元・波子	—	石英、ハイカ 金雲母含む	外：明褐灰色 7.5YR7/2 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：縄文 LR 内：二枚貝条痕＋ナデ	
172	29	104-1	D3	12 層	深鉢	船元・波子	—	角閃石含む	外：明褐灰色 7.5YR7/2 内：黒褐色 7.5YR3/1	外：縄文 LR 内：ケズリ様	
172	30	104-1	E3	12 層	深鉢	船元・波子	—	石英、ハイカ 角閃石、金雲母含む	外：灰褐色 7.5YR6/2 内：灰白色 7.5YR8/2	外：縄文 LR 内：ナデ	
172	31	104-1	F4	12 層	深鉢	船元・波子	—	石英、角閃石（多） 含む	外：にぶい赤褐色 5YR4/4 内：黒褐色 5YR3/1	外：縄文 LR 内：ナデ	
173	1	104-2	E3	12 層	深鉢	船元・波子	—	金雲母、石英 角閃石含む	外：にぶい褐色 7.5YR6/3 内：褐灰色 7.5YR4/1	外：縄文 RL 内：二枚貝条痕＋ナデ	
173	2	104-2	D3	12 層	深鉢	船元・波子	—	石英、角閃石？ 含む	外：にぶい褐色 7.5YR6/3 内：にぶい褐色 7.5YR6/3	外：縄文無節 L 内：ナデ	
173	3	104-2	C2 D2	12 層	深鉢	船元・波子	—	石英、角閃石？ 含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：縄文 RL 内：ナデ	
173	4	104-2	C2 D2	12 層	深鉢	船元・波子	—	石英含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：縄文 RL 内：ナデ	
173	5	104-2	E3	12 層	深鉢	船元・波子	—	石英、ハイカ 角閃石、金雲母含む	外：灰褐色 7.5YR6/2 内：灰褐色 7.5YR5/2	外：縄文無節 R 内：二枚貝条痕＋ナデ	
173	6	104-2	E3	12 層	深鉢	船元・波子	—	石英、ハイカ 角閃石含む	外：灰黄褐色 10YR6/2 内：褐灰色 10YR4/1	外：縄文無節 R 内：ナデ	
173	7	105-1	E3	12 層	深鉢	船元・波子	—	石英、ハイカ 角閃石含む	外：灰褐色 7.5YR5/2 内：灰褐色 7.5YR6/2	外：縄文無節 R 内：二枚貝条痕	
173	8	105-1	D3	13 層	深鉢	船元・波子	—	石英、ハイカ 角閃石含む	外：褐灰色 5YR4/1 内：灰褐色 7.5YR5/2	外：縄文無節 L 内：二枚貝条痕	
173	9	105-1	D2	12 層	深鉢	里木 II ？	—	石英、ハイカ 角閃石含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：灰色 N4/	外：撚糸 L 内：二枚貝条痕	
173	10	105-1	E3	12 層	深鉢	船元・波子	—	石英、ハイカ 角閃石含む	外：灰褐色 7.5YR5/2 内：灰褐色 7.5YR6/2	外：縄文無節 R 内：二枚貝条痕	
173	11	104-2	D3	12 層	深鉢	船元・波子	—	石英、ハイカ 角閃石含む	外：灰褐色 7.5YR6/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/5	外：縄文 LR ？ 内：ナデ	
173	12	104-2	E2	12 層	深鉢	里木 II ？	—	石英（多） 角閃石含む	外：灰褐色 7.5YR4/2 内：にぶい橙色 5YR6/3	外：撚糸 L 内：ナデ	
173	13	105-1	C2 D2	12 層	深鉢	船元・波子	—	石英、金雲母 含む	外：褐灰色 10YR5/1 内：にぶい黄橙色 10YR7/5	外：縄文無節 R 内：ナデ	
173	14	104-2	D2	12 層	深鉢	船元・波子	—	石英、ハイカ 角閃石含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：明褐灰色 7.5YR7/2	外：縄文 LR 内：ナデ	
173	15	105-1	D3	12 層	深鉢	里木 II ？	—	石英、ハイカ 雲母含む	外：褐灰色 10YR5/1 内：褐灰色 10YR5/1	外：撚糸 L 内：ナデ	
173	16	105-1	D3	12 層	深鉢？	船元・波子 底部 I 類	—	石英、ハイカ 金雲母含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/3 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：ナデ 内：ナデ	
173	17	105-2	C2	12 層	五角形底	鷹島	—	石英、金雲母 含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/2 内：灰黄色 2.5Y7/2	外：縄文 RL 内：ナデ	
173	18	105-2	D3	12 層	深鉢？	船元・波子 底部 I 類	—	石英、ハイカ 角閃石含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：橙色 5YR7/6	外：縄文 LR 内：ナデ、接地面に網代痕	

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	器種	分類	法量 () 内復元値 (cm)	胎土	色調	文様・調整その他	備考
173	19	105-1	E3	12 層	深鉢	船元・波子底部 II 類	—	石英、ハイカ角閃石含む	外：褐灰色 10YR6/1 内：明褐灰色 7.5YR7/2	外：縄文 LR 内：ナデ	
173	20	105-1	E4	12 層	深鉢	船元・波子底部 I 類	—	ハイカ、石英金雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：縄文 LR 内：ナデ	
173	21	105-2	E4	12 層	深鉢	船元・波子底部 II 類	—	石英、ハイカ角閃石含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：褐灰色 7.5YR4/1	外：縄文 LR 内：ナデ	
173	22	105-2	E3	12 層	深鉢	船元・波子底部 I 類	—	石英、角閃石含む	外：褐灰色 10YR5/1 内：浅黄橙色 10YR8/3	外：縄文 LR 内：ナデ	
173	23	105-2	D3	12 層	深鉢	船元・波子底部 I 類	—	石英、金雲母角閃石含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：側面・底面縄文 LR 内：ナデ	
173	24	105-2	E4	12 層	深鉢	船元・波子底部III類	—	石英、ハイカ角閃石、金雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/3 内：褐灰色 10YR5/1	外：側面・底面縄文 LR 内：ナデ	
173	25	105-2	C2	12 層	深鉢	船元・波子底部 I 類	—	石英、ハイカ角閃石含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：側面・底面縄文 LR 内：ナデ	
173	26	105-2	D2 北 T	12 層	深鉢	船元・波子底部 I 類	—	石英、ハイカ角閃石含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：灰白色 10YR8/2	外：縄文 LR 内：ナデ、接地面に網代痕	
173	27	106-1	E3	12 層	深鉢	船元・波子底部 I 類	—	石英、角閃石含む	外：灰白色 10YR8/2 内：灰白色 10YR8/2	外：縄文 LR 内：ナデ、接地面に線状の圧痕	
173	28	105-2	D2	12 層	深鉢	船元・波子底部 I 類	—	石英、ハイカ多く含む	外：褐灰色 10YR5/1 内：褐灰色 10YR6/1	外：縄文 LR 内：ナデ、接地面に線状の圧痕	
173	29	106-1	E3	12 層	深鉢	船元・波子底部III類	—	石英、ハイカ角閃石含む	外：浅黄橙色 10YR8/3 内：浅黄橙色 10YR8/3	外：縄文 LR 内：ナデ	
173	30	106-1	E3	12 層	深鉢	船元・波子底部III類	—	石英、ハイカ角閃石含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/4 内：褐灰色 7.5YR6/1	外：底面二枚貝条痕・沈線様ナデ 内：ナデ	
173	31	106-1	D3	12 層	深鉢	船元・波子底部 II 類	—	石英、ハイカ角閃石含む	外：橙色 5YR7/6 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：ナデ 内：ナデ	
173	32	106-1	D3	12 層	深鉢	船元・波子底部III類	—	石英、ハイカ角閃石含む	外：浅黄橙色 10YR8/3 内：灰黄褐色 10YR4/2	外：縄文 LR 内：ナデ	
174	1	106-1	D2	12 層	深鉢	船元・波子底部III類	—	石英、角閃石含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：側・底面縄文 LR 内：ナデ、外縁網代痕	
174	2	106-1	D3	12 層	深鉢	船元・波子底部III類	—	石英、ハイカ角閃石含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：浅黄橙色 7.5YR8/3	外：ナデ、底面網代痕 内：ナデ	
174	3	106-1	E3	12 層	深鉢	船元・波子底部III類	—	石英、ハイカ角閃石含む	外：明褐灰色 7.5YR7/2 内：灰白色 10YR8/1	外：縄文 RL 内：ナデ、外縁斜行沈線文	
174	4	106-1	D3	12 層	深鉢	船元・波子底部III類	—	石英、ハイカ角閃石、金雲母含む	外：褐灰色 7.5YR4/1 内：灰黄褐色 10YR6/2	外：縄文 LR 内：ナデ	
174	5	106-1	D3	12 層	深鉢	船元・波子底部III類	—	石英、ハイカ角閃石含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：灰黄褐色 10YR6/2	外：二枚貝条痕 内：二枚貝条痕	
174	6	106-1	E3	12 層	深鉢	船元・波子底部III類	—	石英、ハイカ角閃石、雲母含む	外：褐灰色 10YR5/1 内：浅黄橙色 10YR8/3	外：側面縄文 RL 内：ナデ、底面葉脈痕？	
174	7	106-1	E4	12 層上面	深鉢	船元・波子底部III類	—	石英、ハイカ含む	外：褐灰色 7.5YR4/1 内：にぶい橙色 7.5YR6/4	外：側面縄文 LR、二枚貝条痕 内：ナデ	
174	8	106-1	D3	12 層	深鉢	船元・波子底部 II 類	—	石英、角閃石含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：縄文 LR 内：ナデ	
174	9	106-1	D3	12 層	深鉢	船元・波子底部 II 類	—	石英、ハイカ角閃石含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：縄文 LR 内：ナデ	
174	10	106-1	E3	12 層	深鉢	中期？底部 II 類	—	石英、ハイカ角閃石含む	外：にぶい褐色 7.5YR6/3 内：褐灰色 7.5YR5/1	外：ナデ 内：ナデ	小型の器種
174	11	106-2	E4	12 層	深鉢	中期末	—	石英、角閃石多く含む	外：黒褐色 10YR3/2 内：黒褐色 10YR3/1	外：縄文 RL、刺突文、ナデ 内：ナデ	
174	12	106-2	E3	12 層	深鉢	中期末	—	石英、ハイカ？含む	外：浅黄橙色 10YR8/3 内：浅黄橙色 10YR8/3	外：弧状沈線文、縄文 LR 内：二枚貝条痕	
174	13	106-2	E4	12 層	深鉢	中期末	—	石英（多）角閃石含む	外：にぶい赤褐色 5YR4/4 内：黒褐色 5YR3/1	外：縄文 RL ？、刺突文、ナデ 内：ナデ	屈曲口縁？
174	14	106-2	E3	12 層	深鉢	中期末	—	石英多く含む	外：にぶい橙色 7.5YR6/4 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：沈線文、ナデ 内：ナデ	右端・下端に沈線端
174	15	106-2	E3	14 層	深鉢	中期末？	—	石英、ハイカ角閃石含む	外：橙色 5YR6/6 内：橙色 5YR6/6	外：細沈線文、ナデ 内：ナデ	内面接合痕明瞭 型式不明
174	16	106-1	E4	12 層	深鉢	中期末	—	石英（多）角閃石含む	外：褐色 7.5YR4/4 内：灰黄褐色 10YR4/2	外：刺突文、弧状文、縄文 RL ナデ、二枚貝条痕	
174	17	106-2	E5	13 層	深鉢	中期？	—	石英、ハイカ含む	外：灰黄褐色 10YR4/2 内：灰黄褐色 10YR4/2	外：刻目、ケズリ？ 内：ナデ	
174	18	106-2	C3	12 層	深鉢	中期？	—	石英含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：刻目、ナデ 内：ナデ	
174	19	106-2	D3	12 層上面	鉢	暮地・布勢	—	石英、ハイカ含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：沈線文、刻目、ナデ 内：ナデ	
174	20	106-2	D2	13 層	深鉢	九州系深浦	—	石英、金雲母含む	外：橙色 5YR6/6 内：橙色 5YR6/6	外：刻目、二枚貝腹縁刺突 二枚貝条痕 内：二枚貝条痕	
174	21	106-2	E1	12 層	深鉢	中期？	—	石英、ハイカ含む	外：灰白色 10YR7/1 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：下端に円形浮文、ナデ 内：ナデ	
174	22	106-2	D3	12 層上面	深鉢	中期？	—	砂粒含むが鉱物特定できない	外：褐灰色 10YR4/1 内：灰黄褐色 10YR5/2	外：刻目、ナデ 内：ナデ	
174	23	107-1	C3	13 層	深鉢	九州系深浦	—	石英、角閃石金雲母含む	外：にぶい褐色 7.5YR5/4 内：にぶい橙色 7.5YR6/4	外：刻目、二枚貝腹縁刺突 二枚貝条痕 内：ナデ	波状口縁
175	1	106-2	E4	12 層	深鉢	九州系春日	—	滑石多量に含む	外：褐灰色 7.5YR5/1 内：褐灰色 7.5YR5/1	外：隆帯＋刺突、ナデ 内：ナデ	
175	2	106-2	E4	12 層	深鉢	九州系春日	—	滑石多量に含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：隆帯＋二枚貝腹縁刺突 二枚貝条痕＋ナデ 内：二枚貝条痕＋ナデ	
175	3	107-1	D2	13 層	深鉢	九州系深浦	—	石英、金雲母含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：にぶい橙色 7.5YR6/4	外：刺突、二枚貝刺突 二枚貝条痕 内：二枚貝条痕	
175	4	107-2	D2	13 層	深鉢	九州系深浦？	—	石英、金雲母含む	外：にぶい褐色 7.5YR5/4 内：にぶい橙色 7.5YR6/4	外：二枚貝条痕 内：二枚貝条痕	
175	5	106-2	F4	12 層	浅鉢	暮地	—	石英含む	外：にぶい褐色 7.5YR6/3 内：にぶい褐色 7.5YR6/3	外：磨消縄文 RL、ミガキ 内：ミガキ	左端に小渦巻文
175	6	106-2	C2-3 D2-3	12 層	深鉢	暮地	—	石英、ハイカ？角閃石、金雲母含む	外：黒褐色 7.5YR3/2 内：明赤褐色 5YR5/6	外：磨消縄文 RL、沈線文 ミガキ 内：ミガキ	
175	7	106-2	E4	13 層	深鉢	暮地	—	石英、雲母含む	外：橙色 2.5YR6/6 内：にぶい橙色 7.5YR6/4	外：磨消縄文 RL、ナデ 内：ナデ	
175	8	107-1	D2	12 層	浅鉢	暮地	口径（34.2）	微砂粒含むが鉱物特定できない	外：褐灰色 10YR4/1 内：褐灰色 10YR4/1	外：磨消縄文 RL、ミガキ 内：ミガキ	外面に赤色顔料（分析）
175	9	107-1	D2	12 層	鉢	暮地	—	石英含む	外：灰褐色 7.5YR5/2 内：褐灰色 7.5YR4/1	外：磨消縄文 RL、ミガキ 内：ミガキ	
175	10	107-1	E4	13 層	深鉢	暮地	—	石英、ハイカ含む	外：褐灰色 10YR5/1 内：褐灰色 10YR5/1	外：磨消縄文 RL、ナデ 内：ナデ	

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	器種	分類	法量 () 内復元値 (cm)	胎土	色調	文様·調整その他	備考
175	11	107-1	E4	12 層	鉢 or 壺	暮地	—	石英、ハイカ含む	外：黄灰色 2.5Y4/1 内：黄灰色 2.5Y4/1	外：磨消縄文 RL、ミガキ 内：ミガキ	
175	12	107-1	C2·D2 E2	11 層	浅鉢 or 壺	暮地	—	石英、ハイカ 金雲母含む	外：灰白色 10YR8/2 内：灰黄褐色 10YR5/2	外：磨消縄文 RL、沈線内刺突 ミガキ 内：巻貝条痕＋ミガキ	縄文帯部浮線状
175	13	107-1	E2	12 層	鉢 or 壺	暮地	—	微砂粒含むが 鉱物特定できない	外：にぶい黄橙色 10YR7/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：隆帯、ミガキ 内：ミガキ	縄文帯部浮線状
175	14	107-1	E4	13 層	壺	暮地	—	石英、金雲母 含む	外：にぶい黄褐色 10YR5/3 内：褐灰色 10YR5/1	外：磨消縄文 RL、ミガキ 内：ナデ	左端に隆帯区画文
175	15	107-2	D2	13 層	浅鉢	暮地	—	石英多く 含む	外：橙色 5YR6/6 内：橙色 5YR6/6	外：磨消縄文 RL, ミガキ 内：ミガキ	
175	16	107-2	E4	13 層	鉢	暮地	—	石英、金雲母 含む	外：にぶい褐色 7.5YR6/3 内：にぶい褐色 7.5YR6/3	外：磨消縄文 RL, ミガキ 内：ミガキ	
175	17	107-2	C3	12 層	深鉢	暮地	口径（32.0）	石英、角閃石 含む	外：黄褐色 2.5Y5/3 内：黄灰色 2.5Y4/1	外：磨消縄文 RL, ミガキ 内：ミガキ	外面に赤色顔料 (分析)
175	18	107-1	E5	12 層	深鉢	崎ヶ鼻 1	—	石英、ハイカ 角閃石、金雲母含む	外：にぶい橙色 2.5YR7/4 内：にぶい橙色 2.5YR7/4	外：凹点文、縄文 RL, 巻貝条痕 内：ナデ	
175	19	107-2	D1	最下層 （砂）	深鉢	暮地	—	石英、角閃石 雲母含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：沈線間に刺突、ミガキ 内：ミガキ	斜行する突起
176	1	108-1	E3	12 層	深鉢	暮地	口突除く （11.8 × 2）	石英、ハイカ 角閃石、金雲母含む	外：橙色 2.5YR6/8 内：橙色 5YR7/6	外：沈線文＋刺突、磨消縄文 RL ナデ 内：ナデ	円盤状突起
176	2	108-1	E4	13 層	深鉢	布勢	—	石英、金雲母 含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：沈線文＋刻目 巻貝条痕＋ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	
176	3	108-1	E4	13 層	浅鉢	布勢	—	石英、ハイカ 雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：凹線文、ミガキ 内：ミガキ	耳状突起
176	4	108-1	E4	13 層	深鉢	布勢	—	石英、ハイカ 角閃石、金雲母含む	外：灰黄褐色 10YR5/2 内：灰黄褐色 10YR5/2	外：凹線文、刻目、ナデ 内：ナデ	突起
176	5	108-1	C2 D2	12 層	壺	布勢	—	石英、ハイカ 角閃石含む	外：灰褐色 7.5YR5/2 内：灰褐色 7.5YR5/2	外：沈線文、ミガキ 内：ミガキ	
176	6	108-1	E4	13 層	深鉢	布勢？	—	石英、ハイカ 角閃石、金雲母含む	外：灰黄褐色 10YR6/2 内：灰黄褐色 10YR6/2	外：弧状隆帯＋刺突·沈線、ナデ 内：ナデ	隆帯太い
176	7	108-1	E2	14 層	深鉢	布勢	—	石英、ハイカ 金雲母含む	外：灰黄褐色 10YR6/2 内：灰黄褐色 10YR6/2	外：突起に円孔、ミガキ 内：ミガキ	円盤状突起
176	8	108-1	C3	12 層	浅鉢	布勢	—	石英含む	外：灰色 N4/ 内：灰色 N4/	外：沈線文、ミガキ 内：ミガキ	
176	9	108-1	D3	12 層	浅鉢	布勢	—	石英、ハイカ 角閃石、金雲母含む	外：灰黄褐色 10YR6/2 内：黒色 7.5YR2/1	外：沈線文、ミガキ 内：ミガキ	
176	10	108-1	E4	13 層	深鉢	布勢	—	石英、ハイカ 角閃石含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：灰黄褐色 10YR6/2	外：沈線文、ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	
176	11	108-1	D1-2	12 層 最下層 （砂層）	浅鉢	布勢	—	石英、ハイカ 金雲母含む	外：黒褐色 10YR3/1 内：黒褐色 10YR3/1	外：沈線文、沈線内刺突 ミガキ 内：ミガキ	
176	12	108-1	D2	12 層	浅鉢	布勢	—	石英、角閃石 雲母含む	外：灰色 N4/ 内：灰色 N4/	外：沈線文、ミガキ 内：ミガキ	
176	13	108-1	D1	最下層 （砂層）	浅鉢	布勢	—	石英、ハイカ？ 雲母含む	外：灰黄褐色 10YR5/2 内：灰黄褐色 10YR5/2	外：沈線文、ミガキ 内：ミガキ	
176	14	108-1	E4	13 層	壺	暮地·布勢	口径（16.2）	石英、ハイカ？ 角閃石、雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：段、ミガキ 内：ミガキ	
176	15	108-1	D3	12 層	鉢	浅鉢Ⅲ類	—	石英含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/3 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：縄文 RL, ミガキ 内：ミガキ	肩部稜
176	16	108-1	E4	13 層	浅鉢	浅鉢Ⅲ類	—	石英、ハイカ 雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/3 内：にぶい黄橙色 10YR6/4	外：沈線文＋刻目、ミガキ 内：ミガキ	焼成前穿孔
176	17	108-1	E2	12 層	浅鉢？	浅鉢Ⅲ類	—	石英、ハイカ？ 含む	外：褐灰色 10YR4/1 内：褐灰色 10YR4/1	外：沈線文、ミガキ 内：ミガキ	平底
176	18	108-2	E4	13 層	浅鉢	浅鉢Ⅲ類	—	石英、ハイカ 角閃石、金雲母含む	外：灰黄褐色 10YR5/2 内：灰黄褐色 10YR5/2	外：ミガキ 内：段、ミガキ	
177	1	108-2	E4	11-2 層 13 層	浅鉢	浅鉢Ⅲ類	—	石英、ハイカ 角閃石含む	外：褐灰色 5YR4/1 内：褐灰色 5YR4/1	外：刻目、ミガキ 内：ミガキ	
177	2	108-2	E4	13 層	浅鉢	浅鉢Ⅲ類	—	石英、ハイカ 角閃石、雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/3 内：黄灰色 2.5Y6/1	外：刻目、ミガキ 内：ミガキ	
177	3	108-2	E4	13 層	浅鉢	浅鉢Ⅲ類	—	石英、ハイカ 角閃石、金雲母含む	外：灰褐色 7.5YR4/2 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：刻目、ミガキ 内：ミガキ	
177	4	108-2	E3	11 層	浅鉢	浅鉢Ⅲ類	—	石英ハイカ 角閃石含む	外：黒色 5Y2/1 内：黒色 5Y2/1	外：ミガキ 内：ミガキ	
177	5	108-2	E4	13 層	浅鉢	浅鉢Ⅲ類	—	石英、ハイカ 金雲母含む	外：灰褐色 7.5YR5/2 内：灰褐色 7.5YR5/2	外：ナデ·ミガキ 内：ミガキ	
177	6	108-2	D3	12 層	浅鉢	浅鉢Ⅳ類	—	石英、ハイカ 金雲母含む	外：灰黄褐色 10YR6/2 内：灰黄褐色 10YR6/2	外：ミガキ 内：ミガキ	口縁内側に玉縁状
177	7	108-2	E4	13 層	深鉢 （把手）	暮地·布勢	—	石英、角閃石 含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/2 内：灰黄褐色 10YR6/2	外：ミガキ 内：ミガキ	上端は口縁部か？
177	8	109-1	G6	12-2 層	深鉢	無文Ⅱ類	口径（30.8）	石英、角閃石 含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/3 内：にぶい褐色 7.5YR5/4	外：巻貝条痕 内：匙面条痕＋ナデ	
177	9	109-1	E4	13 層	深鉢	無文Ⅱ類	口径 27.2	石英、ハイカ 角閃石含む	外：にぶい黄褐色 10YR5/3 内：にぶい黄褐色 10YR5/3	外：指押圧痕、ナデ 内：ナデ	
177	10	109-2	E4	12 層	深鉢	無文Ⅱ類	口径（18.6）	石英、角閃石 金雲母含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：巻貝条痕＋ナデ 内：匙面条痕＋ナデ	
177	11	108-2	D3	12 層	深鉢	底部Ⅲ類	底径 11.3	石英、ハイカ 金雲母含む	外：灰黄褐色 10YR6/2 内：灰黄褐色 10YR6/2	外：匙面条痕＋ナデ 内：巻貝条痕＋ナデ	底面圧痕多い 補修孔
177	12	109-1	C3	12 層	深鉢	無文Ⅰ類	口径（32.6）	石英、ハイカ 雲母含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/4 内：浅黄橙色 7.5YR8/3	外：匙面条痕＋ナデ 内：匙面条痕＋ナデ	内面指押圧痕

12 層　石器·石製品

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	法量 () 内遺存 / 復元値 (cm)	重量 (g)	材質	備考
178	1	110-1	E3	12 層	石器	石鏃	長さ 2.2、幅 1.2、厚さ 0.3	0.59	サヌカイト	
178	2	110-1	C3	12 層	石器	石鏃	長さ（1.9）幅（1.2）厚さ 0.35	0.58	サヌカイト	
178	3	110-1	C2	12 層	石器	石鏃	長さ 2.4、幅 1.4、厚さ 0.25	0.57	サヌカイト	
178	4	110-1	D5	12 層	石器	石鏃	長さ 2.4、幅 1.3、厚さ 0.35	0.84	サヌカイト	一部に礫面
178	5	110-1	E3	12 層	石器	石鏃	長さ 2.4、幅（1.7）厚さ 0.45	1.18	サヌカイト	
178	6	110-1	C2	12 層	石器	石鏃	長さ 2.55、幅 1.25、厚さ 0.3	0.63	サヌカイト	
178	7	110-1	D3	12 層	石器	石鏃	長さ 1.5、幅 1.2、厚さ 0.3	0.45	サヌカイト	裏面中央に礫面
178	8	110-1	E3	12 層	石器	石鏃	長さ 1.25、幅 0.9、厚さ 0.25	0.22	サヌカイト	

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	法量 () 内遺存 / 復元値 (cm)	重量 (g)	材質	備考
178	9	110-1	D3	12 層	石器	石鏃	長さ（2.3）幅 1.25、厚さ 0.4	0.97	サヌカイト	未成品
178	10	110-1	D2	12 層	石器	石鏃	長さ 1.9、幅 2.4、厚さ 0.3	0.83	サヌカイト	未成品
178	11	110-1	D2	12 層	石器	石鏃	長さ 1.9、幅 1.7、厚さ 0.4	1.11	サヌカイト	未成品
178	12	110-1	E3	12 層	石器	石鏃	長さ 1.6、幅 1.3、厚さ 0.2	0.42	サヌカイト	未成品
178	13	110-1	D3	12 層	石器	楔形石器	長さ 3.8、幅 2.0、厚さ 1.05	11.41	サヌカイト	両端につぶれ
178	14	110-1	C2-D2	12 層	石器	楔形石器	長さ 1.7、幅 1.9、厚さ 0.7	2.89	サヌカイト	下端につぶれ
178	15	110-1	E3	12 層	石器	石匙	長さ 3.2、幅 5.2、厚さ 0.85	11.40	サヌカイト	縁辺に調整剥離
178	16	110-1	E3	12 層	石器	石匙	長さ 3.8、幅（3.8）厚さ 0.9	10.62	サヌカイト	縁辺に調整剥離
178	17	110-1	D2	12 層	石器	石匙	長さ 4.1、幅 5.2、厚さ 0.6	12.74	サヌカイト	縁辺に調整剥離
179	1	110-2	C2-D2	12 層	石器	石匙	長さ 7.5、幅（7.9）厚さ 1.0	61.98	サヌカイト？	縁辺に調整剥離
179	2	110-2	D3	12 層	石器	刃器	長さ 2.3、幅 6.1、厚さ 0.65	9.28	サヌカイト？	石匙の可能性あり
179	3	110-2	C3	12 層	石器	刃器	長さ 3.9、幅 7.45、厚さ 1.1	28.65	サヌカイト？	縁辺に調整剥離
179	4	110-2	D3	12 層	石器	刃器	長さ 10.6、幅 4.3、厚さ 1.05	44.50	サヌカイト？	側縁に礫面
179	5	110-1	E3	12 層	石器	二次加工剥片	長さ 4.65、幅 1.9、厚さ 0.7	7.15	サヌカイト	側面に剥離
179	6	110-1	E3	12 層	石器	二次加工剥片	長さ 2.5、幅 2.9、厚さ 0.9	5.51	サヌカイト	縁辺に剥離
179	7	110-1	E3	12 層	石器	二次加工剥片	長さ（2.6）幅（3.2）厚さ 1.2	8.11	サヌカイト	上端に小さな剥離
179	8	110-2	E3	12 層	石器	二次加工剥片	長さ 1.8、幅 1.9、厚さ 0.25	0.83	黒曜石	左面右下欠損？
179	9	110-2	D3	12 層	石器	二次加工剥片	長さ 2.4、幅 5.9、厚さ 0.85	12.88	サヌカイト	上下端に剥離
179	10	110-2	D3	12 層	石器	二次加工剥片	長さ 2.05、幅 2.8、厚さ 0.55	2.19	黒曜石	上面に小さな剥離
179	11	110-2	E3	12 層	石器	刺突具	長さ（1.9）幅（1.8）厚さ（0.9）	2.31	黒曜石	丁寧な調整剥離
180	1	110-2	D4-D5	12 層	石器	使用痕剥片	長さ（2.0）幅 1.8、厚さ 0.7	1.60	サヌカイト	側辺に微細剥離
180	2	110-2	E3	12 層	石器	使用痕剥片	長さ 3.9、幅 1.85、厚さ 0.6	3.64	サヌカイト	側辺に微細剥離
180	3	110-2	D2	12 層	石器	素材剥片？	長さ 3.8、幅 2.3、厚さ 0.85	6.38	黒曜石	左面雑な剥離
180	4	110-2	D3	12 層	石器	使用痕剥片	長さ 3.1、幅 2.5、厚さ 0.35	1.46	黒曜石	一側縁に微細剥離
180	5	110-2	D4	12 層	石器	残核	長さ 2.5、幅 5.9、厚さ 2.6	32.64	黒曜石	上面礫面
180	6	110-2	E3	12 層	石器	磨製石斧	長さ（6.2）幅 5.9、厚さ 2.6	129.54	塩基性片岩	II 類 刃部研磨、他は敲打
180	7	110-2	E2	12 層	石器	磨製石斧	長さ（3.7）幅（5.2）厚さ（2.6）	60.46	塩基性片岩	I 類 全面研磨
180	8	110-2	E4	12 層	石器	磨製石斧	長さ（4.6）幅（2.2）厚さ（1.4）	11.75	塩基性片岩	丁寧な研磨
180	9	111-1	D2	13 層	石器	磨製石斧	長さ（7.8）幅 3.1、厚さ 2.7	89.61	塩基性片岩	未成品（敲打段階）III 類 全面敲打、研磨直前
180	10	111-1	C2	12 層	石器	磨製石斧	長さ 13.25、4.45 幅、厚さ 3.65	310.0	塩基性片岩	製品 or 未成品（研磨段階）I a1 類 全面敲打、一部研磨
181	1	111-1	E2	12 層	石器	磨製石斧	長さ 9.8、幅 5.6、厚さ 1.2	83.99	安山岩？	製品 II 類 刃部研磨
181	2	111-1	D2	12 層	石器	磨製石斧	長さ 10.7、幅 4.9、厚さ 3.3	265.47	塩基性片岩	未成品（敲打段階）I b 類 一部剥離面
181	3	111-1	D3	12 層 上層	石器	磨製石斧	長さ（13.1）幅 5.9、厚さ 3.9	338.36	塩基性片岩	未成品（敲打段階）I a 類 全面敲打、研磨直前
181	4	111-1	D2	12 層	石器	磨製石斧	長さ 12.4、幅 4.7、厚さ 3.7	292.74	塩基性片岩	未成品（敲打段階）I a 類 一部礫面
181	5	111-1	C3	12 層	石器	磨製石斧	長さ（15.0）幅 6.0、厚さ 3.0	428.27	塩基性片岩	未成品（敲打段階）I a 類 右大きな剥離
181	6	111-1	E4	12 層	石器	磨製石斧	長さ（8.3）幅 4.6、厚さ 2.9	176.64	塩基性片岩	未成品（敲打段階）I b2 類 全面敲打、一部剥離
181	7	111-2	D3	12 層	石器	磨製石斧	長さ（8.8）幅 4.7、厚さ 2.6	157.86	塩基性片岩	未成品（敲打段階）I b2 類 全面敲打、一部剥離
181	8	111-2	D3	12 層	石器	磨製石斧	長さ 11.3、幅 3.9、厚さ 2.6	171.46	塩基性片岩	未成品（敲打段階）I a 類 刃部再生
181	9	111-1	D2	12 層	石器	磨製石斧	長さ（8.1）幅（4.2）厚さ 1.1	45.18	塩基性片岩？	未成品（敲打段階）II 類 縁辺調整剥離
181	10	111-2	D2	13 層	石器	磨製石斧	長さ 10.7、幅 5.9、厚さ 2.2	184.92	塩基性片岩	未成品（研磨段階）II 類 刃部研磨
181	11	111-2	E2	12 層	石器	磨製石斧	長さ 16.1、幅 6.3、厚さ 2.1	284.0	塩基性片岩	未成品（剥離段階）II 類 縁辺調整剥離？
181	12	111-2	D2	13 層	石器	磨製石斧	長さ（11.3）幅 7.2、厚さ 2.6	299.54	塩基性片岩	未成品（剥離段階）II 類 縁辺調整剥離
181	13	111-2	E2	12 層	石器	磨製石斧	長さ 17.1、幅 5.8、厚さ 3.3	540.6	塩基性片岩	未成品（剥離段階）I a1 類 縁辺剥離、側縁礫面
181	14	112-1	C2-D2	12 層	石器	磨製石斧	長さ 18.9、幅 7.6、厚さ 2.2	458.77	塩基性片岩	磨製石斧素材？　II 類
181	15	112-1	C3	12 層	石器	磨製石斧原石？	長さ 14.0、幅 2.9、厚さ 1.7	107.08	塩基性片岩	磨製石斧素材？ III 類製作可能な自然礫
181	16	112-1	C4-C5 D4-D5	12 層	石器	敲石	長さ 10.6、幅 6.0、厚さ 5.6	333.59	三瓶軽石	上下端打痕、表面研磨？
182	1	112-1	E3	12 層	石器	磨石・敲石	長さ 12.7、幅 10.2、厚さ 6.0	1218.41	花崗岩	中央打痕、表面擦り痕
182	2	112-1	E3	12 層	石器	磨石・敲石	長さ 10.9、幅 8.9、厚さ 5.0	799.15	花崗岩	中央打痕、側面平坦
182	3	112-2	E3	12 層	石器	磨石・敲石	長さ 13.1、幅 9.6、厚さ 6.4	1273.71	砂岩？	各面平坦、下端打痕
182	4	112-1	E4	12 層	石器	磨石・敲石	長さ（9.6）幅 10.3、厚さ 5.4	761.46	花崗岩	側面粗い敲打？
182	5	112-2	E3	12 層	石器	軽石加工品	長さ 13.8、幅 10.3、厚さ 4.3	348.0	三瓶軽石	両面平坦面
182	6	112-2	E3	12 層	石器	軽石加工品	長さ 13.3、幅 10.5、厚さ 5.6	468.0	三瓶軽石	表面平坦、凹み複数
182	7	112-2	D3	13 層	石器	磨石・敲石	長さ 10.2、幅 9.0、厚さ 5.5	826.98	川原石	表面平坦、凹み
182	8	112-2	E3	12 層	石器	石錘	長さ 10.35、幅 4.4、厚さ 2.3	145.90	川原石	打欠部摩滅
182	9	112-2	C3	12 層	石器	石錘	長さ 7.6、幅 6.0、厚さ 2.1	121.39	川原石	打欠部摩滅

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	法量 () 内遺存 / 復元値 (cm)	重量 (g)	材質	備考
182	10	112-2	D3	12 層	石器	石錘	長さ 7.8、幅 6.1、厚さ 1.3	103.34	川原石	
182	11	112-2	D2	12 層	石器	石錘	長さ 8.6、幅 5.3、厚さ 1.3	124.50	川原石	打欠部摩滅
183	1	112-2	D3	12 層	石器	石錘	長さ 9.4、幅 5.0、厚さ 2.5	187.94	川原石（塩基性片岩）	
183	2	112-2	D3	12 層	石器	石錘	長さ 7.0、幅 6.6、厚さ 2.25	155.0	川原石	打欠部摩滅
183	3	113-1	E3	12 層	石器	石錘	長さ 6.2、幅 3.8、厚さ 1.2	54.36	川原石	打欠部摩滅
183	4	113-1	D3	12 層	石器	石錘	長さ 6.7、幅 4.8、厚さ 1.2	71.67	川原石	打欠部摩滅
183	5	113-1	C3	12 層	石器	石錘	長さ 5.7、幅 4.75、厚さ 1.4	55.25	川原石	打欠部摩滅
183	6	113-1	E3	12 層	石器	石錘	長さ 6.7、幅 2.8、厚さ 1.5	43.51	川原石	打欠部摩滅
183	7	113-1	D3	12 層	石器	石錘	長さ 5.8、幅 3.3、厚さ 1.3	36.4	川原石	打欠部摩滅
183	8	113-1	E3	12 層	石器	石錘	長さ 5.7、幅 3.6、厚さ 1.7	55.14	川原石	打欠部摩滅
183	9	113-1	D 3	12 層	石器	石錘	長さ 5.4、幅 2.9、厚さ 1.4	31.84	川原石	打欠部摩滅
183	10	113-1	E3	12 層	石器	石錘	長さ 6.4、幅 3.3、厚さ 1.5	55.91	川原石	打欠部摩滅
183	11	113-1	E3	12 層	石器	石錘	長さ 5.0、幅 4.6、厚さ 1.3	48.75	川原石	打欠部摩滅
183	12	113-1	D2 北 T	13 層上面	石器	石錘	長さ 5.2、幅 2.8、厚さ 1.2	28.32	川原石	打欠部摩滅
183	13	113-1	C2-C3 D2-D3	12 層上面	石器	石錘	長さ 4.1、幅 3.4、厚さ 1.0	21.06	川原石（塩基性片岩）	打欠部摩滅
183	14	113-1	E3	12 層	石器	石錘	長さ 4.3、幅 3.9、厚さ 1.4	35.0	川原石	打欠部摩滅
183	15	113-1	D3	12 層	石器	石錘	長さ 4.9、幅 2.6、厚さ 0.9	19.07	川原石	打欠部摩滅
183	16	113-1	D2 北 T	12 層	石器	石錘	長さ 4.7、幅 2.9、厚さ 1.6	34.02	川原石	打欠部摩滅
183	17	113-1	E3	12 層	石器	石錘	長さ 3.85、幅 3.05、厚さ 0.8	13.0	川原石	打欠部摩滅
183	18	113-1	E3	12 層	石器	石錘	長さ 4.6、幅 3.8、厚さ 1.4	34.23	川原石	打欠部摩滅
183	19	113-1	E3	12 層	石器	石錘	長さ 5.4、幅 4.3、厚さ 1.1	43.00	川原石	打欠部摩滅
183	20	113-1	E3	12 層	石器	石錘	長さ 4.0、幅 2.8、厚さ 1.3	21.97	川原石	打欠部摩滅
183	21	113-1	F4	12 層	石器	石錘	長さ 4.0、幅 3.2、厚さ 1.5	30.24	川原石	打欠部摩滅
183	22	113-1	E3	12 層	石器	石錘	長さ 3.9、幅 4.2、厚さ 1.2	21.87	川原石	打欠部摩滅
183	23	113-1	D2 北 T	12 層	石器	石錘	長さ 4.1、幅 3.6、厚さ 0.9	22.0	川原石	打欠部摩滅
183	24	113-1	E4	12 層	石器	石錘	長さ 4.8、幅 4.2、厚さ 1.0	33.70	川原石	打欠部摩滅
183	25	113-2	D2	12 層	石器	軽石加工品	長さ 11.1、幅 10.4、厚さ 4.5	401.0	三瓶軽石	各面平坦に研磨
183	26	113-2	E3	12 層	石器	軽石加工品	長さ 8.8、幅 7.7、厚さ 5.4	200.0	三瓶軽石	全面研磨？
183	27	113-2	E3	12 層	石器	軽石加工品	長さ 9.3、幅 6.0、厚さ 2.2	73.0	三瓶軽石	整った楕円形
183	28	113-2	E3	12 層	石器	軽石加工品	長さ 11.5、幅 10.5、厚さ 4.5	567.0	三瓶軽石	平坦に研磨
183	29	109-2	E3	12 層	石器	石皿	長さ 13.9、幅 6.5、厚さ 8.9	1085.0	砂岩	両面使用、大きく凹む
184	1	113-2	E3	12 層	石器	軽石加工品	長さ 17.3、幅 12.4、厚さ 11.5	1461.0	三瓶軽石	一面平滑に研磨
184	2	113-2	E3	12 層	石器	軽石加工品	長さ 14.9、幅 10.7、厚さ 7.5	852.0	三瓶軽石	両面平滑に研磨
184	3	114-1	D2 北 T	12 層	石器	軽石加工品	長さ 12.2、幅 8.0、厚さ 3.7	195.0	三瓶軽石	一面平滑に研磨
184	4	114-1	E3	12 層	石器	軽石加工品	長さ 11.3、幅 9.9、厚さ 4.3	363.0	三瓶軽石	両面平滑に研磨
184	5	113-2	E3	12 層	石器	軽石加工品	長さ 12.4、幅 10.2、厚さ 3.5	240.0	三瓶軽石	一面研磨
184	6	114-1	E3	12 層	石器	軽石加工品	長さ 17.5、幅 11.0、厚さ 6.6	740.0	三瓶軽石	中央凹み、下面研磨
184	7	114-1	E2	12 層	石器	軽石加工品	長さ 9.6、幅 6.8、厚さ 4.2	160.0	三瓶軽石	両面中央に凹み
184	8	114-1	E3	12 層	石器	軽石加工品	長さ 13.0、幅 9.7、厚さ 4.5	325.0	三瓶軽石	左面凹面に研磨、右面溝状の凹み
185	1	114-2	E3	12 層	装飾品	玦状耳飾	長さ 7.0、幅 2.1、厚さ 0.5	13.50	頁岩？	上端は補修孔？
185	2	114-2	C2	12 層	装飾品ほか	不明	長さ（5.7）幅 1.6、厚さ 0.9	12.94		全面研磨
185	3	114-2	E3	12 層	装飾品ほか	環状土製品	長さ（2.2）径 0.7		土製品	ナデ
185	4	114-2	D2	12 層	石器	板状砥石	長さ 9.3、幅、2.8、厚さ 0.7	29.64	砂岩	上層からの混入か

第37表　11層出土の磨製石斧関連資料集計表

分類		Ⅰa1	Ⅰa	Ⅰb1	Ⅰb	Ⅰ1	Ⅰ2	Ⅱ	Ⅲ	破片	合計
原石	点数									5	5
	重量(kg)									4.49	4.49
素材	点数						23	28	3		54
	重量(kg)						21.62	8.95	0.24		30.81
剥離	点数	2	5	6	4	4	3	14	5	4	47
	重量(kg)	1.10	1.42	5.45	1.09	1.77	0.40	3.26	0.40	0.56	15.44
敲打	点数	28	11	1	28	16	7	10	21	7	129
	重量(kg)	14.41	2.53	0.91	9.71	4.32	1.99	3.13	2.29	1.11	40.41
研磨	点数	3		1		5		2	3		14
	重量(kg)	0.70		0.20		0.49		0.21	0.24		1.85
剥片	点数									905	905
	重量(kg)									16.00	16.00

第38表　12層出土の磨製石斧関連資料集計表

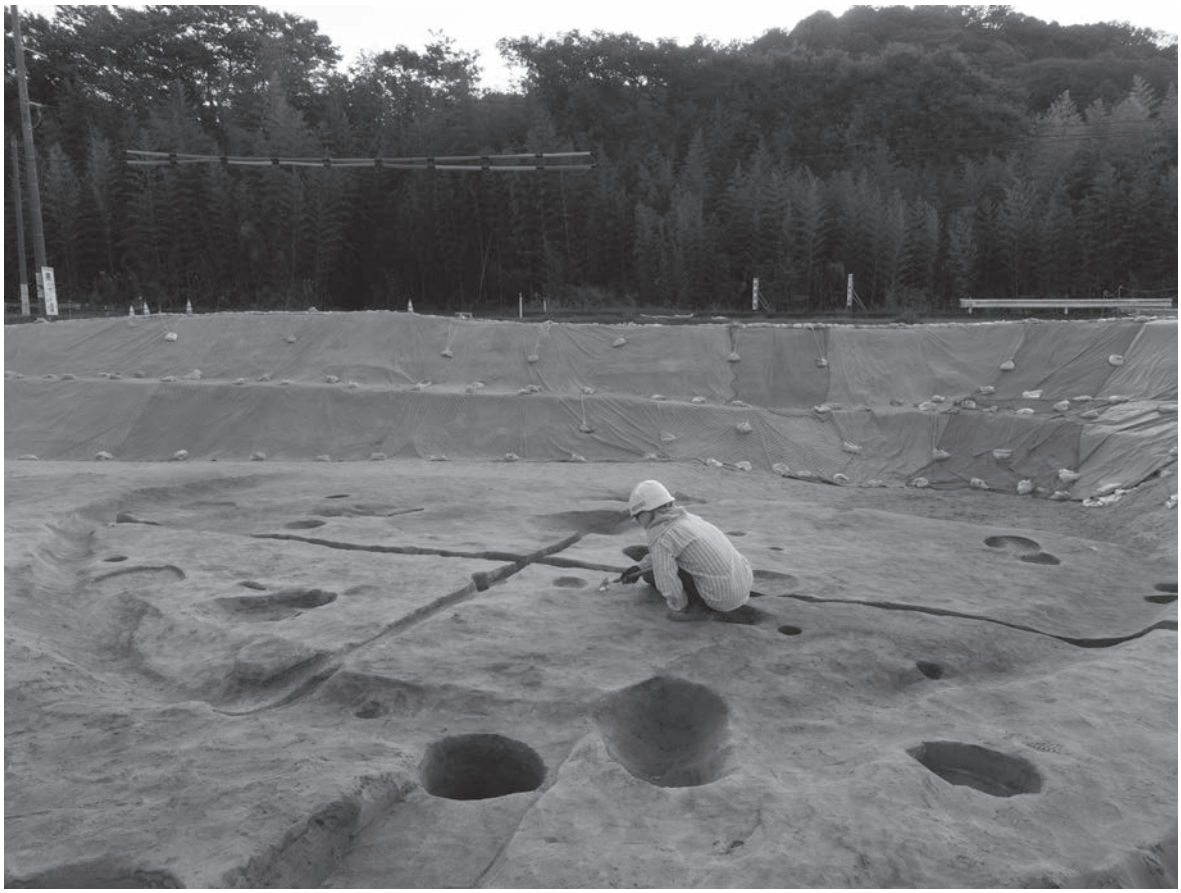
分類		Ⅰa1	Ⅰa	Ⅰb1	Ⅰb	Ⅰ1	Ⅰ2	Ⅱ	Ⅲ	破片	合計
原石	点数									2	2
	重量(kg)									0.14	0.14
素材	点数			4			3	1			8
	重量(kg)			0.78			0.67	0.46			1.90
剥離	点数	6	3	1			3	4			17
	重量(kg)	2.08	0.46	0.63			0.74	0.66			4.58
敲打	点数	1	5	2	1	3	3	4	1		20
	重量(kg)	0.25	0.83	0.33	0.27	0.69	0.34	0.35	0.09		3.15
研磨	点数					2		5		1	8
	重量(kg)					0.49		0.59		11.75	12.83
剥片	点数									1266	2532
	重量(kg)									18.56	37.13

写真図版

1　令和２年度調査２区遠景（南東から）

2　令和２年度調査２区完掘状況（南東から）

６層、８・９層上面の遺構

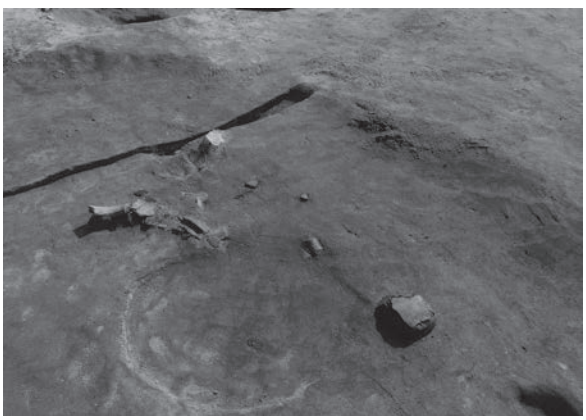


1　遺構 2217 竪穴建物完掘状況（南から）

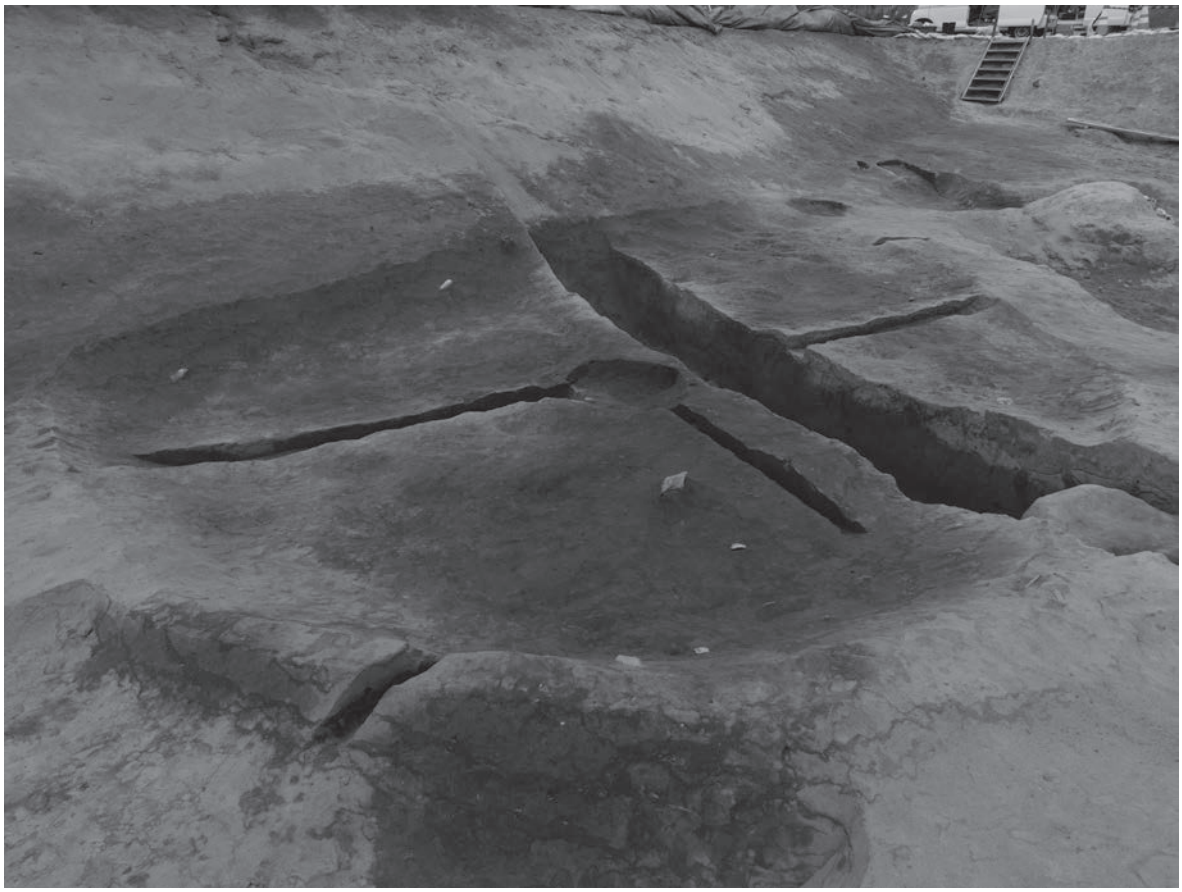
2　遺構 2203 中央土坑調査状況（東から）

3　遺構 2264 特殊土坑半截状況 (東から)

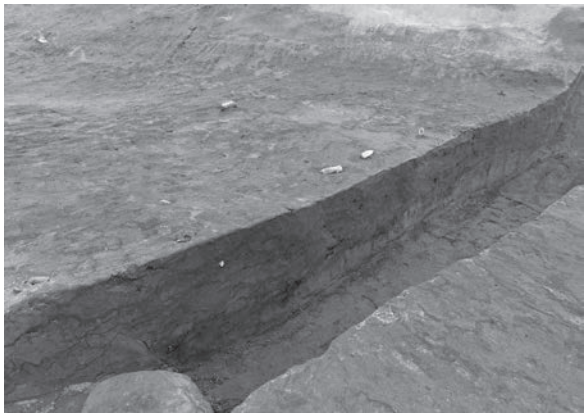
4　遺構 2264 特殊土坑と台石 (西から)



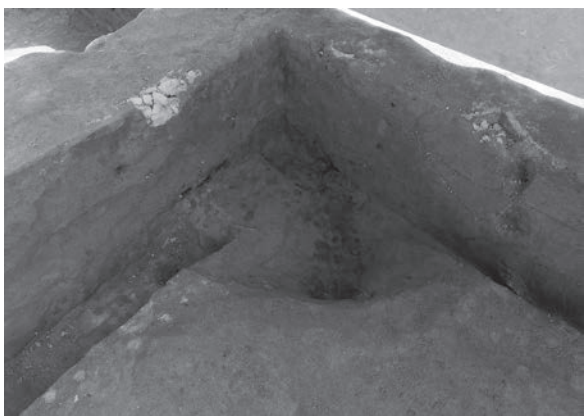
5　遺構 2217 竪穴建物土器出土状況 (西から)



1　遺構 2165 竪穴建物調査状況 (北西から)



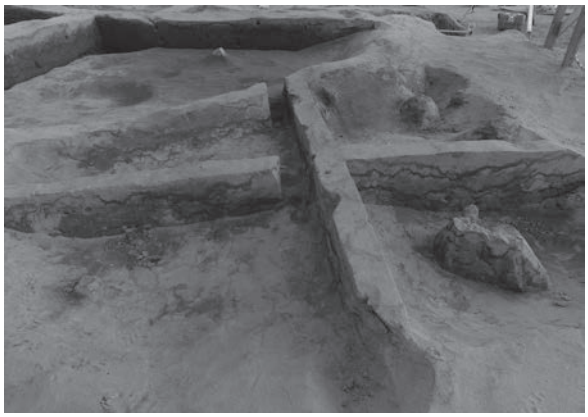
2　遺構 2165 竪穴建物土層堆積状況 (南から)



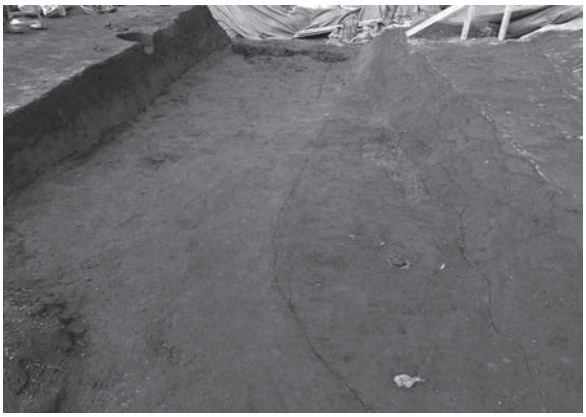
3　遺構 2200 中央土坑調査状況 (北西から)

4　遺構 2258 排水溝完掘状況 (南から)

6層、8・9層上面の遺構



1　遺構 2166 土坑土層堆積状況 (北から)



2　遺構 2199 竪穴建物検出状況 (南から)

3　遺構 2199 竪穴建物土器出土状況 (南から)

4　遺構 2199 竪穴建物調査状況 (北東から)

5　遺構 2199 竪穴建物完掘状況 (西から)

1　遺構 1276 竪穴建物床面調査状況 (西から)

2　遺構 1276 竪穴建物柱穴調査状況 (北から)

3　遺構 1276 竪穴建物床面遺物出土状況 (東から)

4　遺構 1276 竪穴建物遺物出土状況① (東から)

5　遺構 1276 竪穴建物遺物出土状況② (西から)

6層、8・9層上面の遺構

1　遺構 1277 竪穴建物？完掘状況 (東から)

2　遺構 1277 竪穴建物？粘土検出状況 (南から)

3　遺構 1277 竪穴建物？粘土調査状況 (西から)

4　遺構 1277 竪穴建物？合わせ口土器出土状況 (西から)

1　土器溜 4 検出状況 (北から)

2　土器溜 1 検出状況① (南から)

3　土器溜 1 検出状況② (南から)

4　遺構 1276・1277 竪穴建物調査状況 (北東から)

6 層、8・9 層上面の遺構

1　遺構 1454 竪穴建物調査状況 (北から)

2　遺構 1454 竪穴建物遺物出土状況 (西から)

3　遺構 1454 竪穴建物炭溜検出状況 (南から)

4　土器溜 3 検出状況 (西から)

1　土器溜 2 検出状況①（東から）

2　土器溜 2 検出状況②（北から）

3　土器溜 2 検出状況③（北から）

4　土器溜 2 検出状況④（北から）

5　遺構 1247 半截状況（北西から）

6　遺構 2164 土層堆積状況（北から）

7　遺構 2210 土層堆積状況（南西から）

8　遺構 2240 土層堆積状況（南東から）

６層、８・９層上面の遺構

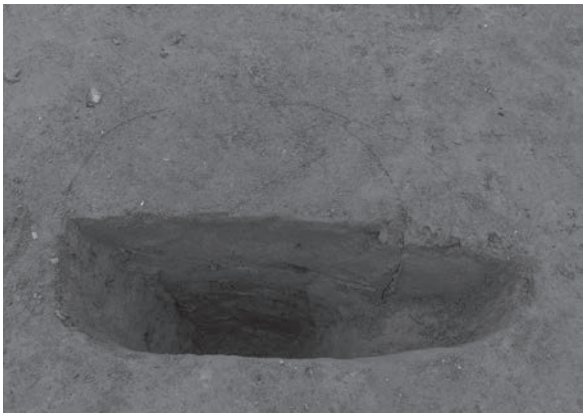
1　遺構 2269 遺物出土状況 (南西から)

2　遺構 2209 完掘状況 (西から)

3　遺構 2277 半截状況 (西から)

4　遺構 2195 半截状況 (南東から)

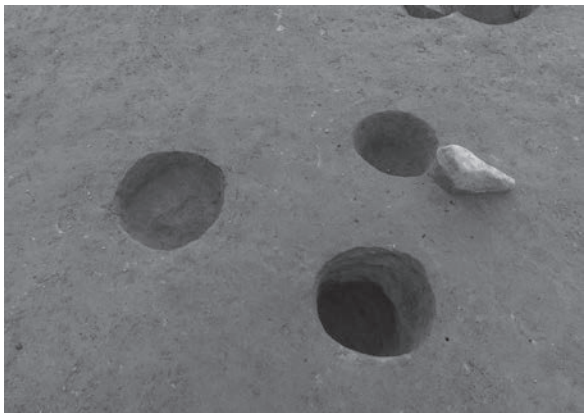
5　遺構 2218 半截状況 (東から)



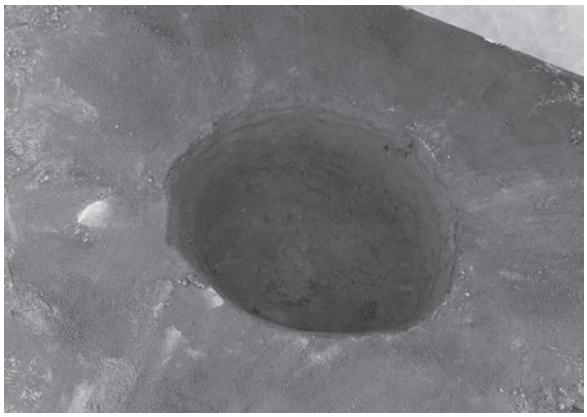
6　遺構 2303 半截状況 (東から)

7　遺構 2239 土坑半截状況 (東から)

8　遺構 2314 完掘状況 (東から)

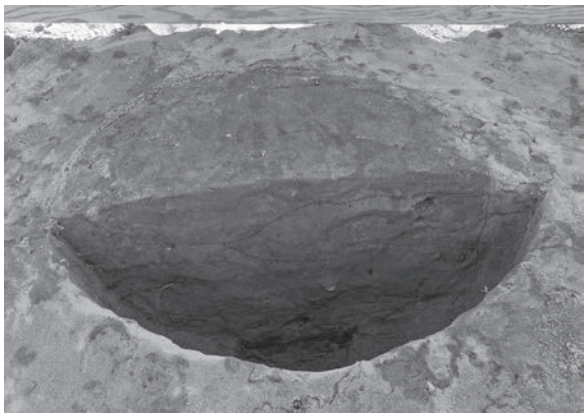


1　遺構 2332 ～ 2335 完掘状況 (南から)

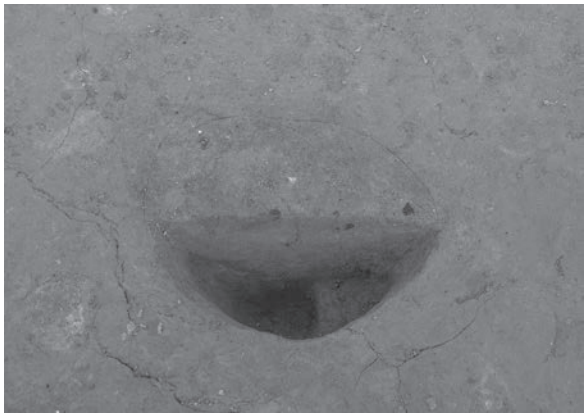


2　遺構 2196 完掘状況 (北から)

3　遺構 2353・2354 半截状況 (北から)



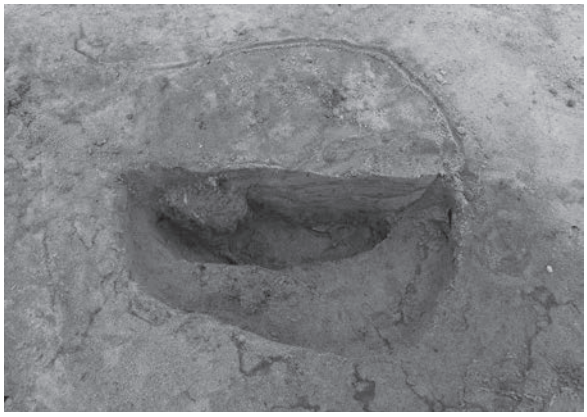
4　遺構 2213 半截状況 (東から)



5　遺構 3008 半截状況 (西から)

6　遺構 3010 半截状況 (西から)

7　遺構 3029 半截状況 (西から)



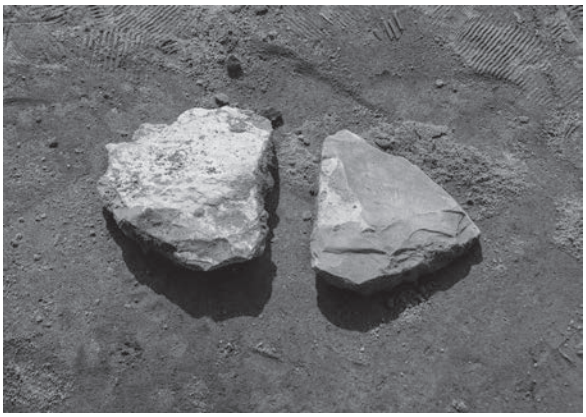
8　遺構 2163 半截状況 (北から)

11 層、12 層上面の遺構

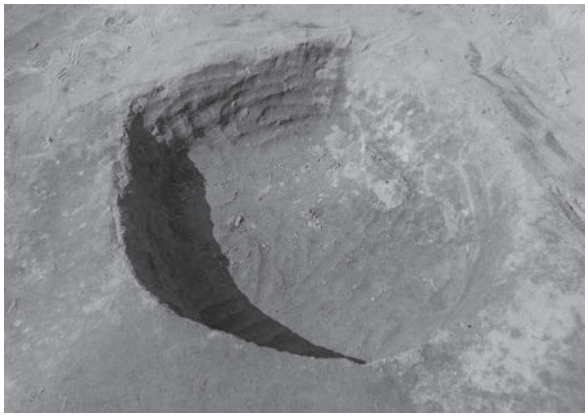
1　遺構 1473 集石検出状況 (東から)

2　遺構 1437 集石検出状況 (東から)

3　遺構 1440 土坑半截状況 (北から)



4　遺構 1448 集石検出状況 (東から)

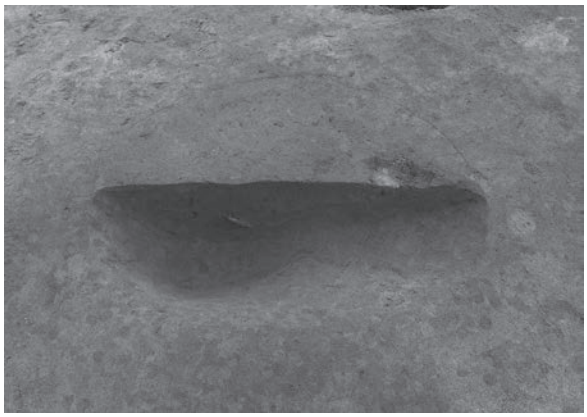


5　遺構 1448 土坑完掘状況 (北から)

6　遺構 1438 集石検出状況 (北から)

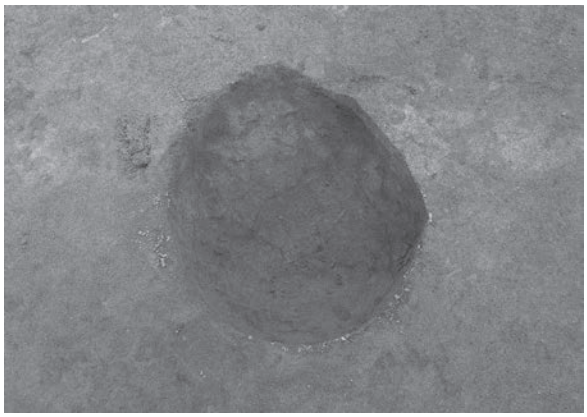
7　遺構 1447 土坑完掘状況 (南から)

8　遺構 1248 土坑半截状況 (西から)



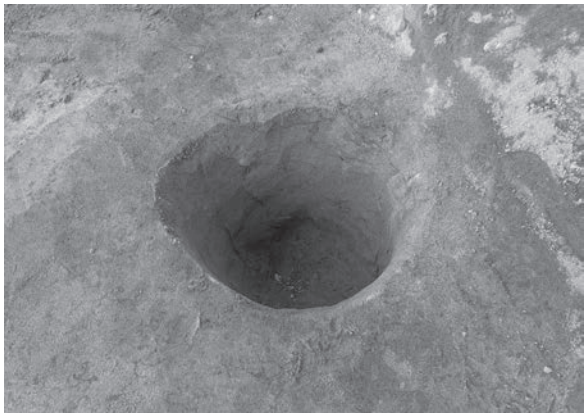
1　遺構 1307 土坑？半截状況 (北から)

2　遺構 1316 土坑半截状況 (北から)

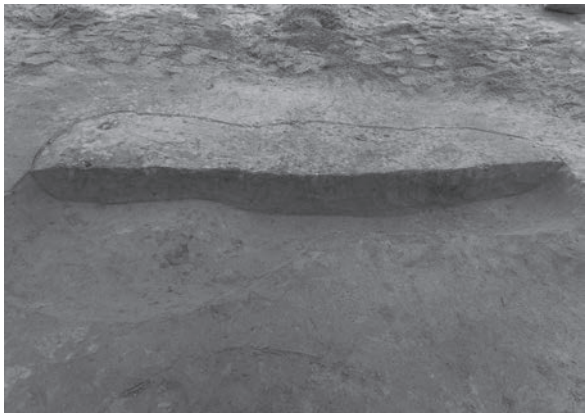


3　遺構 1317 土坑完掘状況 (東から)

4　遺構 1318 土坑半截状況 (東から)



5　遺構 1327 土坑完掘状況 (南から)



6　遺構 1379 土坑半截状況 (西から)

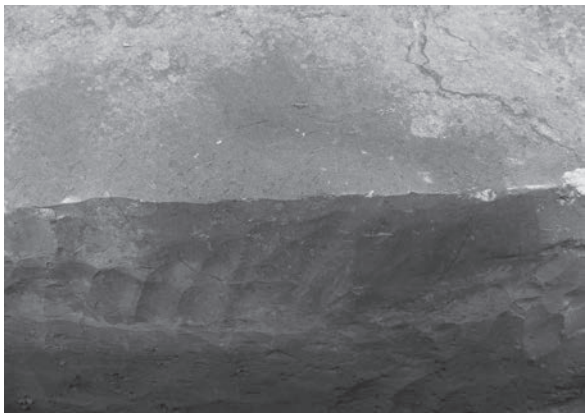
7　遺構 1426 土坑半截状況 (南から)

8　遺構 1427 土坑完掘状況 (西から)

11 層、12 層上面の遺構

1　遺構 1428 土坑半截状況 (西から)

2　遺構 1430 土坑完掘状況 (北から)



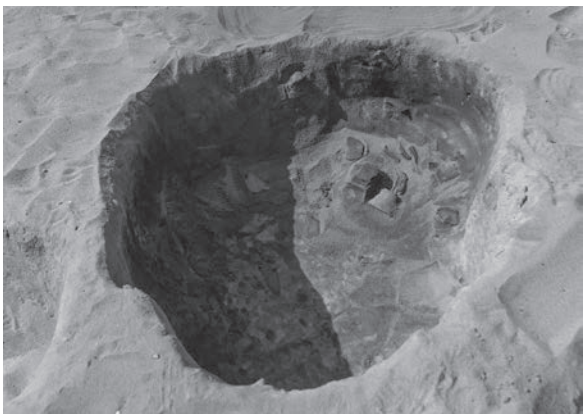
3　遺構 1431 土坑半截状況 (東から)

4　遺構 1433 土坑断割状況 (西から)

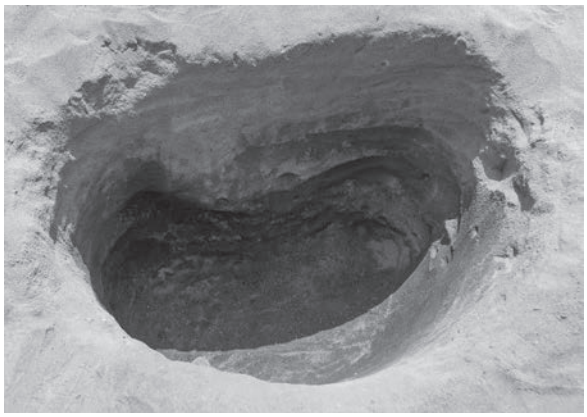
5　遺構 1439 土坑半截状況 (北西から)

6　遺構 1468 土坑土層堆積状況 (北から)

7　遺構 1469 土坑半截状況 (西から)

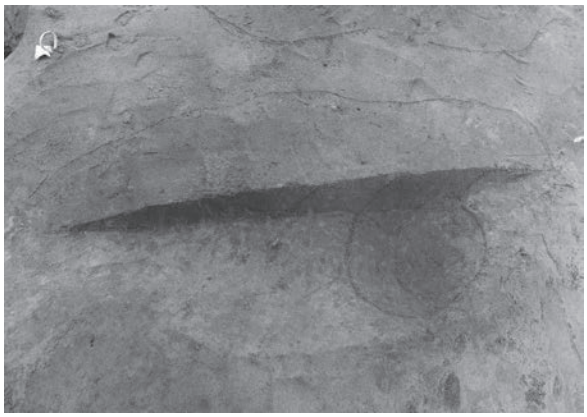


8　遺構 1425 土坑完掘状況 (南から)



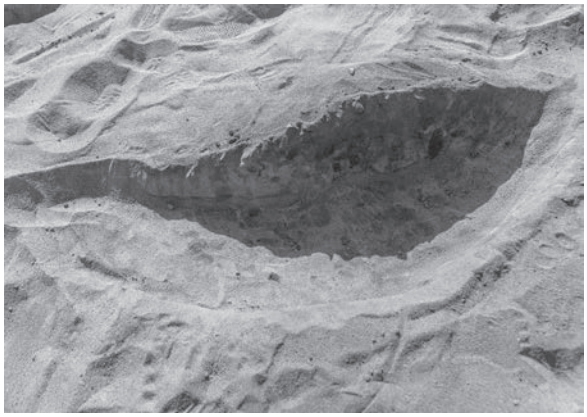
1　遺構 1424 土坑半截状況 (西から)

2　遺構 2370 土坑半截状況 (南から)



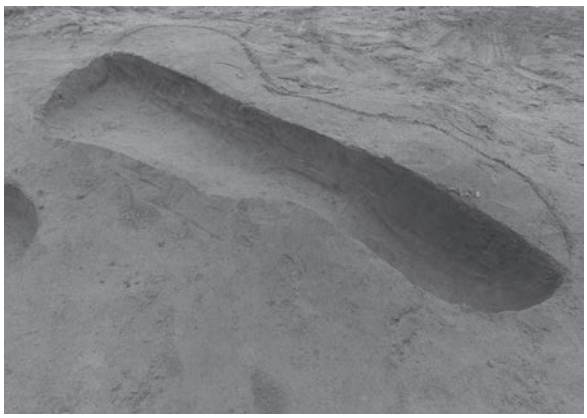
3　遺構 1352 焼土溜半截状況 (西から)

4　遺構 1356 焼土溜半截状況 (西から)

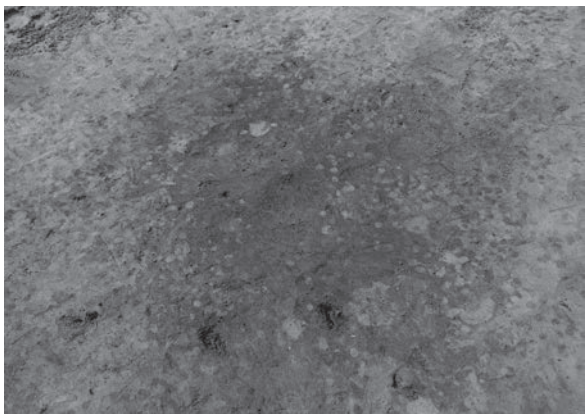


5　遺構 1369 焼土溜半截状況 (東から)

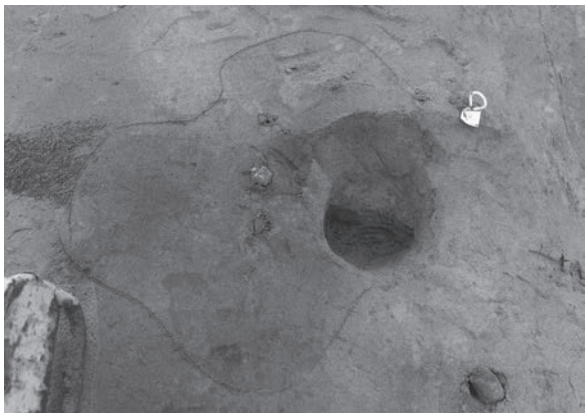
6　遺構 1370 焼土溜検出状況 (北から)



7　遺構 1382 焼土溜半截状況 (南から)



8　遺構 1402 焼土溜半截状況 (北から)



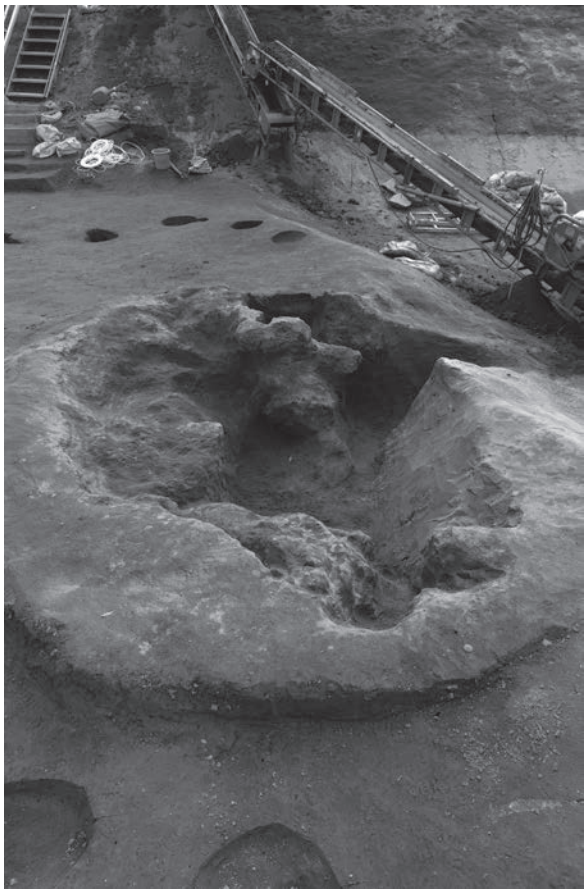
1　遺構 1354 焼土面検出状況 (北から)

2　遺構 1361 焼土面検出状況 (北から)

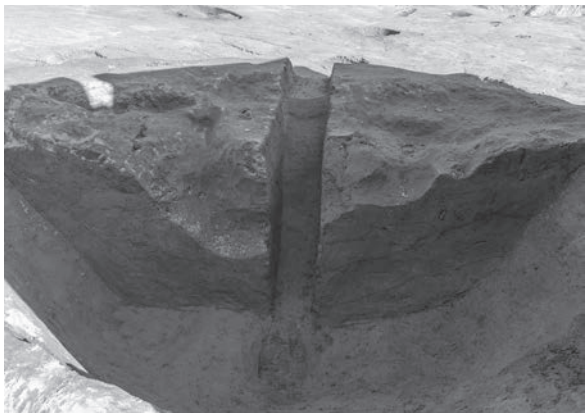
3　遺構 1397 焼土面検出状況 (北から)

4　遺構 1398 焼土面検出状況 (北から)

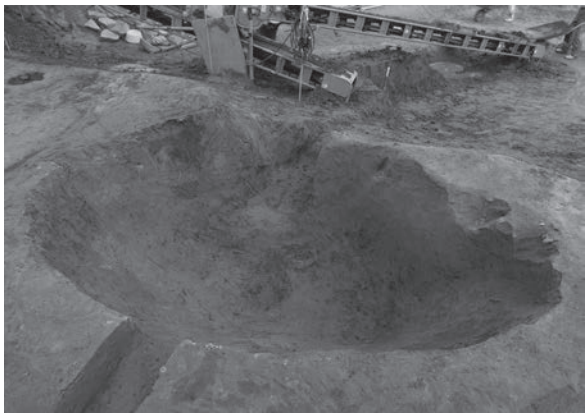
5　遺構 1399 土器溜検出状況 (南東から)



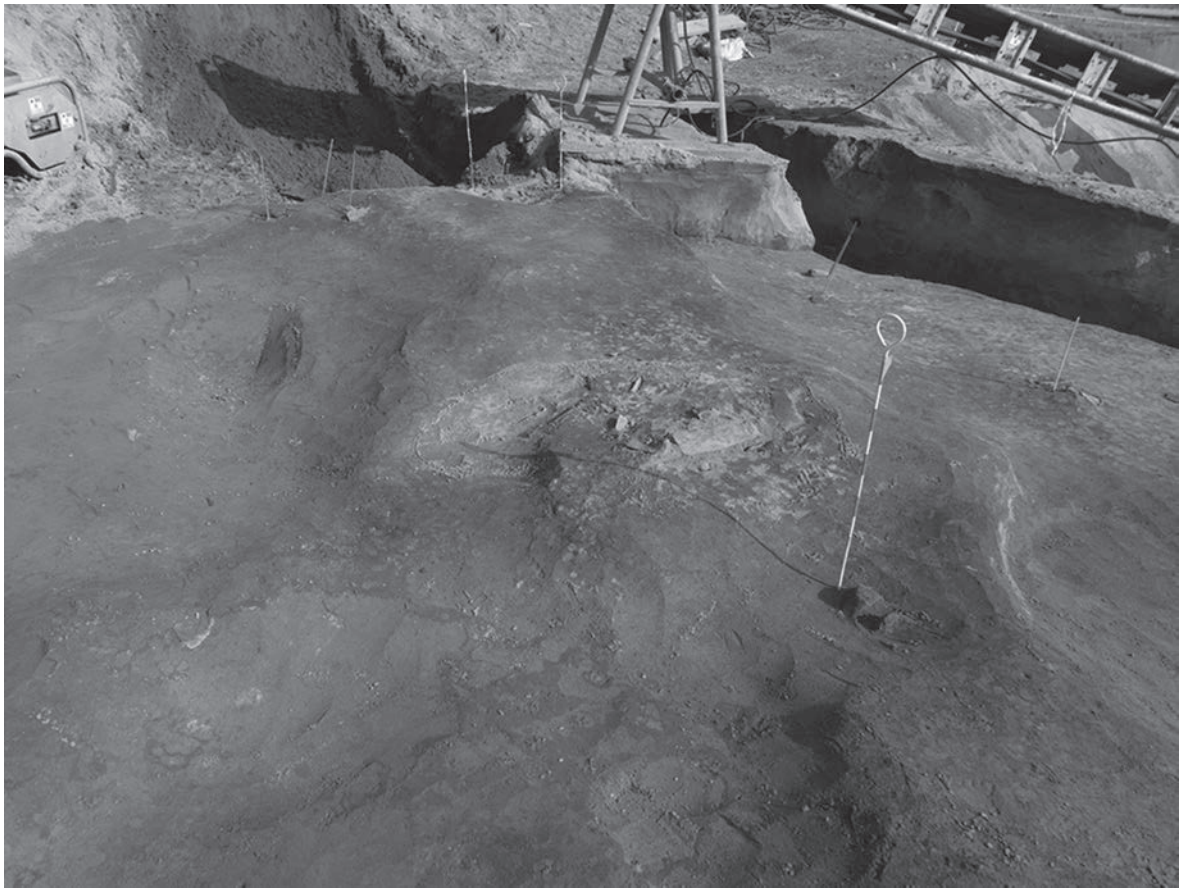
1　遺構 2373 風倒木痕 1 層掘削状況 (北から)



2　遺構 2373 風倒木痕半截状況 (西から)

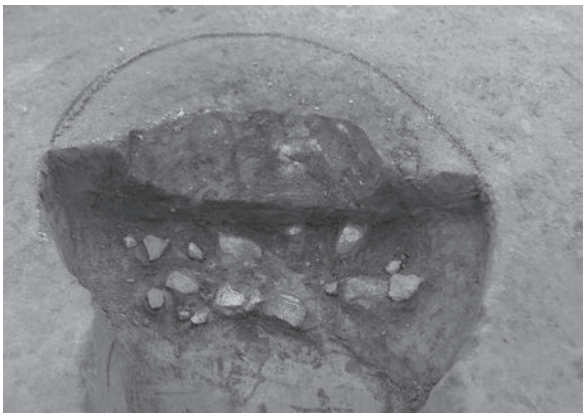


3　遺構 2373 風倒木痕完掘状況 (北から)



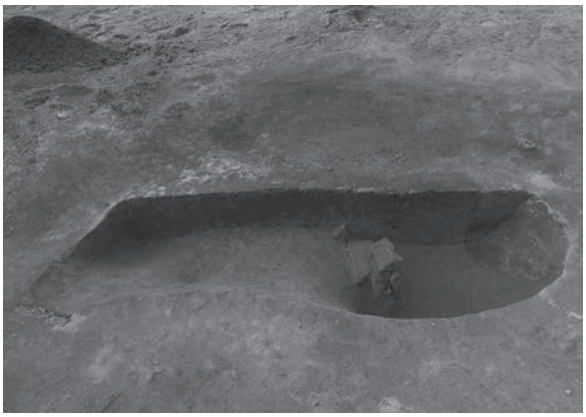
4　遺構 1419 硬化面検出状況 (南から)

1　遺構 1400 集石検出状況 (西から)



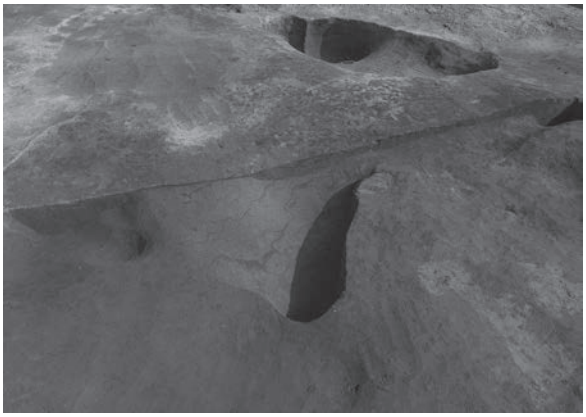
2　遺構 1378 土坑半截状況 (南から)

3　遺構 1405 土坑完掘状況 (南から)



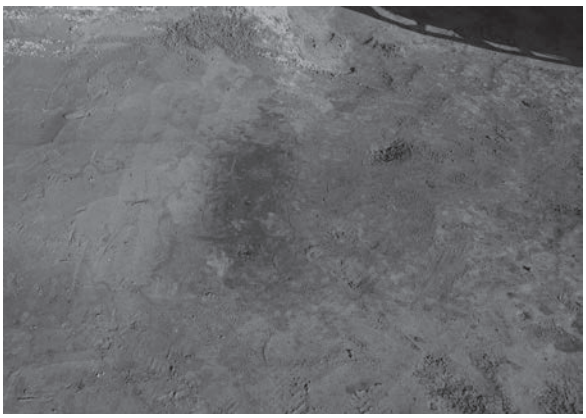
4　遺構 1372 焼土溜半截状況 (東から)

5　遺構 1379 焼土溜半截状況 (西から)



6　遺構 1381 焼土溜半截状況 (西から)

7　遺構 1392 焼土溜半截状況 (北から)



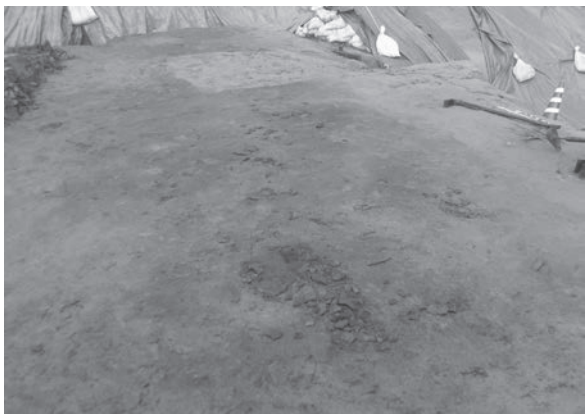
8　遺構 1406 焼土面検出状況 (南から)

1　令和元年度調査 1 区縄文時代包含層堆積状況 (北から)

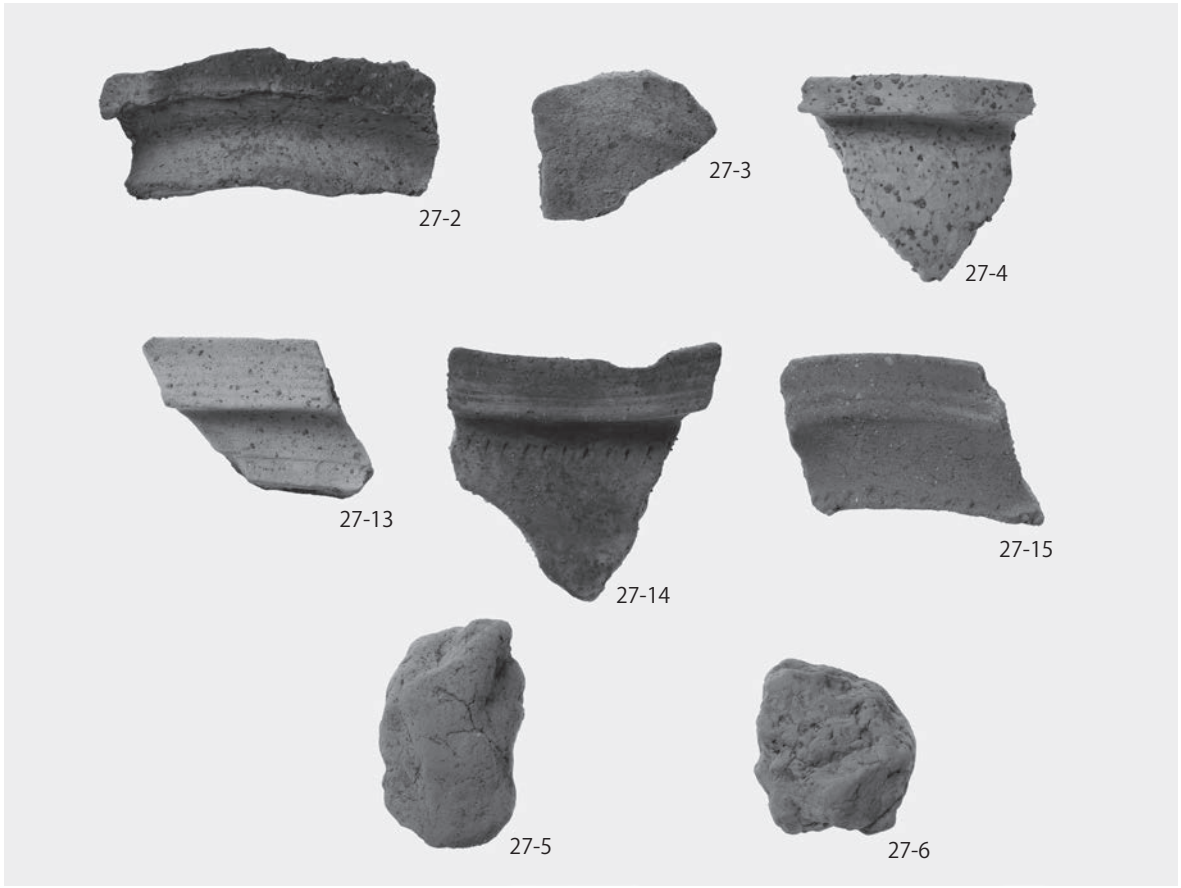
2　11 − 1・2 層遺物出土状況① (北から)

3　11 − 1・2 層遺物出土状況② (東から)

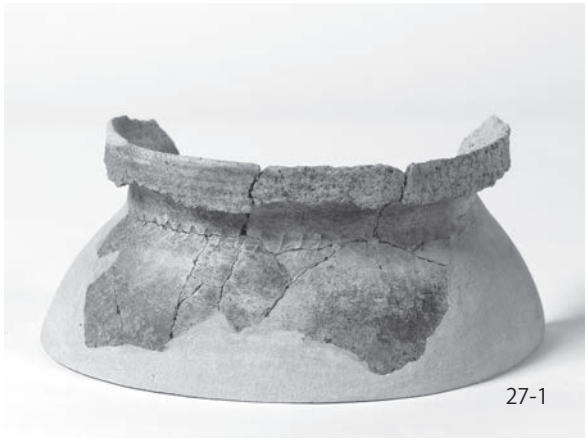
4　12 層遺物出土状況 (南から)



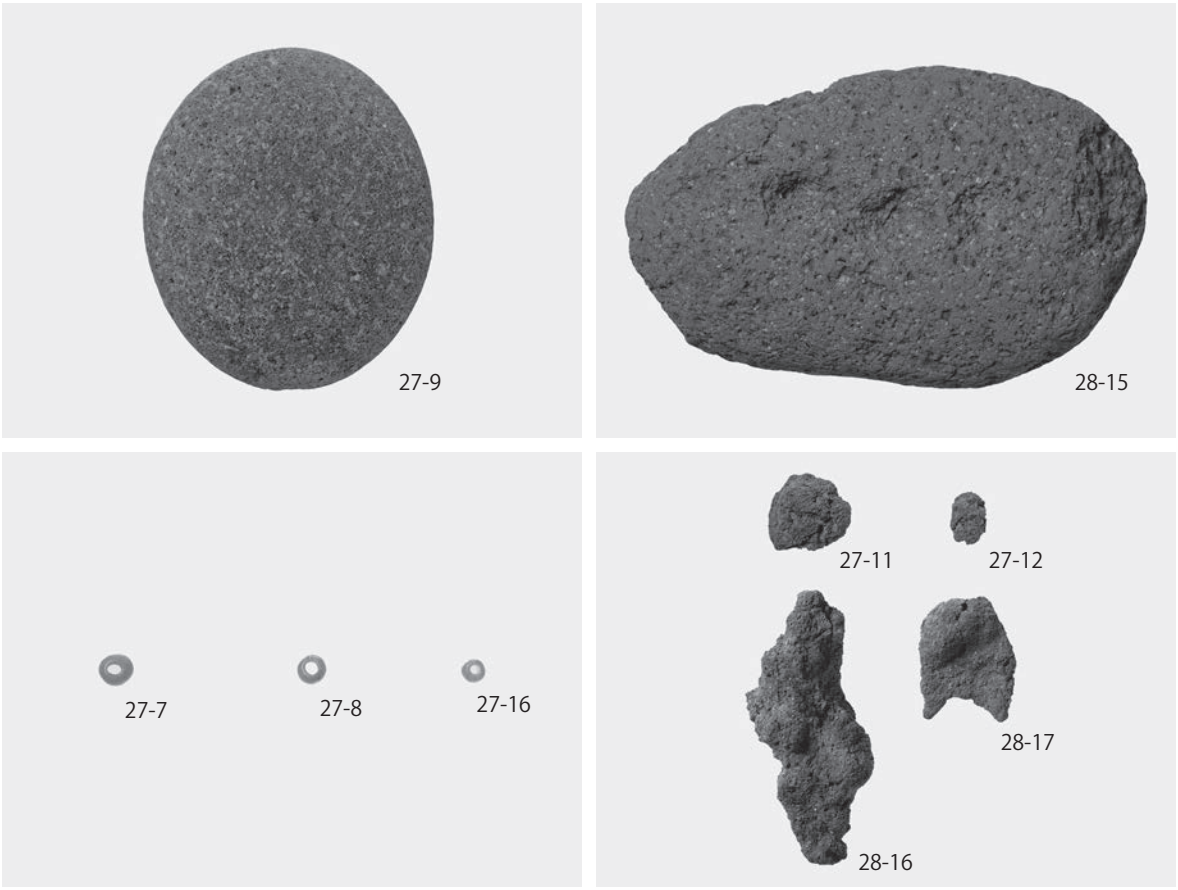
5　13 層上面遺物出土状況 (北から)



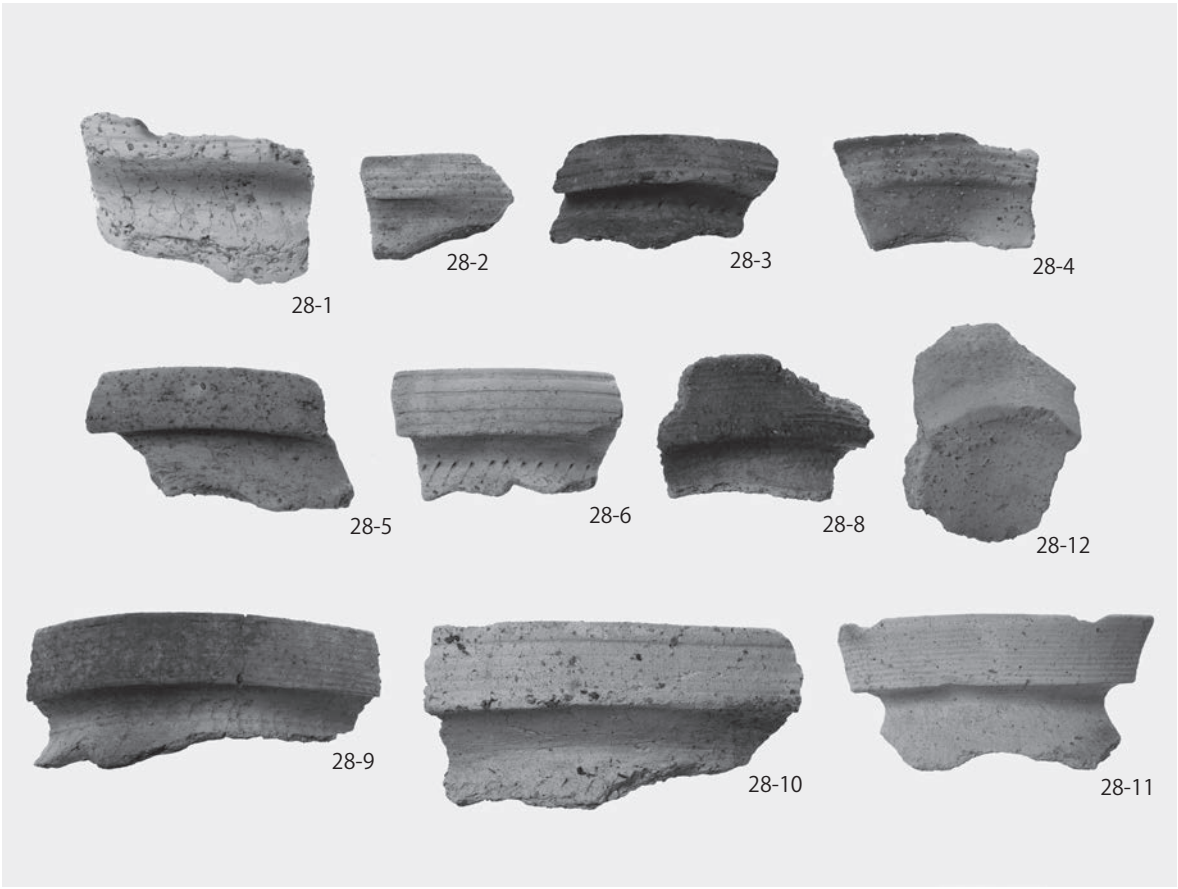
1　弥生・古墳時代遺構出土遺物（１）



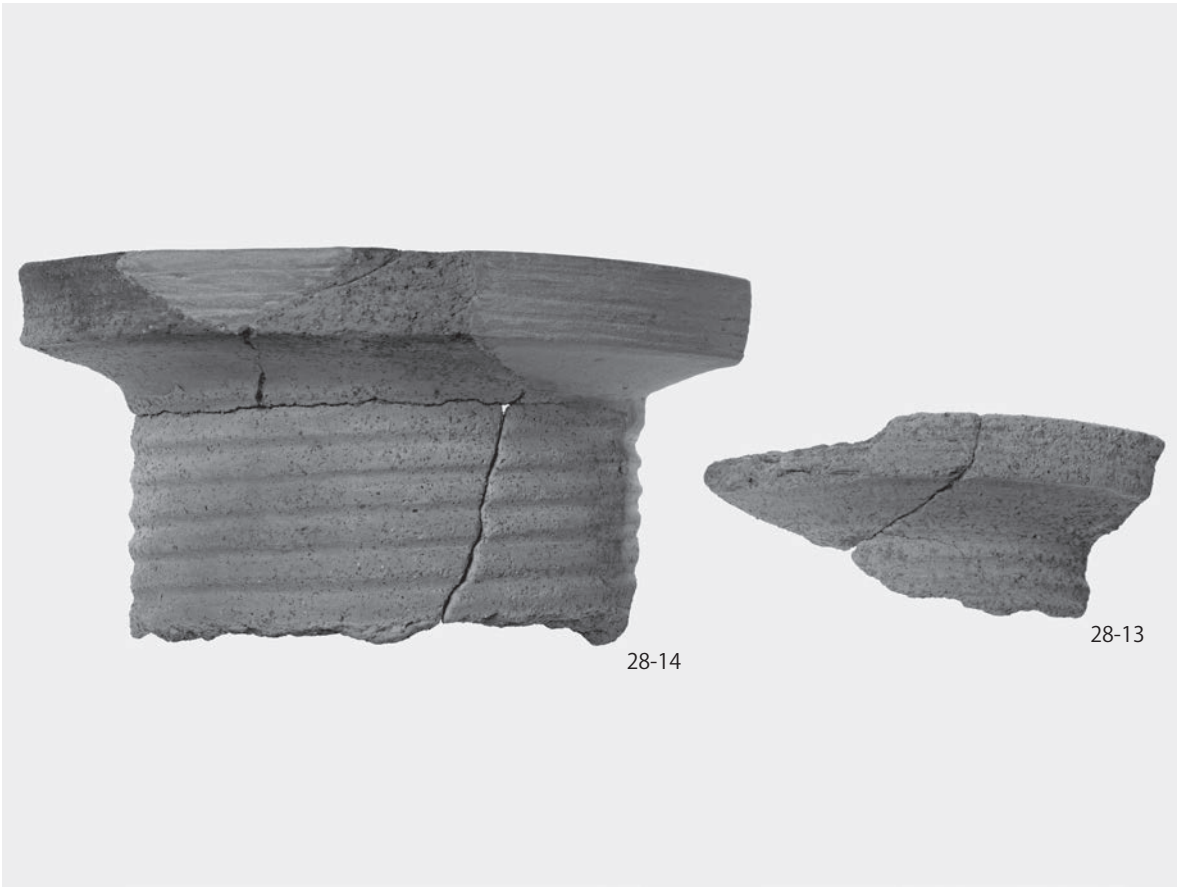
2　弥生・古墳時代遺構出土遺物（２）



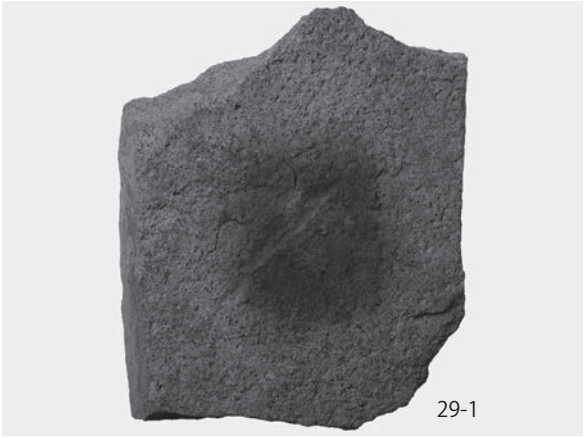
1　弥生・古墳時代遺構出土遺物（３）



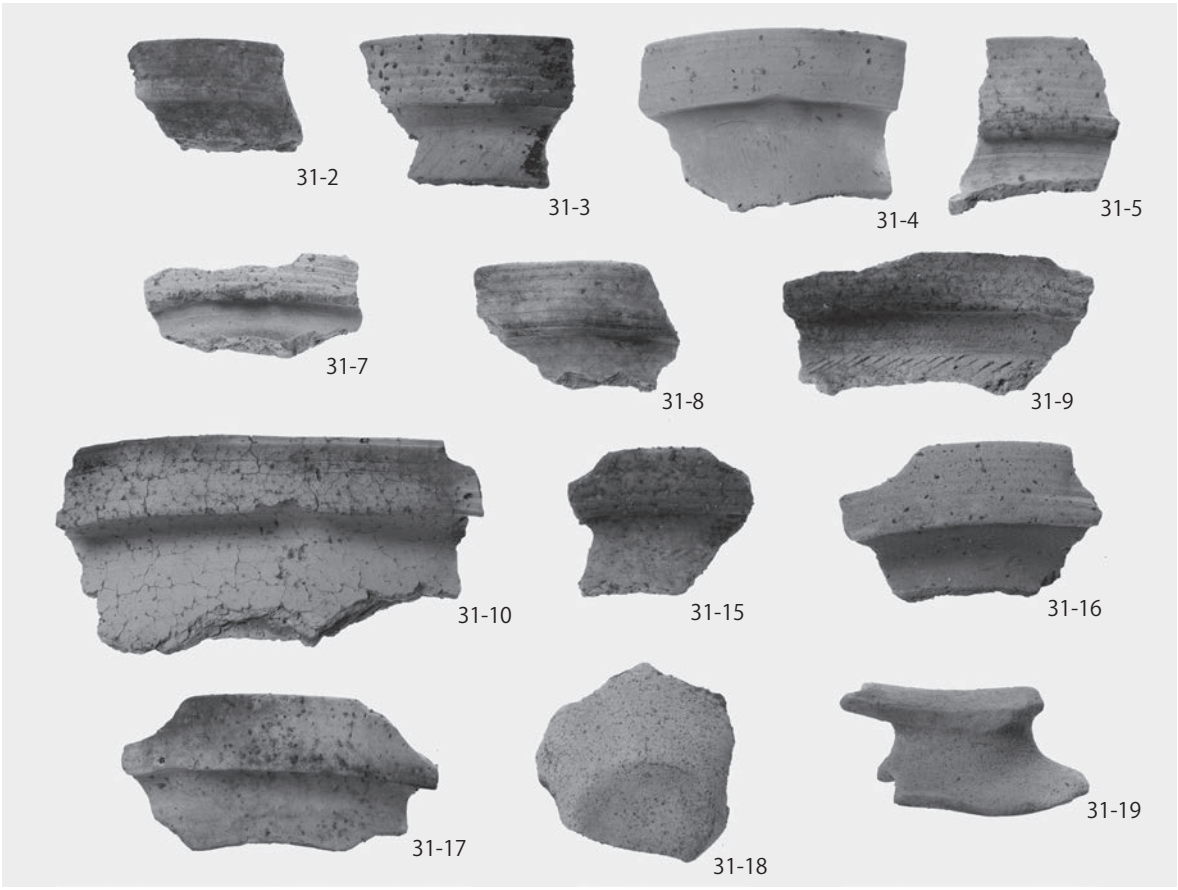
2　弥生・古墳時代遺構出土遺物（４）



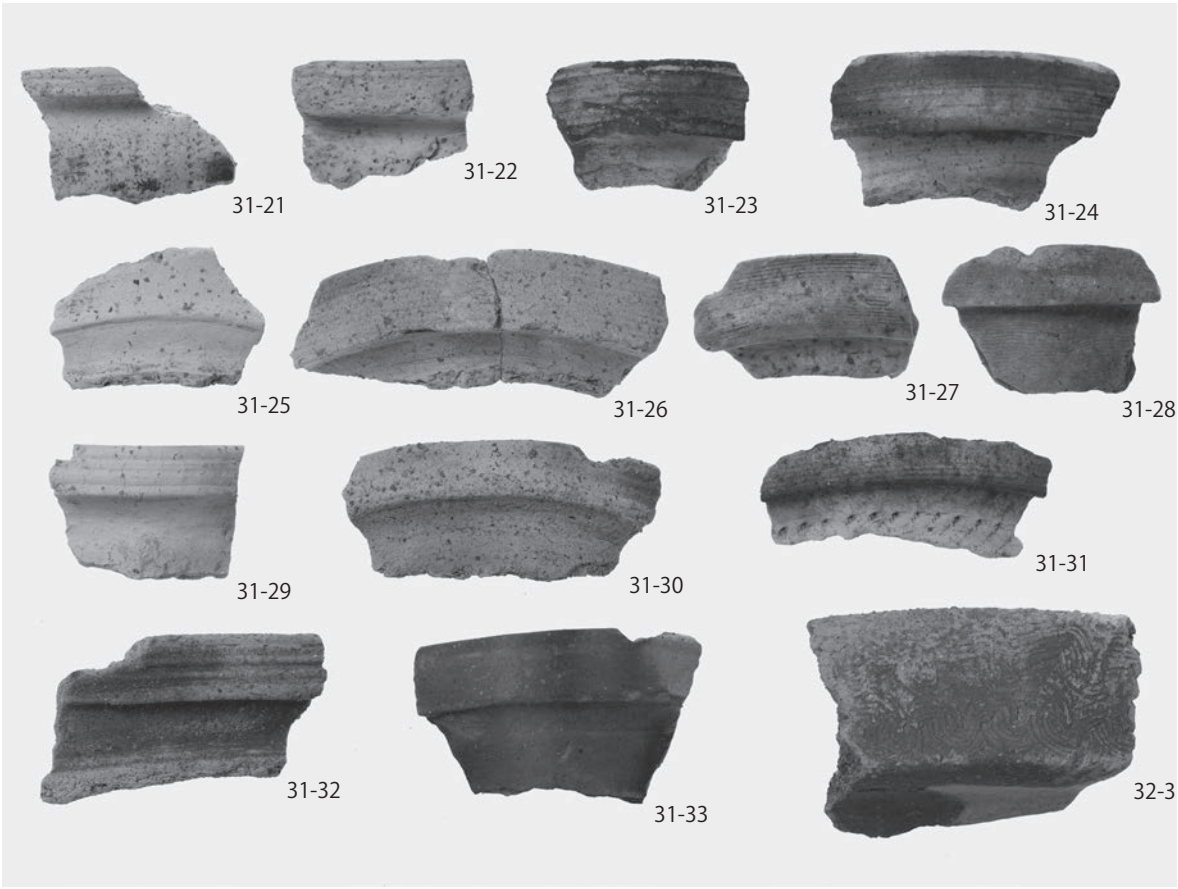
1　弥生・古墳時代遺構出土遺物（５）



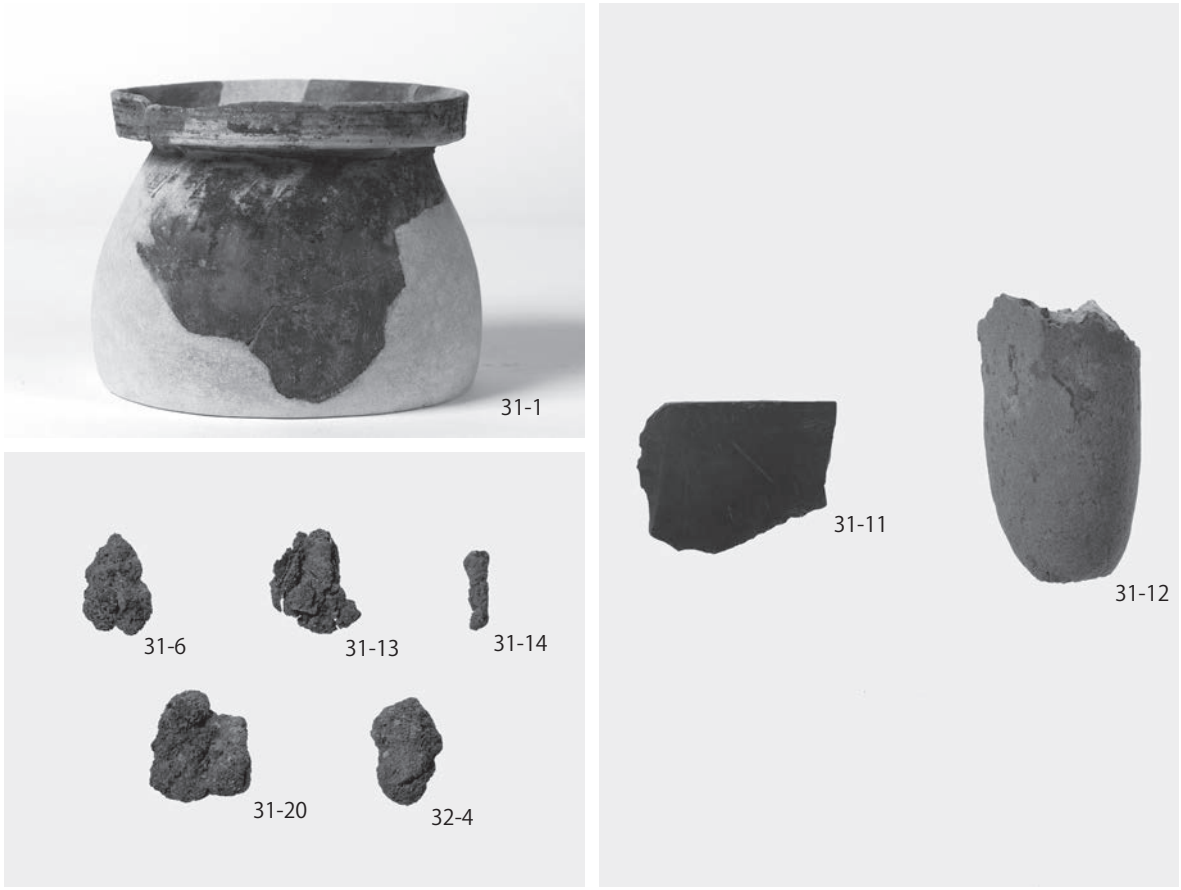
2　弥生・古墳時代遺構出土遺物（６）



1　弥生・古墳時代遺構出土遺物（７）

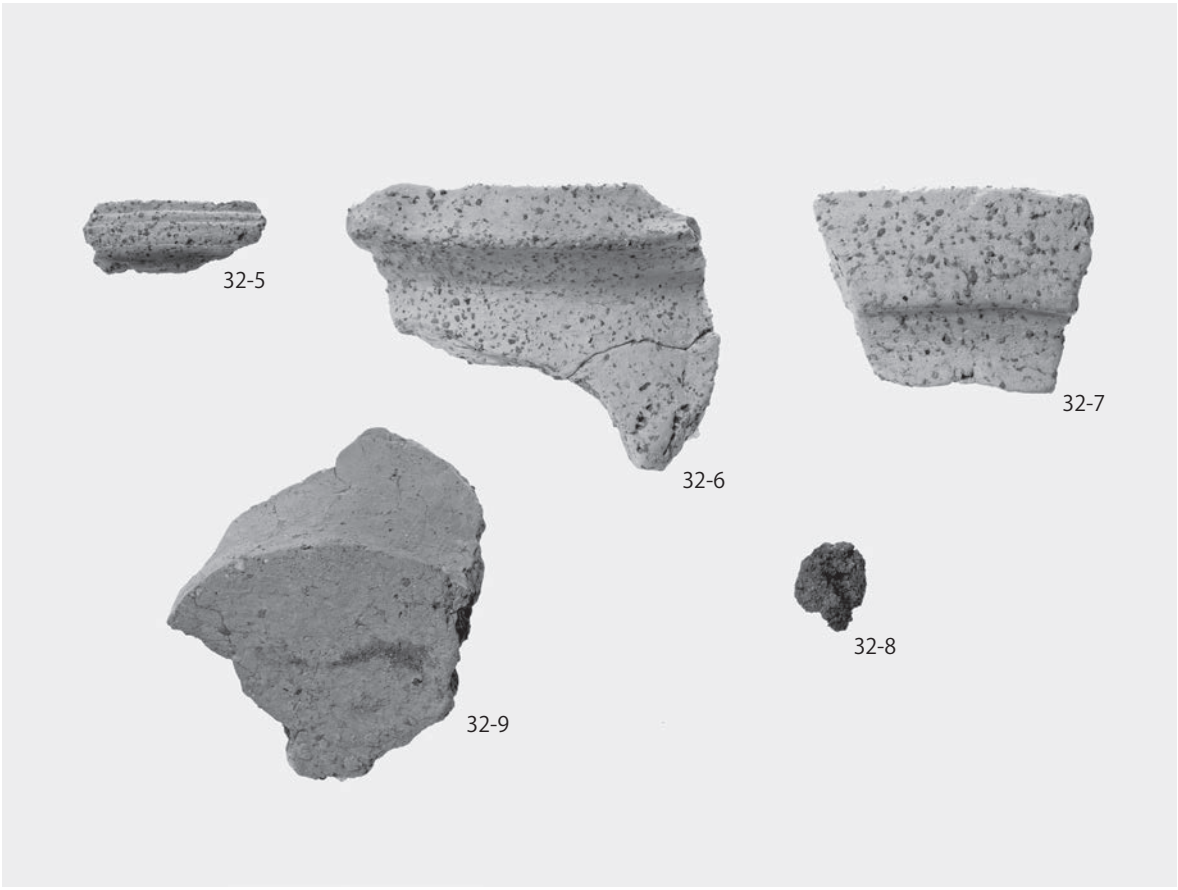


2　弥生・古墳時代遺構出土遺物（８）

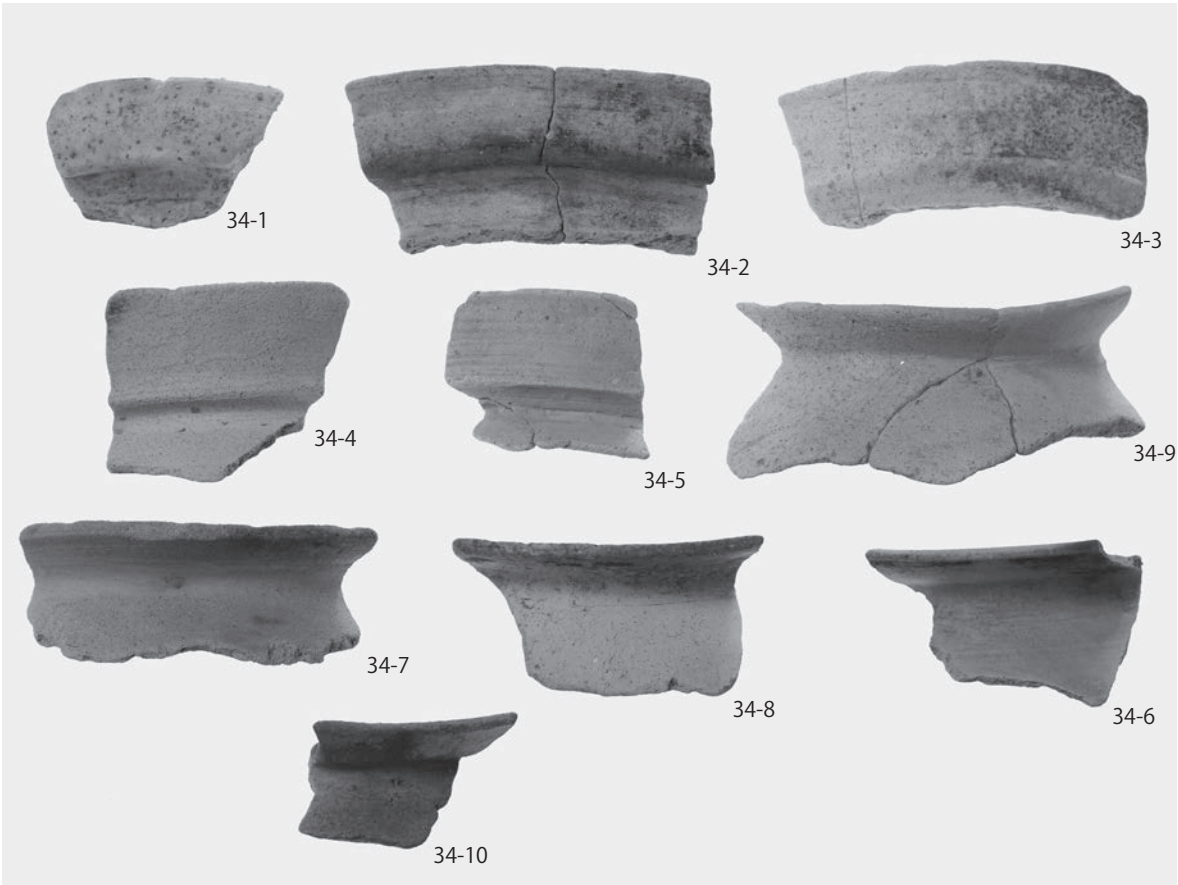


1　弥生・古墳時代遺構出土遺物（９）

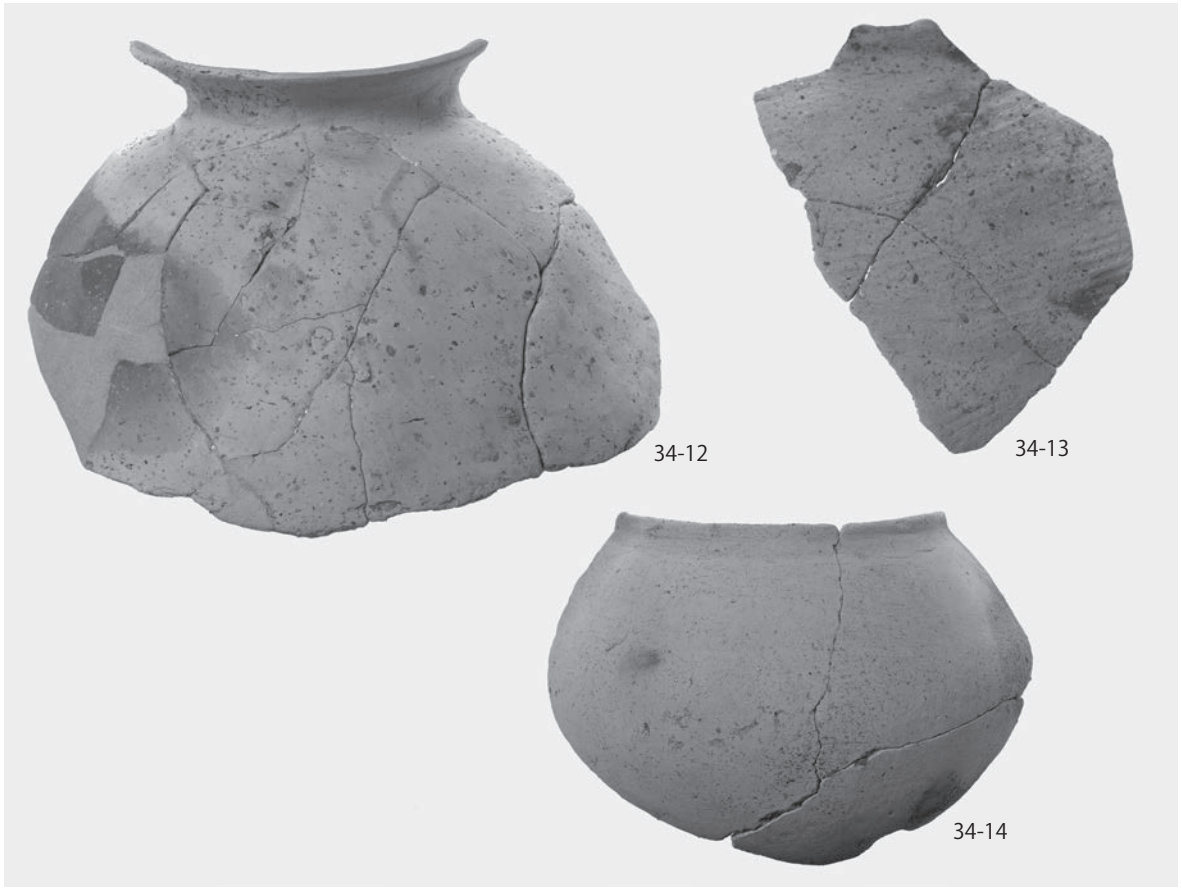
2　弥生・古墳時代遺構出土遺物（10）



1　弥生・古墳時代遺構出土遺物（11）

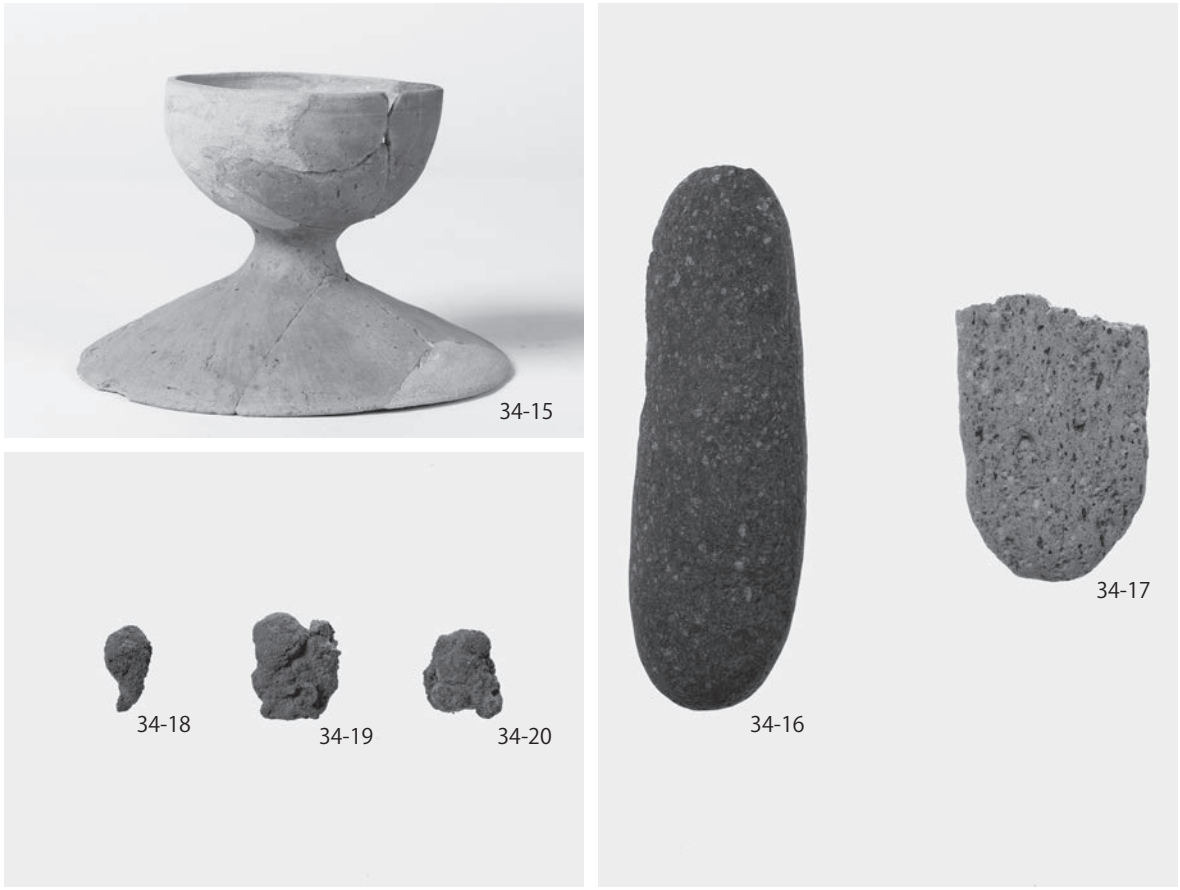


2　弥生・古墳時代遺構出土遺物（12）



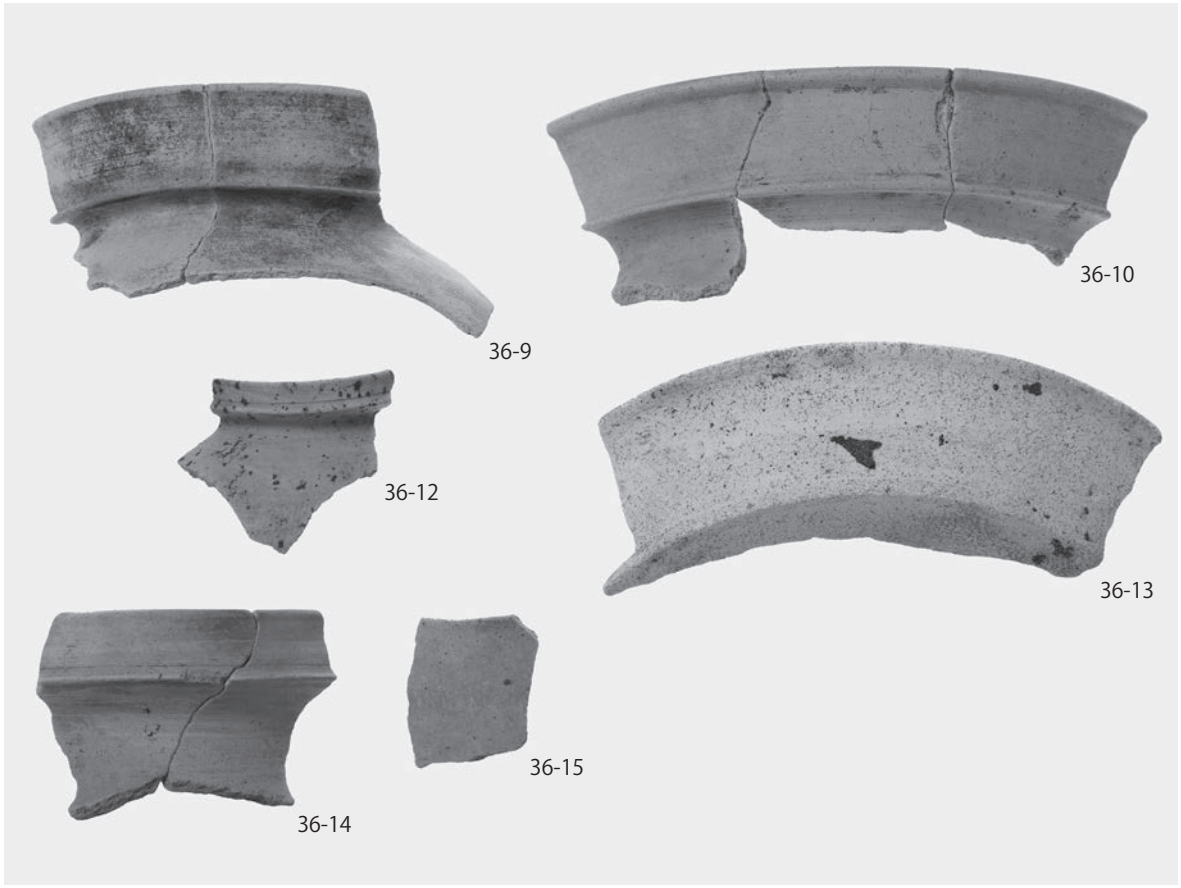
1　弥生・古墳時代遺構出土遺物（13）

2　弥生・古墳時代遺構出土遺物（14）



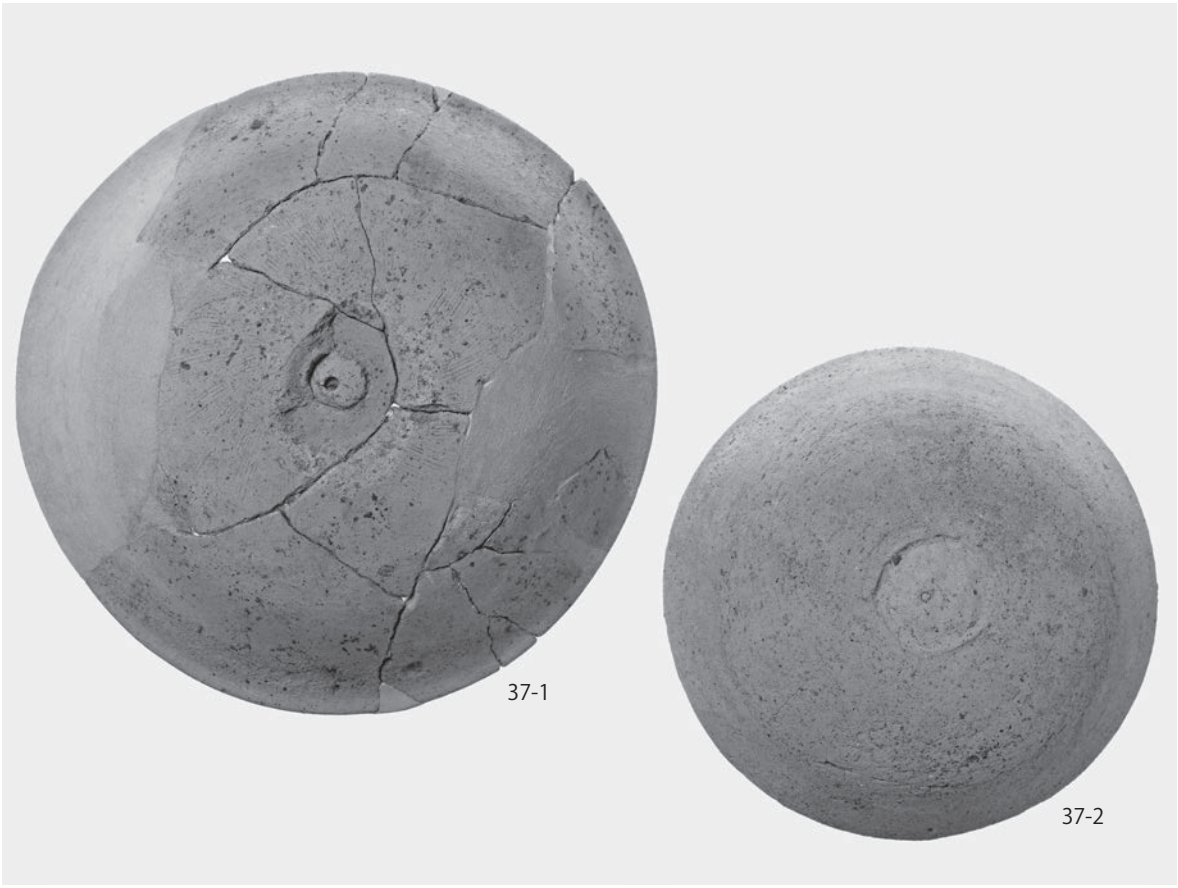
1　弥生・古墳時代遺構出土遺物（15）

2　弥生・古墳時代遺構出土遺物（16）

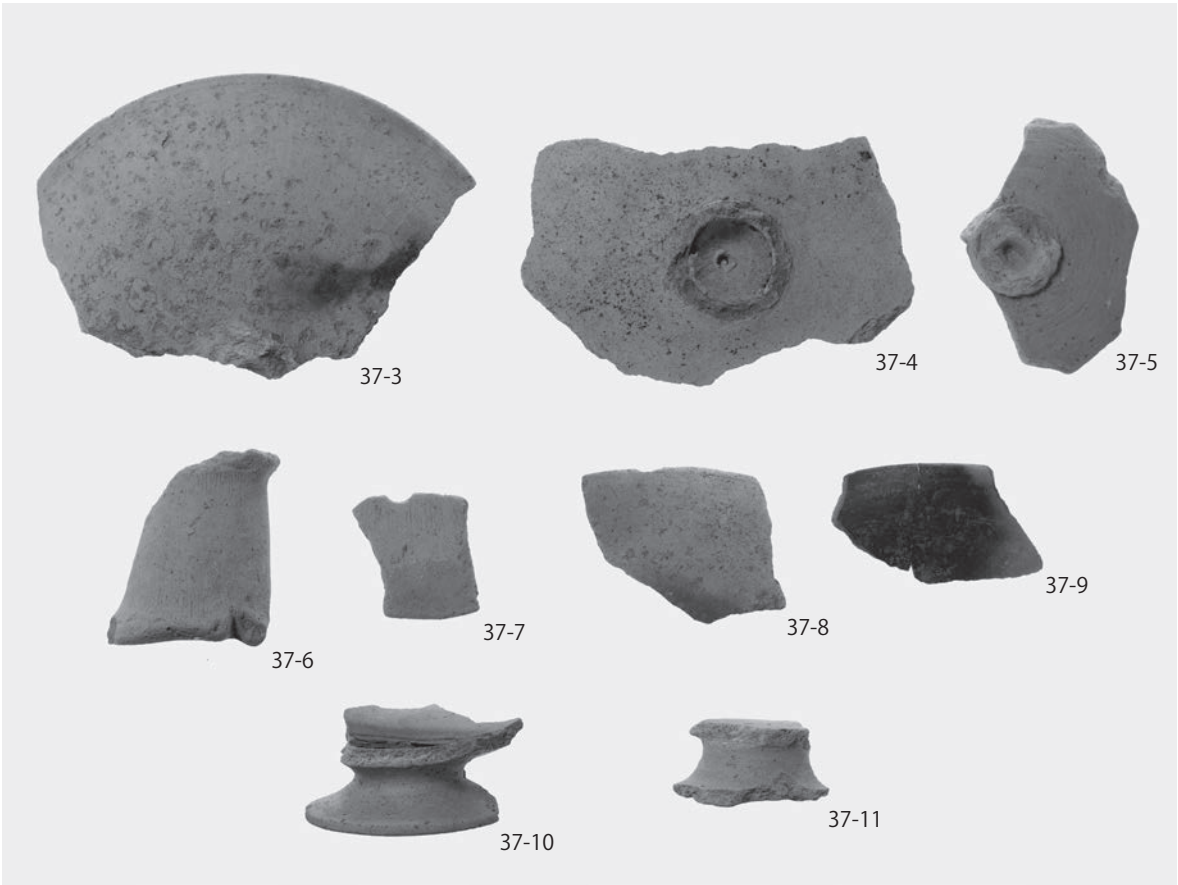


1　弥生・古墳時代遺構出土遺物（17）

2　弥生・古墳時代遺構出土遺物（18）

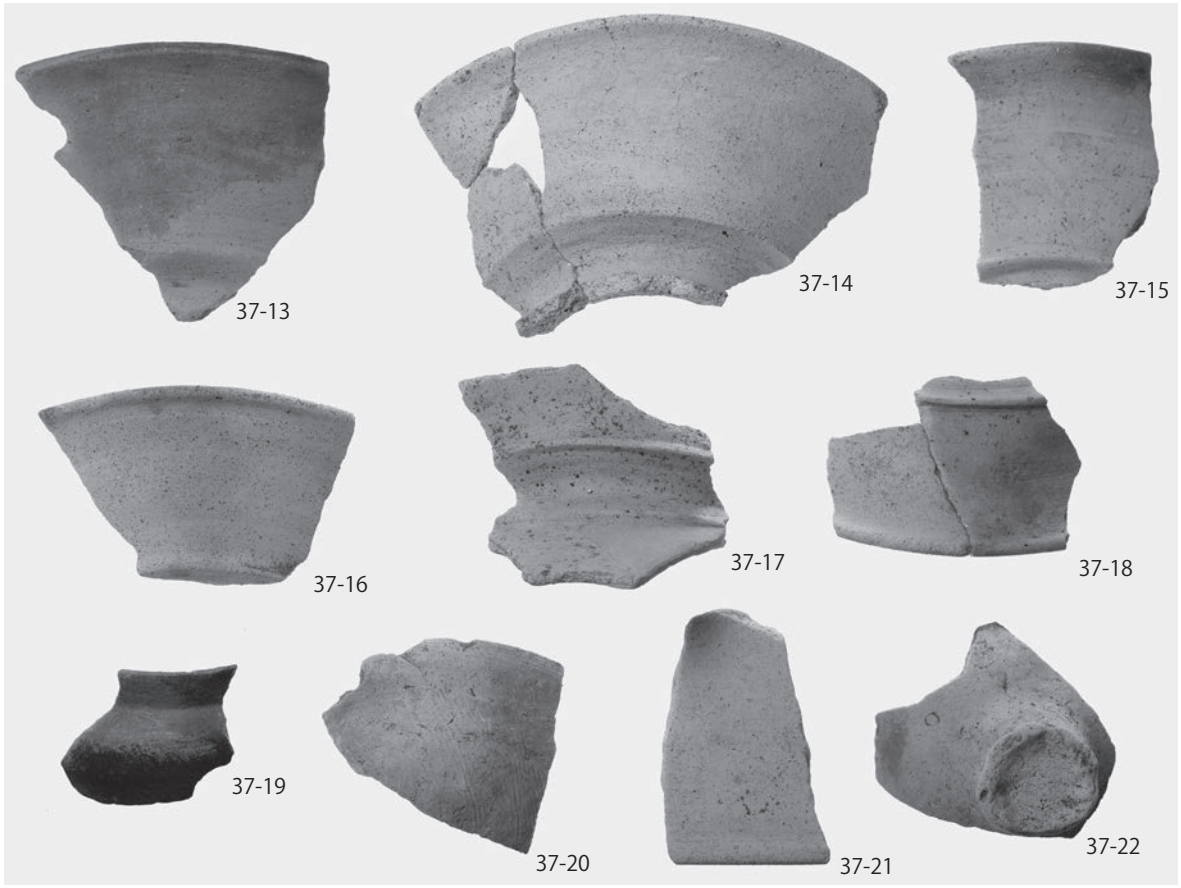


1　弥生・古墳時代遺構出土遺物（19）

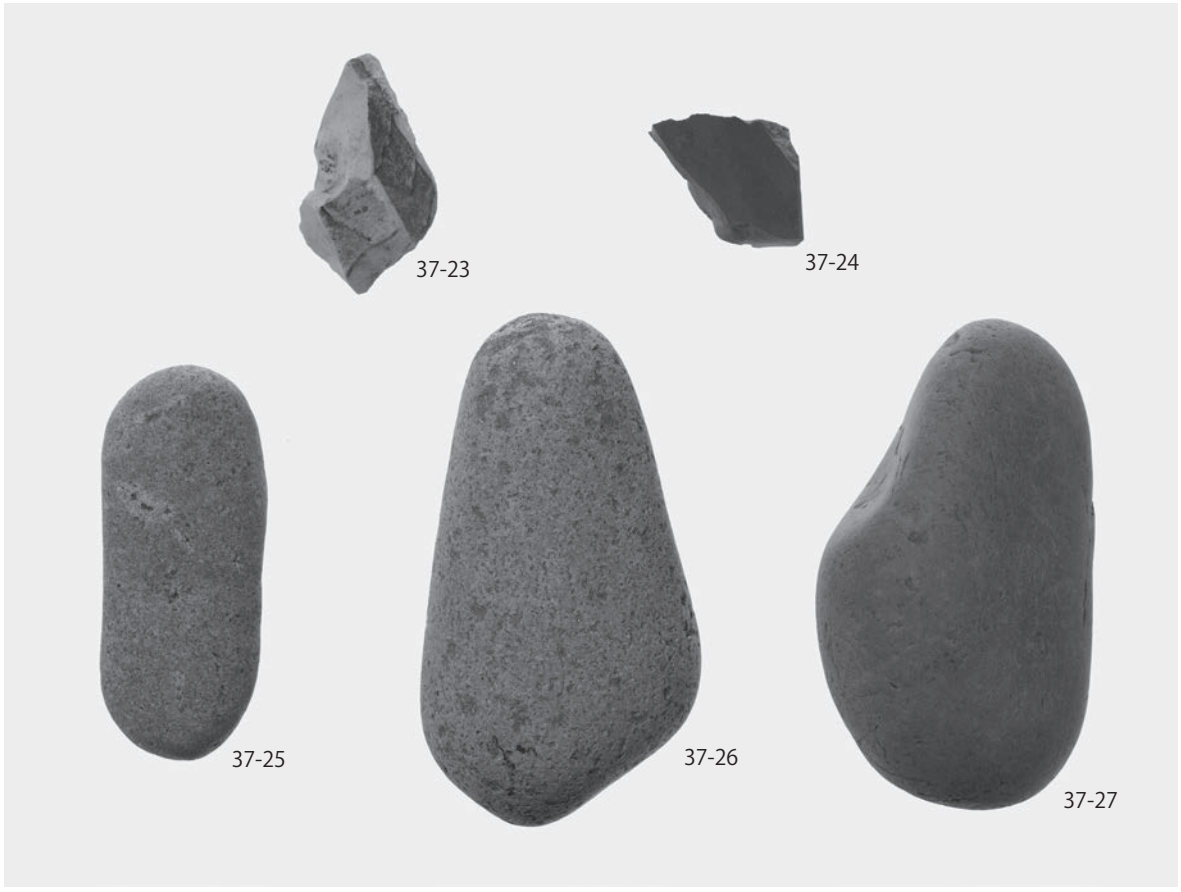


2　弥生・古墳時代遺構出土遺物（20）

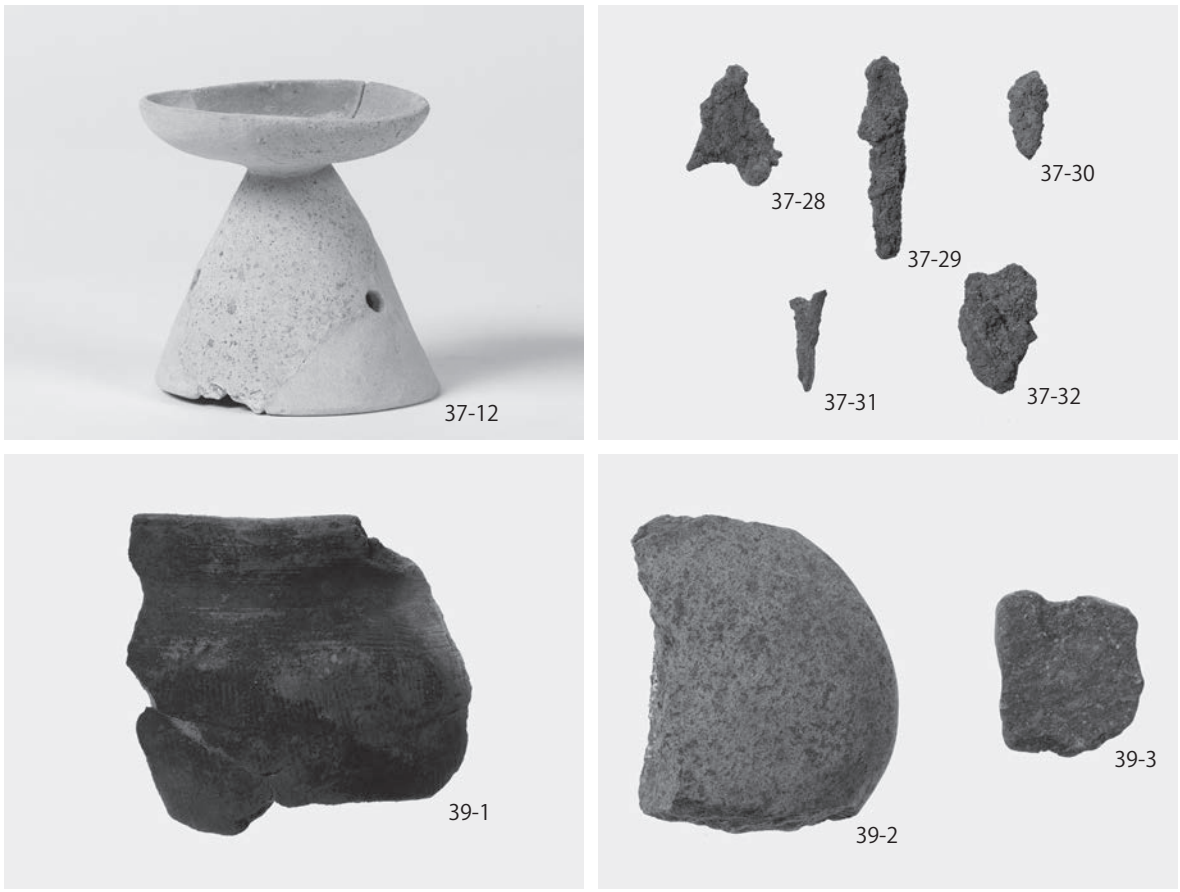
図版 30



1　弥生・古墳時代遺構出土遺物（21）



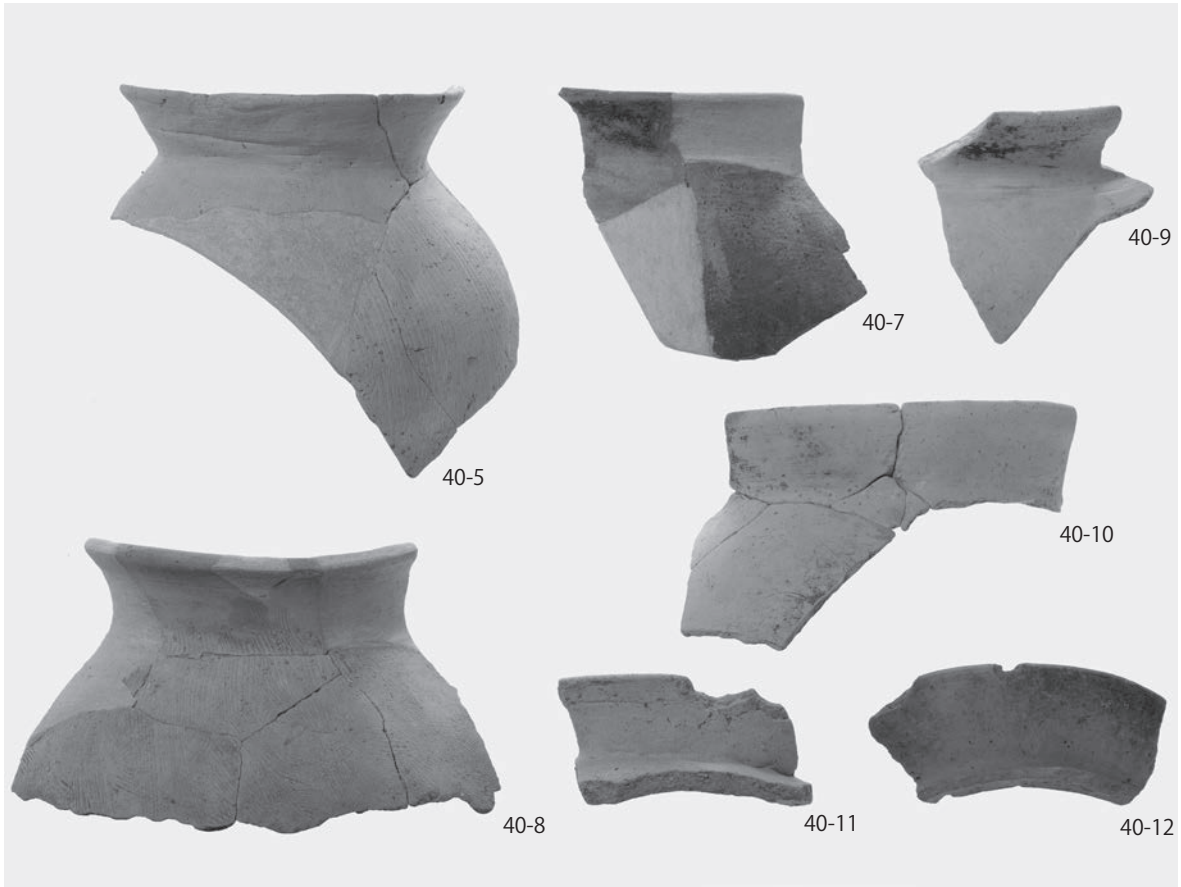
2　弥生・古墳時代遺構出土遺物（22）



1　弥生・古墳時代遺構出土遺物（23）

2　弥生・古墳時代遺構出土遺物（24）

1　弥生・古墳時代遺構出土遺物（25）

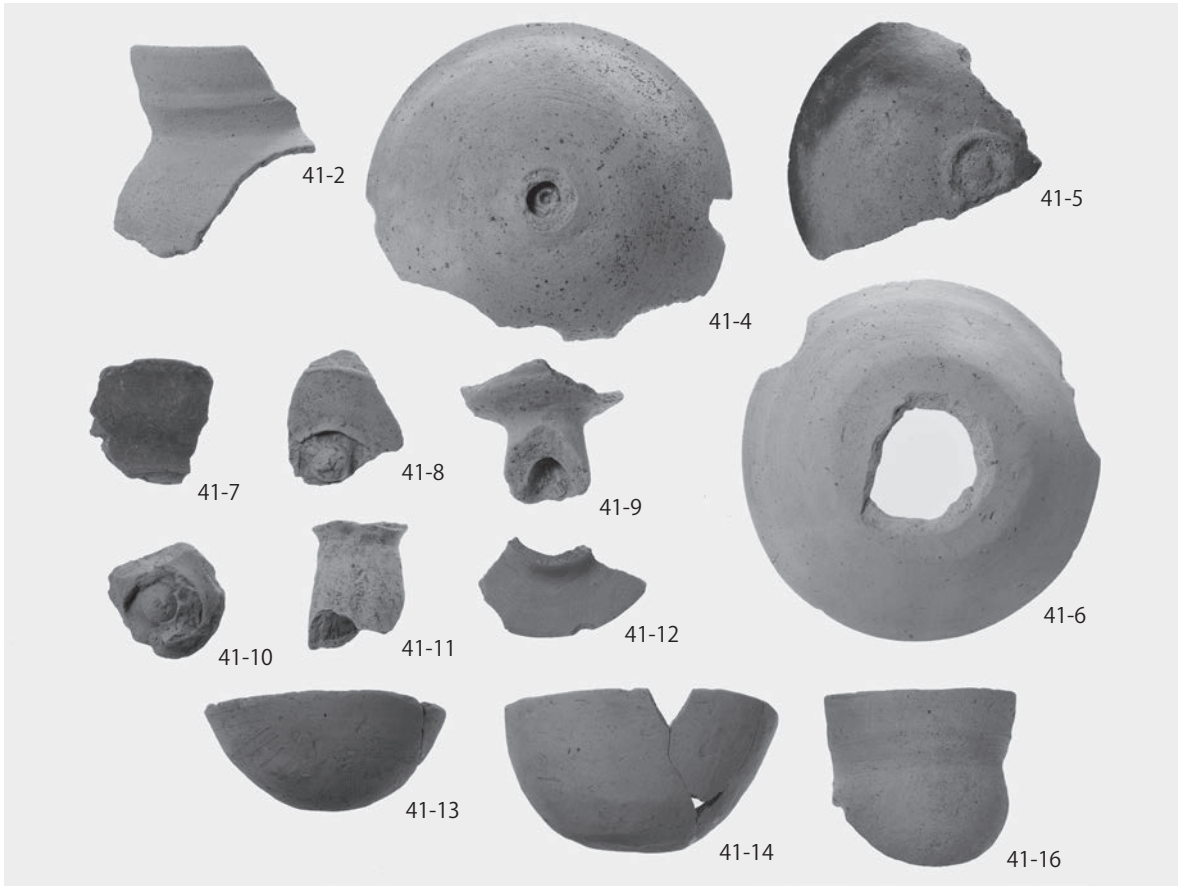


2　弥生・古墳時代遺構出土遺物（26）

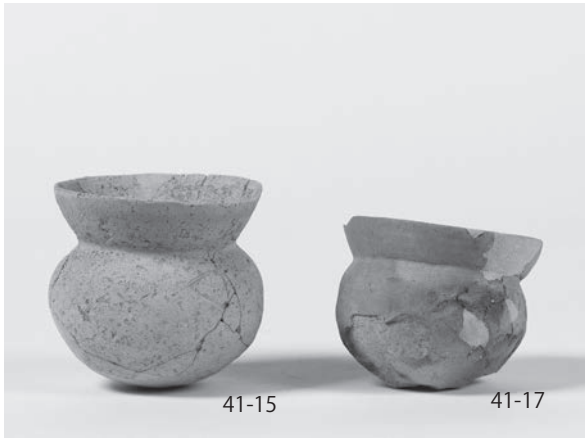
1　弥生・古墳時代遺構出土遺物（27）

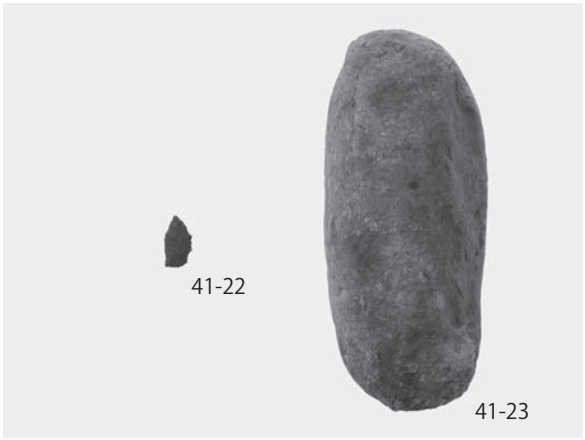
2　弥生・古墳時代遺構出土遺物（28）

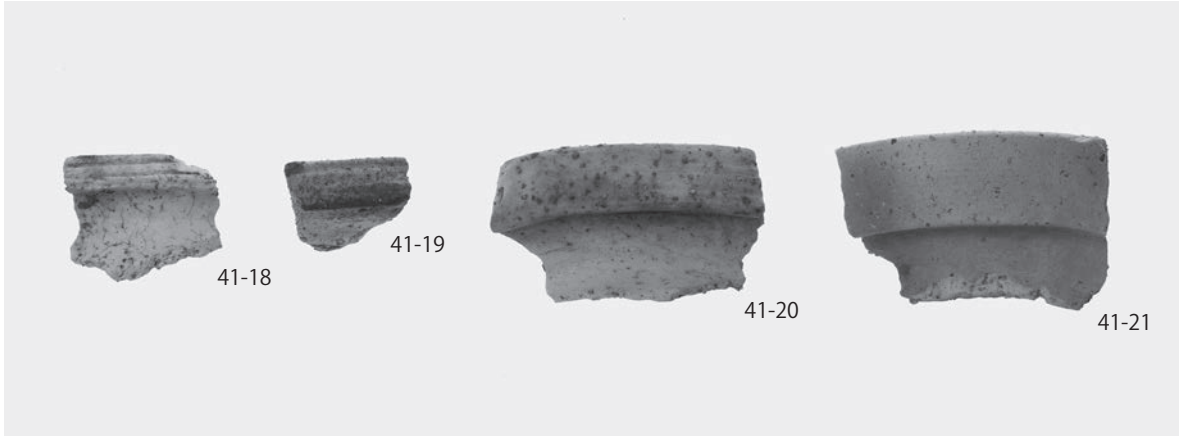
図版 34



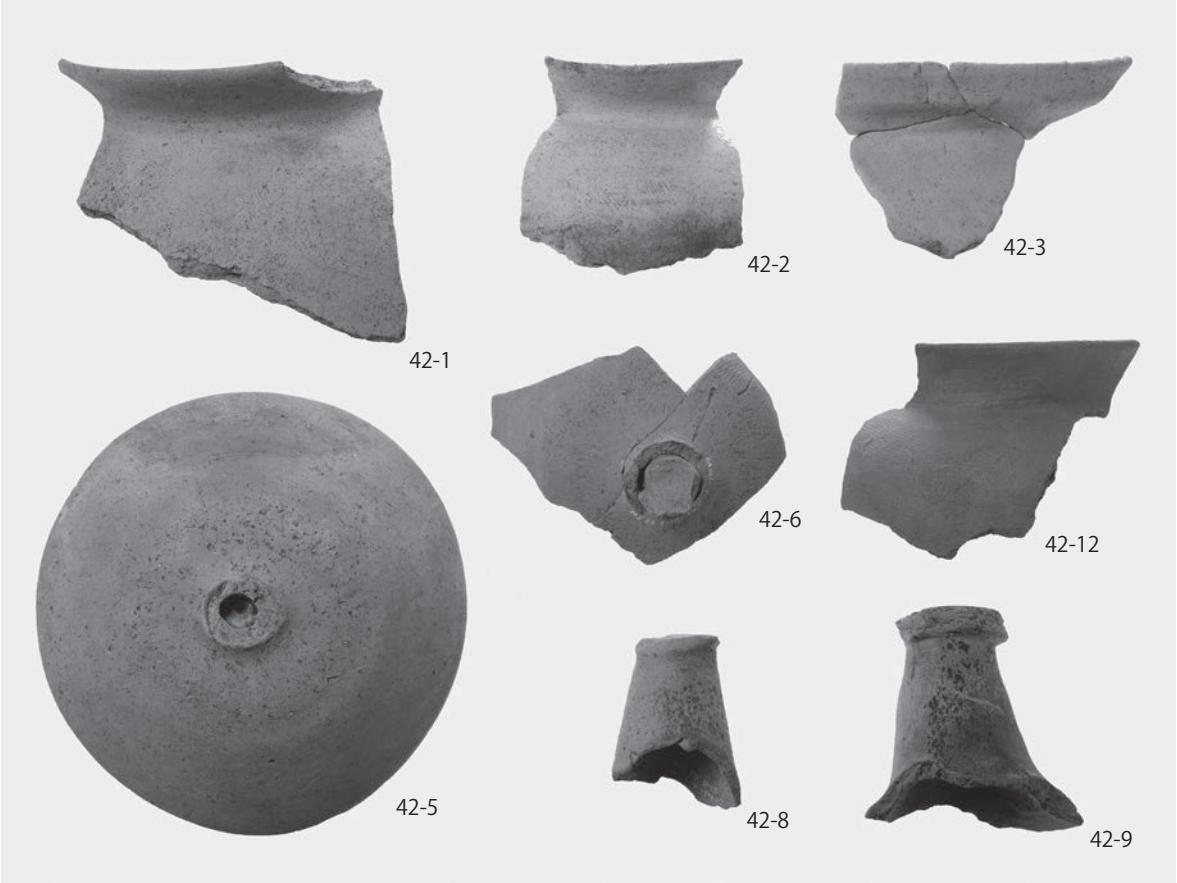
1　弥生・古墳時代遺構出土遺物（29）







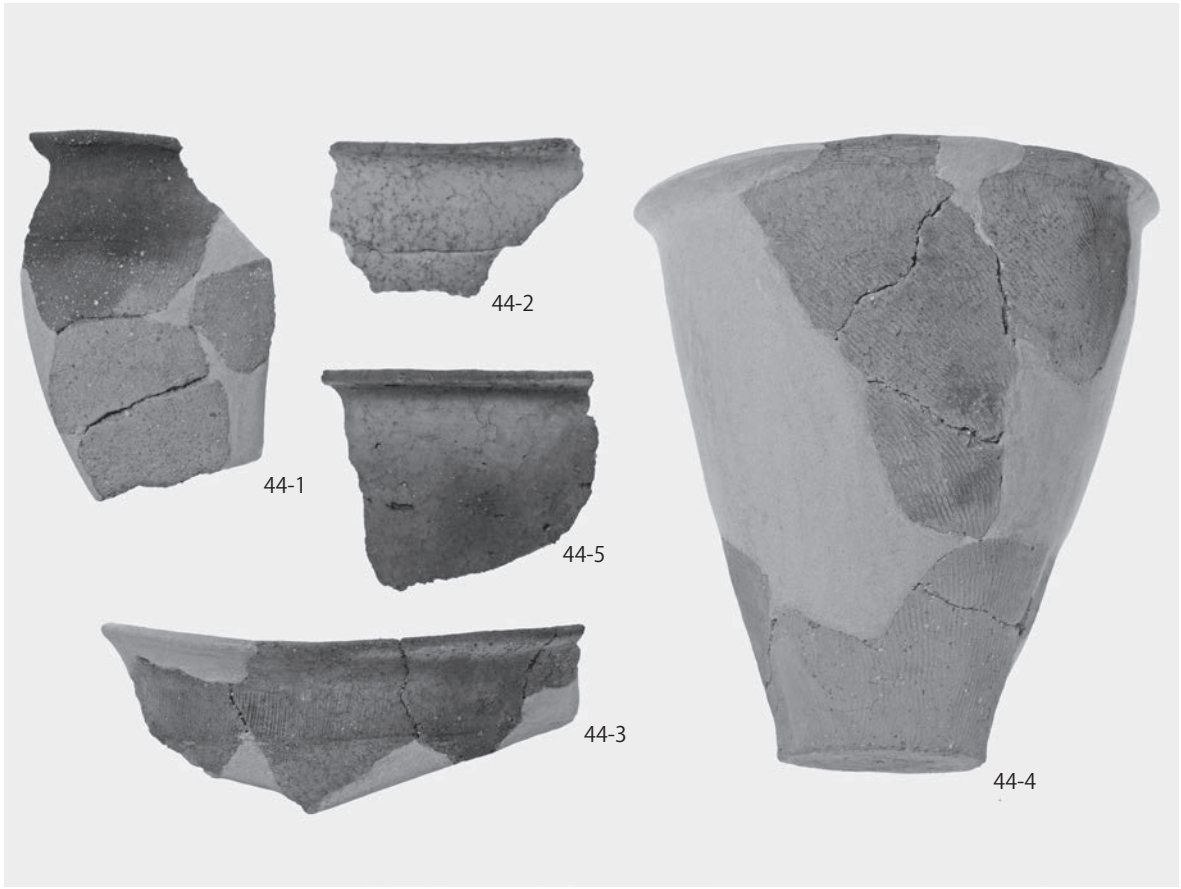
2　弥生・古墳時代遺構出土遺物（30）



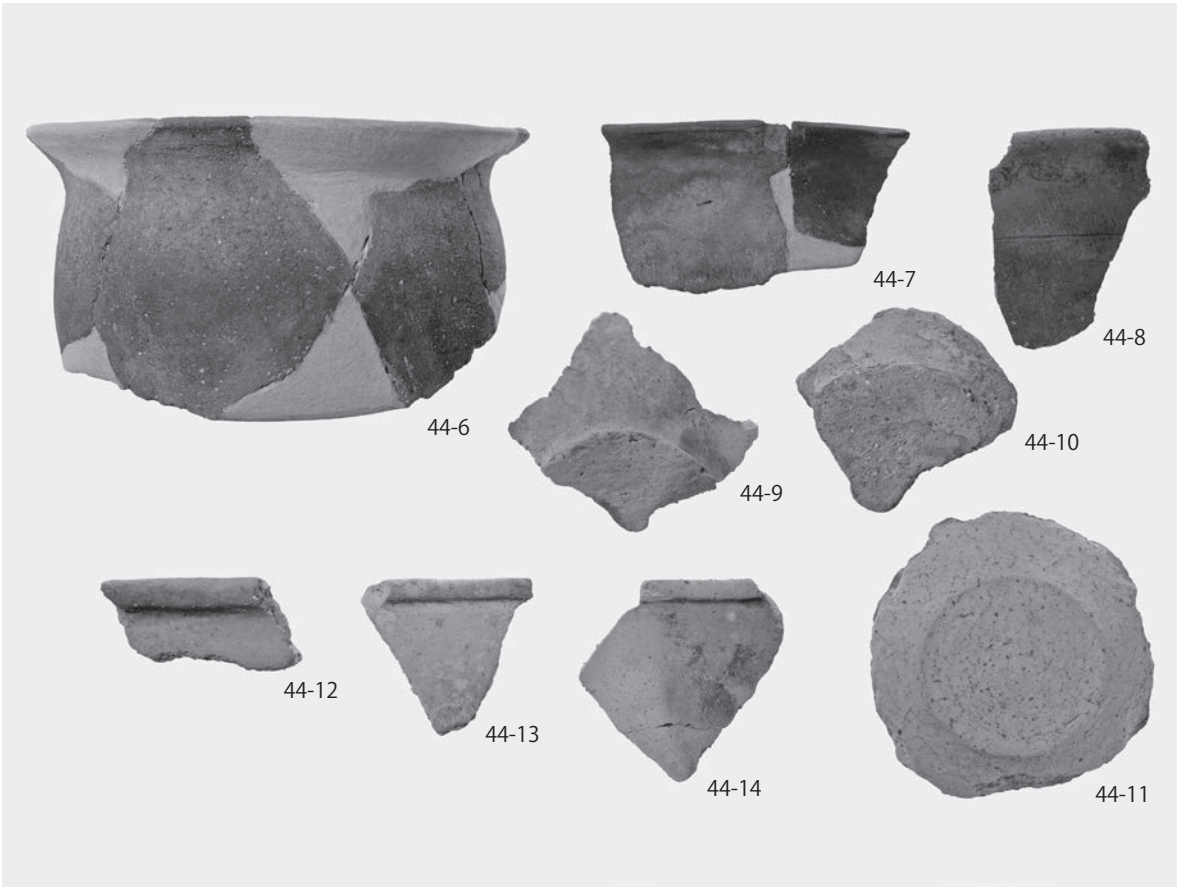
1　弥生・古墳時代遺構出土遺物（31）

2　弥生・古墳時代遺構出土遺物（32）

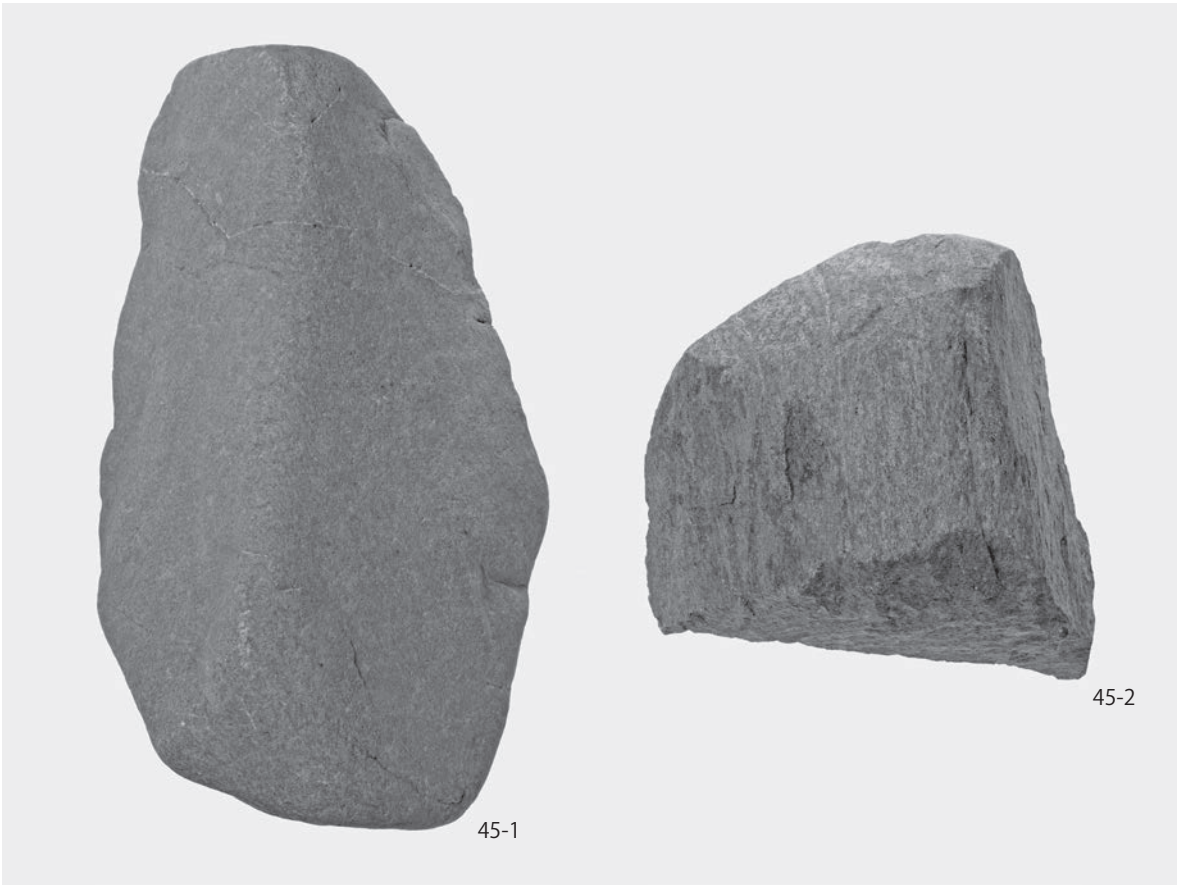
1　弥生・古墳時代遺構出土遺物（33）



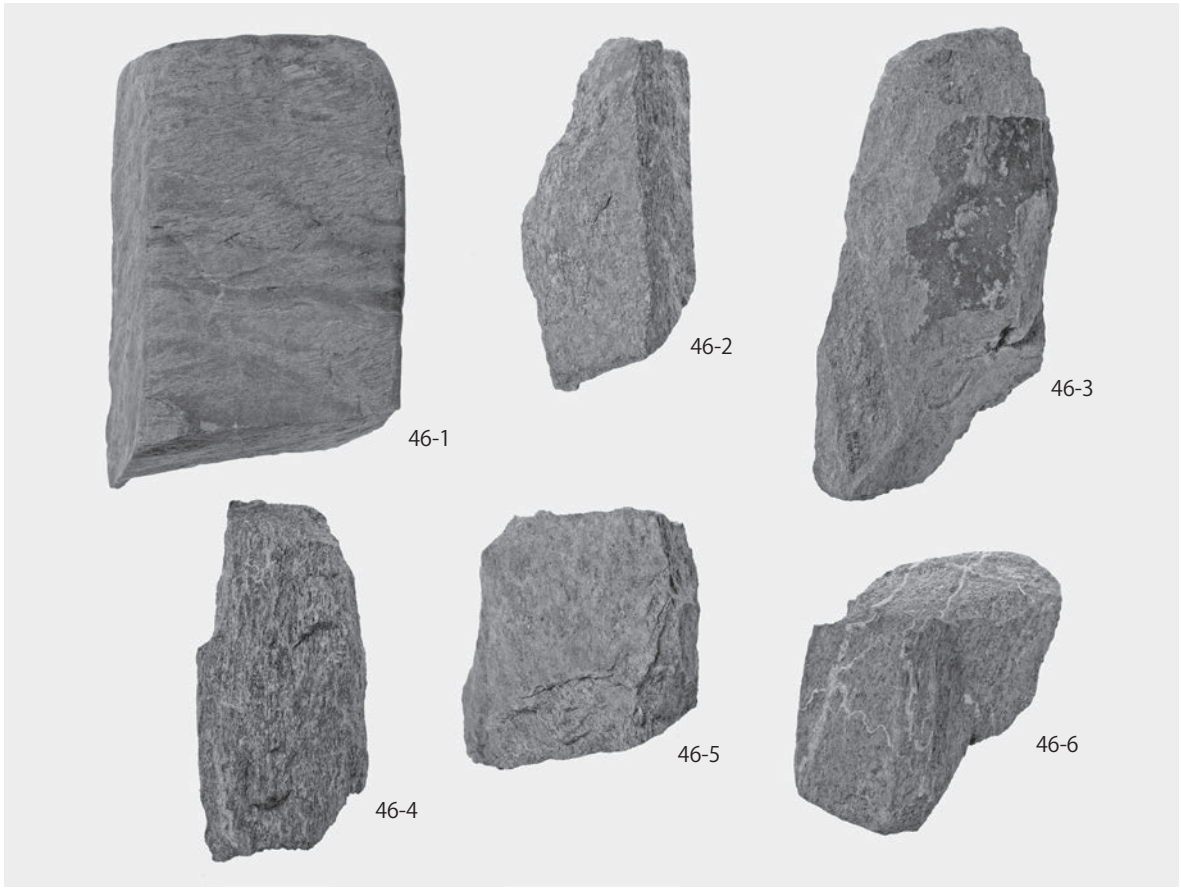
2　弥生・古墳時代遺構出土遺物（34）



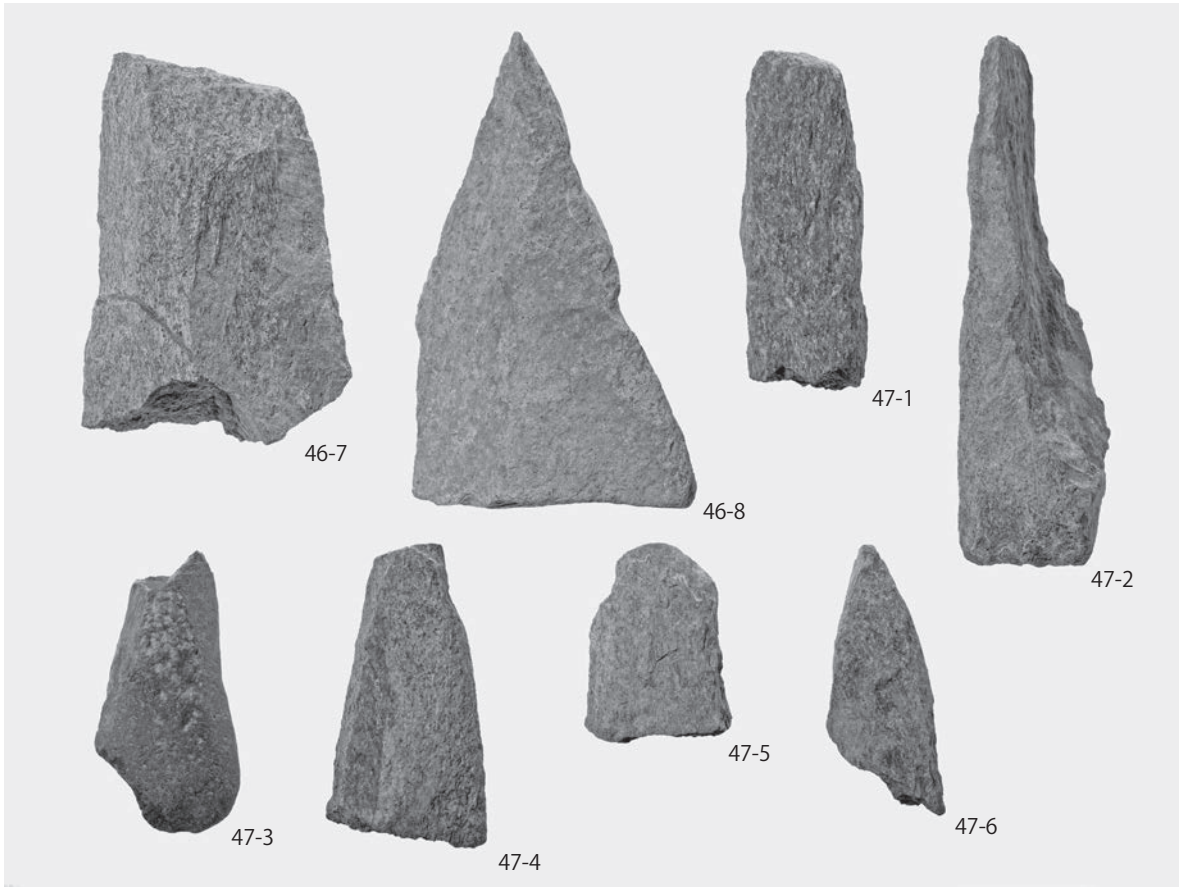
1　弥生・古墳時代遺構出土遺物（35）



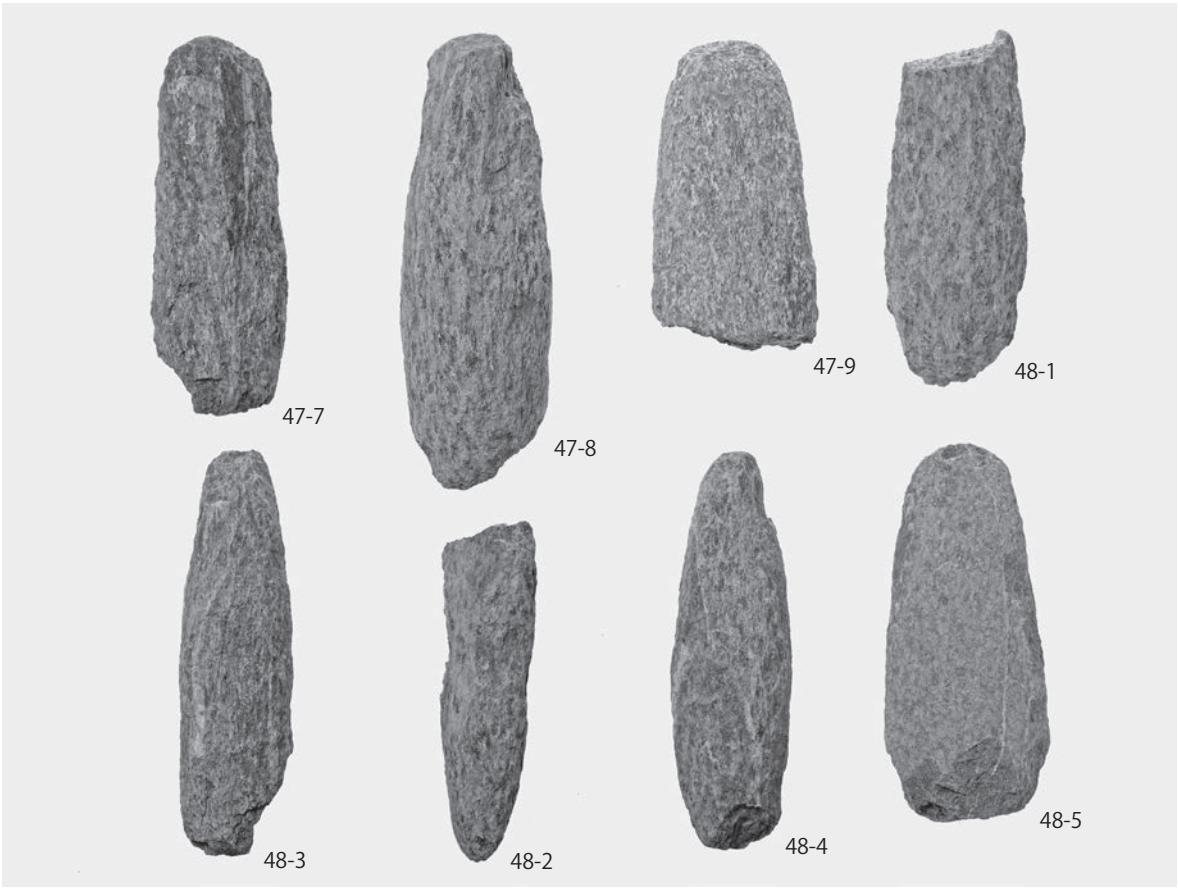
2　弥生・古墳時代遺構出土遺物（36）



1　弥生・古墳時代遺構出土遺物（37）



2　弥生・古墳時代遺構出土遺物（38）



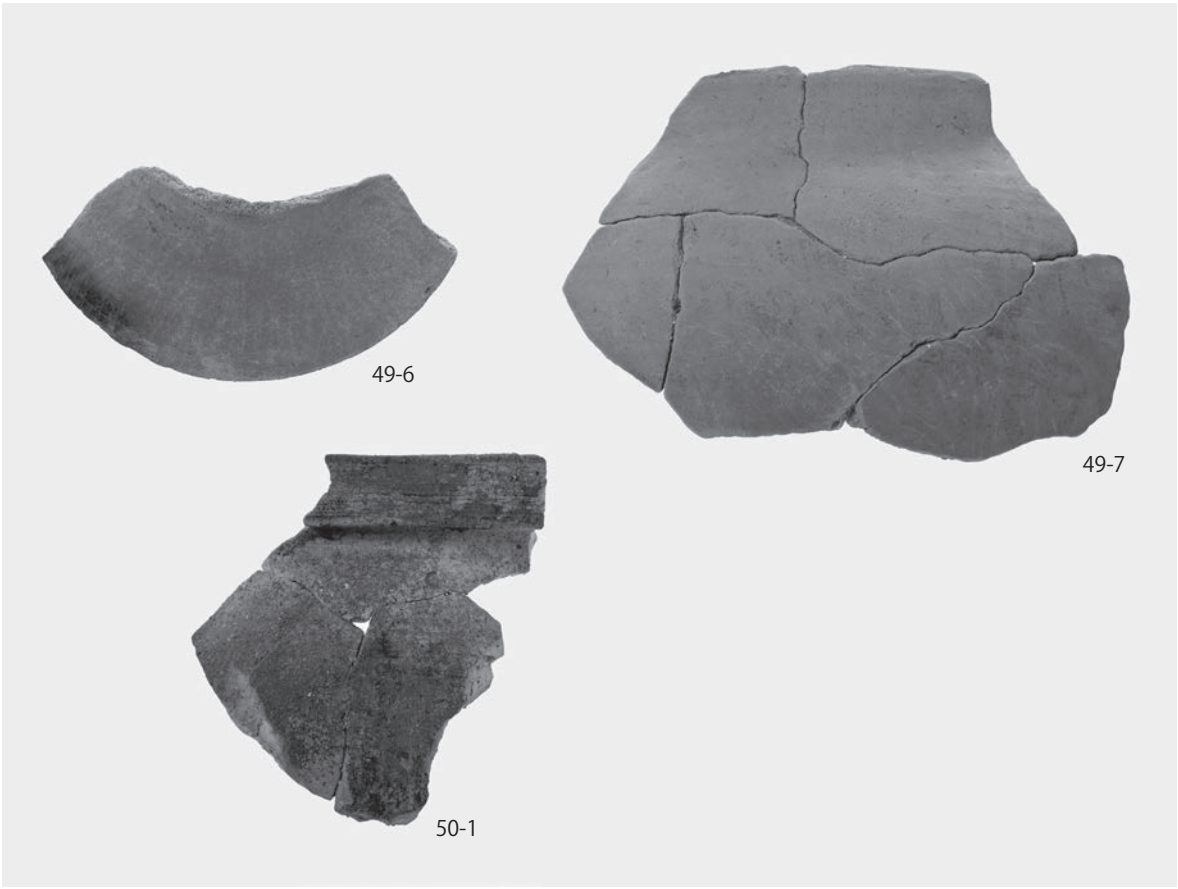
1　弥生・古墳時代遺構出土遺物（39）

2　弥生・古墳時代遺構出土遺物（40）

1　弥生・古墳時代遺構出土遺物（41）

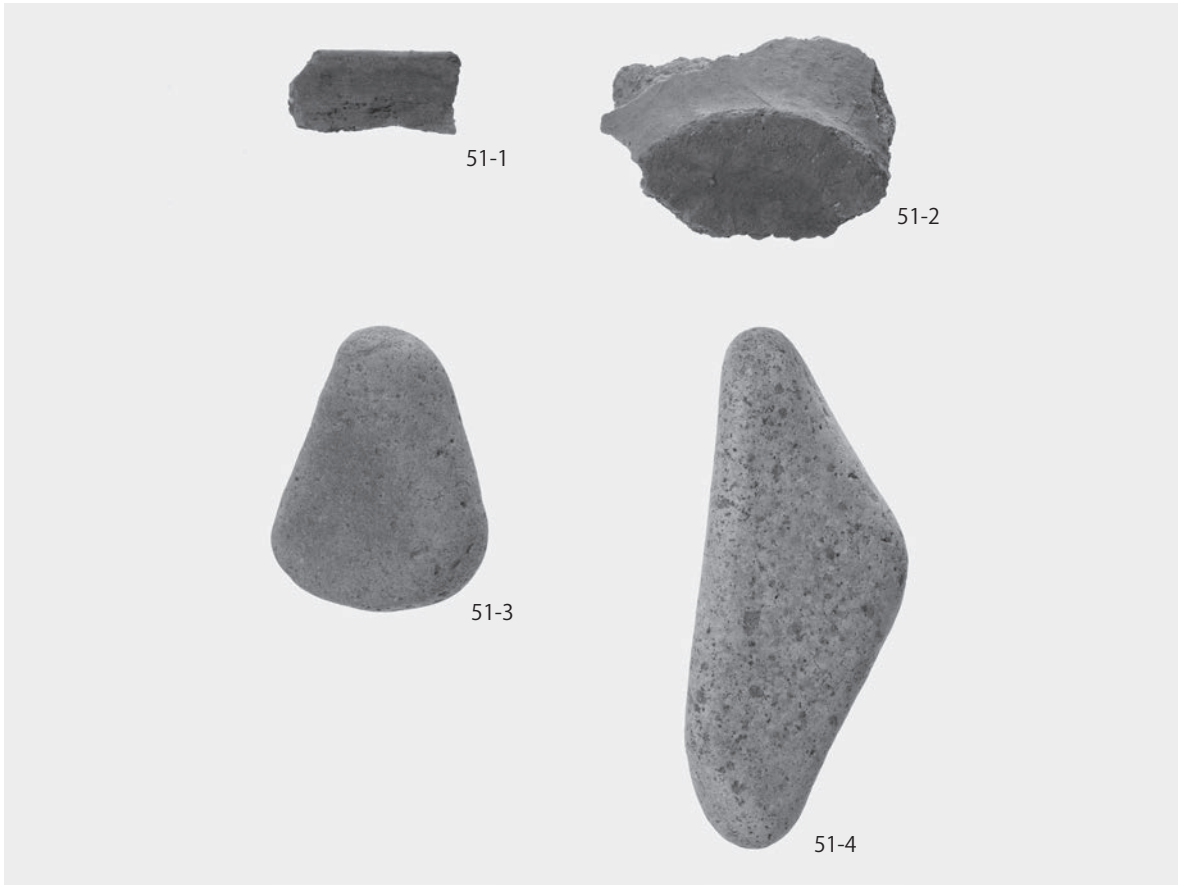
2　弥生・古墳時代遺構出土遺物（42）

1　弥生・古墳時代遺構出土遺物（43）

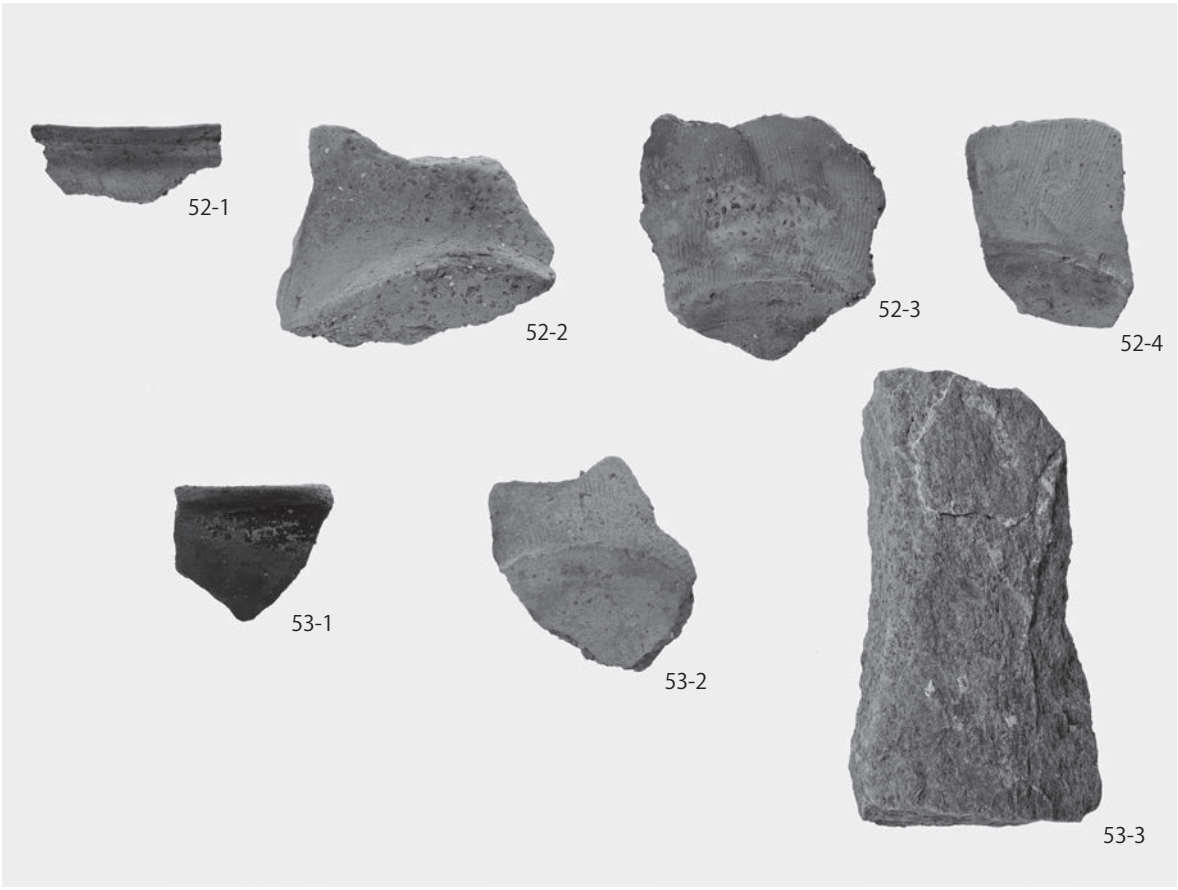


2　弥生・古墳時代遺構出土遺物（44）

1　弥生・古墳時代遺構出土遺物（45）

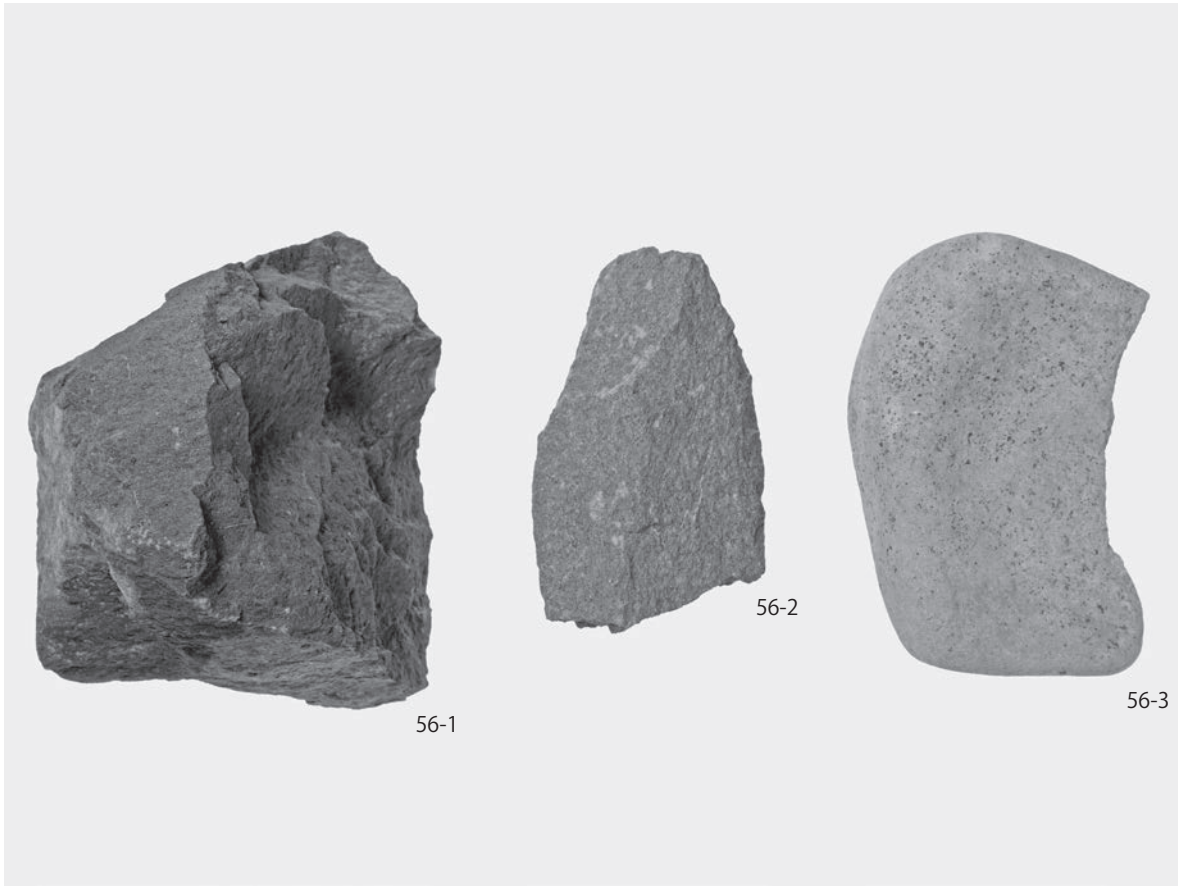


2　弥生・古墳時代遺構出土遺物（46）

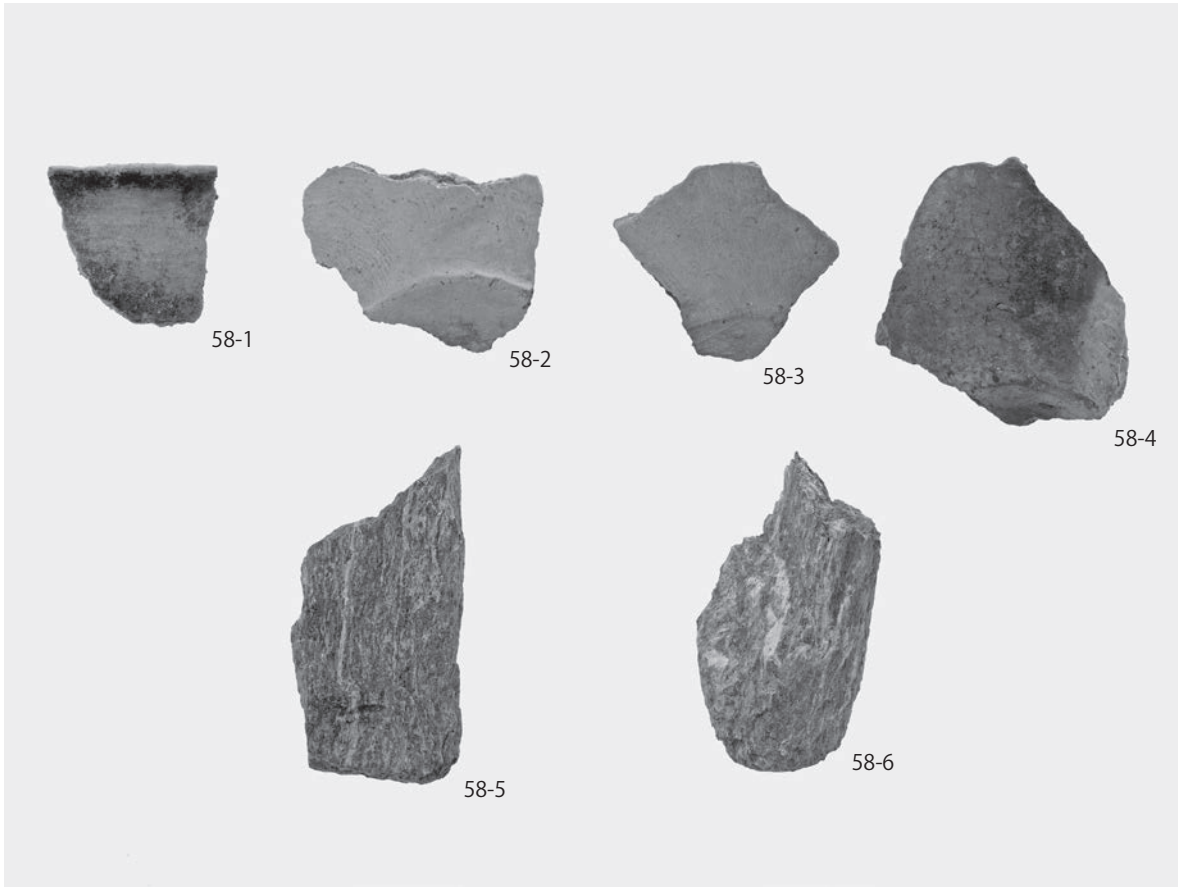


1　弥生・古墳時代遺構出土遺物（47）

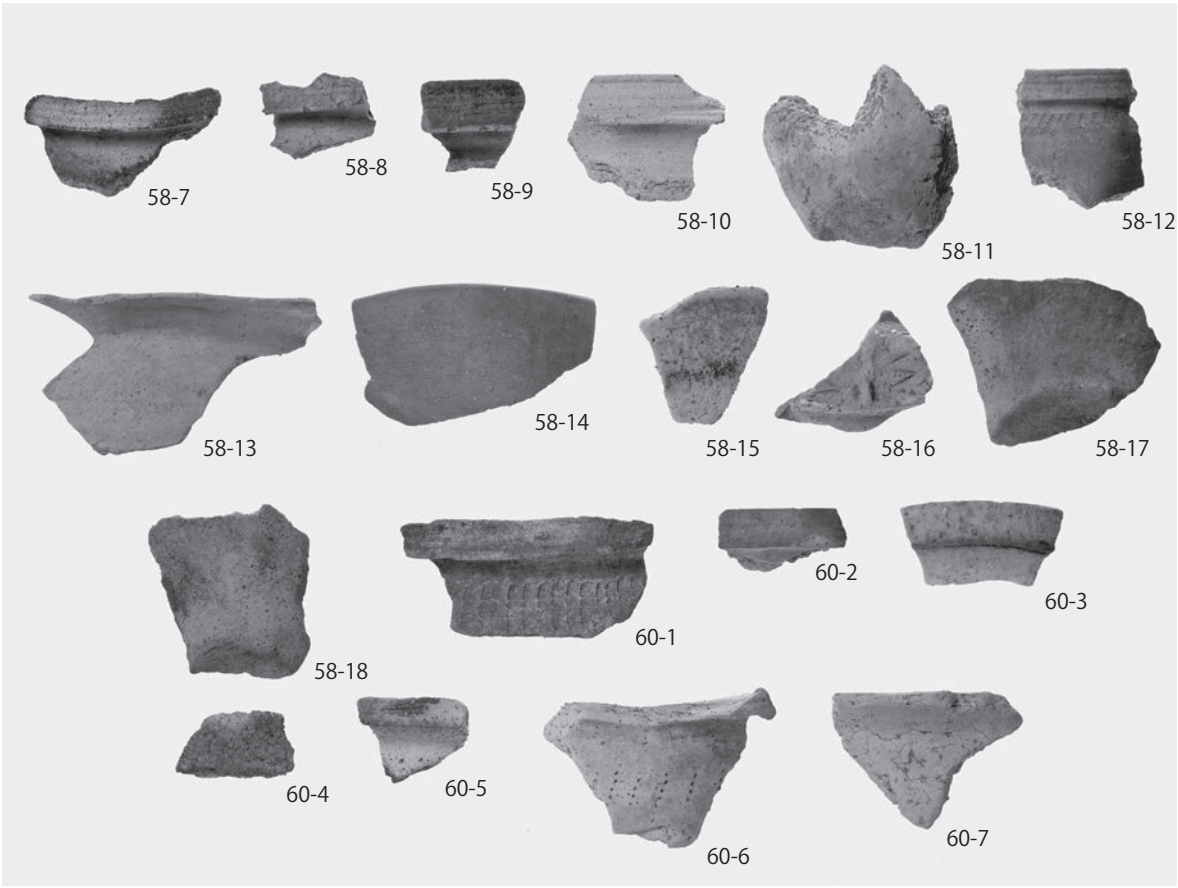
2　弥生・古墳時代遺構出土遺物（48）



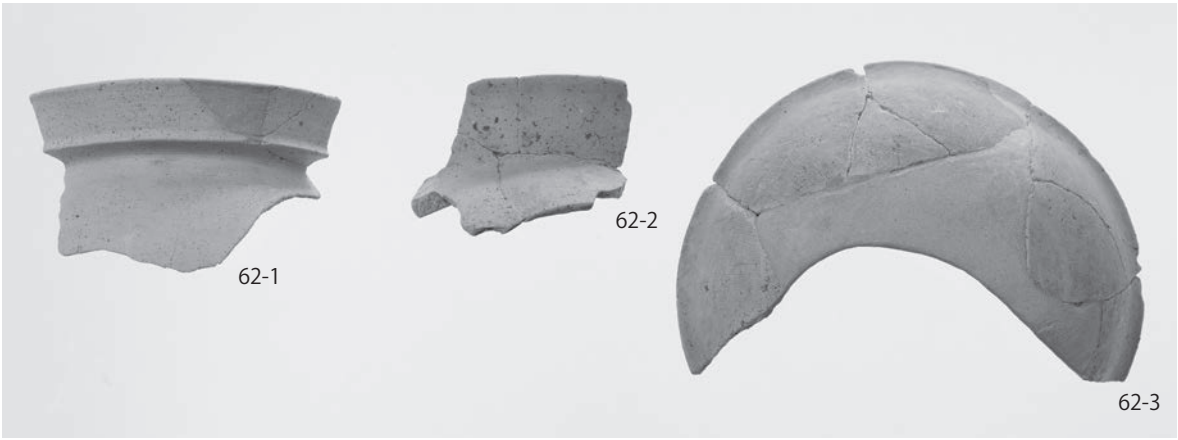
1　弥生・古墳時代遺構出土遺物（49）

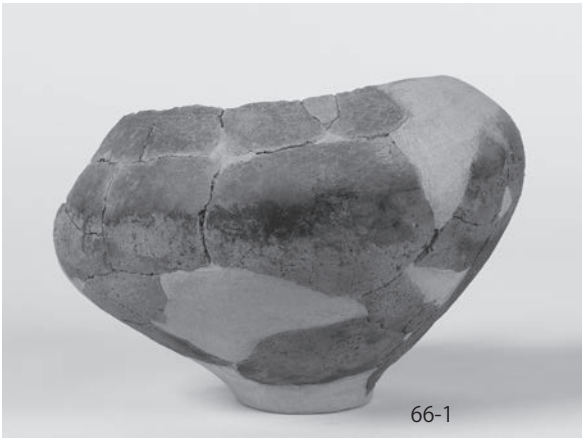


2　弥生・古墳時代遺構出土遺物（50）



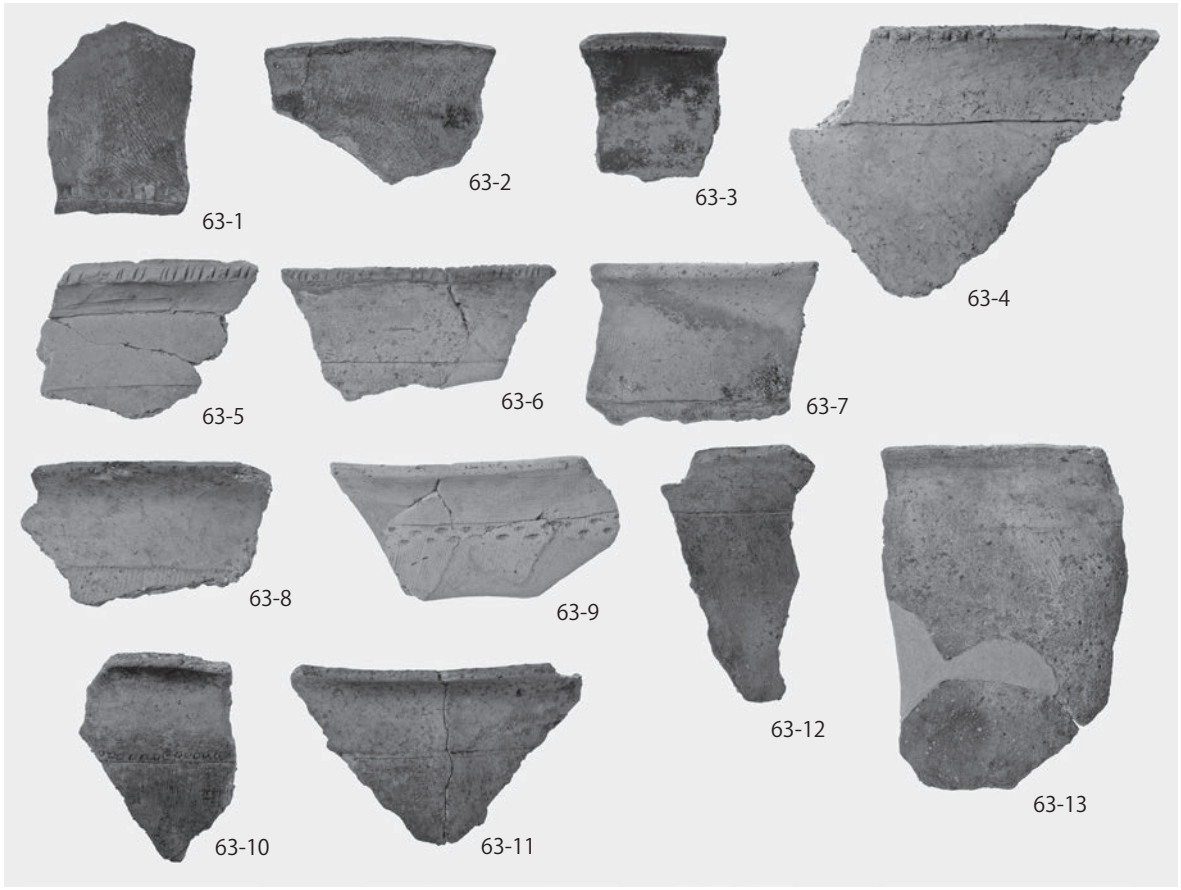
1　弥生・古墳時代遺構出土遺物（51）



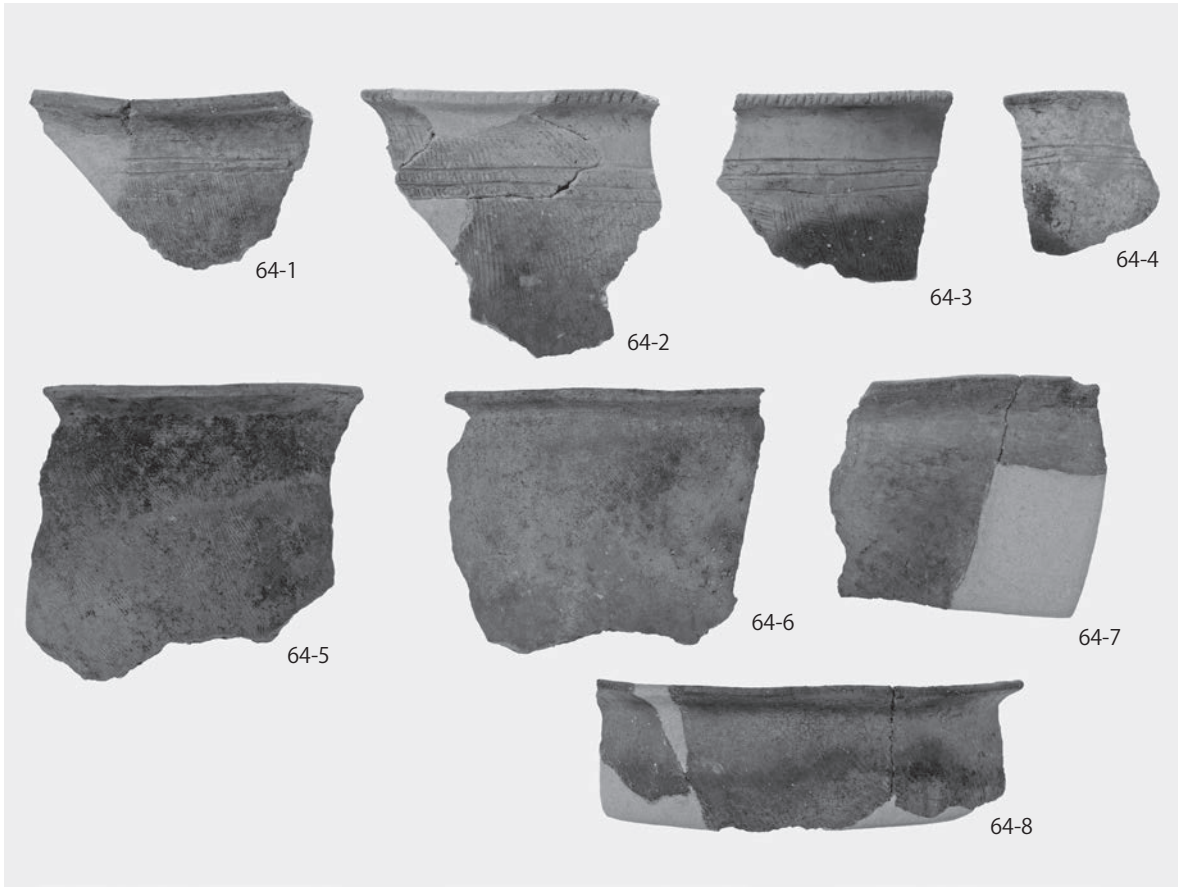


2　6・7層出土土師器・弥生土器

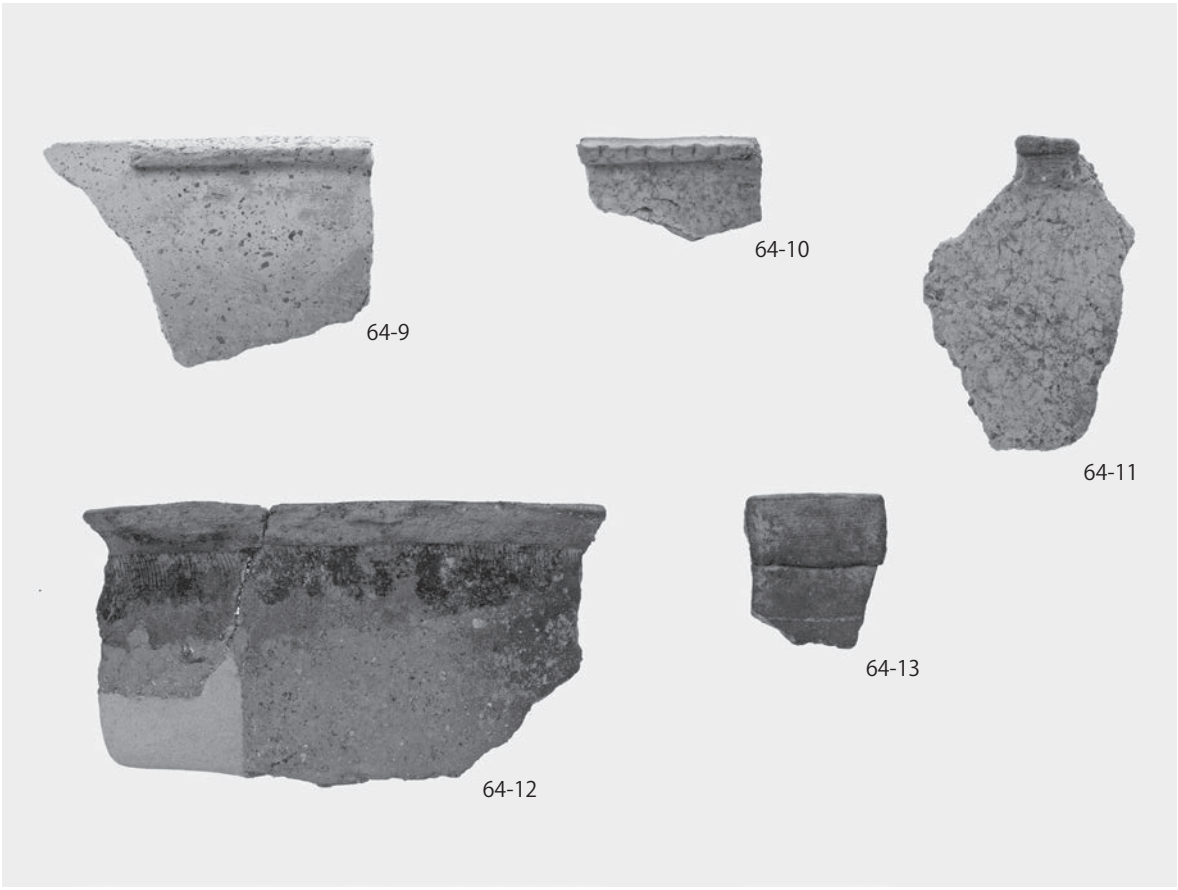
図版 46



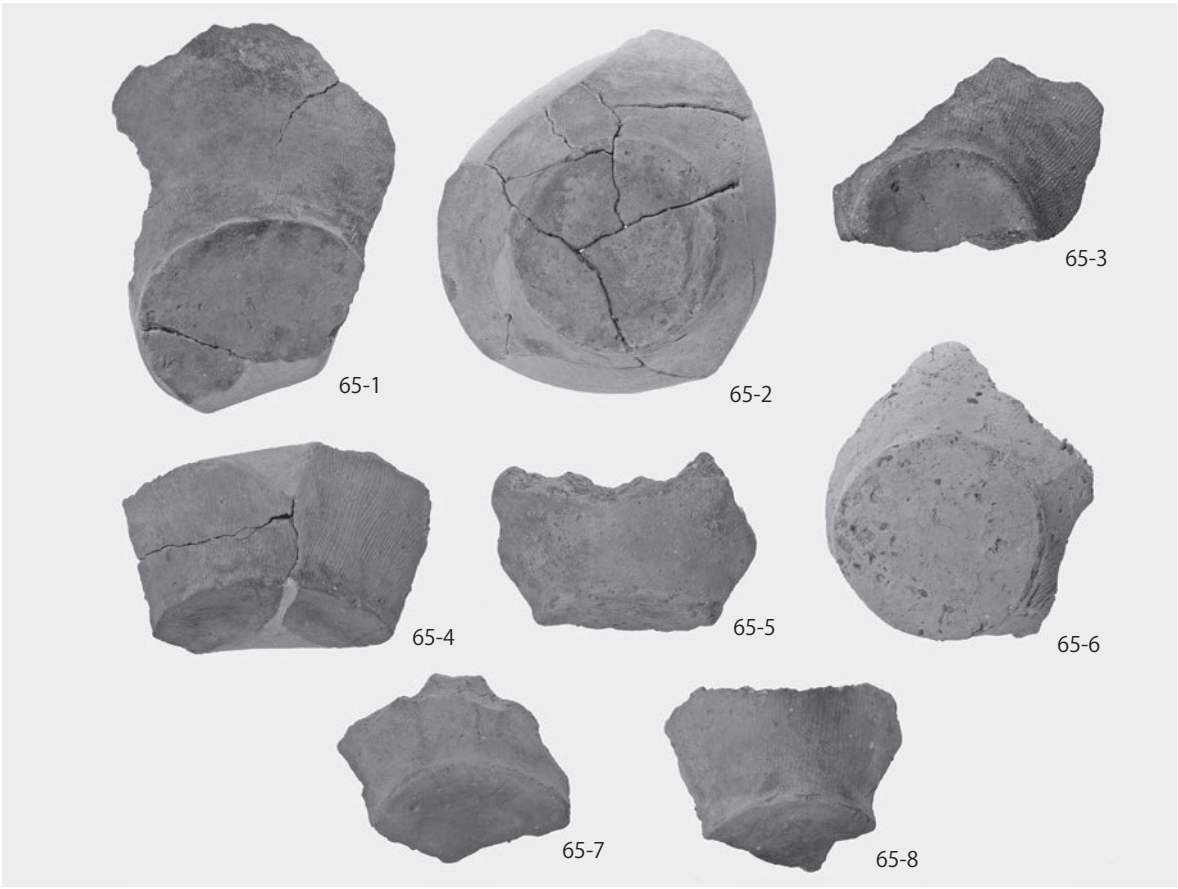
1　6・7層出土弥生土器



2　6・7層出土弥生土器

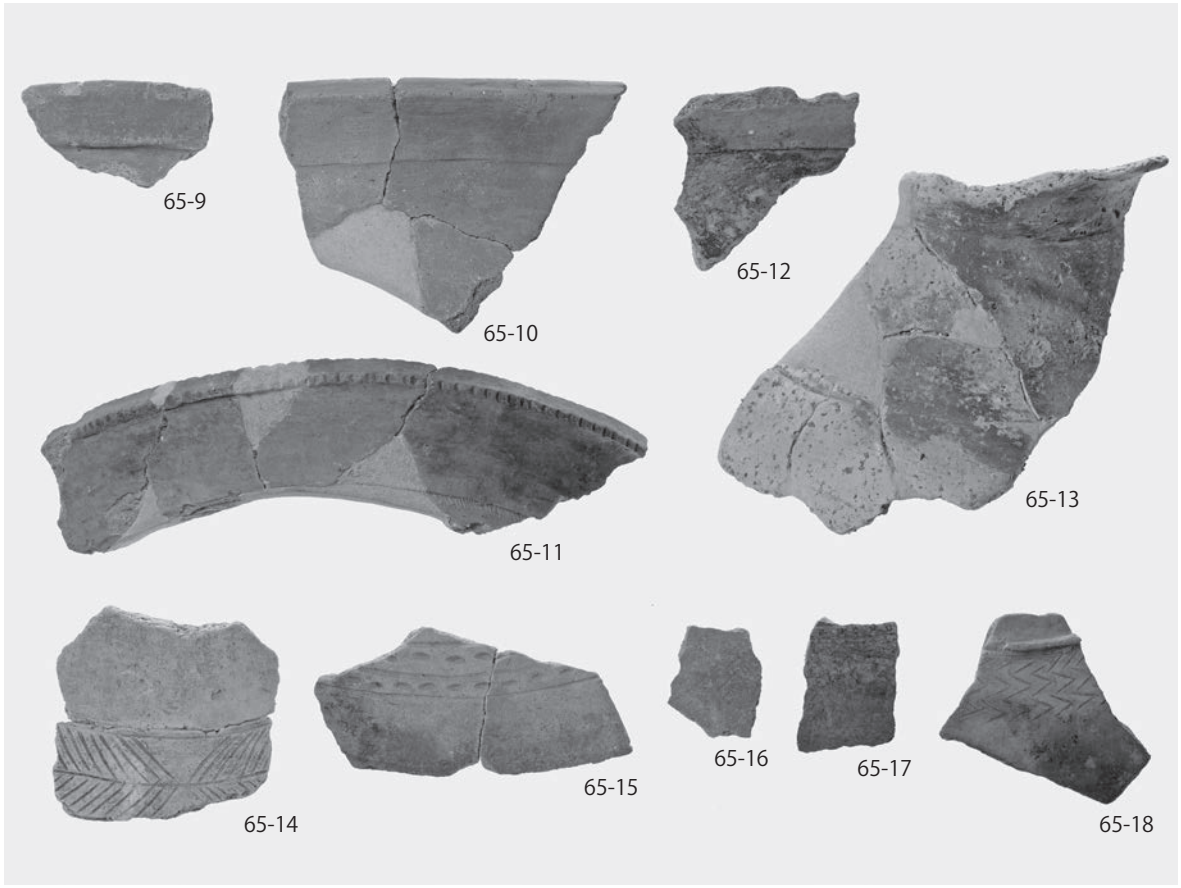


1　6・7層出土弥生土器

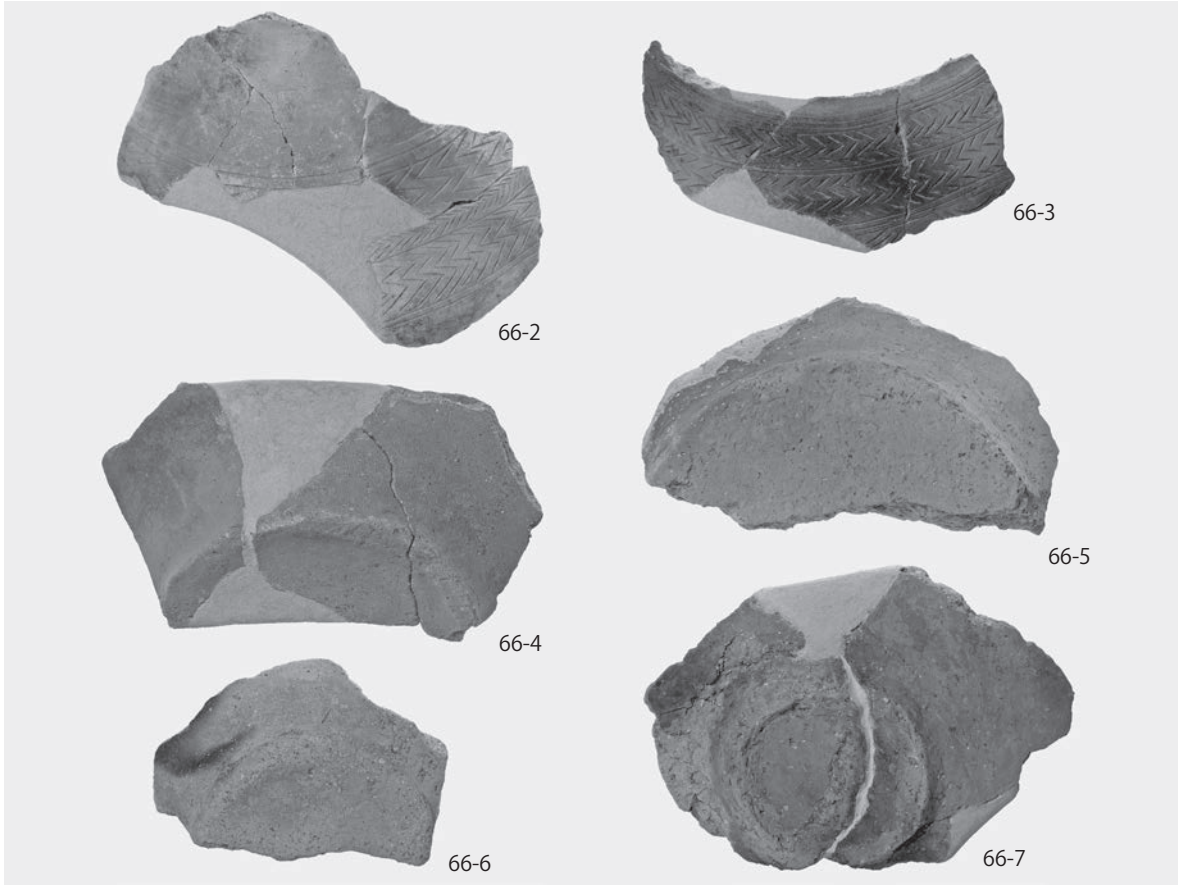


2　6・7層出土弥生土器

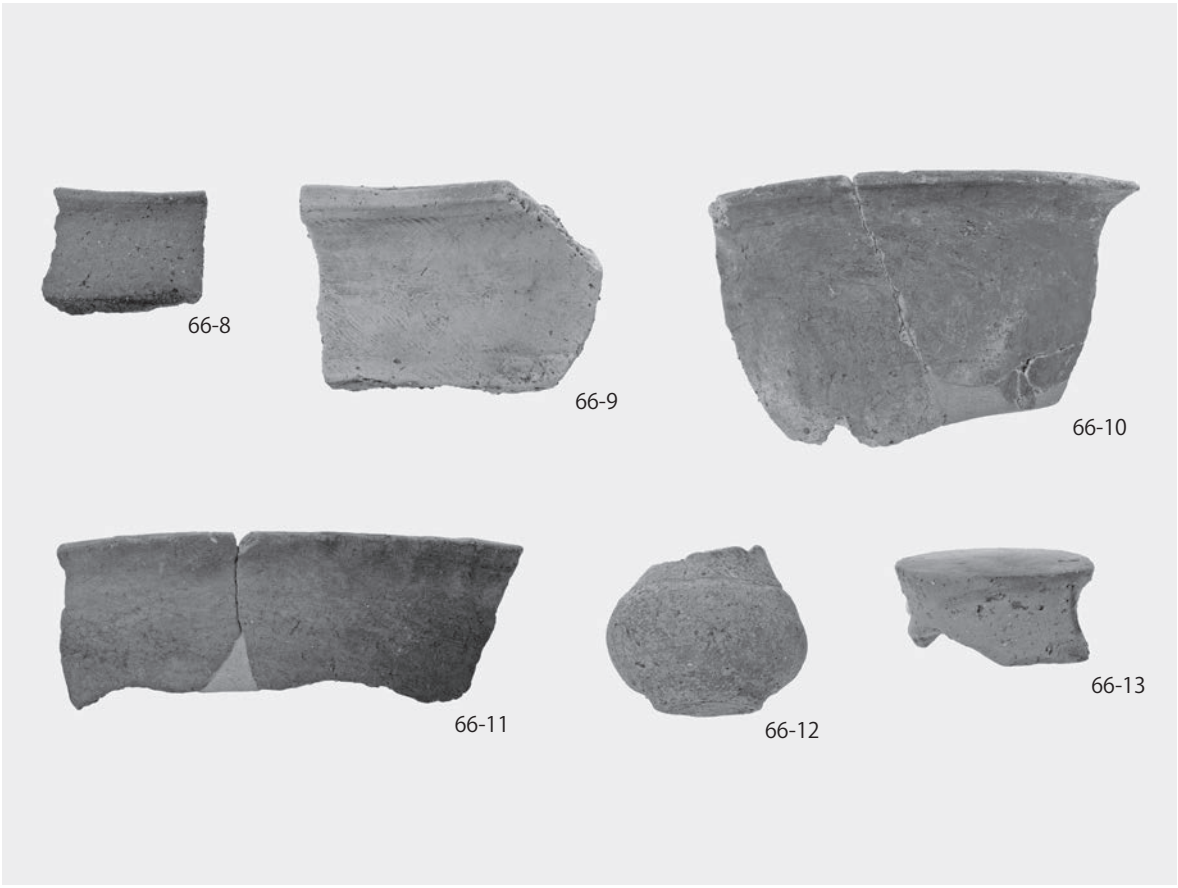
図版 48



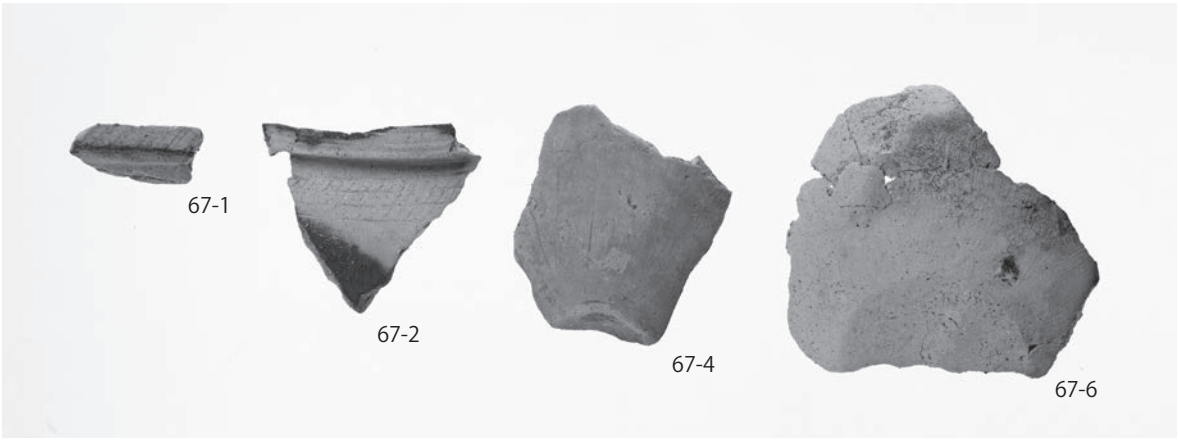
1　6・7層出土弥生土器

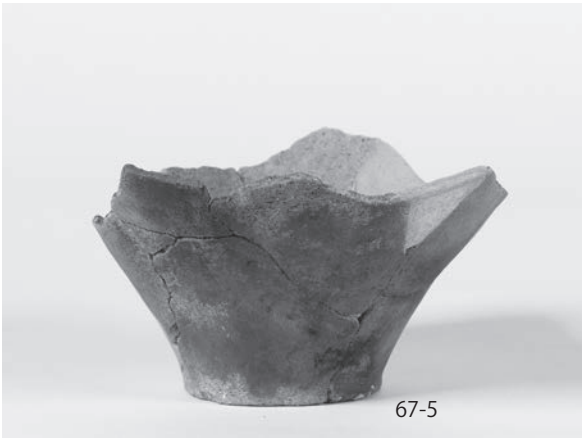


2　6・7層出土弥生土器

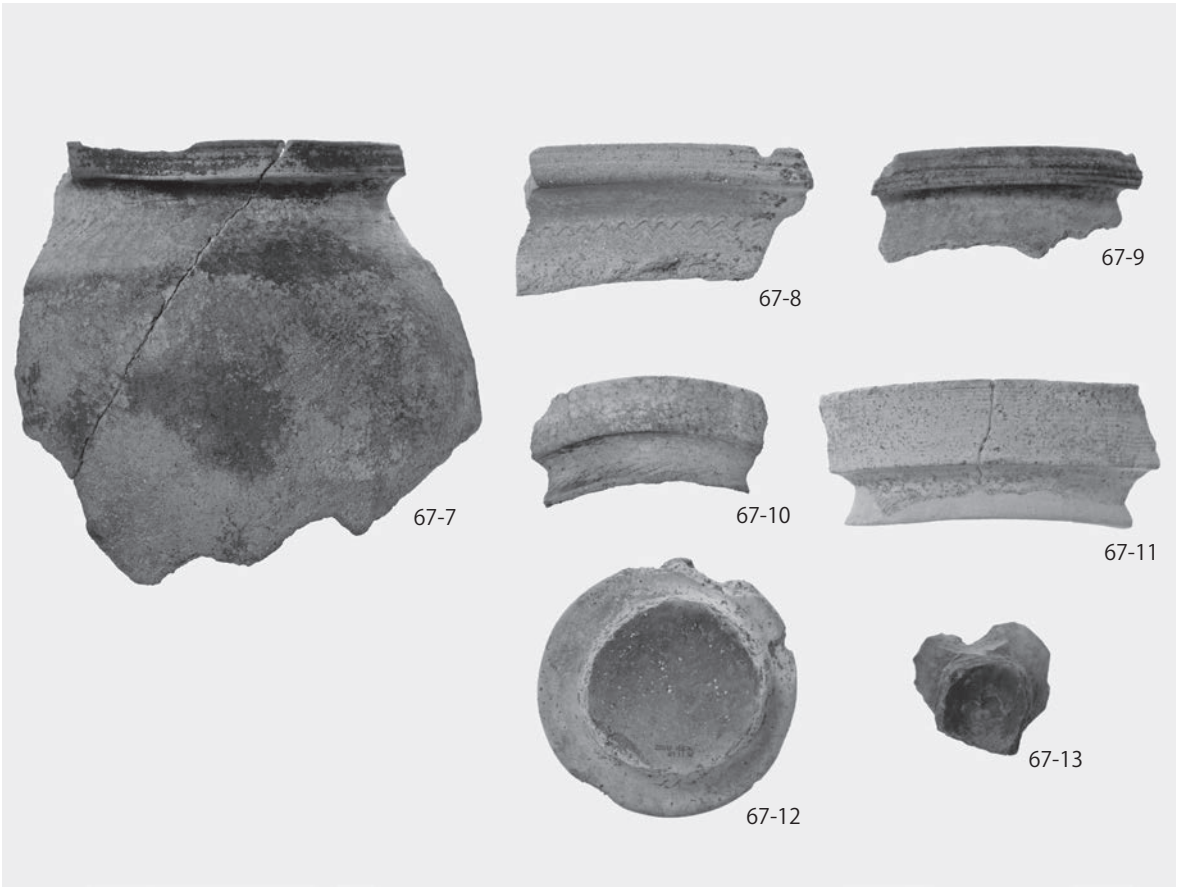


1　6・7層出土弥生土器

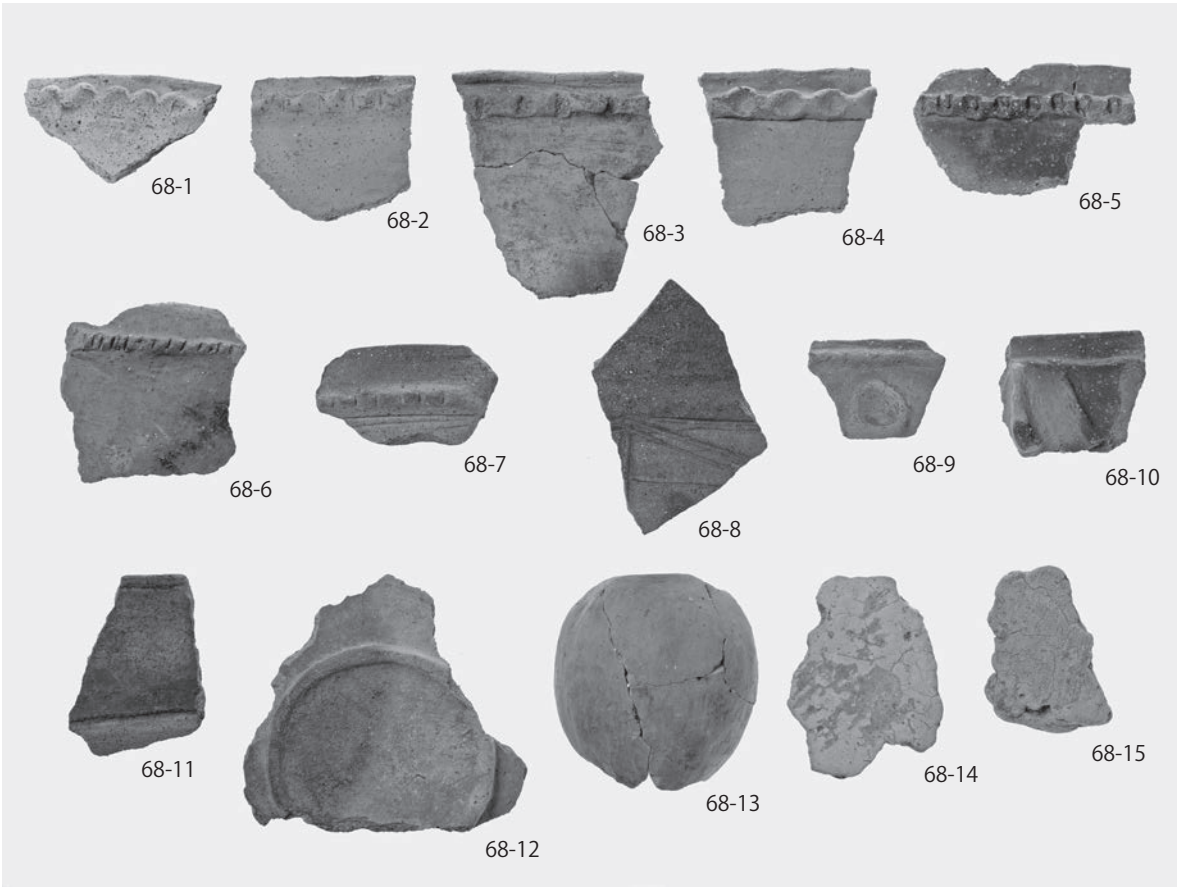




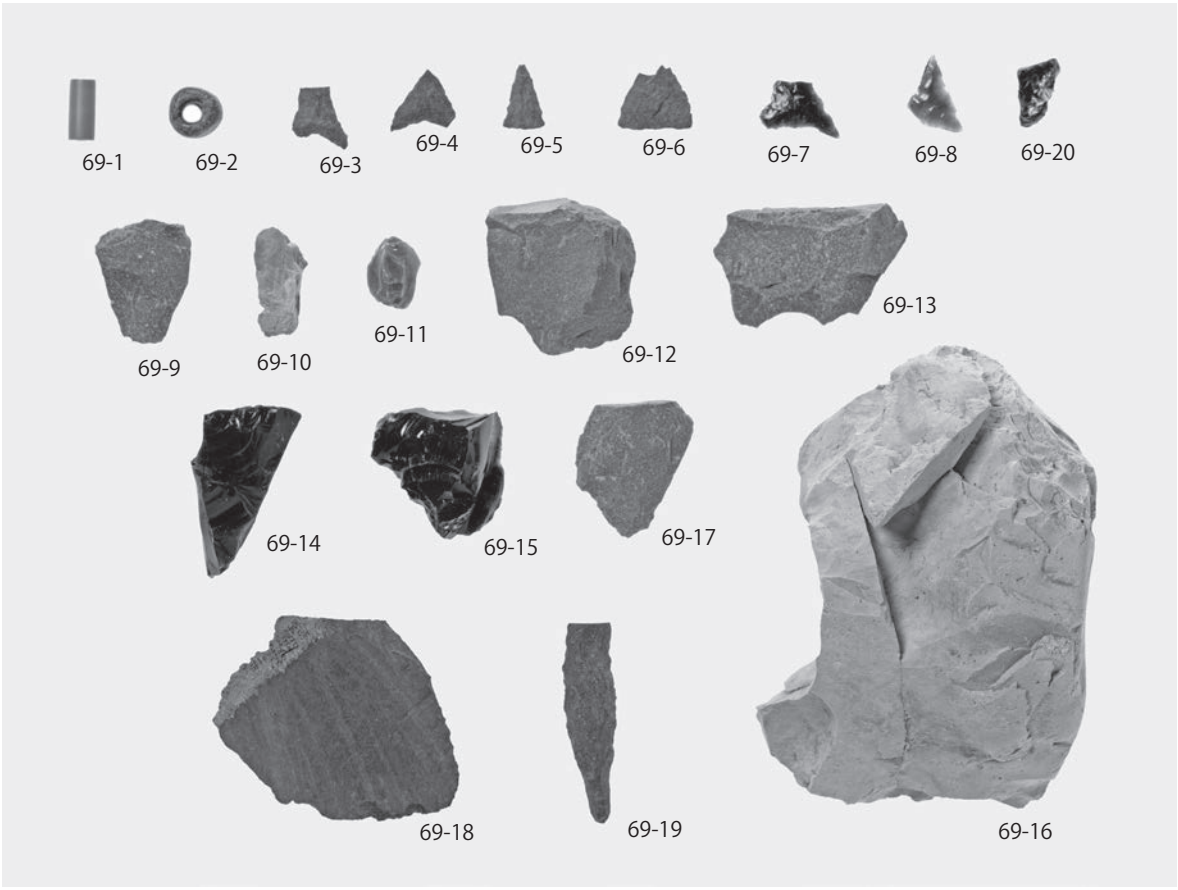
2　6・7層出土弥生土器



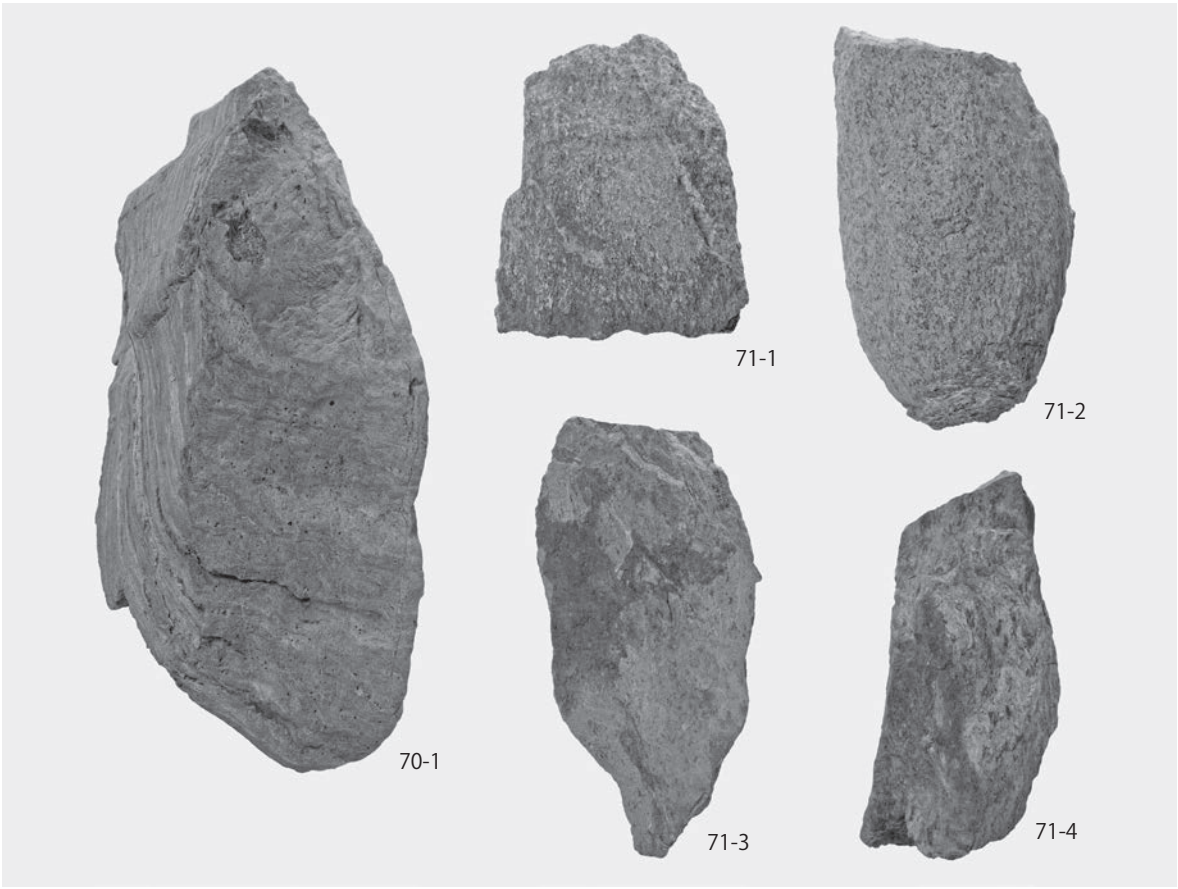
1　6・7層出土弥生土器



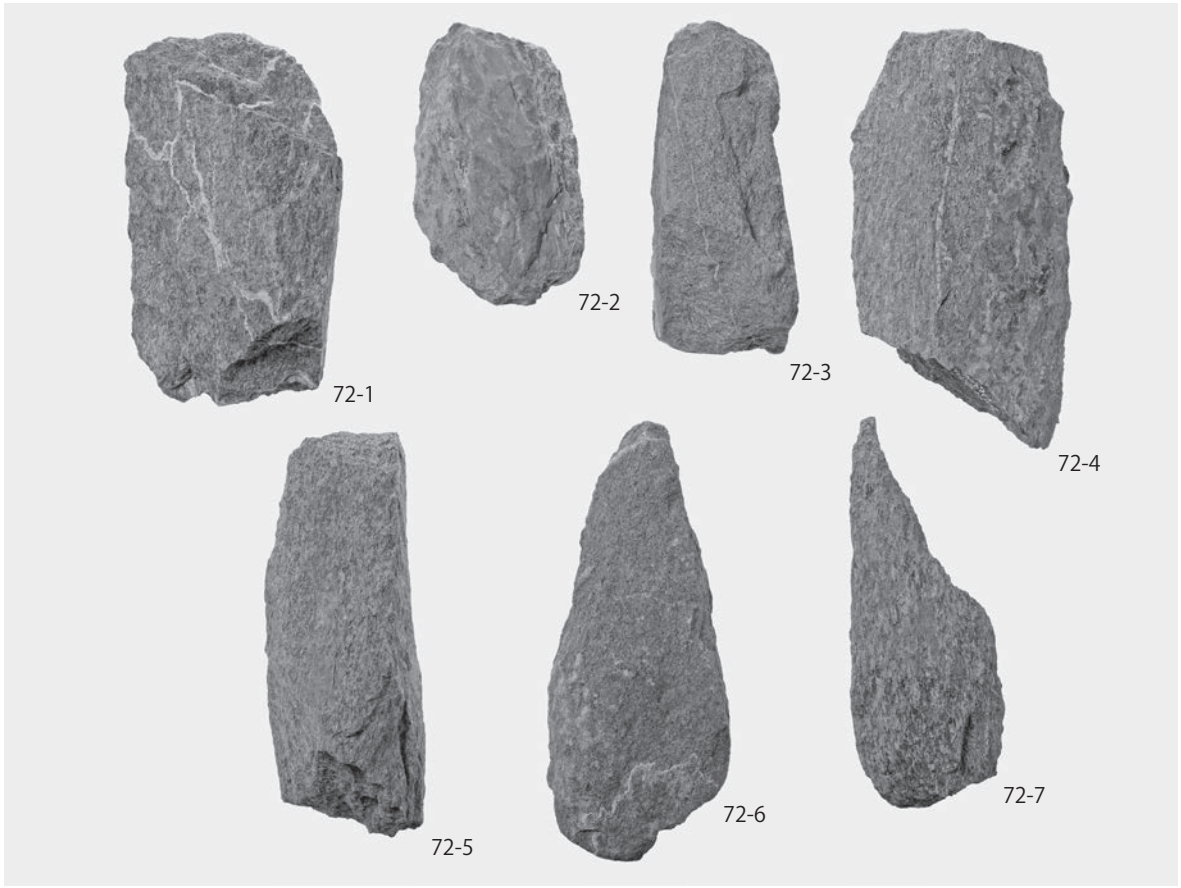
2　6・7層出土縄文土器・土製品



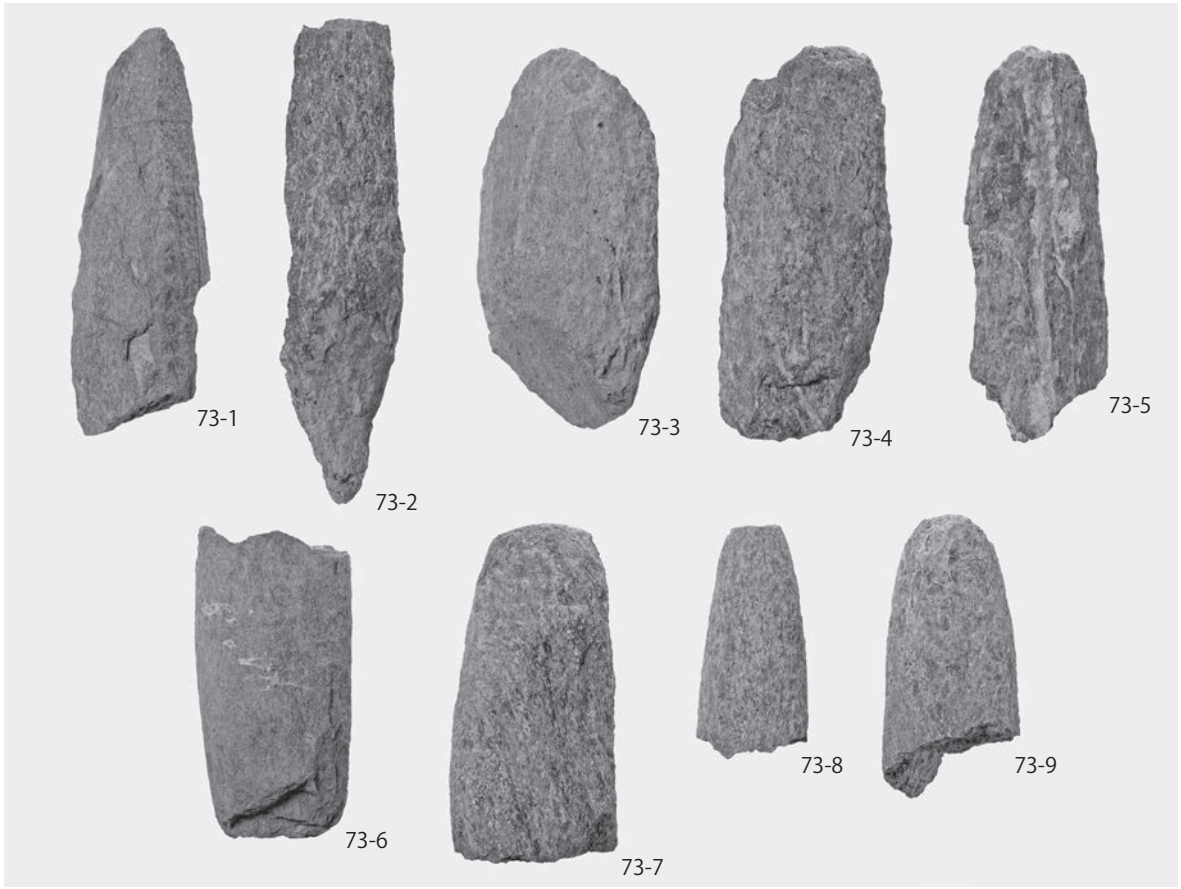
1　6・7層出土玉類・石器



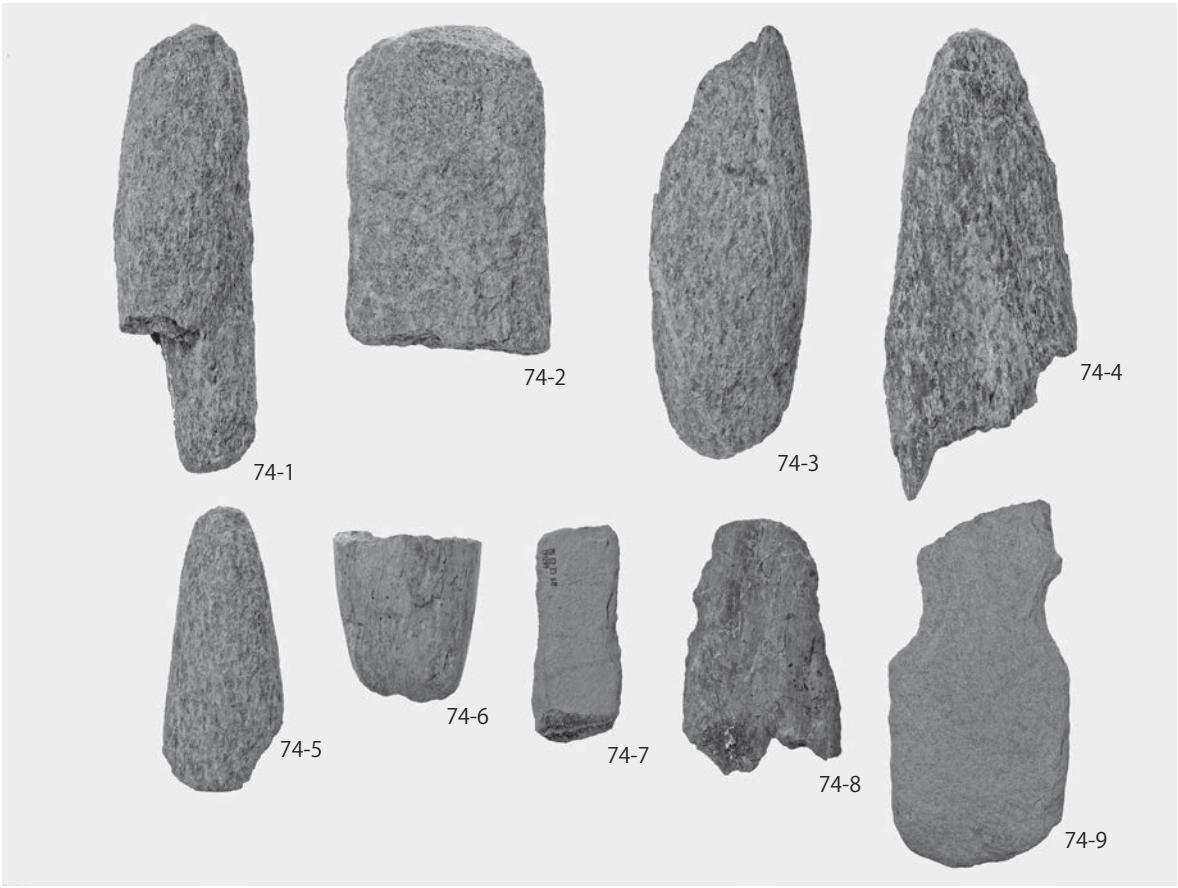
2　6・7層出土石器



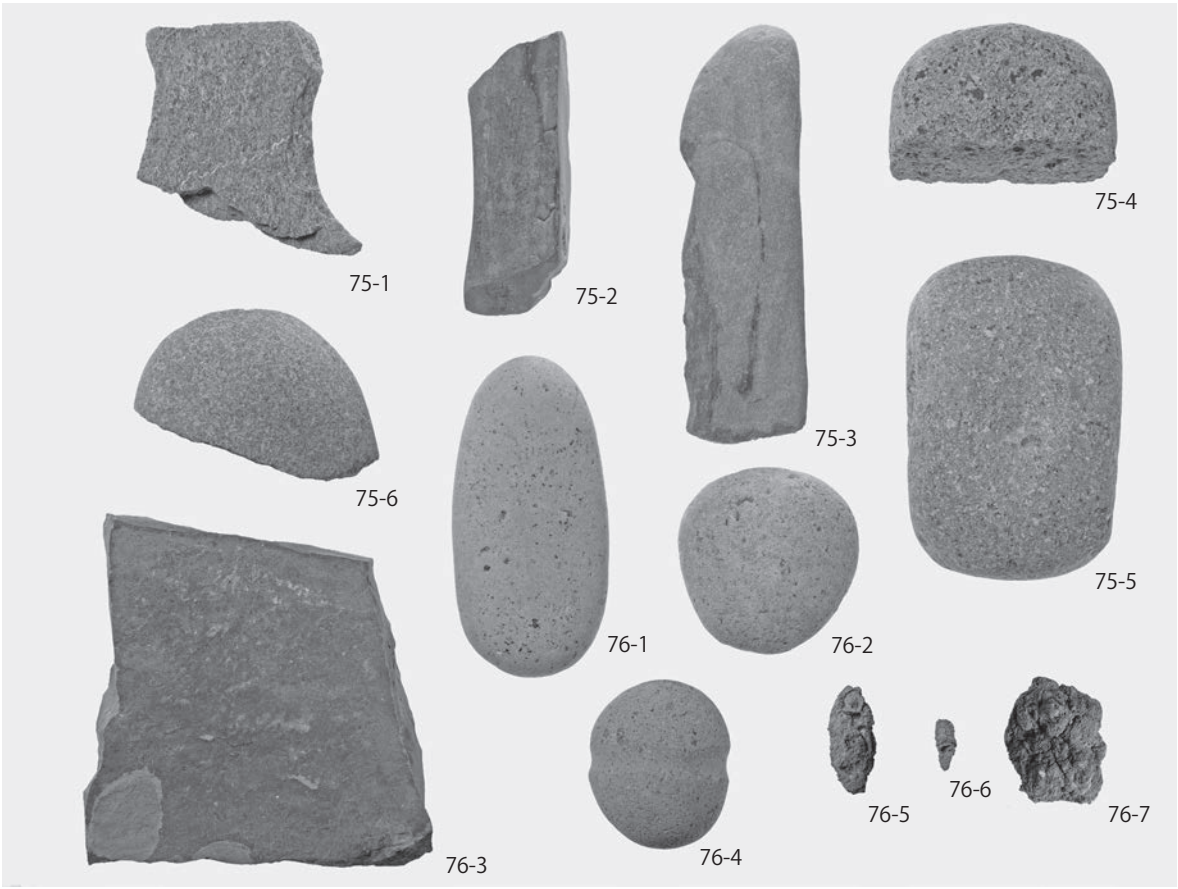
1　6・7層出土石器



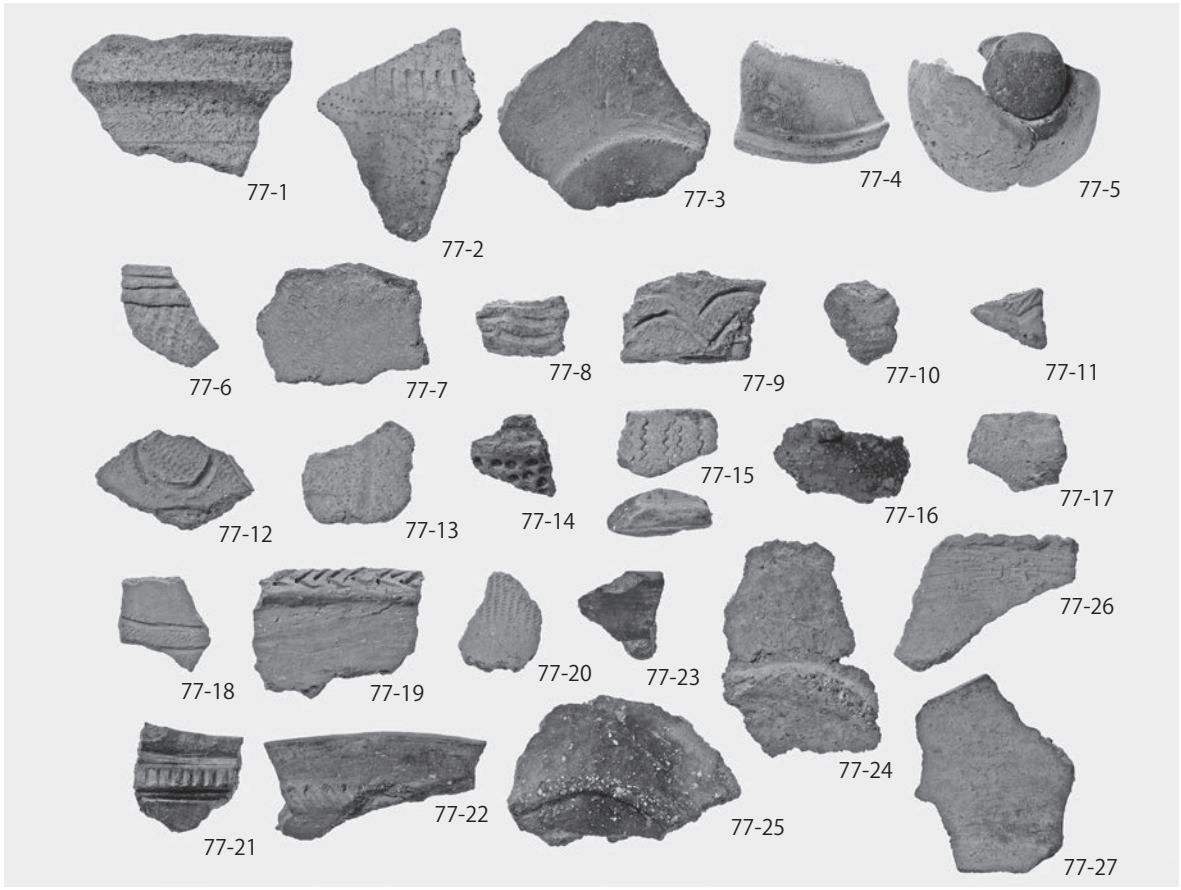
2　6・7層出土石器



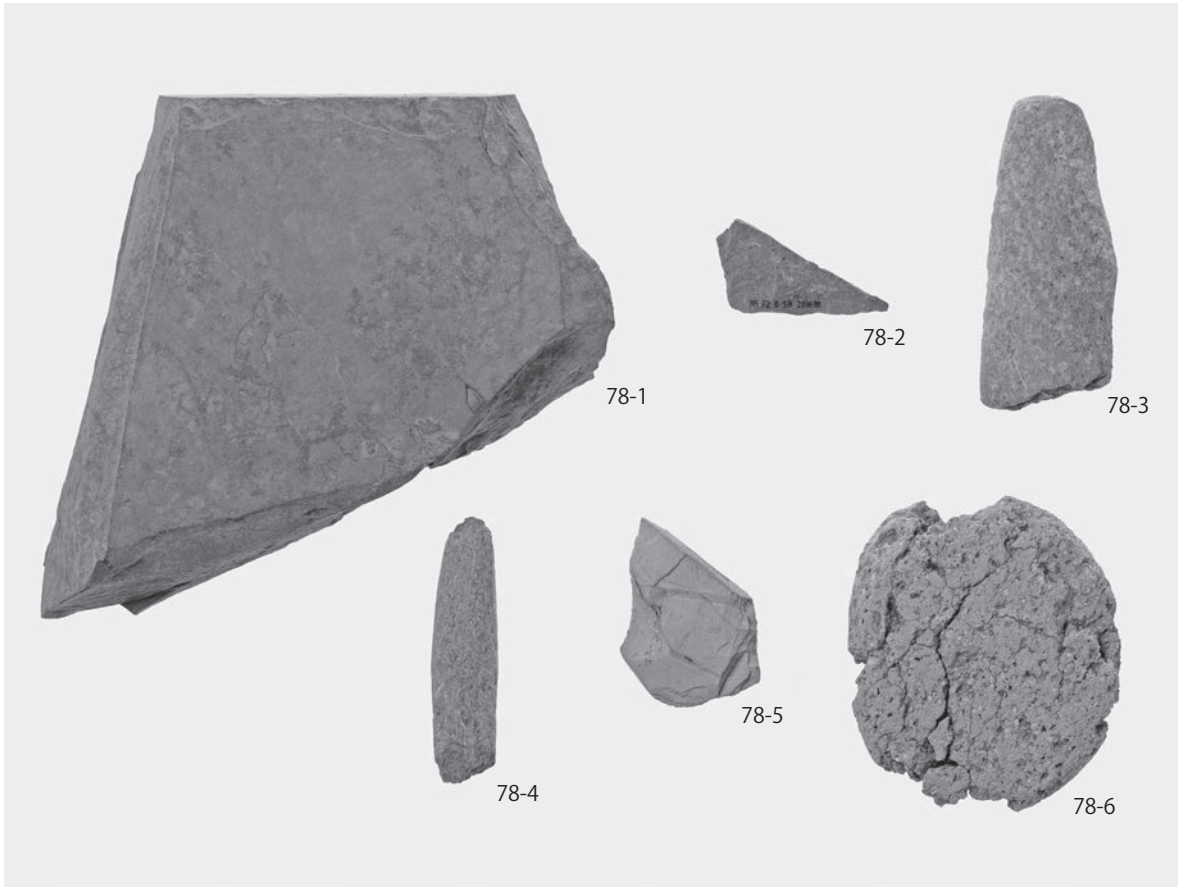
1　6・7層出土石器



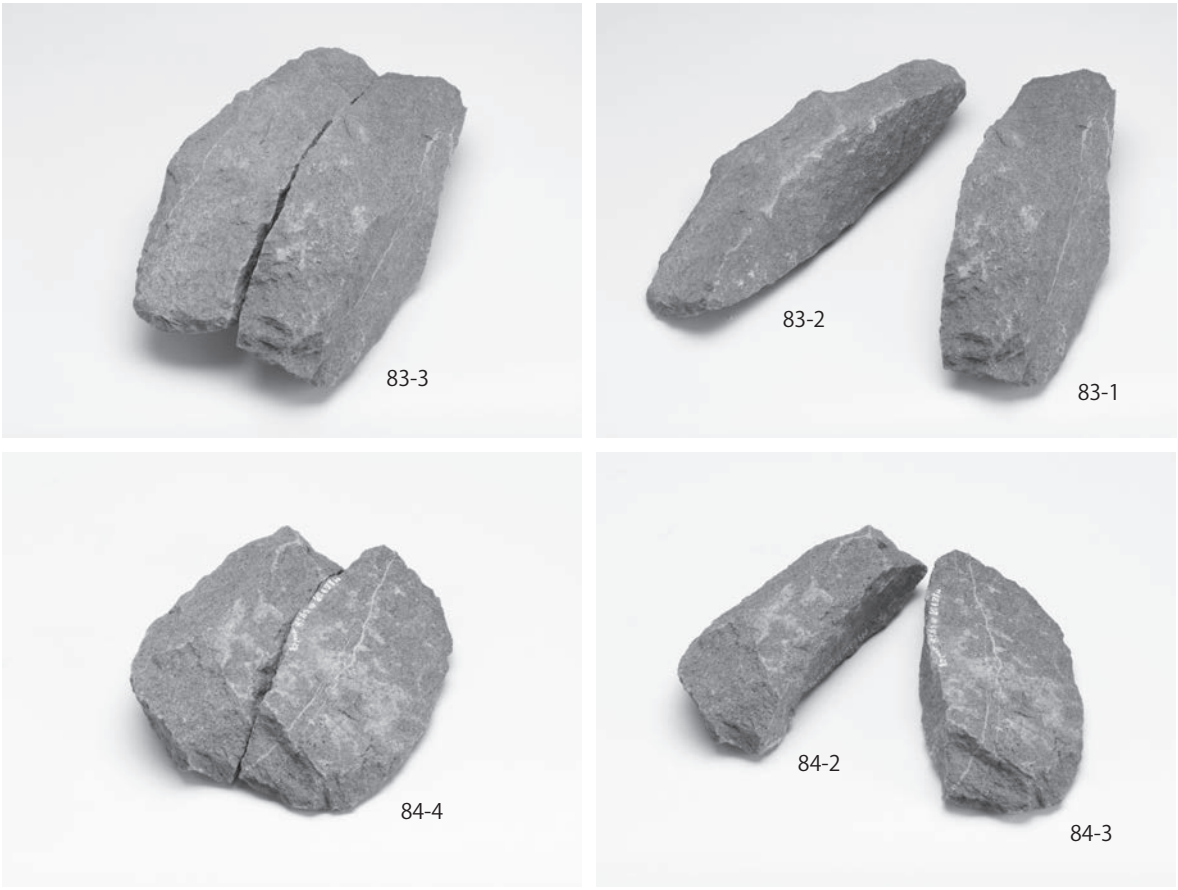
2　6・7層出土石器・鉄製品



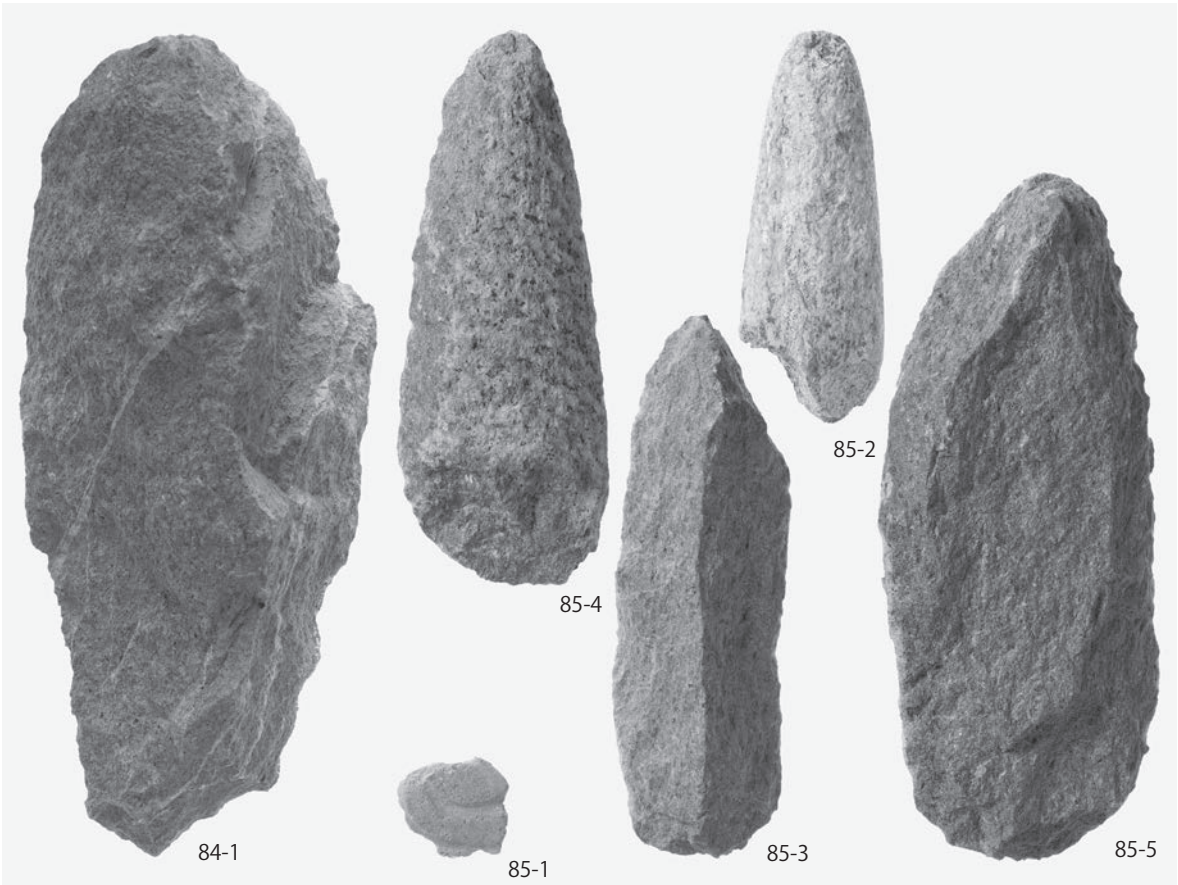
1　8～10 層出土弥生土器・縄文土器



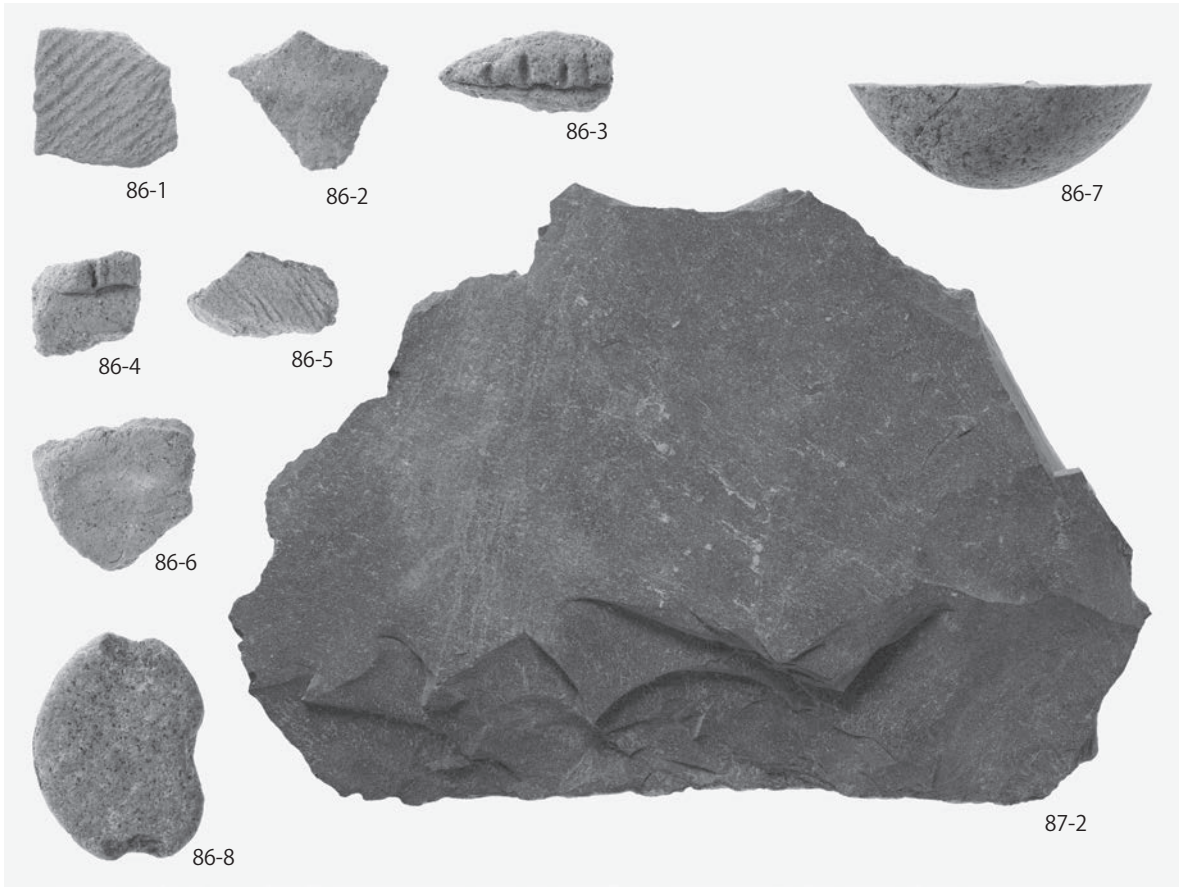
2　8～10 層出土石器



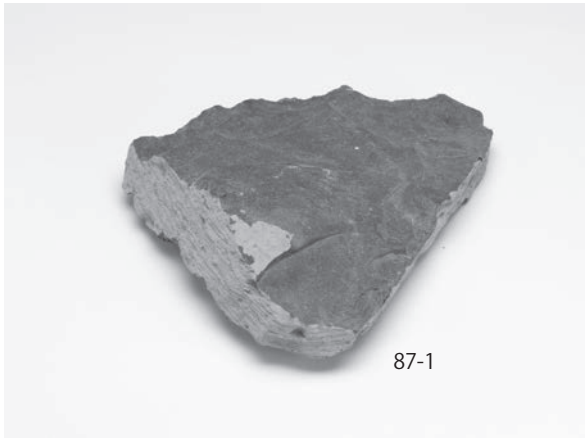
1　縄文時代遺構出土遺物（１）

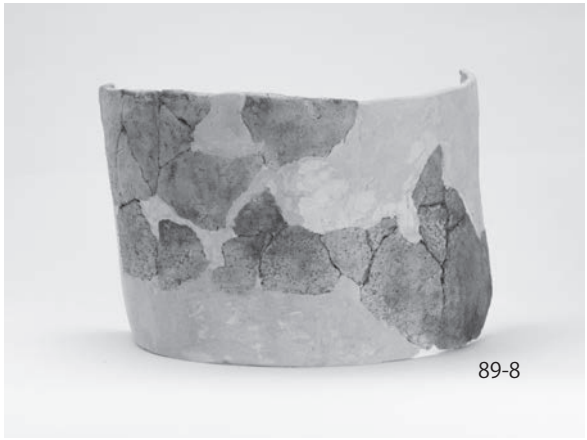


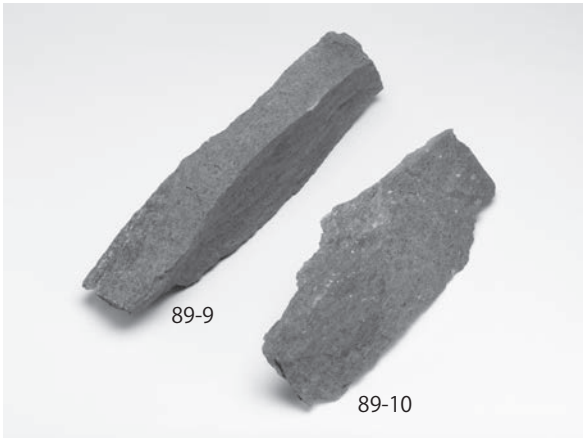
2　縄文時代遺構出土遺物（２）



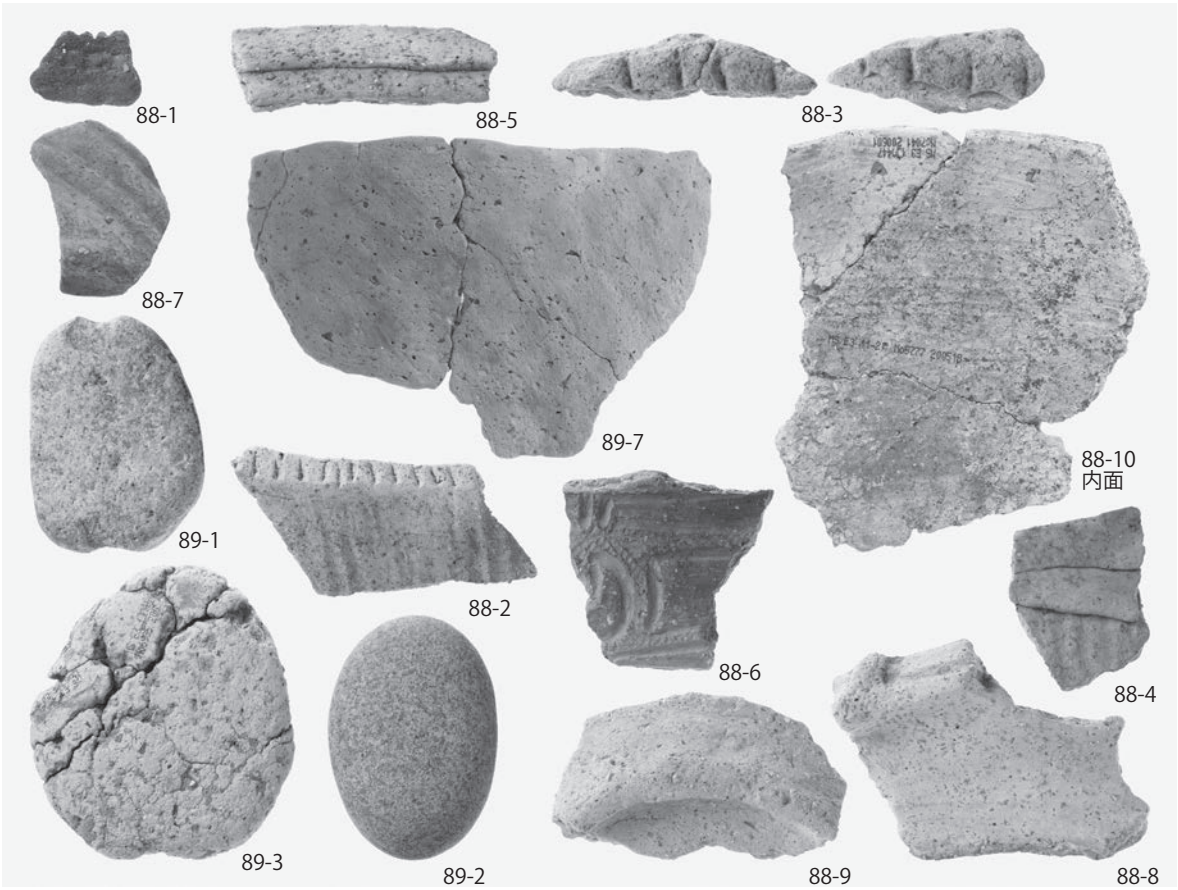
1　縄文時代遺構出土遺物（３）



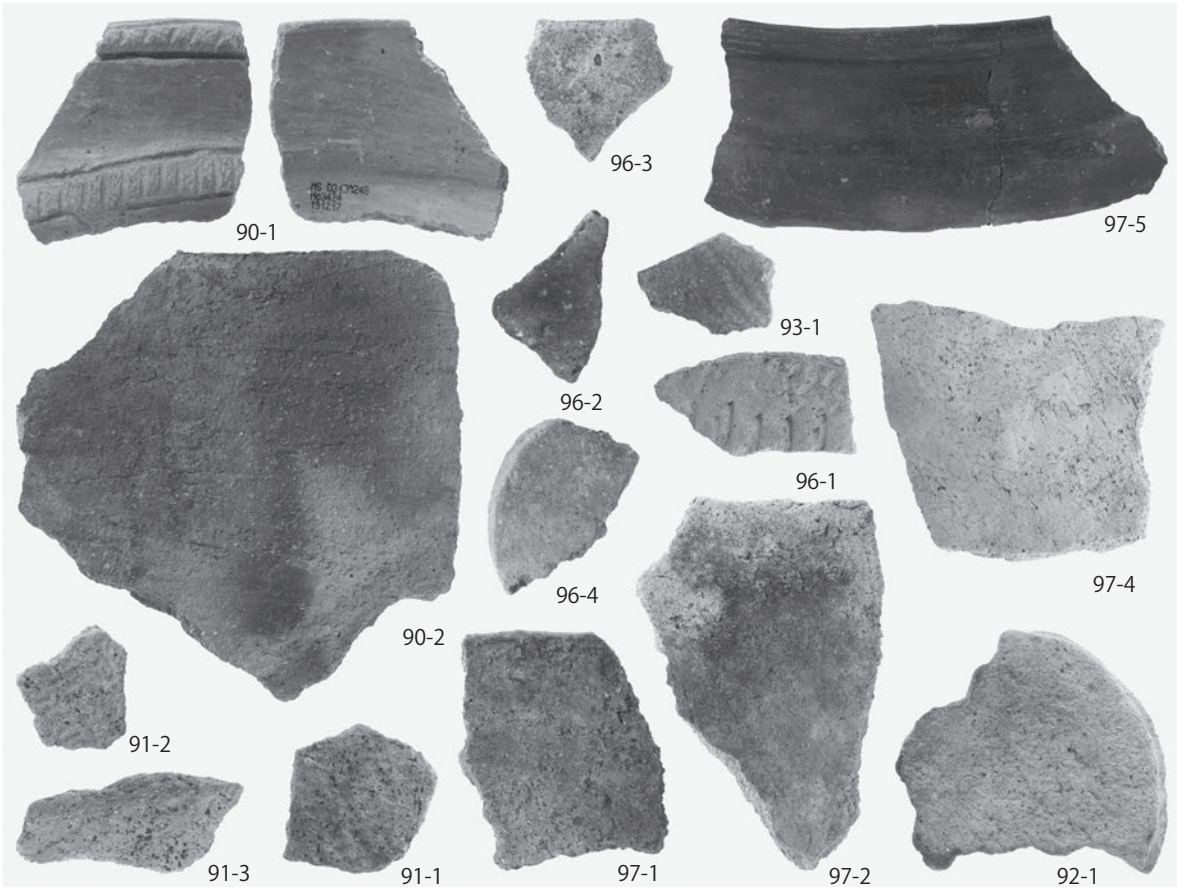




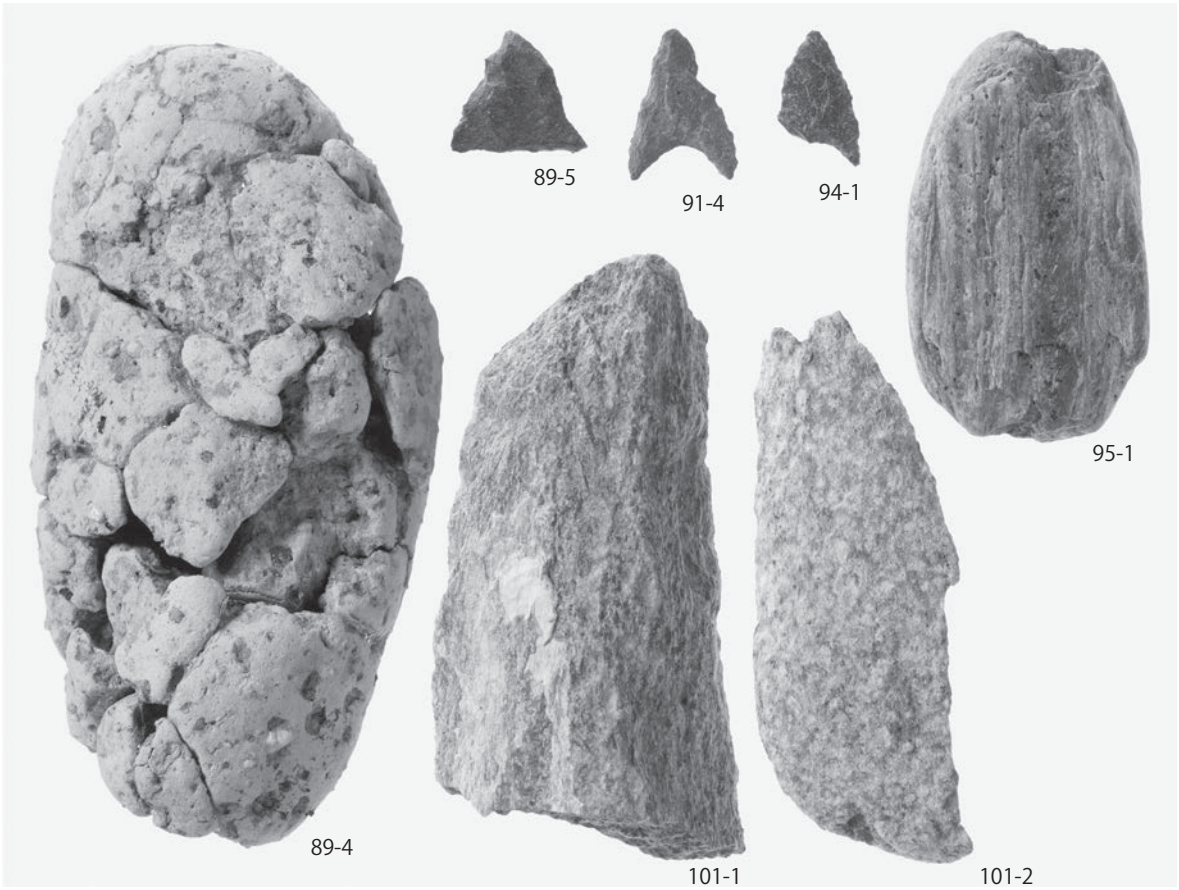
2　縄文時代遺構出土遺物（４）



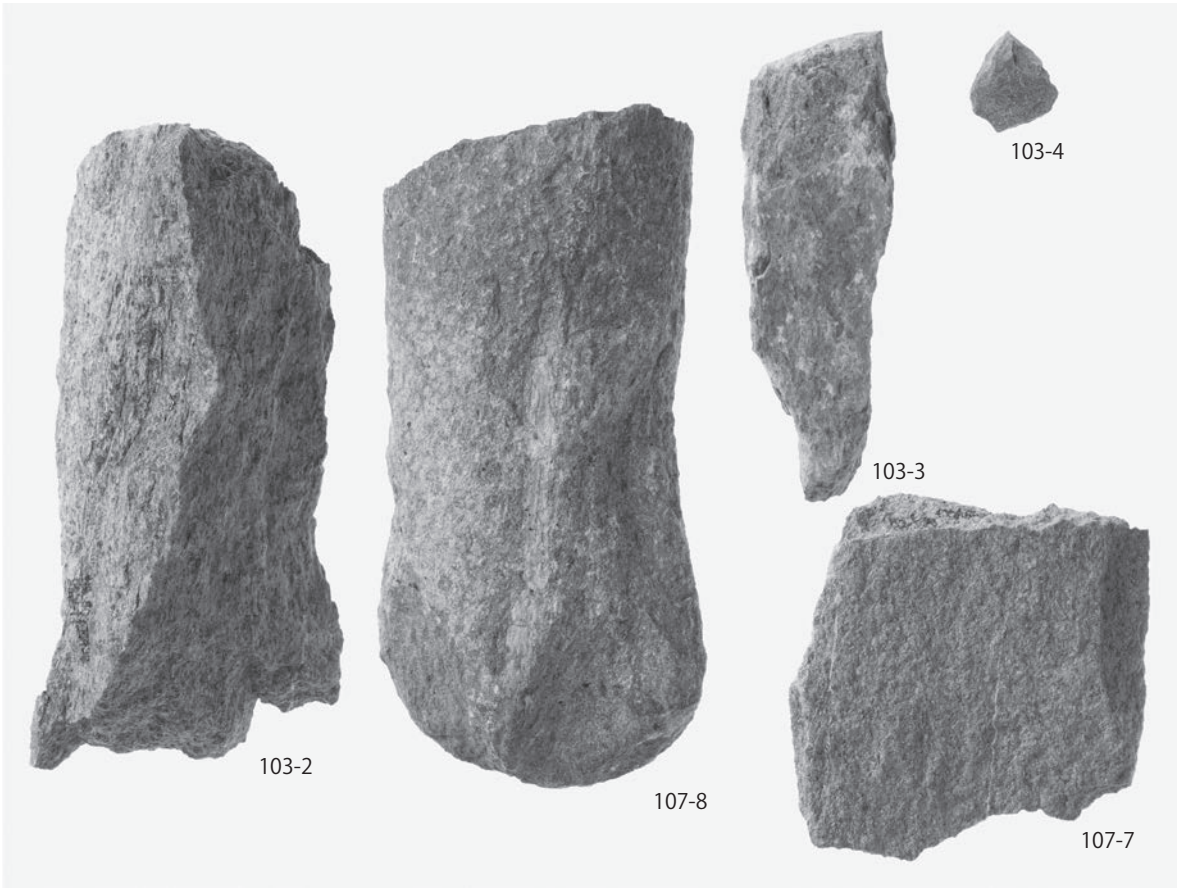
1　縄文時代遺構出土遺物（５）



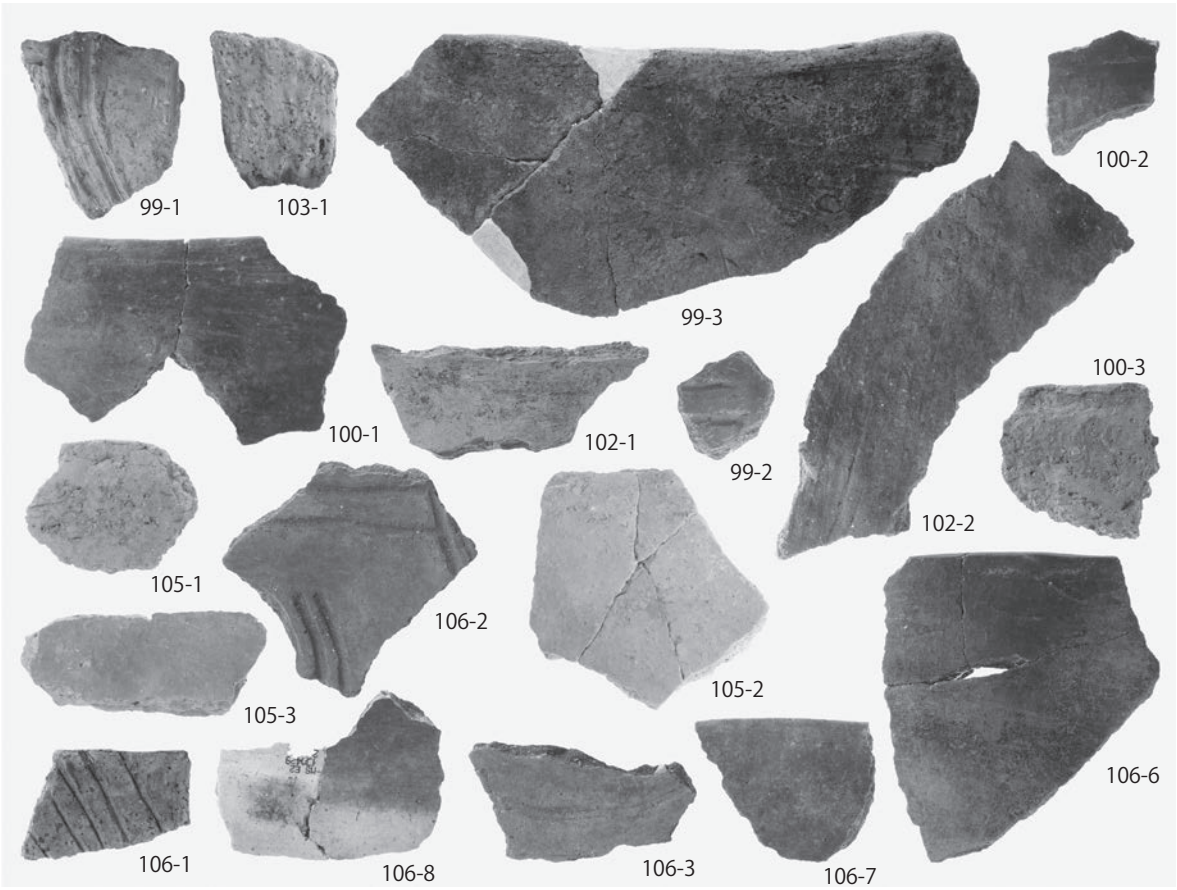
2　縄文時代遺構出土遺物（６）



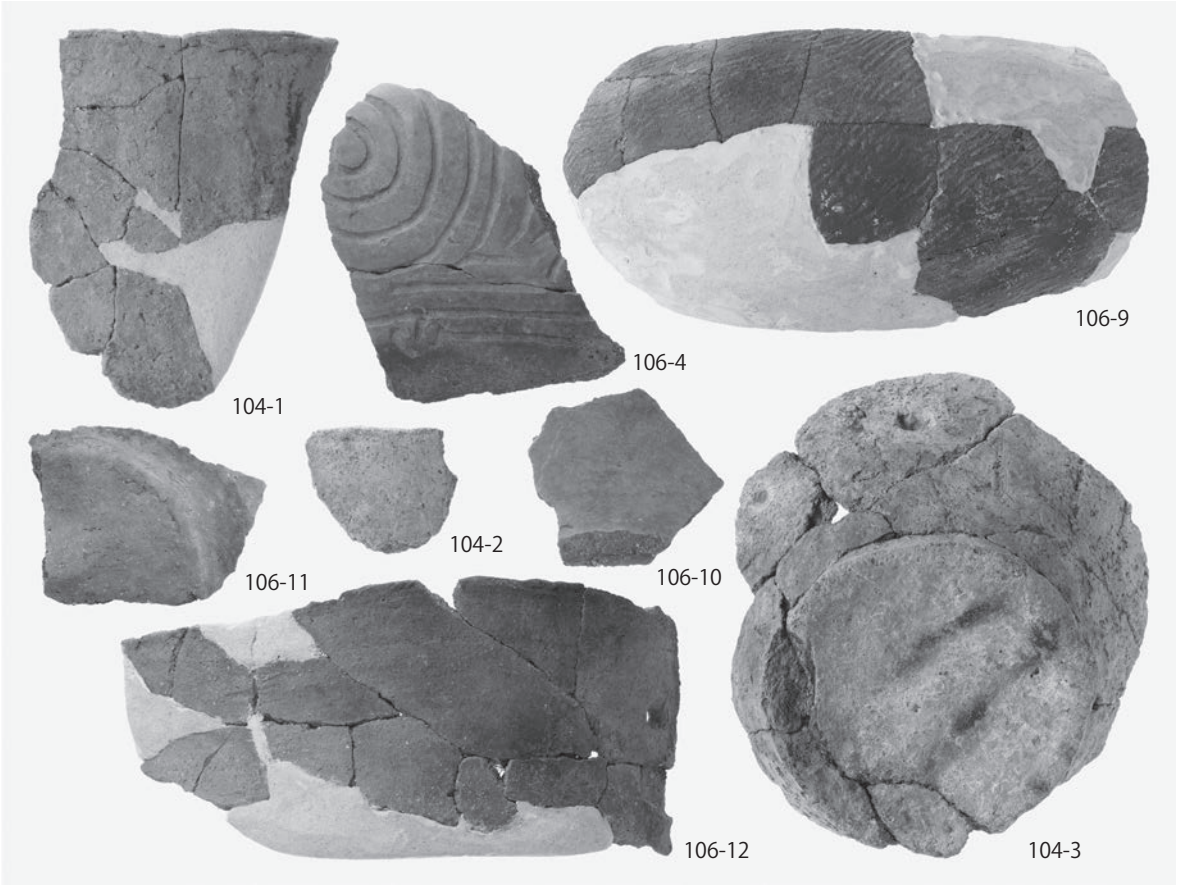
1　縄文時代遺構出土遺物（７）



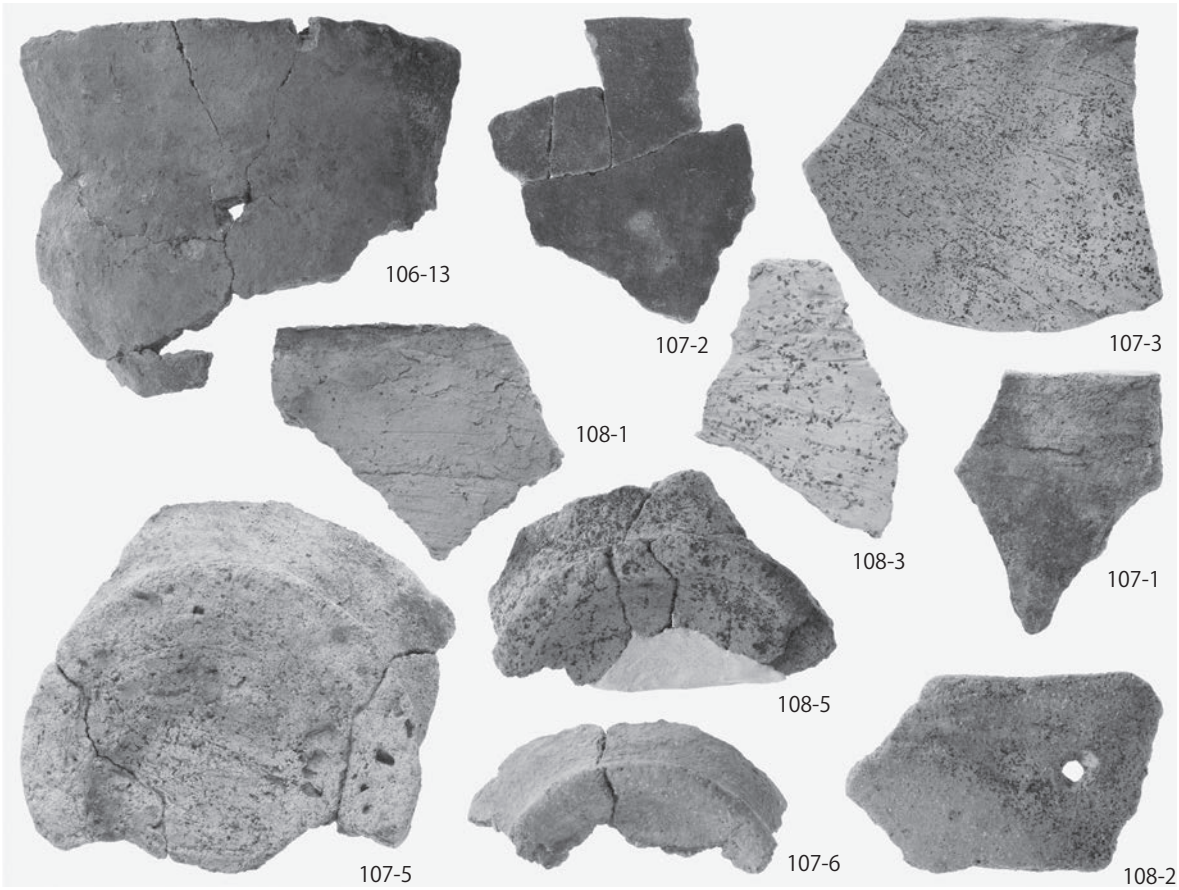
2　縄文時代遺構出土遺物（８）



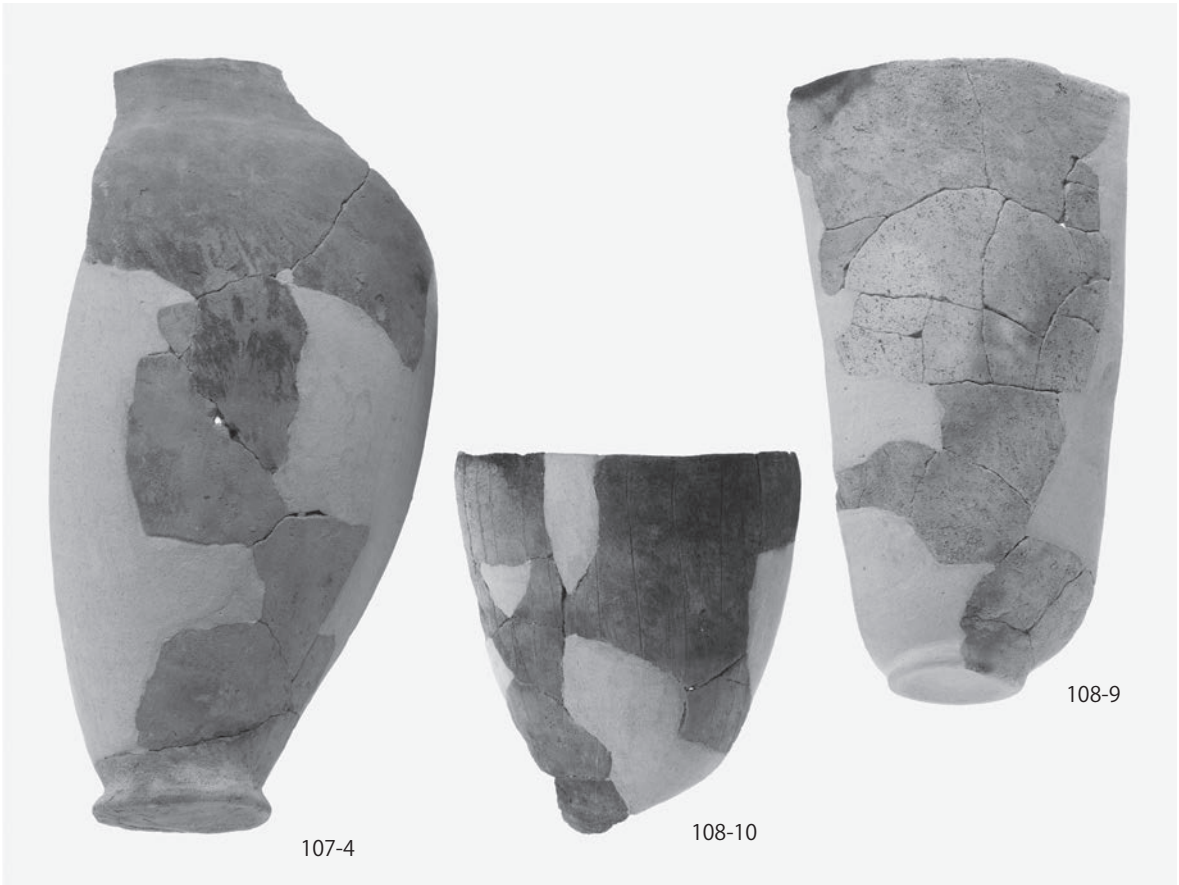
1　縄文時代遺構出土遺物（９）



2　縄文時代遺構出土遺物（10）

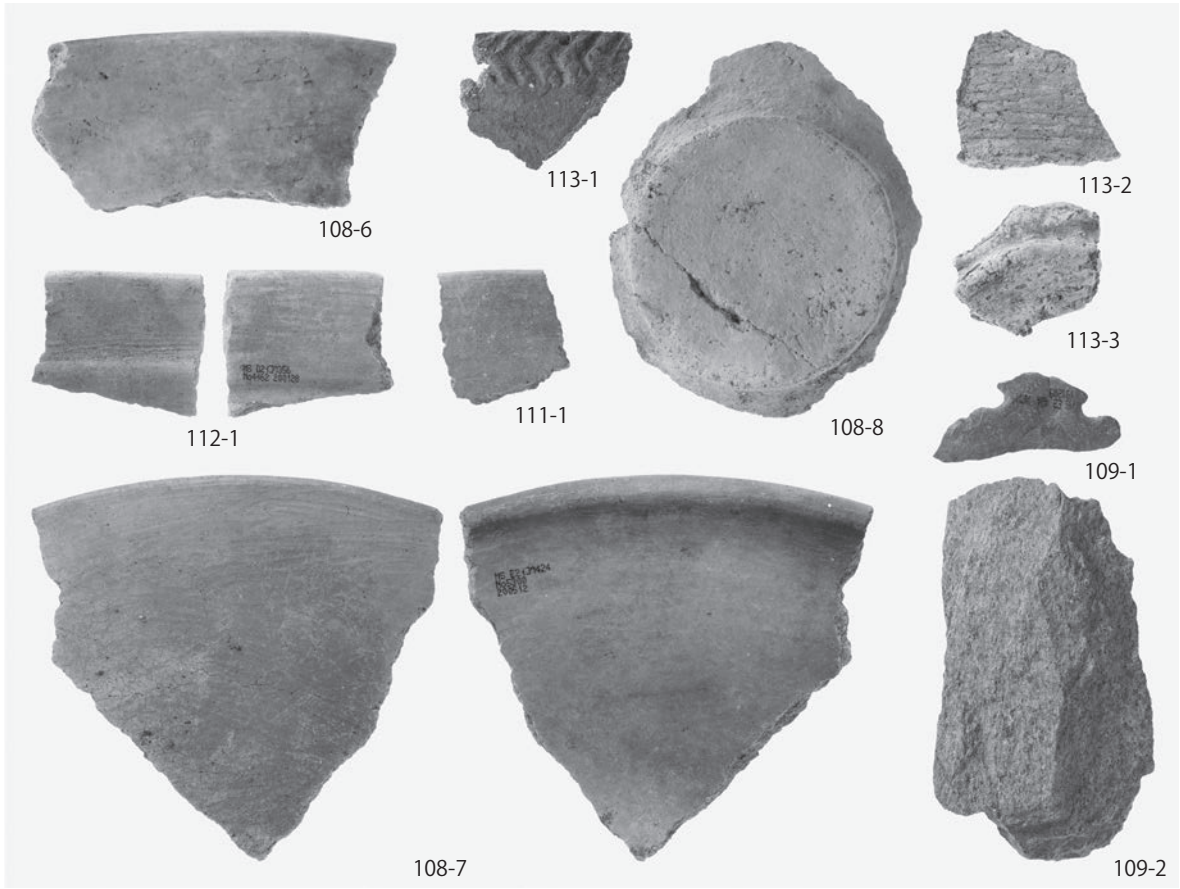


1　縄文時代遺構出土遺物（11）

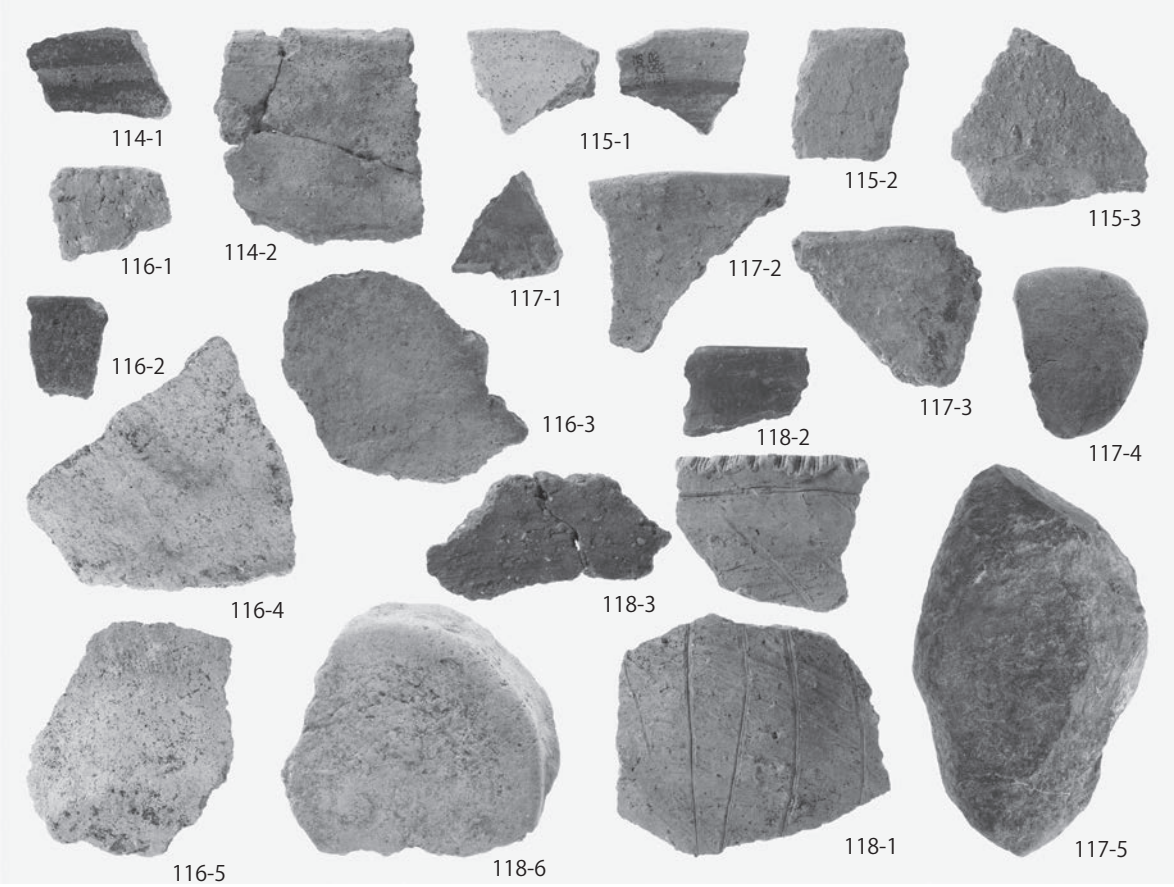


2　縄文時代遺構出土遺物（12）

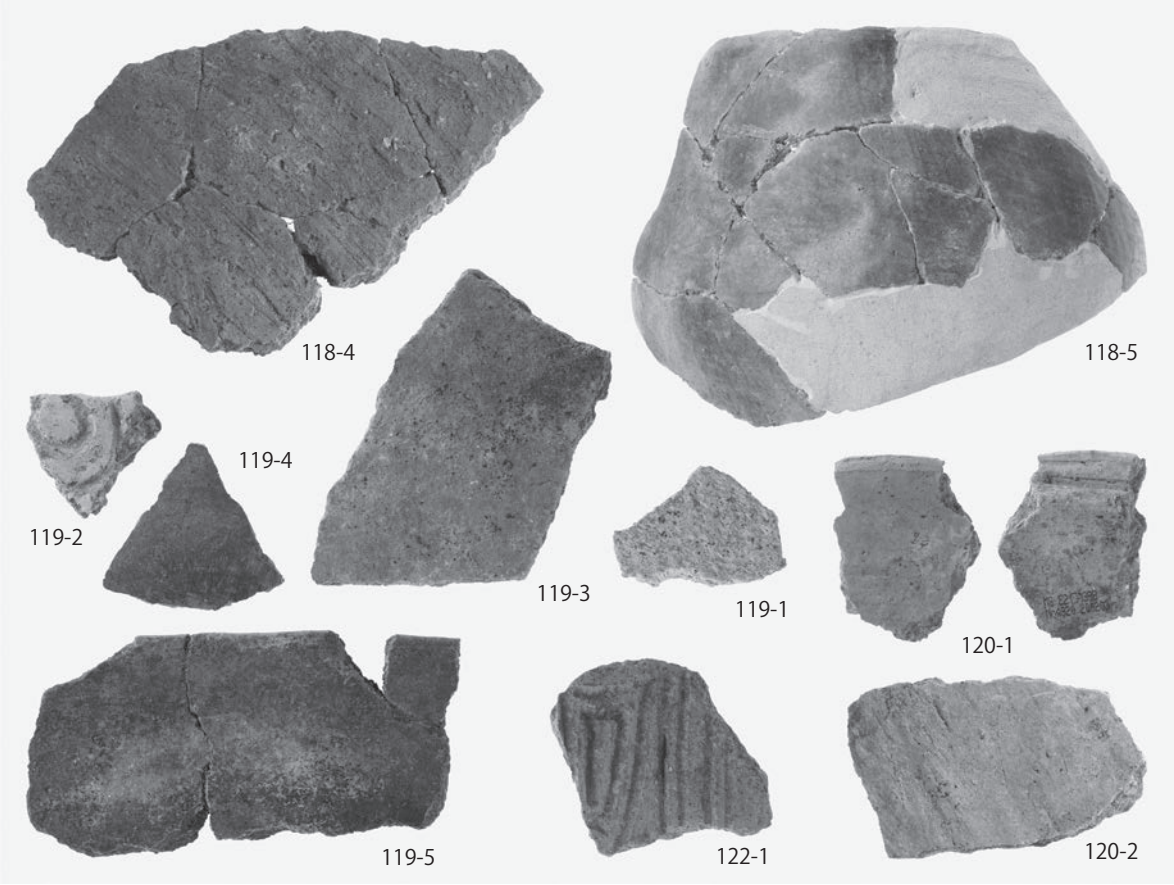
1　縄文時代遺構出土遺物（13）



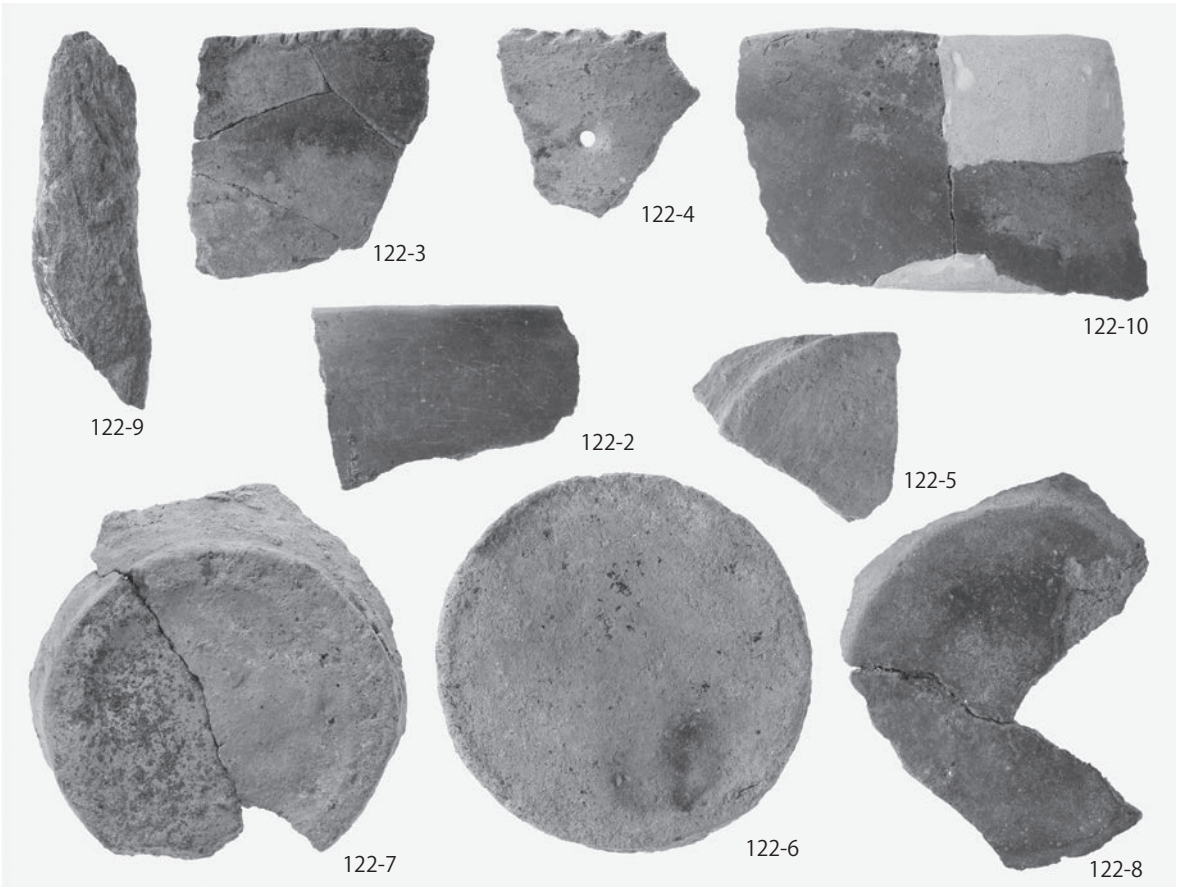
2　縄文時代遺構出土遺物（14）



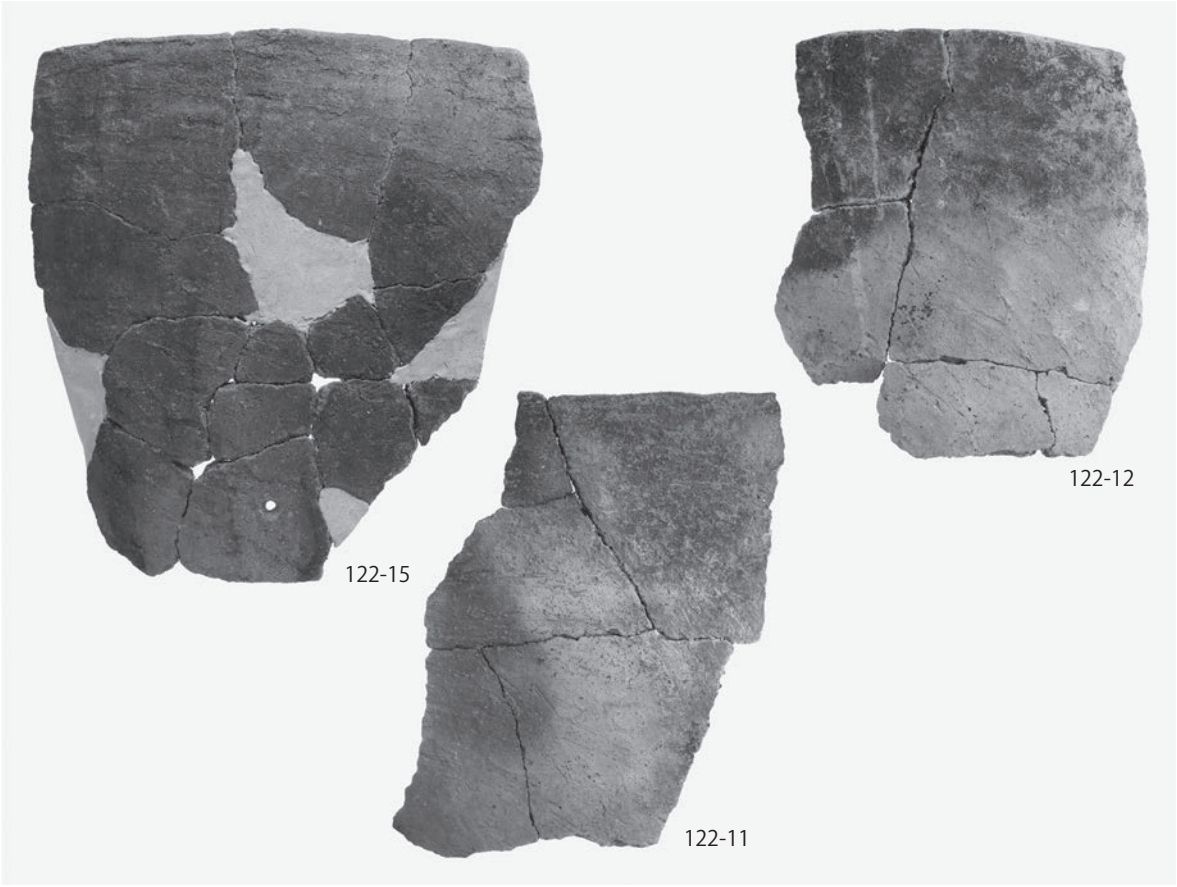
1　縄文時代遺構出土遺物（15）



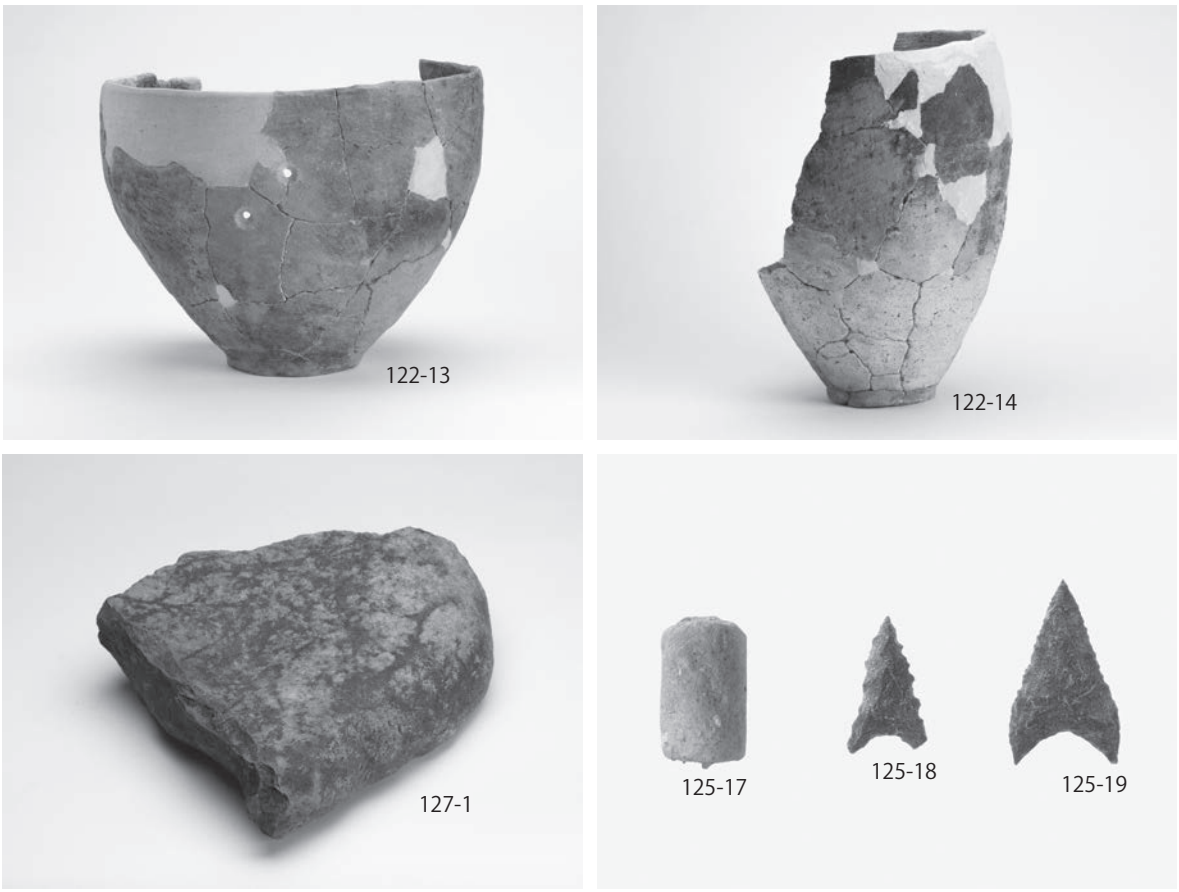
2　縄文時代遺構出土遺物（16）



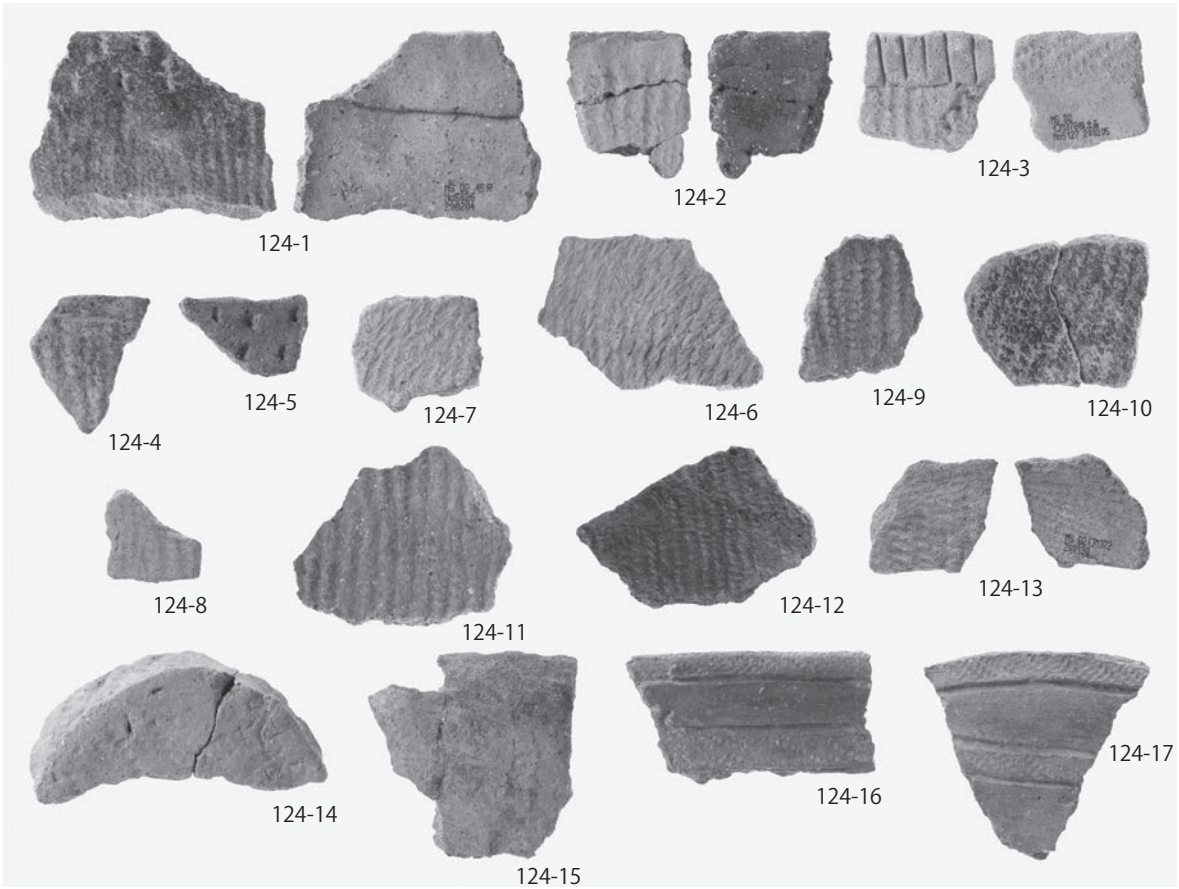
1　縄文時代遺構出土遺物（17）



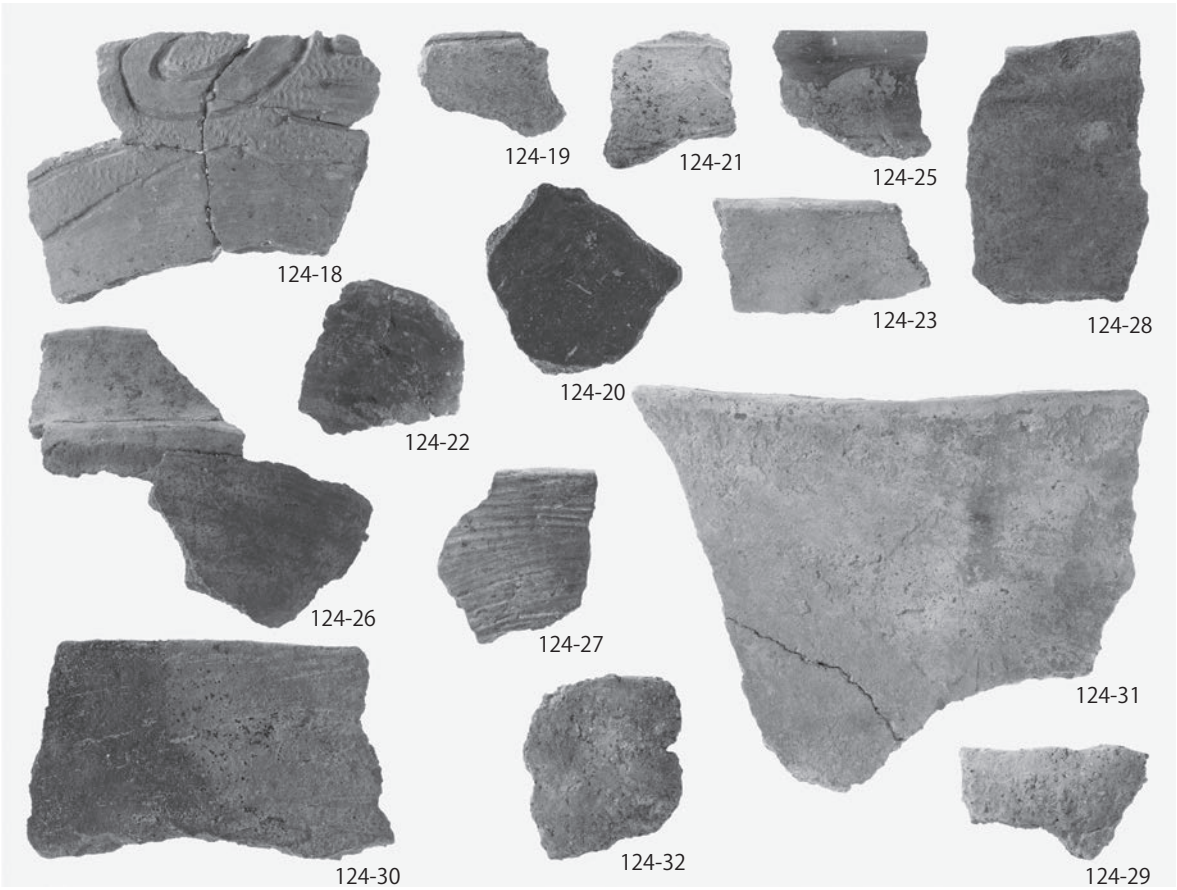
2　縄文時代遺構出土遺物（18）



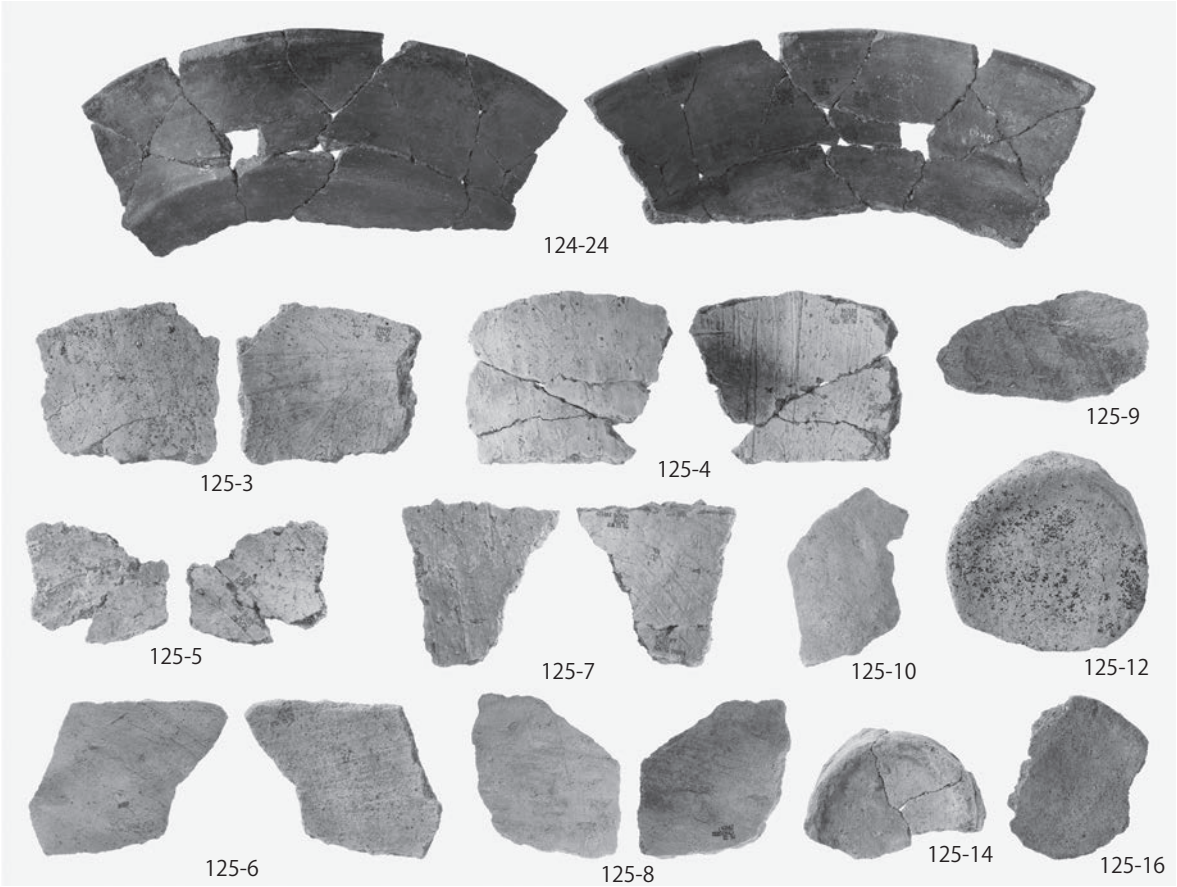
1　縄文時代遺構出土遺物（19）



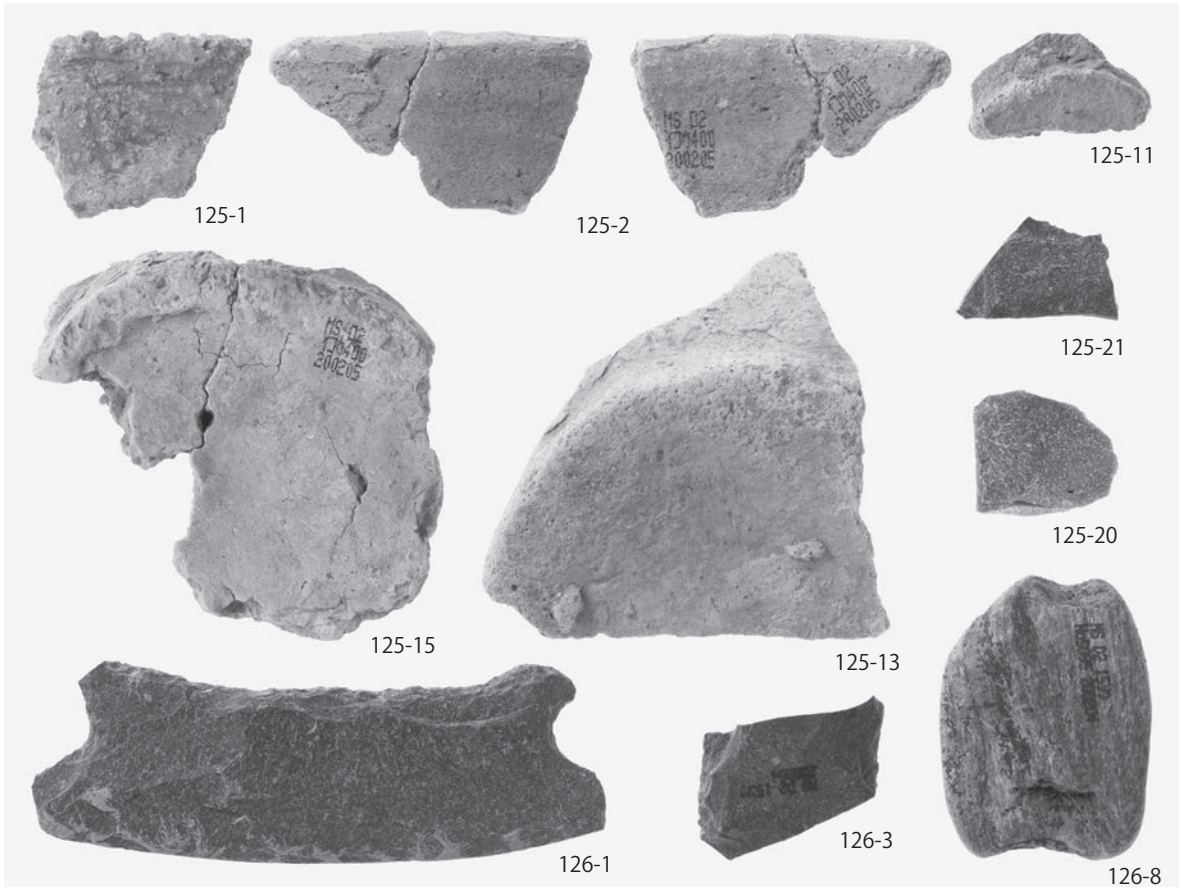
2　縄文時代遺構出土遺物（20）



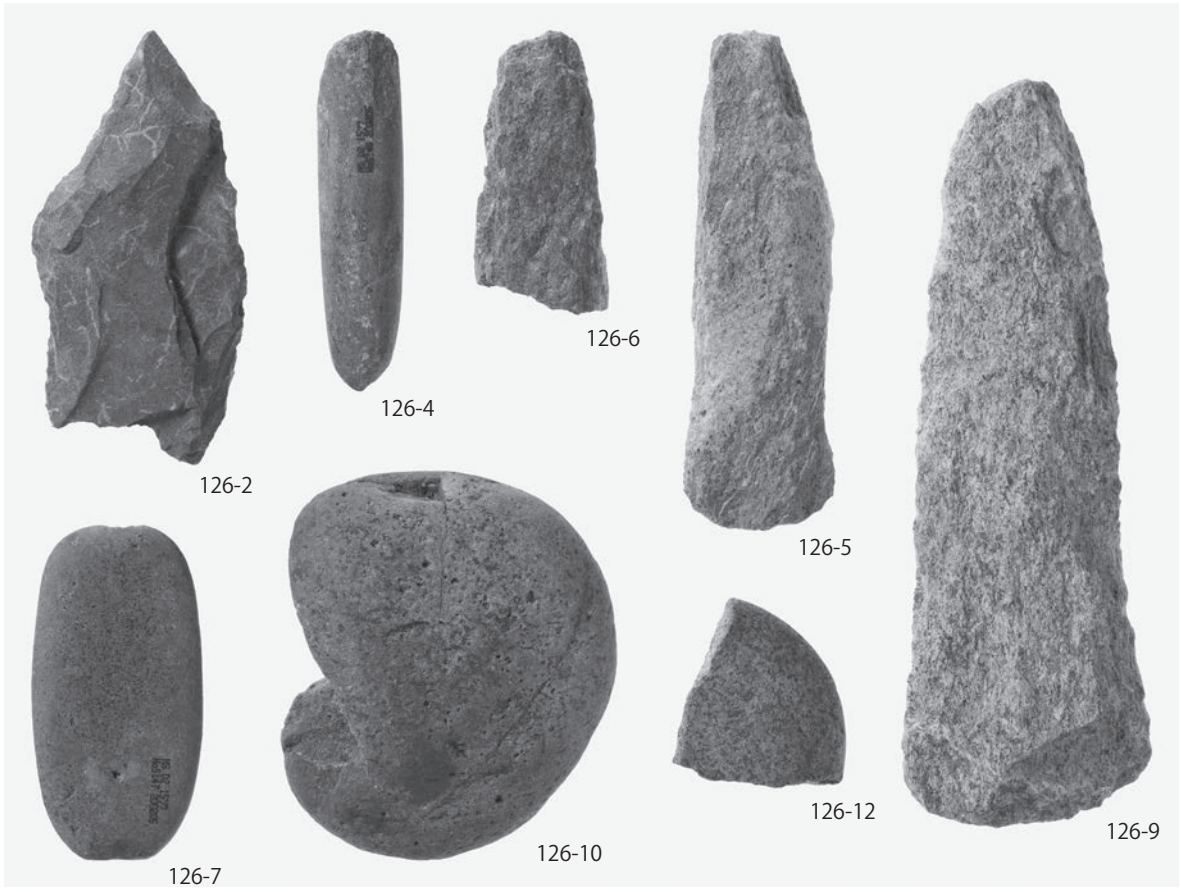
1　縄文時代遺構出土遺物（21）



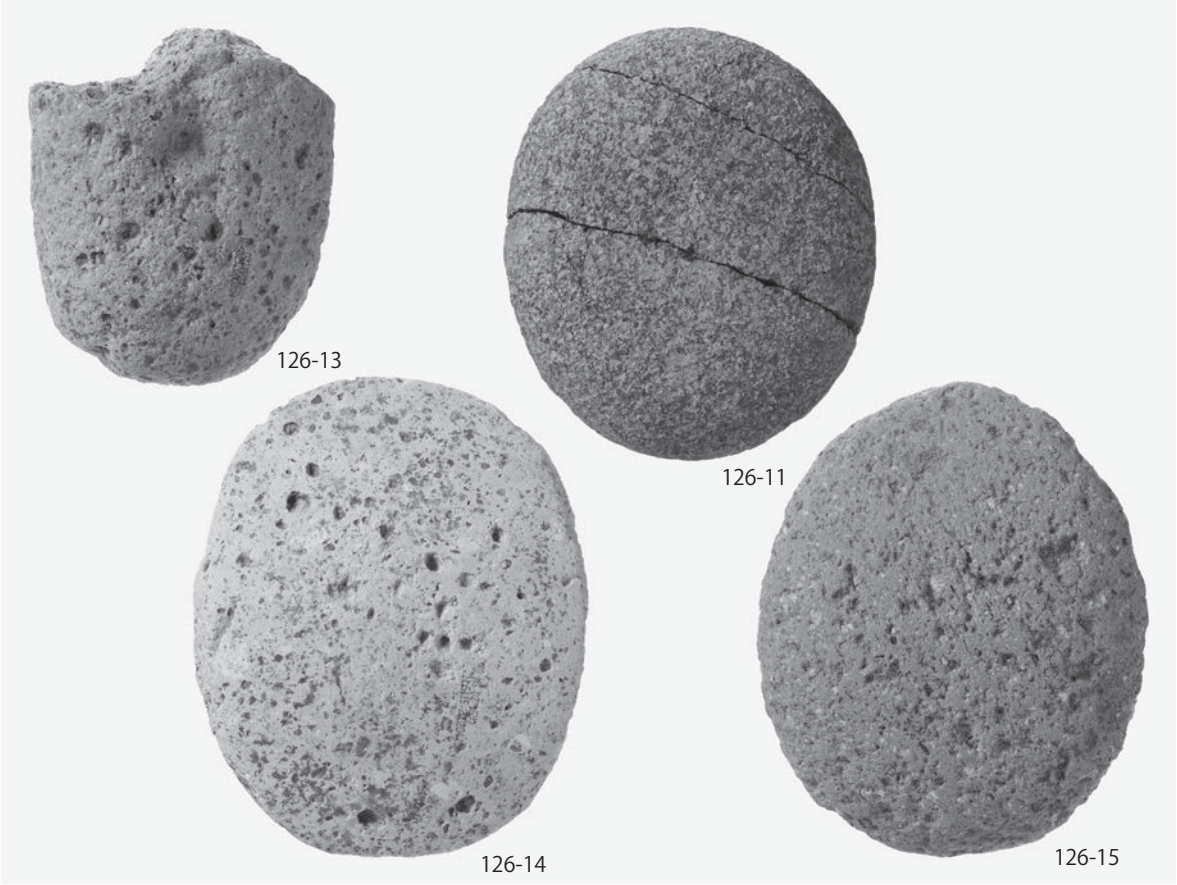
2　縄文時代遺構出土遺物（22）



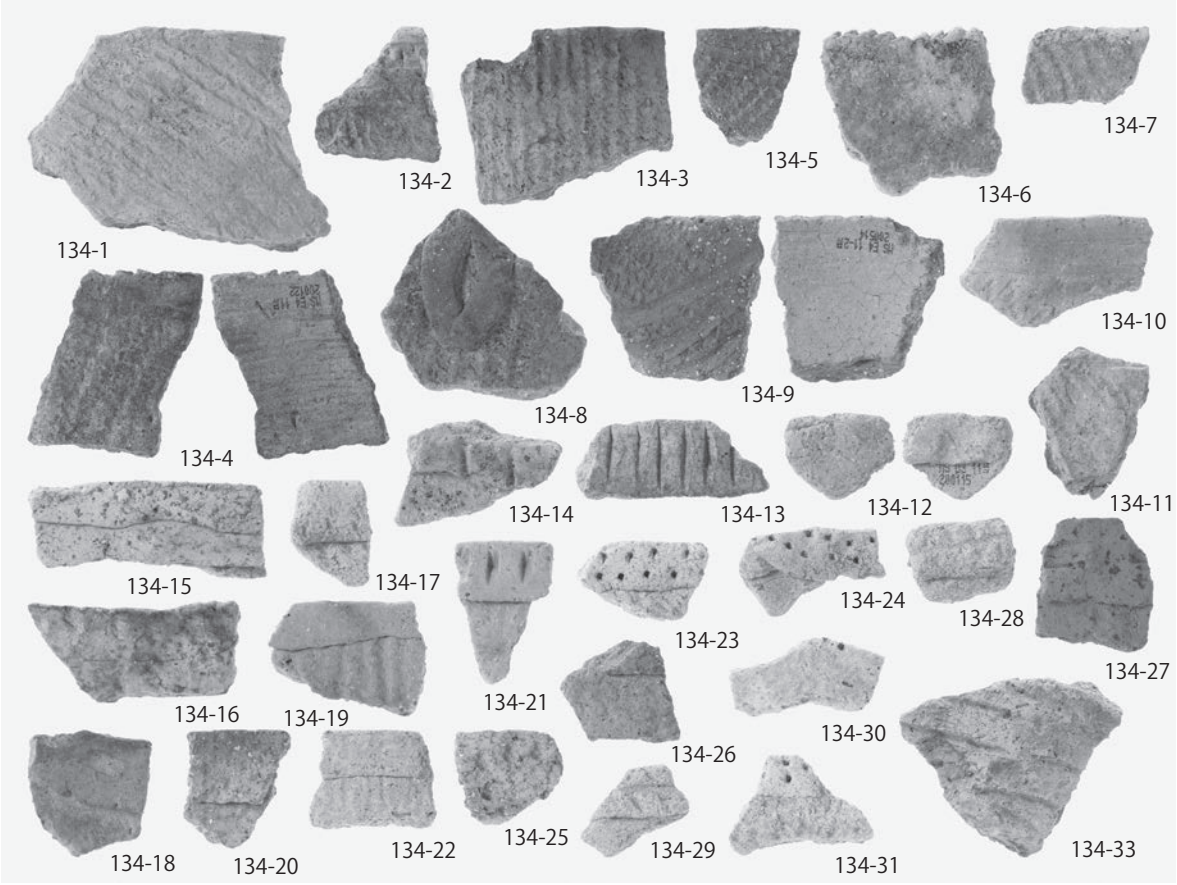
1　縄文時代遺構出土遺物（23）



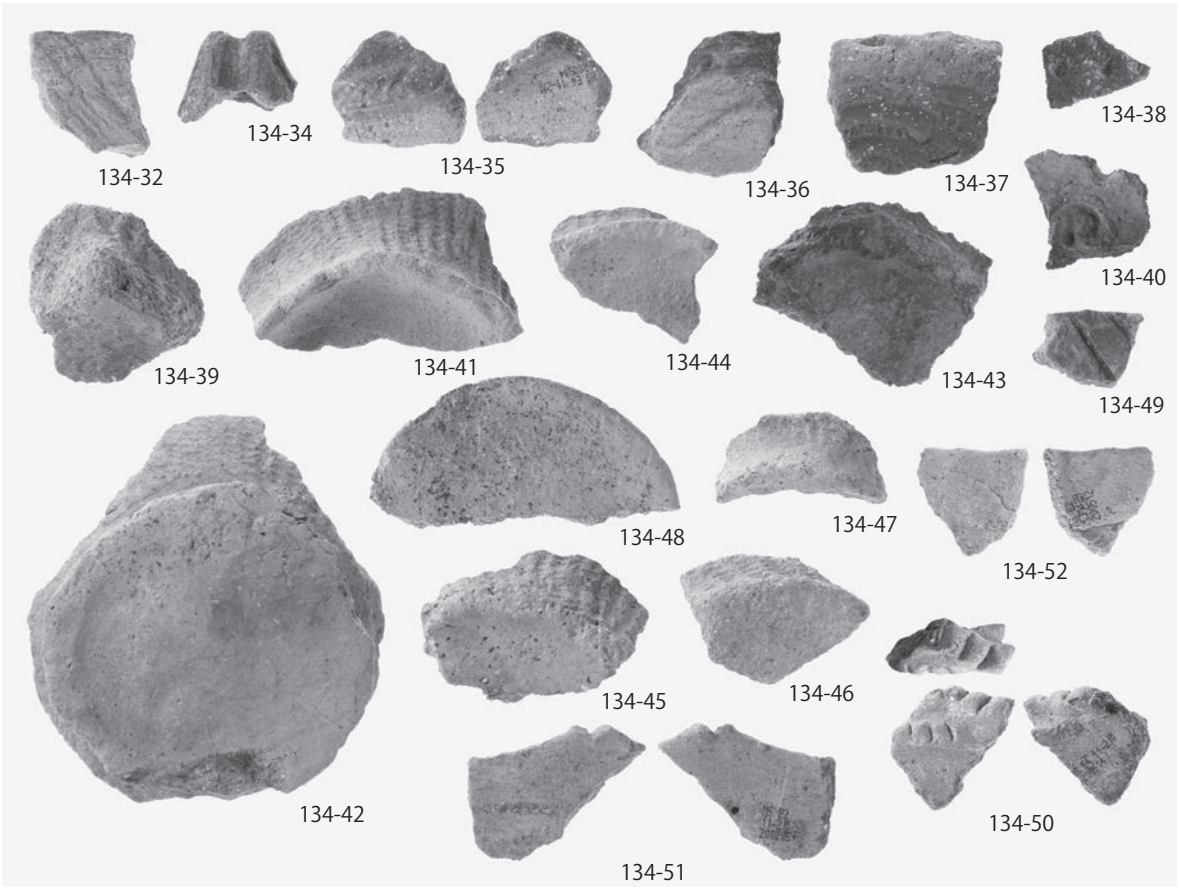
2　縄文時代遺構出土遺物（24）



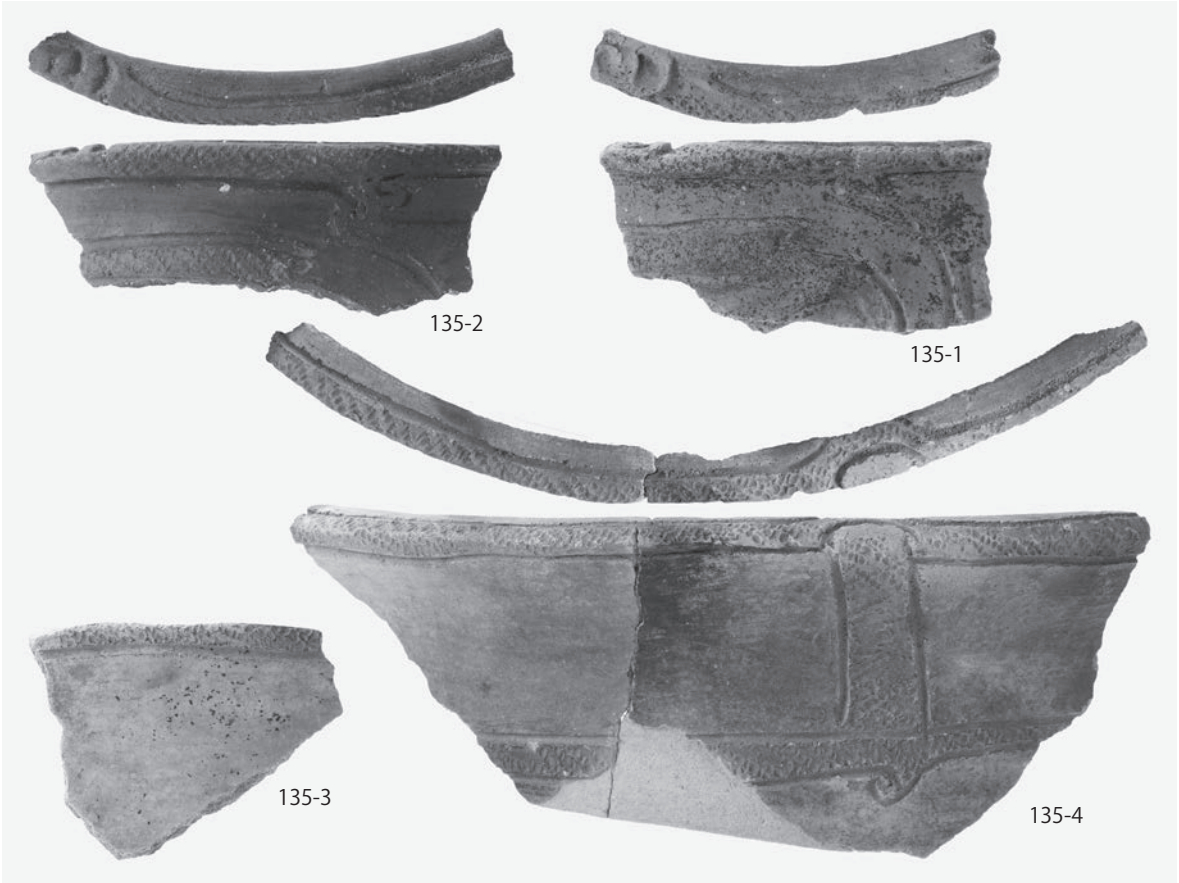
1　縄文時代遺構出土遺物（25）



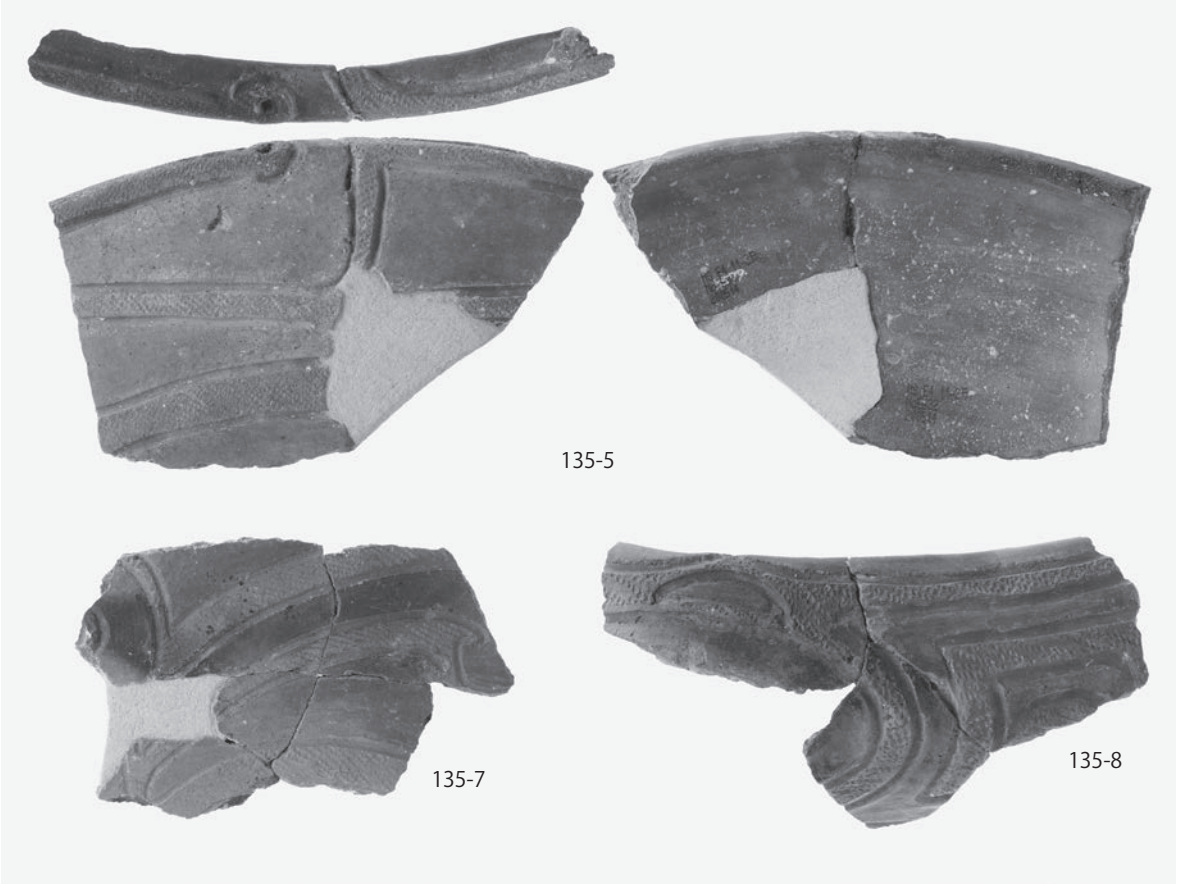
2　11－1・2 層出土縄文土器



1　11－1・2 層出土縄文土器

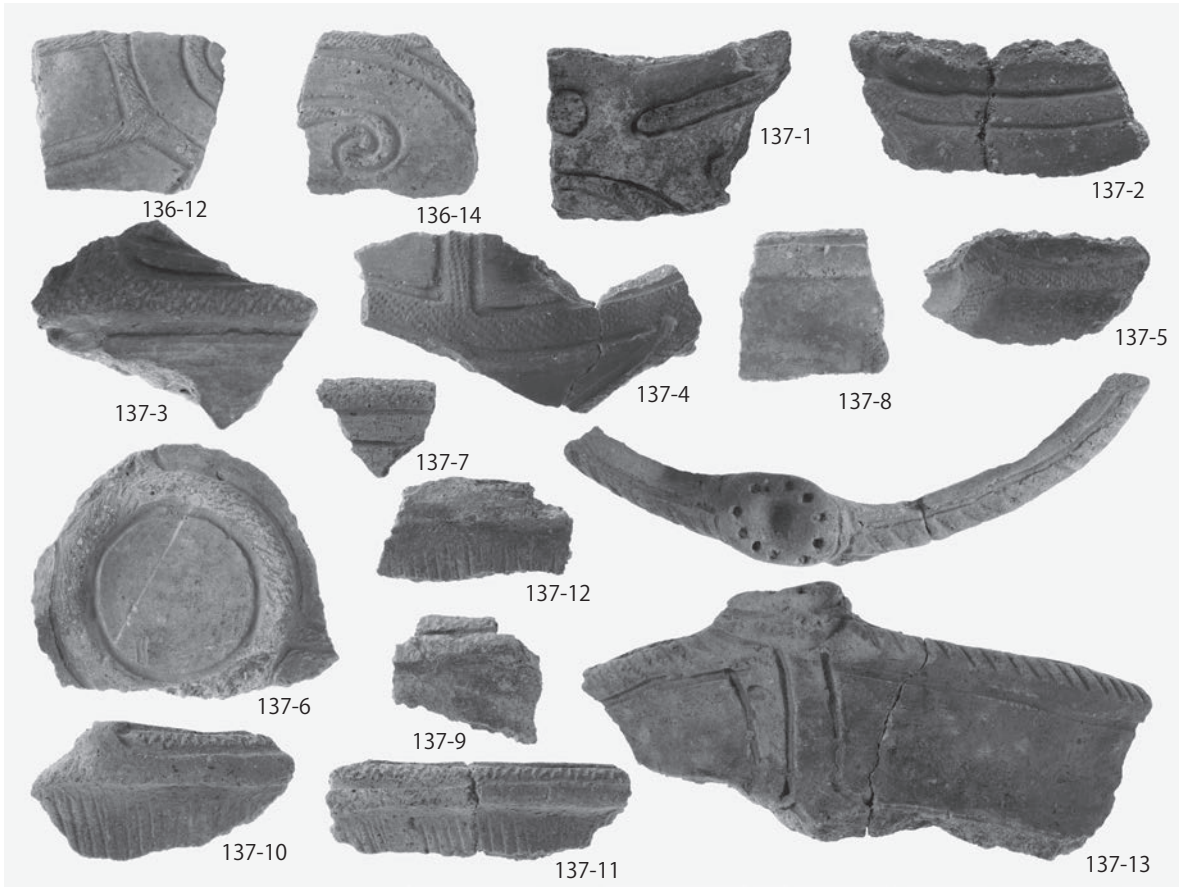


2　11－1・2 層出土縄文土器

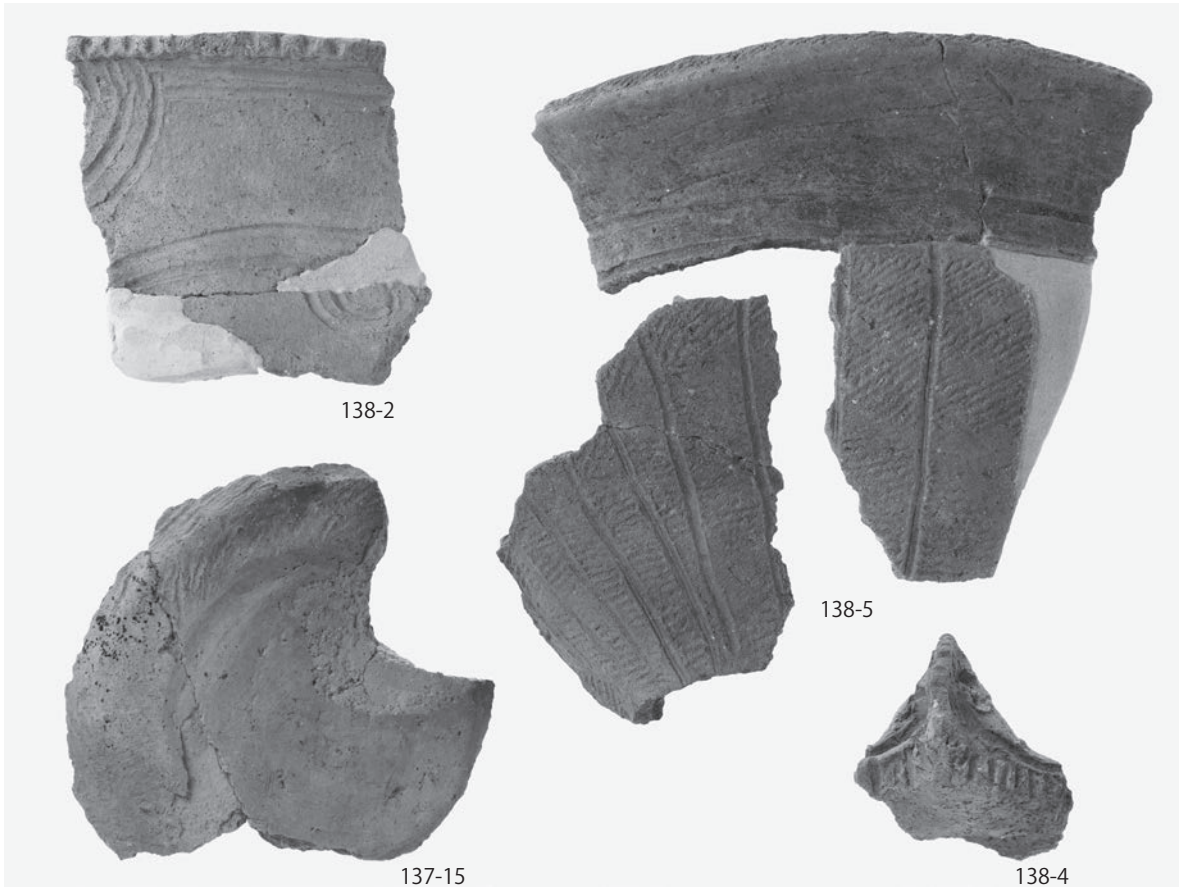


1　11－1・2 層出土縄文土器

2　11－1・2 層出土縄文土器

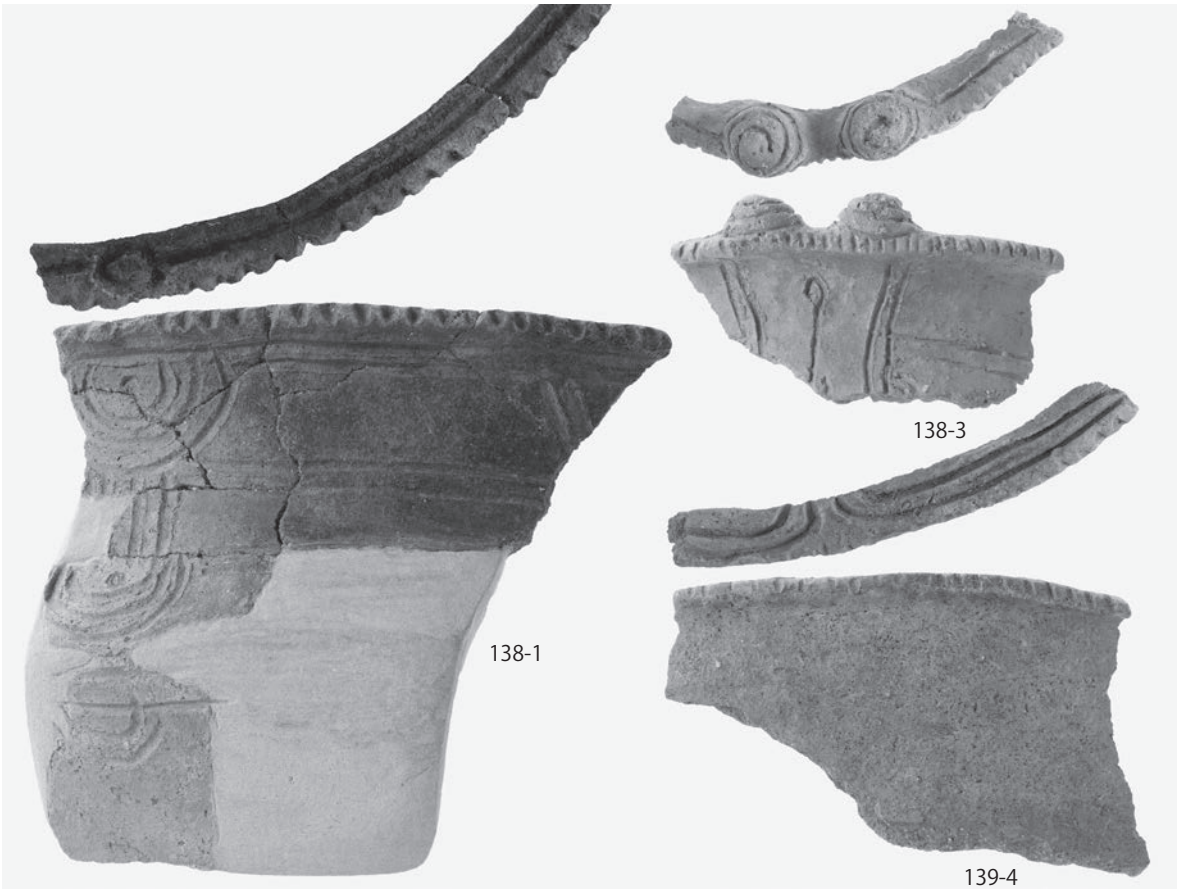


1　11－1・2 層出土縄文土器

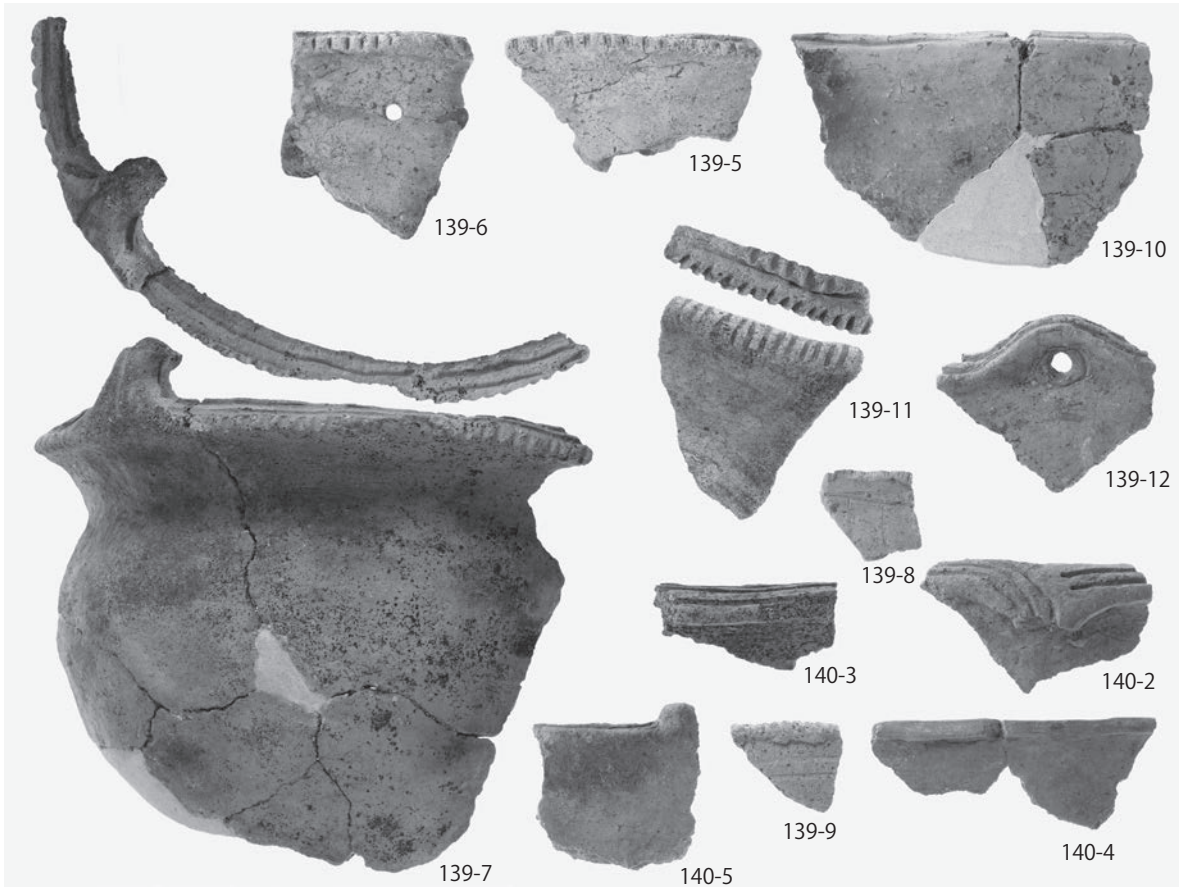


2　11－1・2 層出土縄文土器

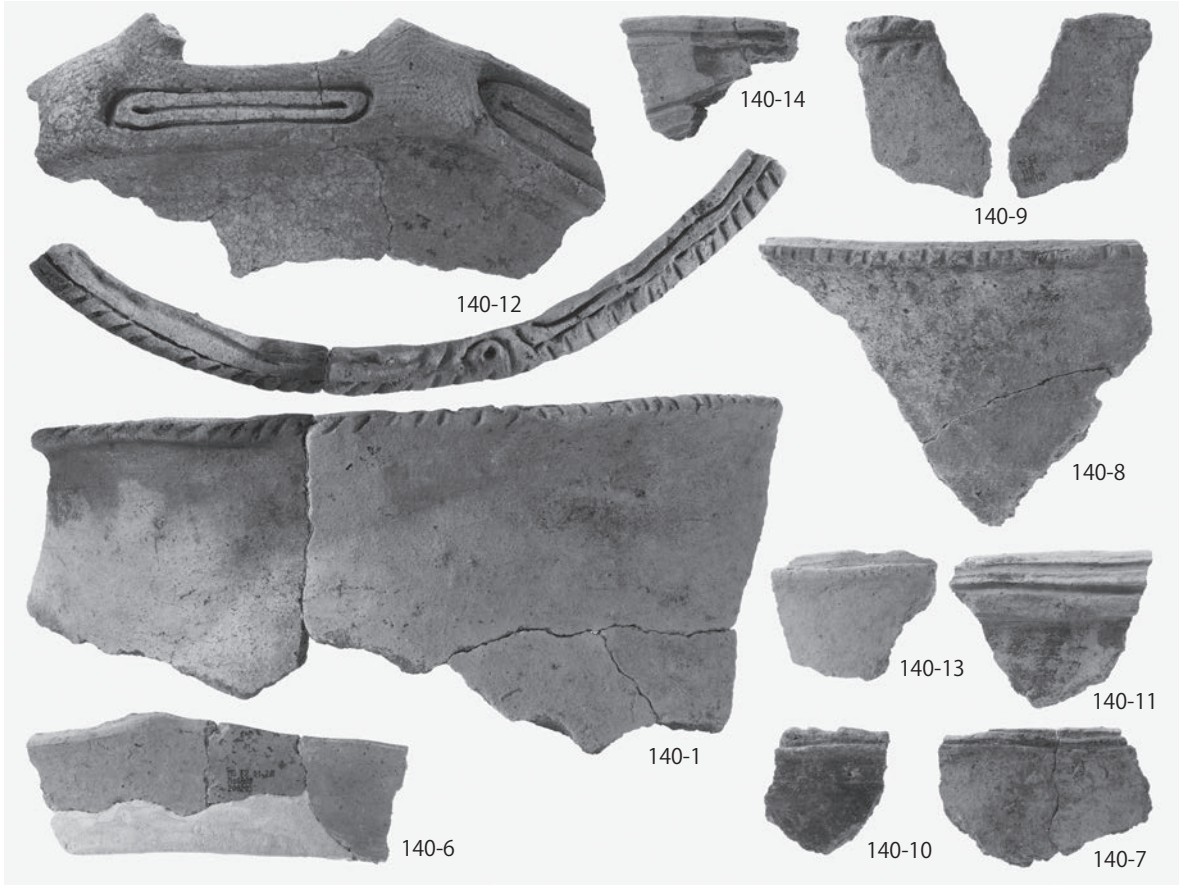
1　11－1・2 層出土縄文土器



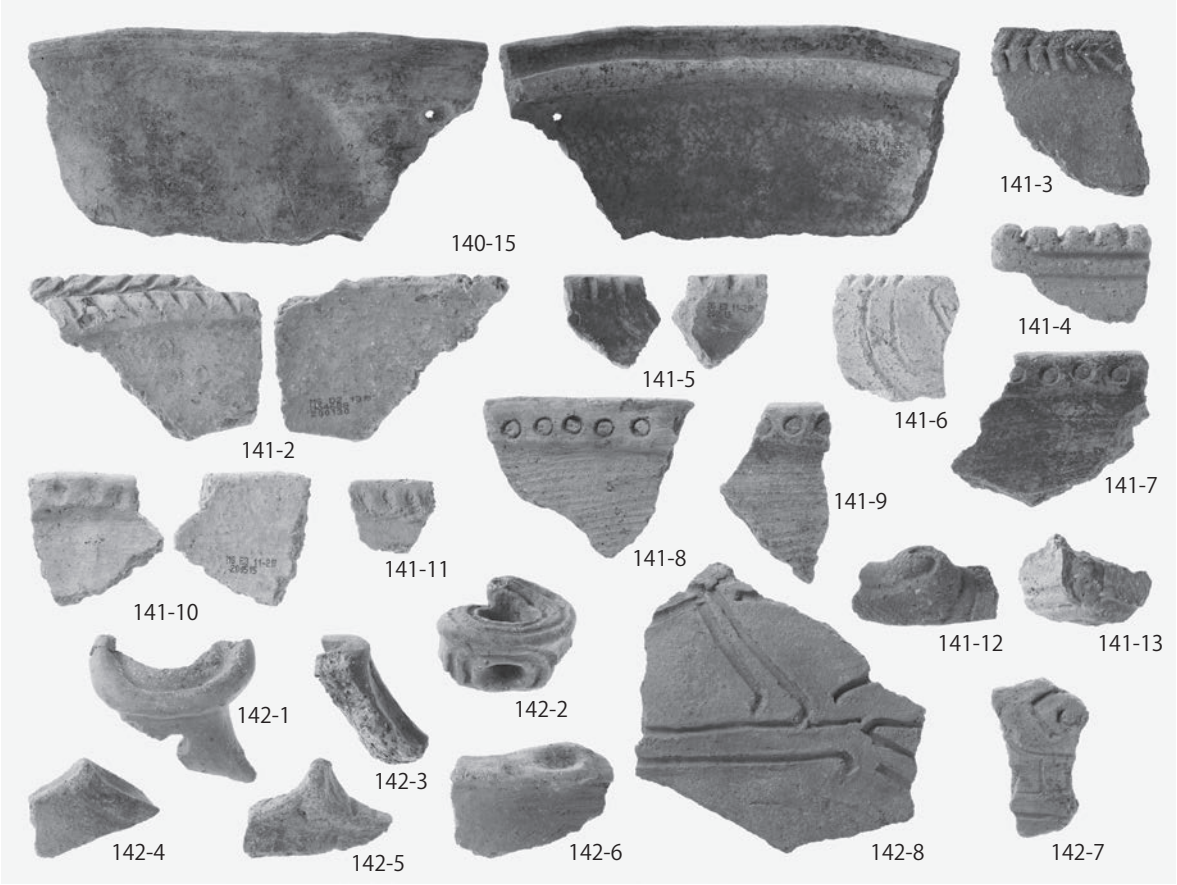
2　11－1・2 層出土縄文土器



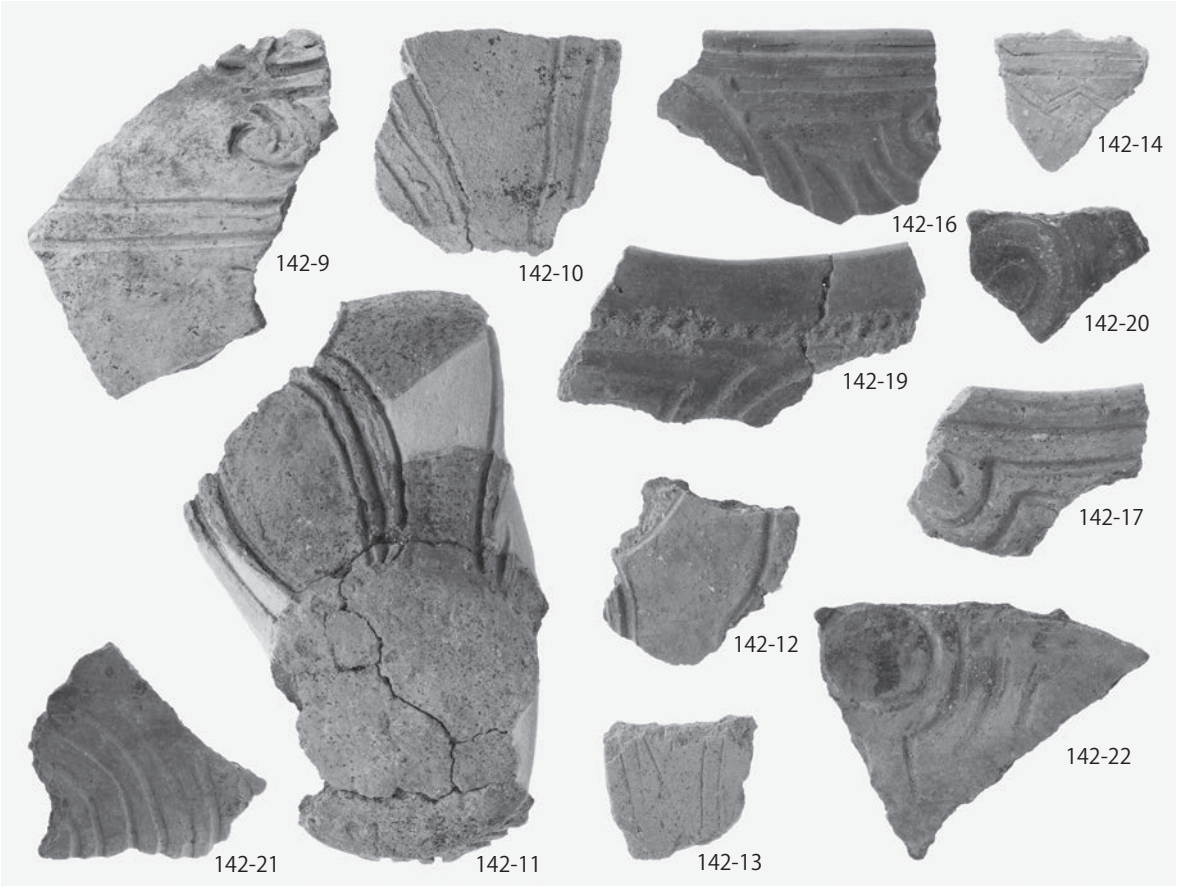
1　11－1・2 層出土縄文土器



2　11－1・2 層出土縄文土器

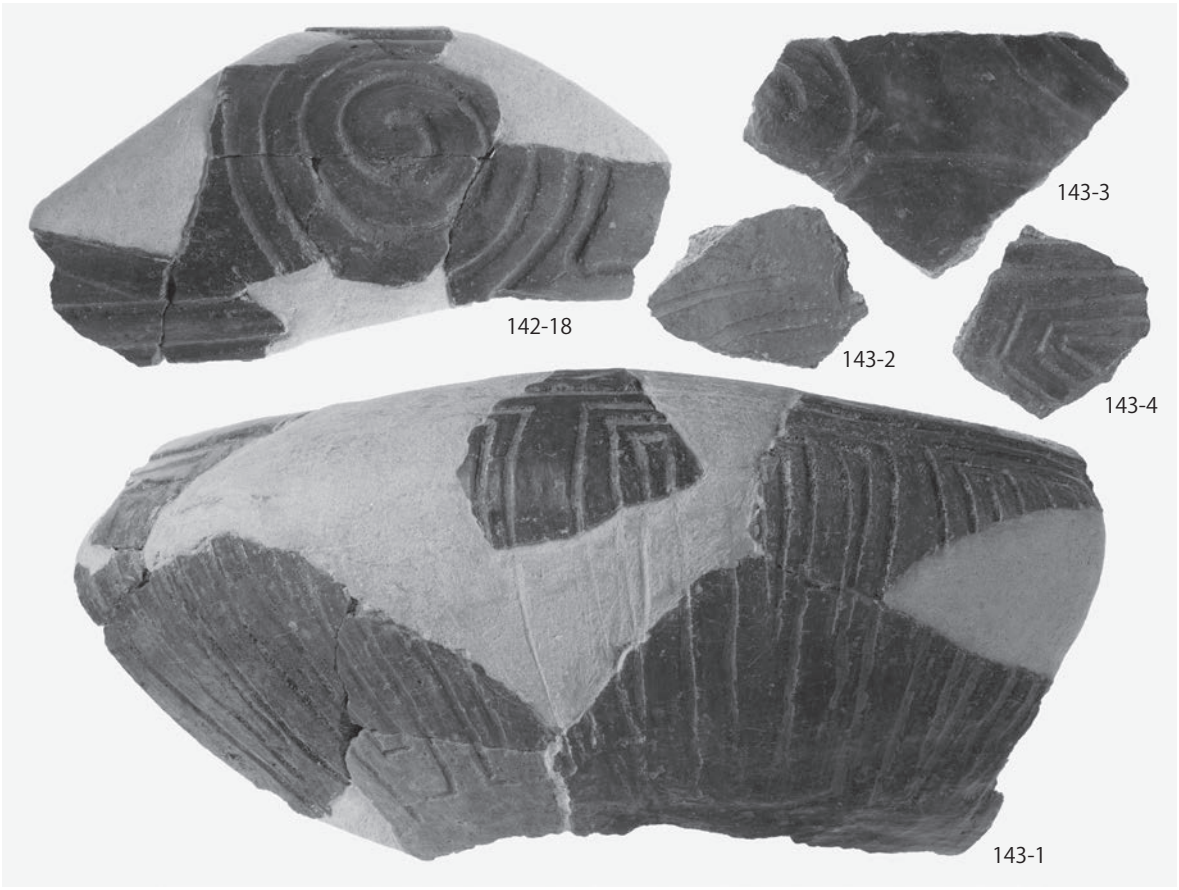


1　11－1・2 層出土縄文土器

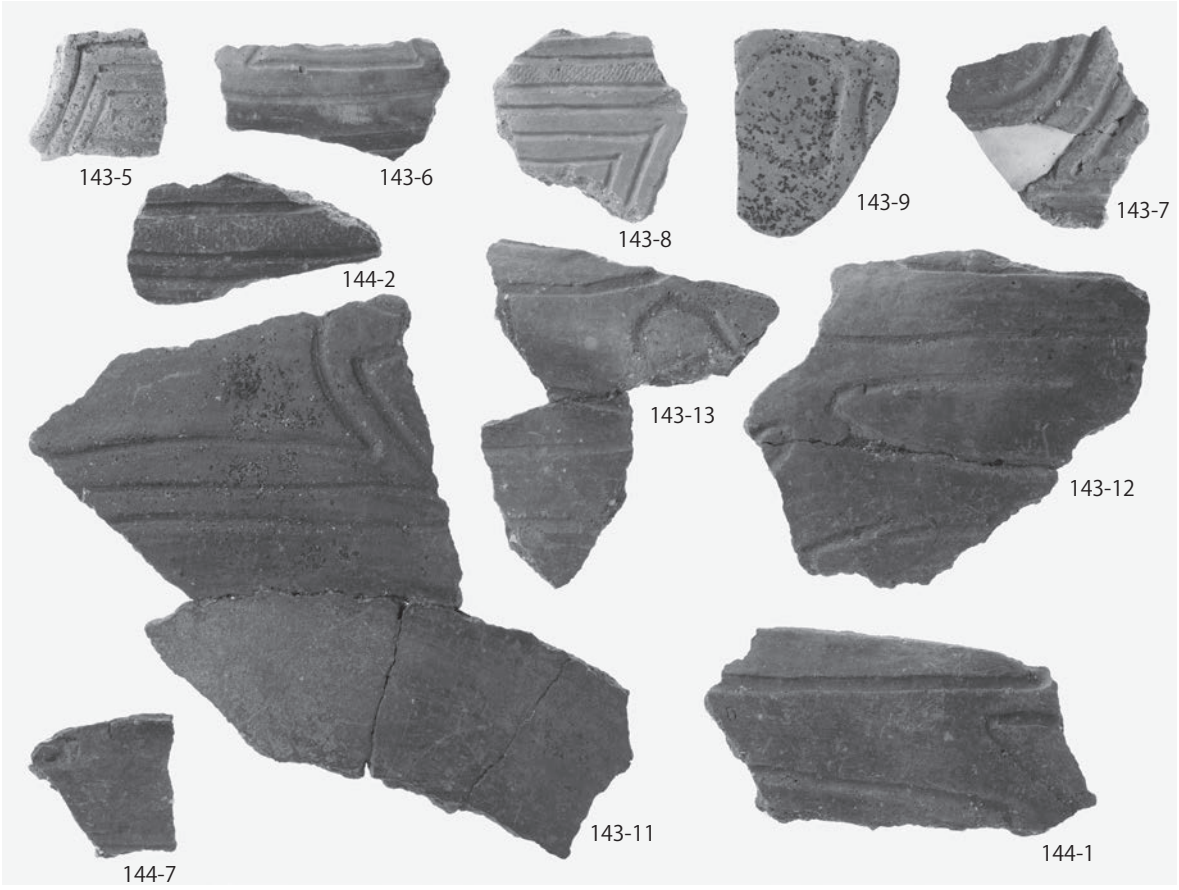


2　11－1・2 層出土縄文土器

図版 74

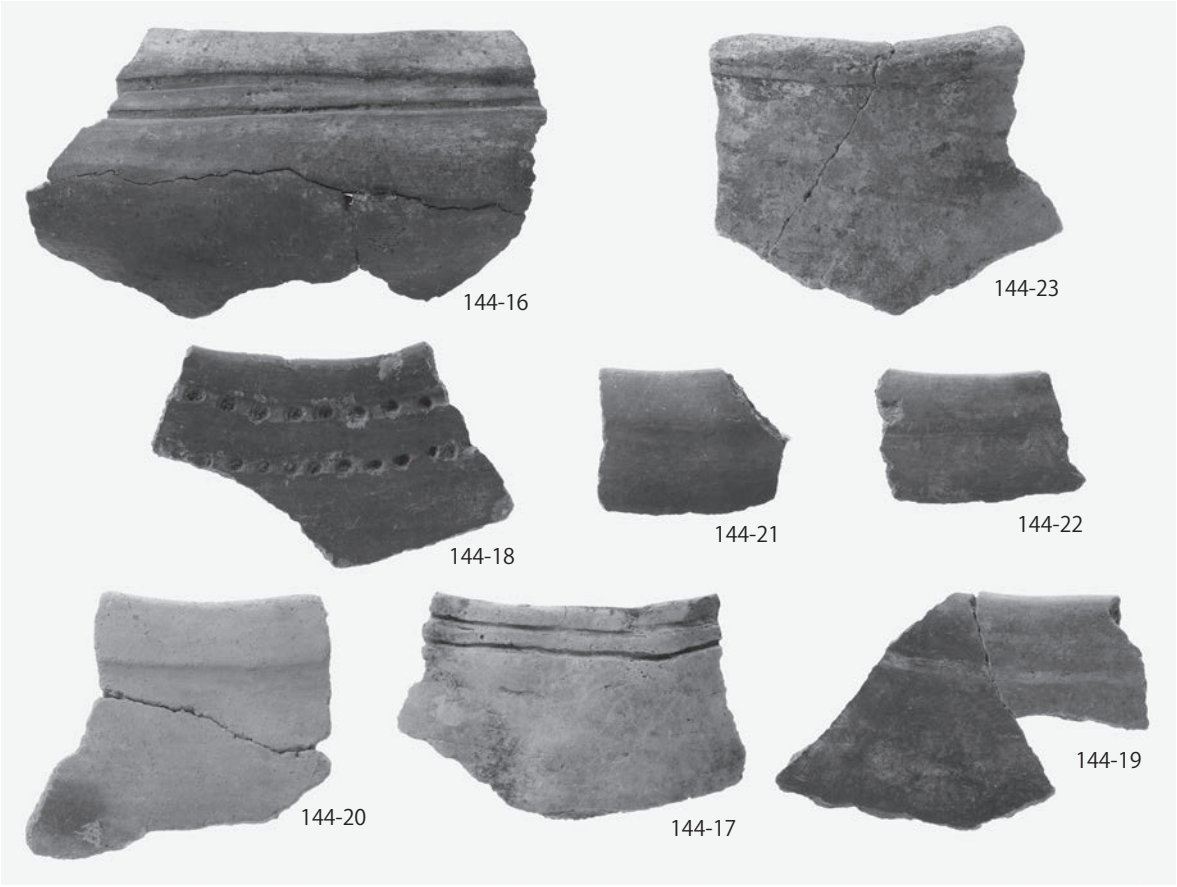


1　11－1・2 層出土縄文土器

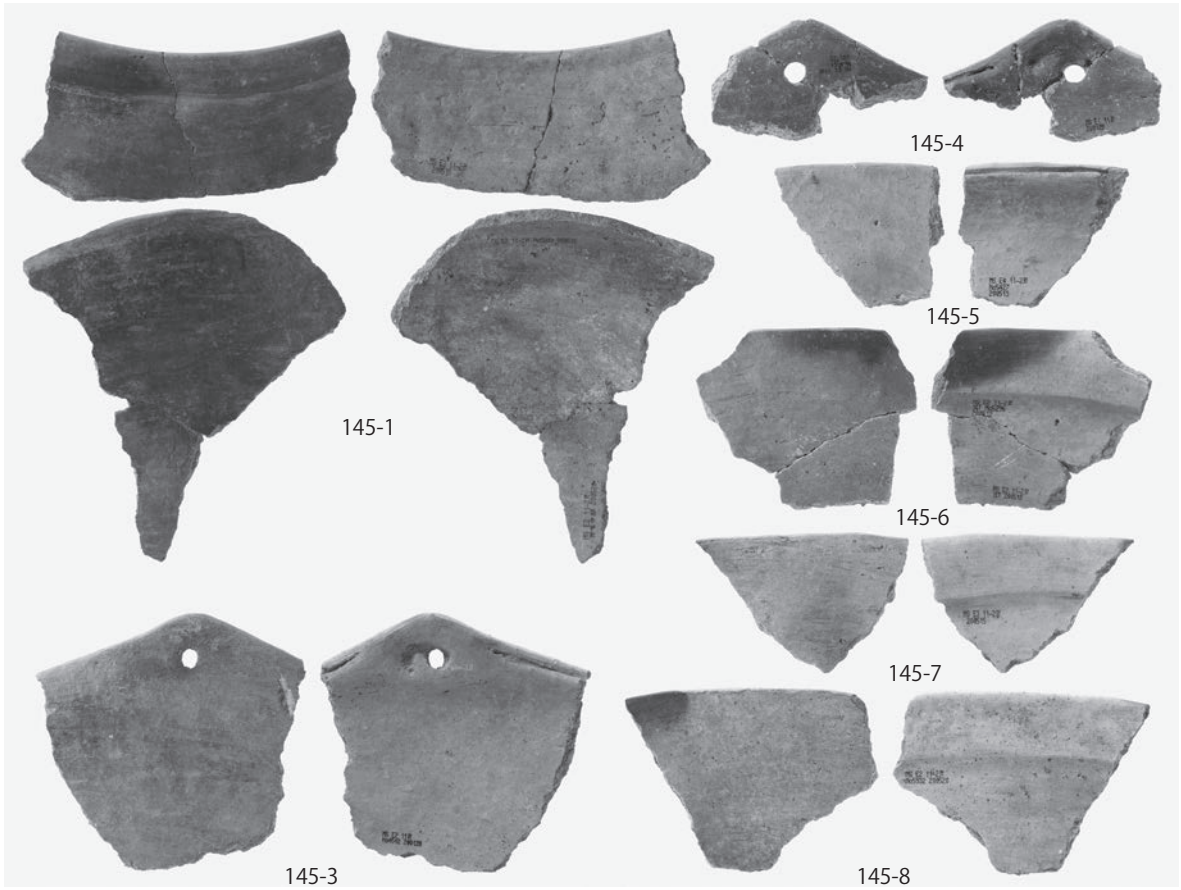


2　11－1・2 層出土縄文土器

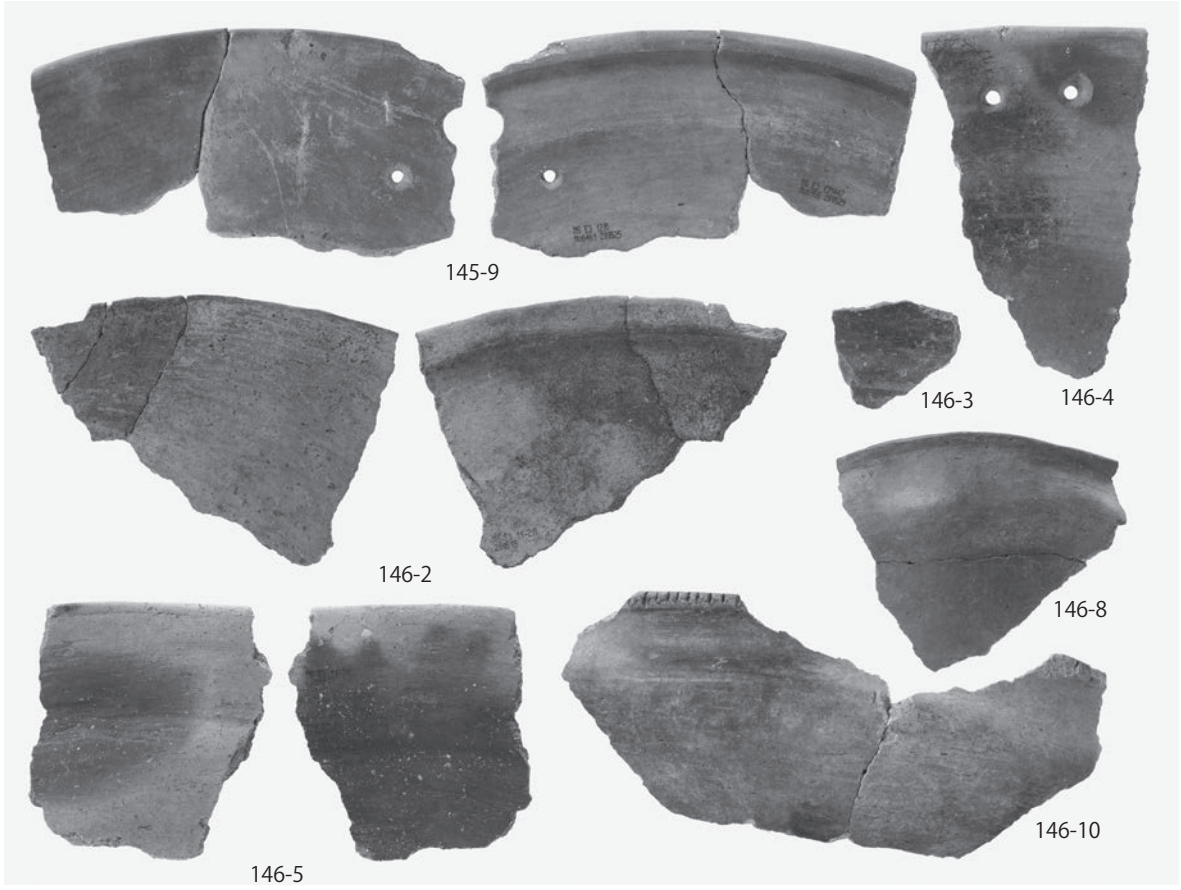
1　11－1・2 層出土縄文土器



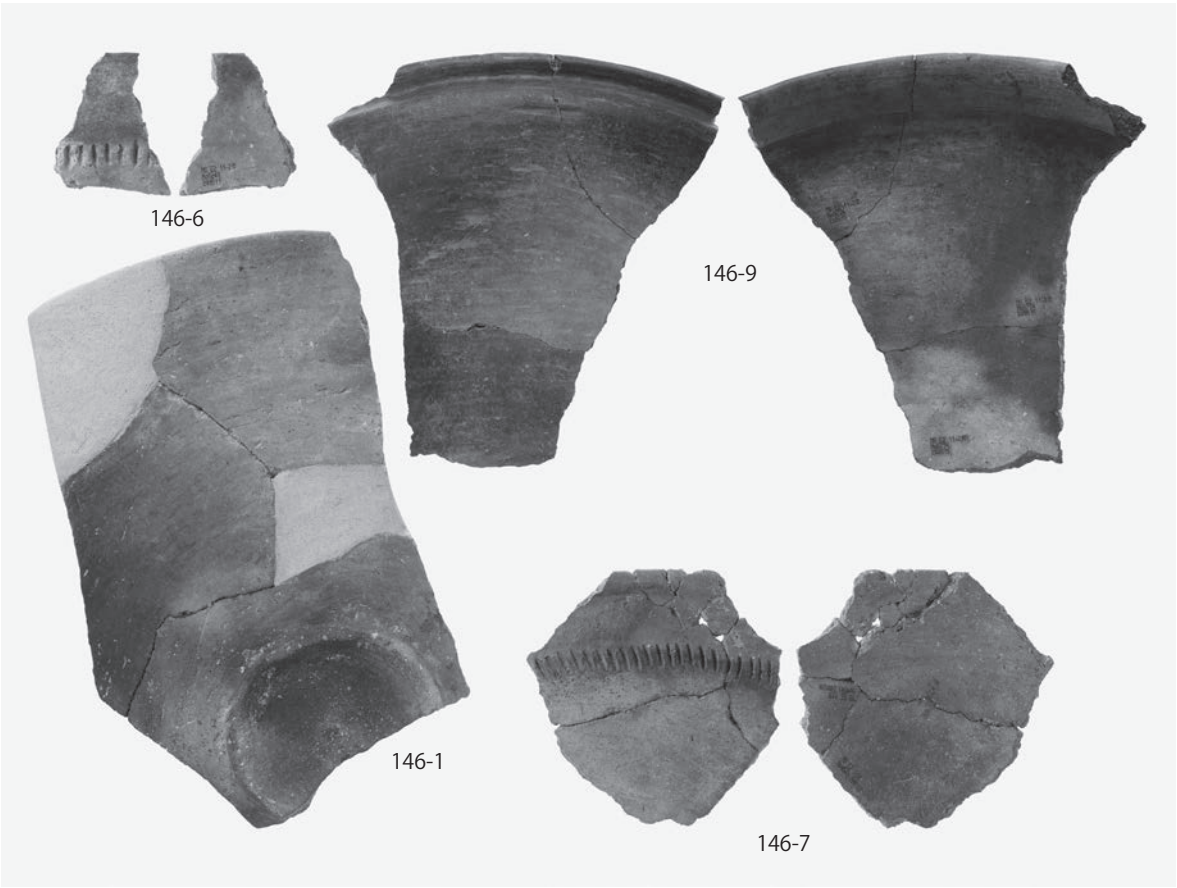
2　11－1・2 層出土縄文土器



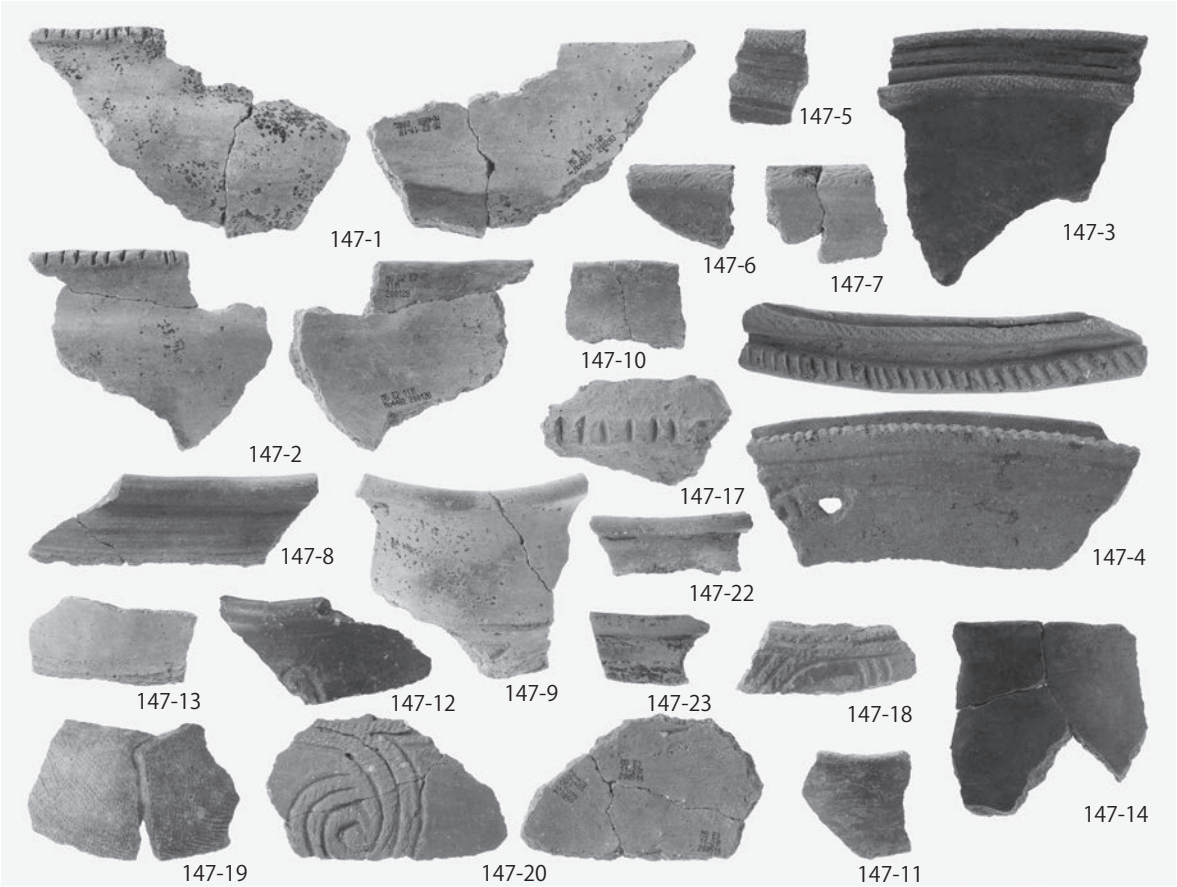
1　11－1・2 層出土縄文土器



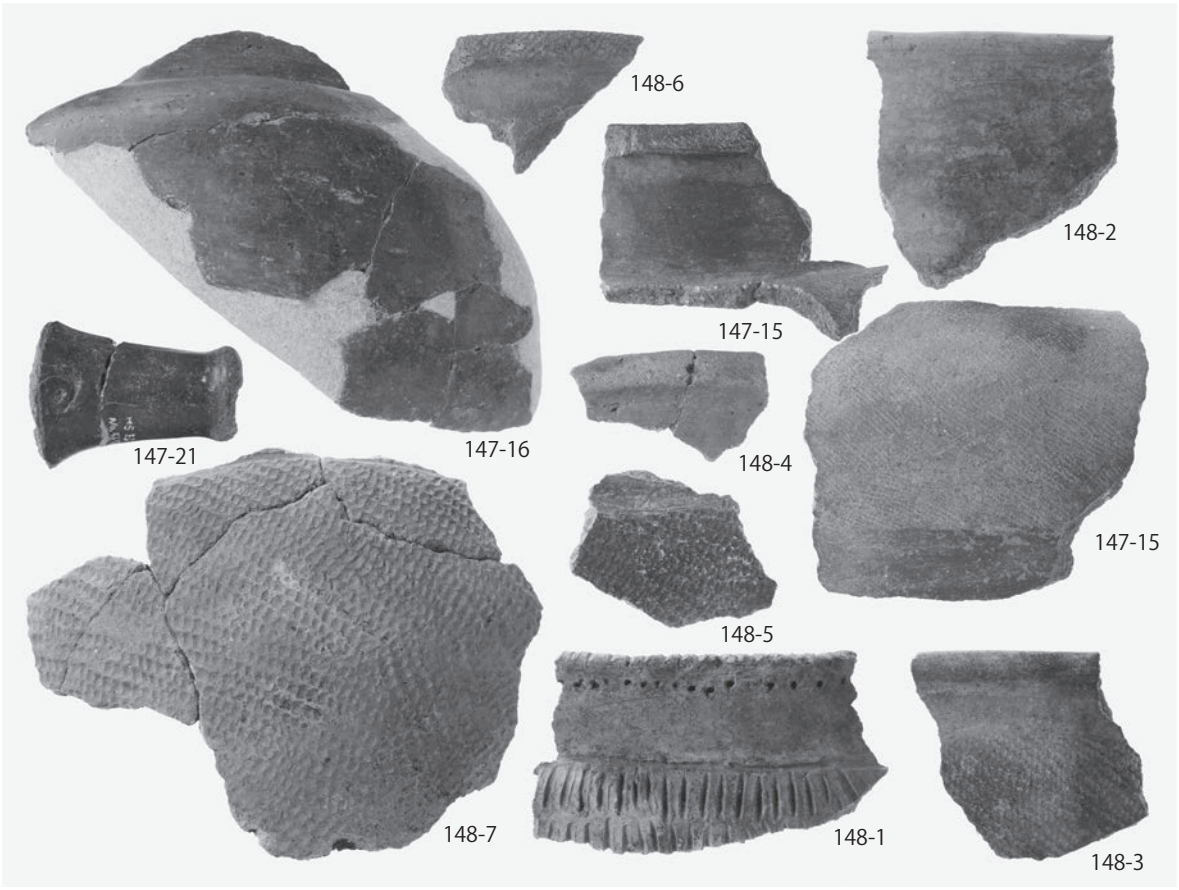
2　11－1・2 層出土縄文土器



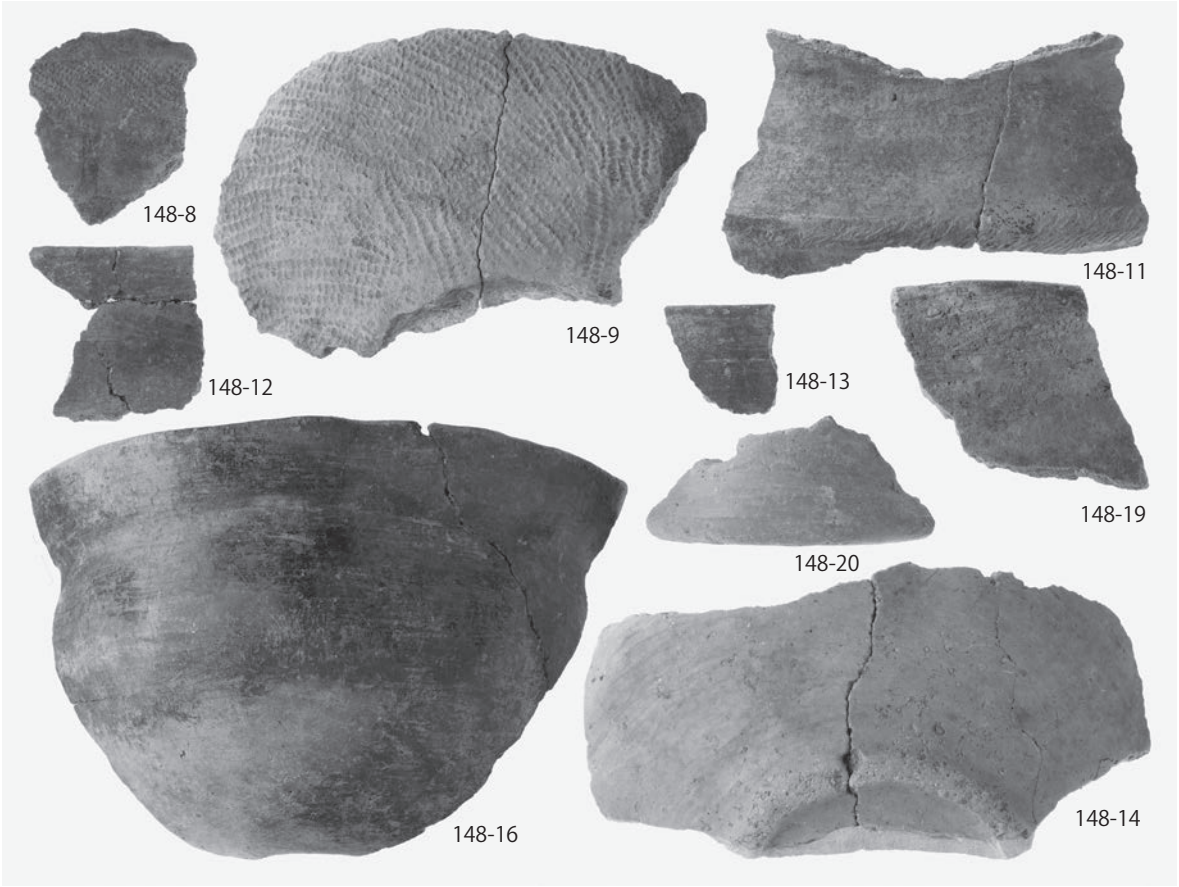
1　11－1・2 層出土縄文土器



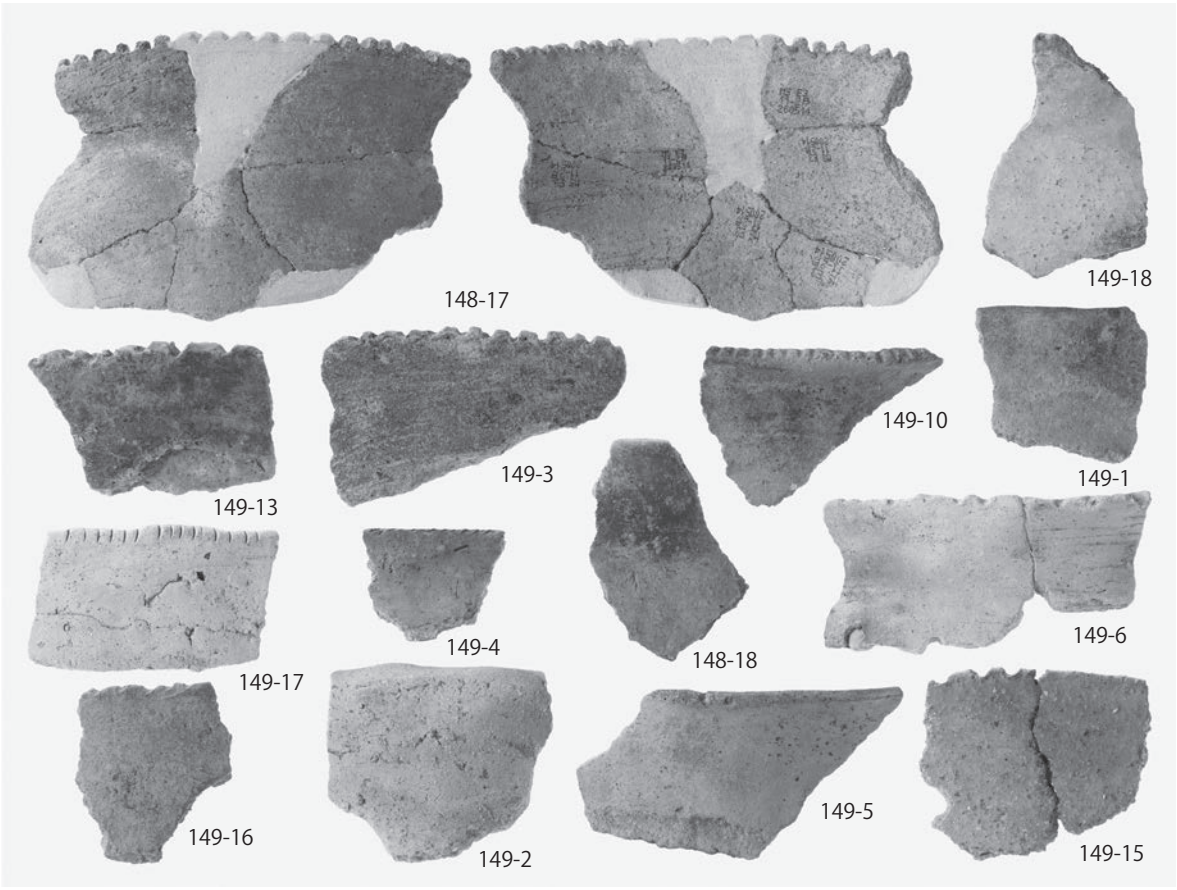
2　11－1・2 層出土縄文土器



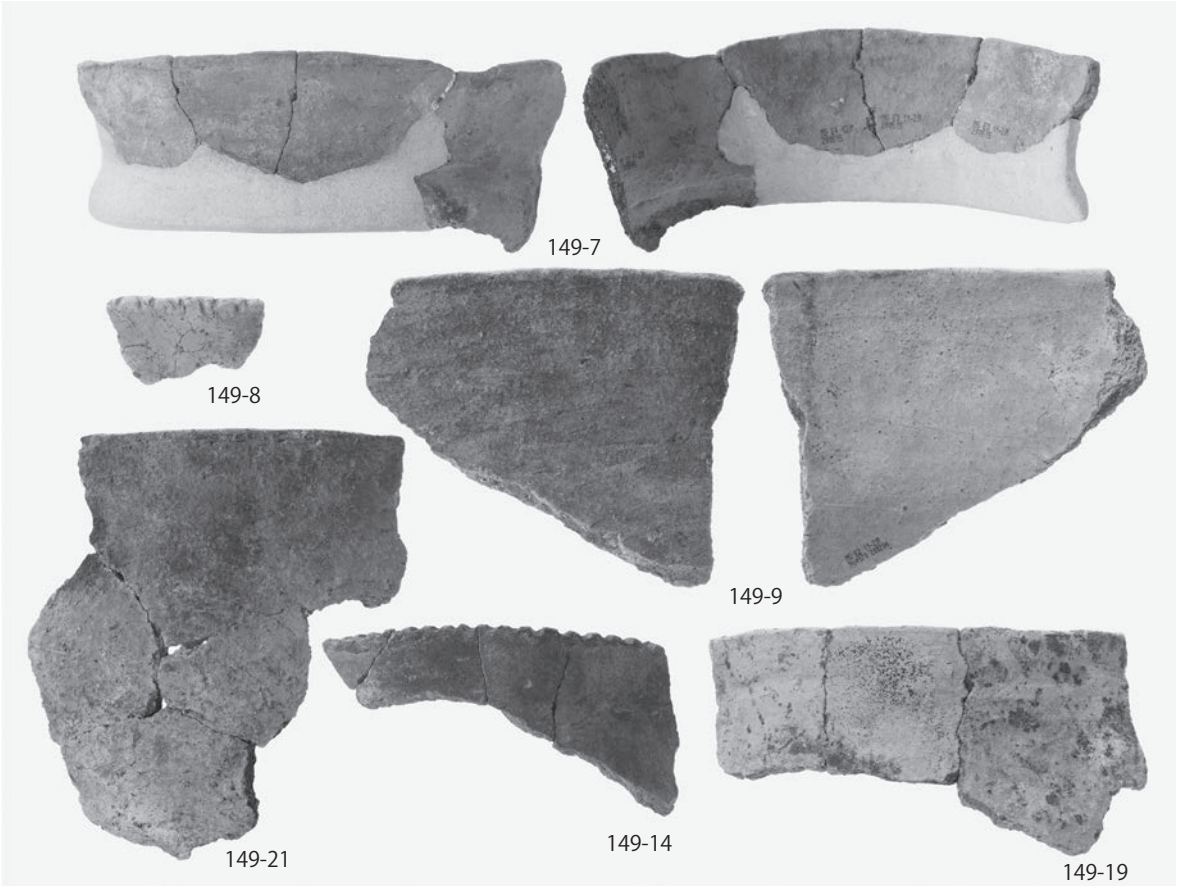
1　11－1・2 層出土縄文土器



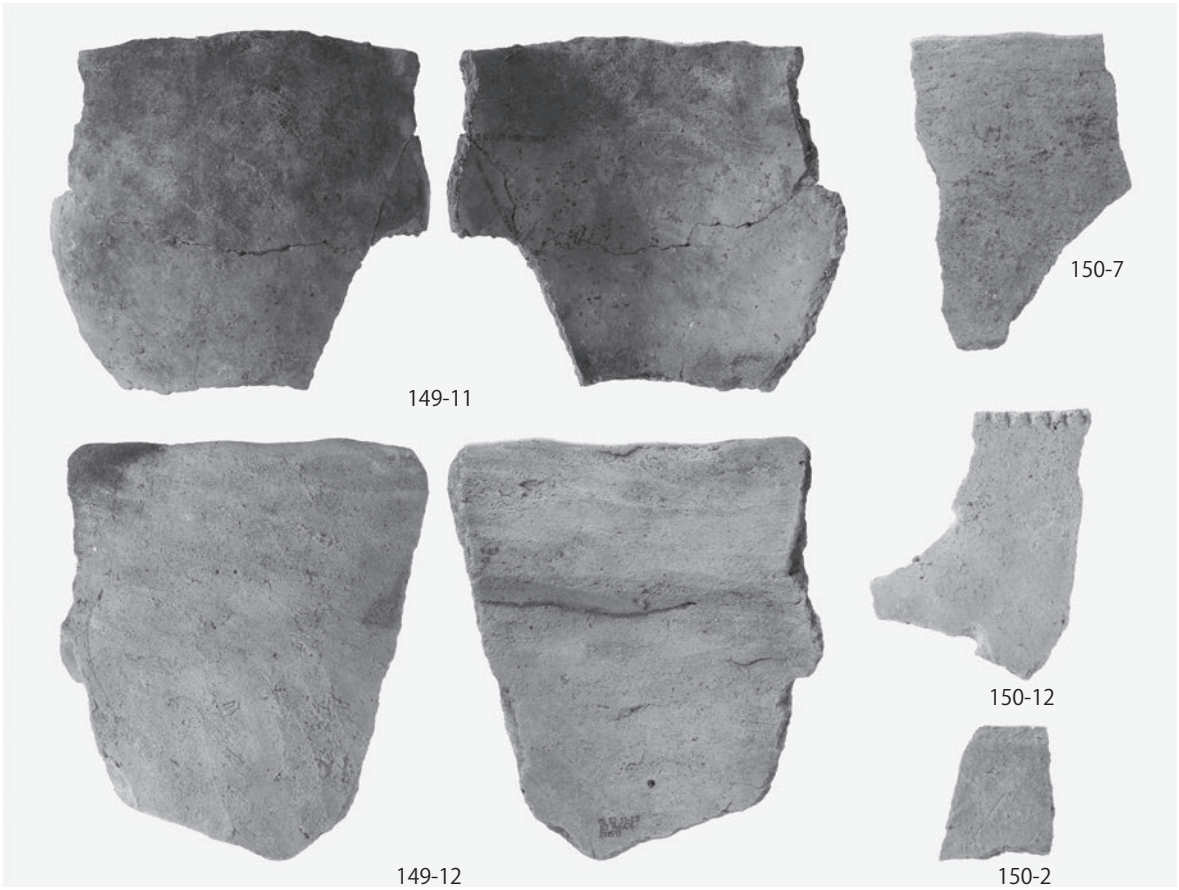
2　11－1・2 層出土縄文土器



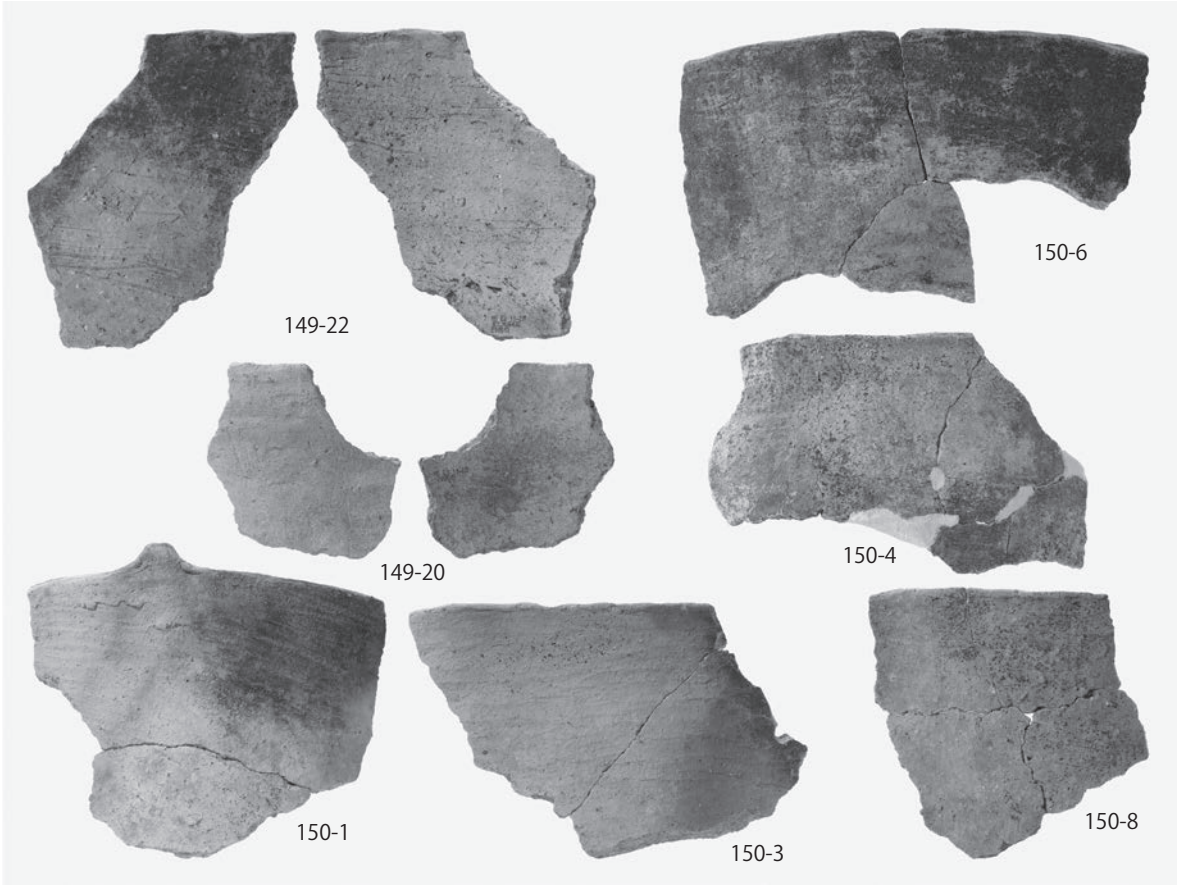
1　11－1・2 層出土縄文土器



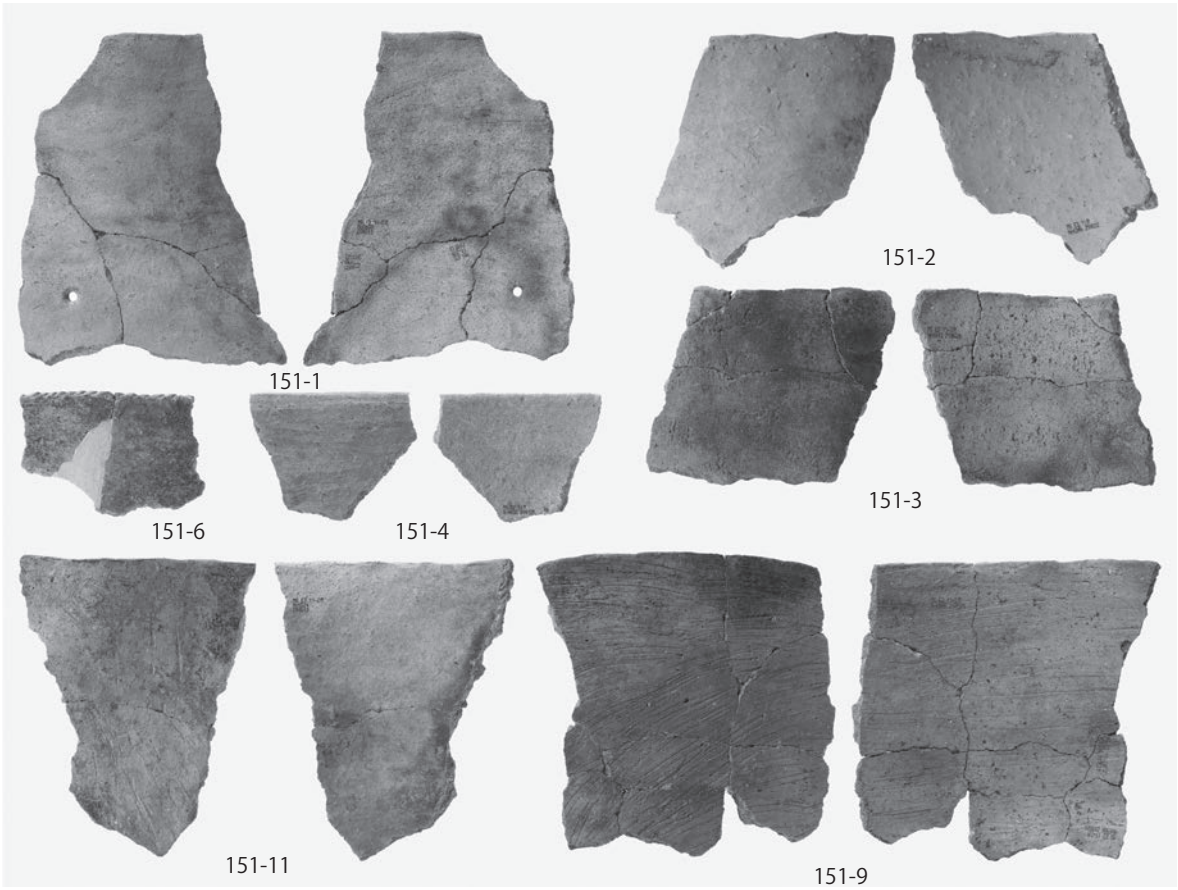
2　11－1・2 層出土縄文土器



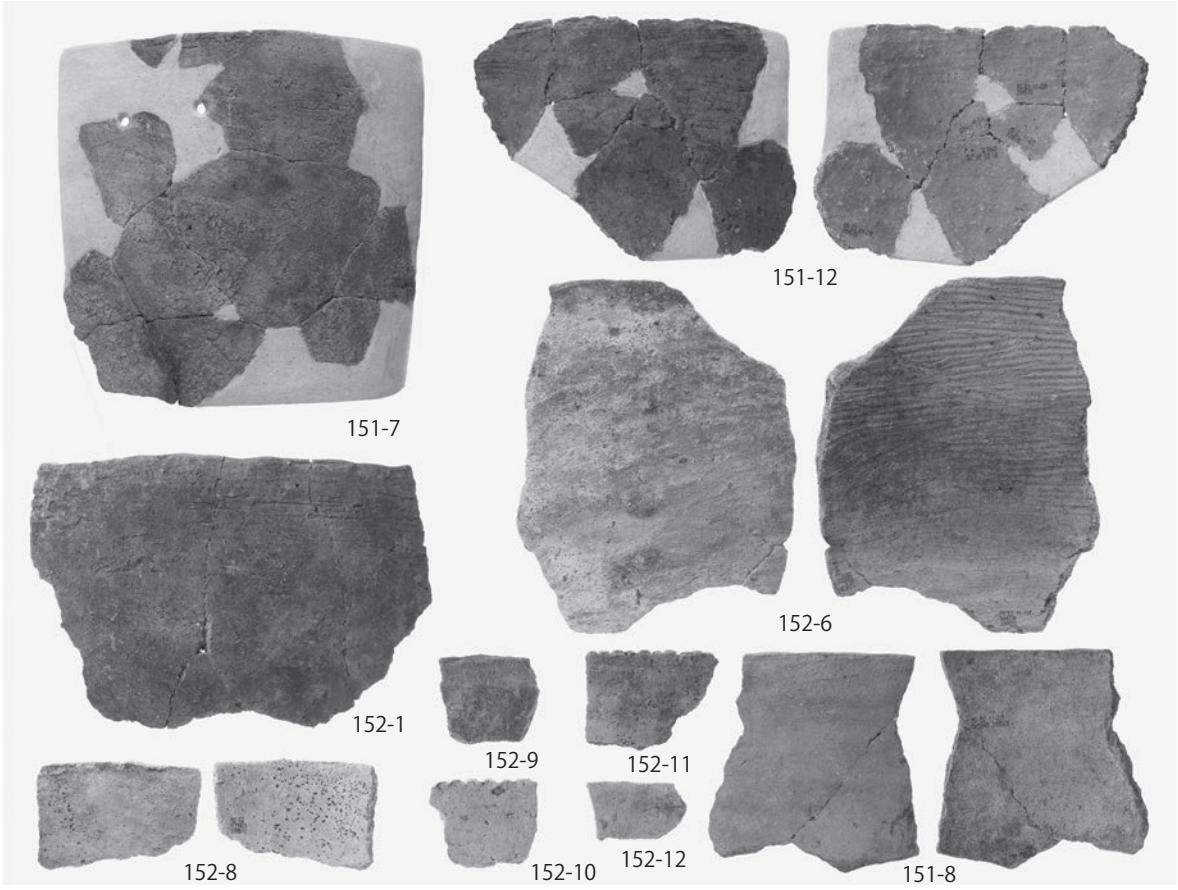
1　11－1・2 層出土縄文土器



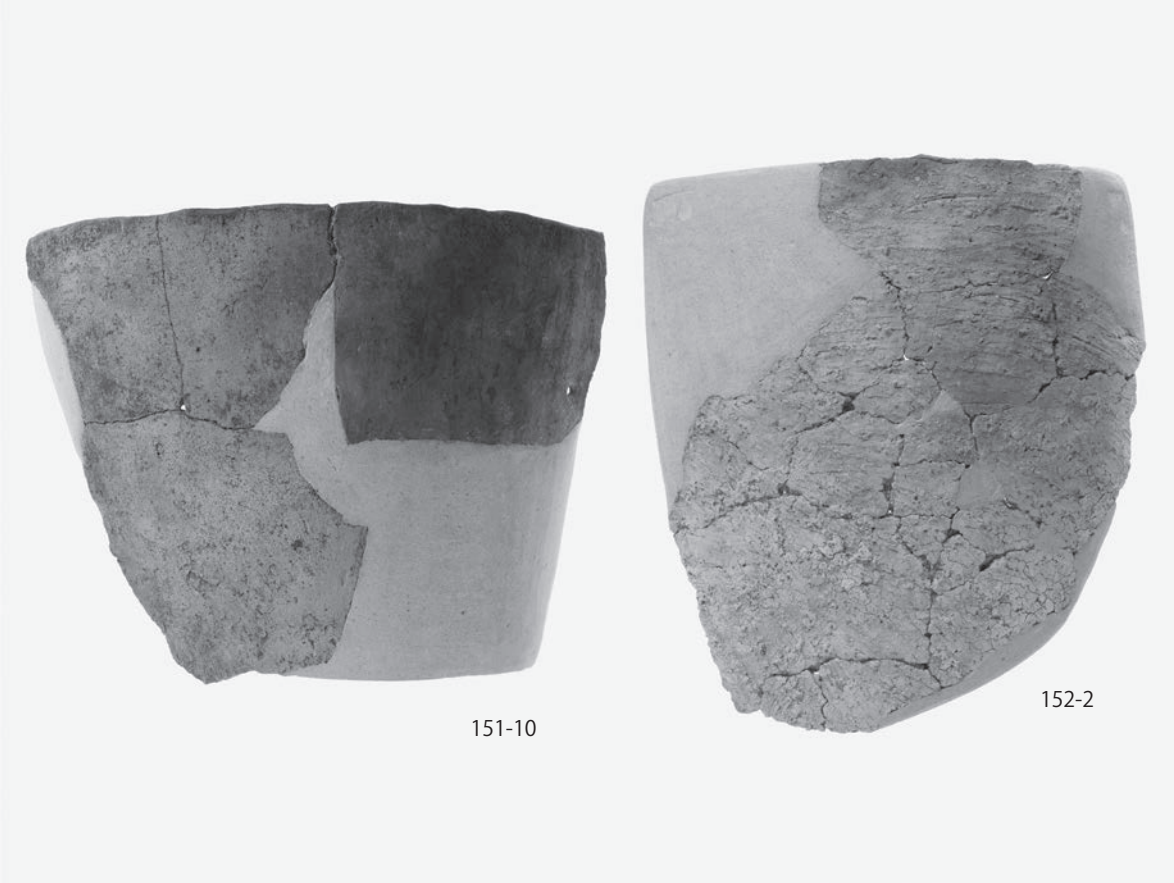
2　11－1・2 層出土縄文土器



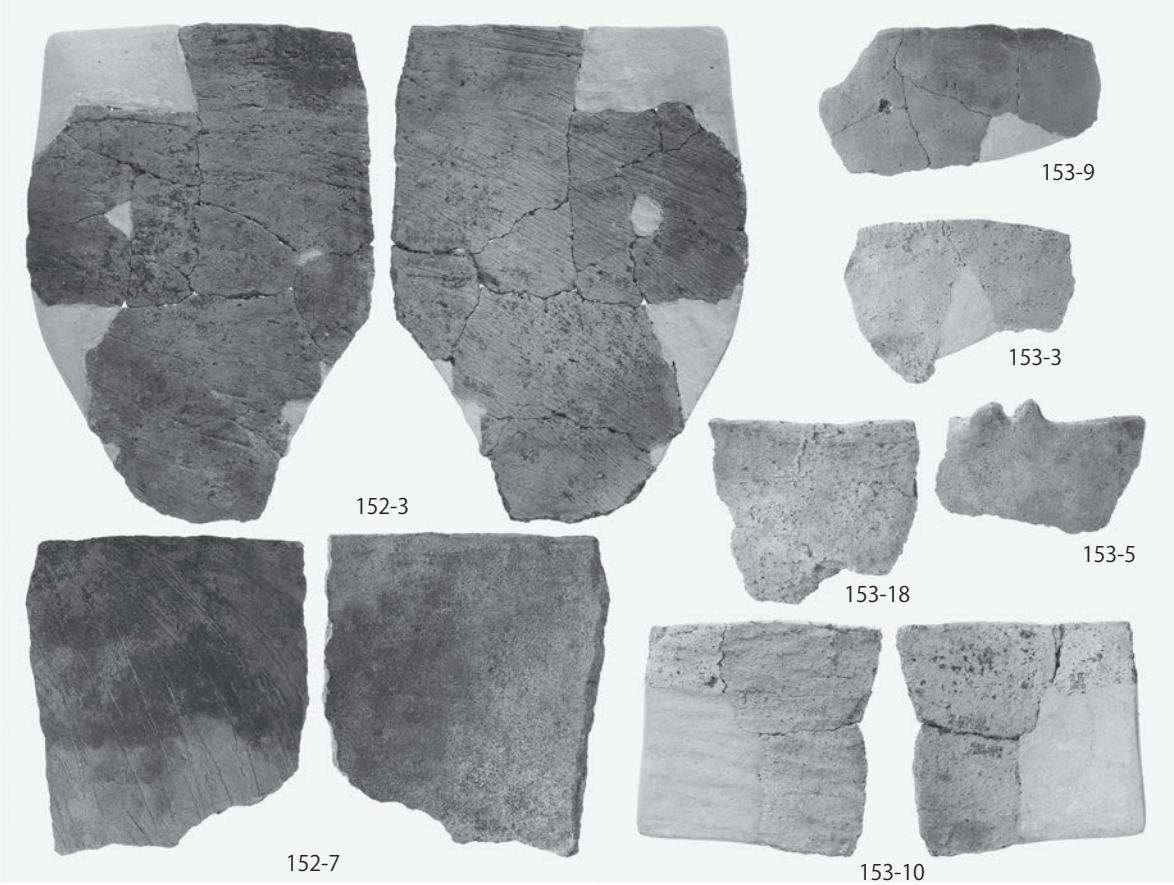
1　11－1・2 層出土縄文土器



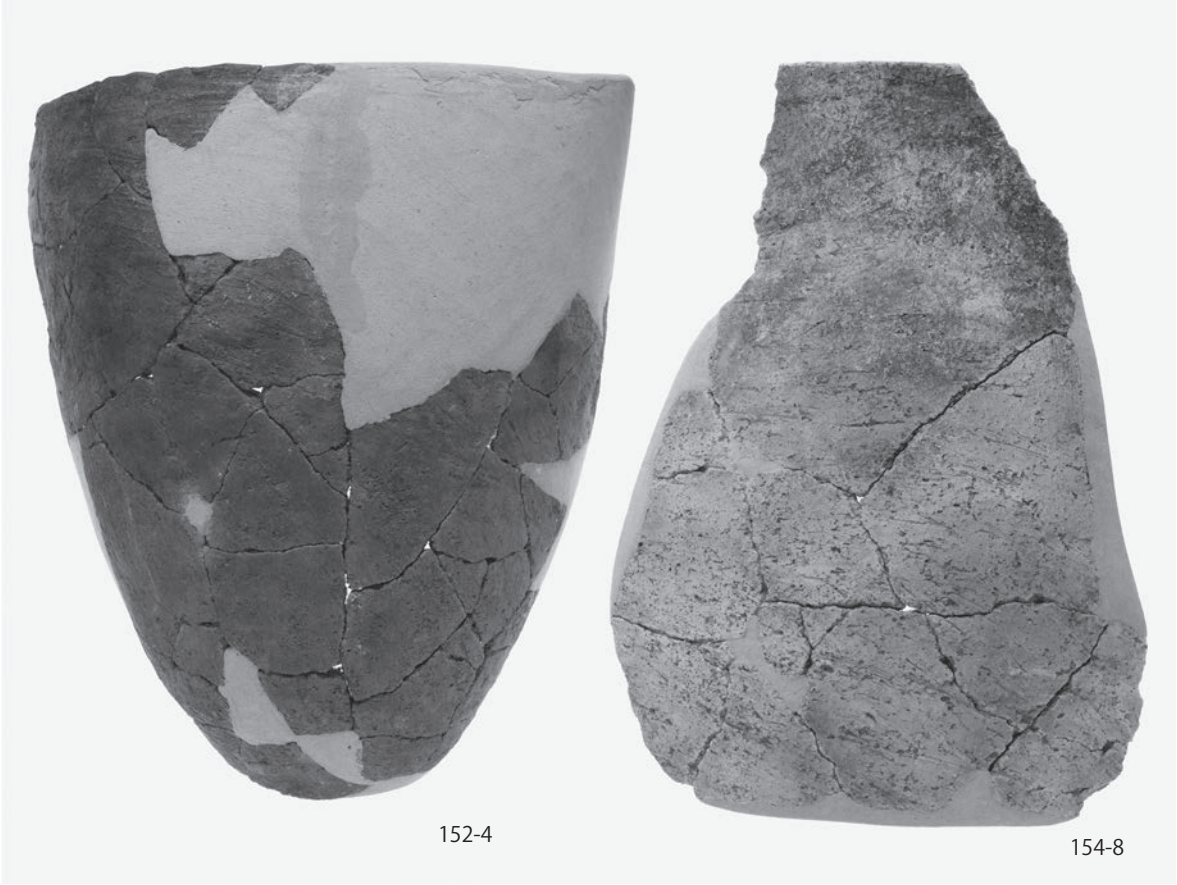
2　11－1・2 層出土縄文土器



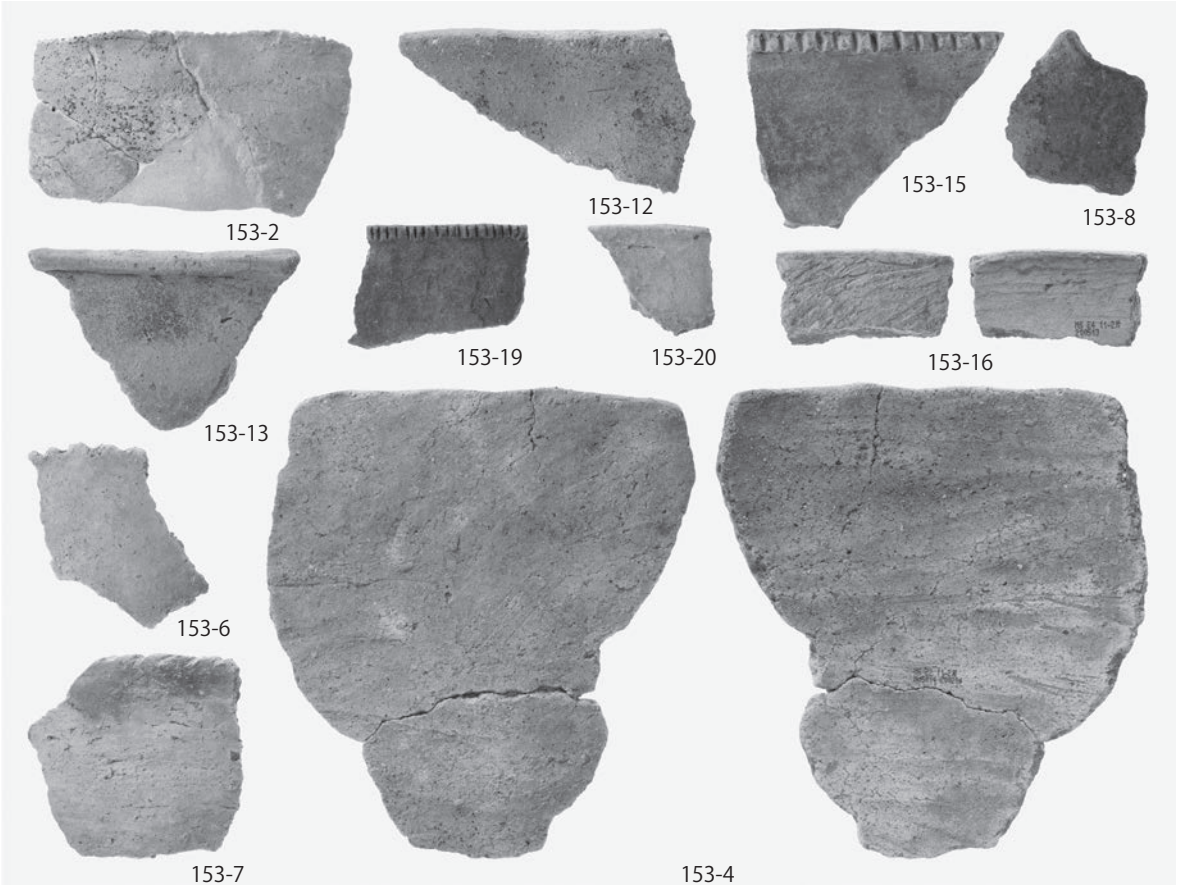
1　11－1・2 層出土縄文土器



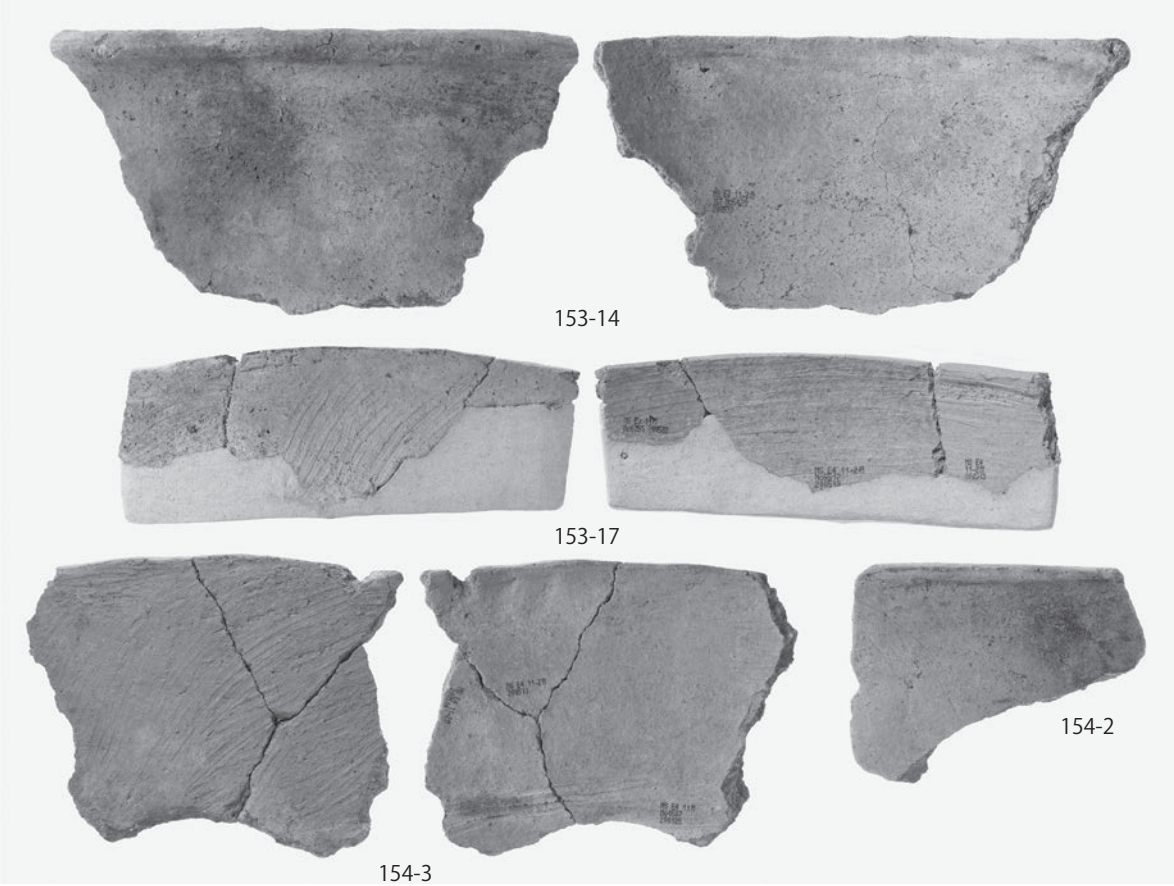
2　11－1・2 層出土縄文土器



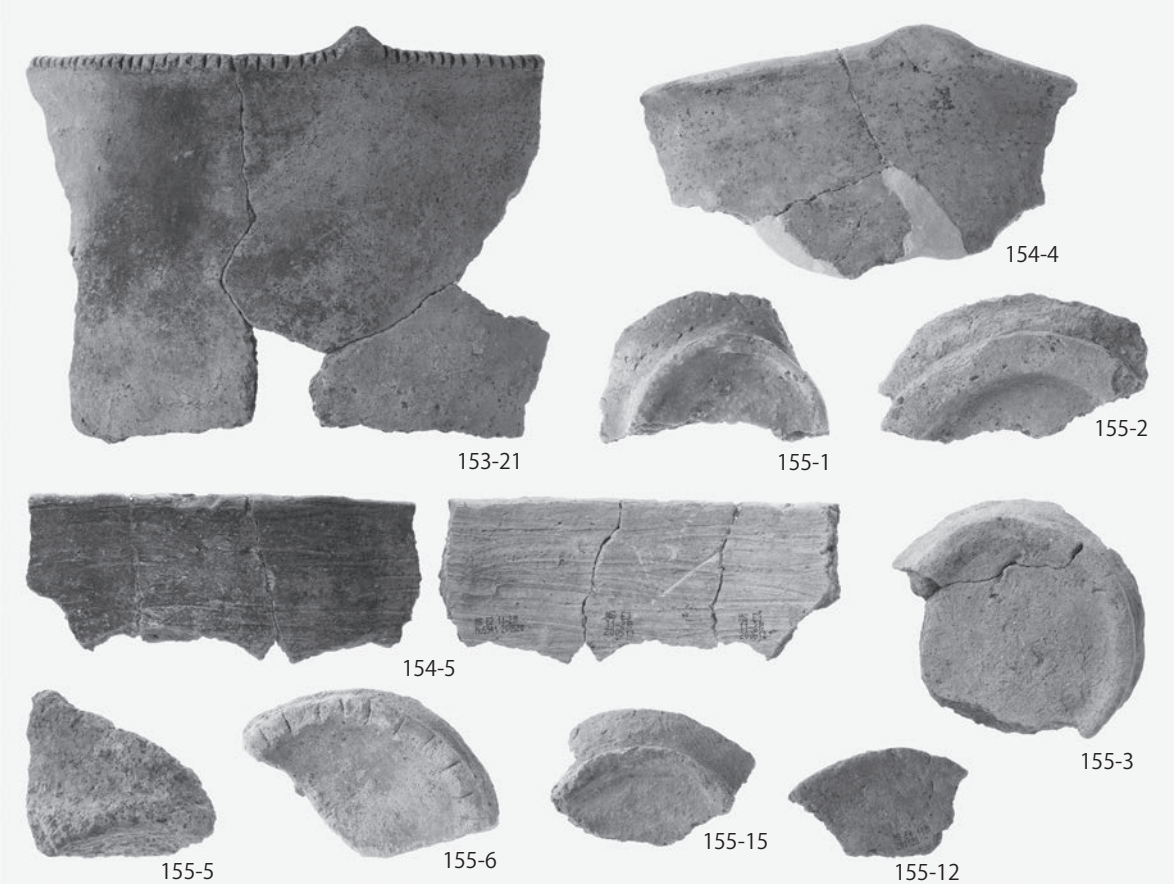
1　11－1・2 層出土縄文土器



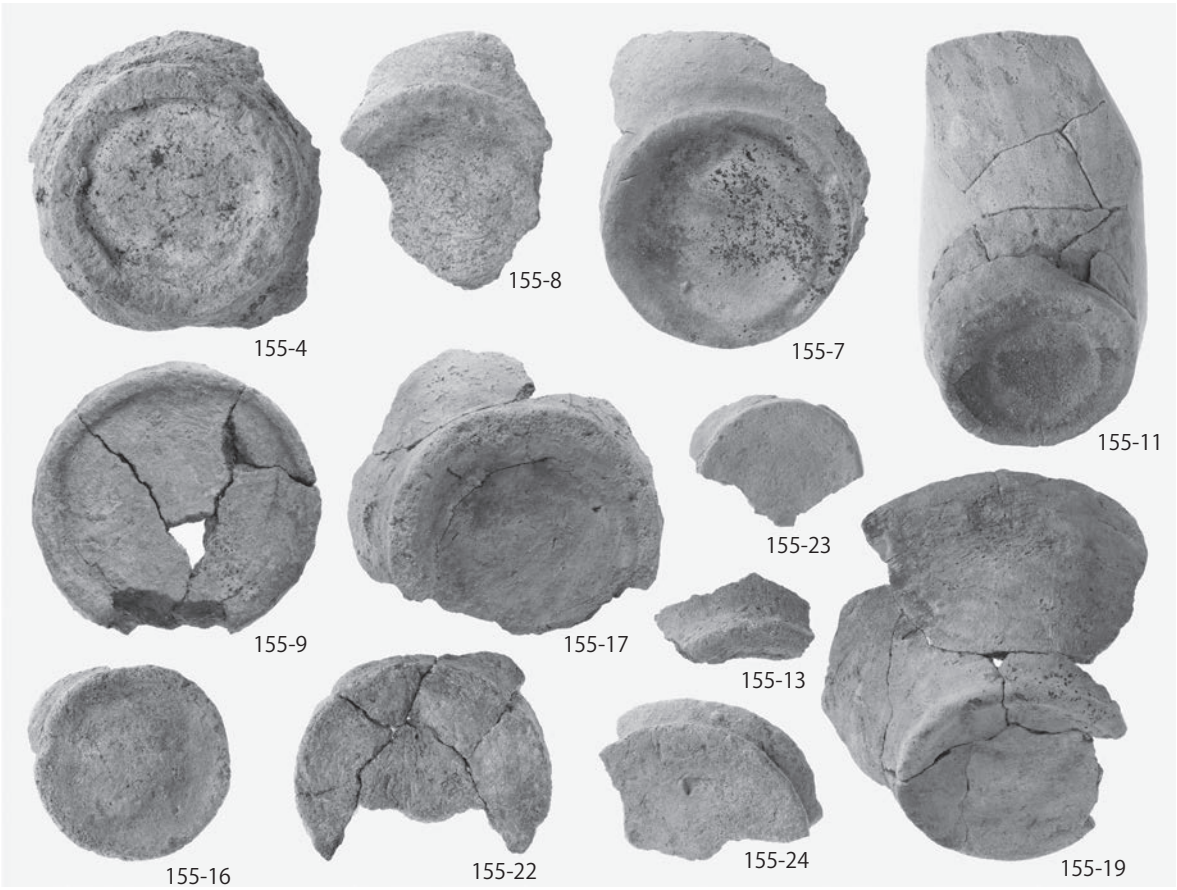
2　11－1・2 層出土縄文土器



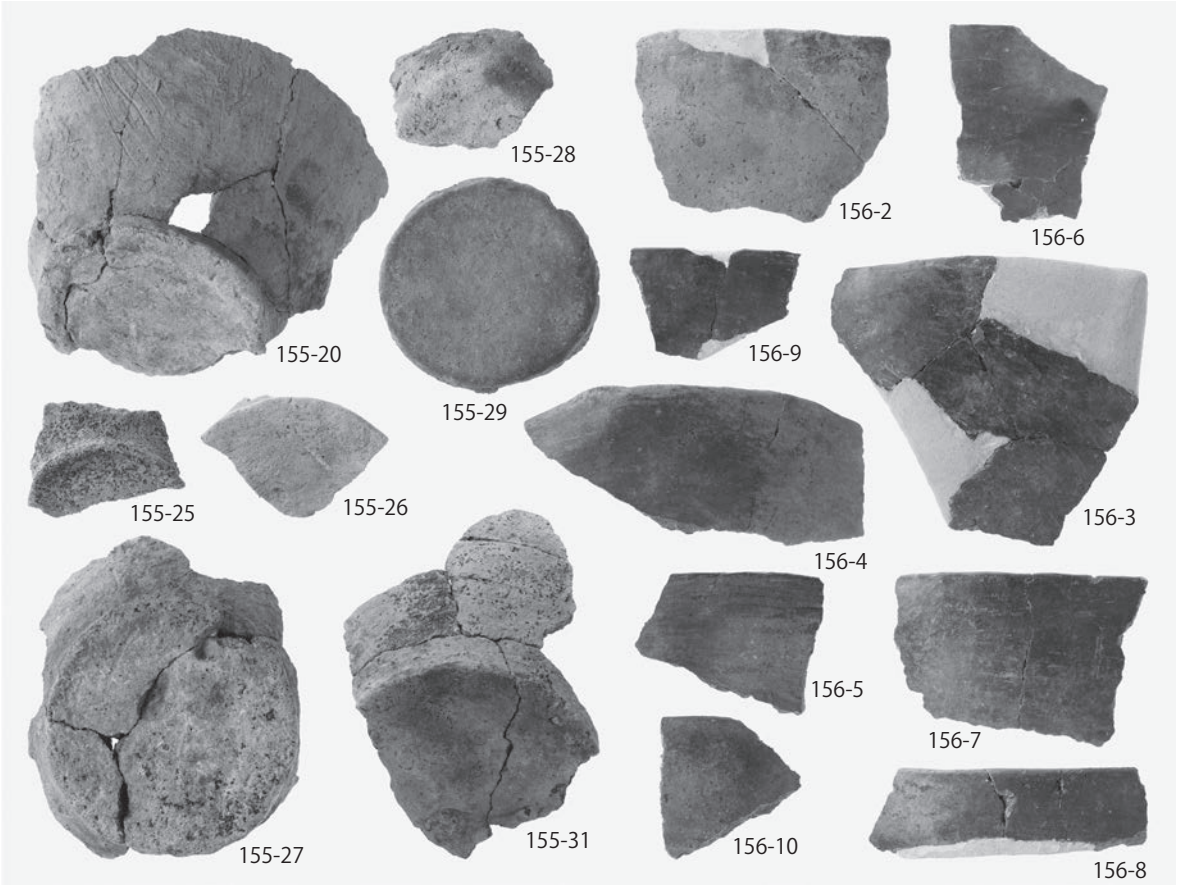
1　11－1・2 層出土縄文土器



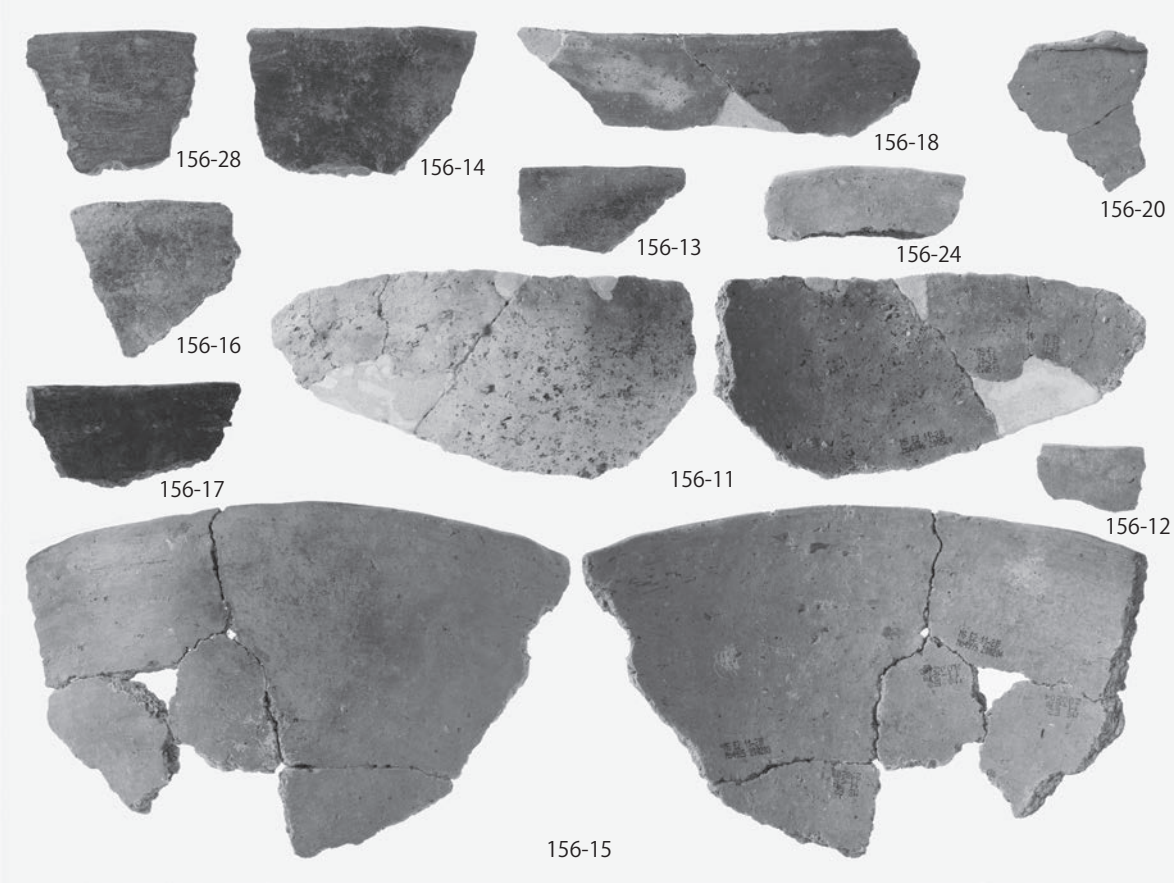
2　11－1・2 層出土縄文土器



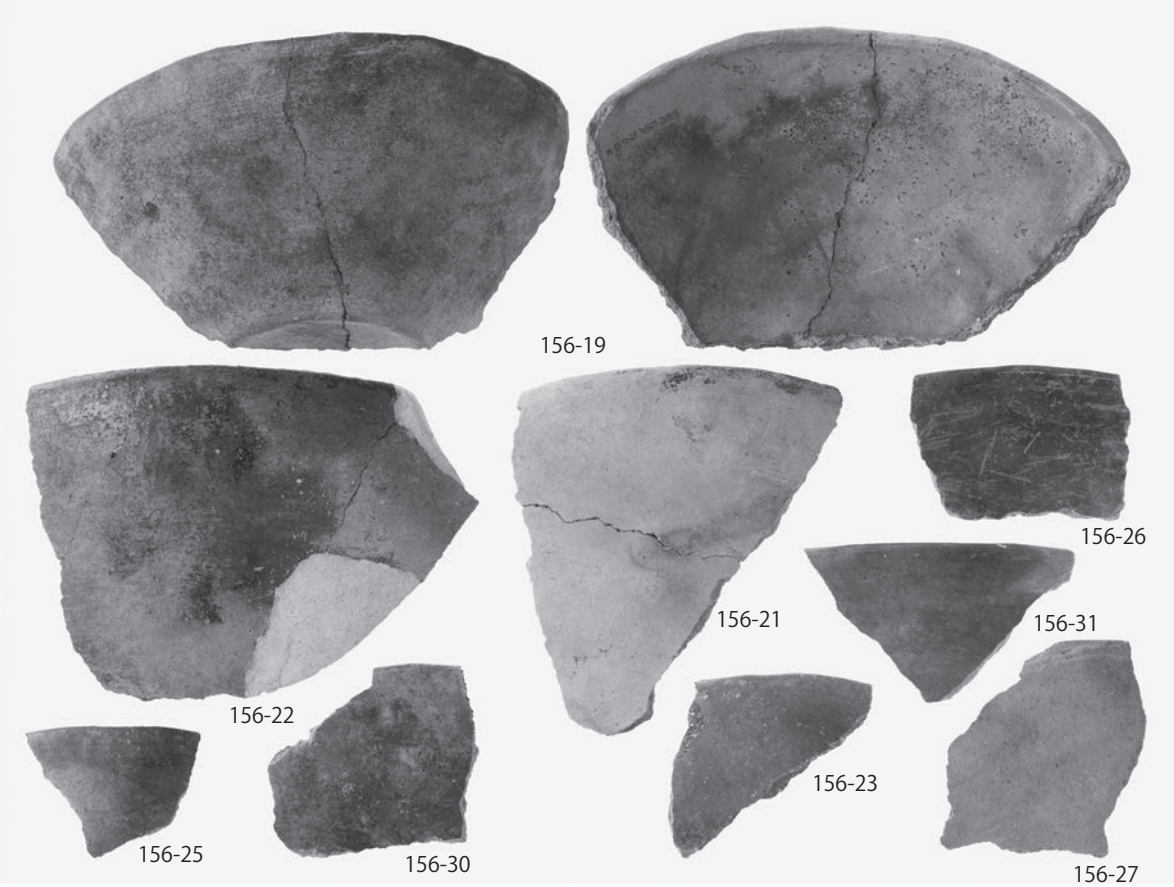
1　11－1・2 層出土縄文土器



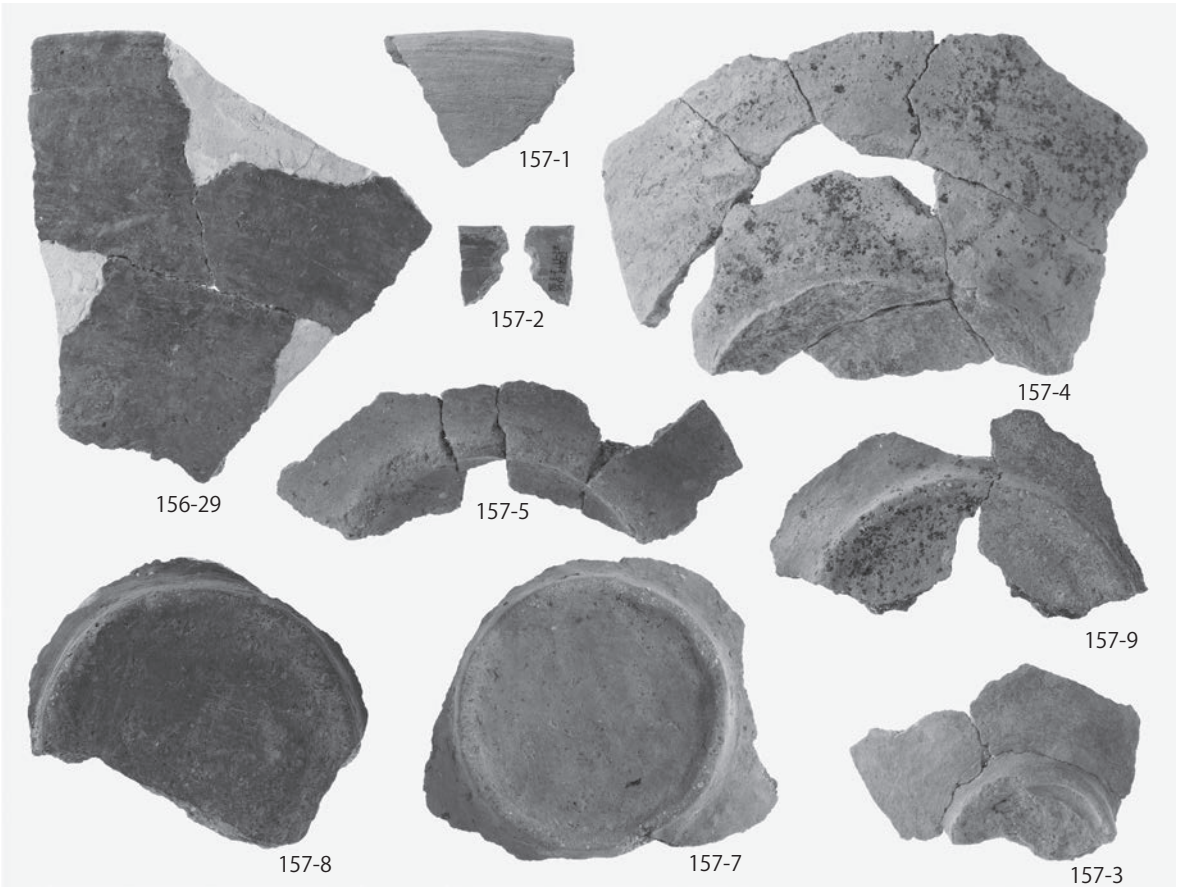
2　11－1・2 層出土縄文土器



1　11－1・2 層出土縄文土器



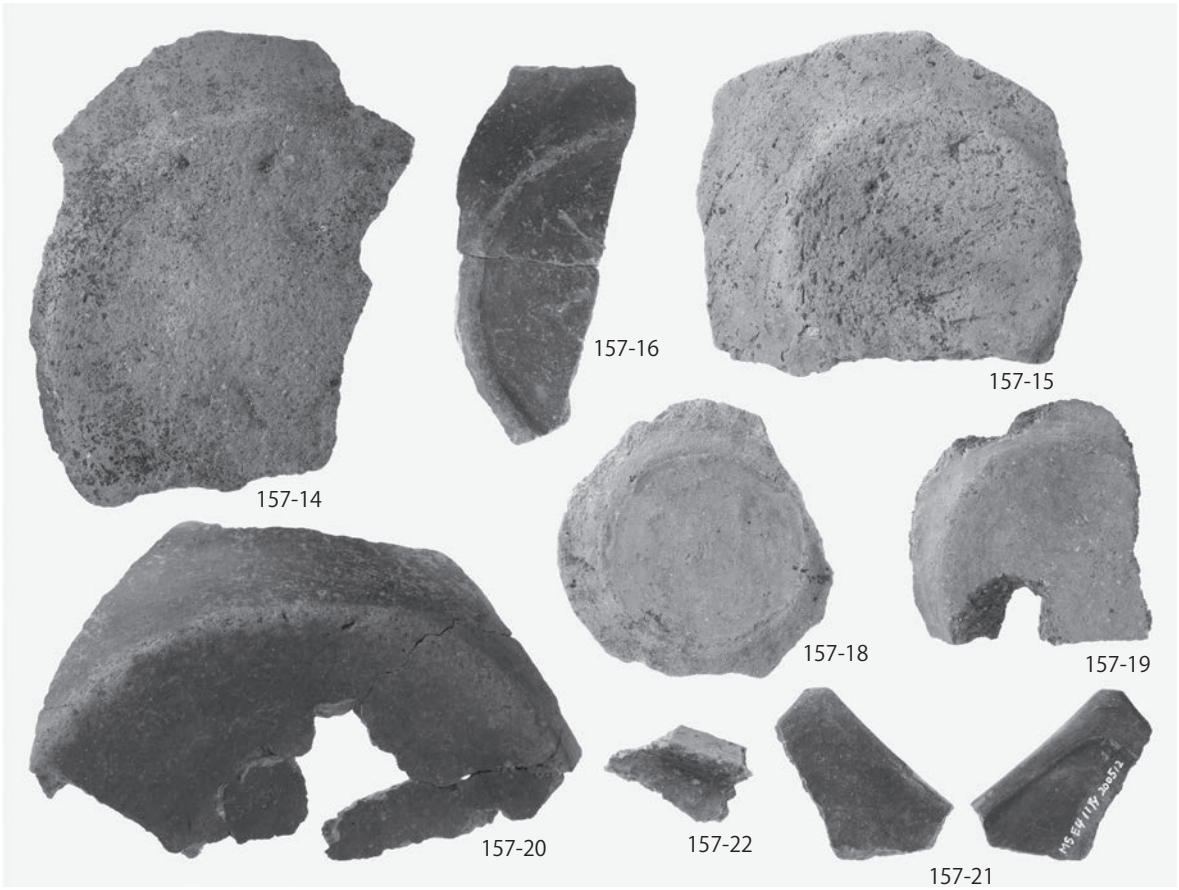
2　11－1・2 層出土縄文土器



1　11－1・2 層出土縄文土器

2　11－1・2 層出土縄文土器

図版 88



1　11－1・2 層出土縄文土器

2　11－1・2 層出土縄文土器

139-3

139-2

141-1

141-1

1　11－1・2 層出土縄文土器

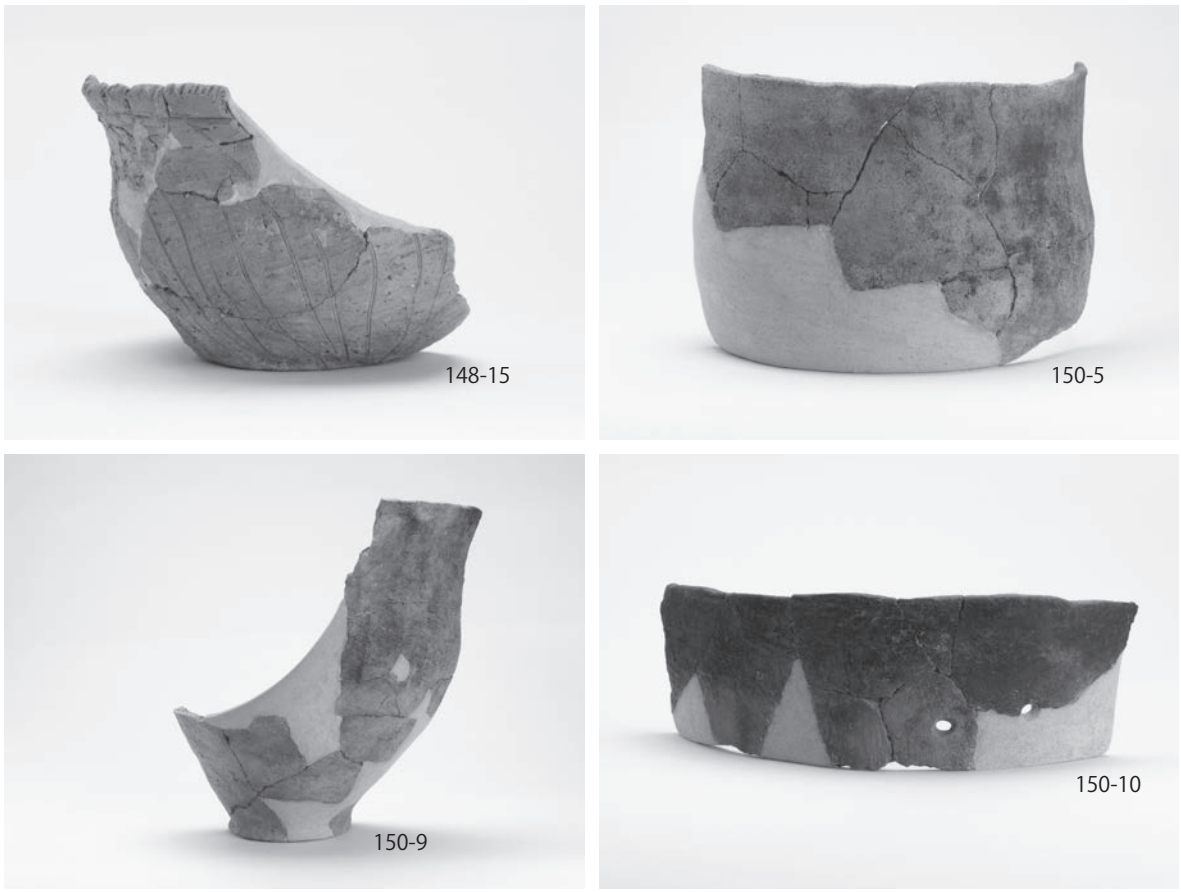
142-15

143-10

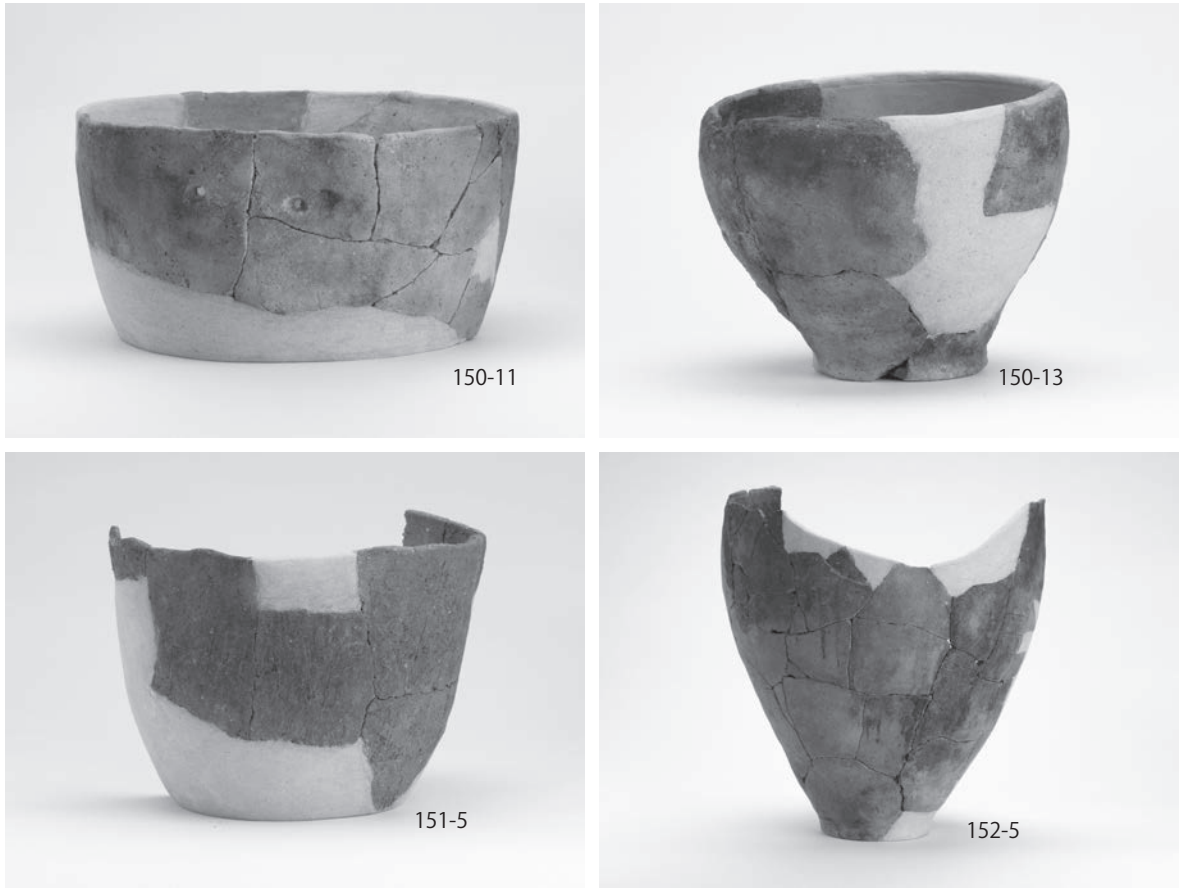
145-2

148-10

2　11－1・2 層出土縄文土器



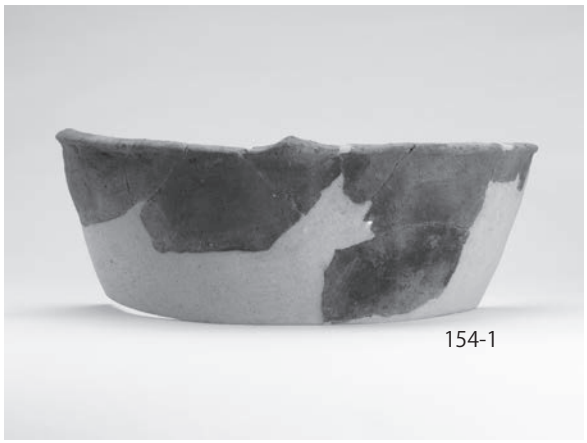
1　11－1・2 層出土縄文土器



2　11－1・2 層出土縄文土器

153-1

153-11


154-1

154-6

1　11－1・2 層出土縄文土器

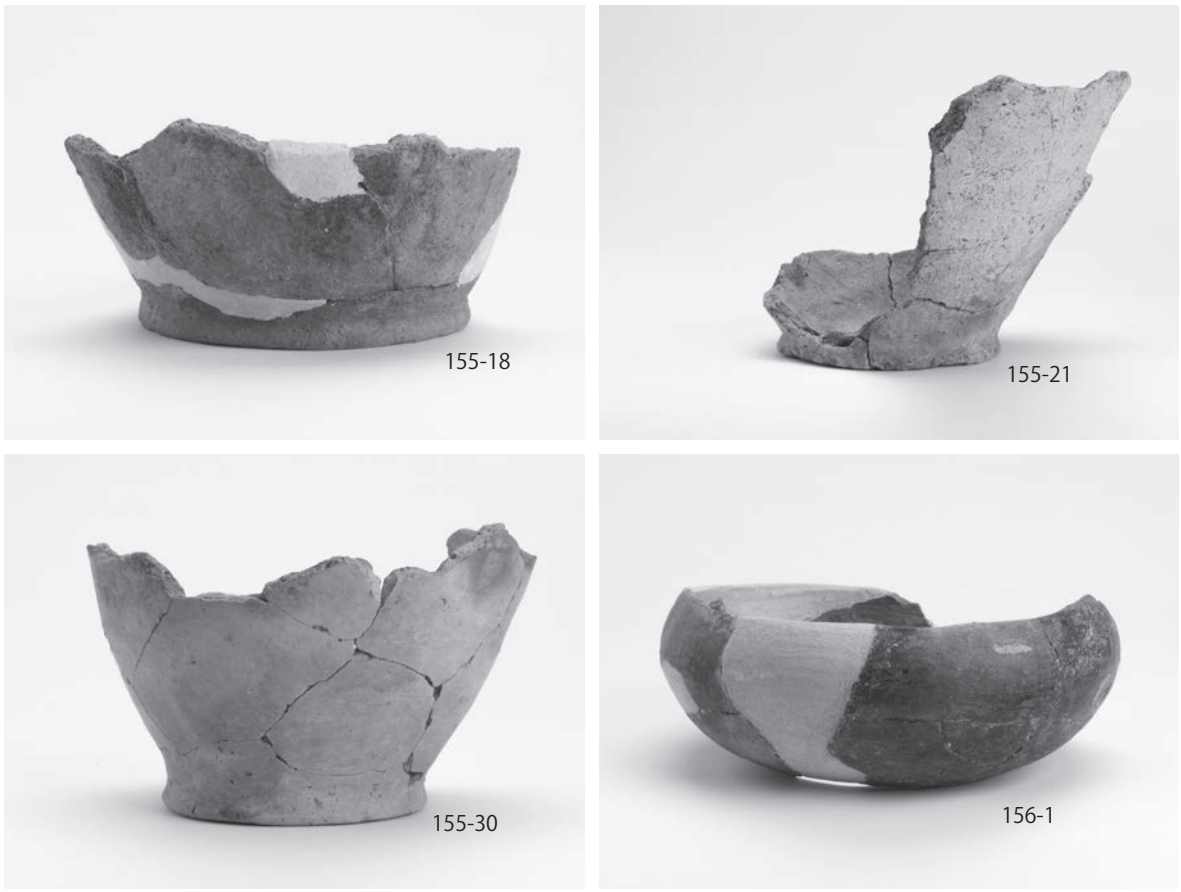
154-7

154-9

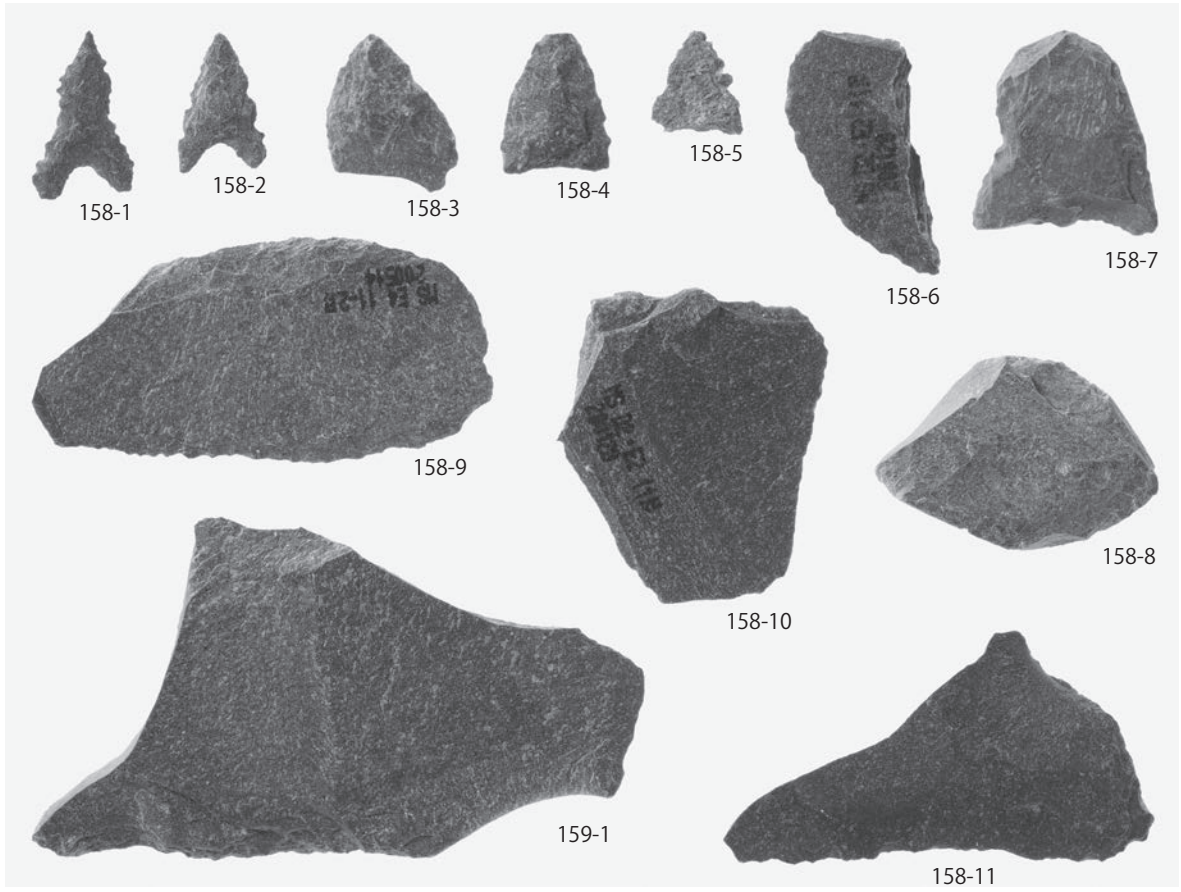
155-10

155-14

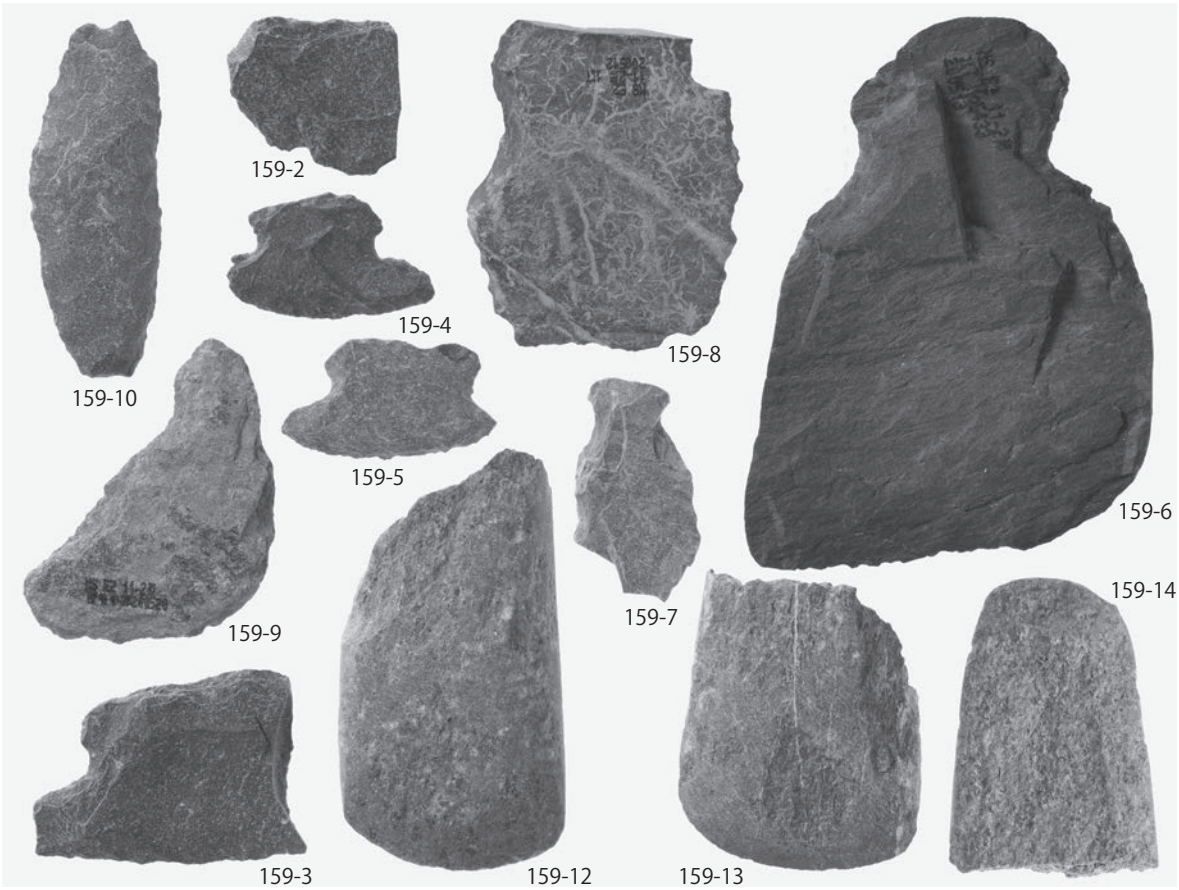
2　11－1・2 層出土縄文土器



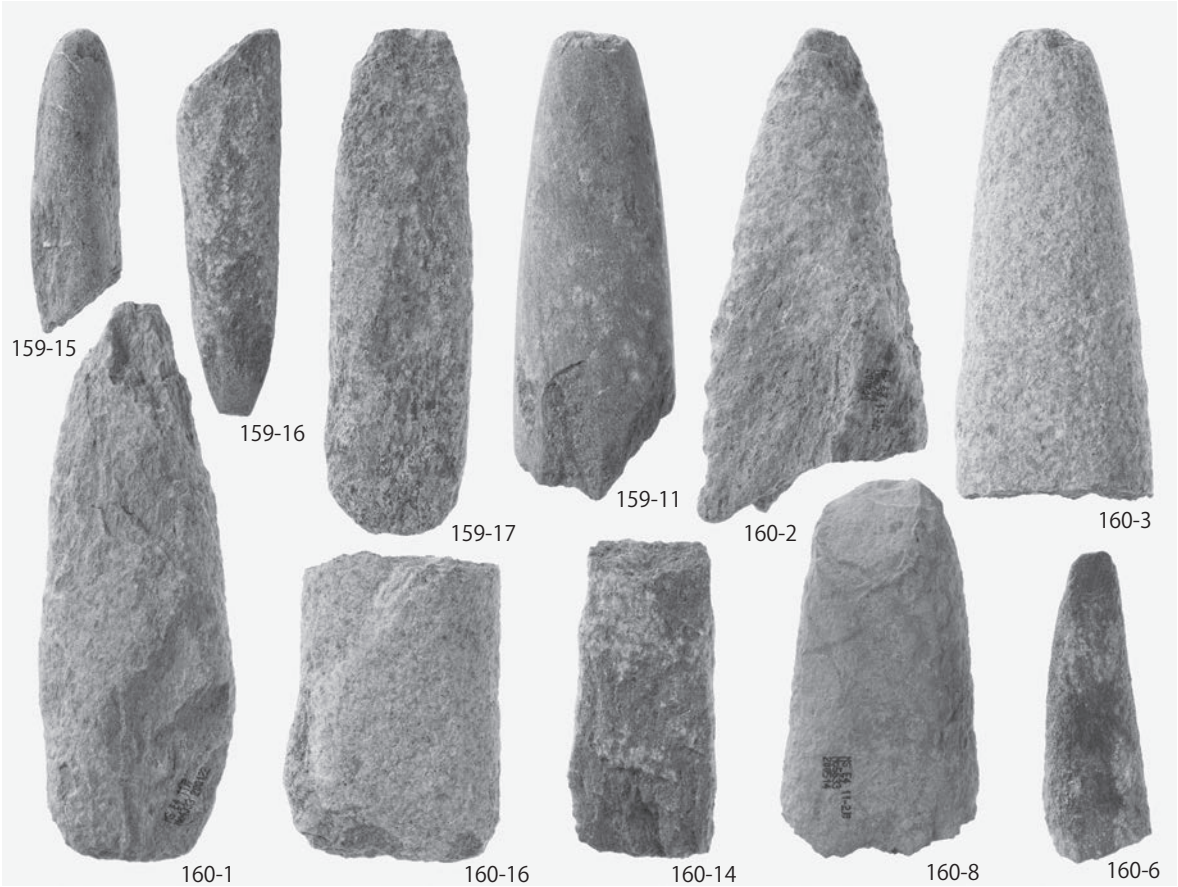
1　11－1・2 層出土縄文土器



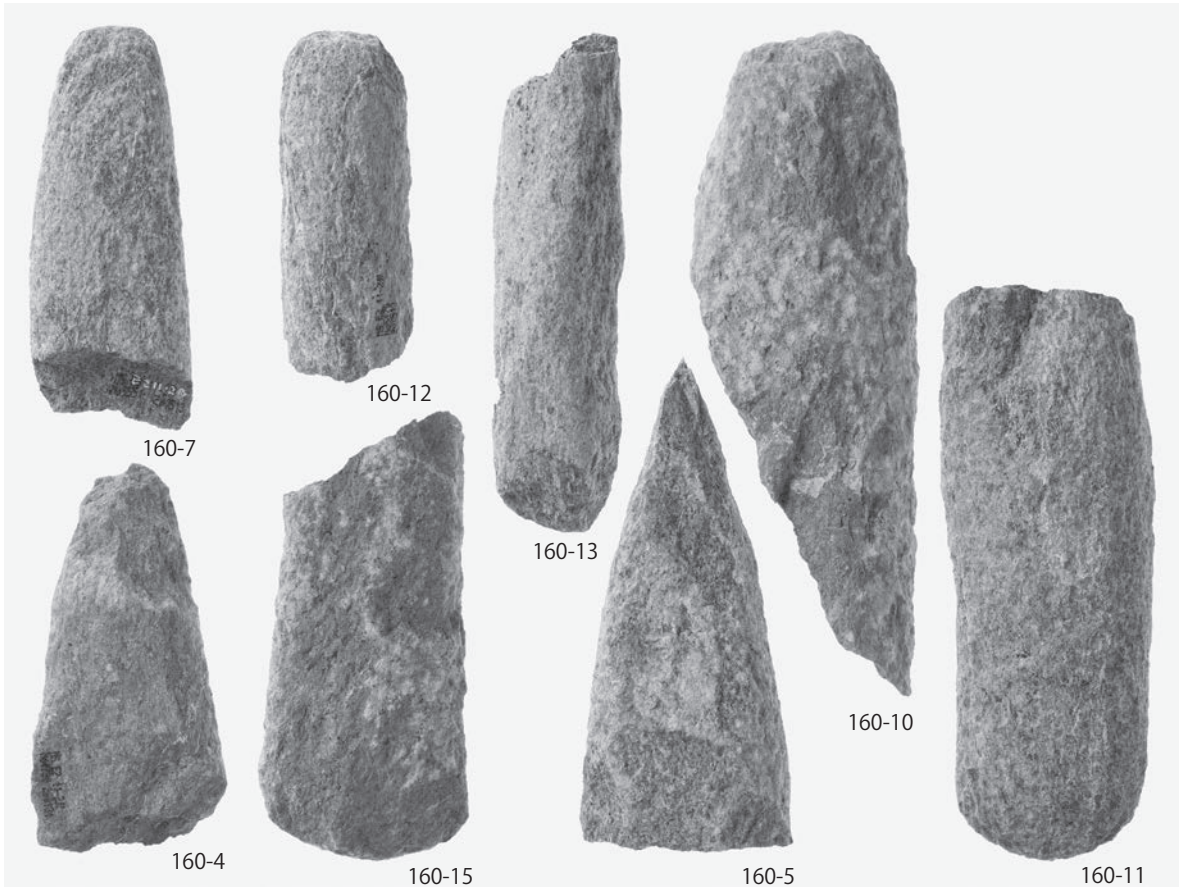
2　11－1・2 層出土石器



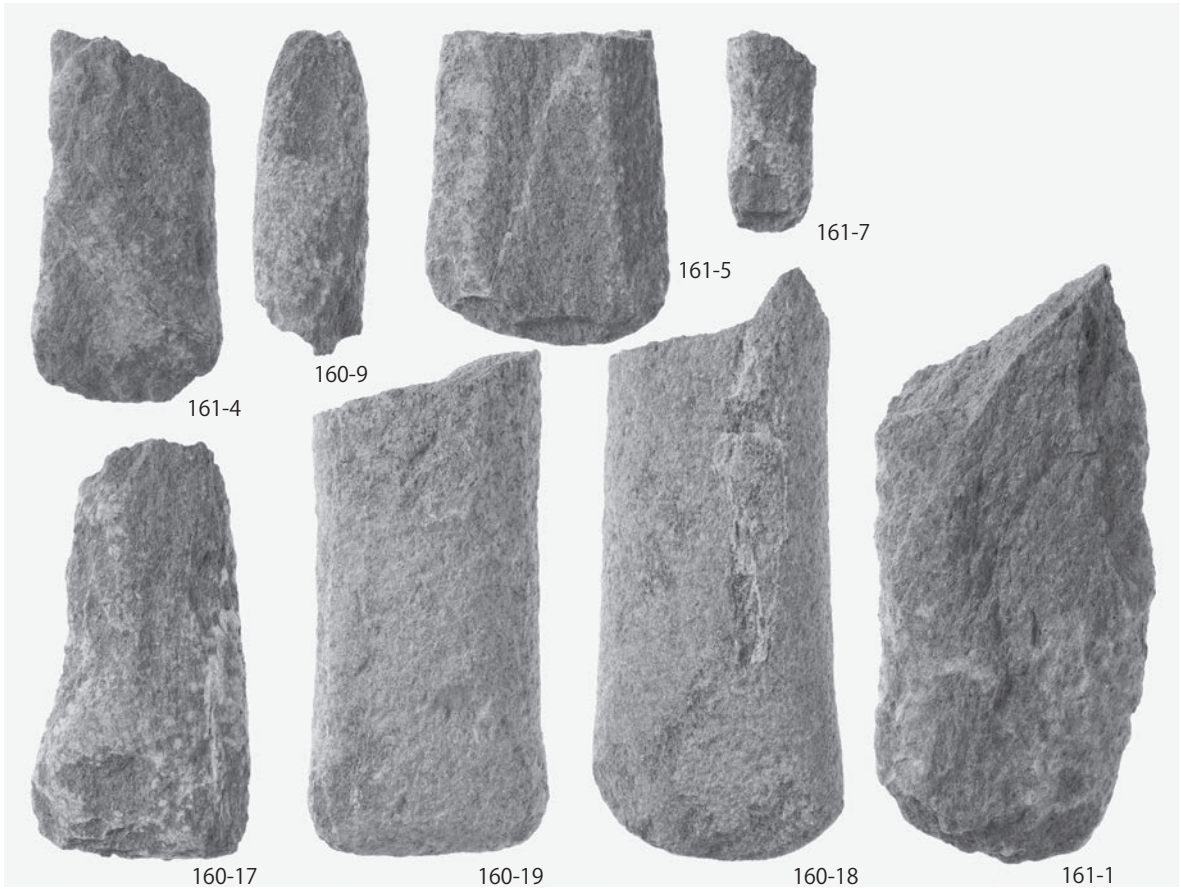
1　11－1・2 層出土石器



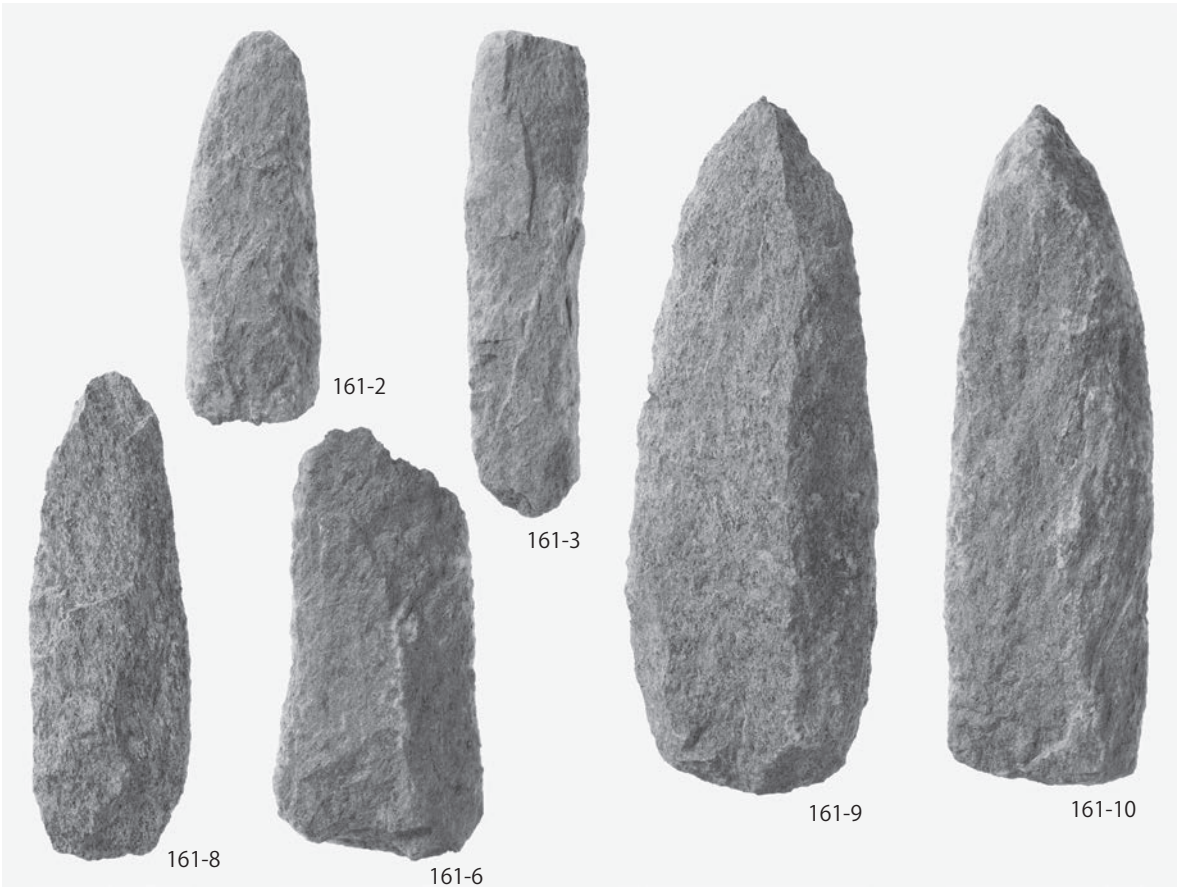
2　11－1・2 層出土石器



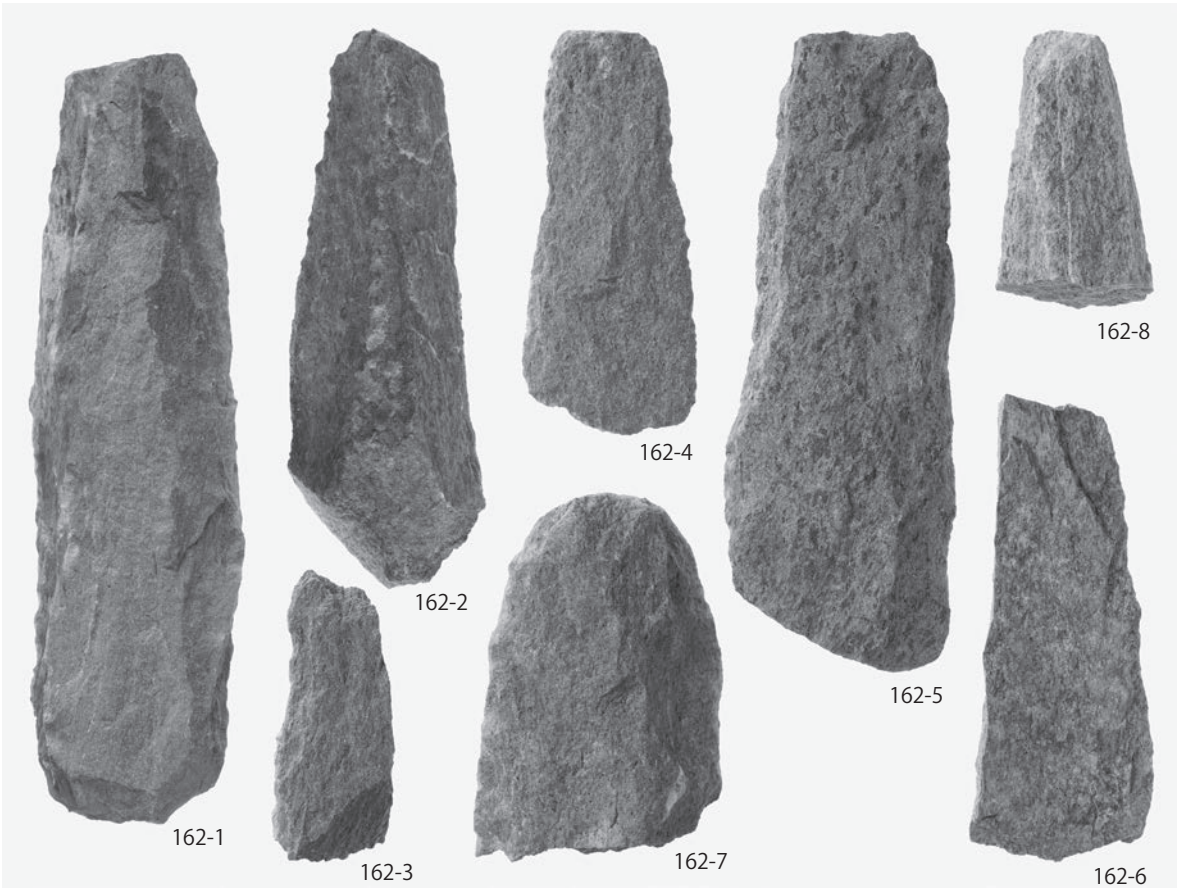
1　11－1・2 層出土石器



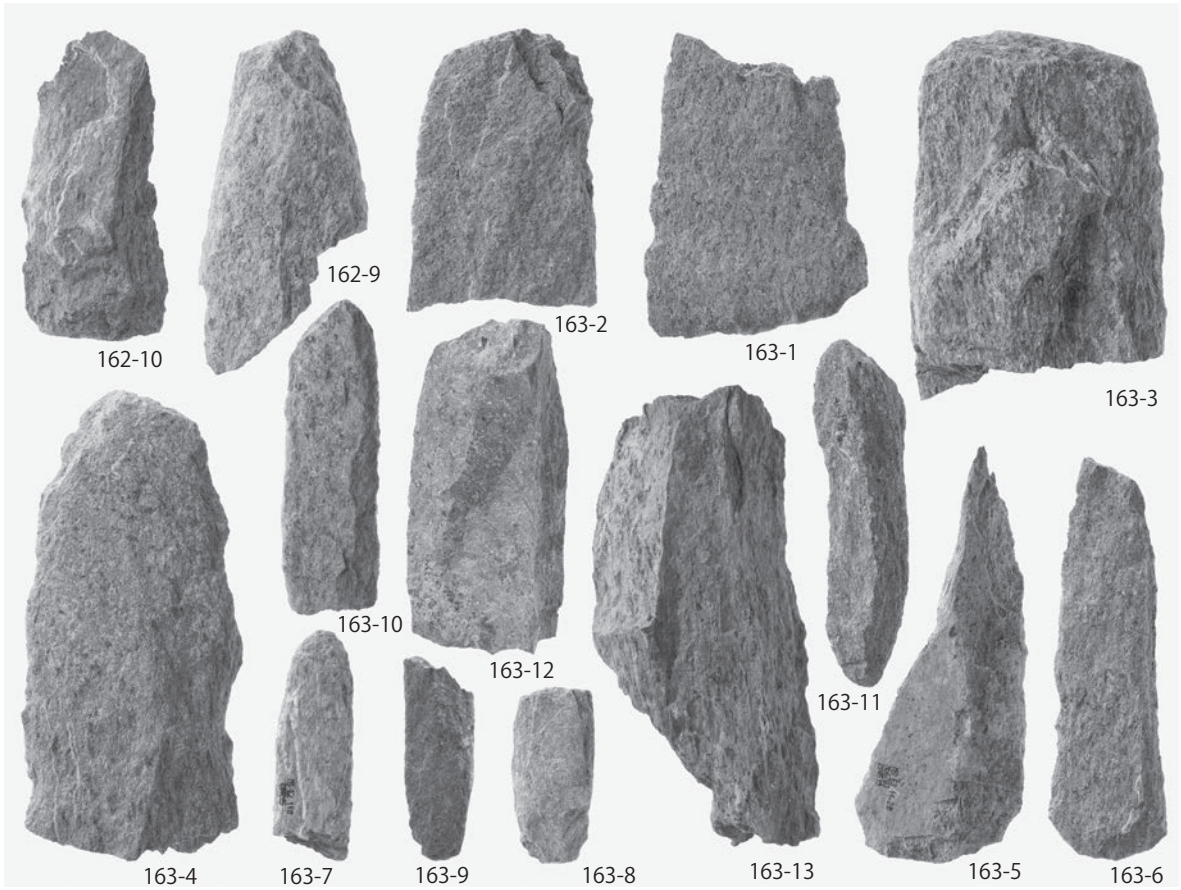
2　11－1・2 層出土石器



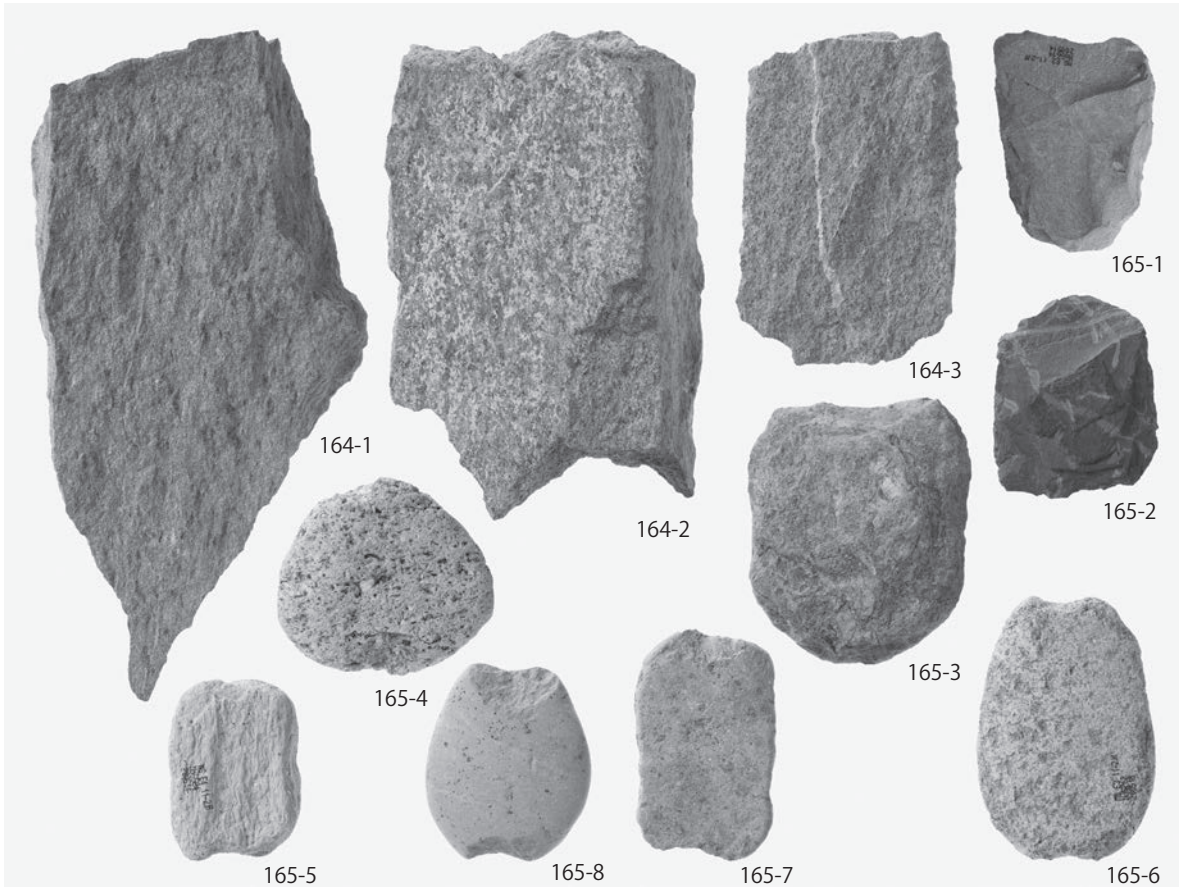
1　11－1・2 層出土石器



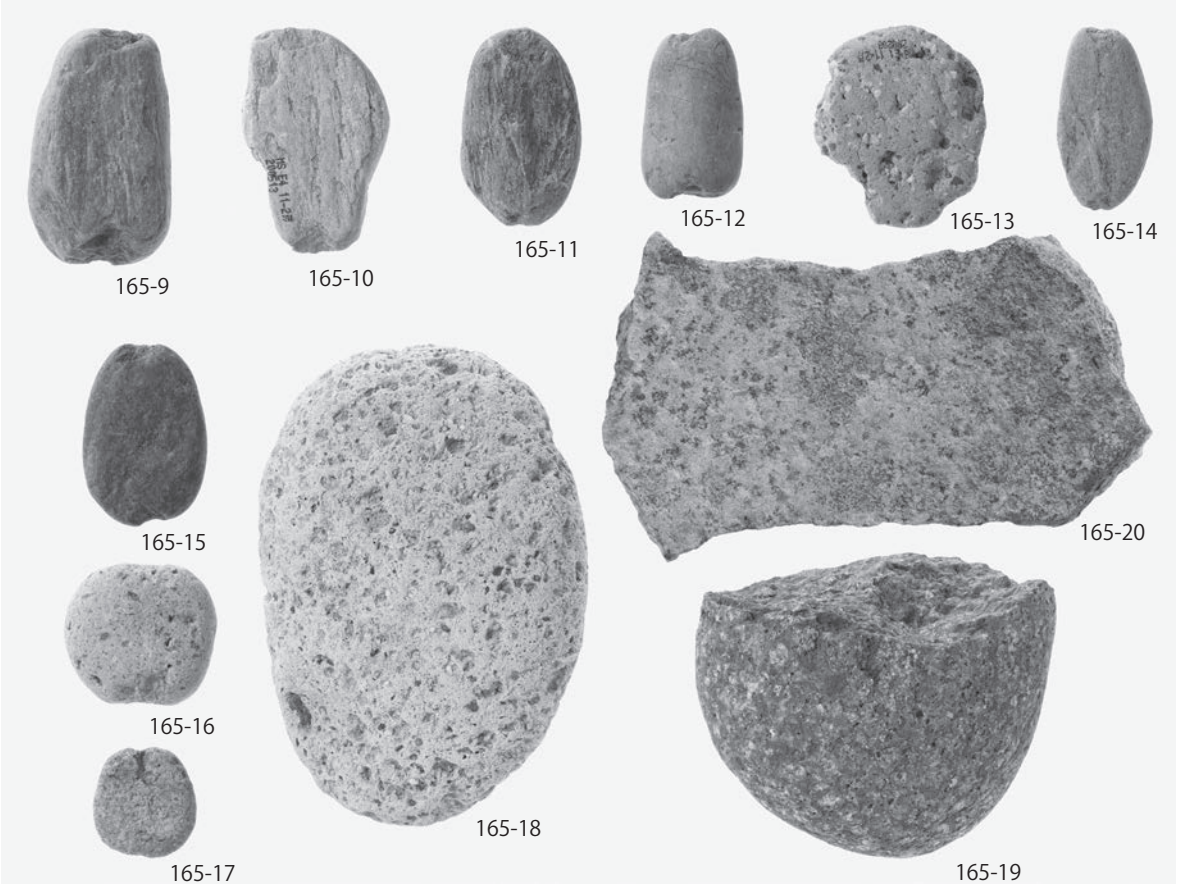
2　11－1・2 層出土石器



1　11－1・2 層出土石器

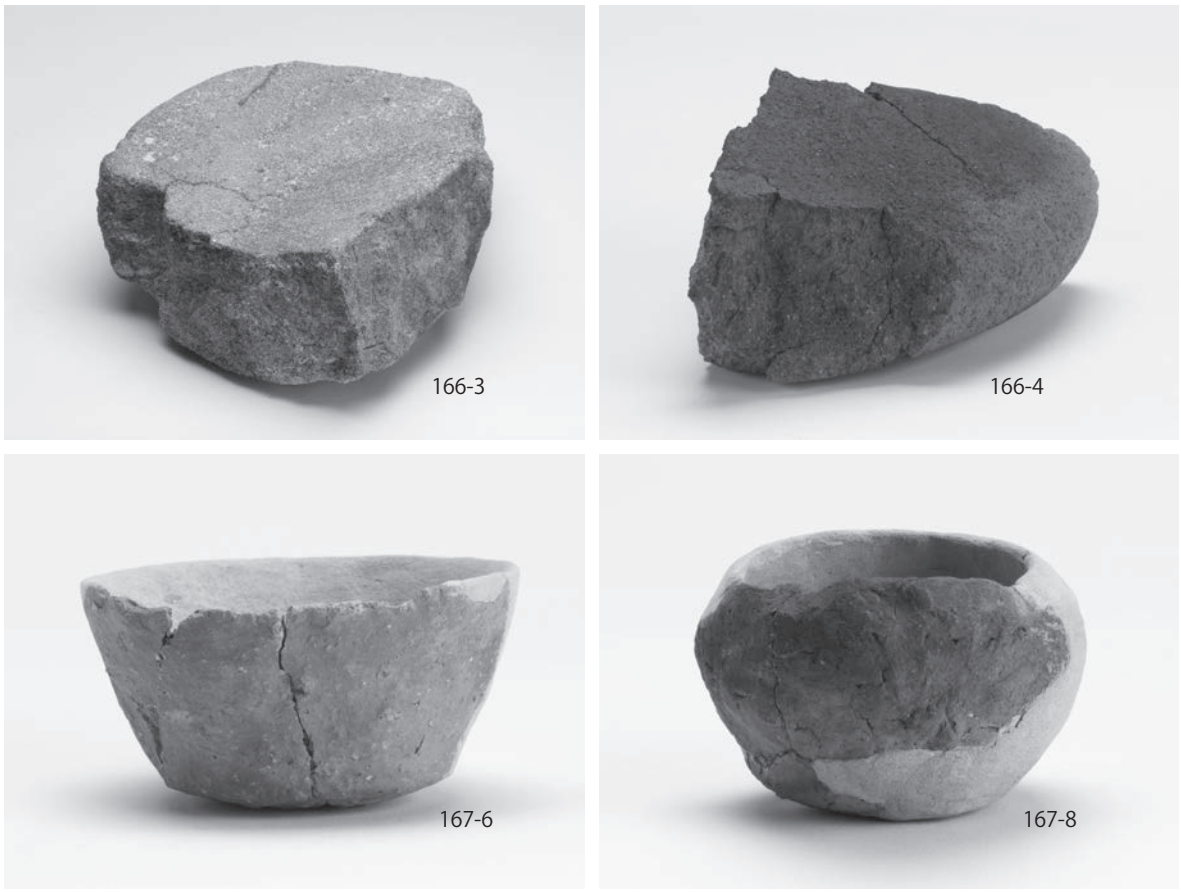


2　11－1・2 層出土石器

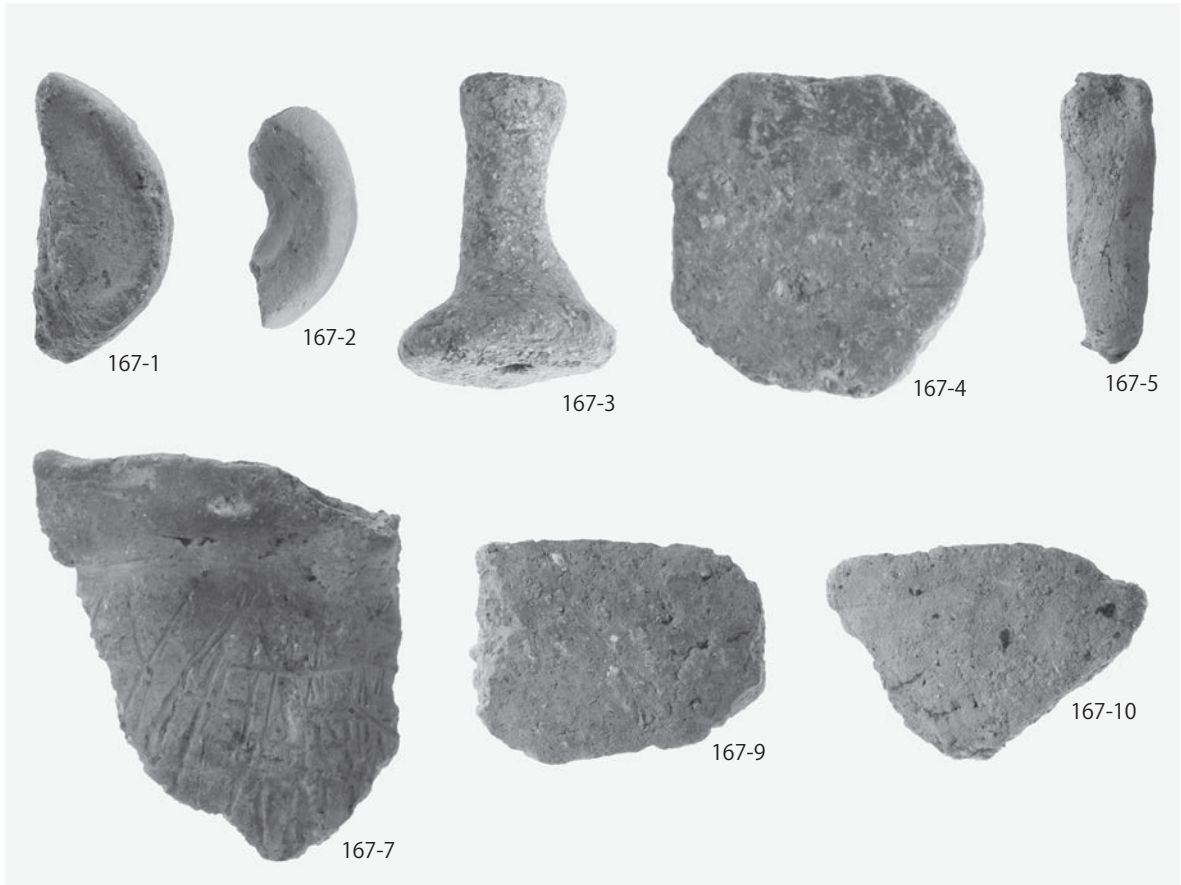


1　11－1・2 層出土石器

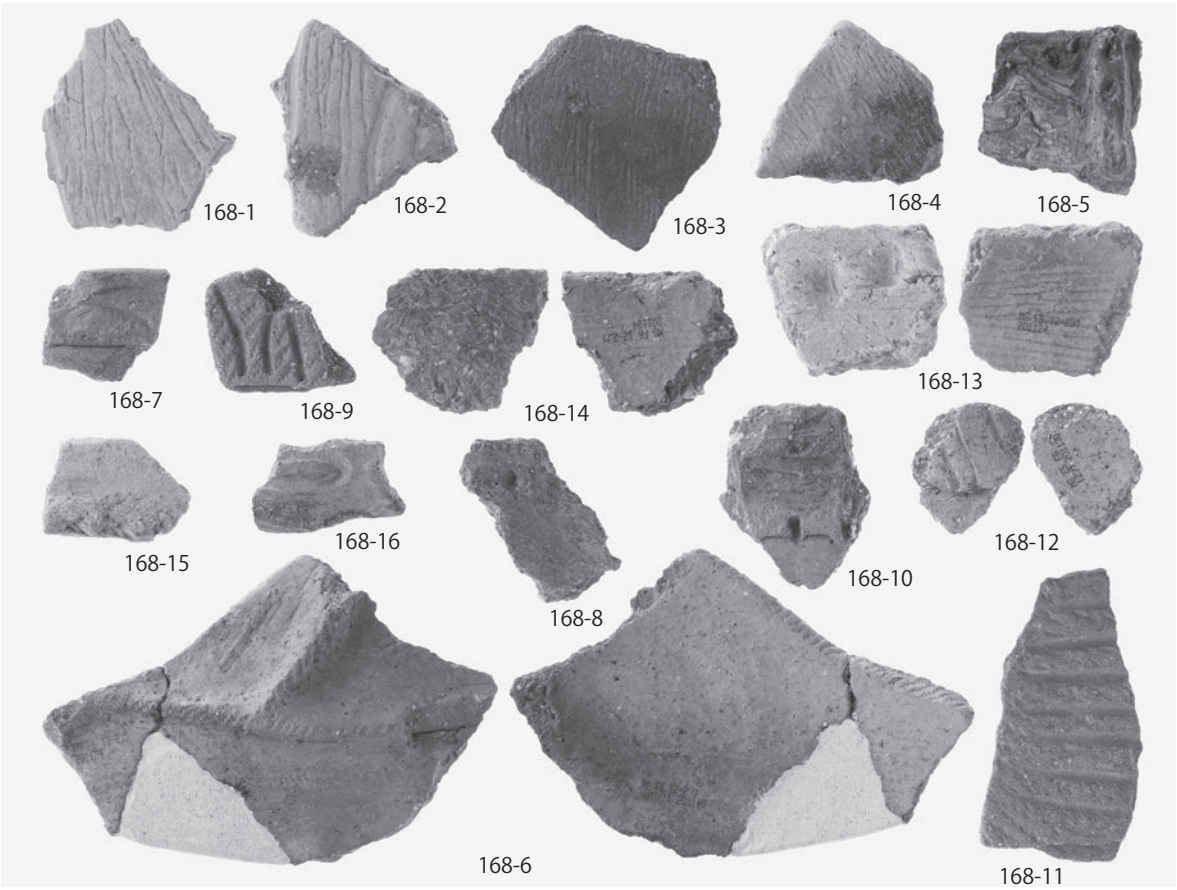
2　11－1・2 層出土石器



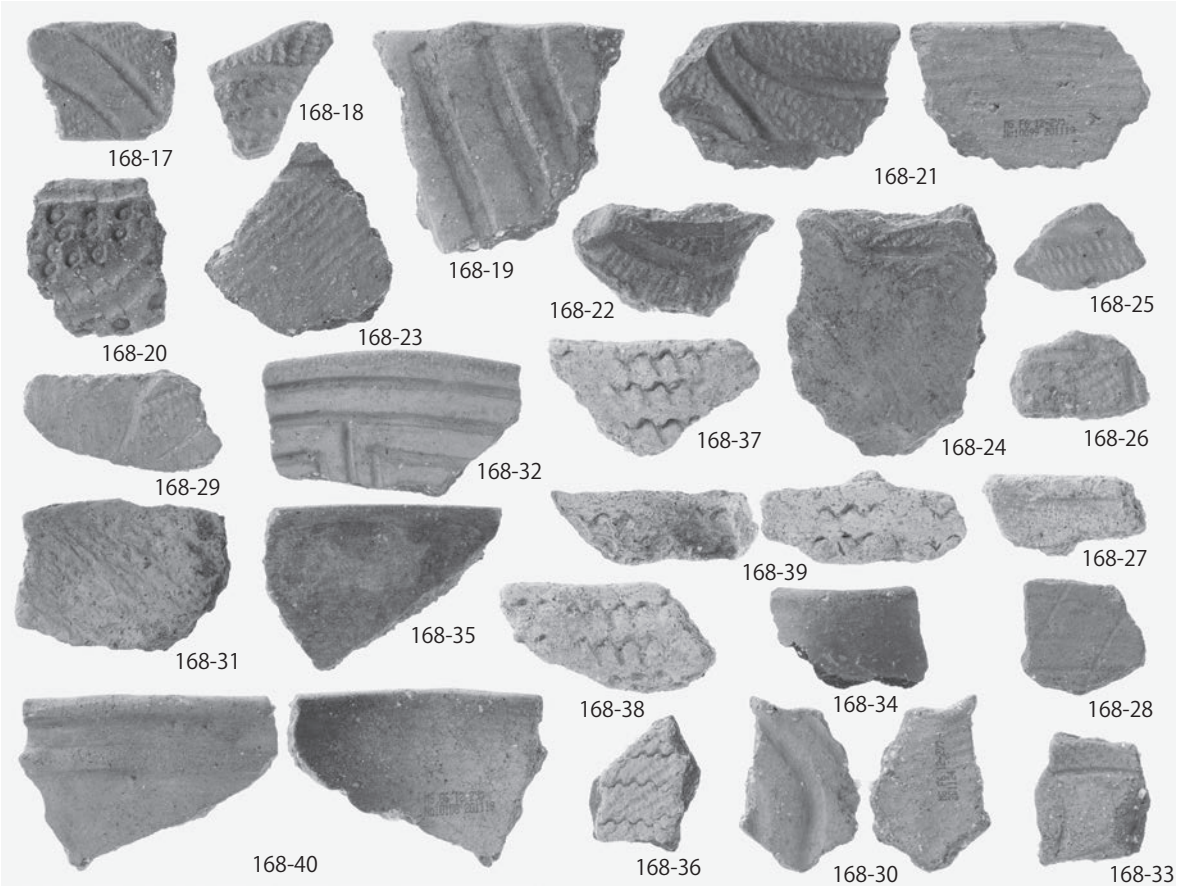
1　11－1・2 層出土石器・ミニチュア土器



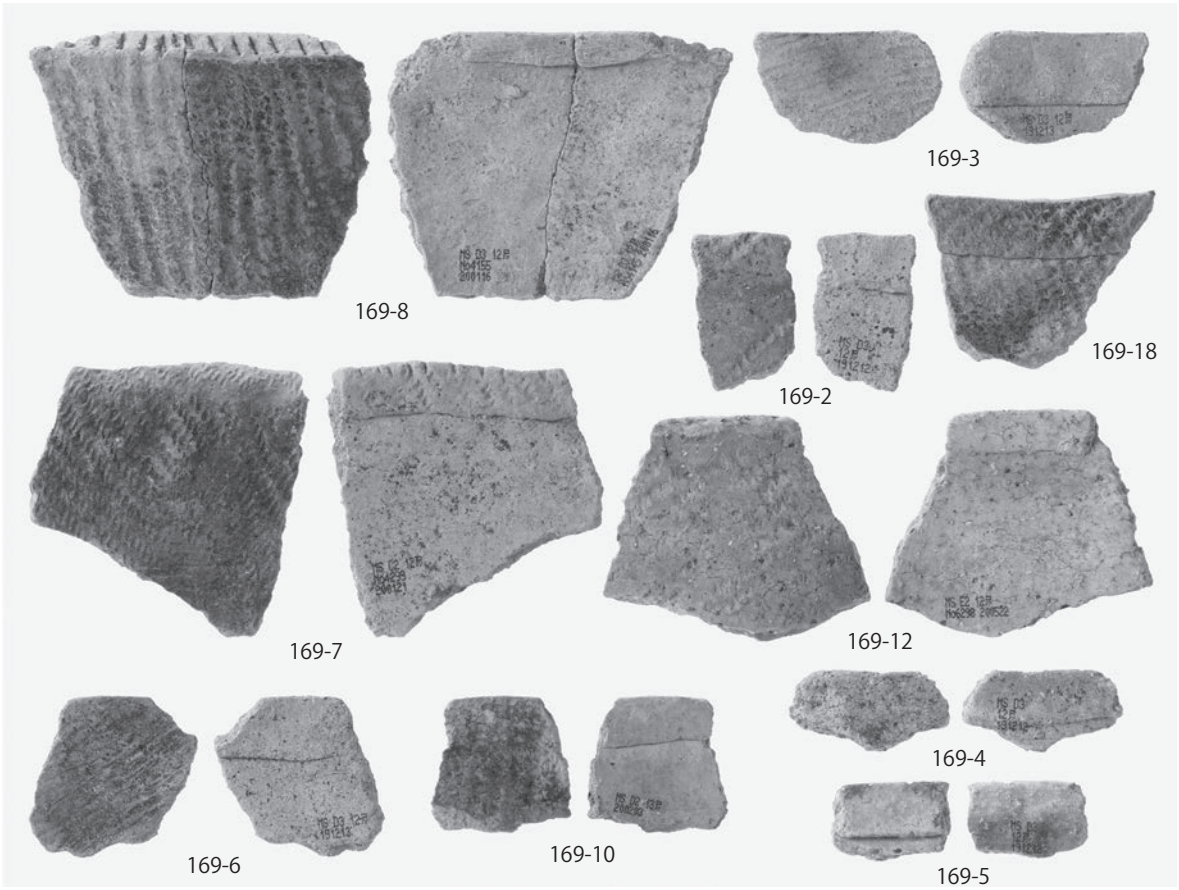
2　11－1・2 層出土土製品・ミニチュア土器



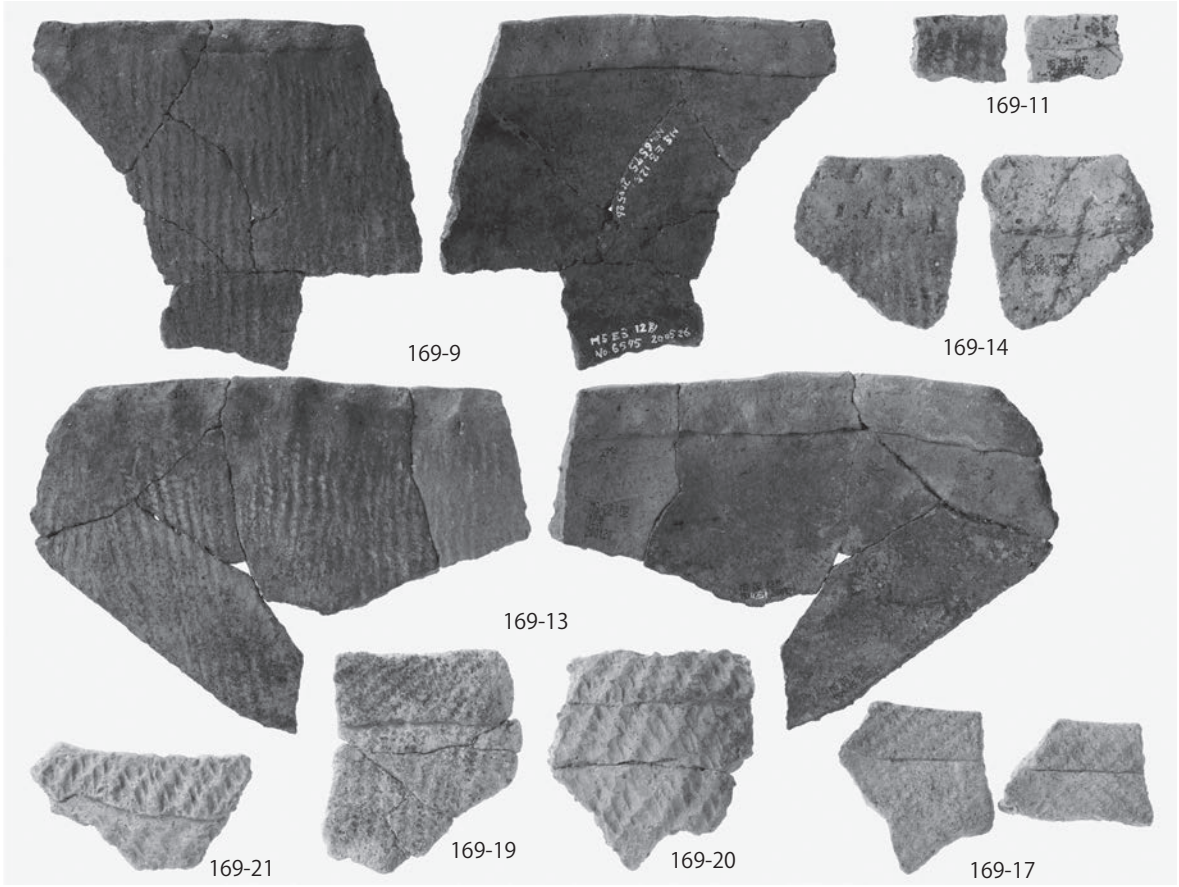
1　11－3 層出土縄文土器



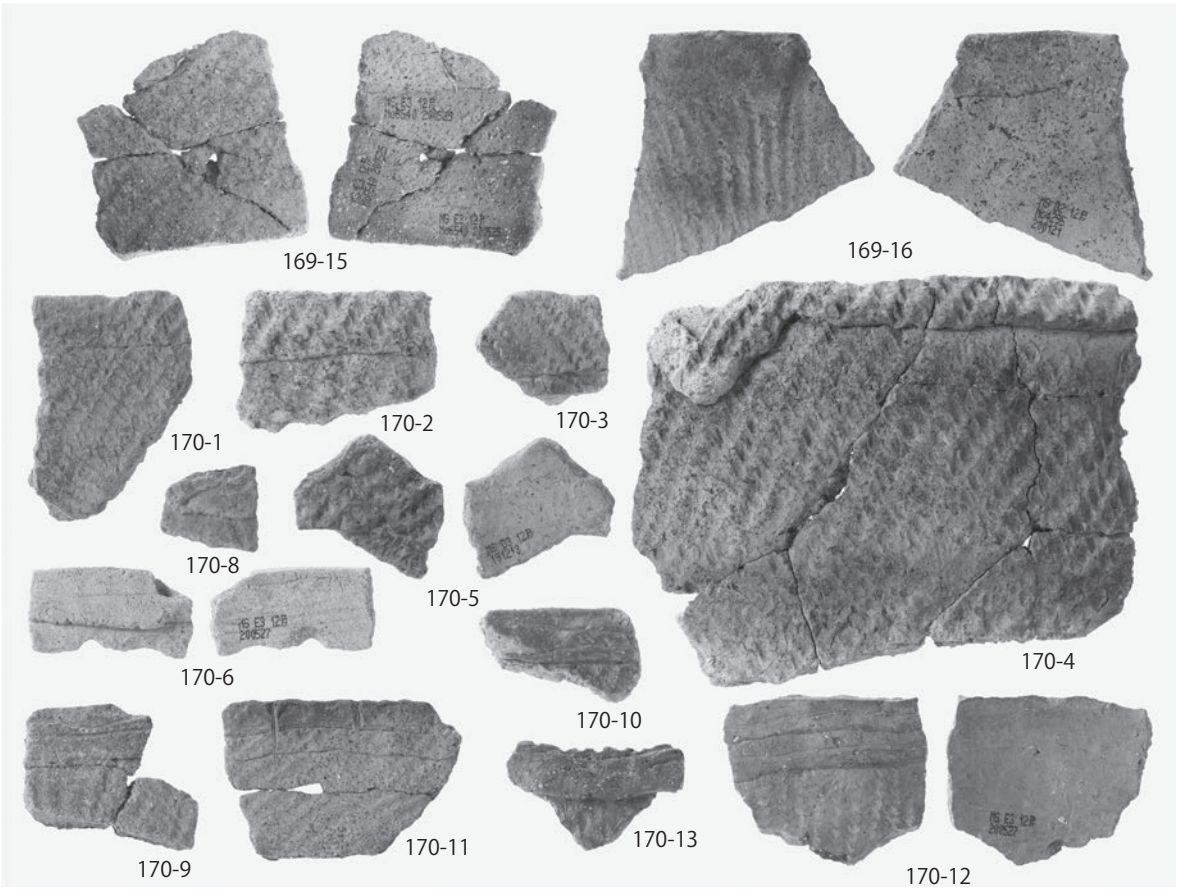
2　11－3 層出土縄文土器



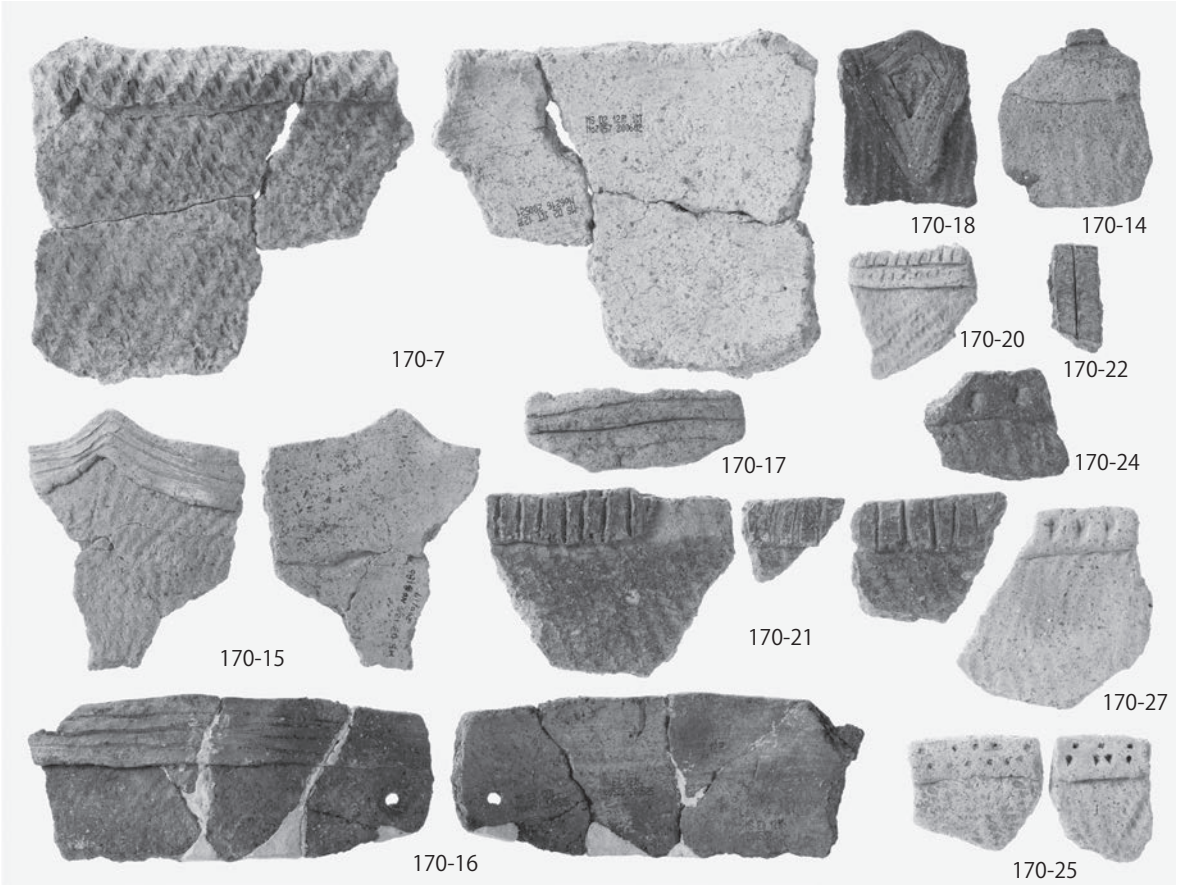
1　12 層出土縄文土器



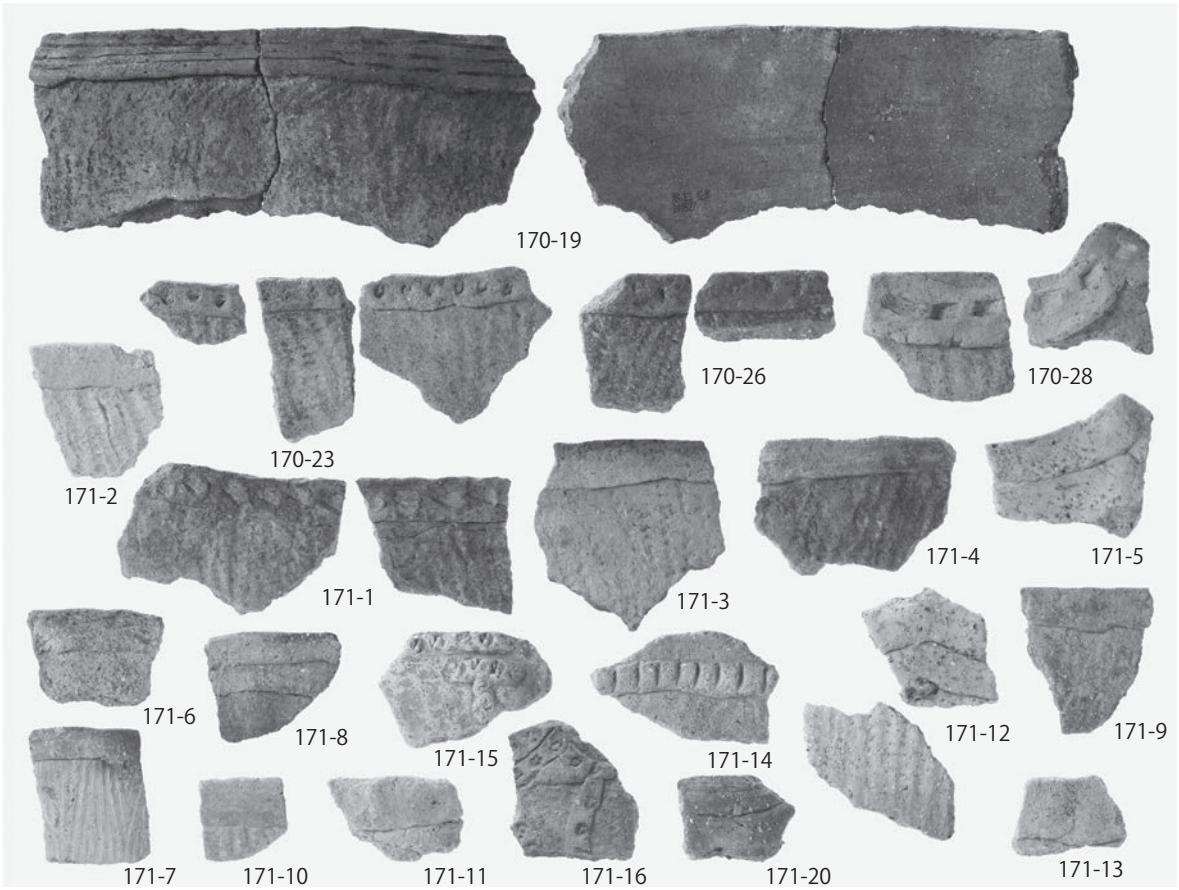
2　12 層出土縄文土器



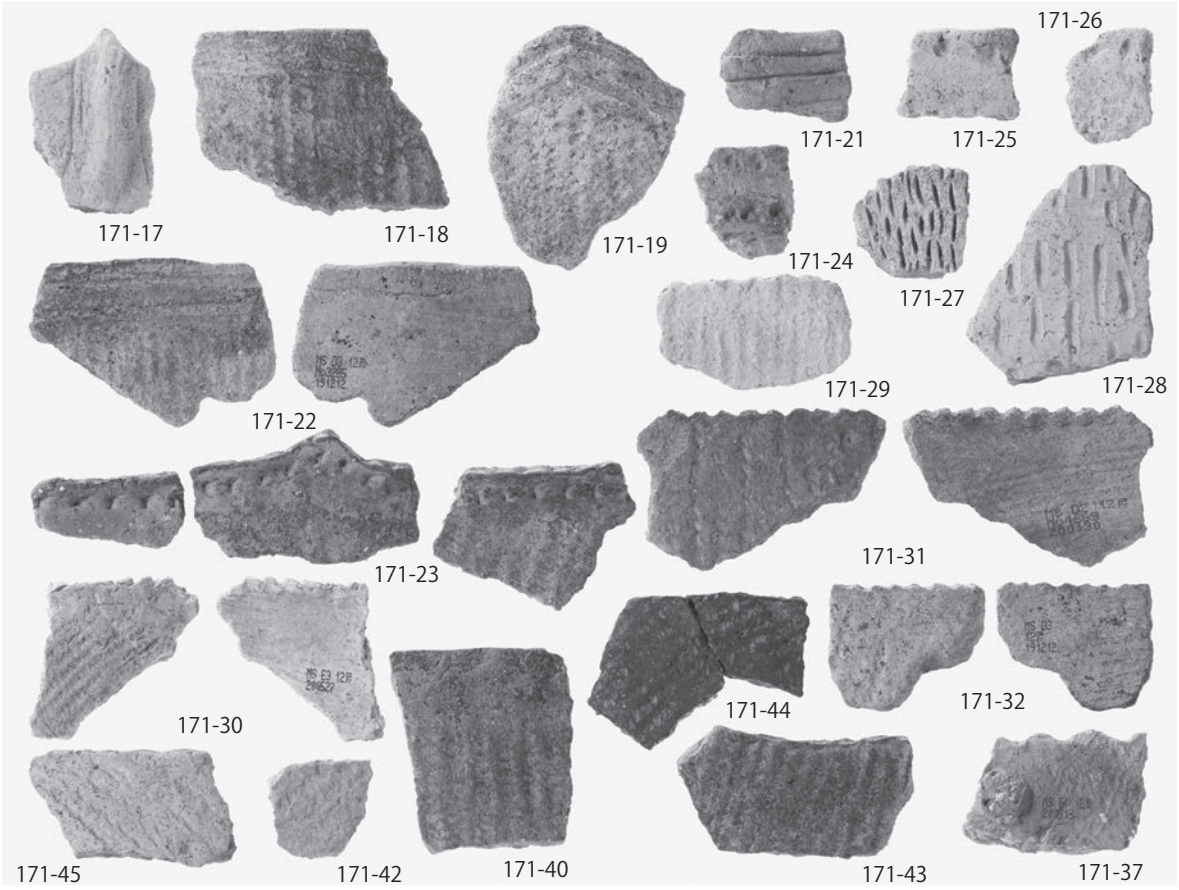
1　12 層出土縄文土器



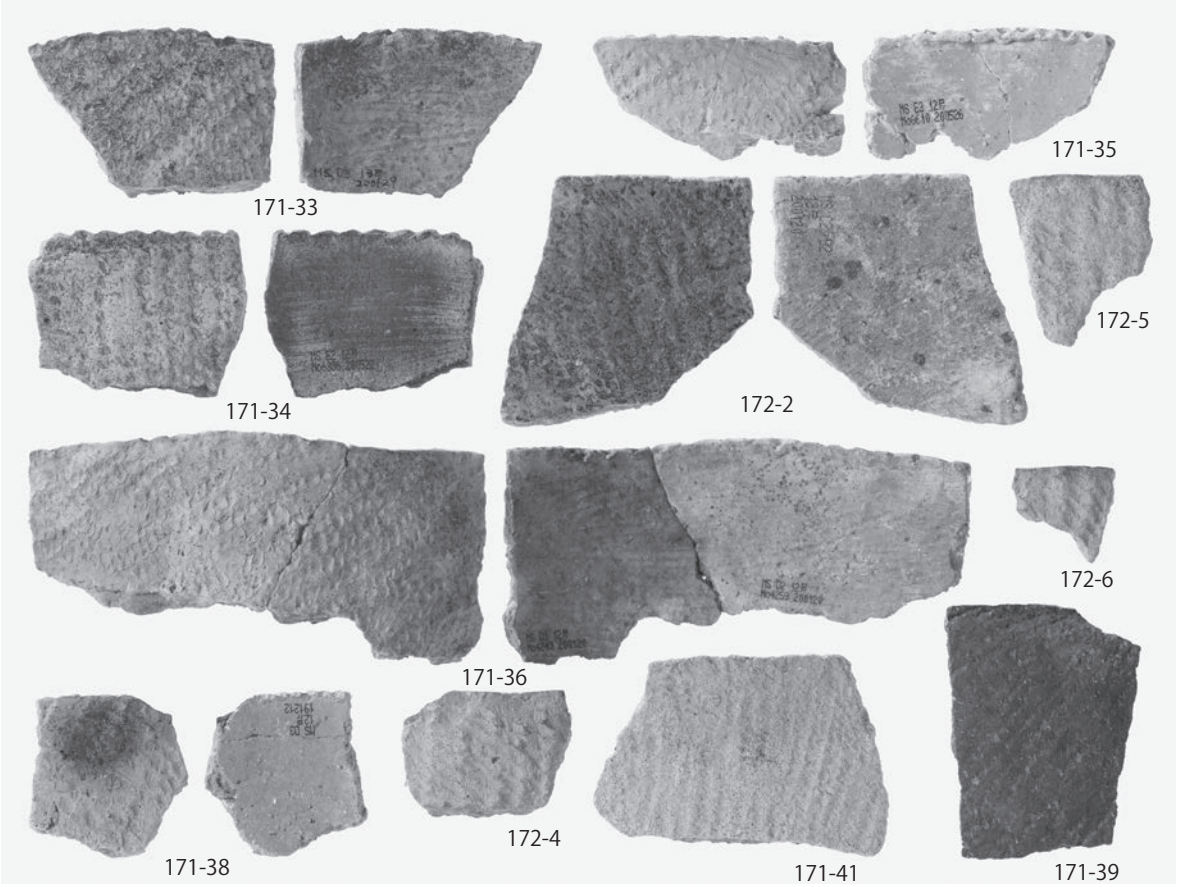
2　12 層出土縄文土器



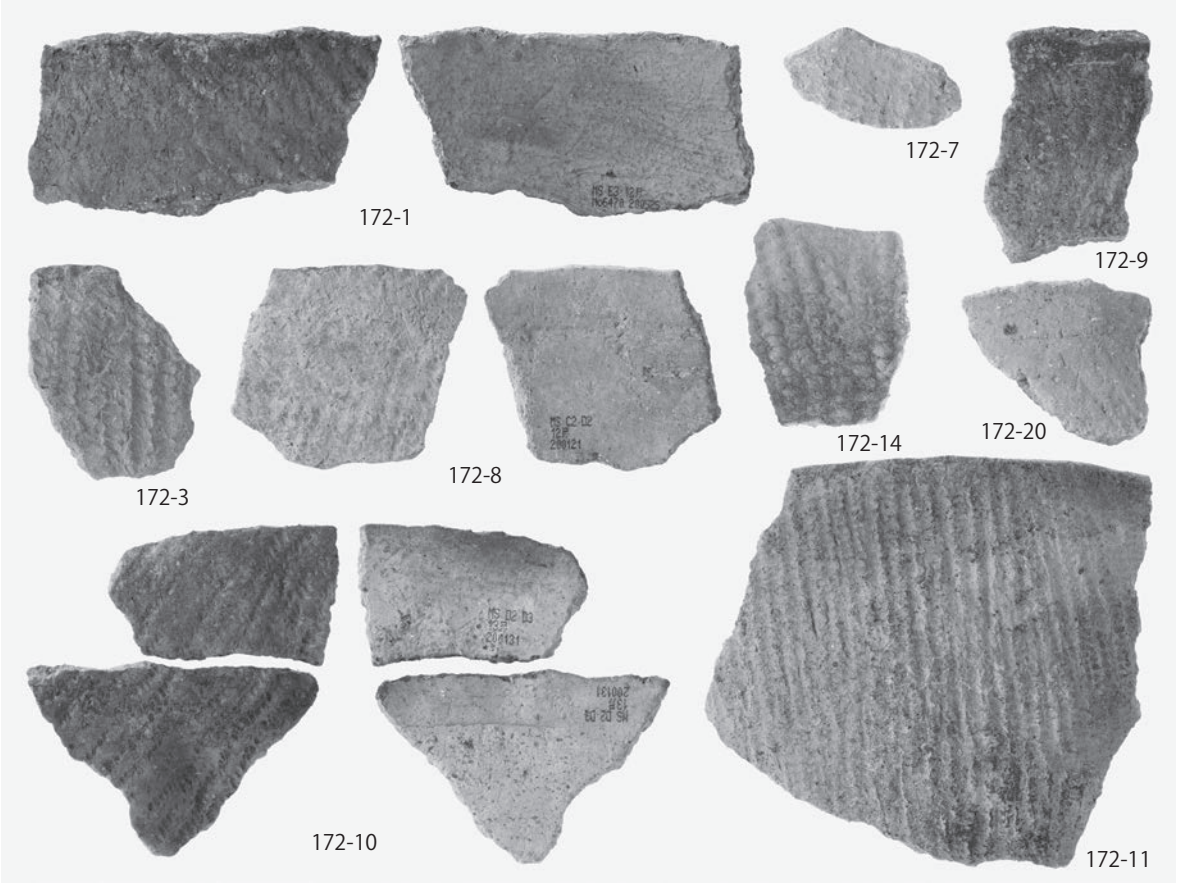
1　12 層出土縄文土器



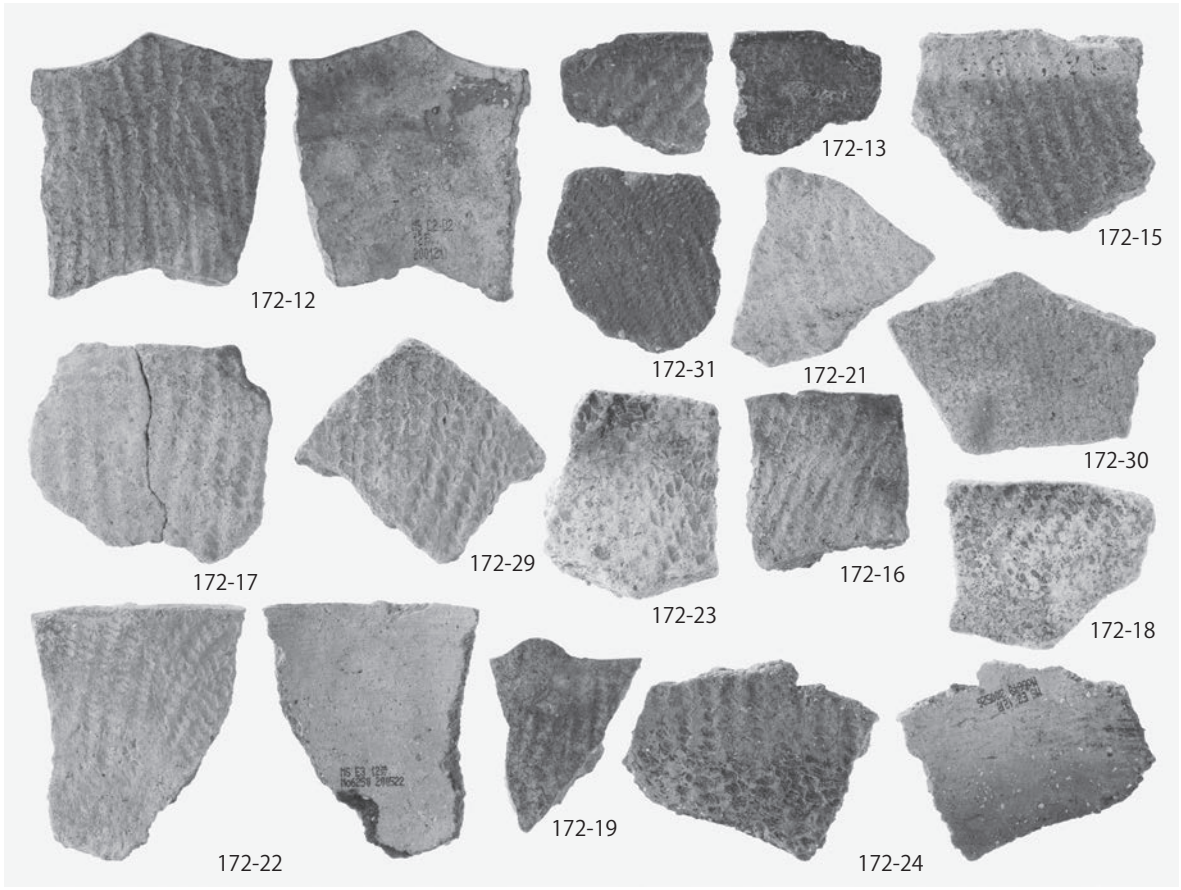
2　12 層出土縄文土器



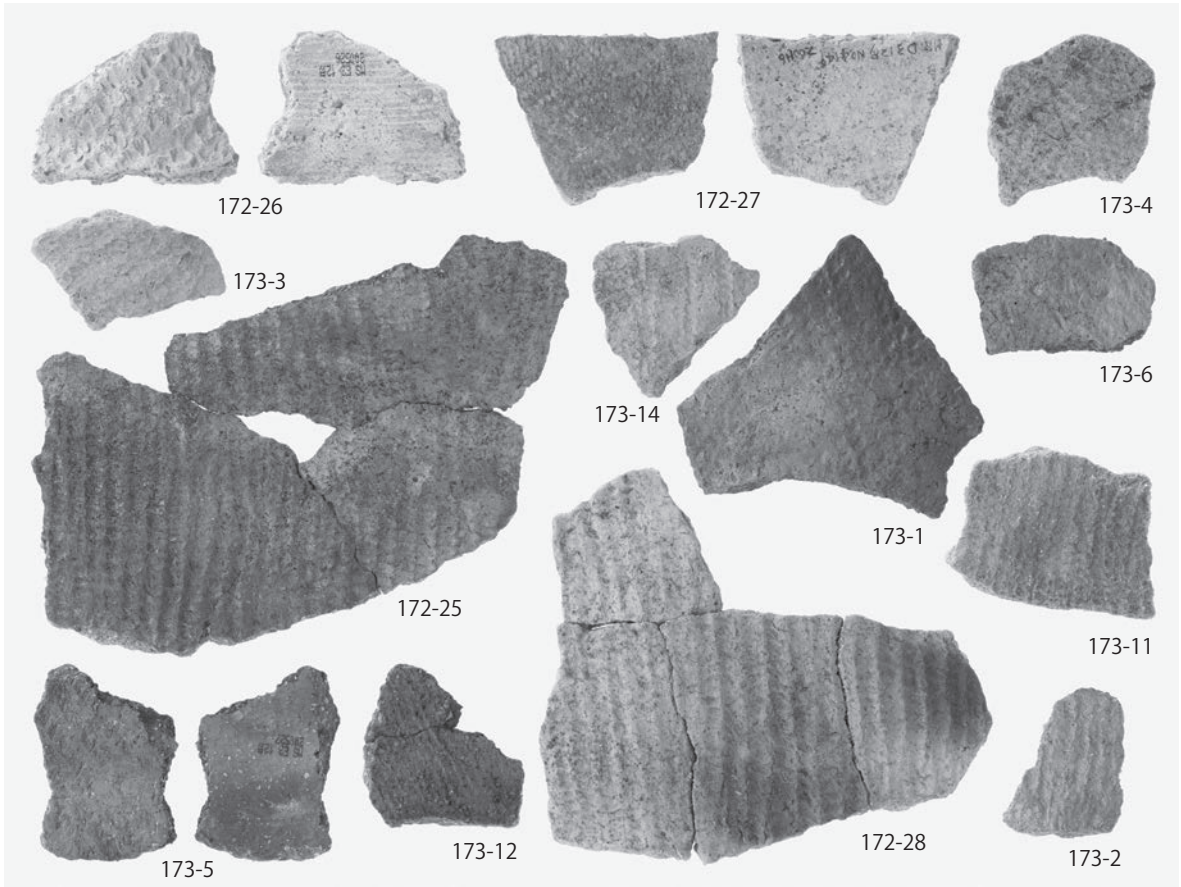
1　12 層出土縄文土器



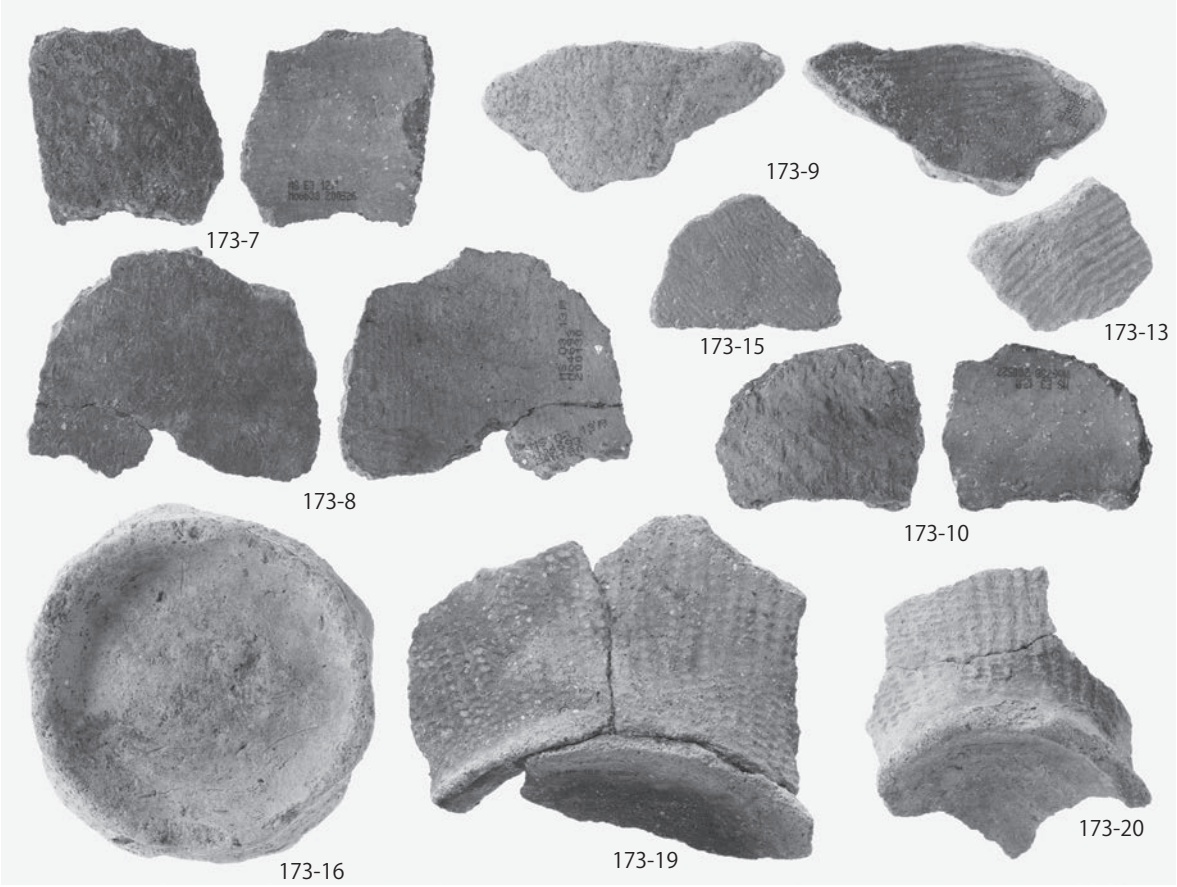
2　12 層出土縄文土器



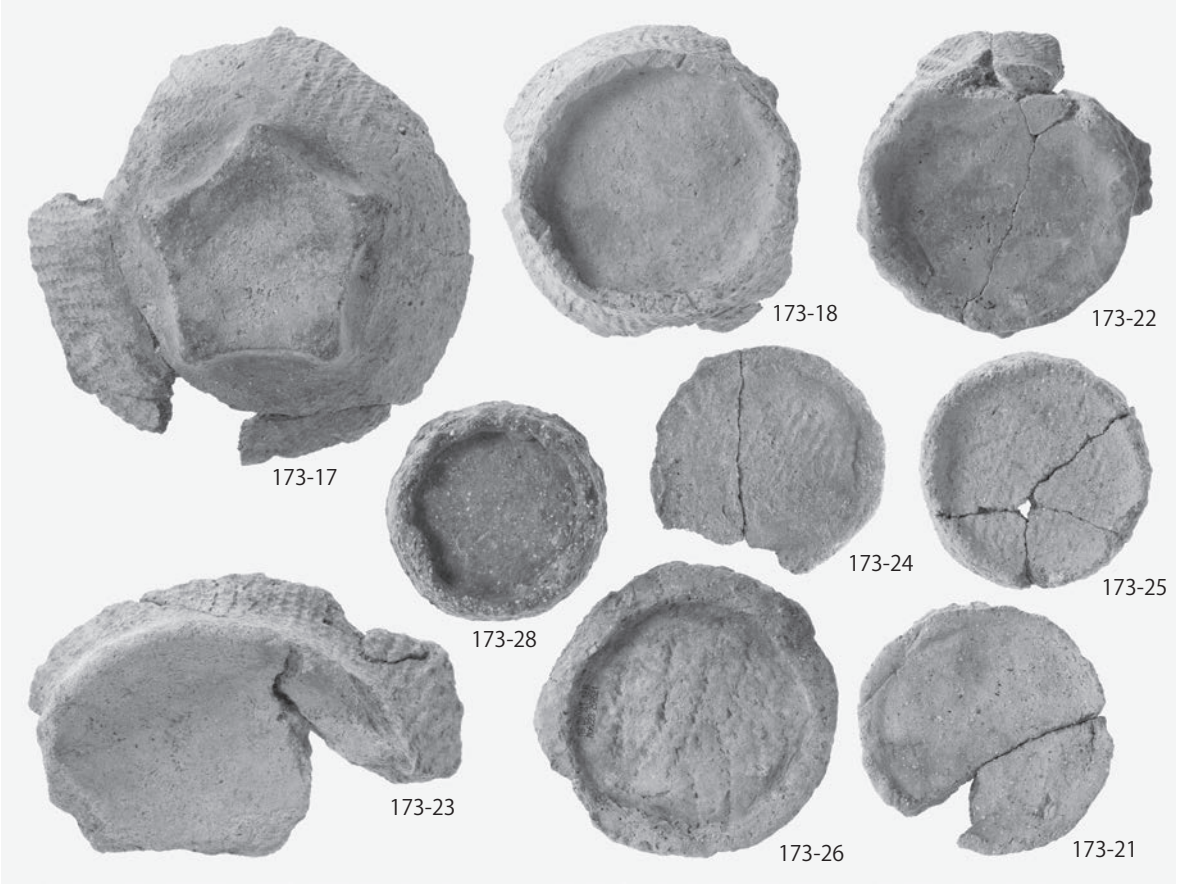
1　12 層出土縄文土器



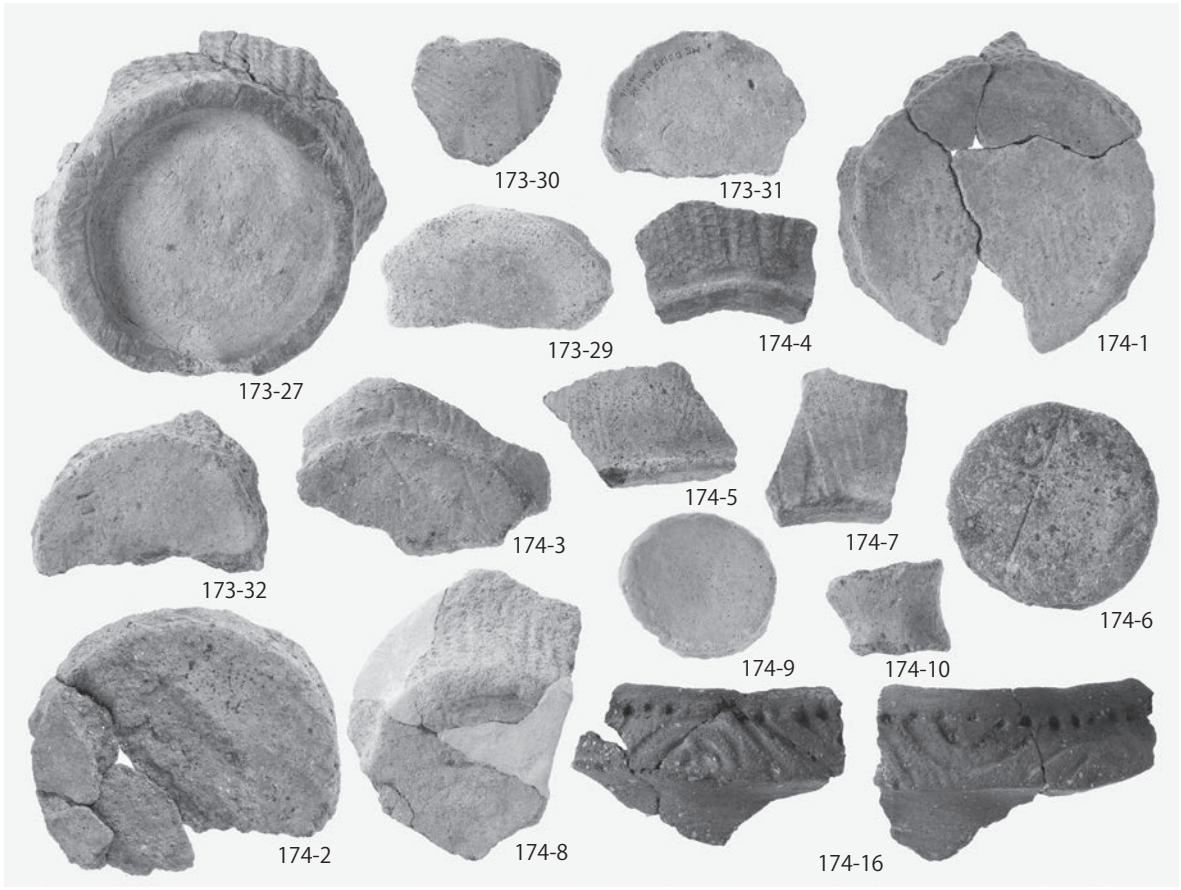
2　12 層出土縄文土器



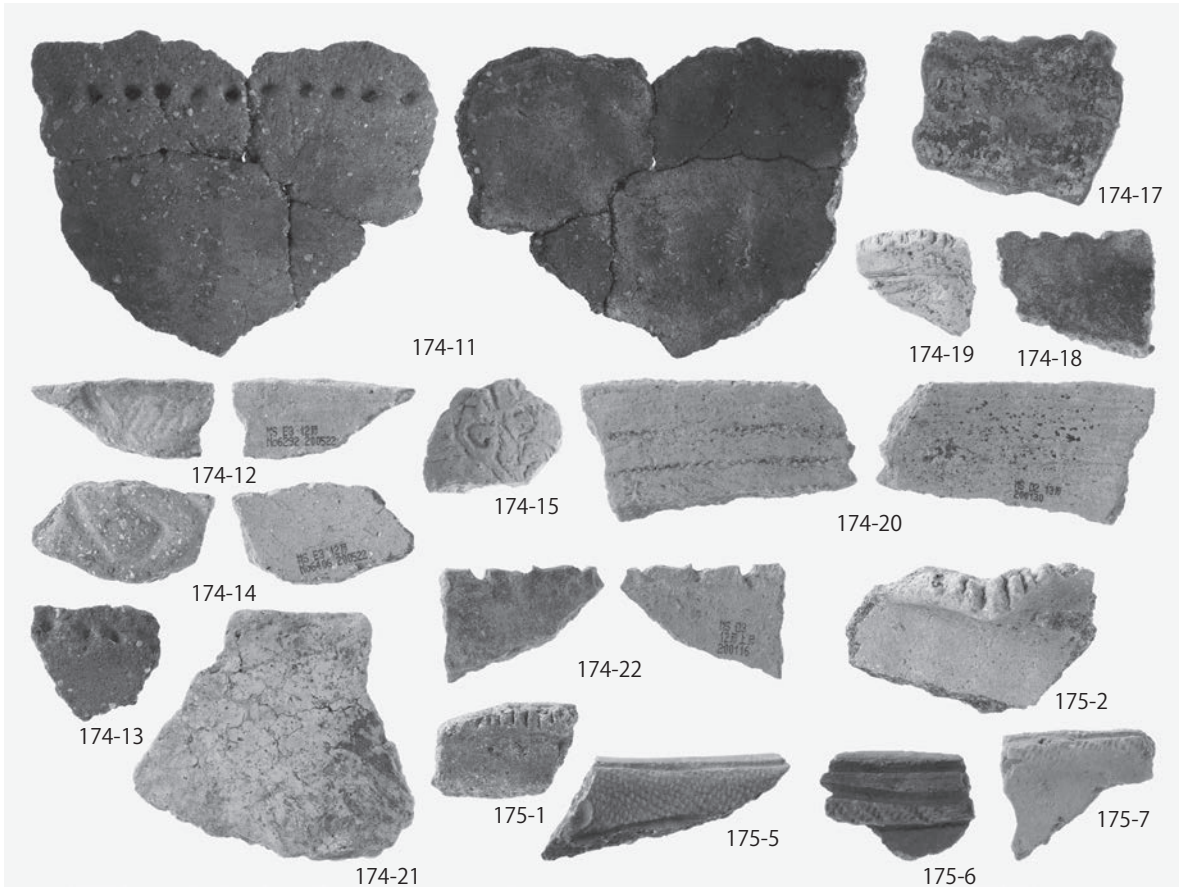
1　12 層出土縄文土器



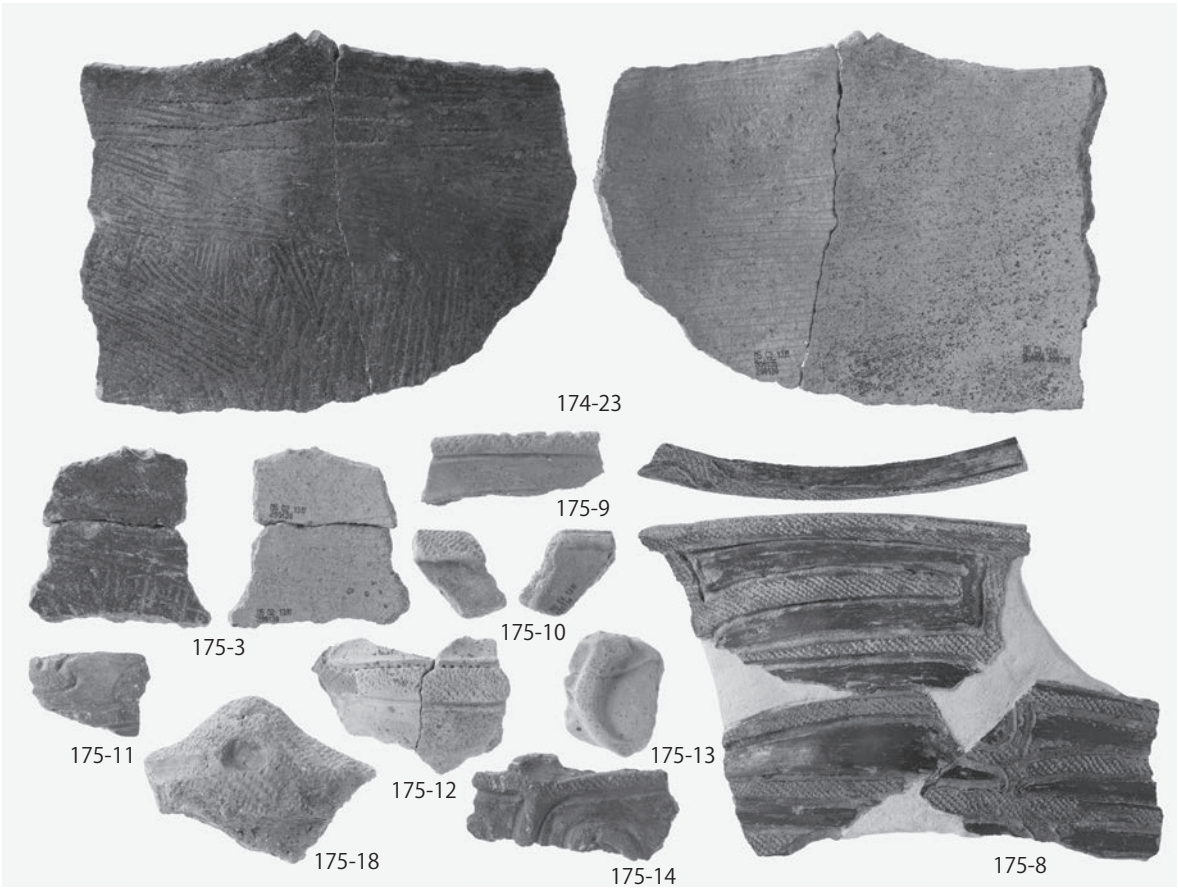
2　12 層出土縄文土器



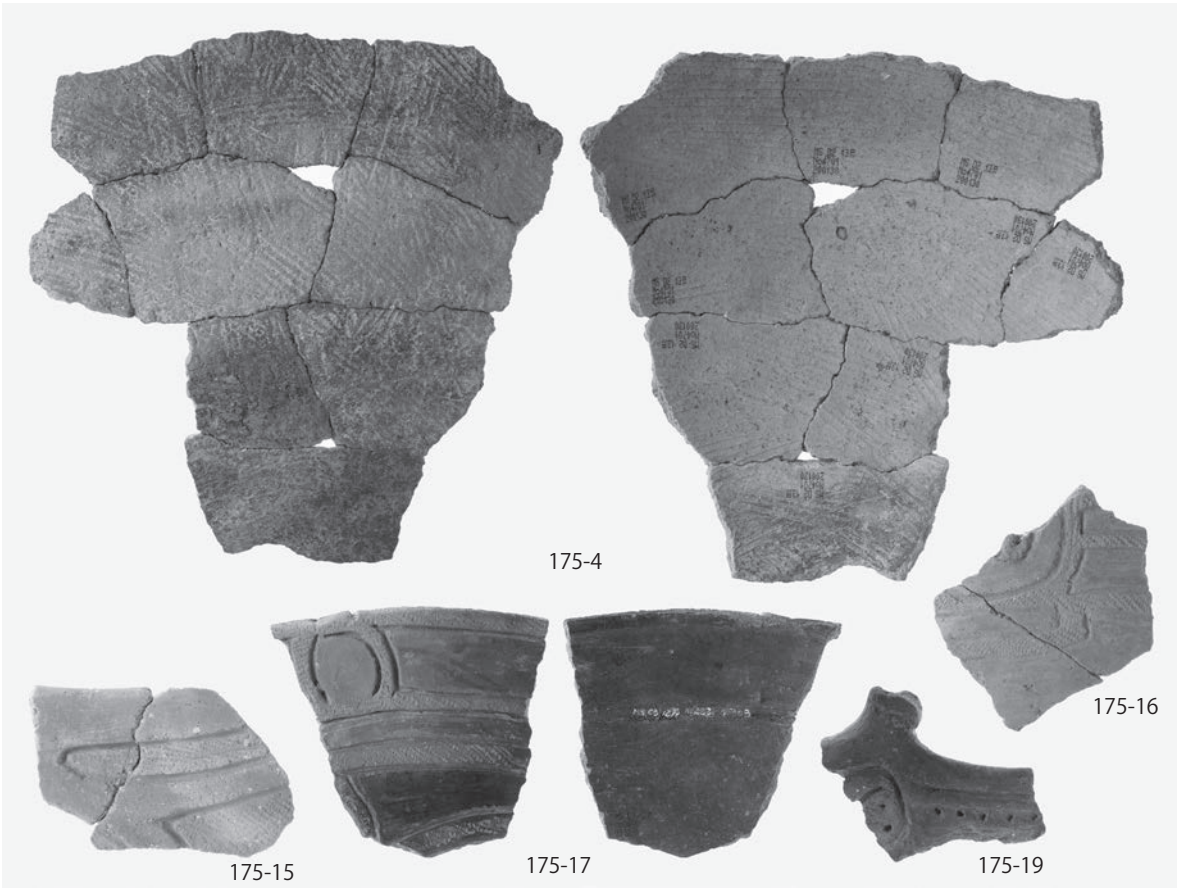
1　12 層出土縄文土器



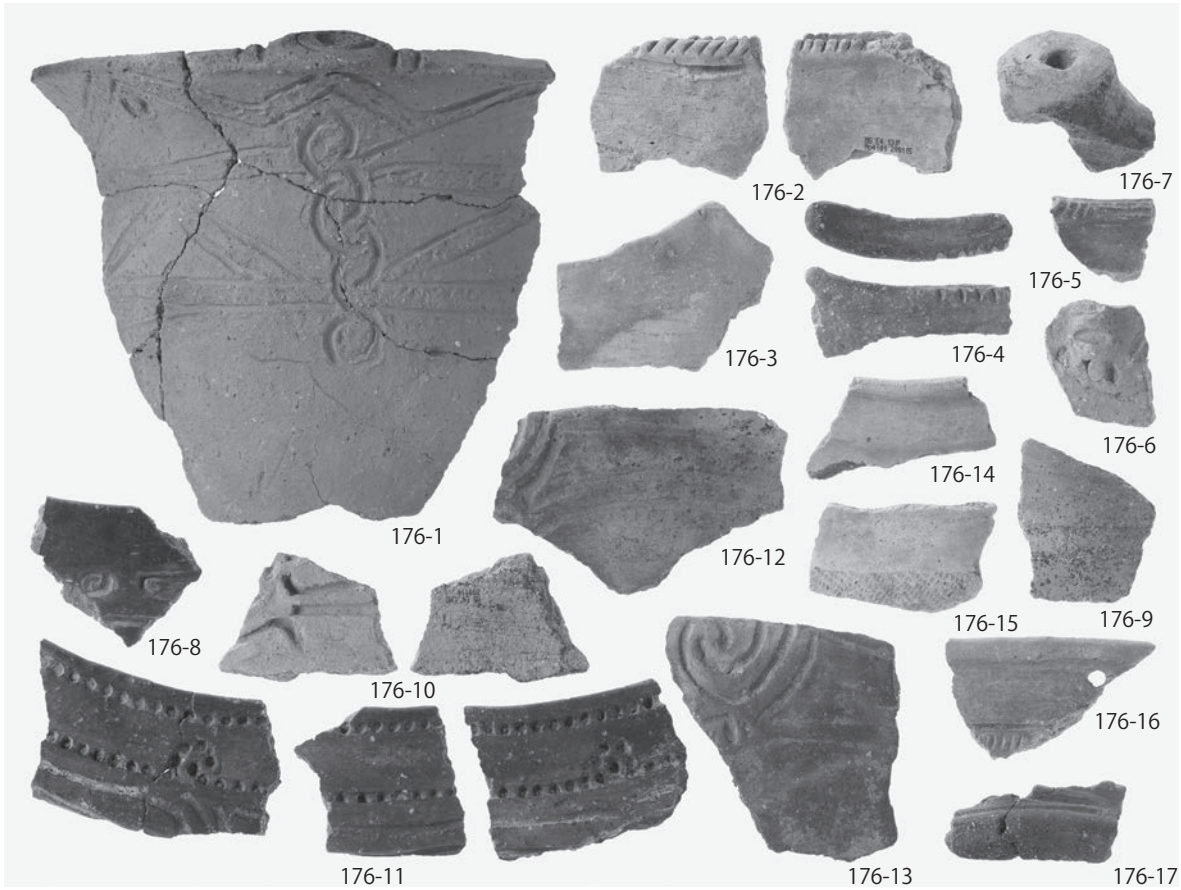
2　12 層出土縄文土器



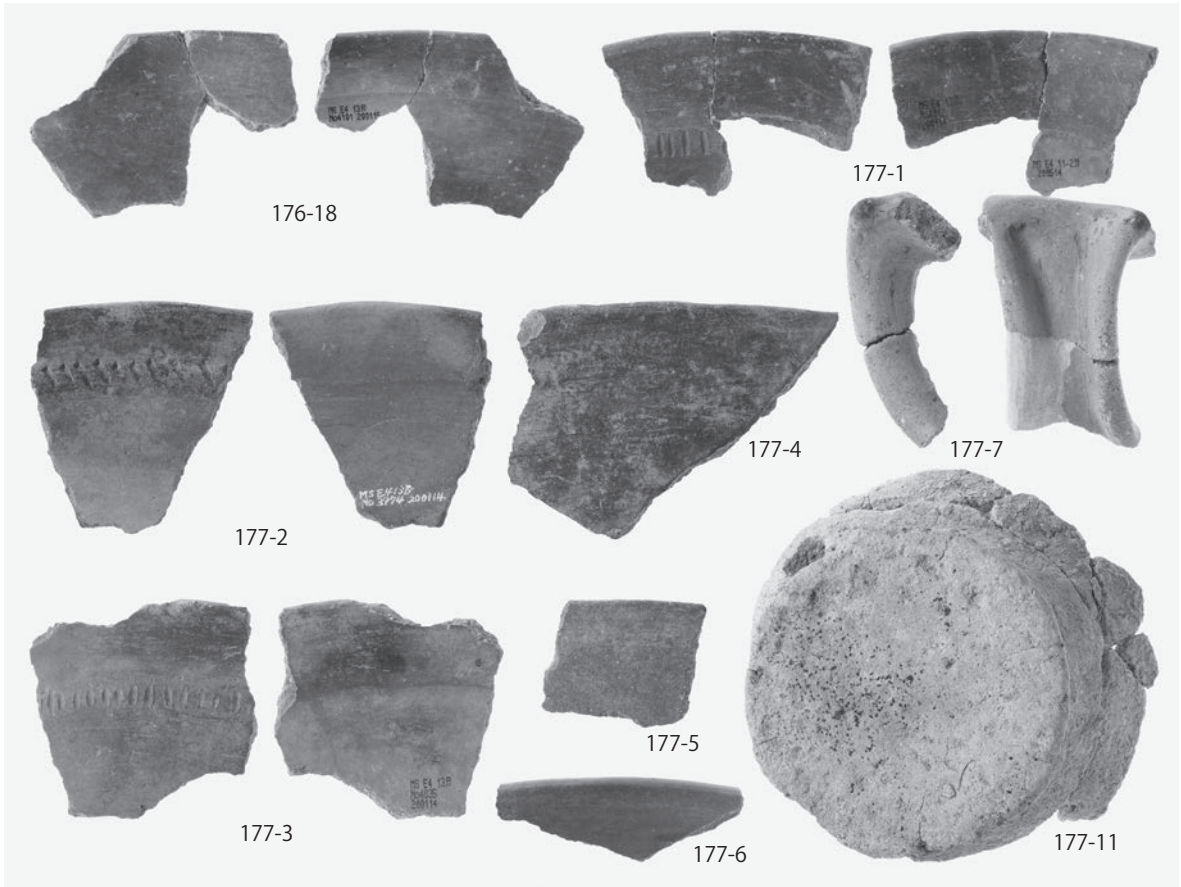
1　12 層出土縄文土器



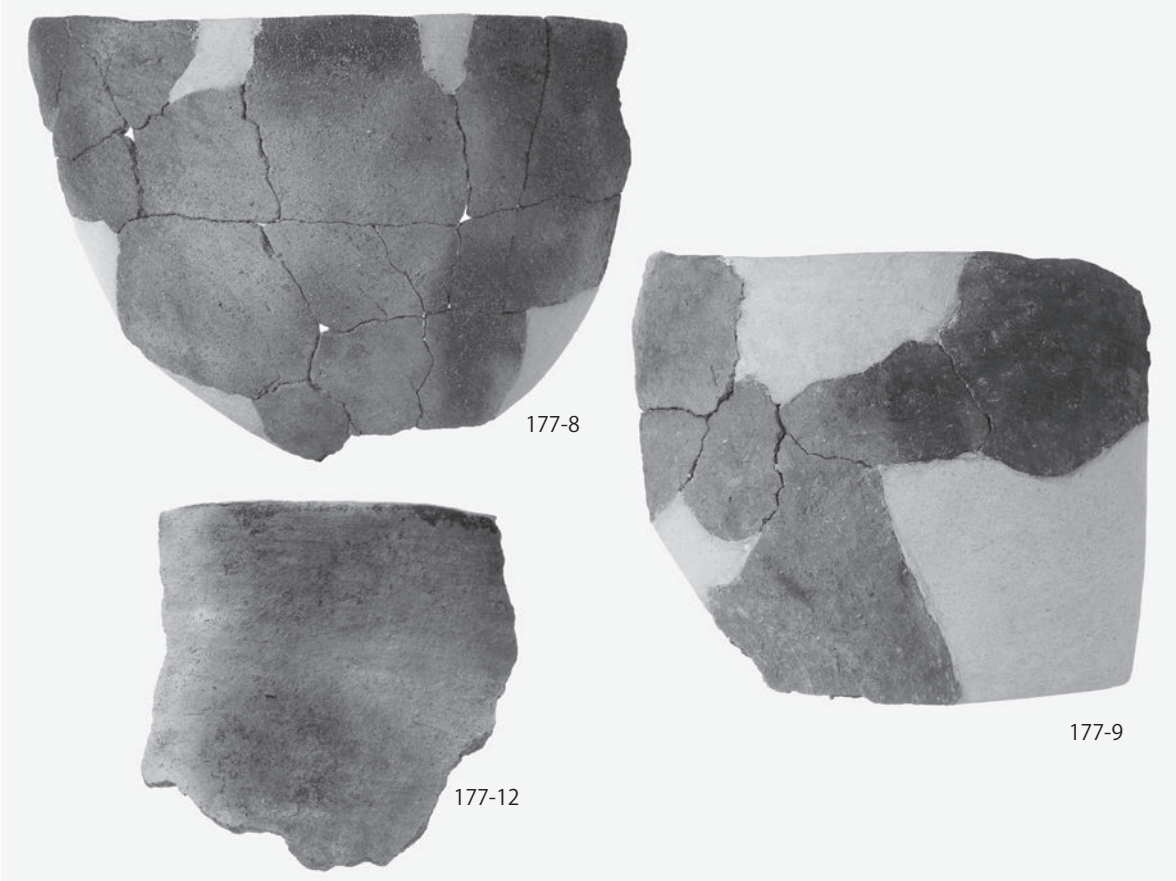
2　12 層出土縄文土器



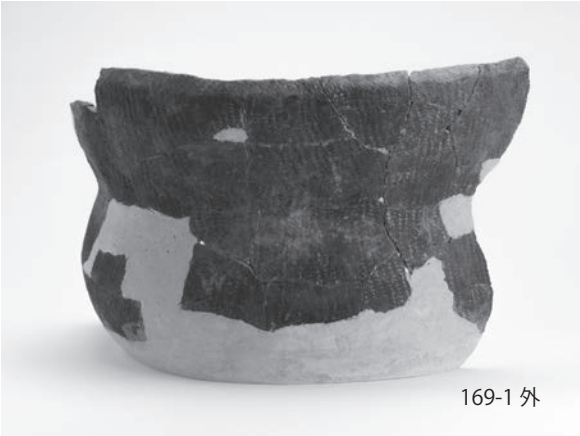
1　12 層出土縄文土器

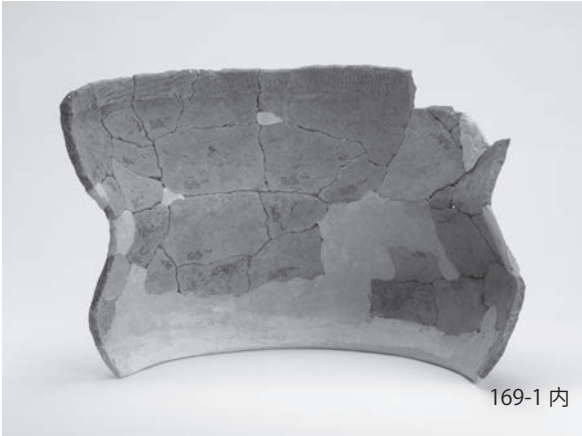


2　12 層出土縄文土器



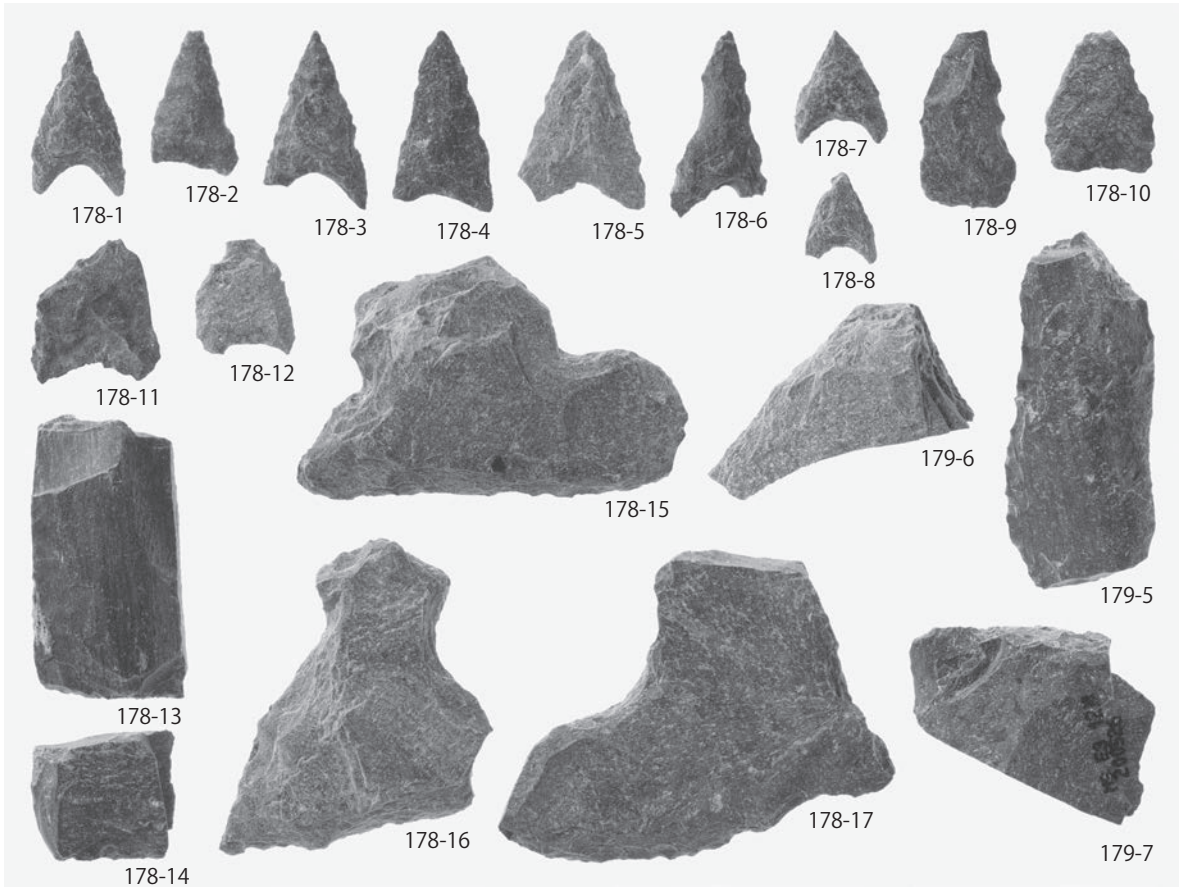
1　12 層出土縄文土器



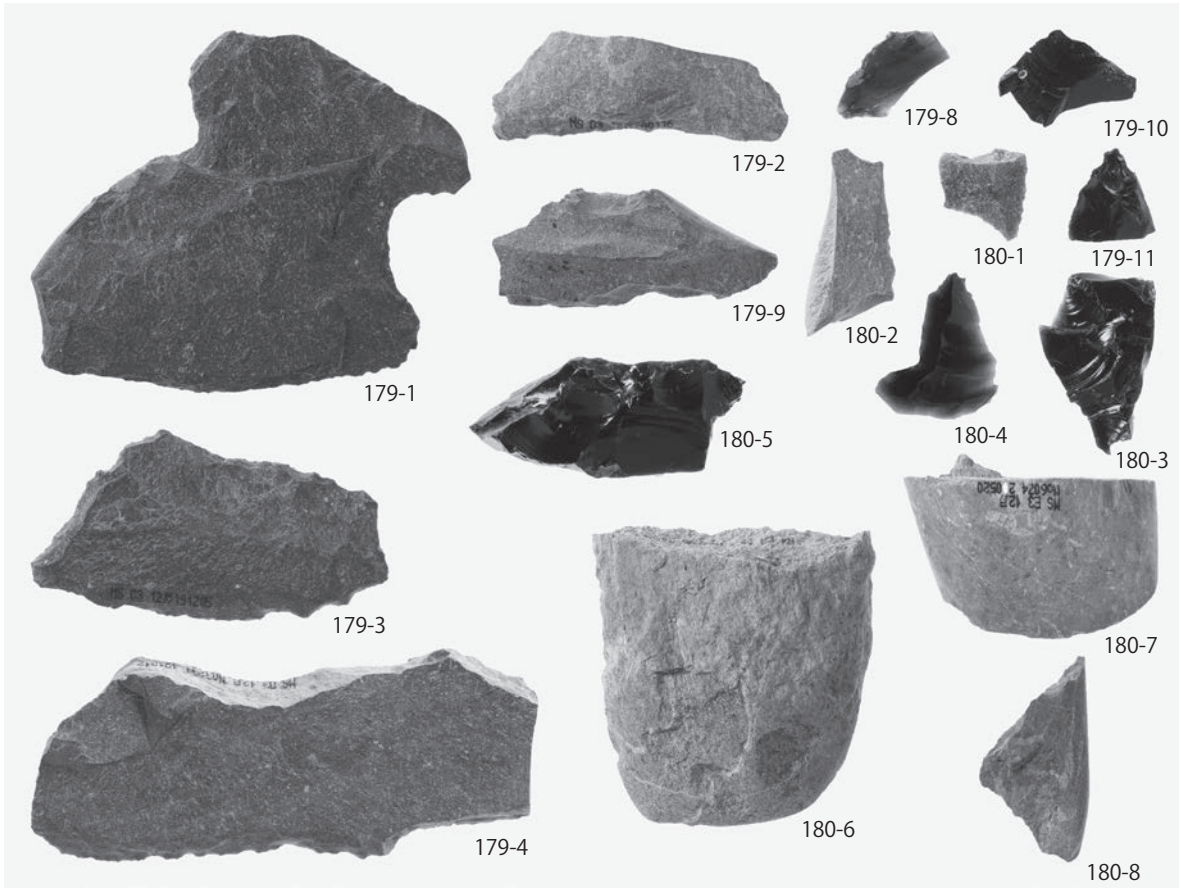


2　12 層出土縄文土器・石器

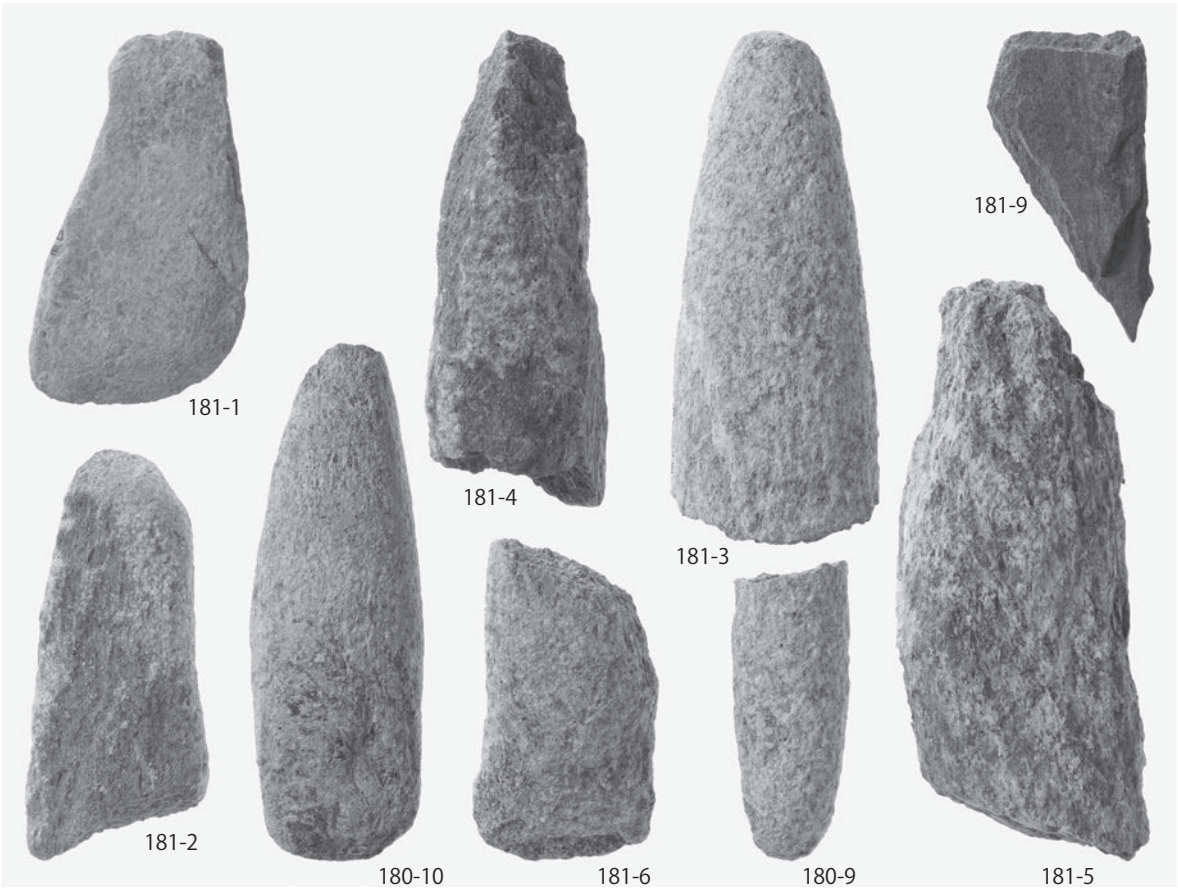
図版 110



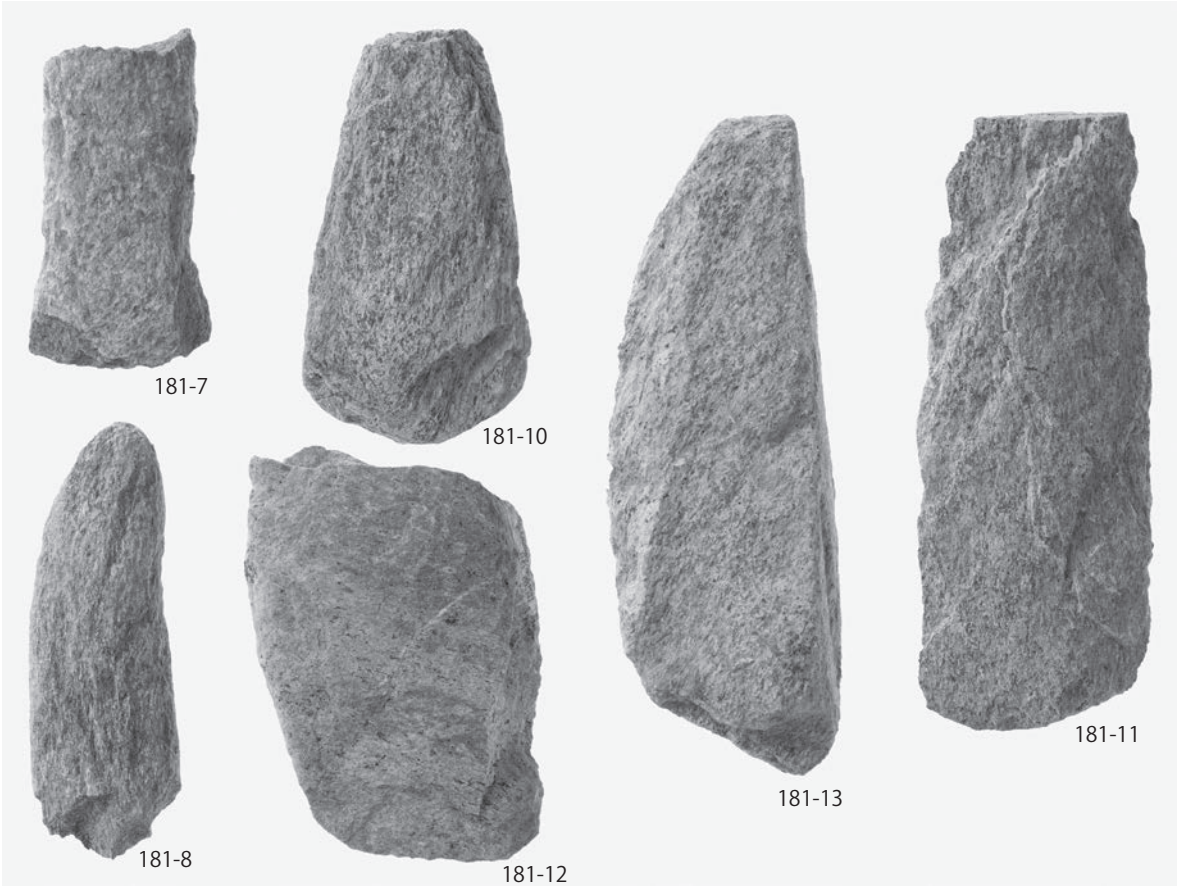
1　12 層出土石器



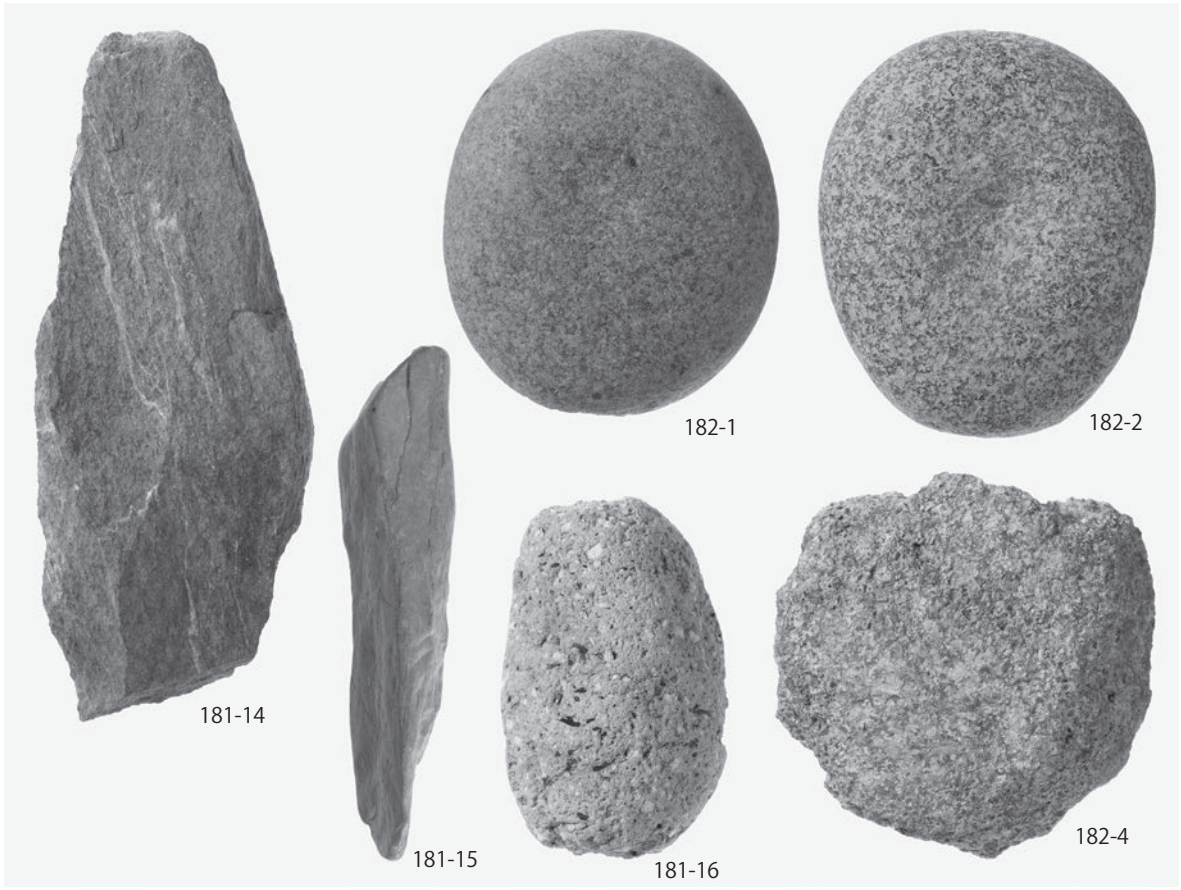
2　12 層出土石器



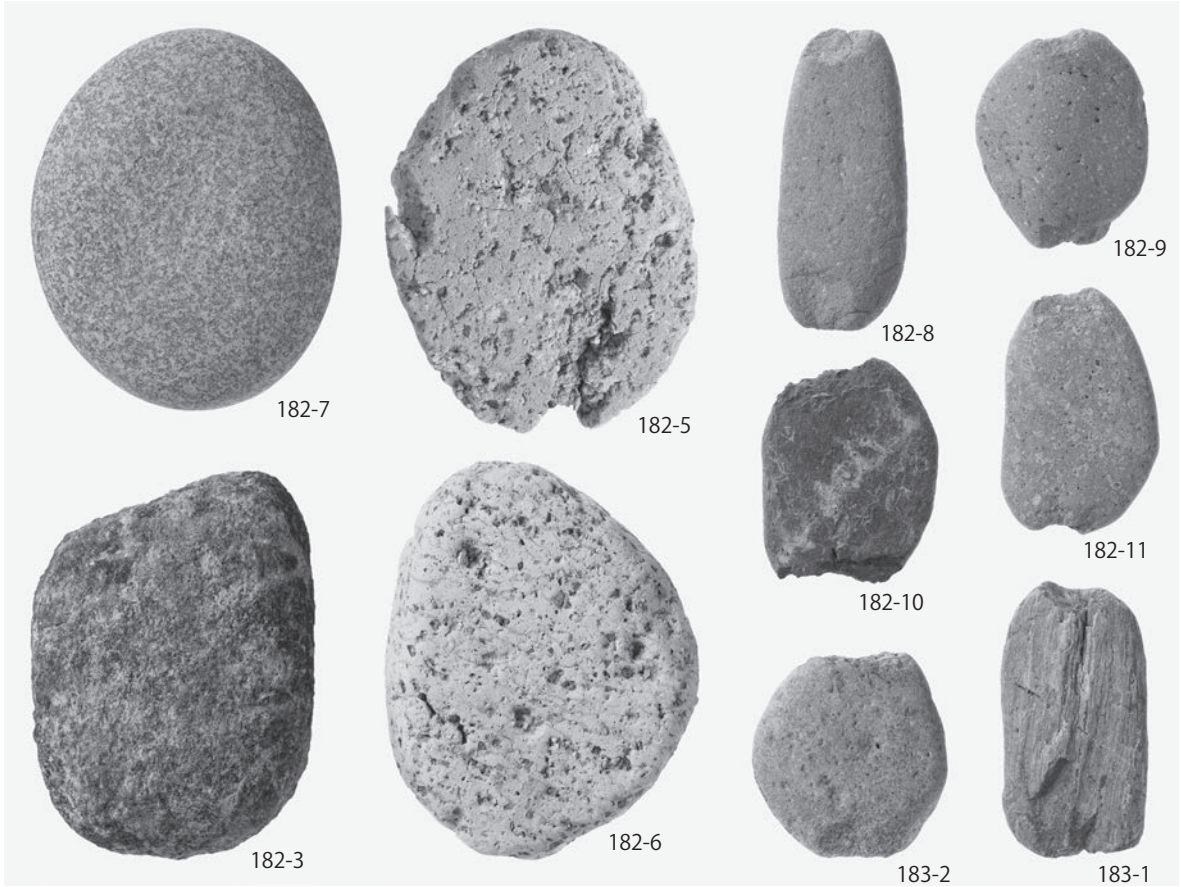
1　12 層出土石器



2　12 層出土石器



1　12 層出土石器

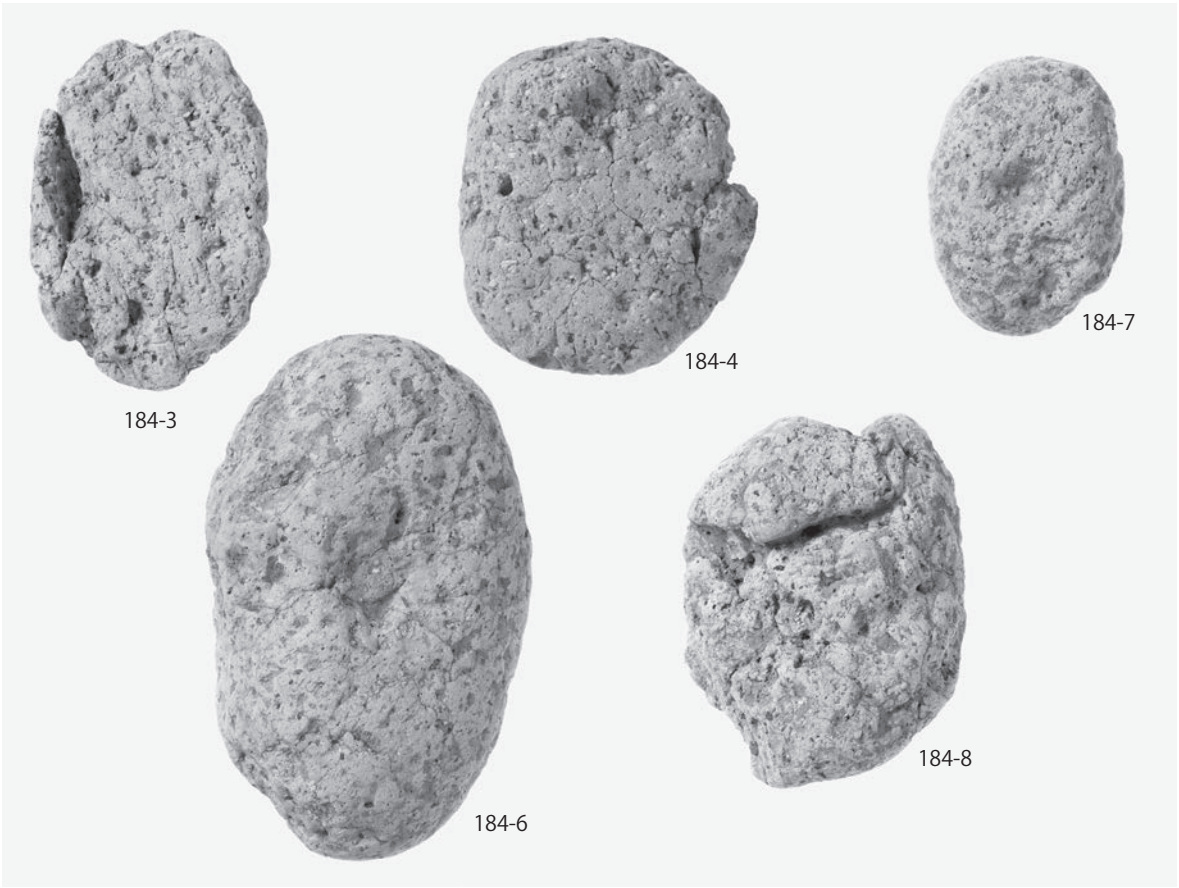


2　12 層出土石器

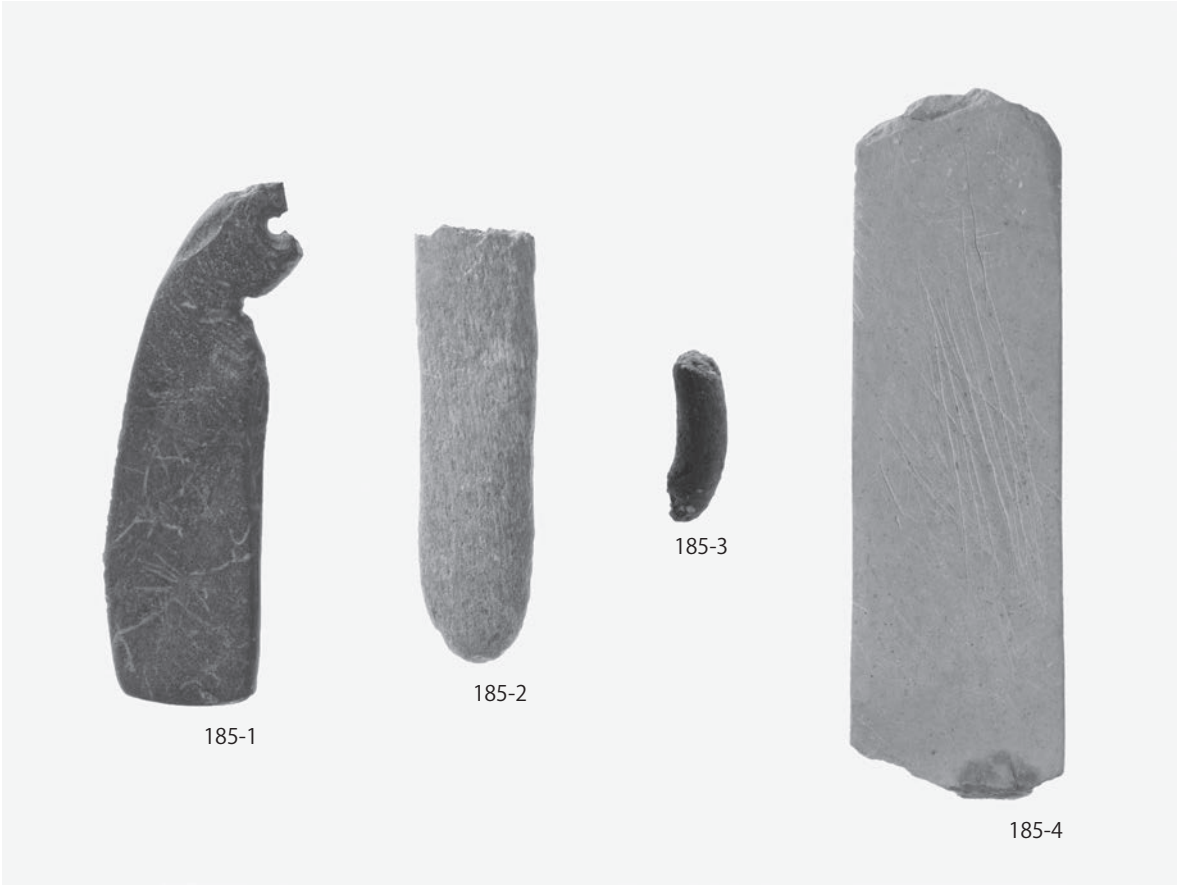
1　12 層出土石器

2　12 層出土石器

図版 114



1　12 層出土石器



2　12 層出土石器

報　告　書　抄　録

ふりがな	もりばらしものはらいせき
書　　名	森原下ノ原遺跡　1～3区
副 書 名	縄文～古墳時代編
巻　　次	2
シリーズ名	一級河川江の川直轄河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	5
編 著 者 名	真木大空（編）・柳浦俊一・渡辺正巳・鈴木瑞穂・田村朋美・上山晶子・渋谷綾子
編 集 機 関	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
所　在　地	〒690-0131　島根県松江市打出町33番地　TEL：0852-36-8608　FAX：0852-36-8025 E-mail：maibun@pref.shimane.lg.jp　https：//www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/
発行年月日	令和4年7月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北　緯	東　経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
もりばらしものはら 森原下ノ原 いせき 遺跡 1～3区	しまねけんごうつしまつかわちょうやかみ 島根県江津市松川町八神	32202	D336	35° 00′ 20″	132° 15′ 24″	2019 0603 ～ 2020 0207 2020 0511 ～ 2020 1216	3,710	記録保存調査 （河川改修）

種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
集落	古墳時代 弥生時代 縄文時代	硬化面、竪穴建物、焼土面、土器溜、集石	縄文土器、弥生土器、土師器、石器	古墳時代初頭の周防系土器、弥生～古墳時代の焼粘土塊、弥生時代後期の台石、縄文・弥生時代の石斧製作

要　約

江の川右岸の自然堤防上で縄文時代中期から近世にかけての複数の遺構面、包含層を確認した。本書はそのうち縄文時代から古墳時代の遺構と弥生時代前期以前の包含層出土遺物について報告した。

縄文時代では、後期初頭・前葉の集落跡を検出し、住居の可能性がある硬化面、焼土面などを検出した。そのほか、縄文時代中期前半、中期末、後期初頭から前葉の包含層を確認し、それぞれ本地域の基準となる土器様相を把握することができた。また、磨製石斧の未成品が大量に出土し、石斧製作遺跡と考えられた。

弥生時代では、弥生時代前期前半の包含層を検出し、ここでも磨製石斧の未成品が大量に出土したことから、時期の異なる磨製石斧製作の様相を把握することができた。

また、弥生時代後期から古墳時代中期の集落跡を検出し、竪穴建物5～6棟のほか、多くの土坑・ピットを確認した。弥生時代の竪穴建物ではガラス玉や顕著な被熱痕をもつ台石が出土し、古墳時代の竪穴建物では外来系土器の集中や粘土に覆われた合わせ口土器の出土など、特徴的な建物も多くみられた。本地域の中でも長期にわたって継続的に営まれた拠点集落の可能性がある。

『1．古代～近世編』で報告した内容と合わせ、森原下ノ原遺跡は縄文時代から現代まで、5,000年以上にわたる人の活動痕跡を把握することができ、長期にわたって生産活動や交流の拠点として機能を維持しつづけたことが判明した。本地域の歴史を解明する上で、非常に重要な遺跡と位置づけることができる。

森原下ノ原遺跡
1～3区
2．縄文～古墳時代編

一級河川江の川直轄河川改修事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書5

発　行　2022（令和4）年7月
発行者　島根県教育委員会
編　集　島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
〒690-0131　島根県松江市打出町33番地
電話　0852-36-8608
印　刷　有限会社　高浜印刷
〒690-0133　島根県松江市東長江町902番地57
電話　0852-36-9100